独立行政法人国立文化財機構年報

平成２３年度

平成23年度 年報 目次

Ⅰ　23 年度自己点検評価報告書　総括表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　23年度自己点検評価報告書　個別表

ⅰ．　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために

とるべき措置・・・61

１．歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承・・・・・・61

２．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87

３．我が国における博物館の中核としての機能の強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・171

４．文化財に関する調査及び研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・192

５．文化財保護に関する国際協力の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・450

６．情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・468

７．地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・522

（受託事業）・・544

ⅱ．　業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置・・・・・・・・・・・・・・595

ⅲ．　予算、収支計画及び資金計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　－

ⅳ．　その他主務省令で定める業務運営に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・610

Ⅲ　施設概要・・615

Ⅳ　財務諸表・・619

Ⅴ　評価

１．文部科学省独立行政法人評価委員会評価（平成 23 年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・658

２．独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・705

Ⅵ　日誌・・757

Ⅶ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・777

附属資料　：23 年度自己点検評価報告書 統計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・813

平成 23 年度

新収品図版　［東京国立博物館］

寄　　贈



獅子鈕田黄石印



楼閣山水田黄石印材



中島和田右衛門の丹波屋八右衛門
東洲斎写楽筆



臨石鼓文　　青山杉雨筆





萬方鮮　　青山杉雨筆

平成 23 年度

新収品図版　［京都国立博物館］

購　　入



銭弘俶八万四千塔



梅枝双鳥図　徐悲鴻筆



大雞小雞図　斉白石筆



春秋禽狗遊楽図屏風（部分）

寄　　贈





雲龍図　狩野永納筆



人形類

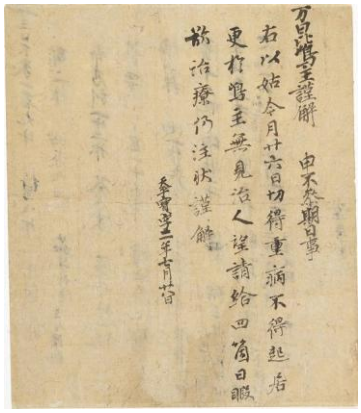


革製宝相華文様金具形残欠

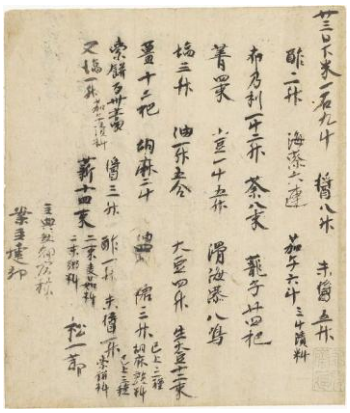
平成 23 年度

新収品図版　［奈良国立博物館］

購　　入



万昆嶋主解（表面）



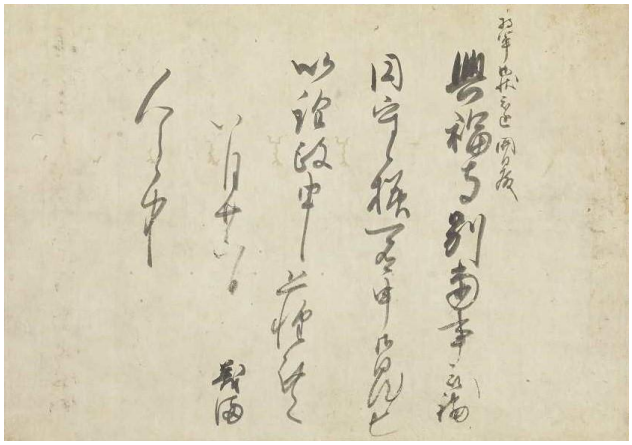
同左　（紙背）



紙本墨画渡唐天神像



木造阿弥陀如来坐像



紙本墨書足利義満書状案

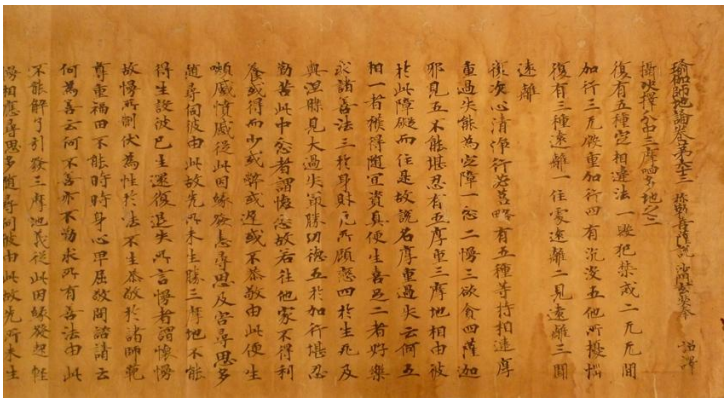
平成 23 年度

新収品図版　［九州国立博物館］

購　　入



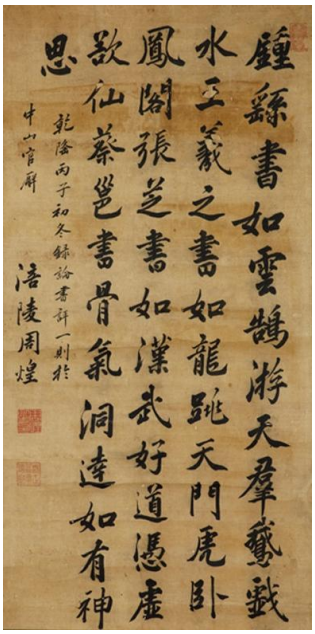
紙本著色病草紙断簡（屎を吐く男）



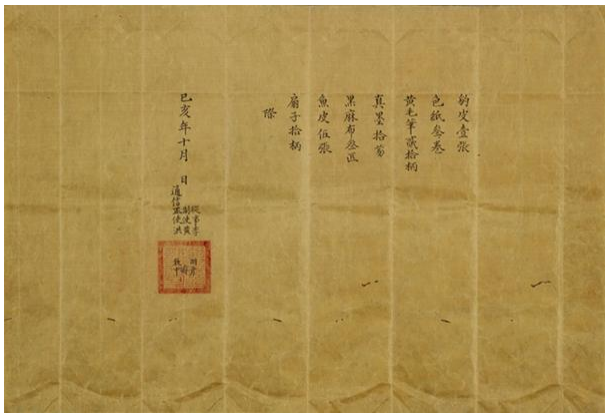
紙本墨書舎人国足願経　瑜伽師地論　巻第六十三



絹本墨画羅漢図



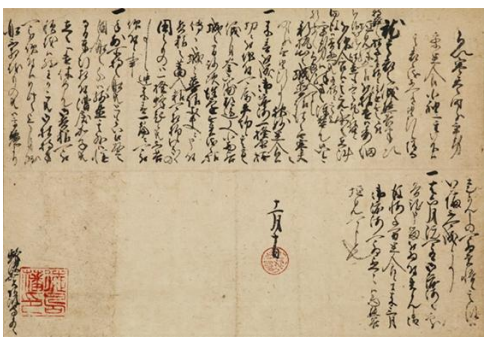
絹本墨書周煌墨蹟



紙本墨書朝鮮通信使進物目録



端物切本帳



紙本墨書豊臣秀吉朱印状
蜂須賀阿波守宛

Ⅰ　23年度自己点検評価報告書　総括表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1)　収蔵品の収集

【中期目標】国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実と保全を図ること。

【中期計画】

(1)－1　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。

(東京国立博物館)
日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(京都国立博物館)
京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(奈良国立博物館)
仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(九州国立博物館)
日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(1)－2　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【主な計画上の評価指標】

○購入、寄贈・寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(1)-1　適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。	**(1)－1　適時適切な収集**		
1111	(東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。	**【東京国立博物館】** 本年度の購入物件はない。運営費交付金が削減された状況で、東洋館の再開館に必要な演示具・備品等の取得や収蔵品の再配置に予算を振り向けざるを得なかったため、購入費の捻出が困難であった。	F	要注意
1112	(京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。	**【京都国立博物館】** ・博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品 13 件を購入した。従来から所蔵する優れた一括資料のうち、須磨コレクションの中国近代書画に絵画 4 件を加え、長尾雨山関係資料に絵画 1 件、書跡 2 件を加えた。その他に近世絵画 2 件、金工 1 件、染織部門の小袖の系統的収集を充実させる 2 件、人形 1 件を購入した。 ・内訳：絵画 7 件、書跡 2 件、金工 1 件、染織 3 件 ・決算額　　48,422,500 円	A	順調
1113	(奈良国立博物館) 仏像、仏画、経典・仏教関係書跡等、仏教工芸、仏教考古資料の中から重点的に購入する。	**【奈良国立博物館】** 購入により 4 件の文化財が新たな収蔵品として加わった。 ・絵画　紙本墨画渡唐天神像　1 幅　江戸時代(17 世紀) ・彫刻　木造阿弥陀如来坐像　1 軀　平安時代(9～10 世紀) ・書跡　紙本墨書万昆嶋主解　1 枚　奈良時代　天平宝字 2 年(758) ・書跡　紙本墨書足利義満書状案　1 幅　南北朝時代(14 世紀) 決算額は 102,250,000 円。	A	順調
1114	(九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。	**【九州国立博物館】** ・当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を 17 件購入した。 ・購入　17 件　(内訳：絵画 3 件、書跡 3 件、彫刻 1 件、染織 2 件、考古 1 件、歴史資料 7 件) 決算額：　569,350,000 円 ・編入　2 件　(内訳：絵画 1 件、考古 1 件)	A	順調
	(1)-2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用	**(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用**		
1121	(４館共通) 1）寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。	**【東京国立博物館】** 1)作品の寄贈については 7 名の所蔵者から、151 件の文化財を受け入れた。 絵画：12 件、書跡：33 件、陶磁：1 件、漆工：22 件、東洋書跡：44 件 東洋陶磁：34 件、東洋漆工：5 件 ・新規寄託品は 7 件あった。 ・登録美術品の、増減はなかった。	A	順調
1122		**【京都国立博物館】** (寄贈) ・寄贈は 24 件で、寄贈者は 7 人であった。 内訳：絵画 11 件、陶磁 4 件、漆工 2 件、染織 7 件 (寄託) ・新規寄託は 93 件。展示館の建て替え工事のため、当面平常展示において活用することはできないが、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。 内訳：絵画50件、書跡7件、彫刻7件、金工9件、陶磁11件、漆工2件、染織3件、考古4件	A	順調
1123		**【奈良国立博物館】** 1)寄贈の受け入れはなかった。寄託については、新規に 9 人の所蔵者から 12 件の作品の文化財を受け入れた。 絵画:3 件(絹本著色釈迦三尊十六善神像 1 幅 ／ 奈良県指定文化財 仏涅槃図 1 幅 ／奈良県指定文化財　阿弥陀聖衆来迎図　1 幅)	A	順調

1124		彫刻:1 件（木造薬師如来坐像 1 軀 ） 書跡：5 件（生馬大明神縁起 1 巻 ／ 生馬八幡宮略縁起 1 巻 ／ 紺紙金字大般若経巻第五百八十六 1 巻 ／国宝 法華経(一品経) 寿量品・法師功徳品 2 巻 ／ 重要文化財 大般若経(安倍小水麻呂願経) 142 巻 ） 工芸：3 件（重要文化財 金銅蓮華形磬 1 面 ／ 銅蓮華形柄香炉 1 柄 ／ 金銅能作性塔 1 基 ） **【九州国立博物館】** 1)寄贈　1 件(内訳：金工 1 件) 新規寄託　17 件(内訳：絵画 9 件、書跡 1 件、彫刻　1 件、染織 1 件、考古 5 件)	A	順調

(2)　適切な管理保存

【中期目標】収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、収蔵品と人の安全を守る施設・設備の整備を図ること。

【中期計画】

(2)-1　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

(2)-2　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

【主な計画上の評価指標】

○収蔵品を適切に保存・管理するための、写真・管理データを蓄積すること。

○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

○保存カルテや調書の作成は、地味で目立たない仕事であるが、博物館機能上、重要な業務であり、今後も計画的に実施していくべきである。

○保存・活用のための展示環境等についても、文化財の次世代への継承を目的とした計画が実施されるとともに、収蔵環境に関するデータの解析がなされ、それが改善へとフィードバックされており、継続した対応を期待する。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(2)-1　収蔵品の管理・保存 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 （4 館共通） 1）収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。	**(2)-1　収蔵品の管理・保存**		

1211	（東京国立博物館） 1）列品存在確認作業（棚卸）を継続して計画的に実施する。 2）歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進める。	**【東京国立博物館】** (4 館共通) 1)本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として 1,187 件の保存カルテを作成し、蓄積した。 (東京国立博物館) 1)平成 20 年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。 2)旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。	A	順調
1212		**【京都国立博物館】** ・旧収蔵庫から東収蔵庫に収蔵品を移動して4年が経過しており、箱に納入されていない文化財に関して保存状態を点検し、必要な手入れを行った。 ・半年おきに定期的に実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。 (4 館共通) 1)貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテについて、今年度は249件を作成した。	A	順調
1213	（奈良国立博物館） 1）文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。	**【奈良国立博物館】** (4 館共通) 1)保存カルテの作成 ・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成･保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、130 件を順調に作成した。 ・保存カルテのコンディション評価欄に記入されたＡ～Ｅの 5 段階評価についてデータを集計し、現在構築中の館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。 (奈良国立博物館) 1)文化財保存修理所の運用 ・学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の 3 工房代表者との懇談会である今年度第 1 回目の文化財保存修理所協議会を 6 月 8 日(水)に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。 ・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、3 回実施した。	A	順調

1214	（九州国立博物館） 1）博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存を図る。	**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵品および修理完了資料を中心とした保存カルテを作成した。 (九州国立博物館) 1)展示品を中心にX線CTスキャナ、三次元計測装置や三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は文化財の予防的保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設1～6を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。	A	順調
	(2)-2　施設の環境整備 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 （4館共通） 1）収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）の徹底を図る。	**(2)-2　施設の環境整備**		
1221	（東京国立博物館） 1）東洋館の耐震補強改修工事に伴う展示環境の整備を図り、よりよい展示を目指す。 2）本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 3）収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 4）展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。 5）収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。 6）輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。	**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵庫など441地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 (東京国立博物館) 1)東洋館収蔵庫の工事完了に伴い、内部の空気成分の調査を行うとともに、空調運転による環境改善を図った。 2)本館地下1階特8収蔵庫を屏風及び掛け軸など絵画専用倉庫として整備した。本館地下1階埋輪収蔵庫に空気清浄機を導入し、ホルムアルデヒドなどアルデヒド類の軽減を図った。 3)収蔵庫及び展示室など432地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温室度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。 4)東洋館既存収蔵庫内の収納棚に対して落下防止対策の設置を検討し、設置した。 5)収蔵庫、展示室など169箇所の温湿度に関し、3段階に環境を分類(クラスⅠ、Ⅱ、要注意)した平成23年次報告書を作成した。 6)文化財の梱包に頻繁に使用される緩衝材が輸送中の振動・衝撃を伝達する際に現れる特性について、発泡ポリエチレン(サンテックフォーム)について引き続き調査を行った。また作品の借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し4件(北京故宮展における輸送など)の輸送状態を調査した。	A	順調

1222	（京都国立博物館） 1）引き続き、平常展示館建替工事を実施する。 2）平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。 3）特別展示館（重要文化財 旧帝国京都博物館本館）の耐震調査の結果を基に、地震対策を具体的に検討する。 4）特別展示館の環境及び当該地域の気象を勘案し、文化財への負荷を減らすことを目的とした空調のミニマムインターベンション（最小限の干渉）運用の向上を図る。	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1）ＩＰＭの徹底について、収蔵庫の生物生息及び温湿度状況を把握するため、継続的なモニタリングと定期的な調査を行った。東収蔵庫の環境を維持するために、清掃を行った。 (京都国立博物館) 1)平常展示館建て替え工事は25年度中開館に向けて進んでおり、24年度4月中に上棟予定である。 2)東収蔵庫各収蔵室の清掃、空調フィルタの交換等を行うとともに、継続的な生物環境調査を行った。また、中央制御室における収蔵庫の温湿度管理に加えて、東収蔵庫の各収蔵庫の代表温湿度の記録をデータロガーによって継続的に行った。 3)委員会にて承認された特別展示館耐震補強方針について文化庁と協議を行ない免震化計画に対する理解を得た。 4)温湿度設定を状況に応じて調整することにより、冬季の展示場を除いて保存環境の改善を行った。	A	順調
1223	（奈良国立博物館） 1）展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線ＬＡＮによるデータ管理システムを更に充実させる。 2）展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 3）収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを1ヶ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。 ・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。 ・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。 (奈良国立博物館) 1)展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線 LAN によるリアルタイムの温湿度管理システムを導入し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することを可能とした。 2)・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線ＬＡＮ温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。 ・正倉院展終了直後の 11 月 15 日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともに行った。 3)展示室内の温湿度については無線ＬＡＮ温湿度管理システムにより24時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各5箇所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。	A	順調

1224	（九州国立博物館） 1）館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。 2）全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。	**【九州国立博物館】** (4 館共通) 1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭの徹底を図った。文化財搬入に際し、ＩＰＭメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。 (九州国立博物館) 1)常設展示室 70、特別展示室約 30、収蔵庫 30 箇所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。 2)環境データを解析することで、極めて安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。	A	順調

(3) 計画的な修理

【中期目標】収蔵品の保存技術の向上に努めること。

【中期計画】

(3)-1 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

(3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。

(3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。

【主な計画上の評価指標】

○緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施すること。
○文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行うこと。
○計画的な収蔵スペースの確保及び調査研究のための基本設備充実に向けた取り組みを行うこと。

【22 年度評価における主な指摘事項】

○アソシエイトフェローの配置が効果を上げ、修理実績を増やすことにつながったと評価できるが、本来は十二分な専任の修復スタッフを配置する必要があり、そうした人材も育成すべきである。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(3)-1　収蔵品の修理 **①　計画的な修理及びデータの蓄積** 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 （4館共通） 1）作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから７３件程度（東京：４０、京都：１０、奈良：８、九州１５）の本格修理を実施する。	**(3)-1　収蔵品の修理** **①　計画的な修理及びデータの蓄積**		

1311-1	（東京国立博物館） 1）引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2）保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。（７０件程度）	**【東京国立博物館】** (4 館共通) 1)紙本などの修理技術者として保存修復課に 3 名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために 947 件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから 106 件の本格修理を実施した。うち重要文化財 1 件は寄付金による本格修理である。 (東京国立博物館) 1)修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む 79 件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期計画策定を行った。 2)データベース構築のために 22 年度に本格修理を実施した 139 件の内、修理が完了した 114 件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書Ⅻを刊行した。	A	順調
1312-1	（京都国立博物館） 1）文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。	**【京都国立博物館】** (4 館共通) 1)・館費による修理に加えて、外部資金の導入を図り、財団の修理助成による助成金を 2 件得た。また、個人から当館に寄せられた文化財修復のための寄付金を有効に用いた。 ・修理請負候補者の選定にあたっては、公平性、透明性とともに、企画競争の内容がより技術力主体の競争となるよう、企画書の内容を改訂した。 ・修理請負候補者選定の公平性、専門性を高めるため、外部委員を増やした。 実績　10 件　内訳は絵画 1 件、書跡 4 件、彫刻 1 件、漆工 2 件、染織 1 件、考古 1 件。 (京都国立博物館) 1)引き続き文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図った。	A	順調
1313-1		**【奈良国立博物館】** (4 館共通) 1)・館蔵品修理 11 件のうち、新規 6 件、継続事業 5 件を実施した。 内訳 絵画3件 （※うち国宝 紙本墨画淡彩山水図1件は2ヶ年継続事業の2年目。重要文化財絹本著色十王図1件は3ヶ年継続事業の1年目） 書跡2件 （※うち重要文化財　紺紙金字一字宝塔法華経1件は2ヶ年継続事業の1年目） 彫刻1件 考古資料5件 （※うち二塚古墳出土遺物1件は3ヶ年継続事業の3年目、珠城山1号墳出土遺物以下3件は2ヶ年継続事業の2年目） ・年度内に 9 件が完了した。	A	順調

1314-1	（奈良国立博物館） 1）修理の中長期的計画を策定する。 2）修理資料のデータベース化に備えて、継続して年度毎の修理データを蓄積する。 3）寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。 （九州国立博物館） 1）博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。 2）修理資料のデータベース化の調査を実施する。	（奈良国立博物館） 1)平成22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。 2)前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』14号(平成24年3月刊行)に「奈良国立博物館文化財保存修理所　修理一覧(平成22年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。 3)寄託品3件について財団からの助成を受けて修理を実施した。 **【九州国立博物館】** (4館共通) 1)館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財32件(本格修理19件、応急修理13件)を修理した。 (九州国立博物館) 1)九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理19件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて51件の修理を実施した。(施設内修理47件、施設外修理4件　合計51件)また、漆工修理作品の増加に伴い、漆風呂を1台新調した(3台目)。 2)修理報告書および修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。	A	順調
1311-2 1312-2	**②　科学的な技術を取り入れた修理** 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 （4館共通） 1）紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2）修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	**②　科学的な技術を取り入れた修理** **【東京国立博物館】** (4館共通) 1)絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を1件(B-3161偈頌)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2)修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析7件(TJ-2898刻文匜など)、X線透過撮影13件(C-20菩薩立像、A-1459花車図屏風など)、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影3件(A-1069檜図屏風、TA-363五龍図巻など)、テラヘルツ波分析1件(A-1069檜図屏風)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。 **【京都国立博物館】** (4館共通) 1)当館が所蔵する「紺紙銀字華厳経断簡(二月堂焼経)」を同館文化財保存修理所の(株)光影堂において修理を行った。本紙料紙および裏打紙は楮繊維、表紙は雁皮繊維という紙繊維組成検査を踏まえて紺紙を作成し補修を行った。 2)続いて銀文字部分に対して、顕微鏡観察、X線透過撮影、蛍光X線分析を行い、本紙から脱落した銀泥の小片に対して走査電子顕微鏡(SEM)観察と分析により、銀泥粒子の詳細を探った。修理工程は、巻子装の解装、本紙の汚れ除去、旧裏打紙及び旧補修紙の除去、本紙欠失箇所への補修、裏打(3層)後、巻子装1巻に仕立てた。	A A	順調 順調
1313-2 1314-2	（奈良国立博物館） 1）木造作品について、可能なものは木材樹種同定の調査を行い、作品の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2）古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。	旧裏打紙及び旧補修紙を除去した段階で、学芸部が銀字部分の科学的調査を実施した結果、文字はすべて銀で書かれており、本経を「プラチナ経」と呼ぶことはふさわしくないことがわかった。 **【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)館蔵紺紙金字一字宝塔法華経〈巻第三、第五〉、館蔵法華経巻第二(蝶鳥下絵料紙)の修理に際して料紙の繊維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。 2)・館蔵春日宮曼荼羅の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光X線分析を実施した。 ・寄託品の海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅の修理に際し、ポリライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、補絹の状態確認を行った。 (奈良国立博物館) 1)当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品2件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』第14号に掲載した。 2)古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料5件の修理に際し、X線撮影及び蛍光X線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。 **【九州国立博物館】** (4館共通) 1)群童遊戯図屏風、徳川家康交趾渡海朱印状等の紙本作品9件について繊維同定を行った。 2)・羅漢図、奈良国立博物館所蔵諸宗祖師像の絵画2件について顕微鏡観察と蛍光X線分析、エミシオグラフィー撮影を行ない、使用された絵の具の調査を行った。 ・重要文化財亀甲地螺鈿鞍、重要文化財孔雀鎗金経箱、重要文化財菊蒔絵手箱の漆工品3件についてＣＴ撮影を行い内部構造と損傷状況を調査した。紫外線蛍光観察も行い、修理履歴の有無を調査した。 ・重要文化財菊蒔絵手箱についてＦＴ－ＩＲ分析およびラマン分光分析を行い、過去の修理で使用された塗料を調査した。 ・新羅古墳資料についてX線透過写真撮影を行い、損傷状況を調査した。	A A	順調 順調
1320	**(3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。** （機構本部・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館） 1）文化財保存修理所に関する規定を整備する。	**(3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める** **【機構本部・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】** 1)平成23年1月の業務方法書の改正に伴い、これまで明確な位置づけが図られてられていなかった文化財保存修理所(京都国立博物館、奈良国立博物館)及び文化財保存修復施設(九州国立博物館)の設置に対し、本部規程第81号「独立行政法人国立文化財機構文化財保存修理所等の供用及び運営に関する規程」において修理所等の供用及び運営に関する規程を制定し、平成23年4月1日より施行した。	A	順調

1330	(3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。	**(3)－3　収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。** **【東京・京都・奈良・九州国立博物館】** (東京国立博物館) 東洋館の収蔵庫改修工事の完了に伴い、本館地下収蔵庫等に収納していた東洋関係の文化財を、東洋館の収蔵庫に移動した。これを受けて、絵画・漆工等の文化財をより効率的に収納できるよう収蔵庫の配分を再検討し、新規収納棚等を設置した。新絵画収蔵庫には、屏風を効率良く収納できる専用棚を設計・発注した。東洋館の収蔵庫については、効率的な収納および安全確保のため、ストッパー付き可動棚を設置し、落下防止柵の設置を検討した。 (京都国立博物館) ・収蔵品の増加に伴い、東収蔵庫に保管される作品の一部を移動整理し、より効率的な収納を図った。 (奈良国立博物館) ・増加し続ける研究用図書を収納すべく書架の増設・再配置を行った。 ・収蔵庫等の温湿度環境の測定を実施し、改善・処置を行った(収蔵庫内空調設備の改修)。 ・デジタルカメラ等撮影機材や画像用サーバーの更新・増強を行った。 ・一時保管庫の窓をペアガラスに変更した。 ・光学調査室内に区画を設け、収蔵スペースを確保した。 (九州国立博物館) ・九州国立博物館では、新しい収蔵スペースの確保等について検討中である。	A	順調

定量評価項目	23 年度	22 年度	目標値	評価
文化財の本格修理(件)				
東京国立博物館	106	139	40	S
京都国立博物館	10	9	10	A
奈良国立博物館	11	9	8	A
九州国立博物館	19	19	15	A
文化財修理のデータベース化(件)				
東京国立博物館	114	98	70 程度	S
京都国立博物館	118	106	－	－
奈良国立博物館	54	－	－	－

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1)　展示の充実

【中期目標】　文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。

(1)展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。

①展覧事業の中核である平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、より多くの方々に我が国の歴史・文化財の理解を深めてもらうため、来館者の増加に努めること。さらに海外からの来訪者が必ず訪れる博物館を目指し、魅力ある展示と展示に関する説明を一層充実させること。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。また、展示内容・展覧環境を踏まえた適切な来館者数の確保に努めること。

③海外に向けても機構の各博物館の収蔵する日本の優れた文化財と優れた人材を活用して、我が国の歴史と伝統文化を紹介する機会の拡充に努めること。

【中期計画】

文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。

(1)展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。

また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①－１平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成 26 年度までに開催する。

①－２　展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を８０％以上設置する。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。

特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

(東京国立博物館)　　年３～４回程度

【主な計画上の評価指標】

○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとすること。
○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。
(平常展)
○平展覧事業の中核として、各館の特色を十分に発揮した体系的・通史的な展示とすること。
○作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付すこと。
○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を 80%以上設置すること。
(特別展)
○我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示とすること。
○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること。
東京国立博物館　3～4 回
京都国立博物館　奈良国立博物館　九州国立博物館　2～3 回
○個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標入館者数を定め、それを達成すること。
○展覧会来館者の満足度を把握し、改善を図ること。
○海外において展覧会を開催し、日本の歴史と伝統文化を紹介すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

○集客などの経営努力は必要であるが、展示の充実は来館者数では判断できない。むしろ日本文化の向上、教育普及等の博物館の使命達成のために構築された展示内容も評価すべきである。

（京都国立博物館）　　年２～３回程度 （奈良国立博物館）　　年２～３回程度 （九州国立博物館）　　年２～３回程度 ③海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。				
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
2111-1	(1)展覧事業の充実 東京、京都、奈良、九州４館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。 ①－１　平常展 展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 （４館共通） 平常展来館者数について、２２年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 （東京国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年４，０００件程度） イ　陳列総件数　約５，５００件（東洋館閉館のため） ウ　本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。 エ　平成２４年度の東洋館開館に向け準備を進める。 オ　特集陳列 平成２３年度は東洋館が改修工事のため通年休館となり、特集陳列を実施する展示場が減少するため特集陳列の数は例年より減らさざるをえない。東洋館展示の代替として、本館においても東洋美術・考古の特集展示を実施する。	(1)展覧事業の充実 ①－１平常展 【東京国立博物館】 (4館共通) 東日本大震災の後、安全確認のため4月中は開館時間を10:00～16:00とし、表慶館、法隆寺宝物館及び黒田記念館を休館した。また、夏季の節電のため6月30日～10月8日は、黒田記念館を休館した。 (東京国立博物館) ア　計画に従い、定期的な陳列替を実施した(4,914件)。 イ　陳列総件数(7,394件)。 ウ　展示ケースの修理点検、保存環境の向上を図った。季節のイベントの際に見どころとなる作品について、表示方法を統一し、展示をより整美なものとした。また、解説パネルへのデジタルサイネージの導入、解説を補う手段としてのデジタル展示ケースなど、新たな表現手段を試行した。 エ　東洋館展示検討ワーキンググループにおいて、展示の構成、展示台等の設計を進める一方、教育普及事業の基本方針についても討議し、「アジアの旅」をコンセプトとする基本方針を打ち出した。 オ　32件の特集陳列を実施した。	A	順調
2112-1	・和鏡-鏡に表された文様の雅（4 月 26 日～7 月 10 日） ・日本の仮面（12 月 6 日～2 月 5 日） ・「博物館に初もうで」（平成 24 年 1 月 2 日～1 月 29 日）等 カ　文化庁関係企画 ・「平成２３年 新指定 重要文化財」（仮称）（4 月 26 日～5 月 8 日） 平成２３年に新たに重要文化財に指定される文化財を展示する。 （京都国立博物館） 平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、静岡県立美術館にて「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」を開催（特別協力、10 月 22 日～12 月 4 日）するとともに、細見美術館にて当館所蔵品による特別展「宮廷のオートクチュール」を開催する。（特別協力、10 月 1 日～11 月 27 日）また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。	カ　「平成 23 年 新指定 重要文化財」を実施した(4 月 26 日～5 月 8 日)。 ・東洋館は改修工事のため通年休館した。東洋美術・考古の代替展示を行っていた表慶館は、東洋館リニューアル準備に伴う物品移動のため 23 年 12 月 26 日より休館し、日本美術を展示する本館の一部にて引き続き、東洋美術・考古の特集展示を随時実施した。 【京都国立博物館】 平常展示館建替工事にともない、平常展示を休止した。 そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をＨＰで公開した。 ・「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」（静岡県立美術館、10 月 22 日～12 月 4 日）への特別協力(詳細は処理番号 2122-5 を参照。) ・「典雅なる御装束―宮廷のオートクチュール」（細見美術館、10 月 1 日～11 月 27 日）への特別協力(詳細は処理番号 2122-6 を参照。) ・国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。	A	順調
2113-1-1	（奈良国立博物館） ア　活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。 ・西新館　考古・絵画・書跡・工芸部門の名品展 昨年度の耐震工事に伴い、展示ケースや照明等の設備を一新したところであり、この充実した設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。 ・なら仏像館（１～１３室）　彫刻部門の名品展 昨年度実施した照明設備工事により、より魅力ある展示が行える空間となったことを活かし、奈良を中心に伝来した優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。 ・青銅器館（中国青銅器の名品展） 昨年度実施したリニューアル工事の成果を活かし、国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。 ・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する。	【奈良国立博物館】 (4館共通) 平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。 (奈良国立博物館) ア　新装となった展示室の快適な展示環境のもとで、多数の優れた作品を名品展において展示し、その美を伝えることができた（西新館、なら仏像館、青銅器館）。 また、最近 5 年間の新規収蔵品を紹介する「新収蔵品展」を試みるとともに、小テーマを設けての特集展示を下記のとおり 4 度にわたって実施した（西新館）。 「新収蔵品展」(9 月 13 日～10 月 2 日)　陳列件数 27 件 特集展示「新たに修理された文化財」(12 月 6 日～12 月 25 日)　陳列件数 14 件 〃　「龍」(12 月 27 日～平成 24 年 1 月 15 日)　陳列件数 18 件 〃　「経典を写す・刻む・飾る」(平成 24 年 1 月 24 日～2 月 19 日)　陳列件数 12 件 〃　「東北の古瓦―泉官衙遺跡を中心に―」(平成 24 年 2 月 28 日～3 月 18 日)　陳列件数 6 件 所蔵者である寺院において仏堂の改修、建て替え等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した（なら仏像館）。 特別公開「海住山寺本尊　十一面観音像」(4 月 26 日～9 月 11 日)	A	順調

		〃　「東大寺法華堂　金剛力士像」（平成 22 年 7 月 22 日～平成 23 年 9 月 11 日） 〃　「金剛寺　降三世明王坐像」（10 月 4 日～平成 24 年 3 月 31 日） 〃　「大和高田・弥勒寺　弥勒仏坐像」（10 月 4 日～平成 24 年 1 月 29 日）		
2113-1-2	イ　定期的な陳列替の実施（年４００件程度） ウ　陳列総件数　約７００件 エ　特別陳列により名品展の充実を図る。 　独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「初瀬にますは与喜の神垣―與喜天満神社の秘宝と神像―」（7 月 16 日～8 月 28 日） ・「おん祭と春日信仰の美術」（12 月上旬～平成 24 年 1 月中旬） ・「お水取り」（平成 24 年 2 月上旬～3 月中旬）	イ　陳列替件数は、当初予定の400件を超える481件を数えた。 ウ　陳列総件数は、当初予定の700件を大きく超える1,092件に達した。 エ　特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣」（7月16日～8月28日）　陳列件数45件 〃　「おん祭と春日信仰の美術」（12 月 6 日～平成 24 年 1 月 15 日）　陳列件数 62 件 〃　「お水取り」（平成 24 年 2 月 11 日～3 月 18 日）　陳列件数 65 件	A	順調
2114-1	（九州国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年１，１００件程度） イ　陳列総件数　約１，７００件 ウ　文化交流展（平常展）の部分的なリニューアルによって充実を図る。 エ　トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる（日程はいずれも予定）。 ・「日本とタイ ふたつの国の巧と美」（関連 9～11 室　4 月 12 日～6 月 5 日） ・「館蔵水墨画名品展」（関連 11 室　9 月 28 日～11 月 6 日） ・「檀王法林寺展」（仮称）（関連9、10室　11月1日～12月11日）等	**【九州国立博物館】** (4館共通) 　平常展来館者数は、大震災等の影響もあり、前中期計画期間の年度平均を確保することができなかった。 (九州国立博物館) ア　定期的かつ計画的に陳列替えを実施し、1,373件の陳列替えを実施した。 イ　陳列総件数は2,417件を数え、目標値を大きく上回った。 ウ　他館と共催あるいは連携した事業展開を積極的に進めると同時に、館蔵品研究と展示における成果公表も行なった。 エ　独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を 13 回開催し、新鮮な展示を提供することができた。	A	順調
2110-2	**①－２展示説明の充実** （４館共通） １）作品キャプションについては全てに英語訳を付す。 ２）展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を８０％以上設置する。	**①－２展示説明の充実** **【東京・京都・奈良・九州国立博物館】** 1)東京国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプションすべてに英語訳を付した。 2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも 80%以上設置した。 (東京国立博物館) 　展示テーマ数115件のうち、110件(96%)について外国語パネルを設置した。また、	A	順調

		38件(33%)については中・韓国語での解説も付している。 (奈良国立博物館) 　展示テーマ数36件のうち、32件(89%)について外国語パネルを設置した。 (九州国立博物館) 　展示テーマ数 49 件のうち、46 件(94%)について外国語パネルを設置した。また、27 件(55%)については中・韓国語での解説も付している。		
2120	**②　特別展** （共同企画） ・特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」（[平成 22 年度東京国立博物館]、23 年度 京都国立博物館、九州国立博物館） ・特別展「誕生！中国文明」（[平成 22 年度 東京国立博物館、九州国立博物館]、23 年度奈良国立博物館） ・「ボストン美術館 日本美術の至宝」（平成 23･24 年度 東京国立博物館、[24 年度名古屋ボストン美術館、九州国立博物館・25 年度大阪市美術館]） （東京国立博物館） 平成２３年度は特に仏教美術を紹介する展覧会を中心に実施する。 ○目標来館者数 の合計　７３万人（海外展、他館での開催展を除く。）	**②　特別展** **【東京・京都・奈良・九州国立博物館】** (東京国立博物館) 　特別展を 7 回開催した。 (京都国立博物館) 　特別展を 6 回開催した。 (奈良国立博物館) 　特別展を 3 回開催した。 (九州国立博物館) 　特別展を 5 回開催した。 **【東京国立博物館】**	A	順調
2121-1	ア　特別展「写楽」（5 月 1 日～6 月 12 日） 　写楽作品を集成し、写楽の歴史的な意義及びその芸術性などを改めて考察。 （目標来館者数１６万人）	**ア　特別展「写楽」** ・会　　期　平成 23 年 5 月 1 日(日)～6 月 12 日(日)(41 日間) ・会　　場　平成館特別展示室第 1～4 室 ・主　　催　東京国立博物館、東京新聞社、NHK、NHK プロモーション ・協　　力　国際浮世絵学会 ・後　　援　文化庁 ・協　　賛　日本写真印刷、みずほ銀行、三井物産	A	順調

		・輸送協力　日本航空 ・作品件数　286 件(うち重要文化財：22 件、重要美術品：19 件) ・来館者数　229,625人 ・入場料金　一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度　80% 写楽の現存遺品を可能な限り集成して展示できたことで、写楽の歴史的な意義及びその表現の特質などを明らかにすることができた。		
2121-2	イ　「手塚治虫のブッダ展」(4 月 26 日～6 月 26 日) 手塚治の漫画「ブッダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を紹介。 (目標入場者数７万人)	**イ　「手塚治虫のブッダ展」** ・会　　期　平成 23 年 4 月 26 日(火)～6 月 26 日(日)(57 日間) ・会　　場　本館特別 5 室 ・主　　催　東京国立博物館、東映、TBS ・協　　力　手塚プロダクション、日本通運、財団法人全日本仏教会、ニトリ、カラーキネティクス・ジャパン ・後　　援　文化庁、読売新聞社 ・作品件数　72 件(うち重要文化財：6 件) ・来館者数　99,088人 ・入場料金　一般 800 円(700 円)、大学生 600 円(500 円)、高校生 400 円(300 円) 中学生以下無料　＊(　)内は前売りおよび 20 名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度　63% 手塚治虫の漫画「ブッダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を展観した。当館でははじめての試みである漫画をわかりやすく展示することで、幅広い年齢層に対し、文化財への一層の関心を高めることができた。	A	順調
2121-3	ウ　「空海と密教美術」展（7 月 20 日～9 月 25 日) 空海が広めた密教文化について、空海と同時代の文化財の特色等を広く一般に紹介。 (目標来館者数２４万人)	**ウ　「空海と密教美術」展** ・会　　期　平成 23 年 7 月 20 日(水)～9 月 25 日(日)(61 日間) ・会　　場　平成館特別展示室第 1～4 室 ・主　　催　東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHK プロモーション ・特別協力　総本山仁和寺、総本山醍醐寺、総本山金剛峯寺、総本山教王護国寺(東寺)、総本山善通寺、遺迹本山神護寺 ・協　　力　真言宗各派総大本山会、南海電気鉄道 ・協　　賛　あいおいニッセイ同和損保、きんでん、大日本印刷、トヨタ自動車、非破壊検査 ・作品件数　99 件(うち国宝：52 件、重要文化財：46 件) ・来館者数　550,399 人 ・入場料金　一般 1,500 円(1,300 円／1,200 円)、大学生 1,200 円(1,000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)、中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金	A	順調

		・アンケート結果　満足度 77% 空海が広めた密教文化について、真言各派に残る空海ないし同時代の文化財を展観し、さらに仏像曼荼羅を構成する東寺講堂の諸仏を展示したことなど、真言密教の造形を広く一般に紹介することができた。		
2121-4	エ　開館 5 周年記念特別展「加賀前田家と金春流」(10 月 1 日～11 月 20 日) 会場：金沢能楽美術館 東京国立博物館所蔵の金春座に伝来した能面と能装束を紹介。	**エ　開館 5 周年記念特別展「東京国立博物館所蔵　金春座伝来　能面・能装束」** ・展覧会名　金沢能楽美術館　開館 5 周年記念特別展「東京国立博物館所蔵　金春座伝来　能面・能装束」 ・会　　期　平成 23 年 10 月 1 日(土)～11 月 20 日(日)(43 日間) ・会　　場　金沢能楽美術館 2 階展示室 ・主　　催　東京国立博物館、金沢能楽美術館［(公財)金沢芸術創造財団］ ・作品件数　46 件(うち重要文化財：16 件) ・来館者数　8,206人 ・入場料金　一般・大学生 300 円　　65 歳以上 200 円　高校生以下無料 団体(20 名以上)250 円 当館が所蔵する金春座伝来の能面や能装束などをまとめて紹介したことにより、加賀藩の能の原点である金春流の能を改めて見つめ直す貴重な機会となった。	A	順調
2121-5	オ　法然上人８００回忌・親鸞上人７５０回忌　特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」(10 月 25 日～12 月 4 日) 浄土宗・浄土真宗の開祖にちなむ歴代の寺宝を一堂に集めて展観。 (目標来館者数１０．８万人)	**オ　法然上人８００回忌・親鸞上人７５０回忌　特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」** ・会　　期　平成 23 年 10 月 25 日(火)～12 月 4 日(日)(36 日間) ・会　　場　平成館特別展示室第 1～4 室 ・主　　催　東京国立博物館、NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社 ・後　　援　文化庁 ・協　　賛　トヨタ自動車、日本写真印刷、三井住友海上火災保険 ・特別協力　知恩院、増上寺、金戒光明寺、知恩寺、清浄華院、善導寺、光明寺(鎌倉市)、善光寺大本願、光明寺(長岡京市)、禅林寺、誓願寺、遊行寺、西本願寺、京都 東本願寺、専修寺、佛光寺、興正寺、錦織寺、毫摂寺、誠照寺、専照寺、證誠寺 ・作品件数　189 件(うち国宝：11 件、重要文化財：83 件) ・来館者数　212,150人 ・入場料金　一般 1,500 円(1,300 円／1,200 円)、大学生 1,200 円(1,000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)　中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度 68% 鎌倉仏教を代表する二つの宗派の宗祖となった法然と親鸞ゆかりの名宝を一堂に集め展示したことで、浄土教の二大宗祖である二人の考え方や人物像について、理解をより深めることができた。	A	順調

2121-6	カ　北京故宮博物院精華展（仮称）（平成 24 年 1 月 7 日～2 月 19 日（予定）） 北京故宮博物院が所蔵する書画、工芸品等の優品を展示。 （目標来館者数１５．２万人）	**カ　日中国交正常化 40 周年　東京国立博物館 140 周年　特別展「北京故宮博物院 200 選」** ・会　　期　平成 24 年 1 月 2 日（月・休）～2 月 19 日（日）（43 日間） ・会　　場　平成館特別展示室第 1～4 室 ・主　　催　東京国立博物館、故宮博物院、朝日新聞社、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション ・特別協力　毎日新聞社 ・後　　援　外務省、中国大使館 ・協　　賛　三井物産、凸版印刷、あいおいニッセイ同和損害保険、華為技術日本（ファーウェイ・ジャパン）、竹中工務店 ・協　　力　全日本空輸、東京中国文化センター ・作品件数　200 件（うち一級文物 90 件） ・来館者数　258,252 人 ・入場料金　一般1,500円（1,300円／1,200円）、大学生1,200円（1,000円／900円）、高校生900円（700円／600円）　中学生以下無料　＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度 60%	A	順調
2121-7		**キ　（年度計画外に実施）　特別展「孫文と梅屋庄吉―100 年前の中国と日本」** ・会　　期　平成 23 年 7 月 26 日（火）～9 月 4 日（日）（37 日間） ・会　　場　本館特別 5 室 ・主　　催　東京国立博物館、毎日新聞社 ・後　　援　外務省、中国大使館 ・特別協力　小坂文乃、長崎県、長崎大学附属図書館 ・協　　力　日本中華總商会、日本通運、東京スタデオ、日比谷松本楼 ・協　　賛　全日本空輸、リンガーハット、小西国際交流財団 ・作品件数　249 件（うち重要文化財：24 件） ・来館者数　28,780 人 ・入場料金　一般 800 円（700 円）、大学生 600 円（500 円）、高校生 400 円（300 円）　中学生以下無料　＊（　）内は前売りおよび 20 名以上の団体料金 ・アンケート結果　満足度 52% 一般にはほとんど目に触れることがなかった貴重な資料によって、孫文と梅屋庄吉とともに激動の時代における中国や日本の様相を充分に示すことができた。	A	順調
	（京都国立博物館） 目標入場者数　２０万人	**【京都国立博物館】**		
2122-1	ア　特別展覧会「法然上人８００回忌　法然－生涯と美術－」（3 月 26 日～5 月 8 日） （目標来館者数　５万人）	**ア　特別展覧会「法然上人８００回忌　法然－生涯と美術－」** ・会　　期　平成 23 年 3 月 26 日（土）～5 月 8 日（日）（39 日間） ・会　　場　特別展示館（旧本館）全室	S	順調

	法然の生涯と思想、法然をめぐる人々の事跡を、遺された多くの文化財によって展望する。 ○目標来館者数 の合計　１４万人	・主　　催　京都国立博物館、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿、京都新聞社 ・陳列件数　120 件（うち国宝 29 件、重要文化財 58 件） ・来館者数　92,929 人（23 年度 84,682 人）（目標 50,000 人） ・入場料金　一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 500 円 ・アンケート結果　満足度 89% 法然上人八百回忌を記念して、鎌倉新仏教の嚆矢となった法然の事績を中心にその直弟子の活動をあわせて紹介した初めての大型展覧会。法然の遺品が極めて限られていることから、従来、単独テーマでの大規模展開催が困難であったが、当館の独自調査と浄土宗十二本山による浄宗会の全面的協力により、開催が可能となった。開催直前に東日本大震災が発災し集客では苦戦を余儀なくされたが、時局に即した宗教的テーマであったこともあり、来館者の関心も高く、目標来館者数を達成することができた。		
2122-2	イ　特別展観「百獣の楽園　－美術にすむ動物たち－」（7 月 16 日～8 月 28 日） （目標来館者数　２万人） 当館の収蔵品の中から、制作年代や書画・彫刻・工芸といった表現の違いを越えて、日本で愛されてきた動物たちの姿をいきいきと展観する。	**イ　特別展観「百獣の楽園　－美術にすむ動物たち－」** ・会　　期　平成 23 年 7 月 16 日（土）～8 月 28 日（日）（38 日間） ・会　　場　特別展示館（旧本館）全室 ・主　　催　京都国立博物館 ・共　　催　京都新聞社、ＮＨＫ京都放送局 ・協　　力　京都市動物園 ・陳列件数　117 件（うち国宝 3 件、重要文化財 25 件） ・来館者数　35,259 人（目標 20,000 人） ・入場料金　一般 1,000 円、大高生 700 円、中小生無料 ・アンケート結果　満足度 93% 当館の 12,000 件を超える収蔵品の中から、動物を扱った作品を選りすぐった初の動物特集。平常展示館の建て替え工事の合間に出番の減った作品を活用することができ、日ごろ美術になじみのない人々にも親しみやすい展示となった。また、京都市動物園の協力を得て、自然科学の視点を加味して収蔵品を見直す機会ともなった。	S	順調
2122-3	ウ　特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」（10 月 8 日～11 月 23 日） （目標来館者数　５万人） 旧熊本藩主であった細川家の宝物を厳選し展観する。	**ウ　特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」** ・会　　期　平成 23 年 10 月 8 日（土）～11 月 23 日（水・祝）（40 日間） ・会　　場　特別展示館（旧本館）全室 ・主　　催　京都国立博物館、永青文庫、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿、朝日新聞社 ・陳列件数　244 件（うち国宝 8 件、重要文化財 28 件） ・来館者数　106,536 人（目標 50,000 人） ・入場料金　一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 500 円 ・アンケート結果　満足度 91% 旧熊本藩主である細川家のコレクションを収集展示する永青文庫（東京・目白台）の創立 60 周年を契機として、東京、京都、九州の３国立博物館で開催された大規模巡回	S	順調

		展。細川家の歴史にとどまらず、戦国武将たちの美に対する高い意識にも焦点をあてた展覧会で、ひいては茶の湯、能・狂言といった日本文化を代表する美の世界を広く紹介する機会となった。		
2122-4	エ　特別展覧会「中国近代絵画と日本」（平成 24 年 1 月 7 日～2 月 26 日） （目標来館者数 ２万人） 中国の近代を中心に活躍した呉昌碩、斉白石、高剣父、徐悲鴻等の絵画作品を展示し、近代における日中文化交流の一面を展観する。	**エ　特別展覧会「中国近代絵画と日本」** ・会　　期　平成 24 年 1 月 7 日(土)～2 月 26 日(日)（44 日間） ・会　　場　特別展示館　全室 ・主　　催　京都国立博物館 ・陳列件数　226 件(うち海外借用分は 34 件) ・来館者数　13,286 人(目標 20,000 人) ・アンケート結果　満足度 94% 当館が近年受贈した須磨コレクションを核にした自主企画展。須磨コレクションは中国近代絵画の優品を数多く含んでおり、これまでほとんど紹介されることがなかった中国近代絵画の全体像と提示するとともに、その形成過程に隣国の日本が深く関与していたことを示した。来館者数は目標値を下回ったものの、歴史的評価がいまだ困難な近代の日中文化史に脚光をあてるまたとない機会となり、また、日本の近代美術研究などにも新たなアプローチをもたらす展覧会としても国内外の研究者の注目を集めた。	A	順調
2122-5		**オ　「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」** ・展覧会名　京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景 ・会　　期　平成 23 年 10 月 22 日(土)～12 月 4 日(日)(39 日間) ・会　　場　静岡県立美術館 ・主　　催　静岡県立美術館、静岡第一テレビ ・特別協力　京都国立博物館 ・陳列品総件数　66 件(うち国宝 6 件、重要文化財 22 件、重要美術品 5 件) ・来館者数　24,070 人 ・入場料金　一般 1,100 円、高・大学生・70 歳以上 500 円、中学生以下無料 「祈りと風景」をテーマとして、当館収蔵品の絵画・書跡・彫刻・金工・陶磁・漆工・染織・考古の各分野から選りすぐりの優品を出品した。仏教美術の至宝や、珠玉の工芸品、山水画の名品などを通して、日本・東洋の人々が風景へ寄せた思いと、自然との交わりの中で育んできた心性を探る展覧会。「山水・風景画」を収蔵展示の核としてきた静岡県立美術館と協力し、作品の質・企画内容ともに充実した展示を、静岡市を中心とする東海地方の方々にご覧頂く機会となった。	A	順調
2122-6		**カ　「京都国立博物館所蔵　典雅なる御装束　－宮廷のオートクチュール－」** ・展覧会名　京都国立博物館所蔵　典雅なる御装束　－宮廷のオートクチュール－ ・会　　期　平成 23 年 10 月 1 日(土)～11 月 27 日(日)（50 日間） ・会　　場　細見美術館 ・主　　催　細見美術館、京都新聞社	A	順調

		・特別協力　京都国立博物館 ・協　　力　HOSOO KYOTO ・後　　援　第 26 回国民文化祭京都府実行委員会 ・陳列品総件数　34 件(京都国立博物館所蔵品 31 件、細見美術館所蔵品 3 件)　(重要美術品 1 件を含む) ・来館者数　12,023 人 ・入場料金　一般 1,000 円、学生 800 円 現在も宮中の儀式に用いられている束帯・五衣唐衣裳(十二単)などの伝統装束を展示することにより、千年以上もの歴史に培われた、日本人の染織技術の粋と美意識を紹介した。平成23年は京都において国民文化祭が開催されたため、日本の染織工芸文化の中心であった京都で育まれ、今日の伝統産業ともなっている「きもの」に焦点を当てた展覧会が様々な博物館で開催された。本展もその一環を構成する。これらの展覧会を機に、固有の伝統文化への認識が新たにされ、創造の源泉となって、文化・産業がさらに活性化されることが期待される。		
	（奈良国立博物館） ○目標来館者数 の合計 ２８万人	**【奈良国立博物館】**		
2123-1	ア　「誕生！中国文明」(4 月 5 日～5 月 29 日) 中国・河南省の全土から名品を選定し、中国文化の真髄に迫る。 （目標来館者数 ５万人）	**ア　「誕生！中国文明」** ・会　　期　平成 23 年 4 月 5 日(火)～5 月 29 日(日)（49 日間） ・会　　場　奈良国立博物館東新館・西新館 ・主　　催　奈良国立博物館、読売新聞社、中国河南省文物局 ・企画協力　大広 ・後　　援　中国大使館 ・協　　賛　清水建設、光村印刷、トヨタ自動車、関西電力、大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム、丸一鋼管 ・協　　力　日本航空、日本貨物航空 ・陳列品総数 147 件 ・来館者数　35,679 人 ・観覧料金　一般 1,400 円　高校・大学生 1,000 円　小・中学生 500 円 ・アンケート結果　満足度 87%	A	順調
2123-2	イ　「天竺へ～三蔵法師 3 万キロの旅」(7 月 16 日～8 月 28 日) 高僧伝絵巻の傑作・国宝 玄奘三蔵絵を初めて全巻同時公開。 （目標来館者数 ５万人）	**イ　「天竺へ～三蔵法師 3 万キロの旅」** ・会　　期　平成 23 年 7 月 16 日(土)～8 月 28 日(日)（39 日間） ・会　　場　奈良国立博物館　東・西新館 ・主　　催　奈良国立博物館　朝日新聞社 ・陳列品総数　55 件　(国宝 4 件、重要文化財 14 件) ・来館者数　63,364 人 ・観覧料金　一般 1,200 円　高・大生 800 円　小・中学生 500 円 ・図録販売数　5,284 冊　(購入率 8.38%)	A	順調

		・音声ガイド貸出件数　6,566 台(貸出率 10.36%) ・アンケート結果　満足度 80%		
2123-3	ウ　「第６３回正倉院展」(予定) 正倉院宝庫に伝わる宝物約７０件を展示。 (目標来館者数　１８万人)	**ウ　「第６３回正倉院展」** ・会　　期　平成 23 年 10 月 29 日(土)～11 月 14 日(月)　(17 日間) ・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館 ・主　　催　奈良国立博物館 ・特別協力　読売新聞社 ・協　　賛　NTT 西日本、近畿日本鉄道、JR 東海、JR 西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、帝塚山学園・帝塚山大学、白鶴酒造 ・協　　力　NHK 奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、財団法人仏教美術協会、ミネルヴァ書房 ・出陳宝物数　62 件 ・来館者数　239,581 人 ・観覧料金　一般 1,000 円、大高生 700 円、小中生 400 円 ・アンケート結果　満足度 73%	A	順調
	(九州国立博物館) ○目標来館者数 の合計　２０万人	**【九州国立博物館】**		
2124-1	ア　「黄檗―OBAKU」(3 月 15 日～5 月 22 日) 江戸時代に我が国に伝わった黄檗宗の美術を紹介 (目標来館者数　３万人)	**ア　「黄檗－OBAKU」** ・展覧会名　「黄檗－OBAKU」 ・会　　期　平成 23 年 3 月 15 日(火)～5 月 22 日(日)　(61 日間) ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、黄檗宗大本山萬福寺、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送 ・陳列品総件数　142 件(国宝 0 件、重要文化財 14 件) ・来館者数　55,539 人(23 年度 46,530 人)(目標来館者数　30,000 人) ・入場料金　一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円 ・アンケート結果　満足度　88% ※江戸時代の日本にとって、黄檗は斬新な文化として迎えられた。本展では、彫刻作品を主体的に扱うことで、江戸時代の人々が抱いたであろう異文化接触の際の驚きと興奮を、会場内で再現することに成功した。	S	達成
2124-2	イ　「よみがえる国宝」(6 月 28 日～8 月 28 日) 日本の文化財保存、修理の歴史を辿り、日本人の美意識や価値観を紹介。 (目標来館者数　４万人)	**イ　「よみがえる国宝－守り伝える日本の美」** ・展覧会名　「よみがえる国宝－守り伝える日本の美」 ・会　　期　平成 23 年 6 月 28 日(火)～8 月 28 日(日)　(54 日間) ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州 ・陳列品総件数　77 件(国宝 11 件、重要文化財 18 件)	S	順調
		・来館者数　118,528 人(目標来館者数　40,000 人) ・入場料金　一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円 ・アンケート結果　満足度　83%		
2124-3	ウ　「大契丹展」(9 月 27 日～11 月 27 日) 中国・契丹の文化と美術を中国内蒙古自治区出土文物を通じて紹介。(目標来館者数　６万人)	**ウ　「草原の王朝　契丹－美しき 3 人のプリンセス」** ・展覧会名　「草原の王朝　契丹－美しき 3 人のプリンセス」 ・会　　期　平成 23 年 9 月 27 日(火)～11 月 27 日(日)　(54 日間) ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＲＫＢ毎日放送、内蒙古博物院 ・陳列品総件数　125 件(中国・一級文物 45 件) ・来館者数　75,880 人(目標来館者数　60,000 人) ・入場料金　一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円 ・アンケート結果　満足度　90%	A	順調
2124-4	エ　「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」(平成 24 年 1 月 1 日～3 月 4 日) 熊本・細川家に伝来、収蔵される文化財の中から代表的な優品を一堂に展観。 (目標来館者数　７万人)	**エ　「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」** ・展覧会名　「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」 ・会　　期　平成 24 年 1 月 1 日(日)～3 月 4 日(日)(56 日間) ・会　　場　九州国立博物館　特別展示室 ・主　　催　九州国立博物館・福岡県、財団法人永青文庫、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州、西日本新聞社 ・陳列品総件数　232 件(国宝 8 件、重要文化財 25 件、重要美術品 18 件) ・来館者数　113,290 人(目標来館者数　70,000 人) ・入場料金　一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円 ・アンケート結果　満足度 83%	A	順調
	③　海外展 (東京国立博物館) 1）海外展「仏教美術と宮廷の美」会場：ヒューストン美術館（アメリカ) 東京国立博物館所蔵の日本美術の優品を精選し展示。	**③　海外展** **【東京国立博物館】** 平成 24 年 2 月 19 日～4 月 8 日の会期で開催のため、平成 24 年度事業として評価を行う。		
2134	(九州国立博物館) 1）韓国において文化庁との共催により海外展を開催する予定。	**【九州国立博物館】** ・展覧会名：文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」 ・会　　期：　平成 23 年 12 月 20 日(火)～24 年 2 月 19 日(日)　(51 日間) ・会　　場：　韓国国立中央博物館 ・主　　催：　九州国立博物館・福岡県、文化庁、滋賀県、韓国国立中央博物館 ・陳列品総件数：59 件(国宝 4 件、重要文化財 31 件) ・来館者数：　52,316 人 ・入場料金：　無料	S	順調

定量評価	23 年度	22 年度	目標値	評定
【平常展】平常展来館者数(人)				
東京国立博物館(23 年度より黒田記念館を含む)	324, 597	373, 068	362, 470	B
京都国立博物館	－	－	－	－
奈良国立博物館	130, 839	71, 566	118, 032	A
九州国立博物館	358, 366	274, 545	380, 690	B
【平常展】陳列替件数(件)(23 年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更)				
東京国立博物館	4, 914	290	4, 000	A
京都国立博物館	－	－	－	－
奈良国立博物館	481	101	400	A
九州国立博物館	1, 373	334	1, 100	A
【平常展】陳列総件数(件)				
東京国立博物館	7, 394	5, 610	5, 500	A
京都国立博物館	－	－	－	－
奈良国立博物館	1, 092	340	700	S
九州国立博物館	2, 417	1, 668	1, 700	A
【平常展】外国語パネルの設置(%)				
東京国立博物館	**96%**	**96%**	**80%**	**A**
京都国立博物館	**－**	**－**	**－**	**－**
奈良国立博物館	**89%**	**84%**	**80%**	**A**
九州国立博物館	**94%**	**83%**	**80%**	**A**
【特別展】開催回数(回)				
東京国立博物館	**7**	**10**	**3～4**	**S**
京都国立博物館	**6**	**5**	**2～3**	**S**
奈良国立博物館	**3**	**4**	**2～3**	**A**
九州国立博物館	**5**	**5**	**2～3**	**S**
【特別展】入館者数(人)				
東京国立博物館	**1, 349, 514**	**－**	**730, 000**	**S**
①「写楽」	229, 625	－	160, 000	A
②「手塚治虫のブッダ展」	99, 088	－	70, 000	A
③「空海と密教美術」	550, 399	－	240, 000	S
④開館 5 周年記念特別展「東京国立博物館所蔵　金春座伝来　能面・能装束」(会場：金沢能楽美術館)	(8, 206)	－	－	－
⑤法然上人８００回忌・親鸞上人７５０回忌　特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」	212, 150	－	108, 000	S
⑥日中国交正常化 40 周年　東京国立博物館 140 周年　特別展「北京故宮博物院 200 選」	258, 252	－	152, 000	S
⑦「孫文と梅屋庄吉―100 年前の中国と日本」	(28, 780)	－	(20, 350)	A
京都国立博物館	**248, 010**	**－**	**140, 000**	**S**
①特別展覧会「法然上人 800 回忌　法然－生涯と美術－」	92, 929	－	50, 000	S
②特別展観「百獣の楽園　－美術にすむ動物たち－」	35, 259	－	20, 000	S
③特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」	106, 536	－	50, 000	S
④特別展覧会「中国近代絵画と日本」	13, 286	－	20, 000	C
⑤京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景(会場：静岡県立美術館)	(24, 070)	－	－	－
⑥京都国立博物館所蔵　典雅なる御装束　－宮廷のオートクチュール－(細見美術館)	(12, 023)	－	－	－
奈良国立博物館	**338, 624**	**－**	**280, 000**	**A**
①「誕生！中国文明」	35, 679	－	50, 000	B
②「天竺へ～三蔵法師 3 万キロの旅」	63, 364	－	50, 000	A
③「第 63 回正倉院展」	239, 581	－	180, 000	A
九州国立博物館	**363, 237**	**－**	**200, 000**	**S**
①「黄檗－OBAKU」	55, 539	－	30, 000	S
②「よみがえる国宝－守り伝える日本の美」	118, 528	－	40, 000	S
③「草原の王朝　契丹 - 美しき 3 人のプリンセス」	75, 880	－	60, 000	A
④「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」	113, 290	－	70, 000	S
⑤文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」	(52, 316)	－	－	－

(2)　教育活動の充実

【中期目標】

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会の提供を実施し、ボランティアを育成し、教育活動の充実に努めるとともに、次代の博物館事業を担う人材育成に寄与すること。

【中期計画】

(2) 教育活動の充実

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。

① 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

② 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や

【主な計画上の評価指標】

○講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の目標参加者数を達成すること。

○ボランティアを支援すること。

○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること。

○大学との連携事業等を実施すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 ③　大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。		○講座やギャラリートーク等は、来館者を育てるための必須の活動であり、今後も一層の充実が望まれることから、今一度テーマや内容について、様々な可能性を検討すべきである。		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
2211-1	**(2)教育活動の充実** 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。 **①　学習機会の提供** （４館共通） １）キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施する。 （東京国立博物館） １）日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館２０室を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。 ○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー　博物館できもだめし」（7 月 20 日～8 月 28 日） ○体験型プログラムの実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー　博物館できもだめし」など、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向けのワークショップやアクティビティを実施する。 ・本館２０室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。 ・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。 ○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」（3 月 23 日～4 月 17 日）の実施 ２）学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象）。	**(2)教育活動の充実** **①　学習機会の提供** **【東京国立博物館】** (4館共通) 1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数37校、団体利用を含み10,157名の学生にご利用いただいた。 (東京国立博物館) 1)総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化の理解促進に寄与し、伝統文化への興味関心をより高めることができた。震災の影響による23年3月12日～3月28日の臨時閉館に伴い、「博物館でお花見を」の開催は23年3月29日～4月17日となった。会期中「花見で一句」には161の投句があり、12名が入選。また、23年4月2日に予定されていた桜セミナーを中止した。 2)児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。教員にも、展示のみならず博物館への理解を深め、	A	順調
	・就業体験の受け入れを継続して行う（小・中・高校生対象）。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。	利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布も行った。		
2211-2	３）文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。 （講演会等の目標）　参加者数　計 7,830 人（実施回数　計 77 回程度） ・講演会　　参加者数 3,500 人（実施回数 20 回程度） ・列品解説等　参加者数 4,000 人（実施回数 55 回程度） ・連続講座　　参加者数　250 人（実施回数　1 回程度） ・公開講座　　参加者数　　80 人（実施回数　1 回程度）	3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座を継続して実施した。 参加者数　計12,664人(実施回数　計112回) ・講演会　　参加者数8,224人(実施回数32回) うち月例講演会2,457人(13回)、記念講演会4,669人(15回)、テーマ別講演会775人(3回)、その他講演会323人(1回) ・列品解説等　参加者数3,963人(実施回数76回) ・連続講座　　参加者数 380人(実施回数1回) ・公開講座　　参加者数 97人(実施回数3回)	A	順調
2212	（京都国立博物館） １）展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催する。 ２）一般向け教育普及事業として「夏期講座」を開催する。 ３）京都市内４美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を行う。 ４）小中学生向けに展示解説を行う「少年少女博物館くらぶ」を実施する。 ５）展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布する。併せてメールマガジンでの配信を行う。 （講演会等の目標）参加者数　計 2,638 人（実施回数　計 15 回程度） ・土曜講座　　参加者数 1,848 人（実施回数 11 回程度） ・夏期講座　　参加者数　600 人（実施回数 3 回程度） ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」 参加者数　190人（実施回数1回程度）	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(30校)した。 (京都国立博物館) 1)展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催した。(13回・1,199人) 2)一般向け教育普及事業として「夏期講座(文学と美術Ⅱ)」を開催した。(7/27-29)(1回3日・193人、のべ579人) 3)京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を土曜講座と合同で開催した(1回・158人) 4)小中学生向けに展示解説を行う「少年少女博物館くらぶ」を実施した。(8/2・42人,8/5・33人) 5)展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布し、併せてメールマガジンでの配信を行った。 ・「留学生の日」(11/5)を実施した。 ・「社会科教員のための指導力向上講座」を実施した。(10/25・58人)	A	順調
2213-1	（奈良国立博物館） １）小中学校との連携 ・奈良県内小中学校にメールマガジンを配信し、博物館だよりを送付す	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は28校を維持し、大学との連携を継続した。 (奈良国立博物館) 1)小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行っている。博	A	順調

	る。	物館だよりの送付に関しては、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行っている。ただし、県内全体では当初契約の印刷部数が追いつかないため、発送先を厳選し対応している。		
	・奈良市内小学校５年生を中心に幼稚園児から中学 3 年生までを対象に世界遺産学習授業を実施する。	・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生34校、合計2,182名に対して実施した。		
	・中学生の職場体験学習を受け入れる。	・中学生の職場体験受入を2校6人行った。		
2213-2	2）講座等の開催	2)講座等の開催	A	順調
	・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。	・サンデートークは毎月第3日曜日に実施しており、実績は12回、合計645人の参加があり、アンケート結果では90％の満足度が得られた。		
	・特別展等に際してシンポジウム及び公開講座を開催する。	・公開講座は、3つの特別展および3つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計14回、1,660人の参加があり、平均満足度は87％を得た。その他、特別展「天竺へ〜三蔵法師3万キロの旅」に関連して「玄奘フォーラム」を1回実施した。		
	・正倉院展に因むシンポジウムを開催する。	・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2011　正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」と題して10月30日に実施し、4人のパネラーに基調講演をいただき討論を行った。179人の参加を得、満足度は81％であった。		
	・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。	・夏季講座は、今年は第40回目を迎え、年々参加者数が増えていることに鑑み、前年の奈良女子大の講堂が手狭であったため、会場を大人数収容できる奈良県文化会館に移して500名を超える参加希望者にも対応できるよう計らった。「玄奘三蔵とシルクロード」と題し、8月24日〜26日の3日間に実施、講師は計9人、毎日522人の参加者が集まった。		
	・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。	・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、春日大社の協力のもと、「春日大社特別ツアー」を実施し、33人の参加者を得た。特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を実施し、38人の参加者を得た。		
	・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。	・文化財保存修理所の一般公開は、平成24年2月15日に3回実施し、110名の参加者を得た。		
	（講演会等の目標）参加者数　計 2,450 人（実施回数　計 25 回程度）	○講演会等の実績　総計28回・参加者3,006人		
	・特別展等講座　参加者数 1,500 人（実施回数 12 回程度）	（特別展等講座 15 回・参加者 1,839 人、夏季講座 1 回(3 日間)・参加者 522 人、サンデートーク 12 回、参加者 645 人）		
	・夏季講座　　参加者数　 350 人（実施回数 1 回程度）			
	・サンデートーク 参加者数　 600 人（実施回数 12 回程度）			
	3）奈良市教育委員会と連携して教員の研修を行う。	3)奈良市教育委員会と連携した教員への研修を 8 月 26 日に行い、150 人の参加者を得た。（処理番号 2213-1）		

2214-1		**【九州国立博物館】**	A	順調
	（九州国立博物館）	（九州国立博物館）		
	1）博物館における体験型事業の充実を図る。	1)		
	・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発	・体験型展示室「あじっぱ」の運営を進め、従来からのプログラム、キットを継続して展開したほか、今年度新たに「なりきり考古学者　拓本ヴァージョン」「中国の剪紙」等の各プログラム、キットを開発し、来館者向けに展開した。		
	・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供	・「いこうよ！あじっぱ夏祭り」やボランティアワークショップを実施し、幅広い層の来館者に体験の場を提供した。		
	・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発	・アジア各国の文化の類似性や相違性についての理解を深めるため、さまざまなテーマのもと、「あじ庵」「あじざやら」「ディスプレイ」において特集展示をおこなった。また、季節にあわせて体験資料の展示替えを随時行った。		
2214-2		（4館共通）	A	順調
		1)キャンパスメンバーズ(大学会員制度)による大学との連携を継続して実施した。		
		（九州国立博物館）		
	2）学校教育との連携事業を実施する。	2)		
	・職場体験（中学生）の受け入れを実施	・12校66名の中学生の職場体験を受け入れ、博物館の機能について紹介した。		
	・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施	・高校生「ジュニア学芸員」は、5校14名の参加を得て計9回の継続プログラムで実施した。		
	・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置	・高等学校経験10年経過教員4名、および高等学校経験2年経過教員3名に対し、それぞれ2〜3日社会貢献研修を実施した。		
	・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しの実施	・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸出を引き続き行い、85件の貸出を行った。		
2214-3	3）シンポジウムを開催する。	3)朝鮮半島の古代国家である百済と日本について考える国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。	A	順調
	4）特別展記念講演会を開催する。	4)今年度は特別展記念講演会を7回開催した。		
	5）文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。	5)特別展では展示内容を分かりやすく普及啓蒙するパネルを掲出し、来館者から高評価を得ている。		
	6）ギャラリートークを随時実施する。	6)定例のギャラリートークを43回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。		
	7）文化施設等へ講師を派遣する。	7)放送大学において展覧会の運営にかかる連続講座を実施、アクロス福岡にてトピック展に関連した講座を実施した。		
	8）特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。	8)特別展・文化交流展ついてのワークショップを開催し、来館者との交流を室外でも深めることができた。		
	（講演会等の目標）参加者数　計 2,030 人（実施回数計 46 回程度）			
	・特別展記念講演会　参加者数　 600 人（実施回数 4 回程度）			

	・特別展シンポジウム　参加者数　180 人（実施回数 1 回程度） ・ミュージアムトーク　参加者数 1,200 人（実施回数 40 回程度） ・ミュージアム講座　参加者数　50 人（実施回数 1 回程度） 9）放送大学の面接授業を実施する。	9)放送大学の面接授業を実施した。(処理番号 2214-2)		
2221-1	**②－１　ボランティア活動の支援** （東京国立博物館） 1）各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。 2）点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内を実施する。 3）各種ガイドツアーを継続して実施する。 4）ボランティア自身の企画立案によるプログラムの充実を図る。 5）東京藝術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施する。	**②－1　ボランティア活動の支援** **【東京国立博物館】** 1)館内各所での案内・みどりのライオン体験コーナー・紹介コーナーでの活動、職場体験の補助のほか、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。また、期間限定の「表慶館トラベル」の補助活動を実施。各活動実施のための研修会・解説会を実施した。 2)通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障害者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。またボランティア全員を対象に、視覚障害者理解、聴覚障害者理解のための研修を実施した。 3)全13の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施。また、研究員により、活動のための研修会を実施。 4)通常の自主企画グループの活動のほかに留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見をなどでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーではボランティア活動 PR 隊を募集し、ボランティアの企画立案によるボランティア活動紹介を実施した。 5)総合文化展の作品解説をするギャラリートーク班 5 名と、所蔵作品の制作工程模型の作成と教育普及事業を行う制作工程模型班 1 名による活動を行った。	A	順調
2222-1	（京都国立博物館） 1）調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。 2）大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。 3）「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。	**【京都国立博物館】** 1)収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。 2)・京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(8回) ・大学生・大学院生ボランティア「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した。(16回) ・京都橘大学との教育提携に基づき、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施した。(12回) 3)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。	A	順調
2223-1	（奈良国立博物館） 1）ボランティア制度をより充実させるため、その在り方について検討する。	**【奈良国立博物館】** 1)ボランティア制度を見直すため、検討委員会を立ち上げ、月1～2回の検討会を開催した。その結果、23年度の後半に「ボランティア室」を設置し、新制度でのボランティアを公募することとした。11月より新ボランティアの公募を始め、年明けに準備室を設置、採用者の決定、研修等を行い、24年度より活動開始を目指すこととした。 2)ボランティアに対して、特別展、特別陳列の開催ごとに1～2回、当館職員、展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。また、全員にすべての展覧会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。さらに、正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った後、1～2週間にわたる自主トレーニングを課して実地に臨むよう指導した。 日常的には、学芸部職員による担任制をとり、展示内容に関する質問や問題解決に対応した。 3)ボランティアの学習に関しては、班体制の中で互いに情報共有をはかり、解説における役割分担などの工夫をはかるよう指導した。 4)外国語対応のボランティアの充実は、新体制において採用を奨励することとして、年度内は現有の職員で対応することとした。	A	順調
2224-1	（九州国立博物館） 1）ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。 2）ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3）ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。	**【九州国立博物館】** 1)新規(第3期)ボランティアを受け入れ、各部会の所属人数増だけでなく、新たな発想・思いによって、従来の活動の発展・充実、そして新しい活動の創造等が行われた。 2)「九州国立博物館ボランティア活動」の継続・発展を目的に第2期ボランティアの企画・実施による第3期ボランティアへの研修を積極的に実施した。 3)イベントやワークショップ等の実施において、主体性・自主性を尊重した取り組みを行った。	A	順調
2221-2	**②－２　博物館支援者の増加** （４館共通） 企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。 1）「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2）「友の会」会員を対象とした事業を実施する。 3）企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4）公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 5）展覧会事業への企業からの各種支援（協賛・協力）を募る。	**②－2 博物館支援者の増加** **【東京国立博物館】** (4館共通) 1)入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。 2)「東大寺講演会」を開催した。 3)地域との連携、ＰＲにより認知度向上に努めた。	A	順調

		4）ＪＲ、地下鉄など総合文化展、特別展のポスターの掲示に協力を図るなど、広告活動に努めた。 5）三菱商事株式会社と共催で「障がい者内覧会」を実施した。		
	（東京国立博物館・奈良国立博物館） 1）賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2）地域、企業との連携・拡充を図る。	（東京国立博物館・奈良国立博物館） 1）積極的に企業へのＰＲを行い、新規会員を増加させた。 2）日本大学共催で「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催した。		
2222-2		**【京都国立博物館】** （4館共通） 1）「友の会」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。 2）「友の会」会員を対象とした事業を実施した。 3）企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。 4）公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。 5）昨年度設置した「ミュージアム・パートナー」制度に、今年度新規に1社が加入し、合計2社が加入している。	A	順調
	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（4回）・見学会（5回）・会報（4回）の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。また、地域・機関との連携事業に協力した。		
2223-2		**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1）友の会 会員数　2,615人（一般2,503人、学生88人、家族24人） 2）会員に夏季講座の案内を送付し、優先的に受講できる配慮を行った。 3）株式会社日本香堂と確約書を取り交わし、展覧会のＰＲを行った他、体験イベント・講演会を行った。 4）西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社とタイアップし、特別展の広報を行った。 5）他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。	A	順調
	（東京国立博物館・奈良国立博物館） 1）賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2）地域、企業との連携・拡充を図る。	（東京国立博物館・奈良国立博物館） 1）賛助会　29団体　36人 特別支援会員：5団体、特別会員：5団体、一般会員（個人）：36人、（団体）：19団体 2）観光関連業界の会合に出向き、顧客層の開拓を行った。 奈良の観光イベント「ライトアッププロムナード・なら 2011」、「なら燈花会」、「ならファンタージア」、「音燈華 SPECIAL LIVE」、「陶燈茶夜」、「なら瑠璃絵」に対して積極的に協力した。		
	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）支援団体等が主催する講演会等に会場を提供した。		
	（奈良国立博物館） 1）支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。 2）支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。	（奈良国立博物館） 1）展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。 2）特別展の実施に際して企業等からの協力金を獲得した。		
2224-2		**【九州国立博物館】** （4館共通） 1）「友の会」等の会員制度を継続して実施した。 2）「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展ちらし等の送付を行った。 3）企業等と連携し、広報活動を行った。 4）特別展においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。 5）特別展「よみがえる国宝」において企業からの協賛を得た。	A	順調
	（九州国立博物館） 1）近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。	（九州国立博物館） 1）支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。		
	③　大学との連携	**③　大学との連携**	A	順調
2231	（東京国立博物館） 1）インターンシップを継続して実施する（大学院生対象）。 2）東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象）。	**【東京国立博物館】** 1）博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的として大学院生を対象にインターンシップを募集、8大学20名の学生を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の8部署で10～30日の活動を行った。 2）東京藝術大学の学生ボランティアを募集し、ギャラリートーク班5名、制作工程模型班1名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、総合文化展の解説を行った。制作工程模型班では館蔵の国宝「紅白芙蓉図」の制作工程模型を作成するための調査を行い、次年度の展示・教育普及事業のための準備を行った。		
2232	（京都国立博物館） 1）京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。	**【京都国立博物館】** 1）京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、研究員5名が客員教授（3名）、准教授（2名）を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。また、京都橘大学との学術協定に基づき、研究員7名が事前講習を行ったのち、学生18名がアンケートボランティアとして活動した。	A	順調
2233	（奈良国立博物館） 1）奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。	**【奈良国立博物館】** 1）・第40回夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」を奈良女子大学との共同主催として実施した。 ・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を	A	順調

		客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期 3 人、後期 4 人であった。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員 2 名を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生 10 名であった。		
	2）奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を検討する。	2)・奈良教育大学・奈良市教育委員会との世界遺産学習プログラムの開発は、今年度に科学研究費が獲得されたため、3年間を一つの目処として、その開発・検討が始まった。 ・平成 23 年 12 月 24 日(土)・25 日(日)、なら 100 年会館及び奈良市教育センターを会場として、「世界遺産学習全国サミット in 奈良」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催した。講演会・分科会などに約 600 人が参加し、初めて実施された「子ども会議」後、地域の文化を守る決意を込めた「子ども宣言」が出された。		
	3）インターンシップを継続的に受け入れる。	3)インターンシップに関しては、募集を行ったが大学等からの要望がなかったため、今後の受け入れに備えて当館内の制度の見直しについて検討を始めた。		
2234	（九州国立博物館） 1）博物館実習生の受け入れを実施する。	**【九州国立博物館】** 1)博物館実習生の受け入れを実施した。 博物館実習生を15大学20人(男2人、女18人)、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は7大学11人)	B	順調
	2）インターンシップによる研修生の受け入れを実施する。	2)インターンシップについては募集を行い、照会はあったが、受け入れには至らなかった。福岡県内の大学で構成する「福岡県インターンシップ推進協議会」や、海外からの照会はあるが、学生や協議会と博物館の求める人材や期間についてのマッチングがスムーズにいかず、実施できていないという現状がある。		

定量評価項目	23 年度	22 年度	目標値	評定
学習機会の提供　講演会等参加者数(人)				
東京国立博物館	**12,664**	**13,319**	**7,830**	**S**
講演会	8,224	9,290	3,500	S
列品解説	3,963	3,659	4,000	B
連続講座(夏期講座)	380	278	250	S
公開講座	97	92	80	A
京都国立博物館	**1,450**	**2,313**	**2,638**	**C**
土曜講座	1,199	2,076	1,848	C
夏期講座	193	205	600	B
社会科教員のための向上講座	58	32	―	―
京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む)	(158)	―	(190)	B
奈良国立博物館	**3,006**	**3,349**	**2,450**	**A**
特別展等講座	1,839	2,172	1,500	A
夏季講座	522	556	350	A
サンデートーク	645	621	600	A
九州国立博物館	**7,833**	**3,996**	**2,030**	**S**
特別展記念講演会	1,500	1,410	600	S
特別展シンポジウム	263	230	180	A
講演及びシンポジウム	4,269	1,036	―	―
ミュージアムトーク	1,741	1,320	1200	A
ミュージアム講座	60	0	50	A
学習機会の提供　講演会等実施回数(回)				
東京国立博物館	**112**	**126**	**77**	**S**
講演会	32	39	20	S
列品解説	76	83	55	A
連続講座(夏期講座)	1	1	1	A
公開講座	3	3	1	S
京都国立博物館	**15**	**17**	**15**	**A**
土曜講座	13	15	11	A
夏期講座	1	1	3	A
社会科教員のための向上講座	1	1	―	―
京都ミュージアムズ・フォー連携講座(土曜講座に含む)	(1)	―	(1)	A
奈良国立博物館	**28**	**28**	**25**	**A**
特別展等講座	15	15	12	A
夏季講座	1	1	1	A
サンデートーク	12	12	12	A
九州国立博物館	**89**	**64**	**46**	**S**
特別展記念講演会	7	9	4	S
特別展シンポジウム	1	2	1	A
講演及びシンポジウム	37	9	―	―
ミュージアムトーク	43	44	40	A
ミュージアム講座	1	0	1	A

(3)　快適な観覧環境の提供

【中期目標】国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。

【中期計画】
国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。
①施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
②一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。
③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【主な計画上の評価指標】
○施設のバリアフリー化を進めること。
○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行うこと。
○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】
○障害者への対応については、我が国の歴史と文化に関する知識の伝達という意味において、すべての国立博物館があらゆる障害者に開かれた施設であってほしいため、なお一層の工夫を望む。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(3) 快適な観覧環境の提供 **① 施設・設備等の充実** （4館共通） 1）特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。	**(3) 快適な観覧環境の提供** **① 施設・設備等の充実**		
2311-1		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)すべての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。「空海と密教美術」展の音声ガイドでは、北大路欣也(俳優)のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が 25.2%となった。	A	順調
	（東京国立博物館） 1）多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 2）より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。	(東京国立博物館) 1)多言語(日・英・中・韓)による案内及び誘導サイン等の充実を図った。 2)・特別展「孫文と梅屋庄吉」において、可変調光盤と小型ＬＥＤスポットライトによる展示照明を行った。 ・「根付 高円宮コレクション」高円宮コレクション室における歴史的展示ケースへのＬＥＤ照明器具の取付けを行った。 ・「東京国立博物館 140 周年特集陳列 天翔ける龍」特別 1 室天井にライティングダクトを増設した。		
2311-2	3）総合文化展における音声ガイドの導入について検討する。	3)平成22年度に実証実験を行なったスマートフォン端末を用いた館内ガイド「とーはくナビ」を、アンドロイド版スマートフォンアプリとして平成24年4月からの運用に向けて準備を行った。	A	順調
	4）障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。	4)障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布した。		
	5）「総合案内パンフレット」（7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）「フロアガイド」（4ヵ国語：日、英、中、韓）の制作・配布する。	5)「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4ヵ国語：日、英、中、韓)の制作・配布を行った。		
	6）本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、(3ヵ国語：英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布する。	6)本館 2 階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ 3 ヵ国語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具　今昔」「日本の伝統もよう」の 3 種を制作・配布した。		
2312	（京都国立博物館） 1）快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。 2）館内案内リーフレット（6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西）を継続して制作・配布する。	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。 (京都国立博物館) 1)快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進した。 2)昨年度に製作した館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。	A	順調
2313	（奈良国立博物館） 1）快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2）誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。 3）座面を上下に動かせる車いすの整備を進め、障がい者の方の観覧環境の向上を図る。 4）正倉院展の際に託児所を設置する。 5）なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。 6）市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討する。 7）ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。	**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。 (奈良国立博物館) 1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。 2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保した。 3)座面を上下に動かせる車いすは、現在、国内及び国外において製造していないため、整備が出来なかった。 4)正倉院展の会期中に、託児所を開設し、多くの利用者があった。 5)なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、新ボランティア制度が平成24年4月から発足し、解説ツアーを実施することに伴い、音声ガイドと重複するところがあるため、解説ツアーの実施状況を受けて再度検討することになった。 6)市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討した結果、費用対効果等の観点から行わないこととなった。 7)ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行った。	A	順調

	8）館内案内リーフレット（７ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。 9）なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成する。	8)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 9)なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成した。		
2314-1		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)年4回開催した特別展において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。 （開館以来、音声ガイドを装備し、英語・中国語・韓国語の音声解説を提供しており、好評を博している。）	A	順調
2314-2	（九州国立博物館） 1）快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2）来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 3）館内案内リーフレット（７ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。 4）文化交流展示室の展示ストーリーを、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットまたはガイドブックを刊行する。 5）英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。	(九州国立博物館) 1)ケースや照明設備を総点検し、安全で快適な鑑賞空間の提供するため、日々向上に努めた。 2)エントランスの丸看板に、主要なトピック展示や季節感を表わすことによって、新鮮な展示をアピールした。 3)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。 4)トピック展示「館蔵水墨画名品展」で、英語・中国語・韓国語を併記した図録を作成し、アジア圏の来館者に対応した。 5)文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替えに応じて更新し、作成・配布した。	A	順調
	②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 一般入館者、専門家を対象に満足度調査を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービスの向上に努める。 （４館共通） 1）来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。 2）混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。	**②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営**		
2321		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施 平成館、本館で開催された全ての特別展及び本館での総合文化展でアンケートを実施し、その結果で環境改善に努めた。 2)・夏季の「空海と密教美術展」や冬季の「北京故宮博物院　200選」期間中に、看護師の常駐、日傘の貸出やテント・給水所設置など来館者への配慮を行った。 ・館内外の利用案内や展示紹介(キャプション等)の整備など、展示会場の環境維持に努めた。	A	順調
2322	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 （京都国立博物館） 1）大学との学術交流による特別展覧会観覧者アンケートを実施する。 2）モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。 2)特別展覧会「法然－生涯と美術－」において、以前から強い要望があった整理券システムを試行した。また混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。 (京都国立博物館) 1)通常のアンケートとは別に、学生ボランティアによる呼びかけアンケートを行い、より細かなニーズを調査するとともに、館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。 2)小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。	A	順調
2323		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。 2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。	A	順調
2324	（京都国立博物館・奈良国立博物館） 1）特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 （九州国立博物館） 1）隣接する旧九州歴史資料館跡地を利用して駐車収容台数を拡張する。	(京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)特別展「天竺へ」に関し、専門家の展覧会評を奈良国立博物館だよりに掲載した。 **【九州国立博物館】** (4館共通) 1)来館者のニーズを引き出すため、平常展及び各特別展で来館者調査を実施した。 2)混雑が予想される展覧会について、入場者調節、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。 (九州国立博物館) 1)旧九州歴史資料館跡地を利用して駐車収容台数を拡張した。	A	順調
	③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、	**③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実**		

	関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 （4館共通） 1）オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。			
2331		**【東京国立博物館】** ・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスを行い、また展覧会に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。 ・140 周年グッズを開発した。 ・その他ミュージアムグッズについてもその都度、東京国立博物館運営協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。（自在龍をモチーフとしたガラスの置物など） (4 館共通) 1)新たなミュージアムグッズとして本館をモチーフにした立体ペーパークラフトを製作販売した。	A	順調
2332		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。 (京都国立博物館) 1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し､アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。	A	順調
	（京都国立博物館） 1）レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。			
2333		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)オリジナルグッズ(クッキー、ワイン)の商品をレストランで販売し、サービスの向上に努めた。 (奈良国立博物館) 1)平成24年1月2日に来館された方､正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりなどを配布するサービスを行った。 2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。 3)寄附金の受け入れ、賛助会の会費及び館主催のイベント料金は、大半が口座振り込みにより支払われているため､クレジットカード決済による利用者の利便性が見込めないことから、クレジットカード決済の導入は、見合わせることになった。 4)より快適な環境を提供できるよう、レストランのリニューアルを行った。	A	順調
	（奈良国立博物館） 1）ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。 2）仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。 3）寄附金の受け入れ、賛助会の会費及び館主催のイベント料金の支払い等について、クレジットカードで決済できるような方策を検討し、利用者の利便性の向上を図る。 4）より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。			
2334		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)ミュージアムショップでは､特別展及び文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い､オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。 (九州国立博物館) 1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。	A	順調
	（九州国立博物館） 1）特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。			

定量評価項目	23 年度	22 年度	目標値	評定
リーフレット等（ヵ国語）				
東京国立博物館	7	7	7	A
京都国立博物館	6	6	6	A
奈良国立博物館	7	7	7	A
九州国立博物館	7	7	7	A

(4)　文化財情報の発信と広報の充実

【中期目標】文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めること。

【中期計画】
（4）文化財情報の発信と広報の充実
①収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
　収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。
②美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。
③展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。
④広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。
⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【主な計画上の評価指標】
○収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成すること。また、公開データ件数を増加させること。
○報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。
○計画的な広報・情報提供を行うこと。
○ウェブサイトアクセス件数の向上を図ること。

【22 年度評価における主な指摘事項】
○収蔵品等のデジタル化も順調に進展しており、今後のコンテンツ構築の一層の進展を期待する。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	（4）文化財情報の発信と広報の充実 **①　デジタル化の推進** （4館共通） 1）収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2）収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画	**(4)文化財情報の発信と広報の充実** **①　デジタル化の推進**		

	像（ｅ国宝）を継続して公開する。 ３）約９，０００件 （東京：３，０００、 京都：２，０００、 奈良：３，０００、 九州：１，０００）の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。			
2411		**【東京国立博物館】** （4館共通） 1)デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。 2)国宝・重要文化財の高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。 3)既存フィルムはほぼすべてデジタル化済みであり、平成23年度新規フィルム撮影のほぼ全てにあたる1,468枚をデジタル化した。	A	順調
	（東京国立博物館） １）外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実を図る。	（東京国立博物館） 1)「列品管理プロトタイプデータベース」を改善し、学芸業務支援の機能を充実させた。		
	２）収蔵品に関する基本情報のデータ化を引き続き推進するとともに、複数あるデータベースを統合して公開することに向けた整備を進める。	2)収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。		
	３）法隆寺献納宝物について、５ヵ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。	3)・「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」を法隆寺宝物館にて継続して提供した。 ・東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。		
2412		**【京都国立博物館】** （4館共通） 1)収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。 2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。 3)2,165件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。	A	順調
	（京都国立博物館） 1）収蔵品について多国語の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。	（京都国立博物館） 1)重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」で平成21年度より公開されている6カ国語(日英韓中仏西)による解説について、内容及び表示方法等について修正を行った。		
2413		**【奈良国立博物館】** （4館共通） 1)収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。 2)国宝・重要文化財のデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。 3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(5,297件)。	A	順調

	（奈良国立博物館） １）収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。	（奈良国立博物館） 1)収蔵品データベースに継続して情報を蓄積し、画像、解説文、文献情報を充実させた。		
	２）写真データーベースの個別データを約２，０００件追加更新する。	2)画像データベースの個別データを4,370件追加更新した。		
	３）修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。	3)「美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ化を継続して行い、データベースの構成について検討した。		
	４）仏教美術資料研究センターのウェブサイト（蔵書検索）の開設と、利用案内パンフレットの作成を実施して、仏教美術情報の公開・普及を図る。	4)仏教美術資料研究センターのウェブサイトを開設し、また利用案内パンフレットをあらたに作成して、仏教美術情報の公開・普及を図った。		
	５）地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。	5)地下回廊にタッチパネル式学習端末機を設置し、収蔵品の中から名品の画像を公開した。		
2414		**【九州国立博物館】** （4館共通） 1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行った。 2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。 3)目標としていた1,000件を超える収蔵品写真等のデジタル化を実施した。	A	順調
	（九州国立博物館） １）インターネット及び来館者用館内端末を通じ、収蔵品デジタル画像を利用したデジタルアーカイブの運用を開始する。	（九州国立博物館） 1)本年度4月1日より、インターネット及び来館者用館内端末PC2台により九州国立博物館でデジタルアーカイブの公開を開始した。		
	２）収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。	2)今年度は平成22年度の購入品を中心に、コンテンツを追加するとともに、画面構成を改良した。		
	３）海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。	3)平成 20 年度・22 年度に撮影・録音したデータをもとに、新規映像コンテンツとして「モンゴルの遊牧民」「ベトナムの水上人形」「ウズベキスタンの絨毯作り」、新規音声コンテンツとして「馬頭琴とホーミー」「ウズベキスタンの鳥市場」を制作し、「あじっぱ」において展開した。また、映像素材の画角変更にともない、再生機器(モニタ)も従来の 3:4 のものから 9:16 のものに変更し、スクリーンセーバーも焼き付きの危険性を可能な限り押さえたものに変更した。		
	②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 （４館共通） １）約９，５００件 （東京：３，０００、 京都：３，０００、 奈	**②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化**		

	良：３，０００、 九州：５００）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。			
2421		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)本年度は10,566件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。	A	順調
	（東京国立博物館） １）資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システムを軸とした図書資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。	(東京国立博物館) 1)資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、図書資料等のデータ整備を推進した。 資料館において資料の閲覧、複写およびレファレンスサービスを継続して実施した。		
	２）法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。	2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。		
	３）調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集するための方針を策定する。	3)博物館の調査研究、展示等の業務を支援し一般利用者の利用に供するため、関連する図書及び関係資料を収集した。 収集件数; 購入図書174冊、寄贈・交換図書3,796冊、館蔵品等の写真資料10,566枚		
	４）資料館の機能の拡充に向け、閲覧スペースや書庫、事務室等の区画・配置を始め、資料館全体の在り方を再検討し 、有効活用へ向けた利用計画を策定する。	4)図書配置計画の変更に伴い埋蔵文化財報告書用書架の増設を行い、別置していた図書を収容した。 ○資料館への入退館について、従来は西門を経由していたが、利用者サービスの向上の一環として９月１日より新たに正門からの来館者が資料館東口から資料館に入り、利用後再び有料ゾーンに戻る事が可能な経路を設けた。		
2422		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を3,410枚、デジタル撮影を170枚行った。 ・本年度から収蔵品写真の貸与形態をフィルムからデジタルデータに全面移行し、収蔵品フィルムの一括デジタル化作業を本格的に開始した。 ・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書5,200冊、逐次刊行物2,623冊を収集した。	A	順調
2423		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(6,103件)。	A	順調
	（奈良国立博物館） １）図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。 ２）仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。	(奈良国立博物館) 1)図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおいて情報公開を充実させた。 2)仏教美術資料研究センターの工事完了をうけて、新しい平面プランと利便性に配慮した、資料配置の全面的な見直しを行った。また閲覧スペース、研修室を拡大するなど、情報利用環境の向上に資するべく努力した。		
2424		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)目標とした500件を超える収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。	A	順調
	（九州国立博物館） １）対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。 ２）博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データベースにおける業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第２次業務システム構築を目指す。	(九州国立博物館) 1)対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施した。 2)博物館資料(収蔵品、図書)データベースによる業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第２次業務システム構築を行った。		
	③ 広報計画の策定と情報提供	**③ 広報計画の策定と情報提供**		
2430		**【本部事務局】**	A	順調
	（機構本部） １）機構の概要、年報を作成する。	(機構本部) 1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成23年度』を23年7月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成22年度』を24年1月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。		
	２）機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。	2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の全面リニューアルを行い、23年4月1日に新本部ウェブサイトを立ち上げた。掲載情報の追加・更新を随時行い、法人情報の公開・提供を継続するとともに、23年10月開設のアジア太平洋無形文化遺産研究センターのウェブサイト公開に合わせトップページのレイアウトを調整した。		
	（４館共通） １）年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。			
2431		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットを制作(35,000部　DM、館内配布)した。	S	順調
	（東京国立博物館） 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 １）広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 ２）本館２階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。 ３）平成２４年度の東洋館リニューアルオープン及び開館140周年に向けての広報展開の企画・運営を行う。	(東京国立博物館) 1)「東京国立博物館ニュース」(隔月刊)、「博物館でお花見を」「博物館に初もうで」ほか各種広報印刷物を制作・配布した。 2)「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。 3)東京国立博物館140周年「ブンカのちからにありがとう」キャンペーンを実施。併せて東洋館リニューアルオープンの告知を行った。		
2432		**【京都国立博物館】** (4館共通)	A	順調

2433	（奈良国立博物館） 1）広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 2）広報活動を多面的に行うため、広報の外注化を検討する。 3）広報業務を一元化するとともに、戦略的な広報体制を整備する。 4）英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。 5）特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。 6）地元の観光協会に入会し、観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。	1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。 **【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)平成23年5月～24年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を9月に30,000部作成し、配布した。 (奈良国立博物館) 1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、および印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。 2)広報戦略委員会において外注化を検討したが、経費等の問題があり、引き続き検討課題とする。 3)館内各部署から発送していた展覧会チラシを、情報サービス室から一元的に発送する体制に移行した。 4)特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。 5)特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。 6)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界の会合に出席し、広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。	A	順調
2434	（九州国立博物館） 1）特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。特に特別展の内容理解を促進するための番組を制作、ＴＶ放映する。 2）現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを整備する。 3）地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。 4）九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を展開する。 5）文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。	**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)季刊「アジアージュ」に加え、月毎に展覧会やイベントを紹介するちらしを制作・配布し、博物館の情報発信に努めた。 (九州国立博物館) 1)特別展では「よみがえる国宝」、「契丹　美しき三人のプリンセス」などでＴＶ番組を制作・放映した。 2)陳列案や陳列履歴を格納したデータベースシステムを実験的に構築した。利便性の向上にむけて引き続き改良を行う。 3)地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。 4)九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。 5)九州新幹線全通によって近くなった南九州への知名度の浸透を図るため、ＣＭ放映・刊行物配布ラックを設置した。	A	順調

	④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動 （４館共通） 1）マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2）ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3）メールマガジンを配信する。	**④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動**		
2441	（東京国立博物館） 1）「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行う。（年６回） 2）新作コンテンツの開発等により、ウェブサイトの充実を図る。	**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3)メールマガジンを配信した。(32回) (東京国立博物館) 1)「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行った。(年6回) 2)新作コンテンツの開発等により、ウェブサイトの充実を図った。	A	順調
2442	（京都国立博物館） 1）「博物館だより」、「News Letter」（英文）を年４回発行する。 2）地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。 3）京都市内４美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。 4）既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。 5）収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。 2)ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3)メールマガジンを発行した。(12回) (京都国立博物館) 1)「博物館だより」、「Newsletter」の発行・配布を行った(各４回) 2)東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。 3)京都市内４館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。 4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。 5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。	A	順調
2443-1		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)読売新聞紙上に、年間を通じて文化財の魅力を紹介する連載を行った(隔週)。特別展「誕生！中国文明」において、読売新聞紙上に文化財の解説を連載した(5回)。特別展「天竺へ」において、朝日新聞紙上に文化財の解説を連載した(5回)。「第63回正倉院展」において、読売新聞紙上に宝物紹介を連載した(5回)。	A	順調

		2)特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイトおよびモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。 3)メールマガジンを毎月末に発信した。(12回)		
2443-2	(奈良国立博物館) 1）特別展及び名品展の魅力を紹介した「博物館だより」を発行する。(年４回) 2）ウェブサイトの外国語版の充実を図る。 3）地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。 4）奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と奈良トライアングルミュージアムズを結成し、３館協力して集客に努める。 5）東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。 6）文化大使を継続して任命し、広報活動を行う。 7）マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。 8）フィルムコミッションと連携して映画撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。 9）季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載する。	(奈良国立博物館) 1)名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌「奈良国立博物館だより」を発行した(4回)。 2)「特別陳列」の対訳語が、ウェブサイト内で「Special Display」「Special Exhibit」などと揺れがあったのを、館内会議での議論を踏まえて「Feature Exhibition」に統一した。 3)地元の自治体・商工団体・観光団体等の会合に参加し、広報活動を展開するとともに情報収集を行った。 4)奈良トライアングルミュージアムズのＨＰ、パンフレット(日本語・英語)を作成した。 奈良トライアングルミュージアムズを周知してもらうためのイベント「奈良トライアングルミュージアムズサテライトエキシビション on 2days」を行った。 5)東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。 冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。 6)文化大使の任期満了にともない、次期候補者の選考を行った。 7)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。 8)フィルムコミッション奈良県サポートセンターのＨＰに登録した。 9)季刊誌「奈良国立博物館だより」の PDF 版は、1 年間の準備期間を経て、平成 24 年 3 月末日刊行号よりウェブサイトに掲載した。	A	順調
2444	(九州国立博物館) 1）ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 2）「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行する。(年４回)	**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。年間を通じ新聞広告に掲載するなど、テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえた広報を、マスコミ媒体を活用して行った。 2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3)メールマガジンを配信した。(毎月2回) (九州国立博物館) 1)九州国立博物館 CM「きゅうはく行かなきゃ！」(処理番号2434参照)をテレビ放映の他、YouTube でも配信した。 2)「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。(年４回)	A	順調

	⑤　ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。 (４館共通) 1）アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。 2）アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。	**⑤　ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。**		
2451		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。 2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。	S	順調
2452		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。 2)画像申請及び収蔵品データベースのページなどをリニューアルし、ウェブサイトの内容の充実に努めた。	A	順調
2453		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)アクセス件数のカウントは、これをユーザーセッション数に統一した。 2)これまで掲載していた「奈良国立博物館所蔵写真データベース」に替えて、新たに「画像データベース」を掲載した(9 月)。	A	順調
2454		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。 2)ウェブサイトの内容の充実を図った。	A	順調

定量評価項目	23 年度	22 年度	目標値	評価
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数（件）				
東京国立博物館	1,468	8,639	3,000 程度	C（A）
京都国立博物館	2,165	―	2,000 程度	A
奈良国立博物館	5,297	9,501	3,000 程度	S
九州国立博物館	2,146	1,391	1,000 程度	S
写真データベースの個別データ追加更新件数（件）				
奈良国立博物館	4,370	5,190	2,000 程度	S
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数（件）				
東京国立博物館	10,566	11,343	3,000 程度	S
京都国立博物館	3,580	3,379	3,000 程度	A

		奈良国立博物館	6,103	11,684	3,000 程度	S
		九州国立博物館	4,441	1,393	500 程度	S
		各博物館発行の広報印刷物発行回数（回）				
		東京国立博物館				
		東京国立博物館ニュースの発行	6	6	6	A
		京都国立博物館				
		博物館だよりの発行	4	4	4	A
		Newsletter の発行	4	4	4	A
		奈良国立博物館				
		博物館だよりの発行	4	4	4	A
		九州国立博物館				
		「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4	4	4	A

3　我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与

【中期目標】博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。

(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信

【中期目標】収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。

【中期計画】

博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与するため、以下の事業を実施する。

(1)収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

【主な計画上の評価指標】

○各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表すること。
○各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行うこと。

【22 年度評価における主な指摘事項】

○研究成果に関する一般向け情報発信の工夫や、各種出版物の多言語化に一層の努力が求められる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(1)　調査研究の成果の発信	**(1)　調査研究の成果の発信**		
3111	（東京国立博物館） 1）東京国立博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2）紀要・図版目録等を刊行する。 3）文化財修理報告書を刊行する。 4）法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 5）研究誌「ＭＵＳＥＵＭ」（年６回）を刊行する。	**【東京国立博物館】** 1)（東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号 2411 参照） 2)『東京国立博物館紀要』47号を刊行した。 3)『東京国立博物館文化財修理報告書』ＸⅡを刊行した。 4)『法隆寺献納宝物特別調査概報ＸＸⅡ　聖徳太子絵伝5』を刊行した。 5)研究誌『MUSEUM』631～636 号を刊行した。	A	順調
3112	（京都国立博物館） 1）研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。 2）社寺調査報告書等を刊行する。 3）文化財修理報告書を刊行する。	**【京都国立博物館】** 1)研究紀要『学叢』第 33 号を刊行した。 2)『社寺調査報告書　25』を刊行した。 3)『文化財修理報告書　第８号』を刊行した。 ○特別展等の図録を４冊刊行した。 ・浄土宗寺院の所蔵文化財の調査研究成果を盛り込み特別展覧会「法然」を開催し、図録を刊行した。 ・館蔵品・寄託品の調査成果を盛り込み特別展観「百獣の楽園」を開催し、図録を刊行した。 ・永青文庫を中心とする各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「細川家の至宝」を開催し、図録を刊行した。 ・館蔵の須磨コレクションを中心に、海外も含め各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「中国近代絵画と日本」を開催し、図録を刊行した。	A	順調
3113	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**	B	ほぼ

	1）研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。 2）文化財修理に関する印刷物を刊行する。 3）入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。	1)研究紀要『鹿園雑集』13 号（24 年 3 月）は 24 年度内の刊行に向けて現在準備中である。なお、収蔵品等に関する調査研究の成果を展覧会等図録・学術雑誌等の各種刊行物、研究会・講座等で公表した。 2)文化財修理に関する印刷物に関しては、研究紀要『鹿園雑集』13 号（24 年 3 月）内に掲載する形で、24 年度内の刊行に向けて現在準備中である。 3)地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。		順調
3114	（九州国立博物館） 1）研究紀要「東風西声」を刊行する。 2）文化財修理に関する印刷物を刊行する。 3）保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。	**【九州国立博物館】** 1)研究紀要『東風西声』第7号を刊行した。 2)我が国の文化財保存修理の歴史をテーマとした特別展図録『よみがえる国宝―守り伝える日本の美』を刊行した。 3)特別展「よみがえる国宝」の展示会場用に文化財保存修復活動を解説する教育普及パネルと映像を制作した。 ○平成 23 年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に ミュージアム IPM」の報告書を 3 冊刊行した。	A	順調

定量評価	23 年度	22 年度	目標値	評定
研究誌の刊行回数 東京国立博物館(MUSEUM)	6 回	6 回	6 回	A

(2) 海外研究者の招聘

【中期目標】国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術・人物交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(2) 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。	○国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施すること。 ○職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣すること。 **【22 年度評価における主な指摘事項】** ○今後も継続して、担当研究員の本務を考慮しつつ、東アジアを中心とした積極的な交流が望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 （国立文化財機構） 1）日中韓国立博物館長会議へ参加する。 （４館共通） 1）海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。	**(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施** **【国立文化財機構】** ・(日中韓国立博物館長会議については処理番号 3211 参照)		

	（２０人程度：東京６、京都５、奈良６、九州３） 2）当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 （２２人程度：東京６、京都６、奈良６、九州４） 3）国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。			
3211	（東京国立博物館） 1）国際交流協定を締結している博物館及び欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。	**【東京国立博物館】** (国立文化財機構) 1)第6回日中韓国立博物館長会議および第3回アジア国立博物館協会(ANMA)理事会・定期大会に出席した。(23年9月23日) (4館共通) 1)韓国、中国より計16名の研究者を招へいし、学術交流および展覧会事業の円滑化に寄与した。 2)韓国、中国、イギリス、フランスに延べ48名の研究員を派遣し、学術交流および展覧会の準備調査を行った。 3)特別展「故宮博物院200選」を記念して、国際シンポジウム「『清明上河図』の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの『清明上河図』」を開催し、国内外の研究者が活発な意見交換を行った。 (東京国立博物館) 1)韓国国立中央博物館および中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究および海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。	A	順調
3212	（京都国立博物館） 1）諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加し、研究交流及び研修を行う。 2）外国人研究員・研修員の受け入れを行い、海外の研究者との交流を促進する。	**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)海外からの研究者を21名招へいした。 2)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ 25 名派遣した。 3)国際シンポジウム「中国近代絵画の形成と日本」(24 年 2 月 11 日)を開催した。また、北京、上海から講師 2 名を招いて、土曜講座を開講した(24 年 1 月 21 日、24 年 2 月 25 日) (京都国立博物館) 1)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ 25 名派遣した。そのうち国際会議、研究集会等へ 4 名を派遣した。 2)外国人客員研究員を 1 名受け入れた。	A	順調
3213		**【奈良国立博物館】** (4 館共通) 1)「誕生！中国文明」展開催に際し中国河南省の文化財関係者を多数招へいしたことを初め、中国・韓国の研究者計20名を招へいし、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を行った。 2)職員延べ19名を中国・韓国・ベトナム等諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を行った。 3)23年度は実績なし。	B	ほぼ順調

	（奈良国立博物館） 1）学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。	（奈良国立博物館） 1)中国・上海博物館及び韓国国立慶州博物館との間で学術交流協定に基づく研究員等の派遣・招へいを行った。また館長他1名を中国・河南博物院に派遣して学術交流協定を更新し、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。		
3214		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)海外の博物館・美術館等の研究者を21人招へいした。 ・平成23年度文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業の実施に係る交流促進のため韓国の学芸研究室長を招へいした。 ・平成23年度文化庁在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業の実施に係る研究者を招へいした。 2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため56人派遣した。 職員を研究交流及び研修等のために内蒙古博物院(中国)、国立中央博物館(韓国)、ベトナム歴史博物館等に派遣した。 3)朝鮮半島の古代国家である百済と日本について考える国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。(24年3月10日開催)	A	順調
	（九州国立博物館） 1）国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流を実施する。 2）海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。	（九州国立博物館） 1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。 2)大英博物館および中国内蒙古フフホト市博物館の保存修理技術者が保存修復施設内で研修を受けた。 内蒙古文物考古研究所・内蒙古博物院より研究者を招へいし、文化財保存交流セミナーを開催した。		

定量評価	23年度	22年度	目標値	評定
海外研究者招聘(人)				
東京国立博物館	16	15	6	S
京都国立博物館	21	7	5	S
奈良国立博物館	20	9	6	S
九州国立博物館	21	9	3	S
研究員派遣(人)				
東京国立博物館	48	54	6	S
京都国立博物館	25	27	6	S
奈良国立博物館	19	14	6	S
九州国立博物館	56	77	4	S

(3)　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

【中期目標】国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。

【中期計画】
(3)　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

【主な計画上の評価指標】
○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施すること

【22年度評価における主な指摘事項】
○ナショナルセンターに相応しい役割が果たされており、今後も、ナショナルセンターとして求められる指導力等を発揮し、文化財修理等の総合的課題への取り組みを期待したい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(3)　保存修理者への研修プログラム （4館共通） 1）保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。	**(3)　保存修理者への研修プログラム**		
3311		**【東京国立博物館】** (4館共通) 1) ・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(平成23年9月1日～9月11日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から30名が参加した。 ・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ」(平成23年10月26日～11月2日の7日間)を別会場において開催し、受講生は7名であった。 ・大学院生のインターンシップを4名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(平成24年2月27月～3月9日)。	A	ほぼ順調
3312		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヶ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 ・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計4回・160人) 参加者「法然　その生涯と美術」展　52人 「百獣の楽園　美術にすむ動物たち」展　34人	A	順調

		「細川家の至宝」展　57人 「中国近代絵画と日本」展　17人 ・文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。(4人) ・保存修復技術を専攻する学生(大学院生)のための研修会を実施し、研修報告を行なった。(16 人)		
3313		**【奈良国立博物館】** (4館共通) 1)・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計6回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。 ・6月4日　：文化財保存修復学会第33回大会における学会員による視察(40名)。 ・6月29日：奎章閣韓国学研究院の保存科学研修(5名)。 ・7月25日：韓国慶州国立博物館との学術交流に伴う同館保存担当研究員による研修・視察(1名)。 ・8月9日　：高岡地域文化財等修理協会(富山県)の修理技術者研修会(7名)。 ・9月20日：アメリカ連邦議会図書館修復士による視察・意見交換会(2名)。 ・11月21日：フィレンツェ修復研究所修復士による視察・意見交換会(10名)。 ・24 年 3 月 26 日に文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した(32 名)。	A	順調
3314		**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)・保存修理技術者、文化財保存業務従事者、文化財保護行政担当者、博物館美術館等関係者を対象としたセミナーを開催した。 ・文化財保存修復施設内で修理事業を行っている国宝修理装潢師連盟の協力を得て、中国から研修生を1名受け入れた。 ・保存・修理事業者の協力を得て、紙文化財の保存講座・研修および、IPM 普及のための講座・研修を開催した。	A	順調

(4)　公私立の博物館等への貸与の推進

【中期目標】国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。

【中期計画】
(4)　収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

【主な計画上の評価指標】
○収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施すること

【22 年度評価における主な指摘事項】
○今後は、収蔵品の次代への継承という文化財の保護の観点も十分考慮しつつ、保存状況も勘案した無理のない収蔵品貸与の推進を望む。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
3411	**(4)　収蔵品の貸与** (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)	**(4)　収蔵品の貸与** **【東京国立博物館】** (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)	A	順調
	1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館) 1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む)。	1)国内の博物館等122機関に865件の作品を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)長野県立歴史館、館山市立博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。 (東京国立博物館) 1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2)海外の美術館・博物館等7機関に40件の作品を貸与した。		
3412	(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。	**【京都国立博物館】** (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)・74機関に対し429件の収蔵品貸与を行った。(うち海外1機関に対し3件) 館蔵品の貸与件数：246件 寄託品の貸与件数：183件 計　429件 ・ウェブページで「貸出作品リスト」の公開を行った。(詳細は処理番号2112-1参照)	A	順調
3413	(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。	**【奈良国立博物館】** (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)館蔵品と寄託品を、国内外合わせて37の機関に、計118件貸し出した。 ［貸出先内訳］ ・国立5件　公立22件　私立8件　海外2件 ［貸与作品内訳］ ・国宝　9件(館蔵品2件・寄託品7件)　重要文化財　41件(館蔵品10件・寄託品31件)　その他　68件(館蔵品43件・寄託品25件) ・館蔵品　55件(絵画17件・彫刻3件・書跡1件・工芸14件・考古20件) ・寄託品　63件(絵画31件・彫刻13件・書跡3件・工芸12件・考古4件) (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)浜松市博物館との間で相互貸借事業を実施した。 貸与品：銅鐸 借用品：伊場遺跡出土鰭付壺形土器・伊場遺跡出土装飾高杯・鳥居末遺跡出土脚付家形壺・鳥居松遺跡出土土器	A	順調
3414	(九州国立博物館) 1)収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。	**【九州国立博物館】** (九州国立博物館) 1)国内 25 機関・海外 1 機関に所蔵品および寄託品を貸与した。(東京国立博物館からの長期管理換品を含む)	A	順調

(5)　公私立博物館等に対する援助・助言

【中期目標】全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。

【中期計画】
(5)　公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【主な計画上の評価指標】
○公私立博物館等に対する援助・助言を行うこと。

【22 年度評価における主な指摘事項】
○指導・助言業務を専門に担当する部門（部署）がないだけに、研究員にとっては大きな負担となることは確かであるが、今後も積極的にその役割を果たすことが望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 （４館共通） １）公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。	**(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進**		
3511	（東京国立博物館） １）新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。	**【東京国立博物館】** (4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、126件の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(22件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(23件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(13件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(13件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(55 件) (東京国立博物館) 1)新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。	A	順調
3512		**【京都国立博物館】** (4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、91件の援助・助言を行った。 ・文化財の展示、修理にかかる指導助言(17件) ・文化財の調査に関する指導助言(45件) ・講演会、セミナー等における講演等での協力(11件) ・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力(13件) ・文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援(5 件)	A	順調
3513		**【奈良国立博物館】** (4 館共通) 1)国内外の博物館・美術館等の運営や展示活動への協力(99 件)を行い、今年度は特に震災後の文化財レスキューへの参加などを通して、わが国における中核的な博物館の一角を担う存在としての責務を果たすことができた。これらの協力を通して、当館収蔵品や仏教美術・考古遺物等の普及に資する活動や、今後の運営に有益な他館職員との信頼関係形成という面においても、十分な実績を挙げることができた。 (奈良国立博物館) 1)聖徳太子 1390 年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社、会場：日本橋高島屋及びなんば高島屋)に学術協力を行い、開催(東京会場：24 年 3 月 3 日～20 日、大阪会場：同 3 月 29 日～4 月 16 日)に際して出陳品の選定と調査・撮影・点検・輸送・展示、会場構成に対する助言、展覧会図録の編集・執筆等を行った。 ・文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援（6 件）	A	順調
3514	（奈良国立博物館） １）聖徳太子1390年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社主催、会場：日本橋高島屋ほか）に学術協力を行う。 （九州国立博物館） １）地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 ２）地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのためのＩＰＭ（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。	**【九州国立博物館】** (4館共通) 1)公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(97件) ・文化財の調査に係る助言(20 件) ・文化財の保存修理にかかる援助、助言(19 件) ・作品の展示及び運営等についての指導、助言(26 件) ・講演会、セミナー等における講演(24 件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援）(8 件) (九州国立博物館) 1)福岡県教育委員会と筑紫野市歴史博物館との共催により文化財関係者に向けて「古文書保存基礎講座」を実施した。 2)地域の自治体と実行委員会を組織し、文化庁補助金を得て、「市民と共に　ミュージアム IPM」事業を実施し、文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアム IPM 支援者研修」を実施した。	A	順調

4　文化財に関する調査及び研究の推進

【中期目標】我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。

(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

【中期目標】文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。

【中期計画】

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。

(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

①我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し調査・研究を実施する。
②我が国の歴史、文化の究明及び理解の促進等を図るため、歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究を実施する。
③歴史的建造物の保存・活用の促進等を図るため、建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究を実施する。
④無形文化遺産の伝承・公開の基盤の形成等を図るため、無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術に関する調査・研究を実施する。
⑤文化財の保存に加え、地域振興・国際的動向の観点も含めた活用の促進等を図るため、記念物に関する調査・研究を実施する。
⑥古代日本の都城の解明等を図るため、平城宮跡、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関する調査・研究を実施する。
⑦文化的景観の文化財としての概念の定着と保存・活用の促進等を図るため、文化的景観に関する調査・研究を実施する。
⑧遺物及び遺構の保存・活用の促進等を図るため、埋蔵文化財に関する調査・研究を実施する。

【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通

○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。
○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。
○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】(1)～(5)共通

○特に保存科学の先端的研究とその手法の開発は、我が国の文化財保護政策の基盤を形成するものとして、今後も積極的に推進して欲しい。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 ①　我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。	**(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進**		
4111	ア　他機関との連携を図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。	**①-ア　文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究** 語彙・固有名詞からの記事検索、ならびに、筆名から実名を検索できる明治期美術雑誌『みづゑ』創刊号から 10 号までの Web 上での試行版公開を目指した。	A	順調
4112	イ　日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。	**①-イ　文化財の資料学的研究** ・調査：横山大観《山路》、京都国立近代美術館本の調査、永青文庫本の調査撮影。菱田春草《菊慈童》（飯田市美術博物館蔵）の調査。 ・美術史研究のためのコンテンツ形成：古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注。古美術文献目録の作成。 ・研究交流促進のための研究会の開催：メラニー・トレーデ氏講演会の開催。 ・研究成果報告書の作成：『美術研究作品資料』の編集。	A	順調
4113	ウ　日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。	**①-ウ　近現代美術に関する交流史的研究** 東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として、未公刊資料である黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成、矢代幸雄筆ペレンソン宛書簡の翻刻を進めた。また、黒田清輝関連資料のウェブ上での公開促進のため、当所所蔵の白馬会展目録等のデジタル画像作成を行った。東アジア美術交流の調査研究では、日本で学び台湾で活躍した陳澄波の作品調査を行った。我が国の現代美術の動向に関する基礎資料として笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。	A	順調
4114	エ　美術や文化財についてのより深い理解を形成するため、彫刻や絵画を中心に、その表現・技法・材料の問題に対して基礎的な情報を収集・整理・蓄積するとともに、関連諸分野と連携した多角的な調査研究を行う。	**①-エ　美術の表現・技法・材料に関する多角的研究** 本研究は美術作品が基盤としている表現・材料・技法等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は絵画・彫刻を中心に作品調査を進めるとともに、作画技法を記載した江戸時代の未紹介板本を調査した。また、ホームページ上で公開している奈良時代史料にあらわれた彩色語彙についてのデータベースを増補した。	A	順調
4121	②　日本の歴史、文化の源流等の実態を探るため、興福寺、仁和寺、三仏寺、大宮家等、近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関する原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、公表に向けて整理検討を行う。	**②　近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究** 明日香村大字八釣が所蔵する明神講関係資料に関する調査成果を公表した。これは藤原鎌足像を礼拝する儀礼の関係資料であり、多武峯の膝下の地である明日香に、鎌足信仰が古くから現在にまで存続していることを明確にできた。また、春日座大工の家である木奥家の歴史資料を調査・公表した。この調査によって春日社造替が、その仕様を記した帳面に基づいて、旧例にのっとりながら、またその時々の判断も加えつつ、社殿を造営していることなどが明瞭となった。	A	順調

4131	③　我が国の建造物及び伝統的建造物群に関し、以下の調査・研究を実施する。 ア　我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、古代建築の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、整理が終了したものより順次公表を行う。また、東アジア地域における文化財建造物の保存・修復について、関係各国に対し協力を行う。 イ　我が国の伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査・研究を推進するとともに、伝統的建造物群の保存を行っている各地への協力を行う。	**③　我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究** 文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像のデジタルデータ化と目録の出版により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査をおこなった。	A	順調
4141	④－１　無形文化材の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集、記録作成を行い、その成果の一部を公開学術講座として発表する。具体的には能楽・雅楽で用いる楽器、能楽の文献資料、未調査の音声・映像資料の整理と古い媒体による音声・映像資料の再生及びデジタルアーカイブ化、工芸技術に関する技法書及び工芸技術記録等を対象に調査を行い、能楽及び講談等の記録作成を行う。	**④-1　無形文化財の保存・活用に関する調査研究** 現在伝承されている狂言歌謡や謡本、美保神社所蔵楽器、最初期の SP である出張録音盤の中でもほとんど調査がなされていないフランス・パテー盤、文化財保護委員会及び文化庁が行った工芸技術記録について調査研究をおこない、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をしつつ伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。	A	順調
4142	④－２　我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集し、保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行い、媒体転換等の必要な措置を講じるための準備を進める。	**④-2　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究** 民俗技術の伝承実態、民俗芸能の伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』などに報告した。また無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議し、その成果を報告書にまとめ、関係者、関係機関等に配布した。さらに地方自治体で作成された無形文化遺産に関する記録の所在情報について、確認作業を行い、データ化を完了した。	A	順調
4143	④－３ 韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成 22 年度までの交流成果に関する合同発表会を実施するなど、研究交流事業を実施する。	**④-3　無形文化遺産分野の国際研究交流事業** 韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成 22 年度までの交流成果に関する合同発表会を実施した。東南アジア諸国を中心として、無形文化遺産保護に関する情報収集を実施した。その他、関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し無形文化遺産分野における国際的情報収集を行った。	A	順調

4151	⑤　我が国の記念物に関し、以下の調査・研究を実施する。 ア　遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料収集・調査・整理等を行う。また、過年度の遺跡整備・活用研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行うとともに、文化財の包括的保存管理を検討する一環として、自然的な文化財の保護に関する研究集会を開催する。 イ　遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。 ウ　遺構露出展示に関するデータベースの構築・公表を行うとともに、今後の補足・追加・更新等に関する内容・手法等を検討する。	**⑤-ア、イ、ウ　我が国の記念物に関する調査・研究** 遺跡等における遺構露出展示について、個別事例の情報収集をおこない、データベース構築の作業を進めるとともに、露出展示遺構の保存管理に関するマニュアルの検討をおこなった。また、過年度の成果について、『地域における遺跡の総合的マネジメント』［平成 22 年度遺跡整備・活用研究集会（第 5 回）報告書］を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。	A	順調
4152	エ　庭園史に関する文献調査・内外での現地調査等を行い、研究会を開催するとともに、日本庭園に関する基礎的資料のデータベース化を進める。 　また、これまで取り組んで来た公開英文情報の増補改訂を行うとともに、所蔵資料の整理を進める。 オ　不動産文化財に関連する各種研究成果について、米国コロンビア大学との研究交流のもとに成果発表を行う。	**⑤-エ、オ　我が国の記念物に関する調査・研究** 鎌倉時代の庭園・建築・文献等の研究に取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、その成果を報告書として取りまとめた。日本庭園に関する国際的な情報発信検討については、その一環として『Japanese Garden Dictionary』の校訂を進めた。また、米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に関わる講演２件をおこなった。	A	順調
4161-1	⑥　国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。 ア　古代都城の実体解明のため、平城京跡においては、平城宮跡東院地区、平城京内諸寺院等、飛鳥・藤原京跡においては、藤原宮跡朝堂院地区、飛鳥地域等の発掘調査を実施するとともに、古代官衙、集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会等を実施し、報告書を刊行する。	**⑥-ア-1　平城宮跡東院地区（第４８１次）の発掘調査** 平城宮跡東院地区の西北部にあたる調査区で、掘立柱建物跡、掘立柱塀、溝等の遺構を多数検出した。おもな遺構としては、調査区西部を東西に流れる石組溝、調査区全体を整然と区画する掘立柱塀がある。これらは周辺の調査成果も勘案すれば６期以上に区分でき、区画の大規模な改変があること、奈良時代末期には調査区の北半と南半で建物群の性格が異なること、出土遺物から見て重要な建物群が存在すると想定されること、などが明らかとなった。	A	順調
4161-2		**⑥-ア-2　古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行** ・第 15 回古代官衙・研究集落研究集会を開催（12/9･10）した。テーマは「四面廂建物を考える」である。事例紹介のほか、建築学的視点からの検討、文献資料からの分析、事例を総合しての問題提起などが報告され、これらを踏まえての活発な討論がおこなわれた。 ・昨年度実施した研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第６冊　官衙・集落と鉄』として刊行した。	A	順調
4161-3		**⑥-ア-3　藤原宮跡朝堂院地区（第１６９次）の発掘調査** 朝堂院朝庭の発掘調査を実施し、朝庭の礫敷や排水のための暗渠や溝を検出し、朝庭における整備状況を確認した。また、下層調査では、藤原宮造営期の遺構とし	A	順調

		て運河、藤原宮造営に先行して設置された朱雀大路とそれにそって並ぶ柱穴列、および掘立柱建物６棟を検出した。これにより、藤原宮の造営過程をこれまで以上に詳細に復元する手がかりが得られた。		
4161-4		**⑥-ア-4　甘樫丘東麓遺跡（第１７１次）の発掘調査** 丘陵裾部において柱穴列を検出した。谷部では斜面を切り土・盛土により平坦面を造成しており、平担面上にて石敷・柱穴・溝および被熱により赤色硬化した部分を検出した。7 世紀前半段階における、谷部の土地利用形態を明らかにした。	A	順調
4162-1	イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施し、整理が終了したものより順次公表を行う。	**⑥-イ-1　平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等** 本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面作成・写真撮影などの基礎作業をおこない、平成 24 年刊行予定の『奈良文化財研究所紀要2012』の報告を準備した。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物についての調査を継続して実施した。また、『地下の正倉院展―コトバと木簡』を開催した。	A	順調
4162-2		**⑥-イ-2　飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等** 本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。	A	順調
4163	ウ　飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、鋳造関連遺物を中心とした資料の調査を実施する。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺等の飛鳥・藤原京跡内寺院の出土部材の研究を行う。	**⑥-ウ　東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究** ・飛鳥地域の壁画古墳の研究としては、昨年度の天文図の調査に基づき、春期特別展を開催した。また、新たに、キトラ、高松塚古墳出土大刀の類例および同時代資料の集成を行った。同時に、武人像を中心とした壁画資料の収集をおこない、7～8 世紀における武器の着装について研究を進めた。 ・東アジアにおける工芸美術史・考古学研究のうち、鋳造関連遺物の調査は、橿原市出土品の調査と、宮内庁および奈文研埋文センターと共同して、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の明日香村古宮遺跡出土の金銅製四鑓壺の調査を実施した。また、これまでの鋳造関係遺物の調査成果をもとに夏期企画展を実施した。 ・山田寺出土部材については、経年的に計測調査をおこなっており、本年もこれを継続した。その結果、大きな変化がないことを確認した。	A	順調
4164	エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（唐三彩窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、隋唐墓に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日本の古代都城及び韓国古代王京等に関する韓国国立文化財研究所との共同研究、中央アジア地域出土の旧石器資料に関するカザフスタン・カザフ国立大学への研究協力及び中国霊井遺跡出土品に関する河南省文物考古研究所への研究協力を協定に基づいて実施する。また、整理が終了したものより順次公表を行う。	**⑥-エ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力** ・漢魏洛陽城は宮城壁およびその周辺を対象として共同調査を実施。 ・共同研究の成果として『遼寧省朝陽地区隋唐墓の整理と研究』の執筆と編集。金嶺寺遺跡出土遺物調査の実施。 ・河南省および河北省で生産した唐三彩の調査研究を実施。唐三彩に関する学会で発表。 ・日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施。 ・カザフ国立大学所蔵資料の調査および大学研究者との研究交流を実施。 ・霊井遺跡出土品の調査研究を実施。中国・韓国より研究者４名を招聘。講演１回、研究報告を２回実施。	A	順調

4171	⑦　文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、諸外国との比較を行いつつ、我が国の文化的景観保護行政に関する基礎的な情報を収集し、整理が終了したものより順次公表を行う。また、文化的景観の学術及び保護に資する研究会を定期開催し、その成果を踏まえて文化的景観の保護に関する研究集会を開催する。	**⑦　文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究** 研究交流の道筋を立てた。国内に関しては、現地調査や視察、協議を通じて、文化的景観の保存計画、整備・活用事業の基本的な考え方を整理し、論文等を通じて成果を報告した。また、文化的景観学研究会を、準備会を含めて３回開催し、その成果を踏まえつつ、文化的景観の制度発足以来の保護と学術の動向の中間総括を目的として、文化的景観研究集会（第４回）を開催した。	A	順調
	⑧　我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査・研究を実施する。			
4181	ア　全国の遺跡に関する資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。	**⑧-ア　遺跡データベースの作成と公開** 官衙関係遺跡の建物データについては、特に古代における四面廂建物の遺構を重点的に収集し、居宅や集落まで範囲を広げて全国的に網羅した『四面廂建物資料集成』を作成した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から近畿地方まで公開した。さらに、井戸のデータベースの対象を古代の遺跡全般に拡充して、資料収集をおこなった。	A	順調
4182	イ　出土遺物の材質構造調査を行い、劣化状態に関する基礎データを集積する。また、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査を実施し、埋蔵中に生じる遺物の劣化現象に関して、環境が及ぼす影響の基礎データを集積する。	**⑧-イ　出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査** ・ガラス製品の標準試料のスペクトルを集積するとともに、ガラス製遺物のスペクトルを取得した。 ・金属製品の構造調査としてＸＣＴ撮影することにより、象嵌構造を明らかにした。 ・木造建造物の塗装の材質分析をおこない、漆塗装、油系塗装および膠彩色を明らかにした。 ・鉄製遺物の埋蔵環境の室内再現実験を実施し、腐食のメカニズムを解明する取り組みを始めた。 ・「被災文化財のレスキュー―保存科学の果たすべき役割と課題―」をテーマとした研究集会を開催した。	A	順調
4183	ウ　平城宮跡等をフィールドとして、遺構における水分移動及び溶質移動に関する計測と数値解析を行い、遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集する。	**⑧-ウ　遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集** 土質遺構の露出展示を実施予定の福島市宮畑遺跡を調査フィールドとして、遺構の保護施設（覆屋）内の室空気および遺構土壌における熱水分同時移動解析を行い、換気や空調を利用した遺構の安定化法について検討した。岡山市千足古墳では墳丘における熱水分同時移動解析を行い、石室湛水のメカニズムについて考察すると同時に、盗掘以前の墳丘における熱水分同時移動解析を実施して、盗掘以前の石室における湛水発生の有無や、湛水によって生じた石障の劣化速度について検討を行った。	A	順調

(2)　文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

【中期目標】文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。

【中期計画】

(2)　文化財の研究に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

①文化財の現状及び経年変化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成方法等について研究・開発を実施する。

②遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の調査手法に関する研究・開発を実施する。

③木造文化財の年代及び産地の特定等を図るため、年輪年代の調査手法に関する研究・開発を実施する。

④過去の生業活動の解明等を図るため、動植物遺存体等の調査手法に関する研究・開発を実施する。

【主な計画上の評価指標】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。	**(2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進**		
4211	①　高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するとともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。	**①　文化財デジタル画像形成に関する調査研究** 脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に供すべく、サントリー美術館所蔵の「泰西王候騎馬図屏風」、東京国立博物館所蔵の「虚空蔵菩薩像」、京都・佛光寺蔵「善信聖人親鸞伝絵」の調査・撮影を行うとともに、他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」の調査、奈良国立博物館との共同調査研究として「信貴山縁起絵巻」の調査を行い、台湾・故宮博物院との共同研究の成果として『李唐萬壑松風図光学検測報告』を刊行した。	A	順調
4221	②　埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用のため、文化財の計測・測量及び探査等に関する研究を行う。	**②　文化財の測量･探査等に関する研究** 文化財の計測・測量および探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学や地方公共団体と連携して実践を行った。計測・測量分野では、三次元レーザー測量と写真測量の技術的検討を進め、遺跡・遺物の図化法や、比較的安価な機器の導入と普及に関する研究を実施した。探査分野では、ＧＰＲおよびＥＭ探査、磁気探査、電気探査の走査方法改善と新たな機器の試作、ＧＰＳによる位置精度向上実験を行い、多様な条件下での遺構の確認に成功した。	A	順調
4231	③　出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資する。とりわけ、奈良文化財研究所で開発、実用化したマイクロフォーカスＸ線ＣＴは不可視年輪情報を可視化でき、これを用いた非破壊年輪年代測定は貴重な文化財調査に極めて有効であるため、機器の高出力・高解像度化によって調査対象の拡充と活用を図る。これらの研究成果を学会、論文、調査報告として発表する。	**③　年輪年代学研究** ２県下２遺跡の出土木製遺物、３県下３棟の木造建造物、７府県下 25 件の木造美術工芸品ついて年輪年代測定調査を実施した。このうち、神像彫刻を中心とした 16 件の美術工芸品に対して､プロジェクト研究者らが開発したマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置による年輪年代測定調査を実施している。これらの調査・研究成果の一部を論文等９件、学会発表等 11 件として公表した。	A	順調
4241	④　動植物遺存体による環境考古学的研究を継続的に実施する。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに、中国、韓国、台湾や北米北西海岸の日本の先史時代の動植物利用と対比できる遺跡の発掘に積極的に参加し、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。	**④　動植物遺存体による環境考古学的研究** 幅広い時代の動植物遺存体の分析を進めて､その研究成果を国内外の学会や研究会において発表した。また、学会、大学、博物館等で発表・講演を行い、環境考古学に関わる展示にも協力するなどの社会貢献を行った｡研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製・管理するとともに、広く活用されるように魚類の骨格標本目録を刊行した。	A	順調

(3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

【中期目標】最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。

【中期計画】

(3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する以下の調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

①大規模燻蒸に替わるカビ対策のシステム化等を図るため、文化財における生物被害の予防と対策に関する調査・研究を実施する。

②文化財の状態の安定化等を図るため、文化財の保存環境に関する調査・研究を実施する。

③文化財の材質分析及び劣化診断の向上等を図るため、計測手法に関する調査・研究を実施する。

④屋外文化財の修復材料・技法に関する研究及び文化財の自然災害による被害軽減のため必要な調査・研究を実施する。

⑤文化財に用いられた伝統的な技法及び合成樹脂などの修復材料に関する研究を行い、成果を文化財修復や人材育成に活用する。

⑥近代文化遺産の保存のための修復材料及び技法の開発評価を行い、成果を保存修復に活用するとともに、海外研究機関との共同研究を推進する。

【主な計画上の評価指標】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	**(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進**		

4311	① 文化財のカビ被害予防と対策のシステム化について研究を行うとともに文化財のカビの予防、対策が現場でシステマティックに行えるよう、方法論の整理・確立を目指す。被災文化財の救援に関して、生物被害状況の調査及び対策に関わる研究を行う。	**① 文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究** 被災文化財の対応については、2011年5月10日に東京文化財研究所において研究会を開催し、紙資料をはじめとするさまざまな材質の被災文化財の初期対応について専門家からの発表を行うとともに、配布メモにまとめ、その内容を速やかにインターネットにて公開した。また、カビなど微生物による被害の調査や対策、燻蒸処置上の注意について調査研究を行い、研究発表や論文にまとめた。	A	順調
4321	② 保存環境を考慮した文化財の展示・収蔵施設の省エネ化の研究及び環境データやシミュレーション技術を用いた文化財の保存環境改善のための研究を推進する。	**② 文化財の保存環境の研究** 美術館、博物館、蔵、歴史的建造物等の文化財展示収蔵施設の環境データを実測解析し、絶対温度から空間内の水分分布や隣接空間同士の水分移動を評価する解析手法を確立した。また、展示ケース内装材料（木材、クロス、コーキングなど）の材料を収集し、内装材料からの放散ガス量を比較検討するための試験法試案を作成した。これら計測技術を生かし、国指定文化財の公開のための館内環境調査（温湿度・照明・空気清浄）に協力した。	A	順調
	③ 文化財の材質分析及び劣化診断を目的とした計測手法に関する調査研究を進める。			
4331	ア 小型可搬型機器によるその場分析及び非破壊非接触技術による診断・解析手法の確立を目指す。	**③-ア 文化財の材質及び劣化調査法に関する研究** 小型可搬型機器の開発・改良に関する基礎的検討として、ハンディ蛍光X線分析法による無機化合物の分析感度向上、および微小領域の可視反射分光分析法の導入・分析条件検討を行った。また、実資料への応用研究として、博物館・美術館内での日本絵画や木彫像の彩色材料調査を実施し、その調査結果の公表を行った。	A	順調
4332	イ ミリ波イメージング装置の改良を行う。また、ミリ波イメージング及びテラヘルツ分光イメージングにより文化財を対象とした測定に必要となるデータを収集するための基礎実験を行う。さらに、文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集を行う。	**③-イ ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等** ・ミリ波イメージング装置の出力レベルの改良を行った。 ・人工的に多孔質とした漆喰試料のテラヘルツ分光イメージングの基礎データを収集した。 ・談山神社所蔵の塗装手板のテラヘルツ分光イメージング測定を行った。	A	順調
4341	④ 日本国内及び韓国の石造・木質文化財を対象に、劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を日韓共同で行う。また、塑造・乾漆造仏像群の災害対策に関する基礎的調査を行う。さらに、被災文化財の救援に関して、被災状況に合わせた救援・保存・修復方法の研究を行う。	**④-1 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究** 石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境計測を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)臼杵磨崖仏保存管理計画の策定および石造文化財の劣化と周辺環境影響に関する調査、(2)木材充填材料や木造建造物塗装に添加する防カビ剤の現地曝露試験、(3)大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、ワークショップ等を実施した。	A	順調
4342		**④-2 文化財の災害対策及び被災文化財の救援と保存修復手法に関する研究** 平成23年度は、(1)東大寺法華堂安置仏像群および塑造四天王立像（戒壇堂所在）の耐震対策を講ずるため、塑造執金剛神立像の三次元計測と地震時転倒予測を継続した。また、仏像と同じ大きさの模型を使った振動台実験を三重大学・防災科学技研究所の協力のもと行った。(2)東日本大震災で被災した有形動産文化財の救援活動において、事務局を担い被災地における活動支援を行った。	A	順調

4351	⑤ 伝統的修復技術・材料の調査・評価及び分析を行い、改良に資する技術開発を行い、修理現場での応用を行う。また海外の文化財保存担当者を対象に、紙及び紙文化財についての材料学・保存修復等の講義と、修復、装丁等の実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査及び修復を行い、修復後、展示活用する。同時に、専門家を現地に派遣して修復及び研修を行う。	**⑤-1 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究** 本年度は今期中期計画の初年度であるため、伝統的な建築文化財の塗装材料である漆塗装や乾性油系塗料などの過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の施工指導に役立てた。伝統的修復材料であるフノリの基礎調査を開始した。合成樹脂の関する調査では、過去使用した樹脂の劣化などの問題点解決に向けた基礎実験を行った。また、研究所が所蔵する過去の合成樹脂などを用いた修復事業の資料を分類整理し、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進めた。また、第5回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催し、計86名の参加を得た。	A	順調
4352		**⑤-2 国際研修「紙の保存と修復」** 2011年8月29日～9月16日の期間で10カ国から10名を迎え入れて研修を行った。紙本文化財の修復理念、材料学の講義を行った。実習では、掛軸修復、和綴じ冊子製作、屏風・掛け軸の取扱などを行った。またスタディーツアーでは美濃を訪れ、和紙の原料・製造から流通までを和紙産地の歴史とともに学習し、和紙の抄造を体験学習した。修復工房および伝統的材料の製作工房、店舗を訪れ現状を視察した。	A	順調
4353		**⑤-3 在外日本古美術品保存修復協力事業** ・掛軸5作品、屏風1作品を預かり修復を行った。内、掛軸3作品の修復を完了して所蔵館に返還した。他作品に関しては修復作業中である。また、次年度以降の修復候補作品選定のため、漆工芸品の調査をヨーロッパにおいて行った。 ・ベルリンにおいて紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップを、ケルンにおいては漆工芸品の保存修復に関するワークショップを開催した。	A	順調
4361	⑥ ドイツ技術博物館との共同研究に関する打ち合わせ及び欧米での修復事例調査を行う。日本郵船小樽支店等での劣化調査、かかみがはら航空宇宙科学博物館・大樹町航空宇宙実験施設等での測定データの回収と評価、日本航空協会所蔵の紙資料類の保存修復に関する研究を進める。建造物に使用されているオイルペイントのデータベースを構築する。	**⑥ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究** ・今年度は近代化遺産の中でも、建造物に使われている塗料（油性塗料）に関して、関係者を招き、研究会を開催し、それぞれの立場から油性塗料についての発表、討論を行い、それを通じて、現在国内のほとんどの塗料メーカーが生産を中止した油性塗料をどのように確保し、文化財の修復に使用していけるか等、検討を加えた。さらに屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査している。山口県萩市や静岡県伊豆の国市にある反射炉など、史跡指定された土地に建つ建造物の保存に関して研究を行った。 ・昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。	A	順調

(4)　国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

【中期目標】　国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施すること。

【中期計画】
(4)　高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【主な計画上の評価指標】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。	(4)		
4411	①　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	**①-1　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力** ・高松塚古墳では、昨年度、脆弱化した漆喰層の常温抽出布海苔による１度目の強化は全石終了した、そのうち天井１・２・３、青龍・西男子・白虎・玄武の計７石においては無地場に長波の紫外線照射を行い、バイオフィルムのクリーニングを行っている。 ・キトラ古墳では平成 22 年度までに石室内の漆喰すべての取り外しが完了し、取り外した漆喰片についての経過観察、及び保存のための強化処置を行っている。更に、これから漆喰片を壁単位で組み立てていくにあたり、補填等に適切な材料の検討や実験を行っている。	A	順調
4412		**①-2　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力** ・文化庁が進める高松塚古墳仮整備事業や保存・活用に関する事業が円滑かつ適切に施工されるよう協力した。 ・平成 22 度のキトラ古墳壁画の取り外し作業終了を受け、キトラ古墳石室内の考古学的調査を行った。また、壁画、および古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を行った。	A	順調
4421	②　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	**②　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力** 今年度は、檜隈寺中心伽藍跡の南東方向に所在する土壇状の高まり部分と、檜隈寺が所在する丘陵の南東裾部の２カ所について発掘調査をおこなった。調査区の面積は合計 402 ㎡である。土壇状の高まり部分では、大型柱穴２基を確認し、丘陵裾部では、石敷と素掘溝を確認した。いずれも古代の遺構であると考えられる。大型柱穴は重要文化財於美阿志神社石塔婆に関わり、素掘溝は檜隈寺寺域に関わるとみられ、檜隈寺の実体解明に繋がる重要な成果が得られた。	A	順調
4431	③　農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。	**③　農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力** 大和平野支線水路等その３（県営飛鳥２号幹線（右岸）その５）改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原右京七条西一坊（橿原市上飛騨町）にあたる。総長 100m の工事区域のうち、中央約 80m分は立会で対応し、残りの西区（約 10m×１m）、東区（約 10m×１m）を発掘調査した。その結果、古墳時代と古代の遺構（溝等、一部中世を含む）を検出、記録した。	A	順調

(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

【中期目標】有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。

【中期計画】
(5)　有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究
有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。
①適切な作品の収集・修理計画を立て、分かりやすい効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査を行う。
②日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。
③平安時代から江戸時代までの京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。
④仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。
⑤アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究を行う。
⑥有形文化財の保存と活用の向上を図るため、有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究を行う。
⑦有形文化財の次世代への継承に寄与するため、文化財を活用した効果的な展示や、歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動等に関する調査・研究を行う。

【主な計画上の評価指標】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(5) 有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進める。 **①　収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究** （東京国立博物館）	**(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究** **①　収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究** **【東京国立博物館】**		
4511-1	１）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	**１）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究** 館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・歴史学・考古学・博物館学等の各見地から学会・研	A	順調

		究会・学術雑誌上で各種発表を行った。		
4511-2	2）特別調査法隆寺献納宝物（第３３次）「聖徳太子絵伝」第７回	**2）特別調査法隆寺献納宝物（第３３次）「聖徳太子絵伝」第７回** 本年度は、国宝聖徳太子絵伝10面のうち第9面と第10面を調査対象とした。経年の劣化、補修によって判別の困難な図様の細部について明らかにできた。また、剥落や劣化などにより画の見えないところについて、現法隆寺絵殿に嵌められた吉村法眼周圭充貞の模写(天明７年＝1787)を比較検討することによって、その内容を新たに確認した。	A	順調
4511-3	3）特別調査「書跡」第９回	**3）特別調査「書跡」第９回** 平成元年以降当館で収集した書跡分野に属する古筆切48件について、作品の名称、古筆切としての通称、制作年代、形状、界線について確認した。断簡は原典推定をし、可能な限り『国歌大観』の収載番号との照合を行った。合わせて原装丁の推測、使用された料紙の紙質分析の検討も合わせて行った。今回の調査対象について記載文字を可能な限り解読し書誌情報を収集した。また対象全件について法量を計測し本紙部分の撮影を行った。	A	ほぼ順調
4511-4	4）特別調査「工芸」第３回	**4）特別調査「工芸」第３回** 東京国立博物館の金工・陶磁・漆工の列品について、最新の研究結果を反映させた知見を共有することができた。金工調査では、室町時代の金工品について、表現上の理解が進み、今後研究を行う必要性や将来性を確認した。また、陶磁調査では、昭和初期に評価されたいわゆる鑑賞陶器の傾向について認識を深めることができた。漆工調査では、館蔵の十種香箱の調査を終え、それぞれの特色と制作年代に関して検討を加え、十種香箱の多様性とその変遷について議論を深めた。	A	順調
4511-5	5）特別調査「彫刻」第１回	**5）特別調査「彫刻」第１回** 鎌倉市東慶寺の仏像調査。7躯を調査し、そのうち3躯について従来推測されていた制作年代を訂正すべきという結果に至った。 鎌倉市建長寺開山蘭渓道隆墓塔の調査。制作年代については従来とおり南北朝時代とみられた。なお、この墓塔の内部、下層には埋納物のないことが確認できた。 同寺開山堂床下石室の調査　石室蓋石は鎌倉石（砂岩）製で、開山堂創建期に遡る可能性が考えられる。非常にもろい状態なので、樹脂などで強化しさらに研究を進めることとする。	A	順調
4511-6	6）特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」―尾形光琳風神雷神屏風を中心に	**6）特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」―尾形光琳風神雷神屏風を中心に** 当館収蔵の尾形光琳筆「竹梅図屏風」と「風神雷神図屏風」に加え、同時代の土佐光祐筆「栄華物語図屏風」、狩野永敬筆「十二ヶ月花鳥図屏風」を対象として、エックス線、蛍光エックス線と実体顕微鏡による分析調査やそのデータの集約を行ない、検討会を開催した。	A	ほぼ順調

4511-7	7）特別調査「江戸幕府御用絵師板谷家関係資料」を行う。	**7）特別調査「江戸幕府御用絵師板谷家関係資料」を行う。（科学研究費補助金）** 伝来資料について、約1,500点（約3,800カット）の撮影を終了するとともに、並行して新たな知見の整理、絵画資料の調査、古文書の翻刻を行った。また、スタッフによる研究会を開き、今年度はとくに板谷家が手がけた「東照宮縁起絵巻」に関する資料を調査し、名古屋東照宮等にて作品の調査撮影を行なった（24年2月21日～23日）。また23年度までの成果を東京国立博物館所蔵の住吉家、板谷家の本画とともに展示した。	A	順調
4511-8	8）油彩画の材料・技法に関する共同調査	**8）油彩画の材料・技法に関する共同調査** 平成20年11月から開始し、可能な限り月1回のペースで調査を進めてきた。調査は朝10時から午後5時までであり、1回の調査では終了しない調査もあるが、これまでのところ調査が終了した作品は、22点である。次第にデータが蓄積されているが、その中から、平成21年度は3点についての調査内容を『東京国立博物館紀要』（第45号、2010年）にて、平成23年度には、『MUSEUM』631号および635号にて、2点ずつ計4点についての調査内容を発表している。	A	順調
4511-9	9）目録学の構築と古典学の再生に関する調査研究	**9）目録学の構築と古典学の再生に関する調査研究（科学研究費補助金）** ・館蔵の古典籍、特に国宝「九条家本延喜式」の本文及び紙背文書に関する調査研究を行った。 ・上記研究の成果として影印本『国宝九条家本延喜式』の刊行を開始、継続した（第1巻刊行）	A	順調
4511-10	10）文化財保護の歴史に関する基礎的研究	**10）文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金）** 東京国立博物館が収蔵する文化財保護に関連する作品や資料について、展示履歴などの情報を参考にして作成した調査対象リストをもとに、デジタルカメラによる記録撮影やスキャニングによるデータ収集を行った。また、特集陳列の開催による研究成果の公開や、国内在の文化財保護の歴史に関わる事例の検討を実施した。	A	順調
4511-11	11）占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究	**11）占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究（科学研究費補助金）** 本研究は、博物館関係文書データベース構築のためのCIE文書の調査を行った。文書検索は国立国会図書館が資料選別のため付けた分類記号（十進分類）及び分類記号ごとの文書目録（荒敬、内海愛子、林博史『国立国会図書館所蔵　GHQ/SCAP文書目録』全11巻）を手がかりに、本研究に該当する文書を探し出し、和訳を行い、データを蓄積した。	A	ほぼ順調
4511-12	12）宮廷工芸に関する物質文化的研究を行う。	**12）宮廷工芸に関する物質文化的研究を行う（科学研究費補助金）** 本年度は、東京国立博物館、宮内庁書陵部、国立公文書館、葵祭行列保存会、北京故宮博物院を中心に調査し、その調査内容に分析と考察を加えたものを発表した。発表内容は次の通り。「日本宮廷生活文化的伝承　―以賀茂祭為中心―」（非物質文化遺産保護「東亜経験」国際学術研討会（平成23年7月16日　中国四川省 四川音楽学院綿陽芸術学院）、「清朝の礼制文化」（東京国立博物館特別展『北京故宮博物院200選』図録　平成24年1月2日）。	A	達成

4511-13	13）日本近世実景図研究を行う。	**13）日本近世実景図研究を行う** ・本年度は、東京国立博物館所蔵実景図作品を中心に検討・調査を行うとともに、館外の作品に関しても調査を依頼した。特に長崎・大分での調査に同行できたことは、本研究にとって大きな進歩となった。 ・本プロジェクト責任者であった大橋美織が、9 月末をもって静嘉堂文庫美術館へ異動したため、田沢裕賀がプロジェクトを引き継ぎ、スタッフである大橋とともに研究を継続させることとなった。	A	ほぼ順調
4511-14		**14）古筆切紙背の史料学的研究（科学研究費助成金）** 古筆切の紙背に文字等が記述されている事例を抽出し、形態及び判読によって内容を推測して、どのような典籍や文書が古筆切の紙背に出現するかを考察した。特に同一手鑑に貼り込まれた複数の消息切（書状）が、実は紙背に同じ典籍が書写されていることが判明し、特定の典籍を解体して、裏面に書かれた書状類を「古筆」として手鑑の各所に貼り込む場合があることを確認できた。	A	順調
4511-15		**15）近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金）** 本年度は、昨年度調査に引き続き、洋画家・岡田三郎助が蒐集した古染織（時代裂）コレクションの内、現在埼玉・遠山記念館に所蔵されている資料、および、ボストン美術館に所蔵されるビゲローの古日本染織コレクション、ロサンジェルス・カウンティ美術館に所蔵される在米個人コレクターが蒐集した江戸時代の日本の袈裟コレクション、建築家フランク・ロイド・ライトが蒐集した古日本染織裂コレクションを調査し、明治後期から大正初期にかけて国内外で蒐集された古日本染織コレクションのデータを集積し、その傾向等の分析を行った。	A	順調
4511-16		**16）絵巻の＜伝来＞をめぐる総合的研究（科学研究費補助金）** 本年度は、絵巻の伝来、鑑賞歴といった情報を収集するため、まず、古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化を進めた。また、東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査に着手し、主に近世に制作された模本から作品所蔵情報を得る基盤を整えた。同時に、近代における作品の移動等に関する情報を収集するため、東京文化財研究所所蔵の売立目録の調査を開始し、そこに記載された情報のデータ化を進めた。	A	順調
4511-17		**17）狩野晴川院養信による寺社宝物摸本の基礎的研究（学術研究助成基金助成金）** 本年度は東博が所蔵する木挽町狩野家伝来の模本類について研究を進めるにあたり、基礎的な情報収集と整理を実施した。具体的には、資料分類 P（歴史資料）と資料分類 A（絵画）に属する膨大な資料類から、木挽町狩野家伝来の模本類を特定する作業をし、かつ寺社宝物の模本と判明した資料について撮影を実施した。また木挽町狩野家伝来模本類を含む東博所蔵の資料類データベース公開に向け、情報処理とシステムのアレンジを進めた。	A	順調
4511-18		**18）黒耀石の獲得と消費からみた完新世初期人類社会の形成過程（学術研究助成基金助成金）** 本研究では、更新世末から完新世初期における社会の複雑化の過程を考察するために、日本列島中央部地域を対象として、人類の資源開発行動に関するモデルを構築する。本研究の特色は当時の主要な資源の一つである黒耀石に着目し、原産地の開発の様相と消費地での分布状況とを総合的に理解するための枠組みを構築できる点にある。特に、東京国立博物館所蔵の長野県諏訪湖底曽根遺跡採集の資料等を対象に基礎研究を実施し、その成果を公開する。	A	順調
4511-19		**19）東京国立博物館所蔵国際交流史料データベース（科学研究費補助金・研究成果公開促進費）** 当館所蔵の史料の内、平安時代後期に活躍した天台僧円珍の入唐中に中国・唐の地方役所と円珍自身や大宰府などの官衙との間で取り交わした文書と、江戸時代の江戸幕府と朝鮮王朝間の外交である朝鮮通信使や琉球王府の接待に関する記録類や書契について調査・研究を実施し、研究成果を解題としてまとめ、史料の全撮影を実施して、解題・書誌データ・史料撮影画像を当館の Web ページ上の「東京国立博物館情報アーカイブ」（http://webarchives.tnm.jp/archives/）で公開した。	A	順調
4511-20		**20）諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発（科学研究費補助金）** 本年度は、日本の絵巻研究の第一人者である梅津次郎氏の自筆調書類、紙焼き写真類、研究資料類等の調査・研究を行なった。東京文化財研究所は梅津次郎氏の没後、1988 年と 2008 年の 2 度にわたり、氏のご遺族より研究資料の寄贈を受けたが、そのうち、本年度は 35 ㎜フィルムを中心とした画像資料の整理を進めた。前年度までにフィルムコンタクトシートの大半のスキャニングを終えたが、本年度は全フィルムのスキャニングを終え、さらに各フィルムを 1 コマずつ分割し、作品情報を付与した。モノクロの画像ながら現在は所在不明な作品も含まれ、今後、研究資料としての活用が大いに期待される。	A	順調
4511-21		**21）絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観に関する研究（科学研究費補助金）** 本研究では中世絵巻に描かれた多様な「場」を「型」として捉え横断的に検討する。特に分担者は、異国（唐・天竺・蝦夷など）や異域（地獄・極楽・竜宮など）、そして神仏化現の舞台となる架空の「場」を構成する建築や環境、そしてそこで用いられる「もの」が、どのように「本朝」のそれと描き分けられ、関連付けられているのか、描かれた「場」の抽出・収集と分析をおこなった。今年度は特に「聖徳太子絵伝」、「清水寺縁起絵」の検討を進めた。	A	順調
4511-22		**22）草創期の磁器における『和様化』の背景について　（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）** 初期伊万里作品を中心として、館内収蔵品および他機関（九州陶磁文化館、九州国立博物館、大和文華館）の収蔵品の熟覧調査を実施。九州では、大川内、高取の窯跡を訪問し伊万里焼周縁について見知を深め、研究分析を進めた。	A	ほぼ順調

4511-23		**23) 古筆切の発生とその鑑賞に関する基礎的研究（メトロポリタン東洋美術研究センター東洋美術研究振興基金）** 古筆切の本紙および附属の鑑定札に関する総合的なデータを収集した。あわせて、日記類などから古筆切に関連する記述を抜き出し、データ化を進めた。一部、東京国立博物館所蔵作品の鑑賞の歴史を示す資料を調査し、研究分析を進めた。	A	順調
	（京都国立博物館）	**【京都国立博物館】**		
4512-1	1）訓点資料としての典籍に関する調査研究	**1）訓点資料としての典籍に関する調査研究** 中国・元時代、至元 28 年（1291）の「紺紙金銀字華厳経」４帖の見返し及び本文を詳しく調査した結果、見返し絵の下書きとして角筆を用いた痕跡を確認し、本文にも角筆でつけた角点の存在を確認した。従来から、角点については、加点時期が特定できる資料が少ないだけに大変、重要な発見となった。	A	順調
4512-2	2）彫刻に関する調査研究	**2）彫刻に関する調査研究** ・特別展覧会「細川家の至宝」展を担当した。 ・特別展覧会「法然」「細川家の至宝」展への出陳作品について調査研究をおこない、それらの成果を会場解説および講座、セミナー等で公表した。	A	順調
4512-3	3）出土・伝世古陶磁に関する調査研究	**3）出土・伝世古陶磁に関する調査研究** 野崎家塩業歴史館（岡山）・彦根城博物館館（滋賀）・九州陶磁文化館（佐賀）などにて伝世古陶磁、京都市埋蔵文化財研究所・大阪歴史博物館・長崎市教育委員会などにて出土品の調査を行い、900 件あまりの調書を作成した。また、当館で所蔵している仁清御室窯跡出土陶片について、平成 22 年度からの継続事業（西田記念東洋陶磁史研究助成事業）として行っていた実測図作成作業を引き続き実施し、約 19 点をさらに図化すると共に、観察記録（調書）の作成を行った。	A	順調
4512-4	4）近代建築に関する調査研究	**4）近代建築に関する調査研究** 宮内省書陵部所蔵の現場日誌との対照により、伊豆の沢田石で造られた西正面の破風三面と中央の彫刻、柱、額面石、それに石盤葺の丸屋根など、本建築の特色あるデザインが、造営現場とその提案を受けた設計者片山東熊よって着工後９ヶ月の時点から進められた大規模な設計変更の結果であること、それにともなって作成されたエスキースから基本図、石割図、矩計図、模型などが本建築資料に含まれ、建築の構造に及ぶ形成プロセスの詳細を確認できることが判明した。	A	ほぼ順調
4512-5-1	5）平成２３年度から２４年度に開催する特別展覧会等について、調査研究	**5)-1 特別展覧会「中国近代絵画と日本」に関する調査** 前年度から継続する京都国立博物館須磨コレクションの調査をふまえて、平成 24 年 1 月から 2 月にかけて特別展覧会を開催した。同コレクションから展覧会に陳列する作品を選定し追加調査を行ったうえで、新たに国内外から作品を借用し、中国近代絵画の全体像が把握できる展示構成とした。あわせて展覧会図録を刊行し、国際シンポジウムや関連の土曜講座を実施。日本では認知度が低い中国近代絵画への理解を深める機会を提供した。	A	順調

4512-5-2		**5)-2 特別展覧会「王朝文化の華　陽明文庫名宝展」に関する調査研究** ・都合 4 回にわたる調査を実施し、陽明文庫からは、国宝 6 件、重要文化財 60 件を含む 131 件を選定し、関連する作品を 9 件加えて、全体で 140 件とすることにした。 ・全体の構成も、「近衛家の系譜Ⅰ～Ⅱ」「陽明文庫の至宝Ⅰ～Ⅲ」「宮廷貴族の生活Ⅰ～Ⅲ」というテーマを設定して展示を行うことで合意を得た。	A	順調
	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4513-1	1）館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。	**1）館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる** 仏教美術及び奈良に縁の深い文化財を柱とする当館の運営方針に沿って精選された作品を、新たに館蔵品・寄託品に加えた。受け入れに際しては詳細な調査を行った。名品展では、収蔵施設の修理等の事情で一時的に寄託された近在社寺所蔵の重要作例を、調査のうえ展示（特別公開）したほか、ここ数年の新収蔵品をまとまった形で公開するなどの実績を挙げた。館蔵品・寄託品等の継続的な調査の成果は、展示会場内の解説や各種刊行物等に反映させた。	A	順調
4513-2	2）歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	**2）歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する** 歴史学・考古学・美術史学等、各研究員がそれぞれの専門分野に沿って館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果は展示・刊行物・講座・新聞における作品解説等に反映された。調査研究活動の展開にあたっては、これを個人単位で行うだけでなく、研究分担者・連携研究者として各種科研に参加するなど、内外の研究プロジェクトに積極的に関わることを重視し、より広い視野に立って学界に貢献する実績を挙げた。	A	順調
	（九州国立博物館）	**【九州国立博物館】**		
4514-1	1）Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	**1）Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析** 泉屋博古館の所蔵品を中心に X 線 CT、精密三次元計測機、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この成果を基に、泉屋博古館にて特別展を開催すると共に、図録を作成した。また、東アジア文化遺産保存学会（中国・呼和浩特市）で研究発表を行った。	S	達成
4514-2	2）平成２０年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う。	**2）平成２０年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う** ・平成 23 年度西部工芸展、日本伝統工芸展など、今年度開催の工芸展で作品調査を行なった。陶芸部門では、西部工芸会陶芸部会の研究会に参加し、新たな創作活動の展開について調査し、これまでに対象となっていなかった若手作家も調査に加わった。 ・タイと共同で開催した平成 23 年度トピック展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」展では、展覧会の一つの柱として伝統工芸を位置づけ、日本とタイの伝統工芸を比較し、現代に展開する工芸を紹介した。同時に、伝統工芸の技術を示すワークショップを開催した。	A	順調

4514-3	3）旧石器から弥生時代の日本人の起源について研究し、展示に反映する。	**3）旧石器から弥生時代の日本人の起源について研究し、展示に反映する** 日本列島に最初に人類が到来した地域の一つと考えられる九州において、最古の時代―旧石器時代がどのような時代であったのか資料調査を行った。その結果を、九州歴史資料館との共催事業として文化交流展示トピック展示「九州最古の狩人とその時代」として開催した。また、教育普及事業として石器作りのワークショップも行った。	A	順調
4514-4	4）縄文時代の火焔土器について研究し、展示に反映する。	**4）縄文時代の火焔土器について研究し、展示に反映する** システィーナ礼拝堂の壁画など美術陶板を唯一制作している大塚オーミ陶業株式会社との共同研究で、火焔土器の立体陶板の試作品を製作することに成功した。また、当館内で新潟県津南町所蔵の火焔土器について、科学的な調査をおこない、データを収集し、これを基に製作技法等についての研究を進めた。視覚障がい者への活用への道を開きたい。	A	ほぼ順調
		5）館蔵品を中心とした漆器の調査研究 本年度は当該テーマについて、以下の成果を得た。 ・館蔵品のほか、関連する他収蔵品についても調査をおこない、当館でＣＴ撮影などの科学分析が可能な作品については貴重なデータを収集した。 ・上記の調査における成果を、トピック展での展示や展覧会図録を通じて、観覧者に公表した。	A	順調
	②アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 （東京国立博物館）	**②アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究** **【東京国立博物館】**		
4521-1	1）館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	**1）館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究** ・漢籍は、これまでに江戸幕府旧蔵資料である医学関係のものを中心に、調査を行ってきたが、一段落がついたため、全体の調査に着手し、本年度は 485 点の書誌学的調査を終了した。 ・洋書については、ほぼ全体にあたる 973 点の書誌学的調査をほぼ終了し、図書館システムへのデータの入力を行った。	A	順調
4521-2	2）東洋民族資料に関する調査研究	**2）東洋民族資料に関する調査研究** 東洋民族の収蔵品のうち、台湾先住民族の生活および宗教儀礼にかかわる資料の未調査分について調査した。調査で得られた情報をデータベースに反映させることで、研究・陳列・保管・修理などに資する基礎情報が従来よりも一層充実した形で整備された。また、過去に調査済みの分とあわせて台湾先住民族資料の基礎調査を完了させることができた。	A	ほぼ順調

4521-3	3）東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	**3）東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）** 装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、これまでに作成した対象作品のリストから調査を進めた。国内では、東京国立博物館・京都国立博物館・九州国立博物館・陽明文庫等、海外では中国の香港芸術館、上海博物館、北京故宮博物院等、スイス・リートベルク博物館等に収蔵されている作品について、デジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する調査を実施した。	A	順調
4521-4	4）中国書画の表装に関する基礎的研究	**4）中国書画の表装に関する基礎的研究（科学研究費補助金）** 『書史』『画史』北宋・米芾遠などの中国歴代の文献から、書画の表装に関する記載を収集・整理した。また、北京故宮博物院・遼寧省博物館・京都国立博物館・大阪市立美術館・台東区立書道博物館・東京国立博物館に所蔵される主として中国の書画を調査し、表装の諸データおよび画像データを収集した。	A	ほぼ順調
4521-5		**5）光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究（科学研究費補助金）** 高雄曼荼羅２幅のうち胎蔵界曼荼羅について、高精細デジタルカラーおよび赤外線の画像撮影を、京都国立博物館にて実施した。また空海が滞在し所謂「根本曼荼羅」を賜った西安において、西安碑林博物館、陝西歴史博物館、青龍寺など関連する作品、史跡の調査を実施した。根本曼荼羅は高雄曼荼羅のもととなった作品であると考えられており、唐時代の作例の調査は次年度以降の各研究にとって重要な要素となる。	A	ほぼ順調
4521-6		**6）「家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究」（学術研究助成基金助成金）** ・科学研究費補助金Ｃ・Ｂ（2000～2002・2005～2007 年度）による調査・研究成果を基に、連携研究者および各地の研究協力者と共に研究会を組織・開催し、各地の主要古墳出土埴輪群の分析結果を検討した。 ・また、補足調査を実施し、発掘調査によって家形埴輪を含む埴輪配列が確認された良好な家形埴輪資料を再度精査して、埴輪樹立時の群構成と配置・階層性を復元する基礎資料を整備した。	A	ほぼ順調
4521-7		**7）隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）** 中国各地において現地調査を行い、仁寿舎利塔起塔寺院に関する多くの地理的データ及び、文献的資料を多数収集することができた。	A	順調
4521-8		**8）南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁－** ・作品調査：東京国立博物館所蔵品、関西を中心とする美術館、および北京故宮博物院展開催にともなう調査を行った。 ・事業：今年度は「関西中国書画コレクション展」の開催年であり、10 月には記念のシンポジウムが開催された。また北京故宮展の開催にともなって１月には記念のシンポジウムが開催された。そのほかの研究会、ワークショップ等に参加することができた。 ・成果：論文と研究発表、講演の形で公開することができた。	A	順調

4521-9		**9）アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－（科学研究費補助金）** 本研究の調査において採取したベトナム螺鈿の器物資料れの資料的価値について、「ベトナム螺鈿の器物資料に関する知見」と題する論述を九州国立博物館紀要『東風西声』第7号（2012年3月刊行）に寄稿した。ベトナム螺鈿の素材・器種・意匠などについて、器物の背景にあるベトナムの歴史や文化についても理解を及ぼす必要の在ることを論じた。	A	ほぼ順調
4521-10		**10）高雄曼荼羅の調査研究（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）** 高雄曼荼羅のうち胎蔵愛曼荼羅について、高精細デジタル画像および赤外線画像の撮影を実施した。現状では変色のため確認困難な銀泥線を、画面の9分の1のみであるが画像処理によって本来の銀泥の色に復元をした。それによって描線の全てを見ることができるようになり、製作当初の表現を考える上で貴重な資料となった。	A	ほぼ順調
	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4523-1	1）中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	**1）中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する** 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で職員の派遣・受入を実施し、活発な研究交流・情報交換を行った。また「誕生！中国文明展」の開催を通し、平成17年以来交流を行ってきた中国河南省の文化財に関する調査研究の成果を、展示及びこれに伴う講座等に反映させた。このほか中国（遼寧省）、韓国（ソウル、扶余）において将来の特別展に向けた文化財調査を実施する傍ら先方諸機関と研究交流を行い、調査資料及び有益な情報を蓄積した。	A	順調
4523-2	2）日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	**2）日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる** 特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロ」開催に伴い、日本の古代～中世における中国・インド両国に対する認識、仏教を介した両国の文化・文物の受容、玄奘のインド求法行がそれらに与えた影響等の問題について調査研究を行い、その成果を当該展示・刊行物・講座等に反映させた。またこれ以外にも日本とアジア諸国の文化交流に関連する内外の研究プロジェクトに積極的に参加し、研究発表・論文等を通してその成果を公表した。	A	順調
	（九州国立博物館）	**【九州国立博物館】**		
4524-1	1）平中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する。	**1）平中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する** 4月の現地調査及び昨年度までの成果をふまえ、9月27日から11月27日の日程で特別展「草原の王朝 契丹－美しき3人のプリンセス」を開催した。これまで、契丹文化は遊牧文化という側面が強調されてきた。本特別展および図録や講演会においては、遊牧文化という側面にくわえ、契丹文化の重要な柱となる、唐との連続性、広域な対外交渉、仏教文化にも十分に焦点をあて、多様な契丹文化のすがたをひろく紹介することができた。	A	達成

4524-2	2）館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画の研究を行い、展示に反映する。	**2）館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画の研究を行い、展示に反映する** ・本年度は当該テーマについて次の二つの観点から研究し、下記の成果を得た。 ○館蔵の水墨画などを実見調査し、さらに必要に応じて光学調査もおこなった。その成果をもとに、作品を筆線と墨面の観点から分析して、表現の特質を考察した。 ○上記の作品に関連する文献を収集し、作品を歴史的に考察するための基本的な資料を整えた。 ・その成果を特集陳列や図録作成などを通じて観覧者に提供した。	A	順調
4524-3	3）中国湖南省の馬王堆漢墓に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する。	**3）中国湖南省の馬王堆漢墓に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する** 前年度までに、湖南省に事前調査に赴き、作品の状態確認を行ない、出品候補作品とその保全措置について協議を行なってきた。また、元京都大学人文科学研究所教授の曾布川寛氏らと日本国内における馬王堆漢墓の研究動向について研究会を行ない、準備を進めてきた。しかしながら、東日本大震災により巡回予定先の仙台市博物館の受入れが不能となるなど、運営面での見通しが立たなくなり、展覧会実施の計画自体が中止となった。	F	
4524-4	4）朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する。	**4）朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究を行い、将来の特別展に反映する** ・韓国の国立中央博物館及び国立公州博物館、国立扶余博物館での予備調査と、共同研究の打合せを行った。 ・韓国での現地調査や、日本に伝来した文化財の調査研究を実施した。 ・韓国国立中央博物館で、文化庁、滋賀県とともに海外日本古美術展を実施した。 ・国際シンポジウムを開催した。(24年3月10日)	A	順調
4524-5		**5）Ｘ線ＣＴによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析（科学研究費補助金）** 平成22年度からの継続研究であるが、今年度は特別展「黄檗－OBAKU　京都宇治・萬福寺の名宝と禅の新風」に出陳した主要彫像およびその関連彫像について、Ｘ線ＣＴ調査やＸ線撮影を重点的に実施した。これまで未解明であったこの時期の中国木彫仏の内部構造に関する基礎的データを採取・蓄積した。その成果は報道発表や地元での調査報告講演会などで積極的に公表した。	S	順調
4524-6		**6）南アジアと東方アジアの螺鈿構造―技術比較の視点から―（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）** 本研究では、16～17世紀の大航海時代にヨーロッパからインド、東南アジア、そして極東アジアにかけて盛んに交易活動を行ったポルトガルやスペイン、さらにそうした交易品を入手したオーストリア、ドイツ、イギリス各国の博物館・美術館、また王宮城址や寺院などで調査を実施し、当時のインド螺鈿器の具体的な様相を確認すると共に、ヨーロッパ人によって注文され日本から多数輸出された南蛮漆器などとの関係などについても様々な成果を得ることができた。	A	順調
4524-7		**7）平山郁夫　画業と文化財保護活動に関する調査研究** 来年度4月3日～5月27日開催予定の特別展「平山郁夫　シルクロードの軌跡」実現に向けて基礎的な情報ならびに写真資料などの収集、出品候補作品の調査と選定お	A	順調

		よび関係諸機関との調整などを実施した。また、本展の内容を広く一般の方々に知っていただけるように、記念講演会やワークショップなどについて企画した。		
	③　京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 （京都国立博物館）	**③　京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究** **【京都国立博物館】**		
4532-1	1）近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究を行う。	**1）近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究を行う** 京都府木津川市加茂町所在の海住山寺の文化財総合調査をおこなった結果、中世の仏画・近世の絵画・金工・陶磁器などに新たな発見があった。	A	ほぼ順調
4532-2	2）近世絵画に関する調査研究を行う。	**2）近世絵画に関する調査研究を行う** 当館発行の学叢第 33 号に、次の論文を執筆し、館蔵品の文化財的価値を明らかにした。 ○山下善也「狩野永良の秘伝画法書について」 ○水谷亜希「新出の「やすらい祭絵巻」・「牛祭絵巻」（京都国立博物館蔵）について－松村景文・河村文鳳・上田秋成らによる祭礼の記録－」	A	達成
	④　仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 （京都国立博物館）	**④　仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究** **【京都国立博物館】**		
4542-1	1）鎌倉仏教とその造形に関する調査研究を行う。	**1）鎌倉仏教とその造形に関する調査研究を行う** 仏教美術研究上野記念財団の助成によって、鎌倉仏教に関する資料の調査・撮影を実施し、研究発表と座談会「浄土宗の文化と美術」を開催した。	A	順調
	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4543-1	1）平成２４年度春季特別展「貞慶（仮称）」、２５年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。	**1）平成２４年度春季特別展「貞慶（仮称）」、２５年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う** 平成 24 年度春季特別展「解脱上人貞慶－鎌倉仏教の本流」、夏季特別展「頼朝と重源（仮称）」、25 年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」、夏季特別展「中国遼寧省遼代仏教文物展（仮称）」、26 年度特別展「百済（仮称）」等に向けて関連作品の調査を行った。うちある程度内容が確定している特別展（「貞慶」展等）については、特定作品の重点的な調査を行った。また他機関との共催展（「貞慶」「遼寧省」展等）については、相手先との学術面での協議や合同調査を実施した。	A	順調
4543-2	2）南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	**2）南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる** 奈良を中心とする諸社寺等への働きかけを行って薬師寺（奈良市）・與喜天満神社（桜井市）・当麻寺（葛城市）・法隆寺（斑鳩町）・談山神社（桜井市）・春日大社（奈良市）	A	順調

		等の所蔵文化財を調査した。その成果を 23 年度に実施した展示及びそれに伴う図録類や講座等に反映させるとともに、今後の展示活動等に活用できる資料の蓄積、将来の調査に向けた調整などを行った。		
4543-3	3）正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	**3）正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる** 正倉院宝物に関連する調査研究を積極的に進め、その成果は当館が編集・刊行した展覧会図録『第 63 回正倉院展』に掲載されたほか、「正倉院展」会場での解説パネル類、新聞連載記事、講座・シンポジウムにおける口頭発表等に反映された。また明治時代に奈良県物産陳列所として建立され、このほど改修工事を終えて 23 年 7 月に再オープンした、敷地内の仏教美術資料研究センターの文化史的意義に関する調査研究を行い、その成果を図録にとりまとめて公刊した。	A	順調
4543-4	4）東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	**4）東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する** 前年度に引き続き当館の寄託品である国宝 信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）を対象とする光学的調査を中心に実施した。すでに撮影を終えていた同絵巻全３巻の全紙にわたる高精細カラー画像、近赤外線画像、可視光励起による蛍光画像を詳細に検討して顔料調査の必要ポイントを確定し、蛍光エックス線分析器を用いて約半分のポイントまで光学的調査を実施し、顔料の同定に資する基礎的データを蓄積することができた。	A	順調
	⑤　アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 （九州国立博物館）	**⑤　アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究** **【九州国立博物館】**		
4554-1	1）日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究を行う。	**1）日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究を行う** 昨年来継続してきたタイ国芸術局との研究交流の成果として、平成 23 年 4 月 12 日～6 月 5 日まで「日本とタイ ふたつの国の巧と美」帰国展、また、韓国国立中央博物館との研究交流の成果として「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」を韓国国立中央博物館において 12 月 20 日～平成 24 年 2 月 19 日まで実施した。これらはいずれも文化庁との共催事業である。	A	順調
4554-2	2）アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－の調査研究を行う。	**2）アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－の調査研究を行う** 本研究の最終年度である今年度は、これまでに行ってきた木地螺鈿を主体とするベトナムの螺鈿について、おそらく世界で初めて総合的な研究論文を発表した。さらに中国での研究発表と調査、またベトナムでの研究発表と調査によりその成果を各地で広く公表し、より広範な関心の喚起と成果の還元を行うと共に、まだまだ不明点の多いその実態について、さらなる究明を目指した。また、国内各地に於いても調査を実施した。	A	順調

4554-3	3）琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する研究を行い、展示に反映する。	**3）琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する研究を行い、展示に反映する** ・トピック展示「琉球と袋中上人」展（会期　平成 23 年 11 月 1 日から 12 月 11 日）を沖縄県立博物館・美術館と共催で開催した。 ・展覧会図録「琉球と袋中上人」を刊行した。 ・関連催事として講演会「袋中上人とエイサー・檀王法林寺」を開催した。うるま市無形文化財　平敷屋エイサー公演を行った。共に 11 月 13 日。 ・沖縄県立博物館・美術館での会期は平成 24 年 1 月 25 日から 2 月 19 日まで。	A	順調
	⑥　有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 （東京国立博物館）	**⑥　有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究** **【東京国立博物館】**		
4561-1	1）博物館の環境保存に関する研究。	**1）博物館の環境保存に関する研究** 今年度は文化財の保存環境の内、特に輸送環境と収蔵環境について、下記概要に示す調査研究を行った。文化財梱包に用いられる緩衝材の振動特性について新たな知見が得られたこと、および、保存箱製作に使用される接着剤の硬化過程における揮発成分濃度の変化を科学的に解析できたことが主な成果である。	A	順調
4561-2	2）博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究。	**2）博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）** これまでに集積したカルテデータのデジタル化を進めながら、管理分析サブシステム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」の整備、温湿度センサー及び２次元バーコードを用いたセンサーサブシステムの整備を行った。管理・分析サブシステム、センサーサブシステム、列品検索データベースシステム（プロト DB）とのネットワークを用いて、包括的保存システムの実験的運用を開始した。	A	順調
	（京都国立博物館）	**【京都国立博物館】**		
4562-1	1）修復文化財に関する資料収集及び調査研究	**1）修復文化財に関する資料収集及び調査研究** 平成 23 年度に新規搬入された作品の「修理計画書（設計書）」にもとづき、データを入力し、平成 22 年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書（報告書）」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成 19 年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 8 号に掲載し、修理時に発見された銘文 6 件を「銘文集成」として報告した。	A	順調
4562-2	2）文化財の保存・修復に関する調査研究	**2）文化財の保存・修復に関する調査研究** 京都国立博物館蔵品「銀字華厳経」の修理にあたって、経文の文字が銀の細かい粒子で描かれていることを、電子顕微鏡などを駆使して明らかにすることができた。また館蔵品の印籠のマイクロフォーカスＸ線 CT によって、内部を精細に観察し、材質が薄い革か紙製であることを明らかにした。さらに、昨年に続き、長野県中野市柳沢遺跡出土の銅鐸、銅戈の分析と埋蔵環境の評価を行った。	A	順調

4563-1	（奈良国立博物館） 1）収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	**【奈良国立博物館】** **1）収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る** ・展示室、展示ケース内に設置した温湿度センサーのデータを分析して、展覧会ごとにその所見を報告書にまとめた。 ・正倉院展終了後に展示ケース内から回収した粉塵を電子顕微鏡で観察し、粉塵の種類および単位面積当たりの量を計測して、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。 ・展示室・収蔵庫などに設置された調査用トラップを、毎月 1 回当館研究員が設置回収し、文化財害虫の生息状況を報告書にまとめて害虫被害回避につなげた。	A	順調
4563-2	2）館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	**2）館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する** ・館蔵品、寄託品について保存状態を中心に入念な調査を実施し、その所見をもとに保存カルテを作成した。 ・館蔵品、寄託品の修理に際し、保存カルテや新規に実施した保存状態調査の所見をもとに修理調書を作成し、修理方針を決定した。 ・文化財保存修理所で修理中の木造文化財について実施した樹種同定調査や、同じく修復文化財から発見された銘文の調査を実施し、その成果を当館紀要に掲載する準備を進めた。	A	順調
4563-3	3）館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	**3）館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する** ・館蔵、寄託品の修理に際し、蛍光Ｘ線を用いた材料調査、近赤外線写真やポリライトを用いた補筆・補絹分布調査、透過Ｘ線を用いた構造調査等を実施した。 ・館蔵、寄託品のうち絹製文化財の修理において電子顕微鏡を用いた料絹の組成調査、紙製文化財の修理において同じく料紙の繊維調査を実施し、その所見を修理に用いる補絹・補紙の調製に反映した。 ・文化財保存修理所の修理寄託中の仏像について、蛍光Ｘ線を用いた材料調査を実施した。	A	順調
4564-1	（九州国立博物館） 1）文化財の材質・構造等に関する共同研究	**【九州国立博物館】** **1）文化財の材質・構造等に関する共同研究** 特別展『黄檗展』で展示した長崎市聖福寺釈迦如来座像の調査を実施した。腹部像内から金属製の五臓を含む複雑な納入品を発見した。この発見は国内外で５例目の発見であり、納入品の当初の状態を非接触で発見したのは世界でも初めての例である。	S	順調

4564-2	2）博物館における文化財保存修復に関する研究	**2）博物館における文化財保存修復に関する研究** 吉備国際大学２名、九州産業大学２名、別府大学２名、佐賀大学１名、広島市立大学１名の計５大学８名が参加した。少人数のため、実践的な研修が実施できた。研修会終了後、参加学生は修復技術者になりたいという思いを一層強くした者、将来何らかの形で文化財の保存に関わりたいと思う者など、修復技術者の育成だけでなく、文化財保護への理解者の増加にも寄与した。	A	順調
4564-3	3）博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	**3）博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究** ・研修会等参加者は、全国の美術館・博物館の学芸員およびボランティアからなるが、毎回大変熱心な参加状況であり、学芸員・市民の関心の高さがうかがえ、積極的な意見を集約することが可能となり、ミュージアム IPM 支援者研修プログラム案策定に充分活かすことができた。今後は、本プログラムにより支援者育成を段階的に進める目途が立てられた。公開シンポジウムでは専門家の講演と事例報告等により、地域や市民の理解を得られた。 ・平成 23 年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に ミュージアム IPM」を軸に市民協同型 IPM システム構築に関する研究を展開しその成果は、事業費より 3 冊の報告書にまとめた。平成 23 年度 IPM 事業の内容を総括した研究成果を 1 冊（総合版）418 頁、内容を簡潔に要約した研究成果普及版 2 冊（研修編 58 頁、シンポジウム編 48 頁）を刊行した。	A	ほぼ順調
4564-4	4）東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（ＵＮＥＳＣＯとの共同）	**4）東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（ＵＮＥＳＣＯとの共同）** ・中国四川省において、各国の調査状況を報告する会議を開催した。四川省内の二箇所の紙産地　夾江県と梁平県を調査して、映像記録や調査カードを作成した。 ・韓国慶尚北道聞慶では、無形文化財の紙工房を調査し、映像記録、調査カードを作成した。	A	順調
4564-5	5）日本の文化財修理と保存、復元に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する。	**5）日本の文化財修理と保存、復元に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する** 長い歴史を経て伝わった美や宝は、その保存修理の在り方も時代の美意識や技術に基づく判断や価値観を物語る。本研究により、文化財を身近に感じ、守り継がれる理由、引き継ぐ意志や営みにも想いをはせる場となることを願い、展覧会を企画した。九州初公開の国宝や皇室の名宝と模写・模造の最高傑作を通して、土蔵や校倉に収め定期的曝涼を行い、数十年、数百年おきに修理をくり返すことにより、日本の美や宝が守り伝えられてきたことを紹介することができた。	A	順調
	⑦　文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 （東京国立博物館）	**⑦　文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究** **【東京国立博物館】**		
4571-1	1）博物館環境デザインに関する調査研究	**1）博物館環境デザインに関する調査研究** ・通常の案内サイン整備に加え、デジタルサイネージ利用の実験的導入により、その効果を検証した。 ・140 周年記念にあたり設定された『伝統と品格』を、便殿の展示/施設利用として具現化した。 ・東博の新キャラクターを空間化・サイン化するにあたり、キャラクターのあり方について研究した。	A	順調
4571-2	2）博物館教育に関する調査研究	**2）博物館教育に関する調査研究** 本館 20 室「みどりのライオン」での博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は年間で 10 万人を超える利用者があり、当館における博物館教育プログラムとして定着している。鈴木と藤田はこのプログラムを博物館教育の見地から調査研究し、口頭および論文で発表を行った。	A	順調
4571-3	3）博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	**3）博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究** 東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。また Web サイトにおいて公開する収蔵品の展示予定情報のために、平常展管理機能からデータを抽出する機能を実装した。また次期システムに向けた設計のための準備を開始した。	A	順調
4571-4	4）凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する。	**4）凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する。** 重要文化財 2 件を含む館蔵の土偶 3 件について、凸版印刷との共同で高精細三次元データを取得し、それに基づいたシアター用コンテンツを制作した。同コンテンツは平成 24 年 1 月からミュージアムシアターで公開している。	A	順調
	（京都国立博物館）	**【京都国立博物館】**		
4572-1	1）文化財情報に関する調査研究	**1）文化財情報に関する調査研究** ・文化財情報システムの昨年度更新後の運用上の問題点を検討し、運用ソフトの改良を随時行った。 ・文化財の写真原板のデジタル化開始に伴う、特別観覧業務上の問題点と文化財情報システム運用の間の整合性について検討し、システムを改良した。 ・ウェブサイトのコンテンツを随時見直し、情報を更新した。	A	順調
	（奈良国立博物館）	**【奈良国立博物館】**		
4573-1	1）歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	**1）歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる** 奈良の歴史と伝統文化に関する情報を、まずは今年度開催した展覧会の中から抽出することとした。その情報を職員やボランティアが共有する機会を設け、児童・生徒が歴史への関心を高めるのに使える情報は何かを検討した。ボランティアへの指導と話合いを通して、世界遺産学習の実践の場での「語りかけ」の精度を高めることに努めた。	A	順調
4573-2	2）文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	**2）文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる** 昨年度から開始したデジタル撮影の本格的な稼働をうけ、その安定的な継続を目指	A	順調

		して、撮影機材、環境、ストレージ、体制等の整備に努めた。それにより新規の撮影と外部へのデジタル画像提供もスムーズに実施することができた。また、館内の情報システム・公開用データベースの更新を行い、情報資源の内部での活用と外部への公開の拡充に積極的に取り組んだ。仏教美術資料研究センターの改修工事完了をうけて、情報公開施設の整備と一般への普及にも努めた。		
4574-1	（九州国立博物館） 1）九博に関連する絵本の次シリーズの企画について検討する。	**【九州国立博物館】** **1）九博に関連する絵本の次シリーズの企画について検討する** 次シリーズを企画するうえで、絵本活用という観点から検討を加えるべく、既刊の『きゅーはくの絵本』シリーズを用いた読み聞かせやバックヤードツアーを実施した。他館における絵本展示の実例を調査した。絵本出版社と意見交換を行い、今後のシリーズ展開を検討する上での情報収集を行った。あじっぱを主題とするマナーブック『あじっぱのたいせつななかまたち』を、展示課と九州産業大学芸術学部デザイン科が共同で制作している。年間を通じて関係各所に絵本を配布し、本活動の周知につとめた。	A	順調
4574-2	2）ＮＨＫと協同で高精細画像を活用したシアター４０００での映像公開に向けた研究を引き続き実施する。	**2）ＮＨＫと協同で高精細画像を活用したシアター４０００での映像公開に向けた研究を引き続き実施する** 新コンテンツ作成のための予備調査を実施し、その映像公開にむけた具体的な打合せを実施した。また、将来のスーパーハイビジョンの広い分野での活用を視野に入れた研究を、ＮＨＫ及びＮＨＫエンタープライズと共同で推進するための協議を行った。	A	順調
4574-3	3）特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究を行う。	**3）特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究を行う** 講演会の実施、展覧会の出品作品にちなんだグッズの作成、展覧会の出品作品にちなんだワークショップなどを行った。展示室内に解説パネルを掲出、小冊子を作成し観覧者に配布するなどした。展覧会のアンケート結果より、多くの観覧者から教育普及プログラムを通して展覧会を楽しめたとの高い満足度を得ることができ、多くの観覧者に展示内容を理解いただける成果を挙げた。	A	順調
4574-4	4）学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発を引き続き実施する。	**4）学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発を引き続き実施する** 小学校・中学校・高等学校などさまざまな校種において「きゅうぱっく」が活用され、教科や単元においても、歴史学習にとどまらず、「道徳」や「総合的な学習の時間」の郷土学習、異文化理解学習での活用がみられた。活用形態も、博物館訪問の事前学習として活用する例、長期休業中の学習活動への導入として組み込む例など多様な形態での活用が確認できた。また、新シリーズを構成する資料について候補の選定、収集を進めた。	A	順調

5　文化財保護に関する国際協力の推進

【中期目標】文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。

(1)　保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

【中期目標】研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保護協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(1)　文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。	○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。 ○国際協力のネットワークを構築すること。 ○アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めること。 **【22 年度評価における主な指摘事項】**

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
5111	文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。 ① ユネスコ、ICOMOS、ICOM 等が行う主要な国際会合へ出席し、情報の収集を行うとともに、アジア地域の文化財保護に関わる機関等とも連携して文化遺産国際ワークショップを行い、当該地域における文化財情報の収集に努めるとともに、今後の協力関係を築く基礎とする。	(1) **①　文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信** パリにおいて開催された世界遺産委員会に出席する等、各国の文化遺産に関する情報収集を行ったほか、文化財保護関連の法令の収集・分析および翻訳作業を実施し、データベースを充実するとともに、対訳法令集シリーズとして刊行した。また、バーミヤーン遺跡保存に関するシンポジウムを開催し、国際協力の推進と協力成果の一般への普及広報を図った。	A	順調

(2)　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

【中期目標】------

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
(2)　国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。	

	【22 年度評価における主な指摘事項】 ○東南アジア、中国、西アジアにおける文化財修復事業に積極的に参画し、成果を挙げている。 ○かつて戦域であった地域の文化財修復には、我が国の協力が不可欠であることから、今後もアジアに向けての人材育成等の一層の推進が期待される。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(2) 国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。 ① 文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。	(2)		
5211	ア 敦煌莫高窟壁画及び陝西省墳墓壁画を始めとする中国の文化遺産の保存修復のための共同研究を実施する。また、モンゴルの文化財保存修復事業に協力する。	**①-ア 東アジア諸国文化遺産保存修復協力** 敦煌莫高窟及び陝西省墳墓壁画を対象とする共同研究を実施するため、中国側各機関との調整を行うと共に、実質的な調査研究活動に着手した。	A	順調
5212-1	イ 東南アジア地域における文化財保存修復協力事業及び調査研究等を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ寺院遺跡及びタ・ネイ遺跡等）、ベトナム・タンロン皇城遺跡、タイ・スコータイ遺跡等において建築史的、考古学的、保存科学的調査を実施する。	**①-イ-1 東南アジア諸国文化遺産保存修復協力** カンボジア、タイを対象とする共同研究およびインドネシアでの協力事業を実施するため、各国の関係各機関との調整を行うとともに、カンボジアにおいて実質的な調査研究活動に着手した。	A	順調
5212-2		**①-イ-2 カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査** ・西トップ遺跡に関し、今年度より新たな第三期中期計画を開始した。今次の計画の中心となるのが修復計画である。従来から検討してきた修復計画をさらに実際的なものにするとともに、国際調整委員会で計画についての発表をおこなった。 ・タンロン皇城遺跡に関しては、昨年度に引き続き発掘現場における発掘技術研修を実施した。木製品の保存科学的処理については、担当者 2 人を招聘して、奈良文化財研究所の機材を用いた研修をおこなった。	A	順調
5213	ウ アフガニスタン（主としてバーミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施する。また、併せて周辺地域（西アジア諸国等）の文化財調査研究及び保存修復協力事業を実施する。	**①-ウ 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業** ・アフガニスタン：バーミヤーン遺跡保存事業に関する専門家会議の開催・出席、報告書の作成・出版 ・西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力：トルコ、タジキスタン、インド、中央アジア諸国、エジプト	A	順調
5214	エ 上記各事業と連携しつつ、文化財の保存修復手法に関するワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。	**①-エ 文化財保存修復手法の国際的研究** 「海外における日本の装こう修理技術利用に関する研究会」をテーマとして国際研究会を開催した。講演会および検討会の参加者は 31 名であった。またそれに付随して、文化財の修復に使用される日本の伝統的な製法による刷毛の製作工房の視察、調査を行った。	A	順調

(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

【中期目標】――――

【中期計画】 (3) 文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。	【主な計画上の評価指標】 ○諸外国への文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進めること。 【22 年度評価における主な指摘事項】 ○文化財に関する国際貢献については、あまり一般に知られていない。その成果公開を国内で推進すること、すなわち文化財に関する日本の技術等が世界に発信しうる内容のものである事実を、国内で周知することも、今後、海外だけでなく、国内における後継者育成を推進する上で必要である。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(3) 文化財保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。	(3)		
5311	① 諸外国の考古学、建造物、歴史資料及び保存科学等の文化財保護に係る専門家の人材育成を国内または現地で実施する。 ② 国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。	**○ 諸外国の文化財保護に係る人材育成** 2012 年 2 月 27 日～3 月 20 日の日程で敦煌研究院保護研究所の研究員 3 名を日本に招へいし、研修を行った。	A	ほぼ順調
5331	③ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行う。	**③ ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力** 集団研修ではアジア太平洋諸国 16 ヶ国、16 名の研修生に対して、木造建造物の保存修復についての研修をおこなった。また個人研修ではインドネシア人専門家 3 名に対して、木造建造物の保存修復についての研修をおこなった。こうした研修を行なうことにより、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。	A	順調

(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

【中期目標】平成２３年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設し、同地域における無形文化遺産保護に寄与すること。

【中期計画】
(2) ２３年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

【主な計画上の評価指標】
○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うこと。

【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
5411	(4)アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	(4) **○ アジア太平洋無形文化遺産研究センターの設置、およびアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究** 10 月にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、文化庁受託事業「平成 23 年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」および文部科学省受託事業「日本／ユネスコ　パートナーシップ事業」を実施した。	A	順調

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

【中期目標】国際化の推進を図るためインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

(1) 情報基盤の整備充実

【中期目標】 ------

【中期計画】
(1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。
また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。

【主な計画上の評価指標】
○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。
○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
6111	以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 （1）文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。 ① ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。	(1) **①-1 ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実** 基幹ネットワークシステムの更新及びウィルス対策ソフトを更新することによりセキュリティの強化を図った。また、サーバ及び情報端末をネットワークに接続することにより情報基盤システムの整備・充実を行った。	A	順調
6112		**①-2 文化財情報基盤の整備** 保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施するとともに、リモートアクセスが可能な VPN を導入し、利便性を向上させた。また、広報関係ではホームページのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。	A	順調

6121	② 文化財に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。	**②-1 専門的アーカイブの充実（資料閲覧室運営）** ・公開用 SQL データの更新・運用 ・画像資料のデジタル化 ・近現代美術関係文献等のデータベース化 ・朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化	A	順調
6122		**②-2 無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化** 昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵ＳＰレコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認および媒体変換を行った。	A	順調
6123		**②-3 文化財に関するデータベースの充実** 文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表している。開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、記載方法の標準化をすすめながらデータの充実を図った。	A	順調
6131	③ 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。	**③ 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実** 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。	A	順調

(2) 研究所の研究成果の発信

【中期目標】 ------

【中期計画】

(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【主な計画上の評価指標】

○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。
○ウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図ること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数の統一を図り、アクセス件数の向上を図る。	(2)		
6211	① 定期刊行物の刊行	**①-1 広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）**	A	順調
	○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』	年報 2010 年度版、概要 2011 年度版を編集、発行した。また、東文研ニュースを年 4 回、東文研ニュースダイジェスト（英語）を年 2 回発行した。		
6212	○『美術研究』（年３冊） ○『日本美術年鑑』（年１冊） ○『無形文化遺産研究報告』（年１冊）	**①-2 「平成２２年度版 日本美術年鑑」・「美術研究」の刊行** 今年度は『平成 22 年版 日本美術年鑑』及び、『美術研究』404～406 号を刊行することができた。	A	順調
6213	○『無形民俗文化財研究協議会報告書』（年１冊） ○『保存科学』（年１冊） ○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』	**①-3 「無形文化遺産研究報告」・「無形民俗文化財研究協議会報告書」の刊行** ・主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 6 号の刊行。 ・平成 23 年 12 月 16 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 6 回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。	A	順調
6214	○『埋蔵文化財ニュース』	**①-4 「保存科学」５１号の刊行** 今年度の投稿件数は 28 件であった。全投稿原稿に対して、査読委員による査読を実施し、報文 7 件、報告 20 件、計 27 件の掲載を決定した。版型 B5 版、総ページ数 300 頁、発行部数 650 部、関係諸機関に約 580 部配布。	A	順調
6215		**①-5 第３４回文化財の保存と修復に関する国際研究集会報告書の刊行** 上記研究集会に係る報告書（日本語および英語の各国語版）を編集・刊行した。	A	順調
6216		**①-6 定期刊行物の刊行** 紀要等２点、ニュース２種８点、合計１０点を刊行した。	A	順調
6221	② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等 ○国際シンポジウムの開催（年１回） ○公開講座（オープンレクチャー）（年１回） ○公開講演会	**②-1 平成２３年度オープンレクチャー** 第 45 回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した（参加者数：236 人、アンケートによる満足度：89%（回収率：80%）。	A	順調
6222	○現地説明会	**②-2 第３５回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会** 無形文化遺産分野の工芸技術、中でも染織技術分野をテーマとする初めての開催であり、参加者数、満足度ともに高い評価を得た。また今後の当該分野における研究ネットワーク構築の第１ステップなり得る成果が得られた。	A	順調
6223		**②-3 公開講演会、現地説明会等の開催** ・公開講演会は、定例公開講演会を 2 回､特別講演会(東京会場)を 1 回、飛鳥資料館特別展記念講演会を 3 回、計 6 回開催した。 ・また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区､飛鳥藤原地区あわせて計６回実施した。 ・このことにより調査研究成果を適時適切に国民に公開公表することが出来、事業としては順調に実施できた。	A	順調
6231	③ ウェブサイトの充実 ア アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。	**③-ア ホームページの運用** ホームページのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジン	A	順調

		による情報発信を行った。		
6232	イ　アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。	**③-イ　ウェブサイトの内容の充実** ・奈良文化財研究所ホームページの完全リニューアルを行った。 ・『墨書土器字典』データベースを公開した。	A	順調

(3)　研究所所管の展示公開施設の充実

【中期目標】 ------

【中期計画】

(3)　平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。

【主な計画上の評価指標】

○来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上を確保すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(3) 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。	(3)		
6311	①　平城宮跡資料館における展示・公開 常設展（月曜日、年末年始休館） 特別展（年１回） 企画展（年２回） 年間目標来館者数　８５，３００人	**①　平城宮跡資料館における展示公開** 常設展示に、新たに「考古科学コーナー」を増設した。入口ロビーにて、「文化財レスキュー事業の紹介」の展示をおこなった。秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」、春期企画展「発掘速報展 平城 2011／文化財レスキュー展」を開催した。	A	順調
6321	②　飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 常設展示（月曜日、年末年始休館　有料公開　ただし平成 23 年 4 月 1 日～5 月 13 日まで無料） 特別展示（年２回） 企画展の開催（年１回） 年間目標来館者数　４８，８００人	**②　飛鳥資料館における展示公開** ・春期特別展「星々と日月の考古学」を 4 月 16 日～5 月 29 日に開催し、記念講演会を 5 月 14 日におこなった。 ・夏期企画展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」を 8 月 2 日～9 月 4 日に開催した。 ・秋期特別展「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」を 10 月 14 日～11 月 27 日に開催し、記念講演会を 11 月 6 日におこなうともに、ギャラリートークを 2 回開催した。 ・冬期企画展「飛鳥の考古学 2011」を 1 月 20 日～2 月 26 日に開催するとともに、写真コンテストを主催した。	A	順調
6331	③　藤原宮跡資料室における展示・公開 常設展（土・日曜日、祝日、休日、年末年始休館　無料公開）	**③　藤原宮跡資料室における展示公開** 常設展示および発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスに発掘調査成果を速やかに公開するための速報展示コーナーを設け、多様な成果を継続的に公開した。あわせて、職員による展示解説、展示のための各種資料制作、パンフレットなどの企画と制作、各地の博物館などへの文化財の貸与をおこなった。	A	順調

定量評価	23 年度	22 年度	目標値	評定
来館者数				
平城宮跡資料館	132,295	354,346	85,300	S
飛鳥資料館	42,479	133,312	48,800	B
藤原宮跡資料室	2,971	4,815	4,509	B

(4)　文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 ------

【中期計画】

(4)　文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、ＮＰＯ法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。

【主な計画上の評価指標】

○文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。

【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	(4) 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び奈良文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、ＮＰＯ法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。 ①　文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力	(4)		
6411	○　文化庁平城宮跡宮跡等管理事務所の運営への協力	**①-1　文化庁平城宮跡等管理事務所の運営への協力** ・平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。 ・文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援、協力及び関係機関等との調整を行った。 ・関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備事業	A	順調

		平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。 ○平城宮跡〔対象面積：915,150 ㎡〕 ○藤原宮跡〔対象面積：257,840 ㎡〕		
6412	○　国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力	**①-2　国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力** 第一次大極殿院復原検討会を 18 回開催し、そのための資料収集と整理、国内外の類例調査などをおこなった。また平城宮跡の整備・活用に向けての基礎的な資料の収集と、整備施工に対しての事前立会調査等をおこない、遺跡の保護・保全といった観点を含めて、十分に対応することができた。	A	順調
6413	○　国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	**①-3　国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力** 展示基本設計の策定に必要な、展示テーマや展示内容案を作成し、展示構成および展示手法について、設計業者と協議を重ねた。その展示計画案に基づき、展示物の立案、検索や調査、リスト化をおこなった。また設計業者の要望に応じて、展示設計上参考となる図面や画像などの多様な参考資料を、用意し提供した。	A	順調
6414	○　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	**①-4　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力** 国営飛鳥歴史公園事務所が開催した「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」（平成 24 年３月７日）に出席し、体験学習館の基本設計（案）作成に協力した。	A	順調
6421	②　平城宮跡解説ボランティア事業の実施	**②　平城宮跡解説ボランティア事業の実施** 高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。	A	順調
6431	③　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加	**③　平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加** 平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。	A	順調
6441	④　NPO 法人等への支援	**④　ＮＰＯ法人等への支援** ボランティア団体への支援は、その育成につながった。	A	順調

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

【中期目標】我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。

【中期計画】

我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。

(1)地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

(2)文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。

【主な計画上の評価指標】

○文化財に関する協力･助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。

○地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施すること。また、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査･研究の成果を活かし、国･地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。			
7111-1	(1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。	**(1)-1　無形文化遺産に関する助言** 平成 23 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等について、文化庁文化財部伝統文化課に対し無形文化遺産保護条約に関する助言をはじめ、32 件の助言を実施した。	A	順調
7111-2		**(1)-2　文化財の修復及び整備に関する調査・助言** 今年度は、件数として 33 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。	A	順調
7111	①　地方公共団体等からの要請に応じ、それへの協力・助言・専門的知識の提供等を実施する。	**(1)-①-1　地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言** 平成 23 年度は、平城京域において、個人住宅・集合住宅等の建設にともなう計５件の発掘調査を実施した。その結果、平城京右京三条一坊一坪で奈良時代とみられる柱穴などを検出した。また、海龍王寺旧境内でも調査をおこなったが、奈良時代の遺構は確認できなかった。このほか、西大寺旧境内（薬師金堂付近）では薬師金堂の基壇が削平を受けており、調査地には遺存していないことが判明した。また左京三条一坊十坪では、奈良時代の柱穴を数基検出している。	A	順調

7112		(1)-①-2 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言 藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は13件あり、主に現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、藤原宮跡東面大垣の調査（168-2次）では、極めて遺存状態の良好な門遺構とそれに接続する大垣を確認した。	A	順調
7113		(1)-①-3 地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。	A	順調
7121	② これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を実施する。	(1)-② 他機関等との共同研究及び受託研究を実施 地方公共団体等がおこなう文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等をおこなった。	A	順調
7131	③ 災害により被災した文化財の保護のため、文化庁の要請を受け、国立文化財機構は東京文化財研究所に事務局を設置し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）を実施する等、地方公共団体等に対する支援・協力を行う。	(1)-③ 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業） ・東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を設置した。 ・被災文化財レスキュー事業を実施した。	A	順調
	(2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。			
7211	① 埋蔵文化財担当者研修の実施 専門研修１３課程、研修人数延べ１６０人	(2)-① 埋蔵文化財担当者研修の実施 ・遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修１３課程の研修を実施し、延べ１３６名が受講した。 ・研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。	A	順調
7221	② 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施 期間２週間、受講生２５名程度	(2)-② 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 第28回保存担当学芸員研修、保存担当学芸員フォローアップ研修、第16回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。	A	順調
7231	③ 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 ○ 東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学) ○ 京都大学：共生文明学（文化・地域環境論）	(2)-③-1 連携大学院教育 東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学） 保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また、実習である文化財保存学演習を１コマ担当した。	A	順調

7232	○ 奈良女子大学：比較文化学（文化史論）	(2)-③-2 京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 ・京都大学大学院人間・環境学研究科において５名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において３名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。 ・なお、平成23年度の受入学生数は京都大学75名、奈良女子大学５名であった。	A	順調

定量評価	23年度	22年度	目標値	評定
埋蔵文化財担当者研修 課程数（課程）	13	11	13	A
研修受講者数（人）	136	137	延べ160	B
保存担当学芸員研修 期間（週間）	2	2	2	A
受講生（名）	27	33	25程度	A

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　一般管理費等の削減

【中期目標】業務運営に関しては、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月7日閣議決定）等を踏まえ、国立文化財機構の活性化が損なわれないよう十分配慮しつつ、一層の業務の効率化を推進することにより、文化財購入等の効率化になじまない特殊要因経費を除き、中期目標の期間中、一般管理費については１５％以上、業務経費についても５％以上の効率化を図ること。ただし、人件費については次項に基づいた効率化を図る。

なお、１９年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成２３年度までの統合後５年間で、１９年度一般管理費（物件費）の１０％相当の経費削減を図ること。

【中期計画】

1　中期目標の期間中、一般管理費については１５％以上、業務経費については５％以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。

なお１９年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成２３年度までの統合後５年間で、１９年度一般管理費（物件費）の１０％相当の経費を削減する。

このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

（1）共通的な事務の一元化による業務の効率化

（2）計画的なアウトソーシング

（3）使用資源の減少

・省エネルギー　（エネルギー使用量は、５年計画期間中に５％削減）

・廃棄物減量化

・リサイクルの推進

【主な計画上の評価指標】

○中期目標の期間中、一般管理費15%以上、業務経費５％以上の業務の効率化を図ること。

○共通的な事務の一元化を図ること。

○計画的なアウトソーシングを図ること。

○エネルギー使用量は、５年計画期間中に５％の削減を図ること。

○廃棄物の減量化を図ること。

○リサイクルの推進を図ること。

○競争性のある契約への移行を推進すること。

○民間競争入札等の推進を図ること。

【22年度評価における主な指摘事項】

○今後も財務会計システムの更新等により一層の業務の効率化を図ることが望まれる。

○民間委託については、文化財保護という重要な業務を担う中、着実に推進していると判断できる。今後は、民間委託が人件費・経費の削減や業務の効率化にどれだけ資するか検証する必要がある。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9110	1　一般管理費の削減 (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化 1）財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。 2）国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。 3）新設されるアジア太平洋無形文化遺産研究センターを含めたネットワークの共通化及び機構全体のグループウェアの共通化を図り、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。	1　一般管理費の削減 (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化 1)web給与明細システムを23年5月給与より正式運用開始した。機構全体で職員の45.6%(858人のうち391人、24年3月給与支給日現在)について紙媒体での給与明細配布を終了し、給与事務の効率化を図った。 また新財務会計システム更新について、24年4月正式運用開始に向けて準備を進めた。現行では別システムまたは紙により処理している購入依頼、科学研究費、旅費処理等の会計処理・管理を一元化する予定であり、財務会計事務の効率化が見込まれる。 2)国立博物館各館および各研究成果公開施設における23～27年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を2回開催し、連絡・調整を行った。 3)アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、23 年 9 月の LAN 新設時に機構 VPN(Virtual Private Network)に接続した。また、機構共通グループウェア「サイボウズ」の機構全体での運用を継続し、機構内の連絡調整・情報共有を推進した。	A	順調
9120	(2) 計画的なアウトソーシング 以下の業務の外部委託を継続して実施する。 （東京国立博物館） ・資料館業務の一部 （京都国立博物館） ・看視案内業務及び設備保全業務の一部 ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務 ・情報システムの運用・管理・開発業務の一部 （奈良国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務 ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務 （九州国立博物館） ・建物設備の運転・管理業務等 ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務 （東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等	(2) 計画的なアウトソーシング ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。 ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。また、研究所は警備業務の全てを外部委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。	A	順調
9130	(3) 使用資源の減少 ・省エネルギー 1）光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。 （エネルギー使用量は、５年計画期間中に５％削減） ・廃棄物減量化 1）使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 1）廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。	(3) 使用資源の減少 ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。 ・廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。 ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集，リサイクル業者への古紙受け渡し，再生紙の発注等） 使用資源の推移等 光熱水料金　（単位：千円） 事項 / 22年度 / 23年度 / 差額 / 増減率 電気料 / 350,947 / 359,663 / 8,716 / 2.48% 水道料 / 79,777 / 82,330 / 2,553 / 3.20% ガス料 / 98,213 / 127,175 / 28,962 / 29.49% 計 / 528,937 / 569,168 / 40,231 / 7.61% ※電気料は全体として使用量ベースでは減少したが、原料高騰による契約単価および燃料調整費の上昇により使用料金ベースで増額となった。	A	順調

事項	22年度単価(円/kwh)	23年度単価(円/kwh)	差(円/kwh)	単価影響額(千円)
電気料特殊要因	13.6	14.3	0.7	17,507

※水道料は、東京国立博物館で来館者増加に伴って増加した。
※ガス料については、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増加となった。
・ガス量特殊要因① 原料高騰により契約単価が上昇した。
・ガス料特殊要因② 東日本大震災に伴う電力ピークシフトに協力し、夏季において東京国立博物館のガス設備を夜間稼動させ、その稼動率低下を補うために運転時間を延長した。
・ガス料特殊要因③ 改修工事のため昨年度休館していた東京国立博物館東洋館のガス設備を開館準備に伴って再稼動させた。

事項	22年度単価 (円/㎥)	23年度単価 (円/㎥)	差(円/㎥)	単価影響額(千円)
ガス料特殊要因①	66.6	73.7	7.1	14,397

事項	増加量(㎥)	23年度単価(円/㎥)	影響額(千円)
ガス料特殊要因②	139,392	70.03	9,762
ガス料特殊要因③	98,812	70.03	6,920

特殊要因を考慮した光熱水料金 (千円)

事項	22年度	23年度	差額	増減率
電気料（※）	350,947	342,156	△8,791	△2.50%
水道料	79,777	82,330	2,553	3.20%
ガス料（※）	98,213	96,096	△2,117	△2.16%
計	528,937	520,582	△8,355	△1.58%

※電気・ガスについては特殊要因を勘案して算定。

廃棄物排出量 (単位：kg)

事項	22年度	23年度	差額	増減率（%）
一般廃棄物	273,407	255,976	△17,431	△6.38%

9140

(4) 自己収入の増大

独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。
1）機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、１．１６%の増加を目指す。
2）機構全体において、寄附金２２６件及び科学研究費補助金７６件の確保を目指す。

(4) 自己収入の増大

1) 定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり△8.17%となり、目標を下回った。
(単位：千円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
自己収入基準額	874,112	884,252	894,510
自己収入目標額	884,252	894,510	904,886
自己収入実績額	949,900	1,002,524	821,470
増　加　率	8.67%	13.38%	△8.17%

※　受託研究・受託事業を除く。
※　自己収入目標額は、前年度の目標額から1.16%増加した場合の額。
※　増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。

2)下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成23年度
寄附金	226件	393件
科学研究費補助金	76件	76件

B

一部要注意

定量評価	23年度	22年度	目標値	評定
一般管理費の効率化(対前年度比%)	**4.75%減**	**5.53%減**	**3.20%**	**A**
業務経費の効率化(対前年度比%)	**7.53%減**	**7.61%増 (特殊要因を考慮した場合6.05%減)**	**1.03%**	**S**
光熱水料費の削減(対前年度比%)	**1.58%減**	**4.24%減 (特殊要因を考慮した場合5.65%減)**	**1.03%**	**S**
自己収入増加率	8.17%減	13.38%	1.16%	C
寄附金件数	393件	314件	226件	A
科学研究費採択件数	76件	81件	76件	A

2　給与水準の適正化等

【中期目標】給与水準については、「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成 22 年 11 月 1 日閣議決定）を踏まえ、国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。
　総人件費についても、平成２３年度はこれまでの人件費改革の取組を引き続き着実に実施するとともに、平成２４年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、厳しく見直すこと。

【中期計画】
2　国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成２３年度まで継続するとともに、平成２４年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。
　なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

【主な計画上の評価指標】
○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行うこと。

【22 年度評価における主な指摘事項】
○人件費削減
　過年度から引き続き、人件費の削減は順調に実施されており、大変な努力がなされていると評価する。今後は、優秀な人材を確保・育成することにより、組織の活性化を図る必要がある。
○諸手当・法定外福利費
　国とは異なる諸手当はないが、引き続き、法人の事務・事業の公共性、業務運営の効率性等の観点から、必要に応じて見直しを行うことが望まれる。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9210	2　給与水準の適正化等 国家公務員の給与水準や手当てを考慮した役職員の給与の適正化を計画的に取り組む。またこれまでの人件費改革の取り組みを平成２３年度まで継続する。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については総人件費改革の削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。 その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。	2　給与水準の適正化等 ・人件費削減実績 （下表） ・人事給与統合システムが平成 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。 ・地域手当について、平成 23 年度においても平成 21 年度の率を据え置く方針が決定された。	A	順調

	17 年度（A 分類 実績ﾍﾞｰｽ）	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	23年度目標値（17年度に比して△6.00%）
実績（千円）	2,878,750	2,789,360	2,773,688	2,745,389	2,688,829	2,619,439	2,607,399	2,706,025
前年度に対する削減率	－	△3.11%	△0.56%	△1.02%	△2.06%	△2.58%	△0.46%	－
17 年度に対する削減率	－	△3.11%	△3.65%	△4.63%	△6.60%	△9.01%	△9.43%	－
17 年度に対する削減率（補正値）	－	△3.11%	△4.35%	△5.33%	△4.90%	△5.81%	△6.03%	－

3　契約の適正化の推進

【中期目標】契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づく取組を着実に実施し、一層の競争性と透明性の確保に努め、契約の適正化を推進するとともに外部委託の活用等により、定型的な管理・運営業務の効率化を図ること。

【中期計画】
3　「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

【主な計画上の評価指標】
○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組むこと。
○情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9310	3　契約の適正化の推進 1）契約監視委員会を実施する。 2）施設内店舗の貸付について企画競争を導入する。 3）民間競争入札を推進する。 （東京国立博物館・東京文化財研究所） ・施設管理・運営業務を継続して外部委託を行う。 （東京国立博物館） ・展示場における来館者応対等業務を継続して外部委託を行う。	3　契約の適正化の推進 1）「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成 22 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。 第１回契約監視委員会（平成 23 年 12 月 3 日開催） 第２回契約監視委員会（平成 24 年 6 月 4 日開催予定） 2）京都国立博物館（レストラン）奈良文化財研究所平城宮跡資料館（ミュージアムショップ）において、企画競争を実施した。また、東京国立博物館（レストラン）及び奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）については既に企画競争を実施済み。 今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。 3）・総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。 ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように努めた。 ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。 一般競争入札件数 （下表）	A	順調

年度	22 年度	23 年度	増減
件数	175 件	132 件	△43 件

※随意契約を含めた全体の契約件数は、平成 22 年度の 341 件に対して、平成 23 年度は 230 件と大幅に減少しているが、総契約件数に占める一般競争件数の割合は上昇している。

（参考）総契約件数に占める一般競争入札件数の割合

年度	22 年度	23 年度	増減
件数割合	51%	55%	4%

※一般競争入札にかかる契約金額は 22 年度比で 39.3%増となっている。

（参考）一般競争入札にかかる契約金額　（単位：千円）

年度	22 年度	23 年度	増減
金額	1,959,701	3,438,898	1,479,197

4　保有資産の有効利用の推進

【中期目標】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、本来業務に支障のない範囲で有効利用の推進を図ること。

【中期計画】

4　保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【主な計画上の評価指標】

○対国家公務員指数について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表すること。

【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
	4　保有資産の有効利用の推進	**4　保有資産の有効利用の推進**		
9411	（博物館４施設） １）講座・講演会等を開催する。 ２）講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 ３）国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。	**【東京国立博物館】** 1)月例講演会等の他、友の会サービスの講演会として「東大寺講演会」(9月9日・共催　東大寺)を実施した。 2)撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト(ロケなび！)への登録を継続した。 3)・定期的にコンサート、寄席などの文化イベントを開催した。 ・「国際博物館の日」を記念して上野地区の機関と連携し、ガイドツアーなどを実施した。 ・「留学生の日」イベントを行い、ガイドツアーや茶道体験など日本文化の紹介を行った。	A	順調
9412		**【京都国立博物館】** 1)平常展示館建替工事期間中のため、展覧会等に関する講演会、土曜講座等は館外の施設を利用して開催した。 2)平常展示館建替工事期間中で講堂を使用できないため､庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行った。 3)来館者の拡大を目的としたコンサートや映画野外上映会を実施し、施設の有効利用を図った。	A	順調
9413		**【奈良国立博物館】** 1)公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 2)奈良市教育委員会と連携し、市内の小学校5年生を対象とした世界遺産学習を実施した。 3)地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。 (財)奈良県ビジターズビューロー等と連携し、国際学会のエクスカーションとして、なら仏像館を閉館後に観覧する特別鑑賞会(有料)を６回行った。	A	順調
9414		**【九州国立博物館】** 1)文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展で関連する講演会を開催した。 2)ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。 3)国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。また、ガムランワークショップや茶道体験、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。	A	順調
9415	（文化財研究所２施設） セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。	**【東京文化財研究所】** ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを毎年秋に開催。また、このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムの一つとしても企画された。	A	順調
9416		**【奈良文化財研究所】**	A	順調

施設名	平成 23 年度
平城宮跡資料館講堂	105 件　(内　有償貸与　3 件)
平城宮跡資料館小講堂	144 件　(内　有償貸与　15 件)
寄宿舎施設	1,116 件　(内　有償貸与　21 件)
飛鳥資料館講堂	67 件　(内　有償貸与　0 件)
その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	17 件　(内　有償貸与　13 件)
合計	1,449 件　(内　有償貸与　52 件)

・一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ＨＰ上での施設利用紹介等による積極的有効利用(貸付等)の促進を図った。
・奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。
・上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ(売店)の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。

5　内部統制の充実・強化

(1)理事長のマネジメント強化

【中期目標】法令等を遵守するとともに、業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、内部統制の充実・強化を図ること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
5(1)理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。	【22 年度評価における主な指摘事項】

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9510	5(1) 理事長のマネジメント強化 1）モニタリングの実施 ・自己点検評価を行う。 ・監事監査を行う。 ・内部監査を行う。 2）リスクマネジメントの実施 ・関連する諸規程を整備する。 ・危機管理マニュアルの見直し等を随時行う。	5(1) 理事長のマネジメント強化 1)モニタリングの実施 ・自己点検評価を行い、『平成22年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(23年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。 ・監事による定期監査(23年6月22日)を行った他、臨時監査を奈良文化財研究所(24年2月2日)、奈良国立博物館(24年2月3日)を対象に行った。 ・内部監査を、23年11月25日から12月22日の日程で、本部および各施設を対象に順次行った。 2)リスクマネジメントの実施 ・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の整備を進め、東京国立博物館防災管理規則の改正(室名等・防火担当責任者・火元責任者の見直し)を行った。 ・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直し等を随時行い、京都国立博物館では地震発生時の広域避難所として敷地及び施設を開放する旨を明記した。また、奈良文化財研究所では所内の事務文書規程に合わせた危機管理マニュアルの修正を行った。	A	順調

(2) 外部有識者による事業評価

【中期目標】外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
5(2) 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。	【22 年度評価における主な指摘事項】 ○事務事業改善 引き続き研修や運営改善コンクールのフォローアップ等を行い、事務事業の改善を図ることが望まれる。 ○コンプライアンス体制 コンプライアンス及び内部統制の整備・運用については、規程に基づき個人情報保護監査を行う等、有効に機能していると評価できる。今後も、業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、事業活動に関わる法令等の遵守並びに資産の保全に努めることが望まれる。 ○法人のミッションの役職員への周知徹底

	役員会を通じてだけではミッションを役職員により深く浸透させることは十分ではないため、各種会議への役職員の参加や、朝礼及び機関誌等を利用することにより、すべての役職員への周知徹底を図ることが必要である。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9520	5(2)外部有識者による事業評価 1）運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 2）職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。	5(2)外部有識者による事業評価 1)運営委員会(23年8月3日)、外部評価委員会(研究所調査研究等部会：23年4月20日、博物館調査研究等部会：4月27日、総会：5月25日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。 2)(各種研修について詳しくは処理番号 0230 参照)	A	順調

(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善

【中期目標】管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進し、必要な措置をとること。

【中期計画】	【主な計画上の評価指標】
5(3) 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。	【22 年度評価における主な指摘事項】 ○情報セキュリティ監査を活用し、セキュリティの弱点の把握とその改善を検討することが望まれる。 ○なお、東日本大震災の経験から、データやシステムのバックアップが十分か検証する必要がある。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価 年度	自己評価 中期
9530	5(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善 1）情報セキュリティについて定期監査等を実施する。	5(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善 1)・保有個人情報管理監査を、奈良文化財研究所(24年2月2日)、奈良国立博物館(24年2月3日)を対象に実施した。 ・情報システム監査を、京都国立博物館(23 年 9 月 7 日)、九州国立博物館(23 年 9 月 9 日)を対象に実施した。	A	順調

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

【中期目標】入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。

1 自己収入の増加

入場料収入、寄付金等の外部資金、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めること。

また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。

2 固定的経費の節減

管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。

【中期計画】管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。

また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。

【主な計画上の評価指標】

○当期総利益（又は当期総損失）の発生要因が明らかにすること。また、当期総利益（又は当期総損失）の発生要因の分析を行った上で、当該要因が法人の業務運営に問題等があることによるものかを検証し、業務運営に問題等があることが判明した場合には当該問題等を踏まえた評価を行うこと。

○利益剰余金が計上されている場合、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から実施されることが必要な業務を遂行するという法人の性格に照らし過大な利益となっていないかについて評価を行うこと。

○繰越欠損金が計上されている場合、その解消計画の妥当性について評価すること。当該計画が策定されていない場合、未策定の理由の妥当性について検証を行うこと。(既に過年度において繰越欠損金の解消計画が策定されている場合の、同計画の見直しの必要性又は見直し後の計画の妥当性についての評価を含む)。さらに、当該計画に従い解消が進んでいるかどうかについて評価を行うこと。

○当該年度に交付された運営費交付金の当該年度における未執行率が高い場合において、運営費交付金が未執行となっている理由を明らかにすること。

○運営費交付金債務（運営費交付金の未執行）と業務運営との関係についての分析を行った上で、当該業務に係る実績評価を適切に行うこと。

【22 年度評価における主な指摘事項】

○定量的な目標の設定

自己収入の増大及び外部資金の確保については、定量的な目標は上回っており評価できる。今後も着実な目標達成を期待している。

○展示事業等収入

展示事業等収入は、21 年度と比較すると、来館者数の減少に伴って減少している。今後は国民のニーズを捉えつつ、ナショナルセンターの機能としてふさわしい優れた企画を期待するとともに、中長期的に来館者数の増減に左右されない財務体質の構築が望まれる。

処理	年度計画	主な実績	自己評価

番号			年度	中期

予算

（単位：百万円）

区　　分	金 額
収入	
運営費交付金	7,941
施設整備費補助金	4,792
展示事業等収入	1,188
受託収入	26
計	13,947
支出	
管理経費	1,502
うち人件費	668
うち一般管理費	834
業務経費	7,627
うち人件費	2,450
うち調査研究事業費	1,297
うち情報公開事業費	169
うち研修事業費	18
うち国際研究協力事業費	245
うち展示出版事業費	187
うち展覧事業費	3,206
うち教育普及事業費	55
施設整備費	4,792
受託事業費	26
計	13,947

収支計画

（単位：百万円）

区　　分	金 額
費用の部	6,907
経常経費	6,907
管理経費	1,084
うち人件費	668

		うち一般管理費	416			
		業務経費	5,414			
		うち人件費	2,450			
		うち調査研究事業費	743			
		うち情報公開事業費	95			
		うち研修事業費	11			
		うち国際研究協力事業費	138			
		うち展示出版事業費	113			
		うち展覧事業費	1,833			
		うち教育普及事業費	31			
		受託事業費	26			
		減価償却費	383			
		収益の部	6,907			
		運営費交付金収益	5,310			
		展示事業等の収入	1,188			
		受託収入	26			
		資産見返運営費交付金戻入	326			
		資産見返物品受贈額戻入	57			

資金計画

（単位：百万円）

区　　分	金 額
資金支出	13,947
業務活動による支出	6,524
投資活動による支出	7,423
資金収入	13,947
業務活動による収入	9,155
運営費交付金による収入	7,941
展示事業等による収入	1,188
受託収入	26
投資活動による収入	4,792
施設整備費補助金による収入	4,792

Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

【中期目標】

1　施設・設備に関する計画

各施設の安全かつ良好な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画、研究機器の整備・更新計画を作成し、整備を図ること。

2　人事に関する計画

人事管理、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図り、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図ること。

【中期計画】

1　施設・設備に関する計画

施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

2　人事計画に関する計画

(1)方針

①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。

②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。

③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

(2)人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。

中期目標期間中の人件費総額見込額

１３，０８７百万円

但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。

3　中期目標期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。

4　積立金の使途

前中期目標期間の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

【主な計画上の評価指標】

○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。

○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を図ること。

○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行うこと

【22 年度評価における主な指摘事項】

○アソシエイトフェロー制度は、安定的な継続が担保できないため、将来的にはあり方を見直す機会を設ける必要がある。

<table>
<tr><th>処理番号</th><th>年度計画</th><th>主な実績</th><th colspan="2">自己評価</th></tr>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>年度</th><th>中期</th></tr>
<tr><td></td><td>1　施設・設備に関する計画
別紙のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

施設・設備に関する計画
（単位：百万円）
<table><tr><th>施設・整備の内容</th><th>予定額</th><th>財　源</th></tr><tr><td>京都国立博物館
平常展示館建替工事
（19 年度～24 年度）</td><td>4,792</td><td>施設整備費補助金</td></tr></table></td><td>1　施設・設備に関する計画

（京都国立博物館平常展示館建替工事について詳細は、処理番号 1222 を参照）</td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>処理番号</th><th>年度計画</th><th>主な実績</th><th colspan="2">自己評価</th></tr>
<tr><td></td><td>2　人事計画に関する計画</td><td>2　人事計画に関する計画</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>0210</td><td>(1)　職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。</td><td>平成 20 年度において、機構として統一的な運用及び規程を整備し、勤務評定制度を開始した。給与へは昇給及び勤勉手当に反映しているが、実施時期についてより適切に反映できるよう検討していく。</td><td>A</td><td>順調</td></tr>
<tr><td>0220</td><td>(2)　近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。</td><td>〈事務系職員〉
・本部事務局及び各施設において、文化庁、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。
・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間（計 12 人）における交流を行っている。

<table><tr><th>年度</th><th>本部・東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th><th>東京文化財研究所</th><th>奈良文化財研究所</th><th>アジア太平洋無形文化遺産研究センター</th><th>年度計（人）</th></tr><tr><td>19</td><td>18（東大、医科歯科大、西美、政研大）</td><td>11（京大）</td><td>9（阪大、京大、阪教大、奈女大）</td><td>7（九大、東大、九大）</td><td>5（東大、医科歯科大、千葉大）</td><td>8（京大、阪大、滋賀大、滋賀医科大）</td><td>—</td><td>58</td></tr><tr><td>20</td><td>16（東大、西美、政研大）</td><td>10（京大、民博）</td><td>10（文化庁、阪大、京大、北九州高専）</td><td>8（九大、九工大</td><td>6（東大、医科歯科大）</td><td>7（京大、阪大、滋賀大、総地研）</td><td>—</td><td>57</td></tr></table></td><td>A</td><td>順調</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td><table><tr><td>21</td><td>18(文化庁、東大、東近美、政研大、京博)</td><td>13(京大、民博、奈良博、東博)</td><td>10(文化庁、阪大、京大、北九州高専、京博)</td><td>11(九大、九工大、本部)</td><td>8(東大、医科歯科大、東博、奈文研)</td><td>8(京大、阪大、総地研、奈女大)</td><td>—</td><td>68
(8)</td></tr><tr><td>22</td><td>18(東大、東近美、政研大、京博)</td><td>14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)</td><td>8(文化庁、阪大、京大、京博)</td><td>8(九大、本部</td><td>5(医科歯科大、東博、奈文研)</td><td>11(京大、阪大、総地研、奈女大)</td><td>—</td><td>64
(9)</td></tr><tr><td>23</td><td>17（東大、東近美、政研大、奈文研）</td><td>14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)</td><td>12(阪大、京大、京博、本部)</td><td>8(九大、本部)</td><td>6(医科歯科大、東博、本部)</td><td>12(文化庁、京大、阪大、奈女大)</td><td>1（奈文研）</td><td>70
(12)</td></tr></table>※表中の人事交流者の人数は、各年度末現在でカウントした。（機構に受け入れている人数）
※平成 21 年度から機構内の人事交流中の人数を含めた。合計欄の（　）内の人数。
〈研究系職員〉
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を 13 人採用した。
・また、文化庁から 9 人の受け入れ及び文化庁への出向を 14 人行っている。
・機構内での人事交流を図るため、各施設間にて計 7 人の交流を行っている。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>0230</td><td>(3)　各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。</td><td>・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修(3 件)、施設系の職員を対象とした研修(1 件)、個人情報保護に関する研修(1 件)及びハラスメントに関する研修(1 件)を行った。
・その他、他機関で実施する研修にも積極的に参加した。
<table><tr><th>研修名称</th><th>日程</th><th>受講対象者</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>新任職員研修会</td><td>23 年 7 月 20 日～
23 年 7 月 22 日</td><td>平成 22 年度以降の新任職員等</td><td>34 人</td></tr><tr><td>接遇研修</td><td>23 年 7 月 20 日</td><td>平成 22 年度以降の新任職員等</td><td>34 人</td></tr><tr><td>個人情報保護についての講演会</td><td>23 年 7 月 21 日</td><td>平成 22 年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員</td><td>約 100 人</td></tr><tr><td>施設系職員研修会</td><td>23 年 8 月 25 日～
23 年 8 月 26 日</td><td>機構内の施設系職員</td><td>11 人</td></tr><tr><td>個人情報保護研修会</td><td>24 年 1 月 17 日､20 日、23 日、26 日</td><td>関西地区・九州地区の各施設職員</td><td>102 人</td></tr><tr><td>ハラスメントに関する研修会</td><td>23 年 7 月 22 日など</td><td>各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等</td><td>約 200 人</td></tr></table></td><td>A</td><td>順調</td></tr>
</table>

0240	(4)　非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。	・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行い、平成 20 年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とした。 ・平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度（アソシエイト・フェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成 23 年度は東京国立博物館で 7 人、東京文化財研究所で 6 人、奈良文化財研究所で 3 人及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターで 2 人を採用した。（計 18 人）	A	順調
0250	(5)　専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。	高度の専門的知識経験又は優れた識見を一定の期間活用して行うことが必要と認める業務に雇用する者とした任期付専門員制度を活用し、平成23年度において1人採用した。今後、「独立行政法人の制度及び組織の見直しの基本方針」（平成24年1月20日閣議決定）に対応するため、検討を進める。	A	順調

Ⅱ　23年度自己点検評価報告書　個別表

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1111

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承		
事業名	(1)－1　適時適切な収集		

【年度計画】
　各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(東京国立博物館)
　日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　富田　淳

【実績・成果】
　本年度の購入物件はない。

【補足事項】
　運営費交付金が削減された状況で、東洋館の再開館に必要な演示具・備品等の取得や収蔵品の再配置に予算を振り向けざるを得なかったため、購入費の捻出が困難であった。
　なお、東京国立博物館収蔵品から考古１件(重文)を九州国立博物館へ管理換した。

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品件数	113,897件	－	－		112,439	112,529	112,776	113,258
うち国宝	87件	－	－		87	87	87	87
うち重要文化財	631件	－	－		619	622	624	629
購入件数	0件	－	－		13	7	8	4

総合的評価	S　A　B　C　Ⓕ(S、Fの理由)購入予算がないため。

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(東京国立博物館)
　日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	要注意

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1112

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)-1　適時適切な収集

【年度計画】
　各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(京都国立博物館)
　京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
・博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品 13 件を購入した。従来から所蔵する優れた一括資料のうち、須磨コレクションの中国近代書画に絵画 4 件を加え、長尾雨山関係資料に絵画 1 件、書跡 2 件を加えた。その他に近世絵画 2 件、金工 1 件、染織部門の小袖の系統的収集を充実させる 2 件、人形 1 件を購入した。
・内訳：絵画 7 件、書跡 2 件、金工 1 件、染織 3 件
・決算額　　48,422,500 円

【補足事項】
・円山四条派を主とする京都文化が中国絵画の近代化に与えた大きな影響を如実に示す須磨コレクション(1,000 件)に 4 件の新たな購入を加えた。斉白石筆大鶏小鶏図、蘇仁山筆山水図冊(全九図)、張大千筆山水図(黄山文殊院)、朱嶠筆古松瑞雲図の 4 件の絵画は、近代中国と日本との深い交流を証する貴重な資料でもあり、中国近代芸術の一級資料でもある。この領域で当館ほど良質の資料が集中している施設は中国も含めて世界でも数少ないが、その中核である須磨コレクションの一部を遺族のご厚意により一括して購入でき、さらに収集の厚みと資料相互の関連性を増すことができた。須磨コレクションは、遺族との信頼関係のもと寄託、寄贈を受け続けてきているものであり、今年度末に開催し、その優れた内容が国際的にも高く評価された「中国近代絵画と日本」展においても展示活用した。
・京都には清の滅亡に際して多くの明清美術がもたらされ、多くの中国美術コレクターが活躍した。特に長尾雨山をはじめとする近代京都の文人と中国文化人との交流は特筆される。本年度は当館の長尾雨山関係資料をさらに充実させるため、鄭孝胥寄雨山尺牘巻、呉昌碩筆額字「漢塼斎」と徐悲鴻筆梅枝双鳥図の 3 件を加えた。
・金工は 10 世紀に遡る銭弘俶八万四千塔の一例で、中国五代と日本の平安時代の仏教信仰の有様と交流をあらわす好資料である。
・当館の染織収集の目標のひとつは館蔵品によって小袖の歴史を辿れる系統的収集であり、染分縮緬地文字入扇面桜・橘に松梅文様友禅染繍小袖はまだ充実していない部分を補う友禅染爛熟期の作例でしかも保存状態の良さは類例希である。淡浅葱麻地宇治景文様友禅染繍帷子は全面にわたって宇治の景色のみを取り上げた非常に珍しい文様をもつ。衣裳人形猩々は入念な作りで、光格天皇が皇女に贈り宝鏡寺に伝わる例とほぼ同時期、同じ環境で使われたと思われるもの。
・その他に、水鳥と犬を題材とする 17 世紀の大変珍しい風俗画屏風である春秋禽狗遊楽図、文晁が「集古十種」編纂のため近畿を訪れた際に作成され、大阪の南画家に贈られた縮図で、文晁の古書画学習の様を伝える文晁墨宝(須磨コレクションの 1 でもある)を購入した。



(左)淡浅葱麻地宇治景文様友禅染繍帷子
(右)斉白石筆大鶏小鶏図

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品件数	6,621 件	－	－		6,386	6,417	6,526	6,584
うち国宝	27 件	－	－		27	27	27	27
うち重要文化財	177 件	－	－		177	177	176	177
購入件数	13 件	－	－		36	8	7	23

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(京都国立博物館)
　京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1113

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－1　適時適切な収集

【年度計画】
　各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(奈良国立博物館)
　仏像、仏画、経典・仏教関係書跡等、仏教工芸、仏教考古資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
　購入により4件の文化財が新たな収蔵品として加わった。
・絵画　紙本墨画渡唐天神像　1幅　江戸時代(17世紀)
・彫刻　木造阿弥陀如来坐像　1軀　平安時代(9～10世紀)
・書跡　紙本墨書万昆嶋主解　1枚　奈良時代　天平宝字2年(758)
・書跡　紙本墨書足利義満書状案　1幅　南北朝時代(14世紀)
　決算額は102,250,000円。

【補足事項】
・絵画部門の購入品のうち渡唐天神像は、文字絵の体裁をなす渡唐天神像であり、筆者の近衛信尹は寛永の三筆に数えられる文人。
・彫刻部門の阿弥陀如来坐像は平安時代前期制作と考えられ、図像の上で定印を結ぶ最初期の作例のひとつとして貴重なもの。
・書跡部門の2件のうち万昆嶋主解は正倉院宝庫から流出した古文書の一つで、万昆嶋主が官に提出した休暇届。当時を生きた人々の生活の一端を窺い知ることができる貴重な史料。足利義満書状案は、室町幕府第3代将軍である義満が、興福寺別当職に或る僧侶を推薦する内容で、幕府が興福寺の人事に干渉していたことを示す史料。


紙本墨書万昆嶋主解

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
収蔵品件数	1,831件	－	－	経年変化	1,794	1,805	1,812	1,827
うち国宝	13件	－	－		12	12	12	13
うち重要文化財	109件	－	－		107	108	110	109
購入件数	4件	－	－		2	7	4	7

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(奈良国立博物館)
　仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1114

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－1　適時適切な収集

【年度計画】
　各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(九州国立博物館)
　日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　臺信祐爾

【実績・成果】
・当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を 17 件購入した。
・購入　17 件
　(内訳：絵画 3 件、書跡 3 件、彫刻 1 件、染織 2 件、考古 1 件、歴史資料 7 件)
　　決算額：　569,350,000 円
・編入　2 件
　(内訳：絵画 1 件、考古 1 件)

【補足事項】
・絵画分野では、日本の王朝文化を伝える典型例の一つとして重要である「紙本著色病草紙断簡(屎を吐く男)」の他、仏画「絹本著色阿弥陀浄土図」、水墨画「絹本墨画羅漢図」を購入した。当館はすでに同じ病草紙断簡 2 幅「紙本著色病草紙断簡(侏儒)」、「紙本著色病草紙断簡(せむしの乞食法師)」を収蔵しており、「地獄草紙」(国宝、東京国立博物館所蔵)や「餓鬼草紙」(国宝、京都国立博物館所蔵)に匹敵する優れたコレクションとして、今後の活用が期待できる。
・書跡資料の「紙本墨書舎人国足願経」は、書写年代と旧蔵場所が明確な奈良時代前期の写経として、貴重であり、「紙本墨書足利尊氏願経」は南北朝時代を代表する写経で、文化・宗教・政治史研究上に貴重であるばかりでなく、宋・元版をテキストとして用い、対外交流の関係を知る上でも重要である。
・彫刻分野の「地蔵菩薩遊戯坐像」は、対馬に伝来した韓半島の彫刻として当館の文化交流というテーマに適した貴重な仏像である。


紙本著色病草紙断簡
(屎を吐く男)

・染織分野では、貿易染織資料として価値の高い「端物切本帳」13 冊の他、墨書銘のあるシャム更紗「緑地花菱繋ぎ文更紗」を購入した。
・考古分野では、経筒としては珍しい白磁経筒を購入した。
・歴史資料としては「朝鮮通信使川御座船図六曲屏風」「紙本墨書今川了俊書下」「紙本墨書島津氏等文書集」「紙本墨書朝鮮通信使進物目録」「紙本墨書豊臣秀吉朱印状　遠藤彦右衛門・助二郎宛」「紙本墨書豊臣秀吉朱印状　高麗国中宛」「紙本墨書豊臣秀吉朱印状　蜂須賀阿波守宛」など、九州方面に縁の深い資料を購入した。

＊上記の収集品の他、平成 23 年 4 月 1 日付けで重要文化財 彩画人馬鏡 1 面が東京国立博物館より無期管理換された。また、「金銅阿弥陀不動毘沙門天像懸仏」1 面が寄贈され、「絹本著色柳舜翼像模写」1 幅を列品に編入した。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品件数	453 件	－	－		333	370	397	433
うち国宝	3 件	－	－		3	3	3	3
うち重要文化財	29 件	－	－		24	25	27	28
購入件数	17 件	－	－		42	30	27	31

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(九州国立博物館)
　日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
(4館共通)
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　富田　淳

【実績・成果】
1)作品の寄贈については7名の所蔵者から、151件の文化財を受け入れた。
　絵画：12件
　書跡：33件
　陶磁：1件
　漆工：22件
　東洋書跡：44件
　東洋陶磁：34件
　東洋漆工：5件

・新規寄託品は7件あった。
・登録美術品の、増減はなかった。

【補足事項】

・絵画の寄贈品のうち、「中島和田右衛門の丹波屋八右衛門」は、写楽の同図柄として世界に一点しか知られていない貴重なものである。
・漆工の寄贈品のうち、20件は動物を主題とした印籠や根付であり、装身具に関する展示のみならず、干支などの各種動物をテーマにした展示に活用することができる。
・東洋書跡の44件、東洋陶磁の34件、東洋漆工の5件は、平成25年に新装開館予定の東洋館における展示を充実させるものである。
・寄託品の新規7件に対して、返却は44件であった。



寄贈品
中島和田右衛門の丹波屋八右衛門

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
新規寄贈品件数	151件	－	－		26	81	43	23
寄託品件数	2,689件	－	－		2,743	2,750	2,734	2,726
うち新規寄託品件数	7件	－	－		17	39	3	5
登録美術品件数	3件	－	－		3	3	3	3

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
(4 館共通)
1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(寄贈)
・寄贈は 24 件で、寄贈者は 7 人であった。
　内訳：絵画 11 件、陶磁 4 件、漆工 2 件、染織 7 件
(寄託)
・新規寄託は 93 件。展示館の建て替え工事のため、当面平常展示において活用することはできないが、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。
　内訳：絵画50件、書跡7件、彫刻7件、金工9件、陶磁11件、漆工2件、染織3件、考古4件

【補足事項】
【寄贈】
・漆工 2 件のうち革製宝相華文様金具残闕は、京都浄瑠璃寺旧蔵吉祥天立像逗子の革留具と酷似し、おそらく一連をなす、鎌倉時代初頭の非常に珍しい革製品である。
・染織 7 件は 20 年間から 30 年間寄託されていた 3 名の個人から寄贈を受けたもので、特に染織裂 31 枚、人形 152 種は近代京都画壇の大家入江波光の蒐集品であり、波光の絵画制作資料でもあったと思われ、なかでも人形類は日本を代表する優れたコレクションである。
・近代の京都には清の滅亡に際して多くの明清美術品がもたらされ、多くの中国美術コレクターが活躍した。こうした京都における明清画享受運動を反映して、当館は優れた明清画のコレクションを形成してきた。今回寄贈絵画のうち 9 件は当館に長年寄託されていた京都府在住の個人蒐集家から、学芸との信頼関係のもとに贈られたもので、来舶清人を主とする日中交流資料でもある。
・その他、近世後期から近代における朝鮮半島と日本の交流について新たな知見をもたらす資料を含む陶磁 4 件、京狩野家の三代目狩野永納の雲龍図 2 幅の寄贈を受けた。
【寄託】
・新規寄託はバランスよく全分野にわたって多様な文化財が寄託された。絵画 50 件のうち約 30 件は近世京都画壇の作例である。
・返却した寄託品は 85 件であるが、そのなかには寄贈を受けたもの、購入したものが約 30 件含まれている。


人形類


革製宝相華文様金具残闕

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
新規寄贈品件数	24 件	－	－		30	21	102	35
寄託品件数	6,013 件	－	－		6,154	5,907	5,957	6,005
うち新規寄託品件数	93 件	－			117	111	180	107

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　1123

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
(4 館共通)
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
1)寄贈の受け入れはなかった。寄託については、新規に 9 人の所蔵者から 12 件の作品の文化財を受け入れた。
絵画：3 件（絹本著色釈迦三尊十六善神像 1 幅 ／ 奈良県指定文化財 仏涅槃図 1 幅 ／
奈良県指定文化財　阿弥陀聖衆来迎図　1 幅 ）
彫刻：1 件（木造薬師如来坐像 1 軀 ）
書跡：5 件（生馬大明神縁起 1 巻 ／ 生馬八幡宮略縁起 1 巻 ／ 紺紙金字大般若経巻第五百八十六 1 巻 ／
国宝 法華経(一品経) 寿量品・法師功徳品 2 巻 ／ 重要文化財 大般若経(安倍小水麻呂願経) 142 巻 ）
工芸：3 件（重要文化財 金銅蓮華形磬 1 面 ／ 銅蓮華形柄香炉 1 柄 ／ 金銅能作性塔 1 基 ）

【補足事項】
・絵画部門の寄託品である釈迦三尊十六善神像は、鎌倉時代以降に流布した同画像の中でも、濃く鮮やかな彩色がよく残る優品。
・彫刻部門の薬師如来坐像は、保存修理の作業中に台座から造像当初の銘文が発見されて話題となった作品。
・書跡部門の 5 件のうち、生馬大明神縁起と生馬八幡宮略縁起は、いずれも大和の神祇信仰史の中でも重要な位置を占める往馬大社の歴史に関わる重要な典籍。大般若経は平安時代の装飾経の一例で、当館の展示活動の一つの柱である写経のテーマをより充実させることが期待できるもの。
・工芸部門の 3 件は、供養具 2 件と舎利容器 1 件であり、いずれも当館工芸部門の重要なテーマに関わる作品で、展示の充実に寄与しうる。

なお寄託品総件数は昨年度に比べ 2 件減少したが、これは東大寺からの寄託品のうち 14 件を、東大寺ミュージアムのオープンにともない寺へ返還したことによる。これ以外は、9 人の所蔵者から新たに 12 件寄託を受け入れることができ、寄託品を増加させるための努力は着実に結実していると考える。



木造薬師如来坐像

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
新規寄贈品件数	0 件	－	－		2	4	3	8
寄託品件数	1,945 件	－	－		2,057	2,067	1,957	1,947
うち新規寄託品件数	12 件	－	－		113	15	9	6

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1124

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	主任研究員　原田あゆみ

【実績・成果】
1)寄贈　1件
（内訳：金工1件）

新規寄託　17件
（内訳：絵画9件、書跡1件、彫刻　1件、染織1件、考古5件）

【補足事項】
・室町時代の「金銅阿弥陀不動毘沙門天像懸仏」1面の寄贈を受けた。
・絵画分野の新規寄託品は、東アジアにおいて広く信仰された地蔵菩薩の霊験譚にもとづいた絵巻と、中国・唐時代から五代時代にかけて活躍した画僧である禅月大師・貫休(832-912)の伝承作品との関係が注目される水墨画の他、大分県の妙心寺派寺院に伝わり、当館の平成23年度特別展「黄檗」に出陳された作品や、臨済宗祖師像などで、東アジアにおける絵画史を考える上で重要な作品である。
・彫刻分野の新規寄託品の1件は、平安時代後期の特色が顕著な半丈六の如来坐像で、展示効果が高い。
・染織分野の新規寄託品は大分県の妙心寺派寺院に伝わった袈裟で、絵画資料とあわせて文化交流展示の「仏教美術」において活用が期待される。
・考古分野の新規寄託品の5件はいずれも、日本の古墳時代における中国文化の受容の様相を示す資料として、当館の文化交流というテーマにおいて欠くことのできない資料である。また、渡来系の金工技術や古墳時代後期の階層制を示す実物資料として重要な資料であり、有効な活用が期待される。
・なお、寄託品を95件返却したが、うち3件は購入の運びとなった。


絹本墨画羅漢図

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
新規寄贈品件数	1件	－	－		10	7	0	4
寄託品件数	1,219件	－	－		1,091	1,105	1,256	1,297
うち新規寄託品件数	17件	－	－		214	46	197	50

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4館共通)
1)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
(東京国立博物館)
1)列品存在確認作業(棚卸)を継続して計画的に実施する。
2)歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進める。

担当部課	学芸研究部列品管理課 学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　富田　淳 課長　神庭信幸

【実績・成果】
(4館共通)
1)本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として1,187件の保存カルテを作成し、蓄積した。
(東京国立博物館)
1)平成20年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。
2)旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。

【補足事項】
・列品調査86件、対症修理の実施493件、列品貸与の点検608件、合計1,187件の保存カルテを作成した。

・列品情報整備事業の本格調査3年目にあたる本年度は、絵画・書跡・彫刻・建築・金工・刀剣・陶磁・漆工・染織・考古・民族・法隆寺宝物・和書(徳川本)・東洋漆工・東洋考古・東洋土俗の諸分野で作業を進めた。平成23年度の調査件数は68,555件である。

※保存カルテ作成件数の計数方法については、23年度より収蔵品及び寄託品のみを対象とし、特別展等の借用品における応急修理時の保存カルテ作成分は含まないものとした(22年度までは含む)。

※(参考)従来の計数方法による23年度実績：1,641件


列品情報整備の作業(考古)

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存カルテ作成件数 (23年度より計数方法変更)	1,187件	－	－		1,725	2,693	1,989	2,368

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1212

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
　収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4 館共通)
1)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
・旧収蔵庫から東収蔵庫に収蔵品を移動して4年が経過しており、箱に納入されていない文化財に関して保存状態を点検し、必要な手入れを行った。
・半年おきに定期的に実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。

1)貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテについて、今年度は249件を作成した。

【補足事項】
・東収蔵庫内での収蔵品管理の状況を確認するために、収納箱等に収納されていない屏風、襖絵、板絵等を対象に保存状態を点検し、襲木の塵埃等を除去するなどの手入れを行った。
・収蔵品の増加に対応して、より効率的な収納を目指すため、東収蔵庫の軸装品用小型棚3、彫刻用床置き二段棚6を作製し、比較的小形の作品の効率的な収納保管を工夫した。
・今年度は、細見美術館の「典雅なる御装束―宮廷のオートクチュール」展、静岡県立美術館の「京都千年の美の系譜展」において、当館の館蔵品を多数貸与したことから、保存カルテの作成数が増加した。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存カルテ作成件数	249 件	－	－		140	174	214	108

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1213

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2) －1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
　収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4 館共通)
1)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
(奈良国立博物館)
1)文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
(4 館共通)
1)保存カルテの作成
・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成･保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、130 件を順調に作成した。
・保存カルテのコンディション評価欄に記入されたＡ～Ｅの 5 段階評価についてデータを集計し、現在構築中の館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。
(奈良国立博物館)
1)文化財保存修理所の運用
・学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の 3 工房代表者との懇談会である今年度第 1 回目の文化財保存修理所協議会を 6 月 8 日(水)に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。
・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、3 回実施した。

【補足事項】
・12 月 6 日から 12 月 25 日まで当館西新館北第 1 室において保存修理指導室が中心となり準備した特集陳列「新たに修理された文化財」を開催し、近年に文化財保存修理所各工房などで修理が実施された当館館蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで(14 件展示)、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。
・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介することを目的に案内パンフレットを 2,000 部作成し、修理所公開や修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布。
・平成 24 年 2 月 15 日に平成 21 年から続く文化財保存修理所一般公開を開催し、修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。


特集展示「新たに修理された文化財」展示風景

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存カルテ作成件数	130 件	－	－		103	108	114	218

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1214

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4 館共通)
1)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
(九州国立博物館)
1)博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存を図る。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　本田光子

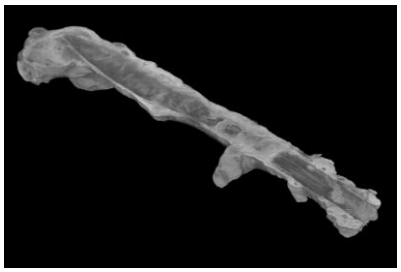
【実績・成果】
(4 館共通)
1)収蔵品および修理完了資料を中心とした保存カルテを作成した。
(九州国立博物館)
1)展示品を中心に X 線 CT スキャナ、三次元計測装置や三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は文化財の予防的保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設 1～6 を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。

【補足事項】
(4 館共通)
1)保存カルテの作成は、修理完了作品の他、収蔵品の中から計画的に対象を選定して行っている。本年度は、昨年度に引き続き、所蔵染織品と寄贈陶磁器の保存状況を調査しカルテを作成した。



染織品保存カルテ

(九州国立博物館)
1)特別展『黄檗展』に展示した隠元隆琦倚像、関帝倚像、釈迦如来坐像等の X 線透過撮影と X 線 CT 調査を実施し、諸像の構造・技法と保存状態を詳細に調査・記録した。その結果、像内納入品の発見など 17 世紀後半における仏像研究に関して貴重な発見となった。
　特別展『細川家の至宝展』に展示した金銀玻璃象嵌大壺、金銀錯狩猟紋鏡､銀人立像等について X 線 CT スキャナや三次元計測装置による構造技法調査を実施した。その結果、これまでに知られていなかった製作技法を発見した。
　また、文化交流展示で展示中の長崎県松浦市鷹島海底沖発見の元寇関連海底遺物に関連して、松浦市教育委員会と協力して海底で錆びついた金属遺物の構造と保存状態の調査を実施した。海底で錆びた武器を X 線 CT 調査することよって、モンゴル軍が使用した武器の実態や遺物の保存状態を明らかにすることができた。その調査成果は松浦市鷹島海底遺跡総集編に掲載した。
　文化交流展示で展示した中国青銅器について、X 線 CT スキャナや三次元計測装置による構造調査を実施すると共に三次元プリンタを利用してデジタル複製品を製作した。このデジタル複製品を中国古代青銅器の技法を分かり易く示す展示品として活用した。


X 線 CT スキャナによる長崎県松浦市鷹島海底遺跡出土遺物の調査
(モンゴル軍が使用した片刃の矛)

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存カルテ作成件数	107 件	－	－		252	289	205	101
CT スキャン調査	60 件	－	－		35	40	44	60
三次元計測	55 件	－	－		20	42	45	58

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221

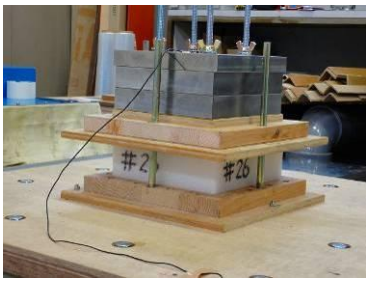
中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】
　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。
(4館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。
(東京国立博物館)
1)東洋館の耐震補強改修工事に伴う展示環境の整備を図り、よりよい展示を目指す。
2)本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。
3)収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。
4)展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。
5)収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。
6)輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　神庭信幸

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵庫など441地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。
(東京国立博物館)
1)東洋館収蔵庫の工事完了に伴い、内部の空気成分の調査を行うとともに、空調運転による環境改善を図った。
2)本館地下1階特8収蔵庫を屏風及び掛け軸など絵画専用倉庫として整備した。本館地下1階埴輪収蔵庫に空気清浄機を導入し、ホルムアルデヒドなどアルデヒド類の軽減を図った。
3)収蔵庫及び展示室など432地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温室度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。
4)東洋館既存収蔵庫内の収納棚に対して落下防止対策の設置を検討し、設置した。
5)収蔵庫、展示室など169箇所の温湿度に関し、3段階に環境を分類(クラスⅠ、Ⅱ、要注意)した平成23年次報告書を作成した。
6)文化財の梱包に頻繁に使用される緩衝材が輸送中の振動・衝撃を伝達する際に現れる特性について、発泡ポリエチレン(サンテックフォーム)について引き続き調査を行った。また作品の借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し4件(北京故宮展における輸送など)の輸送状態を調査した。

【補足事項】
・中国梱包シンポジウム(ISTA China 2011)(9月21日、蘭州交通大学(蘭州))において「Applying CAE Simulation with Vibration Experiment to Evaluate a Vibration Isolator」を発表した。(神庭 信幸他)
・文化財保存修復学会第33回大会(6月4日・5日、奈良)において「文化財梱包に用いる緩衝材の適切な使用法の検討-ワイヤーロープの振動特性」を発表した。(和田浩他)



文化財梱包に用いる緩衝材の振動特性実験

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1222

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】
　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。
(4館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。
(京都国立博物館)
1)引き続き、平常展示館建替工事を実施する。
2)平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。
3)特別展示館(重要文化財 旧帝国京都博物館本館)の耐震調査の結果を基に、地震対策を具体的に検討する。
4)特別展示館の環境及び当該地域の気象を勘案し、文化財への負荷を減らすことを目的とした空調のミニマムインターベンション(最小限の干渉)運用の向上を図る。

担当部課	学芸部列品管理室 学芸部文化財管理監	事業責任者	室長　鬼原俊枝 文化財管理監　中村康

【実績・成果】
(4館共通)
1)ＩＰＭの徹底について、収蔵庫の生物生息及び温湿度状況を把握するため、継続的なモニタリングと定期的な調査を行った。東収蔵庫の環境を維持するために、清掃を行った。
(京都国立博物館)
1)平常展示館建て替え工事は25年度中開館に向けて進んでおり、24年度4月中に上棟予定である。
2)東収蔵庫各収蔵室の清掃、空調フィルタの交換等を行うとともに、継続的な生物環境調査を行った。また、中央制御室における収蔵庫の温湿度管理に加えて、東収蔵庫の各収蔵庫の代表温湿度の記録をデータロガーによって継続的に行った。
3)委員会にて承認された特別展示館耐震補強方針について文化庁と協議を行ない免震化計画に対する理解を得た。
4)温湿度設定を状況に応じて調整することにより、冬季の展示場を除いて保存環境の改善を行った。

【補足事項】
(保全業務)
・空調設備機器については、予防的なメンテナンスをきめ細やかな運転監視によって、展示室及び収蔵庫の温湿度環境の適正管理を行った。
・既存の温湿度センサーは壁面にあるため、東収蔵庫の各収蔵庫のより中央近くにデータロガーを設置して各室の温湿度の代表値とすることとし、温湿度の 24 時間モニタリングを開始した。
・中高性能フィルター及び活性炭フィルターの更新を行った。
・夏季と冬季については、節電要請に応じるために、空調停止実験を行い、作品に影響が生じない範囲での実施方法を策定し、一部で実施した。
・平常展示館開館準備会議を開催し、審議、検討を行った。
(特別展示館)
・展覧会期中の開館前に個々の陳列品の保存環境を点検した。
・データロガーによる展示ケース内の温湿度モニタリングを行い、これに基づいて温湿度の調整を行った。
・7 月と 10 月の展覧会準備期間中に展示ケースと観覧者フロアの蒸散性殺虫剤の散布を行った。
・汚れている本館内北側の陳列ケース床面のクロスを貼り替えた。


収蔵庫床の拭き取り調査状況

(収蔵庫)
・ＩＰＭの徹底を図るため、東収蔵庫の歩行性昆虫生息調査を 100 カ所で 1 ヶ月ごとに行い、さらに各収蔵室で浮遊菌調査及び拭き取り調査により、収蔵庫環境のモニタリングを行った。その結果を踏まえて、冬季に昆虫が侵入し易い機械室の清掃の徹底を図り、昆虫の侵入口となりうる隙間の閉塞工事を行った。なお、各収蔵室等清掃後、収蔵庫各室の歩行性昆虫生息調査及び塵埃のモニタリングを継続するとともに、本館収蔵庫においても浮遊菌調査及び歩行性昆虫調査を約 90 カ所で継続している。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1223

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】

展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。

(4館共通)

1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。

(奈良国立博物館)

1)展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線ＬＡＮによるデータ管理システムを更に充実させる。

2)展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。

3)収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】

(4館共通)

1)・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを1ヶ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。

・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。

・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。

(奈良国立博物館)

1)展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムを導入し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することを可能とした。

2)・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線ＬＡＮ温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。

・正倉院展終了直後の11月15日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともに行った。

3)展示室内の温湿度については無線ＬＡＮ温湿度管理システムにより24時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各5箇所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。

【補足事項】

・防虫トラップは展示室収蔵庫文化財保存修理所等150箇所に設置し、1ヶ月ごとに回収したものを外部業者に調査委託し、その結果分析を行い、文化財害虫の侵入の防止に努めた。

・新造ケースの残留ガス(VOC)をチェックするため、外部機関に検査を依頼するとともに、館内でもパッシブインジケータを利用した独自検査を実施した。

・自動調湿装置を内蔵した免震ケースを新造し、気象条件や多数の観覧者など外的要因で展示室内の温湿度環境に変動が生じた場合でも、展示ケース内の温湿度を安定して好条件に保つことができた。



文化財害虫調査用トラップ

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】

展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1224

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】
　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。
(4 館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。
(九州国立博物館)
1)館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。
2)全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　本田光子

【実績・成果】
(4 館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭの徹底を図った。文化財搬入に際し、ＩＰＭメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。
(九州国立博物館)
1)常設展示室 70、特別展示室約 30、収蔵庫 30 箇所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。
2)環境データを解析することで、極めて安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。

【補足事項】
・開館 7 年目で展示・収蔵環境をより安定させることができた。今後は安定化を維持しつつ、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。

・収蔵庫・展示室等の約 300～400 ヵ所に常時粘着トラップを設置し年間を通して、2 週間おきに定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期に発見対処する体制を維持した。

・地元ＮＰＯ法人やボランティア活動との連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。展示室等一般来館者エリアの温湿度記録や生物モニタリングには、引き続き今年度も両者の協力を得た。

・平成 23 年度文化庁補助事業・ミュージアム活性化事業により「市民と共にミュージアムＩＰＭ」を実施することにより、ＩＰＭボランティア活動やＮＰＯ法人等によるＩＰＭ支援者活動へのさらなる指導をすすめることができた。

・殺虫殺黴処置は、特別展やトピック展あるいはイベント用資料等借用や持ち込み資料についての対応である。内訳は二酸化炭素処置 1 件、低酸素法処置 5 件。

・展示室の毛髪式自記温湿度計が安全かつ正確に機能するように、また記録紙の交換時の利便性も十分に考慮して毛髪式自記温湿度計設置台を製作し、文化交流展示室に 12 台、特別展示室に 4 台、エントランス・あじっぱ等に 5 台設置。


地元 NPO 法人によるインジケーター(トラップ)観察の様子


ボランティアによる記録紙交換の様子

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
殺虫殺黴処置	6 件	－	－		5	6	7	7

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　①計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
　修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1)作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから73件程度(東京：40、京都：10、奈良：8、九州15)の本格修理を実施する。
(東京国立博物館)
1)引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。
2)保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。(70件程度)

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　神庭信幸

【実績・成果】
(4館共通)
1)紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために947件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから106件の本格修理を実施した。うち重要文化財1件は寄付金による本格修理である。
(東京国立博物館)
1)修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む79件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期計画策定を行った。
2)データベース構築のために22年度に本格修理を実施した139件の内、修理が完了した114件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書Ⅻを刊行した。

【補足事項】
・重要文化財「五龍図巻」(中国北宋・13世紀)はバンク・オブ・アメリカからの寄付金により修理を開始した。

・東アジア文化遺産保存学会第2回大会(23年8月17日～18日、内モンゴル・フフホト市)において「東京国立博物館の臨床保存」を発表した。(神庭信幸他)

・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「東京国立博物館の対症修理―古い額を安全に利用するための工夫」を発表した。(土屋裕子他)

・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「「簡易万能型太巻芯」の利用と展開 -博物館における対症修理-」を発表した。(鈴木晴彦他)

・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「ポリエステルフィルムによるブックカバーの実用例-エンキャプシュレーションによる本の保護-」を発表した。(米倉乙世他)


列品番号A-10447「柳橋水車図屏風」の修理風景

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
修理件数(本格修理)	106件	40件	S		101	75	106	139
文化財修理データベース化件数	114件	70件程度	S		97	85	53	98

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　①計画的な修理及びデータの蓄積

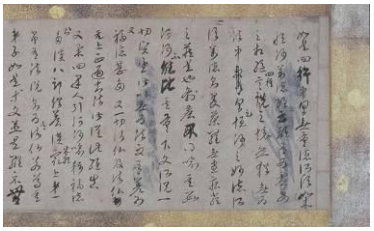
【年度計画】
　修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1)作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから73件程度(東京：40、京都：10、奈良：8、九州15)の本格修理を実施する。
(京都国立博物館)
1)文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(4館共通)
1)・館費による修理に加えて、外部資金の導入を図り、財団の修理助成による助成金を2件得た。また、個人から当館に寄せられた文化財修復のための寄付金を有効に用いた。
・修理請負候補者の選定にあたっては、公平性、透明性とともに、企画競争の内容がより技術力主体の競争となるよう、企画書の内容を改訂した。
・修理請負候補者選定の公平性、専門性を高めるため、外部委員を増やした。
実績　10件　内訳は絵画1件、書跡4件、彫刻1件、漆工2件、染織1件、考古1件。
(京都国立博物館)
1)引き続き文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図った。

【補足事項】
・修理事業費における外部資金の導入に努め、朝日新聞文化財団の助成を得て、国宝病草紙10面の大規模修理事業(4カ年間助成額約2000万円)の実施が決定した。また重要文化財紙本著色若狭国鎮守神人絵系図1巻の解体修理に、出光文化福祉財団による800万円の助成が決定した。ともに来年度事業開始の予定。
・当館の収蔵品修理のために寄せられた寄付金を用いて書跡の国宝金剛般若経開題残巻(弘法大師筆)1巻の解体修理を2カ年事業として今年度より開始した。
・修理に関しては、修理契約委員会において、作品ごとに契約方法を決定し、新規事業5件を企画競争、同4件を随意契約とした。他1件は昨年度からの継続事業である。
・2回開催した修理請負候補者選定委員会のうち第1回委員会では、企画書の内容を大きく改訂し、第2回委員会ではさらに外部委員を分野別として増やし、公平性及び専門性の向上を図った。
・館蔵品の修理は緊急性の高いものから実施するよう努め、来年度以降4カ年の修理計画の策定を開始した。


国宝　病草紙　歯槽膿漏の男


国宝　金剛般若経開題残巻　弘法大師筆

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
修理件数(本格修理)	10件	10件	A		15	17	5	9
文化財修理データベース化件数	118件	－	－		－	112	114	106

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　①計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
　修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4 館共通)
1)作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから 73 件程度(東京：40、京都：10、奈良：8、九州 15)の本格修理を実施する。
(奈良国立博物館)
1)修理の中長期的計画を策定する。
2)修理資料のデータベース化に備えて、継続して年度毎の修理データを蓄積する。
3)寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
(4 館共通)
1)・館蔵品修理 11 件のうち、新規 6 件、継続事業 5 件を実施した。
　内訳　絵画3件
　(※うち国宝 紙本墨画淡彩山水図1件は2ヶ年継続事業の2年目。重要文化財絹本著色十王図1件は3ヶ年継続事業の1年目)
　書跡2件
　(※うち重要文化財　紺紙金字一字宝塔法華経1件は2ヶ年継続事業の1年目)
　彫刻 1 件
　考古資料 5 件
　(※うち二塚古墳出土遺物 1 件は 3 ヶ年継続事業の 3 年目、珠城山 1 号墳出土遺物以下 3 件は 2 ヶ年継続事業の 2 年目)
・年度内に 9 件が完了した。
(奈良国立博物館)
1)平成 22 年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。
2)前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』14 号(平成 24 年 3 月刊行)に「奈良国立博物館文化財保存修理所　修理一覧(平成 22 年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。
3)寄託品 3 件について財団からの助成を受けて修理を実施した。

【補足事項】
・賛助会員や協賛企業からの寄付金を館蔵品修理費に使用する規定を新たに策定し、これに基づいて絹本著色十王図(陸仲淵筆)および紺紙金字一字宝塔法華経の重要文化財 2 件の修理に新規着工した。
・寄託品修理については、住友財団の助成によって大阪・施福寺所蔵舎利厨子修理(住友財団助成)、出光福祉文化財団の助成によって大阪・一心寺所蔵刺繍法然上人絵伝修理、出光文化福祉財団・朝日新聞文化財団の助成によって海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅修理にそれぞれ着手した。



館蔵春日宮曼荼羅の解体修理に伴う表装裂取り合わせ検討風景

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
修理件数(本格修理)	11 件	8 件	A		10	8	11	9
文化財修理データベース化件数	54 件	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　①計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】

修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。

(4館共通)

1)作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから73件程度(東京：40、京都：10、奈良：8、九州15)の本格修理を実施する。

(九州国立博物館)

1)博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。

2)修理資料のデータベース化の調査を実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	保存修復室長　藤田励夫

【実績・成果】

(4館共通)

1)館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財32件(本格修理19件、応急修理13件)を修理した。

(九州国立博物館)

1)九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理19件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて51件の修理を実施した。(施設内修理47件、施設外修理4件　合計51件)また、漆工修理作品の増加に伴い、漆風呂を1台新調した(3台目)。

2)修理報告書および修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。

【補足事項】

(4館共通)

1)館費による修理件数32件(本格19、応急13)
(絵画10(うち応急5)、書跡2(うち応急1)、漆工3(うち応急0)、考古4(うち応急1)、歴史資料13(うち応急6))

(九州国立博物館)

1)修復施設1～3では、(社)国宝修理装潢師連盟が館所蔵品14件のほか、国宝・那覇市所蔵琉球国王尚家関係資料文書記録類や重要文化財・京都国立博物館所蔵旧円満院宸殿障壁画など20件の修理を実施した。
　修復施設4では(財)美術院が2件、5では(株)芸匠が5件、6では目白漆芸文化財研究所が6件の館所蔵品等の修理を実施した。



修復施設3での修理風景

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
修理件数(本格修理)	19件	15件	A		22	25	24	19
文化財修理データベース化件数	－	－	－		－	－	－	－
修復施設の活用(補助事業等)	19件	－	－		8	15	26	23
表具裂データ	0件	－	－		42	32	24	9

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】

修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311-2

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　②科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　神庭信幸

【実績・成果】
(4館共通)
1)絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を1件(B-3161 偈頌)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析7件(TJ-2898 刻文匝など)、Ｘ線透過撮影13件(C-20 菩薩立像、A-1459 花車図屏風など)、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影3件(A-1069 檜図屏風、TA-363 五龍図巻など)、テラヘルツ波分析1件(A-1069 檜図屏風)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。

【補足事項】
・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「博物館における包括的保存システムの構築に関する研究(その3)」を発表した。(神庭信幸他)

・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「文化財分野における、デジタルエックス線撮影の現状と課題」を発表した。(荒木臣紀他)

・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「テラヘルツ波イメージングの一事例―柳橋水車図屏風(東京国立博物館蔵)の修理前調査を例として―」を発表した。(沖本明子他)


Ｘ線透過撮影作業

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312-2

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　②科学的な技術を取り入れた修理

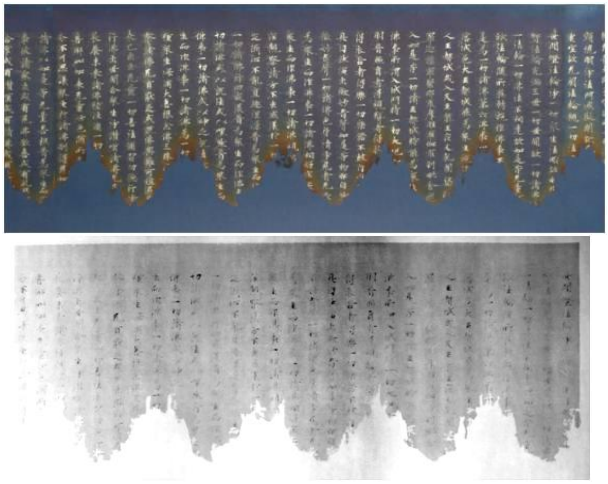
【年度計画】
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員　村上　隆

【実績・成果】
(4館共通)
1)当館が所蔵する「紺紙銀字華厳経断簡(二月堂焼経)」を同館文化財保存修理所の(株)光影堂において修理を行った。本紙料紙および裏打紙は楮繊維、表紙は雁皮繊維という紙繊維組成検査を踏まえて紺紙を作成し補修を行った。
2)続いて銀文字部分に対して、顕微鏡観察、Ｘ線透過撮影、蛍光Ｘ線分析を行い、本紙から脱落した銀泥の小片に対して走査電子顕微鏡(SEM)観察と分析により、銀泥粒子の詳細を探った。修理工程は、巻子装の解装、本紙の汚れ除去、旧裏打紙及び旧補修紙の除去、本紙欠失箇所への補修、裏打(3層)後、巻子装1巻に仕立てた。旧裏打紙及び旧補修紙を除去した段階で、学芸部が銀字部分の科学的調査を実施した結果、文字はすべて銀で書かれており、本経を「プラチナ経」と呼ぶことはふさわしくないことがわかった。

【補足事項】
銀泥は、大きさ5～20μｍ程度の粒子の集合体であり、粒子が薄く扁平に均された様子が窺え、銀泥で書かれた文字の上を猪牙などでみがいた痕跡と考えられる。本研究を通して、文化財修理に伴い、可能な範囲で科学的手法を用いて材質を正確に特定することは、文化財研究においてたいへん重要であることを再認識することができた意義は大きい。

この研究成果は、平成23年6月、文化財保存修復学会第33回大会で発表した。



上：「紺紙銀字華厳経断簡(二月堂焼経)」第四紙
(京都国立博物館蔵)
下：透過Ｘ線像
Ｘ線像は、銀泥の濃淡を反映し、写経者の筆の運びを読み解くことができる。

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313-2

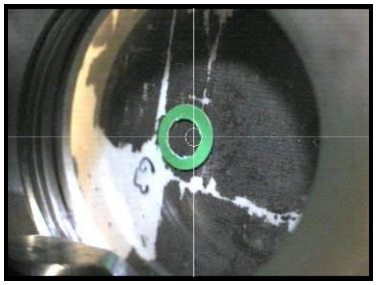
中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　②科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
(奈良国立博物館)
1)木造作品について、可能なものは木材樹種同定の調査を行い、作品の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのＸ線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
(4館共通)
1)館蔵紺紙金字一字宝塔法華経〈巻第三、第五〉、館蔵法華経巻第二(蝶鳥下絵料紙)の修理に際して料紙の繊維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。
2)・館蔵春日宮曼荼羅の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光Ｘ線分析を実施した。
・寄託品の海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅の修理に際し、ポリライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、補絹の状態確認を行った。
(奈良国立博物館)
1)当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品2件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』第14号に掲載した。
2)古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料5件の修理に際し、Ｘ線撮影及び蛍光Ｘ線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。

【補足事項】
・文化財保存修理所各工房が当館館蔵・寄託品を修理するに際して文化財調査を学芸部研究員と共同で実施し、データの収集・共有化に努めた。また同調査を円滑に進めるために当館の備品である光学機器(高精細デジタルカメラ、蛍光Ｘ線分析器、ポリライト)を積極的に利用した。
・京都大学生存圏研究所との間で新たに覚え書きを交わし、従来から継続している木質文化財の樹種同定調査を今後も円滑に進めていくことを確認した。



館蔵春日宮曼荼羅修理時における
肌裏顔料の蛍光Ｘ線調査

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314-2

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　②科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	保存修復室長　藤田励夫

【実績・成果】
(4館共通)
1)群童遊戯図屏風、徳川家康交趾渡海朱印状等の紙本作品9件について繊維同定を行った。
2)・羅漢図、奈良国立博物館所蔵諸宗祖師像の絵画2件について顕微鏡観察と蛍光Ｘ線分析、エミシオグラフィー撮影を行ない、使用された絵の具の調査を行った。
・重要文化財亀甲地螺鈿鞍、重要文化財孔雀鎗金経箱、重要文化財菊蒔絵手箱の漆工品3件についてＣＴ撮影を行い内部構造と損傷状況を調査した。紫外線蛍光観察も行い、修理履歴の有無を調査した。
・重要文化財菊蒔絵手箱についてＦＴ－ＩＲ分析およびラマン分光分析を行い、過去の修理で使用された塗料を調査した。
・新羅古墳資料についてＸ線透過写真撮影を行い、損傷状況を調査した。

【補足事項】
博物館内に修復施設と分析機器が設置されている特色を生かし、修理技術者、絵画、書跡、漆工、彫刻、考古などの各専門分野を持つ研究員、文化財科学専門の研究員の3者が共同で修理作品の調査、検討を行い、最善の修理を行うことができた。
特に、絵画作品の裏彩色など修理中でしか見ることができない部分について、科学分析を行うとともに、上記3者による調査、検討を行えたことは、作品の材質と技法についての貴重な情報となった。そのデータは、今後、類似文化財の修理にあたって参考になるだけでなく、作品の価値をも高めることにつながり大変意味深い。
例えば、文化財科学専門の研究員は、【実績・成果】に記したように多くの調査を実施した。このことにより、作品の材質や技法、構造を詳しく知ることが可能となり、安全かつ適切な修理の実施に裨益するところが非常に大きかった。また、絵画、書跡、漆工、彫刻、考古などの専門を持つ研究者と協議しながら修理を進めることができたので、各作品の特色を踏まえ、取り扱いや保管、展示についても十分に考慮した修理ができた。このように、館内で打ち合わせを密にしながら修理を進められる環境にあることが、たいへん有意義である。



羅漢図の裏彩色(部分)
エミシオグラフィー像

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
科学的調査	24件	－	－		10	10	7	7

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　機構本部・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号　1320

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－2　国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。

【年度計画】
(機構本部・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館)
1)文化財保存修理所に関する規定を整備する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　藤本　慎也

【実績・成果】
1)平成23年1月の業務方法書の改正に伴い、これまで明確な位置づけが図られていなかった文化財保存修理所(京都国立博物館、奈良国立博物館)及び文化財保存修復施設(九州国立博物館)の設置に対し、本部規程第81号「独立行政法人国立文化財機構文化財保存修理所等の供用及び運営に関する規程」において修理所等の供用及び運営に関する規程を制定し、平成23年4月1日より施行した。

【補足事項】
独立行政法人国立文化財機構文化財保存修理所等の供用及び運営に関する規程（概要）
第１章　　総則
第２章　　運営委員会
第３章　　修理所等の使用者及び修理等を行う文化財
第４章　　修理所等の使用許可
第５章　　雑則

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号 1330

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－3　収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。

【年度計画】
収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部列品管理室 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館総務課	事業責任者	課長　富田　淳 室長　鬼原俊枝 課長　中村　恵 課長　岩﨑英明

【実績・成果】
(東京国立博物館)
東洋館の収蔵庫改修工事の完了に伴い、本館地下収蔵庫等に収納していた東洋関係の文化財を、東洋館の収蔵庫に移動した。これを受けて、絵画・漆工等の文化財をより効率的に収納できるよう収蔵庫の配分を再検討し、新規収納棚等を設置した。新絵画収蔵庫には、屏風を効率良く収納できる専用棚を設計・発注した。東洋館の収蔵庫については、効率的な収納および安全確保のため、ストッパー付き可動棚を設置し、落下防止柵の設置を検討した。

(京都国立博物館)
・収蔵品の増加に伴い、東収蔵庫に保管される作品の一部を移動整理し、より効率的な収納を図った。

(奈良国立博物館)
・増加し続ける研究用図書を収納すべく書架の増設・再配置を行った。
・収蔵庫等の温湿度環境の測定を実施し、改善・処置を行った(収蔵庫内空調設備の改修)。
・デジタルカメラ等撮影機材や画像用サーバーの更新・増強を行った。
・一時保管庫の窓をペアガラスに変更した。
・光学調査室内に区画を設け、収蔵スペースを確保した。

(九州国立博物館)
・九州国立博物館では、新しい収蔵スペースの確保等について検討中である。

【補足事項】


光学調査室内に設置したパーテーション
(奈良国立博物館)

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2111-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1 平常展

【年度計画】
　展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。
(4館共通)
平常展来館者数について、22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(東京国立博物館)
ア　定期的な陳列替の実施(年4,000件程度)
イ　陳列総件数　約5,500件(東洋館閉館のため)
ウ　本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。
エ　平成24年度の東洋館開館に向け準備を進める。
オ　特集陳列
　　平成23年度は東洋館が改修工事のため通年休館となり、特集陳列を実施する展示場が減少するため特集陳列の数は例年より減らさざるをえない。東洋館展示の代替として、本館においても東洋美術・考古の特集展示を実施する。
・和鏡-鏡に表された文様の雅(4月26日～7月10日)
・日本の仮面(12月6日～2月5日)
・「博物館に初もうで」(平成24年1月2日～1月29日)等
カ　文化庁関係企画
・「平成23年 新指定 重要文化財」(仮称)(4月26日～5月8日)
　　平成23年に新たに重要文化財に指定される文化財を展示する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　富田　淳

【実績・成果】
(4館共通)
　東日本大震災の後、安全確認のため4月中は開館時間を10:00～16:00とし、表慶館、法隆寺宝物館及び黒田記念館を休館した。また、夏季の節電のため6月30日～10月8日は、黒田記念館を休館した。
(東京国立博物館)
ア　計画に従い、定期的な陳列替を実施した(4,914件)。
イ　陳列総件数(7,394件)。
ウ　展示ケースの修理点検、保存環境の向上を図った。季節のイベントの際に見どころとなる作品について、表示方法を統一し、展示をより整美なものとした。また、解説パネルへのデジタルサイネージの導入、解説を補う手段としてのデジタル展示ケースなど、新たな表現手段を試行した。
エ　東洋館展示検討ワーキンググループにおいて、展示の構成、展示台等の設計を進める一方、教育普及事業の基本方針についても討議し、「アジアの旅」をコンセプトとする基本方針を打ち出した。
オ　32件の特集陳列を実施した。
カ　「平成23年 新指定 重要文化財」を実施した(4月26日～5月8日)。

【補足事項】
※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。
・東洋館は改修工事のため通年休館した。東洋美術・考古の代替展示を行っていた表慶館は、東洋館リニューアル準備に伴う物品移動のため23年12月26日より休館し、日本美術を展示する本館の一部にて引き続き、東洋美術・考古の特集展示を随時実施した。

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
平常展来館者数　(23年度より黒田記念館を含む)	324,597人	362,470人	B	経年	334,297	412,675	330,536	373,068
陳列替件数	4,914件	4,000件程度	A	変	319	319	316	290
陳列総件数	7,394件	5,500件程度	A	化	10,223	7,172	6,601	5,610
特集陳列等実施回数	32件	－	－		84	79	66	53

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2112-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)展覧事業の充実　①－1 平常展

【年度計画】
(4館共通)
平常展来館者数について、22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(京都国立博物館)
平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、静岡県立美術館にて「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」を開催(特別協力、10月22日～12月4日)するとともに、細見美術館にて当館所蔵品による特別展「宮廷のオートクチュール」を開催する。(特別協力、10月1日～11月27日)また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　久保智康

【実績・成果】
(4館共通)

(京都国立博物館)
平常展示館建替工事にともない、平常展示を休止した。
そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をＨＰで公開した。
・「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」(静岡県立美術館、10 月 22 日～12 月 4 日)への特別協力
(詳細は処理番号 2122-5 を参照。)
・「典雅なる御装束―宮廷のオートクチュール」(細見美術館、10 月 1 日～11 月 27 日)への特別協力
(詳細は処理番号 2122-6 を参照。)
・国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。

【補足事項】
・展示館建替に伴い「貸出し停止」措置をとる博物館・美術館が多い中、当館は積極的に貸出を行い、収蔵品の公開に努めた。
・ＨＰにおける貸出作品の情報公開(トップページ「館外での作品公開」)は、寄託作品や個人名を伏せるなどして、網羅的なリストを提示している。このような情報公開は、日本の博物館ではきわめて画期的なものといえる。

※京博については実績はないが、陳列替については、23 年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
平常展来館者数	－	－	－		165,080	141,965	－	－
陳列替件数	－	－	－		53	39	－	－
陳列総件数	－	－	－		1,611	1,081	－	－
特集陳列等実施回数	－	－	－		7	4	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。
なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市･京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成 26 年度までに開催する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2113-1-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－1 平常展　(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
　平常展来館者数について、22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(奈良国立博物館)
ア　活発な収集と新しい資料の発掘により名品展(平常展)の充実を図る。
・西新館　考古・絵画・書跡・工芸部門の名品展
　昨年度の耐震工事に伴い、展示ケースや照明等の設備を一新したところであり、この充実した設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。
・なら仏像館(1～13室)　彫刻部門の名品展
　昨年度実施した照明設備工事により、より魅力ある展示が行える空間となったことを活かし、奈良を中心に伝来した優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。
・青銅器館(中国青銅器の名品展)
　昨年度実施したリニューアル工事の成果を活かし、国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。
・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する。
イ～エ(略)

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
(4館共通)
　平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。
(奈良国立博物館)
ア　新装となった展示室の快適な展示環境のもとで、多数の優れた作品を名品展において展示し、その美を伝えることができた（西新館、なら仏像館、青銅器館)。
　また、最近 5 年間の新規収蔵品を紹介する「新収蔵品展」を試みるとともに、小テーマを設けての特集展示を下記のとおり 4 度にわたって実施した（西新館)。
「新収蔵品展」(9 月 13 日～10 月 2 日)　陳列件数 27 件
　特集展示「新たに修理された文化財」(12 月 6 日～12 月 25 日)　陳列件数 14 件
　　〃　「龍」(12 月 27 日～平成 24 年 1 月 15 日)　陳列件数 18 件
　　〃　「経典を写す・刻む・飾る」(平成 24 年 1 月 24 日～2 月 19 日)　陳列件数 12 件
　　〃　「東北の古瓦―泉官衙遺跡を中心に―」(平成 24 年 2 月 28 日～3 月 18 日)　陳列件数 6 件
　所蔵者である寺院において仏堂の改修、建て替え等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した（なら仏像館)。
　特別公開「海住山寺本尊　十一面観音像」(4 月 26 日～9 月 11 日)
　　〃　「東大寺法華堂　金剛力士像」(平成 22 年 7 月 22 日～平成 23 年 9 月 11 日)
　　〃　「金剛寺　降三世明王坐像」(10 月 4 日～平成 24 年 3 月 31 日)
　　〃　「大和高田・弥勒寺　弥勒仏坐像」(10月4日～平成24年1月29日)

【補足事項】
　年度を通して、国宝・重要文化財を多数含む高水準の仏教美術の展観を行うことができた。
　特集展示は昨年度より 1 回多い 4 回となり、干支にちなんだ「龍」や東日本大震災に関連しての「東北の古瓦」など、時宜に即した陳列も行うことができた。
　寺院における改修、改築に際して、寺院より本尊等重要な仏像の一時寄託を受け、これを特別公開する機会が増えている。安全な避難先として当館が認識されていることを物語るものと思うが、このような機会を生かし、ふだんあまり公開されない作品を一般に公開することができた。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
平常展来館者数	130,839 人	118,032 人	A		131,336	112,849	136,672	71,566

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2113-1-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－1 平常展　(2/2)

【年度計画】
(4館共通)
(奈良国立博物館)
ア(略)
イ　定期的な陳列替の実施(年400件程度)
ウ　陳列総件数　約700件
エ　特別陳列により名品展の充実を図る。
独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実
・「初瀬にますは与喜の神垣―與喜天満神社の秘宝と神像―」(7月16日～8月28日)
・「おん祭と春日信仰の美術」(12月上旬～平成24年1月中旬)
・「お水取り」(平成24年2月上旬～3月中旬)

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
イ　陳列替件数は、当初予定の400件を超える481件を数えた。
ウ　陳列総件数は、当初予定の700件を大きく超える1,092件に達した。
エ　特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣」(7 月 16 日～8 月 28 日)　陳列件数 45 件
　　〃　「おん祭と春日信仰の美術」(12 月 6 日～平成 24 年 1 月 15 日)　陳列件数 62 件
　　〃　「お水取り」(平成 24 年 2 月 11 日～3 月 18 日)　陳列件数 65 件

【補足事項】
特集展示・特別陳列等を除き、通常の名品展(平常展)における各会場毎の陳列件数は次のとおり。
珠玉の仏たち(なら仏像館)164 件
珠玉の仏教美術(西新館)　423 件
中国古代青銅器(青銅器館)256 件
※陳列替については、23 年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
陳列替件数	481 件	400 件程度	A		21	12	8	101
陳列総件数	1,092 件	700 件程度	S		928	605	717	340
特集陳列等実施回数	12 回	－	－		10	6	8	5

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2114-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－1 平常展

【年度計画】
(4館共通)
　平常展来館者数について、22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(九州国立博物館)
ア　定期的な陳列替の実施(年1,100件程度)
イ　陳列総件数　約1,700件
ウ　文化交流展(平常展)の部分的なリニューアルによって充実を図る。
エ　トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる(日程はいずれも予定)。
・「日本とタイ ふたつの国の巧と美」(関連9～11室　4月12日～6月5日)
・「館蔵水墨画名品展」(関連11室　9月28日～11月6日)
・「檀王法林寺展」(仮称)(関連9、10室　11月1日～12月11日)等

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
(4館共通)
　平常展来館者数は、大震災等の影響もあり、前中期計画期間の年度平均を確保することができなかった。
(九州国立博物館)
ア　定期的かつ計画的に陳列替えを実施し、1,373件の陳列替えを実施した。
イ　陳列総件数は2,417件を数え、目標値を大きく上回った。
ウ　他館と共催あるいは連携した事業展開を積極的に進めると同時に、館蔵品研究と展示における成果公表も行なった。
エ　独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を13回開催し、新鮮な展示を提供することができた。

【補足事項】
エ　23 年度に開催したトピック展示・特別公開のうち、特に注目すべき内容を持つものについて以下に記す。
- **日本とタイ ふたつの国の巧と美**(関連 9～11 室　4 月 12 日～6 月 5 日)
  平成 22 年度にタイ・バンコク国立博物館で開催した文化庁海外展の帰国展。イベント等と連携して日タイの文化交流を強く印象付ける機会となった。
- **「彫漆」**(関連 9 室,　6 月 14 日～7 月 31 日)
  館蔵品に東京国立博物館からの管理換え品を加え、最新研究成果を披露する初の試みとして開催した。
- **「斉明天皇と飛鳥」**(関連 8 室,　7 月 20 日～8 月 28 日)
  最新発掘成果の紹介を軸として、シンポジウム等と連動して開催した。九州とも縁が深いテーマであり、多くの来館者が見られた。
- **「館蔵水墨画名品展」**(関連 11 室　9 月 28 日～11 月 6 日)
  館蔵品に限定して一堂に紹介し、九博のコレクションの歩みを分かりやすく印象的に示し、たいへん好評を博した。
- **「九州最古の狩人とその時代」**(基本展示・関連 1 室　10 月 29 日～12 月 18 日)
  九州歴史資料館で開催した「日本列島発掘展 2011」に連動した、地域展。トピック展示としては初の旧石器時代をテーマとし、最新研究成果が示された。
- **「琉球と袋中上人」**(関連 9、10 室　11 月 1 日～12 月 11 日)
  京都と琉球の文化交流に注目したトピック展示。イベントとも連携し、好評を博した。



トピック展示「日本とタイ ふたつの国の巧と美」


トピック展示「館蔵水墨画名品展」会場風景

※平常展来館者数については、平成 17 年度～平成 22 年度は観覧券販売枚数による計数方法だったが、平成 23 年度より実来館者数の計数方法に統一した。
※陳列替については、23 年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
平常展来館者数	358,366 人	380,690 人	B		341,282	241,423	544,661	274,545
陳列替件数	1,373 件	1,100 件程度	A		375	386	431	334
陳列総件数	2,417 件	1,700 件程度	A		2,012	3,146	2,106	1,668
特集陳列等実施回数	13 回	－	－		5	17	22	12

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号 2110-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－2 展示説明の充実		
【年度計画】 (4館共通) 1)作品キャプションについては全てに英語訳を付す。 2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。			
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	列品管理課長　富田　淳 美術室長兼列品室長　岩田茂樹 企画課文化交流展室長　河野一隆

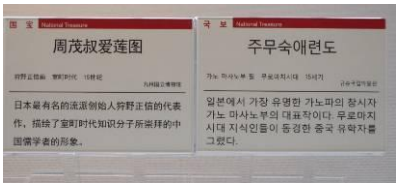
【実績・成果】
1)東京国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプションすべてに英語訳を付した。
2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも 80%以上設置した。
(東京国立博物館)展示テーマ数115件のうち、110件(96%)について外国語パネルを設置した。また、38件(33%)については中・韓国語での解説も付している。
(奈良国立博物館)展示テーマ数36件のうち、32件(89%)について外国語パネルを設置した。
(九州国立博物館)展示テーマ数 49 件のうち、46 件(94%)について外国語パネルを設置した。また、27 件(55%)については中・韓国語での解説も付している。

【補足事項】
・京都国立博物館は平常展示館建替工事にともない、平常展示は休止しているが英語訳を付けるべく作業を行っている。

(九州国立博物館)
・トピック展示「館蔵水墨画名品展」では主な作品については 3 ヵ国語の解説題箋をケース内に掲出し、アジア圏からの来館者サービスの向上に努めた。



トピック展示「館蔵水墨画名品展」
中・韓題箋
(九州国立博物館)



3 ヶ国語に対応したテーマ
表示題箋
(九州国立博物館)

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
外国語パネル等の設置				経				
東京国立博物館	96%	80%以上	A	年	95%	97%	97%	96%
京都国立博物館	－	－	－	変	100%	100%	－	－
奈良国立博物館	89%	80%以上	A	化	56%	77%	91%	84%
九州国立博物館	94%	80%以上	A		63%	82%	82%	83%

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号　2120

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展

【年度計画】
特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年 3～4 回程度
(京都国立博物館)
　年 2～3 回程度
(奈良国立博物館)
　年 2～3 回程度
(九州国立博物館)
　年 2～3 回程度

担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	学芸企画部長　　松本伸之 企画室長　久保智康 部長　　西山　厚 課長　　小泉惠英

【実績・成果】
(東京国立博物館)特別展を 7 回開催した。
(京都国立博物館)特別展を 6 回開催した。
(奈良国立博物館)特別展を 3 回開催した。
(九州国立博物館)特別展を 5 回開催した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
特別展等の開催回数				経				
東京国立博物館	7 回	年 3～4 回程度	S	年	5	8	12	10
京都国立博物館	6 回	年 2～3 回程度	S	変	3	3	5	5
奈良国立博物館	3 回	年 2～3 回程度	A	化	3	4	3	4
九州国立博物館	5 回	年 2～3 回程度	S		4	4	4	5

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年 3～4 回程度
(京都国立博物館)
　年 2～3 回程度
(奈良国立博物館)
　年 2～3 回程度
(九州国立博物館)
　年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/7)

【年度計画】
ア　特別展「写楽」(5月1日～6月12日)
　写楽作品を集成し、写楽の歴史的な意義及びその芸術性などを改めて考察。
　(目標来館者数16万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長　田沢　裕賀

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 5 月 1 日(日)～6 月 12 日(日)(41 日間)
・会　　場　平成館特別展示室第 1～4 室
・主　　催　東京国立博物館、東京新聞、NHK、NHK プロモーション
・協　　力　国際浮世絵学会
・後　　援　文化庁
・協　　賛　日本写真印刷、みずほ銀行、三井物産
・輸送協力　日本航空
・作品件数　286 件(うち重要文化財：22 件、重要美術品：19 件)
・来館者数　229,625人
・入場料金　一般 1,500 円(1,300 円／1,200 円)、大学生 1,200 円(1,000 円／900 円)、
　高校生 900 円(700 円／600 円)中学生以下無料
　＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　80%

　写楽の現存遺品を可能な限り集成して展示できたことで、写楽の歴史的な意義及びその表現の特質などを明らかにすることができた。

【補足事項】
　東日本大震災によって当初予定されていた会期の変更を余儀なくされ、海外作品の出品が困難な事態となったが、所蔵者の協力並びに関係者の尽力によって、概ね予定の作品を展示することができた。



重要文化財
三代目大谷鬼次の江戸兵衛
東洲斎写楽筆
東京国立博物館蔵

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	229,625 人	160,000 人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年 3～4 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/7)

【年度計画】
イ　「手塚治虫のブッダ展」(4月26日～6月26日)
　　手塚治の漫画「ブッダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を紹介。
　　(目標来館者数7万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長　松本　伸之

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 4 月 26 日(火)～6 月 26 日(日)(57 日間)
・会　　場　本館特別 5 室
・主　　催　東京国立博物館、東映、TBS
・協　　力　手塚プロダクション、日本通運、財団法人全日本仏教会、ニトリ、カラーキネティクス・ジャパン
・後　　援　文化庁、読売新聞社
・作品件数　72 件(うち重要文化財：6 件)
・来館者数　99,088人
・入場料金　一般 800 円(700 円)、大学生 600 円(500 円)、高校生 400 円(300 円)
　　中学生以下無料　＊(　)内は前売りおよび 20 名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　63%

　手塚治虫の漫画「ブッダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を展観した。当館でははじめての試みである漫画をわかりやすく展示することで、幅広い年齢層に対し、文化財への一層の関心を高めることができた。

【補足事項】



展覧会チラシ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	99,088 人	70,000 人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年 3～4 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/7)

【年度計画】
ウ　「空海と密教美術」展(7月20日～9月25日)
　　空海が広めた密教文化について、空海と同時代の文化財の特色等を広く一般に紹介。
　　(目標来館者数24万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	博物館教育課教育講座室長　丸山　士郎

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 7 月 20 日(水)～9 月 25 日(日)(61 日間)
・会　　場　平成館特別展示室第 1～4 室
・主　　催　東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHK プロモーション
・特別協力　総本山仁和寺、総本山醍醐寺、総本山金剛峯寺、総本山教王護国寺(東寺)、総本山善通寺、
　　遺迹本山神護寺
・協　　力　真言宗各派総大本山会、南海電気鉄道
・協　　賛　あいおいニッセイ同和損保、きんでん、大日本印刷、トヨタ自動車、非破壊検査
・作品件数　99 件(うち国宝：52 件、重要文化財：46 件)
・来館者数　550,399人
・入場料金　一般 1,500 円(1,300 円／1,200 円)、大学生 1,200 円(1,000 円／900 円)、
　　高校生 900 円(700 円／600 円)
　　中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度 77%

　空海が広めた密教文化について、真言各派に残る空海ないし同時代の文化財を展観し、さらに仏像曼荼羅を構成する東寺講堂の諸仏を展示したことなど、真言密教の造形を広く一般に紹介することができた。

【補足事項】
　会期中、作品に関わる事故が生じ、当該作品の万全な手当てを施した後、事故原因を徹底的に検討した。さらに、作品の取り扱いに関わる研究員に対して、研修の機会を設け、全館的に質の向上を資することとした。



展覧会ポスター

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	550,399 人	240,000 人	S		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年 3～4 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(4/7)

【年度計画】
エ　開館5周年記念特別展「加賀前田家と金春流」(10月1日～11月20日)
　　会場：金沢能楽美術館
　　東京国立博物館所蔵の金春座に伝来した能面と能装束を紹介。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉

【実績・成果】
・展覧会名　金沢能楽美術館　開館 5 周年記念特別展「東京国立博物館所蔵　金春座伝来　能面・能装束」
・会　　期　平成 23 年 10 月 1 日(土)～11 月 20 日(日)(43 日間)
・会　　場　金沢能楽美術館 2 階展示室
・主　　催　東京国立博物館、金沢能楽美術館［(公財)金沢芸術創造財団］
・作品件数　46 件(うち重要文化財：16 件)
・来館者数　8,206人
・入場料金　一般・大学生 300 円　　65 歳以上 200 円　高校生以下無料
　　団体(20 名以上)250 円

　当館が所蔵する金春座伝来の能面や能装束などをまとめて紹介したことにより、加賀藩の能の原点である金春流の能を改めて見つめ直す貴重な機会となった。

【補足事項】
本展における来館者数は、同館における過去最高のものとなった。



会場展示風景

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	8,206 人	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年 3～4 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-5

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(5/7)

【年度計画】
オ　法然上人800回忌・親鸞上人750回忌　特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」(10月25日～12月4日)
浄土宗・浄土真宗の開祖にちなむ歴代の寺宝を一堂に集めて展観。
(目標来館者数10.8万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	博物館情報課長　高橋　裕次

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 10 月 25 日(火)～12 月 4 日(日)(36 日間)
・会　　場　平成館特別展示室第 1～4 室
・主　　催　東京国立博物館、NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社
・後　　援　文化庁
・協　　賛　トヨタ自動車、日本写真印刷、三井住友海上火災保険
・特別協力　知恩院、増上寺、金戒光明寺、知恩寺、清浄華院、善導寺、光明寺(鎌倉市)、善光寺大本願、光明寺(長岡京市)、禅林寺、誓願寺、遊行寺、西本願寺、京都 東本願寺、専修寺、佛光寺、興正寺、錦織寺、毫摂寺、誠照寺、専照寺、證誠寺
・作品件数　189 件(うち国宝：11 件、重要文化財：83 件)
・来館者数　212,150人
・入場料金　一般 1,500 円(1,300 円／1,200 円)、大学生 1,200 円(1,000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)
中学生以下無料　＊（　)内は前売り／20 名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度 68%

鎌倉仏教を代表する二つの宗派の宗祖となった法然と親鸞ゆかりの名宝を一堂に集め展示したことで、浄土教の二大宗祖である二人の考え方や人物像について、理解をより深めることができた。

【補足事項】
展覧会の開催にあたって、作品選定等に長時間の調整が必要とされる企画内容であったため、共催社間、館内において情報が錯綜した点があり、より一層の迅速な情報の共有が求められた。



展覧会チラシ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	212,150 人	108,000 人	S		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年 3～4 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2121-6

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(6/7)

【年度計画】
カ　日中国交正常化40周年　東京国立博物館140周年　特別展「北京故宮博物院200選」（平成24年1月2日～2月19日）
　北京故宮博物院が所蔵する書画、工芸品等の優品を展示。
　（目標来館者数15.2万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課長　富田　淳

【実績・成果】
・会　　期　平成 24 年 1 月 2 日(月・休) ～2 月 19 日(日)(43 日間)
・会　　場　平成館特別展示室第 1～4 室
・主　　催　東京国立博物館、故宮博物院、朝日新聞社、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション
・特別協力　毎日新聞社
・後　　援　外務省、中国大使館
・協　　賛　三井物産、凸版印刷、あいおいニッセイ同和損害保険、華為技術日本(ファーウェイ・ジャパン)、
　　竹中工務店
・協　　力　全日本空輸、東京中国文化センター
・作品件数　200 件(うち一級文物 90 件)
・来館者数　258,252人
・入場料金　一般 1,500 円(1,300 円／1,200 円)、大学生 1,200 円(1,000 円／900 円)、
　　高校生 900 円(700 円／600 円)　中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度 60%

【補足事項】
　本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けている。
　本展開催にあたっては、在中国日本大使館及び文化庁に多大な尽力を頂戴することとなった。
　今回初めて中国の国外での公開となった「清明上河図巻」展示にあたっては、これまでにない長い待ち時間が生じ、来館者の鑑賞環境を著しく阻害することとなった。今後より一層展示に関わる方法論を検討する必要がある。



清明上河図巻　張択端筆
中国・故宮博物院蔵

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	258,252 人	152,000 人	S		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
　年 3～4 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-7

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(7/7)

【年度計画】
(年度計画外に実施)
特別展「孫文と梅屋庄吉―100年前の中国と日本」(7月26日～9月4日)
孫文と彼を支援した梅屋庄吉らに関わる古写真等を通じて、彼らの生きた時代の様相を展覧する。
(目標来館者数2.035万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長　松本　伸之

【実績・成果】
・会　　期　平成23年7月26日(火)～9月4日(日)(37日間)
・会　　場　本館特別5室
・主　　催　東京国立博物館、毎日新聞社
・後　　援　外務省、中国大使館
・特別協力　小坂文乃、長崎県、長崎大学附属図書館
・協　　力　日本中華總商会、日本通運、東京スタデオ、日比谷松本楼
・協　　賛　全日本空輸、リンガーハット、小西国際交流財団
・作品件数　249件(うち重要文化財：24件)
・来館者数　28,780人
・入場料金　一般800円(700円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円)
　　中学生以下無料　＊(　)内は前売りおよび20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度52%

一般にはほとんど目に触れることがなかった貴重な資料によって、孫文と梅屋庄吉とともに激動の時代における中国や日本の様相を充分に示すことができた。

【補足事項】
23年度年度計画にあげられていない特別展であるが、平成23年(2011)は辛亥革命100年にあたり、孫文を支援した梅屋庄吉らに関わる資料(梅屋庄吉曾孫小坂文乃氏所蔵の古写真等)を公開することができる貴重な機会が得られることとなったため、年度はじめに急遽開催が決定され実施された。



北京城写真　太和門
小川一眞撮影　光緒27年(1901)
東京国立博物館蔵

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	28,780人	20,350人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/6)

【年度計画】
ア　特別展覧会「法然上人800回忌　法然－生涯と美術－」(3月26日～5月8日)
　(目標来館者数 5万人)
　法然の生涯と思想、法然をめぐる人々の事跡を、遺された多くの文化財によって展望する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室研究員　大原　嘉豊

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 3 月 26 日(土)～5 月 8 日(日) (39 日間)
・会　　場　特別展示館(旧本館)全室
・主　　催　京都国立博物館、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿、京都新聞社
・陳列件数　120 件(うち国宝 29 件、重要文化財 58 件)
・来館者数　92,929 人(23 年度 84,682 人)(目標 50,000 人)
・入場料金　一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 500 円
・アンケート結果　満足度 89%
　法然上人八百回忌を記念して、鎌倉新仏教の嚆矢となった法然の事績を中心にその直弟子の活動をあわせて紹介した初めての大型展覧会。法然の遺品が極めて限られていることから、従来、単独テーマでの大規模展開催が困難であったが、当館の独自調査と浄土宗十二本山による浄宗会の全面的協力により、開催が可能となった。開催直前に東日本大震災が発災し集客では苦戦を余儀なくされたが、時局に即した宗教的テーマであったこともあり、来館者の関心も高く、目標来館者数を達成することができた。

【補足事項】
・開催直前に東日本大震災が発災し、開催自体が危惧されたが、当初予定会期で、かつ若干の展示期間の変更はあったものの予定作品の全てを出展した。特に、被災地であった茨城県鉾田市の無量寿寺を初め関東方面では関係者の絶大な協力を得ることができた。また、アメリカ・クリーブランド美術館からも理解を得て展示が実現したことは新聞でも報道され、「絆」を象徴する明るい話題を提供した。また、京都で予定されていた浄土宗の大遠忌事業が延期され、宗門の団体参拝客のキャンセルが相次いだため、集客も危惧されたが、最終的に 9 万 3 千人弱と善戦し、収支の上でも問題なく終えることができた。
・本展は、同じ NHK を主催として 23 年度秋季に東京国立博物館で開催された特別展覧会「法然と親鸞」と密接な連携をとってはいたが、企画内容を異にし双方の館が独自性を発揮することができ、学術的に高い評価を得ることができた。特に、本展では当館独自調査に基づく新発見作品も二点初公開され、一般からも好評を得た。
・本展図録は、史料翻刻を多くし、学術性と一般の便宜との調和を主眼としたもので、図録の販売率は 9.2 人に 1 冊という極めて高い数値で好成績をおさめ、また内容も高い評価を得ることができた。


法然展　会場風景

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	92,929 人	50,000 人	S		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由) 東日本大震災発災直後にもかかわらず、海外を含めた展示予定作品を全て展示し、集客においても目標値の倍に迫る数値を達成した。また、図録の販売率の高さが裏付けるように、一般来館者からも内容に対して高い評価を受けることができた。

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
　年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/6)

【年度計画】
イ　特別展観「百獣の楽園　－美術にすむ動物たち－」(7月16日～8月28日)
(目標来館者数 2万人)
当館の収蔵品の中から、制作年代や書画・彫刻・工芸といった表現の違いを越えて、日本で愛されてきた動物たちの姿をいきいきと展観する。

担当部課	学芸部連携協力室	事業責任者	主任研究員　永島明子

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 7 月 16 日(土)～8 月 28 日(日) (38 日間)
・会　　場　特別展示館(旧本館)全室
・主　　催　京都国立博物館
・共　　催　京都新聞社、ＮＨＫ京都放送局
・協　　力　京都市動物園
・陳列件数　117 件(うち国宝 3 件、重要文化財 25 件)
・来館者数　35,259 人(目標 20,000 人)
・入場料金　一般 1,000 円、大高生 700 円、中小生無料
・アンケート結果　満足度 93%
当館の 12,000 件を超える収蔵品の中から、動物を扱った作品を選りすぐった初の動物特集。平常展示館の建て替え工事の合間に出番の減った作品を活用することができ、日ごろ美術になじみのない人々にも親しみやすい展示となった。また、京都市動物園の協力を得て、自然科学の視点を加味して収蔵品を見直す機会ともなった。

【補足事項】
・アンケートの年齢分布で 20 才以下の観覧者が著しく多かった。(46%)
・夏休みの動物特集展は他館でも開かれてきたが、国立博物館の収蔵品のような質の高い古美術品によるものは類がなく、子供ばかりか大人の古美術愛好家にも充分に楽しめる展示となり、その点がインターネット上でも高く評価されていた。
・京都市動物園は当館同様に古い歴史を持つが、両者の協力事業は今回が初めてとなった。展覧会期間中、動物園では「百獣の楽園 in 京都市動物園」と題し、動物の檻の前に当館で展示中の作品数点の写真パネルが展示され、実際の動物と美術品のなかの動物の姿を比べることができるようになっていた。
・京都市動物園との連携協力の一環として、動物園の研究員に展覧会図録にエッセイを寄稿してもらい、また、当館と動物園とのあいだで研究員による講演会の交換を行った。個々の作品の解説にあたっては、動物園の研究員から動物の生態に関するコメントをもらい、当館の研究員がこれを参考にして執筆した。当館の研究員にとっても作品を新たな視点で見直す機会となった。
・当館が定期的に行っている「少年少女博物館くらぶ」のイベントとして、小中学生を対象とした当館研究員によるギャラリーツアー「まるまるアニマル」をこの展覧会の期間中に 2 回行い、大好評を得た。
・古美術への親しみやすさを重視して、解説文も日ごろとは異なるかみ砕いた表現の短文とした。これも当館としては初の試みであり、好評を得た。
・東洋の古美術を海外の方々にも親しんでもらえるよう、解説文を英語に全訳した。
・収蔵品のみを用いた展示であるため平常展費用で行ったが、印刷会社の特別協力(寄付)を得て、出品作品全ての図版と解説を含む B5 版のオールカラー・バイリンガル図録を作成し、安価に提供することができた。
・図録はプロのデザイナーによる洗練された図書制作、カラー図版の丁寧な色校正、完全バイリンガルとした翻訳などが評価され、香港大学出版から海外の独占販売権の契約が申し入れられ、契約が締結された。



特別展観「百獣の楽園―美術にすむ動物たち―」チラシ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	35,259 人	20,000 人	S		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由)収蔵品の活用、高い費用回収率、新たな客層の開拓

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　2122-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/6)

【年度計画】
ウ　特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」(10月8日～11月23日)
(目標来館者数 5万人)
旧熊本藩主であった細川家の宝物を厳選し展観する。

担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室　主任研究員　淺湫　毅

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 10 月 8 日(土)～11 月 23 日(水・祝) (40 日間)
・会　　場　特別展示館(旧本館)全室
・主　　催　京都国立博物館、永青文庫、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿、朝日新聞社
・陳列件数　244 件(うち国宝 8 件、重要文化財 28 件)
・来館者数　106,536 人(目標 50,000 人)
・入場料金　一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 500 円
・アンケート結果　満足度 91%
旧熊本藩主である細川家のコレクションを収集展示する永青文庫(東京・目白台)の創立 60 周年を契機として、東京、京都、九州の３国立博物館で開催された大規模巡回展。細川家の歴史にとどまらず、戦国武将たちの美に対する高い意識にも焦点をあてた展覧会で、ひいては茶の湯、能・狂言といった日本文化を代表する美の世界を広く紹介する機会となった。

【補足事項】
・当館および東京国立博物館、九州国立博物館が、3 年以上にわたる時間をかけ、80,000 点を超える永青文庫の所蔵品を調査した。そのなかから国宝、重要文化財に指定される名品はもとより、これまで一般にはあまり知られていない収蔵品にも光をあてて、所蔵館である永青文庫の学芸員とともにそれらの再評価を試みたうえで、作品選択を行った。また、これら調査の成果は、展覧会図録の論文、作品解説および展覧会関連講座などに反映している。
・単に細川家の歴史をたどるのではなく、日本文化を代表する茶の湯や能・狂言などに関連する美術、工芸品にみられる、戦国武将たちの美意識という問題にも焦点をあてて展示構成を行った。
・東京、京都、九州の３館を巡回する展覧会であるが、各館とも展示作品の選定においては、それぞれの意図により、異なる作品選定を行った。コレクション全般を満遍なく紹介する東京、熊本藩主としての細川家に重きを置く九州の展示とは異なり、当館においては、織田信長のもとで初代の細川藤孝(幽斎)が頭角をあらわしたのが、京都の長岡城を居城としていた時期であるという歴史に鑑み、京都と細川家の関わりに重点を置いて、作品選定を行った。
・京都と細川家のかかわりに重点を置いた展示をより充実させるため、京都の社寺を中心とする、永青文庫以外の所蔵者からも 11 件の作品を借用した。
・「美の世界では、天下人」という展覧会のキャッチコピーは、専門業者ではなく博物館で独自に作成したが、このような発想も充実した所蔵品調査の結果から生まれたもので、展覧会の内容をよく反映したものであった。同コピーはインターネット上の展覧会評などでも好評であった。
・これらの努力の結果、来館者は 10 万人を超えることとなり、一大名家のコレクションによって構成される展覧会で、関西で開催されたものとしては、異例ともいえる来館者数であったと評価できる。



特別展覧会「細川家の至宝」チラシ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	106,536 人	50,000 人	S		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由) 充分な準備期間を経て開催された展覧会であり、その成果が展覧会に充分に反映されたものであった。その結果来館者数も目標の 2 倍を数え、アンケートをはじめとする内容の評価も極めて高かったため。

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(4/6)

【年度計画】
エ　特別展覧会「中国近代絵画と日本」(平成24年1月7日～2月26日)
(目標来館者数 2万人)
中国の近代を中心に活躍した呉昌碩、斉白石、高剣父、徐悲鴻等の絵画作品を展示し、近代における日中文化交流の一面を展観する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　西上　実

【実績・成果】
・会　　期　平成 24 年 1 月 7 日(土)～2 月 26 日(日) (44 日間)
・会　　場　特別展示館　全室
・主　　催　京都国立博物館
・陳列件数　226 件(うち海外借用分は 34 件)
・来館者数　13,286 人(目標 20,000 人)
・アンケート結果　満足度 94%
当館が近年受贈した須磨コレクションを核にした自主企画展。須磨コレクションは中国近代絵画の優品を数多く含んでおり、これまでほとんど紹介されることがなかった中国近代絵画の全体像と提示するとともに、その形成過程に隣国の日本が深く関与していたことを示した。来館者数は目標値を下回ったものの、歴史的評価がいまだ困難な近代の日中文化史に脚光をあてるまたとない機会となり、また、日本の近代美術研究などにも新たなアプローチをもたらす展覧会としても国内外の研究者の注目を集めた。

【補足事項】
・当館が受贈した 1,000 件を超える外交官・須磨弥吉郎のコレクションの中から約 150 件を選別して、国内外の博物館、美術館、個人から借用した中国と日本の近代絵画の名品と合わせて展示した。従前、須磨コレクションはスペイン絵画コレクション(長崎県美術館蔵)が広く知られていたが、当展覧会を契機に近代日本における一大美術コレクションの全貌を明らかにする機会となった。
・国際的な注目を集める中国の近代美術研究の動向にたいして、隣国日本から最新の研究成果発表の場を提示した。2009 年に当館が主催した「中国近代絵画研究者国際交流集会」をはじめ、国内外の研究者との交流を積み重ねてきた実績がある。陳列作品についても、上海博物館や香港芸術館をはじめ中国、香港、台湾など多方面から借用することができたのも、このような当館の長年にわたる実績にもとづくものである。
・展覧会関連事業として、国際シンポジウム(24 年 2 月 11 日実施)と関連講座(土曜講座 4 回)を開催した。前者は中国やチェコからパネリストを招き、須磨コレクションと当展を多角的に検証した。後者も上海博物館や北京画院斉白石紀念館から講師を招き、日本では数少ない中国近代美術について理解する新たな機会を提供した。
・来館者数は、目標値の 2 万人を下回った。一般の美術愛好者にはなじみの薄い中国の近代絵画の展観であったことや、例年に比べて冷え込みが厳しい中での開催となり、高齢者を中心に客足が鈍ったことなどが要因として挙げられる。もっとも、来館者アンケートなどからは陳列作品の水準の高さやユニークさについて好評を得たことが分かる。また、全国紙各紙を筆頭に新聞雑誌などでは展覧会紹介や展評が掲載されており、展示内容自体は高い評価を受けている。今後、国立博物館として要求される専門性の高い展示内容を確保しつつ、潜在的な来館者、とくに若年層などへの広報・教育体制の強化が課題として浮かび上がった。



特別展覧会「中国近代絵画と日本」チラシ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
来館者数	13,286 人	20,000 人	C	経年変化	－	－	－	－
総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)							

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-5

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(5/6)

【年度計画】
平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、静岡県立美術館にて「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」を開催(特別協力、10月22日～12月4日)するとともに、細見美術館にて当館所蔵品による特別展「宮廷のオートクチュール」を開催する。(特別協力、10月1日～11月27日)　(年度計画2(1)①－1 平常展)

担当部課	学芸部	事業責任者	アソシエイトフェロー　水谷亜希

【実績・成果】
・展覧会名　京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景
・会　　期　平成 23 年 10 月 22 日(土)～12 月 4 日(日)(39 日間)
・会　　場　静岡県立美術館
・主　　催　静岡県立美術館、静岡第一テレビ
・特別協力　京都国立博物館
・陳列品総件数　66 件(うち国宝 6 件、重要文化財 22 件、重要美術品 5 件)
・来館者数　24,070 人
・入場料金　一般 1,100 円、高・大学生・70 歳以上 500 円、中学生以下無料
「祈りと風景」をテーマとして、当館収蔵品の絵画・書跡・彫刻・金工・陶磁・漆工・染織・考古の各分野から選りすぐりの優品を出品した。仏教美術の至宝や、珠玉の工芸品、山水画の名品などを通して、日本・東洋の人々が風景へ寄せた思いと、自然との交わりの中で育んできた心性を探る展覧会。「山水・風景画」を収蔵展示の核としてきた静岡県立美術館と協力し、作品の質・企画内容ともに充実した展示を、静岡市を中心とする東海地方の方々にご覧頂く機会となった。

【補足事項】
・静岡県立美術館・静岡第一テレビの主催で行われた当館所蔵品による展覧会で、当館が特別協力した。
・全作品を当館収蔵品で構成し、平常展示館建て替えに伴い中断している館蔵品公開の役割を果たす重要な機会となった。
・展示は、開催館と当館、両者の共同作業により行い、実質的な協力関係を築くことができた。
・図録は静岡県立美術館学芸員と当館研究員が執筆し、各作品の新たな見方を提示した。
・会期中、山下善也連携協力室長が「きらめく京都、きらめく近世の絵画」と題した講演会を、久保智康企画室長が「京都千年の美術 −そのかざりとかたち−」と題した講演会を行った。
・展覧会の企画に際しては、静岡県立美術館の学芸員と、当館の各分野の研究員が入念に打ち合わせを重ね、テーマ性のある充実した内容となった。



「京都千年の美の系譜」展
チラシ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
来館者数	24,070 人	－	－	経年変化	－	－	－	－

総合評価　S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-6

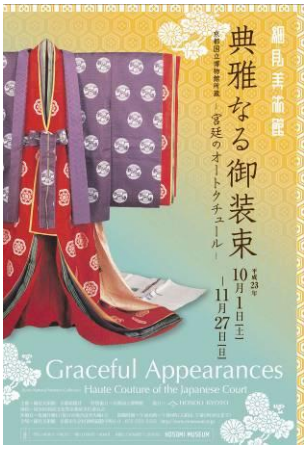
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(6/6)

【年度計画】
平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、静岡県立美術館にて「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」を開催(特別協力、10月22日～12月4日)するとともに、細見美術館にて当館所蔵品による特別展「宮廷のオートクチュール」を開催する。(特別協力、10月1日～11月27日)　(年度計画2(1)①－1 平常展)

担当部課	学芸部	事業責任者	主任研究員　山川　暁

【実績・成果】
・展覧会名　京都国立博物館所蔵　典雅なる御装束　－宮廷のオートクチュール－
・会　　期　平成 23 年 10 月 1 日(土)～11 月 27 日(日) (50 日間)
・会　　場　細見美術館
・主　　催　細見美術館、京都新聞社
・特別協力　京都国立博物館
・協　　力　HOSOO KYOTO
・後　　援　第 26 回国民文化祭京都府実行委員会
・陳列品総件数　34 件(京都国立博物館所蔵品 31 件、細見美術館所蔵品 3 件)　(重要美術品 1 件を含む)
・来館者数　12,023 人
・入場料金　一般 1,000 円、学生 800 円
現在も宮中の儀式に用いられている束帯・五衣唐衣裳(十二単)などの伝統装束を展示することにより、千年以上もの歴史に培われた、日本人の染織技術の粋と美意識を紹介した。平成23年は京都において国民文化祭が開催されたため、日本の染織工芸文化の中心であった京都で育まれ、今日の伝統産業ともなっている「きもの」に焦点を当てた展覧会が様々な博物館で開催された。本展もその一環を構成する。これらの展覧会を機に、固有の伝統文化への認識が新たにされ、創造の源泉となって、文化・産業がさらに活性化されることが期待される。

【補足事項】
・細見美術館・京都新聞社の主催で行われた当館所蔵品を中心とする展覧会であり、当館が特別協力した。
・第 26 回国民文化祭の協賛事業であり、京都の伝統産業である「きもの」の魅力を多面的に発信する機会となった。
・京都国立近代美術館「〈織〉を極める　人間国宝・北村武資」、京都文化博物館「京の小袖」とともに相互に広報協力し、三館共通チケットを販売するなど、連携事業を行った。
・展示作品のほぼ全てを当館収蔵品で構成し、平常展示館建て替えに伴い中断している館蔵品公開の役割を果たす重要な機会となった。
・図録作成および展示に関わる作業は、開催館と当館の共同作業とし、実質的で密接な協力関係を築くことができた。
・宮家旧蔵の伝統装束をまとめて展示し、伝統装束といえども近世から近代へ、形式も技術も変化していくことを視覚的に紹介する初めての機会となった。
・会期中、細見美術館会場にて当館研究員がギャラリートークを行った。



「典雅なる御装束」展
チラシ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
来館者数	12,023 人	－	－	経年変化	－	－	－	－
総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)							

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/3)

【年度計画】
ア　「誕生！中国文明」(4月5日～5月29日)
中国・河南省の全土から名品を選定し、中国文化の真髄に迫る。(目標来館者数 5万人)

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　稲本泰生

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 4 月 5 日(火)～5 月 29 日(日) (49 日間)
・会　　場　奈良国立博物館東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館、読売新聞社、中国河南省文物局
・企画協力　大広
・後　　援　中国大使館
・協　　賛　清水建設、光村印刷、トヨタ自動車、関西電力、大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム、丸一鋼管
・協　　力　日本航空、日本貨物航空
・陳列品総数 147 件
・来館者数　35,679 人
・観覧料金　一般 1,400 円　高校・大学生 1,000 円　小・中学生 500 円
・アンケート結果　満足度 87%

【補足事項】
・中国の政治・経済・文化の中心地として長期にわたり繁栄し、古代日本との縁も深い黄河流域の河南省から、第一級の品や最新の発掘成果を多数含む文物を借用・展示し、質量両面で非常に充実した特別展となった。
・前年度に東京国立博物館・九州国立博物館で開催された展覧会の巡回展で、史上初の三館合同企画による展覧会である。内容には平成 20 年以来三館が合同で行ってきた調査研究の成果が反映されており、その点でも意義深い企画となった。
・前年度に一新された西新館の展示室及び固定ケース、新規制作した独立ケースなど最新の設備を使用し、照明機材にも工夫を凝らすなどした結果、視覚的効果の非常に高い展示を行うことができ、各方面から注目を集めた。
・巡回展ではあるが、河南省が東大寺大仏や正倉院宝物の源流といえる地である点等を重視し、他の二会場とは異なる当館ならではの特色ある展示・広報活動を行った。会場構成上特に重視したのは坐高 2.5 メートルに及ぶ唐代仏教彫刻の名作・宝冠如来坐像(龍門石窟擂鼓台)であり、仏教美術の専門館らしいカラーを打ち出した。同像の写真はポスター・チラシ・看板等のデザイン、読売新聞の紙面広告等でも大きく取り上げられた。同像が本展の顔と認知されたことが、効果的な広報活動の展開につながったといえる。
・出陳品とその背景にある文化について、来館者がより広く深い理解を得られるよう、会期中に公開講座を 4 回実施(うち 3 回の講師は当館研究員)した。
・平成 18 年以来、河南博物院との間で行ってきた学術交流に伴って蓄積した調査研究の成果を展示・広報活動・講座等に反映することができた。
・来館者数が目標値に届かなかった要因として、特別展の開催時期が東北大震災の発生から間もない時期に重なったこと、また開催当時の日中関係を取り巻く社会情勢が芳しくなかったこと等が考えられる。



特別展「誕生！中国文明」チラシ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	35,679 人	50,000 人	B		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(奈良国立博物館)
　年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/3)

【年度計画】
イ「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」(7月16日～8月28日)
高僧伝絵巻の傑作・国宝 玄奘三蔵絵を初めて全巻同時公開。(目標来館者数 5万人)

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 7 月 16 日(土)～8 月 28 日(日)　(39 日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東・西新館
・主　　催　奈良国立博物館　朝日新聞社
・陳列品総数　55 件　(国宝 4 件、重要文化財 14 件)
・来館者数　63,364 人
・観覧料金　一般 1,200 円　高・大生 800 円　小・中学生 500 円
・図録販売数　5,284 冊　(購入率 8.38%)
・音声ガイド貸出件数　6,566 台(貸出率 10.36%)
・アンケート結果　満足度 80%

【補足事項】
・天竺(インド)への求法を成し遂げた唐代の高僧・玄奘三蔵の生涯を全 12 巻に描いた高僧伝絵巻の傑作「国宝 玄奘三蔵絵」(藤田美術館所蔵)を、全巻同時公開する史上初めての試み。この魅力あふれる絵巻の全貌を通じて、玄奘が東アジア仏教史上に残した偉大な足跡をたどるとともに、そのインド求法に捧げた旅の事蹟が『西遊記』の物語へと変貌を遂げるまでの道のりを、絵画・彫刻・書跡等の名品とともに紹介した。
・各巻 17 メートル近い絵巻を前期・後期を通じて全巻同時公開するにあたり、巻替えで隠れている場面の内容も知ってもらうため、全巻を掲載した縮小写真および重要場面を拡大した写真のパネルを掲載し、展示が理解しやすいとの好評を得た。
・『大唐西域記』の内容を絵画化した法隆寺所蔵五天竺図の巨大拡大パネルを作成し、玄奘のたどった道筋を影像として投影することで、玄奘の求法の旅を視覚的に追体験してもらう展示として好評を博した。
・図録は、玄奘三蔵絵全巻について新規に撮影した写真を掲載し、6 本の論考を掲載するなど、学術的に高い評価を得るとともに、会期中の販売部数は 5,284 冊を数え、会期終盤には増刷も行うなど、予想以上の売り上げを記録した。
・展示開催中に関連の公開講座(2 回)および夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」(講師 9 名)を実施した。



ポスター・チラシデザイン


会場風景

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	63,364 人	50,000 人	A		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(奈良国立博物館)
　年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2123-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/3)

【年度計画】
ウ　「第63回正倉院展」(予定)
正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。(目標来館者数 18万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室長　内藤　栄

【実績・成果】
・会　　期　平成 23 年 10 月 29 日(土)～11 月 14 日(月)(17 日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・特別協力　読売新聞社
・協　　賛　NTT 西日本、近畿日本鉄道、JR 東海、JR 西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、帝塚山学園・帝塚山大学、白鶴酒造
・協　　力　NHK 奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、財団法人仏教美術協会、ミネルヴァ書房
・出陳宝物数　62 件
・来館者数　239,581 人
・観覧料金　一般 1,000 円、大高生 700 円、小中生 400 円
・アンケート結果　満足度 73%

【補足事項】
・例年、宝物を展示する順番は北倉の聖武天皇遺愛品を最初に置き、最後に文書を展示していた。本年は著名な宝物を会場の前半、中盤、後半に位置させたため混雑が平均化された。また、特に人気のあった金銀鈿荘唐大刀を見る人の待ち列を廊下に誘導できたことも混雑の緩和に有効であった。また、昨年西新館のケース、内装や天井照明が一新され、鑑賞しやすい空間を提供できるようになったが、本年の展示は西新館にも名品を配置し、この館の良さを引きだすことができた。
・題箋は例年以上に分かりやすく改良し、また用語解説パネルも作製した。
・東新館では配線をカバーするモールがあり、年配者がつまずくなどの心配があったが、本年は可能な限りケースをコンセントの近くに配置し、モールを使わないように留意した。さらに、会場全体に天井照明を明るくし、高齢者が安心して観覧できる空間を提供した。
・今年度は、例年以上に車椅子の観覧者が多かったように思われるため、今後、車椅子の利用者が快適に鑑賞できる工夫が求められる。



第 63 回正倉院展

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	239,581 人 (17 日間)	180,000 人	A		248,389	263,765	299,294 (20 日間)	294,804 (20 日間)

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(奈良国立博物館)
　年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(1/4)

【年度計画】
ア　「黄檗―OBAKU」(3月15日～5月22日)
　　江戸時代に我が国に伝わった黄檗宗の美術を紹介。(目標来館者数 3万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	研究員　市元　塁

【実績・成果】
・展覧会名　「黄檗―OBAKU」
・会　　期　平成 23 年 3 月 15 日(火)～5 月 22 日(日)(61 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、黄檗宗大本山萬福寺、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送
・陳列品総件数　142 件(国宝 0 件、重要文化財 14 件)
・来館者数　55,539 人(23 年度 46,530 人)(目標来館者数　30,000 人)
・入場料金　一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
・アンケート結果　満足度　88％
※江戸時代の日本にとって、黄檗は斬新な文化として迎えられた。本展では、彫刻作品を主体的に扱うことで、江戸時代の人々が抱いたであろう異文化接触の際の驚きと興奮を、会場内で再現することに成功した。

【補足事項】
臨済宗、曹洞宗とともに日本三禅宗に数えられる黄檗宗は、承応 3 年(1654)、弘法のため長崎へ渡来した明の高僧・隠元隆琦(1592-1673)によって開かれ、戒律を重んじる正統な中国臨済宗の法灯と厳格な仏教儀礼を日本に伝え、当時沈滞していた日本禅宗界に新風を吹き込んだ。隠元のもとには、鎖国下で大陸への留学が果たせない、求道心に燃える日本僧が参集した。その高風は幕府にも届き、隠元を日本に留めるための新寺建立が特別に許され、寛文元年(1661)、黄檗山萬福寺が京都宇治の地に開創された。
大陸風の伽藍配置と建築意匠により建立された萬福寺では、隠元以後も渡来僧が連綿と住持を務め、中国さながらの宗教文化と生活文化が維持された。それは、隆盛時に全国千ヵ寺を越えた末寺を通じて各地にも浸透し、中国趣味の知識層にとどまらず、江戸時代の庶民の日常生活にも異国情緒あふれる彩りを添えた。
本展は黄檗宗大本山萬福寺の開創 350 周年を記念して開催したものである。展示では、萬福寺所蔵の名宝と九州を中心とする黄檗寺院所蔵の優れた仏教美術を紹介し、隠元禅師渡来前後から萬福寺開創に至る日本黄檗宗開立の歩みを、17 世紀の東アジア世界という広域的な歴史のうねりのなかで捉えることを企図した。従来の黄檗美術に関する展覧会では、書や絵画が主体であったが、本展では黄檗彫刻を主体的に取り上げ、立体的な会場作りに努めた。これにより、江戸時代の人々が肌で感じた異文化の空気を、展示会場内で再現することに成功し、来館者より好評を得た。


長崎諸寺に伝わる黄檗彫刻群


木魚の原形とされるハンポウ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	55,539 人	30,000 人	S		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由) 馴染みの薄いテーマながら、作品選定や展示手法に工夫を凝らしたことで多くの来館者を迎えることができ、高い満足度を得た。

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	達成

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(2/4)

【年度計画】
イ　「よみがえる国宝」(6月28日～8月28日)
日本の文化財保存、修理の歴史を辿り、日本人の美意識や価値観を紹介。(目標来館者数 4万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	博物館科学課長　本田光子

【実績・成果】
・展覧会名　「よみがえる国宝 － 守り伝える日本の美」
・会　　期　平成 23 年 6 月 28 日(火)～8 月 28 日(日)(54 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州
・陳列品総件数　77 件(国宝 11 件、重要文化財 18 件)
・来館者数　118,528 人(目標来館者数　40,000 人)
・入場料金　一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
・アンケート結果　満足度　83%

【補足事項】
・日本における文化財の保存と修理をめぐる伝統的な文化を、主に作品を通じて総合的に紹介した。展示の構成は、第 1 章「保存　宝をまもる営み」、第 2 章「修理　つくろう・なおす　技とこころ」、第 3 章「模写・模造　技こころを継ぐ」、第 4 章「文化財保護のはじまり　宝をまもる・いかす」の全 4 章からなる。
・保存と修理の歴史について紹介するため、海外(アメリカ)からの借用作品を含む 77 件(国宝 11 件、重文 18 件)を展示した。とりわけ世界的にみても最高水準の技術で修理され、今日まで大切に保存されてきた源頼朝像・平重盛像、天寿国繍帳などの優品を九州で初めて展示した。
・講演会として「守り伝える日本の宝」(7 月 23 日、谷内弘照氏・冷泉為人氏)、セミナーとして「文化財保存交流セミナー」(7 月 2 日、小峰幸夫氏ほか、7 月 31 日、岡岩太郎氏・北村昭斎氏ほか、8 月 6 日、中村一紀氏・成瀬正和氏・杉本一樹氏、8 月 7 日、西川明彦氏・太田彩氏・室瀬和美氏、8 月 21 日、中野三敏氏)を実施した。
・教育普及として文化財の修理技術や保存の工夫をクイズ形式でまとめた「子どもガイド」を作成し、展示室内および近隣の小学校などで配布した。また「源頼朝像」の修理過程などをイラストでまとめたパネルを会場に設置し、修理・保存方法について理解を促した。またバックヤードツアー「大きな博物館の探検！」およびワークショップ「古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！」を開催し、夏休み期間を利用した親子で楽しむ企画を実施した。


源頼朝像・平重盛像　展示風景


正倉院をイメージした会場
展示風景

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	118,528 人	40,000 人	S		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由) 当館の標榜する文化財の保存と修理に対する積極的な姿勢が、多くの観覧者に理解いただける成果を挙げた。

【中期計画記載事項】
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(3/4)

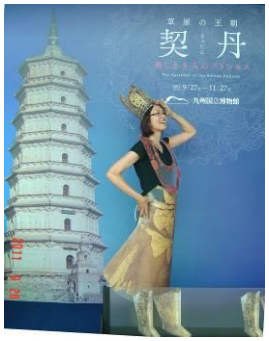
【年度計画】
ウ　「大契丹展」(9月27日～11月27日)
　　中国・契丹の文化と美術を中国内蒙古自治区出土文物を通じて紹介。(目標来館者数　6万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　小泉惠英

【実績・成果】
・展覧会名　「草原の王朝　契丹－美しき 3 人のプリンセス」
・会　　期　平成 23 年 9 月 27 日(火)～11 月 27 日(日)(54 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＲＫＢ毎日放送、内蒙古博物院
・陳列品総件数　125 件(中国・一級文物 45 件)
・来館者数　75,880 人(目標来館者数　60,000 人)
・入場料金　一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
・アンケート結果　満足度　90％

【補足事項】
・唐滅亡後、中原の広い範囲を支配した王朝・契丹に焦点を当て、その豊かな芸術や文化、思想を示す様々な文物を総合的に展示した。展示構成は、第 1 章「馬上の芸術」、第 2 章「大唐の遺風」、第 3 章「草原都市」、第 4 章「蒼天の仏国土」の 4 部から成る。
・世界初公開 50 件、日本初公開 95 件を含む計 125 件を展示した。6 年におよぶ準備期間を経て開催された本展は、契丹をテーマとする展覧会としては、質量ともにかつてないレベルのものであり、研究史的にも極めて意義深い。
・講演会として、契丹大学と称する連続講座(4 日間、全 7 回)を開催した。当館研究員 5 名に加え、平等院住職神居文彰氏、東京藝術大学原田一敏氏にご講演いただいた。出席回数に応じて記念品を贈呈するという新しい試みを行い、通常に比べ、多くの方にご参加いただいた。
・教育普及活動として、馴染みのない契丹という王朝をより身近に感じてもらうため、展示作品とも関わりの深い 3 人の女性が語るというコンセプトで、解説パネル等を作成し、展示室内に掲出。そのほか、プリンセス着せ替えコーナーや顔出しパネルを設置し、好評を博した。
・より多くの方に関心を持ってもらえるよう、展覧会担当者が展覧会の内容について語る映像を YouTube で配信した。数多くのアクセスがあり、今後の広報を考えるうえで画期となる試みだった。
・文化交流展示室に設置されている多宝千仏石幢石塔(重文)を 3D 撮影したデータをもとに、100 分の 1 サイズのフィギュアを限定 100 個で販売。新聞等のメディアにも取り上げられ、注目を集めた。


彩色木棺　展示風景



プリンセス着せ替えコーナー

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	75,880 人	60,000 人	A		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　② 特別展　(4/4)

【年度計画】
エ　「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」（平成24年1月1日～3月4日）
　　熊本・細川家に伝来、収蔵される文化財の中から代表的な優品を一堂に展観。（目標来館者数　7万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　小泉惠英

【実績・成果】
・展覧会名　「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」
・会　　期　平成 24 年 1 月 1 日(日)～3 月 4 日(日)(56 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、財団法人永青文庫、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州、西日本新聞社
・陳列品総件数　232 件(国宝 8 件、重要文化財 25 件、重要美術品 18 件)
・来館者数　113,290 人(目標来館者数　70,000 人)
・入場料金　一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
・アンケート結果　満足度 83%

【補足事項】
・展示構成：永青文庫に所蔵される細川家ゆかりの美術品や歴史資料を中心に、232 件の武具、絵画、書跡、能道具、東洋考古などの優品を展示した。展示構成は、第Ⅰ部が「武家の伝統－細川家の歴史と美術－」と題し、第 1 章「戦国武将から大名へ」第 2 章「藩主細川家」第 3 章「武家の嗜み」の 3 章からなり、第Ⅱ部「美へのまなざし－護立コレクションを中心に－」では、第 1 章「コレクションの原点」第 2 章「芸術の庇護者」第 3 章「東洋美術との出会い」の 3 章構成とした。
・展示の特徴：膨大かつ多岐にわたる永青文庫コレクションの全体像を、九州では初めての規模で紹介することが出来た。また、展示作品のうち合計 9 件は九州会場のみの出陳であり、細川家における大名文化について一層の理解を促した。
・展示の工夫：第Ⅰ部第 1 章と第 2 章の間に、初代熊本藩主となった忠利所用の幟と大馬印を傾斜台で展示し、細川家が九州の大名となったことを鑑賞者に印象づけられるよう工夫した。また、代々細川家に伝えられた文化財を展示した第Ⅰ部と、第 16 代当主・護立の蒐集品からなる第Ⅱ部の間に回廊を設け、コレクション成立の経緯を鑑賞者に伝える工夫を凝らした。
・教育普及：歴史資料や細川家ゆかりの人物などを分かりやすく解説した「解説パネル」を制作し、展示室内に掲示した。また、こども向けの教育普及としては、永青文庫の成り立ちや所蔵品を体験的に理解してもらうために、双六を作成し、「剣豪・宮本武蔵になろう！」ワークショップを実施した。一般向けには、18 代当主・細川護熙氏による記念講演、能楽イベント、竹内順一永青文庫館長の講演会、担当研究員による講演会を開催した。



忠利所用の幟と大馬印の展示



歴史資料を分かりやすく解説したパネル

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	113,290 人	70,000 人	S		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
　年 2～3 回程度

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2134

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　③ 海外展

【年度計画】
1)韓国において文化庁との共催により海外展を開催する予定。

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　小泉惠英

【実績・成果】
・展覧会名　文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」
・会　　期　平成 23 年 12 月 20 日(火)～24 年 2 月 19 日(日)(51 日間)
・会　　場　韓国国立中央博物館
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、文化庁、滋賀県、韓国国立中央博物館
・陳列品総件数　59 件(国宝 4 件、重要文化財 31 件)
・来館者数　52,316 人
・入場料金　無料

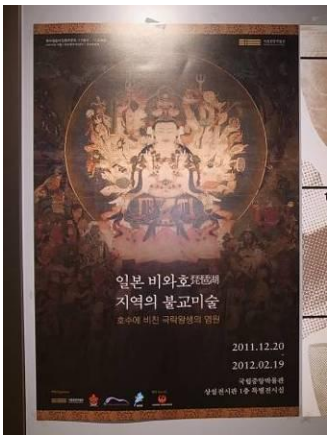
【補足事項】
・日本の美術を諸外国に紹介するため、毎年、文化庁が海外で行う日本古美術展として、韓国・国立中央博物館において行われた。本展は、九州国立博物館が平成 22 年度に行ったトピック展「湖の国の名宝展」を基に展示を再構成したもので、展示は、第 1 章「観音菩薩の聖地」、第 2 章「浄土に向かう心」、第 3 章「密教の世界」の三部から成る。

・本展は、滋賀県下の文化財保護の拠点として 50 年を超える活動を行ってきた滋賀県立琵琶湖文化館に所蔵・寄託されている滋賀県ゆかりの仏教美術の優品を一堂に集めた展覧会で、全作品について、韓国への出品は初めてとなった。6 世紀以来、仏教を通じて交流を深めてきた日韓両国にとって、極めて有意義な展覧会といえる。

・井上ひろ美氏(琵琶湖文化館)、根立研介氏(京都大学)等、日本の研究者が招へいされ、国立中央博物館において講演会を行った。



開会式の様子
(文化庁長官のあいさつ)



展覧会ポスター

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	52,316 人	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由) わが国有数のレベルを誇る滋賀県の仏教美術を韓国に紹介することで、日本と韓国の仏教の交流について再認識する機会を提供できた。また、5 万人を超える観覧者を迎えることができたことで、多くの人々の関心を深めた。

【中期計画記載事項】
海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(東京国立博物館)
1)日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館20室を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。
○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施
・特集陳列「親と子のギャラリー　博物館できもだめし」(7月20日～8月28日)
○体験型プログラムの実施
・特集陳列「親と子のギャラリー　博物館できもだめし」など、総合文化展(平常展)に関連した一般向け及びファミリー向けのワークショップやアクティビティを実施する。
・本館20室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。
・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。
○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(3月23日～4月17日)の実施
2)学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム(鑑賞支援・体験型プログラム等)を継続して実施する(小・中・高校生対象)。
・就業体験の受け入れを継続して行う(小・中・高校生対象)。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。
・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。
3)(略)

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	総務課長　樋口理央 教育普及室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数37校、団体利用を含み10,157名の学生にご利用いただいた。
(東京国立博物館)
1)総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化の理解促進に寄与し、伝統文化への興味関心をより高めることができた。震災の影響による23年3月12日～3月28日の臨時閉館に伴い、「博物館でお花見を」の開催は23年3月29日～4月17日となった。会期中「花見で一句」には161の投句があり、12名が入選。また、23年4月2日に予定されていた桜セミナーを中止した。
2)児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。教員にも、展示のみならず博物館への理解を深め、利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布も行った。

【補足事項】
1)・本館20室でのアクティビティ、ワークショップ
ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」4月5日～4月30日、6月14日～24年3月31日　合計88,221人
ハンズオン体験コーナー「写楽に挑戦！」(特別展「写楽」関連)5月1日～6月12日　24,279人
ハンズオン体験コーナー「東博龍めぐり＆掛軸ふうカレンダー」24年1月2日・3日　4,715人
特別展「手塚治虫のブッダ展」関連ワークショップ　6月18日　1回11人
・本館20室以外でのアクティビティ
総合文化展関連ワークショップ　16回287人、
・表慶館でのアクティビティ「表慶館トラベル」
ハンズオン体験コーナー「アジアの香り」1,147 人、ツアー「まぼろしの作品調査書」526 人
2)・スクールプログラムではガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなど11のコースを設け、152校7,710人に対して実施した。また、大学生、専門学校生および教育関連機関の見学対応を10校286人に行った。就業体験として、24校104人を受入れた。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催：東京藝術大学)は7月27日～29日の3日間で開催し、38名が参加した。教員鑑賞会・ガイダンスは5回実施し、計897人が参加した。
※震災の影響により、スクールプログラムによる利用は20校370人がキャンセルとなった。また、予定していた特別展「写楽」の教員鑑賞会・ガイダンスを急遽中止とした。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
キャンパスメンバーズ加入校数	37 校	―	―		22	29	35	35

総合評価　S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(2/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(東京国立博物館)
1)2)(略)
3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。
(講演会等の目標)　参加者数　計7,830人(実施回数　計77回程度)
・講演会　参加者数3,500人(実施回数20回程度)
・列品解説等　参加者数4,000人(実施回数55回程度)
・連続講座　参加者数　250人(実施回数 1回程度)
・公開講座　参加者数　80人(実施回数 1回程度)

担当部課	博物館教育課	事業責任者	教育講座室長　丸山士郎

【実績・成果】
(東京国立博物館)
3)文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座を継続して実施した。
参加者数　計12,664人(実施回数　計112回)
・講演会　参加者数8,224人(実施回数32回)
うち月例講演会2,457人(13回)、記念講演会4,669人(15回)、テーマ別講演会775人(3回)、その他講演会323人(1回)
・列品解説等　参加者数3,963人(実施回数76回)
・連続講座　参加者数 380人(実施回数1回)
・公開講座　参加者数 97人(実施回数3回)

【補足事項】



24年1月の月例講演会
「博物館を楽しむ　トーハクへようこそ」
講師：銭谷眞美館長

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
講演会等の参加者数	12,664人	7,830人	S		11,361	12,332	12,546	13,319
実施回数	112回	77回	S		142	132	153	126
うち								
講演会参加者数	8,224人	3,500人	S	経	4,770	7,134	5,600	9,290
実施回数	32回	20回	S	年	24	29	24	39
列品解説等参加者数	3,963人	4,000人	B	変	3,934	4,774	6,550	3,659
実施回数	76回	55回	A	化	101	101	126	83
連続講座参加者数	380人	250人	S		288	356	320	278
実施回数	1回	1回	A		1	1	1	1
公開講座参加者数	97人	80人	A		2,369	68	76	92
実施回数	3回	1回	S		16	1	2	3

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2212

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(京都国立博物館)
1)展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催する。
2)一般向け教育普及事業として「夏期講座」を開催する。
3)京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を行う。
4)小中学生向けに展示解説を行う「少年少女博物館くらぶ」を実施する。
5)展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布する。併せてメールマガジンでの配信を行う。
(講演会等の目標)参加者数　計2,638人(実施回数　計15回程度)
・土曜講座　　参加者数1,848人(実施回数11回程度)
・夏期講座　　参加者数　600人(実施回数3回程度)
・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」　　参加者数　190人(実施回数1回程度)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　久保智康

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(30 校)した。
(京都国立博物館)
1)展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催した。(13回・1,199人)
2)一般向け教育普及事業として「夏期講座(文学と美術Ⅱ)」を開催した。(7/27-29)(1回3日・193人、のべ579人)
3)京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を土曜講座と合同で開催した(1回・158人)
4)小中学生向けに展示解説を行う「少年少女博物館くらぶ」を実施した。(8/2・42人,8/5・33人)
5)展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布し、併せてメールマガジンでの配信を行った。
・「留学生の日」(11/5)を実施した。・「社会科教員のための向上講座」を実施した。(10/25・58 人)

【補足事項】
・土曜講座・夏期講座については、従来平常展示館講堂にて開催してきたところ、展示館建替工事のため、講堂も閉鎖され事業の継続が危ぶまれたが、学習機会の継続的な提供をつづけるため、外部の施設を借りて実施した。
・土曜講座は 24 年 3 月末現在で 1,721 回を数える当館の伝統的な普及活動で、参加者からも高い評価を得ている。
・夏期講座も例年東京などから泊まりがけで参加される聴講者も多数おり、見学会も合わせ好評を博している。
・「少年少女博物館くらぶ」については、平常展において展示解説を行っていたが、平常展休止に伴い、本年は、特別展示館において「百獣の楽園」展をめぐり小中学生向けの解説を行った。
・外国人留学生の「留学生の日」来館者は、同伴者を含め 107 名。「細川家の至宝」展の観覧により文化財への理解を深める機会を提供し、留学生を通じて、日本の伝統文化への理解増進を行った。
・「社会科教員のための向上講座」については、京都市内の小中学校で社会科を担当する教員を対象として、講義と特別展のギャラリートークを行った。


夏期講座　見学会風景


少年少女博物館くらぶ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
キャンパスメンバーズ加入校数	30 校	―	―		21	29	30	29
講演会等の参加者数	1,450 人	2,638 人	C		4,489	3,413	3,002	2,313
実施回数	15 回	15 回	A		46	37	21	17
うち土曜講座　参加者数	1,199 人	1,848 人	C		4,329	3,254	2,791	2,076
実施回数	13 回	11 回	A	経年変化	45	36	19	15
うち夏期講座　参加者数	193 人	200 人(のべ600 人)	B		160	159	179	205
実施回数	1 回	1 回(3 日)	A		1	1	1	1
うち社会科教員のための向上講座	58 人	―	―		―	―	32	32
実施回数	1 回	―	―		―	―	1	1
「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」(土曜講座の内数)参加者数	158 人	190 人	B		―	―	―	―
実施回数	1 回	1 回	A		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(奈良国立博物館)
1)小中学校との連携
・奈良県内小中学校にメールマガジンを配信し、博物館だよりを送付する。
・奈良市内小学校5年生を中心に幼稚園児から中学3年生までを対象に世界遺産学習授業を実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
2)(略)
3)奈良市教育委員会と連携して教員の研修を行う。

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　吉澤　悟

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は28校を維持し、大学との連携を継続した。
(奈良国立博物館)
1)小中学校との連携
・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行っている。博物館だよりの送付に関しては、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行っている。ただし、県内全体では当初契約の印刷部数が追いつかないため、発送先を厳選し対応している。
・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生34校、合計2,182名に対して実施した。
・中学生の職場体験受入を2校6人行った。
3)奈良市教育委員会と連携した教員への研修を8月26日に行い、150人の参加者を得た。

【補足事項】

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
キャンパスメンバーズ加入校数	28校	－	－		20	25	27	28

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(2/2)

【年度計画】
(4館共通)　1)(略)
(奈良国立博物館)　1),3)（略）
2)講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム及び公開講座を開催する。
・正倉院展に因むシンポジウムを開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。
(講演会等の目標)参加者数　計2,450人(実施回数　計25回程度)
・特別展等講座　　参加者数1,500人(実施回数12回程度)
・夏季講座　　参加者数　350人(実施回数 1回程度)
・サンデートーク　参加者数　600人(実施回数12回程度)

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　吉澤　悟

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
2)講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に実施しており、実績は12回、合計645人の参加があり、アンケート結果では90%の満足度が得られた。
・公開講座は、3つの特別展および3つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計14回、1,660人の参加があり、平均満足度は87%を得た。その他、特別展「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」に関連して「玄奘フォーラム」を1回実施した。
・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2011　正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」と題して10月30日に実施し、4人のパネラーに基調講演をいただき討論を行った。179人の参加を得、満足度は81%であった。
・夏季講座は、今年は第40回目を迎え、年々参加者数が増えていることに鑑み、前年の奈良女子大の講堂が手狭であったため、会場を大人数収容できる奈良県文化会館に移して500名を超える参加希望者にも対応できるよう計らった。「玄奘三蔵とシルクロード」と題し、8月24日～26日の3日間に実施、講師は計9人、毎日522人の参加者が集まった。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、春日大社の協力のもと、「春日大社特別ツアー」を実施し、33人の参加者を得た。特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を実施し、38人の参加者を得た。
・文化財保存修理所の一般公開は、平成24年2月15日に3回実施し、110名の参加者を得た。
○講演会等の実績　総計28回・参加者3,006人
(特別展等講座15回・参加者1,839人、夏季講座1回(3日間)・参加者522人、サンデートーク12回、参加者645人)

【補足事項】



夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
講演会等の参加者数	3,006人	2,450人	A		2,949	3,655	3,421	3,349
実施回数	28回	25回	A		28	32	33	28
うち特別展等講座参加者数	1,839人	1,500人	A		1,943	2,706	2,043	2,172
実施数	15回	12回	A		15	19	16	15
うち夏季講座　参加者数	522人	350人	A		358	362	391	556
実施回数	1回	1回	A		1	1	1	1
うちサンデートーク参加者数	645人	600人	A		648	587	584	621
実施数	12回	12回	A		12	12	11	12

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(1/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発
2)～(略)

担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員　池内一誠

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)・体験型展示室「あじっぱ」の運営を進め、従来からのプログラム、キットを継続して展開したほか、今年度新たに「なりきり考古学者　拓本ヴァージョン」「中国の剪紙」等の各プログラム、キットを開発し、来館者向けに展開した。
・「いこうよ！あじっぱ夏祭り」やボランティアワークショップを実施し、幅広い層の来館者に体験の場を提供した。
・アジア各国の文化の類似性や相違性についての理解を深めるため、さまざまなテーマのもと、「あじ庵」「あじぎゃら」「ディスプレイ」において特集展示をおこなった。また、季節にあわせて体験資料の展示替えを随時行った。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)・今年度開発したプログラム、キットは、上記の他「阿蘇4火砕流と埋もれ木くん」「いろんな国の将棋」「ウズベキスタンの帽子をつくろう」「あじっぱカルタ」「ワヤンぬりえ」「天神さまぬりえ」の6種類。そのうち「あじっぱカルタ」は、平成22年度ジュニア学芸員活動における成果のひとつを実現したものである。
・「いこうよ！あじっぱ夏祭り」「ボランティアワークショップ」は、当館ボランティアが企画から運営まで行っており、ボランティアに対する生涯学習の場としての機能も果たしている。
・「あじ庵」における特集展示は「タイの町並み」「染めと織り」「いろんな国の子どもの衣装」「アジアの楽器」「桃の節句」「青」の計6回、「あじぎゃら」における特集展示は「はらのなかのはらっぱで」「ウズベキスタンの細かな手仕事」「やきもの動物園」「郷土人形」の計4回、「ディスプレイ」における特集展示は「ウズベキスタン」「ベトナムの水上人形」「モンゴルの生活」「アジアの龍」の計4回、季節等にあわせたあじっぱ屋台の展示替えは8カ国につき延べ10回。特集展示は、可能な限り特別展やトピック展示等にあわせた内容とした。「タイの町並み」や「モンゴルの生活」はその例である。


「行こうよ!あじっぱ夏祭り」


「ウズベキスタンの帽子をつくろう」

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(2/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(九州国立博物館)
1)(略)
2)学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験(中学生)の受け入れを実施
・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しの実施
3)～8)(略)
9)放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	総務課 交流課	事業責任者	課長　岩﨑英明 主任研究員　池内一誠

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(大学会員制度)による大学との連携を継続して実施した。
(九州国立博物館)
2)・12校66名の中学生の職場体験を受け入れ、博物館の機能について紹介した。
・高校生「ジュニア学芸員」は、5校14名の参加を得て計9回の継続プログラムで実施した。
・高等学校経験10年経過教員4名、および高等学校経験2年経過教員3名に対し、それぞれ2～3日社会貢献研修を実施した。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸出を引き続き行い、85件の貸出を行った。
9)放送大学の面接授業を実施した。

【補足事項】
(4 館共通)
1)大学との連携を継続させるため、今年度も募集、実施し、各教育機関(大学・短期大学・高校)が新規及び継続で入会した。
加入校内訳(大学 16 校、短期大学 5 校、専門学校 1 校、高等学校 6 校)
・会員校へ出張講義を実施した。(1 校)
・会員校の学園祭に協賛した。(5 校)
・会員校へ博物館体験型講義を実施した。(1 校)
・特典の利用として文化交流展を 4,763 人、特別展を 1,795 人が観覧した。また、パスポートを 1,842 人（学生 1,690 人、教職員 152 人）が割引購入した。
・会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。


出張講義の様子

(九州国立博物館)
2)・「ジュニア学芸員」は今年度「あじっぱにおける考古資料の効果的な展示と紹介の手法」について検討を行った。
・社会貢献研修を行った教師は、その後「きゅうぱっく」の利用や「ジュニア学芸員」の募集への協力など、博物館に対する理解が深まったといえる。
・「きゅうぱっく」については今年度から貸出範囲を明確に「全国」とし、それに伴い貸出期間も 2 週間と延長した。東京、京都など遠方からの貸出依頼が増加したほか、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町からの貸出依頼も入り、応えることができた。


「きゅうぱっく」の貸出

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
キャンパスメンバーズ加入校数	28 校	―	―		21	22	29	27

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供(3/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)2)(略)
3)シンポジウムを開催する。
4)特別展記念講演会を開催する。
5)文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。
6)ギャラリートークを随時実施する。
7)文化施設等へ講師を派遣する。
8)特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。
9)(略)
(講演会等の目標)参加者数　計2,030人(実施回数計46回程度)
・特別展記念講演会　参加者数　600人(実施回数 4回程度)
・特別展シンポジウム　参加者数　180人(実施回数 1回程度)
・ミュージアムトーク　参加者数1,200人(実施回数40回程度)
・ミュージアム講座　参加者数　50人(実施回数 1回程度)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長　小泉惠英

【実績・成果】
(九州国立博物館)
3)朝鮮半島の古代国家である百済と日本について考える国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。
4)今年度は特別展記念講演会を7回開催した。
5)特別展では展示内容を分かりやすく普及啓蒙するパネルを掲出し、来館者から高評価を得ている。
6)定例のギャラリートークを43回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。
7)放送大学において展覧会の運営にかかる連続講座を実施、アクロス福岡にてトピック展に関連した講座を実施した。
8)特別展・文化交流展ついてのワークショップを開催し、来館者との交流を室外でも深めることができた。

【補足事項】
(九州国立博物館)
8)トピック展示「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」では、久留米絣体験やタイ舞踊公演など、日タイ友好を目的としたテーマに相応しいワークショップを展開することができた。



トピック展示開会式を彩ったタイ舞踊

【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
講演会等の参加者数		7,833人	2,030人	S		4,168	5,507	6,806	3,996
実施回数		89回	46回	S		61	56	73	64
うち特別展記念講演会	参加者数	1,500人	600人	S		1,892	2,670	1,622	1,410
	実施回数	7回	4回	S		7	11	6	9
うち特別展シンポジウム	参加者数	263人	180人	A		－	290	530	230
	実施回数	1回	1回	A		－	2	2	2
うち講演及びシンポジウム	参加者数	4,269人	－	－		316	1,265	3,319	1,036
	実施回数	37回	－	－		1	4	22	9
うちミュージアムトーク	参加者数	1,741人	1,200人	A		1,320	1,096	1,285	1,320
	実施回数	43回	40回	A		42	37	42	44
うちミュージアム講座	参加者数	60人	50人	A		640	186	50	－
	実施回数	1回	1回	A		11	2	1	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1 ボランティア活動の支援

【年度計画】
(東京国立博物館)
1)各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。
2)点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内を実施する。
3)各種ガイドツアーを継続して実施する。
4)ボランティア自身の企画立案によるプログラムの充実を図る。
5)東京藝術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
(東京国立博物館)
1)館内各所での案内・みどりのライオン体験コーナー・紹介コーナーでの活動、職場体験の補助のほか、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。また、期間限定の「表慶館トラベル」の補助活動を実施。各活動実施のための研修会・解説会を実施した。
2)通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障害者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。またボランティア全員を対象に、視覚障害者理解、聴覚障害者理解のための研修を実施した。
3)全13の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施。また、研究員により、活動のための研修会を実施。
4)通常の自主企画グループの活動のほかに留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見をなどでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーではボランティア活動 PR 隊を募集し、ボランティアの企画立案によるボランティア活動紹介を実施した。
5)総合文化展の作品解説をするギャラリートーク班 5 名と、所蔵作品の制作工程模型の作成と教育普及事業を行う制作工程模型班 1 名による活動を行った。

【補足事項】
・教育普及事業の補助活動では、東洋館開館後の教育普及事業の事前調査の一環として 10 月～12 月の土・日・祝に体験型プログラムの「表慶館トラベル」の補助活動を実施。一般を対象とした「アジアの香り」、小学生を対象とした「まぼろしの作品調査書」の実施、ボランティアとの 2 回の意見交換会を通して、教育普及プログラムの対象や運営方法などの参考にした。
・バリアフリー活動として、点字パンフレット作成 36 冊、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」(毎月 1 回) 、「本館ハイライトツアー」(全 1 回)を実施。
・各自主企画グループおよびボランティア活動 PR 隊のガイド・ツアー等の実施。(459 回 11,815 人)
・自主企画グループ
樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、たんけんマップツアー
・生涯学習ボランティアに対する研修 39 回、解説会 6 回
・東京藝術大学学生ボランティアによるギャラリートーク　30 回 821 人
・東京藝術大学ボランティア制作工程模型班は平成 23・24 年度 2 ヵ年の活動。23 年度は制作のための調査と制作を行い、24 年度に展示・教育普及事業を実施予定。


生涯学習ボランティアによる「触知図」を使った館内案内とバリアフリー活動

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ボランティア数	169 人	－	－		162	171	163	159
うち生涯学習ボランティア登録者数	163 人	－	－		153	164	155	152
うち東京藝術大学学生ボランティア数	6 人	－	－		9	7	8	7

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 2222-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　　②－1 ボランティア活動の支援

【年度計画】
(京都国立博物館)
1)調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。
2)大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
3)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室長　山下善也

【実績・成果】
(京都国立博物館)
1)収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。
2)・京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(8回)
　・大学生・大学院生ボランティア「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した。(16回)
　・京都橘大学との教育提携に基づき、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施した。(12回)
3)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した

【補足事項】
2)「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアが、当館研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において講師をつとめた。

6 月 13 日　　紫明小学校
7 月 13 日　　納所小学校
10 月 3 日　　金閣小学校
10 月 31 日　　新洞小学校
11 月 28 日　　蜂ヶ岡中学校
11 月 30 日　　鷹峯小学校
12 月 19 日　　一橋小学校


文化財ソムリエによる訪問授業

・建仁寺で 23 年 3 月から 4 月にかけて行われた「綴プロジェクト作品展」(NPO 法人京都文化協会主催)にて、キッズプログラム(4 月 4 日)の講師をつとめた。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
ボランティア数	64 人	－	－	経年変化	23	30	35	40
うち京都橘大学学生によるアンケートボランティア数	18 人	－	－		18	24	18	18
うち調査・研究支援ボランティア数	22 人	－	－		5	6	10	15
うち文化財ソムリエ数	14 人	－	－		－	－	7	7
うちらくご博物館学生ボランティア数	10 人	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1 ボランティア活動の支援

【年度計画】
(奈良国立博物館)
1)ボランティア制度をより充実させるため、その在り方について検討する。
2)ボランティアによる、展示解説、イベント、学習普及事業補助等の充実を図る。
3)ボランティア同士のグループ別学習の充実に努める。
4)外国語対応のできる解説ボランティアの充実に努める。

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　吉澤　悟

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)ボランティア制度を見直すため、検討委員会を立ち上げ、月1～2回の検討会を開催した。その結果、23年度の後半に「ボランティア室」を設置し、新制度でのボランティアを公募することとした。11月より新ボランティアの公募を始め、年明けに準備室を設置、採用者の決定、研修等を行い、24年度より活動開始を目指すこととした。
2)ボランティアに対して、特別展、特別陳列の開催ごとに1～2回、当館職員、展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。また、全員にすべての展覧会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。さらに、正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った後、1～2週間にわたる自主トレーニングを課して実地に臨むよう指導した。
日常的には、学芸部職員による担任制をとり、展示内容に関する質問や問題解決に対応した。
3)ボランティアの学習に関しては、班体制の中で互いに情報共有をはかり、解説における役割分担などの工夫をはかるよう指導した。
4)外国語対応のボランティアの充実は、新体制において採用を奨励することとして、年度内は現有のスタッフで対応することとした。

【補足事項】
・休館日や年末年始の臨時開館日に対しても柔軟に活動できるよう、担当班を割り振り、活動参加を呼びかけた。
・昨年度にボランティアの退任者や物故者があり活動人数が減少したため、過去に当館でボランティア活動の経験がある者の再登録を奨励し、5名の経験者を採用し体制の強化を図った。



ボランティア活動風景

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ボランティア数	87人	－	－		96	102	98	85
うち解説ボランティア数	79人	－	－		85	91	87	76
うちイベントボランティア数	8人	－	－		11	11	11	9

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－1 ボランティア活動の支援

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。
2)ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。
3)ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員　上野知彦

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)新規(第3期)ボランティアを受け入れ、各部会の所属人数増だけでなく、新たな発想・思いによって、従来の活動の発展・充実、そして新しい活動の創造等が行われた。
2)「九州国立博物館ボランティア活動」の継続・発展を目的に第2期ボランティアの企画・実施による第3期ボランティアへの研修を積極的に実施した。
3)イベントやワークショップ等の実施において、主体性・自主性を尊重した取り組みを行った。

【補足事項】
1)・開館以来活動していた第1期ボランティアの任期(活動期間)の終了に伴い、新規(第3期)ボランティアを受け入れた。また、第2期ボランティアとの融合がスムーズに実施できた。
・各期のボランティア数
第2期ボランティア(平成20年4月より活動)数　132名
第3期ボランティア(平成23年4月より活動)数　223名
・通常の活動においては、毎日30～40人、月のべ1,000人前後のボランティアが活動。活動率は月2回以上の活動者がボランティア登録者のおおよそ7割。
・日常の活動は博物館1階における館内案内(日本語・英語・中国語・韓国語・手話)、体験型展示室“あじっぱ”における活動サポート、4階文化交流展示室の解説案内、博物館内のＩＰＭ活動
〔ボランティア対応来館者数〕(事前・当日受付を含む総数)
展示解説：11,316名　案内館内：6,738名　バックヤードツアー：3,082名


英語による館内案内

2)・他館・他施設のボランティア活動や運営等を学ぶため、またボランティアの資質向上を目的に積極的に館外研修(他館交流)を実施することができた。
〔主な館外研修先〕　宗像大社宝物館、北九州市立いのちのたび博物館、田川市立石炭歴史博物館、佐賀県立名護屋城博物館、長崎歴史文化博物館、長崎県美術館、出島和蘭商館跡
〔主な研修〕　日韓交流史、古文書講座、ＩＰＭ関連講座


長崎県美術館との交流会

3)・ボランティア自身に企画から実施まで担わせることで、ボランティアの主体性・自主性を高めることができた。
〔実施したイベント・ワークショップ〕
九博子どもフェスタ(10数種類のプログラムを展開)
各ワークショップ：和綴じ本作成・組紐・餅つき・書き初め等
・部会の枠を越えたグループ活動が積極的になり、定期的に研修や勉強会を行い、その成果報告としてのワークショップなどを開催した。

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
ボランティア数	355人	－	－	経年変化	293	388	345	288
うち展示解説ボランティア数	84人	－	－		54	85	68	63
うち教育普及ボランティア数	48人	－	－		72	70	62	53
うち館内案内ボランティア数	31人	－	－		34	37	34	32
うち外国語通訳ボランティア数	89人	－	－		48	77	71	53
うち環境ボランティア数	38人	－	－		28	36	32	28
うちイベントボランティア数	10人	－	－		14	13	11	10
うち資料整理ボランティア数	20人	－	－		－	19	19	18
うちサポートボランティア数	25人	－	－		－	30	29	19
うち学生ボランティア数	10人	－	－		43	21	19	12

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2221-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2 博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。
1)「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)「友の会」会員を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会員制度の継続・拡充を図る。
2)地域、企業との連携・拡充を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	総務課長　樋口理央

【実績・成果】
(4館共通)
1)入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。
2)「東大寺講演会」を開催した。
3)地域との連携、ＰＲにより認知度向上に努めた。
4)ＪＲ、地下鉄など総合文化展、特別展のポスターの掲示に協力を図るなど、広告活動に努めた。
5)三菱商事株式会社と共催で「障がい者内覧会」を実施した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)積極的に企業へのＰＲを行い、新規会員を増加させた。
2)日本大学共催で「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催した。

【補足事項】
(4 館共通)
1)継続案内を積極的に行い、リピーターの拡大に努めた。
2)キャンセル待ちを含め 301 名が参加した。
3)特別展におけるマスコミ各社との共催の他、上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等に参加し、共同事業の実施や、ＰＲ活動への協力を得るなどして、博物館活動の認知度向上に努めた。
5)その他、株式会社東京美術等から様々なイベントへの協力を得た。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
2)日本大学芸術学部との共催で所沢市教育委員会等の後援により「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催した。

・個人の維持会員についても賛助会顕彰板の前にパンフを設置するなど、個別に制度の紹介をするなどした結果、加入者が増加した。(191 人→238 人)
・企業などへ個別訪問することにより、賛助会参加の企業が増加した。(44 団体→54 団体)


柳瀬荘

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
友の会会員数	1,802 人	－	－		1,341	1,913	2,085	1,412
パスポート会員数	17,672 人	－	－		16,035	20,405	21,598	13,733
賛助会員	292 件			経年変化	163	196	218	235
うち特別会員数	19 団体	－	－		16	13	16	16
うち維持会員数(団体)	35 団体	－	－		24	26	24	28
(個人)	238 人	－	－		123	157	178	191

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2 博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。
1)「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)「友の会」会員を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 連携協力室　山下善也

【実績・成果】
(4 館共通)
1)「友の会」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。
2)「友の会」会員を対象とした事業を実施した。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。
5)昨年度設置した「ミュージアム・パートナー」制度に、今年度新規に1社が加入し、合計2社が加入している。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(4 回)・見学会(5 回)・会報(4 回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。
また、地域・機関との連携事業に協力した。

【補足事項】
(4 館共通)
1)「友の会」会員が当館ミュージアムショップにおいて、「友の会」会員カードを提示すると、商品(書籍・グッズ等)が 10%引きで購入できる等の特典がある。
3)・毎週木曜に当館の展覧会やイベント等の情報をラジオ(FMCOCOLO)にて配信し、当館の認知度向上につながった。
・庭園を利用した「ジャングル大帝」野外上映会(計 2 回)を開催し、大盛況であった。また、展覧会チケット半券による入場であったため、展覧会の集客に努めた。
・人間国宝　桂米朝氏の所属している米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」を実施した。平常展示館建替中に伴い、今年度は 2 回実施した。
・全館休館期間中に、京阪電気鉄道株式会社の特別協力による音楽イベント「音燈華」を庭園を利用して開催した。武田高明氏の燈火による演出のもと、DEPAPEPE(デパペペ)が音楽を奏で、大盛況であった。
・展覧会会期中に当館文化大使竹下景子さんと行く観覧ツアーを開催し、大盛況であった。


音燈華～DEPAPEPE コンサート～

(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)・「京都市内 4 館連携協力協議会」では、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館、京都国立博物館の 4 館が連携し、広報のための合同パンフレットを 67,000 部製作、連携講座やスタンプラリーを実施するなど事業内容の充実を図るとともに、「友の会」の相互協力を行った。
・京都市内博物館施設連絡協議会、第 26 回国民文化祭京都市実行委員会の行う広報活動やイベント事業への協力を行った。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
友の会会員数	2,667 人	－	－		3,224	2,932	2,612	2,468
ミュージアム・パートナー会員数	2 件	－	－		－	－	－	1
清風会会員数	373 人	－	－		390	388	389	391
うち賛助会員数	34 人	－	－		34	34	31	34
うち特別会員数	61 人	－	－		67	67	63	61
うち普通会員数	278 人	－	－		289	287	295	296

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2 博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。
1)「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)「友の会」会員を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会員制度の継続・拡充を図る。
2)地域、企業との連携・拡充を図る。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
(奈良国立博物館)
1)支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
2)支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。

担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員　吉田貴至

【実績・成果】(4館共通)
1)友の会
　会員数　2,615 人(一般 2,503 人、学生 88 人、家族 24 人)
2)会員に夏季講座の案内を送付し、優先的に受講できる配慮を行った。
3)株式会社日本香堂と確約書を取り交わし、展覧会のＰＲを行った他、体験イベント・講演会を行った。
4)西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社とタイアップし、特別展の広報を行った。
5)他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)賛助会　29 団体　36 人
　特別支援会員：5 団体、特別会員：5 団体、一般会員(個人)：36 人、(団体)：19 団体
2)観光関連業界の会合に出向き、顧客層の開拓を行った。
　奈良の観光イベント「ライトアッププロムナード・なら 2011」、「なら燈花会」、「ならファンタージア」、「音燈華 SPECIAL LIVE」、「陶燈茶夜」、「なら瑠璃絵」に対して積極的に協力した。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)支援団体等が主催する講演会等に会場を提供した。
(奈良国立博物館)
1)展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。
2)特別展の実施に際して企業等からの協力金を獲得した。

【補足事項】
・賛助会員に対する特別観賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。
・賛助会員からの要望に応じて、継続入会の場合は会費の納入のみで手続きが終了できるように、継続入会手続きを簡略化した。



ならファンタージア



音燈華 SPECIAL LIVE

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
友の会会員数	2,615 人	－	－	経	2,439	2,815	2,799	3,180
賛助会員数	65 件	－	－	年	45	49	56	64
うち特別支援会員数	5 団体	－	－	変	6	6	5	4
うち特別会員数	5 団体	－	－	化	1	1	2	4
うち一般会員数	55 件	－	－		38	42	49	56

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　②－2 博物館支援者の増加

【年度計画】
(4館共通)
企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。
1)「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)「友の会」会員を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
5)展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。
(九州国立博物館)
1)近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務課 広報課 交流課	事業責任者	課長　岩﨑英明 課長　梶村正年 事務主査　藤﨑秀典

【実績・成果】
(4館共通)
1)「友の会」等の会員制度を継続して実施した。
2)「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展ちらし等の送付を行った。
3)企業等と連携し、広報活動を行った。
4)特別展においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。
5)特別展「よみがえる国宝」において企業からの協賛を得た。
(九州国立博物館)
1)支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。

【補足事項】
(4館共通)
1)館で製作した九博ストラップ(3色)とチケットフォルダーを入会記念品として充実させた。
4)特別展においては、ＪＲ、西鉄電車とのタイアップにより広報活動を実施した。
(九州国立博物館)
1)支援団体や近隣地域と連携したイベント
・「九州国立博物館を愛する会」と連携して「九博こどもフェスタ」を開催。館内ボランティアや周辺自治体の協力を得て、地域のこどもたちを対象にしたイベントを実施した。
・福岡女子短期大学(太宰府市)と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施。地域連携の促進及び館内施設の有効利用を図った。
・開館以来、6 年連続で国の重要無形文化財である博多祇園山笠の飾り山笠をエントランスホールで展示。この事業は、西日本新聞社との共同事業として実施した。
・内容を勘案したうえで、自治体が主催するイベントを受け入れ、各団体との連携を強化した。これらの様々なイベント事業の実施により来館者へのサービスが促進された。


飾り山笠

・支援団体である九州国立博物館を愛する会、観光協会に対して特別展の内覧会を行った。
・太宰府市役所 1 階窓口に設置されている番号案内表示機に特別展開催情報を表示した。
太宰府市コミュニティバスまほろば号バス停等に設置されているバス情報表示板へイベント等の情報を表示した。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
友の会会員数	117 人	－	－		167	154	206	144
パスポート会員数	3,093 人	－	－		3,252	3,120	3,914	3,318

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2231

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する(大学院生対象)。
2)東京藝術大学との連携事業を継続して実施する(大学院生対象)。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　伊藤信二 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
(東京国立博物館)
1)博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的として大学院生を対象にインターンシップを募集、8大学20名の学生を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の8部署で10～30日の活動を行った。
2)東京藝術大学の学生ボランティアを募集し、ギャラリートーク班５名、制作工程模型班１名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、総合文化展の解説を行った。制作工程模型班では館蔵の国宝「紅白芙蓉図」の制作工程模型を作成するための調査を行い、次年度の展示・教育普及事業のための準備を行った。

【補足事項】
1)インターンシップ
・インターンシップの募集は近隣 60 大学への郵送による通知のほか、全国あるいは国外からも応募できるようウェブサイトでも行った。
・インターンシップ受入部署
学芸企画部　デザイン室、教育普及室、教育講座室、情報資料室、広報室
学芸研究部　平常展調整室、東洋室、保存修復課

2)東京藝術大学学生ボランティア
・東京藝術大学学生ボランティアによるギャラリートーク
30 回　参加人数 821 人


東京藝術大学学生ボランティアによるギャラリートークの様子

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2232

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(京都国立博物館)
1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員　赤尾栄慶 連携協力室　山下善也

【実績・成果】
(京都国立博物館)
1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、研究員5名が客員教授(3名)、准教授(2名)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。また、京都橘大学との学術協定に基づき、研究員7名が事前講習を行ったのち、学生18名がアンケートボランティアとして活動した。

【補足事項】
・文化財保存修理分野の啓発と普及を目的に、文化財保存修理に関わる大学院生を対象とした研修会を実施し、16名の参加があり当館の活動に対する理解を深める機会となった。

・京都橘大学の学術協定に基づき、特別展会期中の10月18日から11月11日までの毎週火・水・金曜日に学生が来館者にアンケート回答の呼びかけを実施し、終了後に集計を行った。


アンケートボランティア風景

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2233

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(奈良国立博物館)
1)奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。
2)奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を検討する。
3)インターンシップを継続的に受け入れる。

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長　吉澤　悟

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)・第40回夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」を奈良女子大学との共同主催として実施した。
・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員 1 名を客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期 3 人、後期 4 人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員 2 名を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生 10 名であった。
2)・奈良教育大学・奈良市教育委員会との世界遺産学習プログラムの開発は、今年度に科学研究費が獲得されたため、3年間を一つの目処として、その開発・検討が始まった。
・平成 23 年 12 月 24 日(土)・25 日(日)、なら 100 年会館及び奈良市教育センターを会場として、「世界遺産学習全国サミット in 奈良」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催した。講演会・分科会などに約 600 人が参加し、初めて実施された「子ども会議」後、地域の文化を守る決意を込めた「子ども宣言」が出された。
3)インターンシップに関しては、募集を行ったが大学等からの要望がなかったため、今後の受け入れに備えて当館内の制度の見直しについて検討を始めた。

【補足事項】

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2234

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　③大学との連携

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)博物館実習生の受け入れを実施する。
2)インターンシップによる研修生の受け入れを実施する。

担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長　宮本裕一 課長　岩﨑英明

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)博物館実習生の受け入れを実施した。
　博物館実習生を15大学20人(男2人、女18人)、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は7大学11人)
2)インターンシップについては募集を行い、照会はあったが、受け入れには至らなかった。

【補足事項】
1)平成 23 年 7 月 27 日(水)から 8 月 8 日(月)の間､15 校から 20 名の実習生を受け入れ、延べ 10 日間にわたる博物館実習を実施した。作品・資料の収集と管理、展示、保存科学、教育普及、地域交流・国際交流など、博物館の各機能に関する講義のほか、考古遺物・陶磁器などの作品取り扱い実習やＩＰＭ(総合的有害生物管理)を中心とした博物館科学実習、子ども向けワークショップの運営や体験コーナーでの対応などの来館者コミュニケーション実習等を行い、最後に、グループ毎に資料カードをもとにした展示案を作成する演習を行った。作成された展示案には秀逸なものもあり、体験型展示室「あじっぱ」において実現することを検討している。
　参加大学:
　福岡女子短期大学、京都造形芸術大学、九州産業大学、福岡教育大学、山口大学、西南学院大学、八洲学園大学、福岡大学、筑紫女学園大学、久留米大学、佐賀大学、九州大学大学院、活水女子大学、立命館大学、大阪芸術大学、計 15 大学 20 名

2)インターンシップについては、福岡県内の大学で構成する「福岡県インターンシップ推進協議会」や、海外からの照会はあるが、学生や協議会と博物館の求める人材や期間についてのマッチングがスムーズにいかず、実施できていないという現状がある。

※西南学院大学と連携協力に関する協定を締結(24 年 2 月 29 日)


博物館実習の様子
(作品取り扱い実習)


博物館実習の様子
(子ども向けワークショップ運営)

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(東京国立博物館)
1)多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。
2)より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。
3)～6)(略)

担当部課	学芸企画部企画課 総務部	事業責任者	特別展室長　松嶋雅人 デザイン室長　木下史青 環境整備室長　大江信浩

【実績・成果】
(4館共通)
1)すべての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。「空海と密教美術」展の音声ガイドでは、北大路欣也(俳優)のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が 25.2%となった。
(東京国立博物館)
1)多言語(日・英・中・韓)による案内及び誘導サイン等の充実を図った。
2)・特別展「孫文と梅屋庄吉」において、可変調光盤と小型ＬＥＤスポットライトによる展示照明を行った。
・「根付 高円宮コレクション」高円宮コレクション室における歴史的展示ケースへのＬＥＤ照明器具の取付けを行った。
・「東京国立博物館 140 周年特集陳列 天翔ける龍」特別 1 室天井にライティングダクトを増設した。

【補足事項】
・施設のバリアフリー化について検討し、概算要求を行った。(いずれも平成 24 年度施設整備費補助金当初予算にて整備予定)
①表慶館の障がい者用エレベーター及びトイレの設置
②黒田記念館の耐震改修工事に合わせた障がい者用エレベーター及びスロープの設置



多言語による案内
(考古展示室入口)


「根付 高円宮コレクション」
歴史的展示ケース

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
音声ガイド貸出件数	319,172 台	－	－		256,441	305,135	360,901	130,850
展示照明整備件数	3 件	－	－		1	2	2	4

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(2/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(東京国立博物館)
1)2)(略)
3)総合文化展における音声ガイドの導入について検討する。
4)障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。
5)「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4ヵ国語：日、英、中、韓)の制作・配布する。
6)本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、(3ヵ国語：英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	博物館教育課教育普及室長　伊藤信二 広報室長　小林　牧

【実績・成果】
(東京国立博物館)
3)平成22年度に実証実験を行なったスマートフォン端末を用いた館内ガイド「とーはくナビ」を、アンドロイド版スマートフォンアプリとして平成24年4月からの運用に向けて準備を行った。
4)障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布した。
5)「総合案内パンフレット」(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4ヵ国語：日、英、中、韓)の制作・配布を行った。
6)本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3ヵ国語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具　今昔」「日本の伝統もよう」の3種を制作・配布した。

【補足事項】
(東京国立博物館)
6)「日本美術の流れ」パンフレット　日本語版　計28回更新
(第227号～第254号)

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
リーフレット等	7ヵ国語	7ヵ国語	A		7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　2312

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(京都国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。
2)館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 部長　西上　実

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。
(京都国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進した。
2)昨年度に製作した館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。

【補足事項】
・音声ガイド利用台数
特別展覧会「法然－生涯と美術－」
(日本語版・一般向け)　15,915 台(会期中は 17,586 台)
特別展観「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」
(日本語版・一般向け)　2,168 台
特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」
(日本語版・一般向け)　14,906 台
特別展覧会「中国近代絵画と日本」
(日本語版・一般向け)　1,106 台
・平常展示館の建替工事が引き続き継続中であるため、お客様の観覧を騒音や振動で妨げないよう配慮した。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
音声ガイド貸出件数 リーフレット等	34,095 台 6 ヵ国語	－ 6 ヵ国語	－ A		50,344 6 ヵ国語	34,597 6 ヵ国語	78,797 6 ヵ国語	47,668 6 ヵ国語

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2313

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。
2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。
3)座面を上下に動かせる車いすの整備を進め、障がい者の方の観覧環境の向上を図る。
4)正倉院展の際に託児所を設置する。
5)なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。
6)市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討する。
7)ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。
8)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。
9)なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成する。

担当部課	総務課	事業責任者	利用者サービス係長　築部一男

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。
2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保した。
3)座面を上下に動かせる車いすは、現在、国内及び国外において製造していないため、整備が出来なかった。
4)正倉院展の会期中に、託児所を開設し、多くの利用者があった。
5)なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、新ボランティア制度が平成24年4月から発足し、解説ツアーを実施することに伴い、音声ガイドと重複するところがあるため、解説ツアーの実施状況を受けて再度検討することになった。
6)市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討した結果、費用対効果等の観点から行わないこととなった。
7)ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行った。
8)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。
9)なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成した。

【補足事項】
1)正倉院展の会期中、臨時の誘導サインを設置して、より快適な観覧環境を確保した。
4)開設した託児所は、保育士2名を常駐して1歳児から未就学児までの預かりを予約制で実施した。会期中123名の利用があり、遠くは東京都、千葉県、埼玉県等からの利用者もいるなど、皆様に喜んでいただいた。
・施設のバリアフリー化を実施し、車椅子の方、高齢者及び障がい者の利用にも配慮した快適な観覧環境を確保した。


託児所



館内誘導サイン

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
音声ガイド貸出件数	46,113台	－	－		37,110	60,356	51,970	69,219
リーフレット等	7ヵ国語	7ヵ国語	A		7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2314-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(九州国立博物館)
1)～(略)

担当部課	学芸部企画課 総務課	事業責任者	課長　小泉惠英 文化交流展室長　河野一隆 課長　岩﨑英明

【実績・成果】
(4館共通)
1)年4回開催した特別展において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。
（開館以来、音声ガイドを装備し、英語・中国語・韓国語の音声解説を提供しており、好評を博している。）

【補足事項】
(4館共通)
1)特別展では、作品鑑賞のポイントや時代背景を分かりやすく解説する音声ガイドを提供し展示の理解を深めることに努めた。
　当館では九州という土地柄、また文化交流をコンセプトとする館の性格上、欧米だけでなく、とくに韓国・中国からの旅行客や団体客が、特別展・文化交流展を問わず来館する。母国語での解説に対するニーズが高いことは、開館当初から容易に想像できたが、作品ネームや解説のキャプションの全てに 4 ヶ国語を表示することについては物理的な制約があった。このため、開館以来、文化交流展室では作品キャプションには日英のみで表示し、特筆すべき時代背景や鑑賞のポイントについては音声ガイドを導入し、用に充ててきたという経緯があった。
　ただし、音声ガイドは総数が 200 台と限りがあり、観覧時間が限られたツアー客にとっては必ずしも便利とは言えないという声も一方で寄せられた。しかも平成 20 年度から上海から当地へ定期的に団体ツアー(コスタ・クルーズ)が来館する運びとなり、これをきっかけとして展示テーマを紹介するための外国語パネル(開館以来の英語に中・韓を加えたもの)を補い、ツアー客にも対応できるようにした。当館展示の特性として頻繁な展示替えに全て対応できてはいないが、空間デザインを大きく損なうことなく、かつ要を得た解説として定評がある。今後は表示対応への達成率を下げることなく実績を維持していきたい。





多言語対応音声ガイド

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
音声ガイド貸出件数	56,993 台	－	－		74,367	67,663	139,159	81,717

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2314-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　①施設・設備等の充実(2/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。
2)来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。
3)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。
4)文化交流展示室の展示ストーリーを、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットまたはガイドブックを刊行する。
5)英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。

担当部課	学芸部企画課 総務課	事業責任者	課長　小泉惠英 文化交流展室長　河野一隆 課長　岩﨑英明

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)ケースや照明設備を総点検し、安全で快適な鑑賞空間の提供するため、日々向上に努めた。
2)エントランスの丸看板に、主要なトピック展示や季節感を表わすことによって、新鮮な展示をアピールした。
3)館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。
4)トピック展示「館蔵水墨画名品展」で、英語・中国語・韓国語を併記した図録を作成し、アジア圏の来館者に対応した。
5)文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替えに応じて更新し、作成・配布した。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)トピック展示など文化交流展室の部分的リニューアルを通じて、快適で分かり易い展示を日々追及・検討している。また、研究員だけの参加に止まらない、文化交流展示の内容検討会を月１回のペースで開催し、4年後の開館10周年のリニューアルに向けて問題点の洗い出しを行なっている。

2)文化交流展室入口の丸看板「ようきんしゃった九博」は開館以来、当展示室の顔として変えていなかったが、トピック展示「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」で初めてトピック展示仕様とし、その後「彫漆」や「国宝　初音の調度」などでも変えることで来館者より好評を博している。

4)トピック展示「館蔵水墨画名品展」では水墨画の日・中・韓比較がテーマであったため、英語・中国語・韓国語の要約を図録に付した。

○施設のバリアフリー化のため、障がい者用トイレ３ヶ所に音声案内装置を設置した。



トピック展示「日本とタイ　ふたつの国の巧と美」エントランスの看板



障がい者用トイレの音声案内装置

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
リーフレット等	7ヵ国語	7ヵ国語	A		7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2321

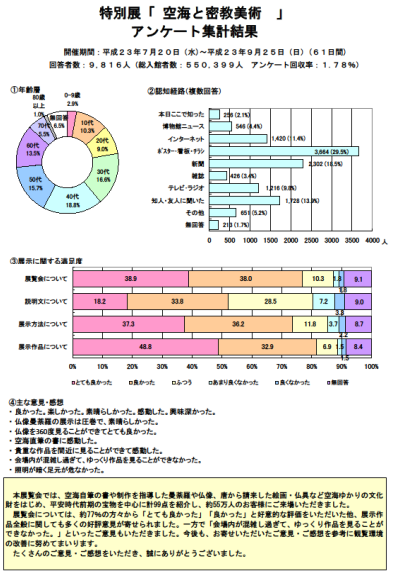
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	総務課長　樋口理央

【実績・成果】
1)タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施
　平成館、本館で開催された全ての特別展及び本館での総合文化展でアンケートを実施し、その結果で環境改善に努めた。
2)・夏季の「空海と密教美術展」や冬季の「北京故宮博物院　200選」期間中に、看護師の常駐、日傘の貸出やテント・給水所設置など来館者への配慮を行った。
　・館内外の利用案内や展示紹介(キャプション等)の整備など展示会場の環境維持に努めた。

【補足事項】
1)アンケートに書かれたキャプション等への指摘に従った訂正、見やすい角度などの環境改善を行った。
・平成23年3月11日の東日本大震災による影響から来館者が一時的に減少し、アンケートへの回答数も減少した。
・特別展の待ち時間をＨＰで配信した。
・お客様からの質問・意見については、内容を職員へ周知し、質問についてはできる限り迅速に対応した。
2)冬季の「北京故宮博物院200選」における混雑対応
・展示作品の1つである「清明上河図」の待ち列を館内に並べ、防寒対策を行った。
・特に寒さが厳しい時に、外で列に並ぶお客様にカイロを配布した。
(平成24年1月20日～22日の3日間で2,840個配布)
・来館者数が事前に把握できる内覧会等について、試験的に整理券による入館規制を導入した。
○お正月企画における総合文化展の混雑対応
・お正月特別展示において総合文化展が混雑するため、観覧への注意事項のバナーを臨時で掲載した。(平成24年1月2日～1月29日)
・特に混雑する本館1階、2階の監視員を臨時に2名増員した。(平成24年1月2日～1月9日)
○ベビーカーの貸出しを開始した。(23年12月7日から開始)
○お客様対応をよりスムーズにするため、無線機の全面デジタル化を行った。
○特別展のチケットモギリ台が経年劣化しているため、新たに購入した。
○本館前庭の喫煙所を全面禁煙とした。



タッチパネルアンケート集計結果

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
写楽満足度	80%	－	－	経年変化	－	－	－	－
手塚治虫のブッダ展満足度	63%	－	－		－	－	－	－
空海と密教美術満足度	77%	－	－		－	－	－	－
法然と親鸞　ゆかりの名宝満足度	68%	－	－		－	－	－	－
北京故宮博物院200選満足度	60%	－	－		－	－	－	－
孫文と梅屋庄吉100年前の中国と日本満足度	52%	－	－		－	－	－	－
総合文化展満足度	65%	－	－		－	84%	89%	88%

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2322

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
(京都国立博物館)
1)大学との学術交流による特別展覧会観覧者アンケートを実施する。
2)モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。

担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。
2)特別展覧会「法然－生涯と美術－」において、以前から強い要望があった整理券システムを試行した。また混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。
(京都国立博物館)
1)通常のアンケートとは別に、学生ボランティアによる呼びかけアンケートを行い、より細かなニーズを調査するとともに、館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。
2)小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。

【補足事項】
・特別展示館内及び庭園内において、混雑状況に応じて休憩場所の箇所を変更し、お客様が休憩しやすいようにした。前年度に引き続いて、特別展会期中、日よけテント、待合所テントの設置、自動販売機及び観光客の旅行用大型バッグ(カート)の収納が可能な大型コインロッカーの増設も行った。また、特別展示館入口前にもコインロッカーを設置し、お荷物を預け忘れたお客様が庭園まで戻る必要がないようにした。
・また、前年度に引き続き、特別展会期中に入館までの待ち時間等の情報を HP 等で掲載した。
・当館職員を対象に、普通救命講習及び AED 取扱講習会を実施した。
全事務職員が普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。
AED 取扱についても繰り返し訓練している。
・当館職員、臨時要員、売店・レストラン従業員、(公財)京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を実施した。
・各展覧会の開催期間中に火災及び地震を想定した避難誘導訓練を実施し、職員等の防災に対する意識を高めた。
・今年度は、ベビーカーを新たに 1 台購入し、ベビーカーが 7 台となり、乳幼児用設備の整備に努めた。


臨時コインロッカー及びテント
(右手奥は喫煙所テント)


AED 取扱講習会風景

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
法然上人 800 回忌　法然－生涯と美術－満足度	89%	－	－	経	－	－	－	－
百獣の楽園　－美術にすむ動物たち－満足度	93%	－	－	年	－	－	－	－
細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－満足度	92%	－	－	変	－	－	－	－
中国近代絵画と日本―満足度	94%	－	－	化	－	－	－	－
平常展満足度	－	－	－		72%	70%	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2323

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

担当部課	総務課	事業責任者	利用者サービス係長　築部一男

【実績・成果】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展「天竺へ」に関し、専門家の展覧会評を奈良国立博物館だよりに掲載した。

【補足事項】
○アンケートなどの意見を反映して、改善したこと
・正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃を業者委託により実施した。
・正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置した。
・正倉院展の会期中、トイレを順次見回り、汚れがあれば迅速に清掃を行った。
・ホームページのご意見箱の質問に対し、迅速に対応した。
○混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対して工夫等を行ったこと
・正倉院展では、入場待ち列ができるためテントを設置し、また、映像を流すなどして、入場待ちの来館者に疲労を和らげる環境維持に努めた。
・正倉院展では、混雑状況(待ち時間)の速報を、ハローダイヤル、近鉄奈良駅及びＪＲ奈良駅で行った。
・正倉院展では、入場待ち列の混雑緩和のため誘導案内を行った。
・正倉院展では、宝物の配置及び音声ガイドを付ける宝物の展示場所の工夫を行った。


入場待ち列テント

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
誕生！中国文明満足度	87%	－	－	経	－	－	－	－
天竺へ～三蔵法師3万キロの旅満足度	80%	－	－	年	－	－	－	－
第63回正倉院展満足度	73%	－	－	変化	68%	75%	79%	77%
名品展満足度	74%	－	－		66%	67%	68%	75%

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2324

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(九州国立博物館)
1)隣接する旧九州歴史資料館跡地を利用して駐車収容台数を拡張する。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　岩﨑英明

【実績・成果】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため、平常展及び各特別展で来館者調査を実施した。
2)混雑が予想される展覧会について、入場者調節、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。
(九州国立博物館)
1)旧九州歴史資料館跡地を利用して駐車収容台数を拡張した。

【補足事項】
(4館共通)
1)管理運営の改善のためアンケート結果を関係各課へ回覧した。

・平常展アンケート　満足度 65%　　回答数 257件
（とても良い34%、良い 31%、普通 13%、あまりよくない 4%、よくない4%、無回答 14%）

・特別展アンケート
「黄檗展」　満足度 88%　　回答数 523件
（とても良い 60%、良い 28%、普通 8%、あまりよくない2%、よくない1%、無回答 1%）
「よみがえる国宝展」　満足度 83%　　回答数 1,084件
（とても良い 53%、良い 30%、普通 10%、あまりよくない3%、よくない2%、無回答2%）
「草原の王朝　契丹展」　満足度 90%　　回答数 632件
（とても良い52%、良い 38%、普通　6%、あまりよくない 1%、よくない1%、無回答 2%）
「細川家の至宝展」　満足度 83%　　回答数 566件
（とても良い 46%、良い 37%、普通 9%、あまりよくない 2%、よくない 2%、無回答 4%）

(九州国立博物館)
1)10月1日より、南側駐車場(旧九州歴史資料館跡地)に96台分の駐車スペースを増加させた。駐車場の増加に伴い、駐車場が満車になる日数が減少し、駐車場の待ち時間が大幅に短縮された。

○太宰府消防署の協力により、地域と連携した防災訓練を実施した。
○財団法人日本宝くじ協会助成事業を活用しベビーカーを1台導入した。


旧九州歴史資料館跡地駐車場

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
黄檗展満足度	88%	－	－		－	－	－	－
よみがえる国宝展満足度	83%	－	－	経年	－	－	－	－
草原の王朝　契丹展満足度	90%	－	－	変化	－	－	－	－
細川家の至宝展満足度	83%	－	－		－	－	－	－
平常展満足度	65%	－	－		64%	63%	66%	59%

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2331

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　樋口理央

【実績・成果】
・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスを行い、また展覧会に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。
・140 周年グッズを開発した。
・その他ミュージアムグッズについてもその都度、東京国立博物館運営協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。(自在龍をモチーフとしたガラスの置物など)
1)新たなミュージアムグッズとして本館をモチーフにした立体ペーパークラフトを製作販売した。

【補足事項】
・140 周年を期に、ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会の協力を得て、海洋堂製のカプセルフィギュア(考古学シリーズ第 1 弾)、資生堂パーラー製チーズケーキ、凸版印刷製「洛中洛外図」原寸大屏風レプリカをいずれも当館限定で 24 年 3 月 20 日から販売を開始した。
・台東区立書道博物館と連携した特集陳列「呉昌碩の書・画・印」の開催期間中に、台東区立書道博物館の図録を販売し、連携企画の趣旨に沿った利用者サービスの向上に努めた。
・今後もミュージアムショップやレストランと連携協力を図りつつ、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。







上　海洋堂製　カプセルフィギュア
中　資生堂パーラー　チーズケーキ
下　凸版印刷製　「洛中洛外図屏風」原寸大レプリカ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2332

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。

【補足事項】
・南門施設は平成21年7月にオープンし、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーがあり、入場料を払わずにお客様が利用できるスペースとなっている。3業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた運営になるよう心がけた。
・特別展示館が閉館の期間についても、ミュージアムショップ、レストラン及びインフォメーションコーナーは営業を行った。
・当館職員だけでなく、委託している外部業者も当館が開催するマナー講習会に参加し、接客サービスの向上を図った。
・当館オリジナルグッズとして、クリップ、立体カード、ジグソーパズル等を新規に作成し、ミュージアムショップ及び特別展物販コーナーにて販売を始めた。
・来館できない方には、図録等の通信販売を実施した。
・ミュージアムショップにおいて、平成22年度に引き続き、350種類の絵はがきを販売し、日本美術を中心としたグッズを販売した。
・インフォメーションコーナーでは、展覧会関係及び京都観光案内等のチラシ・ポスターを掲示したり、英会話のできる人員を配置するなど、当館の案内だけでなく京都市内の観光案内等も行った。
・平成22年度に引き続き、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナー共通の営業カレンダーを製作し、掲示した。


オリジナルグッズ(クリップ)


オリジナルグッズ(立体カード)


オリジナルグッズ(ジグソーパズル)

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2333

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(奈良国立博物館)
1)ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。
3)寄附金の受け入れ、賛助会の会費及び館主催のイベント料金の支払い等について、クレジットカードで決済できるような方策を検討し、利用者の利便性の向上を図る。
4)より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。

担当部課	総務課	事業責任者	利用者サービス係長　築部一男

【実績・成果】
(4館共通)
1)オリジナルグッズ(クッキー、ワイン)の商品をレストランで販売し、サービスの向上に努めた。
(奈良国立博物館)
1)平成24年1月2日に来館された方､正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりなどを配布するサービスを行った。
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。
3)寄附金の受け入れ、賛助会の会費及び館主催のイベント料金は、大半が口座振り込みにより支払われているため、クレジットカード決済による利用者の利便性が見込めないことから、クレジットカード決済の導入は、見合わせることになった。
4)より快適な環境を提供できるよう、レストランのリニューアルを行った。

【補足事項】
・レストランと当館が共同でオリジナルのクッキーとワインを作成し、サービスの向上に努めた。なお、クッキー缶のデザインとワインの名称(Musee Nara)は、当館で考案した。
・レストランのテーブル、クロス及び椅子を新たに入れ替えるなど、より快適な環境を提供できるようにリニューアルを行った。



オリジナルクッキー



オリジナルワイン

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2334

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(九州国立博物館)
1)特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。

担当部課	広報課	事業責任者	課長　梶村正年

【実績・成果】
(4館共通)
1)ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。
(九州国立博物館)
1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。

【補足事項】
(4館共通)
1)博物館の6周年にあわせた記念セット商品を販売した。
　また、当館の所蔵品をモチーフにしたオリジナル商品「クリアファイル」を販売した。


6周年記念セット

(九州国立博物館)
1)特別展に関連したメニューを提供した。
　冬に開催した特別展「細川家の至宝」は、細川家ゆかりの地、熊本づくし。熊本の名物料理を集めた「肥後弁当」2,100円は、蓮根を輪切りにした断面が細川家の家紋に似ていたことから熊本の名物となったからし蓮根や、阿蘇特産自然豚の生姜風味の蒸し焼き、南関揚げなどを提供。
　また「阿蘇豚と高菜のピラフ(だご汁付き)」や熊本のいきなり団子風に仕上げた「さつま芋入りぜんざい(ほうじ茶付き)」なども提供。


「阿蘇豚と高菜のピラフ（だご汁付き）」


クリアファイル

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2411

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。
3)約9,000件（東京：3,000、 京都：2,000、 奈良：3,000、 九州：1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(東京国立博物館)
1)外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の構築を進め、博物館機能の充実を図る。
2)収蔵品に関する基本情報のデータ化を引き続き推進するとともに、複数あるデータベースを統合して公開することに向けた整備を進める。
3)法隆寺献納宝物について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」)等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】
(4館共通)
1)デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。
2)国宝・重要文化財の高精細画像(e国宝)を継続して公開した。
3)既存フィルムはほぼすべてデジタル化済みであり、平成23年度新規フィルム撮影のほぼ全てにあたる1,468枚をデジタル化した。
(東京国立博物館)
1)「列品管理プロトタイプデータベース」を改善し、学芸業務支援の機能を充実させた。
2)収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。
3)・「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」を法隆寺宝物館にて継続して提供した。
　・東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。

【補足事項】
　画像管理システムの運用を本格化し、資料館閲覧室において来館者向けにデジタル画像を提供した。また同システムから抽出したデータをインターネットで公開した。インターネット公開では、画像検索をリニューアルして大幅に性能を向上させた。また公開した画像は一定の条件下で無償利用が可能とし、一般利用者の利便性向上を図った。
　既存フィルムのデジタル化は3,000枚の計画であったが、デジタル撮影が本格化しフィルムによる新規撮影が想定を大幅に下回ったため1,468枚に留まった。
　収蔵品情報のデータ化では、画像データ、文字データの整備のほか、三次元計測(6件)を実施した。
　iOSアプリ「e国宝」のバージョンアップを行い、iPadへの正式対応に加え、「Twitter」の機能と連携したブックマークの共有機能を搭載し、自分の作成したブックマークの公開や他のユーザーが作成したブックマークの閲覧を可能にした。(24年3月)



インターネット公開「画像検索」

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	1,468件	3,000件程度	C(A)		124,996	139,000	775,300	8,639
うちカラーフィルム	1,392件	－	－		3,396	2,583	3,480	5,136
うちモノクロフィルム	76件	－	－		0	14,817	23,639	3,503
うちマイクロフィルム	0件	－	－		121,600	121,600	748,181	0

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
　収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2412

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開する。
3)約9,000件（東京：3,000、 京都：2,000、 奈良：3,000、 九州：1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(京都国立博物館)
1)収蔵品について多国語の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。
3)2,165件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。
(京都国立博物館)
1)重要文化財高精細画像公開システム「KNM　GALLERY」で平成21年度より公開されている6カ国語(日英韓中仏西)による解説について、内容及び表示方法等について修正を行った。

【補足事項】
・平成22年度に引き続き、マイクロフィルムのデジタル化及びX線フィルムのデジタル化を行った。



重要文化財高精細画像公開システム
「KNM　GALLERY」

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	2,165件	2,000件程度	A		―	―	―	―

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2413

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開する。
3)約9,000件（東京：3,000、 京都：2,000、 奈良：3,000、 九州：1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(奈良国立博物館)
1)収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。
2)写真データベースの個別データを約2,000件追加更新する。
3)修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。
4)仏教美術資料研究センターのウェブサイト(蔵書検索)の開設と、利用案内パンフレットの作成を実施して、仏教美術情報の公開・普及を図る。
5)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　宮崎幹子

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。
2)国宝・重要文化財のデジタル高精細画像(ｅ国宝)を継続して公開した。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(5,297件)。
(奈良国立博物館)
1)収蔵品データベースに継続して情報を蓄積し、画像、解説文、文献情報を充実させた。
2)画像データベースの個別データを4,370件追加更新した。
3)「美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ化を継続して行い、データベースの構成について検討した。
4)仏教美術資料研究センターのウェブサイトを開設し、また利用案内パンフレットをあらたに作成して、仏教美術情報の公開・普及を図った。
5)地下回廊にタッチパネル式学習端末機を設置し、収蔵品の中から名品の画像を公開した。

【補足事項】
　収蔵品についての情報提供を充実させるべく、収蔵品データベースの個別情報から、関連データベース(画像データベース、蔵書目録)の個別情報へ直接リンクする機能を追加した。これにより、収蔵品に関する情報資源の連携が実現した。
　また、昨年度より実質的な運用を開始した、内部用の画像情報システムの安定稼働をうけて、外部公開用の画像データベースのリプレイスを実施した。これにより、画像データの提供機能が強化された。
　仏教美術資料研究センターのウェブサイトでは、蔵書目録(ＯＰＡＣ)の公開を開始した。仏教美術に関する文献資料の管理に適したカスタマイズをおこない、より詳しい書誌情報の発信を可能とする環境を整備した。



【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	5,297件	3,000件程度	S		695	1,410	90,555	4,311
写真データベースの個別データ追加更新件数	4,370件	2,000件程度	S		3,889	6,989	12,339	5,190

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
　収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2414

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。
3)約9,000件（東京：3,000、 京都：2,000、 奈良：3,000、 九州：1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。
(九州国立博物館)
1)インターネット及び来館者用館内端末を通じ、収蔵品デジタル画像を利用したデジタルアーカイブの運用を開始する。
2)収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。
3)海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。

担当部課	学芸部文化財課 交流課	事業責任者	資料管理室長　小林公治 主任研究員　池内一誠

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行った。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。
3)目標としていた1,000件を超える収蔵品写真等のデジタル化を実施した。
(九州国立博物館)
1)本年度4月1日より、インターネット及び来館者用館内端末PC2台により九州国立博物館でデジタルアーカイブの公開を開始した。
2)今年度は平成22年度の購入品を中心に、コンテンツを追加するとともに、画面構成を改良した。
3)平成20年度・22年度に撮影・録音したデータをもとに、新規映像コンテンツとして「モンゴルの遊牧民」「ベトナムの水上人形」「ウズベキスタンの絨毯作り」、新規音声コンテンツとして「馬頭琴とホーミー」「ウズベキスタンの鳥市場」を制作し、「あじっぱ」において展開した。また、映像素材の画角変更にともない、再生機器(モニタ)も従来の3:4のものから9:16のものに変更し、スクリーンセーバーも焼き付きの危険性を可能な限り押さえたものに変更した。

【補足事項】
(4館共通)
2)e国宝については、若干の修正を行い継続して公開している。
3)本年度は、新たに当館の所蔵品となったものの他、昨年度に引き続き国宝栄花物語の全体撮影を継続している。
(九州国立博物館)
1)2)昨年度公開を始めた当館独自のデジタル・アーカイブのコンテンツは国指定文化財に限られていたが、今年度からは指定品以外の当館の所蔵品についても逐次公開を進めることとした。
3)各映像・音声コンテンツの長さは以下のとおり。
「モンゴルの遊牧民」：2分55秒、「ベトナムの水上人形」：4分12秒
「ウズベキスタンの絨毯作り」：4分46秒、「馬頭琴とホーミー」：2分57秒
「ウズベキスタンの鳥市場」：2分31秒
※収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数は、22年度まではフィルムスキャン件数、デジタル撮影件数を合算して計上していたが、23年度からはフィルムスキャン件数のみ計上。


収蔵品デジタルアーカイブ
(来館者用館内端末PC)

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	2,146件	1,000件程度	S	経年変化	3,295	3,963	3,574	1,391

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。
収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2421

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】

美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約 9,500 件（東京：3,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：500)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(東京国立博物館)

1)資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システムを軸とした図書資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。

2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。

3)調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集するための方針を策定する。

4)資料館の機能の拡充に向け、閲覧スペースや書庫、事務室等の区画・配置を始め、資料館全体の在り方を再検討し 、有効活用へ向けた利用計画を策定する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】

(4館共通)

1)本年度は 10,566 件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。

(東京国立博物館)

1)資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、図書資料等のデータ整備を推進した。
資料館において資料の閲覧、複写およびレファレンスサービスを継続して実施した。

2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。

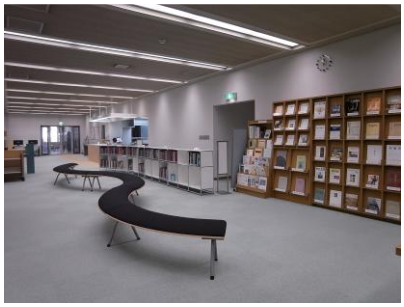
3)博物館の調査研究、展示等の業務を支援し一般利用者の利用に供するため、関連する図書及び関係資料を収集した。
収集件数; 購入図書 174 冊、寄贈・交換図書 3,796 冊、館蔵品等の写真資料 10,566 枚

4)図書配置計画の変更に伴い埋蔵文化財報告書用書架の増設を行い、別置していた図書を収容した。

○資料館への入退館について、従来は西門を経由していたが、利用者サービスの向上の一環として 9 月 1 日より新たに正門からの来館者が資料館東口から資料館に入り、利用後再び有料ゾーンに戻る事が可能な経路を設けた。

【補足事項】

・図書購入費の大幅な減額により、十分な図書購入を行えなかった。
・図書整理は、漢籍(線装本)約 5,074 冊、複製本 263 冊など計 5,459 冊の既存図書のデータを作成した。
・当館開催の展覧会の出品作品データの蓄積に努めた。
・図書館システムのリプレイスの時を迎え新システムへの移行を検討し、クラウド型の図書館システムを導入する準備を行った。
・入退館経路の変更に伴い、西門の入退館手続きの検討、ドア鍵等の設置、案内板・掲示等の整備を行った。
・国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)および美術館図室横断検索に継続して参加し当館蔵書への検索サービスの向上に努めた。
・当館刊行図書等の目次・論文データの入力、および収載された列品番号の入力を行った。
(OPAC 公開数：図書約 19 万冊、雑誌約 7 千タイトル、目次・論文データ約 6 千件)
・図書資料の展示コーナーおよび新着書架において、所蔵資料の紹介(年 5 回)、月毎の新着資料の展示、展覧会関連図書の展示を行った。また、新着図書の案内等のライブラリーニュースを随時発信し広報に努めた。



資料館閲覧室内

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品･出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	10,566 件	3,000 件程度	S		3,642	4,721	16,567	11,343
うちフィルム撮影	1,379 件	－	－		3,642	4,703	4,177	5,377
うちデジタル撮影	9,187 件	－	－		－	18	12,390	5,966
新規図書整理	3,970 件	－	－		4,013	7,781	3,411	7,345
遡及図書整理	5,459 件	－	－		4,574	5,709	11,105	7,836

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】

美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2422

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
(4館共通)
1)約9,500件（東京：3,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：500)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
1)収蔵品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を3,410枚、デジタル撮影を170枚行った。
・本年度から収蔵品写真の貸与形態をフィルムからデジタルデータに全面移行し、収蔵品フィルムの一括デジタル化作業を本格的に開始した。
・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書5,200冊、逐次刊行物2,623冊を収集した。

【補足事項】
・科学研究費「南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」(三カ年)による同地域諸持院(海住山寺、笠置寺、一休寺、蟹満寺、神童寺)の調査に伴い出張撮影を行った。当館の展覧会出品作品の撮影は、「法然　生涯と美術」展、「細川家の至宝」展、「中国近代絵画と日本」展、また24年4月開始予定の「陽明文庫名品展」関係を対象として進めた。
・大量一括寄贈、あるいは多数の寄贈者があった際に整理が進められず、未整理及び未登録となっていた本の入力、また複本を新規購入図書とは別に遡及入力するなど、5年をかけて図書資料の整理を進めてきた。その結果、このたび約42,000冊をデータに反映させた。
・本年度から、収蔵品写真の貸与形態をフィルムからデジタルデータに移行し、フィルムのデジタル化作業を進めている。多様なニーズに答えるため、貸与希望の多い作品を優先して進め、また絵巻のような連続した写真の要望が多い作品のデータの整備も早期に進めている。
・デジタル画像の提供は、別途「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net)を介し継続的に行っている。
・図書管理システム、資料の登録・検索を行う文化財情報システムについては、情報システム検討委員会で課題を検討しつつ、運用している。



南山城古寺調査における
染織資料調査状況

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	3,580件	3000件程度	A		4,256	6,478	3,753	3,379
うちフィルム撮影	3,410件	－	－		－	－	－	－
うちデジタル撮影	170件	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2423

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】

美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約 9,500 件（東京：3,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：500)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(奈良国立博物館)

1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。

2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】

(4館共通)

1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(6,103 件)。

(奈良国立博物館)

1)図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおいて情報公開を充実させた。

2)仏教美術資料研究センターの工事完了をうけて、新しい平面プランと利便性に配慮した、資料配置の全面的な見直しを行った。また閲覧スペース、研修室を拡大するなど、情報利用環境の向上に資するべく努力した。

【補足事項】

館内で運用中の画像情報システムの安定稼働を踏まえて、仏教美術資料研究センター及びインターネットで公開している画像データベースのリプレイスを行い、画像データの提供機能を強化した。特に仏教美術資料研究センターで公開するデータベースに関しては、インターネットで公開するデータベースとの適切な分離を行い、収蔵品以外の画像データも閲覧できる環境を整備した。これは従来作成していた写真カードによる情報提供に代わるもので、画像データの迅速な公開と利用者の利便性の確保を目指した。

また、仏教美術資料研究センターの改修工事完了を機に、センターと建物の歴史を解説する冊子および案内パンフレットを作成した。今回の工事は、文化財建造物の保存活用を目指したもので、情報公開施設としての意義とともにその活動を一般来館者に向けて広報することは、当館としても重要なことである。冊子および案内パンフレットは、関係者からも高い評価を得た。

工事後から再開までの間に、資料配置の全面的な見直しを行い、情報利用環境の向上に努めた。案内パンフレットには、新しい資料配置図や利用できるデータベースを掲載し、館内サインも新規に整備した。



仏教美術資料研究センター解説冊子

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	6,103 件	3,000 件程度	S		3,240	6,457	5,818	11,684
うちフィルム撮影	219 件	－	－		3,240	6,457	5,818	1,725
うちデジタル撮影	5,884 件	－	－		－	－	－	10,677

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】

美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2424

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】

美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約 9,500 件（東京：3,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：500)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(九州国立博物館)

1)対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。

2)博物館資料(収蔵品、図書、写真など)データベースにおける業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第2次業務システム構築を目指す。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	資料管理室長　小林公治

【実績・成果】

(4館共通)

1)目標とした 500 件を超える収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。

(九州国立博物館)

1)対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施した。

2)博物館資料(収蔵品、図書)データベースによる業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第 2 次業務システム構築を行った。

【補足事項】

(4館共通)

1)収蔵品・出品作品などについて、従来から行ってきた 4×5 版を主体とするポジフィルム撮影に加え、近い将来の移行が必至な高精細デジタル撮影の標準化に向けて、文化財のデジタル撮影情報の入手につとめ、さらに高性能デジタルカメラによる試し撮影を行い、両者の併用あるいはスムーズな移行について検討した。



収蔵品写真撮影風景

(九州国立博物館)

2)博物館収蔵品に関する基本情報データベースの構築と、展示・画像・文化財修復といった今後構築する予定となっている博物館諸情報システムとの機能的な連携をめざし、今年度は新収蔵品システムの設計、開発を行い、新年度からの本格運用を実施する。

なお、この新収蔵品システムは既存のパッケージソフトに頼らない、独自のソフト設計開発により行った。

※収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数については、21 年度までは、フィルム撮影件数、デジタル撮影件数、デジタルデータ作成件数を合算して計上していたが、22 年度からフィルム撮影件数とデジタル撮影件数の合算を計上。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品･出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,441 件	500 件程度	S		12,556	6,633	4,686	1,393
うちフィルム撮影	2,175 件	－	－		－	－	－	1,357
うちデジタル撮影	2,266 件	－	－		－	－	－	36

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】

美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 2430

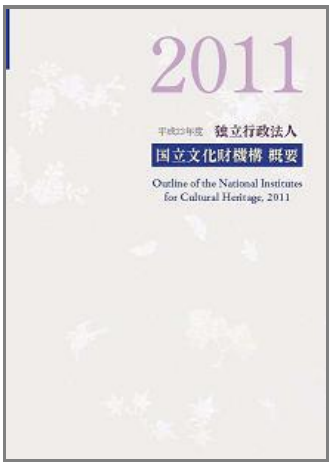
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(機構本部)
1)機構の概要、年報を作成する。
2)機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　藤本慎也

【実績・成果】
(機構本部)
1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成23年度』を23年7月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
『独立行政法人国立文化財機構年報 平成22年度』を24年1月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の全面リニューアルを行い、23年4月1日に新本部ウェブサイトを立ち上げた。掲載情報の追加・更新を随時行い、法人情報の公開・提供を継続するとともに、23年10月開設のアジア太平洋無形文化遺産研究センターのウェブサイト公開に合わせトップページのレイアウトを調整した。

【補足事項】
1)『平成 23 年度概要』: 2,700 部、カラー44 ページ、和英併記。
『平成 22 年度年報』: 280 部、カラー4 ページ・モノクロ 1,100 ページ。
2)機構本部ウェブサイトアクセス件数 : 208,982 件。



『独立行政法人国立文化財機構概要 平成 23 年度』



機構本部ウェブサイトトップページ
(アジア太平洋無形文化遺産研究センター追加後)

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2431

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(東京国立博物館)
総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
2)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。
3)平成24年度の東洋館リニューアルオープン及び開館140周年に向けての広報展開の企画・運営を行う。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　小林牧

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットを制作(35,000部　DM、館内配布)した。
(東京国立博物館)
1)「東京国立博物館ニュース」(隔月刊)、「博物館でお花見を」「博物館に初もうで」ほか各種広報印刷物を制作・配布した。
2)「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。
3)東京国立博物館 140 周年「ブンカのちからにありがとう」キャンペーンを実施。併せて東洋館リニューアルオープンの告知を行った。

【補足事項】

3)東京国立博物館 140 周年「ブンカのちからにありがとう」キャンペーン

・140 周年ロゴ及び館のＰＲを行うキャラクターを作成。140 周年の認知度アップを図るとともに、より親しみやすい館のイメージを作った。

・女優中谷美紀氏を起用したビジュアルを制作。交通広告・新聞広告展開で東京国立博物館の認知度アップを図った。当該広告は、第 79 回毎日広告デザイン賞部門賞を受賞した。

・140 周年記念パンフレットを作成し、総合文化展の集客力アップを狙ったスタンプラリーを展開した。

・140 周年記念グッズ(海洋堂によるフィギュア、資生堂パーラー菓子、洛中洛外図屏風複製。詳しくは処理番号 2331 参照。)の制作にあわせた周知活動を行った。

・140 周年ありがとうブログを立ち上げ、更新を継続し、「人の顔の見える」広報展開を実施した。



140 周年ロゴとキャラクター



140 周年キャンペーンポスター

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ⓢ　A　B　C　F(S、Fの理由)140 周年キャンペーンにより、東京国立博物館および総合文化展の認知度を高めた

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2432

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　久保智康

【実績・成果】
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。

【補足事項】
1)平成23年4月～平成24年3月の展覧会日程を記載した年間スケジュールリーフレットを作成・配布した。(20,000部)



年間スケジュールリーフレット

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
―	―	―	―		―	―	―	―

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2433

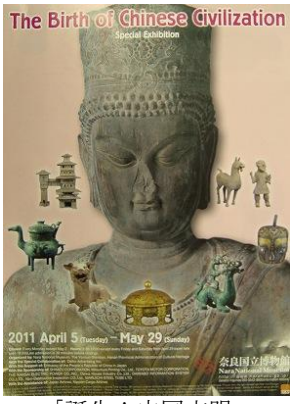
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(奈良国立博物館)
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
2)広報活動を多面的に行うため、広報の外注化を検討する。
3)広報業務を一元化するとともに、戦略的な広報体制を整備する。
4)英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。
5)特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。
6)地元の観光協会に入会し、観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。

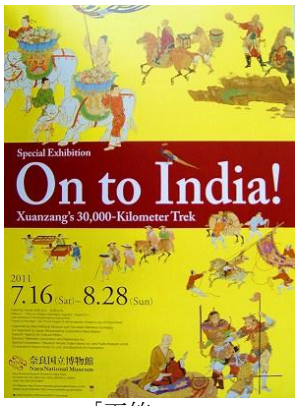
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室	事業責任者	室長　野尻　忠 総括専門職員　吉田貴至

【実績・成果】
(4館共通)
1)平成23年5月～24年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を9月に30,000部作成し、配布した。
(奈良国立博物館)
1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、および印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。
2)広報戦略委員会において外注化を検討したが、経費等の問題があり、引き続き検討課題とする。
3)館内各部署から発送していた展覧会チラシを、情報サービス室から一元的に発送する体制に移行した。
4)特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。
5)特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。
6)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界の会合に出席し、広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。

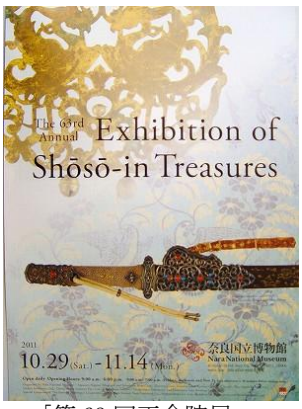
【補足事項】
4)英文チラシの例



「誕生！中国文明」



「天竺へ」



「第 63 回正倉院展」

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2434

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実　③広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(九州国立博物館)
1)特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。特に特別展の内容理解を促進するための番組を制作、ＴＶ放映する。
2)現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを整備する。
3)地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。
4)九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を展開する。
5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長　小泉惠英 文化交流展室長　河野一隆 課長　梶村正年

【実績・成果】
(4館共通)
1)季刊「アジアージュ」に加え、月毎に展覧会やイベントを紹介するちらしを制作・配布し、博物館の情報発信に努めた。
(九州国立博物館)
1)特別展では「よみがえる国宝」、「契丹　美しき三人のプリンセス」などでＴＶ番組を制作・放映した。
2)陳列案や陳列履歴を格納したデータベースシステムを実験的に構築した。利便性の向上にむけて引き続き改良を行う。
3)地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。
4)九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。
5)九州新幹線全通によって近くなった南九州への知名度の浸透を図るため、ＣＭ放映・刊行物配布ラックを設置した。

【補足事項】
1)通常の展覧会告知 CM に加えて、特別展会場からの生中継や特別展の内容をより深く知るための番組制作・放映を行い、それと呼応して来館者増に効果が認められた。
2)今まで、EXCEL の表で管理していた陳列案や陳列履歴をウェブデータベースの形で管理するために、実験的なシステムを構築した。しかし、インターフェイスなどに多くの改善点が見えてきており、なお一層の利便性を向上するため、引き続き運用しながらの改良を続けていきたい。
3)地元の市、商工会、観光協会等と例月の太宰府ブランド創造協議会等を開催し、情報を交換した。太宰府市の広報誌に博物館コラムを掲載(毎月)。また、太宰府天満宮参道の商店や「九州国立博物館を愛する会」などを対象とする特別内覧会を実施した。
4)九州観光推進機構を通じ海外のメディアに博物館の紹介を行った。
5)九州新幹線の全通で博多と南九州が近くなったため、熊本駅・鹿児島中央駅に特別展・トピック展示などの刊行物を配布するラックを設置し、九博の知名度を上げるための CM を作成し、放映した。初の試みであり、効果は部分的なものに止まったものの、今後の新規来館者層の開拓に期待できる。



熊本・鹿児島県内で放映された
九州国立博物館の CM



鹿児島中央駅に設置された九博ラック

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2441

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(東京国立博物館)
1)「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行う。(年6回)
2)新作コンテンツの開発等により、ウェブサイトの充実を図る。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長　小林牧

【実績・成果】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。(32回)
(東京国立博物館)
1)「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行った。(年6回)
2)新作コンテンツの開発等により、ウェブサイトの充実を図った。

【補足事項】
(東京国立博物館)
1)「東京国立博物館ニュース」について
・23年4月にデザインリニューアルを実施(23年6・7月号より)。
・24年1月から140周年関連新連載「教えて！なぜなにトーハク」を開始した。
2)ウェブサイト新作コンテンツについて
・23年4月ウェブサイトの全面リニューアルを実施した。
・「1089ブログ」を創設し、展示・催しなどの情報をタイムリーに発信した(ブログ更新数178回)。
・「140周年ありがとうブログ」を24年1月に創設し、多くの館員感謝を表するスタイルで館の活動について情報発信を行った。(ブログ更新数 29回)
・ユーザ参加型のコンテンツ「投票」「ユリノキひろば」を作成した。
・動画による館の案内、おすすめコース案内などにより、わかりやすく親しみやすい情報発信を行った。
・所蔵作品をデザインしたブログパーツを配信した。
・所蔵作品をデザインしたスクリーンセーバーやポストカードなどのダウンロードサービスを行った。
・民間企業との連携により、着せ替えカレンダーアプリを作成・配信した(23年9月～12月)



東京国立博物館ニュース

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
東京国立博物館ニュースの発行	6回	6回	A		6	6	6	6

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2442

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(京都国立博物館)
1)「博物館だより」、「News Letter」(英文)を年4回発行する。
2)地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
3)京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。
4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　久保智康

【実績・成果】
(4館共通)
1)各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。
2)ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを発行した。(12 回)

(京都国立博物館)
1)「博物館だより」、「Newsletter」の発行・配布を行った(各 4 回)
2)東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。
3)京都市内 4 館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。
4)既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。

【補足事項】
・「博物館だより」は、年 4 回、それぞれ 1 万部から 1 万 5,000 部発行(季節による来館者見込により増減)し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送している。
・「Newsletter」は、「博物館だより」の英語版として年 4 回発行し、配布している。現在 113 号に達しすでに四半世紀を超えた刊行物であり、外国人観覧者や留学生らの好評を博している。



Newsletter vol.110

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
博物館だよりの発行	4 回	4 回	A		4	4	4	4
Newsletter の発行	4 回	4 回	A		4	4	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2443-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(奈良国立博物館)
(略)

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室	事業責任者	情報サービス室長　野尻　忠 総括専門職員　吉田貴至

【実績・成果】
(4館共通)
1)読売新聞紙上に、年間を通じて文化財の魅力を紹介する連載を行った(隔週)。特別展「誕生！中国文明」において、読売新聞紙上に文化財の解説を連載した(5回)。特別展「天竺へ」において、朝日新聞紙上に文化財の解説を連載した(5回)。「第63回正倉院展」において、読売新聞紙上に宝物紹介を連載した(5回)。
2)特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイトおよびモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。
3)メールマガジンを毎月末に発信した。(12回)

【補足事項】

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2443-2

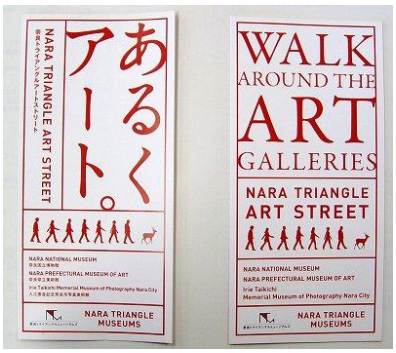
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(2/2)

【年度計画】
(4館共通)
(略)
(奈良国立博物館)
1)特別展及び名品展の魅力を紹介した「博物館だより」を発行する。(年4回)
2)ウェブサイトの外国語版の充実を図る。
3)地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
4)奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と奈良トライアングルミュージアムズを結成し、3館協力して集客に努める。
5)東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。
6)文化大使を継続して任命し、広報活動を行う。
7)マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。
8)フィルムコミッションと連携して映画撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。
9)季刊誌『奈良国立博物館だより』の PDF 版をウェブサイトに掲載する。

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室	事業責任者	室長　野尻　忠 総括専門職員　吉田貴至

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌「奈良国立博物館だより」を発行した(4回)。
2)「特別陳列」の対訳語が、ウェブサイト内で「Special Display」「Special Exhibit」などと揺れがあったのを、館内会議での議論を踏まえて「Feature Exhibition」に統一した。
3)地元の自治体・商工団体・観光団体等の会合に参加し、広報活動を展開するとともに情報収集を行った。
4)奈良トライアングルミュージアムズのＨＰ、パンフレット(日本語・英語)を作成した。
奈良トライアングルミュージアムズを周知してもらうためのイベント「奈良トライアングルミュージアムズサテライトエキシビション on 2days」を行った。
5)東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。
冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。
6)文化大使の任期満了にともない、次期候補者の選考を行った。
7)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。
8)フィルムコミッション奈良県サポートセンターのＨＰに登録した。
9)季刊誌「奈良国立博物館だより」の PDF 版は、1 年間の準備期間を経て、平成 24 年 3 月末日刊行号よりウェブサイトに掲載した。

【補足事項】
地域との連携
・「はじまりは正倉院展実行委員会」に参加し、スタンプラリーを実施。
・地元ホテルのスタンプラリーの特典として、観覧料金の割引を実施。
・地元商店街の割引クーポン利用施設に参加した。
・奈良市民連携企画実行委員会企画のイベント等に協力した。



奈良トライアングルミュージアムズ
パンフレット
(日本語)　(英　語)


「おん祭と春日信仰の美術」
関連イベント「春日大社ツアー」

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
博物館だより発行	4 回	4 回	A		4	4	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2444

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(九州国立博物館)
1)ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
2)「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行する。(年4回)

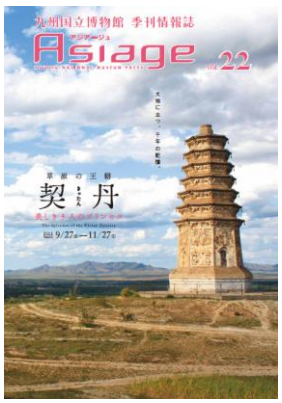
担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　梶村正年 課長　岩﨑英明

【実績・成果】
(4館共通)
1)マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。年間を通じ新聞広告に掲載するなど、テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえた広報を、マスコミ媒体を活用して行った。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。(毎月2回)
(九州国立博物館)
1)九州国立博物館 CM「きゅうはく行かなきゃ！」(処理番号2434参照)をテレビ放映の他、YouTube でも配信した。
2)「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。(年 4 回)

【補足事項】
(4館共通)
1)
・イベントやトピック展示の開催など 40 件のリリースを記者クラブに資料提供した。また、特別展の開催に関する記者発表やプレスプレビューを実施した。
・新聞紙上で展示作品の解説を行った。
西日本新聞に『黄檗-OBAKU』、『よみがえる国宝』、『草原の王朝　契丹』、『細川家の至宝』の展示解説を連載し、展示作品の紹介を行った。
2)ウェブサイト利用者からの意見に九博メールで対応した。
3)毎月 2 回メールマガジンを配信した。

(九州国立博物館)
1)特別展「草原の王朝　契丹－美しき 3 人のプリンセス」、「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション」では、ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画を YouTube で配信した。

2)「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を 4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、平成 24 年 1 月 1 日の 4 回発行した。



季刊情報誌アジアージュ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4 回	4 回	A		4	4	4	4

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2451

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。
2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　小林牧

【実績・成果】
(4館共通)
1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した
2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。

【補足事項】
1)ユーザーセッション数について
　ウェブサイトのリニューアルに伴い、アクセス解析の方法を変更したため、アクセス数に関して、昨年度との比較は不可能。

2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。
・23年4月　東京国立博物館ウェブサイト全面リニューアルオープン
・トップページの全面刷新、ナビゲーションの見直しなど、必要な情報到達が容易でかつわかりやすい情報提供を心がけユーザビリティの向上を図った。
・音声読み上げソフトに対応、言葉によるアクセスマップ、バリアフリー情報を充実させるなど、アクセシビリティーに配慮した。
・アクセス件数向上のために、ＳＥＯ対策(検索エンジン最適化)を講じた。
・海外への情報発信および、来客者の獲得を目指し、日本語から対応する英語ページへ簡便な移動を可能とした。
・「1089 ブログ」、「140 周年ありがとうブログ」により館員の顔の見える情報発信、「投票」。「ユリノキひろば」などユーザ参加型のコンテンツの提供、さらに動画やブログパーツ、スクリーンセーバーの提供などのサービス強化につとめアクセス数増加を図った。



リニューアルしたウェブサイト
トップページ

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ウェブサイトアクセス件数	2,772,633件	－	－		5,504,468	5,211,261	5,687,673	4,971,306

総合評価	Ⓢ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)ウェブサイトの全面リニューアルにより、情報の幅と質が大幅に向上した

【中期計画記載事項】
　ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2452

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。
2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 列品管理室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(4館共通)
1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。
2)画像申請及び収蔵品データベースのページなどをリニューアルし、ウェブサイトの内容の充実に努めた。

【補足事項】
・パソコン向けサイト及び携帯電話端末用サイトにおいて、特別展覧会、各種講座、イベント等のコンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報の提供に努めた。また、月１回発行しているメールマガジンについても、同様に最新の博物館情報の提供に努め、展覧会会場の混雑状況や、イベント情報について臨時号の発行を行った。
・平成 23 年 11 月よりデジタル画像の貸出を開始したのに伴い、画像利用申請のページをリニューアルし、ウェブサイトをご覧の方にわかりやすいものにするよう努めた。
・収蔵品データベースのリニューアルにより、検索できる収蔵品の件数が増え、ウェブサイトをご覧の方への利便性を高めた。



画像利用申請ページ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ウェブサイトアクセス件数	1,835,640 件	－	－		－	－	－	2,077,562

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2453

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。
2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	室長　野尻　忠

【実績・成果】
(4館共通)
1)アクセス件数のカウントは、これをユーザーセッション数に統一した。
2)これまで掲載していた「奈良国立博物館所蔵写真データベース」に替えて、新たに「画像データベース」を掲載した(9月)。

【補足事項】
・アクセス件数は、平成遷都 1300 年記念だった 22 年度に比べると減少しているが、21 年度よりは大幅に増加している。画像データベースの掲載に加え、トップページ「トピックス欄」の見易さの追求、各展示館ごとの展示内容一覧の掲出など、日々の内容充実の努力が成果を上げている。



画像データベースの検索結果(詳細)画面

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ウェブサイトアクセス件数	722,249 件	－	－		－	－	639,030	769,293

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2454

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。
2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　梶村正年 課長　岩﨑英明

【実績・成果】
(4館共通)
1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。
2)ウェブサイトの内容の充実を図った。

【補足事項】
2)
・より多くの方に関心を持ってもらえるよう、特別展「草原の王朝　契丹」では、研究員が展覧会の解説を行う動画を YouTube で配信した(処理番号 2444 参照)。数多くのアクセスがあり、今後の広報を考えるうえで画期的な試みだった。

・ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るため、当館の CM を作成し、YouTube でも配信した(処理番号 2434 参照)。

・本年度 4 月 1 日より、ウェブサイトにより当館のデジタルアーカイブの運用を開始した。5 ヶ国語(日、中、韓、英、仏)に対応した収蔵品デジタルアーカイブを公開した。



収蔵品デジタルアーカイブ
ウェブページ



特別展「草原の王朝　契丹」
ウェブページ

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ウェブサイトアクセス件数	1,150,408 件	－	－		1,164,425	1,480,341	1,956,287	1,384,701

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3111

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(東京国立博物館)
1)東京国立博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。
2)紀要・図版目録等を刊行する。
3)文化財修理報告書を刊行する。
4)法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。
5)研究誌「ＭＵＳＥＵＭ」(年6回)を刊行する。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長　池田宏

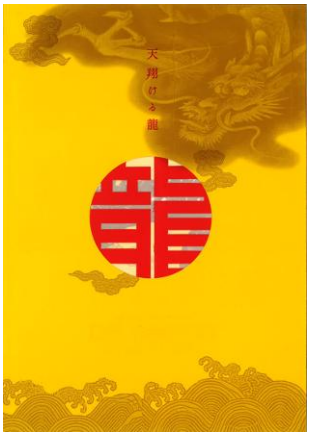
【実績・成果】
(東京国立博物館)
1)(東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号 2411 参照)
2)『東京国立博物館紀要』47号を刊行した。
3)『東京国立博物館文化財修理報告書』ＸⅡを刊行した。
4)『法隆寺献納宝物特別調査概報ＸＸＸⅡ　聖徳太子絵伝5』を刊行した。
5)研究誌『MUSEUM』631～636 号を刊行した。

【補足事項】
その他以下の出版物を制作した。2)～3)の出版物同様、各担当者の調査研究に基づく成果である。

◎特別展図録　7 件
『手塚治虫のブッダ展』『写楽』『空海と密教美術』『法然と親鸞　ゆかりの名宝』『孫文と梅屋庄吉 100 年前の中国と日本』『北京故宮博物院 200 選』『ボストン美術館 日本美術の至宝』

◎特集陳列印刷物
○リーフレット(無償)　4 件
「石に魅せられた先史の人々」「東叡山寛永寺の歴史」「板谷家の絵画とその下絵」「東京国立博物館コレクションの保存と修理」
○図録(ミュージアムショップにて販売)　1 件
『天翔ける龍』

◎名品紹介(ミュージアムショップにて販売)　2 件
『東洋美術 100 選　ハングル版』『横河コレクション』



『天翔ける龍』の図録

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
『MUSEUM』発行	6 回	6 回	A		6	6	6	6
定期刊行物	3 件	－	－		5	6	6	5
特別展図録・特集陳列印刷物	12 件	－	－		6	11	10	12
その他	2 件	－	－		1	2	2	2

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3112

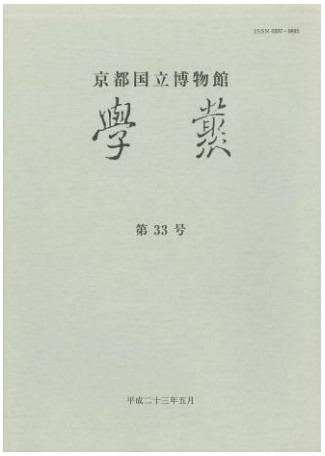
中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(京都国立博物館)
1)研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。
2)社寺調査報告書等を刊行する。
3)文化財修理報告書を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　久保智康

【実績・成果】
(京都国立博物館)
1)研究紀要『学叢』第 33 号を刊行した。
2)『社寺調査報告書　25』を刊行した。
3)『文化財修理報告書　第 8 号』を刊行した。
○特別展等の図録を 4 冊刊行した。
・浄土宗寺院の所蔵文化財の調査研究成果を盛り込み特別展覧会「法然」を開催し、図録を刊行した。
・館蔵品・寄託品の調査成果を盛り込み特別展観「百獣の楽園」を開催し、図録を刊行した。
・永青文庫を中心とする各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「細川家の至宝」を開催し、図録を刊行した。
・館蔵の須磨コレクションを中心に、海外も含め各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「中国近代絵画と日本」を開催し、図録を刊行した。

【補足事項】
・『学叢』第 33 号で、論文 2 本、作品研究 7 本、修理報告 2 本を発表した。



『学叢』第 33 号

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
定期刊行物	3 件	－	－		－	－	－	－
特別展図録・特集陳列印刷物	4 冊	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　3113

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(奈良国立博物館)
1)研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。
2)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
3)入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　稲本泰生

【実績・成果】
1)研究紀要『鹿園雑集』13 号（24 年 3 月）は 24 年度内の刊行に向けて現在準備中である。なお、収蔵品等に関する調査研究の成果を展覧会等図録・学術雑誌等の各種刊行物、研究会・講座等で公表した。
2)文化財修理に関する印刷物に関しては、研究紀要『鹿園雑集』13 号（24 年 3 月）内に掲載する形で、24 年度内の刊行に向けて現在準備中である。
3)地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。

【補足事項】
・展覧会等図録 5 冊を刊行した。

『天竺へ－三蔵法師三万キロの旅』(特別展図録)
『初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像』(特別陳列図録)
『第 63 回正倉院展』(特別展図録)
『The 63th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)
『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)


地下回廊パネル展示

・仏教美術資料研究センターの再オープンに際して図録『奈良国立博物館　仏教美術資料研究センター　重要文化財　旧奈良県物産陳列所』を刊行した。また『なら仏像館　名品図録』の改訂版を刊行し、学術協力した『聖徳太子 1390 年御遠忌記念法隆寺展』の図録(3 月刊行)の編集作業を行った。
(以上は全て作品解説付き、展覧会等担当者の総論や各論を掲載)
・東大寺ミュージアム開館記念図録『奈良時代の東大寺』に、当館学芸部の 13 名が論文・作品解説等を寄稿した。
・読売新聞紙上で「鹿園観照－奈良国立博物館で見る名宝」を連載するなど、展示作品について定期的な紹介を行った。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経	19	20	21	22
定期刊行物	－	－	－	年	1	1	1	1
特別展図録・特集陳列印刷物	5 冊	－	－	変	6	7	5	5
研究論文等発表実績	29 件	－	－	化	21	16	22	33

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3114

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)研究紀要「東風西声」を刊行する。
2)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
3)保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。

担当部課	学芸部博物館科学課 展示課	事業責任者	課長　本田光子 課長　赤司善彦

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)研究紀要『東風西声』第7号を刊行した。
2)我が国の文化財保存修理の歴史をテーマとした特別展図録『よみがえる国宝―守り伝える日本の美』を刊行した。
3)特別展「よみがえる国宝」の展示会場用に文化財保存修復活動を解説する教育普及パネルと映像を制作した。
○平成23年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に ミュージアム IPM」の報告書を3冊刊行した。

【補足事項】
1)論文9本（うち館職員7本）を掲載。3月31日刊行。

2)文化財保存修理についての総論1本をはじめ、文化財の保存、修理、模写・模造・文化財保護の観点から、修理技術者・研究者によるコラム20本を掲載した。総292頁。

3)分りやすい解説を加えた教育普及パネル 10 枚を制作、展示映像として「国宝を守る技(17 分)」「曝涼と蔵(8 分)」「発見！美のふしぎ(5 分)」(全て NHK プラネット九州制作)の 3 本を制作・放映した。

4)平成 23 年度 IPM 事業の内容を総括した 1 冊(総合版)418 頁、内容を簡潔に要約した簡易版 2 冊(研修編 58 頁、シンポジウム編 48 頁)を刊行した。



「よみがえる国宝」展
図録・展示映像 DVD

○特別展図録・特集陳列印刷物 10 冊を刊行した。(特別展図録 4 冊、海外展図録 1 冊、トピック展示目録 5 冊)



「よみがえる国宝」展　教育普及パネル

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
定期刊行物	1 件	―	―		1	1	1	1
特別展図録・特集陳列印刷物	10 冊	―	―		6	8	7	11

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　3211

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(国立文化財機構)
1)日中韓国立博物館長会議へ参加する。
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(東京国立博物館)
1)国際交流協定を締結している博物館及び欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長　鬼頭智美

【実績・成果】
(国立文化財機構)
1)第6回日中韓国立博物館長会議および第3回アジア国立博物館協会(ANMA)理事会・定期大会に出席した。(23年9月23日)
(4館共通)
1)韓国、中国より計16名の研究者を招へいし、学術交流および展覧会事業の円滑化に寄与した。
2)韓国、中国、イギリス、フランスに延べ48名の研究員を派遣し、学術交流および展覧会の準備調査を行った。
3)特別展「故宮博物院200選」を記念して、国際シンポジウム「『清明上河図』の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの『清明上河図』」を開催し、国内外の研究者が活発な意見交換を行った。
(東京国立博物館)
1)韓国国立中央博物館および中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究および海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。

【補足事項】
上記研究者招へいおよび研究員派遣の人数については、当館予算で実施した人数の延べ人数を示す。
科学研究費および他機関等外部による経費負担による招へいおよび派遣人数の合計は、
　招へい：４４人
　派遣：１０２人
であった。


韓国国立中央博物館との学術交流

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
海外からの研究者招へい	16人	6人程度	S		10	15	26	15
海外への研究者派遣	48人	6人程度	S		22	25	16	54
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		－	－	1	－
国際シンポジウム参加者数	323人	－	－		－	－	170	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3212

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(京都国立博物館)
1)諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加し、研究交流及び研修を行う。
2)外国人研究員・研修員の受け入れを行い、海外の研究者との交流を促進する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　久保智康

【実績・成果】
(4館共通)
1)海外からの研究者を21名招へいした。
2)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ 25 名派遣した。
3)国際シンポジウム「中国近代絵画の形成と日本」(24 年 2 月 11 日)を開催した。また、北京、上海から講師 2 名を招いて、土曜講座を開講した(24 年 1 月 21 日、24 年 2 月 25 日)
(京都国立博物館)
1) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ 25 名派遣した。そのうち国際会議、研究集会等へ 4 名を派遣した。
2)外国人客員研究員を 1 名受け入れた。

【補足事項】
　平成 23 年度の国際シンポジウムは、24 年 2 月 11 日に「中国近代絵画の形成と日本」をテーマに開催し、国外の研究者 3 名が研究発表を行い、パネル・ディスカッションでは活発な討論が行われた。150 人が参加し、熱心に聞き入っていた。

・特別展覧会「中国近代絵画と日本」
　上海劉海粟美術館党支部書記兼任副館長　王 新華　氏
　ほか 14 名 を作品随伴、展示立会い、開会式出席として招へいした。
・土曜講座：中国近代絵画と日本展関連
　北京画院美術館斉白石紀念館館長　呉洪亮 氏（24 年 1 月 21 日）
　上海博物館書画研究部主任　單国霖 氏（24 年 2 月 25 日）
の 2 名を講師として招へいした。
・国際シンポジウム「中国近代絵画の形成と日本」(24 年 2 月 11 日)
　広州美術学院研究員　李偉銘 氏
　上海大学教授　李超 氏
　プラハ・ナショナルギャラリー研究員　ミハエラ・ペイチョホヴァー氏
　の 3 名をパネラーとして招へいした。

・研究員を作品調査、科研費調査及び国際会議出席などで派遣した。


国際シンポジウム
「中国近代絵画の形成と日本」

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
海外からの研究者招へい	21 人	5 人	S		7	9	29	7
海外への研究者派遣	25 人	6 人	S		21	18	13	27
国際シンポジウム開催数	1 回	－	－		1	1	1	1
国際シンポジウム参加者数	150 人	－	－		285	190	288	213

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3213

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(奈良国立博物館)
1)学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　稲本泰生

【実績・成果】
(4 館共通)
1)「誕生！中国文明」展開催に際し中国河南省の文化財関係者を多数招へいしたことを初め、中国・韓国の研究者計20名を招へいし、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を行った。
2)職員延べ19名を中国・韓国・ベトナム等諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を行った。
3)23年度は実績なし。
(奈良国立博物館)
1)中国・上海博物館及び韓国国立慶州博物館との間で学術交流協定に基づく研究員等の派遣・招へいを行った。また館長他1名を中国・河南博物院に派遣して学術交流協定を更新し、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。

【補足事項】
・「誕生！中国文明」展の展示・撤収に際して中国河南省よりクーリエ計 6 名、開会に際して代表団 4 名を招へいした。また作品返却に際し、クーリエとして当館研究員 1 名を中国河南省に派遣した。
・平成 26 年度特別展「百済」開催に向けた情報収集のため、館長他計 3 名を韓国国立中央博物館・扶余博物館に派遣した。
・「第 63 回正倉院展」出陳品に関する調査研究のため、研究員 1 名をベトナム共和国に派遣した。
・平成 25 年度特別展「遼寧省遼代仏教文物(仮称)」展出陳予定作品の事前調査のため、研究員 1 名を中国・遼寧省に派遣した。
・韓国国立中央博物館で開催された特別展「肖像画の秘密」の展示・撤収に際し、クーリエとして研究員各1名を派遣した。また正倉院展開催に際し、韓国国立慶州博物館から館長他1名を招へいした。
・韓国国立慶州博物館との学術交流協定に基づき、同館から研究員 2 名を各 1 ヶ月間招へい、当館から職員 1 名を約 1 ヶ月間派遣した。また中国・上海博物館との学術交流協定に基づき、同館から職員 3 名を 10 日間招へいした。
・(財)国際交流基金や法人内他施設の招へいした諸外国の博物館職員・文化財関係者等の奈良訪問に際し、案内対応等積極的な便宜供与を行った。



特別展「誕生！中国文明」開会式

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
海外からの研究者招へい	20 人	6 人程度	S	経年変化	9	9	29	9
海外への研究者派遣	19 人	6 人程度	S		6	6	30	14
国際シンポジウム開催数	－	－	－		－	－	1	1
国際シンポジウム参加者数	－	－	－		－	－	197	150

総合評価	Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3214

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。
　(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。
　(22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
(九州国立博物館)
1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流を実施する。
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。

担当部課	交流課 総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　宮本裕一 課長　岩﨑英明 課長　本田光子

【実績・成果】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を21人招へいした。
　・平成23年度文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業の実施に係る交流促進のため韓国の学芸研究室長を招へいした。
　・平成23年度文化庁在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業の実施に係る研究者を招へいした。
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため56人派遣した。
　職員を研究交流及び研修等のために内蒙古博物院(中国)、国立中央博物館(韓国)、ベトナム歴史博物館等に派遣した。
3)朝鮮半島の古代国家である百済と日本について考える国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。
　(24年3月10日開催)
(九州国立博物館)
1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。
2)大英博物館および中国内蒙古フフホト市博物館の保存修理技術者が保存修復施設内で研修を受けた。
　内蒙古文物考古研究所・内蒙古博物院より研究者を招へいし、文化財保存交流セミナーを開催した。

【補足事項】
(4館共通)
1)
　・当館の展示方法、特別展への協力等についての意見交換を行った。
　・九州・京都・奈良国立博物館の文化財保存修復施設での技術交流等を行った。
2)ベトナム国立歴史博物館と学術文化交流協定を締結した。

(九州国立博物館)
1)2団体と学術文化交流協定を締結した。
　(23年7月20日　中国文物交流中心、23年12月9日　ベトナム国立歴史博物館)
2)大英博物館のオーエン氏の研修の成果を当館文化財保存交流セミナーにおいて発表した。内蒙古フフホト市博物館のハン氏は公益財団法人文化財保護･芸術研究助成財団の助成による長期研修を行った。



国際シンポジウム
「百済文化と古代日本」

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
海外からの研究者招へい	21人	3人程度	S	経年変化	38	18	37	9
海外への研究者派遣	56人	4人程度	S		44	35	46	77
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		4	1	1	1
国際シンポジウム参加者数	263人	－	－		586	385	300	117

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3311

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに､インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　神庭信幸

【実績・成果】
(4館共通)
1)
・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(平成 23 年 9 月 1 日～9 月 11 日の 10 日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から 30 名が参加した。

・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ」(平成 23 年 10 月 26 日～11 月 2 日の 7 日間)を別会場において開催し、受講生は 7 名であった。

・大学院生のインターンシップを4名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(平成24年2月27月～3月9日)。

【補足事項】


文化財保存修復専門家養成実践セミナーの講義

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	2 回	－	－		2	2	2	2
参加者数	37 人	－	－		－	50	60	49
インターン受入れ	4 人	－	－		－	3	2	3

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	ほぼ順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3312

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	副部長兼保存修理指導室長　村上　隆

【実績・成果】
(4館共通)
1)毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヶ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。
・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計4回・160人)
　参加者「法然　その生涯と美術」展　52人
　「百獣の楽園　美術にすむ動物たち」展　34人
　「細川家の至宝」展　57人
　「中国近代絵画と日本」展　17人
・文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。(4人)
・保存修復技術を専攻する学生(大学院生)のための研修会を実施し、研修報告を行なった。(16人)

【補足事項】
・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで、双方の見識にプラスとなった。
・文化財修復に関わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。
・保存修復技術を専攻する学生(大学院生)に、修理現場の見学・説明などの研修を実施することで、学生の意欲や目標意識の向上を図ることができた。

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	4回	－	－		3	3	4	4
参加者数	160人	－	－		145	144	155	166
インターン受入れ	4人	－	－		1	－	3	2
大学院生のための研修会参加者数	13人	－	－		－	－	－	16

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　3313

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
1)
・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計6回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。
・6月4日　：文化財保存修復学会第33回大会における学会員による視察(40名)。
・6月29日：奎章閣韓国学研究院の保存科学研修(5名)。
・7月25日：韓国慶州国立博物館との学術交流に伴う同館保存担当研究員による研修・視察(1名)。
・8月9日　：高岡地域文化財等修理協会(富山県)の修理技術者研修会(7名)。
・9月20日：アメリカ連邦議会図書館修復士による視察・意見交換会(2名)。
・11月21日：フィレンツェ修復研究所修復士による視察・意見交換会(10名)。
・24年3月26日に文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した(32名)。

【補足事項】
・6月4日に保存修復専門研究者、技術者たちの学会である文化財保存修復学会第33回大会が奈良県新公会堂で行われ、学芸部保存修理指導室長が実行委員会メンバーとして参加した。

・文化財保存修理所技術者研修会
24年3月26日に文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催し、漆工室工房代表者による漆工品修理に関する報告を踏まえた討議を実施した。参加者は32名。


文化財保存修理所における研修・視察

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	7回	－	－		2	1	1	6
参加者数	97人	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3314

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　　本田光子

【実績・成果】
1)・保存修理技術者、文化財保存業務従事者、文化財保護行政担当者、博物館美術館等関係者を対象としたセミナーを開催した。
・文化財保存修復施設内で修理事業を行っている国宝修理装潢師連盟の協力を得て、中国から研修生を1名受け入れた。
・保存・修理事業者の協力を得て、紙文化財の保存講座・研修および、IPM 普及のための講座・研修を開催した。

【補足事項】
○保存修理技術者を対象とした研修会(計 10 回・263 人)
・文化財保存交流セミナー
保存修理技術者、文化財保存業務従事者、文化財保護行政担当者・博物館美術館等関係者を対象としたセミナーで、文化財保存に関わる知識・技術の研鑽を深めると同時に、参加者同士の交流も目指している。
「大英博物館　オーエン・E・ケリー　日本での研修について」
23 年 11 月 25 日 参加者　13 名
「東日本大震災の文化財レスキュー事業」　24 年 3 月 6 日　参加者　57 名
「鷹島沖海底遺物から元寇の実態を探る」　24 年 3 月 21 日　参加者　49 名
・紙文化財の保存講座・研修(協力：国宝修理装潢師連盟)
文化財保存修復研修(大学生 8 名)　23 年 8 月 15 日～19 日
古文書保存基礎講座(文化財関係者 28 名) 24 年 1 月 17 日、21 日
・IPM 普及のための研修会(連携協力：NPO 法人ミュージアムサポートセンター 文化財保存活用支援センター)
「市民と共に　ミュージアム IPM」ミュージアム IPM 支援者育成事業(文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業)　研修会 5 回　参加者 108 名


文化財保存交流セミナー
「日本の宝を守る、技とこころ」


文化財保存修復研修

○一般向け講演会等
・文化財保存交流セミナー
当セミナーは例年､保存修理事業者等を対象に､年3～4回実施しているが(上記)、本年度はこれに加えて、文化財保存修理の歴史をテーマとした特別展の開催中に一般向けの公開講演会を 4 回実施した。
「日本の宝を守る、技とこころ」　23 年 7 月 31 日　参加者　238 名
「日本の宝を守る、蔵を継ぐ」　23 年 8 月 6 日　参加者　187 名
「日本の宝を守る、美を伝える」　23 年 8 月 7 日　参加者　255 名
「日本の宝を守る、文化を伝える」　23 年 8 月 21 日　参加者　110 名
・IPM 普及のための講演会(共催：NPO 法人ミュージアムサポートセンター 文化財保存活用支援センター)
「曝涼は IPM のルーツ？」　23 年 7 月 2 日　参加者 38 名
「身近な虫」　24 年 1 月 14 日　参加者 48 名
・IPM 普及のための講演会(連携協力：NPO 法人ミュージアムサポートセンター 文化財保存活用支援センター)
「市民と共に　ミュージアム IPM」(24 年 1 月 14 日)
ミュージアム IPM 支援者育成事業(文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業)　シンポジウム 1 回　参加者 107 名


古文書保存基礎講座

○中国からの研修生
公益財団法人文化財保護･芸術研究助成財団の助成を得て、内蒙古フフホト市博物館より、装潢技術の修練のために来日した。期間は、今年度を含め 3 年以上を予定している。


「市民と共に　ミュージアム IPM」

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	10 回	－	－		11	10	20	22
参加者数	263 人	－	－		－	－	－	－

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3411

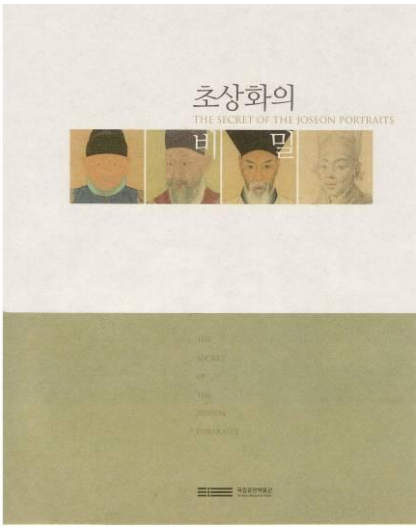
中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。
(東京国立博物館)
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。
2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　富田　淳

【実績・成果】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等122機関に865件の作品を貸与した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)長野県立歴史館、館山市立博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。
(東京国立博物館)
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)海外の美術館・博物館等7機関に40件の作品を貸与した。

【補足事項】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)東日本大震災の影響を受けて、貸与が確定していた 4 機関の企画が取り止めとなり、3 機関の貸与もしくは返却の日程が変更された。この時期の貸与品に損傷はなかった。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)考古資料相互貸借事業経費により、長野県立歴史館に 14 件を貸与、53 件を貸借、館山市立博物館に 5 件を貸与、20 件を借用した。借用品により当館では特集陳列「赤の考古学」、特集陳列「古代のまつり」を開催した。
(東京国立博物館)
2)
・北京故宮博物院で開催された「蘭亭特展」には当館から 2 件の文化財を貸与し、作品展示・作品撤収・輸送随伴に延べ 2 名の人員を派遣し、開幕式・学術シンポジウムにも参加するなど、多大な協力を行った。
・韓国国立中央博物館で開催された「肖像画の秘密」には、当館から 3 件の文化財を貸与し、作品展示・作品撤収・輸送随伴に延べ 2 名の人員を派遣し、国内の他館の作品輸送にも随伴するなど、多大な協力を行った。



韓国国立中央博物館
「肖像画の秘密」図録

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
貸与件数	905 件	－	－	経年	1,302	1,125	1,104	1,315
うち国内の貸与件数	865 件	－	－	変化	1,118	1,012	913	1,155
うち海外の貸与件数	40 件	－	－		184	113	191	160

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3412

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　鬼原俊枝

【実績・成果】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)・74機関に対し429件の収蔵品貸与を行った。(うち海外1機関に対し3件)
館蔵品の貸与件数：246件
寄託品の貸与件数：183件
計　429件
・ウェブページで「貸出作品リスト」の公開を行った。(詳細は処理番号2112-1参照)

【補足事項】
・新館建設中に公私立博物館・美術館からの貸与依頼に応えて、積極的に収蔵品の貸与を行っている。今年度は、静岡県立美術館において「京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜　祈りと風景」および、細見美術館における「京都国立博物館所蔵　典雅なる御装束―宮廷のオートクチュール」展の開催に協力し(詳細は処理番号 2122-5、2122-6 参照)、前者に 66 件、後者に 63 件の館蔵品を貸与した。特に前者の例では、本展開催に先んじて、前年度に同館の学芸員を一年間研修員として受け入れ、出陳作品の選定を時間をかけて行った。



静岡県立美術館における
京都国立博物館名品展会場の展示状況

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経	19	20	21	22
貸与件数	429 件	―	―	年	171	246	428	297
うち国内の貸与件数	426 件	―	―	変	168	245	400	281
うち海外の貸与件数	3 件	―	―	化	3	1	28	16

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3413

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長　岩田茂樹

【実績・成果】
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)館蔵品と寄託品を、国内外合わせて37の機関に、計118件貸し出した。
［貸出先内訳］
・国立5件　公立22件　私立8件　海外2件
［貸与作品内訳］
・国宝　9件(館蔵品2件・寄託品7件)　重要文化財　41件(館蔵品10件・寄託品31件)　その他　68件(館蔵品43件・寄託品25件)
・館蔵品　55件(絵画17件・彫刻3件・書跡1件・工芸14件・考古20件)
・寄託品　63件(絵画31件・彫刻13件・書跡3件・工芸12件・考古4件)
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)浜松市博物館との間で相互貸借事業を実施した。
貸与品　：　銅鐸
借用品　：　伊場遺跡出土鰭付壺形土器・伊場遺跡出土装飾高杯・鳥居末遺跡出土脚付家形壺・鳥居松遺跡出土土器

【補足事項】
貸与申請のあったもののうち、作品の保存状態に問題がないものについては、展示期間や会場の温湿度の設定、また警備体制などを調査したうえで、慎重に、しかし可能な限りその全てに応えるように対処した。結果、100 件を超える貸与件数となり、公私立等の博物館の展示の充実に寄与しえたと考える。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
貸与件数	118 件	－	－		137	163	108	159
うち国内の貸与件数	113 件	－	－		134	161	107	145
うち海外の貸与件数	5 件	－	－		3	2	1	14

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3414

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	主任研究員　原田あゆみ

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)国内 25 機関・海外 1 機関に所蔵品および寄託品を貸与した。(東京国立博物館からの長期管理換品を含む)

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)
・国内機関への貸与については、文化庁・東京国立博物館ほか、九州・沖縄管内外の公私立博物館・美術館(板橋区立美術館・サントリー美術館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館・九州歴史資料館・北九州市立自然史・歴史博物館・飯塚市歴史資料館・伊都国歴史博物館・求菩提資料館・大分県立歴史博物館・熊本市立熊本博物館・八代市立博物館未来の森ミュージアムなど)からの出品要請に協力し、国宝 2 件・重要文化財 3 件を含む所蔵品・寄託品を貸与した。

・海外機関への貸与については、大韓民国三星美術館への出品要請に協力し、寄託品を貸与した。



唐船・南蛮船図屏風　(当館所蔵)
サントリー美術館「南蛮美術の光と陰≪泰西王侯騎馬図屏風の謎≫」展出品

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
貸与件数	119 件	―	―		104	106	89	165
うち国内の貸与件数	118 件	―	―		73	76	88	131
うち海外の貸与件数	1 件	―	―		31	30	1	34

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3511

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(東京国立博物館)
1)新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。

担当部課	学芸研究部	事業責任者	部長　伊藤　嘉章

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、126件の援助・助言を行った。
・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(22件)
・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(23件)
・講演会やセミナー等における講演等での協力(13件)
・作品の展示・保存環境についての調査・指導(13件)
・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(55 件)

(東京国立博物館)
1)新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。

【補足事項】
○文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力
・文化庁文化審議会専門委員会出席
・松戸市小金の東漸寺所蔵「二十五菩薩来迎図」を市指定文化財に指定するに当たっての助言
・逗子市教育委員会・葉山町教育委員会　長柄桜山 1 号墳の発掘調査・整備に関する助言　　他

○公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言
・毎日新聞社・新美術館「熊谷恒子展」監修
・「金沢能楽美術館　開館 5 周年記念特別展　東京国立博物館所蔵　金春座伝来能面・能装束」展にかかる能面・能装束の展示、撤収指導
・ポーランド軍事博物館　日本の武器武具などの展示、保存方法の指導助言
・貨幣博物館　ウェブサイト構築・運営に関する助言　　他

○講演会やセミナー等における講演等での協力
・福島県立美術館　記念講演会「ギッタ―コレクションにみる近世絵画の魅力」講演会講師
・文化庁　第 7 回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー（第 2 年度）魅力ある企画・展示の実現『展示構成と会場デザイン』の講師
・全国美術館会議　美術情報・資料の活用法－展覧会カタログから Web まで－（情報・資料研究部会企画セミナーⅢ）第 1 講「展覧会カタログ」講師　　他

○作品の展示・保存環境についての調査・指導
・横浜ユーラシア文化館、田原市博物館、広島県立美術館　他

○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)
・仙台市博物館、東北歴史博物館、岩手県立博物館、陸前高田市立博物館、奥州市埋蔵文化財調査センター、石巻文化センター　　他


石巻文化センターでの被災文化財等救出作業の様子

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	126 件	－	－		124	134	139	84

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3512

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　西上実

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、91件の援助・助言を行った。
　文化財の展示、修理にかかる指導助言　(17件)
　文化財の調査に関する指導助言　(45件)
　講演会、セミナー等における講演等での協力　(11件)
　地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力　(13件)
　文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援　(5件)

【補足事項】
○文化財の展示、修理にかかる指導助言
・静岡県立美術館
　「京都千年の美の系譜」展にかかる展示・展示替・撤収作業
・九州国立博物館
　特別展「よみがえる国宝-守り伝える日本の美-」に係る作品撤収作業立ち合い 他
○文化財の調査にかかる指導助言
・島根県教育庁文化財課
　石見銀山遺跡調査に伴う調査指導
・野崎家塩業歴史館
　野崎家塩業歴史館所蔵資料の調査指導　　他
○講演会、セミナー等における講演等での協力
・徳川美術館　夏期講座の講師
・京都市動物園　「百獣の楽園 in 京都市動物園」講演会講師　　他
○地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力
・川西市文化財審議委員会
・滋賀県文化財保護審議会　　他

○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)
・国立文化財機構として理事長東北視察
・東北大学埋蔵文化財センターにて支援
・亘理町立郷土資料館にて支援　　他

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	91件	－	－		81	114	114	123

総合評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　3513

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(奈良国立博物館)
1)聖徳太子1390年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社主催、会場：日本橋高島屋ほか)に学術協力を行う。

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　稲本泰生

【実績・成果】
(4 館共通)
1)国内外の博物館・美術館等の運営や展示活動への協力(98 件)を行い、今年度は特に震災後の文化財レスキューへの参加などを通して、わが国における中核的な博物館の一角を担う存在としての責務を果たすことができた。これらの協力を通して、当館収蔵品や仏教美術・考古遺物等の普及に資する活動や、今後の運営に有益な他館職員との信頼関係形成という面においても、十分な実績を挙げることができた。
・文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援 (6 件)
(奈良国立博物館)
1)聖徳太子 1390 年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社、会場：日本橋高島屋及びなんば高島屋)に学術協力を行い、開催(東京会場：24 年 3 月 3 日～20 日、大阪会場：同 3 月 29 日～4 月 16 日)に際して出陳品の選定と調査・撮影・点検・輸送・展示、会場構成に対する助言、展覧会図録の編集・執筆等を行った。

【補足事項】
・23年6月から7月にかけ、東日本大震災で被災した宮城県内の博物館等施設にて実施された文化財レスキュー事業に、学芸部職員4名を派遣した。作業従事の延べ日数(各人の現地での活動日数総計)は30日。(6件)
・岐阜市歴史博物館で開催された「国宝　薬師寺展」(23 年 7 月 29 日～10 月 2 日)に薬師寺からの寄託品が出陳された際、展示・撤収作業を指導した。
・韓国国立中央博物館における特別展「肖像画の秘密」(23 年 9 月 27 日～11 月 6 日)開催にあたり、日本からの出陳品の出陳交渉及び輸送に際しての、随行及び助言を行った。
・浜松市博物館が開催した特別展「銅鐸から銅鏡へ」(23 年 7 月 23 日～9 月 4 日)に貸与した館蔵品の輸送に際し、随行及び助言を行った(平成 23 年度考古資料相互活用促進事業による)。
・平成 24 年度に、神奈川県立金沢文庫と共催で当館及び同文庫を会場として開催する特別展「解脱上人貞慶－鎌倉仏教の本流」(会期＝奈良会場：4 月 7 日～5 月 27 日、神奈川会場：6 月 8 日～7 月 29 日)に向け、金沢文庫と合同で展覧会の構成・出陳品の内容など調整・検討を重ねた。
・サントリー美術館の特別展「不滅のシンボル　鳳凰と獅子」(23 年 6 月 8 日～7 月 24 日)に出陳された、法隆寺及び宮内庁正倉院事務所の所蔵品の輸送・展示作業に際し、指導を行った。
・土浦市立博物館の特別展「暮らしをささえる女性たち－紡ぐ・織る・仕立てる・繕う」(会期：24 年 1 月 7 日～2 月 19 日)開催にあたり、土浦の地から平城京に奉献された調布(法隆寺蔵、重要文化財)の 1260 年ぶりの里帰りについて、出陳交渉随行及び助言等の協力を行った。
・東大寺ミュージアム(23 年 10 月 10 日オープン)の開館準備に際し、施設面や展示方法等種々の情報提供を行い、宝物輸送・展示作業に際しても助言した。また学芸部研究員中の 13 名が、開館記念特別展図録『奈良時代の東大寺』に論文・解説を寄稿した。
・大津市歴史博物館の調査で新たに発見された木造阿弥陀三尊像(西教寺蔵、行快作)のエックス線写真を、同館の依頼を受け、同館での公開(7 月 20 日～9 月 4 日)に先んじて撮影した。
・(財)大和文華館の理事及び評議員、(財)松伯美術館等の理事、龍谷大学龍谷ミュージアムの客員研究員等の役職の委嘱を受け、当該職員はこれら諸施設の運営・協力に助言を行った。


文化財レスキュー事業の様子

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	98 件	－	－		5	5	25	35

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3514

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(九州国立博物館)
1)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。
2)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのためのＩＰＭ(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。

担当部課	総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　岩﨑英明 課長　本田光子

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(97件)
○文化財の調査に係る助言(20 件)
○文化財の保存修理にかかる援助、助言(19 件)
○作品の展示及び運営等についての指導、助言(26 件)
○講演会、セミナー等における講演(24 件)
○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)（8 件)
(九州国立博物館)
1)福岡県教育委員会と筑紫野市歴史博物館との共催により文化財関係者に向けて「古文書保存基礎講座」を実施した。
2)地域の自治体と実行委員会を組織し、文化庁補助金を得て、「市民と共に　ミュージアム IPM」事業を実施し、文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアム IPM 支援者研修」を実施した。

【補足事項】
(4館共通)
1)○文化財の調査に係る助言
・九重町教育委員会：X 線 CT による大分県指定無形民俗文化財「玖珠神楽」神楽面の調査にかかる助言
○文化財の保存修理にかかる援助、助言
・宮崎県都城市教育委員会：市所蔵文化財の保存修理についての援助、助言
○作品の展示及び運営等についての指導、助言
・静岡県立美術館：特別展「草原の王朝　契丹」に係る展示指導、助言
○講演会、セミナー等における講演
・奈良女子大学：増井研究室セミナーでの講座
・筑紫女学園大学・短期大学部：龍谷総合学園　第 33 回大学短大宗教教育連絡協議会での講演
・佐賀県教育委員会：佐賀城築城 400 年記念の講演会での講演
・一般社団法人文化財保存修復学会：公開シンポジウムでの基調講演
・筑紫野市歴史博物館：九州国立博物館特別展展示解説講座講師


古文書保存基礎講座

○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)
・平成 23 年 6 月から 7 月にかけて、東日本大震災で被災した宮城県内の博物館等施設にて実施された文化財レスキュー事業に、学芸部職員延べ 8 人を派遣した。作業従事の延べ日数は 65 日。
(九州国立博物館)
1)「古文書保存基礎講座」(第 6 回)
主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館
協力：国宝修理装潢師連盟　本研修は、協力団体共催の「寒糊炊」にあわせて毎年開催している。
2)「ミュージアム IPM 支援者研修」
主催:「市民と共に　ミュージアムIPM」実行委員会(九州国立博物館、春日市教育委員会、大野城市教育委員会、筑紫野市教育委員会、太宰府市教育委員会、那珂川町教育委員会)、連携協力：財団法人太宰府顕彰会、NPO法人文化財保存活用支援センター、NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター、九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会、九州歴史資料館、福岡県立美術館、福岡市美術館、筑紫野市歴史博物館、奴国の丘歴史資料館太宰府市文化ふれあい館、大野城市歴史資料展示室)により、基礎編3回、技術編・実践編各1回を実施。参加総数　101名

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	97 件	－	－		38	47	39	77

総合評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4111

（様式 1）

業務実績書

研№1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究（(1)-①-ア）

【事業概要】

他機関との連携をはかり、文化財の研究情報について、効果的に発信してゆくための手法を研究・開発し、文化財に関する研究情報の蓄積を行うとともに、公開・活用のための手法等について総合的に研究する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財ｱｰｶｲﾌﾞｽﾞ研究室長　津田徹英

【スタッフ】

田中　淳、山梨絵美子、二神葉子、塩谷　純、綿田　稔、小林達朗、江村知子、皿井　舞、中村節子、橘川英規、井上さやか、中村明子、城野誠治、鳥光美佳子（以上、企画情報部）丸川雄三、中村佳史（以上、国立情報学研究所）

【主な成果】

語彙・固有名詞からの記事検索、ならびに、筆名から実名を検索できる明治期美術雑誌『みづゑ』創刊号から 10 号までの Web 上での試行版公開を目指した。

【年度実績概要】

国立情報学研究所と研究連携をはかり、研究協議会を重ねながら、東京文化財研究所の文化財情報のアーカイブの一環として、美術雑誌『みづゑ』の明治期刊行分をデジタル画像化するとともに、全文テキスト化をはかり、検索手法を駆使しながら、筆名情報の検討を行い、実名を特定化するとともに、同一外来語の片仮名表記の違いなどを検討し、語彙や固有名詞からの記事検索ができる Web 上での試行版『みづゑ』（創刊号－10 号）を目指し、部内で 3/27 に公開を行った。

【実績値】

国立情報学研究所との研究協議会の開催 11 回（6/11, 7/28, 8/30, 9/13, 10/21, 11/25, 12/22, 1/31, 2/9, 2/29, 3/26）
Web 上での試行版『みづゑ』（創刊号～10 号）の部内での公開（3/27）。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4111

自己点検評価調書

研 No. 1

1．定性的評価

観点	適時性	独自性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	研究協議会の開催件数	デジタル画像を活用した文化財情報の公開				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	他機関との連携をはかりながら、文化財情報を効果的に公開・活用していくために、研究協議会を開催しつつ、公開・活用のための手法について研究・開発を行い、Web 上での試行版・『みづゑ』明治期刊行分（創刊号～10 号）の公開を目指し、「文化財の研究情報の活用・公開のための総合的研究」に対して成果をあげたので A と判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	23 年度の実施計画に沿い、研究協議会を開催して、文化財の研究情報について効果的に発信していくための手法の研究開発を行い、文化財情報のデジタルアーカイブの一環として、Web 上での試行版『みづゑ』の公開のイメージを明確に示すに至ったので順調と判断した。これを踏まえ、次年度は、Web 上での美術雑誌『みづゑ』明治期刊行分の順次更新を行い、更なる文化財情報のアーカイブを進めたい。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4112
（様式 1）

業務実績書

研 No. 2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の資料学的研究（(1)-①-イ）

【事業概要】
日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。あわせてその基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化形成研究室長　塩谷　純

【スタッフ】
田中　淳、山梨絵美子、津田徹英、二神葉子、綿田　稔、小林達朗、江村知子、皿井　舞（以上、企画情報部）、相澤正彦、中野照男、中村佳史、丸川雄三、三上　豊、森下正昭、吉田千鶴子（以上、客員研究員）

【主な成果】
① 調査：横山大観《山路》、京都国立近代美術館本の調査、永青文庫本の調査撮影。菱田春草《菊慈童》（飯田市美術博物館蔵）の調査。
② 美術史研究のためのコンテンツ形成：古記録･文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注。古美術文献目録の作成。
③ 研究交流促進のための研究会の開催：メラニー・トレーデ氏講演会の開催。
④ 研究成果報告書の作成：『美術研究作品資料』の編集。

【年度実績概要】
(1) 調査
横山大観《山路》、京都国立近代美術館本の調査、および修理中である永青文庫本の本紙裏面の調査撮影を行った（塩谷）。菱田春草《菊慈童》（飯田市美術博物館蔵）の調査を行った（塩谷）。
(2) 美術史研究のためのコンテンツの形成
既に当研究所ＯＢによってカード化されている古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化を行った。作業にあたっては目録（出典等）のみならず当該記事本文も入力し、公開時の利便性を図った（綿田）。東京文化財研究所が所蔵する今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注を進めた（塩谷・綿田・江村・皿井）。古美術文献目録作成の一環として、付録月報に掲載された文献のデータ化を行った（津田・綿田・小林・江村・皿井）。
(3) 研究交流促進のための研究会の開催
3 月 5 日に日本美術史研究者のメラニー・トレーデ氏（ハイデルベルク大学教授、ミシガン大学トヨタ客員教授）による講演会「「文化的記憶」としての八幡縁起の絵画化―その古為今用」を開催、土屋貴裕氏（東京国立博物館）・塩谷のコメンテーター、津田の司会でディスカッションを行った。
(4) 研究成果報告書の作成
『美術研究作品資料』の第 6 冊として『横山大観《山路》』の編集を進めた（塩谷）。

【実績値】
学会誌等への掲載論文数 2 件（①～②）
学会等での発表件数 3 件（③～⑤）

【備考】
① 塩谷　純「秋元洒汀と明治の日本画（1）」　『美術研究』404　2011.8
② 江村知子「江戸時代初期風俗画の表現世界」　『美術研究』405　2012.1
③ 相澤正彦「浄瑠璃本「かるかや」の画風」　企画情報部研究会　2011.7.27
④ 皿井　舞「平安時代前期から後期へ―六波羅密寺十一面観音像の造像」　企画情報部オープンレクチャー　2011.11.11
⑤ 森下正昭「東日本大震災被災地における文化財救援活動調査―オーストラリア学界における発表報告とインタープリテーションの重要性」　企画情報部研究会　2012.1.24

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4112

自己点検評価調書

研 No. 2

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	論文等掲載数	発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度の講演会講師として招聘した日本美術史研究者のメラニー・トレーデ氏は、美術史のみならず欧米の人文科学の研究動向にも精通し、同氏との交流は日本の研究状況をあらためて見直す好機となった。そうしたマクロな視点と併せ、横山大観《山路》の調査研究という一点の作品をめぐるミクロな視点での研究も、修復中の本紙裏面の調査撮影を行うなど、実りの多いものとなった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注は近代における古美術研究の実態をうかがう資料として、古美術文献目録の作成は付録月報掲載のデータ化という、既存のデータベースの欠を補うものとして、いずれも公開へ向けた作業が進められている。また上記の横山大観《山路》調査についても、これまでの調査成果をふまえた基礎資料集の刊行を目指して編集作業を続行したい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4113
（様式 1）

業務実績書

研 No. 3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近現代美術に関する交流史的研究（(1)-①-ウ）

【事業概要】
日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子

【スタッフ】
田中　淳、塩谷　純、城野誠治、鳥光美佳子、中村明子（以上、企画情報部）、三上　豊、丸川雄三（以上、客員研究員）

【主な成果】
東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として、未公刊資料である黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成、矢代幸雄筆ベレンソン宛書簡の翻刻を進めた。また、黒田清輝関連資料のウェブ上での公開促進のため、当所所蔵の白馬会展目録等のデジタル画像作成を行った。東アジア美術交流の調査研究では、日本で学び台湾で活躍した陳澄波の作品調査を行った。我が国の現代美術の動向に関する基礎資料として笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。

【年度実績概要】
1　東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として以下の 5 件を行うことができた。
（1）　黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成を進めた
（2）　矢代幸雄筆ベレンソン宛書簡の翻刻を進めた。
（3）　当所所蔵の貴重資料『黒田清輝遺作展目録』、白馬会展目録等のデジタル画像作成を行った。
（4）　白馬会の画家で中国大陸に渡った時期のある森岡龍造の画業について調査を行った。
（5）　台湾の洋画家陳澄波の作品調査を行った。
2　我が国の現代美術の動向に関する調査研究としては、以下を行った。
（1）　笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。
（2）　当所所蔵の画廊資料の画廊別による整理とカード化を行った。

【実績値】
研究会等発表　3 件（①～③）
論文掲載数　　3 件（④～⑥）

【備考】
① 田中　淳　発表　「日本におけるゴッホ受容―1912 年を中心に」、第 13 回国際日本学シンポジウム「感覚・文学・美術の国際日本学　ファン・ゴッホと日本―ガシェ芳名録紹介本をめぐって―」、お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター、7 月 8 日
② 田中　淳　「『画を仕上げる力』とは―青木繁の芸術」、「没後 100 年　青木繁」展（7 月 17 日～9 月 4 日）、ブリヂストン美術館、8 月 6 日
③ 田中　淳　「中川一政とゴッホについて」、「没後 20 年記念展　中川一政が愛した芸術」展（2011 年 9 月 23 日～11 月 20 日）、真鶴町立中川一政美術館（神奈川県）、10 月 22 日
④ 田中　淳　「中川一政の芸術の糧となった愛蔵品―近代日本のゴッホ受容と関連して」、「没後 20 年記念展　中川一政が愛した芸術」展（2011 年 9 月 23 日～11 月 20 日）、真鶴町立中川一政美術館（神奈川県）、pp. 6-11
⑤ 田中　淳　「創作と評価―萬鉄五郎《風船を持つ女》を中心に―」、『美術研究』405 号、2012 年 1 月、pp. 15 -24
⑥ 山梨絵美子「美術教育者としての黒田清輝の一面－内弟子・森岡柳造という受容者を通して」『森岡柳造展』図録（鳥取県立博物館、2011. 4）、pp8－11

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4113

自己点検評価調書

研 No. 3

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	研究会発表数	論文掲載数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的、定量的な評価観点の上で一定の成果をあげることができた。次年度は東アジアの研究者との人的交流も含め、さらに充実させていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	次年度は東アジアの研究者との人的交流も含め、さらに充実させていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4114

業務実績書

研 No. 4

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究（(1)-①-エ）

【事業概要】
彫刻や絵画を中心とする美術作品を構成する材料やそこに用いられた技法、ひいては表現、その制作過程、作品の成り立ち、生成されてから今日にどう至ったか、それがどのように受容されてきたか等を、関連書分野と連携しながら多角的に分析し、現在目の前にある「作品」ないし文化財に対するより深い理解を形成することを目指す。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	広領域研究室長　綿田　稔

【スタッフ】
田中　淳、山梨絵美子、津田徹英、二神葉子、塩谷　純・綿田　稔・小林達朗・江村知子・皿井　舞（以上、企画情報部）・中野照男（客員研究員）

【主な成果】
本研究は美術作品が基盤としている表現・材料・技法等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は絵画・彫刻を中心に作品調査を進めるとともに、作画技法を記載した江戸時代の未紹介板本を調査した。また、ホームページ上で公開している奈良時代史料にあらわれた彩色語彙についてのデータベースを増補した。

【年度実績概要】
作品調査：宝福寺蔵木造性信上人坐像（於群馬県立歴史博物館）・松岡美術館蔵伝周文筆竹林山水図等・石見美術館蔵狩野松栄筆益田元祥像等ほかを調査した。
雪舟についての多角的な検討を進め、一定の成果を得た。またギメ美術館蔵大政威徳天縁起絵巻 6 巻の詞書の翻刻作業を進めた。
資料調査：江戸時代の作画技法書である板本「御絵鑑」（零本。元禄 13 年刊、萩博物館蔵）を調査し、同内容の国立国会図書館本および静嘉堂文庫本を調査した。
研究会 2 件（2011 年 10 月 12 日、綿田稔「室町漢画の基盤―周文と雪舟の場合―」／2012 年 2 月 28 日、綿田稔「『御絵鑑』について」）および研究協議会 1 件（2012 年 2 月 24 日「ギメ本大政威徳天縁起絵巻詞書検討会」）を開催した。
前中期計画で作成した奈良時代史料にあらわれた彩色語彙についてのデータベースを完成させるべく、『大日本古文書』20～25 巻から情報を採録してデータベースを増補するとともに、既存データの内容を再整理した。
前年度までに寄贈を受けた資料のうち、技法材料研究ととくに関わりの深い久野健旧蔵資料および秋山光和旧蔵資料の整理を進めた。

【実績値】
論文掲載数　　2 件（①～②）
発表件数　　2 件（③～④）

【備考】
①綿田　稔「山水長巻考―雪舟の再評価にむけて―」　『美術研究』405 号　pp. 25-46　2012.1
②津田徹英「中世真宗の祖師先徳彫像の制作をめぐって」　『美術研究』406 号　pp. 27-47　2012.3
③綿田　稔「室町漢画の基盤―周文と雪舟の場合―」　第 45 回企画情報部オープンレクチャー　東京文化財研究所セミナー室　2011.11.12
④綿田　稔「『御絵鑑』について」　企画情報部研究会　東京文化財研究所企画情報部研究会室　2012.2.28

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4114

自己点検評価調書

研 No. 4

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	論文掲載数	発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	前中期計画の「美術の技法・材料に関する広領域的研究」を継承しながら、「表現」へと視野をひろげて、実作例と史料の双方から多角的なアプローチを行っている。計画初年度としては十分な成果を得られたため、Ａと判断した

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	全般的に計画通りに進捗したと考える。次年度以降も一層の深化が期待できるため、計画的に調査研究・史料収集・データ整理を継続していきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4121

業務実績書

研 No. 5

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究（(1) －②）

【事業概要】
近畿地方を中心として、重要な古寺社や関連する旧家等が所蔵する歴史資料や書跡資料等について、継続的・悉皆的に整理・調書作成・写真撮影等の調査をおこない、現存資料の把握に努め、成果を目録・データベース等により、また重要資料は翻刻して公開する。このような調査によって文化財研究の基礎を固めた上で、文化財の歴史的性格・特徴等を研究し、日本の歴史・文化の研究に資する。撮影した写真は焼き付けを作成し、研究者等の研究に供する。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	歴史研究室長　吉川　聡

【スタッフ】
渡辺晃宏(都城発掘調査部史料研究室長)、馬場 基、山本 崇(以上、同部主任研究員)、桑田訓也、山本祥隆(以上、同部研究員)、児島大輔(埋蔵文化財センター特別研究員)、加藤 優(客員研究員)

【主な成果】
明日香村大字八釣が所蔵する明神講関係資料に関する調査成果を公表した。これは藤原鎌足像を礼拝する儀礼の関係資料であり、多武峯の膝下の地である明日香に、鎌足信仰が古くから現在にまで存続していることを明確にできた。また、春日座大工の家である木奥家の歴史資料を調査・公表した。この調査によって春日社造替が、その仕様を記した帳面に基づいて、旧例にのっとりながら、またその時々の判断も加えつつ、社殿を造営していることなどが明瞭となった。

【年度実績概要】
本年度は、興福寺・仁和寺・三仏寺・氷室神社大宮家・薬師寺・木奥家(旧春日座大工)などが所蔵する歴史資料・書跡資料調査をおこなった。

興福寺調査は、第 92 函紙背文書・第 112 函～第 115 函の調書を作成した。写真は第 92 函～第 98 函を撮影した。仁和寺調査は、御経蔵聖教第 41～第 43 函の調書原本校正、第 38 函～第 41 函の写真撮影を実施した。また第 150 函所収の古文書については、写真に基づいて釈文を作成し、その原本校正をおこなった。薬師寺調査は、第 51～第 57 函の調書作成と、第 24 函・第 25 函の写真撮影を実施した。

三徳山三仏寺は、第 3 函・第 4 函の調書を作成し、第 2 函～第 4 函の写真撮影を実施した。また、木製品・仏像や、三仏寺所蔵の大日寺出土瓦経の調査・写真撮影を実施した。さらには、大日寺出土瓦経の理解を深めるために、鳥取県立博物館・倉吉博物館・山陰歴史館等、諸所に分蔵されている大日寺出土瓦経の調査をおこなった。



木奥家所蔵の春日座大工関係資料

氷室神社大宮家文書については、昨年度に引き続き奈良市教育委員会との間で連携研究をおこない、未成巻文書について、昨年度までに作成した調書の校正作業をおこなった。

また、江戸時代に春日座大工を世襲していた木奥家の古文書調査を実施し、目録・論稿を奈良文化財研究所編『木奥家所蔵大工道具調査報告書』に掲載した。その他、明日香村大字八釣の妙法寺が所蔵する資料や、明治時代に平城宮跡保存運動に活躍した、石崎勝蔵に関係する資料の調査をおこなっている。また昨年度の調査成果に基づき、明日香村大字八釣が所蔵する明神講関係資料の調査成果を公表した。

その他調査協力の依頼を受けて、滋賀県石山寺聖教調査・文化庁依頼の醍醐寺聖教調査などに協力した。

【実績値】
論文等数：報告書等 1 件、論文 1 件
調査資料点数
興福寺：調書作成資料点数 271 点、写真撮影資料点数 124 点
薬師寺：調書作成資料点数 62 点、写真撮影資料点数 85 点
三仏寺：調書作成資料点数 206 点、写真撮影資料点数 755 点
仁和寺：調書等原本校正資料点数 224 点、写真撮影資料点数 633 点
木奥家：調書作成資料点数 120 点、写真撮影資料点数 116 点

【備考】
報告書等：『木奥家所蔵大工道具調査報告書』奈良文化財研究所、2012.3「第 5 章木奥家所蔵春日座大工関連史料」・「付章木奥家所蔵春日座大工関連史料目録」
論文：吉川聡・谷本啓・児島大輔「明日香村八釣の明神講関係資料調査」『奈良文化財研究所紀要 2011』2011.6.15

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4121

自己点検評価調書

研 No. 5

1．定性的評価

観点	正確性	適時性	継続性	発展性		
判定	A	A	A	A		

備考
近畿を中心とする、世界遺産にも登録されるような古寺社等には、未だに調査・整理されていない歴史資料・書跡資料が数多く存在している。その内容を把握し、保存を図り、史料として利用できる状態にまで整理することは、極めて適時性が高い調査である。そのため、着実に中断なく全容を把握する調査を実行しており、正確性・継続性に優れている。このような調査が所蔵者の管理の基礎となり、また研究の基礎となるものであり、発展性がある。今年度は特に、明日香村大字八釣で今も続いている明神講について、その関連資料の調査成果を報告することができた。藤原鎌足像を礼拝する儀礼とその本尊・関係資料の報告であり、多武峯膝下の明日香の地に、藤原鎌足を神としてまつる儀礼が古くから存在していることを明確にできた。また、春日大社の春日座大工だった木奥家の古文書を調査して性格を考察し、春日社造替が、その仕様を記した帳面にもとづきながら、しかし多少の改変を伴いながらおこなわれている様相を明確にできた。以上よりＡと判定した。

2．定量的評価

観点	調査対象箇所数	調査点数	論文等数			
判定	A	A	A			

備考
調査対象箇所数は、年度計画に掲げた寺社をすべて調査した。調査点数・論文等数は、それぞれ目標値 500 点・2 点であり、実績値はそれと同等または上回っているので、Ａと判定した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	興福寺、仁和寺、三仏寺の調査は計画通り実施した。大宮家は、奈良市教育委員会と連携研究を実施した。また薬師寺、旧春日座大工の木奥家の調査もおこなった。明日香村大字八釣・木奥家の資料については公表してその価値を明らかにした。明日香村大字八釣・木奥家は、それぞれ地区・個人が所有しており、注目されにくい資料であるので、そのような資料を世に知らしめ価値をみいだすことには意義があるだろう。以上の成果を総合的に判断してＡとした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、年度計画通り堅調に実現できたと考える。また、明日香村大字八釣・木奥家の資料を調査し、成果を公表することができた。今後もこのペースで調査研究を進める必要がある。 今年度は、公表に至った成果が明日香村大字八釣・木奥家と、いずれも地区・個人所蔵の資料となったので、今後は、大量の資料を所蔵している寺社の調査を進め、積極的に公表に取り組んでいく必要があるだろう。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4131
（様式 1）

業務実績書

研 No. 6

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究（(1)－③）

【事業概要】
我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の技法についての再検証（調査研究）を行い、得られた成果を整理するとともに、一般公開を図る。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	建造物研究室長　林良彦

【スタッフ】
箱崎和久［都城発掘調査部遺構研究室長］、黒坂貴裕［都城発掘調査部主任研究員］、大林潤、番　光、鈴木智大、海野聡、高橋智奈津［以上、同部研究員］、井上麻香、北山夏希［同部特別研究員］清水重敦［文化遺産部景観研究室長］恵谷浩子［以上、同部研究員］、松本将一郎［同部特別研究員］、成田聖［企画調整部任期付研究員］

【主な成果】
文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像のデジタルデータ化と目録の出版により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査をおこなった。

【年度実績概要】


カイベイ町並み調査

1. 所内で保管している文化財建造物保存修理時の「建造物現状変更説明」資料のうち、1953 年度から 1955 年度分のワード文書化、図版調整を行い、その成果を本文編と図版編に分けて刊行・配布した。また、同じく所内保管の文化財建造物等の撮影ガラス乾板（滋賀県分）を整理して、画像をデジタル化し、目録を出版した（デジタル化は外注）。また、上記ガラス乾板及び建造物保存図並びに同摺拓本資料について、外部への資料提供を実施した。
2. 古代建築の技法に関する調査研究では、法隆寺所蔵の古材調査を 2009 年、10 年度に引き続き実施した。本年度は、引き続きかつて法隆寺西院金堂に使用されていた部材について調査をおこなった。なお、調査にあたっては、竹中大工道具館の協力を得た。
3. 建造物の基礎データ収集等を目的とした奈良町の木奥家大工道具及び家屋調査を行い、報告書を刊行した。
4. 海外関連事業として、日中韓の 3 国の文化財研究所における共同研究の一環として、2011 年 10 月に中国北京市で、国際学術会議に参加した。『仏塔建築保存』のテーマで研究発表をおこなうとともに、総合討議をおこなった。
5. 海外協力として、文化庁がおこなう協力事業の一環として、ベトナム・ドンナイ省フーホイ、ティエンザン省カイベイの伝統的建造物群保存対策調査をおこなった。
6. 2011 年 6 月 20 日～24 日に「建造物保存活用基礎課程」の研修を行った。全国から 20 名の参加があった。
7. 兵庫県近代和風建築総合調査、延暦寺建造物調査および高梁市旧高梁尋常高等小学校建築調査を受託し、調査・図面作成・報告書原稿作成をおこなった。

【実績値】
論文等数 12 件（公刊図書 4 件①～④、論文等 8 件⑤～⑥）　　学会等発表件数 3 件⑦
保管建造物関係資料整理：写真乾板デジタル化 1200 枚、現状変更資料入力等 1953～1955 年分
古代建築研究現地資料収集：法隆寺古材調査 55 回
保管建造物資料の外部者利用数：乾板写真 3 件 116 枚、建造物保存図 2 件 46 枚、摺拓本 3 件 10 冊

【備考】
①奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1953～1955（本文編）』2012. 3
②奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1953～1955（図版編）』2012. 3
③奈良文化財研究所『木奥家所蔵大工道具調査報告書』2012. 3
④奈良文化財研究所『国宝・重要文化財写真乾板目録Ⅴ』2012. 3
⑤林良彦「本門寺五重塔の解体修理にともなう構造上の諸問題」『第 3 次中日韓建築遺産保存国際学術会議論文集』中国文化遺産研究院 2011. 10. 12
⑥箱崎和久「古代東アジアの発覚木塔とその構造推定」『第 3 次中日韓建築遺産保存国際学術会議論文集』中国文化遺産研究院 2011. 10. 12　　ほか 6 件
⑦林良彦「本門寺五重塔の解体修理にともなう構造上の諸問題」『第 3 次中日韓建築遺産保存国際学術会議』2011. 10. 13　　ほか 2 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4131

自己点検評価調書

研 No. 6

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
文化財建造物保存修理事業等で作成された貴重な記録である「建造物現状変更説明」「ガラス乾板」の資料整理、デジタル化作業は近年継続的に実施しており、地味な作業ではあるが高く評価できる。古代建築の諸構法の研究は、研究所がこれまで継続してきた調査研究に基づき、これを発展させるため、新たに「技術・技法」等の視点を加え研究するもので、独創性のある研究内容といえる。特に、法隆寺古材調査は、古代建築の技法を知る上でまたとない資料であり、新たな視点での調査をおこない、成果を資料化することは、古代建築研究の展開におおきく貢献するものである。また、木奥家大工道具調査は稀少な大工道具一式の調査で、近世の建築生産の諸相を作り手側に焦点を当てて明らかにしようとするもので今後の研究の発展が期待できる。受託業務として行った兵庫県近代和風建築総合調査では、わが国の近代和風建築の研究と保存に対して貢献をなす成果をあげた点で、高く評価できる。また、受託業務として行った延暦寺建造物調査、高梁市旧高梁尋常高等小学校建築調査においては、詳細かつ正確な調査にもとづいて、その価値を明確にすることで、近年文化庁で推進されている文化財の保存・活用によるまちづくり施策に、おおきく貢献している。

2．定量的評価

観点	論文等数	資料整理数				
判定	A	A				

備考
論文等数、資料整理数ともに十分な成果が認められるので、A と判定した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財建造物の保存修理に関する基礎データの整理等については計画通り実施でき、この継続的な実施によって、本事業の重要性が認知されるようになっている。古代建築の研究に関しては、法隆寺古材調査は基礎的な作業であり、今後高く評価されるものと考える。木奥家の大工道具調査や受託各事業で、諸建築の具体相を究明できたことは、文化庁等の調査に寄せる期待に応えることになり評価できるとともに、将来実施する建築調査に反映できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	所内保管の建造物関係資料についての整理等作業、古代建築の諸構法に関する研究とも順調に進捗している。前者は地味な作業であるが、これを継続させることの重要性をさらにアピールさせたい。後者の研究は、研究所が蓄積した過去の研究成果を元にした本研究所ならではの研究として、今中期計画に掲げたものであり、研究成果をより高める必要がある。今年度の成果を元に、次年度においては本研究の実施にさらに力を注ぎたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4141
（様式 1）

業務実績書

研 No. 7

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形文化財の保存・活用に関する調査研究（(1)-④-1）

【事業概要】
わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成をおこなう。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
高桑いづみ、飯島　満、菊池理予（以上、無形文化遺産部）

【主な成果】
現在伝承されている狂言歌謡や謡本、美保神社所蔵楽器、最初期の SP である出張録音盤の中でもほとんど調査がなされていないフランス・パテー盤、文化財保護委員会及び文化庁が行った工芸技術記録について調査研究をおこない、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をしつつ伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。

【年度実績概要】
現在伝承されている狂言小歌のうち、初期歌舞伎と交流のあった歌謡について、狂言各流の異同を調査し、流儀差のみならず家単位で異なる場合があることなどを指摘した。成果は能楽学会で口頭発表し、金沢大学発行の報告書に掲載した。
室町後期から江戸初期にかけての謡本を調査し、ゴマの向きと旋律の動きについてかなりの程度で対応関係がみられることを立証した。成果は能楽学会大会で口頭発表し、能楽学会の機関誌に掲載の予定である。また、能「梅枝」の桃山時代の旋律を復元し、銕仙会で上演した。
美保神社所蔵の楽器調査をおこない、その成果を島根県立古代出雲歴史博物館で講演した。
無形文化遺産部所蔵の東大寺二月堂修二会の記録に基づいて第 6 回公開学術講座を開催した。
最初期の SP レコードである出張録音盤の中で、特殊な再生装置（縦振動録音方式）を必要とするため、
これまで十分な試聴すらなされてこなかったフランス・パテー盤（明治 44 年吹込み）について、再生とメディア転換を試み、その収録内容の調査確認をおこなった
工芸技術に関しては、実地調査を行いつつ文化財保護委員会及び文化庁が行った工芸技術記録、及び近世における染織技法書について調査・検討を行い、その成果を第 35 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承 - 研究と保存修復の現状 - 」で発表した。
連続口演の機会が激減している講談について、一龍斎貞水師と神田松鯉師による実演記録を作成した。また、伝承が変化しつつある宝生流謡曲について、近藤乾之助師ほかによる実演記録を作成した。

【実績値】
学会等発表件数　　5 件（①～⑤）
論文等発表件数　　3 件（⑥～⑧）

【備考】
① 高桑いづみ「ゴマがあらわす謡のフシ―世阿弥自筆本から文秋譜まで―」能楽学会第 10 回大会　2011.5.7
② 高桑いづみ「狂言小舞謡の伝承を考える」能楽学会例会　2011.6.13
③ 高桑いづみ「日本の伝統楽器―種類と歴史―」島根県立古代出雲歴史博物館特別講座　2011.6.4
④ 高桑いづみ「能『梅枝』と小書『越天楽』」銕仙会特別講座　2011.11.18
⑤ 菊池理予「日本における染織技術保護の現状と課題　－わざを守り伝えるために－」第 35 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　2011.9.4
⑥ 高桑いづみ「『梅枝』と越天楽今様」　『銕仙』608号　2011.12
⑦ 高桑いづみ「狂言小舞謡の伝承を考える一野村万蔵家と狂言共同社のフシの比較を中心に一」『金沢大学日中無形文化遺産プロジェクト報告書』第17集　2012.1
⑧ 飯島満「フランス・パテー盤に関する調査報告」『無形文化遺産研究報告』6　2012.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4141

自己点検評価調書

研 No. 7

1．定性的評価

観点	適時性	独自性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　無形文化遺産部が作成した音声資料は他では作成しえない独自性の高い資料が多い。そのなかでも東大寺修二会関係の録音資料は質量ともに価値の大きなものである。公開学術講座ではそれに基づく成果を公開したが、今後も作成資料の意義を講座等で広く公開していく予定である。狂言歌謡、謡本の音楽面についても独自な視点から調査を行っており、その成果を公表した意義も大きい。伝承が危ぶまれる芸能の実演記録も他では行っていない事業であり、現在をのがしては記録が残らない危険性をはらんでいる点で適時性にかなうものである。美保神社の楽器調査は島根県立古代出雲歴史博物館、フランス・パテー盤については早稲田大学演劇博物館の事業との協力であり、工芸技術記録資料の調査は東京国立博物館の協力を得ている。他所との研究協力を行いつつ調査や発表を行うことができた。以上、さまざまな視点から無形文化財の伝承について多角的に調査を行った。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				

備考
1 年間の成果として、研究発表数、論文数ともに十分であると判断した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	さまざまな視点から無形文化財の伝承について、総合的な調査、および記録作成を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	総合的評価で記した通り、多角的に無形文化財の伝承について成果をあげることができた。次年度計画ではこの方向性を保ちながら、さらに深く調査研究を行いたいと考えている。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4142
（様式 1）

業務実績書

研 No. 8

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（(1)-④-2）

【事業概要】
我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集し、保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行い、媒体転換等の必要な措置を講じるための準備を進める。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部　宮田繁幸

【スタッフ】
今石　みぎわ（無形文化遺産部）

【主な成果】
民俗技術の伝承実態、民俗芸能の伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』などに報告した。また無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議し、その成果を報告書にまとめ、関係者、関係機関等に配布した。さらに地方自治体で作成された無形文化遺産に関する記録の所在情報について、確認作業を行い、データ化を完了した。

【年度実績概要】
1. 無形民俗文化財に関する調査・資料収集
民俗技術に関する調査・資料収集として、鵜飼および鵜捕りの技術調査、北関東を中心とする茅葺き屋根の維持技術についての調査を行なった。その成果の一部は「鵜と鵜飼の民俗」で報告した。また、山口県下松市において莚織り技術を中心とする民俗調査を行なった。その成果は『無形文化遺産研究報告』で報告した。さらに、削りかけ状祭具に関わる技術と風俗・慣習の調査を北海道と福岡県太宰府にて行なった。

2. 無形民俗文化財の公開状況に関する調査研究
地域伝統芸能フェスティバルあおもり（青森県）、国民文化祭京都 2011（京都府）における民俗芸能等の公開状況調査を実施した。

3. 研究集会の開催
2011 年 12 月 16 日（金）、第 6 回無形民俗文化財研究協議会を「震災復興と無形文化――被災地からの報告と提言」をテーマに、東京国立博物館平成館において開催し、170 名の参加を得た。5 件の事例報告（「東日本大震災を乗り越えて―沿岸部の民俗芸能　復興の現状」阿部 武司／「津波と無形文化」川島 秀一　／「被災集落と神社祭礼について」森 幸彦／「後方支援と三陸文化復興プロジェクト」小笠原 晋／「震災と文化復興」赤坂 憲雄）をもとにコメンテーター2 名（小川直之、石垣悟）を含めた総合討議を行なった。成果は『第 6 回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめ、参加者および関係者に配布した。本テーマは 2012 年度も継続テーマとして取り上げる予定である。
。

【実績値】
発表等件数：　3 件　（①～③）
論文等件数：　2 件　（④～⑤）

【備考】
① 今石みぎわ「青潮文化とタブノキ」東北芸術工科大学　2011 年 6 月 18 日
② 宮田繁幸「民俗芸能のネットワークについて」　フォーラム「民俗芸能ネットワークと地域活性化」　寒河江市立図書館　2011 年 10 月 23 日
③ 今石みぎわ「民俗技術と自然環境―削りかけ状祭具と樹木との関わりを中心に」東京文化財研究所 第 3 回総合研究会 2012 年 1 月 10 日
④ 今石みぎわ「鵜と鵜飼の民俗」　『人と動物の近代―絵はがきのなかの動物たち』　東北芸術工科大学東北文化研究センター　2011 年 9 月
⑤ 今石みぎわ「莚と莚織の技術」『無形文化遺産研究報告』6　東京文化財研究所　2012 年 3 月

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4142

自己点検評価調書

研 No. 8

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	論文掲載数	研究会発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	民俗技術を中心とする無形民俗文化財に関する調査・資料収集、無形民俗文化財の公開状況に関する調査研究、及び研究集会の実施は、いずれも十分実施できた。とりわけ東日本大震災を受けて実施した無形民俗文化財研究協議会は、従来以上に反響を呼び、内容・参加者ともに充実した形で行えた。今年度の成果を踏まえ、次年度以降無形民俗の分野でどのようなことが可能なのかを引き続きテーマとして検討していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度当初の計画に沿って実施されており、目的を順調に達成できた。 なお、現中期計画は東日本大震災直後に決定されたものであり、その文言にその後の状況が十分反映されてはいないが、各年度計画において、その後の状況への対応を図っていくこととしたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4143

（様式 1）

業務実績書

研 No. 9

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形文化遺産分野の国際研究交流事業（(1)-④-3）

【事業概要】

無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長　宮田繁幸

【スタッフ】

高桑いづみ、飯島　満、菊池理予、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、俵木悟（客員研究員）

【主な成果】

韓国国立文化財研究所無形文化遺産研究室との交流事業において、平成 22 年度までの交流成果に関する合同発表会を実施した。東南アジア諸国を中心として、無形文化遺産保護に関する情報収集を実施した。その他、関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し無形文化遺産分野における国際的情報収集を行った。

【年度実績概要】

韓国との交流事業では、平成 23 年 8 月 9 日に東京文化財研究所において、以下の合同研究発表会を実施した。
研究発表内容： 飯島満「日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用」、 林瑩鎭「韓国無形文化財保護制度の「種目」と「原型」」、 高桑いづみ「日韓における楽器製作者の現状」、「韓国と日本の重要無形文化財制度の性格と方向―工芸分野を中心に―」、 俵木悟 「韓国における無形文化財の映像記録のアーカイブ化の現状」、 林承範「韓・日無形文化財映像記録の意味―日本千葉県「洲崎踊り」の映像記録を中心に―」
さらに、翌 10 日今後の研究交流のあり方についての協議を行った。それに基づいて、あらたな合意書を平成 23 年 11 月に締結した。

東南アジア諸国を中心とする無形文化遺産の情報収集では、11 月に洪水直後のバンコクを訪問し、無形文化遺産関連施設・機関等の被害状況の確認を行った。

無形文化遺産分野の国際的情報収集では、以下の国際会議等に出席し、情報収集及び研究発表等を実施した。
参加会議：5 月“The Value and Competitive Power of Naganeupseong Folk Village as World Heritage”韓国順天市、6 月「2011 年アジア太平洋無形文化遺産フェスティバル国際学術会議」韓国全州市、8 月「中日韓非物質文化遺産保護比較研究国際シンポジュウム」中国広州市、11 月「無形文化遺産保護条約第 7 回政府間委員会」インドネシア　バリ、2012 年 2 月「国際人類学民族学連合　無形文化遺産委員会」

【実績値】

研究会開催　1 回
研究発表　　6 回　（①～⑥）
論文等　　3 件　（⑦～⑨）

【備考】

① 宮田繁幸「日本の世界遺産（無形文化遺産分野）登載現況と見通し」“The Value and Competitive Power of Naganeupseong Folk Village as World Heritage”韓国順天市、2011.5.12
② 宮田繁幸“The Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in Japan”「 2011 年アジア太平洋無形文化遺産フェスティバル国際学術会議」韓国全州市、2011.6.10
③ 宮田繁幸「日本における無形文化遺産の保護」中日韓非物質文化遺産保護比較研究国際シンポジュウム、中国広州市中山大学、2011.8.2
④ 飯島満「日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用」　日韓無形文化遺産学術発表会　東京文化財研究所　2011.8.9
⑤ 高桑いづみ「日韓における楽器製作者の現状」　日韓無形文化遺産学術発表会　東京文化財研究所　2011.8.9
⑥ 宮田繁幸“Documentation of Japanese Intangible Cultural Heritage” 国際人類学民族学連合　無形文化遺産委員会 Centro Regional de Investigaciones Multidisciplinarias　2012.2.25
⑦ 飯島満「日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用　－SP レコードを中心に」　『日韓無形文化遺産研究』　韓国国立文化財研究所・東京文化財研究所 2011.11
⑧ 高桑いづみ「日韓における楽器製作者の現状　－重要無形文化財と選定保存技術のはざまで－」　『日韓無形文化遺産研究』　韓国国立文化財研究所・東京文化財研究所　2011.11
⑨ 宮田繁幸「岐路に立つ無形文化遺産保護条約」　『無形文化遺産研究報告』6　東京文化財研究所　2012.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4143

自己点検評価調書

研 No. 9

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	効率性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	発表数	論文等				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	韓国との交流に関しては、研究発表会と報告書の刊行により、前中期計画の交流のとりまとめができ、今中期計画における新たな交流枠組みも構築できた。国際会議等での情報収集、情報発信においても、効率的な実施ができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	韓国国立文化財研究所との無形文化遺産分野に関する交流は、新たな合意書の締結が実現し、本中期計画中の交流の基礎を構築できた。国際会議等における情報収集、情報発信の面でも、当初の計画を順調に実施している。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4151

業務実績書

研 No. 10

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究（(1) －⑤－ア、イ、ウ）

【事業概要】
遺跡を含む記念物に関して、国内外の動向も踏まえ、調査・保存・整備計画段階から整備後における管理・運営と公開・活用に至るまでの調査研究を行うとともに、遺跡等マネジメント研究集会（第 1 回）『自然的文化財のマネジメント』を開催する。また、遺構の露出展示を伴う整備事例の資料収集・現地調査により遺構露出展示に関する調査研究を進める。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	遺跡整備研究室長　　平澤　毅

【スタッフ】
小野健吉（文化遺産部長）、青木達司（文化遺産部主任研究員）、黒崎直（客員研究員）

【主な成果】
遺跡等における遺構露出展示について、個別事例の情報収集をおこない、データベース構築の作業を進めるとともに、露出展示遺構の保存管理に関するマニュアルの検討をおこなった。また、過年度の成果について、『地域における遺跡の総合的マネジメント』［平成 22 年度遺跡整備・活用研究集会（第 5 回）報告書］を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。

【年度実績概要】

1. 国内外における遺跡の整備に関する調査研究活動の一環として、遺跡整備事例に関する現地調査・情報収集を実施した。また、地域における遺跡の総合的マネジメントや自然的文化財のマネジメントについて検討した。

2. 2012年2月16・17日に、「自然的文化財のマネジメント」をテーマとして、平成23年度遺跡等マネジメント研究集会（第1回）を、平城宮跡資料館講堂で開催した。韓国から2名の研究者を招聘し、日韓国際研究集会とした。研究集会の開催趣旨等のほか、講演3件、事例報告3件が発表され、これらを踏まえ総合討議をおこなった。なお、研究集会参加者からアンケートの回収率は出席者の85%で、うち96%から有意義であったとの回答を得た。

3. 研究集会開催後、次年度にこの研究集会の報告書を編集・刊行する準備として、総合討議の内容の整理等を進めた。

4. 昨年度の研究集会「地域における遺跡の総合的マネジメント」の成果について検討を加え、「奈良文化財研究所紀要 2011」に報告するとともに、報告書を執筆・編集・刊行した。

5. 全国における遺構露出展示に関する現状と課題を詳細に把握するため、個別事例の整情報収集に基づきデータベース構築を進め、管理マニュアルの作成など、露出展示における問題点の分析と今後のあり方について具体的な検討を進めた。

6. 全国の地方公共団体教育委員会文化財保護主幹課等に対して平成22年度に刊行した報告書を配布するなど、過年度の成果の公表に努めた。



遺跡等マネジメント研究集会（第 1 回）　［2012. 2. 16-17］

【実績値】
1. 研究集会開催数：1 回（①：参加者数：地方公共団体職員・民間事業者等約 60 名）
2. 刊行図書数：1 件（②）
3. 論文等数：15 件（論文 7 件③、講演・発表等 8 件④～⑤）。

【備考】
①『遺跡等マネジメント研究集会（第 1 回）自然的文化財のマネジメント　講演・報告資料集』　2012. 2
②『地域における遺跡の総合的マネジメント』平成 22 年度遺跡整備・活用研究集会（第 5 回）報告書　2011. 12
③小野健吉「文化財庭園（庭園遺構）の発掘と整備における留意事項」『日本庭園学会誌第 25 号』日本庭園学会　2011. 10　　ほか 6 件
④小野健吉「遺跡の整備と活用」文化庁拠点交流事業事業人材育成事業研修（ビシュケク／キルギス）2011. 10. 16
⑤平澤毅「歴史的庭園の現状と保存 ～特に発掘庭園の整備について～」文化比較：イタリアと日本における文化遺産の保護（主催：法政大学陣内研究室、於：イタリア文化会館）2011. 5. 25　　ほか 6 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4151

自己点検評価調書

研 No. 10

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	A	A

備考
昨年度開催した研究集会のテーマである「地域における遺跡の総合的マネジメント」は、文化庁が推進している「歴史文化基本構想」、文部科学省・農林水産省・国土交通省の三省共管による「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」の動向とも関連して、近年極めて注目されている研究課題であり、その報告書を取りまとめ、公表したことは極めて高く評価できる。また、前・中期計画における『遺跡整備・活用研究集会』（2006 年度から計 5 回開催）の成果を踏まえて、新たに企画・開催した『遺跡等マネジメント研究集会』（第 1 回）「自然的文化財のマネジメント」をはじめ、時宜に適った調査研究の取組の成果は極めて良好であると評価できる。遺構露出展示に関する調査研究については、遺跡整備分野における前・中期計画の柱のひとつであり、特に平成 19 年度以降、全国的な現状把握を進め、平成 20 年度に開催した研究集会『埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題』における検討を踏まえて、平成 21 年度以降、さらに個別具体的な事例における詳細な状況把握を進める中で、管理マニュアルを含む重要事項の検討に予想以上に時間を要しており、他の業務遂行との調整から、十分な内容・構成とするため、成果の最終取り纏めを次年度に送ったのは、正確性の観点から適切と判断される。

2．定量的評価

観点	研究会等の開催回数	報告書等刊行件数	論文等件数			
判定	A	B	S			

備考
前・中期計画において開催してきた『遺跡整備・活用研究集会』の検討成果を踏まえ、遺跡等のマネジメントの在り方を検討するために今年度から開催することとした『遺跡等マネジメント研究集会』は、近年、この分野で様々な検討が重ねられてきた韓国の研究者 2 名を招聘して、これまで十分に検討されてこなかった「自然的文化財のマネジメント」を第 1 回の主題としたもので、日本と韓国の自然的文化財の保護施策を共有し、意見を交換したこの国際研究集会は、全国各地及び様々な分野から約 60 名の参加が得られ、その情報や課題の共有等において高く評価できる。一方、年度当初において、取り纏めを計画していた遺構露出展示に関する調査研究においては、全国各地の個別事例の照会に係る詳細な情報項目の検討について検討を進めてきたが、東日本大震災の影響などから、事例に関する情報収集やデータベース構築に係る詳細事項の確認などにおいて、十分な取組を進めることができずに、遺構露出展示の管理マニュアルなどを含む最終成果の取り纏めに至らず、作業完了の見通しの点から、結果的に見送ることとなったことは課題である。また、国内外の動向を踏まえつつ、論文・講演等を通じ、遺跡を含む記念物保護に関して、保存管理対象の理解、保存管理手法及び技術的事項を含む遺跡等の整備に関わる調査研究成果等の公表・普及を行った件数は十二分であり、中でも「名勝の保存管理策定に関する考察」の学会発表（2011 年 11 月 13 日）が、平成 23 年度日本造園学会全国大会ベストペーパー賞（造園学原論・歴史分野）を受賞したことは極めて高く評価できる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	内容としては概ね当初の計画通り事業を実施でき、また、今後の調査研究に関して取り組むべき具体的な課題を明らかにできた。特に、今年度から新たに立ち上げた遺跡等マネジメント研究集会については、急速に変化していく社会構造・国民生活等と遺跡を含む記念物保護との関係について、将来を見通した取組として極めて重要であり、さらに充実を図っていくべき事業のひとつである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	遺跡整備に関する情報の収集・整理・公開に関する検討を様々な観点から進めることができた。特に、研究集会においては、多角的な観点から自然的文化財のマネジメントについて検討したことは、時宜に適った成果として評価できる。一方、第 2 期中期計画から持ち越しとなっている遺構露出展示に関する調査研究については、現時点での検討を踏まえて、次年度に最終的な成果の公表を行う必要がある。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4152

業務実績書

研 No. 11

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究（(1) －⑤－エ、オ）

【事業概要】
庭園史に関する文献調査及び国内外での現地調査のほか、「庭園の歴史に関する研究会」の開催など、日本庭園に関する基礎的資料の検討をおこない、森・村岡・牛川資料の整理を進める。また、不動産文化財に関連した研究成果について、米国・コロンビア大学との研究交流の下に、コロンビア大学で講演を行う。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	遺跡整備研究室長　　平澤　毅

【スタッフ】
小野健吉（文化遺産部長）、青木達司（文化遺産部主任研究員）、高橋知奈津（都城発掘調査部研究員）、
惠谷浩子（景観研究室研究員）、エドワーズ・W（客員研究員）、マレス・E・ベルナール（客員研究員）

【主な成果】
鎌倉時代の庭園・建築・文献等の研究に取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」を開催し、その成果を報告書として取りまとめた。日本庭園に関する国際的な情報発信検討については、その一環として『Japanese Garden Dictionary』の校訂を進めた。また、米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に関わる講演 2 件をおこなった。

【年度実績概要】

1. 2011年10月29日に、大学等の外部研究者（庭園史学、考古学、建築史学、文献史学、美術史学、文学等）とともに「庭園の歴史に関する研究会」（テーマ：鎌倉時代の庭園　－京と東国－）を開催した。

2. 上記、研究会の報告書『平成23年度庭園の歴史に関する研究会報告書　鎌倉時代の庭園　－京と東国－』を執筆・編集・刊行した。

3. 森蘊・村岡正・牛川喜幸の庭園等関係研究資料について、整理を進めた。

4. 日本庭園研究に関する国際的な情報発信検討の一環として、『Japanese Garden Dictionary』の校訂を進めた。

5. 発掘庭園データベースについては、新たな事例情報の収集を進めるとともに、情報項目充実の方向性について検討を進めた。

6. 過年度に刊行した古代庭園研究会に係る各報告書の配布をおこない、成果の公表に努めた。

7. その他、国内外における庭園史及び歴史的庭園　の保護等に関する調査研究に係る情報の収集・整理・検討を進め、現地調査・研究協議等をおこなった。

8. 2011 年 9 月 27 日に、米国・コロンビア大学において、講演会（JAPAN Architecture + Preservation）をコロンビア大学建築・計画・保存大学院及びコロンビア大学中世日本研究所と共催し、“Authenticity and Dismantling Repair System in Architectural Restoration in Japan”及び“Memories of Sacred Landscape: Lost Female Rituals and Remaining Cultural Landscape in the Amami Islands, Southern Japan”の 2 つの講演をおこなった。


庭園の歴史に関する研究会　［2011.10.29.］

【実績値】
1. 研究会等開催数：2 回（①奈良文化財研究所；大学等研究者 24 名参加，②米国・コロンビア大学；約 40 名参加）
2. 刊行図書数：1 件（③）
3. 論文等数：16 件（論文 8 件④、講演・発表等 8 件⑤）。

【備考】
①『平成 23 年度庭園の歴史に関する研究会　鎌倉時代の庭園 －京と東国－　資料集』　2011.10
②発表者：清水重敦（文化遺産部景観研究室長），石村智（企画調整部国際遺跡研究室研究員）
③『鎌倉時代の庭園 －京と東国－』平成 23 年度庭園の歴史に関する研究会報告書　2012.3
④小野健吉「日本庭園の歴史をたどる」『一個人』2011 年 8 月号 KK ベストセラーズ 2011.6　　ほか 7 件
⑤小野健吉「平泉の庭園に見る中国庭園の影響」『平泉文化の国際性と地域性』に関するワークショップ 2011.11.12
　　ほか 7 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4152

自己点検評価調書

研 No. 11

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
第 1 期及び第 2 期中期計画において開催してきた『古代庭園研究会』の調査研究成果を踏まえつつ、第 3 期中期計画において開催することとした『庭園の歴史に関する研究会』においては、中世を主なテーマとし、これまで包括的な検討がされてこなかった鎌倉時代庭園に関する検討をおこなったことは極めて意義が高い。さらに、日本庭園研究の基盤的資料として極めて重要な森蘊・村岡正・牛川喜幸の庭園史等関係研究資料の整理などを含め、調査研究の取組の成果は良好であると評価できる。また、米国・コロンビア大学との研究交流事業においては、当研究所から 2 名の研究員を派遣し、講演を行うことによって、継続的な研究交流の基礎を築くことができた点で重要といえる。

2．定量的評価

観点	研究会等の開催回数	報告書等刊行件数	論文等件数			
判定	A	A	S			

備考
『庭園の歴史に関する研究会』においては、これまで包括的な検討がされてこなかった鎌倉時代庭園に関する検討を進めたことは極めて意義が高く、その成果を報告書として取りまとめたことは高く評価できる。一方、米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に関する講演 2 件を英語により実施したことは、欧米と日本の不動産文化財に関する研究交流を進める上で重要な成果であったといえる。また、論文・講演等を通じ、庭園の歴史及び保存修理等に関して、基礎的調査研究及び技術的事項を含む調査研究成果等の公表・普及を行った件数は十二分であり、中でも「「桂垣」と「桂垣」裏ハチク林に関する研究」の学会発表（2011 年 11 月 13 日）が、平成 23 年度日本造園学会全国大会ベストペーパー賞（造園材料・施工・管理分野）を受賞したことは極めて高く評価できる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の計画通り事業を実施でき、また、今後の調査研究に関して取り組むべき国際的な調査研究の方向性について検討を進めることができた。特に、「庭園の歴史に関する研究」においては、庭園史学のほか、考古学、建築史学、文献史学、美術史学、文学等の学際的な検討の重要性を示すことができた。このような庭園研究の取組は、日本の中世を中心に検討を進めるものであるが、さらに国際的観点からも推進していくべきである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	庭園に関する調査研究を様々な観点から進めることができた。これらの成果を踏まえつつ、国内外の庭園史に関する調査研究及び歴史的庭園の保護をめぐる諸々の現状を踏まえると、今後、学際的・国際的な観点から、外部の研究者等と調査研究協議を重ねていくことが極めて重要である。森蘊・村岡正・牛川喜幸等の庭園史等関係資料については、さらに整理を進め、庭園史及び歴史的庭園保護の基盤的な資料の研究をさらに推進していく必要がある。また、米国・コロンビア大学との研究交流については、当面、当研究所から不動産文化財の調査研究・保存管理等に関わる研究員を派遣し、我が国固有の不動産文化財の特質や現状につき、欧米の関連研究者等に普及していくことが重要である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4161-1

業務実績書

研 No. 12

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮跡東院地区（第 481 次）の発掘調査（(1) －⑥－ ア）

【事業概要】
平成 18 年度から計画的におこなっている平城宮跡東院地区の実態解明を目的とした学術発掘調査。調査区は東院地区の西北部に位置し、調査面積は 816 ㎡。調査期間は、平成 23 年 4 月 4 日～6 月 24 日である。6 月 16 日に調査成果を報道発表し、6 月 19 日には現地説明会をおこない、約 650 名の参加があった。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　井上和人

【スタッフ】渡邉晃宏、青木 敬、鈴木智大、芝 康次郎（以上、都城発掘調査部）、中村一郎、井上直夫、岡田 愛（以上、企画調整部）

【主な成果】
平城宮跡東院地区の西北部にあたる調査区で、掘立柱建物跡、掘立柱塀、溝等の遺構を多数検出した。おもな遺構としては、調査区西部を東西に流れる石組溝、調査区全体を整然と区画する掘立柱塀がある。これらは周辺の調査成果も勘案すれば 6 期以上に区分でき、区画の大規模な改変があること、奈良時代末期には調査区の北半と南半で建物群の性格が異なること、出土遺物から見て重要な建物群が存在すると想定されること、などが明らかとなった。

【年度実績概要】
検出遺構は、掘立柱建物 13 棟、掘立柱塀 7 条、掘立柱列 1 条、溝 3 条で、これらは少なくとも 6 期の変遷がある。
遺構の様相から、区画施設を含む大きな改変をともない、奈良時代末期にあたる 6 期には整然とした区画が存在することを確認した。遺構の変遷からは以下のような点が指摘できる。また出土例の少ない貴重な遺物も発見した。
〔区画の大規模な改変と排水計画〕 1 期から 2 期には東西溝、東西塀により、南北を区画していたのが、3 期には一転して、南北塀により東西が区画される。4 期にはこの塀も廃され、前後の時期と異なる計画となったが、5 期には再び 3 期に似た建物配置がなされる。そして 6 期になって、南北 80 尺に区画される空間が南北に 2 つ並ぶようになった。区画施設を含む配置計画の変更を繰り返しながら、奈良時代末期には、きわめて整然とした区画が設けられたことが明らかになった。
〔建物の規模〕 東院の西辺部で検出していた大型の総柱建物群が並ぶ範囲は、今回の調査区南辺部に留まる。これより北は身舎・廂建物で、規模も小さくなり、奈良時代を通して、建物群のもつ性格が異なることが明確になった。調査区一帯は、東院中枢部を支えるバックヤード的な施設があったと推定される。
〔出土遺物〕 調査区からは瓦、土器が多数出土した。特記すべきものとして、奈良時代の火舎の獣脚が計 3 点出土しており、しかも須恵器製 1 点と銅製 2 点で素材が異なる。建物の規模からは当該地域はバックヤード的な施設と推定されたが、このような貴重品の出土は、隣接する地域に重要な施設が存在することを推測させる。


調査区全景（南西から）

【実績値】
論文等数：2 件①～②
発表件数：1 件（報道発表：平成 23 年 6 月 16 日、現地説明会：平成 23 年 6 月 19 日）
出土品：土器コンテナ 26 箱（土師器・須恵器。須恵器製獣脚 1 点）、軒丸瓦 11 点、軒平瓦 19 点、丸・平瓦コンテナ 99 箱、柱根 1 点、銅製獣脚 2 点
記録作成数：実測図（A2 判）36 枚、遺構写真（4×5）125 枚

【備考】
①鈴木智大「平城宮東院地区の調査－第 481 次－」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）
②鈴木智大「平城宮東院地区の調査－第 481 次－」『奈文研ニュース No. 42』2011.9

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-1

自己点検評価調書

研 No. 12

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
816 ㎡という限られた調査面積であったが、東院地区の構造を知る上で、重要な成果を得ることができた。
適時性：平城京遷都 1300 年祭がおわり、その後の活用が問われるなか、昨年度に引き続き重要な地区の発掘調査を遂行することができた。調査に当たっては、発掘作業の概要を示す案内板を掲示し、宮跡来訪者に調査と遺跡保護の重要性を伝えることができた。
また 6 月 19 日におこなった現地説明会には悪天候にもかかわらず約 650 名もの聴衆をあつめた。説明会に際しては、カラーリーフレットを作成・配布し、よりわかりやすい説明ができた。
発展性：調査成果は、平城宮をはじめとする都城研究、古代建築研究に大きく貢献すると考えられる。
継続性：周辺既調査地域との遺構の連続性を確認できた。また次期調査への足がかり的な成果を得ることができた。
正確性：谷部に立地する当該地域は、きわめて複雑な土層の堆積のため、遺構の把握が困難な地域だが、遺構を的確に把握し、正確な調査をおこなうことができた。また都城発掘調査部員による現場検討会をおこない、さらなる正確性の向上をはかった。

2．定量的評価

観点	資料収集数	発表件数				
判定	A	A				

備考
本調査区では、多数の土器、瓦が出土し、周辺地域の出土状況との検討をおこなう資料を得ることができた。また須恵器製の獣脚が 1 点、銅製の獣脚が 2 点、出土した。とくに銅製の獣脚は、平城宮跡での出土は 2・3 例目であり、その保存および残存の状況は 1 例目をしのぐ良品で、奈良時代の火舎を明らかにできる好例である。
6 月 19 日の現地説明会に先立ち、16 日に報道発表をおこない、同日以後、各報道機関から発信された。また現地説明会ではカラーリーフレットを作成・配布するとともに、アンケートを実施し 98 件の回答を得ることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	遺構の検出が非常に難しい東院地区の調査であったが、的確な土層や遺構の把握により、正確かつ迅速に調査をおこなうことができた。また現地説明会に際してはカラーリーフレットを作成し、聴衆からの好評を得ることができた。今回の調査成果をうけて、東院地区中枢部の解明への足がかりを得ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	継続的な調査の実施により、非常にむずかしい土層の堆積がある平城宮跡東院地区にありながら、正確かつ迅速な調査を遂行できた。今後、周辺地区の継続的な発掘調査の実施により、東院地区の全貌を明らかにすることが期待される。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-2
（様式 1）

業務実績書

研 No. 13

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行（(1) － ⑥－ア）

【事業概要】
飛鳥・藤原京、平城京などの古代都城は、多くの古代官衙・集落遺跡との関連性の中にその歴史的特性を位置づけることが重要である。また、こうした古代官衙・集落遺跡の調査・研究は、各地で分散的に行われる傾向が強く、都城研究を背景としての総合的検討が地方自治体からも渇望されている。そこで、各地の古代官衙・集落遺跡の調査・研究集会を検討する研究集会を開催し、報告書を刊行することで、こうした研究課題や地方自治体の要望に答える。

【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	副所長　井上和人

【スタッフ】
馬場 基、青木 敬、小田裕樹、海野 聡（以上、都城発掘調査部）、小澤 毅（埋蔵文化財センター）

【主な成果】
第 15 回古代官衙・研究集落研究集会を開催（12/9･10）した。テーマは「四面廂建物を考える」である。事例紹介のほか、建築学的視点からの検討、文献資料からの分析、事例を総合しての問題提起などが報告され、これらを踏まえての活発な討論がおこなわれた。
昨年度実施した研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第 6 冊　官衙・集落と鉄』として刊行した。

【年度実績概要】
Ⅰ．古代官衙・集落研究集会の開催（12/9･10）
テーマを「四面廂建物を考える」とした。
「身舎外周柱列の解釈と上部構造」と題して建築学的視点からみた四面廂建物の構造と遺構の特徴について箱崎和久氏からの報告を得た。次に各地の事例の紹介やその特徴・傾向の分析などの報告を「都城と周辺地域の四面廂建物」として家原圭太氏から、「西日本における四面廂建物の様相」として小澤太郎氏から、「東日本における古代四面廂建物の構造と特質」として江口桂氏から、それぞれ得た。「平安時代の儀式・建築からみた母屋と廂」として文献資料からみた廂空間の特質の分析について有富純也氏から報告を得、「多面廂建物跡・雑考―古代仏教系遺物共時傾向の検討を中心に―」として池田敏宏氏より四面廂建物の意義についての意見提示がなされた。また、「検出遺構における四面廂建物」として遺構の分析事例と手法について青木敬氏から報告があった。これらの報告を踏まえ、石橋茂登氏の司会により、活発な討論が行われた。
Ⅱ.『奈良文化財研究所研究報告第 6 冊　官衙・集落と鉄』（論考編・資料編）の刊行
昨年の研究集会の報告集を『奈良文化財研究所研究報告第 6 冊　官衙・集落と鉄』として刊行した。論考 6 編と討論記録を収録し、頁数は 204 である。

【実績値】
古代官衙・集落研究集会　参加者総数 131 名
アンケート回答 107（回収率約 81%）
大変有意義であった：68、有意義であった：36、普通：3、あまり有意義でなかった：0、有意義でなかった：0

【備考】
『四面廂建物を考える』第 15 回　古代官衙・集落研究会研究報告資料、奈良文化財研究所、2011.12
『奈良文化財研究所研究報告第 6 冊　官衙・集落と鉄』奈良文化財研究所、2011.12

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-2

自己点検評価調書

研 No. 13

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
今年度の実績については、以下のような評価を与えることができると考えている。
適時性：古代官衙や集落の研究を進めるうえで、適切な議題設定をおこなうことができた。
独創性：当研究所にとって、もっとも関心の深い分野の一つである古代の官衙・集落について、全国的視野からの研究発表と討論をおこなうことができた。
発展性：発表と議論の内容は、今後の研究に対して大いに発展性が見込むことができる。
効率性：研究会の準備や資料集の作成には、各方面の助力を得て効率的に進めることができた。
継続性：当研究所の事業として研究会を継続させることとなり、当研究所内外の研究者の協力を得て、充実した内容の研究会を開催することができた。参加者からは次回以降の研究集会への期待も多く寄せられており、今後の開催に励みとなっている。
正確性：発表者による研究の成果を討論することによって、内容をさらに充実させることができたと同時に、正確性についてもさらに向上させることができた。

2．定量的評価

観点	成果報告	収集資料数				
判定	A	A				

備考
成果報告：昨年度の研究集会の記録を『奈良文化財研究所研究報告 6　官衙・集落と鉄』として刊行することができた。論考編には 6 編の論文と研究集会における討論記録を収録した。非常に幅広く、意欲的で独創的な内容が盛り込まれており、今後の活用が大いに期待される。
収集資料数：今年度の研究集会『四面廂建物を考える』の予稿集と資料集を簡易製本にて作成した。ここには、当研究所内外 6 名の研究者による発表資料を収めており、発表で引用された遺跡数や文献数は膨大な数にのぼる。さらに、全国の事例を資料集として整理した分量も膨大である。これらをもとに活発な討論をおこなうことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究集会には多くの参加者を得、アンケートの結果も報告書も好評である。また、各地方自治体からの参加者の評価も高く、継続的に研究集会を開催し、成果を公表することが望まれる。次年度以降も、研究集会の開催と報告書の発行の継続を目指す。なお、編集作業等の効率化は大いに進捗しつつあるが、高い質の維持と強い継続力確保のため、さらなる効率化を目指していく。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究集会での報告や討論を通じて、古代都城の分析に資する成果を得たのみならず、全国地方自治体職員等の相互の調査・研究情報共有や質の向上にも寄与することができた。また、研究報告の刊行によって、これらの成果をしっかりと公表し、国民共有の財産とすることもできた。ただ、報告書刊行は、大部のものであったこともあり、予定よりも多くの業務量が発生することになってしまった。 本研究集会・報告書については、全国の地方自治体職員からもその継続を望む声も大きい。古代都城の分析にも非常に役立つものであり、今後もしっかりと継続する必要があると考える。そこで、継続性を担保するためにも、編集作業等のより一層の効率化を推し進めていく。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4161-3

業務実績書

研 No. 14

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	藤原宮跡朝堂院地区（第 169 次）の発掘調査（(1) －⑥－ア）

【事業概要】
「飛鳥・藤原」地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めに至る間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究をおこなうものである。その成果を広く公開し、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。藤原宮跡は、わが国初の本格的都城を備えた宮殿遺跡であり、平成 11 年度から中枢部の実態解明のための計画調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】
高橋知奈津、廣瀬　覚、若杉智宏、石橋茂登、桑田訓也、橋本美佳、玉田芳英、番光、森先一貴［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、栗山雅夫､岡田 愛［以上、企画調整部］

【主な成果】
朝堂院朝庭の発掘調査を実施し、朝庭の礫敷や排水のための暗渠や溝を検出し、朝庭における整備状況を確認した。また、下層調査では、藤原宮造営期の遺構として運河、藤原宮造営に先行して設置された朱雀大路とそれにそって並ぶ柱穴列、および掘立柱建物 6 棟を検出した。これにより、藤原宮の造営過程をこれまで以上に詳細に復元する手がかりが得られた。

【年度実績概要】
本研究は、朝堂院朝庭の整備・利用状況を明らかにするとともに、下層に存在する藤原宮造営期の遺構を具体的に把握することを目的として実施した。調査期間は 2011 年 4 月 4 日～2011 年 12 月 15 日、調査面積は 1350 ㎡である。

調査の結果、調査区全面で径 5～10 ㎝ほどの礫を検出し、朝庭が礫敷によって整備されていたことを再確認した。藤原宮期の遺構としては、南北方向の礫詰暗渠 1 条、南北方向の素掘溝 3 条を検出したのみで、今回の調査範囲がまさに広場として機能していた様子が明らかとなった。

下層遺構の調査では、調査区西側で藤原宮の造営に先行して設置された朱雀大路東側溝と、その東側で南北方向に並ぶ柱穴列を検出した。柱穴列は朱雀大路沿いに設けられた区画施設の痕跡と考えられる。また、調査区中央では、藤原宮造営時に資材運搬に使用されたと考えられる運河（幅約 6 m、深さ約 2m）を検出し、運河底付近から、土器・木材（木簡数 3 点を含む）・獣骨が出土した。さらに、調査区東側では、掘立柱建物 6 棟を発見した。いずれも方位にそって建てられていることから藤原宮造営期の建物と考えられるが、検出層位や柱穴間の切り合いから少なくとも 3 時期にわたる建て替えが認められた。朝堂院朝庭の礫敷下でこうした建物跡が密集して検出されたのは、本調査が初めてであり、藤原宮の造営過程を考える上で貴重な成果となった。ただし、現段階ではこれらの建物群の性格は不明であり、今後、周辺部の調査を進める中で検討を深めていく必要がある。

なお、2011 年 11 月 2 日に記者発表、11 月 5 日に現地説明会をおこなった。



調査区全景（南から）

【実績値】
論文等数：2 件（調査報告 1 件①、その他 1 件②）
発表件数　2 件（現地説明会 1 件③、報道発表 1 件④）
出土遺物　軒瓦 22 点、丸平瓦コンテナ 11 箱、土器コンテナ 75 箱、木材コンテナ 9 箱（製品 3 点、木簡 3 点、ほか加工木など)、石器・石製品 44 点、獣骨 63 点、そのほか炭・焼土・種実など
記録作成数　遺構実測図 93 枚、写真（4×5）372 枚
現地説明会来場者数　620 人

【備考】
①高橋知奈津・廣瀬覚「朝堂院の調査－第 169 次」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）
②廣瀬覚「藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原 169 次)」『奈文研ニュース No. 44』2012.3
③奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮朝堂院朝庭の調査－飛鳥藤原第 169 次調査現地説明会資料」2011.11.5
④奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮朝堂院朝庭の調査－飛鳥藤原第 169 次調査記者発表資料」2011.11.2

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-3

自己点検評価調書

研 No. 14

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	独創性	発展性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
適時性・継続性：特別史跡藤原宮跡の全体解明のための継続的な計画調査である。
独創性:わが国最初の本格的都城の造営から解体までの一連の過程解明に寄与する。
発展性:藤原宮中枢部の造営過程を詳細に復元するための手がかりを得ることができ、さらなる研究課題への展望が生まれた。
正確性：慎重かつ冷静に調査を遂行し、その成果を外部に発表することができた。

2．定量的評価

観点	論文数等	現地説明会来場者数				
判定	A	A				

備考
本調査研究の成果は、研究所紀要をはじめとする紙面において、順次公開することができた。また、現地説明会では、雨天にもかかわらず多くの参加者があり、盛況を博した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査研究は、調査・記録・公開・発表等、適切におこない、定性的・定量的評価においてほぼすべてがＡと判定されるため、総合的評価もＡと判定した。 計画調査として、次年度以降も継続的に調査をおこなう予定である

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通りに実施されており、かつ目的を順調に達成した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4161-4

業務実績書

研 No. 15

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	甘樫丘東麓遺跡(第 171 次)の発掘調査（(1) －⑥－ア）

【事業概要】
日本における古代国家成立期の舞台である飛鳥地域は、6 世紀末から 8 世紀初めの間、国家における政治・経済・文化の中心地としての役割を担っていた。本研究は、このような重要性をもつ同地域の具体像を復元するために考古学・文献史学・建築史学・保存科学などの分野からなる学際的な研究を行うものである。今年度は甘樫丘東麓遺跡の実態の把握にむけた調査を進めている。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】
清野孝之・山本崇・渡辺丈彦・黒坂貴裕・庄田慎矢・小田裕樹・木村理恵・高橋透・降幡順子［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］井上直夫、栗山雅夫、岡田愛［以上、企画調整部］

【主な成果】
丘陵裾部において柱穴列を検出した。谷部では斜面を切り土・盛土により平坦面を造成しており、平担面上にて石敷・柱穴・溝および被熱により赤色硬化した部分を検出した。7 世紀前半段階における、谷部の土地利用形態を明らかにした。

【年度実績概要】
今年度の調査は甘樫丘東麓遺跡の丘陵裾部における遺構の遺存状況の確認、第 161 次調査で検出した谷部における遺構の全容を明らかにすることを目的として実施した。調査期間は 2011 年 9 月 22 日～2012 年 4 月下旬（予定)、調査面積は 879.5 ㎡である。

丘陵裾部の調査では、第 161 次調査で検出した SA225 に直交する柱穴列 1 条を検出したが、近世以降の段畑の造成により、古代の遺構面は大きく削平を受けていることが明らかになった。

谷部の調査では、第 161 次調査で一部検出していた谷 SX200，炭混層 SX201、硬化面 SX202、石敷 SX203 の解明に努めた。その結果、これらの遺構の広がりや内容を確認したほか、掘立柱建物 1 棟、溝 3 条以上等を新たに確認した。また、谷 SX200 は出土土器より飛鳥Ⅰの新しい段階（7 世紀中葉）に埋め立てられたことが明らかになった。

以上の成果より、この谷において 7 世紀前半に、何からの生産活動が行われた可能性が高いことが判明した。

なお、2012 年 3 月 2 日に記者発表、3 月 4 日午前 11 時から午後 3 時にかけて現地見学会をおこない、1,005 名が参加した。



調査区近景（南から）

【実績値】
論文等数：2 件（調査報告 1 件①、その他 1 件②）
発表件数：2 件（現地見学会 1 件③、報道発表 1 件④）
出土遺物　軒瓦 2 点、丸平瓦コンテナ 3 箱、土器コンテナ 13 箱、金属製品 7 点、石製品 1 点、そのほか羽口・炭・焼土・穀物・種実など
記録作成数　遺構実測図 65 枚、写真（4×5）151 枚
現地見学会来場者数　1,005 人

【備考】
①清野孝之・小田裕樹「甘樫丘東麓遺跡の調査－第１７１次調査」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）
②小田裕樹「甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原 171 次）」『奈文研ニュース No. 44』2012.3
③奈良文化財研究所都城発掘調査部「甘樫丘東麓遺跡の調査－飛鳥藤原第 171 次調査現地見学会資料」2012.3.4
④奈良文化財研究所都城発掘調査部「甘樫丘東麓遺跡の調査－飛鳥藤原第 171 次調査記者発表資料」2012.3.2

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4161-4

自己点検評価調書

研 No. 15

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：甘樫丘東麓遺跡の実態の解明に向けた計画的な調査である。
継続性：計画調査の継続による遺跡全体の構造の解明を実施している。
発展性：遺跡の全容を復元するための手がかりを得、さらなる研究課題への展望が生まれた。

2．定量的評価

観点	論文数等	発表件数	現地説明会 来場者数			
判定	A	A	A			

備考

調査成果は、研究所紀要をはじめとする紙面において、順調に公開することができた。また、現地説明会では、多くの参加者を得、盛況となった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査研究は、調査・記録・公開・発表等を適切におこない、定性的・定量的評価において全てがＡと判定されたため、総合的評価もＡと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通りに進行しており、課題であった甘樫丘東麓遺跡の実態の把握についても順調に進んでいる。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4162-1

業務実績書

研 No. 16

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等（(1) －⑥－イ）

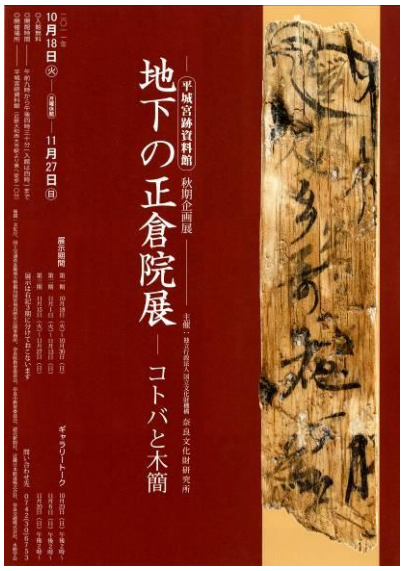
【事業概要】
平成 23 年度の発掘調査によって平城宮・京跡から出土した木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理・分析研究、検出遺構の整理・分析研究を、年間を通じて実施した。また、昨年度以前の調査で出土した遺物について、報告書刊行またはその準備作業としての再調査をおこなった。さらに、出土遺物の科学的保存処理を継続して実施した。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　井上和人

【スタッフ】
小池伸彦、芝 康次郎、諫早直人、神野 恵、森川 実、青木 敬、今井晃樹、石田由紀子、川畑 純、渡辺晃宏、馬場 基、山本祥隆、箱崎和久、大林 潤、鈴木智大、海野 聡（以上、都城発掘調査部）、
中村一郎、栗山雅夫、鎌倉　綾（以上、企画調整部）

【主な成果】
本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面作成・写真撮影などの基礎作業をおこない、平成 24 年刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2012』の報告を準備した。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物についての調査を継続して実施した。また、『地下の正倉院展―コトバと木簡』を開催した。

【年度実績概要】
・平成 23 年度の発掘調査による出土遺物の整理
平城宮・京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理・分析研究、検出遺構の図面作成・写真撮影・分析研究、および出土遺物の科学的分析・保存処理は、発掘調査研究の基礎作業であり、年間を通じて発掘調査と併行して、これを遅滞なく実施した。
本年度は平城宮東院地区において、掘立柱建物群を多数検出し、所期の成果を得た。この発掘調査では、複雑な遺構の整理と出土遺物の調査研究とを実施した。このほか、朱雀大路緑地（第 478 次・486 次）、興福寺北円堂（第 483 次）、薬師寺旧境内（第 489 次）の発掘調査についても、検出遺構と出土遺物の整理を平行して実施した。
・平成 22 年度以前の出土遺物の整理
『名勝大乗院庭園発掘調査報告』刊行に向けての再整理・分析を重点的に実施した。これは検出遺構の検討と、出土遺物の調査からなる。また、平城宮東区朝堂院地区の出土遺物・検出遺構について、報告書刊行に向けての再整理・分析を開始した。
・これまでに平城宮内から出土した木簡の中から優品を選び、平城宮跡資料館にて秋季企画展『地下の正倉院展―コトバと木簡』（10 月 18 日～11 月 27 日）を開催し、広く公開した（写真）。
・特別企画展『地下の正倉院展―コトバと木簡』にともない、展示解説図録『地下の正倉院展―コトバと木簡』を作成した。
・『平城宮発掘調査出土木簡概報（四十一）』を刊行した。



「地下の正倉院展」案内

【実績値】
報告書等 1 件、展示図録 1 件

【備考】
展示解説図録『地下の正倉院展―コトバと木簡』2011.10
『平城宮発掘調査出土木簡概報（四十一）』2011.12

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4162-1

自己点検評価調書

研 No. 16

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：新たに出土・検出した遺物・遺構の資料的価値を明確にし、重要なものについては迅速に情報公開し、国民の文化財としての活用を図った。
発展性：新たに出土した資料や検出した遺構の検討を通じ、より高度な古代史研究を推進するとともに、資料の分析にあたって新たな方法を追求した。
継続性：平城宮・京および寺院の発掘調査を通じて得た膨大な歴史資料についての基礎的な分析と研究を継続した。
正確性：蓄積されている資料を正確に資料化し公表した。

2．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

備考
論文等数：当初予定の刊行物を順調に刊行できたことに加え、新しい成果を適時公表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮・京跡および寺院で出土した膨大な考古資料・文字資料を継続的に整理・分析し、古代史研究上のさまざまな重要課題について、汎東アジア的な視点で検討を加えたことから、総合的にみてＡと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまでの研究を基礎として、さらに新しい資料・方法を加味・活用して、研究を深化させた。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4162-2

(様式 1)

業務実績書

研 No. 17

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等（(1) －⑥－イ）

【事業概要】

本年度の発掘調査により飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、合わせて前年度までの発掘調査成果を報告書等で公開するための基礎的整理・分析・復原研究を行う。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】

玉田芳英、清野孝之、降幡順子、石橋茂登、山本 崇、黒坂貴裕、渡辺丈彦、廣瀬 覚、庄田慎矢、木村理恵、小田裕樹、若杉智宏、高橋 透、森先一貴、橋本美佳、番 光、高橋知奈津［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、石田由紀子［都城発掘調査部（平城地区)］、井上直夫、栗山雅夫、岡田 愛［以上、企画調整部］、藤井裕之(埋蔵文化財センター)、金原正明(奈良教育大学)、杉山真二(（株）古環境研究所)

【主な成果】

本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。

【年度実績概要】

①　本年度の発掘調査による出土遺物について

本年度、飛鳥・藤原京跡で出土した木簡・木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類などの整理、分析研究、発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業及び、出土遺物の保存と保存処理は発掘調査研究の基礎作業であり、年間を通じての野外での発掘調査と並行して各研究室において計画的に遅滞なく実施した。成果の一部は、『奈良文化財研究所紀要 2012』等で公表する。

②　前年度までの出土遺物について

発掘調査成果を、計画中の『藤原京左京六条三坊発掘調査報告』等の報告書として公刊するための基礎的整理・分析・復原研究、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。藤原京条坊に関連する発掘成果をデータ化する作業は、前年度に引き続いて実施した。また藤原宮東面北門周辺から出土した木簡 611 点の整理・分析・研究が終了し、その成果を『奈良文化財研究所史料 88 冊　藤原宮木簡　三』として刊行した。それ以外には、藤原宮 SD1901A(運河)出土瓦(第 20 次)、SD2300 出土土器(第 23 次)の整理・分析、朝堂院朝庭(第 163 次)・藤原京右京六条二・三坊(第 167 次)の自然科学分析、水落遺跡(第 165 次)の珪藻分析などがおこなわれ、その成果を論文として公表した。

【実績値】

公刊図書等数：2 冊①～②　　論文等数：6 件③～⑧　　記録作成数：写真（4×5）338 枚

【備考】

①奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 2011』2012.6（予定)
②奈良文化財研究所『奈良文化財研究所史料 88 冊　藤原宮木簡　三』2012. 1.30
③石田由紀子「第 20 次調査 SD1901A(運河)出土瓦報告」『奈良文化財研究所紀要 2011』2012.6（予定)
④高橋透「第 23 次調査 SD2300 出土土器報告(1)」『奈良文化財研究所紀要 2011』2012.6（予定)
⑤山本崇・藤井裕之「藤原宮木簡の樹種」『奈良文化財研究所紀要 2011』2012.6（予定)
⑥若杉智宏・番光・山崎健・金原正明・杉山真二「藤原宮朝堂院朝庭(第 163 次)、藤原京右京六条二・三坊(第 167 次)の自然科学分析」『奈良文化財研究所紀要 2011』2012.6（予定)
⑦庄田慎矢「水落遺跡の珪藻分析報告－第 165 次(東区)」『奈良文化財研究所紀要 2011』2012.6（予定)
⑧木村理恵「飛鳥藤原地域出土の木製食器」『奈良文化財研究所紀要 2011』2012.6（予定)

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4162-2

(様式 2)

自己点検評価調書

研 No. 17

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

適時性：新出土資料の迅速に公開し活用に供した。
独創性：新たな資料分析方法を追究した。
発展性：蓄積された歴史資料を正確に資料化した。
継続性：膨大な歴史資料の基礎的分析研究と保存処理を実施した。
正確性：新出資料の正確な資料的性格と価値について公表した。

2. 定量的評価

観点	公刊図書数					
判定	A					

備考

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	出土遺物・遺構についての整理調査を、野外での発掘調査と並行して遅滞なく計画通りに実施することができた。また、図書等の刊行を通じて、調査成果の公開も適切に行い得たので、総合的にＡと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	報告書作成のための遺物・遺構整理作業を、ほぼ予定通り進めることができた。また、成果物の刊行も計画通りに行い得た。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4163

業務実績書

研 No. 18

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究（(1)-⑥-ウ）

【事業概要】
飛鳥地域の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、鋳造関連遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺出土部材の研究を行う。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　　加藤真二

【スタッフ】
成田聖、丹羽崇史　［以上、飛鳥資料館］

【主な成果】
飛鳥地域の壁画古墳の研究としては、昨年度の天文図の調査に基づき、春期特別展を開催した。また、新たに、キトラ、高松塚古墳出土大刀の類例および同時代資料の集成を行った。同時に、武人像を中心とした壁画資料の収集をおこない、7～8 世紀における武器の着装について研究を進めた。
東アジアにおける工芸美術史・考古学研究のうち、鋳造関連遺物の調査は、橿原市出土品の調査と、宮内庁および奈文研埋文センターと共同して、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の明日香村古宮遺跡出土の金銅製四鐶壺の調査を実施した。また、これまでの鋳造関係遺物の調査成果をもとに夏期企画展を実施した。
山田寺出土部材については、経年的に計測調査をおこなっており、本年もこれを継続した。その結果、大きな変化がないことを確認した。

【年度実績概要】
飛鳥地域の壁画古墳の研究：キトラ、高松塚古墳出土大刀の類例および同時代の考古資料を集成するとともに、内外の壁画にみられる武人像に関する資料を集積し、7～8 世紀にかけての武器、武具の種類やその着装状態を探求した。この研究成果は平成 24 年度春期特別展、およびその展示図録の基礎となる。なお、昨年度の研究成果を飛鳥資料館図録第 54 冊として刊行した。
鋳造関連遺物の調査研究：橿原市内膳北八木遺跡、堺市大井遺跡出土品を中心に蛍光 X 線分析などを実施し、その成果を研究図録第 14 冊として刊行した。また、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の明日香村古宮遺跡出土の金銅製四鐶壺を対象に、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、宮内庁と共同調査を実施した。この結果、素材や製作に関する詳しい情報がえられるとともに、詳細な実測図を作成することができた。また、唐の墓誌蓋の図像との比較から、四鐶壺の鳳凰図の年代的な位置づけを初歩的に把握した。そして、これらの成果を研究図録第 15 冊として刊行した。さらに、これまでの調査研究の成果をもとに夏期企画展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」を開催し、飛鳥資料館カタログ第 25 冊を刊行した。
山田寺出土部材の研究:第 2 展示室で常設展示中の重要文化財山田寺出土部材について、ひずみ計を設置して、その経年変化を計測している。計測によれば、大きな変化は生じておらず、展示を継続している。


調査中の金銅製四鐶壺

【実績値】
飛鳥地域の壁画古墳の研究　図録 1 冊（①）
鋳造等関連遺物の調査研究　カタログ 1 冊（②）、研究図録 2 冊（③・④）
山田寺出土回廊部材　経年変化計測値

【備考】
① 『星々と日月の考古学』飛鳥資料館図録第 54 冊　2011 年 4 月
② 『鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―』飛鳥資料館カタログ第 25 冊　2011 年 8 月
③ 『奈良県橿原市内膳北八木遺跡・大阪府堺市大井遺跡出土冶金関連遺物の調査』
飛鳥資料館研究図録第 14 冊　2012 年 3 月
④ 『奈良県明日香村古宮遺跡出土金銅製四鐶壺の調査』飛鳥資料館研究図録第 15 冊　2012 年 3 月

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4163

自己点検評価調書

研 No. 18

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性	発展性		
判定	A	A	A	A		

備考
飛鳥地域の壁画古墳についての調査研究では、キトラ、高松塚古墳出土大刀の東アジア史的な位置付けをおこない、両者の差異や日本における唐様大刀の出現に関して考察をおこなった。この議論は、両古墳の造営年代の議論にも関連する。
鋳造関連遺物の調査研究では、都城域と周辺地区の冶金技術の差異を探ったほか、謎の多い古宮遺跡出土四鐶壺についての詳細な分析をおこなった。いずれも東アジアの冶金技術を解明するうえで、重要な所見を得られた。また、これまでの研究成果を企画展という形で広く一般に公開し、専門家はもとより、一般の方々から好評を得た。
飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺出土部材の研究をおこなった。山田寺の出土部材を対象とする、保存処理済み大型部材に関する継続的なデータの収集により、従来我が国になかった保存処理部材の経年変化についての長期的なデータが蓄積されつつあり、保存科学および大型木製品の展示保管に大いに資している。

2．定量的評価

観点	刊行物数					
判定	A					

備考
予定よりも多く刊行できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	いずれも計画どおり、一部のものに関しては、計画以上のデータ、資料の蓄積とそれをもとにした研究成果をあげることができた。また、研究図録、展覧会およびその図録、カタログという形で社会に研究成果を公開、還元できた。さらに、宮内庁、奈文研埋蔵文化財センターと共同研究を進めることができ、文化財保存の面に関しても貢献ができたと考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	いずれも滞りなく、計画通り研究は進んでいることから、順調と判断した。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4164
（様式 1）

業務実績書

研 No. 19

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力（(1) －⑥－エ）

【事業概要】
Ａ：漢魏洛陽城跡の発掘調査を中国社会科学院考古研究所と共同して実施し、日本の都城との比較研究をおこなう。また、調査成果の概要を公表する。
Ｂ：朝陽地区隋唐墓出土副葬遺物ならびに遼西地域東晋十六国期の都城について、中国遼寧省文物考古研究所と共同で調査・比較研究し、日本都城成立期の交流を考察してその成果を公表する。
Ｃ：鞏義市黄冶唐三彩窯跡および当地出土をはじめとした製品について、中国河南省文物考古研究所との共同研究を実施し、日本の奈良三彩との関連を総合的に考察し、成果を公刊する。
Ｄ：日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究および研究員を相互に長期派遣する発掘調査交流を、韓国国立文化財研究所とおこなう。
Ｅ：中央アジアの旧石器時代資料に関する共同研究を、カザフ国立大学とおこなう。
Ｆ：河南省文物考古研究所が行う河南省許昌市霊井遺跡出土の細石刃石器群の整理・研究に参与、協力をおこなう。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　井上和人

【スタッフ】
Ａ：井上和人、今井晃樹[以上、都城発掘調査部]、栗山雅夫[企画調整部] 他 9 名（王巍、銭国祥、朱岩石他）
Ｂ：井上和人、小池伸彦、清野孝之、諫早直人［以上、都城発掘調査部］他 6 名(李向東、李新全他)
Ｃ：深澤芳樹、玉田芳英、森川 実[以上、都城発掘調査部]他 8 名（孫新民、趙志文他）
Ｄ：深澤芳樹、石橋茂登、青木 敬、庄田慎矢、諫早直人［以上、都城発掘調査部］他 25 名（権宅章 他）
Ｅ：森本 晋、加藤真二［以上、企画調整部]、森川 実、芝 康次郎、森先一貴［以上、都城発掘調査部］
Ｆ：加藤真二、丹羽崇史、成田聖［以上、企画調整部］

【主な成果】
Ａ：漢魏洛陽城は宮城壁およびその周辺を対象として共同調査を実施。
Ｂ：共同研究の成果として『遼寧省朝陽地区隋唐墓の整理と研究』の執筆と編集。金嶺寺遺跡出土遺物調査の実施。
Ｃ：河南省および河北省で生産した唐三彩の調査研究を実施。唐三彩に関する学会で発表。
Ｄ：日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施。
Ｅ：カザフ国立大学所蔵資料の調査および大学研究者との研究交流を実施。
Ｆ：霊井遺跡出土品の調査研究を実施。中国・韓国より研究者 4 名を招聘。講演 1 回、研究報告を 2 回実施。

【年度実績概要】
Ａ：2011 年 5 月に 2 名の研究員を派遣した。宮城壁の断割調査から宮城の変遷を明らかにし、宮城内外の遺構を検出した。漢魏洛陽城の調査成果は 2011 年 5 月 28 日に日本考古学協会大会、および奈良文化財研究所所内講演会にて発表をおこなった。
Ｂ：2011 年 9 月に 3 名の研究員を派遣し、共同研究成果の取りまとめと次年度以降の事業計画について協議した。また、2011 年 11 月に 4 名の研究員を派遣し、朝陽地区の金嶺寺遺跡出土瓦等を調査した。
Ｃ：2011 年 6 月に北京で開かれた鞏義窯に関する学会に参加するとともに、2 件の発表をおこなった。2011 年 11 月には研究員を中国に派遣し、鞏義市水地河・白河地区、東魏鄴城、河北省邢州窯などより出土した唐三彩、北朝白瓷・青瓷などを調査した。同年 11 月には中国側から 5 名を招聘して、学術講演会を開催した。2012 年 3 月には、図録『白河唐三彩窯の考古新発見』を刊行した。
Ｄ：2011 年 11 月・12 月および 2012 年 3 月に研究員を派遣して調査研究を実施した。発掘交流では 8～10 月に 1 名派遣、10～12 月に 1 名の招聘を実施した。また、共同研究に関連して研究報告会を開催し、調査研究に対する協力や理解を深めている。
Ｅ：2012 年 2 月に研究員を派遣して、大学所蔵のシュルビンカ遺跡出土資料の実測や写真撮影など調査を実施した。
Ｆ：2011 年 4 月、12 月、2012 年 2～3 月に中国へ研究員等を派遣し、中韓の研究者を 4 名招聘し、国際学会で報告した。

【実績値】
学会、研究会等発表実績 5 件①、論文発表実績 5 件②～③、報告書刊行物実績 1 件④
記録作成数：Ａ 遺構平面図 12 枚、フィルム（4×5）84 カット、デジタルカメラ 333 カット、Ｂ 写真・3D デジタイザ・調書・実測図等の記録多数、フィルム（4×5）48 カット、 写真・調書等の記録多数、Ｄ 論文等 2 件、Ｅ 論文集計 1 部、写真・調書等の記録多数、Ｆ 遺物実測図・写真・調書等の記録多数。

【備考】
①井上和人・今井晃樹ほか「中国漢魏洛陽城－北魏宮城中枢部の発掘調査－」日本考古学協会第 77 回総会 2011.5.29　ほか 4 件
②森本晋・加藤真二ほか「カザフスタン南部の多層遺跡」『旧石器研究第 7 号』日本旧石器学会 2011.5
③玉田芳英「河北省邢州窯出土唐三彩の調査」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）　ほか 3 件
④『鞏義白河窯の考古新発見』（日本語版）奈良文化財研究所 2012. 3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4164

自己点検評価調書

研 No. 19

1．定性的評価

観点	独創性	発展性	適時性			
判定	A	A	A			

備考
独創性：東アジアの考古学に関する最新情報を入手・公開し、日本古代史の再検討に貢献した。
発展性：海外の研究機関と連携し、日本文化の源流を探るための基礎的研究の蓄積を継続している。
適時性：成果報告を迅速に作成し、公表した。

2．定量的評価

観点	成果報告	記録件数				
判定	A	A				

備考

成果報告：速報性を重視した報告をおこなった。
記録件数：未公開の貴重な学術資料について多くの記録調書を作成し、写真などのデータを収集できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中国、韓国、カザフスタンで、関係研究機関との連携のもとに遺跡・遺物を調査し、相互の研究を向上させたほか、計画どおりに事業を実施できたので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	いずれの研究も計画通りに実施し、成果をあげることができた。これらの国際共同研究は都城発掘調査部を中心として担当しており、6 本の研究を総合的に組み立てることにより、古代史の解明に資する成果を達成することを目指している。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4171

業務実績書

研 No. 20

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究（(1) －⑦）

【事業概要】
文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究の一環として、諸外国との比較を行いつつ、我が国の文化的景観保護行政に関する基礎的な情報を収集し、整理が終了したものより順次公表を行う。また、文化的景観の学術及び保護に資する研究会を定期開催し、その成果を踏まえて文化的景観の保護に関する研究集会を開催する。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	文化遺産部長　小野健吉

【スタッフ】　清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、惠谷浩子［同部研究員］、松本将一郎［同部特別研究員（アソシエイトフェロー）］、宮城俊作［客員研究員］、小浦久子［客員研究員］

【主な成果】　文化的景観に関する調査研究の一環として、アメリカ合衆国における文化的景観保護の状況を視察し、研究交流の道筋を立てた。国内に関しては、現地調査や視察、協議を通じて、文化的景観の保存計画、整備・活用事業の基本的な考え方を整理し、論文等を通じて成果を報告した。また、文化的景観学研究会を、準備会を含めて 3 回開催し、その成果を踏まえつつ、文化的景観の制度発足以来の保護と学術の動向の中間総括を目的として、文化的景観研究集会（第 4 回）を開催した。

【年度実績概要】

1.　基礎的・体系的研究

文化的景観の基礎的・体系的な調査研究の一環として、今中期計画より諸外国との比較研究を開始した。今年度はアメリカ合衆国国立公園局による文化的景観保護につき、現地研究者と情報交換をするとともに、バーモント州のマーシュ・ビリングス・ロックフェラー国立歴史公園を視察し、保護の現状と問題につき担当者と協議をおこなった。

少人数で横断的議論をおこなう場として設定した「文化的景観学研究会」については、準備会を含めて 3 回開催した。1 回目は「都市・集落の文化的景観をめぐる動向」を、2 回目は「町並み保存と文化的景観」をテーマに、準備会と合わせて開催した。

シンポジウム形式で実施する「文化的景観研究集会」については、過去 3 度に渡り開催してきた同集会での課題を洗い出し、制度発足後 6 年を経過した文化的景観保護行政と学術研究の動向の中間総括を目指し、2011 年 12 月 16・17 日に「文化的景観の現在－保護行政・学術研究の中間総括－」をテーマとして開催した。初日は「奥飛鳥の文化的景観」の現地視察と基調講演・鼎談をおこない、2 日目は 10 件の報告の後、総合討議をおこなった。これに合わせ、『文化的景観研究集会（第 4 回）講演・報告資料集』（報告書等②）を作成した他、昨年度開催した研究集会（第 3 回）の成果報告書（報告書等①）を刊行した。



研究集会における見学会の様子

2.　文化的景観保護に関する現地調査・研究

宇治市、四万十市、亀岡市をフィールドに、文化的景観の整備手法につき、各自治体と協力して文化的景観の価値評価及び整備計画立案調査を進めた。

この他、京都岡崎、佐渡相川、長良川流域の文化的景観に関する受託調査研究や、全国の文化的景観の視察と担当者との協議を通して、特に都市に関わる文化的景観の価値評価と保存計画立案、文化的景観の整備・活用事業のあり方について基本的な考え方を整理し、調査報告会等において提言をおこなった。

【実績値】
研究集会開催数：1 回、参加者数：地方自治体職員（文化財、都市計画、企画ほか）等、164 名。
研究会開催数：3 回。
報告書刊行：1 冊①～②、論文：8 件③～⑤、研究発表：6 件⑥～⑦。

【備考】
報告書等：①『文化的景観研究集会（第 3 回）報告書　文化的景観の持続可能性−生きた関係を継承するための整備と活用−』奈良文化財研究所、2011.12、
②『文化的景観研究集会（第 4 回）講演・報告資料集』奈良文化財研究所、2011.12
③清水重敦「都市を文化的景観として見ること−佐渡相川、京都岡崎の調査から−」『奈良文化財研究所紀要 2011』2011.6.15
④惠谷浩子「米国合衆国における保全史の聖地」『遺跡学研究』第 8 号日本遺跡学会 2011.11.20
⑤松本将一郎「1960 年代の景観論　再考」『遺跡学研究』第 8 号日本遺跡学会 2011.11.20　　ほか 5 件
⑥清水重敦「文化的景観をわかりやすく−複合性、重層性、変化と価値評価−」文化庁平成 23 年度文化的景観保護実務研修会 2011.6.9
⑦清水重敦「文化的景観とは何か」京都市みやこ文化財愛護委員育成事業事前講座 2012.2.14　　ほか 4 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4171

自己点検評価調書

研 No. 20

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
文化的景観の保護制度が発足して 6 年が経過し、価値評価、保護手法等に関する課題が年々蓄積していく中、基礎的情報と総括的整理がなされていない現状に対し、①文化的景観学研究会及び文化的景観研究集会の開催による情報の集約と整理、②その成果報告書の刊行による情報発信、③現地調査を通じた保護手法についての独創性ある提案、をおこない、文化的景観保護行政あるいはその学術研究に当研究所ならではの役割を果たし、その水準を高めることに貢献した。また、国際比較研究への着手により、文化的景観に関する視野を広げ、国際連携をおこなっていく素地を形成しつつある。

2．定量的評価

観点	論文数等	研究会回数	研究集会回数			
判定	A	A	A			

備考
研究成果を 1 冊の報告書として出版刊行したほか、学術雑誌等における論文や研究発表による公表をおこなった。本年度開催した研究集会には 164 名の参加を得､文化的景観の保護行政をめぐる諸課題に関する活発な議論ができた。文化的景観学研究会では、都市の文化的景観に関わる行政担当者が一同に会する場を設定することができ、課題の多い都市の文化的景観の現状を俯瞰する初めての機会を設定することできた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化的景観に関する国際比較への取り組みを開始したこと、研究会及び研究集会等の実施による保護行政、学術研究への貢献、宇治や四万十川流域等を対象とした現地調査・研究、学会や学術雑誌等での研究成果発表と、年度当初の計画を十全に実施し、的確な成果を公表し得た。これらの成果を踏まえつつ、今後も文化的景観に関する保護行政及び学術に資する成果の的確な公表を目指し、基礎的調査研究と現地調査研究を進めていく。なかでも、国際比較については、次年度以降も積極的に実施し、国際連携への道筋を立てていく予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化的景観に関する基礎的研究、現地調査、研究集会の開催等を通じて、計画通り研究が進捗し、多くの成果を公表し得た。次年度以降は、国際比較研究をいっそう推進するとともに、文化的景観研究集会を奈良以外の場所において開催し、フィールドとの繋がりを強めていく。また、研究所独自の国内の調査フィールドを設定し、専門領域を越えた文化財保護のあり方について調査研究を深めていく。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4181

業務実績書

研 No. 21

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺跡データベースの作成と公開（(1) －⑧－ア）

【事業概要】
官衙関係遺跡の指標や属性分析法の確立に関する研究等を継続し、資料収集とデータベース化を進めて順次一般公開するとともに、寺院遺跡の発掘調査において抽出すべき基本的属性についてのデータ収集と分析をおこない、一般公開する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
山中敏史（客員研究員）、森本晋（企画調整部企画調整室長）、馬場基（都城発掘調査部主任研究員）、青木敬、海野聡、小田裕樹（以上、都城発掘調査部研究員）、清野陽一（京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程）

【主な成果】
官衙関係遺跡の建物データについては、特に古代における四面廂建物の遺構を重点的に収集し、居宅や集落まで範囲を広げて全国的に網羅した『四面廂建物資料集成』を作成した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から近畿地方まで公開した。さらに、井戸のデータベースの対象を古代の遺跡全般に拡充して、資料収集をおこなった。

【年度実績概要】
1. 平成22年度以前に刊行された古代の遺跡全般に関する報告書のめくり作業をおこない、四面廂建物の遺構の資料を全国的に収集・整理した。
2. 今年度に開催した第15回古代官衙・集落研究集会「四面廂建物を考える」の資料集成（①）を作成した。
3. 報告書のめくり作業をおこない、国府・郡衙・城柵やその他の官衙関係遺跡等の資料を追加収集・整理した。また、平成20年度までに刊行された古代寺院に関する報告書のめくり作業をおこなった。
4. 新たに収集した官衙関係遺跡と古代寺院遺跡の資料をデータベース化し、新出資料を追加して一般公開をおこなった。
5. 古代寺院遺跡の建物遺構を中心とした属性分析を進め、それにもとづく寺院遺跡データベース構造を作成して資料収集と整理をおこない、近畿地方以西のデータについて、奈良文化財研究所のホームページで一般公開をおこなった。
6. 平成 21 年度以前に刊行された古代の遺跡全般に関する報告書のめくり作業をおこない、井戸のデータベースの作成・公開に向けた資料収集をおこなった。



古代寺院建物データ入力画面（部分）

【実績値】
官衙関係遺跡データベース入力・補訂件数：遺跡数約150件、文献データ約750件、
建物データ約550件、画像データ約600件、
井戸データ約250件
古代寺院遺跡データベース入力・補訂件数：遺跡数約110件、文献データ約2,300件、
建物データ約400件、画像データ約900件
公開データ数：官衙関係遺跡：遺跡数約1,630件、文献データ約14,800件、建物データ約16,900件など
古代寺院遺跡：遺跡数約1,010件、文献データ約10,900件、建物データ約2,100件など
研究集会当日資料集：1 件（①）

【備考】
① 馬場基ほか編『四面廂建物遺構資料集成』第 15 回古代官衙・集落研究集会当日資料集、2011.12

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4181

自己点検評価調書

研 No. 21

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　情報の共有化が要望されてきた古代寺院遺跡について、データ数の拡大をともなうデータベースを充実させている点で、適時性と発展性が認められる。また、毎年増加する官衙関連遺跡に関するデータを逐次補充することにより、正確性と継続性、効率性を確保している。

2．定量的評価

観点	データベース入力件数	データベース公開件数				
判定	A	A				

備考
　毎年増加する官衙関係遺跡のデータの追加入力に加えて、居宅・集落など古代遺跡全般における四面廂建物の遺構を全国的に集成し、データベースの充実化を図るとともに、四面廂建物遺構の資料集成を作成した。また、寺院遺跡データの収集・入力作業を進め、データの公開も着実に達成した。さらに、井戸のデータベースの対象を拡充し、資料収集をおこなった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	データベース入力件数の目標値を大幅に上回ったほか、古代の遺跡全般における四面廂建物遺構の資料収集とデータベース化をおこない、資料集成を作成した。古代寺院遺跡のデータベースでは、近畿地方以西、とりわけ古代の中心地でもある奈良県内についてのデータを一般公開できた。各地で寺院遺跡の調査研究にあたっている者にとって、情報の共有化につながると同時に、遺跡から抽出すべき遺構の属性についての指標を提示するものであり、寄与するところが大きい。今後も、新発見の官衙関係遺跡データを継続的に収集・整理するとともに、全国に及ぶ古代寺院のデータベースを作成し、逐次公開していくことにしたい。また、これにくわえて、発掘調査で検出例の多い井戸遺構についても属性分析をおこない、整理・収集とデータベース化をおこなうことにより、官衙関連遺跡の調査や建物遺構分析における新たな指標を示すことができるよう努めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	官衙関連遺跡について、新出資料の補充を含めたデータベースの作成を着実に進め、一般公開するとともに、官衙以外の居宅や集落における四面廂建物についてもデータ収集をおこない、データベースのいっそうの充実化を図っている。一方、平成 21 年度に構築した寺院遺跡のデータベースでは、近畿地方以西のデータを網羅的に収集・整理してデータベース化し、一般公開することができた。今後は、官衙関連遺跡および寺院データの収集とデータベース化を継続し、利用しやすいかたちでの一般公開をさらに推進していくことが必要である。また、古代の井戸についても、居宅や集落遺跡などまで範囲を拡大してデータ収集をおこない、発掘調査や建物遺構分析における新たな指標を示すことができるよう努めたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4182

業務実績書

研 No. 22

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査（(1) －⑧－イ）

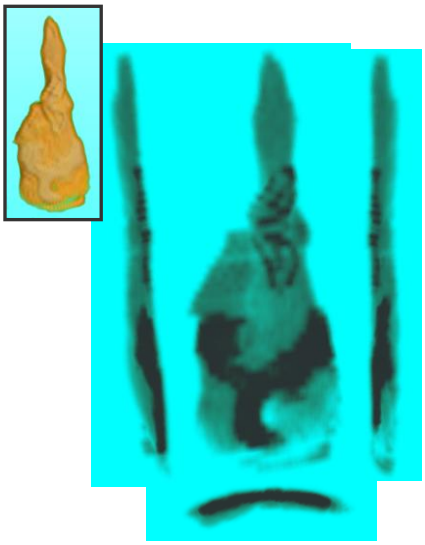
【事業概要】
標記プロジェクトに関して、1）考古遺物の非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用研究、2）高エネルギーＸ線ＣＴ法およびＸ線ＣＲ法の応用研究、3）漆製遺物や塗装材料などの分析法の実用化とデータベース作成、4）鉄製遺物の埋蔵環境調査、5）被災文化財の救済における保存科学の果たすべき役割についての研究集会の開催、に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎、田村朋美（以上、研究員）、降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）、赤田昌倫（アソシエイトフェロー）、佐藤昌憲、肥塚隆保（以上、客員研究員）

【主な成果】
1）ガラス製品の標準試料のスペクトルを集積するとともに、ガラス製遺物のスペクトルを取得した。
2）金属製品の構造調査としてＸ線ＣＴ撮影することにより、象嵌構造を明らかにした。
3）木造建造物の塗装の材質分析をおこない、漆塗装、油系塗装および膠彩色を明らかにした。
4）鉄製遺物の埋蔵環境の室内再現実験を実施し、腐食のメカニズムを解明する取り組みを始めた。
5）「被災文化財のレスキュー―保存科学の果たすべき役割と課題―」をテーマとした研究集会を開催した。

【年度実績概要】
1）飛鳥寺から出土した黄色不透明ガラス小玉について、レーザーラマン分光分析および蛍光Ｘ線分析を実施し、人工黄色顔料 $PbSnO_3$ が着色に用いられていることを明らかにした。
2）（株）日立製作所との共同研究の一環として、愛知県立美術館所蔵の高麗鉄地金銀象嵌鏡架のＸ線ＣＴ法を用いた内部構造調査を実施し、板象嵌が施されていることを明らかにした。
3）談山神社の本殿並びに十三重塔の塗装調査を実施し、十三重塔からは漆塗装と油系塗装を、本殿からは漆と膠を検出した。また、油系塗装の塗装部の変色について分析を行い、鉛丹が炭酸化して塗装表面に析出していることを明らかにした。
4）鷹島海底遺跡を対象として、海洋鉄製遺物の埋蔵環境の室内再現実験を行い、鉄製品の腐食と埋蔵環境の関係についての基礎データを収集した。
5）「被災文化財のレスキュー―保存科学の果たすべき役割と課題―」と題した研究集会を開催し、文化財を災害から守るための日常の備えや、被災した文化財を救出する体制、危機管理のありかたと保存科学の果たすべき役割について、情報交換と総合討議などを行った。



高麗鉄地金銀象嵌鏡架の XCT 画像

【実績値】
発表件数：10 件①～④
論文等数：5 件⑤～⑧
研究集会参加者数：103 名

【備考】
①高妻洋成「文化財建造物塗装材料の分析（1）～談山神社塗装の FT-IR 分析～」文化財修復学会第 33 回大会 2011. 6. 4
②高妻洋成「テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査」文化財修復学会第 34 回大会 2011. 6. 4
③降幡順子「高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光Ｘ線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－」日本文化財科学会第 28 回大会 2011. 6. 11
④田村朋美「ガラスから見た武寧王時代の国際関係」武寧王陵発掘 40 周年国際学術会議 2011. 10. 28　　ほか 6 件
⑤高妻洋成「平城宮跡の木簡出土深度の土壌調査」『奈良文化財研究所紀要 2011』2011. 6. 15
⑥高妻洋成「法隆寺所蔵古材調査２－金堂支輪板の顔料分析調査－」『奈良文化財研究所紀要 2011』2011. 6. 15
⑦降幡順子「特別史跡キトラ古墳出土遺物の保存処理と調査」『奈良文化財研究所紀要 2011』2011. 6. 15
⑧田村朋美「ガラスから見た古代の交易ルート－武寧王陵出土品と日本出土品の比較を中心に－」『百済文化 第 46 輯』公州大学校附設百済文化研究所 2012. 2. 29　　ほか 1 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4182

自己点検評価調書

研 No. 22

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
出土遺物の非破壊材質調査としてレーザーラマン分光分析および蛍光Ｘ線分析を実施し、古代ガラスの着色剤について明らかにした。出土遺物の構造調査としては、金属製品のＸ線ＣＴ撮影を実施することにより、象嵌構造を明らかにした。その他にも多くの出土遺物の材質構造調査を実施することによって、古代の材料や技術に関する重要な知見を得ることができた。埋蔵環境調査に関しては、鉄製遺物の埋蔵環境の室内再現実験を実施し、鉄製品の腐食と埋蔵環境の関係についての基礎データを収集した。

2．定量的評価

観点	発表件数	論文等数	研究集会 参加者数			
判定	A	A	A			

備考
文化財保存修復学会で 2 件、日本文化財科学会で 7 件、国際シンポジウムで 1 件の、合計 10 件の学会発表をおこなった。また、『奈良文化財研究所紀要』に 4 件、『百済文化』に 1 件の合計 5 件の論文を発表した。さらに、研究集会では 103 名の参加者を得て、事例報告に加え、総合討議でも活発な議論を行うことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究事業を当初計画どおり順調に達成することができたことから、総合的評価をＡと判定した。次年度は、ガラス製遺物以外の出土遺物にもラマン分光分析の応用範囲を広げていきたい。埋蔵環境調査に関しては、平城宮跡内での埋蔵環境調査の実施にあたって井戸の選定や効率的な調査方法の確立を実現し、木製遺物の保存と埋蔵環境の関係についてのデータ収集に重点をおいた取り組みを進めていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調と判定した。次年度は、ラマン分光分析の応用範囲の拡大や、木製遺物の埋蔵環境調査の一環として、平城宮跡内での埋蔵環境調査の実施に向けて取り組んでいきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4183

（様式 1）

業務実績書

研 No. 23

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集（(1) －⑧－ウ）

【事業概要】

土質遺構や装飾古墳の安定した公開・展示を行うことを目的とした環境調査、ならびに維持管理技術の開発的研究の一環として、遺跡を構成する土、石材および大気における熱・水分移動を推定する解析技術に関する研究、および土質遺構露出展示、装飾古墳の公開・展示に関する実地試験に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】

降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）、脇谷草一郎、田村朋美（以上、研究員）

【主な成果】土質遺構の露出展示を実施予定の福島市宮畑遺跡を調査フィールドとして、遺構の保護施設（覆屋）内の室空気および遺構土壌における熱水分同時移動解析を行い、換気や空調を利用した遺構の安定化法について検討した。岡山市千足古墳では墳丘における熱水分同時移動解析を行い、石室湛水のメカニズムについて考察すると同時に、盗掘以前の墳丘における熱水分同時移動解析を実施して、盗掘以前の石室における湛水発生の有無や、湛水によって生じた石障の劣化速度について検討を行った。

【年度実績概要】

1）福島市宮畑遺跡では土質遺構露出展示のための保護施設（以下覆屋）が竣工している。そこで、覆屋の仕様、すなわち屋根や壁の断熱性、窓の日射取得率や換気回数などを考慮して、遺構土壌の含水率変化および覆屋内室空気の変化について解析を行った。その結果、遺構土壌表面の含水率は周期的変動を示すものの、その値は遺構土壌の塑性限界を下回るものであり、乾燥による劣化の発生が予測された。そこで、遺構土壌の含水率が減少する時期に、覆屋内室空気の換気回数を減少させ、空調による室空気の加熱を行った場合、室空気中の湿気が遺構土壌へと供給されることで、遺構土壌の過度な乾燥が抑制され、遺構の安定化を達成しうる見通しが得られた。



竣工した覆屋（宮畑遺跡）

2）岡山市の千足古墳では、石障の表層剥離が著しく進行しているため、表面に施された線刻が失われる危険性があり、その対策が急がれている。石障の劣化要因について検討した結果、石障の劣化は、石室内が湛水状態に陥るために生じることが明らかとなった。そこで、石障の現地保存の可否を明らかにすることを目的として、墳丘における熱水分同時移動解析を行い、石室の開口部を閉塞した場合でも石室内の湛水状態が生じるか否かを検討した。その結果、石室直上の盗掘孔埋土は透水性を有するので、開口部を閉塞したとしても、埋土に浸透した雨水が石室内へと浸出することが予測された。また、石室床面土壌の地山はきわめて透水性が低いために排水が非常に緩慢であり、天井部において浸出水が発生すると同時に、湛水状態へと移行することが予想された。さらに、開口部を閉塞した場合、外気との換気が抑制されることにより、湛水状態にある水の排水が一層緩慢になる怖れも危惧される。

3）日田市に位置するガランドヤ古墳では、復元する墳丘によって石室石材表面における結露の発生を抑制し、装飾の保存を図る手法について、現在検討を進めている。そこで、遮水性の墳丘復元を想定した覆屋を設置し、周辺土壌への雨水の浸透を抑制して石室周辺土壌の含水率の低下を促進させ、石室内の結露を抑制しうるのかを検討した。調査の結果、夏期以外の時期では、石室内室空気の相対湿度が 80%前後で推移する環境を作り出すことが可能であることが判明した。一方で、夏期には外気に含まれる大量の水分が換気によって石室内へ流入し、この期間は石材の表面に依然として結露が発生することが明らかとなった。今後は数値解析をもちいて結露の発生時期と発生場所を推定するとともに、結露を予防する手段について検討を行う予定である。

【実績値】

発表件数：2 件①～②

論文等数：2 件③～④

【備考】

①脇谷草一郎「千足古墳における水分移動解析」日本文化財科学会 2011.6.11

②脇谷草一郎「宮畑遺跡における土質遺構露出展示保存の取組み」地盤工学会 ATC19　2011.9.28

③脇谷草一郎「史跡ガランドヤ古墳における水の挙動に関する調査研究２」『奈良文化財研究所紀要 2011』2011.6.15

④脇谷草一郎「千足古墳における水分移動解析」『日本文化財科学会第 28 回大会発表予稿集』日本文化財科学会 2011.6.11

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4183

自己点検評価調書

研 No. 23

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
福島市宮畑遺跡では覆屋内の土質遺構における熱水分同時移動解析を行い、露出展示後の長期間にわたる遺構土壌の含水率変化、覆屋内室空気の変化などについて予測した。可逆性に乏しい遺構保存において、遺構に生じる劣化を事前に予測する解析技術は非常に重要な知見を与えるものと考えられる。また、岡山市の千足古墳では、墳丘における熱水分同時移動解析を行い、現在の開口部を閉塞した場合でも水が石室内へ浸出すること、石室床面土壌はきわめて透水性が低いため、浸出水の発生と同時に石室内は湛水状態へと変化することが予測された。一方、盗掘以前の墳丘では、石室内への浸出水は発生していなかったと考えられる。したがって、現在の開口部を閉塞しても石室は湛水状態に陥る怖れがあり、また湛水状態にあることで進行する石障の劣化は、盗掘後のこの約 100 年間で急激に進行した可能性が高いと判断された。以上の結果は、石障の保存対策上、重要な知見を与えるものと考えられる。

2．定量的評価

観点	発表件数	論文等数				
判定	A	A				

備考
日本文化財科学会第 28 回大会で 1 件、地盤工学会ＡＴＣ19 国内委員会で 1 件の発表を行った。また、『日本文化財科学会第 28 回大会発表要旨集』および『奈良文化財研究所研究紀要 2011』に各 1 件、計 2 件の論文を発表した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究事業を当初の計画通り順調に達成することができたことから、総合的評価をＡと判定した。次年度は二次元の熱水分同時移動解析を行い、装飾古墳石室内で結露が発生する場所を推定するとともに、換気あるいは除湿により結露を防止する手法について検討する予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業を当初の計画通り順調に達成することができたことから、順調と判定した。次年度の土質遺構の保存に関する研究では、遺構面に集積する塩類のリーチング法について検討を続ける予定である。また、二次元の熱水分同時移動解析を実施し、引き続き覆屋内室空気の換気回数あるいは空調などによって遺構土壌の安定状態を維持する方法についても検討を進めたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4211
（様式 1）

業務実績書

研 No. 24

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財デジタル画像形成に関する調査研究（(2)-①）

【事業概要】
本研究では、着色仏画、彩色壁画・油彩画・日本画などを対象とし、文化財研究に資するデジタル画像の形成方法、および、その応用のための手法（表示・出力）を開発し、広範な活用の方向性を研究する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長 津田徹英

【スタッフ】
田中　淳、山梨絵美子、二神葉子、塩谷　純、綿田　稔、小林達朗、江村知子、皿井　舞、城野誠治、鳥光美佳子(以上、企画情報部)、早川泰弘（保存修復科学センター）

【主な成果】
脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に供すべく、サントリー美術館所蔵の「泰西王侯騎馬図屏風」、東京国立博物館所蔵の「虚空蔵菩薩像」、京都・佛光寺蔵「善信聖人親鸞伝絵」の調査・撮影を行うとともに、他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」の調査、奈良国立博物館との共同調査研究として「信貴山縁起絵巻」の調査を行い、台湾・故宮博物院との共同研究の成果として『李唐萬壑松風図光学検測報告』を刊行した。

【年度実績概要】
1.他機関との共同研究成果の刊行
文化財の高精細画像や特殊撮影画像を公開し、多目的な利用に供することは、文化財への理解を深め、実物の保存と共に活用の道を開く有効な方法である。他機関との共同研究成果として台湾故宮博物院と『李唐萬壑松風図光学検測報告』を刊行した。
2.今年度の他機関との共同調査研究
1)宮内庁三の丸尚蔵館（「春日権現験記絵巻」の調査）(2011.12.13)
2)奈良国立博物館（「信貴山縁起絵巻」の調査）(2011.11.8-11)
3. 古代から近代までの絵画の調査・撮影
1) サントリー美術館所蔵の「泰西王侯騎馬図屏風」 (2011.9.14,28,10.20,21,25)
2) 東京国立博物館所蔵の「虚空蔵菩薩像」(2011.10.5)
3) 京都・佛光寺蔵「善信聖人親鸞伝絵」 (2012.2.22-24)
4. デジタルコンテンツの多目的利用の一環として、サントリー美術館で「泰西王侯騎馬図屏風」の調査成果の公表をその展覧会（会期 2011.10.26～12.4）に合わせて行うとともに、講演（城野誠治「西秦王侯騎馬図屏風との新しい出会い」2011.11.5）を行った。

【実績値】

調査箇所数	5 件
報告書の刊行	1 件（①）
学会研究会等での発表（論文を含む）件数	3 件（②）
画像展示の件数	1 件（③）

【備考】
①『李唐萬壑松風図光学検測報告』（11.12 刊）
② 城野誠治「西秦王侯騎馬図屏風との新しい出会い」（11.11.5 サントリー美術館）
城野誠治「有関〈萬壑松風図〉光学探測方法的画像資訊化」『李唐萬壑松風図光学検測報告』pp.103-109（11.12）
城野誠治「科学写真撮影法の概要と結果」『平等院鳳凰堂 仏後壁 光学調査報告書』pp.98-99（12.3）
③「西秦王侯騎馬図屏風」の高精細デジタル撮影による画像の公開展示（11.10.26～12.4 サントリー美術館）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4211

自己点検評価調書

研 No. 24

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査箇所数	画像展示件数	発表数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	他館との共同研究により、各時代の日本美術を代表する作品（「春日権現験記絵巻」、「信貴山縁起絵巻」）の調査・撮影を行い、「泰西王侯騎馬図屏風」の調査成果の報告会を開催し、併せて、高精細デジタル撮影による画像展示を行うとともに、これまでの成果を『李唐萬壑松風図光学検測報告』として刊行するなど、デジタルコンテンツの多目的利用の成果を上げたので A と判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に沿って調査・研究を実施し、成果の報告についても順調に行うことができた。また、成果公表の一環として、所蔵館における展覧会に際してパネル展示等を行い、高精細デジタル画像の文化財への応用研究についての周知と関心を喚起することができた。次年度においても文化財への高精細デジタル画像の応用と研究をすすめ、積極的に成果公開に努めることにしたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4221
（様式 1）

業務実績書

研 No. 25

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の測量・探査等に関する研究（(2) －②）

【事業概要】
埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用のため、文化財の計測・測量および探査等に関する研究を行い、調査の質的向上と効率化に資するべく、方法的検討と実地データの収集・分析を進める。本事業は、現在の文化財調査の実態に鑑み、従前の方法との乖離を埋めつつ、新たな技術の有効利用法を研究・提示することで、当該分野における指針としての役割を果たすことを目的としている。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
金田明大（主任研究員）、西村康、西口和彦（以上、客員研究員）

【主な成果】
文化財の計測・測量および探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学や地方公共団体と連携して実践を行った。計測・測量分野では、三次元レーザー測量と写真測量の技術的検討を進め、遺跡・遺物の図化法や、比較的安価な機器の導入と普及に関する研究を実施した。探査分野では、ＧＰＲおよびＥＭ探査、磁気探査、電気探査の走査方法改善と新たな機器の試作、ＧＰＳによる位置精度向上実験を行い、多様な条件下での遺構の確認に成功した。

【年度実績概要】
計測・測量分野では、東大寺法華堂・軒廊、平城宮朱雀大路緑地、岩屋山古墳（以上、奈良県）の遺構や、平城京出土の遺物などに対して、三次元計測を行った。岩屋山古墳の計測は大学・自治体と共同で実施し、その成果を大阪で開催されたナレッジキャピタルトライアル 2011 で公開した。また、複数の遺跡において新たな機器のテストを行い、費用対効果の高い機器による計測の有効性を確認した。また、ＵＡＶ（無人飛行艇）などの遺跡での試験を実施し、カンボジアにおいて遺跡の空中写真計測を行った。

探査分野では、平城宮大極殿院、東大寺東塔院・大仏殿・法華堂、飛鳥寺西方遺跡（以上、奈良県）、成合遺跡（大阪府）、砂原陣屋（北海道）、高田 2 号墳（千葉県）、天良七堂遺跡、三軒屋遺跡（以上、群馬県）、神野向遺跡（茨城県）、真福寺貝塚（埼玉県）、周防国庁（山口県）、大宰府蔵司地区（福岡県）、西都原古墳群（宮崎県）、普天間キャンプ内遺跡（沖縄）、クラン・コー遺跡（カンボジア）、ボラルダイ古墓群、サウラン都市遺跡（以上、カザフスタン）の探査を実施した。あわせて機器の開発と探査手法の改良を行い、官衙や寺院など広域の遺跡では、そりによる安定したアンテナの走査と迅速な探査が可能となった。また、精度向上と位置決定の迅速化についても、関連機関・企業と連携しつつ、実地での検討を進めた。

このほか、探査の普及を目的として、地下電磁計測ワークショップを平城宮で開催し、46 名の参加を得た。また、国外でも中央アジアの研究者に対する UNESCO 地中探査ワークショップを開催し、当該地域での有効性の検証のため、現地研究者との連携による探査を実施して、良好な成果を得ることができた。


ボラルダイ古墓群における探査ワークショップ風景

【実績値】
講演件数：1 件①　　発表件数：8 件②～④　　論文等数：5 件⑤～⑥
遺跡探査実施件数：19 件　　三次元計測件数：46 点
研修実施件数：3 件
大学講義件数：1 件

【備考】
①金田明大「救援体験から考える文化遺産の防災・復興の課題」奈良歴史研究会公開シンポジウム 2011.7.9
②金田明大「The CEDACH DMT: a volunteer-based data management team for the documentation of the earthquake-damaged cultural heritage in Japan」ほか Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology 2011 Beijing 2011.4.12-16
③金田明大「『被災文化遺産救援コンソーシアム』について」考古学研究会緊急集会 2011.4.23
④金田明大「何を測るのか？残すのか？－文化財保護と三次元計測－」三次元計測フォーラム 2011　2011.5.18
ほか 1 件
⑤金田明大「胡桃館遺跡の遺跡探査」『胡桃館遺跡詳細分布調査報告書』北秋田市教育委員会 2011
⑥金田明大「古代日本の官衙・寺院遺跡探査の実践–奈良文化財研究所による近年の GPR 探査–」『信学技報』Vol.111 電気情報通信学会 2011.11.24　　ほか 3 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4221

自己点検評価調書

研 No. 25

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：技術革新が進行するなかで的確な指針を欠く現況の改善。
発展性：全国の遺跡調査への応用性と影響力。
効率性：時間的投資・人的投資の効率化。
継続性：事業中断以前を含めた、黎明期以来の技術・データの継続的検討、収集と蓄積。

2．定量的評価

観点	探査実施件数	計測実施件数	発表件数	研修件数		
判定	A	A	A	A		

備考
いずれの項目も当初の目標値を上回っている。とくに探査実施件数はそれが著しい。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	作業の迅速化や質的向上、地方公共団体などへの協力と成果の還元が達成できたため、Ａと判定する。反面、国内外の外部機関からの依頼が年々急増しており、緊急性や重要性を考慮してそれらへの対応を進めた結果、新規技術の開発や検討に充てる時間がきわめて不足している。研究補助者の確保が必要だが、現状では充分に対処できていないこと、補助者の交代による技術的蓄積の継承に時間がかかることから、これ以上の研究の拡大は事実上困難である。また、順次更新を進めてはいるが、漏水事故や機器の老朽化のため、相当数の機器がいまだ使用できない状況にあり、これらを必要とする作業には対応できない点も大きな問題である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	成果とその蓄積という点では、当初の予想を超える進展をみせている部分もあり、順調と判定する。国内外各地からの依頼や問い合わせも急増しており、とくに探査分野は、多チャンネル計測の検討など、今後いっそうの進展が期待できる。反面、三次元計測や探査成果のデータ処理には時間を要するため、研究補助者の入れ替わりもあって、研究員の負担が増大している。また、依頼の急増や機器の老朽化と故障により、新たな方法の試験・改良に取り組む時間がないことも問題である。したがって、すみやかな対応を図るとともに、次年度の研究計画や依頼の受諾についても一部見直す必要がある。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4231
（様式 1）

業務実績書

研 No. 26

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	年輪年代学研究（(2) －③）

【事業概要】
遺跡出土木材、木造建築物、木造美術工芸品などの年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究所で開発したマイクロフォーカスＸ線ＣＴやデジタル画像による非破壊年輪年代測定法は、非破壊を原則とする文化財調査に有効であるため、調査対象の拡充と活用を図り、これらの研究成果を公表する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	年代学研究室長　大河内隆之

【スタッフ】
芝康次郎（都城発掘調査部研究員、年代学研究室兼務）、児島大輔（特別研究員〈アソシエイトフェロー〉）、
光谷拓実、伊東隆夫、藤井裕之（以上、客員研究員）

【主な成果】
2 県下 2 遺跡の出土木製遺物、3 県下 3 棟の木造建造物、7 府県下 25 件の木造美術工芸品ついて年輪年代測定調査を実施した。このうち、神像彫刻を中心とした 16 件の美術工芸品に対して、プロジェクト研究者らが開発したマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置による年輪年代測定調査を実施している。これらの調査・研究成果の一部を論文等 9 件、学会発表等 11 件として公表した。

【年度実績概要】
1. 木造文化財の年輪年代調査：年輪年代調査は上記のように美術工芸品に対する調査研究件数を飛躍的に伸ばすことができた。
2. 木造文化財の樹種同定調査：2 県下 2 件の美術工芸品、2 県下 3 棟の建造物、2 県下 5 遺跡の出土木製品の樹種同定調査を行ったほか、木簡の樹種同定調査を引き続いて実施し、報告書を公表している。
3. マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の活用：上記の年輪年代調査実績のうち、奈良・興喜天満神社神像 5 躯の調査は、奈良国立博物館における特集陳列「初瀬にますは与喜の神垣」展の開催に伴う同博物館との共同調査であり、様式による制作年代把握が困難な神像群に数値年代を与えることができた。すなわち、5 躯とも 12 世紀前半以降に用材調達がなされたと考えられ、このうち 4 躯は同じ原木に由来することを明らかにした。本調査事例は、様式把握の困難な像に対する年輪年代調査の有効性と、外部から目視での年輪計測ができない対象に対するマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の有効性を示す好例となった。また、京都・久多地区所蔵の木製五輪塔は、墨書銘によれば、紀年を持つ五輪塔としては現存最古のものである可能性が高く、数値年代を得るために本装置を用いて年輪年代計測を試みたが、年代は不詳であった。しかしながら、本装置によって三次元撮影を行ったところ、内部に奉籠された舎利や、経巻ないし結縁交名と思われる巻紙状のものを観察することができた。
4. マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置のデバイス更新：現有の装置は乾燥状態にある木造文化財の非破壊年輪年代測定を目的として、平成 16 年に本研究所に設置されたが、撮像系を構成するデバイスのマイクロフォーカスＸ線源とＸ線受像部に、経年変化による劣化が認められていた。本年度は、これらを最新のものに換装することで、より高出力化・高解像度化を図り、大型の木製品や湿潤状態にある出土木製品、あるいはＸ線吸収の多い無機質材料製の資料など、従来では対応が困難だった文化財の調査研究をも可能とした。更新された装置の活用が今後期待される。


デバイス更新されたＸ線ＣＴ装置による調査風景

【実績値】
学会、研究会等発表：11 件①～③
論文等発表：9 件④～⑤

【備考】
①大河内隆之・光谷拓実「国宝永保寺開山堂の年輪年代調査」日本文化財科学会第 28 回大会 2011. 6. 11
②伊東隆夫「木を識る・組織でわかる木の特性と樹種」兵庫県立考古博物館「木のうつわ　６０００年の技」展 特別講演 2011. 4. 23
③児島大輔「描かれた大乗院庭園」名勝大乗院庭園文化館主催文化講演会 2012. 3. 3　　ほか 8 件
④吉川聡・谷本啓・児島大輔「明日香村八釣の明神講関係資料調査」『奈良文化財研究所紀要 2011』2011. 6. 15
⑤大河内隆之「年輪年代学的視点からみた興喜天満神社の神像群」『特集陳列「初瀬にますは与喜の神垣」展図録』奈良国立博物館 2011. 7. 16　　ほか 7 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4231

自己点検評価調書

研 No. 26

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
適時性：建造物や木彫像の解体修理あるいは木製遺物の出土に際しては、迅速に対応して調査研究に及び、建築史・美術史・考古学等の歴史学・文化財科学関連諸分野に年輪年代情報を提供することができた。
独創性：日本古代を代表する建造物である東大寺法華堂の建立年代に迫る成果を得られたのは、他の方法ではなしえなかったことであり、独創性のきわめて高い研究成果として認めることができる。
発展性：マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の利用価値を多角的に認め、その能力を高めるため既存の装置のデバイスを更新して、さらに高解像度の画像を取得することが可能となった。今後は、これまで計測できなかった大型の資料や湿潤状態にある資料も調査対象として、画像を取得することが可能となる。
効率性：十分に効率的な調査・研究を行っているが、今後さらなる効率化を図る必要がある。
継続性：年輪データを継続的に収集しているほか、永保寺（岐阜県）の年輪年代調査も継続的に行っており、いずれも顕著な成果として認めることができる。
正確性：多くの自然科学的年代測定法の中で、年輪年代法は１年単位の年代を測定できる点できわだった存在である。公表する年代は統計学的にきわめて正確な数値であり、高い評価に値する。

2．定量的評価

観点	論文数等	発表件数				
判定	A	A				

備考
調査件数および公表した研究成果は、論文等数・発表件数とともに前年度を上回っている。なお、発掘調査報告書や修理報告書など発行主体が他機関にある調査物件については、当研究室における担当分の研究成果報告が済んでいても、報告書自体がいまだ刊行されていないため、上記件数に数え上げることのできない調査研究成果が存在することを付言しておく。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的、定量的に優れた業績を残すことができたため、Ａと判定する。今後は、調査・研究のいっそうの効率化を図るとともに、デバイスの更新がなされたマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置のさらなる活用を図ることで、より充実した調査・研究成果を上げられるよう努力したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	新規中期計画の初年度として、調査・研究事業を順調に遂行できた。次年度は、年輪データの蓄積、適応樹種の拡大、さらにはデバイスの更新がなされたマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の活用といった継続的かつ発展性のある調査・研究事業を推進するとともに、発掘調査や建造物、美術工芸品の修理事業等にも即応できる体制を整えて研究に適時性をもたせ、従前の正確性をさらに高めることで、質的にも量的にも豊かな成果を上げられるよう努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4241
（様式 1）

業務実績書

研 No. 27

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	動植物遺存体による環境考古学的研究（(2) －④）

【事業概要】
動植物遺存体による環境考古学的研究を継続して行う。また、出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジアや環太平洋地域の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	環境考古学研究室長　松井章

【スタッフ】
山崎健（研究員）、丸山真史、菊地大樹（以上、客員研究員）

【主な成果】
幅広い時代の動植物遺存体の分析を進めて、その研究成果を国内外の学会や研究会において発表した。また、学会、大学、博物館等で発表・講演を行い、環境考古学に関わる展示にも協力するなどの社会貢献を行った。研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製・管理するとともに、広く活用されるように魚類の骨格標本目録を刊行した。

【年度実績概要】
池島・福万寺遺跡（大阪府）、京都大学所蔵資料（京都府）、朝日遺跡（愛知県）、藤原宮朝堂院、甘樫丘東麓遺跡（以上、奈良県）などから出土した動物遺存体の分析を実施した。藤原宮朝堂院では、造営時に機能した運河跡から出土した資料の中に、関節炎（飛節内腫）の症状が見られるウマの骨が存在することを明らかにした。藤原宮の造営に、資材運搬などを担う駄馬が多く利用されていた実態を示す貴重な資料である。また、京都大学大学院理学研究科自然人類学研究室に動物標本として所蔵されていた標本の中に、犠橋貝塚、園生貝塚、吉胡貝塚、上黒岩岩陰遺跡、帝釈峡遺跡群などの未報告資料が含まれていたために、所蔵標本の現状の記録と資料の基礎的なデータを報告した。



骨病変のあるウマの骨（藤原宮朝堂院）

研究成果の発信としては、2011 年 11 月 26・27 日に「第 15 回動物考古学研究集会」を開催した。研究集会では、特別講演 1 件、口頭発表 15 件、ポスター発表 11 件の計 27 件の発表があった。その他、日本文化財科学会、日本人類学会、近江貝塚研究会などで発表を行った。社会貢献としては、同志社大学公開講座、大阪歴史講座、大阪府立弥生文化博物館開館 20 周年記念シンポジウム、富山県埋蔵文化財センター特別展記念シンポジウム、立命館大学の国際シンポジウムなどで講演を行った。平城宮跡資料館や藤原宮跡資料館の展示にも協力して、研究成果をわかりやすく伝えた。

継続的に実施している現生動物骨格標本の収集と公開では、キョン、トド、ウシ、ウマ、エゾライチョウなどの動物骨格標本を収集した。また、奈良文化財研究所に所蔵されている魚類の骨格標本 1,146 点の標本目録を『埋文ニュース』146 号として刊行し、他の組織、研究者への公開を行った。連携研究として、藤原宮から出土した動物遺存体の同位体分析を実施した。来年度に、文献史料や他遺物の様相と比較検討しながら、その成果をまとめる予定である。

このほか、東日本大震災で被災した陸前高田市立博物館所蔵の骨角器 1,000 点余りを仮保管し、破損状況の観察・記録と脱塩処理などを実施中である。

【実績値】
公開した標本数：1,146 点
論文等数：17 件①～③
発表件数：19 件④～⑦

【備考】
①松井章「The Use of Livestock Carcasses in Japanese History: An Archaeological」『Coexistence and Cultural Transmission in East Asia』LEFT2 COAST PRESS, INC.California　2011.4
②山崎健・橋本裕子・茂原信生「都大学大学院理学研究科自然人類学研究室所蔵の動物標本―とくに動物遺存体と動物化石について―」『動物考古学 28 号』動物考古学研究会 2011.5.1
③山崎健「弥生時代の狩猟活動」『考古学ジャーナル 625』ニューサイエンス社 2012.2.29　　ほか 14 件
④松井章・大江文雄・田嶋正憲「縄文貝塚出土のトウカイハマギギ Plicofollis nella (Valenciennes)とその意義」日本文化財科学会第 28 回つくば大会 2011.6.12
⑤山崎健「遺跡出土の骨からみた動物利用の歴史」同志社大学公開講座　『自然科学からみた歴史』2011.5.13
⑥松井章「ペットと家畜と人間と一動物・環境考古学の世界」第 24 回濱田青陵賞授賞記念講演シンポジウム 2011.9.25
⑦松井章「韓国・金海会峴里貝塚の発掘と弥生文化への影響―骨角器と金属器を中心に―」大阪府立弥生文化博物館開館 20 周年記念シンポジウム　弥生文化のはじまり 2011.11.23　　ほか 15 件

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4241

自己点検評価調書

研 No. 27

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：国や地方公共団体からの要請を受けて、発掘調査や整理作業、報告書作成において環境考古学に関する協力や助言を行い、動物遺存体の分析も数多く担当した。
独創性：幅広い時代の動植物遺存体の研究を進めて、動物や植物の利用史を考古学から明らかにした。
発展性：東京大学との連携研究として、藤原宮における動物遺存体の同位体科学分析を実施した。
継続性：研究の基礎となる動物骨格標本を、継続的に収集・作製・管理している。また、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類に続いて、魚類の標本目録を刊行した。

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	公開標本数			
判定	A	A	A			

備考
査読誌 3 本を含む 17 本の論文等の刊行し、学会や研究会で 19 本の発表を行った。また、1,146 点の魚類の骨格標本目録を刊行したことから、評価をＡとする。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的評価に関しては、幅広い時代の動物遺存体の分析を進めるとともに、研究の基礎となる標本の公開を積極的に進めている。定量的評価に関しては、動物考古学や環境考古学について、国内外で数多く論文等や学会発表を行った。以上の点から、総合的にＡと評価するのが妥当と考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度も多くの学会や研究会などで研究発表を行い、これまでに上げた成果を紹介してきた。また、連携研究を実施して良好な結果を得ることができ、次年度も継続的に分析を進める予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4311

（様式 1）

業務実績書

研 No. 28

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究（(3)-①）

【事業概要】

高温多湿なわが国において文化財のカビの問題は深刻である。カビの原因は、主に水分、栄養分であり、文化財の材質や環境によって被害状況やカビの種類は異なる。東北の大震災によって津波などで被災した文化財をはじめ、大規模燻蒸が難しくなってきている博物館等の施設、歴史的建造物など、環境制御が難しい場所において、大規模被害を起こさないような予防の徹底と系統的な対応について具体的な流れを示し、普及をめざす。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】

木川りか、佐藤嘉則、佐野千絵、犬塚将英、吉田直人、森井順之、早川典子、小野寺裕子、岡田　健（以上、保存修復科学センター）、藤井義久、小峰幸夫、間渕　創（以上、客員研究員）、トム・ストラング（カナダ保存研究所）

【主な成果】

被災文化財の対応については、2011 年 5 月 10 日に東京文化財研究所において研究会を開催し、紙資料をはじめとするさまざまな材質の被災文化財の初期対応について専門家からの発表を行うとともに、配布メモにまとめ、その内容を速やかにインターネットにて公開した。また、カビなど微生物による被害の調査や対策、燻蒸処置上の注意について調査研究を行い、研究発表や論文にまとめた。

【年度実績概要】

（１）　被災文化財の初期対応法についての研究会・情報共有会の開催

2011 年 5 月 10 日に研究会を開催し、被災文化財等救援委員会の構成団体などをはじめとする多くの参加者を得て、情報交換と真剣な議論が行われた。また、その内容は研究所ＨＰにて速やかに公開し、情報を多くの方に使っていただけるようにした。（参加者　161 名）

＜プログラム＞インドネシア・アチェおよび東北の大津波で被災した文化遺産の救出活動について（坂本勇）/紙文書類のカビ抑制に与える塩水の効果について（江前敏晴・東嶋健太）/プラハ洪水の際、被災文化財レスキューに使われたスクウェルチ・パッキング法（谷村博美）/　座布団圧縮袋を用いたスクウェルチ・パッキング法の検討、真水、塩水に浸した紙資料、日本画、油絵の状況について（デモンストレーション）（木川りか、ほか）/　情報交換・意見交換　コメンテーター（順不同）：　高妻洋成、青木睦、日高真吾、岡泰央、木島隆康、今津節生、山下好彦、山口孝子ほか

（２）　被災文化財に発生した微生物被害の調査および対処法の検討

津波で被災した紙資料に多くみられ、目立った赤色の斑点を形成する微生物について、調査を進め原因菌の特定、および性質の調査を実施した。また、すぐに真空凍結乾燥ができない環境での文書資料などの救済法としてのスクウェルチ・ドライイング法について、海水に浸水した場合を想定して処理工程の試験を実施した。さらに、津波で被災した資料の殺菌燻蒸によって生成する残留物質の調査を進め、実際の処理の妥当性を検討した。

（３）　歴史的建造物や古墳などの微生物の調査

霧島神宮の建造物の塗膜のカビの調査と対策について検討した。また、古墳やそのほかの文化財保存環境において浮遊菌、付着菌調査の適正化をめざした定量試験を実施した。

【実績値】

論文数　2 件　（①、②）
学会研究会等での発表件数　1 件　（③）
研究会　1 回

【備考】

① 霧島神宮の塗装部位から分離された糸状菌の諸性質（佐藤嘉則、森井順之、木川りか、太田英一、中別府良啓、中山俊介、川野邊　渉）「保存科学」51　12.03.
② 津波等で被災した文書等の救済法としてのスクウェルチ・ドライイング法の検討（小野寺裕子、佐藤嘉則、谷村博美、佐野千絵、古田嶋智子、林　美木子、木川りか）「保存科学」51　12.03
③ 水、塩水で被災した文化財の殺菌燻蒸計画時の注意点について（木川りか、佐野千絵、佐藤嘉則、犬塚将英、早川典子、山梨絵美子、田中　淳、森井順之、岡田　健、石崎武志）奈良文化財研究所　保存科学研究集会　11.12.21-22.

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4311

自己点検評価調書

研 No. 28

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　文化財のカビなどによる微生物被害の適切な予防と対策は急務であり、とくに津波などによって被災した文化財の対応については、早急に検討し、情報を関係者で共有する必要があった。本研究は、時宜を得たテーマであり、具体的な方法、知見とともに今後の方向性をさぐることができた。

2．定量的評価

観点	論文数	研究発表件数	研究会開催数			
判定	A	A	A			

備考

　研究成果については、論文や研究発表の機会を通じてすみやかに公表することができた。
　また、研究会では被災文化財のレスキューにおける初期対応について問題点や方法を関係者と共有し、議論することができたとともに、情報についてもすみやかにホームページで公開して普及することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	現場調査、基礎研究の実施、専門家間の情報交換・交流、すみやかな研究成果公開を果たし、本課題について必要不可欠な調査研究を実施することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財の微生物被害の予防と対策をテーマとしている中で、被災文化財における生物被害の対応について取組み、得られた知見を公開することができた。次年度は、レスキューされた被災文化財については必ずしも十分な手当てや保存環境の整備ができないなかで、カビなどの被害をできるだけ防ぐにはどうするべきかについて検討し、早期に知見を普及していく必要があると考える。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4321
（様式 1）

業務実績書

研 No. 29

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の保存環境の研究（(3)-②）

【事業概要】
最近の異常気象は、文化財を展示・収蔵する施設内の環境にも影響を与え、カビの発生など様々な問題を生じている。これらの環境変化に対する対策を立案するため、環境データ解析および建築部材の水分特性などの基本データを組み込んだ環境シミュレーションを行い、保存環境の改善と省エネ化の両立を目指す。また、文化財展示・収蔵施設や保存箱などの汚染ガス対策の研究を行い、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し改善することに資する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

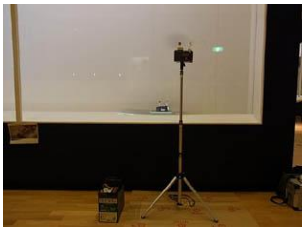
【スタッフ】
佐野千絵、犬塚将秀、早川泰弘、木川りか　吉田直人　佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター）、呂　俊民、小椋大輔、三村　衛、白石靖幸、北原博幸、高見雅三（以上、客員研究員）

【主な成果】
美術館、博物館、蔵、歴史的建造物等の文化財展示収蔵施設の環境データを実測解析し、絶対温度から空間内の水分分布や隣接空間同士の水分移動を評価する解析手法を確立した。また、展示ケース内装材料（木材、クロス、コーキングなど）の材料を収集し、内装材料からの放散ガス量を比較検討するための試験法試案を作成した。これら計測技術を生かし、国指定文化財の公開のための館内環境調査（温湿度・照明・空気清浄）に協力した。

【年度実績概要】
改修工事を行った博物館の収蔵庫、空調設備が備わっていないが収蔵庫として活用されている土蔵、文化財保存の観点から温湿度環境に問題があり空調の導入を検討している寺などの文化財施設における温湿度環境を実測した。データ解析では、絶対湿度から空間内の水分分布や結露の危険性を評価し、温湿度変動を抑制する対策について検討した。

展示ケース内装材料（木材、クロス、コーキングなど）の材料を収集し、内装材料からの放散ガス量を比較検討するための試験法試案を作成した。この手法を用いて、長期にわたり改善の芳しくない展示ケースについて、展示台や展示具に対して詳細な調査を実施し、発生源を特定するとともに、改善方法として、展示ケースに対しては換気と置き型吸着剤の併用を提案し、展示具に対しては積極的なガス遮蔽と徹底的な枯らしの 2 種類の方法を試み、状況を改善できた。ガス濃度が高い理由としては、建物の断熱不足による冬季の結露が夏季の汚染ガス濃度に影響すると明確になった。
文化財収納箱や紙製の文化財用資材について、吸着したガスの再脱着の可能性について検討を進め、製造方法や出荷までの収納について改善策を立案した。また、マイクロフィルムのように文化財そのものが多量にガス放散する場合について、そのガス除去に適した置き型の吸着剤を利用してガス濃度の低減を試み、改善のための対策を提案した。

平成 23 年度夏の節電義務（東京電力および東北電力管内）に伴い、省エネ化の努力についてどのような手法を採用したかアンケート調査し、これからの研究進捗のための基礎資料とした。またこれに関して、「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」に関する研究会―博物館・美術館におけるエネルギー削減―」を開催した（平成 24 年 2 月 17 日、参加者 66 名）。この研究会を通して、省エネの一手法として有効な変温恒湿方式での空調管理について文化財への影響を不安に思い、導入が遅れていることが明確になったので、温度湿度の基準の根拠となる研究を進める必要があることがわかった。



これら計測技術を生かし、国指定文化財の公開のための館内環境調査（温湿度・照明・空気清浄）に協力した。

【実績値】
研究会　1 回（参加者 66 名　アンケート回収率 77.3%（うち、有意義だった 96%、どちらでもない 2%、無回答 2%））
論文数　2 件
研究発表件数　3 件

【備考】
論文：
古田嶋智子・呂俊民・佐野千絵：展示収蔵環境で用いられる内装材料の放散ガス試験法、保存科学、51　pp. 271-280（2012）
佐野千絵・古田嶋智子・井上さやか・津田徹英・呂俊民：フィルム保管庫における酢酸雰囲気の改善の試み、保存科学 51　pp. 281-292（2012）
研究発表：
呂俊民・古田嶋智子・佐野千絵：展示収蔵環境に用いられる内装材料に関する研究その 2　放散ガスのデータベース構築、第 33 回文化財保存修復学会大会、（奈良、2011. 6. 4-5）
佐野千絵・古田嶋智子・呂俊民：フィルム保管庫における酢酸雰囲気の改善、平成 23 年度室内環境学会学術大会、（静岡、2011. 12. 8-9）
犬塚将英・龍泉寺由佳・石崎武志：温湿度解析による耐震工事の影響評価、第 33 回文化財保存修復学会大会、（奈良、2011. 6. 4-5）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4321

自己点検評価調書

研 No. 29

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	研究会の開催	論文発表数	研究発表件数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東日本大震災の影響を受け、夏季の節電など研究計画の実施時期にはいくばくかの変更もあった。研究会のテーマは、当初は博物館内の空気清浄化を取り上げる予定であったが、時宜にあわせて文化財の保存環境を守りながらいかに節電し省エネするかというテーマを取り上げ、その成果の社会への波及は大きい。基準作りを目指した基礎研究も継続しており、総合的に A と判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館美術館の文化財を守りながら省エネ化も視野に入れた研究の初年度として、アンケートを通して、各博物館における節電対応の実際について情報を得たことで、次年度以降の計画がスムーズに進捗することが期待できる。独立行政法人国立美術館との統合も見据えて、温度湿度の基準作りや保存環境を考慮しながらの省エネ化の研究は非情に有用であり、計画を順調に実施することが必要である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4331
（様式 1）

業務実績書

研 No. 30

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（(3)-③－ア）

【事業概要】
小型可搬型機器によるその場分析、および非破壊非接触技術による診断・解析手法の確立と実資料への応用を行う。絵画や彩色文化財に使われている顔料・染料の同定や褪色の評価、あるいは金属製文化財の材質調査や腐食生成物の分析などに関する調査手法の確立を行い、調査結果の蓄積と成果公開を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
早川泰弘、岡田　健、佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター）、三浦定俊（客員研究員）、城野誠治、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

【主な成果】
小型可搬型機器の開発・改良に関する基礎的検討として、ハンディ蛍光Ｘ線分析法による無機化合物の分析感度向上、および微小領域の可視反射分光分析法の導入・分析条件検討を行った。また、実資料への応用研究として、博物館・美術館内での日本絵画や木彫像の彩色材料調査を実施し、その調査結果の公表を行った。

【年度実績概要】
5 年計画の初年度として、以下に示す成果を得た。また、これまでの調査研究成果に関する報告書を刊行した。
(1) 小型可搬型機器に関する基礎的検討
①ハンディ蛍光Ｘ線分析装置による無機化合物の分析感度向上を目的に、高感度検出器搭載機器の導入を図り、様々な文化財資料を対象とした分析条件の確立と信頼性の確保を検討した。
②微小領域の可視反射分光分析法の導入を図り、感度・精度等の機器特性に関する基礎的検討を行うとともに、これまで分光分析の課題であった外乱要因をできる限り排除できる分析条件の検討を進めた。

(2) 実資料への適用
複数の可搬型機器（蛍光Ｘ線分析装置、反射分光分析装置、デジタル顕微鏡など）を作品所蔵館に持ち込み、日本絵画・木彫像・染織品等の文化財の材質調査を非破壊で安全に実施した。複数の機器を駆使することで、単一機器だけでは特定できない材料の評価を行うことが可能となる。今年度は、国宝信貴山縁起絵巻（奈良国立博物館にて調査実施）、重要文化財泰西王侯騎馬図屏風（サントリー美術館・神戸市立博物館にて調査実施）、重要文化財洋人奏楽図屏風（京都国立博物館修理所にて調査実施）、春日権現験記絵巻（宮内庁三の丸尚蔵館にて調査実施）などの日本絵画を中心に、萬福寺蔵韋駄天立像（京都国立博物館修理所にて調査実施）などの木彫像、さらには能装束や小袖など染織品の材質調査も積極的に実施し、文化財材質に関する新たな調査データを多数蓄積することができた。

(3) 調査研究成果に関する報告書
これまでに非破壊での調査を実施してきた国宝平等院鳳凰堂仏後壁の光学調査に関する報告書を刊行した。

【実績値】
論文等数　2 件（①、②）
発表件数　2 件（③、④）
報告書　　1 件（⑤）

【備考】
① 早川泰弘：「泰西王侯騎馬図屏風の彩色材料調査」　『保存科学』51、pp. 19-29、 12. 03
② 吉田直人、早川泰弘、村岡ゆかり、杉本史子：「重要文化財元禄および天保国絵図に使われた彩色材料と色彩表現に関する考察」　『保存科学』51、pp. 31-45、 12. 03
③ 早川泰弘、吉田直人、佐野千絵、三浦定俊：「琉球絵画の彩色材料調査」　日本文化財科学会第 28 回大会、筑波大学 11. 6. 11-12
④ 吉田直人、早川泰弘、村岡ゆかり、杉本史子：「近世絵図資料に使われた彩色材料の科学的調査」日本文化財科学会第 28 回大会、筑波大学 11. 6. 11-12
⑤「平等院鳳凰堂仏後壁光学調査報告書」12. 03

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4331

自己点検評価調書

研 No. 30

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	学術雑誌等への掲載論文数	学会研究会等での発表件数	報告書の刊行			
判定	A	A	A			
備考 研究成果を速やかに論文・学会発表の形で公表することができた。 また、調査報告書を刊行し、データ公開にも努めた。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	基礎研究の確実な遂行のための情報収集と実験的検討の実施、ならびに博物館・美術館などと共同した作品調査のための準備・実施および速やかな研究成果の公開を果たし、高い研究水準を達成した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究計画の初年度として、基礎的検討の進展を果たすとともに、多くの実資料の調査を実現し、調査データの蓄積を図ることもできた。次年度では、基礎的検討課題として取り組んでいる内容を重点的に進め、実資料に適用可能な新たな調査手法の確立を目指す。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4332

業務実績書

研 No. 31

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等（(3) －③－イ）

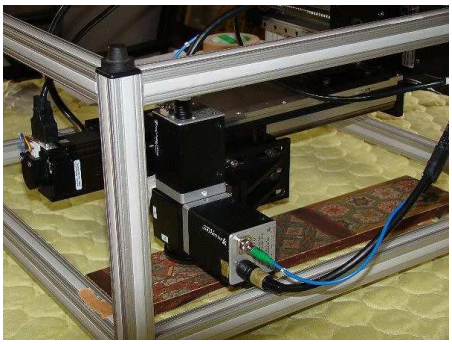
【事業概要】
ミリ波イメージング装置の改良を行う。また、ミリ波イメージング及びテラヘルツ分光イメージングにより文化財を対象とした測定に必要となるデータを収集するための基礎実験を行う。さらに、文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集を行う。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎、田村朋美（以上、研究員）、降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）

【主な成果
1）ミリ波イメージング装置の出力レベルの改良を行った。2）人工的に多孔質とした漆喰試料のテラヘルツ分光イメージングの基礎データを収集した。3）談山神社所蔵の塗装手板のテラヘルツ分光イメージング測定を行った。

【年度実績概要】
1）現有のミリ波イメージング装置は、反射率の高い試料を測定した場合、信号量が飽和してしまい、イメージングにおいて画像化ができないという欠点があった。ミリ波の出力レベルを調整することにより、この点の改良を行った。
2）高松塚古墳やキトラ古墳の壁画が描かれている漆喰は、劾の分解消失や主成分である炭酸カルシウムの溶脱により多孔質化しており、漆喰層の崩落などが懸念される。漆喰層内部の状態はＸ線、赤外線あるいは紫外線を用いた従来の観察手法では非破壊的に知ることができないのに対し、電波のようにある程度物体内部に侵入できるテラヘルツ波は、漆喰層の状態を断層画像として得ることが期待できる。そこで、テラヘルツ分光イメージングで画像化しうる孔隙サイズなどの基礎データを得るため、人工的に多孔質化させた漆喰試料を調製し、テラヘルツ分光イメージング測定を行った。孔隙サイズの違いによって得られる画像が異なり、孔隙サイズが 300 μm 以上では、多孔性の画像化が困難となることが明らかとなった。
3）談山神社には、嘉永の大修理の際に作られたとされる彩色塗装の手板が保存されている。この塗装手板は、本殿を彩色する際に作製されたと考えられており、現在の本殿彩色の劣化を検討するうえで重要なものである。本年度は、蛍光Ｘ線元素分析とあわせて、テラヘルツ分光イメージングによる調査を実施した。その結果、金による線描では、ある程度の広さの金箔を貼りこんだ上に彩色を施し、金を線状に残す技法がとられていることが明らかとなった。


談山神社塗装手板のテラヘルツ分光イメージング

【実績値】
発表件数：2 件①～②

【備考】
①高妻洋成「木造文化財における彩色の劣化機構に対する電磁波の応用(2)」日本文化財科学会第 28 回大会 2011. 6. 11
②高妻洋成「テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査」文化財修復学会第 33 回大会 2011. 6. 4

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4332

自己点検評価調書

研 No. 31

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
現有のミリ波装置の出力レベルの改良を行い、良好な画像を得ることができるようにしたことは、ミリ波イメージングを文化財に応用するうえで意義深いものと言える。また、漆喰層の内部状態をテラヘルツ分光イメージングで把握するための基礎実験として行った、人工的に多孔質化させた漆喰試料のテラヘルツ分光イメージング実験により、画像化できる孔隙サイズの目安が得られたことは、画像の解釈においてきわめて有効である。このほか、談山神社に所蔵される嘉永の大修理で作製されたとされる塗装手板資料のテラヘルツ分光イメージングでは、現在、本殿に残る彩色の材質的な情報ならびに塗装工程などの構造上の特徴など、その劣化状態などを検討するうえで重要な知見を得ることができた。

2．定量的評価

観点	発表件数					
判定	A					

備考
日本文化財科学会で 1 件、文化財保存修復学会で 1 件の計 2 件の学会発表を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究事業を当初計画通り順調に達成することができたことから、総合的評価をＡと判定した。次年度以降も、ミリ波イメージングならびにテラヘルツ分光イメージングの文化財への応用研究を、国立文化財機構の諸施設、独立行政法人情報通信研究機構ならびに京都大学大学院農学研究科と共同して推進していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画の初年度として、ミリ波イメージングの改良とテラヘルツ分光イメージングの文化財への応用研究に取り組み、本年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調と判定した。次年度以降は、漆喰壁画の漆喰層の状態を知るための基礎研究、泥で被覆されて肉眼では観察できなくなっている絵画の可視化のための基礎データの収集などに重点をおくとともに、彩色材料のテラヘルツスペクトルの収集蓄積を進めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4341

（様式 1）

業務実績書

研 No. 32

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究　((3)-④)

【事業概要】

屋外に位置する木造建造物および石造文化財を対象に、文化財劣化要因となる周辺環境の影響評価手法や劣化診断手法を確立する。また、木造建造物の修復材料について実験室及び現地曝露試験による評価を行う。さらに、韓国・国立文化財研究所と共同研究を行い、保存修復技術に関する情報共有を進める。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明

【スタッフ】

朽津信明、中山俊介、早川典子、森井順之（以上、保存修復科学センター）、川野邊　渉（文化遺産国際協力センター）

【主な成果】

石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境計測を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1) 臼杵磨崖仏保存管理計画の策定および石造文化財の劣化と周辺環境影響に関する調査、(2) 木材充填材料や木造建造物塗装に添加する防カビ剤の現地曝露試験、(3) 大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、ワークショップ等を実施した。

【年度実績概要】

石造文化財では、臼杵磨崖仏の保存管理計画の策定や石造文化財の保存状態調査を行った。木造建造物では、木材充填材料の劣化促進試験を実験室および厳島神社で実施した。日韓共同研究は第 4 期を迎えるにあたり、研究項目の整理及び目標設定を行った。

今年度の成果は次の通りである。

(1) 石造文化財：臼杵磨崖仏における凍結防止のための覆屋封鎖に関して、より閉鎖性を高めるためにホキ石仏第二群覆屋の崖面との接触部分に仮設壁を設けたうえで、気流変化に関する現地観測を実施し効果を確かめた。また、磨崖和霊石地蔵（広島県三原市）における劣化と周辺環境に関する調査を実施し、その成果より潮汐で濡れる磨崖仏表面に対し適切な修復方法の提案が行えた。

(2) 木造建造物：厳島神社など海浜環境で使用可能な木材充填材料について評価するため、修復材料として使われる樹脂の発熱量と比重測定、圧縮強度測定、紫外線照射試験及び冷熱サイクル試験、現地曝露試験を行い、その結果を報告した。また、霧島神宮本殿等の塗装修理工事において発生したカビに対処するため現地曝露試験を行い、適切な防カビ剤および処置方法に関する成果を得た。

(3) 今年度の大韓民国・国立文化財研究所との共同研究：2011（平成 23）年 11 月 7 日、東京文化財研究所にてワークショップを開催した。また、島根県において花崗岩の利用に関する調査を共同で行った。

【実績値】

報告書：1 件（①）
論文等：5 件（②～⑥）
発表等：5 件（⑦～⑪）

【備考】

① 日韓共同研究報告書 2011　東京文化財研究所／国立文化財研究所（大韓民国）　48p　12.3
② 森井順之　屋外石造文化財の環境計測および環境制御　マテリアルライフ学会誌　23-2　pp.67-71　11.5
③ 森井順之、佐藤嘉則、間渕創、木川りか、太田英一、中別府良啓、中山俊介、川野邊渉　霧島神宮における塗装劣化要因の解明とその対策の検討　保存科学 51　pp.249-260　12.3
④ 早川典子、舘川修、渡辺慶乃、森井順之、岡田光治、原島誠　厳島神社大鳥居修理のための充填材料評価試験　保存科学 51　pp.1-18　12.3
⑤ 朽津信明　近世の島根県における石材の利用　日韓共同研究報告書 2011　東京文化財研究所／国立文化財研究所（大韓民国）　pp.4-11　12.3
⑥ 森井順之　日韓共同研究～この五カ年の方向性　日韓共同研究報告書 2011　東京文化財研究所／国立文化財研究所（大韓民国）　pp.34-40　12.3
⑦ Masayuki MORII　Environmental Control in Conservation of the Buddhist Image Carved on Natural Cliff　Conference internationale - Jardins de Pierres - Conservation de la pierre dans les parcs, jardins et cimetieres　I'Institut national du patrimoine　11.6.22-24
⑧ 森井順之、早川典子、朽津信明、川野邊渉、三嶋有子　国宝・臼杵磨崖仏保存のための管理計画について　東アジア文化遺産保存学会第二回学術研究会　内蒙古博物院（中華人民共和国）　11.8.16-18
⑨ 森井順之　国宝・臼杵磨崖仏における劣化とその対策　地盤工学会 ACT19 平成 23 年度第一回国内委員会　地盤工学会　11.9.28
⑩ 朽津信明　石塔保存のための覆屋効果に関する研究　文化財保存修復学会第 33 回大会　奈良県新公会堂　11.6.4.
⑪ 朽津信明　風化環境の違いによる石造文化財の風化速度の違い　日本応用地質学会平成 23 年研究発表会　札幌市教育文化会館　11.10.27-28

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4341

自己点検評価調書

研 No. 32

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	石造文化財の保存状態とその周辺環境の相関について様々な事例を確認でき、劣化防止策としての環境制御の可能性について有益な情報を得た。また、木材充填材料に関して透水性を高める混合物を見つけた。日韓共同研究は合意書を更新し、研究項目の整理・目標設定を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画通り順調に進めることができた。特に木材充填材料に関しては、高い透水性を持つ材料を開発することができ、今後厳島神社など常に海水影響を受ける木造建造物に応用可能なことが分かった。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4342
（様式 1）

業務実績書

研 No. 33

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の災害対策及び被災文化財の救援と保存修復手法に関する研究　((3)-④)

【事業概要】
阪神淡路大震災以降文化財防災の必要性が高くなっている中、本研究では地震災害に着目し、仏像など彫刻の地震時転倒評価およびその対策に関する研究を実施する。また、東日本大震災で被災した有形動産文化財の救援活動において、津波被災した文化財の救援・一時保管に関する指導・助言等を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明

【スタッフ】
石崎武志、岡田　健、中山俊介、北野信彦、森井順之、早川泰弘、佐藤嘉則、犬塚将英、吉田直人、木川りか、佐野千絵、山下好彦（以上、保存修復科学センター）、川野邊　渉、山内和也、友田正彦、加藤雅人、邊牟木尚美、島津美子（以上、文化遺産国際協力センター）、田中　淳、山梨絵美子、二神葉子、津田徹英、綿田　稔、塩谷　純、小林達朗、江村知子、皿井　舞、（以上、企画情報部）、宮田繁幸、飯島　満、今石みぎわ、菊池理予（以上、無形文化遺産部）

【主な成果】
平成 23 年度は、(1) 東大寺法華堂安置仏像群および塑造四天王立像（戒壇堂所在）の耐震対策を講ずるため、塑造執金剛神立像の三次元計測と地震時転倒予測を継続した。また、仏像と同じ大きさの模型を使った振動台実験を三重大学・防災科学技研究所の協力のもと行った。(2) 東日本大震災で被災した有形動産文化財の救援活動において、事務局を担い被災地における活動支援を行った。

【年度実績概要】
平成 23 年度の成果は次の通りである。

(1) 東大寺法華堂安置仏像群および塑造四天王立像（戒壇堂所在）の耐震対策を講ずるため、重量や重心などを推定するために三次元形状計測を行った。計測には、凸版印刷株式会社にて開発中の「ステレオカメラの移動撮影に基づいた簡易形状計測システム」を使用した。今年度は、塑造執金剛神立像を対象に撮影・解析を行い、その結果をもとに地震時転倒予測を行った。

また、地震時転倒予測手法の妥当性について確認するため、乾漆造四天王立像と同じ像高・重心にした模型を製作し、防災科学技術研究所にある振動台にて実験を行った。その結果、阪神淡路大震災の波形で強度を 1.1 倍にした揺らし方でも転倒しないことを把握した。

(2) 平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災で被災した有形動産文化財の救援を目的として文化庁により設置された「文化財レスキュー事業」において、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会の事務局を担った。

事務局内に、事務室、会計経理班、活動支援班（物資調達）、情報分析班、記録班、広報班を配置し、国立文化財機構各施設との連携を取りつつ、委員会構成団体からの人員派遣、物資の調達を行った。救援対象は、宮城県、岩手県、茨城県、福島県の 4 県に及び、各県教育委員会、文化庁と共同でレスキュー活動を運営した。とくに宮城県では 4 月から 7 月までの期間、仙台市博物館に現地本部を設置し、東京文化財研究所研究職員の常駐態勢と、機構各施設の人的な応援態勢によって活動を運営した。

文化庁への支援要請が出ていない地域の被災文化財についても、東京文化財研究所独自の活動として状態調査及び応急処置、保存環境等への助言を行った。

宮城県気仙沼市個人所蔵の具足一領（胴は江戸、冑は室町時代）が被災し、各種材料を用いた総合工芸品の処置技術について、所蔵者の同意を得て試験的な処理作業を実施し、被災文化財に対する修復材料及び技法に関して多くの情報を得ることができた。

被災して電気が停止した石巻文化センター2 階の展示スペースや、廃校となった学校の校舎などを救援文化財の保管場所として利用するにあたり、空調設備のない環境でのモニタリングについて、現地教育委員会、県立博物館の保存担当学芸員等と連絡を取りつつ、観察をおこなった。

【実績値】
論文等：1 件（①）
発表等：1 件（②）

【備考】
① Masayuki MORII ″3.3 Salvage Project of Cultural Properti es Damaged by the Earthquake and Tsunami″ The Great East Japan Earthquake -Report on the Damage to the Cultural Heritage- pp.29-30 Japan ICOMOS National Committee 11.11
② 藤田悠貴、森井順之、大村真理子、花里利一　仏像の耐震対策に関する研究―縮小模型を用いた振動台実験―　日本建築学会 2011 年度大会（関東）　早稲田大学　11.8.23-25

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4342

自己点検評価調書

研 No. 33

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏像群の地震対策に関する研究では、仏像群の三次元計測結果に基づく地震時転倒予測手法の妥当性を振動台による実験により確認した。また、東日本大震災で被災した文化財の救援活動（文化財レスキュー事業）において主要な部分を担当した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究では、東日本大震災にすぐに対応し、当初目標としていた仏像群の地震対策に加えて、文化財レスキュー事業への対応を行った。今後は救援された被災文化財の安定収蔵にむけて、保存環境や修復技術に関する様々な研究成果が求められる。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4351

（様式 1）

業務実績書

研 No. 34

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（(3)-⑤）

【事業概要】

日本ではこれまで和紙、糊、膠、漆などのなどの伝統的な文化財修復材料が劣化の程度や修復技術者の経験をもとに長年使われてきた。このような伝統的修復技術・材料及び合成樹脂の物性、製作技法、利用法に関する調査・分析・評価及び開発を行い、修理現場での応用を図る。以上の内容に即した研究会を開催する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	伝統技術研究室長　北野信彦

【スタッフ】

朽津信明、早川典子（以上、保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

【主な成果】

本年度は今期中期計画の初年度であるため、伝統的な建築文化財の塗装材料である漆塗装や乾性油系塗料などの過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の施工指導に役立てた。伝統的修復材料であるフノリの基礎調査を開始した。合成樹脂の関する調査では、過去使用した樹脂の劣化などの問題点解決に向けた基礎実験を行った。また、研究所が所蔵する過去の合成樹脂などを用いた修復事業の資料を分類整理し、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進めた。また、第 5 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催し、計 86 名の参加を得た。

【年度実績概要】

1) 建築文化財に使用する塗装材料の耐候性向上に向けた基礎実験を進めるとともに、PY-GC/MS 分析装置を用いた各種修復材料の基礎分析を進めた。さらにこのような調査実績を施工中の塗装修理の施工計画に役立てた。また、建築文化財における塗装材料の調査と修理に関する研究成果を報告書に纏めた。

2) 劣化し、除去が不可能になったポリビニルアルコールを、酵素を利用することで除去する可能性を見いだし、酵素による PVA の分解性を確認した。また、修復現場での施工と少量の除去を試みた。

3) 伝統的修復材料であるフノリの基礎調査を開始した。

4) 研究所が所蔵する表具裂見本の絹布関係資料について、個々の絹の折状態や繊維の拡大顕微鏡画像の取り込みを行い、基礎データを集積した。これら目録を作成しデータベース化に向けた整理を行った。

5) 研究所が所蔵する過去の合成樹脂を用いた修復事業の資料を分類整理、目録作成、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進めた。

6)「建築文化財における伝統的な塗料の調査と修理」をテーマに、2011 年 9 月 29 日（木）に東京文化財研究所のセミナー室において、第 5 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催し、計 86 名の参加を得た。

1. 北野信彦（東京文化財研究所）:「建築文化財における塗料の使用に関する問題提起」
2. 窪寺茂（建築装飾技術史研究所）:「伝統的な塗料の再認識-17、18 世紀台頭のチャン塗技法研究-」
3. 佐藤則武（日光社寺文化財保存会）:「日光社寺建造物群における各種塗料の使用の歴史」
4. 本多貴之（明治大学理工学部）:「建築文化財における塗料の分析」
5. 参加者全員「総合討論」

【実績値】

研究会開催数：1 回 参加者数：86 名
報告書：2 冊（①～②）
論文数：1 件（③）
研究発表件数：2 件（④～⑤）

【備考】

① 『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2011 年度』東京文化財研究所、2012,3
② 『建築文化財における塗装材料の調査と修理』東京文化財研究所、2012,3
③ 文化財修復に用いられたポリビニルアルコール除去における酵素利用の検討、（早川典子、酒井清文、貴田啓子、坪倉早智子、大河原典子、岡田祐輔、藤松仁、川野辺渉）文化財保存修復学会誌 56、(2012) 印刷中
④ 絵画修復に用いられたポリビニルアルコールの除去における酵素の利用可能性について（早川典子、酒井清文、岡田祐輔、藤松仁、坪倉早智子、貴田啓子、川野辺渉）文化財保存修復学会第 33 回大会、2011.6.4、奈良
⑤ 古糊と古糊様多糖の接着力について（早川典子、岡泰央、君嶋隆幸、澤田篤志、近藤修二、坂本くらら、西本友之、大倉隆則、川野辺渉）文化財保存修復学会第 33 回大会、2011.6.5、奈良

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4351

自己点検評価調書

研 No. 34

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	発表件数	刊行書発行数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	建築文化財に使用する屋外塗装や彩色材料の歴史資料に関する調査研究や物性・耐候性試験を行い、実際の塗装修理の現場の施工に役立てた。絹などの表具裂見本や伝統的な修復材料であるフノリのデータベース化、文化財の修復材料などに関して有益な基礎的知見を収集することができた。本研究所が携わった修復事業のうち、研究所が所蔵する資料を分類整理し、目録作成を進めた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本プロジェクトで実行している手法の有効性が修理現場に応用されるなど、有効性が明らかになってきている。それに伴い重要な知見の蓄積と、これらの一部を報告書の形で纏めることができたため、計画の実施状況は順調である。次年度以降も引き続き、基礎的知見の収集と試料目録化を推進する予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4352

業務実績書

研 No. 35

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	国際研修「紙の保存と修復」((3)-⑤)

【事業概要】
日本の紙本文化財を所蔵する海外の美術館・博物館に、そのような文化財の保存修復専門家が所属していることは稀であり、海外の保存担当者からの保存修復についての問い合わせが多い。また近年では、和紙を使った修復技術が、欧米の文化財修復に応用されるようになってきた。そこで文化財研究所は、ICCROM と共同で 10 カ国 10 人の参加者を募り国際研修会を開催し、日本紙本文化財の保存と修復についての研修を行う。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
加藤雅人、楠　京子、山田祐子（以上、文化遺産国司協力センター）、早川典子（以上、保存修復科学センター）

【主な成果】
2011 年 8 月 29 日～9 月 16 日の期間で 10 カ国から 10 名を迎え入れて研修を行った。紙本文化財の修復理念、材料学の講義を行った。実習では、掛軸修復、和綴じ冊子製作、屏風・掛け軸の取扱などを行った。またスタディーツアーでは美濃を訪れ、和紙の原料・製造から流通までを和紙産地の歴史とともに学習し、和紙の抄造を体験学習した。修復工房および伝統的材料の製作工房、店舗を訪れ現状を視察した。

【年度実績概要】
[場所]九州国立博物館
[参加者]アブドゥライ・パリサ イラン テヘラン　アザッド大学、ブーダリス・ゲオルギオス ギリシャ ビザンチン文化博物館、クレスポ・ルイス スペイン スペイン国立図書館、ジャンドロ・フロラヌ スイス ジュネーブ図書館、ケンパイアー・プッタース ワーミー・マドゥ・ラニ インド インド芸術・文化遺産ナショナルトラ、オドール・チャベス・アレ ハンドラ メキシコ メキシコ国立公文書館、スニトクテ・ダイヴァ リトアニア ミカロユス・コンスタンティナス・チニス国立美術館、スティグリッツ・マリニタ イギリス オックスフォード大学ボードリアン図書、ヴィトコヴスカ・モニカ フランス パリ第一大学、マウ・アン・フランセス カナダ カナダ国立図書館公文書館
[研修内容]
講義：岡　泰央「装潢の概念」、早川典子「日本画修復に使われる接着剤について」、加藤雅人「紙の基礎」、藤田励夫「古文書の紙について」
実習：巻子修復、冊子綴じ、掛軸・屏風取扱い
見学：九州国立博物館、長谷川和紙工房、美濃和紙の里会館、美濃史料館、美濃市美濃町（伝統的建造物群保存地区）、溝川商店、放光堂、西村彌兵衛商店、金高刃物老舗、岡墨光堂



巻子修復実習の風景

【実績値】
研修会開催数　1 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4352

自己点検評価調書

研 No. 35

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	開催数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、研修生の募集時期が震災と重複しており、募集の減少が懸念されていたが、実際には 50 名以上の応募があった。このことからも本研修の需要が高いことが分かる。また当プロジェクトのような研修は国際的にも珍しく、研修生からも「同僚にすすめる」「継続して欲しい」などの高評価をいただいた。以上のことから、Ａと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度は、研修の準備を進めるなかで、開催時期に震災の影響による計画停電が懸念されていた。そのため、九州国立博物館で開催したが、九州国立博物館の協力もあって、ほぼ例年通りの研修を行うことができた。変更点に関しては、九州国立博物館での視察などがあり、これもまた研修生から高評価を得られた。以上のことから順調と判断した。次年度は当研究所で開催する予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4353

業務実績書

研 No. 36

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	在外日本古美術品保存修復協力事業（(3)-⑤）

【事業概要】
日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的とする。また、ワークショップを開催し、保存修復に必要な日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
加藤雅人、楠　京子、山田祐子（以上、文化遺産国利協力センター）、早川典子、山下好彦（以上、保存修復科学センター）、田中　淳、綿田　稔、塩谷　純、江村知子（以上、企画情報部）、深井　啓、安孫子卓史（以上、研究支援推進部）

【主な成果】
掛軸 5 作品、屏風 1 作品を預かり修復を行った。内、掛軸 3 作品の修復を完了して所蔵館に返還した。他作品に関しては修復作業中である。また、次年度以降の修復候補作品選定のため、漆工芸品の調査をヨーロッパにおいて行った。
ベルリンにおいて紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップを、ケルンにおいては漆工芸品の保存修復に関するワークショップを開催した。

【年度実績概要】
[作品修復]
・ケルン東洋美術館（ドイツ）所蔵　出山釈迦図　仲安真康筆　紙本墨画　掛軸装 1 幅　修復完了・返還済み。
・ケルン東洋美術館（ドイツ）所蔵　山水図　祥啓筆　紙本墨画淡彩　掛軸装 1 幅　修復完了・返還済み。
・ケルン東洋美術館（ドイツ）所蔵　寒山拾得図　伊藤若冲筆　紙本墨画　掛軸装 1 幅　修復完了・返還済み。
・ケルン東洋美術館（ドイツ）所蔵　霊照女図　絹本著色　掛軸装 1 幅　修復中。
・キンベル美術館（USA）所蔵　二十五菩薩来迎図　絹本著色　掛軸装　2 幅　修復中。
[ワークショップ]
Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Lacquer ware)”、場所　ケルン市博物館連合・ケルン東洋美術館（ケルン・ドイツ）


ワークショップ風景（ケルン）

・(Worhshop 1) 2011 年 11 月 14 日、参加者　4 名、講義　“Introduction to Urushi”　“Restoration of Urushi Object”、実習　“Material and techniques -Japanese lacquer”
・(Worhshop 2)　2011 年 11 月 15～18 日、参加者 6 名、講義　“Damage of Urushi objects”, “History and damage of Export Lacquer”, “Concept and process to Uurshi conservation”, “Cleaning”, “Case study on the “International Training program”, “The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Object Overseas” and The Mazarin Chest Project”、実習 “Investigation into Urushi object”, “Facing”,” Material and techniques”,” Making sample board-grand and caoting”, “Cleaning”

Workshops on Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk、場所 ベルリン国立博物館連合・アジア美術館（ベルリン・ドイツ）
・(Worhshop 1) “Basics for Japanese paper and silk cultural properties”、2011 年 11 月 15～16 日、 参加者 16 名、講義　“Paper”, “Adhesives”, “Introduction to soko (Japanese Traditional Mounting)”, and “The Making of *washi*”、実習　“Preparation of Paper for Drawing and Writing with Chinese Ink”, and “Art with Chinese Ink”
・(Worhshop 2) “First step for Japanese folding-screen restoration”、2011 年 11 月 17～18 日、参加者 11 名、講義　“The Structure of Folding-Screens” and “An Example of Folding Screen Restoration”、実習“Creation of Panels for Screens”
・(Worhshop 3) “Second step for Japanese folding-screen restoration”、 2011 年 11 月 21～23 日、10 名、実習　“Creation of Folding-Screens” and “Restoration of Folding-Screens”

【実績値】
ワークショップ開催数　5 回
修復完了作品数　3 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4353

自己点検評価調書

研 No. 36

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	ワークショップ開催数	修復作品数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	修復の完了したケルン東洋美術館所蔵作品に関しては、所蔵館でも満足していただき、返還後に特別展で展示されている。ワークショップに関しても、継続を望む声、あるいは開催回数、開催地の増加を望む声が高く、満足度も高い。現実的には予算、人員の点から、開催数の増加などは不可能であるが、来年度も引き続き、内容のさらなる充実化を図る。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	絵画作品 6 作品のうち、3 作品は修復が終了し返還した。残りのうち、1 作品は次年度第 1 四半期中に返還予定であり、1 月に新たに預かった作品に関しては、2 年間の修復予定である。 ワークショップについても、当初予定の紙本絹本文化財および漆工芸品に関してそれぞれワークショップを滞りなく開催した。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4361

（様式 1）

業務実績書

研 No. 37

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近代の文化遺産の保存修復に関する研究（(3)-⑥）

【事業概要】

近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物など従来の文化財とは、規模、材質、製造方法などに大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両などの保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	近代文化遺産研究室長　中山俊介

【スタッフ】

朽津信明、早川典子、森井順之、池田芳妃（以上、保存修復科学センター）、小堀信幸、横山晋太郎、長島宏行（以上、客員研究員）

【主な成果】

今年度は近代化遺産の中でも、建造物に使われている塗料（油性塗料）に関して、関係者を招き、研究会を開催し、それぞれの立場から油性塗料についての発表、討論を行い、それを通じて、現在国内のほとんどの塗料メーカーが生産を中止した油性塗料をどのように確保し、文化財の修復に使用していけるか等、検討を加えた。さらに屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査している。山口県萩市や静岡県伊豆の国市にある反射炉など、史跡指定された土地に建つ建造物の保存に関して研究を行った。

昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。

【年度実績概要】

今年度は近代化遺産の中でも、建造物に使われている塗料（油性塗料）に関して、現在国内でほとんどの塗料メーカーが生産を中止している状況の中、文化財にどのように使われて来たのか、修復の際、油性塗料が使われているのか否かどのように判定するのか、油性塗料が使われている事が確認されても、新たな油性塗料が入手出来ない場合はどうしたら良いのか、など、修復の理念を含めた研究会を行った。保存修復に実際に携わっている担当者 4 人と国外の専門家 1 人を招き、平成 24 年 2 月 10 日に東京文化財研究所地階セミナー室にて実施した。

台湾において、日本統治下に建設され、今も現役で活躍している建造物や鉱山、鉄道及び鉄道施設の保存状況について現地にて情報交換を実施した。

国内においては、新潟県佐渡市の佐渡金銀山遺跡、静岡県伊豆の国市の韮山反射炉、山口県萩市の反射炉などの現地調査を実施した。

屋外展示されている鉄道車両や航空機等の金属を主体とした文化財に関しても同様に現地調査を実施した。加えてそのような屋外展示されている鉄道車両や航空機などの金属を主体とする文化財の防錆対策のために各種サンプルを作成し小樽市総合博物館、船の科学館、かかみがはら航空宇宙科学博物館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地での曝露実験も継続して実施している。

これらの地点では、試料の受けた紫外線量をはじめ、温度、湿度などの測定も行い、これらの塗装仕様と劣化速度の相関についても調査している。屋外展示航空機の環境測定も継続している。

設計図面あるいは明治後期から大正期、昭和初期にかけて記録された航空史関連資料などの保存の一環としてデジタル化を行うなど貴重な資料を後世に遺すべく現地で状態を調査し保存手法を研究している。

【実績値】

報告数　　4 件（①～④）
発表件数　　2 件（⑤～⑥）
報告書刊行数　2 件（⑦～⑧）

【備考】

①中山俊介　「Conservation and Restoration of Concrete Structures」　『Conservation and Restoration of Concrete Structures』, pp.5-19、2012.3
②中山俊介　「音声・映像記録メディアの保存と修復」　『音声・映像記録メディアの保存と修復』、 pp.5-13、2012.3
③中山俊介、森井順之　「Conservation, Restoration and Utilization of Modern Cultural Heritage in Japan」　『COLLECTION OF EXTENT ABSTRACTS The Second Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia』 p.p.111-112 12.3
④中山俊介、大河原典子、池田芳妃、安部倫子　「フィルモン音帯の修復手法の開発」　『保存科学』51, pp.243-248、2012.3
⑤中山俊介　「近代文化遺産の修復に使われる油性塗料について」　近代建築に使用されている油性塗料に関しての研究会、東京文化財研究所、　2012.2.10
⑥中山俊介、森井順之　「日本に於ける近代化遺産の保存・修復及び活用」　東アジア文化遺産保存学会第 2 回学術研究会内蒙古博物院、フフホト・中華人民共和国、11.8.16-18
⑦『Conservation and Restoration of Concrete Structures』　東京文化財研究所　111p、2012.3
⑧『音声・映像記録メディアの保存と修復』　東京文化財研究所　88p、2012.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4361

自己点検評価調書

研 No. 37

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	近代文化遺産の保存・修復と活用について、各種の現地調査を実施することが出来た。その現地調査を通じて、現状の把握、解決すべき問題点なども新たに掴むことが出来た。特に、建造物関連で、明治期から大正期、昭和初期に使用されていた油性塗料に関して、専門家を招いた研究会を開催し多くの知見、新たなる研究者との連携の可能性も得ることが出来た。さらに今後の修復材料の開発、修復技法の開発に関する重要な成果を得る事が出来た。現地調査や研究会を通じて近代文化遺産の重要性を多くの方々に認識していただいた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	前中期計画で得た成果を元にさらに調査研究を発展させる事を目的として、現地調査を今後も続けて行くことでさらに重要な成果が期待できると考えている。また、研究会を通じて新たな知見を得ると共に、多くの研究者との連携も可能となり、今後の研究を進める上で、重要な成果を得た。次年度も今年度の成果を元にさらに調査研究を発展させることが可能となった。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4411

（様式 1）

業務実績書

研№.38

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（(4)-①）

【事業概要】

高松塚古墳：壁画の修理及び修理環境の保全並びに壁画の劣化原因及び劣化防止対策措置などの調査・研究を実施

キトラ古墳：取り外した漆喰片についての経過観察、及び保存のための強化処置を実施

【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【担当部課】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】

岡田　健、佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則、中山俊介、北野信彦、早川典子、森井順之（以上、保存修復科学センター）、川野邊　渉、加藤雅人（以上、文化遺産国際協力センター）、山田祐子、楠　京子（以上、特別研究員）、大河原典子（客員研究員）

【主な成果】

高松塚古墳では、昨年度、脆弱化した漆喰層の常温抽出布海苔による 1 度目の強化は全石終了した、そのうち天井 1・2・3、青龍・西男子・白虎・玄武の計 7 石においては無地場に長波の紫外線照射を行い、バイオフィルムのクリーニングを行っている。

キトラ古墳では平成 22 年度までに石室内の漆喰すべての取り外しが完了し、取り外した漆喰片についての経過観察、及び保存のための強化処置を行っている。更に、これから漆喰片を壁単位で組み立てていくにあたり、補填等に適切な材料の検討や実験を行っている。

【年度実績概要】

高松塚古墳

昨年度、脆弱化した漆喰層の常温抽出布海苔による 1 度目の強化は全石終了した、そのうち天井 1・2・3、青龍・西男子・白虎・玄武の計 7 石においては無地場に長波の紫外線照射を行い、バイオフィルムのクリーニングを行っている。また西女子、西男子、天 1 においては黒カビによる汚れが顕著なため、顕微鏡下でのクリーニングを行った。西男子は継続中である。概ね無地場のバイオフィルムのクリーニングが完了した天井 1・2・3、東男子、東女子、西男子、西女子、玄武は精製布海苔による 2 度目の漆喰層の強化を行った。また、絵画面のクリーニング及び漆喰の強化に関してはより適切な処置方法を検討するために模擬漆喰を用いた実験を行っている。これらの作業についての記録写真整理も随時行っている。

高松塚古墳壁画修復施設において継続的に微生物環境調査を実施しているが、本年度も 2011 年 9 月と 12 月の 2 回にわたり空中浮遊菌の調査・施設のふきとり調査を実施したところ、いずれの調査結果からも施設内が非常に清浄に保たれていることがわかった。この結果は、今年度同時期に実施したキトラ古墳施設の調査結果と対照的であった。

そのほかの装飾古墳における微生物調査として、土壌を採取して光学顕微鏡で観察することとあわせ、微生物群集構造解析を予備的な調査として実施している。

高松塚古墳関係の保存菌株のうち、今年度に 350 株について、メンテナンスを実施している。

キトラ古墳

平成 22 年度までに石室内の漆喰すべての取り外しが完了し、取り外した漆喰片についての経過観察、及び保存のための強化処置を行っている。更に、これから漆喰片を壁単位で組み立てていくにあたり、補填等に適切な材料の検討や実験を行っている。

また、これまで額装を行った「白虎・青龍・玄武・朱雀」の四神と、十二支のうちの「子・丑・寅」の計 7 点の壁画についても、随時経過観察を行っている。これらの作業についての記録、資料整理も行っている。

紫外線間欠照射により微生物制御を行っているキトラ古墳石室の微生物相の調査を 2011 年 10 月に微量のサンプリングを行い実施した。高松塚古墳壁画修復施設で実施されている方法と同様の方法で、キトラ古墳施設の微生物環境（汚染度）調査を実施したところ、空中浮遊菌の調査でも、壁面などのふきとり調査においても、キトラ古墳の前室、小前室などでは、現在清浄に保たれている高松塚古墳壁画修理施設の場合よりも 100 倍ないしはそれ以上の密度でカビが検出された。

高湿度環境で土があるため、そのような傾向になることは当然ではあるが、微生物汚染が進まないような管理が今後も必要である。今年度は 2012 年 1 月にキトラ古墳施設の前室、通路などの除菌清掃を実施し、3 月には小前室のカビ対策として露出度表面のポリシロキサン樹脂のメンテナンスを実施する予定である。

キトラ古墳関係の保存菌株のうち、今年度は 116 株について、メンテナンスを実施している。

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　4411

自己点検評価調書

研 No. 38

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	援助・助言 実施件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	キトラ古墳、高松塚古墳ともに、本年度の計画を予定通り遂行し、良好な成果を上げることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	高い調査研究の水準で事業を進めることができた。

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4412
（様式 1）

業務実績書

研 No. 39

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（(4) -①）

【事業概要】
本事業は、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施するもので、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査および保存・活用に関して技術的な協力を行った。

【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　深澤芳樹

【スタッフ】
深澤芳樹、玉田芳英、降幡順子、廣瀬 覚、若杉智宏、木村理恵、高橋透［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、青木 敬［都城発掘調査部（平城地区)］、辻本与志一、脇谷草一郎、高妻洋成、田村朋美［以上、埋蔵文化財センター］、井上直夫、栗山雅夫、岡田愛[以上、企画調整部]、石崎武志、早川泰典、吉田直人、佐野千絵、三浦定俊（以上、東京文化財研究所)、水野敏典（奈良県立橿原考古学研究所)、長谷川透（明日香村教育委員会）

【主な成果】
文化庁が進める高松塚古墳仮整備事業や保存・活用に関する事業が円滑かつ適切に施工されるよう協力した。
平成 22 度のキトラ古墳壁画の取り外し作業終了を受け、キトラ古墳石室内の考古学的調査を行った。また、壁画、および古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を行った。

【年度実績概要】
高松塚古墳については、平成 22 年度に引き続き、平成 18 年・19 年度に実施した石室解体事業に係る発掘調査の成果、出土資料・記録類の整理作業として、石室石材の三次元計測による高精細データの取得、および発掘調査・解体作業中に撮影した記録映像の編集作業を実施した。
また、壁画の保存修復（劣化原因）に関して、蛍光Ｘ線分析を用いた壁画の材料調査、デジタルアーカイブスキャンニングによる画像記録、漆喰のテラヘルツ分光イメージングについての基礎実験等を実施した。
春・秋の高松塚古墳壁画修理施設の一般公開に際しては、解説員として研究員（のべ 15 名）を派遣した。

平成 22 年度に壁画の取り外しが終了したキトラ古墳では、石室内の調査を実施し、床面に残存する漆喰上の精査、石室石材表面および石室構造に関して考古学的調査・検討を行った。
壁画の保存修復に関しては、蛍光Ｘ線分析を用いた壁画の材料調査、デジタルアーカイブスキャンニングによる画像記録等をおこなった。
さらに 2 週間に 1 回、研究員により古墳石室内等のカビ点検作業を実施した。緊急時には現地において応急的な処置にあたり、文化庁に状況を報告した。
キトラ古墳壁画の保管・活用については、今後予定されているキトラ古墳墳丘の整備について、考古学的観点から支援・協力を行った。

【実績値】
論文等数：4 件(論文：2 件、その他：2 件)①～④
学会・研究発表等：2 件⑤～⑥
記録作成数　遺構実測図 100 枚、写真（デジタル）356 枚

【備考】
①降幡順子・辻本与志一・脇谷草一郎・高妻洋成ほか「高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光Ｘ線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－」『日本文化財化学会第 28 回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会 2011.6.11
②高妻洋成・降幡順子・脇谷草一郎ほか「テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査」『文化財保存修復学会第 33 回大会研究発表要旨集』一般社団法人文化財保存修復学会 2011.6.4
③若杉智宏「キトラ古墳石室内の調査（飛鳥藤原 170 次）」『奈文研ニュース No.42』2011.9
④若杉智宏「キトラ古墳の調査－飛鳥藤原第 170 次」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）
⑤降幡順子・辻本与志一・脇谷草一郎・高妻洋成ほか「高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光Ｘ線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－」日本文化財化学会第 28 回大会 2011.6.11
⑥高妻洋成・降幡順子・脇谷草一郎ほか「テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査」文化財保存修復学会第 33 回大会　一般社団法人文化財保存修復学会 2011.6.4

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4412

自己点検評価調書

研 No. 39

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
適時性：キトラ古墳壁画取り外し完了を受け、石室内の考古学的調査を適切に行うことができた。
独創性：保存科学、考古学の双方の立場から、壁画古墳の保存・活用に助言を行うことができた。
発展性：緊急性を有する文化財の保存・活用に対する今後の方向性を示すことができた。
効率性：高松塚古墳の発掘調査の成果を、整備、公開に直結させることができた。
継続性：高松塚古墳の実績を基に、今後、キトラ古墳の整備・活用を進めていく見通しが得られた。
正確性：古墳や壁画に関する学術的成果を高い精度で得ることができた。

2．定量的評価

観点	論文数	研究発表数				
判定	A	A				

備考
調査成果等を
当研究所発行の定期刊行物等に報告するとともに学会等で発表し、調査成果等を迅速に公表することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	高松塚古墳の発掘調査成果の整理ならびに壁画の分析調査が進み、また、キトラ古墳の石室内調査により、保存・活用に資する新たな学術的成果が得られた。これらの実績を基に、今後のキトラ古墳の保存・活用・整備等の事業が円滑に進められることが期待できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	壁画古墳という重要かつ緊急性の高い文化財に対して、保存・活用に関するモデルケースを構築することができ、今後の方向性を示すことができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4421

業務実績書

研 No. 40

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力（(4) －②）

【事業概要】
飛鳥・藤原地域は、我が国国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心地であった。本事業は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内に所在する檜隈寺の全体像を復元すべく、遺跡周辺の調査をおこなうものである。檜隈寺は、飛鳥における古代寺院として重要な遺跡であり、この遺跡の実体解明および保存活動に資するため、2008 年度より発掘調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】
黒坂貴裕、渡辺丈彦、小田裕樹、木村理恵［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、栗山雅夫、岡田愛［以上、企画調整部］児島大輔［埋蔵文化財センター］

【主な成果】
今年度は、檜隈寺中心伽藍跡の南東方向に所在する土壇状の高まり部分と、檜隈寺が所在する丘陵の南東裾部の 2 カ所について発掘調査をおこなった。調査区の面積は合計 402 ㎡である。土壇状の高まり部分では、大型柱穴 2 基を確認し、丘陵裾部では、石敷と素掘溝を確認した。いずれも古代の遺構であると考えられる。大型柱穴は重要文化財於美阿志神社石塔婆に関わり、素掘溝は檜隈寺寺域に関わるとみられ、檜隈寺の実体解明に繋がる重要な成果が得られた。

【年度実績概要】
本調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備事業に関わる事前調査である。調査地は、明日香村南西部の丘陵上に位置し、この丘陵上には、渡来系氏族である東漢氏の氏寺と考えられる檜隈寺が所在する。今年度は、建物建設計画に先立ち、檜隈寺中心伽藍跡の南東方向に所在し、以前から寺域に関わる建物跡が推測されていた土壇状の高まり部分と、2010 年度の調査で部分的に石敷を確認していた丘陵の南東裾部分の 2 カ所について調査を実施した。調査期間は 2011 年 10 月 20 日～12 月 2 日。調査面積は合計 402 ㎡である。

土壇状の高まり部分では、1 辺 1.5m～1.8m、残存深さ約 1.2m の柱穴 2 基を確認するとともに、それぞれに柱根が残存していることも確認した。これらの柱穴を結ぶと、その方位は檜隈寺中心伽藍の方位の振れと一致する。また、方位の振れに順うと、柱穴 2 基の中間は檜隈寺塔跡の中軸線上に位置する。しかし、柱穴埋土からは平安時代の土器が出土したため、7 世紀頃の檜隈寺に伴うものではなく、檜隈寺塔跡に所在し平安時代後期の作とされている、於美阿志神社石塔婆（国指定重要文化財）に伴うと考えられる。

丘陵南東裾部分では、昨年度に検出していた石敷について、全体像の確認調査をおこなった。石敷は人頭大の石を用いていたが、その丘陵側で一回り大きな石を立てている状況を確認した。しかし、その他の部分では遺構が削平されており、本来は東側水田方向に広がっていたものと考えられる。また、この石敷の西側丘陵上で素掘溝を確認した。素掘溝は幅 1.6m、深さ約 50 ㎝で、その方位の振れは檜隈寺中心伽藍の振れに一致しないが、丘陵の地形に沿っており、延長は檜隈寺中心伽藍の東側に延びると見られる。いずれも遺物から 7 世紀以前の遺構と考えられる。

本調査では、檜隈寺の古代における幅広い年代の遺構を確認し、特に大型柱穴 2 基は、中心伽藍に伴う重要な遺構と考えられ、檜隈寺の実体解明に繋がる重要な成果が得られた。


大型柱穴と柱根

【実績値】
論文等数：2 件（論文 1 件①、その他 1 件②）
出土遺物　　軒丸瓦 1 点、軒平瓦 3 点、丸瓦 57 点、平瓦 90 点、その他瓦類 5 点、
土器 2 箱、銅製品 1 点、木屑 1 点、壁土 1 点、
建築部材 1 点
記録作成数　遺構実測図 20 枚、写真（4×5）49 枚

【備考】
①黒坂貴裕・小田裕樹・渡辺丈彦「檜隈寺周辺の調査－第 172 次」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）
②黒坂貴裕「檜隈寺の調査（飛鳥藤原 172 次）」『奈文研ニュース No. 44』2012.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4421

自己点検評価調書

研 No. 40

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考

適時性：国営公園整備事業の事前調査と、檜隈寺周辺の遺構状況解明について、双方に寄与した。
発展性：これまで不明な点の多かった 7 世紀前半および奈良時代以降の檜隈寺の動向が確認できる重要な資料を得た。特に、国指定重要文化財於美阿志神社石塔婆に関わる遺構を確認できた。
継続性：2008 年度から実施している発掘調査の成果を受け、檜隈寺周辺の全体像復元にかかわる継続的な調査をおこなった。

2．定量的評価

観点	論文数等	調査回数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査では、檜隈寺の伽藍が完成した 7 世紀後半の資料のみならず、これまで不明な点の多かった 7 世紀前半、および奈良時代以降の檜隈寺の動向が確認できる資料、および土地利用状況に関わる重要なデータを得ることができたため、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査は、年度当初の計画通りに実施されており、国営公園整備事業に関わる範囲について、および課題であった檜隈寺の全体像復元の解明に向けて、それぞれに有益なデータを得ることができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4431

業務実績書

研 No. 41

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区 2 号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力（(4) －③）

【事業概要】
飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・文化の中心地であった。本研究は、農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業にともなう本地域の埋蔵文化財の調査・研究に対して協力・支援を行うものである。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】
山本崇、清野孝之、高橋 透、庄田慎矢［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、川畑純、山本祥隆［以上、都城発掘調査部（平城地区)］、井上直夫、栗山雅夫［以上、企画調整部］

【主な成果】
大和平野支線水路等その 3（県営飛鳥 2 号幹線（右岸）その 5）改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原右京七条西一坊（橿原市上飛騨町）にあたる。総長 100m の工事区域のうち、中央約 80m分は立会で対応し、残りの西区（約 10m×1m)、東区（約 10m×1m）を発掘調査した。その結果、古墳時代と古代の遺構（溝等、一部中世を含む）を検出、記録した。

【年度実績概要】
西区では溝 1 条と炭溜りを検出した。溝の遺構検出面は北西に隣接する飛鳥藤原第 62 次調査の遺構検出面の標高がほぼ一致している。この溝に関して、ここには藤原京右京西一坊坊間路東側溝が想定されており、検出した溝の位置とほぼ重なることから、西一坊坊間路東側溝の可能性がある。ただし古代の遺物は出土していない。炭溜りは溝の検出面から約 10 ㎝下層で検出した。ここからは古墳時代前期の高坏や甕がまとまって出土している。

東区では溝 1 条を検出した。溝の遺構検出面は東に隣接する飛鳥藤原第 17 次調査の遺構検出面と標高がほぼ一致している。溝は出土遺物から古墳時代中期以降につくられ、7 世紀後半には完全に埋没していたと考えられる。

以上のように、本事業では水路付け替え工事に伴う限られた調査範囲の中ではあったが、埋蔵文化財に関する情報を最大限に引き出し、必要となる記録類の作成を迅速に進めることができた。

なお調査期間は平成 24 年 2 月 15 日～平成 24 年 2 月 24 日であったが、調査終了後も調査地外の既設管撤去工事の立会を実施し、工事が埋蔵文化財に影響を与えることがないことを確認した。



西区溝検出状況（東から）



東区全景（東から）

【実績値】
論文等数　1 件①
出土遺物　土器 1 箱、木製品（火鑽臼）1 点ほか
記録作成数　遺構実測図 5 枚、写真（4×5）16 枚

【備考】
①黒坂貴裕「2010 年度 都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）発掘調査・立会調査一覧」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012. 6（予定）

【書式Ｂ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4431

(様式 2)

自己点検評価調書

研 No. 41

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				

備考
適時性：工事の状況に応じて迅速に対応して文化財を保護・記録することができた。
継続性：飛鳥・藤原地域の遺跡情報を継続的に収集することができた。

2. 定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

備考

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業にともなう埋蔵文化財への影響について、迅速かつ適切に対応・処理することができ、遺構の保護・記録を行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査について効率良く対応し、藤原地域の基礎資料を蓄積することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究（(5)－①）

【事業概要】
館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財を調査研究し、あわせて保存・展示・公開に関する調査研究を進める。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田良島哲

【スタッフ】
荒木臣紀（保存修復課環境保存室主任研究員），安藤香織（列品管理課登録室アソシエイトフェロー），井上洋一（企画課長），池田宏（上席研究員），伊藤嘉章（学芸研究部長），伊藤信二（教育普及室長），井上洋一（企画課長），猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員），今井敦（博物館教育課長），恵美千鶴子（調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー），沖本明子（保存修復課保存修復室アソシエイト・フェロー），小山弓弦葉（工芸室主任研究員），及川穣（列品管理課登録室アソシエイトフェロー），河内晋平（東京藝術大学助手），川村佳男（保存修復課保存修復室研究員），神庭信幸（保存修復課長），木島隆康（東京藝術大学教授），鬼頭智美（企画課国際交流室），木下史青（デザイン室長），金鐘旭（東京藝術大学），小菅将夫（岩宿博物館館長），後藤健（東京国立博物館上席研究員），小林牧（広報室長），佐々木佳美（列品管理課登録室アソシエイトフェロー），佐藤祐介（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー），佐藤香子（環境保存室研究支援者），佐藤祐介（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー），澤田むつ代（特任研究員），品川欣也（調査研究課考古室研究員），島谷弘幸（副館長），白井克也（列品管理課平常展調整室長），鈴鴨富士子（東京藝術大学非常勤講師），鈴木みどり（博物館教育課ボランティア室長），鈴木晴彦（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー），関紀子（調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー），瀬谷愛（列品管理課平常展調整室員），高木雅広（エクサーチ LLC 合同会社），高橋裕次（博物館情報課長），竹内奈美子（調査研究課工芸室長），竹浪遠（黒川古文化研究所），田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長），田良島哲（調査研究課長），千葉史（株式会社ラング），塚本麿充（調査研究課東洋室研究員），土屋貴裕（調査研究課絵画・彫刻室研究員），土屋裕子（保存修復課環境保存室主任研究員），富田淳（列品管理課長），富山恵介（東京藝術大学大学院），中村春佳（修理技術者），中安知佳，西尾歩（立命館大学），平野はな子（修理技術者），藤田千織（博物館教育課教育普及室主任研究員），古谷毅（列品管理課主任研究員），星野裕昭（アルテアエンジニアリング㈱），松嶋雅人（企画課特別展室長），松田麻美（国立歴史民俗博物館），松本伸之（学芸企画部長），村田良二（博物館情報課情報管理室長），森田正彦（慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科），山田俊輔（調査研究課考古室研究員），横山真（株式会社ラング），横山梓（企画課特別展室研究員），米倉乙世（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー），和田浩（保存修復課環境保存室主任研究員）

【主な成果】
館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・歴史学・考古学・博物館学等の各見地から学会・研究会・学術雑誌上で各種発表を行った。

【年度実績概要】
・内外の学会・研究会で、各種発表を行った。
・学術雑誌に各種の論考を発表し、著書を刊行した。

【実績値】
・学会・研究会等発表件数：48 名 64 件。
池田宏（上席研究員）「赤糸威大鎧の魅力とその修復」，春日大社：国宝 赤糸威鎧修復記念シンポジウム（平成 23 年 4 月 16 日）ほか。
・論文等掲載数： 47 名 90 編。
塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）「皇帝の文物と北宋初期の開封−啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について−（上）（下）」　『美術研究』404, 406 号 ほか。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適宜性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考 各種学会誌・紀要等の学術誌や学会・研究会において、平素の調査研究や、平常陳列・特別展に係る業務・他館への協力の中で得た最新の学術情報を、多岐の分野にわたって発表するとともに、広く社会的な発信を行った。						

2．定量的評価

観点	学会・研究会等発表件数	論文等掲載数				
判定	A	A				
備考 学会・研究会等発表件数：48 名 64 件。論文等掲載数： 47 名 90 編。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	前年度に比して遜色のない調査研究成果の公開を行い、絵画・書跡・工芸・考古・歴史資料などの各ジャンルにわたり、最新の学術情報を盛り込んだ情報を発信しえた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究計画に基づき、順調に進捗している。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）特別調査法隆寺献納宝物（第 33 次）「聖徳太子絵伝」第 7 回（(5)－①）

【事業概要】
東京国立博物館では、法隆寺献納宝物について、昭和 54 年より、33 次にわたって献納宝物の調査を館内および館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。献納宝物は、経年によって脆弱化しており、各分野の研究者が直接的な調査をすることは難しい。本事業はすべての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。毎次の調査研究については「法隆寺献納宝物特別調査概報」を発刊している。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課　田沢裕賀

【スタッフ】
田沢裕賀(調査研究課絵画・彫刻室長)、土屋貴裕（調査研究課絵画・彫刻室研究員)、瀬谷愛（列品管理課研究員)、小山弓弦葉(調査研究課工芸室主任研究員)、伊藤信二（博物館教育課教育普及室長)、沖松健次郎(企画課特別展室主任研究員)、和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)、澤田むつ代(学芸研究部特任研究員)、小林達朗(東京文化財研究所企画情報部主任研究員)、谷口耕生（奈良国立博物館学芸部保存修理指導室長)、朝賀浩（文化庁美術学芸課主任文化財調査官)、村重寧（早稲田大学名誉教授)、松原茂（根津美術館学芸部長<当館客員研究員>)、東野治之（奈良大学教授<当館客員研究員>)、若杉準治（京都国立博物館名誉館員)、岡本明子（山野美容芸術短期大学講師)、谷川ゆき（国文学研究資料館プロジェクト研究院)

【主な成果】
本年度は、国宝聖徳太子絵伝 10 面のうち第 9 面と第 10 面を調査対象とした。経年の劣化、補修によって判別の困難な図様の細部について明らかにできた。また、剥落や劣化などにより画の見えないところについて、現法隆寺絵殿に嵌められた吉村法眼周圭充貞の模写(天明 7 年＝1787)を比較検討することによって、その内容を新たに確認した。

【年度実績概要】
高精細デジタルカメラによって 1 面 132 カット(2 面合わせて 264 カット)撮影し、それを合成することによって原寸大以上に引き伸ばすことが可能となったことから、実作品に基づいて細部を照合しつつ、各事跡場面の特定と、描かれたモチーフの形状、描写について詳細な客観的記述を重ね、各研究者共同で、確認、確定を行った。高精細画像の各場面の拡大図とともにこれを公表することにより、事業概要で述べたとおり、すべての研究者に対して通常の状態では観察の困難な詳細な本図の詳細な客観的情報を提供する下地ができたものと考える。
また、国宝聖徳太子絵伝 10 面の調査は、今年度をもってひとまず完了することになる。そのため、各面に付された色紙形の法量、現状を詳細に記述し、あわせて、画面に用いられた料絹を全面にわたって調査した。
平成 23 年度に実施した第 33 次特別調査の内容は、『法隆寺献納宝物特別調査概報 32』「聖徳太子絵伝 5」として刊行した。

【実績値】
調査回数　2 回
調査概報発行　1 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	調査概報発行				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当該調査は、絵画史、工芸史だけでなく、歴史の専門家を含めた調査で、各場面の検証、用絹、絵具など総合的な作品評価を行ってきた。これまでの成果を踏まえ、第 10 面までの検討をまとめた概報の刊行を行って、国宝聖徳太子絵伝 10 面の調査完了とした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	第 9、10 面の調査を行って概報を刊行し、これまでの第 1 面から 10 面までの当該調査研究の成果をその中に集約した。その成果を踏まえ他の聖徳太子絵伝に関する調査法を確立した。今後、当館所蔵の他の聖徳太子絵伝に調査範囲を広げてゆく計画である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）特別調査「書跡」第 9 回（(5)-①）

【事業概要】
館書跡収蔵品の中で、平安時代から江戸時代にわたる歌書、物語、願文など和様の書跡類を調査する。この分野ではすでに平安時代の作品を中心とした図版目録「和様 1」を刊行しているが、その後の新規収集品及び鎌倉時代以降の作品を対象とする。特に古筆切となっている断簡類の原典特定作業、使用された料紙の種類、書写年代の比定を行うとともに、法量計測、高精細画像撮影など基礎データを収集し今後の研究に便宜を図る。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田良島哲

【スタッフ】
田良島哲（東京国立博物館学芸研究部調査研究課長）、高橋裕次（東京国立博物館学芸企画部博物館情報課長）、髙梨真行（同ボランティア室主任研究員）、羽田聡（京都国立博物館学芸部研究員）、酒井芳司（九州国立博物館企画課展示室研究員）、吉川聡（奈良文化財研究所文化遺産部歴史研究室長）、池田寿（文化庁美術学芸課主任文化財調査官）

【主な成果】
平成元年以降当館で収集した書跡分野に属する古筆切 48 件について、作品の名称、古筆切としての通称、制作年代、形状、界線について確認した。断簡は原典推定をし、可能な限り『国歌大観』の収載番号との照合を行った。合わせて原装丁の推測、使用された料紙の紙質分析の検討も合わせて行った。今回の調査対象について記載文字を可能な限り解読し書誌情報を収集した。また対象全件について法量を計測し本紙部分の撮影を行った。

【年度実績概要】
平成元年以降当館の収蔵にかかる書跡分野に属する列品の内、主として掛軸装の古筆切、巻子装・帖装の作品、について次の項目について調査を実施した。
1, 名称・通称の検討、2, 筆者の真贋・伝称筆者などの検討、3, 制作年代、4, 元装丁の推測、5, 形状性質の確認、
6, 本紙の法量計測、7, 出典の推定、8, 使用料紙の分析、9, 界線の分析、10, 記載文字の判読、11, 書誌情報の確認、12, 写真撮影

調査対象：B-3171 山城切（秋興）　伝藤原定頼筆　1 幅、B-3352 林葉和歌集切　伝西行筆　1 幅　など 48 件
調査日　：平成 24 年 2 月 7 日（火）～9 日（木）




調査風景



写真撮影

【実績値】
調査件数：48 件　調査人数：参加者 10 人　24 人日（のべ）
調査日数：3 日間
調書作成：48 枚
撮影画像数：65 カット

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査件数	調査日数	調書作成	写真撮影		
判定	A	B	A	A		
備考 年度前半に計画していた予備的な調査を実施することができなかったが、今回実施した調査において、予定していた以上の作品の調書作成を行い、また特に多くの写真撮影を行って、長期的に利用できる基礎データを得ることができた。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	一定数の作品の調書作成及び写真撮影を行い、調査の手順と調査担当者の作品に対する認識の深化を図ることができた。次年度以降、順調に調査が推移することが期待される。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	調査内容については十分な成果を得ることができたが、参加者の日程調整等を適切に行うことにより、より多くの参加者を得ることで、調査の推進を図りたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)　特別調査「工芸」第 3 回（(5)-①）

【事業概要】
東京国立博物館における文化財のうち、金工・刀剣・陶磁・漆工・染織等工芸分野の特別調査。独立行政法人国立文化財機構の国立博物館 4 館および文化庁の工芸担当者が集まり、同じ専門分野の研究者が同時に作品調査を行う。複数の専門家が同時に同じ作品を調査することで、精度の高い成果が得られる。また、各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有できる。今後の研究の進展や、展示公開の向上に結びつけることを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室長　竹内奈美子

【スタッフ】
伊藤嘉章（東京国立博物館学芸研究部長）、今井敦（博物館教育課長）、伊藤信二（博物館教育課教育普及室長）、猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員）、酒井元樹（調査研究課工芸・考古室研究員）、横山梓（企画課特別展室研究員）、久保智康（京都国立博物館学芸部企画室長）、尾野善裕（京都国立博物館学芸部工芸室長）、永島明子（京都国立博物館学芸部企画室主任研究員）、内藤榮（奈良国立博物館学芸部長補佐）、清水健（奈良国立博物館学芸部教育室研究員）、鳥越俊行（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員）、末兼俊彦（九州国立博物館学芸部文化財課研究員）、川畑憲子（九州国立博物館学芸部企画課文化交流展室研究員）、遠藤啓介（九州国立博物館学芸部展示課研究員）、齋藤孝正（文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官）

【主な成果】
東京国立博物館の金工・陶磁・漆工の列品について、最新の研究結果を反映させた知見を共有することができた。金工調査では、室町時代の金工品について、表現上の理解が進み、今後研究を行う必要性や将来性を確認した。また、陶磁調査では、昭和初期に評価されたいわゆる鑑賞陶器の傾向について認識を深めることができた。漆工調査では、館蔵の十種香箱の調査を終え、それぞれの特色と制作年代に関して検討を加え、十種香箱の多様性とその変遷について議論を深めた。

【年度実績概要】
◆金工調査
実施期間　平成 24 年 3 月 5 日（月）
金工列品のうち、玉幡・華鬘・鏡像などの荘厳具を中心に室町時代の作品 7 件について調査を実施し、制作技術や図像的な特徴、美術史的な価値などについて検討を加えた。室町時代の金工品について、表現上の理解が進み、今後研究を行う必要性や将来性を確認できた。

◆陶磁調査
実施期間　平成 23 年 12 月 7 日（水）・8 日（木）
東洋陶磁列品のうち、横河民輔コレクションの宋・元時代の陶磁器の調査を行ない、製作地や製作時期、製作技法などについて意見交換を行なった。昭和初期を中心とした時代に収集された陶磁器 31 点を集中的に調査することにより、当該時期に評価されたいわゆる鑑賞陶器の傾向について認識を深めることができた。

◆漆工調査
実施期間　平成 24 年 3 月 1 日（木）・2 日（金）
漆工列品のうち香道具をテーマとし、昨年度に引き続き、香を聞き当てる遊び、組香に用いる道具類をとりあげて調査を実施した。特に今年度は組香に用いる諸道具を一括して一つの箱に収める「十種香箱」2 件（42 点）について詳細な調書をとり、館蔵の十種香箱の調査が終了した。それぞれの特色と制作年代に関して検討を加え、十種香箱の多様性とその変遷について議論を深めた。

【実績値】
調査回数　3 回
調査日数　5 日
調査員　16 名
調査対象作品　40 件





（写真左）金工調査風景
（写真右）漆工調査作品

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
工芸分野では美術や考古、歴史などの分野より研究者が不足しており、研究推進の緊急性が高く、本事業は時宜に適している。
また、工芸各分野の研究者がそれぞれ複数揃う国立文化財機構ならではの事業であり、独創性や正確性・効率性が高い。本年度も各機関の同じ専門分野の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有し、議論を深めることができた。
さらにこの調査事業を継続的に行うことにより、研究推進や展示公開に寄与するところは多く、発展性も大きい。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査日数	調査員人数	調査作品数		
判定	A	A	A	A		

備考
計画通り、それぞれ 1～2 日にわたる金工・陶磁・漆工の調査会を実施した。早期に日程調整を行い、各分野の各機関専門家がそれぞれほぼ全員揃って調査を行った。漆工調査の対象作品は 1 件に多数の内容品を含むため、作品件数の数値は少なく見えるが、実際には多岐にわたる多数の作品の調査を行っている。各分野の調査においてきわめて効率良く、相当数の作品を調査できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	各機関の同じ専門分野の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有し、議論を深めることができた。今後の研究推進および展示公開に寄与するところが大きい。また分野ごとに分かれて作品調査を実施するため効率性も高く、相当数の作品を調査している。今後は刀剣・染織分野についても調査を行っていくことが望ましく、24 年度以降も継続する必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り作品調査を実施することにより、研究を推進し、その成果が展示公開の向上に寄与している。本事業のような調査会を次年度以降も継続的に行っていくことによって、工芸分野の文化財に関する研究の推進を図る。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-5
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）特別調査「彫刻」第１回（(5) -①）

【事業概要】
社寺所蔵の仏像、神像、肖像彫刻を調査し、調査研究報告、論文等の研究活動に結び付け、あるいは寄託の増加、特別展等の企画につなげて展示の向上を図る。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室長　浅見龍介

【スタッフ】
丸山士郎（博物館教育課教育講座室長）

【主な成果】
鎌倉市東慶寺の仏像調査。7 躯を調査し、そのうち 3 躯について従来推測されていた制作年代を訂正すべきという結果に至った。
鎌倉市建長寺開山蘭渓道隆墓塔の調査。制作年代については従来とおり南北朝時代とみられた。なお、この墓塔の内部、下層には埋納物のないことが確認できた。
同寺開山堂床下石室の調査　石室蓋石は鎌倉石（砂岩）製で、開山堂創建期に遡る可能性が考えられる。非常にもろい状態なので、樹脂などで強化しさらに研究を進めることとする。

【年度実績概要】
東慶寺
① 地蔵菩薩坐像はこれまで、頭部は室町時代、体部は江戸時代の作と考えられてきた。像内に応永の銘のある摺仏と、享保の年紀のある文書が納められていたためである。しかし、像の作風は鎌倉時代の特色を示し、補修部分があるものの、写実表現に精彩があり、時代の下るものではないと判断できる。頭部と体部で時代が異なるとも考えられず、ともに鎌倉時代後期の作と推定した。
② 観音菩薩坐像はこれまで、南北朝時代の作と考えられてきた。近年、鎌倉時代後期から南北朝時代の作例が多数見出され、この時期の作風の変遷が明らかになり、年代推定の精度が増している。その観点からこの像は鎌倉時代後期に置くべきものと考えられる。従来指摘されていなかった当初部分と後補部分の区別も明らかにした。
③ 聖徳太子立像（南無仏太子）はこれまで、南北朝時代の作と考えられてきた。これも前述の像と同じ理由から、鎌倉時代後期の作と推定した。
④ 水月観音坐像は、かつては室町時代、南北朝時代の作と考えられてきたが、10 年前の当館特別展「鎌倉―禅の源流」において浅見は鎌倉時代・14 世紀の作と推定し、現在それが認められている。しかし今回の調査で、13 世紀に遡る可能性が高いと考えた。
建長寺
① 開山堂安置の蘭渓道隆坐像の研究にかかわる遺骨の納置方法の研究の一環として墓塔の調査、開山堂床下の石室の調査を実施し、彫像との関係を考察する。今年度は墓塔の解体調査、開山堂床下石室の蓋石の調査と体制作り、実施計画を策定した。

【実績値】
調査日数　5 日　（東慶寺　1 月 18 日、22 日、27 日、建長寺 8 月 19 日、3 月 15 日）
調査件数　9 件　（東慶寺　仏像 7 件、建長寺墓塔 1 件、開山堂床下蓋石 1 件）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-5

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	B	B	A	A	A	A
備考 当館のフィールドとして東国の社寺を対象とした調査を継続したいと考えている。特別展や新規寄託につながる事業であり、発展性、継続性などの視点から今年度は十分な成果が得られた。						

2．定量的評価

観点	調査日数	調査件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	従来の時代判定を改める成果が得られたこと、建長寺開山塔床下石室の調査の体制と準備の進展が判定の理由である。来年度は建長寺の調査を継続する一方、別の寺院の調査も計画し、館員の参画を呼び掛ける。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り作品調査を実施することにより、研究を推進し、今後の事業継続の展望を開くことができた。本事業のような調査を次年度以降も継続することにより、彫刻の展示を充実させ、さらに研究の推進を図る。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-6

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6）特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」―尾形光琳風神雷神屏風を中心に（(5)－①)

【事業概要】
近年絵画作品の金・銀の使用が注目されている。当館が収蔵する尾形光琳筆「風神雷神図屏風」をはじめとした、各派各時代の金地屏風を同条件の下で調査し、金地についての客観性のあるデータを蓄積する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　田沢裕賀

【スタッフ】
神庭信幸(保存修復課長)、松嶋雅人(企画課特別展室長)、荒木臣紀(保存修復課環境保存室主任研究員)、和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)、金井裕子（調査研究課絵画彫刻室員）

【主な成果】
当館収蔵の尾形光琳筆「竹梅図屏風」と「風神雷神図屏風」に加え、同時代の土佐光祐筆「栄華物語図屏風」、狩野永敬筆「十二ヶ月花鳥図屏風」を対象として、エックス線、蛍光エックス線と実体顕微鏡による分析調査やそのデータの集約を行ない、検討会を開催した。

【年度実績概要】
当館収蔵の絵画作品の中から、尾形光琳筆「竹梅図屏風」・「風神雷神図屏風」他の作品を選び、金色部分の化学分析を行なった。
本年度は、これまで調査したデータをもとに検討会を 2 回行ない、データ検討後に実際の作品を見ながら、参加者による意見交換を行った。調査箇所により金の存在を示す蛍光エックス線の強度に違いのあることが確認できたが、そのデータの客観性と有意性を確認するために、厚さの異なる金箔の調査を実施する必要が確認された。また、金箔以外の絵の具や、銀に関する調査が重要であることが確認された。



金箔データ検討会



データと実作品の比較調査

【実績値】
・分析結果検討会　2 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-6

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	B	A	B	B	

備考
本調査は、金地作品の箔使用に関する調査で、多くのサンプルからデータを集めることで、各時代のさまざまな流派の絵画制作上の特徴をより客観的に研究する基礎調査としてきわめて重要なものである。昨年度までに行った尾形光琳と同時代に活躍した絵師の作品の調査結果をもとに、今年度は、館内の多くの研究者によるデータの検証と作品の実見調査を行った。

2．定量的評価

観点	検討回数					
判定	A					

備考
館内の多くの研究者の参加による検討会を 2 回行ない、データと実作品の観察を合わせた意見交換の機会を設けた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度は、地震後のレスキュー活動等により、資料のデータ収集が進まなかったが、検討会を開催し、館内でのデータの検討と共有化を行った。来年度は、収集サンプル数を増やしデータの客観性を高めるための確認調査を行なっていきたい。また、金箔以外の絵の具や銀に関する調査が作品理解のうえで重要であることが確認された。来年度は、調査対象を広げる予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	データの集積を増やすことは出来なかったが、これまでのデータをまとめて、2 回の検討会を開催することが出来た。検討会での分析により、今後は、さらにサンプル数を増やすことで、調査データの客観性を高める必要性があらためて確認された。そのためには綿密な調査計画を立て、さらに調査回数を増やすことで、データ集積をさらに進め、結果の外部公開を目指したい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-7

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7）板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金） （(5)－①）

【事業概要】

平成 21 年度東京国立博物館に一括寄贈された約 1 万件におよぶ板谷家伝来資料について、デジタル撮影、データ整理を行ない、データベース作成・公開への準備を進める。また各古文書・絵画資料の画題や原本、伝来等について調査するとともに、板谷家作品を所蔵する機関にて現存作品調査を実施。これにより伝来資料について、資料そのものと現存作品との比較という両面から理解を深め、その成果を公開する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	絵画･彫刻室長　田沢裕賀

【スタッフ】

池田宏（上席研究員）、冨坂賢（保存修復課保存修復室長）、小野真由美（企画課出版企画室主任研究員）、瀬谷愛（列品管理課平常展調整室研究員）、塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）、金井裕子（調査研究課絵画･彫刻室研究員）、山下善也（京都国立博物館連携協力室長）

【主な成果】

伝来資料について、約 1,500 点（約 3,800 カット）の撮影を終了するとともに、並行して新たな知見の整理、絵画資料の調査、古文書の翻刻を行った。また、スタッフによる研究会を開き、今年度はとくに板谷家が手がけた「東照宮縁起絵巻」に関する資料を調査し、名古屋東照宮等にて作品の調査撮影を行なった（24 年 2 月 21 日～23 日）。また 23 年度までの成果を東京国立博物館所蔵の住吉家、板谷家の本画とともに展示した。

【年度実績概要】

1.　特集陳列「板谷家の絵画とその下絵」開催

会場：特別 2 室　会期：平成 23 年 10 月 25 日～12 月 4 日

23 年度までの成果を活かした特集陳列を開催した。会場にてリーフレット（オールカラー8 ページ、無料）を配布した。

2.　伝来資料のデジタル撮影、データ整理

作品保存とデータベース公開のため、伝来資料のデジタル撮影、データ整理を、週 4 日行なった。

3.　調査の実施

東京国立博物館所蔵の住吉家、板谷家作品の調査を行なった。また 23 年度は名古屋を中心に、尾張徳川家墓所建中寺、名古屋東照宮、徳川美術館での調査を実施した。（平成 24 年 2 月 21 日～23 日）。

4.　研究会の実施

10 月東京国立博物館内で、東照宮縁起絵巻や賢聖障子絵等関係資料を中心に調査・研究会を行なった。平成 24 年 3 月 6 日～7 日に、名古屋調査と 23 年度調査研究成果の報告検討を行った。



デジタル撮影

【実績値】

1.　画像データ作成点数　約 1,500 点、約 3,800 カット

2.　展覧会回数　1 回　・特集陳列「板谷家の絵画とその下絵」（於特別 2 室、平成 23 年 10 月 25 日～12 月 4 日）

3.　研究会回数　2 回

第 1 回　日程 平成 23 年 10 月 25 日（火）～26 日（水）

第 2 回　日程 平成 24 年 3 月 6 日（火）～7 日（水）

4.　外部調査回数　1 回

平成 24 年 2 月 21 日（火）～23 日（木）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-7

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
板谷家伝来資料は総数 1 万点を超え、御用絵師の活動実態を研究するうえでの貴重な資料群である。23 年度より科学研究費を受け、国内外に所蔵される板谷家の絵画について所在確認と調査を実施し、同時に伝来資料の解読、翻刻、粉本、下絵の画題特定と本画との比較を行なっている。膨大な資料の撮影、データ整理に、平成 23 年度は 2 人の整理作業補助員、1 人のカメラマンで当館研究員とともに作業にあたってきた。次年度以降はこれらのデータをもとに再度各資料に関する情報を精査し、5 年後の公開に向けて利便性の高いデータベースの作成を追及していきたい。

2．定量的評価

観点	画像データ作成点数	展覧会回数	研究会回数	外部調査回数		
判定	A	A	A	B		

備考
当初目標であった当館所蔵作品と伝来資料についての研究成果展示を行ない、またデジタル撮影、データ整理作業、古文書解読などの調査を定期的に行なうことができた。現状では 1 月あたり約 250 点の撮影をおこなっているが、本年度は、撮影開始時期がやや遅れたものの、目標値に近いカット数の撮影を行うことが出来た。平成 27 年度のデータベース公開と研究総括を目標とするため、撮影作業については今後スピードを上げていく必要がある。当機構研究員と科研研究分担者・協力者との合同調査を 4 日行った。また、2 月に外部調査として名古屋で関連作品の調査を行った。24 年度は本事業の成果発表について力を入れていきたい。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度の当初目標をほぼ達成し、次年度以降の明確な調査・作業予定の見通しがたっている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成した。 次年度以降につづく調査研究の基盤ができた。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-8
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8）油彩画の材料・技法に関する共同調査（(5)－①）

【事業概要】
東京国立博物館所蔵の油彩画約 150 件の中から、明治期を中心とした約 70 件を調査対象とする。東京藝術大学大学院油画保存修復研究室はこれまで大学所蔵の明治期油彩画について調査研究を続け、多数の成果を公表している。この度の共同調査の目的は、高精細デジタルカメラを使用した顕微鏡写真、普通光写真、赤外線写真、紫外線蛍光写真、透過デジタルＸ線写真、蛍光Ｘ線分析等の科学的調査を通し、当館所蔵の油彩画に使用された材料と技術に関するデータ構築を行ない、これまで東京藝術大学が集積したデータと比較を可能にすることである。それによって、今後我が国の初期油彩画の技法的解明、あるいは歴史的解明が一層進展するものと考える。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭　信幸

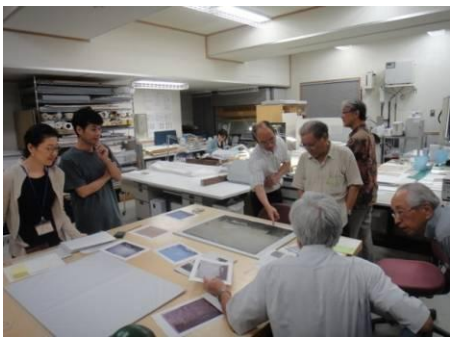
【スタッフ】
木島隆康（東京藝術大学大学院教授）、西川竜二（東京藝術大学大学院助教）、田沢裕賀（調査研究課絵画彫刻室長）、土屋裕子（保存修復室主任研究員）、荒木臣紀（環境保存室主任研究員）

【主な成果】
平成 20 年 11 月から開始し、可能な限り月 1 回のペースで調査を進めてきた。調査は朝 10 時から午後 5 時までであり、1 回の調査では終了しない調査もあるが、これまでのところ調査が終了した作品は、22 点である。次第にデータが蓄積されているが、その中から、平成 21 年度は 3 点についての調査内容を『東京国立博物館紀要』（第 45 号、2010 年）にて、平成 23 年度には、『MUSEUM』631 号および 635 号にて、2 点ずつ計 4 点についての調査内容を発表している。

【年度実績概要】
平成 23 年度に調査が終了した作品（これまでに調査した作品の追加調査も含む）は、①個人蔵　国沢新九郎筆《ランプと洋書》、②個人蔵　伝高橋由一筆《大工の作業場》、③A-712　筆者不詳《ふたりの女性》、④A-11251 原田直次郎筆《ランプと洋書》、⑤A-11261 アントニオ・フォンタネージ筆《風景》、⑥A-714 マック・シャン筆《チャールズ王子》、⑦A-732 筆者不詳《遠望富岳図》

【実績値】

研究発表件数　1 件
論文掲載件数　2 件
調査回数　：7 回（Ｘ線撮影 1 回を含む）
調査作品数：7 点
論文：平成 23 年『MUSEUM』4 月号（631 号）および
12 月号（635 号）にて、成果の一部を発表


油彩画の状態について検討

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-8

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
今年度は、東京藝術大学が集積しているデータベースに追加情報をもたらす作家の作品についての詳細な調査記録およびＸ線透過撮影の一部を行なった。『MUSEUM』などでの発表を着実に行なっている。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文掲載件数	調査回数	調査作品件数		
判定	A	A	A	A		

備考
本調査の結果として得たデータの一部は、平成 23 年 4 月および 12 月出版の『MUSEUM』第 631 号および 635 号に掲載した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東京国立博物館が所蔵する油彩画コレクションは、東京藝術大学の同時期の作品群を補完する意味でその存在は大きい。これまで光学的調査が不十分であったため、東京藝術大学の作品と材料や技術に関する科学的な比較が困難であったが、一連の調査によって徐々に可能になってきている。今後の調査の進捗が更なる可能性を開いていくものと考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査作品、調査回数、研究発表、論文発表など計画通り実施できた。次年度も引き続き今年度同様に臨む計画である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-9

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9）目録学の構築と古典学の再生に関する調査研究（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】

日本独自の目録学を構築し、「知のネットワーク」で結ばれた公家社会の文庫群（＝データベース）の復原や伝統的知識体系を解明することにより日本古典学の研究基盤を再生する（研究代表者　東京大学史料編纂所教授　田島公）

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田良島哲

【スタッフ】

島谷弘幸（副館長）、猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員）、恵美千鶴子（調査研究課アソシエイト・フェロー）

【主な成果】

＊館蔵の古典籍、特に国宝「九条家本延喜式」の本文及び紙背文書に関する調査研究を行った。
＊上記研究の成果として影印本『国宝九条家本延喜式』の刊行を開始、継続した（第 1 巻刊行）

【年度実績概要】

＊「九条家本延喜式」紙背文書の釈文作成のための研究会を 13 回行い、釈文の確定を図った。
＊「九条家本延喜式」に関わる諸問題を研究するため、プロジェクト全体に関わる研究者が参加する検討会を 4 回行った。
＊「九条家本延喜式」の影印本刊行のための準備を進め、第 1 巻を刊行した。
＊「延喜式」の研究成果の公開として「九条家本延喜式」の一部を本館第 3 室において、展示した（平成 23 年 9 月 21 日～10 月 30 日及び平成 24 年 2 月 14 日～3 月 25 日）。
＊平成 22 年度に行った古筆切の調査成果として、古今和歌集に関する展示を本館第 3 室において行った（平成 23 年 11 月 1 日～12 月 11 日）。

【実績値】

※紙背文書研究会の開催：13 回
※延喜式検討会の開催：　4 回
※古典籍類の展示公開：　3 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-9

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	研究会開催回数	検討会開催回数	展示回数			
判定	A	B	A			
備考 紙背文書の研究会は、館内において可能な限り定期的に実施することができたが、館外の研究者を交えた史料の検討会は、震災の影響もあり多少回数が少なかった。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究において、当館に求められた課題である、国宝「九条家本延喜式」の基礎的情報の構築と公開について、特に紙背文書に関する高精細画像の取得と釈文テキストの作成を完了する目途がたち、目的を達することができた。また、館蔵の公家関係の資料についても基礎的なデータの収集を行うことができた。今後より積極的な情報の公開に取り組む方向である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は 23 年度で終了となり上記総合的評価のとおり、一応の目的を達した。今後は本研究の後継研究プロジェクトなどとも協力し、この研究分野が一層発展するように、館蔵品の情報公開等に取り組みたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-10

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10)文化財保護の歴史に関する基礎的研究(科学研究費補助金)((5)－①)

【事業概要】
東京国立博物館は、明治 4 年(1871)の「古器旧物保存」や、同 5 年に博覧会の出品物考証に備えるために行った文化財調査「壬申検査」をはじめ、「臨時全国宝物取調」など文化財保護に関する多くの資料を所蔵している。こうした文化財保護の歴史に関わる情報、資料などを広く収集、整理し、そのデータを公開することを目標とする。

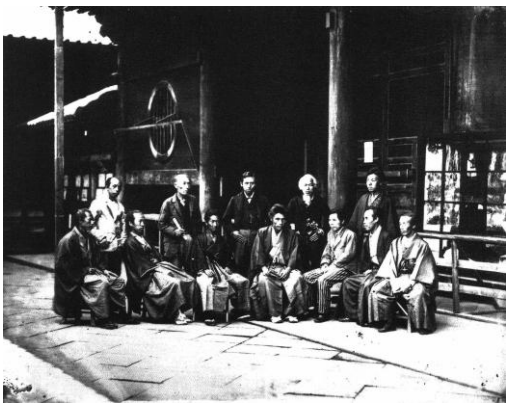
【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　高橋裕次

【スタッフ】
浅見龍介(調査研究課東洋室長)、丸山士郎(博物館教育課教育講座室長)、白井克也(列品管理課平常展調整室長)、島谷弘幸(副館長)、恵美千鶴子(学芸研究部調査研究課アソシエイトフェロー)

【主な成果】
東京国立博物館が収蔵する文化財保護に関連する作品や資料について、展示履歴などの情報を参考にして作成した調査対象リストをもとに、デジタルカメラによる記録撮影やスキャニングによるデータ収集を行った。また、特集陳列の開催による研究成果の公開や、国内在の文化財保護の歴史に関わる事例の検討を実施した。

【年度実績概要】
1. 東京国立博物館所蔵の関係資料の調査
博物館の草創期より現在にいたる、文化財保護に関連する資料について、その収集と整理を継続して行った。本年度は、館史資料のほか、戦後まもなく始まった博物館ニュースなどの出版物などをスキャニングし、記事を検索することにより、これまで知られていなかった文化財保護のあり方を明らかにするなど、研究の進展をはかった。また、当館が、明治 5 年（1872）の創立・開館以来、制作あるいは購入した模写・模造のうち、平家納経の模写・模造および関係資料の撮影を行った。

2. 特集陳列の開催による資料の公開
本年度、特集陳列「博物館の創始者・蜷川式胤の文化財保護」2012 年 3 月 27 日 ～ 5 月 20 日 展示室 本館 16 室において、当館の創立時から 文化財保護活動に深く関わってきた蜷川式胤をとりあげた。蜷川式胤は、東寺の公人の家に生まれ、幕末に文化財の調査活動を行い、明治政府の制度局につとめた後、博物館の創立に関わった。蜷川が制作・寄贈した作品の中には、重文「壬申検査社寺宝物図集」や重文「旧江戸城写真帖」など、蜷川および博物館の文化財保護活動を示す資料が多く含まれている。



湯島聖堂博覧会関係者写真

3. これまでに調査研究などの交流を行っている韓国国立中央博物館より送付をうけた館史編纂や修復などの文献資料をもとに、韓国の文化財保護の現状やその歴史に関わる研究を行った。

【実績値】
特集陳列
「博物館の創始者・蜷川式胤の文化財保護」作品数 40 点 2012 年 3 月 27 日 ～ 5 月 20 日
調査件数　80 件、写真撮影点数　1,000 点、データ入力点数　400 点

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-10

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	A	A

備考
　文化財に関連する資料について、従来の分類・整理法にもとづく調査項目などの再検討を行い、これからの時代に適合した情報の収集方針を明確にし、資料の分類項目を追加した。より発展性のある調査・研究としての成果が期待できるようになった。

2．定量的評価

観点	論文数等	調査件数	写真撮影点数	データ入力点数		
判定	A	A	A	A		

備考
　博物館ニュースをはじめとする出版物などのデータ化を推進した。特集陳列「博物館の創始者・蜷川式胤の文化財保護」では 40 点の資料を公開し、解説入りのパンフレットを配布した。また韓国国立中央博物館における文化財保護関連資料など、多くの情報を収集できた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	昨年度に行った英国の博物館などの調査によって、国際的な視野に立って、日本の文化財保護の歴史をとらえ直すことの重要性を認識した。その結果、東京国立博物館の所蔵する文化財保護の歴史に関する情報の収集・整理のあり方を検討したことで、より継続性のある計画的な資料の収集・保存・研究を可能とする見通しにいたった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまでの博物館の国際交流の実績を反映して、韓国の文化財保護の歴史に関わる資料について検討を行った。来年度は、これらの研究成果をもとに意見交換などを実施し、国内外の博物館における文化財保護のあり方を総合的に把握できるように努めたいと考えている。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-11
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	11）占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】
本研究は、占領期（1945 年から 1952 年）の連合国軍最高指令官最高司令部（GHQ/SCAP）による歴史教育政策を調査し、国立博物館を中心に据えた歴史教育事業の成果とその意義について考察することを目的とする。占領期の教育研究の基盤となる CIE 文書を和訳しデータベースを構築し広く公開するとともに、文書の内容について調査研究を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課教育講座室主任研究員　神辺知加

【スタッフ】
神辺知加（博物館教育課教育講座室主任研究員）

【主な成果】
本研究は、博物館関係文書データベース構築のための CIE 文書の調査を行った。文書検索は国立国会図書館が資料選別のため付けた分類記号（十進分類）及び分類記号ごとの文書目録（荒敬、内海愛子、林博史『国立国会図書館所蔵 GHQ/SCAP 文書目録』全 11 巻）を手がかりに、本研究に該当する文書を探し出し、和訳を行い、データを蓄積した。

【年度実績概要】
１．昨年度和訳、データ化した国立国会図書館所蔵 GHQ/SCAP 文書について、公開に向けて内容の正確さを高めるためリライトを重ねた。
２．新たな GHQ/SCAP 文書について、和訳とデータ化を行った。

【実績値】
国立国会図書館所蔵 GHQ/SCAP 文書の和訳　リライト　200 件
国立国会図書館所蔵 GHQ/SCAP 文書の和訳　データ化　30 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-11

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	B	A	

備考
本研究の基本資料となる国立国会図書館所蔵 GHQ/SCAP 文書のデータベース公開に向けて、和訳の正確の向上を目指し、達成できた。

2．定量的評価

観点	リライト件数	データ化件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、和訳の正確さを高めるのに時間を費やしたことで大変読みやすくなった。そのため次年度は、今年度蓄積したデータを分析し調査研究を進めることがスムーズにできる。また蓄積したデータはデータベースの公開を行う予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	今年度は、和訳のリライトをする必要があり、データベースの公開に至らなかった。来年度は速やかにデータベースを公開する予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-12
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12）宮廷工芸に関する物質文化的研究（科学研究費補助金）（(5) -①）

【事業概要】
本研究は、日本の宮廷で用いられた建築・服飾・調度品などの工芸資料について、生活様式を反映する物質文化の見地から研究し、公家階層の生活様式に基づいた宮廷工芸の分類体系を構築するものである。本研究は、日本の公家階層が用いた宮廷工芸という特定事例を対象とするが、その成果は、歴史研究の物質文化的側面を深化させて、人間の生活感を反映する歴史の構築に資する工芸史研究の試論とすることを念頭におく。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹

【スタッフ】
猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員）

【主な成果】
本年度は、東京国立博物館、宮内庁書陵部、国立公文書館、葵祭行列保存会、北京故宮博物院を中心に調査し、その調査内容に分析と考察を加えたものを発表した。発表内容は次の通り。「日本宮廷生活文化的伝承　―以賀茂祭為中心―」（非物質文化遺産保護「東亜経験」国際学術研討会（平成 23 年 7 月 16 日　中国四川省 四川音楽学院綿陽芸術学院）、「清朝の礼制文化」（東京国立博物館特別展『北京故宮博物院 200 選』図録　平成 24 年 1 月 2 日）。

【年度実績概要】
１、東京国立博物館所蔵資料の調査
東京国立博物館が所蔵する大嘗祭を中心とする宮廷関係資料のデジタル撮影を行なった。
２、宮内庁書陵部所蔵資料の調査
宮内庁書陵部が所蔵する大嘗祭・賀茂祭・春日祭・石清水臨時祭・京都御所調度類を中心とする宮廷関係資料の複写を行なった。
３、国立公文書館所蔵史料の調査
国立公文書館が所蔵する大嘗祭・京都御所調度類・宮廷年中行事を中心とする宮廷関係資料の文献複写を行なった。
4、葵祭行列関係資料の調査
葵祭行列保存会に赴き、葵祭（賀茂祭）の儀礼作法および服飾調度類に関する画像および動画の記録を行なった。
以上 1～4 の成果は、「日本宮廷生活文化的伝承　―以賀茂祭為中心―」（非物質文化遺産保護「東亜経験」国際学術研討会（平成 23 年 7 月 16 日　中国四川省 四川音楽学院綿陽芸術学院）において発表した。
5、北京故宮博物院の調査
東京国立博物館特別展『北京故宮博物院 200 選』にかかる調査の知見を本プロジェクトに援用することで、研究内容に幅と深みを出した。その成果は、「清朝の礼制文化」（東京国立博物館特別展『北京故宮博物院 200 選』図録　平成 24 年 1 月 2 日）に執筆し、また平成 24 年 1 月 8 日に講演会を行なった。

【実績値】
調査回数　10 回
データ収集件数　画像 2,134 カット、動画 12GB 分
研究発表件数 2 件
論文掲載件数 1 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-12

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	データ収集件数	研究発表件数	論文掲載件数		
判定	S	S	S	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査回数を重ねながら収集したデータに基づき、研究発表を行なっているため。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	計画通りの調査を進行させるとともに、当初は計画外であった中国の宮廷文化についても視野におさめた研究が深まったため。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-13
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	13）日本近世実景図研究（(5) -①）

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する実景図を中心に、館外の実景図も視野に入れ、作品調査・実地調査・文献資料に基づき研究することにより、近世における実景表現の制作態度を明らかにする。日本絵画の実景表現を広く東アジアの中で捉えるため、中国絵画・朝鮮絵画も研究の対象とし、その影響関係を探る。特集陳列（平成 25 年度開催予定）としての公開として寄与できる研究を目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室長　田沢裕賀

【スタッフ】
大橋美織（調査研究課絵画彫刻室任期付研究員）平成 23 年 9 月 30 日迄

【主な成果】
本年度は、東京国立博物館所蔵実景図作品を中心に検討・調査を行うとともに、館外の作品に関しても調査を依頼した。特に長崎・大分での調査に同行できたことは、本研究にとって大きな進歩となった。
本プロジェクト責任者であった大橋美織が 9 月末をもって静嘉堂文庫美術館へ異動したため、田沢裕賀がプロジェクトを引き継ぎ、スタッフである大橋とともに研究を継続させることとなった。

【年度実績概要】
◎　作品検討及び調査
東京国立博物館所蔵品のうち、特集陳列での公開意図に合った作品の選定及び調査を行った。
また、関連する作品について、館外作品の調査を行った。
特集陳列出品予定の画家・木下逸雲に関する研究プロジェクト（姫野順一氏・若木太一氏〈長崎大学〉、植松有希氏〈長崎歴史文化博物館〉）に参加し、本研究に有意義な指摘を受けた。
〔長崎・大分調査〕
・長崎歴史文化博物館
・大山寺、岳林寺、大超寺、広瀬資料館、咸宜園教育研究センター、個人宅
〔関西〕
・個人宅（兵庫）


谷文晁「公余探勝図巻」上巻のうち
（東京国立博物館蔵）


「真景図帖」のうち
（兵庫・個人蔵）

【実績値】
1．作品調査（館外）：2 回（兵庫、長崎・大分）
（館内の作品調査は、業務の合間に幾度にも渡って行ったため、正確な回数を出すことは難しい。）
2．実地調査、関連展覧会視察・情報収集：6 回（うち田原・台湾 各 2 回、長崎・大分 1 回、韓国 1 回）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-13

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
「東アジアの中での日本」という視点は、美術史研究の上でも近年特に活発化している。その視点を取り入れ、かつ実際の風景を描いた作品という一般の人にも馴染みやすいテーマで特集陳列を組むことが、本研究の特徴といえる。東京国立博物館所蔵品の中でも、今まで陳列されることのなかった実景図作品を公開し、その位置付けを『MUSEUM』等で報告することにより、近世絵画史研究へ寄与することができる事業となると考えている。

2．定量的評価

観点	作品調査	実地調査				
判定	A	B				

備考
今年度予定していた耶馬渓への調査を行うことができなかったため、実地調査はＢとした。
しかし、昨年度からの課題であった九州・関西での作品調査を行えたことは、本研究を大きく進捗させた。東京国立博物館所蔵品の作品調査と合わせ、今年度の主な予定であった基礎的な作品調査は、概ね実行することができたと考える。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、平成 25 年度特集陳列に向けての継続的な研究であり、今年度は主に前年度から引き続き基礎調査に比重を置くことを予定していた。そのため、館内の実景図作品の調査が順調に進んだことは望ましいことと考える。また、館外の作品調査に関しても、諸氏御協力のもと、多くの作品を拝見できたことは大きな収穫であった。 プロジェクト責任者であった大橋の異動に伴い、年度の後半に関して進捗がまま遅れたことは否めないが、異動先の作品を含め、今後より広範囲の作品を視野に入れた研究が期待できる。来年度はより計画性を持って調査研究にあたることが必要といえる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	途中、プロジェクト責任者の異動はあったものの、引き継ぎを行うことにより、今年度の予定はある程度順調に消化された。来年度は、今年度以上に計画的に予定を立て、平成 25 年度に成果の報告としての展覧会が開催できるよう準備を進める。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-14

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	14）古筆切紙背の史料学的研究（科学研究費助成金）（(5)－①）

【事業概要】

筆切の紙背（裏面）には、典籍や記録の断簡が見られることがある。判読の困難という要因もあり、これまで学術的に注目されることがほとんどなかったが、デジタル画像処理技術の普及によって、紙背の内容を把握することが可能となってきた。この研究は、既知の手鑑等に収載されて伝わった希少な古筆切の中から紙背を持つものを集成し、その史料学的な評価と研究の方法を確立することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田良島　哲

【スタッフ】

田良島　哲（調査研究課長）、島谷弘幸（副館長）

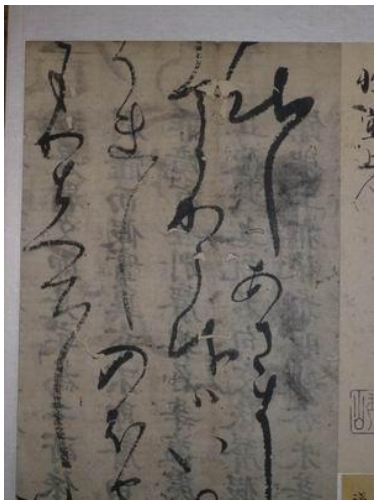
【主な成果】

古筆切の紙背に文字等が記述されている事例を抽出し、形態及び判読によって内容を推測して、どのような典籍や文書が古筆切の紙背に出現するかを考察した。特に同一手鑑に貼り込まれた複数の消息切（書状）が、実は紙背に同じ典籍が書写されていることが判明し、特定の典籍を解体して、裏面に書かれた書状類を「古筆」として手鑑の各所に貼り込む場合があることを確認できた。

【年度実績概要】

＊九州国立博物館所蔵の古筆手鑑 1 件及び当館所蔵の古筆手鑑 2 件について、全丁の高精細画像撮影を行い、基礎的なデータを取得した。その中から紙背に記述のある資料を抽出した。

＊すでに刊行されている影印本等に掲載された古筆切資料の中から、紙背に記述のあるものを確認し、その内容について検討した。



本研究で確認した紙背のある消息切（書状の断簡）

【実績値】

画像作成：274 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-14

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	画像作成件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	古筆切紙背に関する既存の情報の集約をおおむね行うことができた。また、館蔵品及び国立文化財機構内の施設が所蔵する手鑑の原品についても一部を調査することができ、成果を得た。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査の順序は前後するが、所期の情報収集は順調に進んでいる。次年度は外部の機関が所蔵する手鑑等の原品について、可能な限り実見の機会を得るように努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-15

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	15)近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金）((5)－①)

【事業概要】

本研究は、近現代に形成された古日本染織コレクションがいつ、どのような形態のものが、どのような経路で、どのような形状の変化を伴いながら移動し、コレクションとして集積されたのかを調査することによって、染織史研究の基盤となる古日本染織コレクションの形成過程を明らかにし、古日本染織が近現代に形成された美術史の中でどのように価値付けられたのかを明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉

【スタッフ】

小山弓弦葉(学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員)

【主な成果】

本年度は、昨年度調査に引き続き、洋画家・岡田三郎助が蒐集した古染織（時代裂）コレクションの内、現在埼玉・遠山記念館に所蔵されている資料、および、ボストン美術館に所蔵されるビゲローの古日本染織コレクション、ロサンジェルス・カウンティ美術館に所蔵される在米個人コレクターが蒐集した江戸時代の日本の袈裟コレクション、建築家フランク・ロイド・ライトが蒐集した古日本染織裂コレクションを調査し、明治後期から大正初期にかけて国内外で蒐集された古日本染織コレクションのデータを集積し、その傾向等の分析を行った。

【年度実績概要】

本年度は、昨年度に引き続き、洋画家・岡田三郎助が蒐集した古染織（時代裂）コレクションの内、現在、埼玉・遠山記念館に所蔵される古染織コレクションを調査し、その画像付きデータベースをファイルメーカーで作成した。調査内容は、小裂のほとんどは画像がないため、新規撮影を行って画像で閲覧可能なデータの集積を目指した。また、データの集積の能率化をはかるため、遠山記念館より同コレクションの所蔵リストや目録を提供いただき、それらの基礎資料を元にリストをデータ化するとともに、コレクションの全容を調査しその形態や形態の変化、墨書やラベルといった記録を中心に調査を行った。

また、日本国内における古染織コレクションの主要を占める、岡田三郎助コレクション（遠山記念館・松坂屋所蔵）、野村正治郎コレクション（国立歴史民俗博物館所蔵）、吉川観方コレクション（奈良県立美術館・京都府京都文化博物館・福岡市博物館所蔵）とほぼ同時期に蒐集された海外のコレクターによる古日本染織コレクションの調査も、本年度から開始した。6 月にはボストン美術館に所蔵されるビゲローコレクションの内、能装束コレクションに関する情報収集を行った。また、平成 24 年 1 月には、ロサンジェルス・カウンティ美術館にある、個人染織コレクターが明治～大正期に蒐集した古日本染織コレクションの内、特にこれまでに公開されてこなかった江戸時代の袈裟のコレクション約 110 件の内 70 件あまりを調査し、写真を撮影して記録した。また、アリゾナ州スコッツデールにあるフランク・ロイド・ライト・アーカイブスにおいて、フランク・ロイド・ライトが蒐集した古日本染織コレクション 87 件を調査・写真撮影し、蒐集に関する資料を調査した。以上により、在米のコレクターが山中商会や古美術商・野村正治郎を通じて作品を購入したことが判明し、その時期や経緯についても明らかになりつつある。また、日本にある古日本染織コレクションとの関連性についても調査が可能となった。

以上の調査で得た写真および調査内容はファイルメーカーに画像と連動させて入力し、今後の研究の基盤となるデータとした。また、来年度以降調査を行う予定の旧吉川観方コレクション、旧長尾欣弥コレクション（旧鐘紡コレクション・文化庁および女子美術大学付属美術館所蔵）についても、関連図書に記載されるデータを元にファイルメーカーにデータを入力し、次年度以降の調査に備えた。

これらの調査結果から得られた研究成果の一部は、『「辻が花の誕生」―〈ことば〉と〈染織技法〉をめぐる文化資源学』（東京大学出版会）より本年度 3 月末に刊行した。

【実績値】

データ集積件数　1,810 件

内訳

ロサンジェルス・カウンティ美術館所蔵古日本染織コレクションデータ（調査データ入）　71 件

フランク・ロイド・ライト旧蔵古日本染織コレクションデータ（調査データ入）　87 件

岡田三郎助旧蔵古日本染織コレクションデータ（調査データ入）　216 件

吉川観方旧蔵古日本染織コレクションデータ（未調査分）　302 件

長尾欣弥旧蔵古染織コレクションデータ（未調査分）　1,134 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-15

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	データ集積件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、昨年に引き続き、近代に形成された古日本染織コレクションの主要な一つである岡田三郎助のコレクションと、在米の海外コレクターによって蒐集されたコレクションとを調査し、コレクションのデータを集積することによって、ほぼ同時期に形成された国内外における古日本染織コレクションの比較研究が可能となった。次年度以降も同様の手法によって、順次、近代コレクターの古日本染織コレクションのデータを集積し比較検討資料をさらに充実させたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	近代の日本人コレクターによって蒐集された主要なコレクションは、今回データを集積した岡田三郎助の他に、古美術商である野村正治郎、実業家・長尾欣弥、実業家・根津嘉一郎、日本画家・吉川観方などがあげられるが、次年度以降は、同様の手法によって、日本のコレクターによるコレクションの調査を進めたい。さらに、海外に流出し、蒐集されることになったコレクションの内、在米のコレクションの一部を調査したが、アメリカ国内にはまだ、これまで調査されていない古日本染織コレクションがある。それらの多くは山中商会や古美術商・野村正治郎によって売買されたと考えられるが、来年度は、アメリカだけではなくヨーロッパ方面についても調査を進め、より幅広い視野で古日本染織コレクションの形成過程を概観できるよう、情報の集積を図りたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-16
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	16）絵巻の＜伝来＞をめぐる総合的研究（科学研究費補助金）　((5)－①)

【事業概要】
本研究は、絵巻の研究を従来顧みられることのなかった伝来や鑑賞歴といった作品の付属情報から捉え直し、推進する。研究にあたっては、絵巻の伝来、鑑賞歴に関わる情報を収集・蓄積した上で、絵巻が今日に至るまでにどのような軌跡を経て伝世したのかという、各作品の通時的な歴史性に配慮し、絵巻という媒体全体を視野に入れた総合的な分析を行うことを最終的な目標として設定する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室研究員　土屋貴裕

【スタッフ】
土屋貴裕（調査研究課絵画・彫刻室研究員）

【主な成果】
本年度は、絵巻の伝来、鑑賞歴といった情報を収集するため、まず、古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化を進めた。また、東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査に着手し、主に近世に制作された模本から作品所蔵情報を得る基盤を整えた。同時に、近代における作品の移動等に関する情報を収集するため、東京文化財研究所所蔵の売立目録の調査を開始し、そこに記載された情報のデータ化を進めた。

【年度実績概要】
①文献資料記載絵巻関係資料の抜き出しとデータ化
本研究が主な対象とする古代中世絵巻の伝来、鑑賞情報を得るためには、日記、古記録等の文献資料を博捜し、そこに記載された本文を整理する必要がある。抜き出しにあたっては、絵巻のみならず仏画、肖像画、屏風等、絵画関係の記事をピックアップし、本年度はおよそ 40 タイトルの文献資料から約 400 件の記事を抜き出し、データ化した。

②東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査準備
絵巻模本の多くは近世に作られたが、その制作に際して、所蔵者や伝来等の情報が記されている場合がままある。本研究では、東京国立博物館所蔵絵巻模本の悉皆調査を目指し、目録の整理、撮影、所蔵者や伝来、模写者等の情報を収集すべく、模本リストの整理に着手した。

③売立目録の調査
①と②が前近代における絵巻情報の収集と整理であるのに対し、近代における作品の移動等を追うため、売立目録に記載された絵巻の調査を進めた。とりわけ、東京文化財研究所には国内有数の売立目録が所蔵されており、その全てから、絵巻を中心とするやまと絵の情報を抜き出し、ＰＤＦ化を進める準備を整えた。本年度は 150 件ほどの目録から 110 点の情報を抜き出した。

【実績値】
絵巻伝来関係資料の抜き出し（未データ化含む）　約 500 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-16

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	関係資料の抜き出し					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、文献資料記載絵巻関係資料の抜き出しとデータ化、売立目録の調査という、本研究推進にあたっての基礎作業を着実に進めることが出来た。また、絵巻模本の悉皆調査に先んずる事前の整理・調査も効率的に行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は絵巻の研究を作品のみならず、その付帯情報から総合的にとらえるべく進めてきたが、研究開始当初の計画に沿ったデータ収集を行うことができた。また、絵巻模本の調査もリストはおおむね整理することができたため、次年度以降、リストと作品との照合、撮影に取り組む。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-17

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	17）狩野晴川院養信による寺社宝物摸本の基礎的研究（学術研究助成基金助成金）（(5)-①）

【事業概要】
本研究は、東京国立博物館（以下、東博）が所蔵する木挽町（こびきちょう）狩野家伝来の模本類（下絵、地取など含む）のうち、寺社の宝物を模写した全資料の基礎的調査を実施し、江戸時代後期の木挽町狩野家当主・晴川院養信（せいせんいんおさのぶ）とその弟子達の活動を明確にすることを目的とする。さらにこれに関連して、木挽町狩野家伝来模本類を含む東博所蔵の全模本、下絵、スケッチ等資料のデータベースを制作・公開する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課アソシエイトフェロー　安藤香織

【スタッフ】
安藤香織（列品管理課アソシエイトフェロー）

【主な成果】
本年度は東博が所蔵する木挽町狩野家伝来の模本類について研究を進めるにあたり、基礎的な情報収集と整理を実施した。具体的には、資料分類 P（歴史資料）と資料分類 A（絵画）に属する膨大な資料類から、木挽町狩野家伝来の模本類を特定する作業をし、かつ寺社宝物の模本と判明した資料について撮影を実施した。また木挽町狩野家伝来模本類を含む東博所蔵の資料類データベース公開に向け、情報処理とシステムのアレンジを進めた。

【年度実績概要】
1、養信一門による寺社宝物模本の特定、撮影
木挽町狩野家伝来の模本類は、歴史資料分野（東博資料分類 P）と絵画分野（同 A）とに属している。このうち歴史資料分野に属するものについては、目録の情報などをもとに、木挽町狩野家伝来の寺社宝物模本を特定し、デジタル撮影を実施した。また、絵画分野に属する模本類約 7,500 件（約 11,110 点）に関しては、木挽町狩野家伝来のものと明治以降に制作された模本類とが混在しているため、調査と情報整理を進め、各模本に記された模写者名や模写年月日などの文字情報と、受入（購入）時の台帳の情報などの分析により、木挽町狩野家伝来の模本類を特定する作業を実施した。以上により寺社宝物模本と判明したものについては、必要に応じてデジタル撮影を行った。デジタル撮影は撮影協力者 1 名に依頼した。以上の特定作業と撮影は、半数以上を終了した。

2、データベース作成に付随する諸準備
東博所蔵の模本類（模本、下絵、地取など資料）のデータベース公開に向けては、協力者 1 名を頼み、データ整理を進めた。それと同時に、博物館情報課各位からのアドバイスも参考にしつつ、一般用にも研究用にも利用できるデータベースを目指して、より良いシステムを検討しつつ、既存のシステムのアレンジを進めた。また、木挽町狩野家の活動全体を明らかにしたいという本研究の目的を考えると、資料の側からだけでなく、制作者からも検索できることが望ましいため、制作者名の一覧も作成しているところである。そのためには各模本に記された模写者名を集め、同一人物を統合し整理する必要があり、数百人分のデータ整理をしなくてはならないが、現段階では約半数を終えたところである。データベースは来年度の公開であるが、本年度中に小規模なデータ量でテスト運用をし、実際の使用に向けて改善点の洗い出しをした。



撮影画像のうち、P-2213 紋錦旗模抜写

【実績値】
調査・撮影日数： 5 日
撮影件数：15 件
撮影カット数：122 カット

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-17

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	B	A	A	B	B

備考

東京国立博物館が所蔵する模本等の資料には貴重なものが多く、これらの基礎的研究と情報の公開は、江戸時代から明治時代まで、幅広い時代の絵画史研究に役立つことが見込まれるため、適時性および発展性はＡとした。また、作業協力者に撮影やデータ整理、システムのアレンジ等を依頼しており、効率よく作業を進められているため、効率性はＡとした。この他の項目については、現段階では研究途中であり評価し難いが、本年度中の作業目標は達成されているためＢとした。

2．定量的評価

観点	調査・撮影日数	撮影件数	撮影カット数			
判定	B	A	A			

備考

最低限の撮影日数は確保できたため、本年度分の撮影件数は十分達成された。撮影カット数は撮影件数に対して妥当な量である。データベース用のデータ量はかなり多いが、作業協力者によってデータ整理が行われ、本年度中の成果としては十分なものが得られた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	木挽町狩野家に伝来した寺社宝物の模本の研究に関わる資料の調査・撮影のうち、半数強を終えた。データベースについてもデータ整理やシステムのアレンジなど準備を進めることが出来た。以上の作業については、今年度分を順調に完了したと思われる。次年度は撮影やデータ整理等の作業を引き続き実施した上で、これらを調査報告としてまとめ、データベースを公開する。より一層充実した研究とすべく、効率的に実施していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究の達成までに必要な作業工程のうち、本年度分は順調に完了した。次年度は本年度の成果を基盤として研究を進め、成果を社会に還元できるよう努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-18
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	18)黒耀石の獲得と消費からみた完新世初期人類社会の形成過程(学術研究助成基金助成金)((5)－①)

【事業概要】
本研究では、更新世末から完新世初期における社会の複雑化の過程を考察するために、日本列島中央部地域を対象として、人類の資源開発行動に関するモデルを構築する。本研究の特色は当時の主要な資源の一つである黒耀石に着目し、原産地の開発の様相と消費地での分布状況とを総合的に理解するための枠組みを構築できる点にある。特に、東京国立博物館所蔵の長野県諏訪湖底曽根遺跡採集の資料等を対象に基礎研究を実施し、その成果を公開する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課アソシエイトフェロー　及川　穣

【スタッフ】
及川　穣（列品管理課アソシエイトフェロー）

【主な成果】
今年度は主に、東京国立博物館所蔵の長野県諏訪湖底曽根遺跡採集の資料を中心に基礎研究を実施した。分析項目は、写真撮影、石材判別、器種分類、形態分類、法量計測、黒耀石製石器の蛍光 X 線分析装置（EDXRF）による元素組成測定。
その他の資料調査については、東京大学大学院情報学環社会情報研究資料センター所蔵の坪井家資料、大分県九重町二日市洞穴、長野県下諏訪町和田峠原産地周辺遺跡、静岡県伊東市柏峠原産地周辺遺跡の資料調査を実施した。

【年度実績概要】
東京国立博物館所蔵の諏訪湖底曽根遺跡採集石器全点（110 点）について、写真撮影と石材判別、器種分類、形態分類、法量計測の基礎データ整理を完了した。さらに、黒耀石製石器と黒曜石原石 52 点について東京国立博物館学芸研究部保存修復課の蛍光 X 線分析装置（EDXRF）を稼働して元素組成を測定し、産地推定のためのバックデータを完成させた。
東京国立博物館特集陳列「石に魅せられた先史時代の人びと」（平成 23 年 8 月 2 日～10 月 31 日）において、館所蔵の長野県諏訪湖底曽根遺跡採集資料を中心にその研究成果を公開した。また、展示に利用した 3D 閲覧技術による石器製作過程の理解と可視化の方法について研究発表をおこなった。さらに黒曜石原産地開発にかかわる研究論文を執筆した。
及川　穣　平成 23 年 8 月 1 日「石器に込められた太古の想い　特集陳列「石に魅せられた先史時代の人びと」」『東京国立博物館ニュース』第 708 号　東京国立博物館　p9、井上洋一・品川欣也・及川　穣・河内晋平・森田正彦　平成 23 年 8 月 2 日『特集陳列　石に魅せられた先史時代の人びと』（展示リーフレット）　東京国立博物館　全 4 頁、Oyokawa Minoru, Kawachi Shinpei, Morita Masahiko, Kosuge Masao, Shinagawa Yoshiya, Inoue Yoichi, Yokoyama Shin, Chiba Fumito 2011.11.27 “Media Art and Archaeology: Special attention on how to understand the technique of lithic reduction sequences from stereoscopic 3D” The 4th Annual Meeting of the Asian Palaeolithic Association：National Museum of Nature and Science, Tokyo p117、及川　穣　平成 24 年 3 月 31 日「黒耀石地下採掘活動の起源と縄文文化の形成過程」『リバティアカデミーブックレット　明治大学黒曜石研究センター公開講座　黒曜石をめぐるヒトと資源利用』明治大学リバティ・アカデミー　p37-44、及川　穣　平成 24 年 3 月 31 日「旧石器時代後半期における黒耀石原産地開発の一様相―杉久保型ナイフ形石器の製作技術と和田群黒耀石の獲得と消費―」『資源環境と人類』第 2 号　明治大学黒耀石研究センター　p15-35。

【実績値】
基礎データ整理件数　110 点
蛍光 X 線分析件数　52 点
研究発表　1 回
論文等本数　4 本（論文発表 1 本、一般向け普及書 1 本、博物館ニュース（展示案内）1 本、展示リーフレット 1 本）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-18

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考

東京国立博物館所蔵の考古資料は、研究史的に重要な資料が多い。しかし、これまで先史時代の列品のうち石器資料については目録等の刊行は無く、その基礎研究と公開は十分でない。そのため本研究で基礎研究を実施し、その成果を刊行物や展示により公開していくことは重要であると考えられ、独自性はＡとした。特に今年度は、東京国立博物館特集陳列による成果公開を実施できたため、適時性と発展性はＡとした。また、作業協力者にデータ整理等を依頼しており効率良く作業を進められているため、効率性はＡとした。継続性と正確性については今年度の作業目標は達成されているため、Ａとした。

2．定量的評価

観点	基礎データ整理件数	蛍光Ｘ線分析件数	研究発表回数	論文等本数		
判定	A	A	A	A		

備考

基礎データ整理件数と、蛍光Ｘ線分析装置（EDXRF）による元素組成の測定件数について、今年度の作業目標を達成している。蛍光Ｘ線分析は、産地推定のためのバックデータを完成させた。
研究発表回数と論文等本数も十分に目標値を達成した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東京国立博物館所蔵の長野県諏訪湖底曽根遺跡採集資料の基礎研究と、その他の資料調査、さらに展示や研究発表、論文執筆による成果公開など、計画通り実施できている。次年度には、諏訪湖底曽根遺跡採集石器全点（110 点）の図化作業と、黒耀石製石器の残りの 48 点について蛍光Ｘ線分析装置（EDXRF）による元素組成の測定を実施し、基礎研究を完了することができる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	基礎研究と資料調査、さらに展示や研究発表、論文執筆による成果公開など、計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成している。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-19
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	19）東京国立博物館所蔵国際交流史料データベース（科学研究費補助金・研究成果公開促進費）（(5) －①）

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する日本書跡、和書、などの異なる分野に分類された明治時代までの 1,000 点余りにのぼる文献史料の書誌情報、史料解題、全撮影された史料の高精細画像データからなるデータベースを構築し、東京国立博物館 Web ページ上のリンクである「東京国立博物館情報アーカイブ」(http://webarchives.tnm.jp/archives/での公開を目的とする研究。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課書跡･歴史室主任研究員　髙梨　真行

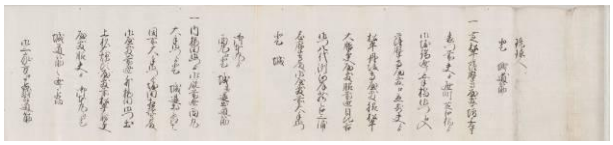
【スタッフ】
髙梨真行(調査研究課書跡・歴史室主任研究員)、三輪紫都香(学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー)

【主な成果】
当館所蔵の史料の内、平安時代後期に活躍した天台僧円珍の入唐中に中国・唐の地方役所と円珍自身や大宰府などの官衙との間で取り交わした文書と、江戸時代の江戸幕府と朝鮮王朝間の外交である朝鮮通信使や琉球王府の接待に関する記録類や書契について調査・研究を実施し、研究成果を解題としてまとめ、史料の全撮影を実施して、解題・書誌データ・史料撮影画像を当館の Web ページ上の「東京国立博物館情報アーカイブ」(http://webarchives.tnm.jp/archives/で公開した。

【年度実績概要】
当館の書跡および和書に分類される列品の内、東京国立博物館が所蔵する日本書跡、和書、歴史資料などの異なる分野に分類された明治時代までの 1,000 点余りにのぼる中国・朝鮮半島と日本との関係の変遷を跡付けられる文献史料の画像を中心とするデータベースを作成した。
〈対象〉[書跡]B-2405 国宝　円珍関係文書の内から、円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書、充内供奉治部省牒、円珍戒牒、大宰府公験、福州公験、台州温州公験、大宰府公験、大友氏屈請、円珍自筆書状、B-1751～B-1753 朝鮮人来聘覚書、B-1788 朝鮮聘使来朝覚書、B-1789 琉球使参府覚書、[和書]QA-1471 朝鮮信使来聘記録、QB-1248-01 朝鮮国関係諸記録、QB-3299 朝鮮信使記録
〈対象史料の書誌・歴史的考察〉
上記史料について調査内容に基づき解題を作成した。
〈調査の実施〉
データベースに掲載する項目についての調査を行った。
平成 23 年 4 月 27 日(水)に史料選定調査を、6 月 1 日(水)、12 日(日)、9 月 14 日(水)にデータベース公開項目についてデータ採取調査を実施した。
〈調査項目〉
史料名称、記載内容、法量計測、料紙材質、制作年代推定、表装形態の検討、史料解題、備考
〈史料撮影の実施〉
平成 23 年 5 月 1 日(日)、8 日(日)、18 日(水)、22 日(日)、25 日(水)、6 月 12 日(日)、15 日(水)、26 日(日)、8 月 17 日(水)、19 日(金)、21 日(日)、11 月 9 日(水)、20 日(日)、平成 24 年 1 月 18 日(水)に上記対象史料の全撮影を実施した。



B-2405 台州温州公験(国宝　円珍関係文書の内)



B-1789 琉球使参府覚書

【実績値】
調査日数:4 日間
撮影日数:14 日間
調査史料件数　7 件　B-2405 国宝　円珍関係文書(9 巻)、B-1751～B-1753 朝鮮人来聘覚書(3 巻)、 B-1788 朝鮮聘使来朝覚書(9 通)、B-1789 琉球使参府覚書(6 通)、 QA-1471 朝鮮信使来聘記録(1 冊)、QB-1248 朝鮮国関係諸記録(3 冊)、QB-3299 朝鮮信使記録(8 冊)　計 12 巻、15 通、12 冊
撮影カット総数:674 カット、データ量総計　約 1,800MB
解題テキスト数　約 4,000 文字分

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-19

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	B	B	B	A	A

備考
東アジア文化圏と歴史研究の現況を考えた場合、中国、朝鮮半島、東南アジアそして日本は時代的変遷を通じて多様な交流を行ってきた歴史を持つ。その歴史を研究する上で、環太平洋または東アジアというマクロな視点による共通の文化で包括した東アジア文化圏という概念が現在研究の中核となりつつある。また最近では「朝鮮王朝儀軌」の返還を巡る日韓外交上での時事問題など国内外の耳目を集めている。いわばそうした世界的なニーズに対応した、当該研究は一定の意義と評価を得られるものと判断される。

2．定量的評価

観点	調査日数	撮影日数	調査件数	撮影数	データ量	テキスト数
判定	B	A	A	A	A	B

備考
収蔵品より、書跡、和書（江戸期の刊本・冊子装）分類されている資料を抽出し、1 件（収蔵品単位）ごとに史料の全撮影を行ったことにより、各国所有史料の総合的分析と検討が必須とされる東アジア圏における歴史研究での史料公開促進につながったと考える。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は平安時代中期に中国・唐に渡って活躍し、帰国後我が国の天台宗の発展に寄与した円珍に関する入唐中の文書と江戸時代に日本と朝鮮との間で行われた朝鮮通信使に関係する史料や同じく江戸幕府と琉球王府との交流を示す文献を中心に公開を進めてきたが、この他にも当館館蔵品でこうした東アジア間外交に関連する史料の全貌が明らかになってきた。レベルの高まりつつある当該研究のニーズに対し、現体制での研究推進ではどうしても定量的な継続に限界があるため、次年度以降は一定度の研究水準を維持しながらも、研究成果として公開されるデータベースのレコード数の実績拡大に向けて方策を検討していく必要を感じた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	特に昨今の日中・日韓外交の進展に伴い、国内に所蔵される中国・韓国関係の文献史料に対する国内外の注目の高まりに対し、本データベースの公開はその流れに対応した事業で、史料閲覧による研究機会の均等を図り、東アジア文化圏での国際交流史研究への基盤を提供し得たものと考える。特に高精細画像のデータベースをインターネットで公開することにより、史料を利用した学際的な研究発展のための基盤整備を果たしたと判断される。その結果、国立博物館として世界に収蔵品の情報を発信し続けるという使命は本研究によっては一程度果しえたと考える。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-20

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	20）諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】
本研究では、諸先学による美術作品の調書・画像資料等の保存と活用のための研究・開発をめざす。その過程で、先行研究者が何に関心をもち、作品にどのように向かい合ったのかについての傾向について調査を行い、解明を目指す。加えて、対象となった作品そのものの情報(調書類・経年変化・修理・研究・展覧会などの情報)の蓄積・充実をはかり、公開・利用の手法開発を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室研究員　土屋貴裕

【スタッフ】
土屋貴裕（調査研究課絵画・彫刻室研究員）

【主な成果】
本年度は、日本の絵巻研究の第一人者である梅津次郎氏の自筆調書類、紙焼き写真類、研究資料類等の調査・研究を行なった。東京文化財研究所は梅津次郎氏の没後、1988 年と 2008 年の 2 度にわたり、氏のご遺族より研究資料の寄贈を受けたが、そのうち、本年度は 35 ㎜フィルムを中心とした画像資料の整理を進めた。前年度までにフィルムコンタクトシートの大半のスキャニングを終えたが、本年度は全フィルムのスキャニングを終え、さらに各フィルムを 1 コマずつ分割し、作品情報を付与した。モノクロの画像ながら現在は所在不明な作品も含まれ、今後、研究資料としての活用が大いに期待される。

【年度実績概要】
①35 ㎜フィルム等のスキャニング
梅津氏が研究資料として撮影した 35 ㎜フィルム、6×6 フィルム等の焼き付けコンタクトシートのスキャニングを終えた（約 600 シート）。また、フィルムを各カットごとに分割し、今後の利活用にそなえた（約 1 万カット分）。

②撮影作品リストの作成
各カットに分割した画像に対し、フィルム包材に記された作品名、所蔵者情報などをともに作品を同定し、棒目録を作成した。その際、梅津氏の自筆調書、日記等の検討もあわせて行なった。

③資料の公開へ向けた準備
各作品には現蔵者の明らかなもの、不明なもの、あるいは梅津氏調査時とは所蔵者が異なっている場合などがある。そのため、各画像を検討し、可能な限り現所蔵者情報を盛り込むべく、関連資料から検討を進めた。

【実績値】
梅津次郎氏蒐集 35 ㎜フィルム等のスキャニング　約 1 万カット

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-20

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	フィルム等のスキャニング					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	梅津次郎氏の自筆調書類、紙焼き写真類、研究資料類等の調査・研究を進めるにあたっては、梅津氏撮影の写真資料の整理が重要な一角を占める。本年度はその整理をほぼ終えることができたことは特筆される。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究の全体スケジュールのうち、梅津氏資料の整理の大半は終えることができた。次年度以降はこれらの資料を有機的に結び付け、その公開に向けた研究開発を進めていくよう努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-21
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	21）絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観に関する研究（科学研究費補助金）　((5)－①)

【事業概要】
本研究では、中世の人々の日常生活、労働、信仰、行事、儀礼、合戦の他、異国や異域、神仏化現の舞台となる「場」（型）を抽出・収集し、そこに描かれた建築や環境、多様な「もの」に、身分差や階層差がどのように描き分けられ、関連付けられているかを具体的に検証し、作品研究の深化と、物語絵画、とりわけ絵巻という媒体の歴史的特性を明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室研究員　土屋貴裕

【スタッフ】
土屋貴裕（調査研究課絵画・彫刻室研究員）

【主な成果】
本研究では中世絵巻に描かれた多様な「場」を「型」として捉え横断的に検討する。特に分担者は、異国（唐・天竺・蝦夷など）や異域（地獄・極楽・竜宮など)、そして神仏化現の舞台となる架空の「場」を構成する建築や環境、そしてそこで用いられる「もの」が、どのように「本朝」のそれと描き分けられ、関連付けられているのか、描かれた「場」の抽出・収集と分析をおこなった。今年度は特に「聖徳太子絵伝」、「清水寺縁起絵」の検討を進めた。

【年度実績概要】

①「聖徳太子絵伝」の研究
聖徳太子の伝記の中で、太子十歳条、敏達天皇十年に蝦夷鎮撫の説話が見えるが、この事跡は多くの聖徳太子絵伝でも描かれている。法隆寺献納宝物本、法隆寺献納宝物四幅本（嘉元 3 年、上野法橋・但馬房筆。いずれも当館蔵)、個人蔵本（当館寄託)、メトロポリタン美術館本などに描かれた「蝦夷」の図像の抽出と、そのイメージソースについて検討を進めた。

②「清水寺縁起絵」の研究
当館所蔵、全三巻「清水寺縁起絵」（土佐光信筆、永正 14 年。当館蔵）の調査を行ない、に描かれた「蝦夷」の姿、および表象の中の「異界」としての「蝦夷」の地について、関連作品とともに比較検討を進めた。

【実績値】
調査撮影件数　約 1,000 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-21

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査撮影件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本中世の異国や異界の表象分析を進める中で、中世を通じて描き継がれた「聖徳太子絵伝」、中世後期の絵所において描かれた「清水寺縁起絵巻」は重要な作例とみなしうる。その撮影をともなう調査をまずは終えた。これらをもとに、次年度は関連作品の調査研究へと、その研究対象を広げていく基盤を整えることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究期間三年のうちの二年目に当たる本年度は、対象とする研究課題のコアとなる作品の基礎調査と分析を効果的に進めることができた。最終年度の成果提示に向けて、さらなる調査研究を進めたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-22

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	22）草創期の磁器における『和様化』の背景について　（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）（(5)－①）

【事業概要】
本研究では、17 世紀前半頃までの草創期の磁器の周縁に着目し、①国内で初めての磁器づくりに及ぼされた国外からの影響を朝鮮、中国のみならず広くアジア全体の交流史のなかに位置づけ、②国内における磁器の受容と、「和様化」と呼ばれる独自性が確立されていく背景について、やきものと関わりの深い茶の湯を中心に据え、茶陶の調査・研究を実施する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室研究員　横山梓

【スタッフ】
横山梓（学芸企画部企画課特別展室研究員）

【主な成果】
初期伊万里作品を中心として、館内収蔵品および他機関（九州陶磁文化館、九州国立博物館、大和文華館）の収蔵品の熟覧調査を実施。九州では、大川内、高取の窯跡を訪問し伊万里焼周縁について見知を深め、研究分析を進めた。

【年度実績概要】
1．館内収蔵品の調査
G-5854　瑠璃地染付蓮図指　ほか
※G-5854 については、東京国立博物館研究誌「MUSEUM　№632」（平成 23 年 6 月刊）に資料紹介論文を掲載
2．他機関における熟覧調査
平成 24 年 2 月　九州陶磁文化館　　染付山水文水指（佐賀重要文化財）　ほか
九州国立博物館　　初期伊万里染付草花文大鉢　ほか
平成 24 年 3 月　大和文華館　　染付唐草文水指　ほか
水指など茶陶にかかる初期伊万里作品を中心に、唐津、古染付など関連する作品について熟覧調査を実施。
3．窯跡等現地見学
大川内鍋島藩窯公園、高取永満寺宅間窯跡、内ヶ磯窯跡
4．研究分析
熟覧調査の結果をふまえ、研究論文としてまとめるため執筆準備を進めている。


九州陶磁文化館蔵


大和文華館蔵

【実績値】
調査作品件数　約 30 件
調査作品の撮影件数　約 150 枚
研究論文　1 本

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-22

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	B	
備考						

2．定量的評価

観点	調査作品件数	調査作品の撮影件数	研究論文			
判定	B	A	B			
備考 年度内に新たな論文をまとめられるだけの作品調査件数には、少し足りない面があった。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究助成金は 23 年度限りのものであるが、来年度以降も継続して調査、研究分析を実施していくことにより成果をまとめられるものと考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	採択と研究費の執行が遅れたことから、プロジェクトへの着手も当初予定より後倒しとなり、計画の一部を変更することとなった。23 年度限りの助成金ではあるが、研究を継続的に進めて行くことで達成に至るものと考える。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-23

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	23）古筆切の発生とその鑑賞に関する基礎的研究（メトロポリタン東洋美術研究センター東洋美術研究振興基金）（(5)－①）

【事業概要】
本研究は、古筆切（平安時代から鎌倉時代の間に書写された和歌、漢詩、物語等の断簡）の成立、その受容と鑑賞がいつどのように行われていたかを明らかにすることを目的とし、そのための基礎的データを収集する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー 恵美　千鶴子

【スタッフ】
恵美千鶴子（調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
古筆切の本紙および附属の鑑定札に関する総合的なデータを収集した。あわせて、日記類などから古筆切に関連する記述を抜き出し、データ化を進めた。一部、東京国立博物館所蔵作品の鑑賞の歴史を示す資料を調査し、研究分析を進めた。

【年度実績概要】
1、古筆切に附属する鑑定札の撮影
主に東京国立博物館所蔵作品を中心に、古筆切に付属する江戸時代から明治時代にかけて作成された鑑定札の撮影を行った。鑑定札の筆者を特定するためにも、原寸複製できるような撮影を実施した。
また、その撮影データを、古筆切本体のデータに関連づけて整理した。
2、古筆切の鑑賞に関するデータの収集
古筆切の鑑賞を示すような、歴史的資料の収集を行った。
（例：『権記』、『実隆公記』、『隔蓂記』、『大正茶道記』、『茶道漫録』など）
さらに、それらの資料のうち、古筆切の鑑賞に関連する箇所の抜き出し、データ化を進めた。
3、他機関への調査
古筆切の鑑賞の歴史を調査するために、京都・今日庵文庫への出張調査を実施した。
調査内容については、データ入力を進めた。
4、研究分析
古筆切の鑑賞に関する資料の収集により、東京国立博物館所蔵作品の鑑賞に関する研究分析を進めた。研究論文として発表すべく、執筆を進めている。



鑑定札の撮影

【実績値】
・鑑定札の撮影件数 約 50 件
・鑑賞に関する資料の収集件数　約 15 件
・鑑賞に関する資料のデータ入力　約 30 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-23

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
本研究については、本年度始めたばかりであり、今後も継続していくことを予定している。東京国立博物館が所蔵する古筆切に付属する鑑定札のデータ化という点については、オリジナリティが高いと認識している。また鑑定札の撮影に関しては、通常の業務に合わせて行うことができるため、効率性も高いと言える。

2．定量的評価

観点	撮影件数	資料の収集件数	資料のデータ入力件数			
判定	A	B	B			

備考
古筆切に付属する鑑定札の撮影については、効率よく進めることができ、撮影件数も充分であったと言える。資料の収集やそのデータ化については、もう少し増やしたかった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本助成金による調査は、通常の業務に合わせて遂行することで、効率性も上がり、データの収集に関して成果を残すことができた。データをさらに収集して、データ公開について検討をするとともに、分析研究の成果を刊行物などで公開していく方針である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究助成金は本年度限りのものであるが、調査の方法を確立し、効率的に進めることができるために、次年度以降も継続可能なものとなった。別の補助金などもあわせながら、継続して調査を進めることを計画している。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-1

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)訓点資料としての典籍に関する調査研究（科学研究費補助金）　((5) - ①)

【事業概要】

訓点資料のうち、中国・元時代、至元 28 年（1291）の「紺紙金銀字華厳経」4 帖の見返し及び本文に付された角点に関する調査研究を実施した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　赤尾栄慶

【スタッフ】

〈当館研究者〉赤尾栄慶(上席研究員)、羽田　聡(研究員)
〈客員研究員〉宇都宮啓吾（学芸部・客員研究員）

【主な成果】

中国・元時代、至元 28 年（1291）の「紺紙金銀字華厳経」4 帖の見返し及び本文を詳しく調査した結果、見返し絵の下書きとして角筆を用いた痕跡を確認し、本文にも角筆でつけた角点の存在を確認した。従来から、角点については、加点時期が特定できる資料が少ないだけに大変、重要な発見となった。

【年度実績概要】

中国・元時代、至元 28 年（1291）の「紺紙金銀字華厳経」4 帖の見返し及び本文を詳しく調査した結果、見返し絵の下書きとして角筆を用いた痕跡や角筆でつけた角点の存在を本文の箇所でも確認した。従来から、漢字文化圏の古写経に付された角点については、その加点時期が特定できる資料が非常に少ないことから、この発見は、大変、重要なものとなった。

この成果の一部は、作品研究「元時代・至元二十八年の華厳経―角筆の使用を確認―」(『学叢』33 号）というかたちで報告をし、今後は日中韓という漢字文化圏相互の関連についての検討が必要となっている。

また、韓国の口訣学会の研究者とは、7月と2月の2回にわたって交流を行い、意見交換を行った。

【実績値】

○調査　　10 回
○国際交流　2 回（7 月、2 月）
○報告執筆　1 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
古写経の訓点に関して、日本・韓半島・中国という漢字文化圏を視野に入れた研究は、非常に有益であり、本文のみならず、見返し絵の下絵に関する調査も、当館の客員研究員にふさわしい成果である。

2．定量的評価

観点	調査	国際交流	報告			
判定	A	A	A			

備考
基本的に毎月 1 回の調査日を設定し、調査及び意見交換会を実施している。
韓国の口訣学会の研究者と 2 回にわたる意見交換を行った。
成果の一部は、作品研究「元時代・至元二十八年の華厳経―角筆の使用を確認―」（『学叢』33 号）というかたちで報告をした。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	書写年代が明らかな中国の古写経に付された角筆点を発見したことは、非常に重要であり、訓点語学会を中心とした研究者から注目を集めている。韓国・口訣学会との交流をさらに深めていく必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	館蔵品を中心とした訓点資料を順次、調査し、日本・韓半島・中国という漢字文化圏を視野に入れた研究へと発展し、着実に成果を挙げている。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4. 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)彫刻に関する調査研究（科学研究費補助金）　((5)-①)

【事業概要】
京都国立博物館に保管および寄託される仏像を中心とした彫刻作品の調査、研究。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	主任研究員　淺湫　毅

【スタッフ】
井上一稔（客員研究員）

【主な成果】
特別展覧会「細川家の至宝」展を担当した。
特別展覧会「法然」「細川家の至宝」展への出陳作品について調査研究をおこない、それらの成果を会場解説および講座、セミナー等で公表した。

【年度実績概要】
・京都国立博物館が保管、あるいは当館が社寺より寄託を受けている彫刻作品の調査および写真資料の収集を、新たに行なった。
・社寺、個人宅など、館外に所在する彫刻作品の調査・撮影を行なった。
・特別展覧会「法然」展において、作品輸送、展示および会場解説執筆を行なった。
・特別展観「百獣の楽園」展において展示および図録、会場解説の執筆を行なった。
・特別展覧会「細川家の至宝」展の主担当者として、作品選定をはじめとする展覧会業務全般を行なった。
・下記の科研による調査に研究分担者ないしは研究協力者として参加し、調査研究を行なうとともに、それぞれに関し成果を公表した。
①南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究
（研究分担者）研究代表者：大阪大学　肥塚隆
ミャンマーにおいて現地調査をおこなうとともに、東南アジア彫刻史研究会において「ピュー時代およびパガン時代の彫刻編年について」と題して口頭発表を行なった。
②科学的調査に基づく半跏思惟像の日韓共同研究（研究協力者）　研究代表者：大阪大学　藤岡穣
韓国において現地調査をおこなうとともに大阪大学主催の「国際シンポジウム　半跏思惟像はどこで作られたか」においてシンポジウム司会を行なった。
③出雲鰐淵寺の総合的研究（研究協力者）　研究代表者：島根大学　井上寛司
「観音の聖地から天台寺院へ」と題し島根大学山陰研究センターにおいて講演を行なった。
また本研究は研究最終年度にあたるため調査報告書を執筆した。
・メトロポリタン東洋美術研究センターより「仏師清水隆慶の研究」というテーマのもと研究助成をうけ、調査研究を行なった。この成果は平成 24 年 5 月に発行予定の『学叢』34 号に発表予定である。
・京都国立博物館による社寺調査の一環として、南山城地域の海住山寺、笠置寺、一休寺、蟹満寺、神童寺において彫刻作品の調査を行なった。これらは平成 26 年に開催予定の展覧会において公表する予定である。

【実績値】
展覧会図録：16 件
会場解説：36 件
口頭発表：2 件
講座：7 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　彫刻作品の調査の成果を、特別展覧会の作品展示および、図録、解説等により公開できた。また、次年度以降の展観事業の準備として継続的に調査・研究を行っている。

2．定量的評価

観点	展覧会図録	会場解説	口頭発表	講座		
判定	A	A	A	S		

備考
　科研その他で、彫刻作品に関して計画的に調査を行い、その成果を、展覧会図録および会場解説、口頭による発表、講演等に、速やかにかつ活発に反映させることができた。
　とくに講演は、通常ひとつの展覧会では 1 ないし 2 回程度の講演会を担当することが通常であるが、「永青文庫の至宝」展においては、館が主催する講座（講演）2 回のほかにも、地方自治体の教育委員会等が主催するセミナーにおいて 4 回講座を行なった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館の所蔵、寄託作品に関する情報は順調に得られており、館外での作品調査に際しても重要な情報が収集された。引き続き特別展覧会等で成果を公開したい。 科研による調査でもそれぞれ発表や報告書の形で成果を順調に公表している。 担当した特別展覧会「細川家の至宝」も、目標の 2 倍を超える来館者があった。次年度開催する「大出雲展」においても副担当者として同様の努力を行ないたい。 一方、平常展示館が長期閉館することにより、平常展示においてこれまで行ってきた成果の公開が当面できなくなったが、報告書、論文等それにかわる成果公開を従来にまして行なってきた。次年度以降も継続したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	彫刻作品に関する情報は順次継続的に、かつ順調に収集されている。 これらの調査において客員研究員の井上一稔氏をはじめとする彫刻研究者とも随時協力して行なっており、今後も各研究者と協力して事業の継続を行ない、研究の充実を目指したい。 本研究によって得られた情報を将来の展覧会に生かせるよう、さらなる情報の収集を図りたい。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-3

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)出土・伝世古陶磁に関する調査研究（学術研究助成基金助成金）　((5) - ①)

【事業概要】

日本国内で伝世・出土した陶磁器について総合的に調査を実施し、博物館の所蔵品・寄託品の充実を図ると共に、近い将来に予定されている特別展覧会（平成 25 年度『(仮) 清朝陶磁』) 出品作品の候補選定を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸室長　尾野善裕

【スタッフ】

谷口愛子（調査員・京都工芸繊維大学特任准教授）・橘倫子（調査研究支援ボランティア・茶道資料館学芸員）
・梶山博史（調査研究支援ボランティア・兵庫陶芸美術館学芸員）・森下愛子（調査研究支援ボランティア・泉屋博古館分館学芸員）

【主な成果】

野崎家塩業歴史館（岡山）・彦根城博物館館（滋賀）・九州陶磁文化館（佐賀）などにて伝世古陶磁、京都市埋蔵文化財研究所・大阪歴史博物館・長崎市教育委員会などにて出土品の調査を行い、900 件あまりの調書を作成した。また、当館で所蔵している仁清御室窯跡出土陶片について、平成 22 年度からの継続事業（西田記念東洋陶磁史研究助成事業）として行っていた実測図作成作業を引き続き実施し、約 19 点をさらに図化すると共に、観察記録（調書）の作成を行った。

【年度実績概要】

所蔵陶磁の悉皆調査を依頼されている野崎家塩業歴史館の所蔵品調査をのべ 10 日、京都市埋蔵文化財研究所でのべ 6 日、田中本家博物館でのべ 2 日、その他の施設については各 1 日の調査を実施し、デジタルカメラでの資料写真撮影と共に、調書の作成を行った。最も力を割いた野崎家塩業歴史館での調査は、これまで調査の手が及んでいなかった厖大な資料群の情報化に主眼があり、それ自体は必ずしも研究として独創性をもつものではないが、文化財の保護・調査・研究上必要不可欠な基本情報の整備として行っており、再来年度に開催予定の特別展覧会『清朝陶磁（仮称)』への出品候補作品を多数見いだすことができるといった副次的成果もあがっている（調書作成件数 625 件)。また、科学研究費補助金の助成を受けて実施した田中本家博物館（長野)・眞葛ミュージアム（神奈川)・大阪歴史博物館（大阪)・兵庫陶芸美術館（兵庫)・彦根城博物館館（滋賀)・東洋大学井上円了記念博物館（東京)・九州国立博物館（福岡)・九州陶磁文化館（佐賀)・角屋もてなしの美術館（京都）では、意識的に特別展覧会『(仮) 清朝陶磁』に向けての予備調査も兼ねて、中国清朝陶磁やその影響を受けたと考えられる日本陶磁中心に調査を行い、従来等閑視されていた 18 世紀前半にも少なからざる中国（清朝）陶磁が日本へもたらされており、日本陶磁が大きな影響をうけていることを確認できた。

また、調査の過程で存在を知りえた清朝陶磁について、所蔵者の諒解が得られた 11 点を新規に寄託品に加えることができた。

【実績値】

調査日数（館外）	のべ 28 日
調書作成件数	912 件
実測図作成件数	19 件
新規寄託品	11 件

【備考】

科学研究費補助金助成研究『「鎖国」下の日本における清朝磁器の受容とその影響に関する調査』は、本研究を推進するための一助として申請したもので、本年度から向こう 4 ヵ年にわたって研究費が交付される予定。

【書式Ｂ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　4512-3

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	B	A	A	A	A

備考

調査・研究の成果報告としては、平成 25 年度開催の特別展覧会を大きな目標としているため、未だ基礎的な情報の収集に努めている段階であり、その作業自体に取り立てて独創性はない。しかし、今後展覧会や報告書の形で順次成果を公表してゆく予定であり、今後の展覧会・研究のための基礎情報として、広く活用してもらえる有用な情報になると確信している。展覧会出品候補を求めて各地へ出張して調査を行っているため、すくなからず移動時間を要することもあり、1 日当たりの調書作成件数は必ずしも多くない（昨年は 12 日で 454 件、一昨年は 2 日で 155 件)。しかし、調査参加者の熟練によって、1,000 点を超えるため当初来年度までかかると考えていた野崎家塩業歴史館第 1 期分の調査を完遂できたことから、これを評価して効率性もＡとした。

2. 定量的評価

観点	調査日数	調書作成件数	実測図作成件数	新規寄託品		
判定	A	S	A	A		

備考

のべ 20 日以上の館外調査を実施することができたため、調査自体は大いに進捗しており、811 件という調書作成件数も満足できる数値と考えている。しかしながら、展覧会開催の工程スケジュールが変更になったこともあり、情報収集のための調査に比重が偏ってしまい、学会報告や論文といった形での研究成果の公表には、いささか充分に手が廻らなかった感がある。

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究成果の公表という点ではいささか寂しいが、基礎作業としての調査は予定を大幅に上回る勢いでに進捗しており、まとまった研究成果としての特別展覧会の開催に向けての見通しが急速に明るくなりつつある。調査を通して新規寄託品の受け入れに繋がった、という点も考慮してＡとした。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査は着実にすすんでいるため、中長期的な視点からは特に問題ないと考えているが、外部に対して目に見える形での成果公表ができていないことが、いささか問題であると認識している。まとまった研究成果の公表の機会としては、あくまでも平成 25 年度開催の特別展覧会を予定しているが、博物館の調査・研究活動への社会的な認知・理解促進のためには、逐次成果を公表してゆくことも必要であると考えられるので、平成 24 年度には、研究論文などの形での成果公表にも努めたい。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-4
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)近代建築に関する調査研究　((5)-①)

【事業概要】
当館所蔵の重要文化財・旧帝国京都博物館建築資料の調査研究

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	文化財管理監　中村　康

【スタッフ】
中村　康（文化財管理監）　登谷伸宏（調査員）

【主な成果】
宮内省書陵部所蔵の現場日誌との対照により、伊豆の沢田石で造られた西正面の破風三面と中央の彫刻、柱、額面石、それに石盤葺の丸屋根など、本建築の特色あるデザインが、造営現場とその提案を受けた設計者片山東熊によって着工後 9 ヶ月の時点から進められた大規模な設計変更の結果であること、それにともなって作成されたエスキースから基本図、石割図、矩計図、模型などが本建築資料に含まれ、建築の構造に及ぶ形成プロセスの詳細を確認できることが判明した。

【年度実績概要】
整理箱Ｉに収められた図 1～図 145 について、図面の当初の使用目的、建築図面としての性格を超えた素描的に優れた表現を中心に再調査し、整理にあたって写されたものについては原図の確定と調査を行った。
本館の西正面と屋根の設計変更に関連する基本図および矩計図（図 193～図 209、図 226）を調査して前後の比較を行った。特に美しい鉛筆書きの図 199 は、エスキースを重ねてデザインを決定して行くプロセスを示す上に、博物館総長九鬼隆一と理事美術部長岡倉覚三の検印が捺されているために注目された。
本館中央棟屋根の構造を示す図 218～図 220、図 344 を調査し、設計変更にともなう小屋組の変化を確認した。
昨年来、登谷を中心に行う宮内庁書陵部所蔵の現場日誌（工期前半のみ現存）と本建築資料の比較研究のまとめとして、1、現場の造営組織の実態と片山東熊の設計図制作との関係、2、西正面と屋根等の設計変更、3、設計変更にともなう小屋組の変化、を内容とする論文「現場日誌にみる帝国京都博物館建設の様相」を、登谷が執筆した。
大規模な設計変更を工事半ばに挟んだ本館造営工事の詳細な工程が判明したことから、調査および図版目録編集の打合せを、前任の調査員田中禎彦氏を交えて行った。その結果、調査は予定通り本年度をもって終了することとし、田中氏の論文「京都国立博物館建築工事図面―工事の概要と図面の分析－」と解題は、田中氏が一部修整した。
図版目録の編集に関して、1、名称や分類に疑問が残されていた建築図面の再調査、2、調査の結果を総覧する一覧表の作成、3、着工時の仕様書と竣工事の棟札を文字データとした資料の作成を行った。

【実績値】
調査回数　16 回
調査建築図面数　198 枚

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	S	S	A	A	A

備考
適時性：美術の優れた鑑賞空間でありそれ自体卓越した美術作品である京都国立博物館本館の建築についての関心の高まりに応える研究である。
独創性：建築図面が美術としての建築の制作に果たした実際の役割を明らかにした。
発展性：建築資料の創造的、芸術的意義を究明する新しい研究分野を開拓した。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査図面数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本建築資料に基づく現場日誌の慎重な解読により、現場における造営の実態と設計者片山東熊の関与が具体的に跡づけられた。従来はエスキースや初期図面として扱われていた図面の多くが、建築工事のとりわけ美術的側面において重要な役割を果たしていたことが明らかになり、本建築資料の歴史的・芸術的にユニークな意義が示された。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	本年の内容は、これまでと較べて格段に豊かなものとなり、そのために当初予定していた図版目録の編集は、作業の時間的な制約から文字原稿の作成までにとどまった。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-5-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)特別展覧会「中国近代絵画と日本」に関する調査((5) - ①)

【事業概要】
平成 24 年 1 月 7 日から 2 月 28 日に開催される、特別展覧会「中国近代絵画と日本」に関する調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西上　実

【スタッフ】　呉　孟晋（研究員）

【主な成果】
前年度から継続する京都国立博物館須磨コレクションの調査をふまえて、平成 24 年 1 月から 2 月にかけて特別展覧会を開催した。同コレクションから展覧会に陳列する作品を選定し追加調査を行ったうえで、新たに国内外から作品を借用し、中国近代絵画の全体像が把握できる展示構成とした。あわせて展覧会図録を刊行し、国際シンポジウムや関連の土曜講座を実施。日本では認知度が低い中国近代絵画への理解を深める機会を提供した。

【年度実績概要】
・平成 24 年 1 月 7 日から 2 月 26 日まで、京都国立博物館特別展示館にて特別展覧会を開催した。調査の成果をふまえ、これまで「中国近代絵画（仮）」と称した展覧会名称を「中国近代絵画と日本」に改め、中国近代絵画の形成において日本が果たした役割を強調する展示内容とし、合計 226 件の作品を展示した。展示構成は「筆墨の交歓―清末民国初期の上海と京阪神の文人たち―」、「美術による革新―中国絵画の近代化と日本―」、「海派と京派―上海・北京二大都市の画壇とその展開―」、「油画と国画―拡がる絵画表現と日本―」、「外交官のまなざし―京都国立博物館須磨コレクションについて―」の 5 つのセクションを設け、伝統的な筆墨から近代的な美術制度への移行とその葛藤について、清時代末期から日中戦争までの時間軸と上海、北京、広東などの地域軸を組み合わせて説明。いまだ研究が進まない近代の日中交流史の一側面を実作品により検証してゆく新たなアプローチを提示した。
・当プロジェクトで継続的に交流を積み重ねてきた海外の博物館・美術館や研究者とのネットワークを活用して、国際的な連携・協力を得ることができた。具体的には国際的な研究動向を反映した展示構成や、上海博物館や香港芸術館など海外複数地域から陳列作品 34 件の借用実現に結実している。加えて、関連する国際シンポジウム（2 月 11 日開催）や土曜講座（合計 4 回のうち 1 月 21 日と 2 月 25 日の 2 回）においても、中国やヨーロッパ地域からパネリスト、講師を招聘した。両企画とも活発な討議や質疑応答が行われ、日本から世界に向けて研究成果を発信する好機となった。
・関西地区の博物館・美術館との連携を深めた。一般来場者への中国近代絵画および当館須磨コレクションの周知に努めた。須磨コレクションは近代日本に形成された中国絵画コレクションという性格を持ち合わせておりことから、大阪市立美術館などとリレー方式で展覧会を開催してゆく「関西中国書画コレクション展」に参加し、各館共通のチラシなども作成した。

【実績値】
調査回数 10 回
論文掲載数：4 件
発表件数：5 件

【主な成果】
前年度から継続する京都国立博物館須磨コレクションの調査をふまえて、平成 24 年 1 月から 2 月にかけて特別展覧会を開催した。同コレクションから展覧会に陳列する作品を選定し追加調査を行ったうえで、新たに国内外から作品を借用し、中国近代絵画の全体像が把握できる展示構成とした。あわせて展覧会図録を刊行し、国際シンポジウムや関連の土曜講座を実施。日本では認知度が低い中国近代絵画への理解を深める機会を提供した。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-5-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
展覧会開催年の平成 24 年（2012）は、日中国交正常化 40 周年をはじめとして日中の近代の歩みを回顧するのにふさわしい節目の年にあたる。国際的に関心が高まりつつある中国近代絵画について、いち早く近代化に乗り出してその形成に大きな影響を与えた隣国日本からの研究成果発信は、評価項目の「独創性」「発展性」「効率性」にかなうプロジェクトであった。京都国立博物館の中国書画コレクションの一端を占める須磨コレクションについて、今後の継続的な研究の基盤となすことができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	論文掲載数	発表件数			
判定	A	A	A			

備考
前年度からの須磨コレクション調査を基礎にして、展覧会出陳のための追加調査を適宜実施した。その成果をもとにして展覧会図録を中心に中国近代絵画について通史的視野にたつ論考および個別作品研究にもとづく論文を発表して、マクロ、ミクロ両面からその全体像をさぐった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	須磨コレクションの基礎的調査を終え、その成果をもとに特別展覧会開催に至ったことで当プロジェクトの目標を達成することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	特別展覧会開催を経て、2014 年春開館予定の平常展示館での須磨コレクションの展示に向けての基盤を構築することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-5-1

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)特別展覧会「王朝文化の華　陽明文庫名宝展」に関する調査研究((5) - ①)

【事業概要】

平成 24 年度に開催される、特別展覧会「王朝文化の華　陽明文庫名宝展」に関する調査研究を実施した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　赤尾栄慶

【スタッフ】

(当館研究者)尾野善裕（工芸室長)、大原嘉豊（研究員)、鬼原俊枝（列品管理室長)、久保智康（企画室長)、永島明子（主任研究員)、羽田聡（研究員)、水谷亜希（アソシエート・フェロー)、宮川禎一（考古室長)、山川暁（主任研究員)、山下善也（連携協力室長）

【主な成果】

都合 4 回にわたる調査を実施し、陽明文庫からは、国宝 6 件、重要文化財 60 件を含む 131 件を選定し、関連する作品を 9 件加えて、全体で 140 件とすることにした。

全体の構成も、「近衞家の系譜Ⅰ～Ⅱ」「陽明文庫の至宝Ⅰ～Ⅲ」「宮廷貴族の生活Ⅰ～Ⅲ」というテーマを設定して展示を行うことで合意を得た。

【年度実績概要】

4月、6月、8月、および1月にかけて、計4回の調査を実施した。

作品選定を踏まえて、展示計画や解説付き目録の編集作業に取りかかり、開催に向けての準備作業を予定通り行った。

【実績値】

○調査　　4 回
○撮影　　2 回
○論文掲載数　3 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-5-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　国宝「御堂関白記」のうち、自筆本 14 巻は、平成 23 年 5 月に日本政府から「ユネスコ世界記憶遺産」登録候補としての推薦を受けたことを念頭に、自筆本 14 巻を一挙に公開する初めての企画となっている。

2．定量的評価

観点	調査	撮影	論文掲載数			
判定	A	A	A			

備考
　翻刻文なども付加し、学術的にも充実した内容の図録の編纂作業を行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	陽明文庫所蔵の国宝 6 件、重要文化財 60 件が一堂に揃う初めての企画であり、特別展覧会に向けての準備作業も予定通り進んでいる。 　全体の構成も、「近衛家の系譜Ⅰ～Ⅱ」「陽明文庫の至宝Ⅰ～Ⅲ」「宮廷貴族の生活Ⅰ～Ⅲ」というテーマを設定し、一般の入館者に理解しやすいように配慮した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	国宝「御堂関白記」を中心に、平安時代の和歌関係の写本や貴族の古記録など、まさに京都文化をテーマとした特別展覧会であり、今年度は、来年度の展覧会開催に向けての準備を整えた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。（(5)－①）

【事業概要】
社寺・団体・個人等所蔵の文化財に関する情報を恒常的に収集して新規購入・寄贈・寄託候補作品をリストアップし、綿密な調査に基づく調書を作成して陳列品鑑査会に付議し、コレクションの拡充を図る。新収蔵品は勿論のこと、既存の館蔵品・寄託品についてもより詳しい調査を行い、その成果を名品展及び特別展・特別陳列等に反映させる。調査に際しては積極的に客員研究員・調査員の助言を仰ぎ、客観的かつ信頼度の高い成果を得ることに努める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
西山厚（学芸部長）、岩田茂樹（学芸部長補佐）、内藤栄（学芸部長補佐）、稲本泰生（前企画室長）、吉澤悟（前教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（前情報サービス室長）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、清水健（前教育室員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（企画室員）、原瑛利子（企画室員）

【主な成果】
仏教美術及び奈良に縁の深い文化財を柱とする当館の運営方針に沿って精選された作品を、新たに館蔵品・寄託品に加えた。受け入れに際しては詳細な調査を行った。名品展では、収蔵施設の修理等の事情で一時的に寄託された近在社寺所蔵の重要作例を、調査のうえ展示（特別公開）したほか、ここ数年の新収蔵品をまとまった形で公開するなどの実績を挙げた。館蔵品・寄託品等の継続的な調査の成果は、展示会場内の解説や各種刊行物等に反映させた。

【年度実績概要】
① 新規購入・寄託候補作品について調査研究を行い、その成果をもとに作成した詳細な調書に基づいて、新たに 4 件の文化財を館蔵品として購入し、8 件の文化財を寄託品として受け入れた。
② 木津川市・海住山寺本堂厨子の改修に際して同寺本尊・十一面観音立像（重要文化財）を借用し、名品展会場にて特別公開（4 月 26 日～9 月 11 日）した。展示に先んじて当該作品に関する詳細な調査研究を行い、その成果を会場内の解説パネル等に反映させた。
③ 大和高田市・弥勒寺本堂及び河内長野市・金剛寺金堂の修理に際して弥勒寺本尊・弥勒仏坐像（奈良県指定文化財）及び金剛寺降三世明王坐像（重要文化財）を借用し、名品展会場にて特別公開（10 月 4 日～）した。展示に先んじて両像に関する詳細な調査研究を行い、その成果を会場内の解説パネル類、及び『なら仏像館名品図録』改訂版等に反映させた。
④ 館蔵品・寄託品等の調査を客員研究員・調査員と合同で継続的に行い、その成果を展示及び各種刊行物等に反映させた。
⑤ 西新館の名品展会場内で「新収蔵品展」（9 月 13 日～10 月 2 日）及び特集展示「新たに修理された文化財」（12 月 6 日～25 日）を開催した。前者においてはここ 5 年ほどの間に館蔵品・寄託品に加わった作品、後者においては館蔵品・寄託品から近年修理を受けた作品を選定し、公開した。いずれの展示においても当該作品の調査研究成果を、会場における解説・パネル等に反映させた。





新収蔵品展

【実績値】
客員研究員・調査員の調査回数　18 回
購入・寄託に向けた文化財調書の作成枚数　12 件分
展示への反映　5 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
仏教美術及び奈良に関係する文化財の調査研究・展示における国内最大級の拠点として、重要な役割を果たしている当館の特性に沿い、コレクションのさらなる充実や、館蔵品・収蔵品の有効な活用に向けた調査研究を展開した。その成果は新規館蔵品・寄託品の受け入れや展示活動に反映され、顕著な実績を挙げることができた。調査研究に際しては客員研究員・調査員の助言を定期的継続的に仰ぐことによって、十分な客観性と信頼性を確保することができた。

2．定量的評価

観点	客員研究員・調査員調査回数	文化財調書作成枚数	展示への反映			
判定	A	A	A			

備考
館蔵品・寄託品のさらなる充実に向け、また既存の収蔵品の有効な活用に向けて、客員研究員及び調査員の助力を得つつ着実に調査資料の蓄積を行うことができた。またその成果に基づく新規館蔵品・寄託品の受け入れ件数や、展示への反映回数などの面でも、十分な実績を挙げることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術及び奈良関係の文化財を中心としたコレクションの充実や、館蔵品・収蔵品の有効な活用に向けた調査研究は、これらの分野における調査研究・展示において主導的な役割を果たし、長年の実績で不動の声価を得てきた当館にとって、最も基本的な活動の一つである。本年度もこれまでと同じく、質量両面において、当館に向けられたこのような社会的要請に応えるに十分な実績を挙げることができた。次年度以降も同様の業務を、当館の果たすべき責務として継続していかねばならない。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	作品調査に基づく館蔵品・寄託品の計画的収集や効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するという目標に沿って、作品の基礎的かつ総合的な調査を着実に進め、成果を積極的に公表している。当該項目については確実に実績を挙げることのできる体制と業務サイクルがすでに確立されており、次年度以降も同様の活動を継続し、同レベルの成果を得ることが見込まれる。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-2

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。((5)－①)

【事業概要】

館蔵品・寄託品等に関する調査研究活動を、研究員の専門分野に沿い各自で、もしくは館内外の各種研究グループ（科研等）などを単位として、歴史学・考古学・美術史学等の人文諸学と関連づけた広い視野に立って展開する。その成果は当館における展示活動や講座、刊行物（各種展覧会図録及び研究紀要『鹿園雑集』等）は勿論のこと、館外で行う学会・シンポジウム等における口頭発表・講演、各種学術誌等に掲載する論文等においても、積極的に公表する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】

西山厚（学芸部長）、岩田茂樹（学芸部長補佐）、内藤栄（学芸部長補佐）、稲本泰生（前企画室長）、吉澤悟（前教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（前情報サービス室長）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、清水健（前教育室員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（企画室員）、原瑛利子（企画室員）

【主な成果】

歴史学・考古学・美術史学等、各研究員がそれぞれの専門分野に沿って館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果は展示・刊行物・講座・新聞における作品解説等に反映された。調査研究活動の展開にあたっては、これを個人単位で行うだけでなく、研究分担者・連携研究者として各種科研に参加するなど、内外の研究プロジェクトに積極的に関わることを重視し、より広い視野に立って学界に貢献する実績を挙げた。

【年度実績概要】

① 各研究員が各々の専門分野に沿って館蔵品・寄託品等に対する調査研究を行い、その成果を特別展・特別陳列・名品展における会場パネル解説等、特別展・特別陳列図録「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」「第 63 回正倉院展」「おん祭と春日信仰の美術」、名品展図録「なら仏像館名品図録（2012 年改訂版）」、学術協力を行う展覧会図録である「法隆寺展」における論考及び作品解説に反映させた。

② 毎月一回講堂で実施するサンデートークにおいて、各研究員が各々の専門分野に沿った、多彩な調査研究成果の一端を発表した。

③ 各研究員が各々の専門分野に沿って行ってきた館蔵品・寄託品等に対する調査研究の成果の一端を、「奈良国立博物館だより」、読売新聞の連載「鹿園観照－奈良国立博物館で見る名宝」、特別展「誕生！中国文明」「正倉院展」会期中の読売新聞の連載、「天竺へ」会期中の朝日新聞の連載等における作品解説で紹介した。

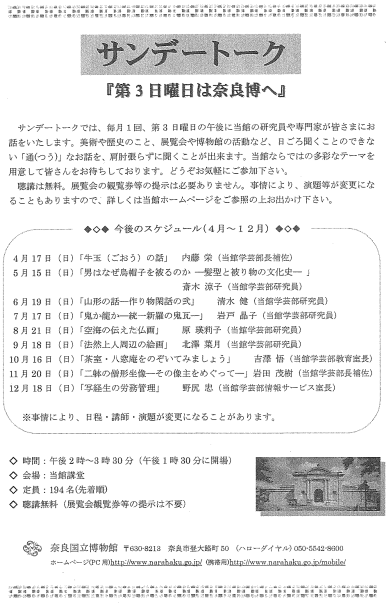
④ 科研基盤研究（A）「大画面説話画の総合研究」（研究代表者：学習院大学・佐野みどり）の研究分担者として、赤間神宮（下関市）・安楽寺（田原本町）等における作品調査に従事したほか、研究集会に参加した。

⑤ 科研基盤研究(B)「美術史における転換期の諸相」（研究代表者：京都大学・根立研介）に連携研究者として参加した。

⑥ 科研基盤研究(C)「『常陸国風土記』にみえる律令期以前の歴史的景観復原に関する実証的研究」（研究代表者：茨城大学・田中裕）に連携研究者として参加した。

⑦ （財）仏教美術協会研究助成「五世紀における鉄器生産技術の革新について－五条猫塚古墳出土品を中心に」による調査研究の実施。

⑧ 平成 23 年度文部科学省「国際共同に基づく日本研究推進事業」（法政大学国際日本学研究所「欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究」（研究代表者：法政大学・ヨーゼフ・クライナー）に、研究員 3 名が参加した。



サンデートーク

『第 3 日曜日は奈良博へ』

サンデートークでは、毎月 1 回、第 3 日曜日の午後に当館の研究員や専門家が皆さまにお話をいたします。美術や歴史のこと、展覧会や博物館の活動など、日ごろ聞くことのできない「通(つう)」なお話を、肩肘張らずに聞くことが出来ます。当館ならではの多彩なテーマを用意して皆さんをお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

聴講は無料。展覧会の観覧券等の提示は必要ありません。事情により、演題等が変更になることもありますので、詳しくは当館ホームページをご参照の上お出かけ下さい。

◆◇◆ 今後のスケジュール（4 月～１２月）◆◇◆

4 月 17 日（日）「牛玉（ごおう）の話」　内藤 栄（当館学芸部長補佐）
5 月 15 日（日）「男はなぜ烏帽子を被るのか ―髪型と被り物の文化史― 」
斎木 涼子（当館学芸部研究員）
6 月 19 日（日）「山形の語―作り物開語の式」　清水 健（当館学芸部研究員）
7 月 17 日（日）「鬼か龍か―統一新羅の鬼瓦―」　岩戸 晶子（当館学芸部研究員）
8 月 21 日（日）「空海の伝えた仏画」　原 瑛利子（当館学芸部研究員）
9 月 18 日（日）「法然上人周辺の絵画」　北澤 菜月（当館学芸部研究員）
10 月 16 日（日）「茶室・八窓庵をのぞいてみましょう」　吉澤 悟（当館学芸部教育室長）
11 月 20 日（日）「二躰の僧形坐像―その像主をめぐって―」岩田 茂樹（当館学芸部長補佐）
12 月 18 日（日）「写経生の労務管理」　野尻 忠（当館学芸部情報サービス室長）

※事情により、日程・講師・演題が変更になることがあります。

◇ 時間：午後 2 時～3 時 30 分（午後 1 時 30 分に開場）
◇ 会場：当館講堂
◇ 定員：194 名(先着順)
◇ 聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要）

奈良国立博物館 〒630-8213　奈良市登大路町 50 （ハローダイヤル）050-5542-8600
ホームページ(PC 用)http://www.narahaku.go.jp/ (携帯用)http://www.narahaku.go.jp/mobile/

サンデートーク告知チラシ

【実績値】

サンデートーク実施回数　9 回
科研等研究プロジェクトへの参加（延べ人数）　16 名
論文等発表本数　22 本
新聞等掲載の作品解説　41 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
仏教美術及び奈良に関係する文化財を主たる対象として、歴史学・考古学・美術史学等、研究員各人の専門分野に沿った館蔵品・寄託品等の調査研究活動を展開し、学術的に高い水準の成果を講座・論文・各種作品解説等において公表した。また外部の要請を受けて多数の研究プロジェクトに参加していることは、当館研究員の専門知識や調査研究能力の水準が、学界で高い評価を受け、大きく貢献していることを物語る。

2．定量的評価

観点	サンデートーク実施回数	研究プロジェクト参加	論文等発表本数	新聞等掲載作品解説		
判定	A	A	A	A		

備考
歴史学・考古学・美術史学等、研究員各人の専門分野に沿って行った館蔵品・寄託品等の調査研究の成果を、サンデートーク等の講座や論文・各種作品解説等に反映し、量的にも十分な実績を挙げることができた。また内外の研究プロジェクトへの参加等も、当館学芸部の学界への貢献度の高さを示すに十分な件数に達している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術及び奈良関係の文化財を中心とした館蔵品・寄託品等の調査研究を歴史学・考古学・美術史学等、各研究員の専門分野の観点から展開・深化させることは、当館における文化財の収集・展示等の活動をより充実させる上で、最も基本的な作業の一つである。この方面の文化財の調査研究においては、当館は国内随一の拠点として高水準の成果の公表が期待されているが、本年度はこうした社会的要請に、質量ともに応えられる実績を挙げることができた。次年度以降も同様の業務を、当館の果たすべき責務として、継続する必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究員各自の専門分野に沿った館蔵品・寄託品等の調査研究を展開し、学識・経験に裏付けられた高水準の成果を公表することは、適切な作品の収集計画や効果的な展示の計画など、有形文化財の保存と活用を促進し、博物館の活動を活性化することに直結する。本年度はこの点を視野に入れた調査研究を推進し、十分な実績を挙げることができた。当館学芸部は仏教美術・奈良関係の多様な文化財に様々な人文諸学の観点からアプローチできる人員構成と研究体制を備えており、次年度以降も同様の活動を継続し、成果を公表できる準備が確立されている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金）((5)－①)

【事業概要】
日本国内で最も優れた中国古代青銅器コレクションである住友コレクションを所蔵する泉屋博古館の所蔵品 180 点を中心に、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを作成する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室長　今津節生

【スタッフ】
森田稔（副館長）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、市元塁（企画課研究員）、鳥越俊行（文化財課主任研究員）

【主な成果】
泉屋博古館の所蔵品を中心に X 線 CT、精密三次元計測機、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この成果を基に、泉屋博古館にて特別展を開催すると共に、図録を作成した。また、東アジア文化遺産保存学会（中国・呼和浩特市）で研究発表を行った。

【年度実績概要】
九州国立博物館の展示に借用する文化財を中心に、1 年間で約 50 点の CT 調査や精密三次元計測を実施した。得られた成果は、文化交流展の展示の際に活用している。

本研究は、Ｘ線 CT スキャナならびに三次元計測機を使用して得られたデジタルデータを蓄積し三次元デジタルアーカイブを構築し、そのデータを活用した共同研究・博物館展示の可能性を探るものである。

調査は以下のように実施した。

1.　**Ｘ線ＣＴスキャナ調査**　　殷周青銅器の内部構造を非破壊で把握するには、Ｘ線ＣＴスキャナによる三次元断面像が最適の方法である。

2.　**三次元計測**　　青銅器表面に施文された表面情報などは、Ｘ線ＣＴスキャナと併用し、より微細な凹凸を記録できる三次元計測機によってデジタル化を行う。

3. **一般市民に向けた研究成果の公開**　　デジタル化された 3Ｄデータは、研究だけでなく博物館でも大きな展示効果を発揮する。3D デジタルデータをＣＧや 3Ｄプリンタ等の最新機器で加工したデジタル複製品の展示・活用について研究する。本年度は、実物とデジタル複製品をあわせて展示する展示会を泉屋博古館で開催した。

4. **学会における研究成果の発表**　　本研究の成果を、日本文化財科学会・東アジア文化遺産保存学会で研究発表した。



虎鴞兕觥全景と持ち手の三次元断面像



象文兕觥全景と持ち手の三次元断面像

【実績値】

○展覧会数　　1 回（泉屋博古館）
○調査回数　　6 回
○資料収集数　　50 点
○学会研究会等発表数　2 件　日本文化財科学会、東アジア文化遺産保存学会
○論文掲載数　　2 件
・「The 2011 International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia」
東アジア文化遺産保存学会
・「神秘のデザイン－中国青銅技術の粋」　泉屋博古館
○報告書　　1 件
「Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析」　　500 部

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	S	S	S	A	S

備考
世界的に見ても最先端の調査機器である大型 X 線 CT を用いた文化財の科学的な構造・技法調査として、適時性、独創性、正確性に優れた研究である。調査は展示の前後の期間を利用して効率的に実施しており、年度末には 3 年間の調査結果を掲載した報告書を刊行した。本研究は、国内の他博物館および中国の博物館からも注目を集めており今後の発展性も極めて高い。ただし、本年度末で文科省科学研究費の研究期間が終了するので、次年度からは研究協力の範囲を広げた新たな継続的研究を計画している。

2．定量的評価

観点	展覧会数	調査回数	資料収集数	学会研究会等発表数	論文掲載数	報告書
判定	A	S	S	A	S	S

備考
年間 3 回の展示替えの前後を利用して効率的に 6 回の調査を実施した。泉屋博古館の全面的な協力を得て、本年度だけで約 50 点の青銅器を調査した。これまで 3 年の調査期間中に住友コレクションの大部分を調査することができた。この研究成果は日本文化財科学会で研究発表した他、東アジア文化遺産保存学会（中国・呼和浩特市）でも発表した。また、年度末には、世界で初めて非接触非破壊で中国古代青銅器の内部構造を系統的・総合的に解析した報告書を刊行することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	最先端の調査機器である大型 X 線 CT を用い、中国殷周青銅器の構造・技法の研究に画期的な成果をもたらした研究である。中国古代青銅器のコレクションとして名高い住友コレクションを総合的に調査できた研究として極めて貴重である。今後は、この成果を核として、国内の博物館が所有する青銅器コレクションや中国の博物館との連携研究による発展が期待される。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	泉屋博古館の保有する住友コレクションと呼ばれる殷周青銅器のほとんどを調査することができた。さらに、この研究成果は 200 頁を超える膨大な報告書として公表することができた。 次年度に向けて、本研究をさらに発展させ、殷周青銅器を所有する国内外の博物館と連携した研究と展示を計画したい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）平成 20 年度特別展「工芸のいま　伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う。（(5)－①）

【事業概要】
九州･沖縄における伝統工芸の作家の創作活動について、調査研究を行なう。無形文化財としての伝統技術と、そこから生まれる新たな創作について、それぞれの作家の取り組みを調査する。これまで調査を行ってきた作家の調査を継続するとともに、新たな作家を調査対象に加えていく。伝統工芸の技術についてもワークショップを開催する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　谷豊信

【スタッフ】
原田あゆみ（文化財課主任研究員）、池内一誠（交流課主任研究員）、遠藤啓介（展示課研究員）

【主な成果】
平成 23 年度西部工芸展、日本伝統工芸展など、今年度開催の工芸展で作品調査を行なった。陶芸部門では、西部工芸会陶芸部会の研究会に参加し、新たな創作活動の展開について調査し、これまでに対象となっていなかった若手作家も調査に加わった。
タイと共同で開催した平成 23 年度トピック展「日本とタイーふたつの国の巧と美」展では、展覧会の一つの柱として伝統工芸を位置づけ、日本とタイの伝統工芸を比較し、現代に展開する工芸を紹介した。同時に、伝統工芸の技術を示すワークショップを開催した。

【年度実績概要】

九州･沖縄の伝統工芸の中で最も層の厚い陶芸分野で、調査を継続し、研究会への参加を行った。西部工芸展、日本伝統工芸展、西部工芸陶芸部会展、九州･山口陶芸展の出品作品の調査を行い、新たな創作の動向とこれまで調査対象となっていなかった新しい人材の発掘を行なった。その一方で、全国規模での陶芸の状況の把握をつとめた。
陶芸では柿右衛門様式の色絵技術の復活と伝統の継承について、染織では久留米絣と絵絣の展開について、平成 23 年度トピック展「日本とタイーふたつの国の巧と美」展でタイの伝統工芸作品と比較紹介した。また、当館職員が久留米絣の作家から織りについての指導を受け、上記トピック展開催中に、伝統工芸の技術を示すワークショップを開催した。
なお、24 年 2 月に西部工芸会の陶芸作家 2 名について、ご自宅での調査を行った。


トピック展「日本とタイーふたつの国の巧と美」展　展示風景

【実績値】

○調査回数　　3 回
第 108 回 九州･山口陶芸展、第 46 回西部工芸展、第 58 回日本伝統工芸展で九州･沖縄の工芸の調査と全国的な工芸の状況の調査。

○研究会　1 回
「陶芸散歩の会」第 10 回記念公演

○展示　15 件
4/12～6/5　九州国立博物館のトピック展でタイと日本の伝統工芸について伝える展示を実施。

○ワークショップ　2 回
4/30　　九州国立博物館で絣糸と簡易腰機を用いたワークショップ開催。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
伝統工芸への取り組みは近代美術館を持たない九州地区にあって、無形文化財を扱う役割を果たすとともに、地域にある博物館として伝統工芸の発展を通して地域貢献を果たすというものである。これらは平成 20 年度の展覧会以来の、継続的な事業であった。工芸作家の中にこの活動に対する期待も大きく、また既に昨年度のこの事業によって九州･沖縄の工芸は確実に新たな展開を示しつつある。
海外との共催展の中に伝統工芸を組み込むことができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	研究会	展示	ワークショップ		
判定	A	A	A	A		

備考
個別調査主体から、展覧会出品作による追跡調査を行っている。さらに全国レベルでの工芸の状況へと調査対象を広げている。それらの成果の一部は、工芸作家とともに行なう研究会によって公表している。
海外との共催展の中で日本の伝統工芸を紹介し、その技術保護の状況を伝えた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地域に根ざした博物館として、九州･沖縄の伝統工芸の発展に寄与している。技術の保存とともに、伝統の美意識について、貢献することができる。 日本以外の工芸技術の実情調査、保護といった新たな研究の広がりがあり、文化交流を視座に置く九州国立博物館としては今後さらに広げる必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	工芸展開催以来の成果を受け、さらに広がりを大きくもてたという点は評価できる。陶芸、染織といった層の厚い分野では、より活発な研究活動が行なわれているが、今後は層の薄い分野での活動を深めていく必要がある。 今後も海外での工芸技術の実情と保護という面について、更なる研究が望まれる。無形文化財に積極的に取り組んできた日本の状況について、海外に伝えることで、海外の無形文化財の保護についても貢献が可能となる。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）旧石器から弥生時代の日本人の起源に関する調査研究（(5)－①）

【事業概要】
日本人はどこから来たのか。その議論は古くから行われており、近年では理化学機器の発達により新たな仮説も提示されている。本研究では考古資料から日本人の起源について調査研究を行い、その成果を文化交流展示に反映させることを目的とする。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　志賀智史

【スタッフ】
杉原敏之（九州歴史資料館学芸調査室学芸班長）

【主な成果】
日本列島に最初に人類が到来した地域の一つと考えられる九州において、最古の時代―旧石器時代がどのような時代であったのか資料調査を行った。その結果を、九州歴史資料館との共催事業として文化交流展示トピック展示「九州最古の狩人とその時代」として開催した。また、教育普及事業として石器作りのワークショップも行った。

【年度実績概要】
資料の所蔵先を訪問し、資料を実見するとともに記録を取った。調査遺跡数は福岡(4 遺跡)、佐賀(4)、長崎(5)、熊本(2)、大分(3)、宮崎(3)、鹿児島(3)の合計 24 遺跡となった。この成果を受けて、文化交流展示トピック展示「九州最古の狩人とその時代」（平成 23 年 10 月 29 日～12 月 18 日）を開催した。会期 44 日間で入場者数 54,390 人であった。このトピック展示は、文化庁の「発掘された日本列島 2011」（九州会場は九州歴史資料館）の地域展も兼ねて開催された。

展示作品は約 120 点で、内容は九州最古級の石器、旧石器人の道具箱、当時の暮らし、狩猟具の変遷で構成した。特に、九州最古級の石器である長崎県福井洞穴 15 層出土石器は、所蔵先である東北大学から 50 年ぶりの里帰り展示となった。展示図録は 2,000 部作成した。

会期中の 12 月 4 日には教育普及事業として石器作りのワークショップを開催し、約 40 名の参加を得た。鹿角をハンマーとして北海道白滝産の黒曜石を割るという本格的なもので、参加者は石器作りの難しさを学んだ。


展示室風景

【実績値】

○調査遺跡数　24 遺跡

○入場者数　　54,390 人

○展示図録　　1 件
「九州最古の狩人とその時代」　2000 部

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　発掘調査が進んでいるにも関わらず、九州ではこれまで当該期に絞った展示が行われたことが無かった。地域を九州に絞ったため、効率よく調査、展示を行うことができた。

2．定量的評価

観点	調査遺跡数	入場者数	展示図録			
判定	A	A	A			

備考
　九州の主要遺跡を網羅している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	九州旧石器文化の現状が明らかになり、展示に反映できたことは評価できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に従って実施することができた。展示だけでなく、図録の作成やワークショップの開催などにより、専門家はもとより一般の方々にも親しみやすい内容になった。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）縄文時代の火焔土器に関する調査研究（(5)－①）

【事業概要】
我が国の縄文土器を代表する火焔土器を対象に、立体陶板や 3 次元プリンターによるさまざまな模造製作をおこなうための調査研究を実施する。製作実験をおこないながら、質感・重量感などを再現すべく課題を整理するものである。これらの成果を野外展示やトピック展に反映させ、来館者に火焔土器の歴史的な意味合いを体感してもらう。
本事業は、模造・模写等の復元資料を有効に活用する手法として、野外でも退色・劣化がほとんどない陶板を、立体物で製作する我が国では初めての試みでもある。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	展示課長　赤司善彦

【スタッフ】
今津節生（環境保全室長）、河野一隆（文化交流展室長）

【主な成果】
システィーナ礼拝堂の壁画など美術陶板を唯一制作している大塚オーミ陶業株式会社との共同研究で、火焔土器の立体陶板の試作品を製作することに成功した。また、当館内で新潟県津南町所蔵の火焔土器について、科学的な調査をおこない、データを収集し、これを基に製作技法等についての研究を進めた。視覚障がい者への活用への道を開きたい。

【年度実績概要】
津南町所蔵の火焔土器をＸ線ＣＴスキャナーと 3 次元デジタイザーによるデータを取得し、そのデータと見とりによる立体陶板の製作実験を行った。まずは形状を復元製作する課題を抽出するために、成型を試作した。その結果、材料や原形の再加工、重量の再現、焼成方法などについての課題を整理することができた。今回の試作によって、立体陶板による製作の道筋をつけることができた意義は大きい。
今年度は、研究成果の一端を披露するために、複製資料等によるハンズオン展示を実施する予定であった。新潟県津南町の実物破片資料を借用することも、津南町と昨年度協議していたが、東日本大震災を含め、新潟県での震災も起こったことから、本年度の実施を断念せざるを得なかった。そのため、火焔土器のトピック展は来年度実施することとした。



陶板技術による複製実験
型による素地成型の作成

【実績値】
○調査回数　2 回
○模造試作　立体陶板　1 口、3 次元プリンターによる石膏モデル　2 口
○展覧会数　0 回　（東日本大震災を含め、新潟県での震災も起こったため 24 年度の実施となった。）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
独創性：美術陶板という平面資料について実績のある技術を、立体物に応用する新しい取り組みである。
発展性：三次元プリンター出力は、教育用ハンズオンとしての活用と、美術陶板技術は、野外展示での活用が期待できる。

2．定量的評価

観点	調査回数	試作品制作数	展覧会数			
判定	A	A	F			

備考
美術陶板では試行錯誤の連続であったが、試作品の完成にこぎつけることができた。
展覧会数Ｆについては、今年度開催を予定していた展示が、東日本大震災を含め、新潟県での震災も起こったことから 24 年度開催となったためである。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	これまでにない研究として試行錯誤をしてきた。その結果、美術陶板については質感は問題がなく、あとの課題は重量感である。石膏模型は重量感については錘を入れるなどの工夫を考えたい。次年度以降に行う研究の基礎が整った。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	展覧会については、今年度開催を予定していた展示が、東日本大震災を含め、新潟県での震災も起こったことから 24 年度開催となったが、調査や実験については計画通り実施されている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）館蔵品を中心とした漆器の調査研究（(5)－①）

【事業概要】

アジアとの対外交流をテーマに収蔵された漆器のうち、とくに本年度は彫漆器をとりあげて文様、技法などの基礎的な調査研究をおこなう。対象は、館蔵品のほか、東京国立博物館をはじめとする他機関所蔵品についても範囲を広げる。なお、本プロジェクトでは、構造調査においてＣＴ撮影を用いるが、このような研究手法は九州国立博物館の特色であり、画期的な成果が見込まれる。

本年度の成果については、トピック展での展示やパネルでの紹介、図録解説において公表し、広く観覧者に提供するものとする。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	企画課研究員　川畑憲子

【スタッフ】
鳥越俊行（文化財課主任研究員）

【主な成果】

本年度は当該テーマについて、以下の成果を得た。

1）館蔵品のほか、関連する他収蔵品についても調査をおこない、当館でＣＴ撮影などの科学分析が可能な作品については貴重なデータを収集した。

2）上記の調査における成果を、トピック展での展示や展覧会図録を通じて、観覧者に公表した。

【年度実績概要】

中国より招来された彫漆器は、我が国では室町時代から盛んになった書院飾りや茶の湯の道具として珍重されてきた。東アジアの文化交流を考えるにあたっても、欠くことのできないものであり、当館では積極的に収集をすすめるとともに、文化交流展示「唐物飾り」においても、常に展示、公開している。本年度は、上欄に記した「主な成果」をあげるため、以下の調査研究をおこなった。

1）館蔵品をはじめとし、関連作品を所蔵する国内外の美術館・博物館の所蔵品約 80 点の作品調査をおこなった。とくに、当館でＣＴ撮影などの科学分析が可能な作品についてはデータを収集した。

2）トピック展「彫漆　漆に刻む文様の美」を開催し、展示室内の解説キャプションやパネル、ミュージアムトークおよび図録論考、作品解説において上記の成果を公表した。



トピック展示「彫漆　漆に刻む文様の美」
会場風景

【実績値】

○作品調査回数
　海外　2ヶ所（中国・山東省博物館、北京故宮博物院）
　国内　8ヶ所（東京国立博物館、愛知・徳川美術館、東京・静嘉堂文庫美術館、個人所蔵者など）
○調査作品数
　約 80 点
○トピック展開催数
　1回　「彫漆　漆に刻む文様の美」（平成 23 年 6 月 14 日～7 月 31 日）
○論文掲載数
　1回　展覧会図録『彫漆　漆に刻む文様の美』九州国立博物館

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-5

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	作品調査回数	調査作品数	トピック展開催数	論文掲載数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的評価については、今後見込まれる発展性および継続性から左記の判定が妥当と考える。また、定量的評価については、公表した実績値から左記の判定が妥当と考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は、貴重な成果をあげており、順調に遂行することができたと考える。本事業については、今後も外部資金の活用や他館との共同調査の実施により、調査研究を継続していきたいと考える。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究（(5)－②）

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する漢籍・洋書に関する書誌学的調査である。これらは、博物館草創期の明治時代初期に、文部省（現：文部科学省）より引き継いだ江戸幕府旧蔵資料を中心とする資料群よりなっている。また洋書には江戸幕府旧蔵資料の他にも、ドイツ人医師シーボルトより献納された数百冊を含んでいる。貴重図書として保管されてきたこれらの詳細調査を実施し、その学術的意義を明らかにすることを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	博物館情報課長　高橋裕次

【スタッフ】
田良島　哲（調査研究課長）、住広昭子（博物館情報課情報資料室専門職員）

【主な成果】
・漢籍は、これまでに江戸幕府旧蔵資料である医学関係のものを中心に調査を行ってきたが、一段落がついたため、全体の調査に着手し、本年度は 485 点の書誌学的調査を終了した。
・洋書については、ほぼ全体にあたる 973 点の書誌学的調査をほぼ終了し、図書館システムへのデータの入力を行った。

【年度実績概要】
1. 漢籍には、経年によって劣化や綴じ糸の欠失しているものが多い。調査では書誌データを図書館システムに入力するとともに、保存状態の把握につとめ、必要に応じて糸綴じの簡単な手当を行った。

2. 洋書については、かつて科学研究費補助金で行った江戸幕府旧蔵資料の洋書のデータを参考にしながら、全体の書誌データを図書館システムに入力した。当館の洋書は、蕃書調所などの旧蔵書を含む点で国立国会図書館の所蔵する洋書と共通するが、ほとんどが原装を残している点が当館の洋書のもっとも大きな特徴である。



『スリナム産昆虫変態図譜』
マリア・シビラ・メリアン 1705

【実績値】
調査およびデータ入力点数　漢籍 485 点、洋書 973 点
写真撮影点数　50 点、

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	A	A

備考
　漢籍、洋書については、これまでは科学研究費補助金「江戸幕府旧蔵資料の総合的研究」による部分的な調査の成果を本館 16 室における歴史資料の特集陳列で公開してきた。しかし、本事業における書誌学的な調査によって、全貌を把握することができるようになったことで、それぞれの学術的意義などを明らかにするための基礎固めができた。

2．定量的評価

観点	論文数等	調査件数	写真撮影点数	データ入力点数		
判定	A	A	A	A		

備考
　調査では、漢籍、洋書ともに名称、員数、成立年代、伝来に関わる情報をデータ化し、図書館システムに入力している。とくに洋書については、デジタル撮影なども実施しており、保存上の理由から閲覧に供することのできない資料であっても、書誌データをともなう画像によってその詳細を公開することができるようになったことは大きな進展であるといえる。また、閲覧室内の展示ケースにおいて、解説を付して展示による公開を行っている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東京国立博物館の所蔵する漢籍、洋書について、書誌データおよび画像を入力し、インターネットで広く公開するための準備を進めることができた。次年度からは、漢籍の調査を促進するとともに、主要な作品に関して解題を作成するなど、学術的情報の提供に努めていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	漢籍・洋書ともに、その保存状況をほぼ把握することができた。原装を残している貴重な図書を、後世に永く伝えていくためには、必要最小限な処置によって現状を維持し、形状や大きさに応じた配架を行うなどの配慮が必要である。今後は保存修復課と連携しながら、適切な保存方法について、さらに検討を続けていく予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）東洋民族資料に関する調査研究　((5)-②)

【事業概要】
東京国立博物館が所蔵する約 3,500 件の東洋民族資料を対象として、総合的な調査研究をおこなう。従来の台帳の記載内容を踏まえながら形状、材質のほかに、旧蔵者がつけた札や箱書きの内容や保存状態など実際の観察を通してしか分からない情報を、画像とともに一括してデータベース化する。これにより、研究・陳列・保管・修理などに必要な基礎情報をより充実した形で整備する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課研究員　川村佳男

【スタッフ】
丸山清志（客員研究員）

【主な成果】
東洋民族の収蔵品のうち、台湾先住民族の生活および宗教儀礼にかかわる資料の未調査分について調査した。調査で得られた情報をデータベースに反映させることで、研究・陳列・保管・修理などに資する基礎情報が従来よりも一層充実した形で整備された。また、過去に調査済みの分とあわせて台湾先住民族資料の基礎調査を完了させることができた。

【年度実績概要】
東京国立博物館が所蔵する台湾先住民族資料のうち未調査分について、計測値・員数・形状・材質・所在・保存状態を調査し、画像とともにデータベースに追加した。また、明治から昭和初期にかけて当館に収蔵される以前の箱書きや札が添えてあれば逐一その内容を記録し、伝来や年代の解明に役立てるようにした。
調査の結果、形状・品質について当館の台帳には記載されていなかった知見を得ることができた。これらの知見により、2013 年にリニューアルオープンする東洋館での台湾先住民族資料の展示準備をさらに促進することができた。このほか、同資料の東洋館への輸送や東洋館の収蔵庫内での保管についても、有益な情報を得ることができた。
東洋民族資料に関する調査研究のうち、平成 21 年度より進めていた台湾先住民族資料の所蔵品に関する基礎調査は、今年度を以って完了させることができた。

【実績値】
調査回数：4 回。作品調査件数：100 件。データベース更新件数：100 件。撮影点数：約 200 カット。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	A	A	A	A	A

備考
東洋館収蔵庫への移動、および東洋館での展示・保管を次年度に控えたタイミングで、当館所蔵の東洋民族資料の大半を占める台湾先住民族資料の基礎調査を終えることのできた意義は大きい。調査の結果、次年度に予定している台湾先住民族資料の移動・保管・展示の準備をいっそう進めることができたといえる。

2．定量的評価

観点	調査回数	作品調査件数	データベース更新件数	撮影件数		
判定	B	A	A	A		

備考
今年度は東洋館リニューアルオープンや特別展にかかわる業務が集中するため、前年度よりも少ない数値目標を設定した。しかし、東日本大震災の長引く影響、昨年まで調査に参加していたスタッフの異動といった不測の事態により、調査の実施回数は所期の数値には至らなかった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	メンバーの異動や減少などにより、調査の経常的な実施が一層困難になった。その状況のなかで、台湾先住民族資料の基礎調査を完了させ、最低限の目標を達成することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	台湾先住民族資料の基礎調査の結果を、次年度以降の東洋館における展示・保管に結実させることが最大の課題である。また、これまで重点的に調査を積み重ねてきた南太平洋の民族資料、今年度基礎調査を完了させることのできた台湾先住民族資料のほかに、東洋館での新たな展示ソフトの開発につながる東洋民族分野の調査も継続する必要がある。次年度も今年度と同様に特別展や東洋館リニューアルオープン準備などの業務が集中するため、次年度の数値目標は今年度並みに設定する。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）（(5)－②)

【事業概要】
国内外に所蔵される東アジアの書道史に関わる作品について、1 点ごとに詳細な書誌や伝来などの情報と、デジタル画像を収集する。さらに、科学機器を用いて、料紙の技法、変遷、使用法を検証するとともに、時代による書風の特徴やその変化などを調査研究する。また、個々の作品に関する歴史的・文学的調査も進める。これらによって、書の作品を、料紙と書風という二つの側面から解明し、複合的・総合的なデータ作成を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	副館長　島谷弘幸

【スタッフ】
神庭信幸(保存修復課長)、高橋裕次(博物館情報課長)、富田淳(調査研究課長)、和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)、荒木臣紀(保存修復課環境保存室主任研究員)、恵美千鶴子(学芸研究部調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー)、赤尾栄慶(京都国立博物館学芸部副部長)、羽田聡（京都国立博物館学芸部企画室研究員)、丸山猶計(九州国立博物館学芸部主任研究員)

【主な成果】
装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、これまでに作成した対象作品のリストから調査を進めた。国内では、東京国立博物館・京都国立博物館・九州国立博物館・陽明文庫等、海外では中国の香港芸術館、上海博物館、北京故宮博物院等、スイス・リートベルク博物館等に収蔵されている作品について、デジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する調査を実施した。

【年度実績概要】
1. 東京国立博物館所蔵の装飾料紙作品の調査とデータ化
東京国立博物館が所蔵する装飾料紙作品の調査とデータ化を行った。
2. 特別展に関係する作品の調査とデータ化
2013 年度に東京国立博物館で開催予定の特別展「和様の書」（仮称）においては、本研究と関係の深い作品が一堂に展示される予定である。その展示準備を兼ねて、関係作品のリスト作成と調査を進めた。
3. 他機関への調査
国内では、京都国立博物館、九州国立博物館、京都・陽明文庫、広島・ふくやま書道美術館、奈良・大和文華館へ出張し調査を行った。海外では、中国・香港芸術館、上海博物館、浙江省博物館、寧波博物館、北京故宮博物院、台湾・国立故宮博物院、スイス・リートベルク博物館へ出張、装飾料紙を用いた写経・古筆・典籍等の調査を行なった。許可の出た作品に関しては、東京国立博物館内部での調査と同様に、顕微鏡による料紙の拡大画像の撮影を行い、データの充実をはかった。
4. 成果の公開
これまでに蓄積してきた調査結果より得られた成果を、総合文化展本館 3 室(仏教の美術、宮廷の美術)等の展示解説等で公開した。また、ホームページ「1089 ブログ」の「書を楽しむ」シリーズにおいて、成果を公開した。


料紙の文様を確認するために、斜めより撮影

【実績値】
・調査件数 約 50 件、写真撮影点数 約 800 点、データ入力点数 約 300 点
・研究会などでの発表　6 件
　島谷弘幸「書の変遷　その必然性と未来」(大正大学書道カレッジ)平成 23 年 8 月 6 日　ほか計 6 件
・論文掲載数　10 件
　島谷弘幸「一休一行書」(『聚美』第 2 号、青月社発行、平成 24 年 1 月)　ほか計 10 件
・成果公開件数　31 件（展示 22 件、ホームページ 9 件）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	S	A

備考
本研究はすでに 3 年間の基礎研究（平成 19 年度～21 年度科学研究費基盤研究（B））を行っており、実質的には 5 年目にあたる。継続して行っていることで、基礎的なデータを確実に収集している。オリジナリティの高い調査内容であるが、調査方針の再検討も行った上で、その調査方法は確立したと言える。その方法にしたがって他機関においても調査を進めることができた。科学研究費を使用して、協力者を増やし、より多くの情報を得ることができた。

2．定量的評価

観点	調査件数	写真撮影点数	データ入力点数	研究会発表件数	論文掲載件数	成果公開件数
判定	A	A	A	B	A	A

備考
本年度の当初より他機関での調査を行っており、調査件数や調査データの入力点数は目標件数に達している。調査の成果を展示やホームページ等で年間を通して定期的に公表できた。研究会発表の件数をもう少し増やしたかった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究は継続的に行なう調査により、効率が上がっている。その成果の公表についても、論文や展示等で確実に行うことができた。光学顕微鏡などの科学機器を用いた客観的なデータをさらに収集して、調査の内容を充実したものにすると同時に、さらなる成果を刊行物などで公開していく方針である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまでの博物館の国際交流の実績を反映して、海外においても中国やスイスなど東アジアの書道史に関わる資料の調査を行うことができた。今後も、その調査を継続的に行っていく必要がある。また、これまで収集した調査データや成果をひろく公表するとともに、所在情報や、調査方法について、相互に連絡を取り合っていきたいと考えている。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-4
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)中国書画の表装に関する基礎的研究(科学研究費補助金)((5)-②)

【事業概要】
本研究は、中国の諸文献から表装に関する記述を整理し、歴史的な様式の変遷を明らかにしつつ、日本および中国に収蔵される中国書画を実際に調査し、「中国表装」および「日本表装」の双方について、時代や地域ごとの様式や素材のデータを網羅的に収集・整理し、表装の変遷に関する体系的な調査研究を進めようとするものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課長　富田淳

【スタッフ】
東京国立博物館：富田淳(列品管理課長)
台東区立書道博物館：鍋島稲子(主任研究員、東京国立博物館客員研究員)

【主な成果】
『書史』『画史』北宋・米芾遠などの中国歴代の文献から、書画の表装に関する記載を収集・整理した。また、北京故宮博物院・遼寧省博物館・京都国立博物館・大阪市立美術館・台東区立書道博物館・東京国立博物館に所蔵される主として中国の書画を調査し、表装の諸データおよび画像データを収集した。

【年度実績概要】
文献調査
・『書史』『画史』北宋・米芾、『南村輟耕録』元・陶宗儀、『斉東野語』南宋・周密等から、書画の表装に関する記載を収集・整理した。

作品調査
・北京故宮博物院「蘭亭特展」を視察、清朝宮廷作品約 50 件を調査した。
・遼寧省博物館の所蔵する中国書跡 50 件を調査した。
・大阪市立美術館の所蔵する中国書画 5 件を調査した。
・京都国立博物館の所蔵する中国書画 20 件を調査した。
・台東区立書道博物館の所蔵する中国書跡 12 件を調査した。
・東京国立博物館の所蔵する中国書跡 6 件を調査した。

上記の成果に基づいて、国内国外の研究会で発表し、東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画展に反映させた。

【実績値】
・調査回数：7 回(海外 2 回、国内 5 回。
・調査作品件数：143 件(撮影点数約 120 カット)
・論文発表件数：2 件
　富田淳「呉昌碩と長尾雨山」(『呉昌碩の書・画・印』)、鍋島稲子「呉昌碩と朝倉文夫」(『呉昌碩の書・画・印』)
・研究会発表回数：3 回
　富田淳「趙孟頫蘭亭十三跋小考～焼残時期について～」(北京故宮博物院)ほか計 2 回、鍋島稲子「1913 年蘭亭記念会雑考」(北京故宮博物院)
・展覧回数：1 回
　「呉昌碩の書・画・印」、9 月 13 日～11 月 6 日、東京国立博物館・台東区立書道博物館

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
本研究は 3 年計画の 2 年目にあたり、文献の整理および内外に現存する作品調査から得られたデータは着実に増え、その成果の一部を、東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画展や、国内・国外における研究発表会において公表することができた。将来的には、毎年継続して実施している中国書画の修理において、修理方針を検討する際の基礎データとして有効な資料となりうる。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査作品件数	論文発表件数	研究会回数	展覧回数	
判定	A	A	B	A	A	

備考
論文発表件数は昨年を下回ったが、調査回数は昨年度とほぼ同様、調査作品件数、研究会回数、展覧回数は昨年度以上の成果をあげることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	データは当初の研究計画にそって蓄積・整理が進んだ。また本研究で得られた成果の一部を、論文や学会発表として公開することもできたためＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	本研究は当初の研究計画にそって、ほぼ順調にデータの蓄積・整理・発表ができたと考える。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-5

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究（科学研究費補助金）（(5) -②）

【事業概要】

本研究では高雄曼荼羅（京都・神護寺所蔵）の重要性を考え、その研究推進を図るために、最先端の撮影技術を用いた高精細デジタル画像および赤外線画像の撮影を全面的に行う。さらに新たな高雄曼荼羅研究の端緒と成せるよう、研究者それぞれが絵画・彫刻・工芸等の専門性を生かし、空海と彼を取りまく仏教美術を考察するのに重要と思われる観点を取り上げて調査・研究を行うものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部長　松本伸之

【スタッフ】

松本伸之（学芸企画部長）、丸山士郎（博物館教育課教育講座室長）、伊藤信二（博物館教育課教育普及室長）、澤田むつ代（特任研究員）、沖松健次郎（企画課特別展室主任研究員）、和田浩（保存修復課環境保存室主任研究員）、安藤香織（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）

【主な成果】

高雄曼荼羅 2 幅のうち胎蔵界曼荼羅について、高精細デジタルカラーおよび赤外線の画像撮影を、京都国立博物館にて実施した。また空海が滞在し所謂「根本曼荼羅」を賜った西安において、西安碑林博物館、陝西歴史博物館、青龍寺など関連する作品、史跡の調査を実施した。根本曼荼羅は高雄曼荼羅のもととなった作品であると考えられており、唐時代の作例の調査は次年度以降の各研究にとって重要な要素となる。

【年度実績概要】

1、高雄曼荼羅撮影

高雄曼荼羅 2 幅のうち、まず胎蔵界曼荼羅について、高精細デジタルカラーおよび赤外線の撮影を行った。撮影は作品の寄託されている京都国立博物館にて、上記参加者ならびに京都国立博物館研究員の立会いのもと、作品取扱の専門業者と撮影担当の専門業者を雇用して実施した。カラー撮影は解像度 8000 万画素、赤外線撮影は解像度 4000 万画素の高性能デジタルカメラを使用し、カラー315 カット、赤外線 432 カットを撮影した（合計 747 カット）。撮影した画像の処理と合成は、撮影を担当した専門業者に依頼した。またこの撮影作業と平行して、絹の状態や絵画技法など細部の観察をし、必要に応じて部分の拡大写真を撮影した。これらの画像は今後の研究の基礎資料になる。



高雄曼荼羅撮影、調査（京博にて）

2、西安調査

本研究では、高雄曼荼羅の調査を端緒として、空海が唐から請来した根本曼荼羅の解明につながるような研究を目指している。長安（現、西安）は、空海が恵果に師事して修行に励んだ地で、高雄曼荼羅のもととなったと考えられる根本曼荼羅を恵果から賜った重要な場所である。今回は西安碑林博物館、陝西歴史博物館、西安市博物院などで先方の協力のもと関連作品の調査を行うと同時に、青龍寺や春明門跡、法門寺、興善寺など空海や密教に関連する事跡を追う事にも努めた。特に西安碑林博物館では、金剛像をはじめとする安国寺跡出土の石彫仏像 11 躯や、経咒画 2 件（いずれも唐代、7～10 世紀）など重要作品を仔細に調査することができた。また同時代資料として、陝西歴史博物館では陵墓より出土した多数の壁画を、西安博物院では仏像や陶俑などを調査することができ、高雄曼荼羅と根本曼荼羅を考察するのに有効な資料を得た。

【実績値】

高雄曼荼羅撮影日数：1 日
高雄曼荼羅撮影カット数（業者撮影数）：高精細デジタル画像 315 枚、赤外線画像 432 枚
西安調査件数：碑林博物館 13 件、陝西歴史博物館 13 件
西安調査撮影カット数：327 枚

【備考】

本研究は 11 月に追加採択を受けて始動したため、日程や実施項目等に当初計画との誤差がある。

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-5

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	B	A	A	A

備考
本研究は高雄曼荼羅について、これまでで最も精度の高い撮影を実施するものであり、撮影画像は基礎的な資料として各種研究に資することが見込まれる。従って、適時性、独創性については十分に評価できると考える。発展性はＢとしたが、本年度は基礎的な調査を始めたところであり、来年度以降に成果を期待できる。また調査は業者への委託も含めて効率良くできるよう努めており、得られた成果は十分に評価できるものと思われるため、効率性、継続性、正確性についてＡとした。

2．定量的評価

観点	高雄曼荼羅撮影日数	高雄曼荼羅撮影カット数	西安調査件数	西安調査撮影カット数		
判定	C	C	A	A		

備考
本年度の当初計画では、高雄曼荼羅の高精細撮影を 2 幅とも実施する予定であったが、所蔵者の都合上、胎蔵界曼荼羅 1 幅のみ実施することになった。そのためこれに関する撮影日数、カット数についてはＣと評価せざるを得なかった。西安調査は十分な成果を得ることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本研究は追加採択を受けて 11 月より開始したため、本年度の研究期間は短かったが、一定の成果を得ることができた。本研究の主眼である高雄曼荼羅の高精細撮影は、所蔵者の都合上、胎蔵界曼荼羅のみ実施し、金剛界曼荼羅は次年度へ持ち越しとなった。そのためこの期間を有効に活用し、胎蔵界曼荼羅に見いだされた様々な問題点を熟慮して次回の撮影に臨みたい。また引き続き、アジアを視野に入れた「根本曼荼羅」の研究に有力な資料を得るため、中国や周辺各国における調査を勢力的に行いたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	本年度実施予定であった高雄曼荼羅の高精細撮影は 2 幅中 1 幅の実施に留まり、当初の研究計画とは異なる。しかし採択時期を考えれば、ほぼ順調に進んでいると言って良いだろう。所蔵者の神護寺や寄託先の京都国立博物館の協力も得る事ができており、来年度の撮影も問題なく実施できると思われる。本年度の各調査の結果、新たな調査方法、調査対象を取り入れる必要性も考慮されるため、これらについても十分に検討して次年度の計画へ反映させて行きたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-6
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)「家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究」(学術研究助成基金助成金)（5-⑥）

【事業概要】
日本列島の古代国家形成期である古墳時代に、前方後円墳を中心とした古墳で執り行われた葬送儀礼を家形埴輪の群構成と階層性から分析・研究する。とくに東アジア農耕社会の集落建築や家形造形品との比較・検討から、復元的分析を通じてその特質を明らかにし、古墳時代社会の安定と成長に大きな役割を果たした古墳葬送儀礼とその背景にある古墳時代他界観(世界観)を解明するための基礎研究の確立を目的とする。
また、これまでに交付された科学研究費補助金Ｃ(2001～2002 年度)・Ｂ(2005～2007 年度)の調査・研究成果と併せ、調査資料・研究成果の学術的公開を目指す総合研究報告書の作成準備を進める。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課　古谷　毅

【スタッフ】　連携協力者：犬木　努(大阪大谷大学 文学部教授)

【主な成果】
科学研究費補助金Ｃ・Ｂ(2000～2002･2005～2007 年度)による調査･研究成果を基に、連携研究者および各地の研究協力者と共に研究会を組織・開催し、各地の主要古墳出土埴輪群の分析結果を検討した。
また、補足調査を実施し、発掘調査によって家形埴輪を含む埴輪配列が確認された良好な家形埴輪資料を再度精査して、埴輪樹立時の群構成と配置・階層性を復元する基礎資料を整備した。

【年度実績概要】
本年度は、連携研究者と日本古代史研究者を含む研究協力者と共に、23 年 10 月・24 年 2 月・3 月に、大阪府・京都府・滋賀県にて研究会を開催し、これまでの調査成果の確認と東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する問題点を検討・分析した。また、科学研究費補助金Ｃ・Ｂ(2000～2002･2005～2007 年度)の研究成果を含む、総合的研究報告書の内容・構成と体裁、および作成スケジュールの打合せを進めた。
資料調査としては、近畿・中国・関東地方の主要古墳出土資料を重点的に進めた。大阪府・京都府・広島県・滋賀県・群馬県などの古墳出土埴輪資料の調査を順次、実施した。
このほか、既存の調査資料の整理と東京国立博物館所蔵埴輪資料の調査準備を進めた。
既存調査資料では、写真・データ等の整理・分析を実施した。しかし、列品埴輪資料の整理・調査に関しては、館内における韓国国立中央博物館との研究交流事業および存在確認事業等の影響で、今年度は実施には至らなかった。

【実績値】
○調査回数 6 回、研究会回数 3 回、論文等公開 5 件
・主な調査資料　：広島県三ツ城古墳出土埴輪(広島大学所蔵)・大阪府七観古墳出土埴輪(京都大学所蔵)・大阪府百舌鳥御廟山古墳出土埴輪(堺市教育委員会所蔵)・滋賀県野洲大塚古墳出土埴輪(野洲市教育委員会所蔵)・栃木県甲塚古墳出土埴輪(上毛考古学研究所保管)

【備考】
(論文等公開)
・古谷　毅「家形埴輪の構造・変遷と分析視角」『埴輪研究会誌』第 15 号、埴輪研究会、129～145 頁、2011 年 5 月 29 日
・犬木　努「城山 1 号墳の埴輪列小考 ―後円部墳頂の埴輪列をめぐって―」『埴輪研究会誌』第 15 号、埴輪研究会、79～92 頁、2011 年 5 月 29 日
・犬木　努「埴輪の編年 ②東日本の円筒埴輪」『古墳時代の考古学 1 古墳時代史の枠組み』同成社、187～200 頁、2011 年 12 月 25 日
・犬木努・近藤麻美「西都原 171 号墳出土蓋形埴輪の再検討―立ち飾り部の製作技法を中心として―」『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』第 8 号、宮崎県立西都原考古博物館、23～34 頁、2012 年 3 月 31 日
・犬木努・近藤麻美「下総型人物埴輪の新例 ―大阪大谷大学博物館所蔵品から―」『大阪大谷大学文化財研究』第 12 号，大阪大谷大学文化財学科、1～9 頁、2012 年 3 月 31 日

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-6

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	B	A	A	B	S	A

備考
適時性については、既存の科学研究費補助金による調査・研究成果の公開性において需要性・必要性があり、早期の公開を目指しているが、今年は館内事情で十分な緊急性には応えていない。
独創性については、古墳時代労働編制研究の視角を中心にして発想・着想しており、埴輪研究においてはオリジナリティおよび新規性には優れていると思われる。
発展性については、円筒埴輪中心であった従来の埴輪研究の多様性・汎用性に裨益し、研究視角の面からは先史考古学および古墳時代・古代史研究に与える応用性などに一定の成果があると思われる。
効率性については、連携研究者と共に日本古代史研究者を含む多数の研究協力者を得ており、予算運用の時間的・人的投資について有効であると思われる。一方、設備的投資については、消耗品を含めてほとんど行なっていない。
継続性については、これまで交付された科学研究費補助金による調査・研究成果を継承し、期間は適正で、質・内容・量ともに従来の調査・研究例を上回っており、本研究テーマの資料的基盤を構築する基礎性に優れている。
正確性についても、実測図の作成はほとんど行っていないものの、数値・データに関してはすでに写真撮影だけでも 20,000 カットを超えており、達成値・網羅性については従来の調査･研究事例に類似する成果は見られない。

2．定量的評価

観点	調査回数	研究会回数	論文等公開			
判定	A	A	B			

備考
調査回数・研究会回数については十分な成果があった。一方、東京国立博物館所蔵資料(列品)の調査および論文等公開については、今年度の館内事情によりやや不十分であった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	継続性については変更の必要が認められないと考えられるため、他の定性的・定量的評価により判定。次年度研究計画への改良・改善点については、補足調査の拡充によって調査精度の正確性をさらに高めると共に、今年度不十分であった東京国立博物館所蔵資料(列品)の整理･分析を進めることで、より研究予算運用の効率性・適時性を高めることを図りたい。また、研究会では、さらに古代史研究者等との研究協力を強化し、研究･分析視角に関する発展性・独創性の拡充・確立を図る。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	有形文化財の収集・保管に関しては、列品の整理・分析および学術的評価に関する十分な考古学的情報、および展示・解説(展示パネル・講演･ニュース等)・出版等を通じた当館における文化財(列品)の公開に資する調査・研究として比較的十分な蓄積を行ったと考えられる。このほか、定性的・定量的評価により判定した。改良・改善点は 3.総合的評価のように、より高度な効率性・適時性および発展性・独創性の確立を図ることを目標として、次年度以降の計画へ反映させる予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7）隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）（(5)－②）

【事業概要】
本調査研究は隋唐時代の舎利荘厳に注目し、その実際を美術史、考古学、歴史学、保存科学を専門とする研究分担者が詳細に調査し、総合的に考察を加えようとするもので、本年度は西安、涇川、天水、蘭州、廓州、南京、揚州、蘇州、杭州、紹興、寧波、済南、徳州、北京において現地調査を実施した。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩

【スタッフ】
加島勝（大正大学）、松本伸之（学芸企画部長）、和田浩（保存修復課環境保存室主任研究員）、東野治之（奈良大学）、岡林孝作（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）、泉武夫（東北大学）、長岡龍作（東北大学）

【主な成果】
中国各地において現地調査を行い、仁寿舎利塔起塔寺院に関する多くの地理的データ及び、文献的資料を多数収集することができた。

【年度実績概要】
1. 文献収集
中国側研究者と協力し、中国国内でこれまでに発表、出版された、仁寿舎利塔起塔寺院跡から出土した遺物の報告書、研究論文、書籍を収集し、今年度調査地点の絞込み、現地との連絡調整、旅程の決定を行った。

2. 現地調査の実施
2011 年 8 月に中国側研究協力者の協力のもと、西安、涇川、天水、蘭州、廓州、南京、揚州、蘇州、杭州、紹興、寧波、済南、徳州、北京において 23 日間に及ぶ現地調査を実施した。これにより現地における①仁寿舎利塔起塔寺院に関する地理的データ、②仁寿舎利塔出土遺物と隋代関連遺物、③関連岳廟、等に関する詳細なデータを収集することができた。

3. 国内関連調査の実施
2011 年 12 月に東京国立博物館所蔵の関連遺物の調査を行なった。


中国国内における寺院跡調査の状況

【実績値】
仁寿舎利塔起塔寺院跡調査数：9 地点

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-7

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳の実際について、美術史(彫刻史、絵画史、工芸史)、考古学、歴史学、保存科学を専門とする研究分担者が中国各地において詳細な現地調査を実施し、基礎資料を収集した。これにより、中国の造形美術を通して浮かび上がる信仰と思想について総合的な見地から考察をくわえる基礎が構築された。

2．定量的評価

観点	仁寿舎利塔起塔寺院跡調査数					
判定	A					

備考
　今年度は特に実資料を調査する機会に恵まれた。また、多くの制約が存在する中で地理的データが相当数収集できた成果は大きいと考える。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳の実際について、中国各地において詳細な現地調査を実施し、基礎資料を収集することができた。集積された基礎的データは従来にない重要な新知見を数多く含んだものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳の実際について、現地調査や研究会等を通じて、美術史(彫刻史、絵画史、工芸史)、考古学、歴史学、保存科学的見地からのデータ収集を当初計画の通り進めることができた。

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-8
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8）南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁－（(5)－②）

【事業概要】
従来まで特殊なジャンルと思われていた南宋時代の仏教絵画を中国絵画史のなかに位置づける試みを行う。そのために従来の南宋絵画史を批判的に検証し、さらには日本、中国、アメリカ等に所蔵される、異なった位相の南宋絵画を包括的に調査する。また、文献的調査についても継続的に行い、作品と文献の両面から、南宋時代における仏教絵画、ひいては仏教文化の具体的な様相を明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室研究員　塚本麿充

【スタッフ】
塚本麿充(調査研究課東洋室研究員)

【主な成果】
①作品調査：東京国立博物館所蔵品、関西を中心とする美術館、および北京故宮博物院展開催にともなう調査を行った。②事業：今年度は「関西中国書画コレクション展」の開催年であり、10 月には記念のシンポジウムが開催された。また北京故宮展の開催にともなって 1 月には記念のシンポジウムが開催された。そのほかの研究会、ワークショップ等に参加することができた。③成果：論文と研究発表、講演の形で公開することができた。

【年度実績概要】
1、関西中国書画コレクション等の調査
中国書画の世界的宝庫である、関西地区の中国書画コレクションの継続的調査を行った。また、今年は関西中国書画コレクション展の開催年であり、「関西中国書画コレクションの過去と未来―収集から一世紀、その意義を考える―」（2011.10.22・23、泉屋博古館（京都））を行って、コレクションの形成と意味を広く認識する機会とすることができた。この成果は、論文集として刊行予定である。
2、東京国立博物館所蔵品等の調査
所蔵品のうち、金大受「十六羅漢図」、蔡山「羅漢図」等、寄託品のうち「千手観音像」（永保寺）などを調査し、写真撮影を行った。その成果として、総合文化展「中国書画」（本館特別 1 室、2011.6.28～7.24）において、明時代に至るまでの羅漢・寒山拾得・観音の居士図像を体系的に展示することができた。
3、北京博物院所蔵品等の調査
北京故宮博物院展開催にともない、出陳作品を中心に、詳細に実見することができた。これらは通常、調査が困難な作品が多数を占めるため、非常な僥倖に恵まれたと言う他なかった。成果の一部は、下記記念シンポジウムで発表することができ、またシンポジウムの論文集も刊行予定である。さらにそれらの成果として、記念講演「乾隆帝の書画鑑賞」（東京国立博物館、2012.1.28）を行うことができた。
4、紫禁城および北京地区の寺観等の調査
作品調査と並行して紫禁城を詳細に見学することができた。また、碧雲寺金剛宝座塔、雍和宮、白塔寺、智化寺などを見学する機会に恵まれ、北京の仏教空間について新たな知見を得ることができた。
5、ボストン美術館、福岡市美術館等の調査
そのほか、「国際シンポジウム「韓国美術研究のいま」」（福岡市美術館、2012.2.12）、「南宋絵画研究の現況と課題Ⅰ：李唐をめぐって」（九州大学、2012.2.13）、ボストン美術館、サックラー・ギャラリー（調査）、及び Harvard 500 Luohans Workshop（ハーバード大学、2012.2.14-18）等に参加し、多くの知見を得ることができた。
6、研究発表
「宋代開封の文物配置と大相国寺壁画の意味」（2011.4.16 宋代史談話会、大阪市立大学）
「公開研究会 実物とデジタル画像による文化財考察―中国花鳥画の彩りに迫る―」（2011.11.12、黒川古文化研究所）
「清明上河図から見た開封の文化的空間」（2011.12.4 シンポジウム「前近代中国都市社会と公共空間」、大阪市立大学）
「徽宗、後白河院と『清明上河図』の視覚文化」（2012.1.7、「北京故宮博物院 200 選」開催記念国際シンポジウム「『清明上河図』の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの『清明上河図』」、東京国立博物館）
7、論文
「皇帝の文物と北宋初期の開封-啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について-（上）（下）」『美術研究』404 号、406 号
「呉昌碩の画―近代・東アジアの光のなかで―」『呉昌碩の書・画・印』東京国立博物館、台東区書道博物館
「「清明上河図巻」の魅力―「清明上河図巻」と宋代の視覚文化―」、「清朝の国際交流」『特別展 北京故宮博物院 200 選』東京国立博物館

【実績値】
論文数 5 本、調査件数 10 回、写真撮影点数約 1,000 枚、研究会発表 4 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-8

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　今年度は北京・故宮博物院展の準備のため、館外の調査はあまり行えなかったが、故宮博物院と北京を中心とする仏教文化について十分な調査を行うことができたことは、非常な僥倖であり、特筆すべき成果であったと言ってよい。

2．定量的評価

観点	論文数等	調査件数	写真撮影点数	研究会発表		
判定	A	A	A	A		

備考
　今年度の特筆すべき点として、北宋初期の仏教文化についての論文を発表することができ、長い時間をかけた論文であるため、非常に満足できる成果公開となった。また東京国立博物館所蔵品を中心として写真撮影を行うことができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	より包括的な中国仏教文化の理解を目指と、士大夫を中心とする文人文化との接点を模索するため、さらなる調査が必要である。特に江南・四川地域の寺観の調査、日本やアメリカの作品調査が急務であり、今後はこの方面の調査を広げていきたい。併せて、東京国立博物館所蔵品の調査、および文献的な調査も継続する。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	初年度としては順調に計画を行うことができた。次年度以降、さらに計画を進め、その成果は総合文化展、特別展の開催で活用していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-9
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9）アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－（科学研究費補助金）（(5）-②）

【事業概要】
貝の光沢を装飾に用いる螺鈿は漆地螺鈿、木地螺鈿、玳瑁地螺鈿などに分けられる。本研究は、19 世紀以降になってベトナムで盛んに作られる木地螺鈿について、その実態や広がり、変遷、技術、地域間関係、地域社会における螺鈿の位相、といった問題を、九州国立博物館所蔵資料の調査や、中国南部やベトナムを中心としたフィールド・ワークによって検討し、アジアの工芸史の中に木地螺鈿を位置付けようするものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課　猪熊兼樹

【スタッフ】
小林公治（九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室長）

【主な成果】
本研究の調査において採取したベトナム螺鈿の器物資料の資料的価値について、「ベトナム螺鈿の器物資料に関する知見」と題する論述を九州国立博物館紀要『東風西声』第 7 号（2012 年 3 月刊行）に寄稿した。ベトナム螺鈿の素材・器種・意匠などについて、器物の背景にあるベトナムの歴史や文化についても理解を及ぼす必要の在ることを論じた。

【年度実績概要】
本研究の調査において採取したベトナム螺鈿の器物資料れの資料的価値について、「ベトナム螺鈿の器物資料に関する知見」と題する論述を九州国立博物館紀要『東風西声』第 7 号（2012 年 3 月刊行）に寄稿した。その概要は下記の通り。

ベトナム螺鈿の実態については不明なところが少なくない。かかる状況のなか、筆者らはベトナム螺鈿の歴史・産地・素材・技法・意匠・用途などに関する調査に携わってきた。調査にあたっては、ベトナム各地の博物館施設・工房・古器物商・個人宅を訪れ、螺鈿器を調査し、製作工程を記録し、工具・素材・器物に係る資料を採取するとともに、阮朝王宮・華僑邸宅・キリスト教会などを訪れ、螺鈿器を用いる歴史と文化の理解に努めた。本稿では、ホーチミン市内において採取した四点の螺鈿器「家屋人物図木地螺鈿檳榔櫃」「村落人物図貝地螺鈿台脚付茶盆」「花蝶図漆地螺鈿十四花形提食籠」「花卉文木地螺鈿十字架」の資料的価値を記す。西洋において発達した科学理論を背景とする産業革命が興る以前の前近代世界にあっては、工芸品の形式には地域や民族の風土・習俗・社会などが大きく反映していた。このことはベトナム螺鈿器についても同様である。そのようなことを念頭において、ベトナム螺鈿の素材・器種・意匠などについて、その背景にあるベトナムの歴史や文化についても理解を及ぼす必要性があることを論じる。

【実績値】
調査回数　1 回
データ収集件数　画像 20 カット
論文掲載件数　1 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-9

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	データ収集件数	論文掲載件数	調査回数		
判定	B	B	A	B		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査回数が減り、データの収集量が少なくなったが、これまでの調査に基づいた研究発表を行なっているため。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	予定の計画よりも一層のデータを収集すべき必要性を感じたため。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-10

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10）高雄曼荼羅の調査研究（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）（(5) -②）

【事業概要】
空海が唐より請来した曼荼羅を、空海の指導下に模写した京都・神護寺所蔵の両界曼荼羅（高雄曼荼羅）は、密教美術にとどまらず、教学、歴史など密教に関わるあらゆる分野における根本資料である。しかしその曼荼羅は縦横が 4 メートルを超す大幅で、取り扱いが困難であること、保存状態が良好でないことなどから公開される機会は少ない。また、公開されても大幅であるゆえに実際に観察できる範囲は限られる。本研究は、これまでに十分な画像資料の無い高雄曼荼羅の高精細画像を作成し、今後の研究の基礎資料を整える。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部長　松本伸之

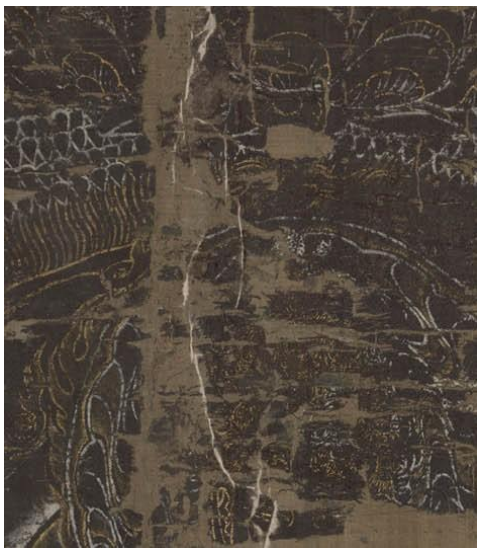
【スタッフ】
丸山士郎（博物館教育課教育講座室長）

【主な成果】
高雄曼荼羅のうち胎蔵愛曼荼羅について、高精細デジタル画像および赤外線画像の撮影を実施した。現状では変色のため確認困難な銀泥線を、画面の 9 分の 1 のみであるが画像処理によって本来の銀泥の色に復元をした。それによって描線の全てを見ることができるようになり、製作当初の表現を考える上で貴重な資料となった。

【年度実績概要】
東京国立博物館で展示中（空海と密教美術展）に、作品の調査、細部の写真撮影を実施した。高雄曼荼羅のほか、西院曼荼羅（教王護国寺所蔵）、血曼荼羅（金剛峯寺所蔵）など関連作品の調査、写真撮影を実施した。

東京国立博物館での調査を踏まえ、撮影担当の専門業者を雇用して、京都国立博物館で再度調査、写真撮影を実施した。カラー撮影に用いるデジタルカメラは解像度 8,000 万画素、赤外線撮影に用いるデジタルカメラは解像度 4,000 万画素のものを使用し、高雄曼荼羅（胎蔵界）をカラーおよび赤外線で撮影した。作品全体の 9 分の 1 について、現状では変色によって確認困難な銀泥線を、画像処理によって製作当初に近い色に復元し、作品本来の表現を見ることができるようになった。


高雄曼荼羅（不動頭部）


高雄曼荼羅（部分、銀泥線復元）

【実績値】
撮影カット数：カラー画像 660、赤外線画像 15

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-10

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
　これまでに十分な画像資料の無かった高雄曼荼羅について詳細な画像を作成した。高雄曼荼羅は、美術にとどまらず、密教の教学、歴史など、密教に関わるあらゆる分野の根本資料であり、さまざまな研究分野において極めて有用な資料となる。

2．定量的評価

観点	写真撮影点数					
判定	A					

備考
　カラー画像、赤外線画像とも目標どおりの画像資料を作成することが出来た。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	これまでに十分な資料が無かった高雄曼荼羅について、詳細な画像資料を作成することが出来、作品本来の姿を復元的に考えることも可能にした。それらは、今後の高雄曼荼羅研究に大いに活用できる。また、関連する作品についても調査、写真撮影を実施した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	助成金は 23 年度限りではあるが、本研究を継続的に進めて行くことで達成に至るものと考える。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4523-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。（(5)－②）

【事業概要】
仏教美術を中心に、日本のみならず広くアジアを視野に入れた展示活動を展開している奈良国立博物館の特性に鑑み、中国や朝鮮半島などアジア諸国の文化財に関する調査研究を行って、その魅力を積極的に発信することに努める。調査研究成果の蓄積と併行して中国・韓国などアジア諸国の研究者との交流や共同作業を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解などに資するとともに、将来の展示活動等に向けた情報収集を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
西山厚（学芸部長）、岩田茂樹（学芸部長補佐）、内藤栄（学芸部長補佐）、稲本泰生（前企画室長）、吉澤悟（前教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（前情報サービス室長）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、清水健（前教育室員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（企画室員）、原瑛利子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で職員の派遣・受入を実施し、活発な研究交流・情報交換を行った。また「誕生！中国文明展」の開催を通し、平成 17 年以来交流を行ってきた中国河南省の文化財に関する調査研究の成果を、展示及びこれに伴う講座等に反映させた。このほか中国（遼寧省）、韓国（ソウル、扶余）において将来の特別展に向けた文化財調査を実施する傍ら先方諸機関と研究交流を行い、調査資料及び有益な情報を蓄積した。

【年度実績概要】
① 学術交流協定を結んでいる韓国国立慶州博物館から 2 名の研究員を各 1 ヶ月間招聘、当館からは同館へ 1 名を約 1 ヶ月間派遣し、研究交流・情報交換を行った。また正倉院展開催に際して同館から、館長ほか 1 名を招聘した。
② 学術交流協定に基づき、中国・上海博物館から 3 名の職員を 10 日間招聘し、研究交流・情報交換を行った。
③ 中国・遼寧省に研究員 1 名を派遣し、平成 25 年度に開催する特別展「中国遼寧省遼代仏教文物展（仮称）」出陳予定文物の調査を遼寧省文物考古研究所等で実施し、先方諸機関との間で研究交流を行った。
④ 韓国国立中央博物館の特別展「肖像画の秘密」に協力した際、研究員 2 名を同館にクーリエとして派遣し、作品の輸送・点検とともに研究交流及び情報交換を行った。
⑤ 「誕生！中国文明」展開催に際して 147 点の文化財を中国河南省から借用し、展示した（22 年度に東京国立博物館・九州国立博物館で行われた展示の巡回展。図録は前年度刊行）。展示に際してはクーリエとして計 6 名、開会時には河南省の文化財関係者 4 名を代表団として受け入れた。また作品返却時には研究員 1 名をクーリエとして現地に派遣し、これらを通して相互に研究交流と情報交換を行った。会期中には河南省文物に関する当館研究員の調査研究成果に基づく公開講座を 3 回実施し、新聞記事の連載を計 9 回行った。
⑥ 中国・河南博物院との間で締結されている学術交流協定を更新し、今後も研究交流を継続的に行うこととした。
⑦ 韓国国立中央博物館及び扶余博物館に館長以下計 3 名を派遣し、平成 26 年度特別展「百済（仮称）」開催に向けた情報交換及び出陳予定文化財の予備調査を実施した。


河南博物院との学術交流協定調印式（於：河南博物院）

【実績値】
研究員等派遣人数　11 名
研究員等受入人数　17 名
研究会・講座等発表回数　3 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4523-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
学術交流協定を締結している博物館をはじめとする中国・韓国の諸研究機関との間で行った、研究員等の派遣・招聘等を通して、仏教美術を中心とするアジア諸国の文化財調査を進め、将来の展示活動等につながる資料の収集や先方の研究者との信頼関係の強化などの実績を挙げることができた。また「誕生！中国文明」展において中国・河南省の優れた文物を一堂に展示し、平成 17 年度以来行ってきた河南博物院との学術交流に基づく、これまでの調査研究の成果を反映できたことも特筆される。

2．定量的評価

観点	研究員等派遣人数	研究員等受入人数	研究会・講座等発表回数			
判定	A	A	A			

備考
中国・韓国への研究員等の派遣や両国からの研究員等の招聘など、活発な往来を通して仏教美術を中心とした両国の文化財に関する調査資料や情報を、着実に収集することができた。海外の博物館等との研究交流に関しては、量的にみても将来の展示活動等に向けた信頼関係を築くに足る実績を挙げた。また「誕生！中国文明」展においては、これまでに蓄積した調査研究の成果を一定回数の講座で公表する等の実績を挙げることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	奈良に立地し、仏教美術を文化財の収集・展示・調査研究活動等の中核に据えている当館にとって、アジア諸地域の仏教美術を中心とした文化財に対する調査研究は、わが国の作例に対する調査研究の深化や、展示活動の充実等を図る上で不可欠な業務である。この認識に基づいて、学術交流協定による研究交流を中国・韓国の博物館との間で長年にわたって行うなどして、調査資料の蓄積や信頼関係の構築等に努め、それを展示活動や研究成果に反映させてきた。本年度もその延長上に位置づけられる交流・調査等の活動を展開し、質量ともに十分な実績を挙げることができた。次年度以降も中国・韓国の文化財を対象とした特別展を計画しており、同様の事業を継続的に進める必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	学術交流協定に基づく中国・韓国の博物館への研究員の派遣等を通して、アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究を着実に遂行し、将来の展示等に向けた資料の蓄積を進めている。次年度以降も中国・韓国の文化財を出陳する 25 年度特別展「遼寧省仏教文物展（仮称）」、26 年度特別展「百済（仮称）」等を計画しており、開催に向けて、当該テーマに沿った調査研究をさらに深化させて行く予定である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4523-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。（(5)－②）

【事業概要】
「国宝　鑑真和上展」「聖地寧波－日本仏教 1300 年の源流」（平成 21 年）、「大遣唐使展」（同 22 年）など、日本とアジア諸国の文化交流をテーマとする展示活動を展開してきた奈良国立博物館の実績を重視し、国内外所在の請来系文化財及びその影響の濃厚な文化財、日本とアジア諸地域間の文化交流に関係する諸事象等を対象とした調査研究を行い、その成果を展示や刊行物等に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
西山厚（学芸部長）、岩田茂樹（学芸部長補佐）、内藤栄（学芸部長補佐）、稲本泰生（前企画室長）、吉澤悟（前教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（前情報サービス室長）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、清水健（前教育室員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（企画室員）、原瑛利子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロ」開催に伴い、日本の古代～中世における中国・インド両国に対する認識、仏教を介した両国の文化・文物の受容、玄奘のインド求法行がそれらに与えた影響等の問題について調査研究を行い、その成果を当該展示・刊行物・講座等に反映させた。またこれ以外にも日本とアジア諸国の文化交流に関連する内外の研究プロジェクトに積極的に参加し、研究発表・論文等を通してその成果を公表した。

【年度実績概要】
① 特別展「天竺へ－三蔵法師 3 万キロの旅」開催にあたり、全巻が展示された「玄奘三蔵絵」の題材となった玄奘の求法行、絵巻及び関連絵画作例の図様における大陸からの影響、中世南都における中国・インドの表象及びその背景、等の問題について考究を行い、その成果をパネル等の解説、展覧会図録所載の総論・各論等に反映させた。また当館が企画運営した夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」においても当該テーマに沿った内容構成を行い、3 名の研究員が研究成果に基づく講演を行った。
② 科研基盤研究（B）「南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁」（研究代表者：九州大学・井手誠之輔）に研究分担者として参加し、当該テーマに沿った作品調査に従事した。
③ 科研基盤研究(A)「科学的調査に基づく半跏思惟像の日韓共同研究」（研究代表者：大阪大学・藤岡穣）の連携研究者として参加し、当該テーマに沿った作品調査（東京国立博物館・東京藝術大学・妙伝寺・奈良国立博物館等）及び国際シンポジウム「半跏思惟像はどこで作られたか」討論司会等に従事した。
④ 「第 63 回正倉院展」における黄熟香（蘭奢待）出陳にあたり、この種の香木の産地であるベトナム共和国に研究員 1 名を派遣し、現地で調査研究を行った。
⑤ 公益財団法人ポーラ美術振興財団研究助成「『国宝　東大寺金堂鎮壇具』の工芸技術史的研究」、財団法人福武文化振興財団研究助成「『国宝・海獣葡萄鏡(香取神宮所蔵)』の研究」などによる、古代日本における文物の請来とその受容に関する研究を実施した。


特別展「天竺へ―三蔵法師 3 万キロの旅」会場

【実績値】
講座・研究会等発表回数　7 回
論文等発表本数　6 本
展示への反映　2 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4523-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　当該テーマに沿った調査研究の成果を特別展「天竺へ」に反映し、展覧会図録を刊行し、当館研究員が講師となって関連講座を実施するなどした。これらは独創的な着眼点と視野の広さ、綿密な作品調査に立脚した内容の手堅さの両面で、学術的意義において非常に高い評価を受けた。また請来文物や、東アジアにおける日本仏教美術の位置づけに関わる調査研究プロジェクト等にも積極的に参加するなどして、当館研究員のこの方面における調査研究能力の高さを、学界にアピールすることができた。

2．定量的評価

観点	講座・研究会等発表回数	論文等発表本数	展示への反映			
判定	A	A	A			

備考
　当該テーマに沿った調査研究の成果を特別展「天竺へ」に反映して一定本数・回数の論文・講座等で公表するなど、着実に実績を挙げている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	奈良に立地し、仏教美術を文化財の収集・展示・調査研究活動等の中核に据えている当館にとって、日本とアジア諸国の文化交流という観点から、国内外所在の請来系文化財及びその影響の濃厚な文化財や、その背景にある諸事象について調査研究を行うことは、最も基本的な課題の一つと位置づけられる。前年度である 22 年度には、本プロジェクトに直結する内容の調査研究がめざましい成果を挙げ、科研基盤研究（A)『奈良時代の仏教美術と東アジアの文化交流』報告書、東京文化財研究所との共同研究の成果報告『大徳寺伝来五百羅漢図　銘文調査報告書』、『奈良時代の塑造神将像』(中央公論美術出版) という三種の報告書を刊行するなどした。今年度もその延長上に位置する調査研究を展開し、「天竺へ」展の開催など、展示への反映の面でも大きな実績を挙げた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究を、「文化交流」という観点から着実に遂行し、その成果を「天竺へ」展及びその図録、関連講座等で公表した。来年度以降も 25 年度の「遼寧省仏教文物展（仮)」、26 年度の「百済（仮)」など、中国・韓国の文化財を中心とした展覧会開催を予定しており、前者については日本の平安～鎌倉時代、後者については中国の南北朝時代及び日本の飛鳥時代を視野に入れた「文化交流」という観点から調査研究を継続することで、海外の博物館の所蔵品紹介にとどまらない内容へと充実・深化させる必要がある。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究（(5)－②）

【事業概要】
契丹は、唐滅亡後の北アジアに興った遊牧国家である。近年、内蒙古自治区で契丹時代の遺跡・遺物の発見が相次ぎ、それが北宋や高麗、平安文化とのつながりを想起させることから注目を集めている。九州国立博物館では開館前から契丹文化を重要視し、調査研究や人的交流を推進している。本年度は、本調査研究の成果を公開すべく、契丹文化に関する特別展を開催する。特別展は九州国立博物館で開催の後、静岡、大阪、東京へ巡回する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	研究員　市元塁

【スタッフ】
臺信祐爾（文化財課長）、小泉惠英（企画課長）、今津節生（環境保全室長）、森實久美子（企画課研究員）、遠藤啓介（展示課研究員）、末兼俊彦（アソシエイトフェロー）

【主な成果】
4 月の現地調査及び昨年度までの成果をふまえ、9 月 27 日から 11 月 27 日の日程で特別展「草原の王朝 契丹－美しき 3 人のプリンセス」を開催した。これまで、契丹文化は遊牧文化という側面が強調されてきた。本特別展および図録や講演会においては、遊牧文化という側面にくわえ、契丹文化の重要な柱となる、唐との連続性、広域な対外交渉、仏教文化にも十分に焦点をあて、多様な契丹文化のすがたをひろく紹介することができた。

【年度実績概要】
9 月 27 日から 11 月 27 日まで九州国立博物館において、特別展「草原の王朝 契丹－美しき 3 人のプリンセス」を開催した。これに関連する特別番組の制作に全面協力し、9 月下旬から 10 月初旬にかけて九州各県で放映され、12 月には静岡県でも放映された。特別展図録には内蒙古研究者の論文 2 編のほか、当館研究職員による論文 5 編を含む 7 編の論文を掲載した。また 128 点すべての作品に対して詳細かつ分かりやすい解説文をつけたほか、年表や地図なども最新成果をふまえて九州国立博物館により作成した。特別展期間中は当館研究職員による講演会を 5 回、外部有識者による講演会を 3 回実施した。そのほか新聞や雑誌への寄稿やマスコミ取材、出張講演などを精力的に実施し、契丹文化の普及とともに当館の事業をひろく紹介することにつとめ、来場者は 7 万 5 千人を超えた。



特別展「草原の王朝 契丹」展示風景；九州国立博物館と内蒙古文物考古研究所が保存修復を実施した彩色木棺

契丹は、当時は豊な経済力、軍事力、文化力でもって世界にその名を轟かせた王朝であり、また周辺諸国への影響の強さを考えても決して等閑視できない存在である。それにもかかわらず、現在契丹に関する認知度はきわめて低い。こうしたなかで、九州国立博物館では 6 年にわたり調査研究をすすめ、その成果を特別展という普及公開の場を活用してひろく紹介し、大きな反響を得るに至った。

また本事業は、開始当初より、九州国立博物館の職員を中心とする保存修復活動をも加味して進めてきた。すなわち九州国立博物館は内蒙古文物考古研究所とともに、契丹時代の彩色木棺に対する保存修復事業を 4 ヵ年にわたり実施した。修理が完了した彩色木棺は、本特別展において世界初公開として出品し、また保存修復過程についても映像で紹介した。このような保存修復を加えた調査研究は、九州国立博物館ならではといえるものであり、特別展を通して当館の独自性も紹介することができた。

【実績値】

○調査回数	2 回
○収集資料数	128 点
○論文掲載数	5 篇
○学会研究会等発表数	11 回
○講演会	8 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	S	A	A	A	A

備考
　独創性Ｓ：契丹文化の総合的な特別展はわが国においては初めてとなるものであり、また本事業の推進にあたっては当館職員による保存修復事業を軸として実施するといったように、極めて独創性に富んだものと評価できる。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	論文掲載数	学会研究会等発表数	講演会	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　十分な計画のもと適時調査を実施し、資料を収集した。また調査成果については特別展、論文、研究会発表等によって計画的かつ効果的に公表した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	入念なる計画策定のもと、当初見込みの成果をあげることができた。しかしながら、契丹文化に対する認知度は依然として低く、より多様な情報発信手段の活用を検討し、実施をはかりたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	入念なる計画策定のもと、当初見込みの成果をあげることができた。しかしながら、契丹文化に対する認知度は依然として低く、より多様な情報発信手段の活用を検討し、実施をはかりたい。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画に関する調査研究（(5)－②）

【事業概要】
日本の歴史を海外との文化交流の観点から紹介するというコンセプトのもとに収集された九州国立博物館の絵画コレクションのうち、とくに作品が充実している水墨画の分野を取り上げて基礎的な調査研究を集中的に行う。
その造形的・文化的な意義を日本・中国・朝鮮を含む東アジアの美術のなかに位置付けることを目的として実施し、その成果を特集陳列や図録作成などを通じて観覧者に提供する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　畑靖紀

【スタッフ】
鷲頭桂（企画課研究員）、森實久美子（企画課研究員）

【主な成果】
本年度は当該テーマについて次の二つの観点から研究し、下記の成果を得た。
(1)館蔵の水墨画などを実見調査し、さらに必要に応じて光学調査もおこなった。その成果をもとに、作品を筆線と墨面の観点から分析して、表現の特質を考察した。
(2)上記の作品に関連する文献を収集し、作品を歴史的に考察するための基本的な資料を整えた。
その成果を特集陳列や図録作成などを通じて観覧者に提供した。

【年度実績概要】
東アジアの文化交流の歴史のなかでも、水墨画は注目すべき美術のジャンルの一つである。そのため当館ではこの分野の作品収集を積極的に進めており、開館から 6 年を迎え水墨画の所蔵品が 20 件を超えたことを画期として、本調査研究を集中的に遂行することとした。その造形的・文化的な意義を日本・中国・朝鮮を含む東アジアの美術のなかに位置付けるとの目的を達成するために、今年度は「主な成果」に記した観点から研究を遂行した。
(1)については、当館の所蔵品をはじめ、関連作品を所蔵する国内外の美術館・博物館において 100 点の作品の調査を遂行した。さらに作品を筆線と墨面の観点から分析して表現の特質を考察した成果を論文にて公表した。
(2)については、九州大学所蔵の研究図書などを活用して作品の主題や様式、伝来などに関する基本資料を収集した。
また「実績値」に示したように、上記の成果を特集陳列（トピック展示）を開催して公共の観覧に供し、あわせて図録を作成して公表した。さらに学術雑誌に論文を掲載し、講演会においても成果を発表している。



トピック展示「館蔵水墨画名品展」

【実績値】
○調査回数　4 回
○研究員海外派遣数　2 回
・中国（作品調査）　1 回
・韓国（作品調査）　1 回
○収集資料数　100 点
○特集陳列開催数　1 回
・トピック展示「館蔵水墨画名品展」
○論文掲載数　2 回
・展覧会図録『トピック展示館蔵水墨画名品展』九州国立博物館
・『聚美』第 2 号、青月社
○学会研究会等発表数　1 回
・特別展記念講演会（北九州市立自然史・歴史博物館）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	研究員海外派遣数	収集資料数	特集陳列開催数	論文掲載数	学会研究会等発表数
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的評価についてはとくに発展性・継続性・正確性の観点から、定量的評価については公表した成果の実績値から、A判定とした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は、研究内容の水準を保ちつつ、順調に遂行できたと考える。 本事業については、今後も外部資金などを積極的に活用する方法により、調査研究を継続していきたいと考える。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）中国湖南省の馬王堆漢墓に関する調査研究（(5)－②）

【事業概要】
馬王堆漢墓は、中国湖南省長沙にある前 2 世紀の墳墓で、1972 年に発見された。被葬者は利蒼という人物とその妻子であるが、発見当時、妻の遺体は極めて良好な状態であったことや、漆工芸品や染織品、帛書などの貴重な副葬品が出土した。この出土品を中心とする特別展を当館では 2012 年夏（この他日本国内各地に巡回の予定）に計画し、そのための調査研究、出土品の保存事業を湖南省博物館などと共同で行なう。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	企画課長　小泉惠英

【スタッフ】
谷豊信（学芸部長）、市元塁（企画課特別展室研究員）

【主な成果】
前年度までに、湖南省に事前調査に赴き、作品の状態確認を行ない、出品候補作品とその保全措置について協議を行なってきた。また、元京都大学人文科学研究所教授の曾布川寛氏らと日本国内における馬王堆漢墓の研究動向について研究会を行ない、準備を進めてきた。しかしながら、東日本大震災により巡回予定先の仙台市博物館の受入れが不能となるなど、運営面での見通しが立たなくなり、展覧会実施の計画自体が中止となった。

【年度実績概要】

3 月 11 日の東日本大震災以後､平成 23 年度 4 月より運営に関しての協議を日本国内各館および中国側と進めてきたが、上記理由により事業として採算見通しが立たないことが予測され、6 月に展覧会の開催中止を決定した。そのため実績に関しての記載はない。

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定						
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
F	東日本大震災により展覧会が中止となった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-4
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究（(5)－②）

【事業概要】
百済・新羅・高句麗の三国時代の文化を中心とした朝鮮半島の文化財について、考古・美術・工芸の分野について調査研究を実施するものである。現地での調査だけでなく、我が国に将来された文化財を当館のＸ線ＣＴなどの科学機器を利用した分析をすすめる。こうした成果を将来特別展として結実させるために、まずは今年度、韓国での海外日本古美術展を実施する。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	展示課長　赤司善彦

【スタッフ】
三輪嘉六（館長）、森田稔（副館長）、谷豊信（学芸部長）、本田光子（博物館科学課長）、臺信祐爾（文化財課長）、小泉惠英（企画課長）、今津節生（環境保全室長）、藤田励夫（博物館科学課保存修復室長）、秋山純子（アソシエイトフェロー）、志賀智史(主任研究員)河野一隆（文化交流展室長）、池内一誠（主任研究員）、上野知彦（主任研究員）、楠井隆志（主任研究員）、鳥越俊行（主任研究員）、川畑憲子（研究員）、森實久美子（研究員）、進村真之（主任研究員）、酒井芳司（研究員）、遠藤啓介（研究員）、坂元雄紀（研究員）、末兼俊彦（アソシエイトフェロー）

【主な成果】

1　韓国の国立中央博物館及び国立公州博物館、国立扶余博物館での予備調査と共同研究の打合せを行った。
2　韓国での現地調査や、日本に伝来した文化財の調査研究を実施した。
3　韓国国立中央博物館で、文化庁、滋賀県とともに海外日本古美術展を実施した。
4　国際シンポジウムを開催した。(24 年 3 月 10 日)

【年度実績概要】
1　将来の百済展開催に向けた共同研究の実施について、協議等を実施した。国立公州博物館との九州出土の百済関係遺物の調査は、震災の影響により来年度以降に延期となった。
1―2　24 年 3 月 10 日に国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。
2―1　韓国の扶余地域の百済山城と日本の古代山城について、ＧＰＳ機器による現地踏査を韓国の研究と共同で実施した。
2－2　新羅古墳出土飾履や対馬に伝わる高麗時代の地蔵菩薩のＸ線ＣＴ等の調査を実施した。
2－3　長崎県対馬・五島での対外交流関係遺跡や関連史料の総合調査（科学研究費）を実施した。
3　平成 23 年 12 月 20 日より韓国国立中央博物館において、文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」を開催した（～24 年 2 月 19 日）。展覧会の内容は日韓共同で構築し、日本の仏教美術の中心地の一つである琵琶湖周辺の文化財を紹介した。文化財 59 件を展示した。


五島列島小値賀島での朝鮮半島関係資料の調査

【実績値】
○調査回数　17 回
・韓国での打合せ　3 回（5 月、11 月、12 月）
・韓国内の調査　5 回（ソウル地域 3・公州地域 1・扶余地域 1）
・日本国内の調査　7 回
・Ｘ線ＣＴ分析　2 回（新羅古墳出土飾履・対馬伝世の地蔵菩薩）
○論文掲載数　4 件
○学会研究会等発表数　3 回（文化財科学会、美術史学会、九州古代史の会）
○展覧会開催　1 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	S	A	A	A

備考
当初は、東日本大震災の影響等で予定していたスケジュールが延期されるスタートであったが、韓国国立中央博物館の本事業への理解と協力をいただき、なんとか軌道に乗せることができた。今後の長期的な共同研究を視野に入れての、日本と韓国の文化対比という試みは発展性と伸張性が大いに期待できる。また、九州島内の朝鮮半島由来の資料についての調査を、島嶼部より実施した。

2．定量的評価

観点	調査回数	論文掲載数	学会研究会等発表数	展覧会開催		
判定	A	A	A	A		

備考
九州島内の調査は当館の職員のほとんどすべてが関わって実施することができた。館員の多くの研究基盤に新しい視点を提供することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	五島列島と対馬を中心とした九州島内での現地調査や、韓国の研究者との意見交換、展覧会の実施などを予定通り実施することができた。韓国中央博物館で日本の仏教文化を紹介する展覧会を開催することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されている。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-5
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）Ｘ線ＣＴによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析（科学研究費補助金）（(5)－②）

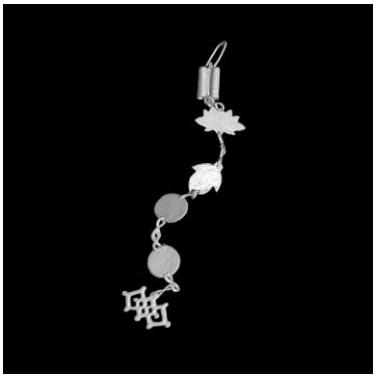
【事業概要】
九州国立博物館に導入されている文化財専用の大型Ｘ線ＣＴ（Computed Tomography）装置を活用し、九州所在彫像のうち、銘文や納入品が存在するなど制作年代の明らかな基準作例やそれに準ずる重要作例を調査対象として取り上げ、非接触・非破壊できわめて詳細・精緻な内部構造の解析や納入品の検出を実施し、日本彫刻史研究および東アジア彫刻史研究の進展に有益な基礎的データを蓄積・公開してゆこうとするものである

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　楠井隆志

【スタッフ】
今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）、鳥越俊行（学芸部文化財課資料登録室主任研究員）、末兼俊彦（アソシエイトフェロー）、輪田慧（博物館科学課）

【主な成果】
平成 22 年度からの継続研究であるが、今年度は特別展「黄檗 - OBAKU　京都宇治・萬福寺の名宝と禅の新風」に出陳した主要彫像およびその関連彫像について、Ｘ線ＣＴ調査やＸ線撮影を重点的に実施した。これまで未解明であったこの時期の中国木彫仏の内部構造に関する基礎的データを採取・蓄積した。その成果は報道発表や地元での調査報告講演会などで積極的に公表した。

【年度実績概要】
黄檗宗大本山萬福寺をはじめ黄檗宗寺院に所蔵される彫像については、これまで本格的・科学的な調査の対象となる機会がほとんどなかった。このたび展覧会出陳作品を対象に、会期中順次調査および撮影作業をおこなった。また出陳されなかった彫像についても、必要に応じて現地で調査を実施し、なるべく多くのデータを採集するよう努めた。
比較的小型の彫像についてはＸ線ＣＴ調査を実施し、像内納入の存在確認、内部構造の解析をおこなった。大型の彫像については、通常のＸ線透過撮影を実施した。これにより、17 世紀の活発な日中貿易の過程で日本に舶載された中国木彫仏、また長崎で中国人渡来仏師が制作した木彫仏などのデータがかなり蓄積された。特筆されるのは、長崎聖福寺の「釈迦如来坐像」で、Ｘ線透過撮影の結果、像内に納入品が存在することを確認、さらにＣＴによって納入品の三次元画像を採取した結果、大変珍しい金属製五臓が検出された。国内外で 5 例目の確認であり、未解体での発見はもちろん初の事例である。そのほか九州所在作品ではないが、大本山萬福寺所蔵の「隠元隆琦像」や「白衣観音像」などは今回寺外初公開であり、今後も公開されることはないと思われるが、それらのＸ線調査が実施でき、内部構造についてある程度把握できたことは大きな成果であった。



長崎・聖福寺釈迦如来坐像納入品（金属製五臓）の三次元画像

【実績値】
○調査件数　　17 件
（Ｘ線ＣＴスキャン調査件数　6 件、Ｘ線透過撮影件数　11 件）
○収集資料数　　475 点
（写真（4×5 カラーポジフィルム）　75 点、デジタルデータ　400 点）
○研究発表件数　　3 件

【備考】
研究発表：
美術史学会西支部例会（平成 24 年 1 月 21 日　九州大学）　「黄檗山萬福寺の隠元隆琦倚像について」（楠井隆志）
調査成果報告講演会（平成 23 年 7 月 30 日　長崎歴史文化博物館）
「生きている！聖福寺釈迦如来坐像」（楠井隆志）、「像内から発見された内臓模型について」（末兼俊彦）
マスコミ報道：
「仏像内部に金属の内臓　九州国博、ＣＴで初確認」（『西日本新聞』平成 23 年 6 月 27 日朝刊）ほか新聞 29 紙、ＴＢＳ『朝ズバッ』・『ひるおび』・『サンデーモーニング』、フジテレビ『とくダネ！』取材報道対応
『放射線等に関する副読本』（小中高生副読本　文部科学省研究開発局・原子力文化振興財団制作）への制作協力
『月刊考古学ジャーナル』No.621　「長崎市聖福寺　釈迦如来坐像の像内納入品　Ｘ線ＣＴスキャナーによる調査」
今津節生・楠井隆志（ニューサイエンス社　平成 23 年 11 月発行）
『科研費 NEWS』2011 年度 VOL.3「科研費からの成果展開事例　仏像のＸ線ＣＴ調査で金属製五臓を発見」
（独立行政法人日本学術振興会発行）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-5

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	S	S	S	S	A

備考
　黄檗宗寺院に安置される彫刻に対して、Ｘ線ＣＴスキャン調査、Ｘ線透過撮影、携行Ｘ線装置による成分分析、樹種同定など、さまざまな科学的調査を実施することができた。いずれも過去に例がなく、初めてのことである。像内納入品の発見もあり、国内外からの注目も集めた。

2．定量的評価

観点	調査件数	収集資料数	研究発表件数			
判定	A	A	A			

備考
　調査件数は、数的には少ないかも知れないが、ひとつひとつから得られた三次元的情報は膨大な量であり、将来的に無限に活用できるデータ量が収集された。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	黄檗宗寺院の彫刻に関しては、これまであまり調査・研究が進んでいない。今回、特別展に出品した大本山萬福寺や長崎・唐寺の仏像を調査し、中国・明末清初期の木彫像の内部構造などの解明が進んだことはきわめて注目すべきことであった。 次年度も調査を続行するとともに、調査成果を論文としてまとめ、公表していく予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	特別展で借用した文化財を、最新の設備と科学機器を駆使して、館内で安全に調査を実施し、新発見による報道を積極的に行い、また調査成果を着実に蓄積している。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-6

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6）南アジアと東方アジアの螺鈿構造―技術比較の視点から―（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）（(5)－②）

【事業概要】
昨年度のインド国内螺鈿工房の調査により、現代インドでは古い螺鈿器はほとんど残っておらず、またかつての高度な技術はほとんど維持されていないものの、樹脂地螺鈿と木地螺鈿の 2 種の存在が確認でき、さらに骨や石などの多様な素材による象嵌装飾が盛んに行われていることも確認された。本研究はこれを受け、ヨーロッパ各地に残されているインド螺鈿器の調査とそれに関連するアジア各地の螺鈿器等について、技術面を中心に調査を行ったものである。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料管理室長　小林　公治

【スタッフ】

【主な成果】
本研究では、16～17 世紀の大航海時代にヨーロッパからインド、東南アジア、そして極東アジアにかけて盛んに交易活動を行ったポルトガルやスペイン、さらにそうした交易品を入手したオーストリア、ドイツ、イギリス各国の博物館・美術館、また王宮城址や寺院などで調査を実施し、当時のインド螺鈿器の具体的な様相を確認すると共に、ヨーロッパ人によって注文され日本から多数輸出された南蛮漆器などとの関係などについても様々な成果を得ることができた。

【年度実績概要】
インドの螺鈿については、世界的にもこれまでほとんど研究が無く、その様相とくに技術的な側面については不明点が多かった。本研究では昨年度実施したインド国内での螺鈿工房調査成果を元に、ヨーロッパ各地に残されているインド製螺鈿器の具体的様相、特にその制作技術や入手年代などについて実見やインベントリー情報の確認により調査することを第一の目標とした。また併せて、これらインド螺鈿器とヨーロッパ製器物（金工品や陶磁器等）との関連性、さらにこの時代に来日したポルトガル人らによる注文と輸出の結果、現在ヨーロッパに多数残されている南蛮漆器についてもできるだけ実見し、ポルトガル・スペイン・インド・日本などとの関係性、あるいは差異などについて明確な認識を得ることも目的とした。


マドリッド､デスカルサス修道院での調査

調査地は、ポルトガル国内（リスボン・シントラ・ポルト）、スペイン国内（マドリッド）、オーストリア国内（ウィーン）、ドイツ国内（ミュンスター）、イギリス国内（ロンドン、オックスフォード）の博物館・美術館、宗教施設（教会・修道院）、王宮や城址などで、各地では短期間の滞在ながら充実した調査を実施でき、その結果、上記螺鈿器のみならず、西アジア各地で造られた螺鈿器や象嵌器などについても実見し、また各地で多くの研究者との意見交換することができ、当初目的としたインド螺鈿についての成果はもとより、螺鈿全体についても多くの有益な情報を得ることができた。またそうした成果の一部はすでに日本国内で開催された国際会議での発表によって公表している。

加えて、各地のキリスト教寺院、王宮や城址、富裕層家庭の姿を再現した博物館等の調査によって、ヨーロッパ社会において螺鈿器が調度としてどのような位置にあり、また歴史的に変遷してきたのか、きらびやかな装飾性を求められた理由は何かといった、螺鈿器の消費の側面についても多くの情報を知ることができた。

【実績値】

○調査回数　1 回

○論文等掲載数　1 回

○学会研究会等発表数　1 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-6

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	A	B
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	論文等掲載数	学会研究会等発表数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の予定通りの調査地域で、各機関との調整を実施した上で、相当数の幅広い資料の調査を実施することができた。多くの資料は初めて実見するものであったため、今回の調査は問題意識の認識を中心とするが、今後はより広い問題点の抽出を行い、幅広い観点からの調査研究を実施したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	単年度研究ではあるが、得られた成果は今後の研究につなげるために貴重な情報である。短い時間の中での限られた調査であり、今後のより詳細な調査は必要であるが、実見の困難な資料へのアプローチができたことなど、当初の目的・目標は達成できたと言える。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)平山郁夫　画業と文化財保護活動に関する調査研究（(5)－②）

【事業概要】
日本画家で文化勲章受章者の平山郁夫（1930-2009 年）は、62 年にわたるその作画活動とともに、世界各地の文化遺産に対する保護活動を通じて世界平和を希求し続けた。平山の画業とともに文化財保護活動の軌跡を検証する。

【担当部課】	文化財課	【プロジェクト責任者】	文化財課長　臺信祐爾

【スタッフ】
谷豊信（学芸部長）、小泉惠英（企画課長）、原田あゆみ（文化財課主任研究員）、森實久美子（企画課研究員）、市元塁（企画課研究員）

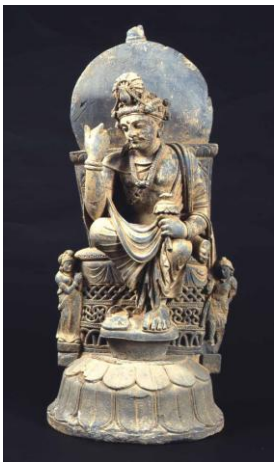
【主な成果】
来年度 4 月 3 日～5 月 27 日開催予定の特別展「平山郁夫　シルクロードの軌跡」実現に向けて基礎的な情報ならびに写真資料などの収集、出品候補作品の調査と選定および関係諸機関との調整などを実施した。また、本展の内容を広く一般の方々に知っていただけるように、記念講演会やワークショップなどについて企画した。

【年度実績概要】

昨年度 1 月－3 月にかけて、東京国立博物館で開催された特別展「文化財保護法制定 60 周年記念　仏教伝来の道　平山郁夫と文化財保護」に着想をえて、本年度 1 年間をかけて平山郁夫の画業、文化財保護活動の実態、研究材料として収集した優れた美術品（平山郁夫夫妻コレクション）の内容調査などを実施し、来年度の特別展企画準備とした。

4 月に平山郁夫シルクロード美術館館長平山美知子氏の企画協力について確約が得られたため、作品調査などと並行して、上智大学学術顧問石澤良昭氏ら、文化財保護活動に平山とともに尽力した方々と面談し、その内容について調査した。

これらの調査に基づき、展覧会名称を「平山郁夫　シルクロードの軌跡」とし、また展覧会内容を四部構成（釈迦追慕・壁画模写と文化財保護・シルクロードと仏教伝来の道・日本回帰－平和への祈り）とした。



菩薩半跏思惟坐像
（ぼさつはんかしゆいぞう）
クシャーン朝　2-3 世紀
パキスタン、ガンダーラ
平山郁夫シルクロード美術館所蔵

【実績値】

○調査回数　　10 回

○収集資料数　　109 点

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-7

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　平山郁夫は、画業のみならず、文化財保護活動にも大きな役割を果たしたことについて分かりやすい構成ができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数				
判定	A	A				

備考
　十分な計画のもと適時調査を実施し、資料を収集した。また調査成果については特別展、論文、研究会発表等によって計画的かつ効果的に公表する予定である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	入念なる計画策定のもと、当初見込みの成果をあげることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	入念なる計画策定のもと、当初見込みの成果をあげることができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 京都国立博物館　　処理番号 4532-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査および研究の推進
プロジェクト名称	1)近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究（科学研究費補助金）（(5) - ③)

【事業概要】
京都国立博物館では従来から継続的に京都を中心とする古社寺所蔵の文化財の悉皆調査を行い、『社寺調査報告』として公刊報告を重ねてきたが、平成 23 年度から 3 年間の予定で京都府南部、木津川流域の寺院を対象として文化財の調査を行い、この地域がもつ歴史的・文化的な特性を明らかにすることを目的に調査を行った。その 1 年目として、木津川市加茂町所在の海住山寺に関してその文化財調査を行った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	考古室長　宮川禎一

【スタッフ】
宮川禎一（考古室長）、久保智康（企画室長）、淺湫毅（主任研究員）、尾野善裕（工芸室長）、山本英男（美術室長）、山下善也（連携協力室長）、山川暁（主任研究員）、永島明子（主任研究員）、赤尾栄慶（上席研究員）、羽田聡（研究員）

【主な成果】
京都府木津川市加茂町所在の海住山寺の文化財総合調査をおこなった結果、中世の仏画・近世の絵画・金工・陶磁器などに新たな発見があった。

【年度実績概要】
平成 23 年 6 月 30 日、7 月 1 日・2 日・5 日・6 日ののべ 5 日間にわたって京都府木津川市加茂町所在の海住山寺（佐脇貞憲住職）の文化財総合調査を行った。これは同年 2 月の調査（2 月 14・15・16 日）に引き続くものである。
調査は本堂・庫裡・土蔵・旧堂などに所在する彫刻・絵画・書跡・工芸などをすべて調査して調書を制作し、必要な作品文化財に関しては写真を撮影するものであった。
彫刻は本堂内および土蔵内部の諸尊像を調査し、撮影を行った。絵画では旧山城国分寺所蔵だったと推定される中世の仏画が発見されるなどの成果があった。また、近世初頭と見られる未報告の障壁画が発見された。この障壁画については将来の展覧会への展示を前提に、京都国立博物館で寄託を受けてその修理と綿密な調査をおこなうこととした。書跡においては海住山寺文書の全貌をリスト化した。工芸作品では中～近世の金属製仏具の詳細な調査を行った。また青白磁の壺や香炉など上質の輸入陶磁器の調査撮影を行った。
この文化財調査には博物館の学芸スタッフをはじめ調査研究ボランティアや撮影カメラマンなど 5 日間でのべ 60 名以上が参加した。
この海住山寺の調査に続いて、平成 24 年 2 月中旬には笠置寺・一休寺・蟹満寺・神童寺の四寺院の文化財調査を実施した。



今回の海住山寺の調査によって新たに発見された近世初頭の狩野派の手になる屏風の調査風景

【実績値】
調査点数：約 400 点
撮影文化財点数：約 150 点

【備考】
科学研究費　基盤Ｂ「南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」（平成 23 年～25 年の三年間）経費による

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4532-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	B	B	A	B	A	A

備考
今後の調査によって引き続き新たな文化財の出現が予想されること。笠置寺・一休寺・蟹満寺・神童寺での調査が将来予定されていることから発展性・継続性をＡと評価した。

2．定量的評価

観点	調査点数	撮影文化財点数				
判定	A	A				

備考
文化財作品の調査件数はあらかじめ予測できないものの、おおむね 5 日間という調査日数に比して約 400 点の作品の調査をすることができたのは評価できる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	南山城地域の古寺所在文化財調査として海住山寺を選びその調査を行ったが、調査以前の想像を超える数量と質をもつ文化財を新たに発見するなどその調査の効果が高かった。また次年度以降の調査研究対象として海住山寺子院である現光寺の文化財調査の見込みを得ることができた。この南山城地域の寺院の文化財の特質の傾向を知ることが出来るようになったことも次年度以降の調査におおいに役立つと見られる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	京都国立博物館での文化財調査の成果については本来単年度・寺院毎に「社寺報告書」としてまとめるのが本来であるが、三年間の科学研究費による調査であり、本年度は調書の整理に努めるにとどめた。調査成果については将来の特別展覧会カタログや調査報告書の形で公開還元する予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4532-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4. 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)近世絵画に関する調査研究((5) - ③)

【事業概要】
当館に保管および寄託される作品を中心とした近世絵画に関する調査研究を行なう。近い将来に予定されている特別展覧会（平成 24 年度末～25 年度初『狩野山楽・山雪』）出品作品の候補選定を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	連携協力室長　山下　善也

【スタッフ】
（当館研究者)水谷亜希（当館アソシエイトフェロー）
（外部研究者)奥平俊六（客員研究員・大阪大学教授)、橋本寛子（調査支援ボランティア・神戸大学助手)、
吉田智美（調査支援ボランティア・同志社大学院生)、森光彦（同前）

【主な成果】
当館発行の『学叢』第 33 号に、次の論文を執筆し、館蔵品の文化財的価値を明らかにした。
山下善也「狩野永良の秘伝画法書について」
水谷亜希「新出の「やすらい祭絵巻」・「牛祭絵巻」（京都国立博物館蔵）について－松村景文・河村文鳳・上田秋成らによる祭礼の記録－」

【年度実績概要】
毎月一日程度、当館近世絵画担当研究員が調査支援ボランティア等とともに主として館蔵品・寄託品について、調査・撮影・意見交換等を行った。これらの調査に際し、客員研究員の奥平俊六氏の協力を得た。

当館近世絵画担当研究員が、調査支援ボランティア等とともに社寺調査に参加し、調査・意見交換を行った。社寺調査には、客員研究員の奥平俊六氏の協力を得た。

特別展覧会（平成 24 年度末～25 年度初『狩野山楽・山雪』）出品作品の候補選定については、50％程度進捗できた。

近世絵画研究は年々深化しており、それを通じ、京都国立博物館館蔵品・寄託品の価値がいっそう高まってきている。とともに、客員研究員および近世絵画担当研究員の著作活動をつうじて、一般の人々の京都文化に対する興味を喚起し、ひいては博物館に対する理解を深めている。

【実績値】
調査回数　12 回
収集資料数　150 点
調査概報　2 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4532-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別展覧会「狩野山楽・山雪」展（平成 24 年度 3 月～平成 25 年度 4 月）の準備は順調に進んでおり、リスト化は進捗している。 近世絵画の館蔵品・寄託品についての調査研究および関連情報収集は、順調に進んでいる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	近世絵画担当研究員と客員研究員との協力により、近世絵画、とくに館蔵品・寄託品に関する情報収集は、順調に調査研究は達成されている。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4542-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)鎌倉仏教とその造形に関する調査研究　((5)－④)

【事業概要】
鎌倉仏教の美術・造形にかかわる作品や図像及び関連資料を収集、整備する。
報告書の刊行、シンポジウム(研究座談会)の開催により、成果を公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　赤尾栄慶

【スタッフ】
鬼原俊枝(列品管理室長)、山本英男(美術室長)、山下善也(連携協力室長)、大原嘉豊(研究員)、羽田　聡(研究員)、淺湫　毅(主任研究員)、久保智康(企画室長)、尾野善裕(工芸室長)、山川曉(主任研究員)、永島明子(主任研究員)、宮川禎一(考古室長)、中村　康(文化財管理監)、村上　隆(保存修理指導室長)、呉　孟晋(研究員)、水谷亜希(アソシエイトフェロー)

【主な成果】
仏教美術研究上野記念財団の助成によって、鎌倉仏教に関する資料の調査・撮影を実施し、研究発表と座談会「浄土宗の文化と美術」を開催した。

【年度実績概要】
鎌倉仏教の美術・造形にかかわる作品や図像及び関連資料を収集、整備する中で、源空（法然）の撰述した「選択本願念仏集」（重文、奈良・当麻寺奥院蔵)の書誌学的調査を行い、全巻デジタル撮影を行った。選択集古写本中、廬山寺本に次ぐ鎌倉時代の善本である。また、正安三年（1301）に鹿島門徒長井道信の請により覚如が撰述した『拾遺古徳伝』九巻本に基づく「拾遺古徳伝断簡」（重文、茨城・無量寿寺蔵）の調査を実施し、全巻撮影を行った。本作は真宗における源空（法然）伝記絵の古本として知られ、鳥栖・無量寿寺は鹿島門徒の中心寺院である。所蔵先で厳重に格護されており、従来公開の機会も少なかったものである。また、「木造十二天面」（重文、京都国立博物館蔵）の調査と撮影を行った。本作は、京都・教王護国寺旧蔵品で、灌頂会の行道に使用されていた 10 世紀の遺品である。
また、4 月 29 日に研究発表と座談会「浄土宗の文化と美術」を開催し、次年度における報告書刊行の準備作業を行った。

【実績値】
○調査　3 件
・「選択本願念仏集」（重文、奈良・当麻寺奥院蔵)を調査し、全巻の撮影を行った。
・「拾遺古徳伝断簡」（重文、茨城・無量寿寺蔵）の調査と全巻の撮影を実施した。
・「木造十二天面」（重文、京都国立博物館蔵）の調査と撮影を行った。
○撮影　3 件
・「選択本願念仏集」（重文、奈良・当麻寺奥院蔵)を調査し、全巻の撮影を行った。
・「拾遺古徳伝断簡」（重文、茨城・無量寿寺蔵）の調査と全巻の撮影を実施した。
・「木造十二天面」（重文、京都国立博物館蔵）の調査と撮影を行った。
○研究会開催　1 件
研究発表と座談会「浄土宗の文化と美術」を開催した。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4542-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	S	A	A	A	A	

備考
鎌倉仏教の美術について多面的に調査研究し、多岐にわたる資料を収集している。特別展覧会「法然―生涯と美術―」（平成 23 年 3 月 26 日-5 月 8 日）の展示借用という貴重な機会を活かし、法然に関する 2 件の調査撮影を行った。また、1 件は、特別展観「国宝 十二天像と密教法会の世界」（平成 25 年 1 月 8 日開催）の予備的調査として行った。研究発表と座談会は、継続性のある活動であり、仏教美術分野のみならず、宗教史など幅広い分野から注目されているものである。今回は、法然 800 回忌を記念した法然に関する初めての大規模展である特別展覧会「法然―生涯と美術―」に合わせて「浄土宗の文化と美術」と題して開催したが、試験的に大学関係者の出席を念頭に休日に設定したため、予想以上の出席増という好成績を得た。また、従来の法然研究の成熟による転換期にあたっていたこともあり、内容的にも発表者の最新成果を元にした研究の画期となる優れた成果を収めることができた。特別展覧会の機会を活用した調査研究及び研究会開催、及びその研究の時宜を得たことによる研究会の斬新性に鑑み、特に適時性のみ S の評価としている。

2．定量的評価

観点	調査	撮影	研究会開催			
判定	A	A	A			

備考

調査と撮影を、各々3 件ずつ行い、研究発表と座談会も行った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	4 カ年の継続事業「鎌倉仏教とその造形に関する調査研究」の第 3 年度として、平成 23 年 3 月からの特別展覧会「法然―生涯と美術―」の機会を利用し、鎌倉新仏教の祖師である法然に関する資料調査を 2 件行い、かつ研究発表と座談会により一定の研究成果を公開することができた。研究発表と座談会については次年度に報告書刊行の予定であり、準備作業を進めた。また、特別展観「国宝 十二天像と密教法会の世界」（平成 25 年 1 月開催）に向けた予備的調査撮影を 1 件行った。次年度は特別展観の趣旨に照らして鎌倉時代密教諸流の動向に焦点をあて、仁和寺御流関係聖教等の調査を予定しており、また特別展観会期中に関連する研究発表・座談会を開催する運びとなった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	多岐にわたる分野の資料について収集・整備ができ、また、研究発表と座談会の開催により、仏教美術研究の発展に資することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-1

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）平成 24 年度春季特別展「貞慶（仮称）」、25 年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。（(5)－④）

【事業概要】

次年度以降に実施する予定の特別展のテーマに沿って予備的な文化財調査を行い、出陳品の選定や展示構成案の作成に資する。出陳候補となった作品に対してはより詳細な調査を行い、展示会場における各種解説、展覧会図録に掲載される総説・各論・作品解説、会期中の講座等に資する。また展覧会担当者を中心として、当該テーマに沿った様々な学術的観点からの調査研究を行い、展覧会とそれに伴う諸活動の内容充実を図る。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】

岩田茂樹（学芸部長補佐）、内藤栄（学芸部長補佐）、稲本泰生（前企画室長）、吉澤悟（前教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（前情報サービス室長）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、清水健（前教育室員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（企画室員）、原瑛利子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】

平成 24 年度春季特別展「解脱上人貞慶－鎌倉仏教の本流」、夏季特別展「頼朝と重源（仮称）」、25 年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」、夏季特別展「中国遼寧省遼代仏教文物展（仮称）」、26 年度特別展「百済（仮称）」等に向けて関連作品の調査を行った。うちある程度内容が確定している特別展（「貞慶」展等）については、特定作品の重点的な調査を行った。また他機関との共催展（「貞慶」「遼寧省」展等）については、相手先との学術面での協議や合同調査を実施した。

【年度実績概要】

① 平成 24 年度春季特別展「解脱上人貞慶－鎌倉仏教の本流」開催に向け、出陳予定品の事前調査を行った。阿弥陀浄土図（京都・海住山寺蔵）の、館内修理工房における修理の過程で新知見が得られたことを機に行った、本図及びこれと密接な関係を有する兜率天曼荼羅（京都、興聖寺蔵。重要文化財、京博寄託品）の調査では、特に大きな成果を得た。また共催者である神奈川県立金澤文庫（同展は当館で開催後、同文庫に巡回。二会場とも両者の共催）との間で、内容・学術面での充実を図るべく情報交換・協議を重ねた。

② 平成 24 年度夏季特別展「頼朝と重源（仮称）」開催に向け、鶴岡八幡宮及び甲府善光寺等で出陳予定品の事前調査を行い、資料収集を行った。

③ 平成 25 年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」開催に向け、同寺所蔵文化財の全容を把握した上で出陳品選定を行うべく、学芸部研究員ほぼ全員が参加して、同寺諸堂及び塔頭の西南院・奥院等で文化財調査を実施した。

④ 奈良文化財研究所と共催する平成 25 年度夏季特別展「中国遼寧省遼代仏教文物展（仮称）」開催に向け、奈文研と内容等について協議を重ねるとともに、中国遼寧省に研究員 1 名を派遣し、遼寧省博物館・遼寧省文物考古研究所・朝陽北塔博物館等で、奈文研側の担当者との合同調査を実施した。

⑤ 平成 26 年度特別展「百済（仮称）」開催に向け、韓国国立中央博物館及び扶余博物館に館長以下計 3 名を派遣した。同展は九州国立博物館でも開催される予定であり、現地では同館と合同で情報交換及び出陳予定文化財の予備調査を行った。



当麻寺における宝物調査

【実績値】

・作品調査回数（人数×日数の延べ回数）　52 回
・共催館との打ち合わせ・合同研究会等回数　10 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
24 年度以降に開催する特別展に向けて、出陳予定品の選定あるいは展示・論考及び解説等執筆等の準備のため、作品調査及びテーマに沿った研究を実施した。その過程で 24 年度特別展「解脱上人貞慶－鎌倉仏教の本流」展出陳予定品の二件の絵画作品の関係についての知見に基づく調査研究が行われるなど、展覧会の内容をより魅力的に、かつ学術面でも信頼できるものとすることにつながる実績が得られた。

2．定量的評価

観点	作品調査回数	打ち合わせ・検討会回数				
判定	A	A				

備考
24 年度以降における特別展開催に向け、それぞれの展覧会のテーマに沿った、十分な回数の文化財調査を実施することができた。また他機関との共催で行う特別展については、展覧会の学術面における充実・深化を図るべく、相手機関とともに情報交換・内容検討・協議等を行う場を、必要十分な回数、設けることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術及び奈良に関連する文化財を展示活動の中核に据えている当館にとって、当該ジャンルに関連する多彩かつ魅力的な特別展の企画立案・実施は、社会からの要請が最も強い業務の一つである。このような認識から特別展の内容を充実させ、かつそれを学術的な裏付けを伴ったものとすべく、設定した展覧会のテーマに沿った調査研究を展開してきた。本年度は 24 年度以降に開催予定の展覧会に関わる研究活動を作品調査中心に進め、質量両面において大きな実績を挙げることができた。次年度以降も将来の企画展示の充実に向けて同様の業務を継続し、着実に成果を挙げていく必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	特別展等の企画立案から開催に至るまでの過程における調査研究を、「仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の、基礎的かつ総合的な調査研究を行う」という計画に沿うよう展開しており、その点において順調に実績を積み重ねている。次年度も 25 年度特別展「当麻寺展（仮称）」「中国遼寧省遼代仏教文物展（仮称）」、26 年度特別展「百済（仮称）」等の開催に向けた調査研究を行う予定であり、これを円滑に遂行し、確実な成果の蓄積へと導く業務のサイクルが、すでに確立されている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成 23 年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、24 年度特別展「貞慶（仮称）」、25 年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。（(5)－④）

【事業概要】
奈良及びその周辺地域に位置する諸社寺に対し、奈良国立博物館の諸活動に対する理解と協力を得られるよう積極的な働きかけを行って所蔵文化財の調査研究等を実施し、その成果を平成 23 年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、24 年度特別展「解脱上人貞慶」、25 年度特別展「当麻寺展（仮称）」等に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
岩田茂樹（学芸部長補佐）、内藤栄（学芸部長補佐）、稲本泰生（前企画室長）、吉澤悟（前教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（前情報サービス室長）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、清水健（前教育室員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（企画室員）、原瑛利子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
奈良を中心とする諸社寺等への働きかけを行って薬師寺（奈良市）・與喜天満神社（桜井市）・当麻寺（葛城市）・法隆寺（斑鳩町）・談山神社（桜井市）・春日大社（奈良市）等の所蔵文化財を調査した。その成果を 23 年度に実施した展示及びそれに伴う図録類や講座等に反映させるとともに、今後の展示活動等に活用できる資料の蓄積、将来の調査に向けた調整などを行った。

【年度実績概要】
① 特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」開催に伴い、前年度以来行ってきた藤田美術館所蔵玄奘三蔵絵（国宝、興福寺大乗院伝来）、同・大般若経（国宝、薬師寺旧蔵）、薬師寺所蔵仏足石（国宝）等の調査研究の成果を会場解説、図録等に反映させた。
② 與喜天満神社の文化財及び長谷寺の天神関連文化財の調査研究を実施し、その成果を特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」の展示、展覧会図録、公開講座等に反映させ、鎌倉彫刻の名作である同天満宮所蔵の天神坐像を史上初公開するなど、画期的な成果を挙げた。
③ 名品展「珠玉の仏たち」における海住山寺（木津川市）本尊十一面観音像、弥勒寺（大和高田市）本尊弥勒仏坐像、金剛寺（河内長野市）金堂降三世明王像の特別公開に際してこれら諸像に関する調査研究を行い、その成果を解説・パネル等及び『なら仏像館　名品図録』に反映させた。
④ 当麻寺における総合的な文化財調査を前年度から継続し、平成 25 年度特別展「当麻寺展（仮称）」に向けて調書・写真等の調査資料を蓄積した。今年度は当麻寺本体及び西南院・奥院の所蔵文化財を調査し、その過程で注目された平安時代制作の台座群の精査を実施すべく、当館収蔵庫に搬入した。
⑤ 「聖徳太子御遠忌 1390 年記念　法隆寺展」（平成 24 年 3～4 月、日本橋高島屋等、当館学術協力）に成果を反映すべく、法隆寺にて文化財調査を行った。また同寺の刊行物『聖徳』（季刊）の巻頭作品解説を当館研究員が執筆した。
⑥ 談山神社の社殿改修を機に宝物群の総合的な調査を実施し、資料の蓄積を行った。
⑦ 出光文化福祉財団助成による調査研究「春日若宮おん祭図の研究」の実施、東京大学史料編纂所の共同研究「春日大社所蔵『大東文書』の調査・撮影」（代表者・藤原重雄）への参加等による成果を、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の展示及び図録等に反映させた。
⑧ 東大寺所蔵文化財についての調査研究の成果を東大寺ミュージアム開館記念図録『奈良時代の東大寺』に掲載された論考及び作品解説に反映させた。


特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」におけるおん祭図の展示

【実績値】
社寺等における調査回数（人数×日数の延べ回数）　112 回
展示への反映　6 回
講座・研究会等発表回数　11 回
論文等発表本数　15 本

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　與喜天満神社、当麻寺、法隆寺、東大寺、春日大社、談山神社、海住山寺、金剛寺など、奈良を中心とする主要な社寺に積極的な働きかけを行って所蔵文化財を調査し、その成果を年度内に開催した特別展・特別陳列等において反映したほか、次年度以降の企画の充実に資するべく蓄積し、重大な実績を挙げることができた。中でも與喜天満神社の天神坐像が本格的な調査に基づいて史上初めて公開されたこと等は、当館以外の機関ではなしえない画期的な成果として各方面から注目を集め、非常に高い評価を受けた。

2．定量的評価

観点	作品調査回数	展示への反映	講座・研究会等発表回数	論文等発表本数		
判定	A	A	A	A		

備考
　南都諸社寺等において精力的かつ着実に宝物調査を実施しており、資料の蓄積を行うとともに、その成果を展示や刊行物・口頭発表等で積極的に公表している。調査の回数、成果の公表回数とも、この方面における当館の調査研究の優れた実績を、広くアピールするのに必要十分な数値に達しているといえる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	奈良に立地し、仏教美術の調査研究・展示における国内最大級の拠点としての役割を果たしてきた当館にとって、南都諸社寺等に蔵される文化財の調査研究は、最も基本的にして不可欠な作業の一つである。本年度は近在の社寺を中心に所蔵品の調査を活発に展開して資料の収集を着実に進め、また蓄積した成果を展示や刊行物等に反映させ、うち幾つかの事例が画期的成果として注目を集めるなど、質量ともに大きな実績を挙げることができた。こうした調査を通じて近隣社寺との交流・信頼関係は一層深まりつつあり、今後の特別展をはじめとする、当館の企画・事業のさらなる充実につながることが期待できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	南都諸社寺等における文化財調査は「仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の、基礎的かつ総合的な調査研究を行う」という計画の主軸をなすものであり、近隣社寺の宝物調査実施による基礎資料の蓄積、その成果の展示や刊行物等への反映の両面において、本年度は大きな実績を挙げることができた。24 年度以降も毎年恒例の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」「お水取り」や、南都の地域性を重視した仏教美術関連の特別展（「解脱上人貞慶」「当麻寺展」等）の開催を予定しており、それらの充実を図るべく本年度同様の業務を継続し、着実に成果を挙げていく必要がある。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。（(5)－④）

【事業概要】
毎秋恒例の「正倉院展」を最も重要な事業の一つに位置づけている奈良国立博物館の運営方針に沿って、正倉院宝物に関する調査研究活動を行い、その成果を展示や刊行物等に反映させる。併せて奈良という地域に密着した文化財に関する調査研究を、（当館が主たる調査研究対象としている仏教美術ないし社寺関係の文化財に限定することなく）時代的にもジャンル的にも幅広く展開し、その成果を展示活動や刊行物等に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
岩田茂樹（学芸部長補佐）、内藤栄（学芸部長補佐）、稲本泰生（前企画室長）、吉澤悟（前教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室長）、野尻忠（前情報サービス室長）、斎木涼子（列品室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、清水健（前教育室員）、北澤菜月（情報サービス室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（企画室員）、原瑛利子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】
正倉院宝物に関連する調査研究を積極的に進め、その成果は当館が編集・刊行した展覧会図録『第 63 回正倉院展』に掲載されたほか、「正倉院展」会場での解説パネル類、新聞連載記事、講座・シンポジウムにおける口頭発表等に反映された。また明治時代に奈良県物産陳列所として建立され、このほど改修工事を終えて 23 年 7 月に再オープンした、敷地内の仏教美術資料研究センターの文化史的意義に関する調査研究を行い、その成果を図録にとりまとめて公刊した。

【年度実績概要】
① 「第 63 回正倉院展」開催に際し、同題の展覧会図録（和文及び英文）を編集・刊行した。出陳宝物調査資料の精査に基づいて各人が執筆した原稿を当館研究員全員で討議・吟味し、内容を確定した各個解説を掲載した。同図録には当館研究員の執筆した関連論考（「宝物寸描」）3 篇も付載した。会期中には新聞紙上で当館研究員執筆による宝物紹介記事を連載し、公開講座では当館研究員 2 名が研究成果を披露した。また当館が企画運営した正倉院学術シンポジウム 2011「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」（於：ならまちセンター）でも研究員 1 名が正倉院宝物に関連する研究成果を発表し、討論に参加した。
② 平成 21 年度から 2 年間にわたり耐震補強改修工事が行われた、当館敷地内の仏教美術資料研究センター（奈良県物産陳列所として建立された、近代建築史上重要な遺構。重要文化財）の文化史的意義に関する資料収集・調査研究を行い、その成果をとりまとめた図録『奈良国立博物館　仏教美術資料研究センター　重要文化財　旧奈良県物産陳列所』（総頁 24）を、23 年 7 月のリニューアルオープンに併せて公刊した。調査研究の過程で明治時代に陳列所の建設に従事した技術者宅から、貴重な古写真等が発見された。遺族の厚意でこれら資料は当館に寄贈され、その一部が図録に掲載された。
③ 毎年恒例の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に際し、本年度は特に競馬と相撲とに焦点をあてて関連文化財を重点的に調査し、出陳した。調査研究の成果は、同名の展覧会図録及び解説パネルなどに反映された。



正倉院学術シンポジウム 2011


仏教美術資料研究センター古写真

【実績値】
展覧会等図録刊行　5 冊
講座・研究会等発表回数　16 回
論文等発表本数　7 本

【備考】

【書式Ｂ】
（様式２）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
正倉院展開催時に刊行した図録や講座・シンポジウム等において、正倉院宝物に関する当館の研究員ならではの調査研究成果を公表することができた。また奈良に密着した文化財についての調査研究に関しては、ユニークな近代建築として注目を集める、敷地内の仏教美術資料研究センターの文化史的意義に関する研究成果を図録として刊行するなど、仏教美術一辺倒ではない奈良国立博物館の多彩かつ充実した調査研究活動の一端を、広くアピールすることができた点が特筆される。

2．定量的評価

観点	図録等刊行	講座・研究発表等回数	論文等発表本数			
判定	A	A	A			

備考
正倉院宝物及び奈良に密着した文化財の調査研究を展開し、資料の蓄積を行うとともに、その成果を展示や刊行物・口頭発表等で積極的に公表した。成果の公表回数については、この方面における当館の調査研究の優れた実績を、広くアピールするのに必要十分な数値に達しているといえる。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	かつて平城京がおかれた奈良には、独特の魅力に富んだ地域色豊かな文化が形成され、開花した。そこには当館が展示・調査研究の主軸としている仏教美術の枠に収まりきらない要素が、多分に含まれている。また奈良時代の日本に開花した文化の高い水準と国際性を、最も雄弁に物語る存在である正倉院宝物を、毎年恒例の「正倉院展」で展示する館として、当館は世界でも唯一無二の存在である。これら諸点に鑑み、正倉院宝物及び奈良という地域に密着した文化財の調査研究を展開し、その魅力を掘り起こして展示・刊行物等で広く紹介する活動を行ってきたが、本年度もこれまで同様、質量両面において十分な実績を挙げることができた。次年度以降も同様の業務を継続し、着実に成果を挙げていく必要がある。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	正倉院宝物や奈良という地域に密着した文化財に関する調査研究は、「仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の、基礎的かつ総合的な調査研究を行う」という計画の趣旨にきわめてよく適合するものであり、その成果の展示等への反映も要請度の高い業務である。本年度は恒例の正倉院展開催時の刊行物や講座・シンポジウム、仏教美術資料研究センターに関する図録等において優れた成果を公表することができ、順調に実績を挙げることができた。次年度以降も同レベルの成果を得ることができるよう、この方面における調査研究活動を継続的に実施していかねばならない。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。（(5)－④）

【事業概要】
奈良国立博物館と東京文化財研究所との間で締結した協定書に基づき、両機関の共同研究として仏教美術作品の光学的調査を実施し、使用材料、製作過程等について検討するとともに、高精細デジタルコンテンツを作成する。光学的調査は、①高精細フルカラー画像の作成、②可視光励起による高精細蛍光画像の作成、③高精細反射近赤外線画像の作成、④高精細透過近赤外線画像の作成、⑤蛍光エックス線による非破壊分析、を実施する。

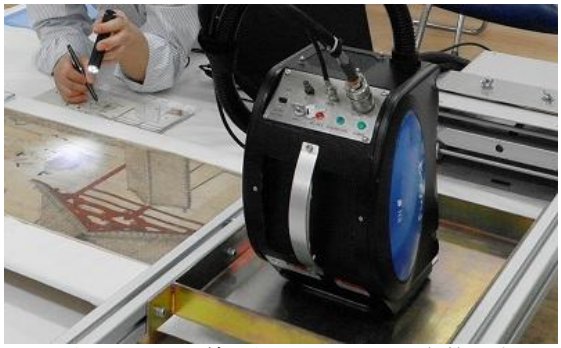
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	学芸部長　西山　厚

【スタッフ】
【奈良国立博物館学芸部】岩田茂樹(美術室長)、内藤栄(工芸考古室長)、稲本泰生(前企画室長)、吉澤悟(前教育室長)、宮崎幹子(資料室長)、谷口耕生(保存修理指導室長)、野尻忠(前情報サービス室長)、斎木涼子(列品室員)、岩戸晶子(工芸考古室員)、清水健(前教育室員)、北澤菜月(情報サービス室員)、永井洋之(企画室員)、原瑛莉子(企画室員)、佐々木香輔(資料室員)、【東京文化財研究所】田中淳(企画情報部長)、津田徹英(文化財アーカイブズ研究室長)、早川泰弘(分析科学研究室長)、城野誠治(専門職員)

【主な成果】
前年度に引き続き当館の寄託品である国宝 信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）を対象とする光学的調査を中心に実施した。すでに撮影を終えていた同絵巻全 3 巻の全紙にわたる高精細カラー画像、近赤外線画像、可視光励起による蛍光画像を詳細に検討して顔料調査の必要ポイントを確定し、蛍光エックス線分析器を用いて約半分のポイントまで光学的調査を実施し、顔料の同定に資する基礎的データを蓄積することができた。

【年度実績概要】
① 本年度は、前年度から 3 ヶ年計画で開始した当館寄託品の国宝 信貴山縁起絵巻を対象とする光学的調査の第 2 年度に当たる。まず、前年度にすでに撮影を終えていた山崎長者巻・延喜加持巻・尼公巻の全 3 巻全紙にわたる高精細デジタルカメラを用いたカラー画像、近赤外線画像、可視励起光による蛍光画像について詳細な分析を加え、その所見を踏まえて東京文化財研究所において 5 月 6 日に研究会を開催した。以後も継続的に画像データの検討を重ね、剥落や変色によって顔料の有無や種類、顔料層の構造が不明明瞭になっている部分を中心に追加の光学的調査が必要なポイントを絞り込んだ。これを元に、当館調査室において 11 月 9 日から 11 日の 3 日間にわたり蛍光エックス線分析器を用いて顔料に含まれる元素を同定する光学的調査を実施し、山崎長者巻の全ポイントと延喜加持巻の約半分のポイントに関する基礎的データの収集を行った。また調査期間中の 11 月 11 日には研究会を開催し、そこで年度内に残る延喜加持巻後半と尼公巻の全ポイントについての調査を実施すること、次年度には蛍光エックス線調査ポイントを中心に高精細デジタルカメラを用いた顕微鏡撮影を実施することを確認した。
② 前年度末に刊行した本共同研究の成果報告書である『大徳寺伝来五百羅漢図銘文調査報告書』は国内外で極めて高い評価を受けているが、その成果を踏まえて 24 年 2 月 18 日に米国ハーバード大学で開催される五百羅漢図のシンポジウムにおいて、当館研究員が研究報告を行った。
③ 『大徳寺伝来五百羅漢図銘文調査報告書』の入手が極めて困難な状況になっていることを踏まえ、同報告書の出版の計画が立ち上がった。出版に際しては、同報告書刊行後に蓄積された五百羅漢図に関する最新の研究成果および関連作品の基礎情報を盛り込むことを確認し、これに備えて次年度に大徳寺所蔵五百羅漢図のうち京都国立博物館寄託分について高精細カラー画像撮影を含む追加調査を実施する計画である。

【実績値】
調査回数　1 回：11/9 ～11/11
調査作品数　　1 件 3 点：
　　国宝　信貴山縁起絵巻(朝護孫子寺蔵)　3 巻
研究会開催件数　　2 回：東京文化財研究所で 5/6
　　奈良国立博物館で 11/11


蛍光エックス線分析器を用いた光学的調査

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4543-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　これまで十分な光学的調査が行われて来なかった平安絵巻の名品である国宝 信貴山縁起絵巻に対し、最新の光学機器を用いた調査を着実に実施し、同絵巻の顔料・絵画技法の解明に向けて、基礎データを蓄積することができた。

2．定量的評価

観点	調査回数	調査作品数	研究会 開催件数			
判定	A	A	A			

備考
　本年度はすでに信貴山縁起絵巻は全3巻のうち山崎長者巻の全ポイントと延喜加持巻半分のポイントについて蛍光Ｘ線分析器を用いた顔料調査を実施し、顔料同定に資する膨大なデータを収集することができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、3 ヶ年計画で進められている平安絵巻の名品国宝信貴山縁起絵巻に関する光学調査の 2 年度目に当たる。最新鋭の光学機器を用いた調査の実施により、従来は不明だった文化財の材質や構造を明らかにすることができ、また文化財の保存・修理を将来行う上での指針となる詳細な現状記録を残すことができた。また、共同研究のメンバー以外にも当該作品を総合的に評価するために外部の研究者を招聘して調査を実施するとともに、調査によって得られたデータをもとに研究会を行った。特に本年度は蛍光Ｘ線分析器を用いた顔料分析を中心に実施し、基礎的データの収集に努めたが、次年度には本年度の調査箇所を中心に顔料層の構造解明などを目的とした高精細デジタルカメラによる顕微鏡撮影を行う計画であり、追加調査を重ねていくことで分析の精度を高め、報告書の刊行につなげたい。また調査前・調査後の検討会をより綿密に行う一方、現在は 1 週間程度かかる 1 回あたりの調査実施期間を圧縮して、スムーズな日程調整を実現にするとともに、作品自体への負担を軽減したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。 調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、報告書・目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4554-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究（(5)－⑤）

【事業概要】。
九州国立博物館のコンセプトとして掲げられているアジアとの交流について、関係諸国とのさまざまな形での研究活動を進め、これを展覧会や研究報告などの形で示していく。

【担当部課】	企画課	【プロジェクト責任者】	企画課長　小泉惠英

【スタッフ】
赤司善彦（展示課長）、藤田励夫（博物館科学課保存修復室長）、原田あゆみ（文化財課主任研究員）、森實久美子（企画課特別展室研究員）、市元塁（同）、進村真之（展示課研究員）、上野良信（滋賀県立琵琶湖文化館）、井上ひろ美（滋賀県立琵琶湖文化館）、土井通弘（就実大学）

【主な成果】
昨年来継続してきたタイ国芸術局との研究交流の成果として、平成 23 年 4 月 12 日～6 月 5 日まで「日本とタイ ふたつの国の巧と美」帰国展、また、韓国国立中央博物館との研究交流の成果として「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」を韓国国立中央博物館において 12 月 20 日～平成 24 年 2 月 19 日まで実施した。これらはいずれも文化庁との共催事業である。

【年度実績概要】
平成 19 年度より継続的に実施してきた「文化財の保存と観光資源としての利活用」の成果として、前年度にタイ国バンコク国立博物館で特別展を開催したが、この帰国展を本年度、当館文化交流展示室において開催した。これに伴い、タイ側から計 10 名を招聘し、また日本側から計 2 名を派遣した。
会期中、展示内容に即した講演会、講座を 2 回、ワークショップを 1 回、タイの民族芸術を紹介するイベントを 1 回実施した。
また、展覧会の開催に伴って、今後の日タイ両国の学術交流について検討し、今後も継続的な研究交流活動を行なうことで合意した。
韓国では、国立中央博物館において日本文化を紹介する展覧会開催にあたり、2 年前に当館で開催した「湖の国の名宝」展を核としてこれを実施することとなり、文化庁ならびに韓国側と協力して、企画・運営・展示・学術協力を行なった。これに伴い、韓国より延べ 5 名の研究員を招聘、日本側から延べ 11 人を韓国へ派遣した。また、滋賀県において日韓共同での文化財調査も実施した。


＜日本 仏教美術-琵琶湖周辺の仏教信仰＞展
（韓国国立中央博物館）

【実績値】

○調査回数　1 回（韓国：日韓での共同調査）

○研究員海外派遣数　のべ　13 名（タイ 2 名、韓国 11 名）

○研究員受入数　15 名（タイ 10 名、韓国 5 名）

○論文掲載数　10 本（タイ展：日本 1 本、タイ 4 本、韓国展：日本 4 本、韓国 1 本）

○展覧会回数　2 回（タイ展、韓国展）

○研究報告回数　1 回（第 53 回東南アジア彫刻史研究会）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	S	A	A	A

備考
　タイ、韓国の両展覧会ともに、それまでの研究の蓄積および成果を大規模な海外展の形で結実したものであるが、展覧会の開催によって、プロジェクトが終結するものではなく、これをきっかけとして、さらに多角的にそれぞれの国の文化を研究していく端緒となっている。タイにおいては学術交流を進めることが提起され、また韓国においては今後の特別展を踏まえながら、より細分化した分野での専門性の強い研究交流を進めることを予定している。

2．定量的評価

観点	調査回数	研究員海外派遣数	研究員受入数	論文掲載数	展覧会回数	研究報告回数
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　タイ展においては、すでに事前調査が前年度までに十分行なわれ、準備が整っていた。派遣、招聘については、博物館はじめ文化財行政に関わるメンバーによって、展覧会の準備などが行なわれ、同様に図録掲載論文においても、多くのそれぞれ各国の研究員が数多く参加している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	タイ、韓国ともに両国を代表する国立の機関との研究交流を実施した。いずれの国も文化財行政の最先端を行く機関との共同事業であり、相互に有益な情報を得たばかりでなく、展示という形を取ることでそれぞれの市民・観覧者にもその成果が還元された。また、今後の更なる研究交流、展覧会開催に向けて、より強固な体制作りの契機となった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	展覧会を契機として、タイ、韓国ともに文化財行政に関わる中枢機関との密接な関係を築くことができた。これによって、タイとは今後の学術交流の進展、韓国とは特別展の開催に向けて、新たな段階へと進んでいく。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－（科学研究費補助金）（(5)－⑤）

【事業概要】
正倉院宝物として伝えられる木地螺鈿は、今のところ唐代の遺品が最古の事例であり、その後アジア各地で散発的に出現して独自のスタイルを持って盛行する。本研究では、螺鈿として優れた作品を生みながらもこれまでほとんど研究が行われて来なかったこの木地螺鈿について、中国、ベトナム、インドなどの制作地や各地に残る遺品について実見を行い、その歴史的実態について制作技術、製品内容、また消費の実態などについて多面的な研究を行うものである。

【担当部課】	文化財課	【プロジェクト責任者】	資料管理室長　小林公治

【スタッフ】
猪熊　兼樹（東京国立博物館主任研究員）

【主な成果】
本研究の最終年度である今年度は、これまでに行ってきた木地螺鈿を主体とするベトナムの螺鈿について、おそらく世界で初めて総合的な研究論文を発表した。さらに中国での研究発表と調査、またベトナムでの研究発表と調査によりその成果を各地で広く公表し、より広範な関心の喚起と成果の還元を行うと共に、まだまだ不明点の多いその実態について、さらなる究明を目指した。また、国内各地に於いても調査を実施した。

【年度実績概要】
ベトナムに螺鈿が存在することは、外国人ではこれまで漆工史や家具類に関心を持つごく一部の研究者などが知るのみであり、一方ベトナム国内ではキン族の人々は一般的な知識として知っているものの、その歴史や技術、またそれに反映されているベトナム人の価値観といった点については何らの書籍も無く明らかにされていない現状にあった。筆者はこれまでに行ってきた調査結果をまとめ、日本語ではあるがベトナムの螺鈿に対する総合的な研究調査計画を発刊することができた。

また、8 月から 9 月にかけて中国西安で開催された漆に関する国際フォーラムでは、中国はもとより各地からの参加者に対してこれまでの本科研費研究の成果を含む中国の螺鈿史全体について、その歴史上の問題点とその理解への解決点の提示、さらにはこうした文化の今後の維持について提言などを行い、さらにそれを中国語で論文発表した。その後、中国各地で正倉院と類似する鏡類や木地螺鈿作品や制作状況に関する調査を実施した。

11 月のベトナム調査では、これまでのベトナム調査の研究ベースの一つであるベトナム国家博物館（歴史博物館）において、副館長 3 名以下多数の館員、またベトナム革命博物館館員らおおよそ 50 名に対してこれまで明らかになったベトナム螺鈿研究の成果について講演を行った。また講演後には多くの感想が寄せられ、高い関心を得ることができた。その後、ベトナム各地を訪れこれまでで不足していた情報の収集に努め、南部およびカンボジアにかけてクメール人によるクメール様式（仮称）というべき独自の螺鈿が存在する可能性が高いことなどが明らかになってきた。

この他、関連する唐代螺鈿鏡と平脱鏡について日本国内各地でも調査を行い、重要問題点として上がってきた、漆と自然樹脂との使い分けについて研究発表を行った。


山西省稷山螺鈿工房での調査


ベトナム国家博物館（歴史博物館）での講演

【実績値】

○調査回数　3 回

○論文等掲載数　3 回

○学会研究会等発表数　3 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	A	B
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	論文等掲載数	学会研究会等発表数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の調査目的に従うと共に、より広い視野の下、広範な調査を実施できた。またこれまでの調査成果や、問題点などについて各地で公表し幅広い意見交換を行い今後の研究につなげる実績を得ることができた。 資料収集については画像などを中心としたためあまり積極的に行えなかったが、今後の課題としたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	アジア各地に於いて幅広い調査を実施でき、おおむね順調な成果を上げ得たと評価できる。しかし、一地域での調査時間は十分とは言えず、得られた情報に精粗がある。今後はこうした問題点についてできるだけ改善し、より詳細な情報の入手に努めたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する調査研究（(5)－⑤)

【事業概要】
平成 23 年は袋中上人が檀王法林寺を開創して 400 年目にあたる。袋中は 17 世紀初期の古琉球時代の琉球に渡って浄土教を広めた僧侶で、尚寧王はじめ多くの帰依を受けた。袋中は、琉球に関する『琉球神道記』(重要文化財)を著したことでも知られている。檀王法林寺には袋中が尚寧王から譲られたと伝えられる宝物が所蔵されており、これらは日琉交流に関する極めて貴重な文化財であり、当館のテーマに最適であり、トピック展として公開した。

【担当部課】	博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室長　藤田励夫

【スタッフ】
楠井隆志（展示課主任研究員)、原田あゆみ（文化財課主任研究員)、川畑憲子（企画課研究員)、森實久美子（企画課研究員)、末兼俊彦（アソシエイトフェロー)、金井裕子(東京国立博物館研究員)

【主な成果】
トピック展示「琉球と袋中上人展」(会期　平成 23 年 11 月 1 日から 12 月 11 日）を沖縄県立博物館・美術館と共催で開催した。
展覧会図録「琉球と袋中上人展」を刊行した。
関連催事として講演会「袋中上人とエイサー・檀王法林寺」を開催した。うるま市無形文化財　平敷屋エイサー公演を行った。共に 11 月 13 日。
沖縄県立博物館・美術館での会期は平成 24 年 1 月 25 日から 2 月 19 日まで。

【年度実績概要】

トピック展示「琉球と袋中上人展」を開催するにあたっては、事前調査を実施した。応急修理が必要な作品については、修理を行った。
展覧会図録作成のため写真撮影を行った。展覧会図録「琉球と袋中上人展」を刊行した。
展覧会開催中は、講演会「袋中上人とエイサー・檀王法林寺」を開催した。(11 月 13 日)
うるま市無形文化財　平敷屋エイサー公演を行った。(11 月 13 日)
ミュージアムトークも行った。(11 月 1 日「琉球と袋中上人」、11 月 8 日「琉球と袋中上人展」の彫刻)


トピック展示「琉球と袋中上人展」
展示風景

【実績値】

展覧会観覧者数　48,000 人

講演会参加者　70 人

平敷屋エイサー観覧者　800 人

論文掲載数　1 回　展覧会図録「琉球と袋中上人展」九州国立博物館

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4554-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	A	S	S	A	A

備考
適時性　檀王法林寺開創 400 年という記念の年に開催できた。
発展性　所蔵者や沖縄県との深いつながりを構築した。
効率性　短時間の準備で達成できた。

2．定量的評価

観点	展覧会観覧者数	講演会参加者	平敷屋エイサー観覧者	論文掲載数		
判定	A	A	S	A		

備考
平敷屋エイサー観覧者は、午前と午後の各公演とも 300 名を超える観覧者があり、ほぼ全員の観覧者が、約 30 分の公演を終始観覧していた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館のテーマである対外交流と深い関わりがある「琉球と袋中上人」展の開催は、単に展覧会を開催しただけではなく、研究面での深まりを達成し、檀王法林寺をはじめとする所蔵者や共催館との信頼関係を深めることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	一定数の観覧者を得たほか、関係各機関との繋がりを深めることができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4561-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）博物館の保存環境に関する研究（(5)－⑥）

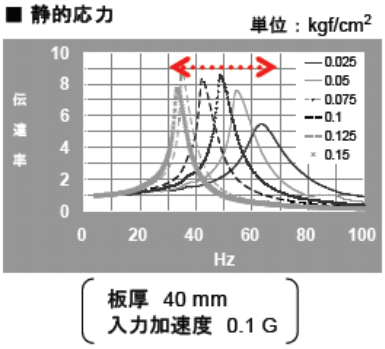
【事業概要】
東京国立博物館における文化財の保存環境及び展示環境について調査研究し、今後の環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭　信幸

【スタッフ】
和田　浩（保存修復課環境保存室主任研究員）、荒木　臣紀（保存修復課環境保存室主任研究員）

【主な成果】
今年度は文化財の保存環境の内、特に輸送環境と収蔵環境について、下記概要に示す調査研究を行った。文化財梱包に用いられる緩衝材の振動特性について新たな知見が得られたこと、および、保存箱製作に使用される接着剤の硬化過程における揮発成分濃度の変化を科学的に解析できたことが主な成果である。

【年度実績概要】
1. 緩衝材の特性評価について
文化財輸送では輸送中に発生する衝撃を緩衝する技術がまず重視されるが、同じく輸送中に発生する振動と文化財が共振せぬような梱包設計も重要である。従来、緩衝材の固有振動数は単位面積あたりの荷重と緩衝材の厚みによって決まるものと考える傾向が強く、入力加速度を変化させた場合に振動特性へその影響が現れるのかは不明確であった。そこで、文化財梱包において頻繁に使用されるサンテックフォーム®を用いて、振動実験を行いその挙動を明らかにした。結果は下表の通り、荷重、入力加速度、緩衝材厚みといった要素が変化するにつれて固有振動数にも変化が現れることが分かった。この結果から、輸送時の振動対策は複数の要素（荷重、加速度、厚み）が関係する複雑なものであると考えられる。従って、今後は他の緩衝材についても振動特性評価を進め、輸送中の文化財への振動の影響を効果的に排除できる梱包設計の構築を目指す。



	荷重	入力加速度	緩衝材厚み
小さい	固有振動数高い	固有振動数高い	固有振動数高い
大きい	固有振動数低い	固有振動数低い	固有振動数低い

2. 保存箱製作における中性接着剤の使用法について
中性紙を材料として文化財用保存箱の表面に布を貼る際に用いられる中性接着剤が、硬化する過程でどの程度揮発性有機物を放出しているのか、実物模型を用いて分析した。館内で製作する保存箱と同じ材料･工程で同一技術者が模型を製作し、製作直後から揮発する気体を捕集し含有する有機酸（ギ酸、酢酸）濃度を分析した。その結果、保存箱製作後から少なくとも 1 ヵ月間の調整（枯らし）期間を経過した後に実用に供することが適切であると分かった。

【実績値】
研究会発表件数　3 件
文化財保存修復学会（奈良）
日本包装学会第 20 回年次大会（京都）
2011 ISTA-CHINA PACKAGING SYMPOSIUM（中国）
論文掲載件数
発表の準備をしている段階、現状では発表件数はなし。
調査回数　3 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4561-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　緩衝材の特性評価に関する調査研究は文化財関連分野だけでなく、輸送・包装関連の国内外の学会からも高い評価を受けている。中性接着剤の使用法についての調査研究からは、極めて実用的用途に有効なデータが得られた。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文掲載件数	調査回数			
判定	A	B	A			

備考
　緩衝材の特性評価に関する調査研究については、他の緩衝材を複数調査する機会を得た後に、改めて総合的な調査報告を行いたいと考えている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	いずれの調査研究も、実験を行うことで得られた客観的データを詳細に分析することで、従来から存在する問題点について具体的な解決の方向を見出したものであるが、基礎研究にとどまらず、実用的側面に大きく寄与する成果が得られた。その点を特に重視して総合的評価を判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	環境からの影響を最小限に抑制するために、劣化の原因となる因子を個別的に研究し、それを排除する方法論の開発を実施している。今期について緩衝材および接着剤について確実に進展したことから、きわめて順調に計画が進捗していると考えている。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4561-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金)（(5)－⑥）

【事業概要】
保存と公開という博物館の使命を持続的なものとするためには、あらゆるリスクを予測し、リスクを回避するための対策を事前に講じることによって、高い安全性に裏付けられた活動へと博物館を質的に転換する必要がある。そのためには、従来行われてきた基礎研究及び個別的対処を統合し、機動的かつ実効的な臨床保存学を確立する必要がある。その具体的な方法論としてトータルケアシステムの構築について研究を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　神庭　信幸

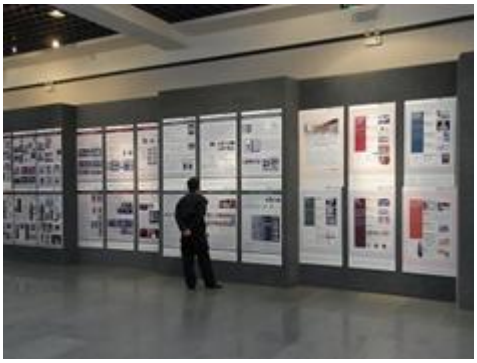
【スタッフ】
土屋　裕子（保存修復室主任研究員）、和田　浩（環境保存室研究員）、荒木　臣紀（環境保存室主任研究員）、佐藤　香子（研究支援者）

【主な成果】
これまでに集積したカルテデータのデジタル化を進めながら、管理分析サブシステム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」の整備、温湿度センサー及び 2 次元バーコードを用いたセンサーサブシステムの整備を行った。管理・分析サブシステム、センサーサブシステム、列品検索データベースシステム（プロト DB）とのネットワークを用いて、包括的保存システムの実験的運用を開始した。

【年度実績概要】
平成 23 年度は 22 年度に引き続き、これまでに構築したシステムを用いて　温湿度環境レベル、空気汚染物質、振動・衝撃レベルの許容量の指針を作成し、劣化要因（Critical To Quality）の定義の一つとした。それに基づいた環境の最適化を図るための検討を、これまでに構築したシステムを稼動させ、環境改善の取り組みを試行した。現段階で、臨床データを取得・処理するためのハードウエア部分の仕組み作りは完成した。さらに、これらのサブシステムの実際的な運用をすでに開始しており、各サブシステムあるいはサブシステムに含まれる個別的なシステムの動作確認を臨床活動の中で実施している。今年度より、これら完成したサブシステムを具体的に運用しながら、処置後の経過観察の在り方などに関して、最適化管理サブシステムの構築を進めた。

【実績値】
研究会発表件数　11 件
- 東アジア文化遺産保存学会第 2 回大会口頭発表 1 回（内モンゴル・フフホト）（2011.08.17）
- 東アジア文化遺産保存学会第 2 回大会ポスター発表 1 回（内モンゴル・フフホト）（2011.08.17 - 18）
- 文化財保存修復学会第 32 回大会ポスター発表 7 件（奈良）（2011.06.04-05）
- 日本包装学会第 20 回年次大会口頭発表 1 回（京都）（2011.07.08）
- 2011 ISTA-CHINA PACKAGING SYMPOSIUM 口頭発表 1 回（中国）(2011.09.21)

論文掲載件数　1 件
東アジア文化遺産保存学会第 2 回大会予稿集（内モンゴル・フフホト）(2011.08.17)



東アジア文化遺産保存学会第 2 回大会
ポスター発表風景
壁一面に掲載された臨床保存のポスター

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4561-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
作品の状態、履歴及び環境の情報の収集と解析に関して、実践を通じた研究を行った。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文掲載件数				
判定	A	A				

備考
科学研究費補助金（基盤（S）（平成 20 年～24 年））を活用して、各種のデータを博物館の空間と関連付けて保存・検索できるデータ活用システム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」に昨年までに整備したデータを用いて構築したサブシステムや温湿度センサーネットワークなどとのネットワークを構築して、博物館内に蓄積したデータを包括的に活用する実用実験を実施した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	保存と公開を実践しつつ、安全性をより向上させるために、現状の解析と改善を具体的に実施し、臨床保存学の具体的な機能が明確化できた。現在構築中の支援システムの精度の向上を図ると同時に、将来予測に立脚した現状判断が可能なように、目標とするシステムの確立を目指したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	包括的保存システムの構築に向けた 4 年目の取り組みとして、全 5 カ年の計画を予定通りに進めることができた。今後、実験的運用に着手する段階に達している。これまでの取り組み、および本システムの意義などについて社会的な普及が課題として残っているので、次年度はそれについても重点的に取り組む予定でいる。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4562-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4. 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）修復文化財に関する資料収集及び調査研究（(5) －⑥）

【事業概要】
文化財保存修理所において修復が行われている文化財に関して情報を収集する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	副部長兼保存修理指導室長　村上　隆

【スタッフ】
淺湫　毅（主任研究員）、伊東史朗（調査員）

【主な成果】
平成 23 年度に新規搬入された作品の「修理計画書（設計書）」にもとづき、データを入力し、平成 22 年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書（報告書）」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成 19 年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 8 号に掲載し、修理時に発見された銘文 6 件を「銘文集成」として報告した。

【年度実績概要】
文化財保存修理所の工房に搬入される新規修理作品に関して、データを収集し、データベースに登録した。
過去の修理作品に関してもデータの更新、整理作業を行なった。
毎月行っている文化財保存修理における修理工房の巡回時のほか、適宜工房において、修復中にしか得ることの出来ない情報（作品の構造や使用材料、内部納入品や銘文など）を収集し、分析を行なった。
『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 8 号に掲載する平成 19 年度修理作品のデータを整理するとともに、同年の修理で発見された銘文の解読作業を行なった。

【実績値】
○データ収集件数
23 年度は 102 件の新規修復文化財の搬入があり、これらの作品に関してデータを収集するとともに、修復データベースへの登録を行なった。
○データ追加更新件数
過去のデータに関して 1,869 回追加、更新を行なった。
○調査回数
修理所の巡回を 11 回行なった。その他、新発見の事実や銘文の調査を適宜行なった。
○報告書
24 年 3 月に『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 8 号（19 年度分）を発行した。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4562-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
限られた期間中にあらゆる側面からの調査を行ない、データ収集に努めた。
制作年や制作者など、文化財の制作時に関わる情報は、解体修理の折に発見されることがほとんどであり、作品を多角的に評価する上での基準となりえる。ここで得た情報を「銘文集成」として記録にとどめる意義は大きいといえる。

2．定量的評価

観点	データ収集件数	データ追加更新件数	調査回数	報告書		
判定	A	A	A	A		

備考
修理に関するデータの蓄積は順調であり、今年度は『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 8 号の 1 冊を完成した。これにより、これまで滞っていた情報公開のスピードを速めることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存修理所で行われる修理作品から得られる情報はおおむね収集できた。 また、その成果を報告書に反映した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財保存修理所で行われる修理作品から得られる情報はおおむね収集できた。 また、その成果を報告書に反映した。

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4562-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）文化財の保存・修復に関する調査研究（(5) －⑥）

【事業概要】
京都国立博物館の館蔵品を中心にさまざまな分析を行い、材質や構造を調査し、今後の保存、さらには修理のための基礎知見を蓄積することが目的である。また、特に金属製文化財を中心に調査を進めるために、奈良文化財研究所などの独法内施設を効率的に活用し、調査研究の効率的推進も視野に入れている。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　　村上　隆

【スタッフ】
赤尾栄慶（上席研究員）　　高妻洋成（奈良文化財研究所）
羽田　聡（研究員）　　難波洋三（奈良文化財研究所）
永島明子（主任研究員）

【主な成果】
京都国立博物館蔵品「銀字華厳経」の修理にあたって、経文の文字が銀の細かい粒子で描かれていることを、電子顕微鏡などを駆使して明らかにすることができた。また館蔵品の印籠のマイクロフォーカスＸ線 CT によって、内部を精細に観察し、材質が薄い革か紙製であることを明らかにした。さらに、昨年に続き、長野県中野市柳沢遺跡出土の銅鐸、銅戈の分析と埋蔵環境の評価を行った。

【年度実績概要】
東大寺二月堂に伝わる華厳経は火災のため一部を焼失しているが、銀字で書かれた経文がまったく変色していないため、プラチナ経ともいわれてきた。しかし、今回の調査により、銀そのもので書かれていたことが明らかになった。銀が変色しなかった理由についても考察した。この成果は、文化財保存修復学会において発表した。館蔵品の印籠の調査では、
これまで木製とされてきた材質が、革か紙であることを明らかにすることができた。これについても、同じく学会において発表した。
昨年から引き続き行ってきた長野県柳沢遺跡出土の銅鐸と銅戈の調査は、今年が最終年度であったが、分析値と形式論との比較検討など、これまでの研究では触れらてこなかった事項にまで踏み込んだ調査となった。

【実績値】
調査件数：　5 件
収集資料数：15 件
調査報告：　報告書 1 件　学会発表 3 件
新聞掲載：　3 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4562-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査報告	新聞掲載		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究員とともに館蔵品を科学的に調査・研究を行う体制を確立できてきたことは大きく評価されよう。また、得られた成果は適時に学会等で絵発表しており、それに伴い、新聞などのメディアの注目も集めている。これは、京都国立博物館の研究の幅広さを世間に問う意味でも大いに評価されると考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究・調査の重要性が、学芸部全体で認識されており、協力的な体制をとることができている。今後とも、少しずつではあっても同様の調査・研究を継続できるような体制を取れるように努めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。（(5)－⑥）

【事業概要】　展示室・展示ケース・収蔵庫等の環境が文化財に与える影響の解明を目的として、①温湿度センサーによる展示室・展示ケース内等の温湿度データ収集、②展示ケース内に浮遊する粉塵の電子顕微鏡観察、③パッシブインジケータによるＶＯＣ調査、④文化財害虫調査トラップの定期的な設置・回収等を継続的に実施し、調査で蓄積されたデータを分析することで展示室等の保存環境向上を図る。

【担当部課】	学芸部保存修理指導室	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　谷口耕生

【スタッフ】
岩田茂樹(美術室長)、内藤栄（工芸考古室長)、谷口耕生（保存修理指導室長)、斎木涼子(列品室員)、山口隆介（美術室員)、降幡順子（奈良文化財研究所主任研究員）

【主な成果】
・展示室、展示ケース内に設置した温湿度センサーのデータを分析して、展覧会ごとにその所見を報告書にまとめた。
・正倉院展終了後に展示ケース内から回収した粉塵を電子顕微鏡で観察し、粉塵の種類および単位面積当たりの量を計測して、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。
・展示室・収蔵庫などに設置された調査用トラップを、毎月 1 回当館研究員が設置回収し、文化財害虫の生息状況を報告書にまとめて害虫被害回避につなげた。

【年度実績概要】
① 展示室、展示ケース内の温湿度については無線機能付き温湿度センサーを合計 75 箇所設置して 24 時間リアルタイムに温湿度の変化を監視するとともに、ＬＡＮ回線を通じて学芸部内で収集したデータを蓄積し、分析結果を展覧会ごとに報告書にまとめることで、文化財の展示環境の保持および改善につなげた。収蔵庫・文化財保存修理所内については、各 5 箇所程度設置したロガータイプの温湿度センサーのデータを保存修理指導室員が定期的に回収・分析を行い、温湿度状況の異常が把握された箇所について、結露防止を目的とする二重ガラス設置・保存棚の配置変更など施設の改善につなげた。
② 正倉院展終了後、20 箇所の展示ケース内から回収した粉塵を電子顕微鏡で観察し、粉塵の種類および単位面積当たりの量を計測して、展示ケースの気密性向上に資するデータを蓄積した。
③ 上記の当館の無線通信機能付きセンサーを用いた温湿度管理および展示ケース内の粉塵調査の成果については、6 月 4 日に文化財保存修復学会第 33 回大会において、当館保存修理指導室研究員と宮内庁正倉院事務所保存課技官が共同発表者として「奈良国立博物館における無線ＬＡＮ温湿度モニタリングシステム・新展示ケース導入の経緯と成果」「電子顕微鏡観察による展示ケースの密閉度の評価」と題する報告を行い、当館保存環境維持への取り組みについて理解を広めた。
④ 正倉院展展示作業開始前の 10 月上旬に、本年度に入ってから新造・改修した展示ケースを対象としてパッシブインジケータを用いた有機酸・アルカリ性ガスの残存状況について検査を行い、展示環境の安全を確認した。
⑤ 展示室・収蔵庫・文化財保存修理所内など館内 150 箇所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制により毎月 1 回交換・回収し、回収したトラップは外部業者に委託して文化財害虫の捕獲数データを蓄積した。この調査データをもとに清掃による衛生環境の保持などＩＰＭの実践につなげた。

【実績値】
・保存環境調査実施箇所数：245 箇所（展示室内温湿度調査：75 箇所、展示ケース内粉塵調査箇所：20 箇所、文化財害虫生息状況調査箇所：150 箇所）
・保存環境調査報告書作成件数：11 件
（温湿度モニタリング報告書 3 件、昆虫類調査用トラップ分類同定結果報告書 8 件）
・研究発表件数：2 件（文化財保存修復学会第 33 回大会　6 月 4 日　2 件の発表を行った）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　前年度に引き続き保存環境調査を着実に実施し、そこで得られたデータを報告書として蓄積することができた。このデータに基づいて展示環境の改善が飛躍的に進んでおり、当館の取り組みが今後、広く全国の博物館施設に普及することが期待される。

2．定量的評価

観点	保存環境調査実施箇所数	報告書作成件数	研究発表件数			
判定	A	A	A			

備考
　保存環境調査の件数、報告書の作成ともに前年度の実績を踏襲して着実な成果を上げており、これを踏まえて本年度は新たに文化財保存修復学会で口頭発表を行うなど、必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	前年度に引き続き一年を通じて保存環境調査を着実に実施し、そこで得られたデータをもとに展示環境の維持・改善に努めることができた。次年度も今年度と同規模の調査を継続的に実施し、データの精度をさらに高めるとともに、保存環境変化の兆候を十分に把握できる体制を築いていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。 今後もこのペースを維持しつつ、保存環境の維持・改善に努めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。（(5)－⑥）

【事業概要】
・館蔵品、寄託品について詳細に保存状態の調査を実施し、保存カルテとして記録を蓄積することで、将来の文化財修理への指針に役立てる。
・館蔵品、寄託品の修理に際し、事前に当該文化財の保存状態について入念な調査を実施し、その結果を基に修理調書を作成する。
・文化財保存修理所内での修理中に文化財から得られた材質や銘文などの基礎情報について調査分析を実施し、その成果を当館研究紀要に掲載する形でデータを蓄積する。

【担当部課】	学芸部保存修理指導室	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　谷口耕生

【スタッフ】
岩田茂樹(美術室長)、内藤栄（工芸考古室長)、谷口耕生（保存修理指導室長)、斎木涼子(列品室員)、山口隆介（美術室員)、降幡順子（奈良文化財研究所主任研究員）

【主な成果】
・館蔵品、寄託品について保存状態を中心に入念な調査を実施し、その所見をもとに保存カルテを作成した。
・館蔵品、寄託品の修理に際し、保存カルテや新規に実施した保存状態調査の所見をもとに修理調書を作成し、修理方針を決定した。
・文化財保存修理所で修理中の木造文化財について実施した樹種同定調査や、同じく修復文化財から発見された銘文の調査を実施し、その成果を当館紀要に掲載する準備を進めた。

【年度実績概要】
① 館蔵品・寄託品の貸与や修理などの機会に、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各部門担当者が、光学機器等を用いて保存状態確認を中心とする文化財調査を実施し、そこで得られた成果を保存カルテに記入して基礎データを蓄積し、将来の修理への指針に役立てた。保存カルテについては、新規フォームの作成・保管などの管理業務を保存修理指導室が担当した。
② 館蔵品・寄託品の修理時において、事前に保存状態を中心とする入念な文化財調査を実施し、その成果や保存カルテの情報を参照しつつ修理調書作成し、修理方針を決定した。
③ 当館と京都大学生存圏研究所との間で締結した協定に基づき、当館文化財保存修理所内における未指定の木造文化財の修理過程で自然に脱落した資料について、所蔵者の同意を得て樹種同定の調査を行った。調査対象となったのは当館寄託品の施福寺所蔵舎利厨子等 2 件であり、分析結果は当館研究紀要『鹿園雑集』14 号（平成 24 年 3 月刊行）に「平成 23 年度　修復文化財（木造）材質調査報告」として掲載した。これらの樹種データを蓄積することによって、木造文化財の製作技法・製作背景等を樹種の観点から解明する基盤としたい。
④ 文化財保存修理所内で館蔵品・寄託品および未指定文化財の修理中に発見された銘文については、当館研究員と修理技術者が共同で調査を実施した。とりわけ海住山寺からの寄託品である阿弥陀浄土曼荼羅の軸木から発見された鎌倉時代の墨書銘を調査した結果、この阿弥陀浄土曼荼羅が海住山寺中興開山である解脱上人貞慶の十三回忌に際して創建された同寺経蔵の什物だったことが判明し、貞慶の信仰と密接に関わる作品である可能性が高まった。この成果は、平成 24 年 4 月に当館で開催予定の特別展「解脱上人貞慶」の展示・図録に反映される予定である。
　なお、発見された銘文については、修理完成後に所蔵者の同意を得た上で当館研究紀要『鹿園雑集』に写真・翻刻データを掲載予定である。

【実績値】
・保存カルテ作成件数：総計 110 件
　うち彫刻 18 件、絵画 44 件、書跡 7 件、工芸（金工・漆工・染織）25 件、考古 16 件
・修理調書作成件数：総計 9 件
　うち彫刻 2 件、絵画 3 件、書跡 2 件、工芸 1 件、考古 1 件
・調査回数：木造文化財樹種同定調査実施件数：2 件、修復文化財銘文調査実施件数：4 件
・調査概報：2 件（「修復文化財（木造）材質調査報告」、「修復文化財関係銘文集成」）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　館蔵品・寄託品の保存状態調査を継続的に実施し、そこで得られた基礎データを保存カルテとして着実に蓄積することができた。また前年度に引き続き修復文化財の樹種同定調査や銘文調査を着実に実施し、そこで得られたデータを報告書として蓄積することができた。これらのデータは将来における文化財研究や文化財修復に資するものであり、今後も継続的な調査の実施が望まれる。

2．定量的評価

観点	保存カルテ作成件数	修理調書作成件数	調査回数	調査概報		
判定	A	A	A	A		

備考
　保存カルテの作成件数、修復文化財の樹種同定調査や銘文調査の件数、同調査に基づく調査報告書の作成ともに着実な成果を上げており、必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	館蔵品・寄託品の保存状態調査に基づく保存カルテの作成や、以前から継続的に実施している修復文化財の樹種同定調査・銘文調査を着実に実施し、将来における文化財の研究・修復に資するデータを蓄積することができた。次年度以降も本年度のペースを維持しつつ修復文化財調査を着実に実施していく予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ堅調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ、修復文化財の基礎データ蓄積に努めていきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-3

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。（(5)－⑥）

【事業概要】

・館蔵品、寄託品等の修理に際し、修理前・修理中に当該文化財に対して透過Ｘ線や蛍光Ｘ線等を用いた光学調査を実施し、その所見を修理方針に反映させる。
・館蔵品、寄託品の文化財の修理において、修理前に電子顕微鏡を用いた料紙・料絹の繊維組成調査を実施し、その成果をもとに補紙・補絹を調製する。
・文化財保存修理所で修理中の文化財について、研究員と各工房職員が共同で光学機器を用いた材質調査を実施する。

【担当部課】	学芸部保存修理指導室	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　谷口耕生

【スタッフ】

岩田茂樹(美術室長)、内藤栄（工芸考古室長)、谷口耕生（保存修理指導室長)、斎木涼子(列品室員)、山口隆介（美術室員)、降幡順子（奈良文化財研究所主任研究員）

【主な成果】

・館蔵、寄託品の修理に際し、蛍光Ｘ線を用いた材料調査、近赤外線写真やポリライトを用いた補筆・補絹分布調査、透過Ｘ線を用いた構造調査等を実施した。
・館蔵、寄託品のうち絹製文化財の修理において電子顕微鏡を用いた料絹の組成調査、紙製文化財の修理において同じく料紙の繊維調査を実施し、その所見を修理に用いる補絹・補紙の調製に反映した。
・文化財保存修理所の修理寄託中の仏像について、蛍光Ｘ線を用いた材料調査を実施した。

【年度実績概要】

① 館蔵の絹本著色春日宮曼荼羅の修理に際し、肌上げ作業終了時に料絹の裏から近赤外線撮影を行うとともに、蛍光Ｘ線を用いて裏彩色の顔料調査を実施し、絹裏の状態について基礎データを収集した。その成果は年度末の修理完成時において、修理報告書に掲載した。
② 寄託品の絹本著色阿弥陀浄土曼荼羅（海住山寺蔵）の修理に際し、ポリライトを用いた可視光励起による蛍光画像撮影を実施し、補筆・補彩の有無や、補絹箇所における絹の重なり状態について調査した。その所見に基づいて、次年度に実施予定の補絹除去作業の方針について協議した。
③ 考古部門の館蔵品のうち金属製品の修理 5 件において、透過Ｘ線を用いた構造調査および蛍光Ｘ線を用いた材質調査を修理技術者と共同で実施し、その成果に基づいて修理方針を決定した。併せて材質教化のために含浸させる樹脂の選定についても修理技術者と検討を重ねた。
④ 館蔵、寄託品のうち絵画部門の絹製品 3 件の修理において、電子顕微鏡を用いた料絹の組成調査を修理技術者と共同で実施し、その成果を補修絹の調製に反映した。同じく、書跡部門の紙製品 2 件について、電子顕微鏡を用いた料紙の繊維調査を修理技術者と共同で実施し、その所見を補修紙の調製に反映した。
⑤ 文化財保存修理所で修理中の東大寺法華堂天蓋附属鏡および同堂本尊不空羂索観音像台座について、文化庁の依頼により学芸部研究員が蛍光Ｘ線による材質調査を実施し、修理方針および時代判定の材料を提供した。
⑥ 東京文化財研究所との共同研究により、寄託品の国宝信貴山縁起絵巻について蛍光Ｘ線を用いた顔料調査を実施し、前年度に実施した近赤外線撮影および可視光励起による蛍光画像撮影の成果と併せて、文化庁が進めている同絵巻の復元模写に資する基礎データを蓄積した。

【実績値】

・調査回数　13 回　（館蔵品、寄託品等の修理に伴う光学的調査実施回数：13 回）
・研究会回数 10 回　（館蔵品、寄託品等の修理に使用する補修材料の検討会実施回数：10 回）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4563-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　館蔵品・寄託品の修理に伴い、保存状態の確認や材質解明を主目的とした透過Ｘ線・蛍光Ｘ線・ポリライトなどを用いる光学的調査を着実に実施し、そこで得られた所見を修理方針決定に役立てることができた。これらのデータは次年度以降の文化財研究や文化財修復にも資するものであり、今後も継続的な調査の実施が望まれる。

2．定量的評価

観点	調査回数	研究会回数				
判定	A	A				

備考
　光学的調査の実施回数、補修材料選定の検討会実施回数ともに着実な成果を上げており、必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	館蔵品・寄託品の修理に伴って、保存状態の確認や材質解明を主目的とした光学的調査を着実に実施し、当該文化財の修理方針決定や、将来における文化財の研究・修復に資する基礎データを蓄積することができた。次年度以降も本年度のペースを維持しつつ、館蔵品・寄託品を主対象とする保存科学的手法を用いた調査を着実に実施していく予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ堅調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ、文化財の基礎データ蓄積に努めていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）文化財の材質・構造等に関する共同研究（(5)－⑥）

【事業概要】
文化財を解体することなく内部構造を立体的に調査する方法の開発を目指す。九州国立博物館において、X 線 CT を用いて文化財の内部構造調査を行い、文化財の構造や制作技法を理解し、文化財の健康状態を知る。さらに、得られた成果を展示に活用することを目的とする。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室長　今津節生

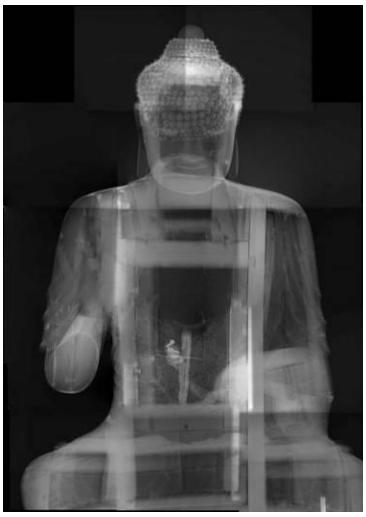
【スタッフ】
臺信祐爾（文化財課長）、河野一隆（企画課文化交流展室長）、市元塁（企画課研究員）、楠井隆志（展示課主任研究員）、坂元雄紀（展示課研究員）

【主な成果】
特別展『黄檗展』で展示した長崎市聖福寺釈迦如来座像の調査を実施した。腹部像内から金属製の五臓を含む複雑な納入品を発見した。この発見は国内外で 5 例目の発見であり、納入品の当初の状態を非接触で発見したのは世界でも初めての例である。

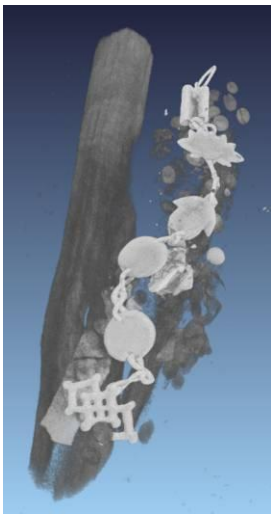
【年度実績概要】
九州国立博物館では、長崎市聖福寺の本尊「釈迦如来座像」を調査した。この仏像は中国・清時代の 17 世紀の製作で中国から舶載された仏像としては日本最大級である。X 線透過撮影で像の全体を撮影し、腹部に金属納入品を発見したので、X 線 CT による構造調査を実施した。

その結果、像内に腎臓や肺に見立てた金属製の五臓などをはじめとする内臓模型を納めた希少な「生身仏」の作例であることを確認した。像内に金属製五臓を納入した仏像はこれまで国内外で 4 例が確認されているに過ぎなかった。今回発見された五臓は長さ約 15 cmにわたり肺、心臓、肝臓、脾臓、腎臓、咽喉に見立てた異なる材質（ガラスあるいは水晶製）の物体も確認できる。これらと金属製の五臓は綿と布に包まれ、紐で木材（長さ 35 cmの香木？）に結ばれていた。この発見は、17 世紀後半における中国の身体観、内臓観を表したものとして、仏像研究、東洋医学史研究の両面から極めて貴重な発見として注目される。

本件のように、透過 X 線撮影に加えて X 線 CT 調査を実施することによって文化財を解体することなく文化財の内部構造を知り、文化財の健康状態を把握することができるようになった。



透過 X 線画像（正面）



五臓の CT 画像

長崎市聖福寺釈迦如来座像の調査

【実績値】

○調査件数	90　件	
○調査回数	50　回	
○資料収集数	90　点	
○学会研究会等発表数	2 件	日本文化財科学会 東アジア文化遺産学会
○論文掲載数	1 件	考古学ジャーナル 621 号

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	S	S	S	S	S	S

備考
本研究は大型の X 線 CT や X 線室を保有する当博物館でしか実施できない調査としてオリジナリティや注目度が高い。最近では、研究者はもとより所蔵者にとっても「文化財の健康診断」として、本調査の需要や必要性・公共性が認識されており調査の適時性は極めて高い。調査は展示期間の前後に実施しており特別な時間的投入や人的投入を必要としない点でも効率性が高い。本調査によって得られるデジタルデータは 1 ㎜以下の高精度で三次元的に記録するもので正確性が高く、汎用性や応用性も高いのでデータを活用した多様な発展が期待できる。

2．定量的評価

観点	調査件数	資料収集数	学会研究会等発表数	論文掲載数		
判定	S	S	S	A		

備考
展示替え等の機会を利用して、年間 50 回程度の調査を実施している。本調査のデータ収集数は 90 件にも達しており、膨大な文化財の調査データが蓄積されている。所蔵者の意向により公表できないデータもあるが、日本文化財科学会・東アジア文化遺産学会等で研究発表を行っている。本研究の成果は新聞・テレビ等でも紹介し論文として公表している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	本研究は大型の X 線 CT や X 線室を保有する当博物館でしか実施できない調査として注目度が高い。多くの貴重な文化財の健康状態を正確に判断し、正確で基本的なデータを蓄積している。 今後は、さらに多くの文化財の調査が可能なように連携研究を進めること、蓄積したデータの多角的な活用を年次計画に反映するようにすすめたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通りに実施されており、当該年度計画については達成されている。今後は、さらに様々な文化財の調査を集積すると共に、成果の公表および、蓄積したデータの多角的利用を次年度計画に反映させてゆきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）博物館における文化財保存修復に関する研究　((5)－⑥)

【事業概要】
当館文化財保存修復施設の機能と利点を生かし、西日本地域の大学で装こう技術による文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　志賀智史

【スタッフ】
篠崎悠美子(別府大学教授)、藤田励夫(保存修復室長)、秋山純子(アソシエイトフェロー)、松尾かをる(研究補佐員)、藤岡春樹(国宝修理装こう師連盟九州支部長)、竹上幸宏(国宝修理装こう師連盟九州支部技師長)、井口茉也(国宝修理装こう師連盟九州支部技師)、田村　公(国宝修理装こう師連盟九州支部技師)、元　喜載(国宝修理装こう師連盟九州支部技師補)

【主な成果】
吉備国際大学 2 名、九州産業大学 2 名、別府大学 2 名、佐賀大学 1 名、広島市立大学 1 名の計 5 大学 8 名が参加した。少人数のため、実践的な研修が実施できた。研修会終了後、参加学生は修復技術者になりたいという思いを一層強くした者、将来何らかの形で文化財の保存に関わりたいと思う者など、修復技術者の育成だけでなく、文化財保護への理解者の増加にも寄与した。

【年度実績概要】
別府大学の篠崎悠美子教授を招聘し、保存修復施設を利用し、地域の大学との協業を果たすことを目的とした短期インターンシップ研修プログラムを平成 17～22 年度の実績を踏まえ検討、改善した。成果は 8 月 15 日(月)～19 日(金)の 5 日間にわたり国宝修理装こう師連盟の協力を受け、5 大学 8 名の学生に対して、装こう技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」として開催した。研修では障壁画下貼り作製に関する講義と実習を通して、文化財保存修復についての理解と研鑽を深めた。



学生研修実習風景

【実績値】

○研修開催数　　7 回目（平成 17 年度より）

○参加者数　　8 名

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
近年、文化財修理についての関心が高まっているが、中国・四国・九州で文化財修理に関する研修をおこなっている機関は他に無く、独創的で発展性のある研修といえる。

2．定量的評価

観点	研修開催数	参加者数				
判定	A	A				

備考
短期の実習としては適切な数である。申し込み大学が増えたことから研修への関心の高さが窺える。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	大学で保存修理の基礎的な教育を受けた学生に対して実践的な研修の場を提供することにより、修復技術者の育成を目指す。このような研修を行っている機関は極めて少ない。少数の研修生で毎年継続することに意味のある事業であり、平成 24 年度以降も実施する計画である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平成 17 年度より少人数の実習を継続的におこなっており、参加者数も安定している。平成 24 年度以降も同様な研修を実施する計画である。

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究（(5)－⑥）

【事業概要】
平成 23 年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に　ミュージアム IPM」実行委員として、地域の博物館等と連携協力し、実施する。本事業は、地域に展開可能なミュージアム IPM 支援者育成プログラムを策定し、館の保存管理機能の基盤強化と共に地域のミュージアム支援者層の拡大に寄与するものである。ミュージアム IPM 支援者研修（基礎編）を実施し、次の段階となる技術編・実践編のプログラムを策定する。公開シンポジウムを開催し、地域や市民への普及に努める。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	博物館科学課長　本田光子

【スタッフ】
三輪嘉六(館長)、森田稔(副館長)、宮本裕一(交流課長）、岩崎英明（総務課長)、神谷真美(総務課長補佐)、秋山純子(アソシエイトフェロー)、上野敦子(研究補佐員)

【主な成果】
研修会等参加者は、全国の美術館・博物館の学芸員およびボランティアからなるが、毎回大変熱心な参加状況であり、学芸員・市民の関心の高さがうかがえ、積極的な意見を集約することが可能となり、ミュージアム IPM 支援者研修プログラム案策定に充分活かすことができた。今後は、本プログラムにより支援者育成を段階的に進める目途が立てられた。公開シンポジウムでは専門家の講演と事例報告等により、地域や市民の理解を得られた。
平成 23 年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に ミュージアム IPM」を軸に市民協同型 IPM システム構築に関する研究を展開しその成果は、事業費より 3 冊の報告書にまとめた。平成 23 年度 IPM 事業の内容を総括した研究成果を 1 冊（総合版）418 頁、内容を簡潔に要約した研究成果普及版 2 冊（研修編 58 頁、シンポジウム編 48 頁）を刊行した。

【年度実績概要】
1. ミュージアム IPM 支援者研修プログラムの策定
専門家や有識者による会議を開催し、ミュージアム IPM 支援者研修（基礎編）の次の段階である技術編・実践編のモデル研修プログラム案を策定した。ワーキンググループによるプログラム案を全体会議で検討し、問題点や課題を整理した。
2. 研修会の実施
文化財の保存科学と生物被害の基礎を学ぶ研修会（基礎編）と、メンテナンスに伴ったダスト・インジケーター観察の基礎を学ぶモデル研修会（技術編）及び荷解き場・収蔵庫前室兼通路・展示室などで実際の IPM メンテナンスを実習するモデル研修会（実践編）を実施した。
3. 公開シンポジウムの開催
公開シンポジウムを開催し、市民協同型ミュージアム IPM の必要性や重要性を広く社会へ紹介する。2 名の専門家による講演と 3 本の事例報告および座談会の構成で、平成 24 年 1 月 14 日に開催した。


ミュージアム IPM 支援者研修　IPM ガイダンス

【実績値】
○検討会等開催回数・・・・・・・・・6 回
・「市民と共に　ミュージアム IPM」全体会議：2 回
・ワーキンググループ検討会：4 回
○支援者研修会開催回数・・・・・・・5 回
○支援者研修会参加者数・・・・・・108 名
ミュージアム IPM 支援者研修（基礎編）：76 名
ミュージアム IPM 支援者研修（技術編）：25 名
ミュージアム IPM 支援者研修（実践編）： 7 名
○シンポジウム開催回数・・・・1 回
○シンポジウム参加者数・・・・107 名
○報告書　　3 冊

「市民と共に　ミュージアム IPM」事業報告書（研修編）	300 部
「市民と共に　ミュージアム IPM」事業報告書（報告会・シンポジウム編）	300 部
「市民と共に　ミュージアム IPM」事業報告書（総集編）	1,000 部

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	検討会等開催回数	支援者研修会開催回数	支援者研修会参加者数	シンポジウム開催回数	シンポジウム参加者数	報告書
判定	A	A	A	A	A	A
備考 ミュージアム IPM 支援者研修（基礎編）の参加登録者は毎回 20 名前後であり、各回とも 90%以上の出席であった。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今回の事業が、IPM をひとつの切り口とした、九州国立博物館の着実な取組を多くの方々に理解していただく契機になるとともに、館の規模や設置形態を超えて、広く参考となるモデルを示すことができた。次年度には、本プログラム案を基にした研修（技術編・実践編）実施計画を検討、開催し、地域との連携を深めながら、より広範な普及を図るようにする。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	地域の支援者層の拡大充実を図ることで、市民や機関との連携を深めながら、より積極的に文化財に関する調査及び研究を推進した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究(UNESCO との共同）（(5)－⑥）

【事業概要】
日本、中国、韓国における文化財の保存修理には、良質の手漉き紙の確保が不可欠である。そのため、各国の手漉き紙の製作状況を調査する。材料や技法などを詳細に調査し、映像記録（動画、静止画)、調査カードにまとめる。また、各国での調査結果について報告会を開催する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室長　藤田励夫

【スタッフ】
森田稔（副館長)、本田光子（博物館科学課長）

【主な成果】
中国四川省において、各国の調査状況を報告する会議を開催した。四川省内の二箇所の紙産地　夾江県と梁平県を調査して、映像記録や調査カードを作成した。
韓国慶尚北道聞慶では、無形文化財の紙工房を調査し、映像記録、調査カードを作成した。

【年度実績概要】

中国四川省において、調査した二箇所の紙産地、夾江県と梁平県では、大規模な工房を時間をかけて調査することができた。特に、紙の乾燥施設は広大で他に類例を見ないものであった。韓国慶尚北道聞慶での調査でも、製品からのみでは知りえない、工程上のさまざまな問題点を調査することができた。材料、工程を詳しく調査し、現状のままで保存修理に使用できる手漉き紙が極めて少数であること、紙文化財修理向上のためにも、材料確保のために手漉き紙製作の改善を進める必要性の大きさを再認識できた。



四川省夾江県　竹紙工房

【実績値】

調査地　海外：　3 件
（中国四川省　2 箇所　中国四川省夾江県、梁平県。韓国　1 箇所　韓国慶尚北道聞慶）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	海外調査件数					
判定	A					
備考 3 回の海外調査を達成できた。						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	実地調査の難しい海外の紙漉き調査について、ユネスコとの連携により達成できた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されている。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）日本の文化財修理と保存、復元に関する調査研究（(5)－⑥）

【事業概要】
日本の文化財保存修理の歴史を「扱い・収納・曝涼・修理」の観点から調査研究し、その成果を特別展「よみがえる国宝―守り伝える日本の美―」にて展示公開する。展示は、「保存」「修理」「模写・模造」「文化財保護の始まり」という 4 つの章から構成し、書跡・典籍・古文書・絵画・染織・漆工・陶芸の名品の数々を通して我が国のお宝保存システムを紹介する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　本田光子

【スタッフ】
三輪嘉六（館長）・森田稔（副館長）・藤田励夫（保存修復室長）・畑靖紀（企画課特別展室主任研究員）・酒井芳司（展示課研究員）・川畑憲子（企画課文化交流展室研究員）・森實久美子（企画課特別展室研究員）・金井裕子（企画課文化交流展室研究員）・志賀智史（保存修復室主任研究員）・今津節生（環境保全室長）・秋山純子（アソシエイトフェロー）・松尾かをる（研究補佐員）・上野敦子（研究補佐員）・赤嶺桂子（事務補佐員）

【主な成果】
長い歴史を経て伝わった美や宝は、その保存修理の在り方も時代の美意識や技術に基づく判断や価値観を物語る。本研究により、文化財を身近に感じ、守り継がれる理由、引き継ぐ意志や営みにも想いをはせる場となることを願い、展覧会を企画した。九州初公開の国宝や皇室の名宝と模写・模造の最高傑作を通して、土蔵や校倉に収め定期的曝涼を行い数十年数百年おきに修理をくり返すことにより、日本の美や宝が守り伝えられてきたことを紹介することができた。

【年度実績概要】
・専門性の高い展覧会だったが 12 万人に近い入場者があった。九州一円からの来場者の年齢構成は子供若年から老齢まで、世代を超えた家族連れが想定できる。入場者数は、優品揃いの内容とテレビ・新聞による効果的広報の成果が考えられる。
・ブログ・アンケートや会場での感想は、名品鑑賞の喜びに加えて、博物館の役割への新たな理解、文化財の意義の再認識、保存修理への理解等々、展覧会趣旨をストレートに受け止めた内容が多かった。
・「保存」と「修理」の章は映像で理解を助けるようにし、さらに正倉院校倉の高床部分を実物大模型で体感できるようにしたが、「模写・模造」は短い導入と 1 枚のパネルでその意図を伝えることができるか心配であった。しかし意外にも関心は高く、模写模造の制作が、伝統技術･伝統材料そのものを伝承していることが率直に受けいれられた。
・目に見える宝の伝世は、目にはみえない宝（技・こころ）の伝承があるからこそ成り立つことを、再確認してもらうことができた。
・時を超えて受け継がれた品々を、その美や価値を維持し続ける「理由」と共にご覧いただくことができた。
・戦争や災害、時代の大転換を乗り越え、一方では四季の変化と付き合い伝世した日本の宝を通して「人が守り継ぐ」物語を現代社会へ伝えることができた。



特別展「よみがえる国宝」ポスター

【実績値】

○ 展覧会入場者数	118,528	人	（目標 4 万人）
○ 展覧会図録論文掲載数	21	本	（展覧会図録　292 頁）
○ 展覧会関連講演会	14	回	（聴講者数　2,000 名）
○ 展覧会解説	7	回	（聴講者数　700 名）
○ 広報番組数	3	本	
・ 展覧会関連トークショー	1	本	
・ 展覧会関連テレビ特別番組	2	本	
○特集記事数	8	本	
・ 展覧会関連連載・特集記事	8	本	
○ 展覧会出陳作品数	77	件	（内　国宝 11 件・重要文化財 18 件）
○ 展覧会場映像	3	本	

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4564-5

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	入場者数	図録論文数	講演会数	解説数	広報番組数	特集記事数
判定	S	A	A	A	A	A
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	開館以来の「文化財の保存と修理」に関する調査研究を、各部門の担当研究員の協力のもとに、特別展という形で、多くの市民へ効果的に発信することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、文化財に関する調査及び研究の推進を図ると同時にその成果を収蔵品の保存・管理に活かすことができた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4571-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）博物館環境デザインに関する調査研究（(5) -⑦）

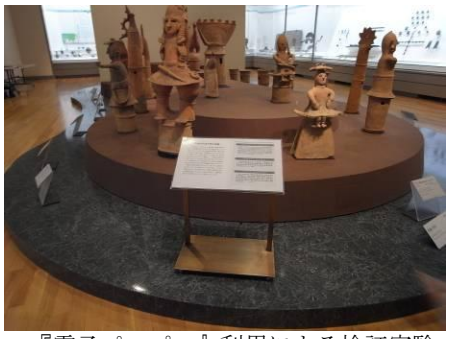
【事業概要】
　東京国立博物館における文化財の展示／観覧環境のデザインについて調査・研究し、今後の展示／観覧環境のデザインの向上に結びつける事を目的として実施する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	デザイン室長　木下史青

【スタッフ】
矢野賀一（デザイン室主任研究員）　勝沼早苗（デザイン室 アソシエートフェロー）

【主な成果】
1. 通常の案内サイン整備に加え、デジタルサイネージ利用の実験的導入により、その効果を検証した。(a, b)
2. 140 周年記念にあたり設定された『伝統と品格』を、便殿の展示/施設利用として具現化した（ｃ）
3. 東博の新キャラクターを空間化・サイン化するにあたり、キャラクターのあり方について研究した。（ｄ）

【年度実績概要】



a.『電子ペーパー』利用による検証実験
平成館考古展示室



b. 資料館閲覧コーナーのサイン整備
表慶館北側から資料館への誘導サイン



ｃ.『根付 高円宮コレクション』展示デザイン
便殿の展示室利用



ｄ. 140 周年イベントにともなうサイン整備等
トーハクくん、ユリノキちゃん

【実績値】
- 研究発表件数　2 回
  - 東京藝術大学美術学部 第一講義室　対談　・art-link 上野-谷中 2011 実行委員会
- 論文等掲載数　2 回
  - 「国語 3」（中学校 3 年生・国語教科書）　・「月刊文化財」等
- 他館展示／観覧環境のデザイン調査
  - 森美術館（東京・六本木）　・根津美術館（東京・表参道）
  - サントリー美術館（東京・乃木坂）　・福岡アジア美術館（福岡・博多）
  - 東大総合研究博物館（東京・本郷）　・歴史民俗博物館（千葉・佐倉）
  - 川村記念美術館（千葉・佐倉）　・ホキ美術館（千葉・土気）
  - 国立新美術館（東京・乃木坂）　・アリゾナ記念館（ハワイ・真珠湾）等

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
- 適時性：サインの多国語化は東博の国際性向上のためには不可欠である。
  本館便殿の展示室利用、公開は施設の有効利用の面で東博ならではの独創的事業といえる。
- 発展性：資料館の公開は有料/無料ゾーンの区分けが数年来の課題であったが、博物館の空間的かつ情報的な、両面での利用についての将来への継続的な可能性を得る検証となった。
- 効率性：電子ペーパーのデジタルサイネージ実験的導入は、機器の故障や運用面での支障があったが、そのことにより今後の時間的・人的・設備的投資に対して、一定の効果と問題点が明らかになった。
- 正確性：デジタルサイネージについては、次年度の東洋館開館へ向けて、利点/欠点の両面での継続的な技術およびデザイン面での研究により、情報伝達における正確性を高める事が必要である。

2．定量的評価

観点	研究発表件数	論文等掲載数	他施設等調査			
判定	B	B	A			

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展示・公開事業の基本的なメンテナンスは欠かせない一方で、急速な技術的進歩を遂げているサインのデジタル化（デジタルサイネージ）および画像・映像利用の増進に対応して、展示解説等への応用的デザイン研究を計画的に進めている。 平成 23 年度に得られた成果は、特に 24 年度に予定されている東洋館のリニューアルオープン(2013 年 1 月予定)に反映させる予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平成 22 年度に実施しされた「アクションプラン」（平常展から総合文化展への名称変更にともなう展示、およびサイン･リニューアル等）から、平成 23 年度においては、試行的な実験を含む計画的･継続的な博物館環境デザインに関する調査研究は順調に進捗している。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-2
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）博物館教育に関する調査研究（(5)－⑦）

【事業概要】
当館本館 20 室の教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」において、総合文化展と密接に関連した博物館教育事業の理論と実践に関する調査研究を実施し、その成果の一部を研究会等で発表する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　今井敦

【スタッフ】
鈴木みどり(博物館教育課ボランティア室長)
藤田千織(博物館教育課教育普及室主任研究員)

【主な成果】
本館 20 室「みどりのライオン」での博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は年間で 10 万人を超える利用者があり、当館における博物館教育プログラムとして定着している。鈴木と藤田はこのプログラムを博物館教育の見地から調査研究し、口頭および論文で発表を行った。

【年度実績概要】
・　当館本館20室の教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」において、スライドショー「東京国立博物館ガイダンス」、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう！」の博物館教育事業を実施した。
・　上記事業を博物館教育の一事例として、その理論と実践について以下のように発表した。

鈴木みどり「Museum for Everyone - through the development of School Programs for Visually Impaired」(韓国国立民俗博物館『Learning Innovation Symposium 2011』)
「東京国立博物館盲学校のためのスクールプログラム」(文化庁ミュージアム・エデュケーターズ研修、口頭発表)
「Museum for everyone - through the development of School Programs for Visually Impaired」(韓国国立民俗博物館国際シンポジウム ”Learning Innovation Symposium 2011”、口頭発表)
「東京国立博物館とミュージアムエデュケーターの役割」(跡見学園シンポジウム「マイライフ」、口頭発表)

藤田千織　「盲学校のためのスクールプログラム」(文化庁文化財部美術学芸課　ミュージアム・エデュケーター研修、口頭発表)
「《報告》館内ガイドの新しいかたちースマートフォンによる位置連動型ガイド「とーはくナビ」製作と貸出についてー」(『MUSEUM』636 号)

【実績値】
研究発表 4 回
論文発表 2 本

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」での総合文化展と密接に関連した博物館教育事業を研究会等で報告できたことは、今後の国内外の博物館教育研究に寄与するところがきわめて大きい。

2．定量的評価

観点	研究発表回数	論文発表本数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館本館 20 室の教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」では、博物館のガイダンス機能にくわえ、各種レクチャーや体験型プログラム、制作工程模型展示などを、一般から学校団体まで幅広い層に向けて展開している。これは当館の博物館教育を推進する上で大きな成果といえる。また、この事業を通して、博物館教育の理論と実践について、担当研究員が研究し、その内容を広く内外に発信できた。今後もさらに研究を続け、博物館教育に関する情報発信を精力的に行っていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館教育に関する調査研究は、博物館教育課の研究員を中心に概ね研究計画にそったかたちで順調に進められていると考える。今後も有形文化財とそれらに関する調査研究の成果を活用しながら、博物館教育理論の構築、ならびに実践的プログラムの開発に取り組んでいきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-3
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究（(5) －⑦）

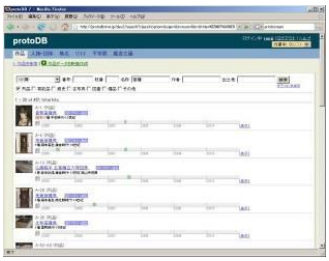
【事業概要】
　東京国立博物館における収蔵品管理システムの開発を通じて、資料情報と学芸業務の有機的な関連について調査研究し、博物館における効果的・効率的な情報の管理及び蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

【担当部課】	学芸企画部博物館情報課	【プロジェクト責任者】	情報管理室長　村田良二

【スタッフ】
佐藤祐介（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
　東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。また Web サイトにおいて公開する収蔵品の展示予定情報のために、平常展管理機能からデータを抽出する機能を実装した。また次期システムに向けた設計のための準備を開始した。

【年度実績概要】
　収蔵品管理システムの運用を継続することにより、収蔵品のデータ更新・追加・訂正を円滑に行える環境を維持し、随時改善を重ねて一層の機能向上を図った。
　他システムとの連携強化として、リニューアルした Web サイトのために総合文化展での収蔵品の展示予定情報について、収蔵品管理システムの平常展管理機能により蓄積されたデータを加工し、Web サイトのバックエンドであるコンテンツ・マネージメント・システムに転送する機能を実装、運用開始した。従来、Web サイトへのデータ移行は手作業によるコピーが必要であったため、作業効率を大幅に向上することができた。



収蔵品管理システム
（プロトタイプ）

【実績値】
192,946 件
（内訳）
作品データ件数　189,311 件
平常展データ件数　2,805 件
鑑査会議データ件数　29 件
貸与データ件数　801 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
博物館のシステムに必要な機能を着実に開発しており、業務の円滑化と情報の効果的な蓄積につながっている。最新の技術も取り入れており、博物館におけるシステムのあり方を先導的に示すものとなっている。

2．定量的評価

観点	収集データ件数					
判定	A					

備考
効果的な業務支援機能により、学芸業務を行う流れの中で効率的に無理のないデータ収集が可能となり、その結果データを着実に蓄積している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	収蔵品のデータ蓄積と業務支援を密接に連動させたシステムにおいて効果的にデータの蓄積、活用が行えることが確認された。また Web サイトへのデータ転送の実装により、より効率的かつ正確に情報の公開を行うためにも業務支援システムが有効であることが確認できた。今後は、これまでに実装した機能をもち、かつより一貫性・保守性の高い次期システムの検討を進める。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各分野の研究員、業務担当者と連携をとりながらシステム開発を継続しつつ、さらに発展させた次期システムの検討を進める。

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-4

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究（(5)－⑦）

【事業概要】

館蔵文化財のデジタル・アーカイブを活用した、新たな公開手法を凸版印刷株式会社と共同で研究する。
平成 19 年度から「国宝　聖徳太子絵伝」「国宝　灌頂幡」「重要文化財　洛中洛外図　舟木本」の高精細デジタル・アーカイブを作成し、それらを素材としてミュージアム・シアターにおけるコンテンツの公開を実施している。本年度は「土偶」を素材とした

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課長　井上　洋一

【スタッフ】

田良島　哲（学芸研究部調査研究課長）

【主な成果】

重要文化財 2 件を含む館蔵の土偶 3 件について、凸版印刷との共同で高精細三次元データを取得し、それに基づいたシアター用コンテンツを制作した。同コンテンツは平成 24 年 1 月からミュージアムシアターで公開している。

【年度実績概要】

館蔵の土偶 3 件

＊重要文化財　土偶（J-38392）　青森県つがる市木造亀ヶ岡出土
＊重要文化財　土偶（J-39223）　埼玉県さいたま市岩槻区 真福寺貝塚出土
＊土偶（J-8008）　山梨県笛吹市御坂町上黒駒出土

について、高精細三次元データを取得し、それに基づき、凸版印刷が当館の監修のもとに、ミュージアム・シアター用コンテンツ「DOGU-縄文人が込めたメッセージ-」を制作した。同コンテンツは平成 24 年 1 月から金、土、日、祝日にミュージアム・シアターで来館者に公開している。

【実績値】

＊データ化　3 件
＊コンテンツ作成　1 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京国立博物館　　処理番号　4571-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	独創性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	データ化件数	コンテンツ作成件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画どおりのデータ化及びコンテンツ化が行われた

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	前期間に引き続き、新たに凸版印刷との研究を継続することになったが、アーカイブの方法も含めた作品データの蓄積と活用を進めるとともに、来年度の新シアターの開室に備え、来館者の反応を確かめながら、公開方法についてさらに研究開発を進めていく。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4572-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)文化財情報に関する調査研究　((5)-⑦)

【事業概要】
当館のウェブサイトや文化財情報システムなど、運用中のコンテンツの問題点の検討を行い、随時改良を行った。またサイボウズなど機構内の共通システムの運用に対する対応や、館内 LAN システムの発展的整備の方向性に関する検討など、文化財情報に関する諸般の調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　久保智康

【スタッフ】
山田奨治（客員研究員）

【主な成果】
文化財情報システムの昨年度更新後の運用上の問題点を検討し、運用ソフトの改良を随時行った。
文化財の写真原板のデジタル化開始に伴う、特別観覧業務上の問題点と文化財情報システム運用の間の整合性について検討し、システムを改良した。
ウェブサイトのコンテンツを随時見直し、情報を更新した。

【年度実績概要】
・各月ごとに現時点での情報システムの運用面における現状調査を行い、その結果について、当館研究員・事務職員・SE と共同で検討会を実施して、システム全体の問題点を抽出。改良を随時行った。
・既存の収蔵品高精細画像のファイリングシステム構築を継続し、今年度から開始した特別観覧における写真原板のデジタル版提供との整合性を図った。
・重要文化財高精細画像データベース「KNM Gallery」の拡充、公開収蔵品データベースの拡充、研究紀要「学叢」バックナンバーPDF 版の拡充、館外貸出作品一覧の追加、展覧会混雑情報の追加など、コンテンツ充実に向けての検討を行った。

【実績値】
・システムの現状調査　5 回
・システム検討会　10 回
・ウェブサイトコンテンツの検討　5 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　京都国立博物館　　処理番号　4572-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
文化財情報システムを全面更新し、研究業務、特別観覧業務の円滑化が各段に進んだ。
当館のウェブサイトは、コンテンツの豊富さ（収蔵品データベースなど）から定評があるが、さらに多くのページで質の充実を図った。

2．定量的評価

観点	システム現状調査	システム検討会	ウェブサイトコンテンツの検討			
判定	A	A	A			

備考
システムとウェブサイト・コンテンツの検討を随時行い、定期的な検討会を実施した（計 12 回）。
特別観覧業務の作品原板提供の全面デジタル化を開始し、高精細画像のファイリングシステムへの追加を鋭意進めた。
ウェブサイトにおける重要文化財高精細画像データベース「KNM Gallery」の拡充、公開収蔵品データベースの拡充、研究紀要「学叢」バックナンバーPDF 版の拡充、館外貸出作品一覧の追加、展覧会混雑情報の追加、メールマガジンの配信などの充実を図った。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財情報システムを更新し、ウェブサイトも質・量ともに格段の充実を図った。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	予算を効率的に活用し、緊急性の高い事項から順次検討を行い、改良を加えている。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4573-1
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。（(5)－⑦）

【事業概要】
奈良を中心とした寺社の歴史や伝統行事に関する情報を集め、「世界遺産学習」をはじめとする教育プログラムに反映させられるか検討を行い、重要度の高い情報、適切な内容を発信する仕組みを考える。

【担当部課】	学芸部教育室	【プロジェクト責任者】	教育室長　吉澤　悟

【スタッフ】
西山厚（学芸部長）、清水健（前教育室員）、北澤菜月（教育室員）、山口隆介（前教育室員）

【主な成果】
奈良の歴史と伝統文化に関する情報を、まずは今年度開催した展覧会の中から抽出することとした。その情報を職員やボランティアが共有する機会を設け、児童・生徒が歴史への関心を高めるのに使える情報は何かを検討した。ボランティアへの指導と話合いを通して、世界遺産学習の実践の場での「語りかけ」の精度を高めることに努めた。

【年度実績概要】
当館で開催した特別展や特別陳列、正倉院展の中には奈良の歴史と伝統文化を反映した作品や情報が多く含まれている。「天竺へ〜三蔵法師 3 万キロの旅」は仏教経典の伝来と奈良における写経の歴史に関する情報、「初瀬にますは与喜の神垣」は奈良の古社である與喜天満神社に伝わる神像や奉納品などから神への崇敬の歴史が示され、さらに正倉院展では蘭闍待や聖武天皇の愛刀などから伝来と宝物をめぐる歴史物語が読み取れるなど、子供から大人に至るまで多くの人が楽しめる情報が抽出できることが認識された。その一部は公開講座やサンデートークなどによって各研究員から情報発信されているが、さらに子供に向けてどのような語り方があるか、検討を行っている。また、世界遺産学習で直接生徒に向き合うのは解説ボランティアであるため、ボランティアに対しても研修の機会などを通して、要点を解説し、共有化をはかると同時に、子供たちに伝えるべき情報は何かを個々にも考えてもらうこととした。これらは未だ試行段階にありマニュアル化されてはいないが、世界遺産学習の実地現場において生徒たちへの語りかけの内容が広がっているとの実感がある。向後も方法論的な検討を行い、短時間の中で伝える情報の質的向上がはかられるとの見通しを得ることができた。
また、これと併行して、当館学芸部の職員が個別の情報発信源として学校に趣き、「伝えること」の尊さを講義する機会も設けている。

【実績値】
・「世界遺産学習」に来校した小学校　36 校
・出張講義　3 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4573-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　世界遺産に関する教育普及活動は自治体や観光事業など様々な場所で行われている状況において、博物館が基点となった「世界遺産学習」とは何かを追求する好事業となった。展覧会情報を生かした「語りかけ」を検討することで、他の観光案内にはない博物館のオリジナリティをもたせ、かつボランティアにより生徒に直接語りかけることができた。

2．定量的評価

観点	「世界遺産学習」に来校した小学校数					
判定	A					

備考
　職員・ボランティアで共有された情報を繰り返し利用して生徒に語ることができ、効率的であり、かつ反復により精度を高めることにもつながった。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	職員とボランティアの間で情報を検討する時間が多くとれれば、「世界遺産学習」のみならず一般来館者への解説サービスの向上にもつながるものと考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	「世界遺産学習」は歴史・伝統文化の宝庫、奈良にある博物館が担うべき重要な事業である。向後の継続性のみならず発展性をもふまえて、さらに情報の蓄積と方法論の先鋭化をはかって行きたい。

【書式Ｂ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　4573-2

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。（(5)－⑦）

【事業概要】

当館が活動範囲とする仏教にかかわる歴史と美術について、展覧会や調査研究事業と連動した情報収集を行い、そこにデジタル技術を適切に取り入れることにより、データの継続的な作成・データベースの構築・情報資源の公開と共有へと展開させる。その際には実践に即した方法論を鍛え、文化財の保存活用に資するアーカイブズの形成・発展にも寄与することを目指す。

【担当部課】	学芸部資料室	【プロジェクト責任者】	資料室長　宮崎幹子

【スタッフ】岩田茂樹（美術室長）、内藤栄（工芸考古室長）、稲本泰生（前企画室長）、吉澤悟（前教育室長）、宮崎幹子（資料室長）、谷口耕生（保存修理指導室員）、野尻忠（前情報サービス室長）、清水健（前教育室員）、岩戸晶子（工芸考古室員）、斎木涼子（前列品室員）、北澤菜月（企画室員）、山口隆介（美術室員）、永井洋之（企画室員）、原瑛莉子（企画室員）、佐々木香輔（資料室員）

【主な成果】

昨年度から開始したデジタル撮影の本格的な稼働をうけ、その安定的な継続を目指して、撮影機材、環境、ストレージ、体制等の整備に努めた。それにより新規の撮影と外部へのデジタル画像提供もスムーズに実施することができた。また、館内の情報システム・公開用データベースの更新を行い、情報資源の内部での活用と外部への公開の拡充に積極的に取り組んだ。仏教美術資料研究センターの改修工事完了をうけて、情報公開施設の整備と一般への普及にも努めた。

【年度実績概要】

・デジタル撮影

昨年度よりデジタル撮影を本格化しているが、今年度の特筆すべき実績としては、天神坐像（與喜天満神社）、弥勒仏坐像（弥勒寺）、降三世明王坐像（金剛寺）、不空羂索観音立像（東大寺）などがあげられる。いずれも南都および周辺の重要な文化財であり、出品等の貴重な機会を捉え、これまで館内外で未整備であった画像データを多数作成・蓄積することが叶い、文化財の調査研究に資することができた。

・画像データベースのリプレイス

館内で運用している画像情報システムと連動する形で、公開用の画像データベースをリプレイスし、デジタル画像の提供機能を充実させた。その際には内部・外部のサーバを分離し、内部公開用の画像データベース（仏教美術資料研究センターにて利用可能）では収蔵品以外も含む公開可能な画像を、外部公開用の画像データベースでは収蔵品に限った画像を提供するなど、文化財情報の公開促進と共に、安全性の確保にも努めた。

・収蔵品データベースの連携

以前より公開している収蔵品データベースと、画像データベース、仏教美術資料研究センター蔵書目録（ＯＰＡＣ）との連携を一部実現した。これは、一つの収蔵品について、文化財、画像、文献（展覧会カタログや論文）等異なる形式の情報を一元的に提供するもので、文化財に関わる館内の情報資源を重層的に提示することができる。昨今、ＭＬＡ（博物館・図書館・文書館）の情報資源の連携の必要性が叫ばれているが、博物館においてこうした取り組みを進める国内でもほぼ初めての事例となった。また、国立国会図書館、文化庁など、外部のデータベースとも連携を図り、収蔵品情報へのアクセス経路を拡充している。



収蔵品データベース画面

・高精細画像システム

特別展「天竺へ～三蔵法師 3 万キロの旅」において、国宝玄奘三蔵絵（藤田美術館所蔵）全十二巻全場面の高精細画像を提供するシステムを構築した。文化財の展示替えによる観覧の制限を補完し、かつ館内の情報資源を一般来館者に向けた普及活動へと展開させる事例となり、所蔵者ならびに来館者からも高い評価を得た。

・研究発表

上記の実践と並行して、文化財アーカイブズの形成に関わる内外の事例や理論について調査研究を継続し、アート・ドキュメンテーション学会、文化庁文化遺産オンラインフォーラム等において研究発表を行った。また、全国美術館会議情報・資料専門部会企画セミナーを共催し、専門家に対して、当館のアーカイブズ事業と公開施設（仏教美術資料研究センター）に関する研修を行った。

【実績値】

デジタル撮影：5，884 件、フィルム撮影：112 件、写真フィルムスキャニング：5，297 件

画像データベースへの個別データ登録：4，370 件（そのうち公開　2，220 件）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4573-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
本事業は継続性の高いものであり、短期的な成果や個別の画期性を期待するよりも、間断なく質の高い情報の蓄積を続けている点が最も高く評価できる。中でも、当館の事業や調査研究と密接に連携することで、重要領域の貴重な文化財に関する情報を重点的に収集し、学術的価値の高い独自のコレクションを形成していることは、特筆に値する。今年度の撮影は、南都を中心とした貴重な文化財の新発見とも連動しており、文化財指定調査等の基礎資料となるなど、研究の進展にも大きく貢献した。また、各種データベースの継続的な運用とともに、内部・外部の情報資源との連携を実現したことにより、文化財情報の連携の可能性について、一つの方向性を示すことも叶うなど、大きな成果があった。

2．定量的評価

観点	収集画像数					
判定	A					

備考
撮影数やデータの登録数は多ければ良いというわけではないが、質や継続性を鑑みても、本年度は充分な調査と撮影を実施しており、収集画像数は豊富であった。撮影後の処理やデータベースへの登録についても、当館の規模やスタッフ数を勘案しても他機関と比較して遜色のない数をこなしているといってよく、仏教美術の研究拠点に相応しいコレクションを形成している。外部への情報発信については、データベースの公開とともに、当館刊行の展覧会カタログ・学術報告書への画像掲載や、画像提供（特別観覧）によっても実現した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財の調査と撮影は、文化財の保存や所蔵者の意向、物理的・時間的制約など様々な要因が影響するため、過去の平均値との比較から年度の実績を評価することは必ずしも適切ではない。実績概要でも述べたとおり、学術的に重要であり、調査と撮影の機会を得ることが通常では困難な文化財について、調査を実施し、質の高い画像の収集が叶うことの意義は大変大きい。今後も調査や展覧会の開催と密接に連携した情報収集を続け、仏教美術情報の一大拠点として、コレクションの質の維持に努める予定である。また、情報資源の運用にあたっては、デジタル技術を適切に取り入れ、アーカイブズの発展にも寄与することを目指す。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	実績概要でも述べたとおり、デジタル撮影の実施が本格的となり、館内での処理から最終的な情報公開にいたるまでの一連の流れについて、人材および機材の確保を含めた長期的な展望が今後とも必須である。仏教美術分野では国内唯一と言っていい貴重なコレクションを維持管理しつつ、引き続き内外の研究者や学術出版界の利用に供する体制を整備するとともに、今日的な要請をふまえたシステムの構築、情報公開への対応が急務である。今後も文化財の保存・活用と研究の基盤として機能するべく、アーカイブズの形成を実践していくとともに、それを下支えする理論の構築にも取り組んでいく。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4574-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）九博に関連する絵本の次シリーズの企画に関する調査研究　((5)－⑦)

【事業概要】
九州国立博物館では、文化財に関する理解をより深め、博物館をより身近に感じてもらうことを目的として『きゅーはくの絵本』シリーズを刊行している。絵本は子どもから大人まで幅広い読者層を有し、学校教育等でも活用されていることから、博物館にとっても大きな情報発信力をもつものである。本研究では、『きゅーはくの絵本』に続くシリーズ企画を推進すべく、調査研究を行うものである。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	研究員　市元塁

【スタッフ】
池内一誠（交流課主任研究員）、新名佐知子（企画課研究補佐員）、濱川裕子（交流課事務補佐員）、村田真知子（交流課研究補佐員）

【主な成果】
次シリーズを企画するうえで、絵本活用という観点から検討を加えるべく、既刊の『きゅーはくの絵本』シリーズを用いた読み聞かせやバックヤードツアーを実施した。他館における絵本展示の実例を調査した。絵本出版社と意見交換を行い、今後のシリーズ展開を検討する上での情報収集を行った。あじっぱを主題とするマナーブック『あじっぱのたいせつななかまたち』を、展示課と九州産業大学芸術学部デザイン科が共同で制作している。年間を通じて関係各所に絵本を配布し、本活動の周知につとめた。

【年度実績概要】
次シリーズの検討を進めるために、既刊シリーズの活用を通して、あるべき博物館絵本の姿を検討した。
(1)絵本の活用方法を調査研究することの一環として、作品への理解を深めるために、作品の前で絵本の読み聞かせを行い、その後作品鑑賞へとつなげた。4月24日と6月4日には、『月夜のおおさわぎ』と埴輪を題材に教育普及ボランティアが実施。8月3日には『じろじろぞろぞろ』と南蛮屏風を題材に、博物館実習の一環として実習生が実施した。子どもたちの集中力を高めるため、絵本の読み聞かせと作品鑑賞の時間ははっきりと区切り、絵本でしっかり絵本のテーマに対する印象を植え付けたうえで鑑賞へとつなげたところ、子どもたちは作品の細部までよく観察し、絵本の中に出てくる事物を再発見し、絵本にない事柄も自ら発見していた。さらに絵本に登場する作品以外の列品にも関心を向け、鑑賞をすすめることができた。
(2)新たな絵本の主題を探ることの一環として、博物館での過ごし方などについて紹介する絵本のプロトタイプ『あじっぱのたいせつななかまたち』を、九州産業大学芸術学部デザイン科と協働して作成した。制作途中評価として、9月18日に大学生による読み聞かせを実施した。「あじっぱ」に展開する体験用資料への接し方を紹介する内容であり、読み聞かせの後の子どもたちのようすを観察すると、両手で包み込むように資料を手にする姿を見ることができ、絵本による伝達力の大きさを再確認することができた。
(3)8 月には福岡アジア美術館で開催されている企画展「おいでよ！ 絵本ミュージアム 2011」を視察し、絵本の読まれ方を調査した。その結果、既刊の『きゅーはくの絵本』シリーズについては、個人・年齢によって理解の仕方や深度は異なると想定されるが、実態としては小学校入学前の子どもからでも楽しめるという見込みを得た。また絵本ミュージアム展を担当した出版社の方と意見交換の機会を得た。
(4)7 月から 8 月には、『おおきな博物館』を元にしたバックヤードツアー「大きな博物館の探検」を 3 回にわたり実施した。
(5)年間を通じて『きゅーはくの絵本』シリーズを国内外の博物館・美術館、寺社、官公庁、大学、学校等に配布し、九州国立博物館が推進する絵本事業の推進につとめた。


バックヤードツアー
「大きな博物館の探検」

【実績値】
○調査回数　12 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査回数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	次シリーズを検討するうえで多くの検討材料を得ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	次年度は、博物館や美術館以外での絵本活用例なども調査し、広視野に立った次シリーズの検討を図りたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）ＮＨＫと協同で高精細画像を活用したシアター4000 での映像公開に向けた研究（(5)－⑦）

【事業概要】
ハイビジョンが 200 万画素であるのに対して、スーパーハイビジョンは 3,300 万画素数の情報量を有している。ＮＨＫはこれを究極の放送システムと位置付けて、将来の実用放送を視野に入れた研究開発を進めてきた。このスーパーハイビジョンのもつ質感と臨場感に優れたメディアを、文化財の保存と活用に応用するために当館では常設のシアターを設けてコンテンツ制作と一般公開を通じた調査研究を推進する。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	展示課長　赤司善彦

【スタッフ】
河野一隆（文化交流展室長）

【主な成果】
新コンテンツ作成のための予備調査を実施し、その映像公開にむけた具体的な打合せを実施した。また、将来のスーパーハイビジョンの広い分野での活用を視野に入れた研究を、ＮＨＫ及びＮＨＫエンタープライズと共同で推進するための協議を行った。

【年度実績概要】
ハイビジョンの 16 倍の解像度を誇るスーパーハイビジョンは、きめ細かい画像と色彩の高い再現性が特徴であり、単なる番組としてコンテンツを制作するのでなく、より来館者の五感に訴えるコンテンツ制作のための研究と、低コストによる制作の取り組みをおこなった。新しい取り組みとして九州のキリシタン文化の展示と連動した五島・天草の教会群の撮影を決定し、その現地の予備調査を実施した。
また、今後の取り組みについては、映像設備の更新についての低コスト化の研究と、ＮＨＫの番組制作に伴うコンテンツの活用をすすめる方策等を協議した。
24 年 3 月に、撮影対象を決定するロケハンの実施とコンテンツの台本等の作成を行った。



五島列島の野首教会

【実績値】

○調査回数　　2 回
・現地調査　　2 回（9 月・10 月五島列島の教会群）

○打合せ回数　3 回
・コンテンツ制作の打合せ　2 回
・設備改善についての協議　1 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
発展性：これまでの静止画主体のコンテンツだけでなく、動画的な要素を盛り込んだコンテンツの作成へと発展できる見通しがついた。

2．定量的評価

観点	調査回数	打合せ回数				
判定	A	A				

備考
　来年度に本製作を予定しているため、目標回数は少ないが、予定通り実施し、ＮＨＫ側との率直な意見交換などを通じて今後の調査研究を充実させることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今後の取り組みについて、ＮＨＫ側との共通認識をもつことができた。また新コンテンツについても、現地調査をおこない、関係者との事前協議を実施する事ができた。来年度の本製作に向けて、円滑に作業を進められる見通しがついたことから判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に沿った内容で実施でき、展示作品を分かりやすく伝える手法として、今後さらにハード面も含めて開発・改良を図りたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究（(5)－⑦）

【事業概要】
当館では、特別展ごとに観覧者に展示内容の理解を促進するため、さまざまな形での教育普及プログラムを実施してきた。本年度は、「黄檗-OBAKU」（前年度末より開始）、「よみがえる国宝」「草原の王朝 契丹」「細川家の至宝-珠玉の永青文庫コレクション」の 4 つの特別展において、普及プログラムを実施する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	企画課長　小泉惠英

【スタッフ】
楠井隆志（展示課主任研究員）、本田光子（博物館科学課長）、市元塁（企画課特別展室研究員）、川畑憲子（企画課文化交流展室研究員）、新名佐知子（企画課研究補佐員）、山本久美子（同）

【主な成果】
講演会の実施、展覧会の出品作品にちなんだグッズの作成、展覧会の出品作品にちなんだワークショップなどを行った。展示室内に解説パネルを掲出、小冊子を作成し観覧者に配布するなどした。展覧会のアンケート結果より、多くの観覧者から教育普及プログラムを通して展覧会を楽しめたとの高い満足度を得ることができ、多くの観覧者に展示内容を理解いただける成果を挙げた。

【年度実績概要】
「黄檗展」では、江戸時代にわが国に伝わった黄檗宗そのものを平易に理解してもらうために、イラストを用いたパネルを作成して、展示室に掲出、また、展覧会図録にもこれと関連した黄檗宗そのものの理解を助けるコーナーを設けた。
「よみがえる国宝展」では、大規模な文化財保存のセミナーを実施したほか、文化財の修理・保存に当たって、どのようなことをが行なわれているかをイラストパネルで説明した。また、子供向けに文化財の修理をトピックとした小冊子を作り、これを配布した。
「契丹展」では、日本ではなじみの薄い遊牧民族の契丹を紹介するパネルを作成し、これを掲出すると共に、遊牧民族の上位階層の墳墓から出土した豪華な服飾、工芸品を再現し、身につけてもらい、往時の文化の豊かさを体感できるというコーナーを設置した。
「細川家の至宝展」では、700 年の歴史を持つ細川家の事蹟を整理し、解説パネルの掲出、能楽イベント、剣豪宮本武蔵の剣術を紹介するワークショップの実施、歴史的事蹟を列挙した双六の作成・配布など、細川家の歴史を親しみながら理解できるようにした。
各々の展覧会で、講演会を実施した。



＜よみがえる国宝展＞
解説パネル

【実績値】

○解説パネル作成　4 回（黄檗展 1 回、よみがえる国宝展 1 回、契丹展 1 回、細川家の至宝展 1 回）

○冊子およびリーフレット、歴史双六などの配布物の作成　2 回（よみがえる国宝展 1 回、細川家の至宝展 1 回）

○講演会　23 回（黄檗展 4 回、よみがえる国宝展 5 回、契丹展 8 回、細川家の至宝展 6 回）

○ワークショップ　3 回（よみがえる国宝展 2 回、細川家の至宝展 1 回）

上記以外に、
「黄檗展」において黄檗宗の読経を紹介するイベント、長崎の黄檗寺院に伝わる蛇踊り、獅子舞の紹介、黄檗宗独特の料理である普茶料理を紹介する講演会を実施。
「よみがえる国宝展」では、博物館の裏側を紹介するバックヤードツアー、文化財保存交流セミナー（計 5 日間・講座計 12 回）を実施。
「細川家の至宝展」では、能を手厚く保護した細川家の足跡にちなんだ能楽の紹介イベントなども実施した。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-3

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　展示室における平易な解説パネルの制作、掲出に加え、多数の講演会、きわめて多岐にわたるイベントの実施など、特別展という１つの事業から、さまざまな形でその歴史的背景、文化的意義などを紹介することで、文化財を通じて重層的に歴史を理解できる機会を設けた。

2．定量的評価

観点	解説パネル	冊子	講演会	ワークショップ		
判定	A	A	S	A		

備考
　本年度は、特に講演会の回数を大幅に増加させ、いずれも好評を博した。とくに連続講座の形で、展覧会の内容をより多角的に紹介したことで、観覧者より大きな充足感を得た。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別展を核として、展覧会の内容に応じて、パネル紹介、ワークショップなどの教育普及に関わるさまざまなイベントを多角的に展開できた。観覧者からも好評を博しており、今後も展覧会の内容を精査、吟味し、より適切な形でのプログラムを選び、このような形での実施を進めていきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	観覧者を集めてのイベント形式のプログラムでは、多くの参加を得て、また展示室内でのプログラムにおいても展示品理解の助けとなるべく目的を十分に果している。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4574-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発（(5)－⑦）

【事業概要】
学校貸出キット「きゅうぱっく」について、学校教育の実態やキットの特性等に合わせて最適な活用方法を検討する。活用にあたっては必要に応じて教師と館職員がティーム・ティーチング形式で授業実践を行い、学校教育におけるモノを通しての歴史理解・異文化理解を支援し、同時に児童生徒や教師の博物館・展示物に対する興味・関心を高める。また、新たなシリーズの制作に向け、キットとして構成可能な資料についての調査研究を行う。

【担当部課】	交流課	【プロジェクト責任者】	主任研究員　池内一誠

【スタッフ】
佐藤　茂史（交流課　主任研究員）

【主な成果】
小学校・中学校・高等学校などさまざまな校種において「きゅうぱっく」が活用され、教科や単元においても、歴史学習にとどまらず、「道徳」や「総合的な学習の時間」の郷土学習、異文化理解学習での活用がみられた。活用形態も、博物館訪問の事前学習として活用する例、長期休業中の学習活動への導入として組み込む例など多様な形態での活用が確認できた。また、新シリーズを構成する資料について候補の選定、収集を進めた。

【年度実績概要】
春日市立須玖小学校では、4 年生の「総合的な学習の時間」の郷土学習で近隣資料館を見学するための事前学習として「きゅうぱっく」を活用。歴史学習に入っていない学年でも「きゅうぱっく」の活用によって、文化財から学ぶことができることが明らかになった。また、同校は 6 年生の「道徳」においても「きゅうぱっく」を活用した。

飯塚市立高田小学校では、6 年生の歴史学習において、館職員のほか地元自治体の文化財担当職員も教師と協働して「きゅうぱっく」を活用した授業を展開した。

太宰府市立太宰府東中学校では、冬期休業期間を活用した「博物館学習」への導入として「きゅうぱっく」を活用。教師と館職員が協働で生徒を指導し、資料の観察をとおして、冬期休業期間中に博物館を訪問する生徒たちに、文化財をみる視点を養うことができた。

福岡県立香住ヶ丘高等学校では、文化祭における異文化紹介の資料として「きゅうぱっく」を活用。体験をとおして理解を深める「きゅうぱっく」の特性が発揮された。

福岡県立視覚特別支援学校の博物館観覧に際して、「きゅうぱっく」の一部を含む体験資料を活用し、展示観覧支援を実施。「きゅうぱっく」が、学校での活用のみならず、展示室における観覧支援にも有効であることが明らかとなった。

文化交流展示第Ⅳテーマ、第Ⅴテーマに対応した新シリーズの制作に向けて候補資料の調査を行い、第Ⅳテーマについてはシリーズ構築が可能な程度に候補を選定できた。


「きゅうぱっく」のキットをスケッチしながら観察する

【実績値】

○「きゅうぱっく」貸出件数：85 件

○博物館職員による授業実践支援回数：15 回（対象生徒数延べ約 750 名）

○新シリーズ構成候補資料の選定・収集：9 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　九州国立博物館　　処理番号　4574-4

自己点検評価調書

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
今年度、貸出地域を明確に「全国」とし、それに伴って貸出期間を延長したことにより、公共性は高まった。「きゅうぱっく」の構成資料には館所有の 3 次元デジタイザやＣＴスキャナで取得したデータを 3 次元プリンタで出力したものも含まれており、資料の有する情報の正確性は非常に高く、当館の有する資源を存分に活用したもので、独自性も高い。学校連携のための職員が配置されたことで、学校側の要望にも応えやすい体制がとれている。

2．定量的評価

観点	きゅうぱっく 貸出件数	授業実践 支援回数	新シリーズ 候補資料選定			
判定	S	A	A			

備考
貸出件数は前年度比約 173%（平成 22 年度は貸出件数 49 件）。貸出件数が飛躍的に伸びた要因としては、年度当初に県下の全学校に向けて案内チラシを送付したこと、貸出地域を明確に「全国」として貸出期間も延長したこと、学校連携担当の職員が配置され、学校との連携が強化されたことが考えられる。授業実践支援も、今年度学校連携担当の職員配置により、学校側の要望に応えることができた。新シリーズ構成のための資料については、文化交流展示第Ⅳテーマに対応する資料について 7 種類、第Ⅴテーマに対応する資料について 2 種類、候補を選定することができた。第Ⅳテーマについてはシリーズ構築のめどが立ち、準備可能な資料については随時準備をすすめている。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	「きゅうぱっく」の貸出件数は毎年順調に伸びている。時間の経過とともにその存在と効果が知られてきていること、貸出地域の拡大や貸出期間の延長を行ったことによると思われる。授業実践支援回数も一定の回数を数えたが、今後は活用事例を整理して公開し、教師の利用に供する手法も考えられる。新シリーズの構築に向けて、更なる資料の調査と選定が必要である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	「きゅうぱっく」の開発によって、学校教育との連携は着実に進展している。単なる授業支援のためのツールとしてだけでなく、来館に向けた事前学習のためのツールとして、あるいは館内での観覧支援のための活用も報告されており、学校教育のあらゆる場面において九州国立博物館が連携できる可能性が広がっているといえる。「きゅうぱっく」の構成資料と密接なつながりを持つ体験型展示室「あじっぱ」の体験用資料には、学校教育支援に有効な資料が多数あり、今後これらについて調査研究と活用を推進することで、一層学校教育との連携は強化されると思われる。活用可能な資料の選定と活用の方法について更なる研究が必要である。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 5111
（様式 1）

業務実績書

研 No. 42

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（(1)-①）

【事業概要】
文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国においての文化財保存・修復事業を推進する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存計画研究室長　友田正彦

【スタッフ】
川野邊　渉、山内和也、加藤雅人、有村　誠、影山悦子、安倍雅史、秋枝ユミイザベル、邊牟木尚美、島津美子、鈴木　環、佐藤　桂、境野飛鳥、渡部采子、高多加奈子（以上、文化遺産国際協力センター）、今井健一郎（客員研究員）

【主な成果】
パリにおいて開催された世界遺産委員会に出席する等、各国の文化遺産に関する情報収集を行ったほか、文化財保護関連の法令の収集・分析および翻訳作業を実施し、データベースを充実するとともに、対訳法令集シリーズとして刊行した。また、バーミヤーン遺跡保存に関するシンポジウムを開催し、国際協力の推進と協力成果の一般への普及広報を図った。

【年度実績概要】
＜国際会議等出席＞
2011 年 6 月 19 日から 29 日まで、パリの世界遺産センターで開催された世界遺産委員会会議にオブザーバーとして出席した。また、国内で開催された文化財修復関連の国際シンポジウム等に参加した。
＜データベースの作成＞
収集した各国文化財保護関連情報についてデータ入力を進め、ウェブサイト上にて公開した。
＜対訳法令集シリーズの刊行＞
今年度は、イタリア、エジプト、ベトナムの 3 ヶ国について、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして刊行した。


第35回世界遺産委員会開会式でのボコバ事務局長の挨拶

＜シンポジウムの開催＞
2011 年 12 月 9 日（金）に東京国立博物館平成館において、国際シンポジウム「大仏破壊から 10 年：世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」を奈良文化財研究所との共催にて開催した。このため、Omar Said Sultan（アフガニスタン情報文化省副大臣）、Habiba Sarabi（バーミヤーン州知事）、Michael Petzet（ドイツ・イコモス）、Michael Jansen（ドイツ・アーヘン大学教授）、Georgios Toubekis（ドイツ・アーヘン大学教授）の各氏を招聘した。
13：00-13：20　開会挨拶
13：20-13：40　「アフガニスタンにおける文化遺産保存の現状」（Sultan）
13：40-14：00　「バーミヤーンにおけるユネスコ遺跡保護事業の 10 年を振り返って」（Lin）
14：00-14：20　「「バーミヤーン遺跡保存事業」とバーミヤーン」（Sarabi）
14：20-14：40　「バーミヤーン大仏-破片の保存と公開に向けて」（Petzet）
14：40-15：00　「マスタープラン：バーミヤーンにおける文化的景観と考古遺跡」（Jansen）
15：00-15：20　「バーミヤーン遺跡の保護にむけた日本の取り組み」（山内）
15：35-17：00　パネルディスカッション（司会：西村幸夫）
17：00-17：10　閉会挨拶
＜報告書作成＞
2011 年 3 月 3 日から 5 日まで開催した「西アジア文化遺産国際会議」について、アラビア語の和訳および編集作業を行い、日英 2 ヶ国語版の報告書として出版した。

【実績値】
国際会議出席　1 回
シンポジウム開催　1 回
文化財保護法令集作成　3 冊（①～③）
国際資料室蔵書目録作成　1 冊
西アジア文化遺産国際会議報告書　2 冊（④、⑤）

【備考】
①各国の文化財保護法令シリーズ[12]イタリア
②各国の文化財保護法令シリーズ[13]エジプト
③各国の文化財保護法令シリーズ[14]ベトナム
④西アジア文化遺産国際会議報告書「西アジアの文化遺産ーその保護の現状と課題ー」
⑤Report on the Expert Meeting on Cultural Heritage in Asia and the Pacific, The Cultural Heritage of West Asia - Current State and Issues for Protection -

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5111

自己点検評価調書

研 No. 42

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	国際会議出席	シンポジウム開催	法令集作成	蔵書目録作成	報告書作成	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初計画の通り、文化財国際情報の収集等を実施し、法令集等を刊行した。また、国際シンポジウムには多くの専門家の参加を得て、充実した講演内容とともに、会場を含めた活発な議論が行われた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	国際会議への参加や国際シンポジウム開催等を通じて、専門家間の交流や情報交換を推進できている。次年度においては、さらに多くの会議等に参加するとともに、文化財保護制度に関する海外調査等を行っていく予定である。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5211
（様式 1）

業務実績書

研 No. 43

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	東アジア諸国文化遺産保存修復協力（(2)-①-ア）

【事業概要】
国際共同研究を通じて東アジア諸国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成することを目的として、敦煌莫高窟壁画及び陝西省墳墓壁画をはじめとする中国の文化遺産の保存修復のための共同研究を実施し、人材養成に協力する。また、モンゴルの文化財保存修復事業に協力する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	岡田健（保存修復科学センター）

【スタッフ】
川野邊　渉、友田正彦、秋枝ユミイザベル、佐藤　桂（以上、文化遺産国際協力センター）、渡辺真樹子、高林弘実、津村宏臣（以上、客員研究員）、早川泰弘、犬塚将英、吉田直人（以上、保存修復科学センター）、二神葉子、皿井　舞（以上、企画情報部）、高妻洋成、田村朋子、脇谷草一郎（以上、奈良文化財研究所）

【主な成果】
敦煌莫高窟及び陝西省墳墓壁画を対象とする共同研究を実施するため、中国側各機関との調整を行うと共に、実質的な調査研究活動に着手した。

【年度実績概要】
〈敦煌莫高窟壁画〉
1)第 5 期共同研究評価会議：9 月 4 日。本年度から第 6 期共同研究（5 カ年）を始めるに先立ち、敦煌研究院において第 5 期共同研究に対する評価会議を開催し、莫高窟第 285 窟壁画の調査研究について報告を行い、中国側外部評価委員 5 名から、高い評価を受け、さらに引き続き共同研究を継続することが推奨された。これをもとに、第 6 期共同研究実施のための合意書を作成し、敦煌研究院を通じて甘粛省文物局、中国国家文物局へ許可申請を提出した。
2)現地調査：2 月 12 日～21 日。第 285 窟の調査で残された天井部の調査に着手した。携帯型蛍光 X 線、顕微鏡等を用いた分析調査を実施した。
3)データベースの完成：サーバーの整備とデータ入力を進め、第 285 窟データベースの基本システムを完成した。
4)報告書の作成：東京文化財研究所と敦煌研究院両者共同の 2011 年度成果報告書を編集し、発行した。


敦煌莫高窟での調査

〈陝西墳墓壁画〉
1)現地視察：8 月。陝西省文化財保護の共同研究を行うため、彬県大仏寺、乾県乾陵等を視察して意見交換を行った。
2)共同研究合意書作成：墳墓壁画に関して、陝西省考古研究院との共同研究を実施するた、合意書を作成した。
3)試験的環境計測の実施：墳墓壁画についての記録保存と環境の測定・管理を実現するために、陝西省考古研究院と共同で乾陵章懐太子墓の内部に環境調査のデータロガーを設置し、試験的研究を開始した。

モンゴルへの文化財保存修復協力については別途受託事業の枠組みにて実施した。

【実績値】
データベースの完成　1 件（①）
報告書作成（②）
学会発表　2 回　（③、④）

【備考】
①莫高窟第 285 窟データベース（概説付）1 件
②『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究報告書 2011』　1 冊
③「敦煌莫高窟内の壁画の劣化に及ぼす塩の影響に関する研究－外界気象条件の変化、上下層窟を考慮した窟内温湿度環境の解析－」（長谷隆秀、鉾井修一、岡田健、小椋大輔、宇野朋子）平成 23 年度日本建築学会近畿支部研究発表会
④「第 285 窟南壁龕びの彩色技法」（井上優子、崔強、渡辺真樹子、岡田健）日本文化財科学会第 28 回大会

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5211

自己点検評価調書

研 No. 43

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	データベース構築	報告書作成	学会発表			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	敦煌壁画の保護に関する共同研究では、第 5 期の研究実績を高く評価され、この共同研究をさらに継続発展させることが期待されている。第 6 期の 1 年目として、文化財研究に必要な歴史研究（美術史）、保存科学、修復技術、環境工学、文化財資料学という全ての領域の専門家が参加して、現場での作業を通じ、前期以上に総合的研究の実現を目指し、着実に成果をあげている。陝西墳墓壁画の研究にも同じメンバーを投入し、発掘現場における記録保存方法について着実に作業を開始した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	前年度末に東日本大震災が発生し、研究業務に大きな負担をきたす被災文化財等レスキュー事業に参加して重要な役割を果たしつつ、夏季以降日程を調整し、敦煌壁画の保護に関する第 6 期の日中共同研究、および陝西省文化財の中から墳墓壁画の保護に関する共同研究を順調に立ち上げることができた。日中両国が積極的に 30 歳代、40 歳代の若手・中堅研究者を参加させることにより、将来的展望をもった共同研究を作ろうとしている。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5212-1
（様式 1）

業務実績書

研№44

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	東南アジア諸国文化遺産保存修復協力（(2)-①-イ）

【事業概要】
東南アジア諸国においては、文化遺産の保存修復に関する国際協力や域内連携の動きが近年活発化しているが、なお多くの文化遺産を抱え、国ごとの保護体制に関するレベルの差も大きい。このため、当該地域における保存修復事業への協力およびこれに関する調査研究の実施を通じて文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存計画研究室長　友田正彦

【スタッフ】
川野邊　渉、秋枝ユミイザベル、佐藤桂、岡村知明、鉾井修一、柏谷博之（以上、文化遺産国際協力センター）
朽津信明、森井順之（以上、保存修復科学センター）、二神葉子（企画情報部）

【主な成果】
カンボジア、タイを対象とする共同研究およびインドネシアでの協力事業を実施するため、各国の関係各機関との調整を行うとともに、カンボジアにおいて実質的な調査研究活動に着手した。

【年度実績概要】
＜カンボジア関係＞
1）現地調査 1：6 月 6 日～12 日、アンコール遺跡群タ・ネイ遺跡において、石造遺跡の微生物被害に関する調査を実施した。具体的には、環境条件と着生する地衣類・蘚苔類・藻類などの種類との関係を明らかにし、これらの生物が石材劣化に及ぼす影響についての研究調査を継続的に行っている。また、6 月 8 日～9 日にシエムレアプで開催されたアンコール遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）技術会議に参加し、上記調査に関する報告を行った。
2）現地調査 2：12 月 2 日～11 日、タ・ネイ遺跡において、日本・韓国・イタリアから微生物分類額や生物劣化の専門家も招いて上記に続く現地調査を実施し、乾季における状況の観察や微生物種同定のためのサンプル採取等を行った。同 12 日には ICC 年次総会に出席したほか、17 日までプレア・ヴィヒア遺跡を含む国内遺跡の現状調査、西トップ遺跡における今後の協力に向けた奈文研担当者との現地協議等を行った。
3）合意書更新：12 月 13 日、アプサラ機構本部にて、同機構ブン・ナリット総裁、東文研亀井所長、奈文研井上副所長出席のもと、三者による 2015 年度までの共同研究に関する合意書に調印した。


タ・ネイ遺跡での生物種と環境との関連に関する調査

＜タイ関係＞
1）合意書更新：2011 年 11 月、タイ文化省芸術局との間で、2016 年 3 月までの共同研究協力に関する覚書を更新した。
2）専門家招聘：2012 年 1 月 30 日から 2 月 4 日まで、Chaiyanand Busayarat（アユタヤ歴史公園部長）、Saneh Mahaphol（タイ国立博物館保存担当）の両氏を招聘し、国内の煉瓦造遺跡保存修復や文化財防災対策等に関する見学および意見交換を行った。

＜インドネシア関係＞
1）パダン調査および協議：11 月 15 日～21 日、パダン被災文化遺産復興支援に関し、ジャカルタにおけるインドネシア歴史考古局との打合せ、およびスマトラ島パダン市等での現地調査を実施した。
2）専門家招聘：上記タイ人専門家招聘にあわせ、Soni Prasetia Wibawa 氏（セラン文化遺産保護事務所）を招聘し、同様の見学および意見交換を行った。

以上の今年度活動内容については成果報告書にまとめ、刊行した。このほか、前年度に文化庁委託事業としてインドネシア西スマトラ州パダン市において実施したワークショップの成果をインドネシア側に還元するため、インドネシア語の報告書を刊行した。

【実績値】
報告書作成　2 冊（①、②）

【備考】
①　東南アジア諸国文化遺産保存修復協力　平成 23 年度成果報告書　2012.3
②　Laporan Workshop Mengenai Rekonstruksi Warisan Budaya Bersejarah Kota Padang（パダン町並み保存ワークショップ報告書・インドネシア語）2011.12

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5212-1

自己点検評価調書

研 No. 44

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	報告書作成					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	カンボジアおよびタイとの間で協力合意書を更新し、今後の共同研究継続に向けた条件整備を行った。カンボジアにおける調査は順調であるが、タイとの間では東日本大震災やタイ水害の影響により当初予定した招聘や派遣が行えないなどの状況も生じたが、インドネシアでは他の受託事業とも連携して専門家交流の効果を上げることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	カンボジアにおいては奈良文化財研究所も含めた三者合意の枠組みが新たに形成され、今後は西トップ遺跡を含めた協力の場をさらに拡げていきたいと考えている。タイ、インドネシアほか、域内諸国における建築学や保存科学分野での調査研究等を行いつつ、技術移転や連携強化の実を挙げていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　5212-2

業務実績書

研 No. 45

中期計画の項目	5. 文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査（(2)－①－イ）

【事業概要】
東南アジア地域における文化財保存修復協力事業及び調査研究等を実施する。特にカンボジア・アンコール遺跡群（西トップ寺院遺跡等）、ベトナム・タンロン皇城遺跡等において考古学的、建築史的、保存科学的調査を実施する。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	副所長　井上和人 国際遺跡研究室長　杉山　洋

【スタッフ】
井上和人[副所長]、杉山洋、石村智、田代亜紀子、佐藤由似［以上、企画調整部]、高妻洋成、脇谷草一郎、田村朋美[以上、埋蔵文化財センター]

【主な成果】
西トップ遺跡に関し、今年度より新たな第三期中期計画を開始した。今次の計画の中心となるのが修復計画である。従来から検討してきた修復計画をさらに実際的なものにするとともに、国際調整委員会で計画についての発表をおこなった。
タンロン皇城遺跡に関しては、昨年度に引き続き発掘現場における発掘技術研修を実施した。木製品の保存科学的処理については、担当者 2 人を招聘して、奈良文化財研究所の機材を用いた研修をおこなった。

【年度実績概要】
本年度より研究所第三次中期五ヶ年計画に合わせ、当該カンボジアプロジェクトにおいても第三期計画を開始した。年度当初から覚書き調印に向けての準備作業に取りかかり、12 月 14 日に現地シエムリアップの APSARA 本部にて、ブン・ナリット APSARA 事務局長と、亀井東京文化財研究所所長、井上奈良文化財研究所副所長の間で調印式を行った。
本年度は向こう五ヶ年間に行う西トップ遺跡の調査修復作業の準備作業を中心に行った。現地事務所を整備するとともに、研究補佐員 1 名が現地駐在として赴任し、機材の準備や APSARA をはじめとする関係当局との調整作業を行った。
6 月 18～19 日、12 月 12～13 日に開催された国際調整委員会では、西トップ遺跡の調査成果と今後の修復計画を発表した。これに先立ち 12 月 9 日にはユネスコ・アドホック委員 4 名の現地視察があり、指導助言を受けた。こうした経過を経て、APSARA に修復計画書を提出し、2 月からは現場事務所の建設に着手し、3 月 8 日は所長臨席の上、修復開始式典を挙行した。
招聘事業としては、若手研究者 2 名を 3 月 20～29 日の 10 日間招聘した。
タンロン皇城遺跡では 5 月 16～26 日に現場の発掘技術研修を行った。こうした研修成果を受けて、1 月 6 日にハノイ社会科学院において共同成果発表会を行った。



西トップ遺跡の現状



タンロン皇城遺跡の発掘技術研修

【実績値】
発表件数：2 件　①～②
調査研究刊行物　成果発表会に向けて、成果報告書を刊行③
小冊子発行：2 冊④～⑤

【備考】
①杉山洋「西トップ遺跡の調査と修復」アンコール遺跡国際調整会議 2011.6.18
②佐藤由似「カンボジア・クランコー遺跡の調査」東南アジア考古学学会 2011.11.26
③西トップ遺跡調査報告書　英語版『Western Prasat Top Site Archaeological Survey：Report on Joint Research for the Protection of the Angkor Historic Site』2012.3
④ニュースレター　第 4 号　2011.10
⑤ニュースレター　第 5 号　2012.2

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　5212-2

自己点検評価調書

研 No. 45

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
　カンボジアの文化復興に資するという適時性に倣った事業展開になっている。また今後の修復への発展的な展開を計画しており、発展性の面でも評価されると考えている。さらに西トップ遺跡では 2001 年から計画的に調査を行っており、継続性の点でも評価できると考える。

2．定量的評価

観点	論文件数	発表件数				
判定	A	A				

備考
　本年度はまず昨年度出版した報告書の英語版を作成するとともに、西トップ遺跡ニュースレターの２回の刊行を行い、論文数等で当初目標を達成できていると考える。また、国際調整委員会での発表を行うとともに、東南アジア考古学会における学会発表も行い、成果の公表に努めた。
　タンロン皇城遺跡の保存に関しては、2012 年 1 月 6 日に現地ハノイで行った共同成果発表会での発表等、現地への成果の還元と自在育成に努めた。よって定量的な観点の評価も順調であると判断した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	西トップ遺跡の調査修復事業は、文化復興を進めるカンボジアへの国際文化協力として、適時性を有するとともに、今後の修復に向けた事業の開始という発展性も有している。今後 5 年間をかけて調査修復を継続する予定であり、継続性も担保されている。 タンロン皇城遺跡の保存に関しても、世界遺産登録を受けた遺跡への文化協力として適時性を有するとともに、今後周辺地域の発掘調査への貢献という意味で発展性を有している。来年度以降も調査継続が決定しており継続性も保証されている。 以上の結果から総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の予定とおり遂行したことから、当事業は順調であると判定した。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5213
（様式 1）

業務実績書

研№46

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（(2)-①-ウ）

【事業概要】
西アジア諸国等の文化財の保護・保存修復に関する協力・支援事業の一環として、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド、コーカサス）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
山内和也、有村　誠、影山悦子、島津美子、邊牟木尚美、鈴木　環、安倍雅史、中村　寛、近藤　洋（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、谷口陽子、津村宏臣、藤澤　明、伏屋智美、末森　薫、松田泰典、山藤正敏、渡抜由季（以上、客員研究員）、杉山　洋、森本　晋、石村　智、脇谷草一郎、田村朋美、田代亜紀子（以上、奈良文化財研究所）

【主な成果】
アフガニスタン：バーミヤーン遺跡保存事業に関する専門家会議の開催・出席、報告書の作成・出版
西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力：トルコ、タジキスタン、インド、中央アジア諸国、エジプト

【年度実績概要】
1. アフガニスタン
1−1. バーミヤーン遺跡保存のための専門家会議の開催（12 月 6 日～8 日、東京、ユネスコと共催、出席者 5 名）。バーミヤーン遺跡の保存に携わる行政官・専門家（アフガニスタンより 6 名、イクロム、イタリアより各 1 名）を招聘し、各国が行う保護活動および人材育成の成果を共有し、今後の保護活動の計画を議論した。
1−2. 国際シンポジウム「世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」（12 月 9 日［東京］、11 日［京都］）を開催し、一般にむけた事業成果報告を行った。
1−3.『アフガニスタン文化遺産調査資料集』別冊第 4 巻、概報第 6 巻（英語）の出版：備考欄①、②
2. イラク
イラク国立博物館より保存修復家 1 名をアルメニアに招へいし、金属製品の保存修復に関する人材育成を実施する予定であったが、諸般の事情により招へいができなかったため、次年度に延期して実施する予定である。
3. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等
・トルコ：カッパドキア石窟壁画の保存修復（ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金）の実施にむけた計画の策定。
・インド：アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業の実施、報告書の出版：備考欄⑥。インド考古局保存修復専門家 1 名の招聘、及び「アジャンター遺跡の保存修復にむけた専門家会議 2011」の開催（7 月 27 日）。
・タジキスタン：国立古代博物館所蔵の壁画片の保存修復及び文化財専門家の人材育成・技術移転に関する協力の実施。報告書の出版：備考欄③、④
・中央アジア：中央アジア各国における考古遺跡の保存とドキュメンテーションに関する協力の実施。文化遺産のドキュメンテーションに関するワークショップ（10 月／2 月、キルギス共和国）の実施。（文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」と連携。）
遺跡の地下探査に関するワークショップ（9 月～10 月、カザフスタン）、測量に関するワークショップ（10 月、キルギス共和国）の実施。（ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金「シルクロード世界遺産登録にむけた支援事業」と連携。）
・コーカサス：アルメニア国立歴史博物館における考古資料の保存修復に関する協力の実施。考古青銅遺物の保存修復に関するワークショップ（1 月）の実施。（文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「コーカサス諸国等における文化遺産保護に関する拠点交流事業」と連携。）
・エジプト：JICA 事業「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」への協力の実施。
4. 国際会議への参加
「”Second Meeting of the Coordinationg Committee on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads” International Conference」（5 月 3-6 日、アシュハバード）／「”Expert Members Meeting of the Coordination Committee, Silk Roads World Heritage Serial and Transnational Nomination”」（3 月 22-23 日、タシュケント）

【実績値】
招へい者数 19 名、職員派遣数 39 名、発表件数 10 件、ワークショップ参加者数 42 名、報告書作成：6 件（①～⑥）

【備考】
①『バーミヤーン遺跡資料集 1　バーミヤーン谷中心部の文化的景観：1970 年代』2012.3.1　②『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2009-2010 -9th & 10th Mission-』2012.3　③『タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイヴ　カフカハ遺跡群の図面と出土品（土器と木彫）』2011.6.1　④『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復　2010 年度（第 8 次～第 10 次ミッション）』　⑤『Report on the Archaeological Investigations of Ajina Tepa』2012.2　⑥『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業－第 2 窟、9 窟壁画のデジタルドキュメンテーション』2012.3.1

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5213

自己点検評価調書

研 No. 46

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	招へい者数	職員派遣数	報告書作成数	発表件数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	アフガニスタン等に関しては、治安等の問題を考慮し、日本で専門家会議とシンポジウムを実施するなど、継続的な支援を実施している。着実に成果が上がっているとともに、相手国からも高い評価を受けている。また、西アジア周辺諸国については、相手国のニーズを踏まえ、人材育成・技術移転を核として、文化遺産の保護に係る協力事業を適切かつ継続して実施している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5214

業務実績書

研 No. 47

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	文化財保存修復手法の国際的研究（(2)-①-エ）

【事業概要】
文化財の保存修復に関する国際協力を進めるためには、それぞれの文化財を形作る素材、それを現地で保存修復しているこれまでの手法に関して十分に理解しておく必要がある。
本研究では、保存修復手法に関わる様々なテーマを設定し、その問題に関する国内外の専門家を招へいして国際文化財保存修復研究会を実施することにより、これらの情報を関係者で共有し、国際協力に資することを目的とする。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
加藤雅人、楠京子、山田祐子（以上、文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
「海外における日本の装こう修理技術利用に関する研究会」をテーマとして国際研究会を開催した。講演会および検討会の参加者は 31 名であった。またそれに付随して、文化財の修復に使用される日本の伝統的な製法による刷毛の製作工房の視察、調査を行った。

【年度実績概要】
「海外における日本の装こう修理技術利用に関する研究会」
・講演会および検討会
[場所]
東京文化財研究所　地下　会議室
[日時]
2012 年 2 月 15 日（水）
13:00-17:00　紙本文化財修復用刷毛製作工房視察
2012 年 2 月 16 日（木）
10:00-12:00　研究所内視察
13:30-13:45　開会の挨拶、趣旨説明
13:45-14:30　吉田博志　（株式会社　吉田商店）
14:30-13:15　Regina Belard　（フリーア&サックラー・ギャラリー）
15:30-16:30　Luis Crespo　（スペイン国立図書館）
16:30-17:15　意見交換会
17:15　閉会の挨拶
[参加者]
31 名
・調査および視察
[場所]
東京文化財研究所、小林刷毛製作所



伝統的刷毛製作所視察

【実績値】
研究会開催数 1 件（①）
報告書　1 冊
①The workshop: The Use of Techniques of Japanese Paper Conservation outside Japan
海外における日本の装潢修理技術利用に関する研究会

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5214

自己点検評価調書

研 No. 47

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	研究会開催数	報告書数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度の研究会のテーマは専門性が高いため、参加者は公募せず、関連各所への連絡により参加者を募集した。それにも関わらず、30 名以上の参加があり、本テーマの重要性、必要性の高さが示される結果となった。また、専門家の集まりであるため、行われた議論も密度が高く、実りの多いものとなった。以上の理由から A と判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	他の事業との兼ね合いから 2 月開催となったが、報告書を刊行することができた。以上のことから順調であると判断した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5311

業務実績書

研 No. 48

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	諸外国の文化財保護に係る人材育成（(3)）

【事業概要】
発展途上国においては、文化財の保護を担う人材が依然不足しており、その育成が緊急の課題になっている。文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて、文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に推進することにより、諸外国における文化財保護のための人材育成に協力する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存計画研究室長　友田正彦

【スタッフ】
川野邊　渉、山内和也、加藤雅人、有村　誠、影山悦子、秋枝ユミイザベル、邊牟木尚美、島津美子、鈴木　環、安倍雅史、山田裕子、楠　京子、佐藤　桂、境野飛鳥（以上、文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
2012 年 2 月 27 日～3 月 20 日の日程で敦煌研究院保護研究所の研究員 3 名を日本に招へいし、研修を行った。

【年度実績概要】

敦煌研究院研究員の招へい研修：2 月 27 日～3 月 20 日の日程で同研究院保護研究所の研究員 3 名を日本へ招へいし、研修を行った。資料室所属の丁淑君、孫勝利研究員（情報管理）の 2 名は、データベースの管理運営に関する研修と作業を行った。分析室所属の于宗仁研究員（分析）は、各種観測機器操作技術向上のための研修を行った。



招へい研究員の研修（同志社大学）

【実績値】
招へい研修開催　1 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5311

自己点検評価調書

研 No. 48

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	B	A
備考						

2．定量的評価

観点	研修実施					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	敦煌研究院研究員の招へい研修を実施し、技術移転を通じた人材育成に貢献することができた。一方、当初予定した専門家派遣による人材育成は諸般の事情から他の受託事業等の枠内で実施することとなった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	本プロジェクトは、文化遺産国際協力センターが実施する他の諸プロジェクトおよび受託事業等と連携しながら、特に人材育成・技術移転面での支援を行うことを主眼としているが、他プロジェクトにおける同種要素との性格分けについては一層の明確化が必要である。次年度はこの観点から、類似事業の統合による効率化を行う。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5331

業務実績書

研 No. 49

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力（(3)-③）

【事業概要】
ユネスコアジア文化センターが企画する研修事業に協力する。本年は集団研修「木造建造物の保存修復」（アジア太平洋諸国から 16 名）と個人研修「木造建造物の保存修復」（インドネシアから 3 名）の各事業に関して、研修の講師派遣、現地指導等、全面的に協力した。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	国際遺跡研究室長　杉山　洋

【スタッフ】
石村　智、田代亜紀子[以上、企画調整部]

【主な成果】
集団研修ではアジア太平洋諸国 16 ヶ国､16 名の研修生に対して､木造建造物の保存修復についての研修をおこなった。また個人研修ではインドネシア人専門家 3 名に対して、木造建造物の保存修復についての研修をおこなった。こうした研修を行なうことにより、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。

【年度実績概要】
本年度はユネスコアジア文化センター奈良事務所との共催で、集団研修 1 回と、個人研修 1 回をおこなった。
集団研修はアジア太平洋地域から 16 ヶ国、16 名の専門家が参加して、「木造建造物の保存修復」をテーマに、8 月 30 日～9 月 29 日の 31 日間の日程で実施した。このうち当研究所では、日本の建造物概説、文化財建造物保存政策概論、出土建築部材の見方、木造建造物の記録法、年輪年代学概論、臨地講義の講義を担当した。
個人研修はインドネシアから 3 名の専門家が参加して、「木造建造物の保存修復」をテーマに、7 月 5 日～8 月 4 日の 31 日間の日程で実施した。このうち当研究所では、日本の建造物概説、文化財建造物保存政策概論、出土建築部材の見方、木造建造物の記録法、年輪年代学概論、臨地講義の講義を担当した。


個人研修「日本の建造物概説」


集団研修「年輪年代学概論」

【実績値】
集団研修 1 回　アジア太平洋地域から 16 ヶ国、16 名の参加「木造建造物の保存修復」
8 月 30 日～9 月 29 日の 31 日間
担当講義：日本の建造物概説、文化財建造物保存政策概論、出土建築部材の見方、木造建造物の記録法、年輪年代学概論、臨地講義
個人研修 1 回　インドネシアから 3 名の参加「木造建造物の保存修復」
7 月 5 日～8 月 4 日の 31 日間
担当講義：日本の建造物概説、文化財建造物保存政策概論、出土建築部材の見方、木造建造物の記録法、年輪年代学概論、臨地講義

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　5331

自己点検評価調書

研 No. 49

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
近年諸外国からの文化財保存技術についての研修依頼が増加する傾向にあり、国際協力機構やユネスコアジア文化センターからの研修依頼に対して、適時迅速に対応しており、適時性はＡと評価した。
また、こうした研修を通して相手国側の文化財保護機関との人的ネットワークを構築することができ、事後の研究面における協力関係の発展という点でも意義が大きく、発展性もＡと評価した。
さらに当研究所は、ユネスコアジア文化センター奈良事務所の発足以来、文化遺産の保存、特に埋蔵文化財と建造物に関する保存の研修への協力を継続していることから、継続性もＡと評価した。

2．定量的評価

観点	研修回数	研修期間				
判定	A	A				

備考
研修回数については、当初計画された研修に対して的確に対応し、回数も予定通りであった。その内訳は集団研修、個人研修各 1 回であり、多様な要望に応えるのに十分な回数であったので、研修回数はＡと評価した。
また研修期間については、当初計画された研修に対して的確に対応し、期間も予定通りであった。その内訳は集団研修、個人研修ともに 31 日間であり、必要な研修内容を伝えるのに十分な日数であったので、研修期間もＡと評価した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業はその適時性・発展性・継続性のいずれの観点においても十分な成果を達成しており、さらに事業内容においても研修回数・研修期間ともに十分な成果を達成していることから、総合的評価においてＡと判定した。 次年度計画については、本年度の内容を踏まえ、研修実施機関ともよく協議しつつ、研修の質的な向上に努める予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本事業は中期計画における達成目標に照らしても順調に事業を遂行しており、その適時性・発展性・継続性のいずれの観点においても十分な成果を達成しており、さらに事業内容においても研修回数・研修期間ともに当初予定通りの成果を達成していることから、順調に実施されていると評価した。 今後は、本年度の内容を踏まえ、中期計画の目標を達成するのに必要な課題を検討しながら、その目標達成に努めることとしたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　アジア太平洋無形文化遺産研究センター　　処理番号　5411

業務実績書

研 No. 50

中期計画の項目	5 文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	アジア太平洋無形文化遺産研究センターの設置、およびアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（4）

【事業概要】
アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

【担当部課】	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	【事業責任者】	所長　藤井知昭

【スタッフ】
藤井知昭（所長）、大貫美佐子（副所長）、松本正典(総務担当室長)、松山直子(アソシエイトフェロー)、藤沢仁子(アソシエイトフェロー)、児玉茂昭(アソシエイトフェロー)、淑瑠ラフマン(研究補佐員)、堀田富美(研究補佐員)、赤澤　明(堺市博物館学芸課参事)、廣瀬香代子(堺市博物館学芸課主幹)、徐　素娟(堺市博物館学芸課非常勤職員)

【主な成果】
10 月にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、文化庁受託事業「平成 23 年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」および文部科学省受託事業「日本／ユネスコ　パートナーシップ事業」を実施した。

【年度実績概要】

・センター設置
23 年 3 月 29 日(火)に堺市との協定書の調印式を行い、23 年 4 月に設置準備室設置、10 月にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置した。10 月 3 日(月)にアジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会及び開設記念式典、10 月 4 日(火)に開設記念シンポジウム「危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える」を開催した。

・ウェブサイト公開
アジア太平洋無形文化遺産研究センターのウェブサイト(http://www.irci.jp/)を作成し、12 月 16 日より公開した。

・韓国及び中国の無形センター開設記念式典出席
韓国アジア太平洋地域無形文化遺産国際情報とネットワークセンター(ichcap)の開設記念式典(11 月 28 日)に藤井知昭、松本正典、廣瀬香代子が出席、及び中国アジア太平洋地域非物質遺産国際訓練センター(CRIHAP)の開設記念式典(24 年 2 月 22 日)に淑瑠ラフマン、赤澤　明が出席した。

・調査研究
受託事業の実績について詳しくは、研 No.50-1、50-2 を参照。

・資料収集
センターの調査研究資料の充実を図るため、日本国内において大学、地方公共団体等に働きかけ、無形文化遺産関連資料の収集に取り組んだ。



アジア太平洋無形文化遺産研究センター外観

【実績値】
開設記念式典　参加者数 70 人
シンポジウム「危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える」　参加者数 250 人
ウェブサイトアクセス件数　　1,838 件（12 月 16 日～24 年 3 月 31 日のユーザーセッション数）
資料収集数　　書籍等資料　450 点　映像資料　38 点

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　アジア太平洋無形文化遺産研究センター　　処理番号　5411

自己点検評価調書

研 No. 50

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	B	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	開設記念式典参加者数	シンポジウム参加者数	ウェブサイトアクセス件数	資料収集数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、センターの業務を開始することができた。23年 10 月の開所に向け、事務所や固定電話・インターネット・電気回線工事を 4 月中に終了する予定であったが、一部が遅れて 9 月以降に全ての工事等が終了した。後半は予定通りの運営ができたため、来年度以降はその点は十分に改良できると思う。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、センターの業務を開始することができた。事務所開所工事が予定より時間がかかったため、運営に必要な事務所の機能が 9 月以降となったが、それ以降は効率よく運営できた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6111

業務実績書

研 No. 51

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実（(1) －①）

【事業概要】
　コンピュータウィルスをはじめとする様々な脅威から研究所の情報を守り、正確な情報を発信して行くため、ネットワークのセキュリティを強化する。また、文化財情報の電子化によるデータベース及びホームページに掲載された情報の所内外への提供を推進するため、サーバ機器・ネットワークといった情報基盤システムの整備・充実を行う。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	課長　田中 康成

【スタッフ】
渡　勝弥（文化財情報係長）他１名

【主な成果】
　基幹ネットワークシステムの更新及びウィルス対策ソフトを更新することによりセキュリティの強化を図った。また、サーバ及び情報端末をネットワークに接続することにより情報基盤システムの整備・充実を行った。

【年度実績概要】
基幹ネットワークシステムを更新することによって、情報伝達の効率化・高速化及びセキュリティの強化を行った。また、最新のウィルス対策ソフトを導入することにより、ネットワークシステムのセキュリティ強化を行った。
新規サーバ及び各研究室の情報端末をネットワークに接続することにより、情報基盤システムの整備・充実を行った。

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6111

自己点検評価調書

研 No. 51

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：ネットワーク機器の更新及び最新のウィルス対策を行った。
効率性：ネットワーク機器の更新によりセキュリティ強化を行った。
継続性：不具合なく適切なネットワーク環境を維持した。
正確性：情報漏洩・改竄、ネットワークを介しての攻撃は皆無であった。

2．定量的評価

観点						
判定						

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	基幹ネットワークシステムの更新と最新のウィルス対策ソフトを導入することにより、ネットワークシステムのセキュリティ強化を行った。また、サーバ、情報端末のネットワーク接続を行うことにより、情報基盤システムの整備・充実を行った。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ネットワーク機器を更新したことにより、高速化とセキュリティ強化が実現可能となった。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6112
（様式 1）

業務実績書

研 No. 52

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化財情報基盤の整備（(1)-①）

【事業概要】
文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図り、システム面から文化財に関する専門的アーカイブの拡充、データベースの充実を支援する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】
田中　淳，津田徹英，塩谷　純，山梨絵美子，綿田　稔，江村知子，小林達朗，皿井　舞，城野誠治，中村節子，中村明子，井上さやか，鳥光美佳子（以上企画情報部）
広報委員（LAN）：川野邊　渉　各部門 LAN 担当：崎部　剛（研究支援推進部），綿田　稔，（企画情報部），飯島　満（無形文化遺産部），森井順之（保存修復科学センター），加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施するとともに、リモートアクセスが可能な VPN を導入し、利便性を向上させた。また、広報関係ではホームページのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。

【年度実績概要】
・ネットワーク機器の更新
　平成 23 年度にハードウェア保守の期限が切れるネットワーク機器を更新した。具体的には、プロキシサーバ、所内 DNS/Web サーバおよびネットワーク/サーバ機器管理システムである。このうち、プロキシサーバの更新は当初計画どおりの実施であるが、節約により、保守期限切れが迫っていた後 2 者についても更新を行った。
・ネットワーク機器の新設
　所内でのみ使用が可能であったグループウェア（ガルーン）や所内のネットワークハードディスクにあるファイルについて、リモートアクセスを可能とするために、セキュリティが確保された形での接続が可能な VPN システムを導入した。これにより、出張等で所外にいる際にもグループウェアによる連絡が可能となった。
・ネットワークセキュリティの向上
　職員が使用しているコンピュータ用のウィルス駆除ソフトウェアについて、従来使われていたものに代えて Kaspersky Anti-Virus および ESET NOD32 の 2 種類のソフトウェアのライセンスを、それぞれ所内で使用されているコンピュータ台数の半数分ずつ購入し、全てのコンピュータが一斉に同一の不具合を引き起こさないよう工夫した。

【実績値】
プロキシサーバ更新　1 件
所内 DNS/Web サーバ更新　1 件
ネットワーク/サーバ危機管理システム更新　1 件
リモートアクセスシステム　1 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6112

自己点検評価調書

研 No. 52

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	情報システムの整備についてはネットワーク環境の更新に伴い、セキュリティの強化及び高速化が図られた結果、適時性、効率性、継続性、正確性が向上したと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	情報システムの整備についてはセキュリティの強化及び接続速度の高速化を図るに当たり、現在のユーザ環境を維持しつつ、より効率的な運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新を進めた。来年度以降についても保守期限切れを迎えるネットワーク関係の機器の更新を実施するが、ユーザの意見を取り入れて費用対効果の高い機器の導入とその安定的な運用に努める。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 6121
（様式 1）

業務実績書

研 No. 53

中期計画の項目	6. 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	専門的アーカイブの充実（資料閲覧室運営）((1)-②)

【事業概要】
文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりを踏まえ、1) 受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、2) 閲覧室で月・水・金の週 3 回の一般利用者へ所蔵資料の提供、3) データベースの作成、検索システムの構築・ホームページ上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図る。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財ｱｰｶｲﾌﾞｽﾞ研究室長 津田徹英

【スタッフ】
田中　淳、山梨絵美子、二神葉子、塩谷　純、綿田　稔、小林達朗、江村知子、皿井　舞、中村節子、
橘川英規、井上さやか、中村明子、城野誠治、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

【主な成果】
1)公開用 SQL データの更新・運用
2)画像資料のデジタル化
3)近現代美術関係文献等のデータベース化
4)朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化

【年度実績概要】
1)資料閲覧室の運営：文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として、インターネット上での公開を目指して朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。また、劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌のデジタル画像化をすすめるとともに、国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。
2)画像情報室：他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。
企画情報部にて作成・更新中の 37 種データベース：1)所蔵和漢書(～10)、2)受入和漢書(11 年度分)、3)所蔵洋書、4)所蔵簡易図書、5)売立目録、6)所蔵美術館博物館収蔵目録、7)和雑誌誌名、8)所蔵洋雑誌誌名、9)所蔵中国雑誌誌名、10)所蔵韓国雑誌誌名、11)所蔵和雑誌巻号(～02)、12)所蔵洋雑誌巻号(～05)、13)所蔵和雑誌巻号(03 以降)、14)所蔵洋雑誌巻号(06 以降)、15)所蔵中国雑誌巻号、16)所蔵韓国雑誌巻号、17)所蔵地方公共団体刊行報告書、18)所蔵香取秀真資料関係、19)展覧会(02 まで)、20)展覧会(03 以降)、21)近現代作家名、22)近現代展覧会開催情報(35 以降)、23)写真原板、24)キャビネット写真、25)古美術文献目録(明治～65)、26)美術文献目録(35～07)、27)美術館博物館名、28)東京文化財研究所年表、29)美術研究総目次、30)撮影調査票、31)古美術展覧会開催情報(43 以降)、32)物故者記事、33)美術懇話会、34)開所記念展覧会出品目録、35)美術家美術関係者情報、36)画廊情報、37)美術史論壇、
インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中の 15 種データベース：1)美術関係図書、2)伝統芸能関係図書、3)保存修復関係図書、4)売立目録、5)展覧会カタログ、6)和雑誌、7)写真原板、8)美術家・美術関係者資料、9)画廊資料、10) 美術関係文献、11)『保存科学』所載文献、12)伝統芸能関係三雑誌所載文献、13)『美術研究』総目次、14)近現代美術展覧会開催情報、15)伝統楽器情報

【実績値】
通常フルカラー画像撮影件数 4,847 件、特殊画像撮影件数 1,239 件、デジタル画像撮影の全体に占める割合 100%、図書書受入数:和漢書 797 件.洋書 99 件,展覧会図録・報告書等 1,986 件,雑誌 1,817 件(受入総数 4,699 件),37 種の目録所在情報(作成件数 44,492 件,収録件数 1,017,912 件,公開件数 992,355 件),インターネットで公開中の目録累計数 15 種,資料閲覧室の利用状況:公開日総数 140 日・利用者年間合計 1,220 人、
山梨絵美子・中村節子「日本芸術の研究手法及び情報探索法」日本専門家ワークショップ 2012、国立国会図書館 2012.2.17

【備考】
所内イントラによる目録の公開　http://www2.tobunken.go.jp

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6121

自己点検評価調書

研 No. 53

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	文献資料受入件数	画像資料収集件数	データベース公開件数	閲覧者利用者数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	質の高い文化財に関する専門的アーカイブの拡充に努め、一般利用者への提供を行うべく、公開用 SQL データの更新・運用、画像資料のデジタル化、劣化が進む貴重書のデジタル画像化、近現代美術関係文献のデータベース化、インターネット上での公開を目指して朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化をすすめ、実施計画に従い遂行できたので、A と判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画に則り、文化財関連の図書等の文字資料およびアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、一般利用者へのそれらの提供、そのためのデータベースや検索システムの構築・運用を行い、あわせて、文化財アーカイブに必要不可欠である画像形成技術等の継続的な更新を行うことで、最先端の研究活動を支援することができた。次年度も、より質の高い専門的文化財アーカイブの充実を目指していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6122

（様式 1）

業務実績書

研№.54

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（(1)-②）

【事業概要】

無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。前中期計画（平成 17 年度終了）の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長　宮田繁幸

【スタッフ】

高桑いづみ、飯島　満、今石みぎわ、綿貫　潤、星野厚子（以上、無形文化遺産部）

【主な成果】

昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵ＳＰレコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認および媒体変換を行った。

【年度実績概要】

無形文化遺産部が推進した音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960 年代に放送された邦楽関連のテープ録音を中心に行った。この当時の放送録音は、放送局にも記録が保存されていないものが多いことから、その資料的な価値が近年再認識されつつあるもので、今年度はＣＤで 170 枚を作成した。特殊生成装置が必要な初期音盤（フランス・パテ社製 1911 年吹込み縦振動レコード）に関しては、東京文化財研究所が所蔵する 40 枚の内、15 枚（30 面）のデジタル化を行い、ＣＤ6 枚を作成した。また、媒体変換を完了した音声資料から、インデックス付与済みＣＤを 36 枚作成した。カセットテープに関しては、旧芸能部民俗芸能研究室所蔵テープ、及び寺事の現地録音を中心に内容確認を行い、リストを作成した。

このほか、無形文化財関連の作成ＤＶＤ423 枚を登録した。

【実績値】

作成資料［ＣＤ］　212 枚
　　［ＤＶＤ］423 枚

【備考】

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 6122

(様式 2)

自己点検評価調書

研 No. 54

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	資料作成数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新たに寄贈された資料を中心に、劣化が懸念される貴重なアナログ資料の媒体変換を行うとともに、デジタル化しただけでは一般の利用には供しがたい音声資料へのインデックス付与も着実に実施している。また、専門の研究者も少なく、これまで収集実績の乏しかった分野に加え、資料的な価値が再認識されつつある放送録音の資料整理も併せて遂行している。以上の状況を総合的に判断して、Ａと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	事業は、従来の水準を維持している。また、将来的なデータベース公開へ向けて、所蔵一覧の作成を着実に進めている。以上により、事業の進捗状況を順調と判定した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 6123

業務実績書

研 No. 55

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化財に関するデータベースの充実((1)－②)

【事業概要】
文化財情報の特性について具体的な資料の研究に基づいて検討を加え、それに最も適した電子化・情報化の方法を探り実際のデータベース入力を進める。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　難波洋三

【スタッフ】
森本　晋[企画調整部]

【主な成果】
文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表している。開発・改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、記載方法の標準化をすすめながらデータの充実を図った。

【年度実績概要】
1.　文化財情報電子化の研究
宝塚古墳公園、池上曽根史跡公園ほかで、発掘調査成果で得られた情報と遺跡公園での情報提示との関係を調査した。遺跡・遺物情報電子化の資料調査として、関連学会の中でも重要な CIPA、地球惑星科学連合に参加するとともに、地理情報システム学会、シンポジウム「人文科学とデータベース」において研究成果の発表をおこなった。

2.　文化財情報データベースの充実
遺跡、図書、写真、報告書抄録、航空写真、図面画像等のデータベースについてデータの入力・更新をおこなった。また、データベース検索システムの改良とともに、航空写真データベースの Unicode 化をおこなった。奈良文化財研究所所蔵資料の電子化に努め、特にガラス乾板、大判フィルム、航空写真画像、遺構実測図、遺構カードのデジタル化を進めた。

3.　遺跡 GIS 研究会の開催
第 16 回遺跡 GIS 研究会を 11 月 18 日、奈良文化財研究所講堂で開催。発表 4 件。

【実績値】
研究会開催件数:1 回、参加者数:34 名
研究発表件数:2 件①～②
データベース件数　平成 23 年度末　ただし（　）内は平成 22 年度末の値
全文 212,650（211,533）、木簡 149,724（148,733）、図書 211,397（228,524）、抄録 65,688（62,218）、
写真 369,706（276,965）、遺跡 462,042（439,700）、航空写真 1,299,667（1,246,696）、図面画像 61,783

【備考】
①森本晋「遺構情報モデルに基づくデータ取得と発掘調査プロセスの整合性」地理情報システム学会 2011.10.16
②森本晋「奈良文化財研究所におけるデータベース」公開シンポジウム「人文科学とデータベース」2012.1.7

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6123

自己点検評価調書

研 No. 55

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　奈良文化財研究所独自のデータベースを開発・整備して研究に資するとともに公開用データベースを充実させている。この点において、一般国民が求める情報を広く継続的に提供しており、情報の正確さを担保しつつ文化財情報電子化の研究を踏まえた質の向上に努めている。これにより上記諸観点を満たしている。

2．定量的評価

観点						
判定						

備考
　データベースの開発・整備に関しては、データ 1 件の調整に必要な時間・労力のばらつきが極めて大きいために定量的評価はおこなわない。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的評価の各観点において十分な水準を維持していることから総合的にＡと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各データベースにおいて、着実にデータの充実が進んでいる。新規データの入力だけではなく、既存のデータの更新も行い、さらに研究用に新規開発したデータベースへの入力も順調に開始した。全体として当初計画通りに進捗しているので順調と判定した。

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6131
（様式 1）

業務実績書

研 No. 56

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実（(1)－③）

【事業概要】
　文化財に関する資料・図書を計画的に収集・整理し、外部の研究者および一般の利用者に積極的に公開・提供するための方策を検討し、実施する。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中 康成

【スタッフ】
　渡　勝弥（文化財情報係長）ほか 7 名

【主な成果】
　遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集を行い、整理された資料をデータベースに蓄積してインターネットに公開した。

【年度実績概要】
図書等の収集・整理:
　遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集・整理を行なった。また、国立情報学研究所が構築しているオンライン共同分担目録方式による全国規模の総合目録データベース(NACSIS-CAT)への新規及び遡及入力の継続等、所外の利用者への情報提供も行なっている。
　図書資料以外では、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。

利用者サービス:
　歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物等を一般公開施設として広く利用に供している。遠隔地からの図書利用については、国立情報学研究所が行なっている NACSIS-ILL を通じて文献複写・現物貸借サービスを行なっている。

【実績値】
受入数:

購入図書	1,171 冊
寄贈図書	8,302 冊
雑誌	1,430 タイトル
写真	7,039 点

利用者サービス:

一般利用者数	634 人
利用冊数	4,067 冊
来館者複写件数	1,435 件

遠隔利用:

複写件数	1,744 件
貸出件数	121 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6131

自己点検評価調書

研 No. 56

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：刊行された図書資料等の収集・整理・公開を行った。
効率性：利用度の低い部屋を書庫として改修工事を行った。
継続性：図書資料等の収集・整理・公開を滞ることなく遂行した。

2．定量的評価

観点	資料の受入数	利用者数	複写件数	貸出件数		
判定	A	A	A	A		

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	利用頻度の低い部屋を書庫として改修工事を行い、書庫スペースの拡張を行った。書庫の狭隘化を解消するまでには到らないが、仮庁舎移転までの期間を維持できる見込みである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	利用者数、利用冊数、複写件数のいずれもが昨年度以上の実績を出しており、順調といえる。写真登録点数が大幅に減少しているが、写真のデジタル化が進み、ネガ等の登録が減少したものと思われる。 相互貸借については、昨年度実績が無いため比較検討はできないが、初年度の実績としては、問題の無いの件数ではないかと思われる。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6211

（様式 1）

業務実績書

研 No. 57

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（(2)-①）

【事業概要】

本プロジェクトは研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、および不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】

田中　淳，津田徹英，塩谷　純，山梨絵美子，綿田　稔，江村知子，小林達朗，皿井　舞，城野誠治，中村節子，中村明子，井上さやか，鳥光美佳子（以上企画情報部）

広報委員（概要）：岡田　健　各部門概要担当：安孫子卓史（研究支援推進部），江村知子（企画情報部），今石みぎわ、高桑いづみ（無形文化遺産部），犬塚将英（保存修復科学センター），友田正彦（文化遺産国際協力センター）

広報委員（年報）：田中　淳　各部門年報担当：崎部　剛（研究支援推進部），津田徹英（企画情報部），高桑いづみ（無形文化遺産部），早川典子（保存修復科学センター），山内和也（文化遺産国際協力センター）

【主な成果】

年報 2010 年度版、概要 2011 年度版を編集、発行した。また、東文研ニュースを年 4 回、東文研ニュースダイジェスト（英語）を年 2 回発行した。

【年度実績概要】

「年報」2010 年度版の刊行

2011 年 5 月 31 日付で年報を刊行した。2010 年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報担当者が原稿のとりまとめを行った。

「概要」2011 年度版の刊行

「概要」2011 年度版を刊行した。各ページの構成の決定や原稿のとりまとめについては、各部・センターの概要担当者が行った。

「東文研ニュース」の刊行

「東文研ニュース」を年 4 回発行した。基本的には、ホームページに掲載した活動報告から四半期ごとの記事を掲載しているが、掲載する記事は各部・センターで選択している。ページ数は固定せず原稿の多寡によって自由に構成し、記事の配置については会議や研究会と現地調査とがバランスよく並ぶようにして見た目の印象にも配慮した。このほか、東文研ニュースには、特定のトピックについてまとまった紹介を行うコラムや刊行物の案内、人事異動などを掲載している。また、「東文研ニュース」の英語版である「東文研ニュースダイジェスト」を年 2 回発行し、外国への情報発信にも努めた。

広報紙の配布先の拡大

東文研ニュースの配布先については、学芸員研修などの機会に各部・センターで新たな配布先を紹介してもらうなど増加に努めた。一方で、ウェブでの情報発信が主流になりつつなる現在の状況に鑑み、印刷部数については前年度より減らすことで費用の節減に努めた。

【実績値】

刊行物数　『東京文化財研究所年報』2010 年度版　1,000 部
『東京文化財研究所概要』2011 年度版　5,000 部
『東文研ニュース』第 45 号～48 号　各 4,500 部
『東文研ニュースダイジェスト』第 10 号・第 11 号　各 3,500 部

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6211

自己点検評価調書

研 No. 57

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点	刊行物数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東文研ニュース、Tobunken News Digest により、継続的、定期的に情報発信を行うことができた。東文研ニュース、東文研ニュースダイジェストの発行部数は前年度より減らしたが、情報発信は徐々にウェブが主流になりつつある昨今の事情を踏まえたことと、前年度までの印刷物について大量の在庫が存在していたことから、費用の節減を図った結果である。次年度以降は、概要、年報について前年度より前倒しで作業を進めることで、できるだけ早期の発行によりさらなる情報活用の促進に努めるとともに、費用対効果の向上に努める。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	概要、年報、ニュースの発行を順調に実施することができた。 次年度以降も、これらの媒体による情報発信を継続するとともに、より効果的な情報発信の方法について検討し、ホームページその他インターネットによる情報発信との連携にも努める。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6212
（様式 1）

業務実績書

研 No. 58

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	『平成 22 年版日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行（(2)-①）

【事業概要】
各年の美術活動と美術研究、批評の状況を記録するために、昭和 11 年以来刊行を続けている『日本美術年鑑』を年 1 冊刊行するとともに、昭和 7 年 1 月以来、日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術等に関わる研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノート等を掲載する『美術研究』を年 3 冊刊行する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子

【スタッフ】
田中　淳、二神葉子、津田徹英、塩谷　純、綿田　稔、小林達朗、皿井　舞、江村知子（以上、企画情報部）、中野照男、相澤正彦、三上　豊、吉田千鶴子、森下正昭（以上、企画情報部客員研究員）

【主な成果】
今年度は『平成 22 年版　日本美術年鑑』及び、『美術研究』404～406 号を刊行することができた。

【年度実績概要】
①『平成 22 年版　日本美術年鑑』　B5 版　479 ページ
2009（平成 21）年美術界年史、美術展覧会（企画展、作家展、団体展）、美術文献目録（定期刊行物所載文献、美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展））、物故者
②『美術研究』404 号
塚本麿充「皇帝の文物と北宋初期の開封（上）―啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について―」
塩谷　純「秋元洒汀と明治の日本画（一）」
崔　公鎬（稲葉真以訳）「ワンカットの写真に込められた近代工芸史の原風景」
皿井　舞「研究資料　京都・神光院蔵 木造薬師如来立像」
津田徹英「岩手・光林寺蔵 木造聖徳太子立像」
マシュー・P・マッケルウェイ（綿田稔訳）「書評　小島道裕『描かれた戦国の京都』」
③『美術研究』405 号　日韓共同シンポジウム特輯
田中　淳「特輯にあたって」
洪　善杓（中尾道子訳）「国史形美術史の栄辱―朝鮮後期絵画の解釈と評価の問題―」
田中　淳「創作と評価―萬鉄五郎《風船を持つ女》を中心に―」
綿田　稔「山水長巻考―雪舟の再評価にむけて―」
張　辰城（石附啓子訳）「愛情の誤謬―鄭敾に対する評価と叙述の問題―」
江村知子「江戸時代初期風俗画の表現世界」
文　貞姫（喜多恵美子訳）「石濤、近代における「個性」という評価の視線」
田中　淳「シンポジウム報告（日本会場）」
稲葉真以「シンポジウム報告（韓国会場）」
④『美術研究』406 号
塚本麿充「皇帝の文物と北宋初期の開封（下）―啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について―」
津田徹英「中世真宗の祖師先徳彫像の制作をめぐって」

【実績値】
『日本美術年鑑』刊行数　1 点　（①）
『美術研究』刊行数　　3 点　（②～④）
『日本美術年鑑』刊行部数　600 部　　配布部数　529 部
『美術研究』刊行部数　各 400 部　　配布部数　各 380 部

【備考】
①『平成 22 年版　日本美術年鑑』東京文化財研究所　2012.3
②『美術研究』404 号　東京文化財研究所　2011.8
③『美術研究』405 号　東京文化財研究所　2012.1
④『美術研究』406 号　東京文化財研究所　2012.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6212

自己点検評価調書

研 No. 58

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	刊行物件数	配布部数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『日本美術年鑑』は物故者目次の様式を改訂し、当該年度の物故者全ての名前と 2 行ほどの略歴を付した。東日本大震災の被災文化財救援活動のためプロジェクトメンバーの多くが長期間出張したが、従来どおり刊行することができた。また、『美術研究』においては、はじめて特輯を組んで前年度に開催した日韓共同シンポジウムの成果を公表するなど、誌面がより一層充実する傾向にあり、特にこの点は評価できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画にあげた実施状況は、順調である。次年度は、『日本美術年鑑』のウェブへのデータ公開の迅速化を図るとともに、同年鑑創刊以前のデータについても補完をめざしたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6213

（様式 1）

業務実績書

研№.59

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	『無形文化遺産研究報告』・『無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行（(2)-①）

【事業概要】

無形文化遺産部スタッフによる業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』及び民俗文化財保護行政担当者、無形民俗文化財保存関係者、研究者の参加を得て開催する無形民俗文化財研究協議会の事例報告・総合討議を内容とする『無形民俗文化財研究協議会報告書』を刊行する。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長　宮田繁幸

【スタッフ】

高桑いづみ、飯島　満、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、星野　紘、永井美和子、松山直子（以上、客員研究員）

【主な成果】

1）主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 6 号の刊行。

2）平成 23 年 12 月 16 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 6 回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。

【年度実績概要】

○『無形文化遺産研究報告』第 6 号を以下の内容で刊行した。

「岐路に立つ無形文化遺産保護条約」宮田繁幸、「韓国、中国の地域の伝統芸能の衰退と無形文化遺産保護施策」星野紘、「東アジアの無形文化財保護制度における伝統的工芸技術の登録状況―日本・中国・韓国の国家級一覧表から―」松山直子、「莚と莚織の技術―山口県下松市西谷を中心に―」今石みぎわ、「「特殊再生装置を要する音盤」パテー縦振動レコード」飯島満・永井美和子、「東大寺二月堂修二会（お水取り）をふり返る」橋本聖圓・佐藤道子・高桑いづみ

○「震災復興と無形文化―現地からの報告と提言―」をテーマとした『第 6 回無形民俗文化財研究協議会報告書』を以下の内容で刊行した。

I. 序にかえて（宮田繁幸）
II. 趣旨説明（今石みぎわ）
III. 現地からの報告と提言：
　1「東日本大震災を乗り越えて―沿岸部の民俗芸能　復興の現状」阿部武司
　2「津波と無形文化」川島秀一
　3「被災集落と神社祭礼について」森幸彦
　4「後方支援と三陸文化復興プロジェクト」小笠原晋
　5「震災と文化復興」
IV. 総合討議
V. 参考資料
VI. アンケート集計結果
VII. 参加者名簿

【実績値】

発行数　　2 件
発行部数　1,300 部（『無形文化遺産研究報告』600 部、『無形民俗文化財研究協議会報告書』700 部）

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6213

自己点検評価調書

研 No. 59

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	発行数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『無形文化遺産研究報告』: 無形文化遺産をめぐる論考や報告、資料紹介等、幅広い内容の報告書となった。本誌は、将来の無形文化遺産全般の保護行政や研究に資する報告書となることをめざしているが、その目的に適うものとなっている。 『無形民俗文化財研究協議会報告書』: 当研究所でおこなった無形民俗文化財に関する研究協議会の報告書で、会場での研究報告や総合討議の様相を掲載したものである。今後もこれまでの研究を踏まえながら、協議会をおこない、報告書を刊行する予定である。 以上を総合的に判断して、Ａと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	両誌ともに、計画通り、年 1 回の刊行がなされ、目的を順調に達成した。今後もこのペースの維持をめざす。

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 6214

（様式 1）

業務実績書

研 No. 60

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
プロジェクト名称	『保存科学』51 号の刊行（(2)-①）		
【事業概要】 保存修復科学センター・文化遺産国際協力センターで行われた文化財の保存・修復に関する調査・研究成果の公開を目的に、年 1 回研究論文集『保存科学』を刊行する。様々な文化財の科学的調査結果や基礎研究に関する論文、受託研究に関する研究報告・修復処置報告などを掲載する。また、より一層の研究成果の公開に努めるため、『保存科学』掲載論文の電子化を行い、インターネット上での公開を行う。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志
【スタッフ】 早川泰弘、岡田健（以上、保存修復科学センター）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター）、			
【主な成果】 今年度の投稿件数は 28 件であった。全投稿原稿に対して、査読委員による査読を実施し、報文 7 件、報告 20 件、計 27 件の掲載を決定した。版型 B5 版、総ページ数 300 頁、発行部数 650 部、関係諸機関に約 580 部配布。			
【年度実績概要】 保存修復科学センター長、副センター長、文化遺産国際協力センター長、東京国立博物館文化財保存修復課長・神庭信幸氏、東京藝術大学大学院美術研究科教授・稲葉政満氏の 5 名からなる編集委員会を編成した。今年度の投稿件数は 28 件。全投稿原稿に対して、査読委員（保存修復科学センターおよび文化遺産国際協力センターの正職員、編集委員、および編集委員会が任命した専門委員 2 名）による査読を実施し、報文 7 件、報告 20 件、計 27 件の掲載を決定した。 今年度は、これまで明文化されていなかった投稿規定、査読規定を編集委員会において作成し、明文化した。投稿規定・査読規定の正式な適用は来年度からとするが、今年度はその試用期間として、これらの規定に基づいた厳正な論文審査を行った。			
【実績値】 印刷部数　650 部 配布部数　約 580 部 本誌体裁 B5、総ページ数 300 頁			
【備考】 『保存科学』第 51 号			

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6214

自己点検評価調書

研 No. 60

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
　今回掲載した 27 本の報文・報告は、最新の調査や研究結果を公表するものであり、速報的な意味合いを持つものもある。全報文・報告について、査読委員による厳正な査読が行われており、掲載内容は一定レベル以上の水準を維持している。

2．定量的評価

観点	印刷部数	掲載論文数	印刷頁数			
判定	A	A	A			

備考
　掲載報文、報告数は計 27 本と多く、今年度の成果の充実ぶりを示すものである。印刷部数は 650 部と、国内外の多くの研究機関などに配布していることを反映している。また、各報文、報告は PDF 化し、インターネット上で公開しており、非常に好評である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	質の高い報文と報告が多く掲載され、刊行物として、またインターネットでの公開を通じて、国内外の研究者にとって重要な情報源として確立している。今後も現在の方法での公開を継続するが、インターネット公開に関しては、より使いやすい形を追求していきたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昭和 38 年度の第 1 号以来、確実に刊行を重ねており、今号で 51 号を数えた。調査研究の成果は公開すべきとの原則のもと、今後もこれまで以上の充実を目指していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215

（様式 1）

業務実績書

研 No. 61

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	第 34 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会報告書の刊行（(2)-①）

【事業概要】

平成 23 年 1 月 19 日（水）～21 日(金)に、東京国立博物館平成館において開催した、第 34 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「「復興」と文化遺産」について、報告書を刊行する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存計画研究室長　友田正彦

【スタッフ】

川野邊　渉、山内和也、佐藤　桂、新免歳靖（以上、文化遺産国際協力センター）

【主な成果】

上記研究集会に係る報告書（日本語および英語の各国語版）を編集・刊行した。

【年度実績概要】

研究集会に参加した、11 ヶ国、15 名の講演者および議長に対して、事前提出された原稿、当日講演のテープ起こし、講演内容に基づく新規書き下ろし論文の 3 種から望ましい形態を選択してもらい、掲載原稿の準備を依頼した。必要な原稿が提出された段階で、日本語は英語に、英語は日本語にそれぞれ翻訳を行い、著者との間で校正作業を進めた。

報告書は A4 版、日本語版 182 頁、英語版 198 頁、各 300 部を作成した。

【実績値】

報告書作成　2 冊（①、②）

【備考】

①第 34 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「復興」と文化遺産 ―災害、紛争、社会変化―2012.3

②34th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property, “Reconstruction Process” and Cultural Heritage - Disaster, Conflict, and Social Changes-2012.3

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6215

自己点検評価調書

研 No. 61

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	報告書作成					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初予定の通り、国際シンポジウムの報告書を刊行し、内容的にも充実したものとなった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財保存に関する情報発信として、シンポジウムの成果をさらに進化させた形で出版物にまとめることで、より広く国内外各層に伝達することが可能である。とくに今回は、シンポジウム開催後 2 カ月で東日本大震災が発生したため、報告書の作成にあたっても、一部にこの状況変化を反映させてある。テーマも以前に増してタイムリーなものとなったため、広範に活用されることが期待できる。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6216

（様式 1）

業務実績書

研 No. 62

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行（(2) －①）

【事業概要】
文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を発行する。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

【主な成果】
紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、合計 10 点を刊行した。

【年度実績概要】



紀要、概要

（紀要等）　『奈良文化財研究所紀要 2011』2011.6 月刊、3,000 部
『奈良文化財研究所概要 2011』2011.8 月刊、3,000 部
（ニュース）『奈文研ニュース』NO.41,2011. 6 月刊,3,000 部
『奈文研ニュース』NO.42,2011. 9 月刊,3,000 部
『奈文研ニュース』NO.43,2011.12 月刊,3,000 部
『奈文研ニュース』NO.44,2012. 3 月刊,3,000 部
『埋蔵文化財ニュース』NO.146
（環境考古学 10　魚類標本リスト）、2012.2 月刊、2,500 部
『埋蔵文化財ニュース』NO.147（マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた木造神像彫刻の非破壊年輪年代調査（1)」）、2012.3 月刊、2,500 部
『埋蔵文化財ニュース』NO.148（東日本大震災被災文化財レスキュー）、2012.3 月刊、3,000 部、
『埋蔵文化財ニュース』NO.149（2010 年度埋蔵文化財関係統計資料）、2012.3 月刊、2,500 部

【実績値】
紀要 1 点、概要 1 点、奈文研ニュース 4 号、埋蔵文化財ニュース 4 号、計 4 種 10 点を順調に刊行できた。

【備考】
奈良文化財研究所リーフレットの刊行

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6216

自己点検評価調書

研 No. 62

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：調査研究の成果を適時に刊行できた。
継続性：継続的な定期刊行物として刊行できた。
正確性：調査報告としての正確性は十分であった。

2．定量的評価

観点	刊行数					
判定	A					

備考
計画通りの刊行ができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定期刊行物は、研究成果を公表するものとして順調に発行できたことでＡと判定した。 次年度も、本年度にまして、多様な研究成果、特に継続的な調査研究の成果を、専門家だけでなく、一般向けにも分かりやすい形での刊行に努めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	紀要、概要、ニュースの刊行は順調に実施出来た。次年度は、公表方法の検討も含めて刊行の充実を図る。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6221
（様式 1）

業務実績書

研 No. 63

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平成 23 年度オープンレクチャー（(2)-②）

【事業概要】
企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的とする。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長　田中　淳

【スタッフ】
山梨絵美子、津田徹英、二神葉子、塩谷　純、綿田　稔、小林達朗、江村知子、皿井　舞（以上、企画情報部）

【主な成果】
第 45 回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した（参加者数：236 人、アンケートによる満足度：89%（回収率：80%）。

【年度実績概要】
企画情報部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座を毎年秋に開催しており、本年で 44 回目を迎えた。昨年度同様、今年度も金曜日と土曜日の午後、2 日間連続で開講し、聴講者の便宜を図るように努めた。今回から「モノ／イメージとの対話」をテーマに掲げた。個々の講演内容は以下の通りである。なお、この講座は、上野の山文化ゾーン連絡協議会が主催して毎年秋に開く「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムとしても位置づけられている。

今回は 2 日間でのべ 236 人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、188 人から回答を得た（回収率:80%）。満足度に関する回答結果は、「たいへん満足した」104 人、「おおむね満足した」64 人、「普通だった」12 人、「不満が残った」0 人、無回答 8 人、回答者の 89%が満足感を得たことがわかった。

第 1 日：「日本美術史における様式の複線性―様式の選択と編集」
2011 年 11 月 11 日（金）午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室
「平安時代前期から後期へ―六波羅密寺十一面観音像の造像」皿井舞（東京文化財研究所）
「鎌倉時代から室町時代へ―中世やまと絵様式の源流と再生」高岸輝（東京工業大学大学院）
第 2 日目：「古美術のコンセプト」
2011 年 11 月 12 日（土）午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室
「室町漢画の基盤―周文と雪舟の場合」綿田稔（東京文化財研究所）
「平安～鎌倉時代の印仏―スタンプのほとけ」佐々木守俊（町田市立国際版画美術館）

【実績値】
参加者数：236 人
満足度　：89%（回収率 80%）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6221

自己点検評価調書

研 No. 63

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、時宜に適応しながら、公表することができ、その参加者数も満足度も目標値を満たしたので、Ａと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り、進捗した。次期中期計画においても文化財に関する調査・研究に基づく成果・新知見を、公開講演というかたちで開催していきたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6222

（様式 1）

業務実績書

研 No. 64

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	第 35 回　文化財の保存及び修復に関する国際研究集会（(2)-②）

【事業概要】

第 35 回　文化財の保存及び修復に関する国際研究集会は、「染織技術の伝統と継承―研究と保存修復の現状―」をテーマとして、無形文化遺産部が担当し、平成 23 年 9 月 3 日～5 日、平成館講堂で開催した。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長　宮田繁幸

【スタッフ】

高桑いづみ、飯島　満、菊池理予、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）

【主な成果】

無形文化遺産分野の工芸技術、中でも染織技術分野をテーマとする初めての開催であり、参加者数、満足度ともに高い評価を得た。また今後の当該分野における研究ネットワーク構築の第 1 ステップなり得る成果が得られた。

【年度実績概要】

＜基調講演＞

「染織技法の伝承―技法の変化・置き換え・相互関係―」長崎巖（共立女子大学）

「染織史における復元的研究―江戸時代の小袖に見る染色技法を中心に―」河上繁樹（関西学院大学）

＜セッション 1：染織技術をまもる＞

「日本における染織技術保護の現状と課題　―わざを守り伝えるために―」菊池理予　（東京文化財研究所）

「日本の国宝天寿国繡帳」韓　尚洙（韓国人間文化財）

「織物技術について、現場からの報告」北村武資（重要無形文化財保持者）

「繊維の王、絹と共に 60 年 ―刺繍の今昔と現在の伝承と提案―」福田喜重（重要無形文化財保持者）

＜セッション 2：染織品保存修復のいま＞

「メトロポリタン美術館の染織品収蔵管理に携わって ―1966 年 3 月-2003 年 8 月―」梶谷宣子（メトロポリタン美術館）

「アベッグ財団における染織品の保存ワークショップ　―スイスにおける染織品保存の歴史と現状―」ベティーナ・ニーカンプ（アベッグ財団）

「染織品保存修理の理念」小林彩子（文化庁）

「正倉院宝物にみる染織品の保存修復の歴史」田中陽子（宮内庁正倉院事務所）

「染織文化財を伝える ―修理の現場から―」城山好美（株式会社松鶴堂）

「「紋縮緬地熨斗文友禅染振袖」修理の報告 ―染屋が修理を始めたら―」矢野俊昭（染技連）

「日本刺繍と染織品の修復」岡田宣世（女子美術大学）

＜セッション 3：染織技術へのまなざし＞

「異文化を結ぶ技法：絞り染めの米国とその他の地域への広がり」シャロン・タケダ（ロサンゼルス郡立美術館）

「外国へのあこがれ：ヨーロッパと日本における〝エキゾチック〟な染織品の受容とその影響」アンナ・ジャクソン（ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館）

「室町時代の舞楽装束に見る染織技術」小山弓弦葉（東京国立博物館）

「絵画史研究は染織技術を明らかにすることができるか ―中世職人歌合絵を起点として―」土屋貴裕（東京国立博物館）

＜セッション 4：染織技術をつたえる＞

「無形文化財工芸技術分野における後継者育成について」佐々木正直（文化庁）

「イギリスにおける染織品保存修復士の教育」石井美恵（女子美術大学美術館）

「大学教育における染織技術の継承と保存への取り組み」深津裕子（女子美術大学美術館）

【実績値】

参加者数：241 名

満足度：100%

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6222

自己点検評価調書

研 No. 64

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	無形文化遺産部として初めての工芸技術をテーマとした研究集会であったが、内容面からもまた参加者の反応面からも、充実したものが実施できた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	無形文化遺産部の担当年度において、予定された国際研究集会を充実したものとして実施できた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6223

業務実績書

研 No. 65

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	公開講演会、現地説明会等の開催（(2) －②）

【事業概要】
文化財に関する調査・研究に基づく成果について、公開講演会、現地説明会等の開催により、積極的に公開・提供する。

【担当部課】	研究支援推進部 連携推進課、研究支援課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中康成 研究支援課長　紅林孝彰

【スタッフ】
村上加代子、車井俊也、今西康益、宮本隆行、飯田信男［以上、研究支援推進部］

【主な成果】公開講演会は、定例公開講演会を 2 回、特別講演会（東京会場）を 1 回、飛鳥資料館特別展記念講演会を 3 回、計 6 回開催した。
また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計 6 回実施した。
このことにより調査研究成果を適時適切に国民に公開公表することが出来、事業としては順調に実施できた。

【年度実績概要】
Ⅰ．公開講演会等
1. 第 108 回公開講演会 H23/6/18（土） 聴講者数 250 人 場所：平城宮跡資料館講堂
講演者数 3 人 アンケート結果=回収数 151 人，回収率 60.4%，満足度Ａ=151 人（100%）/Ｂ=0 人/Ｃ=0 人
2. 第 109 回公開講演会 H23/10/15（土） 聴講者数 141 人 場所：平城宮跡資料館講堂
講演者数 3 人 アンケート結果=回収数 87 人，回収率 61.7%，満足度Ａ=87 人（100%）/Ｂ=0 人/Ｃ=0 人
3. 特別講演会（東京会場）H23/12/3（土）聴講者数 250 人
場所：学術総合センター（一橋記念講堂） 講演者数 6 人
アンケート結果=回収数 110 人，回収率 44%，満足度Ａ=109 人（99.1%）/Ｂ=1 人（0.9%）/Ｃ=0 人
4. 飛鳥資料館春期特別展「星々と日月の考古学」記念講演会 H23/5/14（土）
参加者数 160 人 場所：飛鳥資料館講堂 講演者数 2 人、アンケート結果=回収数 92 人、回収率 57.5%
満足度 A=91 人（98.9%）/B=1 人（1.1%）/C=0 人
5. 飛鳥資料館秋期特別展「飛鳥遺珍－のこされた至宝たち－」記念講演会 H23/11/6（日） 参加者数 102 人
場所：明日香村立中央公民館
講演者数 2 人 アンケート結果=回収数 56 人，回収率 54.9%，満足度 A=52 人（92.9%）/B=4 人（7.1%）/C=0 人
6. 新春特別講演会 H24/1/14（土） 参加者数 36 人 場所：飛鳥資料館講堂 講演者 1 人


6 月 公開講演会

Ⅱ．発掘調査現地説明会等
1. 平城第 481 次（平城宮跡東院地区）816 ㎡，発掘調査現地説明会 H23/6/19（日），参加者 650 人，報告者 1 人
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数 91 人，回収率 14.0% 満足度Ａ=51 人（56.0%）/Ｂ=40 人（44.0%）/Ｃ=0 人
2. 平城第 483 次（興福寺北円堂） 676 ㎡，発掘調査現地見学会 H23/9/17（土），参加者 800 人，報告者 1 人
3. 飛鳥藤原第 169 次（藤原宮朝堂院朝庭） 1,350 ㎡，発掘調査現地説明会 H23/11/5（土），参加者 620 人，報告 1 人
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数 84 人，回収率 13.5% 満足度Ａ=44 人（52.4%）/Ｂ=40 人（47.6%）/Ｃ=0 人
4. 平城第 486 次（平城京左京三条一坊一坪） 1,668 ㎡，現地見学会 H23/11/19（土），参加者 200 人
5. 飛鳥藤原第 171 次（甘樫丘東麓遺跡）880 ㎡，発掘調査現地説明会 H24/3/4（日）参加者 1,005 人
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数 242 人，回収率 24.1% 満足度Ａ=118 人（48.8%）/Ｂ=112 人（46.3%）/Ｃ=12 人（4.9%）
6. 平城第 488 次（平城京左京三条一坊一坪）1,584 ㎡，発掘調査現地説明会 H24/3/10（土）参加者 850 人
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数 330 人，回収率 38.8% 満足度Ａ=203 人（61.5%）/Ｂ=125 人（37.9%）/Ｃ=2 人（0.6%）

【実績値】
Ⅰ．公開講演会等 年 6 回開催 聴講者延人数 903 人、 アンケート回収数 496 人、 回収率 54.9%
満足度Ａ= 490 人（98.8%）、Ｂ= 6 人（1.2%） Ｃ=0 人
Ⅱ．発掘調査現地説明会等 年 6 回開催
参加者延人数 4,125 人内ｱﾝｹｰﾄ実施回数 4 回：参加者延数 3,125 人 回収 747 人 回収率 23.9%
満足度Ａ=416 人（55.7%）/Ｂ=317 人（42.4%）/Ｃ=14 人（1.9%）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6223

自己点検評価調書

研 No. 65

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
公開講演会
適時性：広く一般に公開し、その必要性に答えることが出来た。
独創性：公開は、内容の新規性及び卓越性を持たせ実施することが出来た。
発展性：聴講者は多数かつ多種にわたり、様々な分野への影響が期待される。
継続性：研究成果の継続的な公表、連続的な社会還元につながるものとなった。
正確性：多数が満足する正確性を持った内容であった。

2．定量的評価

観点	開催回数	参加者数	満足度			
判定	A	A	A			

備考
公開講演会
開催は予定通り実施でき、参加者のほとんどの方々に満足してもらえる内容であった。
現地説明会等
アンケートの回答で 9 割の方が満足したと回答した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	公開講演会については年 6 回実施し、発掘調査現地説明会等については、6 回実施し、いずれも多数の参加者があった。これらの参加者に対して行ったアンケートでは、公開講演会では 98.8%、発掘調査現地説明会等で 98.1%の「大変満足である」または「おおむね満足である」という結果を得ている。これらの結果を総合的に判断して、Ａと認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	公開講演会、現地説明会の開催は計画のとおり順調に実施できたと考える。 今後もこのペースを維持しつつ、調査研究の成果に基づく講演、現地説明会等の内容及び配付資料の充実、アンケート調査による参加者ニーズの把握、さらには事業広報に力を注ぎ、参加者数の増加と満足度の向上に努めたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6231

業務実績書

研 No. 66

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	ホームページの運用（(2)-③）

【事業概要】
研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】
田中　淳，津田徹英，塩谷　純，山梨絵美子，綿田　稔，江村知子，小林達朗，皿井　舞，城野誠治，中村節子，中村明子，井上さやか，鳥光美佳子（以上企画情報部）
広報委員（LAN）：川野邊　渉　各部門 LAN 担当：崎部　剛（研究支援推進部），綿田　稔，（企画情報部），飯島　満（無形文化遺産部），森井順之（保存修復科学センター），加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

【主な成果】
ホームページのレイアウトを更新し、毎月の活動報告（和英）の掲載、また適宜イベント情報の公開を行うとともに、それら更新情報についてメールマガジンによる情報発信を行った。

【年度実績概要】
ホームページのリニューアル：ホームページのトップページのレイアウトを変更し、各種の情報へのアクセスの利便性を向上させた。また、「東京文化財研究所概要」の情報をもとに調査研究項目や部門ごとに整理した、研究所の業務を紹介するページを作成した。研究所の業務紹介としては、東京文化財研究所の刊行物（図書）について、1929-2011 年までのデータを掲載した。
ホームページの内容の充実：『日本美術年鑑』（当研究所刊行）所載美術界年史（彙報）（1935 年から 1969 年まで）の掲載など、当研究所で蓄積しているデータの公開を実施した。
ホームページの定期・不定期の情報更新：各部・センターの調査研究、会議や研究会の開催等の活動について、日本語および英語による「活動報告」として毎月掲載した。また、研究会開催や職員募集、入札公告などの情報については、依頼があり次第ただちに掲載した。
東日本大震災後の対応：東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業に関連する活動や被災した文化財などへの対応について、ホームページによる情報発信を行った。
プッシュ型の情報発信：活動報告を含むホームページの更新情報や、研究会開催、職員募集や入札公告などの情報を登録者に対して直接発信する手段として、メールマガジンの送信を随時行った。
アクセス数：本年度のホームページへのアクセス数は 1,314,541 件で、前年度に比べ 174,551 件減少した。

【実績値】
ホームページアクセス件数：1,314,541 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6231

自己点検評価調書

研 No. 66

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	ホームページアクセス件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページの運用については、ホームページアクセス件数の高さから、適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性の向上を裏付ける結果だと判断した。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ホームページの情報へのアクセスの利便性向上、データの充実、速やかな更新を実施することができた。ホームページのアクセス件数も前年に比べて増加している。このような実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると考えた。次年度以降も、現在それぞれの部門で独自に作成しているホームページのデザインの統一や、より多くのデータベースの公開など、当研究所の広報をより効果的に実施するための業務を実施していく。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6231

業務実績書

研 No. 67

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	ウェブサイトの内容の充実（(2) －③）

【事業概要】
研究所の事業・研究成果をはじめ、施設・案内など様々な広報をしているホームページであり、常に拡充を図っている。社会への広報の目安となるアクセス件数を把握し、より一層の情報提供に務める。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中 康成

【スタッフ】
渡　勝弥（文化財情報係長）他 1 名

【主な成果】
奈良文化財研究所ホームページの完全リニューアルを行った。
『墨書土器字典』データベースを公開した。

【年度実績概要】
奈良文化財研究所ホームページの完全リニューアルを行い、トップページから下層ページまでのスタイルの統一化を図り、より見やすく、より網羅的に情報を公開できるページとした。

『木簡字典』の姉妹版にあたる『墨書土器字典』データベースを公開した。
『墨書土器字典』は、土器に書かれた墨書文字のデータベースであり、墨書土器の文字は木簡に比べて字数が少なく文脈で読むのが難しいため、墨書土器の文字データベースの作成が待ち望まれていた。



奈良文化財研究所ホームページ

【実績値】

ホームページアクセス件数：457,154 件

【備考】
墨書土器収録データ数
　平城宮墨書土器　210 点分
　画像の種類；カラー画像 17 点、モノクロ画像 207 点、実測図 58 点（いずれも土器単位）
収録文字数；総文字のべ画像数 665 文字、文字種 232 文字

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6231

自己点検評価調書

研 No. 67

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：奈文研の最新情報や研究内容がより明確に公開することが可能となった。
独創性：検索結果を画像とテキストで表示することにより、効果的な実用を可能としている。
継続性：随時更新することによって情報を継続して公開している。

2．定量的評価

観点	アクセス件数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	従来のホームページよりも操作性に優れており、効果的な情報発信が行えるようになった。 新しいデータベースを公開することによって、研究者のみならず、広く世間により豊富な情報を提供することが可能となった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ホームページの完全リニューアルと新規データベースの追加による更なる情報の提供が可能となったと認められるため、今年度の実施状況は順調と判断した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6311

業務実績書

研 No. 68

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平城宮跡資料館における展示公開（(3)－①）

【事業概要】
平城宮跡に関する理解促進、ならびに当研究所がおこなう平城宮・京の発掘調査および研究の成果公開や情報発信のため、平城宮跡資料館において常設展・企画展を実施する。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　難波洋三

【スタッフ】
加藤真二、中川あや、渡邉淳子、森先奈々子[以上、企画調整部]、車井俊也[研究支援推進部連携推進課]

【主な成果】
常設展示に、新たに「考古科学コーナー」を増設した。入口ロビーにて、「文化財レスキュー事業の紹介」の展示をおこなった。秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」、春期企画展「発掘速報展 平城 2011／文化財レスキュー展」を開催した。

【年度実績概要】
＜常設展＞
○「考古科学コーナー」の増設（7 月 30 日から）
資料館北棟に、「考古科学コーナー」を設け、当研究所埋蔵文化財センターの研究「保存科学」「環境考古学」「年輪年代学」「測量と探査」の内容を展示した。楽しみながら文化財と科学の関係を学べるように体験展示を多く取り入れ、親子連れの集客を図った。
アンケート　回収数：244 人　回収率：1.2%　（集計期間 7.30～11.27）
満足度（良以上）：391 名　87%（無回答を除く）
＜企画展＞
○春期企画展「発掘速報展 平城 2009・2010」（昨年度より開催）
アンケート　回収数：1,230 人　回収率：3.2%　（集計期間 2.19～5.8）
満足度（良以上）：947 名　90%（無回答を除く）
○ロビー展示「文化財レスキュー事業の紹介」（9 月 30 日から）
東日本大震災で被災した文化財を救済する、文化財レスキュー事業紹介の展示。資料館入口ロビーに展示ブースを設け、事業の概要、主な施設の状況、レスキューの工程などについて説明した。展示ブース内には、募金箱を設置し、レスキュー事業への協力を呼びかけた。
○秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」
（10 月 18 日～11 月 27 日）
毎年開催している木簡の特別公開。今年度は「文字」に着目し、木簡にみえる文字の形や語順、書きぶり、習書、万葉仮名を例に、古代の人々が試行錯誤しながら中国の文字を体得した過程を読み解いた。
アンケート　回収数：244 人　回収率：1.2%
満足度（良以上）：180 名　92%（無回答を除く）
○春期企画展「発掘速報展 平城 2011／文化財レスキュー展」
（平成 24 年 3 月 10 日～5 月 27 日）
当研究所が、2011 年度に平城宮・京で実施した発掘調査の速報展、および文化財レスキュー事業の展示。
発掘速報展は、3 地点の調査成果について床に設置した大きな遺構図面をもとに説明した。文化財レスキュー展はロビー展示の内容を増やし、レスキュー活動の内容を、写真や動画、派遣者のコメントや新聞記事、実際に作業で使用した服装や道具を交えながら、解説した。


秋期企画展　展示風景

【実績値】
常設展の公開日数：174 日　常設展の年間入館者数：80,353 名
企画展の公開日数：89 日　企画展の年間入館者数：51,942 人
春期企画展「発掘速報展 平城 2009・2010」　34 日　24,238 人（今期 4.1～5.8）　ギャラリートーク：6 回
秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」　36 日　20,120 人　ギャラリートーク：3 回
春期企画展「発掘速報展 平城 2011／文化財レスキュー展」19 日（3.31 現在）　7,584 人　ギャラリートーク：3 回

【備考】
企画展に因んで、リーフレット・パンフレットなどの刊行物を作成した。
秋期企画展パンフレット：『地下の正倉院展－コトバと木簡』（2011.10）
春期企画展パンフレット：『発掘速報展 平城 2011／文化財レスキュー展』（2012.3）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6311

自己点検評価調書

研 No. 68

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：本年度実施した文化財レスキュー事業について、いち早くロビー展示でとりあげ、年度末の春期企画展で詳細を公開するなど、適時性の強い展示をすることができた。

独創性：展示構成を検討し展示テーマに合わせた空間づくりを工夫する、体験型展示を取り入れるなど、意欲的にさまざまな展示手法を実践することができた。

継続性：常設展の増設や、ロビー展示、企画展の開催など、年間を通じて、平城宮・京および文化財に関わるさまざまな内容を入館者に提供することができた。

2．定量的評価

観点	公開日数	入館者数	入館者の満足度			
判定	A	S	A			

備考
入館者数は、「平城遷都 1300 年祭」が開催された昨年度には及ばなかったものの、目標値である 85,300 人（リニューアル前の入館者数平均）に比べ、大幅に上回ることができた。
アンケート調査による入館者の満足度についても、昨年度以上に高い評価を得ることができた。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	常設展の増設やロビー展示、企画展の実施など、定期的に新しい内容を展示公開できたことや、展示方法を工夫し、入館者から高い満足度が得られたことから、A判定とした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昨年度のリニューアルオープン以降、引き続き定期的に企画を実施することができた。また展示構成や展示方法については、昨年度以上に質の高いものを提供することができた。前の中期計画期間にくらべ、さらに向上発展を遂げていることから「順調」と判定した。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6321

業務実績書

研 No. 69

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	飛鳥資料館における展示公開（(3) －②）

【事業概要】
飛鳥資料館において特別展を春秋の 2 回開催するとともに、企画展、講演会を開催する。平常展示では、第 1、第 2 展示室の展示の維持管理をおこなうとともに、展示の手直しを適宜おこなう。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　　加藤真二

【スタッフ】
成田聖、丹羽崇史（以上、飛鳥資料館）

【主な成果】
春期特別展「星々と日月の考古学」を 4 月 16 日～5 月 29 日に開催し、記念講演会を 5 月 14 日におこなった。
夏期企画展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」を 8 月 2 日～9 月 4 日に開催した。
秋期特別展「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」を 10 月 14 日～11 月 27 日に開催し、記念講演会を 11 月 6 日におこなうともに、ギャラリートークを 2 回開催した。
冬期企画展「飛鳥の考古学 2011」を 1 月 20 日～2 月 26 日に開催するとともに、写真コンテストを主催した。

【年度実績概要】
春期特別展「星々と日月の考古学」（4 月 16 日～5 月 29 日）　キトラ・高松塚両古墳壁画の天井天文図の特徴を東アジアの天文考古学的に位置づけるとともに、衛星考古学に関する最新の成果を展示した。期間中、加藤真二学芸室長と相馬秀廣奈良女子大学教授を講師として記念講演会（5 月 14 日）を開催した。

夏期企画展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」（8 月 2 日～9 月 4 日）　飛鳥資料館が進めている東アジア金属工芸史の研究の成果を中心に、古代日本の鋳造技術を東アジア的視点に立って位置づけた。

秋期特別展「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」（10 月 14 日～11 月 27 日）　明日香村の村外で保管・展示されていたり、村内にあっても普段は展示をおこなっていない、国の重要文化財などの貴重な文化財を里帰り展的に一堂に集めて展示を行い、飛鳥地域がもつ重要性を再評価した。11 月 6 日には相原嘉之明日香村文化財課調整員、木下正史東京学芸大学名誉教授を講師として、記念講演会を開くとともに、期間中に 2 回のギャラリートークをおこなった。

冬期企画展「飛鳥の考古学 2011」（1 月 20 日～2 月 26 日）　平成 22 年度に、飛鳥地域でおこなった奈良文化財研究所、明日香村教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、橿原市教育委員会の発掘調査のうち、興味深い成果が得られたものについて展示したほか、近年まとまった植山古墳や坂田寺跡の多次にわたる調査の成果を示した。また、奥飛鳥の文化的景観が重要文化的景観に選定されたことから、まだなじみが少ない文化的景観についての解説を含め、奥飛鳥の文化財的景観についての展示もおこなった。さらに、これにあわせて、飛鳥を題材とした写真コンテストも開催した。

常設展については、キトラ古墳壁画陶板レプリカに照明を取り付けて、まじかで観察できるようにしたほか、水落遺跡で検出された漏刻の原寸大推定復元品をロビーに常設展示した。さらに平成 24 年度に予定されている第 1 展示室の改装にむけて設計をおこなった。

このほか、1 月 14 日に田辺征夫前館長を講師に新春特別講演会を開いた。


秋期特別展でのギャラリートーク

【実績値】
常設展公開日数　167 日　年間入館者数　16,283 人
特別展・企画展の公開日数　152 日　年間入館者数　26,196 人
合計　公開日数　319 日　年間入館者数　42,479 人
春期特別展「星々と日月の考古学」　44 日　10,679 人（4.16～5.29）
夏期企画展「鋳造技術の考古学－東アジアにひろがる鋳物師のわざ－」　30 日　3,047 人　（8.2～9.4）
秋期特別展「飛鳥遺珍－のこされた至宝たち－」　45 日　10,454 人　（10.14～11.27）
冬期企画展「飛鳥の考古学 2011」　33 日　2,016 人（1.20～2.26）
刊行図書：4 冊、講演会：3 回、ギャラリートーク 2 回、写真コンテスト 1 回

【備考】春期特別展図録『星々と日月の考古学』飛鳥資料館図録第 54 冊
秋期特別展図録『飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―』飛鳥資料館図録第 55 冊
夏期企画展カタログ『鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―』飛鳥資料館カタログ第 25 冊
冬期企画展カタログ『飛鳥の考古学 2011』飛鳥資料館カタログ第 26 冊
春期特別展　記念講演会『星々と日月の考古学』
秋期特別展　記念講演会『飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―』
新春特別講演会『仏教伝来の頃の飛鳥』

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6321

自己点検評価調書

研 No. 69

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
春期特別展示は、昨年度までおこなっていたキトラ古墳壁画の特別公開にちなんだ特別展と一連のものである。また、冬期企画展についても恒例の展示となっている。そうしたなか、新たに重要文化的景観に選定された奥飛鳥の文化的景観を取り上げるなどタイムリーな展示ができたと考える。このほか、内外の関係者から強い希望が寄せられていた明日香村出土文化財の里帰り展を行うことができたことなどを踏まえ、適時性、継続性、正確性をＡ判定と評価した。

2．定量的評価

観点	刊行物数	展覧会・講演会数	入館者数			
判定	A	A	B			

備考
　昨年度末に発生した東日本大震災の影響で、上半期は大幅に入館者数が減少したが、新聞社、放送局の後援による広報活動の充実、ギャラリートーク、新春特別講演会、写真コンテストなどで、下半期にはようやく前年度と比べて入館者数を増加させることができた。
（目標値　48,800 人　　入館者数　42,479 人）

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東日本大震災の影響による入館者数の落ち込みにより、入館者数をＢと評価した。これについては、新規の各種取り組みを行い、下半期にようやく回復することができた。この各種取り組みについては、来年度も継続していきたい。また、第１展示室の改装を確実に行って、さらに魅力ある展示を行うことに心がけたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	入館者数のＢを除けば、中期計画で掲げた事業は、ほぼ実施することができた。平成 24 年度も、魅力ある展覧会を実施するとともに、新聞社、放送局の後援による広報活動の充実や新春特別講演会、写真コンテストなどの新規取り組みを一層充実したい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6331

（様式 1）

業務実績書

研 No. 70

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	藤原宮跡資料室における展示公開（(3) －③）

【事業概要】

都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）に併設された藤原宮跡資料室およびエントランスにおいて、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを実施し、展示公開の充実を図る。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】

玉田芳英、清野孝之、降幡順子、石橋茂登、山本 崇、黒坂貴裕、渡辺丈彦・廣瀬 覚、庄田慎矢、木村 理恵、小田裕樹、若杉智宏、高橋 透、森先一貴、橋本美佳、番 光、高橋知奈津、桑田訓也［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、栗山雅夫、岡田 愛［以上、企画調整部］

【主な成果】

常設展示および発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスに発掘調査成果を速やかに公開するための速報展示コーナーを設け、多様な成果を継続的に公開した。あわせて、職員による展示解説、展示のための各種資料制作、パンフレットなどの企画と制作、各地の博物館などへの文化財の貸与をおこなった。

【年度実績概要】

都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）庁舎に併設された藤原宮跡資料室において、通年にわたり常設展示を実施した。また、申請のあった団体などへは展示説明、藤原宮跡および発掘調査現場の案内などの応対をした。

庁舎エントランスに設けた発掘調査成果の速報展示コーナーにおいては、「「水落遺跡(165 次)」「坂田寺 SK160 出土鎮壇具」「藤原宮造営期の馬の骨に認められる骨病変」「東北日本太平洋沖地震被災文化財レスキュー事業」の各展示を実施した。

利用者むけ印刷物としてリーフレット『特別史跡藤原宮跡』の英語・韓国語・中国版を制作した。

また、各地の博物館などの求めに応じ、当調査部保管遺物ならびに模型・模造品などの貸与、保管遺物のレプリカ作成などへの協力をおこなった。

なおこれ以外に、平成 24 年度に予定される奈良文化財研究所創立 60 周年事業の準備の一環として、庁舎エントランスの一部改築、資料室内の壁面及び展示具などのクロス張替え作業も実施した。



エントランスの速報展示コーナー

【実績値】

平成 23 年度の入室者数は 2,971 名、開室日 192 日
各種団体などへの展示説明 5 件、他機関への所蔵品貸出 15 件。
印刷物など 3 件（印刷物 3 件①②③)。

【備考】

印刷物
①奈良文化財研究所『特別史跡藤原宮跡(英語版)』2012.3
②奈良文化財研究所『特別史跡藤原宮跡(韓国語版)』2012.3
③奈良文化財研究所『特別史跡藤原宮跡(中国語版)』2012.3

【書式Ｂ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　6331

(様式 2)

自己点検評価調書

研 No. 70

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：調査研究成果を常設展示と速報展示により公開することで多様な要望に応えている。
独創性：展示公開のための文化財の保存修復作業、調査機関ならではの豊富な実物展示に独創性がある。
また外国からの来館者に対応するため英語・韓国語・中国語版のリーフレットを作成した。
発展性：速報展示の展示方法と内容に工夫をし、各遺跡の特徴に的を絞った展示を実現している。
継続性：常設展示および速報展示を通年で公開し、内容を適宜変更している。

2. 定量的評価

観点	入室者数					
判定	B					

備考
年間入室者数 2，971 名（目標 4，509 人）
資料室内の改修工事等により開館期間は例年の 2／3 程度である。閉室期間も考慮すると、年間目標入室者数は 3,549 人に相当し、判定はＢとなる。
（目標入室者数の開館可能期間分換算）
年間目標数 4,509 人×192 日（開館日数）／244 日（通常年間開館日数）≒3,549 人（小数点以下切り上げ）
達成率：2,971 人／3,549 人×100≒83.71%→Ｂ

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	常設展示とともに、エントランスでの速報展示コーナーの内容が一層充実し、調査成果の速報性がより高まった。開室日数を考慮すると入室者数も適正であり、総合的にＡと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	速報展示なども充実した内容のもとに継続的に実施しており、順調と判断した。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6411

（様式 1）

業務実績書

研 No. 71

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化庁平城宮跡等管理事務所の運営への協力（(4)-①）

【事業概要】文化庁平城宮跡管理事務所の運営に対する積極的協力を以下のとおり実施する。
○施設の公開・利用等に係る連絡調整及び連携協力
○各種行事、発掘調査等の連絡調整
○修繕等に係る相談、状況の把握、等

【担当部課】	研究支援推進部・研究支援課	【プロジェクト責任者】	研究支援課長　紅林　孝彰

【スタッフ】（今西康益、宮本隆行、三本松俊徳、飯田信男、米野元則）

【主な成果】
◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。
◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援、協力及び関係機関等との調整を行った。
◇関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備事業
平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。
○平城宮跡〔対象面積：915,150 ㎡〕○藤原宮跡〔対象面積：257,840 ㎡〕

【年度実績概要】
◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。
○宮跡の公開・活用事業に対する協力・支援、利用申し込み等に対する連絡及び申込者との打ち合わせ
○各種行事、発掘調査等に係る連絡調整
○宮跡内建物、工作物等の管理・修繕の実施に伴う状況の調査、文化庁・業者との連絡調整、現場対応確認等
・平城宮跡内東院庭園池循環設備修理及び池清掃等維持
・平城宮跡内東院庭園景石保存処理・遺構展示館内露出遺構の修復処理
・平城宮跡内建物等（復原施設・便益施設）・工作物（水路・苑路・看板等、電気設備、防犯設備等）の修理
・第一次大極殿定期点検（免震装置含む）、朱雀門、東院等復原施設点検及び調査
○住民等からの苦情対応・取次ぎ及び周辺自治会との協力
・宮跡内水路、道路等の修理等環境改善及び維持管理　・蜂の巣駆除等、日常環境改善維持管理
・宮跡来訪者・利用者等一般からの申し出（防火、防犯、植生、運営等）対応、文化庁への調整
・地元自治会との協力対応、文化庁への調整
○平城宮跡内火災対応・異常確認及び報告
・火災発生への対応及び救急車出動対応
・禁止行為等（看板設置を含む）に関する文化庁への協力
○所轄消防署、警察署との連絡調整
・火災、盗難・強盗等事件捜査への協力
◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援協力及び関係機関等との調整を行った。
○平城宮跡地整備・藤原宮跡地整備及び平城宮跡復原施設等（第一次大極殿・朱雀門・東院庭園・推定宮内省・遺構表示施設、遺構展示館等便益施設及び関連工作物）の維持整備推進への計画･設計・整備推進等への支援･協力
・平城宮跡復原施設等防災設備整備
・平城宮跡防犯設備整備
・平城宮跡管理用設備整備
・平城宮跡及び藤原宮跡文化庁施設応急修理等整備
○国土交通省国営公園整備事業の計画・設計・整備推進等への支援・協力及び文化庁との調整、これに関連する文化庁所管事項等への支援･協力
○平城宮跡・藤原宮跡における国有地公有化範囲等国有財産の状況確認
○藤原宮跡管理修繕及び地元自治会との協力対応、文化庁への調整等支援協力
○山田寺跡復旧整備事業の計画・設計・整備維持等、文化庁事業への支援･協力
◇関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備業務
○平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために宮跡地内の草刈植栽業務等及び宮跡地内における不具合対応策提案を実施。
・平城宮跡　草刈り等（芝、雑草、草花類）　　実施時期：4 月～11 月、作業回数：1 回～7 回
植栽等　（表示、環境樹木類）　　実施時期：12 月～3 月、作業回数：1 回～4 回
その他　側溝東工作物清掃維持、害虫駆除
・藤原宮跡　草刈り等（芝、雑草、草花類）　　実施時期：4 月～11 月、作業回数：1 回～2 回
植栽等　（表示、環境樹木類）　　実施時期：12 月～3 月、作業回数：1 回
その他　耕作物用水路等隣接部清掃維持、側溝等工作物清掃維持、害虫駆除

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6411

自己点検評価調書

研 No. 71

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：緊急性の高い連絡・修繕相談等へ適時に対応
独創性：宮跡内建物、工作物等の維持管理に寄与
効率性：専門知識を生かした協力による人的投資の効率性
継続性：需要に応じた継続的な連携協力体制

2．定量的評価

観点						
判定						

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮跡・藤原宮跡等の公開・活用に必要な準備等に積極的に協力し、また、平城宮跡等において発生する緊急性の高い連絡等に良く対応している。 さらに、平城宮跡国営公園化の実施に伴う専門的支援を行っており、これら事業の推進に伴う文化庁等からの相談等に良く対応している。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	施設の公開・利用等の連絡、各種行事・工事・発掘調査の連絡、修繕相談・状況の把握等、各業務について積極的に協力できた。 特に、事故、事件、火災、修繕相談等は、緊急性の高い場合が多かったが、適時・的確に対応できた。 なお、今後、平城宮跡国営公園化の実施に伴い、平城宮跡等の管理の協力・支援の在り方について検討する。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6412

業務実績書

研 No. 72

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力（(4) －①）

【事業概要】　第一次大極殿院地区を中心とする平城宮跡の整備・公開・活用に関する調査研究のため、国土交通省の行う復原整備計画に沿った実践的調査研究を実施する。さらに『特別史跡平城宮跡保存整備基本計画推進計画』に基づく具体的な整備内容に対して、専門的・技術的な援助・助言をおこなうため、復原・整備に関する資料の整理や検討、新たにおこなうべき調査研究の計画案などを提示する。また、国土交通省等の主催する会議等に参画し、専門的・技術的な援助・助言をおこなう。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　井上和人

【スタッフ】小池伸彦、渡辺晃宏、箱崎和久、今井晃樹、馬場 基、神野 恵、森川 実、青木 敬、大林 潤、鈴木智大、海野 聡、芝 康次郎、諫早直人、山本祥隆、井上麻香、北山夏希（以上、都城発掘調査部）、今西康益、宮本隆行（研究支援推進部）

【主な成果】　第一次大極殿院復原検討会を 17 回開催し、そのための資料収集と整理、国内外の類例調査などをおこなった。また平城宮跡の整備・活用に向けての基礎的な資料の収集と、整備施工に対しての事前立会調査等をおこない、遺跡の保護・保全といった観点を含めて、十分に対応することができた。

【年度実績概要】

1. 第一次大極殿院復原検討会の準備と開催

　復原検討会のための基礎資料（発掘遺構・現存建物の図面等）の収集と整理をおこなった。また類例調査として、国内 1 回、海外の中国 3 回、韓国 3 回、ベトナム 1 回をおこない、調査のための資料等を収集した。類例調査の成果は検討会の俎上にのせ、復原案の作成・検討に生かしてゆく。復原検討会は計 17 回開催した。開催後は検討会記録の作成に向け、発表録音の活字化・校正、発表資料の再整理、印刷原稿の作成などをおこなった。また国土交通省が開催した国営平城宮跡歴史公園第一次大極殿院建造物復原整備検討委員会へオブザーバーとして出席し、上記検討会の検討経過等を報告した。

2. 平城宮跡の整備に関する設計条件の整理

　第一次大極殿院の復原整備にともない、南に隣接する中央区朝堂院地区なども整備の対象となり、また平城宮跡全体の整備・活用を含めた検討が必要になっている。2001 年の独立行政法人化以前は、奈良国立文化財研究所が平城宮跡の整備を担当し、整備資料も保存されており、現在の整備の設計に生かせる点も多い。これら過去の奈良国立文化財研究所の整備内容を整理し、また発掘遺構の標高や旧水田高、電気・機械関係のインフラ関係の整備方法などについて検討し、必要に応じて国土交通省へ提出した。

3. 具体的な整備の施工にともなう事前立会調査

　平城宮跡内の整備あるいは活用にともない、地下の掘削がおよぶ工事に関しては、立会調査をおこない遺構が破壊されないようチェックした。これらは立会日誌として、写真撮影をともなう記録を作成した。たとえば第一次大極殿院の南西へトイレを設置する工事にあたっては、その建屋建設時だけでなく、そこに引き込む電気や水道の配管埋設をおこなう必要があり、その工程にあわせて数日間の立会をおこなった。このような立会調査への出動は、平城宮跡だけで 20 件 100 日以上に及んだ。

【実績値】

・第一次大極殿院復原検討会開催数；17 回、これに伴う類例調査；国内 1 回、韓国 3 回、中国 3 回、ベトナム 1 回
・第一次大極殿院建造物復原整備検討委員会への出席；平成 23 年 6 月 7 日、7 月 4 日
・検討会の記録集『第一次大極殿院復原検討会記録 3』『同 4』をまとめた。
・平城宮跡内の整備工事にともなう立会調査出動回数；20 件 100 日以上。

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6412

自己点検評価調書

研 No. 72

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	正確性	独創性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
第一次大極殿院の復原検討会は、国土交通省による平城宮跡の国営公園整備・活用にともなう事業の一環として、奈良時代の大極殿院の復原案作成にむけて、復原対象としている遺構の再精査だけでなく、類例となる発掘遺構や現存遺構の資料収集、あるいは現地調査をおこない、検討を重ねてきている。昨年度来の事業の継続ではあるが、過去の検討成果をふまえて、総合的な視点から新たな復原案の構築を目指している。復原案の是非はともかく、その方法論は、今後、全国の遺跡整備の現場でも応用すべき手法であり、さらには建築史学や考古学の研究の深化へつながると考えている。
平城宮跡の整備工事に対しては、今後の整備・活用に向けての基礎的な資料収集をおこない今後の整備に生かして行くことができると考えられる。また工事施工にともなう事前立会調査については、遺跡の保護・保全といった観点から、十分な対応をとることができた。
上記のような諸点は、適時性・継続性・発展性・正確性・独創性の評価を十分満足させることができると考えている。

2．定量的評価

観点	収集資料数	記録件数				
判定	A	A				

備考
第一次大極殿院の復原検討会に当たっては、直接的な大極殿院の発掘遺構だけでなく、類例として発掘遺構と現存建築遺構についての情報を収集した。その収集資料は、検討会の俎上にあげたものだけでも、発掘遺構・現存建築遺構とも 150 例以上におよび、また今後の検討のために資料を先行収集している遺構を含めると、その数は膨大になる。復原に当たって、同時代の宮殿建築が現存しないなかで、根拠とすべきものの一つが類例であり、決してその数は十分でないかもしれないが、時間的制約もあるなかで、検討すべき十分な資料を収集できていると考えている。検討会の発表資料および検討成果は、資料集としてまとめており、記録化の要請にも十分に応えていると考えている。
平城宮跡の整備工事にともなう事前の立会調査については、現場に調査員が赴いて、写真撮影などの的確な調査をおこなったうえで立会日誌を作成しており、正確な記録化を実現している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	第一次大極殿院の検討会については、短期間に濃密な研究・検討を重ねており、高く評価できると考えている。次年度以降も同様のペースで進めていきたい。平城宮跡の整備に対する対応も、十分におこない、遺跡の保護も図ることができている。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	第一次大極殿院の復原研究は、これまでの朱雀門や大極殿、東院庭園などの復原検討に比しても、すでにそれらをしのぐ調査と検討を重ねており、順調と評価できると考えている。次年度は上部構造の具体的な検討をおこない、復原案の全貌を示すことができるよう、いっそう努力してゆきたい。 平城宮跡の整備にともなう資料収集と事前立会調査に関しても、的確に対応できている。独立行政法人化以前の奈良国立文化財研究所による平城宮跡の整備についても、まとめていきたい。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 6413

業務実績書

研 No. 73

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力（(4) －①）

【事業概要】
国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設にあたり、主に学芸に関わる部分において、専門的な見地から協力をおこなう。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　難波洋三

【スタッフ】
加藤真二、中川あや、渡邉淳子、森先奈々子[以上、企画調整部]、

【主な成果】
展示基本設計の策定に必要な、展示テーマや展示内容案を作成し、展示構成および展示手法について、設計業者と協議を重ねた。その展示計画案に基づき、展示物の立案、検索や調査、リスト化をおこなった。また設計業者の要望に応じて、展示設計上参考となる図面や画像などの多様な参考資料を、用意し提供した。

【年度実績概要】

基本設計策定に向けての協力

○詳覧ゾーンの展示内容の検討
テーマを決定し、各コーナーでの展示について、展示内容・展示構成・展示手法の面から検討し提案した。

○展示物の検討、リスト化
各コーナーに展示する展示物の検討をおこない、候補となる資料の内容を確認し、リストを作成した。

○設計に関する助言・提言
各コーナーのゾーニングや、展示室および展示設備の仕様などについて、質問に回答し助言・提言した。

○参考資料の提供
展示館ガイダンスゾーンならびに詳覧ゾーン内の設計に必要な参考図面・画像を提供した。

【実績値】
国土交通省地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所平城分室との打合せ　10 回
（※うち、全体会議…5 回、展示に関する設計業者との分科会…5 回）
展示企画室内での展示検討会…8 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6413

自己点検評価調書

研 No. 73

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：当該施設は、2016～2017 年度に竣工予定の平城宮跡に関わる施設である。その建設に、平城宮跡を長年調査してきた当研究所が基本設計段階から携わることで、わが国の文化財の保護と活用に寄与するものと考える。

発展性：当該施設は、国営歴史公園平城宮跡の公開施設として重要な役割を担うことが予想される。とりわけ展示を通じて与えられる情報は施設を利用する多くの入館者に影響を与えるため、平城宮跡を長年調査してきた当研究所が展示に関わることで、施設の質的向上につながる。

効率性：国土交通省地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所平城分室より、基本設計に関する具体的な協力要請があった 9 月以降、年度末までの基本設計策定に向け、時間的・人的に限られているなか、展示内容の検討、資料収集や調査、展示候補物のリスト作成など非常に多くの業務を遂行し、より良い展示案になるよう最大限の努力をした。

2．定量的評価

観点						
判定						

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展示内容立案、資料調査、リスト作成、資料提供など多大な協力をすることで、展示基本設計の策定に貢献し、限られた現状（時間・人員）のなかで最大限の成果をあげたため、A判定と判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現状では「協力」の範疇を超えた業務内容で、業務過多になっている。次年度以降は、体制を含め国土交通省への協力のありかた、関係性を明確にするとともに、それらに基づき当研究所内での対応体制を検討することで、より質の高い展示館の案が策定され、公益に資すると考える。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6414

（様式 1）

業務実績書

研 No. 74

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力（(4) －①）

【事業概要】
国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設とその展示に対して、助言・協力を行う。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　　加藤真二

【スタッフ】
成田聖、丹羽崇史（以上、飛鳥資料館）

【主な成果】
国営飛鳥歴史公園事務所が開催した「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」（平成 24 年 3 月 7 日）に出席し、体験学習館の基本設計（案）作成に協力した。

【年度実績概要】
国営飛鳥歴史公園事務所が開催した「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」（平成 24 年 3 月 7 日、於：国営飛鳥歴史公園事務所）に出席し、同事務所から提示のあった体験学習館の基本設計（案）の作成に協力した。

【実績値】
「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」（平成 24 年 3 月 7 日、於：国営飛鳥歴史公園事務所）出席 1 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6414

自己点検評価調書

研 No. 74

1．定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				

備考
「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」に参加する等、「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想」に基づく体験学習館の基本設計（案）の作成に引き続き協力した。

2．定量的評価

観点						
判定						

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	3 月 7 日に開催された「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」に出席し、同事務所から提示のあった体験学習館の基本設計（案）の作成に協力した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設とその展示に対する助言・協力をおこない、飛鳥･藤原宮跡等の公開活用事業の進展に努めた。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6421

業務実績書

研 No. 75

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティア事業の実施（(4) －②）

【事業概要】
平城宮跡への来訪者に奈良文化財研究所の調査研究の成果を発信するとともに、平城宮跡の歴史や文化財に対する理解を深めてもらうため、 平城宮跡資料館や遺構展示館、東院庭園、朱雀門、第一次大極殿の復原建物等の案内・解説を行う平城宮跡解説ボランティアの運営を実施する。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中康成

【スタッフ】渡邉淳子［企画調整部］、村上加代子、車井俊也［以上、研究支援推進部］

【主な成果】
高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。

【年度実績概要】
この事業は 10 年を超え総体的に定着してきている。定点解説のほか、予約及び当日受付した来場者を対象に「ツアーガイド」として宮跡内散策に同行し解説を行った。
活動者に対しては、奈良文化財研究所が主催する専門研修及び他機関のボランティアが文化財関係を解説する場に赴き臨地研修を実施した。また、活動拠点でもある平城宮跡資料館が企画する展示ごとに、展示趣旨の解説をその都度研究所研究員により実施した。
各個人の研さんに加えてガイド技術の熟達を促進し、運営の充実を図った。
さらには、解説機会の充実のため、平城宮跡への招客チラシなどを適所に配布し、その広報に努めた。


解説中：朱雀門より第一次大極殿

【実績値】
・平城宮跡解説ボランティア登録数：173 名
・解説活動日数　307 日
・解説活動数延べ　4,045 人（1 日あたり 13 人）
・ボランティア解説を受けた来場者延べ人数：約 124，492 人
・ボランティアに対する学習会等
　平城宮跡資料館秋期企画展示研修　3 回
　〃　　春期企画展示研修　1 回
　講演形式専門研修　2 回
　臨地ガイド研修　1 回

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6421

自己点検評価調書

研 No. 75

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
適時性：来訪者の様々な知識需要・必要性に対し、その場にて十分な対応が出来た。
発展性：多種多様な層の来訪者へ解説ができ、その反響は大きかった。
効率性：解説に係る時間的・人的投資は効率よく出来た。
継続性：年間を通して、とぎれず継続した解説者の配置を行うことが出来た。
正確性：研修で得た知識・経験を基に正確な情報を伝えることが出来た。

2．定量的評価

観点	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ登録数	解説受講者数				
判定	A	A				

備考
定点解説、ツアーガイド数とも順調に伸びを維持しており、平城宮跡をはじめとする文化財への理解を広めることに大きく貢献した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ボランティアによる解説を通じて文化財の理解を広めることに大きく貢献した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	解説するボランティアへの学習・研修機会を提供し、そのレベル向上につなげ、登録ボランティア数の維持、繰り返した広報による解説受講者数の増加を図ることなどボランティア運営に対する積極的な支援が順調に実現できたと考える。 今後もこのペースを維持し、奈良文化財研究所の情報発信、さらには平城宮跡の公開活用につながるよう力を注ぎたい。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6431
（様式 1）

業務実績書

研 No. 76

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加（(4)-③）

【事業概要】平城宮跡内でのマナー向上や防災・防犯に関して、平城宮跡みまもり隊へ参加することにより、平城宮跡内でのマナー向上や防災・防犯に寄与する。

【担当部課】	研究支援推進部研究支援課	【プロジェクト責任者】	研究支援課長　紅林　孝彰

【スタッフ】
（今西康益、宮本隆行）

【主な成果】
平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。

【年度実績概要】
毎月 1 回活動を実施した。(8 月及び雨天は実施しない)
4 月 30 日（土)、6 月 25 日（土)、7 月 24 日（日)、9 月 25 日（日)、10 月 29 日（土)、1 月 29 日（日）
3 月 25 日（日）

毎回平城宮跡を南回りと北回りの班に分けて宮跡内を 1 時間から 2 時間かけて歩き、平城宮跡来訪者に防犯メッセージが書かれたティッシュペーパーの配布やマナー向上、火災や宮跡内にある看板等の毀損予防のパトロール活動を行った。この活動を通じて平城宮跡来訪者に対してマナーの向上や防災・防犯意識を高める活動を行った。この活動は、地元の警察署、消防署や県などの行政機関や NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク等の協力連携のもと行われている。

【実績値】
実施回数　年 7 回実施
延べ参加人数 111 人

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6431

自己点検評価調書

研 No. 76

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：市民ボランティアと共に活動を行った。
発展性：参加者はみまもり隊員に加え一般市民も加わることもあった。
継続性：年間計画に従って活動を行い、連続的な社会還元が出来た。

2．定量的評価

観点	開催回数	参加者数				
判定	A	A				

備考
雨天により実施出来ない日以外は予定通り実施した。参加者は延べ 111 人が参加した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	実施回数は 7 回開催し、参加者数は延べ 111 人と多数の参加者があった。 宮跡内の問題事項等について、警察等と協力して問題解決に尽力した。 マナー啓発看板を設置し宮跡来場者のマナー向上を図った。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	宮跡のパトロールに定期的に参加するとともに、定期開催日以外にも宮跡内のパトロールを行い、宮跡内の来訪者の安全・安心に寄与した。 今後も啓発看板の設置、パトロール回数、パトロール時間の検証を行うことにより、効果的なパトロールを実施する。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6441

業務実績書

研 No. 77

中期計画の項目	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	ＮＰＯ法人等への支援（(4) －④）

【事業概要】
平城宮跡で活動しようとする各種ボランティア、また文化財関係のボランティアに対して要請があれば、奈良文化財研究所施設を活動の場所として提供することや、文化財に関する学習会等への講師の派遣を行う等の支援を行い、ボランティア団体の育成に寄与する。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　田中康成

【スタッフ】
村上加代子、車井俊也［以上、研究支援推進部］

【主な成果】
ボランティア団体への支援は、その育成につながった。

【年度実績概要】
平成 13 年 11 月に設立された「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、活動場所、講師の派遣など積極的な活動支援を行った。
特に今期は、共催で「平城っ子歴史教室」を実施し、年間を通して連続した支援ができた。


「平城っ子歴史教室」現場にて

【実績値】
奈良文化財研究所が支援し，ボランティアが実施した主な事業名称，回数，活動場所，従事ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ数，参加者数
平城っ子歴史教室　　11 回開催，平城宮跡資料館講堂ほか，ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ延べ 66 名，参加者数延べ 220 名
平城宮跡歴史文化講座（講演会）　3 回開催，平城宮跡資料館講堂，ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ延べ 55 名，参加者数延べ 678 名
平城宮跡歴史文化講座（遺跡見学会）　1 回開催，飛鳥藤原地区、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ延べ 8 名，参加者数延べ 24 名（講師派遣）
万葉集勉強会　　12 回開催，平城宮跡資料館小講堂，ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ延べ 48 名，参加者数延べ 240 名
拓本づくり教室　　1 回開催，平城宮跡資料館，ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ延べ 8 名，参加者数延べ 26 名

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6441

自己点検評価調書

研 No. 77

1．定性的評価

観点	継続性	効率性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
継続性：支援事業は、継続的に実施された。
効率性：奈良文化財研究所の施設を有効かつ効果的に使用し、参加者への広報・成果発表につながった。
発展性：子供達等の将来につながる好影響のある体験学習を実施した。

2．定量的評価

観点	支援事業数等					
判定	A					

備考
支援事業の定量（従事ボランティア数、講師派遣数、参加者数）については、順調である。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城っ子歴史教室、平城宮跡歴史文化講座等への講師派遣、活動場所提供の支援を行い、活動の活性化に貢献した。 これらを総合的に判断して、Aと認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ボランティア団体の活動要請に対し、積極的に支援し、各事業が行われた。 今後も各種ボランティア育成に寄与したい。

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7111-1
（様式 1）

業務実績書

研 No. 78

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言(1)

【事業概要】
地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・活用などの事業に対し助言を行う。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長　宮田繁幸

【スタッフ】
高桑いづみ、飯島　満、菊池理予、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）

【主な成果】
平成 23 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等について、文化庁文化財部伝統文化課に対し無形文化遺産保護条約に関する助言をはじめ、32 件の助言を実施した。

【年度実績概要】
平成 23 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の助言を行った。

1　文化庁文化財部伝統文化課への助言（無形文化遺産保護条約への対応に関して）　3 件
2　農林水産省大臣官房政策課への助言（「和食」のユネスコ無形文化遺産代表一覧表への提案に関して）　4 件
3　(財)伝統文化活性化国民協会への助言（全国神楽協議会、無形文化遺産記録所在情報データベースに関して）　5 件
4　(財)日本青年館への助言（全国民俗芸能大会に関して）　2 件
5　(独)日本芸術文化振興会への助言(文楽公演、芸術文化振興基金助成事業に関して）　4 件
6　山口県下松市への助言（筵織り技術の記録・伝承活動 事業に関して）　1 件
7　佐賀県立博物館への助言（寄贈楽器に関して）　2 件
8　出雲古代歴史博物館への助言（展示楽器に関して）　3 件
9　日本放送協会への助言（放送内容に関して）　1 件
10　日本ユネスコ協会連盟への助言（プロジェクト未来遺産運動に関して）　2 件
11　早稲田大学演劇博物館への助言（映像演劇学連携研究拠点事業に関して）　3 件
12　浮世絵木版画彫摺技術保存協会への助言（後継者養成事業成果物に関して）　2 件

【実績値】
助言件数　32 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7111-1

自己点検評価調書

研 No. 78

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	助言件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、依頼を受けて行うものであり、あらかじめ個々の助言について予定することは出来ないが、本年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼がコンスタントに寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものと考える。以上の状況を総合的に判断して、Ａと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年通り、多様な助言依頼に対応できており、計画は順調に達成できた。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7111-2
（様式 1）

業務実績書

研 No. 79

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言(1)

【事業概要】
地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター副センター長　岡田健

【スタッフ】
石崎武志、中山俊介、北野信彦、朽津信明、犬塚将英、早川典子、森井順之、佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター)、川野邊　渉、山下好彦（以上、文化遺産国際協力センター)、楠　京子、大河原典子（客員研究員）

【主な成果】
今年度は、件数として 33 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。

【年度実績概要】
・国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言(川野邊渉、中山俊介、朽津信明、早川典子、森井順之)
・特別史跡・キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言(川野邊渉、中山俊介、早川典子、森井順之)
・厳島神社の保存修復に関する指導助言(川野邊渉、北野信彦、早川典子、森井順之)
・国宝臼杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言(川野邊渉、森井順之、早川典子、朽津信明)
・重要文化財霧島神宮本殿の修復に関する指導助言(川野邊渉、中山俊介、早川典子、森井順之、朽津信明、佐藤嘉則)
・天野山金剛寺所蔵重要文化財大日如来座像の修復に関する指導助言(朽津信明、早川典子)
・国宝法界寺阿弥陀堂壁画の保存状態及び搬出に関する指導助言(早川典子)
・国宝都久夫須麻神社本殿の蒔絵修理に科する指導助言(北野信彦)
・国宝瑞巌寺本堂の塗装彩色修理に関する指導助言(北野信彦)
・重要文化財菅尾磨崖仏の修復に関する指導助言(森井順之)
・国宝薬師寺東塔初層内部彩色の保存方法に関する指導助言(早川典子、朽津信明、楠京子)
・重要文化財輪王寺慈眼堂廟塔附石造六天像の保存修復に関する指導助言(森井順之)
・日光二社一寺の世界遺産環境モニタリングに関する指導助言(川野邊渉、森井順之)
・史跡佐渡金銀山遺跡の保存管理計画に関する指導助言（中山俊介)
・史跡韮山反射炉の保存修復に関する指導助言（中山俊介)
・史跡萩反射炉の保存修復に関する指導助言（中山俊介)
・史跡原爆ドームの保存技術に関する指導助言（中山俊介)
・史跡竹原古墳の保存管理に関する指導助言（森井順之、犬塚将英)
・史跡屋形古墳群などうきは市内装飾古墳群の保存管理に関する指導助言（石崎武志、川野辺渉、朽津信明、森井順之、犬塚将英)
・大倉集古館所蔵重要美術品五層石塔の保存修復に関する指導助言（朽津信明、森井順之)
・東京都指定文化財候補地の史跡整備に関する指導助言(北野信彦)
・京都市中出土歴史資料の保存修復及び分析に関する指導・助言（北野信彦)
・高知城下町西広小路遺跡出土漆製品の整理及び分析に関する指導助言(北野信彦)
・広島県指定重要文化財磨崖和霊石地蔵の保存修理に関する指導助言(朽津信明、森井順之)
・大分県指定史跡羅漢寺五百羅漢の保存、記録に関する指導助言(森井順之)
・旧モーガン邸中門の塗装の修復に関する指導助言(朽津信明、早川典子)
・あるぜんちな丸 1 等食堂の漆棚の修復に関する指導助言(朽津信明、山下好彦、早川典子)
・明治村学習院長官舎の修復に関する指導助言(朽津信明、早川典子)
・塩尻市小野家住宅部材の塗装修理に関する指導助言(北野信彦)
・三佛寺奥院（投入堂）部材の塗装調査に関する指導助言(北野信彦)
・万世特攻平和祈念館の保存機体、部品及び紙資料の保存・修復に関する指導助言(中山俊介)
・早稲田大学演劇博物館所蔵のフィルモン音帯の保存・修復に関する指導助言(中山俊介、大河原典子)
・重要文化財加悦鉄道 123 号機関車の保存修復に関する指導助言(中山俊介)

【実績値】
指導助言実施件数　：　33 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7111-2

自己点検評価調書

研 No. 79

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者の方々あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、私たちも、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることが出来た。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は、件数は 33 件であった。指導助言の内容に関してはも多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、当研究所においても新たな知見を得るように努力する。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7111

業務実績書

研 No. 80

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言（(1) －①）

【事業概要】
平城宮跡の隣接地や平城京の寺院跡などの重点地区内における小規模開発に対し、宮および宮周辺における奈良時代を含む各時代の土地利用の実態把握と、遺構深度などを明らかにする目的で、発掘調査を実施した。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長　井上和人

【スタッフ】
小池伸彦、芝康次郎、諫早直人、神野恵、森川実、青木敬、今井晃樹、石田由紀子、川畑純、渡辺晃宏、馬場基、山本祥隆、箱崎和久、大林潤、鈴木智大、海野聡（以上、都城発掘調査部）、
中村一郎、栗山雅夫、鎌倉綾（以上、企画調整部）

【主な成果】
平成 23 年度は、平城京域において、個人住宅・集合住宅等の建設にともなう計 5 件の発掘調査を実施した。その結果、平城京右京三条一坊一坪で奈良時代とみられる柱穴などを検出した。また、海龍王寺旧境内でも調査をおこなったが、奈良時代の遺構は確認できなかった。このほか、西大寺旧境内（薬師金堂付近）では薬師金堂の基壇が削平を受けており、調査地には遺存していないことが判明した。また左京三条一坊十坪では、奈良時代の柱穴を数基検出している。

【年度実績概要】
平城宮に密接に関連する平城京域発掘調査への援助・助言は計 5 件あり、そのいずれもが開発行為（個人住宅建設等の建設）にともなう事前発掘調査である。発掘調査の総面積は 166 ㎡、調査期間は平成 23 年 4 月 11 日～平成 24 年 3 月 22 日で、延べ 28 日間におよぶ。

次数	調査地	調査原因	面積	期間	概要
482	海龍王寺旧境内	住宅建設	12 ㎡	2011.04.11～2011.04.15 実質 5 日	近現代の遺構を検出したが、これ以前は削平。
484	平城京右 3-1-1	住宅建設	33 ㎡	2011.07.21～2011.07.27 実質 5 日	奈良時代の柱穴と、それ以前の流路を確認。
485	西大寺旧境内	山門建設	20 ㎡	2011.08.22～2011.08.30 実質 6 日	西大寺薬師金堂推定地。基壇は削平、近代以降の盛土のみを確認。
487	平城京右 3-1-1	住宅建設	21 ㎡	2011.10.03～2011.10.07 実質 5 日	東西溝 1 条を検出したが、これ以外に遺構なし。
490	平城京左 3-1-10	住宅建設	80 ㎡	2012.03.12～2012.03.22 実質 7 日	奈良時代の柱穴数基、溝 1 条を検出。

上記の発掘調査のうち、第 484 次・第 487 次は平城京右京三条一坊一坪の調査である。後者では東西溝を検出したにとどまったが、前者では奈良時代の柱穴を検出し、その下層で埋没流路を確認した。また、第 482 次は海龍王寺旧境内の調査。近現代遺構を検出したものの、奈良時代の遺構は発見していない。第 485 次は西大寺旧境内・薬師金堂の発掘調査である。西側隣地ではこれまでに薬師金堂の基壇を検出していたが、この調査では基壇が削りとられ、近世以降の盛土を確認したにとどまった。このほか、第 490 次では奈良時代の柱穴などを数基検出している。
出土遺物はいずれの調査においても僅少である。



第 484 次調査（西から）

【実績値】
論文等数　：論文：1 件①　　援助･助言：5 件
出土品　瓦磚など 8 箱、土器 3 箱
記録作成数：実測図 11 枚、遺構写真（4×5）約 12 枚

【備考】
①森川実「平城京右京三条一坊一坪の調査－第 484 次－」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7111

自己点検評価調書

研 No. 80

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性	効率性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：奈良県教育委員会および奈良市教育委員会の要請に迅速に対応し、発掘調査を実施した。
継続性：データ収集のため、規模の大小にかかわらず発掘調査を継続的に実施した。
正確性：文化財行政に協力し、正確な調査を実施した。
効率性：緊急性を要する発掘調査に効率的に対応した。

2．定量的評価

観点	援助・助言実施件数	論文件数				
判定	A	A				

備考
対象地区内の開発行為に、すべて対応した。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体から要請のあった緊急性を要する発掘調査に効率よく対応し、平城宮・京についての基礎資料を継続的に蓄積していることからＡと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮・京の構造や変遷を検討するために有効な基礎データを得た。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7112

（様式 1）

業務実績書

研 No. 81

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言（(1) －①）

【事業概要】

飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】

玉田芳英、清野孝之、降幡順子、石橋茂登、山本 崇、黒坂貴裕、渡辺丈彦、廣瀬 覚、庄田慎矢、木村理恵、小田裕樹、若杉智宏、高橋 透、森先一貴、橋本美佳、番 光、高橋知奈津［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、栗山雅夫･岡田愛［以上、企画調整部］

【主な成果】

藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 13 件あり、主に現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、藤原宮跡東面大垣の調査（168-2 次）では、極めて遺存状態の良好な門遺構とそれに接続する大垣を確認した。

【年度実績概要】

藤原宮跡および飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 13 件あり、主に特別史跡内の現状変更に対する事前調査である。

次　数	調査地	調査原因	面積	調査期間	概　要
168-1 次	藤原宮跡東方官衙北地区	建物建設	102 ㎡	2011.4.4～4.22	古墳時代南北溝検出
168-2 次	藤原宮跡東面中門･大垣	建物建設	200 ㎡	2011.7.19～8.30	東面中門等検出
168-3 次	藤原宮跡大極殿院･朝堂院	看板設置	4 ㎡	2011.4.27	遺構面に達せず
168-4 次	藤原宮跡外周帯	建物建設	3 ㎡	2011.8.9	遺構面に達せず
168-5 次	藤原宮跡東方官衙北地区	建物建設	127 ㎡	2011.9.12～10.7	掘立柱建物等検出
168-6 次	藤原宮跡東方官衙北地区	建物建設	48 ㎡	2011.10.3～10.18	掘立柱建物等検出
168-7 次	藤原宮跡東方官衙北地区	建物建設	157 ㎡	2011.9.22～10.24	東西溝等検出
168-8 次	藤原京左京二条二坊	水路改修	294 ㎡	2011.12.5～2012. 1.25	東西溝等検出
168-9 次	藤原京右京七条一坊	水路改修	20 ㎡	2012.2.6～2.24	南北溝等検出
168-10 次	藤原宮跡内裏	池堤防補修	12 ㎡	2012.2.22～3.8	遺構面に達せず
168-11 次	山田寺	水路改修	15 ㎡	2012.2.27	遺構面に達せず
168-12 次	藤原宮跡東方官衙北地区	道路拡幅	145 ㎡	2012.3.7～8	遺構面に達せず
168-13 次	藤原宮跡内裏西官衙地区	看板設置	1 ㎡	2012.3.15	遺構面に達せず

以下、第 168-5～7 次調査の成果を述べる。

本調査は、住宅および擁壁の建設に伴う事前調査で、調査地は藤原宮東方官衙北地区にあたる。調査の結果、まず先行四条条間路北側溝と南側溝に相当する東西溝を検出した。また、この溝より南に 14m の位置で、東西方向の柱穴列を検出した。北側には柱穴が展開しないことから、東西棟建物の北側柱列か掘立柱塀の一部と考えられる。藤原宮東方官衙に関連する遺構の可能性があり、遺構配置に新たな知見を得ることができた。このほか、正方位にのらない 2 条の柱穴列や、出土遺物から古墳時代に属すると考えられる斜行溝 2 条を含む、4 条の斜行溝を検出した。今回検出した柱穴や東西溝は非常に浅く、後世にかなりの削平を受けていることが判明したものの、東方官衙に関連する藤原宮期の遺構および、古墳時代の遺構の存在を確認することができた。



168-5～7 次調査区全景（東から）

【実績値】

援助･助言：13 件

報告書刊行数：1 冊①　論文等数：5 件②

出土遺物：木器・木製品 20 点、木簡 3 点、建築部材 15 点、金属製品 5 点、石器・石製品 27 点、
土器・土製品コンテナ 37 箱、軒丸瓦 6 点、軒平瓦 5 点、丸･平瓦コンテナ 13 箱、(168-1～13 次の合計)

記録作成数：遺構実測図 68 枚、写真（4×5）212 枚（168-1～13 次の合計）

【備考】

①『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）

②黒坂貴弘「2010 年度 都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）小規模調査等の概要」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）　ほか 4 件

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 7112

(様式 2)

自己点検評価調書

研 No. 81

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				

備考

適時性：開発行為に対する迅速性、地方公共団体の文化財行政に対して協力した。
継続性：飛鳥・藤原地域に関する遺跡情報の収集のために、規模の大小にかかわらず、調査を継続して行った。

2. 定量的評価

観点	援助・助言数	論文等数				
判定	A	A				

備考

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年間 13 件の案件に対して、迅速かつ適切に対応し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して協力することができた。また、これらの調査を通して継続的に遺跡のデータを収集し、蓄積を図ったことから、総合的にＡと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7113

（様式 1）

業務実績書

研 No. 82

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（(1)－①）

【事業概要】

地方公共団体等が行う遺跡、建造物等の調査・整備・修復・保存等について、専門委員会委員への就任等を通して、必要な事項に関し協力・助言を行う。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

【主な成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

【年度実績概要】　主な協力・助言

・奈良市文化財保護審議会出席（奈良県）
・郡里廃寺跡整備検討委員会出席（徳島県）
・平成 23 年度辰馬考古資料館評議員会出席（兵庫県）
・野洲市歴史民俗博物館協議会出席（滋賀県）
・神戸市文化財保護審議会出席（兵庫県）
・和歌山県文化財保護審議会出席（和歌山県）
・伝統的建造物群保存対策調査委員会出席（滋賀県）
・宇治市文化的景観検討委員会検討会出席（京都府）
・史跡大内氏遺跡保存修理事業に係る現地指導（山口県）
・特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別名勝毛越寺庭園に係る指導（岩手県）
・特別史跡百済寺跡再整備検討協議会出席（大阪府）
・平成 23 年度飛騨市文化財保護審議会出席（岐阜県）
・縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委員会出席（青森）
・周防国府跡保存対策協議会専門委員会出席（山口県）
・平成 23 年度史跡法鏡寺廃寺跡保存整備計画事業の指導（大分県）
・下寺尾七堂伽藍跡等調査検討委員会出席（神奈川県）
・国史跡古津八幡山遺跡古墳確認調査現地指導（新潟県）
・特別史跡新居関跡整備委員会建築専門部会出席（静岡県）
・青谷上寺地遺跡発掘調査委員会出席（鳥取県）
・鬼城山発掘調査報告書作成に係る指導（岡山県）
・史跡福井洞窟発掘調査における指導と助言（長崎県）
・史跡千足古墳石障調査に関する現地指導（岡山県）
・史跡妻木晩田遺跡の発掘調査に係る助言（鳥取県）
・平成 23 年度宮畑遺跡整備指導委員会出席（福島県）
・平成 23 年度斑鳩町文化財活用センター運営委員会出席（奈良県）
・史跡城ノ越遺跡における現地指導（大分県）
・上ノ村遺跡出土木製井筒保存処理に係る指導（高知県）
・国宝島根県荒神谷遺跡出土品の保存処理（島根県）
・宮畑遺跡露出展示遺構面の安定化処理に係る現地指導（福島県）
・平成 23 年度原の辻遺跡調査指導委員会出席（長崎県）

【実績値】

協力・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）315 件
（委員会出席 170、審議会出席 10、その他（現地指導、現地調査等）135）

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7113

自己点検評価調書

研 No. 82

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：実施業務に適時・適切な対応
発展性：的確な協力・助言による実施業務の順調な実現
継続性：依頼機関への対応

2．定量的評価

観点	協力・助言実施件数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、的確に協力・助言を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・修復事業や、建造物の調査、修復事業について、各担当機関から専門的な協力・助言を求められ、適時・適切に対応している。奈良文化財研究所に対する社会的要求に応えるべく、今後も的確に対応する。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7121
（様式 1）

業務実績書

研 No. 83

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施（(1)－②）

【事業概要】
地方公共団体等がおこなう文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、共同研究及び受託研究を実施する。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

【主な成果】
地方公共団体等がおこなう文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等をおこなった。

【年度実績概要】
地方公共団体等がおこなう文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。

・文化遺産国際協力拠点交流事業
・相川地区文化的景観　景観変遷・景観構造調査
・比叡山延暦寺建造物調査
・朱雀大路緑地遺跡発掘調査
・興福寺北円堂門跡・回廊跡の発掘調査
・藤原宮跡（法花寺水路改修）発掘調査
・平成 23 年度小竹貝塚出土骨角器同定調査業務
・周防国庁における総合的探査
・出雲大社建築金物の材質分析
・永保寺開山堂の年輪年代補足調査および観音堂の年輪年代調査
・文化庁事業「発掘調査のてびき－各種遺跡調査編－」など

このほか、東京大学や早稲田大学、都道府県教育委員会等と分担して計 10 件の研究を行った。

【実績値】
受託研究件数　33 件

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7121

自己点検評価調書

研 No. 83

1．定性的評価

観点	適時性	正確性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：実施業務に適時・的確な対応
正確性：実施業務に対し、正確な調査等を実施
継続性：依頼機関への対応

2．定量的評価

観点	受託研究件数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等からの依頼に対し、これまで研究所が培ってきた研究成果、調査技術等を活かし、的確な受託研究等をおこなうことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	地方公共団体等からの受託研究に迅速、かつ的確に対応している。 今後も、わが国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく他機関と共同して研究等に取り組んでいく。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7131

（様式 1）

業務実績書

研 No. 84

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）（(1)-③）

【事業概要】

災害により被災した文化財の保護のため、文化庁の要請を受け、国立文化財機構は東京文化財研究所に事務局を設置し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）を実施する等、地方公共団体等に対する支援・協力を行う。

【担当部課】	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局	【プロジェクト責任者】	副事務局長　岡田　健

【スタッフ】

亀井伸雄（委員長、所長）、石﨑武志（事務局長、副所長）、六川真五（事務総括、研究支援推進部長）、高柳　明、髙砂健介（以上、研究支援推進部）、森井順之、朽津信明、早川泰弘、吉田直人、木川りか、佐野千絵（以上、保存修復科学センター）山梨絵美子、二神葉子、綿田　稔、塩谷　純、江村知子、皿井　舞、（以上、企画情報部）、飯島　満、今石みぎわ、菊池理予（以上、無形文化遺産部）

【主な成果】

1）東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を設置した。
2）被災文化財レスキュー事業を実施した。

【年度実績概要】

1．東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を設置した。

文化庁によって「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業」が開始され、東京文化財研究所内に救援委員会事務局が設置された。

2．被災文化財レスキュー事業を実施した。

「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）実施要項」（平成 23 年 3 月 30 日文化庁次長決定）に基づき、文化庁及び被災地各県と協力して、東北地方太平洋沖地震によって被災した動産文化財（美術工芸品等）を中心に緊急に保全するとともに、今後に予想される損壊建物の撤去等に伴う我が国の貴重な文化財等の廃棄・散逸を防止することを目的とした活動を行った。

活動内容としては、被災文化財等の所在等に関する情報収集、被災文化財等の救出及び保管、緊急の保存及び応急措置、救出した文化財等の情報管理等を行った。

また、文化庁をはじめとする構成団体（26 団体）に対し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（4 回）を開催し、情報の共有を図った。

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7131

自己点検評価調書

研 No. 84

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	被災地各県教育委員会等からの要請に応じた、被災文化財等の救援活動を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事務局を設置し、東日本大震災により被災した文化財のレスキュー事業を開始することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7211
（様式 1）

業務実績書

研 No. 85

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	埋蔵文化財担当者研修の実施（(2)－①）

【事業概要】
地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。
研修受講者のうち平均 80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。

【担当部課】	企画調整部 研究支援推進部総務課	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　難波洋三 総務課長事務取扱 多　昭彦

【スタッフ】
森本　晋［企画調整部］、大西俊隆、桑原隆佳、岩永恵子、橋本牧枝［以上、研究支援推進部］
（研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。）

【主な成果】
遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修 13 課程の研修を実施し、延べ 136 名が受講した。
研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。

【年度実績概要】
専門研修 13 課程を実施し、延べ 136 名が受講した。
また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100%の者から『思う』の回答を得た。

		実施期日（日数）				定員	受講者数	満足度
専門研修	建築遺構調査課程	6 月 13 日	～	6 月 17 日	（5 日）	12 名	9 名	100%
	建造物保存活用基礎課程	6 月 20 日	～	6 月 24 日	（5 日）	16 名	20 名	100%
	石器・石製品調査課程	9 月 12 日	～	9 月 16 日	（5 日）	10 名	14 名	100%
	自然科学的年代測定法課程	9 月 26 日	～	9 月 30 日	（5 日）	12 名	3 名	100%
	保存科学Ⅰ（金属製遺物）課程	10 月 4 日	～	10 月 13 日	（10 日）	10 名	7 名	100%
	保存科学Ⅱ（木製遺物）課程	10 月 13 日	～	10 月 21 日	（9 日）	10 名	6 名	100%
	遺跡測量課程	10 月 26 日	～	11 月 2 日	（8 日）	10 名	4 名	100%
	遺跡情報記録調査課程	11 月 14 日	～	11 月 18 日	（5 日）	16 名	8 名	100%
	文化財写真課程	11 月 28 日	～	12 月 8 日	（11 日）	10 名	12 名	100%
	報告書作成課程	12 月 8 日	～	12 月 16 日	（9 日）	16 名	11 名	100%
	遺跡等環境整備課程	1 月 10 日	～	1 月 20 日	（11 日）	12 名	13 名	100%
	保存科学Ⅲ（応急処置）課程	2 月 6 日	～	2 月 10 日	（10 日）	10 名	20 名	100%
	地質環境調査課程	2 月 14 日	～	2 月 22 日	（9 日）	16 名	9 名	100%

【実績値】
実施課程数　13 課程
受講者数　136 人
受講者の満足度　100%

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7211

自己点検評価調書

研 No. 85

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：公共性、緊急性への対応
独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性
発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上
効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性

2．定量的評価

観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
判定	A	B	A			

備考
実施課程数　13 課程
受講者数　136 人
受講者の満足度　100％

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、7 つの課程において研修内容を改めて、真に地方公共団体が求める研修を実施し、当初予定していた 13 課程を予定通り行った。受講者数について、年度計画の延 160 人に対して 136 人という結果となった理由としては、厳しい財政事情等のやむを得ない事情もあったかと思われる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度の研修実績について、受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』或いは『役に立った』」と『思う』との回答が 100％という結果であった。 今後も本研究所では、真に地方公共団体が求める研修、さらには厳しい財政事情のなか、対費用効果を十分に勘案しながら研修事業の充実を図りたい。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7221

（様式 1）

業務実績書

研 No. 86

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（(2)-②）

【事業概要】

「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」は、全国の文化財施設で資料保存を担当する職員を対象に、主に自然科学的知見に基づいた保存に関する基本的な知識や技術を学んで頂くことにより、現場における保存環境の向上と資料管理に資することを目的として開催するものである。また、本研修受講経験者を対象に、最新の保存に関する知見を提供することを目的とした「保存担当学芸員フォローアップ研修」や、地方に出向いて、文化財保存担当者などに基礎的な知識を提供する「資料保存地域研修」なども適宜実施する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】

佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英（以上、保存修復科学センター）

【主な成果】

第 28 回保存担当学芸員研修、保存担当学芸員フォローアップ研修、第 16 回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。

【年度実績概要】

今回で 28 回目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を 7 月 11 日から 7 月 22 日の 2 週間実施した（参加者 27 名）。例年通り、前半週では主に保存環境や生物被害対策に関し、後半週では、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義と実習から成るカリキュラム構成で研修を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は八千代市立郷土博物館で実施し、3 人ないし 4 人ずつのグループがそれぞれ実習テーマを設定し、保存環境に関する調査と評価を行った。この研修により、受講生は、資料保存に対する基礎的な知識と、方法論を習得した。また、今回は東日本大震災により、甚大な文化財への被害が生じたことを受け、被災文化財の応急処置などに関して、研究と実践に基づいた講義や実習をカリキュラムに組み込んだ。

今年度は他に下記にあげる 2 つの研修会を行った。

・「保存担当学芸員フォローアップ研修」（6 月 27 日）

保存担当学芸員研修受講経験者を対象に、資料保存に関する新しい知見や情報を伝えることを目的とし、生物被害対応、および水損紙資料の応急処置に関する講義を行った（参加者 87 名）。

・「第 16 回資料保存地域研修」（11 月 16 日～11 月 17 日）

熊本市現代美術館において開催し、温湿度や照明といった保存の基礎、および現代美術館の保存環境に関する講義を行った（参加者　67 名）。

今年度実施した上記の研修では、どれも 100%またはそれに近い非常に高い満足度を得た。

【実績値】

実施回数　1 回　研修受講者数　27 名　受講者の満足度　100%

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7221

自己点検評価調書

研 No. 86

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
保存担当者にとって、自然科学的基礎に立脚した環境管理を学ぶ場は非常に少ないため、本研修は毎年定員の 2～3 倍の応募者を集めるほど貴重な機会となっている。これまでに受講者は 700 名に達しようとしており、全国の文化財保存施設で、資料を良好な状態で後世に伝える重責を担っている。また、受講生と我々の間で電子メールなどによる人的ネットワークを構築し、研修後も様々な相談や情報交換を行う体制を作っており、アフターケアも万全といえる。今年度、被災文化財に関する講義を組み込んだように、カリキュラムは完全に固定したものではなく、基礎に重きを置きながら、保存環境を取り巻く状況の変化に対応したカリキュラム作りを心がけている。

2．定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				

備考
今年度の「保存担当学芸員研修」には全国から 27 名が参加し、実施後のアンケート調査により 100%の満足度を得た。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研修参加者数、アンケートによって得られた参加者の満足度ともに、高評価に値するものであるといえる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	毎年、継続して実施しており、参加者、満足度ともに非常に高いレベルを維持するよう、内容の充実と講義能力の向上を図ってきた。今後も、現場でのニーズや情勢変化に応じた柔軟なカリキュラム編成を心がける所存である。

【書式Ｂ】
（様式 1）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7231

業務実績書

研 No. 87

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	連携大学院教育　東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）（(2)-③）

【事業概要】
平成 7 年 4 月より東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21 世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の 2 講座から成る。6 名の所員が連携教員として授業を開講している。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存科学研究室長　佐野千絵（教室主任）

【スタッフ】
佐野千絵、石崎武志、木川りか、中山俊介、北野信彦、朽津信明（以上、保存修復科学センター）

【主な成果】保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また、実習である文化財保存学演習を 1 コマ担当した。

【年度実績概要】
連携教員は、保存環境学講座に石崎武志連携教授（副所長・保存修復科学センター長）、佐野千絵連携教授（保存科学研究室長）、木川りか連携准教授（生物科学研究室長）の 3 名、また修復材料学講座に、北野信彦連携教授（伝統技術研究室長）、中山俊介連携教授（近代文化遺産研究室長）、朽津信明連携准教授（修復材料研究室長）の 3 名、及び古田嶋智子 助手（東京藝術大学大学院 教育研究助手）。

今年度開講した授業（主たる担当教員）は以下のとおりである。

保存環境計画論（前期）　　佐野千絵 連携教授
修復計画論　　（前期）　　北野信彦 連携教授
修復材料学特論（前期）　　中山俊介 連携教授・朽津信明 連携准教授
保存環境学特論（後期）　　石崎武志 連携教授・木川りか 連携准教授

この他、東京藝術大学教員との分担による科目として以下を実施した。

文化財保存学演習（平成 23 年 6 月 14 日）「考古・民俗資料の保存修復に関する講義及び実習」
担当：北野信彦 連携准教授　於：東京文化財研究所



文化財保存学演習　実習の様子

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7231

自己点検評価調書

研 No. 87

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	正確な知識や技術、情報やデータを元に、授業を展開している。明日の文化財保存修復を担う若い学生にとって、基礎となる土台を作る重要な仕事であり、その影響はきわめて高く、また芸術大学との連携はきわめて効率的であり、その評価は高い。平成 25 年度入試の再開が決まっており、本年の成果を元に、連携教員の開講科目や学生の受け入れ体制などを検討したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	予定していた授業について、順調に開講し、学生への教育に従事した。また、平成 25 年度入学からの学生受け入れについての打合せなどの準備も連携教員内で着々と進められている。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7232
（様式 1）

業務実績書

研 No. 88

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進（(2)－③）

【事業概要】
京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科との協定を締結、連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた次代の研究者及び技術者の育成を図る。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】
松井章、小野健吉、小澤毅（京都大学客員教授）、高妻洋成、清水重敦（京都大学客員准教授）
小池伸彦、渡邉晃宏（奈良女子大学客員教授）

【主な成果
京都大学大学院人間・環境学研究科において 5 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 3 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。
なお、平成 23 年度の受入学生数は京都大学 75 名、奈良女子大学 5 名であった。

【年度実績概要】
京都大学大学院人間・環境学研究科〔共生文明学専攻文化・地域環境論講座文化遺産学分野（客員）〕並びに、奈良女子大学大学院人間文化研究科における平成 23 年度の実施状況については、下記のとおりである。

①小野健吉
「庭園文化論 1」【修士課程 19 名】
「庭園文化論 2」【修士課程 10 名、博士課程 1 名】
「特別研究Ⅰ」【博士課程 1 名】

②清水重敦
「文化・地域環境方法論」【修士課程 12 名】
「共生文明学研究Ⅰ」【修士課程 1 名】
「文化的景観論 1」【修士課程 8 名】
「文化遺産学演習 3A」【修士課程 3 名】
「文化遺産学演習 3B」【修士課程 3 名】

③松井章
「環境考古学論 1」【修士課程 5 名】
「文化遺産学演習 4A」【修士課程 2 名】
「文化遺産学演習 4B」【修士課程 2 名】

④高妻洋成
「保存科学論 1」【修士課程 3 名】
「文化遺産学演習 6A」【博士課程 2 名、修士課程 1 名】
「文化遺産学演習 6B」【博士課程 2 名、修士課程 1 名】

⑤小澤毅
「遺跡調査法論 1」【修士課程 4 名】

⑥深澤芳樹
「歴史考古学特論Ⅰ」【博士後期課程 1 名】

⑦小池伸彦
「文化財学の諸問題Ⅰ」【博士後期課程 1 名】
「文化財学の諸問題Ⅱ」【博士後期課程 1 名】

⑧渡邉晃宏
「歴史資料論Ⅰ」【博士後期課程 1 名】
「歴史資料論Ⅱ」【博士後期課程 1 名】

【実績値】
受入学生（延べ人数）　京都大学：75 名、奈良女子大学：5 名

【備考】
教官研究費及び学生の教育費は連携大学が負担

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7232

自己点検評価調書

研 No. 88

1．定性的評価

観点	効率性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
効率性：研究水準の社会的評価
適時性：時代の要請
発展性：若手研究者層の充実、人材確保

2．定量的評価

観点	受入学生数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調時行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	連携大学院協定に基づき、計画的かつ継続的に実施できた。次期についても、引き続き連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8001

業務実績書(受託事業)

研 No. 6-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	兵庫県近代和風建築総合調査（受託）((1)－③)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室長　林良彦

【スタッフ】
清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、松本将一郎［同部特別研究員］、箱崎和久［都城発掘調査部遺構研究室長］、黒坂貴裕［都城発掘調査部主任研究員］、大林潤、番　光、高橋知奈津、鈴木智大、海野聡［以上、同部研究員］

【年度実績概要】

本年度から 3 カ年を予定している本受託事業では、兵庫県内に所在する明治から昭和初期にかけて建設された文化財的価値を有する近代和風建築のうち、本年度は兵庫県文化財課がおこなった一次調査の結果から選定された 39 件の物件について、その歴史調査、実測調査、技法調査、写真撮影を実施し、配置図及び平面図の作成と文化財としての学術評価を行った。調査成果は学術評価原稿、配置図および平面図、写真について提出した。

調査では、兵庫県内の各市町村から 1 件以上を条件として、各市町村に所在する近代和風建築を現地調査した。建築類型の上では、公共建築として学校、博物館を、住宅建築として町家、農家、邸宅、別荘を、宗教建築として寺院、神社を、商業建築として旅館、料亭をと、多岐にわたる対象を調査した。



四所神社本殿（豊岡市）
昭和 3 年の神社建築

調査の結果として、これまで不明瞭であった兵庫県における近代和風建築の現存状況と、建築類型の広がりの幅が明らかになったこと、近代和風建築の技術の具体相が明らかとなったこと、近代和風建築に関わった施主、設計者、施工者の具体名が多数明らかとなり、近代兵庫における建築事情が解明されつつあることがあげられる。本調査は、文化庁が行っている全国の近代和風建築調査の一環として実施しているものであり、兵庫県に留まらず、日本全体における近代和風建築の研究と保存に対して多大な貢献をなす成果を上げ得るものと考える。

【実績値】
調査票 85 枚、実測野帳 170 点、デジタル写真 5200 点、報告書原稿 108 ページ。

【受託経費】
1,115 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8002

業務実績書(受託事業)

研 No. 6-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	比叡山延暦寺建造物調査（受託）((1) －③)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室長　林良彦

【スタッフ】
箱崎和久［都城発掘調査部遺構研究室長］、黒坂貴裕［都城発掘調査部主任研究員］、大林潤、鈴木智大、海野聡、高橋知奈津［以上、同部研究員］、成田聖［企画調整部任期付研究員］

【年度実績概要】

本年度から 2 カ年を予定している本受託事業では、延暦寺山内に所在する建築物の悉皆調査を行い、そのうち文化財的価値の高い物件については詳細調査を行って、今後の保存と活用に資することを目的とする。本年度は悉皆調査をほぼ終え、東塔文殊楼、浄土院、横川四季講堂の詳細調査として実測調査、技法調査、写真撮影を実施し、平面図、断面図の作成と文化財としての学術評価を行った。調査成果は学術評価原稿、平面図、断面図、写真について提出した。

調査では、中世から現代に至る山内の全ての建築を実査し、このうち絵様等の調査を通じてこれまで必ずしも明らかでなかった近世前期の比叡山における造営の事情がどのようなものであったかが明らかになりつつある。

世界遺産延暦寺の今後の保存管理に資するとともに、近世の大社寺造営の諸相を実地に研究するものとして評価できる。



横川元三大師堂（四季講堂）

【実績値】
調査票 38 枚、実測野帳 70 点、デジタル写真 1800 点、報告書原稿 66 ページ。

【受託経費】
1,204 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8003

業務実績書(受託事業)

研 No. 6-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	旧高梁尋常高等小学校本館建造物調査（受託）((1)－③)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室長　林良彦

【スタッフ】
林良彦［文化遺産部建造物研究室長］清水重敦[文化遺産部景観研究室長]、黒坂貴裕［主任研究員（都城発掘調査部）］

【年度実績概要】

本受託事業は、岡山県高梁市に所在し、現在は高梁市郷土資料館として活用されている旧高梁尋常高等小学校校舎（明治 37 年建築）の建築的価値を明らかにするための調査を実施するものである。

本年は、当該建物の実測調査、建築的特徴・復原考察をおこなう調査票の作成、建物の沿革等に関する史料調査、写真撮影を実施した。

今回の調査により、棟札及び竣工時の写真より、設計者とその関与範囲が判明した。この建物は様式、技術ともに本格的な西洋建築をよく咀嚼しており、文部省の設計関与が想定されるが、設計者は地元大工の妹尾友太郎であった。近隣の公共建築建設に参加することで西洋建築を学んでいったことが想定され、近代における建築技術と様式の伝播を具体的に示す好例として評価することが可能となった。

また、関連して、高梁の旧城下町地区内に現存する明治期の洋風建築を類例として視察し、これらのうちの順正寮（明治 29 年建築）につき、実測、調査票作成、写真撮影を実施した。

調査成果については、次年度に報告書にまとめて印刷刊行する予定である。



旧高梁尋常高等小学校校舎外観
岡山県に多く残る明治期建設の洋風小学校の中でも建設年代が比較的古いもの。スティックスタイルの大振りな玄関が特徴。

【実績値】
実測野帳等　25 枚。デジタル写真　200 点、4×5 ポジ写真 20 点

【受託経費】
1,000 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8004

業務実績書(受託事業)

研 No. 12-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	興福寺北円堂門跡・回廊跡の発掘調査（受託）((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　井上 和人

【スタッフ】
今井晃樹、大林 潤、森川 実、山本祥隆（以上、都城発掘調査部）
中村一郎、栗山雅夫、鎌倉 綾（以上、企画調整部）

【年度実績概要】

本調査は、興福寺境内整備基本構想に基づき計画された。調査区は、北円堂の外周をめぐる回廊と南門を対象とし、調査可能である南面回廊・東面回廊のほぼ全域と、北面回廊中央部に設定した。調査面積は 676 ㎡、調査期間は平成 23 年 7 月 1 日から 10 月 11 日である。

調査では、奈良時代造営当初の回廊を踏襲する北円堂の回廊および南門の遺構などを確認した。

検出した主な遺構は以下の通りである。

・南　門…北東隅および北西隅で基壇土の範囲と基壇外装の据付・抜取痕跡を確認した。回廊の推定中軸線で折り返すと、基壇規模は南北約 8.1m（27 尺）、東西約 10.9m（37 尺）となる。柱や礎石の痕跡は確認できなかった。

・回　廊…北円堂を囲み、南門に取りつく単廊で、基壇外装の一部、礎石据付・抜取穴、暗渠などを検出した。基壇外装は、地覆石と羽目石の一部が残存する。いずれも地獄谷産凝灰岩の切石である。断割り調査の結果、この残存する地覆石に先行する基壇外装の抜取溝を確認した。先行抜取溝は残存地覆石より 1 石分内側にあり、造営当初の基壇外装と考えられる。

基壇の上面では、南面回廊で 5 間分、東面回廊で 13 間分の礎石の据付・抜取痕跡を確認した。


調査区全景（南東から）

防災施設工事にともなう調査で確認された遺構と合わせると、回廊の規模は南北約 43.5m（147 尺）、東西約 44.3m（150 尺）、梁行約 3.3m（11 尺）となり、『興福寺流記』に示された回廊の規模と一致する。

回廊東南隅部では、排水のために設けられた南北方向の暗渠を検出した。暗渠の幅は 0.8mで、底面に石を並べ、側面に平瓦を積んでいる。

・礫敷舗装面…回廊内側の瓦溜りの下で、径 3cm 前後の礫を敷いた舗装面を確認した。遺構の残存状況はよくない。また、回廊外側も径 1cm 程度の小礫を敷き詰めて舗装している。この小礫敷きは地覆石東端から広がっており、雨落溝は設けられていなかったことがわかる。

・近世道路…北円堂の東側を北東から南西に通る道で、『大和名所図会』に描かれる道路と一致する。

【実績値】
論文等数：2 件。「興福寺北円堂院の調査―第 483 次」『奈文研紀要 2012』（予定）2012.6、「興福寺北円堂南門・回廊の調査（平城第 483 次）」『奈文研ニュース』No.43　2011.12
発表件数：1 件（報道発表：平成 23 年 9 月 15 日、現地説明会：平成 23 年 9 月 17 日、聴衆 800 名）
出土品　：瓦 49 箱（軒瓦のみ、その他の瓦約 5700kg）土器 32 箱、木器 1 箱、金属器 85 点、銭貨 25 点、石製品 6 点。
記録作成数：実測図（A2 判）47 枚、遺構写真（4×5）152 枚

【受託経費】
15,139 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8005

業務実績書(受託事業)

研 No. 12-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	薬師寺収蔵庫建設予定地の発掘調査（受託）　((1) －⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　井上和人

【スタッフ】
箱崎和久、馬場 基、諫早直人、石田由紀子（以上、都城発掘調査部）
中村一郎、鎌倉 綾（以上、企画調整部）

【年度実績概要】

本受託授業は、薬師寺の収蔵庫建設にともなう事前調査である。調査地は薬師寺玄奘三蔵院の西方にあたる。調査期間は平成 24 年 1 月 16 日～2 月 24 日。調査面積は約 210 ㎡である。

調査地一帯は、薬師寺旧境内にあたり、奈良時代の苑院推定地で、中世以降は子院が建ち並んでいたと考えられる。調査区内は、かつては田畑および雑木林であり、玄奘三蔵院の建設に際して大規模な盛土造成をおこない、現地表面まで地盤をあげている。今回の調査では、当初、東西 9m、南北 12mの調査区を設定したが、現代の造成土が厚く、土盛地を確保するために調査区を若干縮小して再設定した。この調査によって古代の掘立柱建物を確認したため、この全容を解明する目的で、調査区の北部約 7mを埋めて土盛地を確保し、南東方向に拡張した。

層序は、上から造成土（約 1.6～2m）、旧耕作土（10～20 ㎝）、床土（5～15 ㎝）、地山の順である。遺構は地山面で検出した。主な遺構としては、掘立柱建物 1 棟、自然流路 1 条、南北大溝 1 条、ピット 1 基、井戸 1 基、土坑 6 基などである。以下に主要な遺構について述べる。

掘立柱建物ＳＢ3010　梁行 2 間、桁行 4 間以上の掘立柱南北棟建物。柱間寸法は、梁行が 2.7m（9 尺）、桁行が 2.1 尺（7 尺）。柱掘方は約 0.9mの隅丸方形。北妻中心の柱は、後述する南北大溝 SD3015 に破壊されており、西側柱南方の柱穴 2 基も後世の流路により失われたと考えられる。柱掘方には遺物を含まず、詳細な時期は不明だが、柱掘方の規模や形状から古代の遺構と考えられる。柱穴相互の位置関係のほか、掘方の形状や埋土の類似性から、一連の建物と判断したが、調査区西壁にかかる南北 3 基を東妻とする東西棟で、東方の南北柱穴 5 基が塀と解釈することも可能である。

南北大溝ＳＤ3015　調査区を縦断する素掘りの南北溝。幅 3.1～4.0m、深さ 2.1mで断面 V 字状を呈す。地盤が砂質の軟弱地盤のためか、3 度の掘り直しと 5 度以上の浚渫の痕跡を確認した。埋土には、奈良時代から鎌倉時代初頭までの瓦や土器、木器等を含む。その位置からみて、薬師寺北門から伸びる南北寺内道路（西二坊坊間西小路に相当）の東側溝、もしくは奈良時代の苑院、さらには平安時代以降の子院を区画する溝という複数の解釈が考えられる。

ピットＳＰ3011　調査区東南部で検出した、直径 0.4m の穴。径は小さいが、埋土に大量の土器や瓦などの遺物を含んでいた。いずれも 11 世紀中頃のものである。

今回の調査では、薬師寺苑院推定地で初めて建物遺構を確認することができた。これは、不明な点が多い奈良時代における苑院、あるいは大寺の付属院地の様相を考える上で重要な成果である。また、平安時代から中世にかけての井戸やピット、土坑など遺構から、良好な遺物の一括資料も得ることができ、当該期の土器研究に大きく寄与する貴重な成果と考えられる。



第 489 次調査区全景（北から）

【実績値】
出土品：軒丸瓦 10 点、軒平瓦 10 点、瓦 44 箱、土器 10 箱（須恵器、土師器、瓦器、陶磁器）、木製品 10 箱（部材。球状木製品、楔）、金属製品関連（板状鉄製品 1 点、鉄釘 1 点、銅滓 1 点、羽口 1 点、炉壁 5 点）、砥石 4 点
記録作成数：実測図（A2 判）16 枚、遺構写真（4×5）20 枚

【受託経費】
3,084 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8006

業務実績書(受託事業)

研 No. 20-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	京都岡崎の文化的景観に関する保存計画策定調査（受託）((1) －⑦)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　清水重敦

【スタッフ】
清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、惠谷浩子［同部研究員］、松本将一郎［同部アソシエイトフェロー］

【年度実績概要】

本受託事業は、H21年度より国庫補助事業である文化的景観保存活用事業として京都市が実施している「京都岡崎の文化的景観調査検討事業」において、京都岡崎地区の文化的景観の重要文化的景観への選定申出のための調査および保存計画策定を目的に調査を実施するものである。
岡崎の文化的景観の構造的把握を目的として、下記項目の調査を実施した。

＜調査項目＞
A　景観構造の把握
① 既往研究・資史料の整理（自然、歴史、都市空間・景観、生活・生業関連）
② 土地利用調査：都市空間構造・土地利用の現況調査、史的変遷の分析
③ 景観調査：景観構成要素分布調査、景観単位区分（景観のゾーニング）、景観認知調査
B　景観を構成する諸要素の詳細調査
①自然調査：街路樹植生調査、疎水園地群生態系調査、水系調査
②生活・生業調査：生業分布調査、聞き取り調査
③景観調査：重要な景観構成要素候補リスト化・実測調査

本調査の成果は、京都岡崎の文化的景観調査検討委員会(第4回～第6回)において調査成果の中間報告を行い、H24年度刊行予定の『京都岡崎の文化的景観調査報告書』の原稿を執筆し京都市に提出した。
本調査を通して、琵琶湖疏水・白川の水利用によって形成された都市・産業景観の特質を明らかにしたこと、②大規模土地利用を可能とする都市構造の変遷とその特質を明らかにしたこと、岡崎の文化的景観を構成する諸要素（建築物、工作物、自然物、土地利用、産業等）の特質とその有機的関連性を明らかにしたこと、が挙げられる。
本調査の成果は、平成24年度に『京都岡崎の文化的景観調査報告書』として刊行予定である。



京都岡崎の文化的景観
写真は、岡崎公園南側の琵琶湖疏水。鴨川と東山に挟まれた岡崎は、白川がつくる扇状地形を基盤に、白川と琵琶湖疏水の水利用によって形成された都市・産業景観である。

【実績値】
調査票 35 枚、実測野帳 60 点、デジタル写真 850 点。

【受託経費】
1,341 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8007

業務実績書(受託事業)

研 No. 20-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	相川地区文化的景観　景観変遷・景観構造調査　(受託)　((1) －⑦)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　清水重敦

【スタッフ】
清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、惠谷浩子［同部研究員］、松本将一郎［同部特別研究員］

【年度実績概要】

本受託調査は、「佐渡相川の文化的景観」における調査研究の 2 年目として、特に景観構造の特徴把握と価値評価を目的として実施した。

現地調査は 2011 年 7 月 24 日～29 日と 2012 年 2 月 27 日～3 月 3 日にかけて実施し、都市断面図作成のための実測調査、景観構成要素（建築物、工作物、農地、山林、街路、水系等）の悉皆調査、石造物の悉皆調査、海岸段丘上の農地調査、史料調査、ヒアリング調査を行った。

入手した史料の内、特に安政 5 年に作成された相川の墨引図「相川屋敷帳」を明治及び現在の地籍図と照合する作業を実施し、相川地区全体の都市復元を行った。

本調査の成果として、①文化的景観を構成する不動産の分布と特色を見出せたこと、②相川全体の石量と石利用、また石切り場から都市への石の分配システムの概略をつかめたこと、③相川地区を取り巻く河岸段丘上において、相川の影響を受けながら各時代に成立した水田が混在することが明らかになったこと、④相川屋敷帳を用いた作業から正確度の高い都市復元ができ、それ自体が相川の文化的景観における重要な価値評価になること、が挙げられる。

本調査の成果は、「相川の文化関景観」の価値評価のための基礎資料となるとともに、今後の整備・活用計画策定のための視点も提示するものとなるだろう。



建築関連の石材利用
海岸部の石切り場から切り出された石材は都市に供給され、建築の基礎石のほかにも、石垣、水路などに豊富に利用されている。



河岸段丘上の水田
古い水利の仕組み（主に個人での用排水システム）が残る旧源滴エリア。近世に開発された水田と考えられる。

【実績値】
- 実測野帳 24 点
- デジタル写真 879 点
- 報告書原稿 21 ページ

【受託経費】
3,220 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8008

業務実績書(受託事業)

研 No. 20-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平成 23 年度長良川流域の文化的景観における伝統的家屋等総合調査業務委託（受託）((1) －⑦)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　清水重敦

【スタッフ】
清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、惠谷浩子［同部研究員］、松本将一郎［同部アソシエイトフェロー］

【年度実績概要】

本受託事業は、H21 年度より国庫補助事業である文化的景観保存活用事業として岐阜市が実施している「長良川流域の文化的景観保存調査事業」において、文化的景観選定予定範囲の伝統的家屋を調査し、建造物の地域的特徴について分析をおこなうとともに、金華地区等について絵図等の史料を用い、都市空間の構造変遷における特性を分析するものである。

今年度調査では、対象地区全域の一次悉皆調査、金華地区の伝統的家屋についての二次詳細調査を実施した。

一次悉皆調査では、金華地区、川原町地区、鵜飼屋地区における家屋につき、外観より実見し、年代、階数、構造、外観的特徴を分析、記録した。

二次詳細調査では、一次悉皆調査の成果を踏まえ、地区内の領域を細分化し、各領域において、代表的な伝統的家屋を複数選択し、所有者の許可が得られたものより順次詳細調査を実施した。今年度調査物件は 13 件である。調査では、調査票の作成（建物の沿革、建築的特徴、復原考察、生活・生業との関連、価値評価）、写真撮影を実施した。

都市空間の構造変遷については、伝統的家屋の一次、二次調査の成果を踏まえて、既往の都市史研究の成果を加味し、絵図及び地籍図を用いて分析を進めている。

以上の成果は、今年度受託業務の成果報告書にまとめ、岐阜市に報告した。



岐阜の町家の特徴を示す木部の洗い
岐阜市金華地区の町家は、木部に塗装をせず、年に数度熱湯で洗う点に特徴がある。建築の維持についての独特な慣習を示すもので、当該地の文化的景観を構成するひとつの要素といえる。

【実績値】
業務成果報告書 1 点、調査票 13 点、写真 1,190 点。

【受託経費】
499 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8009

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研 No. 20-4

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	京都岡崎の文化的景観に関する普及啓発事業（受託）((1) －⑦)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　清水重敦

【スタッフ】
清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、惠谷浩子［同部研究員］、松本将一郎［同部アソシエイトフェロー］

【年度実績概要】

本受託事業は、H22 年度より国庫補助事業である文化的景観保存活用事業として京都市が実施している「京都岡崎の文化的景観調査検討事業」の調査成果の公開を目的として、下記パネル展を実施した。

展示：パネル展「京都岡崎の文化的景観」
会期：平成 24 年 3 月 13 日（火）～3 月 23 日（木）
会場：細見美術館（左京区岡崎最勝寺町 6-3）3 階無料展示スペース
展示内容：平成 23 年度から実施している京都岡崎の文化的景観の調査成果について、下記の内容を展示した。

(1) 京都岡崎の文化的景観の全体解説
①「はじめに」文化的景観調査の概要
②「文化的景観とは？」文化的景観の概念および文化的景観保護制度の説明
③「都市の中の自然」岡崎の自然環境（地形・地質・水系・植生）
④「疏水都市の誕生」平安期から現在迄の岡崎の都市構造の変遷
⑤「水辺の文化と産業」岡崎の水利用と生活生業（舟運、灌漑用水、庭園利用、水車動力、水力発電、親水利用）
⑥「京都岡崎の文化的景観」解説イラスト

(2) テーマ別展示
京都岡崎の文化的景観について以下 5 つのテーマ毎に解説。
①「蔬菜農業と食文化」聖護院大根など蔬菜作物、漬け物など食文化
②「夷川ダムと水車利用」精米・製粉、伸銅、舟運など疏水関連産業
③「疏水庭園と生態系」水槽での魚類生態展示
④「六勝寺と現在の岡崎」六勝寺出土瓦展示
⑤「広場としての岡崎公園」岡崎公園の変遷図、岡崎公園の昭和 30 年代動画

本事業の成果として、 京都岡崎の文化的景観調査成果の整理・分析研究、図面・写真の作成などの基礎作業を行い、パネル展「京都岡崎の文化的景観」を開催し研究成果を広く公開する共に、展示解説のパンフレットを作成した。

【実績値】
図面 15 点、展示パネル 12 点、展示パンフレット 1 点。

【受託経費】
600 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8010

業務実績書(受託事業)

研 No. 21-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	「発掘調査のてびき」作成に係る業務（受託）((1) －⑧－ア)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
井上和人（副所長）、金田明大（主任研究員）、山中敏史（客員研究員）ほか

【年度実績概要】
『発掘調査の手引き』は昭和 41 年に文化庁文化財保護部から刊行され、数多く版を重ねてきたが、その後の発掘調査件数の急増と規模の増大、さらに調査技術と関連分野の研究の進展により、現状に応じた内容への改訂が求められるようになった。このため、文化庁文化財部記念物課の委託を受けて、奈良文化財研究所では、平成 17 年度から 5 年間にわたる全面的な改訂作業をおこない、平成 22 年 3 月にあらたな『発掘調査のてびき』（集落遺跡発掘編/整理・報告書編）を刊行することができた。

これらは、発掘件数の約 7 割を占める集落遺跡の発掘作業と、整理・報告書作成作業全般を対象としたものであり、文化庁は、以後もそれ以外の遺跡を対象とする『発掘調査のてびき』の刊行に向けての作業を進めることを決定した。そして、奈良文化財研究所は、ひきつづき作成作業の事務局として、実務全般を担当することとなった。

作業の 2 年目にあたる本年度は、6 月と 11 月の 2 回、奈良文化財研究所でそれぞれ 2 日間にわたり、作成検討委員会作業部会を開催した。文化庁文化財部記念物課の担当者と地方公共団体および大学等の委員、奈良文化財研究所委員が、「墳墓」「寺院・官衙」「生産遺跡」「城館」の 4 部会に分かれて、構成や内容、執筆分担等についての検討をおこない、その成果と文化庁・奈良文化財研究所事務局による協議結果を受けて、原稿の執筆作業を進めた。そして、1 月から原稿のとりまとめと編集作業に着手した。

また、3 月には文化庁で作成検討委員会を開催し、これまでの経過と現在の進捗状況、今後の計画について報告するとともに、作業計画や編集中の『発掘調査のてびき』の構成と内容に関する指導・助言を受けた。


『発掘調査のてびき』作成検討委員会作業部会

【実績値】
作成検討委員会作業部会開催件数：2 回
作成検討委員会開催件数：1 回
実績報告書：1 件

【受託経費】
2,996 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8011

業務実績書(受託事業)

研 No. 22-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	出雲大社建築金物の材質分析（受託）((1) －⑧－イ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】脇谷草一郎、田村朋美（以上、研究員)、降幡順子（都城発掘調査部主任研究員)、佐藤昌憲（客員研究員)、赤田昌倫（アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】



出雲大社建築金物

1) 出雲大社の銅製の破風板や御神紋、座金など、複数の資料について、蛍光Ｘ線分析並びに赤外分光分析を行った。本年度の調査では、一部の銅板から微量の錫が、また塗料の残存性が良好なものから微量の鉛が検出されることを明らかにした。赤外分光分析では透過法、反射法、ＡＴＲ法、有機溶媒抽出法といった様々な手法を用いて分析を行った。分析の結果、油脂成分とカルボン酸塩を検出し、漆や膠とは異なる塗料を用いていたことが明らかとなった。

2) 油脂成分とカルボン酸塩について、住友金属テクノロジーと共同でガスクロマトグラフィー質量分析計による詳細な成分分析を行った。分析の結果、どちらも乾性油と松脂に由来することが明らかになった。このことから、油脂成分とカルボン酸塩は同一の塗料で、カルボン酸塩は劣化によって変質した物質であることが判明した。

3) 直射日光が当たる銅板の表面からは、銅の腐食生成物(硫酸銅、塩化銅)のみが検出された。一方、銅板の裏面からは油系塗料が検出されたため、変質原因の一つとして、紫外線など光による影響が考えられた。本研究結果を踏まえて、出雲大社の再塗装用では、実際に油系塗料による塗装を行っている。

4) 油系塗料は、漆と異なって、劣化挙動に関する知見がほとんどないため、文化財建造物協会、清水建設、島津漆工房、奈良文化財研究所と共同で試作試料を作成して実験した。試作試料の乾性油と松脂の比率を変化させた結果、乾性油の量が松脂よりも少ない場合、松脂の固化が速いため塗装することが難しく、塗料として不向きであることがわかった。また、塗料への鉛の添加量が増加するに従い、塗膜形成速度が速くなることを確認し、鉛が乾燥促進剤として用いられていたことを明らかにした。

【実績値】
分析試料：14 点。
報告書：1 件

【受託経費】
1,142 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8012

業務実績書(受託事業)

研 No. 22-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	田熊石畑遺跡武器形青銅器の保存処理及び保存台作製（受託）((1) －⑧－イ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎、田村朋美（以上、研究員）、降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）

【年度実績概要】

前年度に引き続き、田熊石畑遺跡より出土した武器形青銅器 8 点に対して、材質と構造の調査、保存処理および保存台の作製を行った。

劣化状態を知るための材質と構造の調査では、肉眼観察、実体顕微鏡観察、蛍光Ｘ線元素分析、Ｘ線透過撮影ならびにＸ線ＣＴ撮影を実施した。これらの調査から得られた劣化状態に関する知見をもとに、それぞれの遺物に応じたクリーニング、安定化処置および強化処置を検討して実施した。

そのさい、接合可能な破片はアクリル樹脂による接着を行ったが、接点がほとんどないもの、あるいは変形を生じているものは接着しないという方針とした。欠損部については、基本的に不必要な充填を避け、取り扱い時に引っかかることによる破損を防ぐための必要最低限の充填にとどめた。

保存処理後に型取りを行い、保存のための安定台を作製したが、脆弱なものならびに多数の破片となって接合が不可能なものについては、保存台に並べておくという方針にしたがい、型取りは行わなかった。

以上の一連の作業により、武器形青銅器を安定した状態に移行させることができた。



取り上げ時に武器形青銅器に接着されたガーゼの除去

【実績値】
保存処理点数：銅戈 1 件、銅剣 4 件、銅矛 3 件　（合計 8 件）
報告書：1 件

【受託経費】
5,521 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8013

業務実績書(受託事業)

研 No. 23-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	史跡ガランドヤ古墳 1 号墳における熱・水分同時移動解析に関する研究（受託）((1) －⑧－ウ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子（都城発掘調査部主任研究員)、脇谷草一郎、田村朋美（以上、研究員）

【年度実績概要】

大分県日田市に所在する史跡ガランドヤ古墳は、玄室奥壁などに赤色や緑色の顔料で様々な図像が描かれている。これらの石材表面は、石材の劣化の進行によって表面の剥離が生じており、装飾の保存が危惧される。石室構成石材の劣化を引き起こす要因としては、石材表面が高い含水状態で乾湿を繰り返すことが挙げられる。すなわち、1) 石室周辺の土壌から蒸発した水分、および 2) 夏期の外気に湿気として含まれる多量の水分が石室内に流入し、石室内の低温部表面で結露して石材の濡れを引き起こし、再び蒸発することを繰り返すものと推察される。


盛土における土壌含水率測定

ガランドヤ古墳 1 号墳はすでに墳丘のほとんどが失われているため、整備の実施にあたっては墳丘の復元が行われる。そこで、上記 1) および 2) の水分による結露の発生を抑制し、石室構成石材の乾湿風化を抑制しうる機能を有した墳丘の復元を行い、玄室奥壁を中心に描かれた図像の保存を図る手法について、現在検討を進めている。本研究では、遮水性の墳丘の復元を想定した覆屋を設置して、周辺土壌への雨水の浸透を抑制し、石室周辺土壌の含水率の低下を促進させた。そして、その低下に伴い、石室石材表面での結露が抑制されるのかを検討した。

調査の結果、石室床面の土壌含水率は昨年度の調査から引き続き低い値を維持しており、また奥壁背後の盛土の土壌含水率も外部の気象条件にかかわらず低い値で安定しており、夏期以外の時期では、石室内室空気の相対湿度が 80%前後で推移する環境を作り出すことが可能なことが予測された。一方で、現在の覆屋は強制換気を行っているため、夏期には外気に含まれる大量の水分が石室内へ流入し、この期間は石室内室空気の相対湿度はほぼ飽和状態を維持し続け、石材表面では結露が依然として発生することが明らかとなった。

今回の調査では断熱・断湿性を備えた覆屋の設置には至っていないため、外気由来の結露については、今後、数値解析をもちいて結露の発生時期と発生場所を推定するとともに、結露を予防する手段について検討を行う予定である。

【実績値】
論文：1 件
脇谷草一郎「史跡ガランドヤ古墳における水の挙動に関する調査研究２」『奈良文化財研究所紀要 2011』2011. 6. 15

【受託経費】
554 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8014

業務実績書(受託事業)

研 No. 25-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	天良七堂遺跡の総合的探査（受託）((2) － ②)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

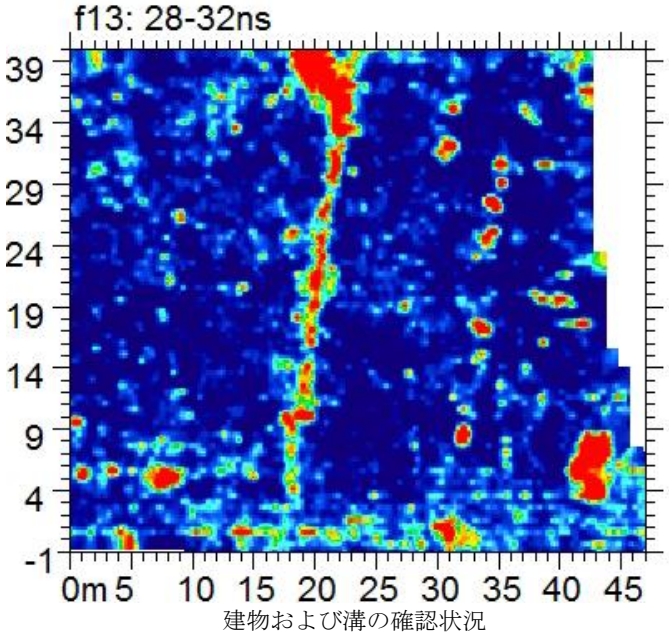
【スタッフ】
金田明大（主任研究員）、西村康、西口和彦（以上、客員研究員）

【年度実績概要】

群馬県太田市に所在する天良七堂遺跡は、上野国新田郡衙に比定され、大規模な政庁や総柱建物の確認により注目を集めている。太田市教育委員会の調査で、これまでに政庁や倉庫群などが明らかにされたが、遺跡の範囲は広大であり、範囲の確定と迅速な遺構配置の把握が必要となっている。

本遺跡については、過去にも非破壊的手法を用いた遺構配置や範囲の確認と、発掘調査の併用による性格の把握を目的として、継続的に地中探査を実施してきた。それにより、総柱建物の確認のほか、遺跡の四辺をめぐる区画溝の位置と形状が判明するなど、重要な成果が得られている。

本年度は、南および東側の区画溝の詳細の把握と、区画内部の遺構の確認を主眼とした探査を実施した。この結果、区画溝の存在とその位置を確認したほか、建物跡と考えることのできる遺構を把握することができた。



建物および溝の確認状況

【実績値】
成果報告書：1 件

【受託経費】
1,246 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8015

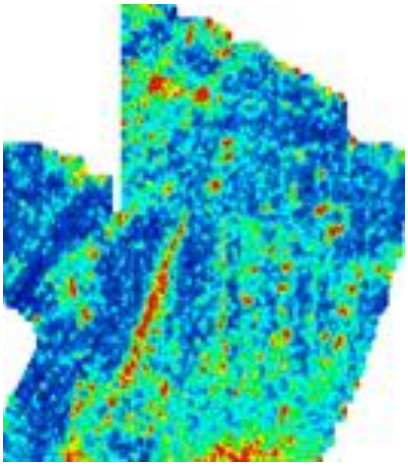
業務実績書(受託事業)

研 No. 25-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	真福寺貝塚地下レーダー探査業務（受託）((2) － ②)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
　金田明大（主任研究員)、西村康、西口和彦（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
　埼玉県さいたま市に所在する真福寺貝塚は、学史的にも著名な貝塚として国史跡に指定され、保存が図られている。この遺跡では、過去に地中レーダー探査も実施されているが、今回、新たな手法を用いてより詳細な成果を得ることを目的に、探査を実施することとした。
　その結果、貝層とみられる反射や、かつての調査区、人家の痕跡などを確認することができた。また、低湿地の遺構についても、断面でその状況を把握できた。



貝塚探査成果

【実績値】
　成果報告書：1 件

【受託経費】
　1,200 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8016

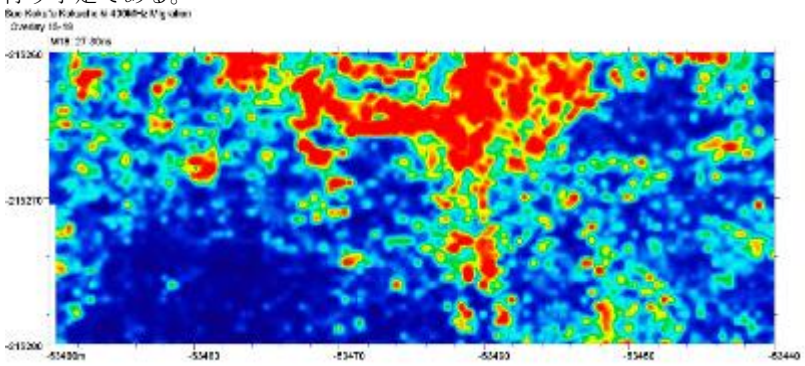
業務実績書(受託事業)

研 No. 25-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	周防国庁における総合的探査（受託）((2) －②)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
　金田明大（主任研究員)、西村康、西口和彦（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
　山口県防府市に所在する周防国府は、地名や土地の区画がよく遺存しており、地方官衙遺跡の典型として古くから著名な遺跡である。この中心部にあたる二町四方は政庁が存在したと推定される部分で、かねてから発掘調査が実施され、現在は史跡公園となっている。しかし、史跡地内の遺構配置などについてはさらに詳細な情報が必要であり、今回、非破壊的手段を用いてその一端を明らかにするための探査を実施した。
　その結果、現地は整備が進んでいるため、計測が難しい箇所や整地土による影響も存在するが、遺構の可能性の高い反射をいくつか把握することができた。今後、さらに解析を進めるとともに、国史跡として指定されている他の地区についても同様の探査を行う予定である。



二町域の探査成果

【実績値】
　成果報告書：1 件

【受託経費】
　1,998 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8017

業務実績書(受託事業)

研 No. 25-4

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	三軒屋遺跡総合的探査（受託）((2) －②)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

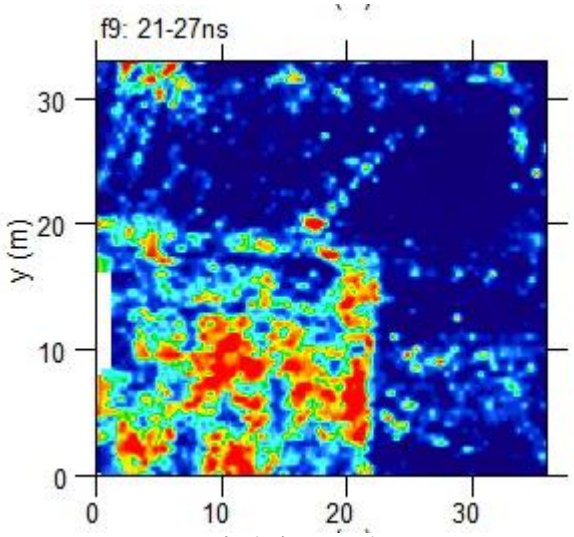
【スタッフ】
金田明大（主任研究員）、西村康、西口和彦（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
群馬県伊勢崎市に所在する三軒屋遺跡は、上野国佐位郡衙に比定され、発掘調査では『上野国交替実録帳』の「八面甲倉」に該当する八角形の建物などが確認されている。

この遺跡では、非破壊的手法による迅速な遺構配置や範囲の確認と、発掘調査の併用による性格の確認を目的として、一昨年度より地中探査を実施してきた。その結果、八角形建物の下層の遺構や遺跡北西側の区画施設の存在を明らかにし、小面積の発掘調査でそれらを確認することができた。

本年度は、正倉地区と上植木廃寺との間の中間地点について探査を実施した。この地点はこれまで調査が進んでいないが、立地上、郡衙関連遺構が存在する可能性が高く、その端緒を把握することが期待された。

探査の結果、溝や建物の可能性がある反射を複数の地点で捉えることができ、今後の試掘調査などでそれらの確認を進めるための指針が得られた。



探査成果の一部

【実績値】
成果報告書：1 件

【受託経費】
773 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8018

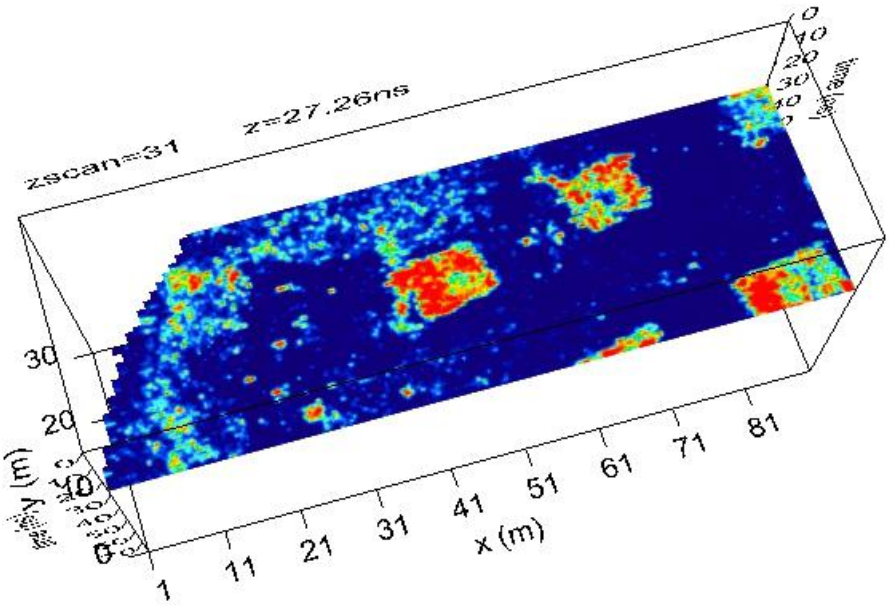
業務実績書(受託事業)

研 No. 25-5

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	神野向遺跡レーダー探査業務委託（受託）((2) －②)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
金田明大（主任研究員)、西村康、西口和彦（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
茨城県鹿嶋市に所在する神野向遺跡は、常陸国鹿島郡衙に比定される国史跡である。今回、遺構の配置などを把握し、遺跡整備に供するための情報をさらに充実させることを目的として、非破壊的な手法による探査を実施した。
探査は政庁域及び正倉推定地で実施し、政庁域では回廊および正殿・前殿の確認と規模の想定を、また正倉推定地では未確認の正倉の存在と配置、区画施設を確認することができた。当該地域における GPR 探査の有効性を確認することができた。今後、発掘調査などと連携しつつ、調査を進めていくことが期待される。



正倉地区遺構配置状況

【実績値】
成果報告書：1 件

【受託経費】
1,136 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8019

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研 No. 25-6

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平成 23 年度大宰府史跡・蔵司地区における総合的探査業務（受託）((2) －②)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】

金田明大（主任研究員)、西村康、西口和彦（以上、客員研究員）

【年度実績概要】

大宰府は福岡県太宰府市に所在し、「遠の朝廷」ともよばれた西海道の中心となる官衙である。蔵司地区は、政庁域に隣接する地区であり、大型の総柱建物の礎石が残存するほか、鉄鏃や甲冑の破片といった武器関連の資料が採集されている。大宰府の重要地点として注目され、これまでも発掘調査や探査がおこなわれてきた。昨年度は、総柱建物周辺の探査を行い、鍛冶炉と推定される遺構の位置を確認するなどの成果を上げている。

本年度は、総柱建物北側の部分について探査を実施した。この部分は地区の丘陵の中でもっとも高い部分に位置している。コンクリ製の柱が立つなど、条件は良好ではないが、探査の結果、最も高い部分には方形の形状をもった反射を確認することができ、今後発掘などで検討を進める必要があると考える。

【実績値】

成果報告書：1 件

【受託経費】

813 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8020

業務実績書(受託事業)

研 No. 26-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	永保寺開山堂の年輪年代補足調査および観音堂の年輪年代調査（受託）((2) －③)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	年代学研究室長　大河内隆之

【スタッフ】
児島大輔（特別研究員〈アソシエイトフェロー〉）

【年度実績概要】

岐阜県多治見市・永保寺開山堂（国宝）の屋根吹き替え修理工事に伴う同堂の年輪年代調査、同寺観音堂（国宝）の屋根吹き替え修理工事に伴う年輪年代調査、および同寺黒門の年輪年代調査を実施した。開山堂の年輪年代調査は、昨年度に実施した調査の補足である。また、開山堂と観音堂の建築部材の樹種識別調査をあわせて実施した。

現地調査は 3 回（延べ 12 日）行い、年輪年代調査に際しては、高解像度のデジタル一眼レフカメラにより各建築部材の年輪計測用画像を撮影し、当研究室においてデジタル画像を用いた年輪計測を行う方法を採用した。現地調査では、開山堂で 102 部材を調査対象とし、153 測線の年輪データを取得した。同様に、観音堂では 13 部材を調査対象とし、19 測線の年輪データを取得した。また、黒門では 2 部材を調査対象とし、3 測線の年輪データを取得した。

樹種識別調査に際しては、現地で補修を要する部材などから小片を採取し、これを当研究室に持ち帰って、木口・柾目・板目の 3 断面の透過標本（木材組織プレパラート）を作成し、生物顕微鏡で観察する方法をとった。調査は開山堂の 22 部材と観音堂の 21 部材を対象とした。

これまでの開山堂の年輪年代調査では、辺材を十分に残す複数の部材から 1334 年頃の年輪年代が得られており、1352 年の建立とする寺伝には従いがたく、1332 年の仏徳禅師の入寂を契機として開山堂の建立事業が始まった可能性が想定されている。本年度の調査でも、これを覆す成果は得られず、開山堂の建立年代は従来の説よりもさかのぼる可能性を調査結果は示している。

こうした成果は、文化財科学会第 28 回大会で「国宝永保寺開山堂の年輪年代調査」と題してその一部を発表したほか、多治見市主催の講演会では「年輪が語る国宝永保寺の歴史」として、一般にも公表している。また、公益財団法人文化財建造物保存技術協会・多治見市・永保寺に対して本調査の報告書を提出しているほか、平成 24 年度に公益財団法人文化財建造物保存技術協会より刊行される永保寺開山堂・観音堂修理工事報告書においても、本調査成果を掲載する予定である。


永保寺観音堂の年輪計測用画像の撮影

【実績値】

学会発表 1 件、講演 1 件。

『永保寺開山堂・観音堂の年輪年代調査および樹種識別調査に関する報告』((公財) 文化財建造物保存技術協会・永保寺・多治見市教育委員会の関係者向けの調査報告書。平成 24 年度に（公財）文化財建造物保存技術協会により刊行される同寺開山堂・観音堂の修理工事報告書においても本調査成果を報告予定)

【受託経費】

544 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8021

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研 No. 27-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	東名遺跡出土動物遺存体調査（受託）((2) −④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	環境考古学研究室長　松井章

【スタッフ】
丸山真史（客員研究員）

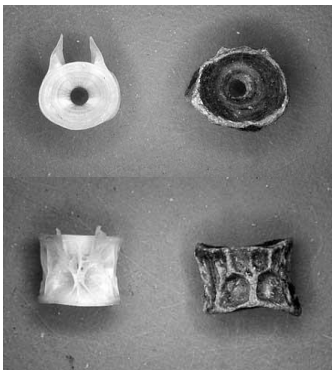
【年度実績概要】

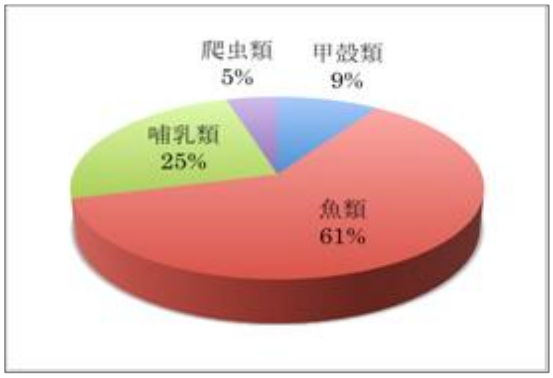
東名遺跡群は縄文時代早期の低湿地性貝塚であり、平成 20 年度に発掘報告書が刊行された後も、文化庁からの補助金を受けて、第一、第二貝塚の貝塚土壌の水洗選別作業を継続している。その選別作業で得られた動物遺存体は、昨年度までに 1,000 点以上を同定した。今年度は、土層観察用ベルトD、E、F、Gから採集した柱状土壌から、1 ㎜、2 ㎜、4 ㎜、9.5 ㎜目のフルイを用いて選別した約 2,000 点の同定作業を行ったが、種類や部位を特定できたものは 200 点にとどまる。そのうちFベルトの資料では、出土量が各層位によって一様でなく、9 層および 22 層付近に集中することを明らかにできた。しかし大部分の骨片は、いずれも微細で、形態的特徴を保持せず、動物種や部位が不明なものが大部分を占めた。

すでに報告しているように、発掘調査時に肉眼で確認・採集した資料の大部分はイノシシとニホンジカであった。それに対して、今回は微細な魚類遺存体が最も多く、スズキ属、ボラ科、クロダイ属を中心に、アユや有明海に生息するムツゴロウを同定した。スズキ属、ボラ科、クロダイ属は汽水域にも進入し、河口付近で漁獲できる種類であることから、縄文時代に一般的に見られる内湾性漁撈が行われていたことが明らかになった。甲殻類ではカニ類、爬虫類ではスッポン、哺乳類ではイノシシ、ニホンジカ、イヌ、モグラ属、ネズミ科、ノウサギを同定した。これらの動物種から、干潟、河川・湖沼、山野における捕獲活動が把握できた。また、1 ㎜目のフルイを用いて微細な資料を採集したにもかかわらず、大型哺乳類のイノシシやニホンジカと比べて、魚類や小型哺乳類の出土量は非常に少ないことを再確認できた。



Fベルトの層位別の出土量


アユの椎骨（上：上面、下：前面）



動物遺存体の種類組成

【実績値】
動物遺存体の同定点数：200 点

【受託経費】
724 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8022

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研 No. 27-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平成 23 年度小竹貝塚出土骨角器同定調査業務（受託）((2) −④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	環境考古学研究室研究員　山崎健

【スタッフ】
丸山真史、菊地大樹（以上、客員研究員）、松崎哲也（京都大学大学院人間・環境学研究科博士前期課程）

【年度実績概要】

小竹貝塚は、富山県富山市に位置する日本海側では数少ない縄文時代前期の湿地性貝塚である。日本海側の縄文貝塚としては、石川県の真脇遺跡や福井県の鳥浜貝塚などが知られていたが、平成 22 年度の小竹貝塚の発掘調査によって、それらに匹敵する膨大な数の骨角器および動物遺存体が出土し、この地域の縄文文化を解明するうえで欠かすことのできない資料となった。

今回、小竹貝塚で出土した骨角器およびその未成品約 2,000 点を奈文研に搬入し、現生動物の骨格標本と対照・比較しつつ、動物種と部位の同定を行った。一般的に、骨角器の製作工程で加工が進むほど、素材となっている動物種や部位を同定することが困難となるが、今回の資料のうち、動物種や部位を特定できたのは 200 点あまりであった。これまで縄文時代の骨角器の素材は、ニホンジカの枝角、中手骨、中足骨、およびイノシシの犬歯のエナメル質が大部分を占めていたとされるが、小竹貝塚の骨角器は、それ以外のニホンジカやイノシシの大腿骨や脛骨といった長管骨を素材としたものも多く含まれている。また、鳥類、小型哺乳類の長管骨、オオカミやツキノワグマの犬歯、サメの歯にいたるまで、骨角器の素材として多用されていたことを明らかにできた。

このことから、骨角器の素材が、従来の想定以上に多様な動物種と部位を利用していたことが推定でき、利用可能な動物資源のなかから骨角器製作への選択が行われたことがうかがえる。



釣針（イノシシの犬歯）



装身具（サメ類の歯）



装身具（大型鳥類の長管骨）

【実績値】
骨角器および未成品の同定点数：214 点

【受託経費】
1,442 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8023

業務実績書（受託事業）

研 No. 30-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	ＧＥＭによる超高感度・大面積ガンマ線イメージセンサー（受託）（(2)-②）		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	主任研究員　犬塚将英

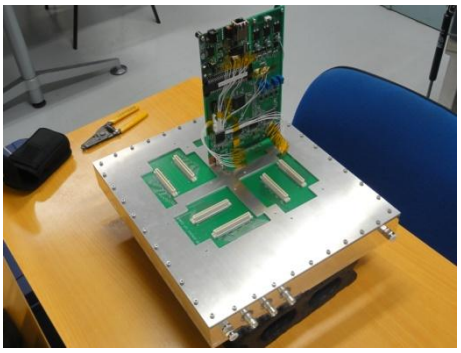
【スタッフ】
犬塚将英

【年度実績概要】

非破壊・非接触を大前提とした手法を要求されることが多い文化財の内部構造の調査のために、Ｘ線透過撮影が行われてきた。調査対象である文化財が比較的小さく、輸送が可能であれば、Ｘ線透過撮影のための設備を有する研究機関に持ち込むことにより、その文化財の内部構造を調べることができる。一方、様々な事情や制約により移動が困難な文化財も多い。しかし、Ｘ線透過撮影用の機器は大型かつ高価であるため、移動が困難な文化財の現地調査は一般的に容易でないのが現状である。移動が困難な文化財として、塑像や建造物など、美術工芸品などと比較すると物質量が大きい調査対象も想定される。このような文化財の内部構造を調査するためには、高いエネルギーのＸ線を用いる必要が生じるが、そのようなエネルギー領域における検出効率が高いことも測定器に求められる。さらに、実際の調査の現場では、撮影後にＸ線画像をその場で確認できることが望ましい。

本研究では、素粒子・原子核物理の分野などを中心に開発研究が進んでいるガス電子増幅フォイル（GEM）を利用することにより、簡便、安価かつポータブルなＸ線検出器の開発研究を行ってきた。今年度は、高エネルギーＸ線を効率良く検出するために改良を施した GEM 検出器に対して、新たに開発を行った信号の読出し方法を適用した。開発を行った信号読み出しボードを検出器本体に接続した様子を写真に示した。東京文化財研究所のＸ線撮影室にあるＸ線照射装置を用いることにより、ＧＥＭ検出器と信号読み出しボードから構成されるＸ線検出システムの性能を評価するための基礎実験を行った。

検出器と信号読み出し部分の動作確認を行うために、今回の実験では被写体として、孔を開けた厚さ 2㎜ の鉛板を用意した。この被写体を検出器に乗せて、上方からＸ線を照射することにより、Ｘ線透過撮影を行った。厚さが 2㎜ である鉛板の場合、50keV よりエネルギーが小さい X 線はほとんど透過しない。撮影結果は予想通り、孔の位置する場所に相当する領域だけでＸ線が検出されるような 2 次元画像が得られた。



ＧＥＭ検出器と信号読み出しボード

【実績値】
発表件数 1 件
① 移動が困難な文化財の調査を目的としたＸ線イメージセンサーの開発（犬塚将英、房安貴弘、越牟田聡、忽滑谷淳史、阿部圭一、田中義人、浜垣秀樹）『保存科学』51

【受託経費】
546 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8024

業務実績書(受託事業)

研 No. 37-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	あるぜんちな丸一等食堂漆棚に於ける制作技法と修復処置の研究（受託）((3)-⑥)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	近代文化遺産研究室　中山俊介

【スタッフ】
山下好彦、早川典子、朽津信明、犬塚将英、池田芳妃（以上、保存修復科学センター）

【年度実績概要】

あるぜんちな丸一等食堂の漆棚は、1939（昭和 14）年、長崎造船所で竣工したあるぜんちな丸に造りつけられた棚。あるぜんちな丸は南米移住者輸送のために作られた豪華客船で、1942 年には航空母艦「海鷹」に改装された。改装時に扉のみを取り外して保管された結果、消失を免れたと考えられる。豪華客船時代の家具はほとんど現存しておらず、当時の客船インテリアを伝える希少な遺例の一つと言える。扉は木製黒漆塗（背面は朱漆塗り）で、色漆や金銀蒔絵を用いて草花文様をデザインし、引手金具や蝶番などが付く。蒔絵は京都で活躍していた堂本漆軒の作で、蒔絵のサインが認められる。一等食堂の漆棚は竣工当初は 6 枚の扉があったが、数年後には 4 枚の扉に改装された。

寸法　703 ミリ×499 ミリ×50 ミリ　1 枚、　703 ミリ×516 ミリ×50 ミリ　1 枚、
703 ミリ×503 ミリ×50 ミリ　1 枚、　703 ミリ×501 ミリ×50 ミリ　1 枚。

各漆扉は漆塗膜の劣化が著しく、客船に取り付けられていたことによる紫外線や塩の影響が考えられる。劣化は漆塗膜表面の艶が消えて断文がはいるばかりでなく、蒔絵粉が脱落し易い状態であった。また、数回にわたる後世修理があり、欠損部の充填や塗装があり、金具の打ち直しや取り替えられた部分が認められる。蒔絵および塗膜が著しく劣化する資料例としては建造物に使用された漆塗装や輸出漆器に数多く見られ、いかに蒔絵を保護しながら漆塗膜を復旧するのかが修復課題となっていた。

制作技法と修復処置の研究では、初めに処置前の写真撮影をデジタルで記録、紫外線蛍光写真撮影を行った。エックス線透過撮影により扉の素地構造を観察し、蛍光エックス線分析により蒔絵材料に用いられた材料を同定するとともに顕微鏡観察により蒔絵技法に関する調査を行った。その結果、扉の素地構造はパネル構造でなく、針葉樹を三層に重ねた合板であることが分かった。また、蒔絵の扉の蒔絵は平蒔絵と色漆を併用し、特に白漆を用いるなど昭和初期に開発された蒔絵技法の特徴が認められた。

修復処置の研究では、蒔絵の保護のための材料と技法研究を行った。保護材料は伝統的な材料と合成樹脂を塗布したサンプルを作り、その上から漆塗膜を復旧するための摺漆を数回行い、どの保護材が有効であるかを確認した。修復処置は、初めに蒔絵部分を透漆で粉固めして補強した後、実験結果が有効と確認された保護材を資料の蒔絵部分に塗布した。漆塗膜の劣化を復旧するため摺漆を数回行った後に保護材を除去した。その結果、修復材料の選択と処置が有効であり、このような損傷が認められる資料に対する処置とし汎用性のある修復処置を開発できた。

本事業は三菱重工業株式会社長崎造船所資料館より依頼された。

【実績値】
受託事業報告書　1 件

【受託経費】
460 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 8025

業務実績書(受託事業)

研 No. 37-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	霧島神宮における彩色剥落止めの手法開発及び施工監理（(3)-⑥）		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター副センター長　岡田　健

【スタッフ】
中山俊介、朽津信明、早川典子（保存修復科学センター）、楠　京子、山田祐子（文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
国指定重要文化財霧島神宮本殿の壁画および建築彩色を保存するにあたって、環境面からの保存対策、残存する壁画および建築彩色の状態調査、クリーニング、剥落止めの手法、材料に関する実験、助言、施工管理を受託した。
対象となる壁面が大きいため、全体の施工は 3 年度計画とし、今年度は、昨年度の残り 18 面（正背面 10 面，側面 8 面）、彫刻彩色（蟇股等）、平彩色（柱金襴巻・木鼻・頭貫・組物〔隅・平とも〕）・琵琶板・支輪等）及び向拝部分の彫刻彩色（龍柱・虹梁下持送，手挟，蟇股等）、平彩色（虹梁・組物等）の施工管理を行い、無事終了した。過去に用いられた修復材料の同定とその除去手法に関しても調査、実験を行い、その成果を施工に反映することができた。



施工が完了し、顔料の剥落止めの終了した壁面

【実績値】
受託事業報告書　1 件

【受託経費】
1,353 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8026

業務実績書(受託事業)

研 No. 38-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）((4)-①)		
【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
岡田　健、佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則、中山俊介、北野信彦、早川典子、森井順之（以上、保存修復科学センター)、川野邊　渉、加藤雅人（以上、文化遺産国際協力センター)、山田祐子、楠　京子（以上、特別研究員)、大河原典子（客員研究員）

【年度実績概要】
昨年度、脆弱化した漆喰層の常温抽出布海苔による 1 度目の強化は全石終了した、そのうち天井 1・2・3、青龍、西男子、白虎、玄武以上 7 石においては無地場に長波の紫外線照射を行い、バイオフィルムのクリーニングを行っている。また西女子、西男子、天 1 においては黒カビによる汚れが顕著なため、顕微鏡下でのクリーニングを行った。西男子は継続中である。概ね無地場のバイオフィルムのクリーニングが完了した天井 1・2・3、東男子、東女子、西男子、西女子、玄武は精製布海苔による 2 度目の漆喰層の強化を行った。また、絵画面のクリーニング及び漆喰の強化に関してはより適切な処置方法を検討するために模擬漆喰を用いた実験を行っている。これらの作業についての記録写真整理も随時おこなっている。

高松塚古墳壁画修復施設において継続的に微生物環境調査を実施しているが、本年度も 2011 年 9 月と 12 月の 2 回にわたり空中浮遊菌の調査・施設のふきとり調査を実施したところ、いずれの調査結果からも施設内が非常に清浄に保たれていることがわかった。この結果は、今年度同時期に実施したキトラ古墳施設の調査結果と対照的であった。

ムカデなどの害虫侵入の調査をひきつづき実施した。その結果、ムカデについては一時期より捕獲数は減ったもののまだ継続的に捕獲がある。しかし、壁面の空調吹き出し口を不織布でおおった作業室においては、その処置のあと捕獲はほとんどないことがわかった。侵入経路は扉からの侵入が中心であるが、このように換気口なども侵入経路となっていると思われる。扉にはテープ等の目張りを実施することで効果があがっていると考えられる。一方、つねに水が侵入して湿っている地下ピットでは、ムカデのほかにも、チャタテムシが大量に捕獲されており、地下ピットで発生するこのような虫の影響を作業室などでいかに少なくするかが課題となっている。

そのほかの装飾古墳における微生物調査として、土壌を採取して光学顕微鏡で観察することとあわせ、微生物群集構造解析を予備的な調査として実施している。

高松塚古墳関係の保存菌株のうち、今年度に 350 株について、メンテナンスを実施している。

【実績値】

【受託経費】
43,943 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8027

業務実績書(受託事業)

研 No. 38-2

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）((4)-①)		
【担当部課】	都城発掘調査部	【事業責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】
廣瀬 覚、青木 敬、降幡順子、玉田芳英、若杉智宏［以上、都城発掘調査部（飛鳥藤原地区)］、辻本与志一、脇谷草一郎、高妻洋成、田村朋美［以上、埋蔵文化財センター］、井上直夫、栗山雅夫、岡田愛［以上、企画調整部］、肥塚隆保［客員研究員］、石崎武志、早川泰典、吉田直人、佐野千絵、三浦定俊（以上、東文研)、青柳泰介、岡林孝作（奈良県立橿原考古学研究所)、水野敏典（奈良県教育委員会)、相原嘉之（明日香村教育委員会)

【年度実績概要】
平成 22 年度に引き続き、平成 18 年・19 年度に実施した石室解体事業に係る発掘調査の成果、出土資料・記録類の整理作業、石室石材の修理と安全な拘束の実施、安置法の検討、壁画の保存修復（劣化原因）に関する分析調査を進めた。

発掘調査の成果の整理作業としては、まず石室石材の細部三次元計測、同高精度三次元計測を実施した。前者は、石室石材の表面の 3 次元データを悉皆的に収集するためのもので、昨年度実施した 24 面を除く 56 面に対して計測を実施した。後者は、前者では収集しきれない微細な亀裂や加工痕跡の形状を把握する目的でより高密度で点群収集をおこなうものである。全 90 面中の要所約 50 ヵ所において、集中的に計測を行った。

発掘調査および解体作業中に撮影した記録映像の編集作業としては、昨年度完成した短編に引き続いて、今年度は長編の編集を進め、字幕テロップ入りの映像を完成させた。収録時間は約 2 時間 55 分と長時間に及んだが、項目ごとに映像を細分して完結させ（全 44 項目)、タイトルメニューにより各項目を選択して視聴できるように編集した。

発掘調査中に実施した 3D 計測による石室解体事業のＣＧ動画作成については、今年度は①旧地形、②墳丘構造、③墳丘構築過程、④地震痕跡の 4 項目のモデル作成を行った。昨年度、作成のモデルと合わせて来年度中にアニメーション動画として仕上げる予定である。

発版築土の粒度分析調査は、前年度に実施した粒度分布調査をもとに、さらに各版築層を細かく調査するとともに、発掘時に実施した強度との対応関係にかんする調査をおこなった。

壁画の保存・克要にかかる調査・研究としては、XRF を用いた壁画面の鉛分布および顔料の調査 、天井石 1・3 と東壁石 2 にたいするデジタルアーカイブスキャンニング（可視光、赤外）による画像記録、分光光度計による基礎実験と改良、漆喰の多孔質化のテラヘルツ分光イメージングに関する基礎実験、漆喰表面へのカルサイト殻形成メカニズムに関する基礎研究を実施した。

その他、春・秋の壁画修理施設の一般公開時に、解説員として研究員を派遣した。



石室石材の高精度三次元計測　作業風景

【実績値】
論文等数：2 件
降幡順子・辻本与志一・脇谷草一郎・高妻洋成ほか「高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光Ｘ線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－」『日本文化財化学会第 28 回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会 2011. 6. 11
高妻洋成・降幡順子・脇谷草一郎ほか「テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査」『文化財保存修復学会第 33 回大会研究発表要旨集』一般社団法人文化財保存修復学会 2011. 6. 4
学会・研究発表等数：2 件
降幡順子・辻本与志一・脇谷草一郎・高妻洋成ほか「高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光Ｘ線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－」日本文化財化学会第 28 回大会 2011. 6. 11
高妻洋成・降幡順子・脇谷草一郎ほか「テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査」文化財保存修復学会第 33 回大会　一般社団法人文化財保存修復学会 2011. 6. 4

【受託経費】
57,104 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8028

業務実績書(受託事業)

研 No. 38-3

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）（(4)-①）		
【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
岡田　健、佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則、中山俊介、北野信彦、早川典子、森井順之（以上、保存修復科学センター）、川野邊　渉、加藤雅人（以上、文化遺産国際協力センター）、山田祐子、楠　京子（以上、特別研究員）、大河原典子（客員研究員）

【年度実績概要】

平成 22 年度までに石室内の漆喰すべての取り外しが完了し、取り外した漆喰片についての経過観察、及び保存のための強化処置を行っている。更に、これから漆喰片を壁単位で組み立てていくにあたり、補填等に適切な材料の検討や実験を行っている。

また、これまで額装を行った「白虎・青龍・玄武・朱雀」の四神と、十二支のうちの「子・丑・寅」の計 7 点の壁画についても、随時経過観察を行っている。これらの作業についての記録、資料整理も行っている。

紫外線間欠照射により微生物制御を行っているキトラ古墳石室の微生物相の調査を 2011 年 10 月に微量のサンプリングを行い実施した。主要に分離された微生物は、昨年のものとほぼ同様であったが、暗色系のカビの分離株の割合が若干高くなっている傾向はみられた。ただし、漆喰の劣化要因となる酢酸菌　*Gluconacetobacter* sp.は、昨年度にひきつづき、今年度にも分離されなかった。同時に採取された微量のサンプルについて、現在、遺伝子に基づく微生物群集構造解析を実施している。また、キトラ古墳から分離された主要な菌株について、2 回目の紫外線耐性試験を現在実施しており、紫外線に強い微生物が出現しているのかどうかについて、調査を行っている。

高松塚古墳壁画修復施設で実施されている方法と同様の方法で、キトラ古墳施設の微生物環境（汚染度）調査を実施したところ、空中浮遊菌の調査でも、壁面などのふきとり調査においても、キトラ古墳の前室、小前室などでは、現在清浄に保たれている高松塚古墳壁画修理施設の場合よりも 100 倍ないしはそれ以上の密度でカビが検出された。
高湿度環境で土があるため、そのような傾向になることは当然ではあるが、微生物汚染が進まないような管理が今後も必要である。今年度は 2012 年 1 月にキトラ古墳施設の前室、通路などの除菌清掃を実施し、3 月には小前室のカビ対策として露出度表面のポリシロキサン樹脂のメンテナンスを実施する予定である。

キトラ古墳関係の保存菌株のうち、今年度に 116 株について、メンテナンスを実施している。

【実績値】

【受託経費】
40,507 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8029

業務実績書(受託事業)

研 No. 39-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）((4) -①)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　深澤芳樹

【スタッフ】
深澤芳樹、玉田芳英、降幡順子、廣瀬覚、若杉智宏、木村理恵［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、栗山雅夫､岡田愛［以上、企画調整部］、水野敏典（奈良県立橿原考古学研究所)、長谷川透（明日香村教育委員会）

【年度実績概要】

都城発掘調査部では、特別史跡キトラ古墳の壁画の取り外し作業が完了したことを受け、石室内での調査をおこなった。具体的には、床面に残存する漆喰上の精査、壁画剥ぎ取り後の石材表面および石室構造に関する考古学的な調査を実施した。

精査の結果、床面の東西両端に幅約 18cm、北端に幅約 20 cmの漆喰の残存が良好な部分があり、その内側には他よりも白色を呈する漆喰が帯状（幅約 3cm）にのびる状況を確認した。これらは棺台の痕跡と考えられ、北辺、東辺、西辺の 3 辺で確認できた。痕跡の東西幅は 68 cm、南北長は西辺で 137.5 cmが残存する。キトラ古墳における棺台の痕跡は、2004 年に撮影したフォトマップを通してその存在を推測してきたが、今回の精査によりそれとほぼ同様の位置で痕跡が明瞭に残存する状況が明らかになった。

また、今回の調査では朱線を計 20 本確認できた。これまで判明していたものは、床面 1 本、天井 5 本の計 6 本であり、新たに 14 本の朱線が確認されたことになる。朱線は主に石材加工の際の基準線と考えられる。朱線に用いられた顔料調査のため、蛍光 X 線分析もあわせておこなった。

石室構造については､石室の入口部を閉塞する南壁石が他の壁石よりも高さが 2cm ほど低く加工されていることが判明した。これは石室の開閉を容易にするための意図的な工夫と考えられる。

さらに、石材表面の加工痕跡に関して、拓本による記録作業をおこない、石室内外の形状を記録するために、3D計測機により高精細データを取得した。

壁画の保存修復に関する分析調査としては、デジタルアーカイブスキャナを使用して、「白虎」および「青龍」の可視光画像ならびに赤外画像を取得した。材料調査としては、「白虎」および「青龍」の蛍光X線分析、テラヘルツ分光イメージングを実施した。また、2004 年度の調査で出土した漆膜片を用いて、赤色漆塗膜に関するデータを取得した。

また、カビ点検業務等のため、定期的に現地へ研究員を派遣した。



床面の棺台痕跡（南から）

【実績値】
論文等数：　2 件
若杉智宏「キトラ古墳石室内の調査（飛鳥藤原 170 次)」『奈文研ニュース No. 42』2011. 9
若杉智宏「キトラ古墳の調査－飛鳥藤原第 170 次」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012. 6（予定）
記録作成数　遺構実測図 100 枚、写真（デジタル）356 枚

【受託経費】
19,245 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8030

業務実績書(受託事業)

研 No. 40-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査業務（受託）((4)-②)		
【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【事業責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】
黒坂貴裕、渡辺丈彦、小田裕樹、木村理恵［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、栗山雅夫、岡田愛［以上、企画調整部］児島大輔［埋蔵文化財センター］

【年度実績概要】

本調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備事業に関わる事前調査である。調査地は、明日香村南西部の丘陵上に位置し、この丘陵上には、渡来系氏族である東漢氏の氏寺と考えられる檜隈寺が所在する。今年度は、建物建設計画に先立ち、檜隈寺中心伽藍跡の南東方向に所在し、以前から寺域に関わる建物跡が推測されていた土壇状の高まり部分と、2010 年度の調査で部分的に石敷を確認していた丘陵の南東裾部分の 2 カ所について調査を実施した。調査期間は 2011 年 10 月 20 日～12 月 2 日。調査面積は合計 402 ㎡である。

土壇状の高まり部分では、1 辺 1.5m～1.8m、残存深さ約 1.2m の柱穴 2 基を確認するとともに、それぞれに柱根が残存していることも確認した。これらの柱穴を結ぶと、その方位は檜隈寺中心伽藍の方位の振れと一致する。また、方位の振れに順うと、柱穴 2 基の中間は檜隈寺塔跡の中軸線上に位置する。しかし、柱穴埋土からは平安時代の土器が出土したため、7 世紀頃の檜隈寺に伴うものではなく、檜隈寺塔跡に所在し平安時代後期の作とされている、於美阿志神社石塔婆（国指定重要文化財）に伴うと考えられる。

丘陵南東裾部分では、昨年度に検出していた石敷について、全体像の確認調査をおこなった。石敷は人頭大の石を用いていたが、その丘陵側で一回り大きな石を立てている状況を確認した。しかし、その他の部分では遺構が削平されており、本来は東側水田方向に広がっていたものと考えられる。また、この石敷の西側丘陵上で素掘溝を確認した。素掘溝は幅 1.6m、深さ約 50 ㎝で、その方位の振れは檜隈寺中心伽藍の振れに一致しないが、丘陵の地形に沿っており、延長は檜隈寺中心伽藍の東側に延びると見られる。いずれも遺物から 7 世紀以前の遺構と考えられる。

本調査では、檜隈寺の古代における幅広い年代の遺構を確認し、特に大型柱穴 2 基は、中心伽藍に伴う重要な遺構と考えられ、檜隈寺の実体解明に繋がる重要な成果が得られた。



大型柱穴と柱根

【実績値】
論文等数：2 件（論文 1 件、その他 1 件）
黒坂貴裕・小田裕樹・渡辺丈彦「檜隈寺周辺の調査－第 172 次」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）
黒坂貴裕「檜隈寺の調査（飛鳥藤原 172 次)」『奈文研ニュース No. 44』2012.3
出土遺物　軒丸瓦 1 点、軒平瓦 3 点、丸瓦 57 点、平瓦 90 点、その他瓦類 5 点、土器 2 箱、銅製品 1 点、木屑 1 点、壁土 1 点、建築部材 1 点
記録作成数　遺構実測図 20 枚、写真（4×5）49 枚

【受託経費】
3,446 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8031

業務実績書(受託事業)

研 No. 41-1

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査（受託）((4)―③)		
【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【事業責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹

【スタッフ】
山本崇、清野孝之、高橋 透、庄田慎矢［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、川畑純、山本祥隆［以上、都城発掘調査部（平城地区)］、井上直夫、栗山雅夫［以上、企画調整部］

【年度実績概要】
大和平野支線水路等その 3（県営飛鳥 2 号幹線（右岸）その 5）改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原右京七条西一坊（橿原市上飛騨町）にあたる。総長 100mの工事区域のうち、中央約 80m分は立会で対応し、残りの西区（約 10m×1m)、東区（約 10m×1m）を発掘調査した。全体の調査面積は約 20 ㎡で、平成 24 年 2 月 15 日より調査を開始し、平成 24 年 2 月 24 日をもって終了した。

西区では溝 1 条と炭溜りを検出した。溝の遺構検出面は北西に隣接する飛鳥藤原第 62 次調査の遺構検出面の標高がほぼ一致している。この溝に関して、ここには藤原京右京西一坊坊間路東側溝が想定されており、検出した溝の位置とほぼ重なることから、西一坊坊間路東側溝の可能性がある。ただし古代の遺物は出土していない。炭溜りは溝の検出面から約 10 ㎝下層で検出した。ここからは古墳時代前期の高坏や甕がまとまって出土している。

東区では溝 1 条を検出した。溝の遺構検出面は東に隣接する飛鳥藤原第 17 次調査の遺構検出面と標高がほぼ一致している。溝は出土遺物から古墳時代中期以降につくられ、7 世紀後半には完全に埋没していたと考えられる。

以上のように、本事業では水路付け替え工事に伴う限られた調査範囲の中ではあったが、埋蔵文化財に関する情報を最大限に引き出し、必要となる記録類の作成を迅速に進めることができた。
なお調査期間は平成 24 年 2 月 15 日～平成 24 年 2 月 24 日であったが、調査終了後も調査地外の既設管撤去工事の立会を実施し、工事が埋蔵文化財に影響を与えることがないことを確認した。


西区全景（東から）


西区溝検出状況（東から）


東区溝全景（東から）

【実績値】
論文等数：1 件
出土遺物　土器 1 箱、木製品（火鑽臼）1 点ほか
記録作成数　遺構実測図 5 枚、写真（4×5）16 枚

【受託経費】
328 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8032

業務実績書(受託事業)

研 No. 42-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）((1)-①)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
原本知実、原田　怜、土居香菜子、中山仁美、岡村知明、草薙　綾、降旗　翔（以上、文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】

文化遺産国際協力に係わる諸課題について議論するための分科会を計 15 回、専門家会合を計 2 回開催すると共に、会員間の情報共有を促進するための場として研究会を 2 回、講演会を 1 回開催した。コンソーシアム活動を広報するために、10 月には、一般市民向けの公開シンポジウムを行ったほか、コンソーシアムパンフレット及び国際協力事業を紹介する冊子の作成、公式ウェブサイトのデータ追加を行った。さらに、大洋州地域での派遣支援を行ったほか、協力相手国調査としてバーレーン、ミャンマーでの調査を実施した。

Ⅰ．コンソーシアムの企画・運営

・運営委員会を 3 回開催して、活動方針等を協議したほか、3 月には研究会と併せて総会を開催した。　・企画分科会、東南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米文化会を計 15 回開催した。　・経済協力ワーキンググループの活動の一環として、文化遺産保護と開発に関する研究会を開催した。　・ミクロネシア専門家会合を 2 回開催した。　・広報活動のため、事業紹介冊子の作成や、一般向けウェブサイトのデータ追加を行った。

Ⅱ．情報共有と情報発信

・シンポジウム「文化遺産を危機から救え～緊急保存の現場から～」を開催した。　・研究会「文化遺産保存の国際動向」、「文化遺産保護と経済開発協力との有機的連携を目指して-人間の安全保障アプローチの可能性-」を開催した。　・特別講演会としてボコバユネスコ事務局長講演を開催した。　・報告書『平成 23 年度協力相手国調査　ミクロネシア』をまとめた。　・報告書『平成 23 年度協力相手国調査　アルメニア』をまとめた。　・報告書『文化遺産国際協力情報資源共有化に関する報告書』をまとめた。



第 9 回研究会『文化遺産保護と
経済開発力との有機的連携を目指して』
（平成 23 年 7 月 11 日撮影）

Ⅲ．文化遺産国際協力に関することがら

・ミクロネシアのナン・マドール遺跡保護プロジェクトに対し、日本による国際協力事業の支援調整を行った。　・協力相手国調査としてバーレーンとミャンマーにおいて調査を行った。　・大洋州地域に対して文化遺産保護状況に関する情報を収集した。　・ UNITAR による世界遺産研修に参加し、世界遺産条約履行のための情報収集を行った。イコモス総会に出席し、イコモスによる文化遺産保護活動についての情報収集を行った。

【実績値】

運営委員会の開催：3 回、総会の開催：1 回、シンポジウムの開催：1 回、分科会の開催：(企画分科会 5 回、東南アジア分科会 3 回、東・中央アジア分科会 2 回、西・東・中央アジア合同分科会 1 回、西アジア・アフリカ合同分科会 2 回、中南米分科会 2 回）合計 15 回、　専門家会議の開催：　合計 4 回、特別講演会の開催　1 回、研究会の開催　2 回、諸国国際協力体制調査：　バーレーンの文化遺産国際協力調査、ミャンマーの文化遺産国際協力調査、ミクロネシアの文化遺産保護国際協力支援、大洋州の文化遺産国際協力状況調査、　文化遺産保護関係国際機関情報収集：UNITAR 世界遺産研修参加、イコモス総会参加

（成果物ドキュメント名）①報告書『平成 22 年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦　ナン・マドール遺跡現状調査報告書　日本語』（2012 年 3 月 1200 部）②報告書『平成 22 年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦　ナン・マドール遺跡現状調査報告書　英語』（2012 年 3 月 70 部）③報告書『平成 22 年度協力相手国調査　アルメニア共和国調査報告書日本語』（2012 年 3 月 1200 部）④報告書『平成 22 年度協力相手国調査　アルメニア共和国調査報告書　英語』（2012 年 3 月 95 部）⑤報告書『文化遺産国際協力情報資源共有化に関する報告書』（2012 年 3 月 500 部）⑥「文化遺産国際協力コンソーシアムパンフレット」(2011 年 10 月 1500 部)⑦「文化遺産国際協力コンソーシアムパンフレット英語」(2011 年 10 月 1500 部）⑧「文化遺産国際協力事業紹介 2011 年度」（2011 年 12 月 1500 部）⑨「文化遺産国際協力事業紹介 2011 年度　英語」（2011 年 12 月 1500 部）⑩「ミクロネシア　ナン・マドール遺跡紹介パンフレット」（2011 年 11 月 500 部）⑪「ミクロネシア　ナン・マドール遺跡紹介パンフレット　英語」（2011 年 9 月 1000 部）⑫「イリーナ・ボコバ　ユネスコ事務局長講演記録」（2012 年 3 月 500 部）⑬「アルメニア歴史博物館における考古青銅遺物保存修復ワークショップ」平成 23 年度資料集（2012 年 3 月 50 部）

【受託経費】
44,911 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 8033

業務実績書(受託事業)

研 No. 43-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（モンゴル）（受託）((2)-①-ア)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
（1）友田正彦、境野飛鳥（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）、深井啓（研究支援推進部）高妻洋成、脇谷草一郎、田村朋美（以上、奈良文化財研究所）東坂和弘（文化財建造物保存技術協会）、中村文美（建築家）

【年度実績概要】

東京文化財研究所とモンゴル教育・文化・科学省（MECS）およびモンゴル国立文化遺産センター（CCH）との拠点交流事業

モンゴルの文化財の現場において保存修復に携わる専門家の養成と技術移転を行うことを目的とする。

①：**アマルバヤスガラント寺院の保存管理計画策定に向けた現地ワークショップ**

6 月 20～25 日、ウランバートルの MECS およびセレンゲ県のアマルバヤスガラント寺院で、同寺院保護区域の公布を受けた協議、現地調査およびワークショップを実施した。また、8 月 23 日～25 日にも、行政各レベルや寺院の関係者とともに、保護区域内における土地利用等コントロールの方向性に関する現地ワークショップを実施した。

②**木造文化財建造物の修理に関する現地ワークショップ**

8 月 20～27 日：アマルバヤスガラント寺院にて開催した。前年度までの研修にも参加したモンゴル人若手建築家 3 名を対象とし、日本の文化財修理・保存専門家を講師に、保存修理設計に向けた調査の具体的方法について、境内の建物 1 棟を対象として作業実習を行った。



建造物保存修復調査研修の様子

③**モンゴルの文化遺産保護に関するワークショップ**

1 月 21～27 日：MECS にて、同省および名古屋大学法制国際協力研究センターとの共催で開催した。ワークショップでは、文化遺産の保護のみならず、同国の土地法および行政裁判制度を考慮した議論を行い、これを踏まえて MECS とセレンゲ県庁に対する提言書をまとめた。

④**文化財保存修復に関する日本国内でのワークショップ**

また、3 月 9～15 日の日程で CCH の専門家 3 名を日本に招へいし、3 月 12 日に、本事業の枠組みで実施してきたヘンティ県における石造文化財の保存に関する活動について報告会を実施した。また、この活動に関連して、奈良文化財研究所、東京国立博物館、文化庁などで、文化財保存修復・管理、記録、データベース作成に関する視察・聞き取り調査を行った。

【実績値】
現地ワークショップ　3 回
招聘　1 回
報告書　1 冊（①）
①「平成 23 年度活動報告:モンゴル教育･文化･科学省及びモンゴル国立文化遺産センターとの拠点交流事業」 2012.3)

【受託経費】
26,360 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8034

業務実績書(受託事業)

研 No. 44-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ユネスコ　タンロン・ハノイ文化遺産群の保存事業（受託）((2)-①-イ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
友田正彦、佐藤　桂（以上、文化遺産国際協力センター)、石崎武志（保存修復科学センター）井上和人、高妻洋成、杉山　洋、田代亜紀子（以上、奈良文化財研究所）上野邦一（奈良女子大学)、青木繁夫（サイバー大学)、桃木至朗（大阪大学)、坪井善明（早稲田大学）ほか

【年度実績概要】
ハノイの都心に立地するタンロン皇城遺跡は、11 世紀初頭の大越国建国以来、歴代の王朝が拠点とした宮城の中枢域に関する遺跡である。指定対象としての遺跡は、2002 年に国会議事堂建設予定地で発見された李・陳朝期の考古学的遺構と黎朝期以降の地上遺構を含む皇城中枢部の遺跡とで構成されている。その後、日越両政府の合意に基づき両国専門家による協力体制によって調査研究等が行われてきた。

本事業は、歴史・考古・建築・保存科学・社会学および管理計画策定等の各分野専門家を現地に派遣し、ベトナム側専門家や遺跡保存センター、社会科学院考古研究所等の現地関係機関との協力の下、同遺跡の歴史的文化的価値をさらに明らかにするとともに、今後のより良い保存に向けた技術的検討と保存管理体制強化を含む総合的支援を行うことを目的としている。

事業の第 2 年度である今年度は、以下の現地ミッションを派遣し、現地調査および技術研修等を実施した。
5 月：考古班 4 名および保存管理計画班 1 名
7 月：社会班 1 名
8 月：歴史班 5 名（中国国内における類例調査）
9 月：社会班 1 名および保存管理計画班 2 名
1 月：考古班 4 名、歴史班 2 名、保存管理計画班 2 名
2 月：保存修復班 5 名
3 月：考古班 3 名、保存管理計画および GIS 班 7 名

また、1 月にハノイ市タンロン遺産保存センターより 2 名を招聘して保存管理関係の研修を実施したほか、2 月と 3 月にそれぞれ社会科学院ベトナム都城研究センターより 2 名を招聘し、奈文研ほかにて出土木材保存研修を実施した。

歴史班においては日越両国専門家によるタンロン関係論文翻訳作業を進め、その結果をまとめて対訳論文集として編集した。

保存管理計画については、関連計画との関係等においてなお若干の調整を要するものの、今年度中に計画案の完成を見ることとなった。



考古発掘研修の様子

【実績値】
専門家派遣　7 回　（うち現地研修　1 回）
招聘研修　3 回

【受託経費】
12,146 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8035

業務実績書(受託事業)

研 No. 44-2

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（アユタヤ遺跡洪水被害状況調査事業）（受託） （(2)-①-イ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
友田正彦、楠　京子（以上、文化遺産国際協力センター）、朽津信明（保存修復科学センター）、二神葉子、城野誠治（企画情報部）、水田哲生（立命館大学歴史都市防災研究センター）

【年度実績概要】

「アユタヤ遺跡洪水被害状況調査事業」

2011 年秋に発生した記録的洪水によって被災した世界遺産アユタヤ遺跡群について、洪水被害後の遺跡の状況を専門的見地から調査するとともに、将来的な保存修復計画や防災計画立案などの分野での協力可能性の基礎的検討と併せて調査することが目的である。

①11 月 28 日から 12 月 3 日まで、文化財学と水害防災の専門家を現地に派遣し、被災状況を確認するとともに、関係機関と協議調整を行った。

②この結果を受けて、12 月 16 日から 22 日まで、保存科学、壁画保存、建築学等の専門家からなる調査団を現地に派遣し、タイ文化省芸術局および日本国文化庁の専門家とともに被災状況を詳細に調査した。その結果、大規模な浸水の割には遺跡等の保存に及ぼす影響は比較的軽微と判定されたが、今後の対策等に関する技術的提言をタイ芸術局に対して行った。

以上の調査成果は報告書にまとめ、日本語および英語で刊行した。



洪水により浸水した遺跡

【実績値】
報告書　2 冊（①、②）
①「アユタヤ歴史公園における文化財の洪水による被害に関する調査報告書」　2012.3
②”Report on the investigation of the flood damage of cultural properties in the Ayutthaya Historical Park”, 3.2012

【受託経費】
2,068 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8036

業務実績書(受託事業)

研 No. 44-3

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（受託）((2)-①-イ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　川野邊渉

【スタッフ】
友田正彦、佐藤　桂、岡村知明（以上、文化遺産国際協力センター)、城野誠治（企画情報部)、竹内　泰（宮城大学)、脇田祥尚（近畿大学)、岩田昌之（文化財建造物保存技術協会）ほか

【年度実績概要】

「西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業」

日本とインドネシア両国における自然災害により被災した歴史的地区文化遺産復興に関する専門家交流を行うことを目的とする。

①12 月 28 日から 1 月 14 日まで、建築・都市計画分野を中心とする専門家チームをパダン市に派遣し、西スマトラ地震による被災から 3 年後の復興状況を把握するとともに、今後のさらなる復興と保存地区設定に向けた課題の明確化や、町家をはじめとする歴史的建造物の耐震性向上、同じく建築様式の歴史的変遷に関する調査等を現地において実施した。この間、1 月 9 日には西スマトラ州文化観光局を会場に「パダン被災文化遺産の復興進捗に関するワークショップ」をインドネシア教育文化省および西スマトラ州文化観光局との共催で開催した。

②1 月 19 日から 25 日まで、インドネシア教育文化省歴史考古局より 2 名、同バトゥサンカル事務所より 1 名、アンダラス大学より 1 名の計 4 名のインドネシア人専門家を招聘し、わが国の文化遺産保護関係の現場、とりわけ東日本大震災での被災地を中心にその防災対策検討と復興努力の現状を見学するとともに、現地関係者等との意見交換を行った。主な訪問地は、香取市佐原重要伝統的建造物群保存地区、平泉町、気仙沼市、石巻市、松島町、鎌倉市等である。

以上の事業成果は報告書にまとめ、日本語及びインドネシア語で刊行した。



パダン旧市街の町並み

【実績値】
現地ワークショップ　1 回、招聘　1 回、
報告書　1 冊（「パダン歴史地区文化遺産復興支援報告書　Laporan Bantuan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Bersejarah di Padang」　2012.3　【日本語/ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語対訳】）

【受託経費】
7,865 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8037

業務実績書(受託事業)

研 No. 45-1

中期計画の項目	5. 文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（受託）((2) －①－イ)		
【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	国際遺跡研究室長　杉山洋

【スタッフ】
石村智、田代亜紀子、佐藤由似[以上、企画調整部]、小澤毅、金田明大[以上、埋蔵文化財センター]

【年度実績概要】

本事業は、カンボジア文化芸術省と協力し、ポスト・アンコールといわれる時代の王都であったウドン遺跡及びロンヴェック遺跡、そして近郊で新たに発見されたクラン・コー遺跡を対象として、発掘調査研究に関する技術移転をおこなうことを目的とする。

これまでのカンボジアにおける研究は、9 世紀から 15 世紀のアンコール王朝期に関するものが大多数を占め、ポスト・アンコール期に属する遺跡については先行研究も少なく、ほとんど明らかにされていない。本年度は、平成 22 年度に実施したロンヴェック近郊のクラン・コー遺跡における考古発掘研修をまとめるものとして、プノンペン王立芸術大学学生ならびに若手研究者を対象に、現地で 2 回の発掘調査研修を行った（8 月、2 月）。また、クラン・コー遺跡での測量研修成果を応用するものとして、ロンヴェック遺跡における遺跡測量研修を行うと同時に、クラン・コー遺跡、ロンヴェック遺跡、ウドン遺跡、サンボール・プレイ・クック遺跡などの遺跡で、ラジコンヘリを使った写真測量も実施した。

発掘調査研修の過程で、埋葬遺構（木棺直葬墓）一基を発見し、副葬品として、在地系土師質丸底甕、中国青磁、タイ青磁、鉄製小刀、青銅製耳飾、ガラス製小玉を検出した。発掘成果は、日本の東南アジア考古学会大会において報告した。2 月には、カンボジア文化芸術省におけるポスト・アンコール期に関する国際研究会を開催し、広く成果を公表し、議論を深めた。



クラン・コー遺跡における発掘調査研修（2011 年 8 月）

【実績値】
クラン・コー遺跡における考古発掘調査研修（8 月、2 月）：研修生 9 名
ロンヴェック遺跡における測量研修（8 月、2 月）：研修生 9 名
クラン・コー遺跡、ロンヴェック遺跡、サンボール・プレイ・クック遺跡における写真測量：研修生 3 名
東南アジア考古学会大会における報告（2011 年 11 月 26 日）
国際研究会開催（2012 年 2 月 22 日、於：プノンペン、参加者 50 名）

【受託経費】4,971 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8038

業務実績書(受託事業)

研 No. 45-2

中期計画の項目	5. 文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	海のシルクロードに関する観光研究（受託）((2) －①－イ)		
【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	国際遺跡研究室長　杉山洋

【スタッフ】
石村智、田代亜紀子、佐藤由似　［以上、企画調整部］、　池ノ上真一［北海道大学助教］

【年度実績概要】

本研究は、世界観光機構(UNWTO)の支援活動をおこなう財団法人アジア太平洋観光交流センター(APTEC)の要請を受け、「海のシルクロード」を活用した観光促進を目指し、観光研究の視点から海のシルクロードに関する調査研究をおこなうものである。「絹の道(シルクロード)」に対し、海の交易路が「陶器の道」「香辛料の道」と称されるように、陶磁器や香辛料をはじめとする様々なものが海の道をとおり、港市が発展し、文化が華ひらいた。西は地中海から東は東シナ海まで、東西交流が盛んにおこなわれた海上の交易路は、総じて「海のシルクロード」とよばれることもある。

初年度である本年度は、「シルクロード」を歴史的に検証し、それに対する「海のシルクロード」の位置づけを明らかにするべく、文献調査をおこなった。また、日本の海域における外界とのつながりを、主に 8 世紀以降の日本と海外との交易と港市に注目して現地調査をおこない、明らかにした。同時に、「海のシルクロード」のキーワードのひとつである「陶磁器」をとりあげ、陶磁器を通した海の道を、時代を区切りながら検証した。調査成果は、報告書『海のシルクロードに関する基礎研究-観光学の視点から』としてまとめ、APTEC に提出した。



日本三津に数えられた薩摩・坊津の風景。

【実績値】
海のシルクロードに関する国内調査　4 回（坊津、温泉津、難波宮、五島列島）
海のシルクロードと陶磁器調査　2 回（シンガポール、シェムリアップ）

報告書『海のシルクロードに関する基礎研究-観光学の視点から』

【受託経費】1,109 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8039

業務実績書(受託事業)

研 No. 46-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ユネスコ　シルクロード世界遺産登録のための支援事業（受託）((2)-①-ウ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
山内和也、有村　誠、安倍雅史、山藤正敏（以上、文化遺産国際協力センター)、金田明大、西口和彦（奈良文化財研究所)

【年度実績概要】

現在、中央アジア 5 カ国と中国が、シルクロード関連遺跡の世界遺産一括登録を目指し、国境の枠を超え、様々な活動を行っている。この活動を支援するため、文化遺産国際協力センターは、今年度より、ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金「シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業」に参加し、中央アジア各国で様々な事業を開始した。今年度は、カザフスタン共和国とキルギス共和国において、技術移転と人材育成を目的としたワークショップを開催した。


ボロルダイ古墳における地下探査の様子

1. 考古遺跡の地下探査に関するワークショップ（カザフスタン)

カザフスタンでは、9 月 27 日から 10 月 19 日まで、考古遺跡の地下探査に関するワークショップを、奈良文化財研究所およびカザフスタン考古学専門調査研究機関と共同で実施した。ワークショップには、カザフスタン人専門家の他、他の中央アジア諸国からも考古学専門家が参加した。実習では、アルマトイ近郊のボロルダイ古墳群とトルケスタン北西部のサウラン都城址を調査対象に、レーダー探査（GPR)と電気探査を行なった。

2. 遺跡の測量に関するワークショップ（キルギス共和国)

キルギス共和国では、10 月 18 日から 24 日まで、遺跡の測量に関するワークショップを開催した。キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所および同志社大学と共同で実施したこのワークショップには、キルギスの若手研究者 8 名が参加した。 測量の原理や方法論に関する座学の後、中世の都城址ケン・ブルン遺跡を対象に測量実習を行なった。

【実績値】
報告書 1 件：
①UNESCO/Japan Funds-in-Trust Project “Support for Documentaion Standards and Procedure of Serial and Transnational Nomination of Silk Roads in Central Asia for Inclusion in the World Heritage List” NRICP Tokyo Activtities in Kazakhstan and Kyrgyzstan in 2011

【受託経費】
3,487,636 円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8040

業務実績書(受託事業)

研 No. 46-2

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（コーカサス）（受託）((2)-①-ウ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
山内和也、有村　誠、邊牟木尚美（以上、文化遺産国際協力センター）、藤澤　明（客員研究員）

【年度実績概要】

「コーカサス諸国等における文化遺産保護に関する拠点交流事業」の枠組みにおいて、コーカサス諸国等の文化財保存修復専門家間のネットワーク作りに貢献し、幅広い技術交流、人材育成の促進を図ることを目的とする。本事業では、アルメニア共和国文化省と文化遺産保護のための協力に関する合意書にもとづき、アルメニア共和国歴史博物館が所蔵する金属考古資料の保存修復・調査研究活動を通じ、若手アルメニア人保存修復家の育成と技術移転を目指した。

1. 本年度実施ミッション

平成 23 年 6 月に第 1 次ミッション、平成 24 年 1・2 月に第 2 次ミッションを実施した。

第 1 次ミッションでは、アルメニア共和国文化省と「文化遺産保護のための協力に関する合意書」、アルメニア共和国歴史博物館と「アルメニア共和国歴史博物館所蔵の金属考古資料の保存修復・調査研究事業およびそれに係わる人材育成・技術移転のための協力に関する覚書」を締結し、本事業を開始した。今後 4 年間の研修を通して、アルメニア人研修生は金属考古資料のドキュメンテーション、保存修復、展示・収蔵、モニタリングから報告書出版まで、一連の保存修復処置に必要な知識と技術を習得する予定である。

第 2 次ミッションでは、アルメニア共和国歴史博物館にて歴史博物館が所蔵する金属考古資料の保存修復に関するワークショップを開催した（下記 2 参照）。

2. ワークショップ開催

平成 24 年 1 月下旬に歴史博物館において、第 1 回目となるアルメニア国内向けワークショップ「アルメニア共和国歴史博物館における考古青銅遺物の保存修復」を、2 月上旬に同様の国際ワークショップを開催した。

国内ワークショップには、歴史博物館からだけでなく国内他博物館や研究所からも参加者があり、国内のネットワーク作りにも貢献した。また、国際ワークショップでは、グルジア（グルジア国立博物館）、イラン（イラン国立博物館）、ルーマニア（アレクサンドル・イオン・クーザ大学）、から保存修復専門家を招聘し、意見交換および技術交流を行った。

今回のワークショップは、ドキュメンテーションをテーマとし、コンディション・チェック、写真撮影、科学分析等の実習を行った。



写真撮影研修の様子

【実績値】
報告書 2 件：
①「コーカサス諸国等における文化遺産保護に関する拠点交流事業」アルメニア歴史博物館所蔵の考古金属資料の保存修復・調査研究事業およびそれに係わる人材育成・技術移転のための協力（第 1 次、2 次ミッション）平成 23 年度業務報告書　50 冊
②「アルメニア歴史博物館における考古青銅遺物保存修復ワークショップ」平成 23 年度資料集　50 冊

【受託経費】
9,000 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8041

業務実績書(受託事業)

研 No. 46-3

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（キルギス）（受託）((2)-①-ウ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
山内和也、安倍雅史（以上、文化遺産国際協力センター)、山藤正敏（客員研究員)、井上和人、小野健吉、森本　晋、小澤　毅、芝康次郎（以上、奈良文化財研究所）

【年度実績概要】

当事業は、文化庁の委託を受け、将来的な中央アジアの文化遺産保護を目的とし、中央アジア若手研究者の人材の育成を目指す事業である。具体的には 2011 年から 2014 年までの 4 年間、キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所と共同で、キルギス共和国チュー河流域の都城址アク・ベシム遺跡を対象に、ドキュメンテーション、発掘、保存修復、史跡整備に関する一連の人材育成を実施していく予定である。

事業の初年度にあたる今年度は、文化遺産のドキュメンテーションに関するワークショップを 2 回実施した。



アク・ベシム遺跡での測量実習

1．第 1 回ワークショップ

10 月 6 日から 10 月 17 日にかけてワークショップを開催し、おもに遺跡の測量に関する研修を行なった。まず、遺跡の測量に関する基礎的な講義をキルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所で行った後、舞台を中世の都城址アク・ベシム遺跡に移し、実際にトータルステーションを用い、遺跡測量の実習を行なった。このワークショップには、キルギス共和国から 8 名、ほかの中央アジア各国から 1 名ずつ、計 12 名の若手専門家が参加した。

2．第 2 回ワークショップ

キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所にて 2 月 4 日から 2 月 10 日にかけて開催した。このワークショップでは、考古遺物の実測に関する研修を行なった。土器や石器、土製品の実測実習を行なうとともに、伝統的な土器工房の見学も実施した。また、拓本や遺物の写真撮影に関する実習も合わせて行った。このワークショップには、1 回目のワークショップに参加したキルギス人研修生 8 名が参加した。

【実績値】
報告書 2 件：
①「キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」平成 23 年度業務報告書
②「キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」平成 23 年度講義資料集

【受託経費】
13,000 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8042

業務実績書(受託事業)

研 No. 48-1

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅠ、Ⅱ）に係る国内支援業務（受託）((3))		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
山内和也、邊牟木尚美、島津美子、川口雄嗣、田島さか恵、本郷浩志（以上、文化遺産国際協力センター）、松田泰典、藤澤　明、末森　薫、伏屋智美（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
独立行政法人国際協力機構（JICA）からの当該受託業務において、主として保存修復分野における人材育成に係る以下の業務を行った。1. 計画策定支援、2. 研修支援、3. 専門家派遣支援、4. 国内支援委員会設置支援。
なお、フェーズⅠの契約期間は 2010 年 6 月 1 日～2011 年 7 月 31 日、フェーズⅡの契約期間は 2011 年 7 月 8 日～2015 年 3 月 31 日である。

1. プロジェクトのフェーズⅡの移行に合わせ、5～6 月に東京文化財研究所から 3 名が調査団員として派遣され、事業計画策定に参画した。フェーズⅡ移行後は、本格支援を開始した。2011 年度後半に実施予定であった研修計画の見直しとともに、2012 年度以降の「保存修復人材育成プログラム」および、2012 年度の保存修復に関する研修計画を策定した。

2. 保存修復センターのスタッフを対象とした以下の人材育成研修に関して、必要な教材・資機材についての助言、資料作成支援および翻訳、語彙集の作成を行った（カッコ内は開催時期と参加人数）。本年度は、主に保存の基盤となる収蔵品の管理、維持、予防的保存に関する研修の支援を行った。

＜現地研修（フェーズⅠ　1 回、フェーズⅡ6 回、計 7 回）＞
「労働安全衛生研修」(4 月～5 月、30 名)
「第 2 回移送・梱包研修」(7 月、26 名)
「第 3 回 IPM 研修」(11 月、16 名)
「第 2 回収蔵品管理研修」(12 月、23 名)
「第 3 回所内移動・梱包研修」(2 月、26 名)
「学術研究シンポジウム」(2 月、約 200 名)
「保存修復材料としての和紙研修」(3 月、16 名)
＜本邦研修（フェーズⅡ　計 3 回）＞
「微生物管理研修」(9 月～10 月、3 名)
「収蔵庫管理研修」(9 月～10 月、5 名)
「IPM（殺虫処理）研修」(10 月、4 名)


収蔵庫管理研修の様子

3. 上記研修の講師としての JICA 派遣専門家の推薦と研修支援、受け入れ機関との調整を行った。またプロジェクトの進捗状況を鑑みながら、フェーズⅡを円滑に進行すべく長期専門家を 1 名（業務調整／研修）選定し、既に派遣されている長期専門家 1 名（保存修復研修計画）と短期専門家 1 名（保存修復）の活動に対し継続的な支援を行った。

4. 国内支援委員会の設置開催に向けた支援として、メンバーの選定案を作成し、委員就任の相談と情報提供を行った。

以上のほか、保存修復センターの運営体制についての助言、博物館の保存修復における技術情報支援、データベース構築業務への支援を行った。

【実績値】
報告書　3 件（①～③）、計画案　1 件（④）
①　「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅠ）業務実施報告書（延長分)」
②　「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）業務実施報告書（上半期分)」
③　「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）業務実施報告書（下半期分)」
④　「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）2012 年度研修計画（案)」

【受託経費】
1,631 千円（フェーズⅠ）
10,883 千円（フェーズⅡ）

【受託】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 8043
(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研 No. 50-1

中期計画の項目	5 文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	日本／ユネスコ　パートナーシップ事業(受託)(4)		
【担当部課】	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	【事業責任者】	副所長　大貫美佐子

【スタッフ】
大貫美佐子(副所長)、松本正典(総務担当室長), 児玉茂昭(アソシエイトフェロー),松山直子(アソシエイトフェロー)、藤沢仁子(アソシエイトフェロー)、淑瑠ラフマン(研究補佐員),
堀田富美(研究補佐員)、赤澤　明(堺市博物館学芸課参事)、廣瀬香代子(堺市博物館学芸課主幹)、徐　素娟(堺市博物館学芸課非常勤職員)

【年度実績概要】

①海外現地調査

南アジア（インド）：貴重な伝統的工芸技術が多く存在するインドにおいて、無形文化遺産として工芸技術を保護する意識は低く、本調査では、インドの伝統的工芸技術の保護の現状を把握しつつ、中でも伝統的染織技術の国内分布と技術の伝承状況の現状を確認すべく、計 3 回の調査を実施した。1 回目の調査では、デリーとアーメダバードにおいて、関係する研究機関、大学等を訪問し、現状の聞き取り調査を実施し、2 回目の調査では北西部（ラジャスターン、グジャラート周辺)、3 回目の調査では南部（アンドラプラデシュ周辺）の伝承地において現状の技術について詳細に調査を実施し、伝承者の把握と現在の技術を確認できた。

東南アジア（タイ）：無形文化遺産保護に関する法的枠組み形成について、関係機関を一同に集め 1 回目の情報共有を含めた調査を実施した後、政権交代、大洪水の被害があり、同目的での調査が困難となった。そのため、調査方針を変更し、2 回目以降は現地協力者と実施可能な分野でアユタヤ、バンコク地域でも無形文化遺産保護の現地調査を現地専門家とともに実施し、無形文化遺産としての歴史的及び技術的な調査により、現地に貢献することができた。また、東南アジアでの無形文化遺産分野での研究活動を活発にするため、シリンドーン文化人類学センターと今後の調査研究協力に関して協定書の素案を作成し、平成 24 年度内に研究集会の共同開催が具体的に話合われた。

東南アジア（ミャンマー）：国内の専門家 3 名とともに文化省、および博物館やヤンゴン文化大学などの調査・教育機関を訪問してミャンマーの無形文化遺産保護条約批准を支援するための調査を行った。今回の調査では、ミャンマーにおける無形文化遺産の保護に関わる関係官庁や教育の状況、無形文化遺産のリスト化や条約の批准に向けた国内環境の整備の進展の状況、及びミャンマーにおける芸能や工芸の現状などを調査した。

②国際会議等への派遣

大韓民国に開設された無形文化遺産情報ネットワークセンターの開所式とそれに伴うシンポジウム、及び中華人民共和国に開設された無形文化遺産トレーニングセンターの開所式に当センター職員を派遣し、情報の収集に努めるとともに、無形文化遺産分野でのカテゴリーII センター間の研究協力関係の構築を行った。

また、インドネシア・バリ島において開催された、第 6 回無形文化遺産保護条約政府間委員会にオブザーバー出席し、、ユネスコ、研究者、NGO、アジア太平洋締約国政府関係者等に広くセンターの設立と活動広報を行うとともに、無形文化遺産の研究のニーズについて、情報交換や意見交換を行った。

③本年度成果の取りまとめ

海外現地調査を実施した地域において、調査完了後に報告書の作成を開始した。

【実績値】
現地調査研究　海外　10 回、国内 1 回
収集資料数　　海外書籍資料　10 冊、　海外映像資料(DVD)　4 本

【受託経費】

15, 510 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　アジア太平洋無形文化遺産研究センター　　処理番号　8044

業務実績書(受託事業)

研 No. 50-2

中期計画の項目	5 文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	平成 23 年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム(受託)(4)		
【担当部課】	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	【事業責任者】	副所長　大貫美佐子

【スタッフ】
大貫美佐子（副所長)、松本正典(総務担当室長)、児玉茂昭(アソシエイトフェロー)、松山直子(アソシエイトフェロー)、藤沢仁子(アソシエイトフェロー)、淑瑠ラフマン(研究補佐員)、堀田富美(研究補佐員)、赤澤　明(堺市博物館学芸課参事)、廣瀬香代子(堺市博物館学芸課主幹)、徐　素娟(堺市博物館学芸課非常勤職員)

【年度実績概要】

①アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究

国内：無形文化遺産の保護と記録の事例調査として、国指定重要無形民俗文化財の黒川能の調査を行った。農業の衰退による継承者の生活環境の変容、人口流出、過疎化における伝統芸能の継承の問題点を調査分析し、また保護のために継承者自らによる記録、それらを活用するキャパシティビルディングが必要であることを確認した。

②無形文化遺産情報の共有体制

センターの所有する情報を公開し、センターの活動を公知することを目的としてホームページを 23 年 12 月 16 日より開設した。また、情報共有の体制づくりの一環として、無形文化遺産に関わる調査・研究を行う研究者に関する情報の収集・整理を行い、必要に応じて適切な情報の共有体制が取れるようにデータベース化した。

③アジア太平洋地域の行政官・専門家等を招いた国際シンポジウムの開催

センターの開設式典に伴って、専門家らを海外から招へいして「危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承」と題した無形文化遺産の保護と継承に関するシンポジウムを開催した。シンポジウムには実績値の項に示すように国内外から 250 名の参加者があった。

④無形文化遺産保護に関する調査・研究集会

センターの中期計画における研究内容の一つである、無形文化遺産の条約に関する研究に焦点をあて、特に無形文化遺産の条約に関わる研究者を招き、無形遺産条約の課題について議論を行った。

⑤無形文化遺産研究センターの設置等

平成 23 年 10 月 3 日にセンターの開設記念式典を行った。式典には近藤誠一文化庁長官を始めとした国内外の来賓 70 名を招き、センターの設置を周知した。それに先立ってセンターの運営理事会を行い、センターの中長期の活動計画と、事業計画等について討議を行い、理事らの了承を得た。

【実績値】
アジア太平洋無形文化遺産研究センター開設記念シンポジウム「危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える」
参加者 250 人
現地調査研究　海外　0 回、国内 44 回
収集資料数
Web アクセス件数 1,838 件(12 月 16 日～24 年 3 月 31 日)

【受託経費】
30，135 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8045

業務実績書(受託事業)

研究所 No. 72-1

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
【事業名称】	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査委託（受託）((4) －①)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　井上和人

【スタッフ】　井上和人（副所長）、小池伸彦、芝 康次郎、諫早直人、清野孝之、今井晃樹、石田由紀子、中川二美、中川あや、山本 崇、山本祥隆、青木 敬、小田裕樹、中村亜希子、田代亜紀子、箱崎和久、大林 潤、鈴木智大、海野 聡、黒坂貴裕、番 光、高橋知奈津、井上麻香、北山夏希、(以上 都城発掘調査部)、林良彦、清水重敦（以上文化遺産部)、児島大輔、小澤 毅（以上埋蔵文化財センター）

【年度実績概要】

第一次大極殿院の奈良時代前期（Ⅰ－2 期）の建物等、すなわち大極殿院南門、東西楼、築地回廊、内庭部の様相について、平成 22 年度に引き続き、発掘遺構、出土遺物などの直接的資料の検討、関連する類例の調査をおこなった。特に重要な類例については、計 8 回（国内 1、国外 7）の現地調査をおこなった。これらにともなう復原検討会を計 17 回（第 14～30 回）開催し、各建物等の復原案の具体化を進めた。

今年度の復原検討の成果として、第一次大極殿院全体については、遺構の再検討より築地回廊の東西、南北の規模、および南面回廊の基準尺を得た（第 18,29 回検討会)。また、第一次大極殿院地区出土瓦の検討から、回廊に開く小門に関わる可能性のある瓦の出土分布が明らかとなった（第 17 回検討会)。内庭部については、遺構および出土磚の再検討より、磚積擁壁の高さおよび磚の寸法を得た（第 21,26 回検討会)。

南門については、桁行 5 間・梁行 2 間、重層の門であるという平成 22 年度の検討成果をもとに、遺構では明確でない柱配置についての検討を進めた。現存する建築遺構例にみえる基壇規模、下層と上層柱配置等の関係を参考に、二重門形式の上下層柱配置 6 案、楼門形式の下層柱配置 6 案、計 12 案を導いた（第 15,18,21,24,27 回検討会）。

東西楼については、検出遺構から柱配置が判明しているため、類例から架構の検討をおこなった。この結果、東西楼の掘立柱は構造主体を担う通柱であること、隅木を真隅に納める構造であること、架構に妻梁を用いる案が有力と考えられた（第 19,22,28 回検討会)。

東西楼出土を含む都城・古代の隅木蓋瓦には、直角の切り込みがみられる傾向が明らかとなった（第 21 回検討会)。東楼の遺物では、いわゆる三手先組物の雛形も知られているが、伴出した出土遺物の検討などから、東西楼の組物形式に直結するとは考えず、奈良時代前半の組物形式の一事例と位置づけた（第 19 回検討会)。

回廊については、検出遺構の分析から、南面回廊基壇外装の南北幅を得たが、想定築地心から基壇外装までの距離が北半よりも南半が約 1 尺大きい傾向があることが判明した。また、朝堂院側より大極殿院側の標高が高いことが判明した（第 16 回検討会）。

その他、西楼の側柱抜取穴出土石材の再検討から、西楼入側柱あるいは築地回廊の側柱所用の柱径復原の手がかりを得た。また、第一次大極殿院地区で出土した凝灰岩より、回廊または東西楼所用と考えられる基壇葛石の大きさを得た（第 19,25 回検討会)。



東西楼出土遺物の検討風景

【実績値】

検討会開催数：17 回、類例調査：8 回、論文数等 4 件　大林潤「磚積擁壁と斜路の検討―第一次大極殿院の復原研究 4―」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012、北山夏希「南門の復原検討―第一次大極殿院の復原研究 5―」同前、井上麻香「回廊基準尺の検討―第一次大極殿院の復原研究 6―」同前、中川二美「門の位置と東・西楼の屋根構造の検討 －第一次大極殿院の復原検討 7－」同前
『平城宮第一次大極殿院復原検討会記録 3』・『　同　4』

【受託経費】

38,978 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8046

業務実績書(受託事業)

研 No. 79-1

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	関西大学博物館所蔵登録有形文化財津雲貝塚出土縄文時代甕棺の復元修理（受託）((1))		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	伝統技術研究室長　北野信彦

【スタッフ】
犬竹　和（修復家）

【年度実績概要】
本事業で復元修理を行った縄文時代の甕棺は、大正 8 年に岡山県笠岡市津雲貝塚から出土した資料で登録有形文化財に指定されている。人骨に据えられていた状態で出土した甕棺の内部には乳児骨が埋葬されていた。近年にいたって、以前の復元で使用された修復材料の劣化が認められ、特に使用されていた石膏や接着剤は経年変化による劣化が著しく、安全に保管することも儘ならないなど再修復を要する状態にあった。そこで、平成 18 年度から平成 22 年度までの受託調査研究で修復を行った同博物館所蔵国府遺跡出土の縄文鉢形土器や籠型土器などに引き続き、本資料の再修復を行うこととなった。今回の再修復でも指定文化財に準じる登録有形文化財の甕棺が安全に保管できるとともに、さらに展示や学術研究に活用されることを目的とし、当受託調査研究で研究開発された石膏に代わる土器修復材料であり質感・耐久性などにすぐれた補修用擬土を使用して修復した。

概　　要
◇修復対象　縄文時代甕棺　1 点
◇修復概要
1) 解体およびクリーニング･･･劣化した石膏やセメントなどの補修材料を超音波メスで除去。接着剤は有機溶剤を使用して除去し解体した。表面の汚れは蒸留水を少量綿棒に含ませて拭き落とした。
2) 土器の強化･･･劣化して脆弱になった土器破断面をアクリル樹脂で強化した。特に脆弱な部分（底部）のみ表面の強化処理をした。
3) 接合･･･アクリル樹脂を使用して破片を接合した。
4) 復元･･･欠失部分に補修用擬土を充填し、常温で乾燥後、整形し文様を施した。55℃の定温乾燥機に入れ樹脂を硬化させた。

【実績値】
受託事業報告書　　1 件
本事業は関西大学から委託

【受託経費】
1,365 千円

【受託】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8047

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No. 80-1

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	朱雀大路緑地遺跡発掘調査（受託）((1) －②)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副所長　井上和人

【スタッフ】

小池伸彦、箱崎和久、神野 恵、馬場 基、海野 聡、諫早直人、川畑 純、石田由起子、橋本美佳（以上、都城発掘調査部）、井上直夫、中村一郎、栗山雅夫（以上、企画調整部）

【年度実績概要】



第 486 次調査区全景（南東から）

平城京左京三条一坊一坪は、奈良文化財研究所や奈良市教育委員会による過去の周辺の発掘調査で、坪を囲う築地塀等の区画施設がないことが指摘されていた。平成 22 年度の発掘調査（第 478 次）では、南北に長い調査区を設定し、大型の井戸や掘立柱建物などを検出した。第 486 次は井戸を含む北側を中心に東西 48m。南北 34m の調査区を設定し、井戸枠の取上げを視野に、東西 3m、南北 12m の拡張区を設けて発掘調査をおこなった。発掘面積は 1620 ㎡、調査期間は平成 23 年 9 月 23 日～12 月 22 日である。その結果、奈良時代前半の鉄鍛冶工房跡がみつかり、調査区にかかる分だけで 420 ㎡に及ぶことがわかった。工房はさらに南北に広がる可能性が高く、南側の第 488 次でもすでに工房の広がりを確認している。工房は残存状況が良好で、工房の覆屋となる掘立柱建物、排水や用水の確保に使われたとみられる溝、廃棄土坑など、古代の鉄鍛冶工房の全体像がわかる資料を提示している。出土遺物もふいご羽口や鉄滓、金床石、炭などが大量に出土した。工房が操業停止後は整地され、その後は主要な建物が建てられた痕跡が残らないため、少なくとも坪の西半は朱雀大路と一体になった広場だった可能性が高まった。それに対し、東側は重複する掘立柱建物群を検出しており、あきらかに土地利用の形態に差がみられた。さらに第 486 次調査では、第 478 次の成果も合わせて現地説明会をおこなうとともに、現地保存が難しいとの観点から、井戸枠の取上げをおこなった。その断割調査の結果、井戸の設置方法に関する新たな所見を得られたとともに、古墳時代以前の自然流路の通り道に井戸が設置されていることや、工房の操業前に整地土を入れて平坦にしていることなどが明らかとなった。ひきつづきおこなった第 488 次調査は、第 486 次の南方に南北 48m、東西 33m、面積 1584 ㎡の調査区を設定した。調査期間は平成 23 年 12 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日である。一坪を南北に二分する幅 9.5m の東西道路（坪内道路）と、それに先行する複数棟の掘立柱建物跡等を検出した。最も大きな建物は東西 6m、南北 24m の規模で、さらに南に続くとみられる。くわえて総柱の高床式倉庫も検出した。主要な建物は東西方向の柱筋を揃えており、同一の設計基準によって計画的に配置されている。また土層の検討から、第 486 次調査で検出していた鍛冶工房についても坪内道路に先行することを確認した。すなわち第 488 次で新たに確認した建物群と、第 486 次で確認していた鍛冶工房はいずれも坪内道路設置以前の遺構ということになる。坪の北側には鍛冶工房などの現業部門が、南側には長大な掘立柱建物や倉庫などからなる事務・管理部門があったとみることも可能である。なお坪内道路と同時期、あるいはそれよりも新しい建物などは確認していない。以上のような成果を広く公開するために現地説明会を開催した。

【実績値】

出土した遺物の数；土器：整理箱約 40 箱、瓦：約 3 箱、木製品：柱根 1 点、礎板 1 点ほか。
（鍛冶関連遺物）金床石 12 点、鉄釘 2 点、鉄滓 1,000 点以上、羽口 100 個体以上、砥石 3 点、木炭多数
（土のう袋に入れて持ち帰った工房の埋土）約 2000 袋
報道発表回数 2 回（第 486 次；記者発表：平成 23 年 11 月 17 日、現地説明会 11 月 16 日、聴衆約 200 人、
第 488 次；記者発表：平成 24 年 3 月 7 日、現地説明会 3 月 10 日、聴衆約 850 人）
論文数等；「平城京左京三条一坊一・二坪の調査−平城第 478・486・488 次」『奈良文化財研究所紀要 2012』（予定）
「平城京左京三条一坊一坪の調査−平城第 486 次」『奈文研ニュース』No. 44、2012. 3

【受託経費】

48,211 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8048

業務実績書(受託事業)

研 No. 80-2

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（高殿町徳田宅倉庫）発掘調査（受託）((1) -②)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　深澤芳樹

【スタッフ】
若杉智宏、石橋茂登、桑田訓也、高橋知奈津、橋本美佳［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、栗山雅夫、岡田愛［以上、企画調整部］

【年度実績概要】

本調査は、特別史跡藤原宮跡内の徳田宅倉庫建設にともなう事前調査である。調査地は、藤原宮東方官衙北地区にあたり、宮内に想定される先行四条大路の道路心より約 30m北に位置する。調査面積は 101.5 ㎡、調査期間は 2011 年 4 月 4 日から 4 月 22 日までである。

調査区西側で検出した南北溝 1 は、調査区の西半分を占める大規模な素掘溝で、幅 9.3m、深さ 60 ㎝、出土土器から 5 世紀後半と考えられる。南北溝 1 の東では幅 1.9m、深さ 45 ㎝の南北溝 2 を検出し、南北溝 1 の東肩に沿うようにつくられていることから南北溝 1 に近い時期に設けられたと想定できる。

南北溝 1 の西肩斜面では、南北 2.2m、東西 2.3m、深さ 35 ㎝以上の土坑 1 を検出した。土坑 1 は北西隅に浅い溝が取り付けられ、南北溝 1 と接続していたと考える。埋土からは多量の土器が出土し、内容から 5 世紀後半に比定できる。

土坑 1 の北西側には北西方向にのびる杭列を確認しており、また南北溝 1 および土坑 1 からは、板材が出土している。これらを勘案すると、南北溝 1 と土坑 1 の西肩を杭と板材で護岸していた状況が推定できる。また、調査区東端中央では古墳時代の土坑を検出した。南北 2.3m、東西 1.2m以上で、重複関係より南北溝 1 より古いことが確認できる。このほか、素掘溝 3 条、土坑 1 基を検出したが、出土遺物が少なく詳細な時期決定は難しい。

本調査区から出土した遺物は大半が土器類で、そのほかの主な遺物は、南北溝 1・土坑 1 から出土した板材および杭、中世の遺物包含層から出土したガラス玉鋳型が挙げられる。

本調査区は藤原宮の東方官衙地区にあたるが、今回の調査で藤原宮期の遺構は検出できなかった。古墳時代の大溝（南北溝 1）の存在や土層の状況を考慮すると、藤原宮期の整地土は後世の削平により消滅したものと推測する。



土坑 1 板材・杭検出状況（北東から）

【実績値】
論文数等：　1 件
　若杉智宏「東方官衙北地区の調査　第 168-1 次調査」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）
出土遺物　　土器・土製品 13 箱、軒瓦 2 点、丸平瓦 1 箱、板材・杭 14 点、鋳型 1 点、鉄器 3 点、石器 3 点など
記録作成数　遺構実測図 9 枚、写真（4×5）4 枚

【受託経費】
1,057 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8049

業務実績書(受託事業)

研 No. 80-3

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（高殿町集会所）発掘調査（受託）((1) －②)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部長　深澤芳樹

【スタッフ】
森先一貴、玉田芳英、廣瀬 覚、番 光［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、栗山雅夫、岡田 愛［以上、企画調整部］

【年度実績概要】

本調査は高殿町集会場建設のための事前調査である。調査地は藤原宮東辺の中央付近に位置し、東面大垣推定位置上にあたる。周辺の調査成果からみて、付近には東面中門の存在も想定されていたが、藤原宮造営方位には振れがあるため、詳細な位置は不明であった。発掘調査は 2011 年 7 月 21 日から 8 月 30 日まで実施した。調査区は高殿町集会所建物部分（199.5 ㎡）と、集会場に伴う浄化槽の設置予定部分（4.8 ㎡）に設けた。

今回の調査では藤原宮東面中門と東面大垣、先行朱雀大路南側溝のほか、大土坑・土坑・小穴・斜行溝等を検出した。とりわけ東面中門と東面大垣を良好な状態で検出したことが特筆される。これらの遺構を発見したことにより東面中門の位置が確定し、藤原宮の構造解明により具体的なてがかりが得られた。東面中門は既発見の宮城門遺構と同規模であるが、それよりはるかに遺存状態がよく、いくつかの新知見を得ることができた。まず、門に伴う掘り込み地業はおこなわれていないが、礎石位置については、礎石据付掘方内部に大型の礫を入れつつ種類の異なる土を交互に突き固めるという基礎地業が施されていた。また、出土した礎石の高さと礎石据付穴の深さからみて、礎石の上面は検出面より 90cm以上高い位置にあったと推定することができる。

東面大垣もこれまで知られているとおり 9 尺等間の柱間で門に取り付いていることを確認した。柱掘方は既発見例と同規模だが、柱抜取穴は既発見例よりも長大かつ幅広であった。このことは、柱抜取穴が柱位置に向けて細長くスロープ状に掘られるため、削平の少ない本調査区では穴の上部まで良く遺存していたことを示すと考えられる。

東面中門の下には先行朱雀大路南側溝を検出した。この発見によって藤原宮の構造とその造営に関する貴重な情報が新たに追加された。



調査区全景（南から）

【実績値】
論文等数：1 件
森先一貴・玉田芳英・廣瀬覚「東面中門・大垣の調査　第 168-2 次調査」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）
出土遺物　土器・土製品 7 箱、軒瓦 2 点、丸平瓦 2 箱、石器・石製品 14 点、獣歯 2 点など
記録作成数　遺構実測図 13 枚、写真（4×5）112 枚

【受託経費】
2,525 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8050

業務実績書(受託事業)

研 No. 80-4

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	藤原宮跡（法花寺町水路改修）発掘調査（受託）(1)－②		
【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【事業責任者】	都城発掘調査部長　深澤芳樹

【スタッフ】
庄田慎矢、木村理恵、清野孝之、渡辺丈彦、黒坂貴裕、山本崇、小田祐樹、高橋透［以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）］、山本祥隆、川畑純[以上、都城発掘調査部（平城地区）]、井上直夫、栗山雅夫、岡田愛[以上、企画調整部]

【年度実績概要】

橿原市教育委員会からの委託事業として、農業用水路改修工事に伴う発掘調査を実施した。対象地は橿原市法花寺町で藤原京左京二条二坊にあたる。工事区域が総長 132mであるため、調査区は長さ 132m、幅約 1.5～2mで設定した。全体の調査面積は約 295 ㎡である。北端のＪＲ線近接部分は専門保安員立会の下、12 月 5 日より 7 日までの 3 日間調査を行った。全体の調査期間は平成 23 年 10 月 5 日から平成 24 年 3 月 23 日までである。重機掘削は北半と南半の 2 回に分けて行った。

調査区の大部分が水路と重複し、遺構面が失われていたため、壁面での検出を中心に行った。調査区北半で検出した主な遺構は東西溝 2 条である。北側の東西溝は、東西壁面および西側平面で検出できた。埋土から古代以前の土師器・須恵器片が数点出土した。南側の東西溝は、東壁面および東側平面で検出した。古代の整地土を掘り込む。二条条間路北側溝の推定位置より南側に 1mずれるものの、条坊側溝の可能性は残される。

調査区南半も調査区の大部分が水路と重複し、ほぼ全域で遺構面が失われていたため、壁面での検出が中心となったが、北半から連続して整地土や東西溝 1 条を確認したほか、調査区南端付近でも整地土や古墳時代～古代の土坑を 2 基確認した。2 基の土坑のうち、北側の土坑は東壁面および平面で検出した。埋土から古墳時代中～後期の土師器片がまとまって出土した。南側の土坑は層序から、古墳時代～古代の遺構とみられる。東西溝は、東の壁面および一部平面で検出した。整地土から地山まで掘り込んでおり、古代の溝と考えられる。

本調査区は水路による攪乱や狭長な調査区という制約があったものの、藤原宮期を含む古代の遺構をいくつか確認することができた。また、水路より、縄文土器から近世陶磁器まで多岐にわたる遺物が出土しており、周辺の土地利用史を復元する手がかりを得られたといえよう。

以上のように、本事業では、水路付け替え工事に伴う発掘調査を円滑に遂行し、藤原京域の埋蔵文化財における基礎資料を蓄積することができた。



調査区北半全景（北より）



記録作成風景（南より）

【実績値】
論文等数：1 件
木村理恵・庄田慎矢「左京二条二坊・東二坊大路の調査第 168-8 次調査」『奈良文化財研究所紀要 2012』2012.6（予定）
出土遺物　土器 4 箱、瓦類 7 箱、木製品・石器・動物遺存体ほか 1 箱
記録作成数　遺構実測図 25 枚、写真（4×5）36 枚

【受託経費】
3,236 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 8051

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No. 84-1

中期計画の項目			
【事業名称】	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）		
【担当部課】	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局	【事業責任者】	副事務局長　岡田　健

【スタッフ】亀井伸雄（委員長、所長）、石崎武志（事務局長、副所長）、森井順之、朽津信明、早川泰弘、吉田直人、木川りか、佐野千絵（以上、保存修復科学センター）山梨絵美子、二神葉子、綿田稔、塩谷純、江村知子、皿井舞、（以上、企画情報部）、飯島満、今石みぎわ、菊池理予（以上、無形文化遺産部）

【年度実績概要】

東日本大震災により被災した文化財救援のため、4 月、文化庁によって「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業」が開始され、東京文化財研究所に委員会事務局が設置された。事業経費は公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団への義捐金・寄附金によるとされたが、委員会活動開始時には、委員会構成団体に人員派遣にかかる経費の負担を求めざるを得ない状況があった。8 月から、文化庁からの助成を受け、救援活動に対する指導・助言のための専門家派遣費用が賄えるようになった。派遣の実績は次の通りである（被災各県毎に主なものを記載）。

【宮城県】

宮城県被災文化財等保全連絡会議、石巻文化センター所蔵品の救援・所蔵民俗資料の記録作成、気仙沼市唐桑漁村センター民俗資料・生物標本の救援、村田町にて救援した歴史資料の一時保管環境調査

【岩手県】

陸前高田市立博物館被災資料の応急処置、陸前高田市役所公文書等の応急処置、野田村立図書館資料の応急処置、山田町における民俗資料の応急処置

【茨城県】

北茨城市平潟地区における歴史資料救援、新治汲古館資料の救援

【福島県】

須賀川市長沼収蔵庫資料の救援

【東京都】

委員会会議

【三重県】

三重県立美術館における岩手県被災美術作品の応急処置

【実績値】

	合計 / 旅行回数	合計 / 日数	合計 / 旅費金額
第 1 回契約	**204**	**902**	**15,888,867**
東文研職員	**35**	**105**	**1,755,010**
茨城県	6	6	56,840
岩手県	18	73	1,250,970
宮城県	10	25	432,400
福島県	1	1	14,800
東文研以外	**169**	**797**	**14,133,857**
茨城県	8	19	377,440
岩手県	152	764	13,435,357
宮城県	2	5	103,000
福島県	4	6	139,300
東京都	3	3	78,760
第 2 回契約	**153**	**530**	**9,184,630**
東文研職員	**24**	**32**	**562,700**
茨城県	7	8	45,600
岩手県	6	12	251,720
宮城県	10	11	239,860
三重県	1	1	25,520
東文研以外	**129**	**498**	**8,621,930**
茨城県	4	7	74,220
岩手県	86	428	7,418,550
宮城県	12	35	565,880
東京都	27	28	563,280
総計	**357**	**1,432**	**25,073,497**

【受託経費】

第 1 期：8 月～10 月　17,000 千円、第 2 期：11 月～3 月　12,000 千円

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9110

大項目	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化

【年度計画】
1)財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。
2)国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。
3)新設されるアジア太平洋無形文化遺産研究センターを含めたネットワークの共通化及び機構全体のグループウェアの共通化を図り、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　藤本慎也

【実績・成果】
1)web 給与明細システムを23年5月給与より正式運用開始した。機構全体で職員の45.6%(858人のうち391人、24年3月給与支給日現在)について紙媒体での給与明細配布を終了し、給与事務の効率化を図った。
　また新財務会計システム更新について、24年4月正式運用開始に向けて準備を進めた。現行では別システムまたは紙により処理している購入依頼、科学研究費、旅費処理等の会計処理・管理を一元化する予定であり、財務会計事務の効率化が見込まれる。
2)国立博物館各館および各研究成果公開施設における23～27年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を2回開催し、連絡・調整を行った。
3)アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、23 年 9 月の LAN 新設時に機構 VPN(Virtual Private Network)に接続した。また、機構共通グループウェア「サイボウズ」の機構全体での運用を継続し、機構内の連絡調整・情報共有を推進した。

【補足事項】
1)財務会計システム・人事給与システムが機構内各施設間の通信に利用する回線は、従来専用線であったが、23 年 6 月より機構 VPN 利用に変更、内製化することで大幅なコストダウンを図った。
3)グループウェア「サイボウズ・ガルーン 2」を、24 年 2 月 4 日に「ガルーン 3」へバージョンアップした。
グループウェア「サイボウズ・ガルーン 3」のバックアップサーバーの奈良文化財研究所への設置は、当初 23 年度中に行う予定であったが、ハードウェアの不具合により 24 年度設置予定となった。
グループウェア「サイボウズ・ガルーン 3」23 年度利用ユーザ数(括弧内は 22 年度)：
　機構全体　960(930)
　　内訳：本部・東博 230(210)、京博 100、奈良博 60、九博 150、
　　東文研 150、奈文研 250(260)、無形センター20(0)

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　中期目標の期間中、一般管理費については 15%以上、業務経費については 5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
　なお 19 年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成 23 年度までの統合後 5 年間で、19 年度一般管理費(物件費)の 10%相当の経費を削減する。
　このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
　具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
　・省エネルギー(エネルギー使用量は、5 年計画期間中に 5%削減)
　・廃棄物減量化
　・リサイクルの推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9120

中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(2)計画的なアウトソーシング

【年度計画】
　以下の業務の外部委託を継続して実施する。
(東京国立博物館)
・資料館業務の一部
(京都国立博物館)
・看視案内業務及び設備保全業務の一部
・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務
・情報システムの運用・管理・開発業務の一部
(奈良国立博物館)
・建物設備の運転・管理業務
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
(九州国立博物館)
・建物設備の運転・管理業務等
・警備業務、看視案内業務及び清掃業務
(東京文化財研究所・奈良文化財研究所)
・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課 京都国立博物館総務課 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館総務課 東京文化財研究所管理部 奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　金谷　史明

【実績・成果】
・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。
・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。また、研究所は警備業務の全てを外部委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。
・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。

【補足事項】
・外部委託が可能な業務については、民間委託を進めている。
・また、複数の業務についての包括契約化、複数年契約、近隣の機関及び法人内同一地域での一括契約等の実施により、業務の効率化を図っている。
・民間委託の増加に伴い、契約手続・監督等の業務が増加しているが、人員削減が急速に進んでいるため、業務継続に必要なノウハウが館に蓄積されないなどの問題が生じている。

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
　中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
　なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。
　このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
　具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
　・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
　・廃棄物減量化
　・リサイクルの推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名：法人全体　処理番号：9130

中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(3)　使用資源の減少

【年度計画】
・省エネルギー　1)光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。（エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減）
・廃棄物減量化　1)使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。
・リサイクルの推進　1)廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　金谷　史明

【実績・成果】
・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。
・廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。
・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集，リサイクル業者への古紙受け渡し，再生紙の発注等）

使用資源の推移等
光熱水料金　（千円）

事項	22年度	23年度	差額	増減率
電気料	350,947	359,663	8,716	2.48%
水道料	79,777	82,330	2,553	3.20%
ガス料	98,213	127,175	28,962	29.49%
計	528,937	569,168	40,231	7.61%

※電気料は全体として使用量ベースでは減少したが、原料高騰による契約単価および燃料調整費の上昇により使用料金ベースで増額となった。

事項	22年度単価（円/kwh）	23年度単価（円/kwh）	差（円/kwh）	単価影響額(千円)
電気料特殊要因	13.6	14.3	0.7	17,507

※水道料は、東京国立博物館で来館者増加に伴って増加した。
※ガス料については、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増加となった。
・ガス量特殊要因① 原料高騰により契約単価が上昇した。
・ガス料特殊要因② 東日本大震災に伴う電力ピークシフトに協力し、夏季において東京国立博物館のガス設備を夜間稼動させ、その稼動率低下を補うために運転時間を延長した。
・ガス料特殊要因③ 改修工事のため昨年度休館していた東京国立博物館東洋館のガス設備を開館準備に伴って再稼動させた。

事項	22年度単価（円/㎥）	23年度単価（円/㎥）	差（円/㎥）	単価影響額(千円)
ガス料特殊要因①	66.6	73.7	7.1	14,397

事項	増加量(㎥)	23年度単価（円/㎥）	影響額(千円)
ガス料特殊要因②	139,392	70.03	9,762
ガス料特殊要因③	98,812	70.03	6,920

特殊要因を考慮した光熱水料金　（千円）

事項	22年度	23年度	差額	増減率
電気料（※）	350,947	342,156	△8,791	△2.50%
水道料	79,777	82,330	2,553	3.20%
ガス料（※）	98,213	96,096	△2,117	△2.16%
計	528,937	520,582	△8,355	△1.58%

※電気・ガスについては特殊要因を勘案して算定。

廃棄物排出量　(kg)

事項	22年度	23年度	差額	増減率（%）
一般廃棄物	273,407	255,976	△17,431	△6.38%

【補足事項】

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
光熱水量	1.58%減	年間1.03%減	S		1.6%増	2.3%減	8.8%減	4.24%減

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。
このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)　・廃棄物減量化　・リサイクルの推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9140

中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(4)自己収入の増大

【年度計画】
独立行政法人整理合理化計画(19年12月24日閣議決定)の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。
1)機構全体において、入場料収入(共催展を除く)及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。
2)機構全体において、寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。

担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　金谷　史明

【実績・成果】
1)定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり△8.17%となり、目標を下回った。

（単位：千円）

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
自己収入基準額	874,112	884,252	894,510
自己収入目標額	884,252	894,510	904,886
自己収入実績額	949,900	1,002,524	821,470
増　加　率	8.67%	13.38%	△8.17%

※受託研究・受託事業を除く。
※自己収入目標額は、前年度の目標額から1.16%増加した場合の額。
※増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。

2)下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成23年度
寄附金	226件	393件
科学研究費補助金	76件	76件

【補足事項】
平成22年度までの科学研究費補助金事業は、平成23年度より「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」による科学研究費助成事業として取り扱うこととなった。平成23年度の科研費採択件数は、「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」を含むものである。

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経	19	20	21	22
自己収入増加率	8.17%減	1.16%増	C	年	－	－	8.67%	13.38%
寄付金件数	393件	226件	A	変	－	－	290	314
科研費採択件数	76件	76件	A	化	－	－	86	81

総合的評価	S　A　Ⓑ　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。
このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
・廃棄物減量化
・リサイクルの推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	一部要注意

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9210

中項目	2　給与水準の適正化等
事業名	給与水準の適正化等

【年度計画】

国家公務員の給与水準や手当てを考慮した役職員の給与の適正化を計画的に取り組む。またこれまでの人件費改革の取り組みを平成23年度まで継続する。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については総人件費改革の削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。

担当部課	総務企画課	事業責任者	課長　藤本　慎也

【実績・成果】

・人件費削減実績

	17年度(A分類実績ﾍﾞｰｽ)	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	23年度目標値(17年度に比して△6.00%)
実績(千円)	2,878,750	2,789,360	2,773,688	2,745,389	2,688,829	2,619,439	2,607,399	2,706,025
前年度に対する削減率	－	△3.11%	△0.56%	△1.02%	△2.06%	△2.58%	△0.46%	－
17年度に対する削減率	－	△3.11%	△3.65%	△4.63%	△6.60%	△9.01%	△9.43%	－
17年度に対する削減率(補正値)	－	△3.11%	△4.35%	△5.33%	△4.90%	△5.81%	△6.03%	－

・人事給与統合システムが平成20年4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。

・地域手当について、平成23年度においても平成21年度の率を据え置く方針が決定された。

【補足事項】

※1　人件費削減実績表中の「補正値」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。なお、平成18年、平成19年、平成20年、平成21年、平成22年、平成23年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ0%、0.7%、0%、△2.4%、△1.5%、△0.2%である。

※2　レクリエーション経費は運営費交付金からの支出はない。レクリエーション経費以外の福利厚生費(法定外福利費)は14,917千円である。また、国とは異なる諸手当は機構にはない。

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
人件費削減率(17年度比較)	△9.43%	17年度決算額に比して6年間で6%削減	－		△3.65%	△4.63%	△6.60%	△9.01%

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成23年度まで継続するとともに、平成24年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。

なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　　施設名　法人全体　　処理番号　9310

中項目	3　契約の適正化の推進
事業名	契約の適正化の推進

【年度計画】
1)契約監視委員会を実施する。
2)施設内店舗の貸付について企画競争を導入する。
3)民間競争入札を推進する。
(東京国立博物館・東京文化財研究所)
・施設管理・運営業務を継続して外部委託を行う。
(東京国立博物館)
・展示場における来館者応対等業務を継続して外部委託を行う。

担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　金谷　史明

【実績・成果】
1)「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定)」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が平成 22 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。
　第１回契約監視委員会（平成 23 年 12 月 3 日開催）
　第２回契約監視委員会（平成 24 年 6 月 4 日開催予定）
2)京都国立博物館（レストラン）奈良文化財研究所平城宮跡資料館（ミュージアムショップ）において、企画競争を実施した。また、東京国立博物館（レストラン）及び奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）については既に企画競争を実施済み。
今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。

3)・総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（平成 19 年 12 月 24 日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。
・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「１０日間以上」から自主的措置として２０日間以上確保するように努めた。
・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。

一般競争入札件数

年度	22 年度	23 年度	増減
件数	175 件	132 件	△43 件

※随意契約を含めた全体の契約件数は、平成 22 年度の 341件に対して、平成 23 年度は 241 件と大幅に減少しているが、総契約件数に占める一般競争件数の割合は上昇している。
（参考）総契約件数に占める一般競争入札件数の割合

年度	22 年度	23 年度	増減
件数割合	51%	55%	4%

※一般競争入札にかかる契約金額は 22 年度比で 43%増となっている。
（参考）一般競争入札にかかる契約金額　（千円）

年度	22 年度	23 年度	増減
金額	1,959,701	3,438,898	1,479,197

【補足事項】

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
一般競争入札件数	132 件	－	－		98	142	202	175

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成 21 年 11 月 17 日閣議決定)に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」(平成 22 年 12 月 7 日閣議決定)に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 9411

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　樋口理央

【実績・成果】
1)月例講演会等の他、友の会サービスの講演会として「東大寺講演会」(9月9日・共催　東大寺)を実施した。
2)撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト(ロケなび！)への登録を継続した。
3)・定期的にコンサート、寄席などの文化イベントを開催した。
　・「国際博物館の日」を記念して上野地区の機関と連携し、ガイドツアーなどを実施した。
　・「留学生の日」イベントを行い、ガイドツアーや茶道体験など日本文化の紹介を行った。

【補足事項】
○企業等のパーティー、撮影(映画、ドラマ、雑誌等)、茶室・講堂の貸出による施設の有効利用(それに伴う収入増)を図った。
・撮影件数増加による収入は、過去最高額(3 月末実績 26,662,000 円)となった。
○撮影件数のさらなる増加のため
・インターネットロケーション検索サイト(ロケなび！)の申し込みプランを 23 年 8 月よりグレードアップ(掲載写真増、間取り図追加)したところ、撮影件数が劇的に増加。(8 月撮影件数 35 件。前年同月 10 件)
・劇的に増加した撮影への対応及び人件費を削減するため、一部外注化した。
・今まで撮影では使用していなかった「本館便殿」を撮影で使用できるよう、規程改正、特別料金の設定を行った。「本館便殿」での撮影受け入れは 24 年 4 月より実施する予定。
○講堂設備としてノートパソコンを購入し、貸出を実施した。
○来館者に展示観覧と合わせてコンサート等を楽しんでいただけるよう、イベントの開催時間を開館時間中に設定することに努めた。
○イベント開催を来館者数が比較的少ない総合文化展のみの時期に重点的に行い、来館者数の増加に貢献した。
○平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響で、講堂等の貸出予約 12 件がキャンセルとなった。(茶室 5 件、講堂 3 件、その他 4 件)
○今後は企業等のパーティー、講堂・茶室貸出しが増えるよう方策を検討したい。



雑誌「CIRCUS」10 月号(9 月 3 日発売)
田村淳さんと荒俣宏さん
対談企画撮影風景
(黒田記念館)

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
施設の有効利用件数	618 件	－	－		885	574	341	538
うち有償利用件数	341 件	－	－		350	238	262	256

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 9412

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 部長　西上実

【実績・成果】
1)平常展示館建替工事期間中のため、展覧会等に関する講演会、土曜講座等は館外の施設を利用して開催した。
2)平常展示館建替工事期間中で講堂を使用できないため、庭園を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸出を積極的に行った。
3)来館者の拡大を目的としたコンサートや映画野外上映会を実施し、施設の有効利用を図った。

【補足事項】
○庭園(特別展示館前)
・庭園を利用した「ジャングル大帝」野外上映会(計2回)を開催し、大盛況であった。(開催日2日　入場者約250名)
・全館休館期間中に、音楽イベント「音燈華」を庭園にて開催し、大盛況であった。(開催日1日　入場者数375名)
・平成23年10月より、展覧会会期中にお客様が「庭園散策ガイド」を購入することで庭園のみの利用を可能とした。
○茶室
・当館に茶室が設けられていることが浸透しているようで、茶道愛好家の利用が多い。
○講堂の建替に伴う措置
・講堂は、平常展示館建替工事に伴いリニューアルオープンするまで使用できないため、「土曜講座」・「夏期講座」・「京都・らくご博物館」の開催会場は、館外の施設を利用し継続した。(詳細は処理番号2212、2222-2参照)


「ジャングル大帝」野外上映会
(特別展示館前庭園にて)

施設有効利用件数		使用料
研修会等	18件(うち、有償　11件、無償7件)	429,000円
茶室	24件(うち、有償　24件、無償0件)	234,000円
計	42件(うち、有償　35件、無償7件)	663,000円

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
施設の有効利用件数	42件	―	―		56	57	35	59
うち有償利用件数	35件	―	―		30	29	26	44

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 9413

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員　吉田貴至

【実績・成果】
1)公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。
2)奈良市教育委員会と連携し、市内の小学校5年生を対象とした世界遺産学習を実施した。
3)地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。
　(財)奈良県ビジターズビューロー等と連携し、国際学会のエクスカーションとして、なら仏像館を閉館後に観覧する特別鑑賞会(有料)を6回行った。

【補足事項】
施設の利用
・講座・講演会
　公開講座(15回)、サンデートーク(12回)、正倉院展ボランティア解説(17日)、特別鑑賞会(6回)、文化財保存修理所特別公開等
・世界遺産学習(34校)
・イベントの実施
　講堂：まほろば寄席(2回)、葉衛陽＆さくら親子　中国琵琶競演、親と子のワークショップ「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう」、第63回正倉院展親子鑑賞会、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」関連イベント「相撲と神事」
　地下回廊：正倉院展作文コンクール入賞作品展示
・会場提供
　講堂：文化財保存修理所研究会、奈良仏像研修、奈良市教職員研修講座、近畿私立幼稚園連合会役員研修
　地下回廊：音楽の祭日 in 奈良　2011、子供絵画館 in NARA、香り袋手作り教室、香木の魅力、写真展示
　仏教美術資料研究センター：オペラ「月の影」より「源氏幻想」、奈良県芸術祭「なら音楽の祝祭」、結婚式
　茶室：茶会、陶燈茶夜
　敷地内：なら燈花会、ならファンタージア～SANZO、音燈華、言霊と音霊の夜会、野点の茶会、春日若宮おん祭執行に係る敷地提供



親と子のワークショップ
「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう」



仏教美術資料研究センター前での結婚式

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
施設の有効利用件数	144件	－	－		122	84	59	146
うち有償利用件数	28件	－	－		18	23	21	31

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 9414

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	事務主査　藤﨑秀典

【実績・成果】
1)文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展で関連する講演会を開催した。
2)ミュージアムホール、エントランスホール、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。
3)国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。また、ガムランワークショップや茶道体験、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。

【補足事項】
・文化交流展(トピック展)関連イベント
帰国展「日本とタイ ふたつの国の巧と美」関連イベント「微笑みの国からやってくる　魅惑のタイ舞踊」(期間：5月5日,参加者数：340名)等を開催した。
・特別展関連イベント
「よみがえる国宝」展関連トークショー「古美術のススメ～文化財修復に見る匠たち」(期間：7月3日,参加者数：250名)等を開催した。
・主催イベント
6周年記念イベントとして九州人形浄瑠璃フェスティバル(期間：10月14日・15日、参加者数：500名)を実施した。
昨年度利用開始した茶室の周知と日本文化の体験の場として、茶道初心者を対象とした茶道体験を実施した(〔「親子で茶道体験」対象者：小中高校生の子どもとその親、毎月1回開催、参加者数：318名〕、〔「はじめての茶道体験」対象者：高校生以上、毎月1回開催、参加者数：164名〕)等を開催した。
・各種団体主催イベント
吉野ヶ里Days in九博(期間：8月27日・28日,参加者数：1,266名)、九州銘菓協会60周年記念展「九州銘菓の伝統と創造」(期間：11月1日～6日,参加者数：4,072名)等を開催した。
・コンサート
きゅーはくミュージアムコンサートを毎月開催した。
・施設の利用実績　計264件(うち　有償90件)
ミュージアムホールの利用　61件(うち　有償10件)
研修室の利用　75件(うち　有償56件)
茶室の利用　43件(うち　有償17件)
その他(ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ 外)　77件(うち　有償 1件)
撮影利用　8件(うち　有償 6件)


魅惑のタイ舞踊



古美術のススメ


人形浄瑠璃フェスティバル

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
施設の有効利用件数	264件	－	－		188	193	250	321
うち有償利用件数	90件	－	－		28	45	69	76

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。
また、保有資産の管理を徹底する。とくに環境汚染物質については、法令に則り適正な処置を講じる。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 9415

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所2施設）
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長　六川真五

【実績・成果】
・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを今年度も開催した。このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」における講演会シリーズのプログラムの一つである。

【補足事項】



第４５回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
施設の有効利用件数	181件	－	－		266	140	178	196
うち有償利用件数	20件	－	－		40	21	13	12

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　9416

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(文化財研究所2施設)
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	研究支援推進部長　多　昭彦

【実績・成果】

施設名	平成 23 年度
平城宮跡資料館講堂	105 件　(内　有償貸与　3 件)
平城宮跡資料館小講堂	144 件　(内　有償貸与　15 件)
寄宿舎施設	1,116 件　(内　有償貸与　21 件)
飛鳥資料館講堂	67 件　(内　有償貸与　0 件)
その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	17 件　(内　有償貸与　13 件)
合計	1,449 件　(内　有償貸与　52 件)

・一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ＨＰ上での施設利用紹介等による積極的有効利用(貸付等)の促進を図った。
・奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。
・上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ(売店)の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。

【補足事項】
平成 22 年度実績

施設名	平成 22 年度
平城宮跡資料館講堂	183 件　(内　有償貸与　24 件)
平城宮跡資料館小講堂	143 件　(内　有償貸与　8 件)
寄宿舎施設	1,087 件　(内　有償貸与　61 件)
飛鳥資料館講堂	60 件　(内　有償貸与　0 件)
その他(本庁舎・監理棟・収蔵庫等)	16 件　(内　有償貸与　12 件)
合計	1,489 件　(内　有償貸与 105 件)

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
施設の有効利用件数	1,449 件	－	－		1,841	2,079	1,211	1,489
うち有償利用件数	52 件	－	－		75	71	40	105

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9510

中項目	5　内部統制の充実・強化
事業名	(1)理事長のマネジメント強化

【年度計画】
1)モニタリングの実施
・自己点検評価を行う。
・監事監査を行う。
・内部監査を行う。
2)リスクマネジメントの実施
・関連する諸規程を整備する。
・危機管理マニュアルの見直し等を随時行う。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　藤本慎也

【実績・成果】
1)モニタリングの実施
・自己点検評価を行い、『平成22年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(23年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。
・監事による定期監査(23年6月22日)を行った他、臨時監査を奈良文化財研究所(24年2月2日)、奈良国立博物館(24年2月3日)を対象に行った。
・内部監査を、23年11月25日から12月22日の日程で、本部および各施設を対象に順次行った。
2)リスクマネジメントの実施
・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の整備を進め、東京国立博物館防災管理規則の改正(室名等・防火担当責任者・火元責任者の見直し)を行った。
・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直し等を随時行い、京都国立博物館では地震発生時の広域避難所として敷地及び施設を開放する旨を明記した。また、奈良文化財研究所では所内の事務文書規程に合わせた危機管理マニュアルの修正を行った。

【補足事項】
2)
・東京国立博物館では、23 年 3 月 11 日の東日本大震災において帰宅困難者が多数出たことを受けて、防災用品として毛布を購入した。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ(Ｓ、Ｆの理由)

【中期計画記載事項】
　理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　　施設名 本部事務局　　処理番号 9520

中項目	5　内部統制の充実・強化
事業名	(2)外部有識者による事業評価

【年度計画】
1)運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。
2)職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　藤本慎也

【実績・成果】
1)運営委員会(23年8月3日)、外部評価委員会(研究所調査研究等部会：23年4月20日、博物館調査研究等部会：4月27日、総会：5月25日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。
2)(各種研修について詳しくは処理番号0230参照)

【補足事項】

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9530

中項目	5　内部統制の充実・強化
事業名	(3)情報セキュリティ対策の向上と改善

【年度計画】
1)情報セキュリティについて定期監査等を実施する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　藤本慎也

【実績・成果】
1)・保有個人情報管理監査を、奈良文化財研究所(24年2月2日)、奈良国立博物館(24年2月3日)を対象に実施した。
　・情報システム監査を、京都国立博物館(23年9月7日)、九州国立博物館(23年9月9日)を対象に実施した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
―	―	―	―		―	―	―	―

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
　管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 0210

大項目	Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項
中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(1)　職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。

【年度計画】
職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。

担当部課	総務企画課	事業責任者	課長　藤本　慎也

【実績・成果】
平成 20 年度において、機構として統一的な運用及び規程を整備し、勤務評定制度を開始した。給与へは昇給及び勤勉手当に反映しているが、実施時期についてより適切に反映できるよう検討していく。

【補足事項】
職員の評価については、被評価者の直近の上司の他に、直近上司の上司及び実施権者である施設の長も評価者となっており、公正な評価が行われている。また、評価項目についても施設によって評価項目が大きく異なることがないよう職責に応じた統一的な項目に加え、各施設の特性も加味するため 1 項目については施設の長が定めることができ、各施設の特性に合致した評価が実施できている。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名　本部事務局　処理番号　0220

中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(2)　近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。

【年度計画】
近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。

担当部課	総務企画課	事業責任者	課長　藤本　慎也

【実績・成果】
〈事務系職員〉
・本部事務局及び各施設において、文化庁、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。
・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間（計 12 人）における交流を行っている。

年度	本部・東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	年度計（人）
19	18（東大、医科歯科大、西美、政研大）	11（京大）	9（阪大、京大、阪教大、奈女大）	7（九大、東大、九大）	5（東大、医科歯科大、千葉大）	8（京大、阪大、滋賀大、滋賀医科大）	—	58
20	16（東大、西美、政研大）	10（京大、民博）	10（文化庁、阪大、京大、北九州高専）	8（九大、九工大	6（東大、医科歯科大）	7（京大、阪大、滋賀大、総地研）	—	57
21	18(文化庁、東大、東近美、政研大、京博)	13(京大、民博、奈良博、東博)	10(文化庁、阪大、京大、北九州高専、京博)	11(九大、九工大、本部)	8(東大、医科歯科大、東博、奈文研)	8(京大、阪大、滋賀大、総地研、奈女大)	—	68 (8)
22	18(東大、東近美、政研大、京博)	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	8(文化庁、阪大、京大、京博)	8(九大、本部	5(医科歯科大、東博、奈文研)	11(京大、阪大、総地研、奈女大)	—	64 (9)
23	17（東大、東近美、政研大、奈文研）	14(京大、阪大、民博、奈文研、東博)	12(阪大、京大、京博、本部)	8(九大、本部)	6(医科歯科大、東博、本部)	12(文化庁、京大、阪大、奈女大)	1（奈文研）	70 (12)

※表中の人事交流者の人数は、各年度末現在でカウントした。(機構に受け入れている人数)
※平成 21 年度から機構内の人事交流中の人数を含めた。合計欄の(　)内の人数。
〈研究系職員〉
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を 13 人採用した。
・また、文化庁から 9 人の受け入れ及び文化庁への出向を 14 人行っている。
・機構内での人事交流を図るため、各施設間にて計 7 人の交流を行っている。

【補足事項】
・事務系職員において、近隣大学等との交流数が 10 法人あり、優秀な人材を確保した。また、人事交流者数も 69 人と、引き続き優秀な人材を確保し、計画に対し順調に成果をあげている。
・事務系職員において、平成 23 年度は台東区へ１人の派遣研修を実施し、計 4 人を他機関へ派遣・出向させているが、他法人からの受け入れが交流の中心となっているため、引き続き双方向の人事交流を増加させる必要がある。
・研究職員については、文化庁との双方向の人事交流が行われているが、交流の多様化と交流先の拡大を図る必要がある。しかし、退職手当の通算ができない場合が多く、難しい問題がある。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
－	－	－	－		－	－	－	－

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 0230

中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(3)　各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。

【年度計画】
各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。

担当部課	総務企画課	事業責任者	課長　藤本　慎也

【実績・成果】
・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修(3 件)、施設系の職員を対象とした研修(1 件)、個人情報保護に関する研修(1 件)及びハラスメントに関する研修(1 件)を行った。
・その他、他機関で実施する研修にも積極的に参加した。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
新任職員研修会	23 年 7 月 20 日～23 年 7 月 22 日	平成 22 年度以降の新任職員等	34 人
接遇研修	23 年 7 月 20 日	平成 22 年度以降の新任職員等	34 人
個人情報保護についての講演会	23 年 7 月 21 日	平成 22 年度以降の新任職員等及び本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員	約 100 人
施設系職員研修会	23 年 8 月 25 日～23 年 8 月 26 日	機構内の施設系職員	11 人
個人情報保護研修会	24 年 1 月 17 日、20 日、23 日、26 日	関西地区・九州地区の各施設職員	102 人
ハラスメントに関する研修会	23 年 7 月 22 日など	各施設の職員、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	約 200 人

【補足事項】
・新任職員及び人事交流者に対しては、機構職員としての必要な業務・組織等についての基礎的知識及び執務要領を修得させ、新任職員等の資質の向上を図ることができた。
・新任職員等を対象とした接遇研修の企画及び実施により、機構職員としての資質向上を図るとともに、修得した知識等(お客様からの苦情への対応方法等)を業務に反映させることができた。
・「独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針について」及び監事監査の指摘に基づき、保有個人情報の取扱いに従事する職員への実施により、保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図ることができた。
・施設系職員について、各施設だけではなく、機構全体の施設系職員としての必要な業務等についての知識及び執務要領について、意見交換等を行い、施設系職員の資質の向上を図ることができた。
・ハラスメント相談員及びハラスメント防止等委員会委員との連携を目的とした研修会を開催し、外部講師による専門的見地によるアドバイスから事案発生から解決方法についての相談体制を再認識することができた。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
研修機会の提供	6 件	－	－		3	4	6	6

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F(S、Fの理由)

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 0240

中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(4)　非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。

【年度計画】
非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。

担当部課	総務企画課	事業責任者	課長　藤本　慎也

【実績・成果】
・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行い、平成 20 年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とした。
・平成20年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度（アソシエイト・フェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成23年度は東京国立博物館で7人、東京文化財研究所で6人、奈良文化財研究所で3人及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターで2人を採用した。（計18人）

【補足事項】
・研究職員においても、人事の流動化を図りたいが、退職手当の通算の問題があるので、難しい状況にある。

【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
機構独自の採用	18 人	－	－		－	6	25	21

総合的評価	Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ（Ｓ、Ｆの理由）

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

【書式A】　　施設名 本部事務局　　処理番号 0250

中項目	2　人事計画に関する計画		
事業名	(5)　専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。		
【年度計画】 専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。			
担当部課	総務企画課	事業責任者	課長　藤本　慎也
【実績・成果】 高度の専門的知識経験又は優れた識見を一定の期間活用して行うことが必要と認める業務に雇用する者とした任期付専門員制度を活用し、平成23年度において1人採用した。今後、「独立行政法人の制度及び組織の見直しの基本方針」（平成24年1月20日閣議決定）に対応するため、検討を進める。			
【補足事項】			

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
専門スタッフの配置	1人	－	－		－	－	－	－

総合的評価	S　Ⓐ　B　C　F（S、Fの理由）

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調

Ⅲ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１２０，２５８（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建物	建築面積		２１，８９６
	延面積		７１，６４２
展示館	展示面積	計	１８，２０９
	収蔵庫面積	計	８，５６２
	本館	建	６，６０２
		延	２２，４１６
		展示面積	７，０２１
		収蔵庫面積	４，２１２
	東洋館	建	２，８９２
	※耐震改修工事のため	延	１２，５３１
	休館中	展示面積	４，２５０
		収蔵庫面積	１，３７３
	平成館	建	５，５２９
		延	１９，３９３
		展示面積	４，４７１
		収蔵庫面積	２，１１９
	法隆寺宝物館	建	１，９３５
		延	４，０３１
		展示面積	１，４６２
		収蔵庫面積	２９１
	表慶館	建	１，１３０
		延	２，０７７
		展示面積	６３７
		収蔵庫面積	５４２
	黒田記念館	建	７０５
	※平成24年4月8日よ	延	１，９５８
	り休館	展示面積	３６８
		収蔵庫面積	２５
	その他	建	３，１０３
		延	９，２３６

【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	５３，１８２		
建物	建築面積		７，９４９
	延面積		１３，８３１
展示館	展示面積	計	２，０７０
	収蔵庫面積	計	２，７１１
	特別展示館	建	３，０１５
		延	３，０１５
		展示面積	２，０７０
		収蔵庫面積	８０３
	管理棟	建	５９０
		延	１，９５４
	資料棟	建	４１４
		延	１，１２５
	文化財保存修理所	建	７２８
		延	２，８５６
	技術資料参考館	建	１０１
		延	３０４
	東収蔵庫	建	１，０８４
		延	１，９９６
		収蔵庫面積	１，４１２
	北収蔵庫	建	３１０
		延	６８２
		収蔵庫面積	４９６
	その他	建	１，７０７
		延	１，８９９

【奈良国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	７８，７６０		
建物	建築面積		６，７６９
	延面積		１９，１１６
展示館	展示面積	計	４，０７９
	収蔵庫面積	計	１，５５８
	本館	建	１，５１２
		延	１，５１２
		展示面積	１，２６１
	本館付属棟	建	３４１
		延	６６４
		展示面積	４７０
	東新館	建	１，８２５
		延	６，３８９
		展示面積	８７５
		収蔵庫面積	１，３９４
	西新館	建	１，６４９
		延	５，３９６
		展示面積	１，４７３
	仏教美術資料研究センター	建	７１８
		延	７１８
	文化財保存修理所	建	３１９
		延	１，０３６
	地下回廊	延	２，１５２
		収蔵庫面積	１６４
	その他	建	４０５
		延	１，２４９

【九州国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１６６，２７５		
			（法人　１０，７９８ 県　１５５，４７７）
建物	建築面積		１４，６２３
	延面積		３０，６７５
			（法人　９，０４８ 県　６，０３４ 共用　１５，５９３）
展示館	展示面積	計	５，４４４
			（法人　３，８４４ 県　１，３７５ 共用　２２５）
	収蔵庫面積	計	４，５１８
			（法人　２，７４４ 県　１，３３５ 共用　４３９）

【東京文化財研究所】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	４，１８１	
建物	建築面積	２，２５８
	延面積	１０，６２３

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　(㎡)

	土地面積	建物	
本館地区	８，８６０	建築面積 延面積	２，７５４ ６，７５５
平城宮跡資料館地区	(文化庁所属の国有地を無償使用)	建築面 延面積	１０，６３１ １６，１５０
都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)	２０，５１５	建築面積 延面積	６，０１６ ９，４７７
飛鳥資料館地区	１７，０９３	建築面積 延面積	２，６５７ ４，４０４

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

土地・建物　　(㎡)

建物	建築面積 延面積	２４４．６７ ２４４．６７
総室数		４室

Ⅳ　財務諸表

目　　次

１．貸借対照表

２．損益計算書

３．キャッシュ・フロー計算書

４．行政サービス実施コスト計算書

５．利益の処分に関する書類

６．注記（重要な会計方針等）

７．附属明細書

貸 借 対 照 表

平成24年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科目	金額		科目	金額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ 流動資産			Ⅰ 流動負債		
現金及び預金		5,097,823,301	運営費交付金債務		396,337,965
たな卸資産		21,781,038	預り寄附金		192,073,916
前払費用		3,870,819	未払金		4,655,506,547
未収金		618,904,518	未払費用		72,077,331
流動資産合計		5,742,379,676	前受金		1,578,000
			預り金		171,446,422
Ⅱ 固定資産			その他の流動負債		4,394,000
1有形固定資産			流動負債合計		5,493,414,181
建物	62,292,456,290				
減価償却累計額	−19,354,403,181	42,938,053,109	Ⅱ 固定負債		
構築物	3,524,883,057		資産見返負債		
減価償却累計額	−1,708,723,860	1,816,159,197	資産見返運営費交付金	2,409,993,186	
機械・装置	177,452,047		資産見返寄附金	156,147,009	
減価償却累計額	−160,240,733	17,211,314	資産見返物品受贈額	77,264,102	
車両運搬具	51,861,728		資産見返その他補助金	135,542,653	
減価償却累計額	−34,323,958	17,537,770	建設仮勘定見返運営費交付金	172,502,700	
工具器具備品	4,992,880,639		建設仮勘定見返施設費	6,715,304,396	
減価償却累計額	−3,322,765,449	1,670,115,190	資産見返負債合計	9,666,754,046	
収蔵品		102,593,297,818	その他の固定負債		
土地		44,410,675,104	長期未払金	28,119,480	
建設仮勘定		6,887,807,096	固定負債合計		9,694,873,526
有形固定資産合計		200,350,856,598	負債合計		15,188,287,707
2無形固定資産			（純資産の部）		
ソフトウエア		141,736,401	Ⅰ 資本金		
電話加入権		4,233,600	政府出資金		104,713,813,740
無形固定資産合計		145,970,001	資本金合計		104,713,813,740
3投資その他の資産			Ⅱ 資本剰余金		
保証金		497,000	資本剰余金		107,454,055,414
長期前払費用		4,825,955	損益外減価償却累計額（−）		−21,799,651,782
投資その他の資産合計		5,322,955	損益外減損損失累計額（−）		−3,376,800
固定資産合計		200,502,149,554	資本剰余金合計		85,651,026,832
			Ⅲ 利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金		647,116,899
			当期未処分利益		44,284,052
			（うち当期総利益　44,284,052　）		
			利益剰余金合計		691,400,951
			純資産合計		191,056,241,523
資産合計		206,244,529,230	負債純資産合計		206,244,529,230

（注）運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は2,209,197,212円であります。

（注）当期の運営費交付金による充当されるべき賞与の見積額は181,252,906円であります。

損益計算書

（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		3,037,093,629	
業務経費			
調査研究業務費	870,593,122		
情報公開業務費	129,382,913		
研修業務費	15,684,467		
国際研究協力業務費	171,051,034		
展示出版業務費	178,971,322		
展覧業務費	854,149,428		
教育普及業務費	95,876,218		
受託業務費	511,153,735		
その他業務費	916,492,127	3,743,354,366	
減価償却費		403,006,692	7,183,454,687
一般管理費			
人件費	791,988,215		
一般管理経費	839,204,431		
減価償却費	87,377,914	1,718,570,560	
財務費用		2,651,687	
雑損		2,944,490	1,724,166,737
経常費用合計			8,907,621,424
経常収益			
運営費交付金収益		6,430,317,339	
受託収入			
政府関係・地方自治体受託収入		473,080,329	
その他受託収入		48,389,199	
入場料収入		808,396,642	
展示事業等附帯収入		304,535,159	
財産利用収入		184,251,055	
寄附金収益		138,274,099	
施設費収益		81,575,000	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入	383,813,494		
資産見返寄附金戻入	35,039,284		
資産見返物品受贈額戻入	12,715,681		
資産見返その他補助金戻入	38,539,767	470,108,226	
財務収益			
受取利息		743,719	
その他財務収益		2,681	
雑益		6,336,653	
経常収益合計			8,946,010,101
経常利益			38,388,677
臨時損失			
固定資産売却損			64,769
固定資産除却損			1,891,627
			1,956,396
臨時利益			
資産見返運営費交付金戻入			1,417,992
資産見返物品受贈額戻入			118,404
			1,536,396
当期純利益			37,968,677
前中期目標期間繰越積立金取崩額			6,315,375
当期総利益			44,284,052

キャッシュ・フロー計算書

独立行政法人国立文化財機構　（平成23年4月1日～平成24年3月31日）　（単位：円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	−3,836,720,898
業務支出	−4,997,142,514
科学研究費支出	−176,983,399
消費税等支払額	−11,594,400
運営費交付金収入	7,941,068,000
科学研究費収入	166,033,539
展示事業等収入	1,171,771,515
財産利用収入	183,955,479
受託収入	496,936,912
寄附金収入	237,897,100
消費税等還付額	134,584,532
その他の業務収入	3,746,213
小計	1,313,552,079
利息の受取額	3,033,047
利息の支払額	−2,089,599
国庫納付金の支払額	−650,867,539
業務活動によるキャッシュ・フロー	663,627,988
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
施設費による収入	4,349,239,065
有形固定資産の取得による支出	−3,951,025,268
無形固定資産の取得による支出	−31,690,028
有価証券の償還による収入	500,000,000
その他投資活動による収入	698,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	867,222,169
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	−13,531,257
財務活動によるキャッシュ・フロー	−13,531,257
Ⅳ　資金増加額	1,517,318,900
Ⅴ　資金期首残高	3,580,504,401
Ⅵ　資金期末残高	5,097,823,301

（注記事項）

（1）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定	5,097,823,301 円
資金期末残高	5,097,823,301

（2）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

収蔵品	514,233,814
その他の有形固定資産	13,279,493
合計	527,513,307

②ファイナンス・リースによる資産取得　6,180,420

行政サービス実施コスト計算書

（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位:円）

Ⅰ　業務費用		
損益計算書上の費用		
業務費	7,183,454,687	
一般管理費	1,718,570,560	
財務費用	2,651,687	
雑損	2,944,490	
臨時損失	1,956,396	8,909,577,820
（控除）		
受託収入	−521,469,528	
入場料収入	−808,396,642	
展示事業附帯収入	−253,029,977	
財産利用収入	−184,251,055	
寄附金収益	−138,274,099	
財務収益	−746,400	
雑益	−6,336,653	
資産見返寄附金戻入	−35,039,284	−1,947,543,638
Ⅱ　損益外減価償却相当額		2,843,470,921
Ⅲ　損益外除売却差額相当額		54,825,853
Ⅳ　損益外減損損失相当額		1,033,200
Ⅴ　引当外賞与見積額		−29,079,136
Ⅵ　引当外退職給付増加見積額		47,767,149
Ⅶ　機会費用		
国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	135,071,734	
政府出資等の機会費用	1,834,621,918	1,969,693,652
Ⅷ　行政サービス実施コスト		11,849,745,821

（注記）

・国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用については、国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和39年5月29日付条例第36号）により計算しております。

・政府出資等の機会費用の計算利率については、10年もの長期国債の平成24年3月末利回りを参考に0.985%としております。

利益の処分に関する書類

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ	当期未処分利益		44,284,052
	当期総利益	44,284,052	
Ⅱ	利益処分額		
	積立金	44,284,052	
	独立行政法人通則法		
	第４４条第３項により		
	主務大臣の承認を受けようとする額		
	業務拡充積立金	－	44,284,052

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）及び減価償却費については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

財務費用、その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	２年～５８年
構築物	２年～６３年
機械・装置	２年～　５年
車両・運搬具	２年～　７年
工具・器具・備品	２年～２０年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８７）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産

定額法により行っております。なお、機構内利用のソフトウエアについては、機構内における利用可能期間（５年）に基づいております。

３．賞与に係る引当金及び見積額の計上方法

役職員の賞与については運営費交付金により財源措置がなされるため、賞与に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外賞与見積額は、当事業年度の引当外賞与見積額から前事業年度の同見積額を控除した額を計上しております。

４．退職給付に係る引当金及び見積額の計上方法

役職員の退職給付については運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、自己都合退職金要支給額の当期増加額に基づき計上しております。

５．たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品等･･･最終仕入原価法を採用しております。

６．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

７．行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

（１）国有財産無償使用の機会費用の計算方法

国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用については、国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和39年5月29日付条例第36号）により計算しております。

（２）政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

政府出資等の機会費用の計算利率については、１０年もの長期国債の平成２４年３月末利回りを参考に０．９８５％としております。

８．リース取引の処理方法

リース料総額が３００万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

リース料総額が３００万円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

９．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

Ⅱ．固定資産の減損

当年度に減損を認識した固定資産は下記の通りです。

（１）減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

資　　産　　名	電話加入権
主　な　用　途	ＮＴＴ東日本加入電話回線の契約及び架設
資　産　科　目	電話加入権（無形固定資産）
使　用　場　所	東京都台東区上野公園１３－９　東京国立博物館内
帳　簿　価　格	１，５４９，８００円

（２）減損の認識に至った経緯

ＮＴＴ東日本加入電話回線（アナログ電話回線）５４回線のうち３６回線について、デジタル電話交換機更新工事に伴い不要となり、今後の使用も想定されていないため、稼働率が５０％以上低下したものと判断し、減損を認識するに至りました。なお、残る１８回線については交換機回線・直通電話等として継続使用する予定です。

（３）減損額のうち損益計算書に計上していない金額の内訳

１，０３３，２００円

（４）回収可能サービス価格の算定方法の概要

回収可能サービス価額は、時価から処分費用見込額を控除して算出した正味売却価

格と使用価値相当額の比較により算定しております。当年度の当該資産につきましては、売却不能で価格がつかなかったため、帳簿価格に使用可能台数１８／５４台を乗した使用価値相当額５１６，６００円を採用しております。

Ⅲ．重要な債務負担行為

京都国立博物館平常展示館建替工事　　７，５３８，９７１，５８５ 円

Ⅳ．金融商品関係

１．金融商品の状況に関する事項

当機構は、資金運用については短期的な預金に限定し、活動資金は事業収入及び運営費交付金等によりまかなっているため、資金調達はありません。

２．金融商品の時価等

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：円）

	貸借対照表 計 上 額	時　　価	差　　額
(1)現金及び預金	5,097,823,301	5,097,823,301	―
(2)未払金	(4,655,506,547)	(4,655,506,547)	―

（注１）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券等に関する事項

現金及び預金、未払金については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注２）負債に計上されているものは、（　）で示しております。

Ⅴ．賃貸等不動産関係

当機構は、東京都その他の地域において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

Ⅵ．資産除去債務関係

当機構では、石綿関連法令により使用等が規制されている石綿が、奈良文化財研究所収蔵庫３棟の天井材、東京国立博物館黒田記念館の床材に使用されております。

これらの石綿は全て封じ込め済みであり、建物の解体時に石綿の除去義務が発生しますが当該資産の具体的な解体計画はなく、今後も、現状のまま継続的に使用する予定であります。加えて計画策定には国による認可及び予算措置が必要であり機構単独の意思決定ではなし得ない状況にあるため、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、貸借対照表に資産除去債務を計上しておりません。

（重要な会計方針の変更）

１．減価償却方法の変更

当事業年度より新規取得した有形固定資産について、平成２６年度に予定される統合に備え、平成１９年度の法人税法改正に伴う減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による経常利益及び行政サービス実施コストに与える影響は軽微であります。

（追加情報）

減価償却方法の変更に合わせ、当事業年度より、平成１９年度の法人税法改正に伴い平成２３年3月３１日以前に取得した有形固定資産については、取得価格の１０％に到達した事業年度の翌事業年度より、取得価格と備忘価格１円との差額を５年間で均等償却する方法を採用しております。当事業年度においてすでに残存価格が１０％に到達している有形固定資産については当事業年度より５年間で均等償却する方法を採用しております。

なお、この変更による経常利益に与える影響はありません。行政サービス実施コストに与える影響は損益外減価償却相当額４９７，０６１，８１８円の増加です。

２．会計基準等の適用

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（独立行政法人会計基準研究会　平成２３年６月２８日最終改訂）並びに「「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」に関するＱ＆Ａ」（総務省行政管理局、財務省主計局、日本公認会計士協会平成２３年６月最終改訂）を適用しております。なお、これによる損益及び資本剰余金に与える影響はありません。

（独立行政法人の状況を適切に開示するために必要な会計情報）

当法人は、平成２６年４月１日において、独立行政法人国立美術館及び独立行政法人芸術文化振興会と統合されることが、平成２４年１月２０日付け「独立行政法人の制度及び組織の見直しの基本方針」にて閣議決定されました。

第5期　附属明細書

自：平成23年 4月 1日
至：平成24年 3月31日

１．　固定資産の取得、処分、減価償却費（「第８７　特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第９１　資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

２．　たな卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　資産除去債務の明細

８．　法令に基づく引当金等の明細

９．　保証債務の明細

１０．　資本金及び資本剰余金の明細

１１．　積立金の明細

１２．　目的積立金の取崩しの明細

１３．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１４．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１５．　役員及び職員の給与の明細

１６．　セグメント情報

１７．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

1. 固定資産の取得、処分、減価償却費(「第87 特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。)及び減損損失累計額の明細

(単位:円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(償却費損益内)	建物	1,935,808,595	77,076,423	1,638,000	2,011,247,018	700,677,794	131,992,281	0	0	0	1,310,569,224	
	構築物	137,556,964	5,609,703	0	143,166,667	39,555,625	11,423,978	0	0	0	103,611,042	
	機械装置	4,111,995	0	0	4,111,995	1,107,787	451,238	0	0	0	3,004,208	
	車両運搬具	43,979,639	9,795,000	8,872,271	44,902,368	27,966,574	4,743,204	0	0	0	16,935,794	
	工具器具備品	3,039,539,132	258,710,192	11,496,352	3,286,752,972	2,014,942,480	282,184,459	0	0	0	1,271,810,492	
	小計	5,160,996,325	351,191,318	22,006,623	5,490,181,020	2,784,250,260	430,795,160	0	0	0	2,705,930,760	
有形固定資産(償却費損益外)	建物	60,401,276,223	0	120,066,951	60,281,209,272	18,653,725,387	2,534,610,788	0	0	0	41,627,483,885	
	構築物	3,381,716,390	0	0	3,381,716,390	1,669,168,235	157,286,287	0	0	0	1,712,548,155	
	機械装置	173,340,052	0	0	173,340,052	159,132,946	3,442,744	0	0	0	14,207,106	
	車両運搬具	6,959,360	0	0	6,959,360	6,357,384	93,976	0	0	0	601,976	
	工具器具備品	1,621,306,188	0	9,114,537	1,612,191,651	1,307,822,969	148,187,928	0	0	0	304,368,682	
	小計	65,584,598,213	0	129,181,488	65,455,416,725	21,796,206,921	2,843,621,723	0	0	0	43,659,209,804	
有形固定資産(非償却)	工具器具備品	93,936,016	0	0	93,936,016	0	0	0	0	0	93,936,016	その他有形固定資産含む
	収蔵品	101,359,041,504	1,234,256,314	0	102,593,297,818	0	0	0	0	0	102,593,297,818	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	2,526,364,381	4,361,442,715	0	6,887,807,096	0	0	0	0	0	6,887,807,096	京都国立博物館平常展示館建替工事等に伴う増
	小計	148,390,017,005	5,595,699,029	0	153,985,716,034	0	0	0	0	0	153,985,716,034	
有形固定資産合計	建物	62,337,084,818	77,076,423	121,704,951	62,292,456,290	19,354,403,181	2,666,603,069	0	0	0	42,938,053,109	
	構築物	3,519,273,354	5,609,703	0	3,524,883,057	1,708,723,860	168,710,265	0	0	0	1,816,159,197	
	機械装置	177,452,047	0	0	177,452,047	160,240,733	3,893,982	0	0	0	17,211,314	
	車両運搬具	50,938,999	9,795,000	8,872,271	51,861,728	34,323,958	4,837,180	0	0	0	17,537,770	
	工具器具備品	4,754,781,336	258,710,192	20,610,889	4,992,880,639	3,322,765,449	430,372,387	0	0	0	1,670,115,190	その他有形固定資産含む
	収蔵品	101,359,041,504	1,234,256,314	0	102,593,297,818	0	0	0	0	0	102,593,297,818	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	2,526,364,381	4,361,442,715	0	6,887,807,096	0	0	0	0	0	6,887,807,096	
	小計	219,135,611,543	5,946,890,347	151,188,111	224,931,313,779	24,580,457,181	3,274,416,883	0	0	0	200,350,856,598	
無形固定資産(償却費損益内)	ソフトウエア	363,157,181	36,223,791	0	399,380,972	257,644,571	59,589,446	0	0	0	141,736,401	
	小計	363,157,181	36,223,791	0	399,380,972	257,644,571	59,589,446	0	0	0	141,736,401	
無形固定資産(償却費損益外)	ソフトウエア	3,444,861	0	0	3,444,861	3,444,861	3	0	0	0	0	
	小計	3,444,861	0	0	3,444,861	3,444,861	3	0	0	0	0	
無形固定資産(非償却)	電話加入権	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	1,033,200	4,233,600	
	小計	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	1,033,200	4,233,600	
無形固定資産合計	ソフトウエア	366,602,042	36,223,791	0	402,825,833	261,089,432	59,589,449	0	0	0	141,736,401	
	電話加入権	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	1,033,200	4,233,600	
	小計	374,212,442	36,223,791	0	410,436,233	261,089,432	59,589,449	3,376,800	0	1,033,200	145,970,001	
投資その他の資産	保証金	632,000	0	135,000	497,000	0	0	0	0	0	497,000	
	長期前払費用	79,944	4,825,955	79,944	4,825,955	0	0	0	0	0	4,825,955	
	小計	711,944	4,825,955	214,944	5,322,955	0	0	0	0	0	5,322,955	

2. たな卸資産の明細

（単位:円）

種　　類	期首残高	当　期　増　加　額		当　期　減　少　額		期末残高	摘　要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	22,784,280	16,223,523	0	17,226,765	0	21,781,038	
計	22,784,280	16,223,523	0	17,226,765	0	21,781,038	

3. 有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

4. 長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

5. 長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

6. 引当金の明細

当該年度は引当金を計上していないため、記載を省略しております。

7. 資産除去債務の明細

当該年度は資産除去債務を計上していないため、記載を省略しております。

8. 法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

9. 保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

10. 資本金及び資本剰余金の明細

（単位:円）

区　　分		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　　要
資本金	政府出資金	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
	計	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
資本剰余金	施設費補助金	9,023,088,097	0	0	9,023,088,097	
	目的積立金	469,592,463	0	0	469,592,463	
	運営費交付金	12,161,637,211	718,422,500	0	12,880,059,711	収蔵品購入
	寄附金等	94,757,850	1,600,000	0	96,357,850	寄附金による収蔵品購入
	贈　与	85,649,077,662	514,233,325	0	86,163,310,987	寄贈品の受け入れ
	収蔵品編入	2,042,376	489	0	2,042,865	一般物品から収蔵品への編入
	損益外固定資産除売却差額	−1,051,215,071	−129,181,488	0	−1,180,396,559	出資財産の除却
	計	106,348,980,588	1,105,074,826	0	107,454,055,414	
	損益外減価償却累計額	−19,030,536,496	−2,843,470,921	−74,355,635	−21,799,651,782	出資財産の減価償却相当
	損益外減損損失累計額	−2,343,600	−1,033,200	0	−3,376,800	出資財産の減損処理
	差引計	87,316,100,492	−1,739,429,295	−74,355,635	85,651,026,832	

11. 積立金の明細

（単位:円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
通則法44条1項積立金	1,152,545,478	151,754,335	1,304,299,813	0	
前中期目標期間繰越積立金	9,025,086	653,432,274	15,340,461	647,116,899	
合　計	1,161,570,564	805,186,609	1,319,640,274	647,116,899	

（注記）

1 前中期目標期間最終年度の積立金の期末残高は1,152,545,478円であり、これに前中期目標期間最終年度の未処分利益142,729,249円と前期からの前中期目標期間繰越積立金の使用残高9,025,086円を加えると積立金は1,304,299,813円となります。

2 この積立金1,304,299,813円のうち、今中期目標期間の業務の財源及び固定資産の見合い等として繰越の承認を受けた額は653,432,274円（前期からの前中期目標期間繰越積立金9,025,086円、受託収入等で購入した固定資産の残存価格29,982,705円、リース損益924,483円、自己収入により購入した固定資産（収蔵品）の価格613,500,000円）であり、差引650,867,539円は国庫に納付しております。

3 前中期目標期間繰越積立金の当期減少額の内訳は次のとおりです。

受託研究費購入資産分に係る減価償却相当分取崩額　　6,315,375 円

12. 目的積立金の取崩しの明細

（単位:円）

区　　分		金　　額	摘　　要
目的積立金取崩額	前中期目標期間繰越積立金	6,315,375	受託研究費購入資産分に係る減価償却相当分
	計	6,315,375	
その他	前中期目標期間繰越積立金	9,025,086	中期目標期間終了時の積立金への振替
	計	9,025,086	
	合　　計	15,340,461	

13. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

(1)運営費交付金債務の増減の明細　　(単位:円)

交付年度	期首残高	交付金当期交付額	当期振替額					期末残高
			運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金	資本剰余金	小計	
23年度	0	7,941,068,000	6,430,317,339	366,800,196	29,190,000	718,422,500	7,544,730,035	396,337,965

(2)運営費交付金債務の当期振替額の明細　　(単位:円)

区分		金額	内訳
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	2,574,535,445	①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 2,574,535,445円 (退職手当 113,202,500円、調査研究事業費 831,144,595円、情報公開事業費 184,184,933円、研修事業費 13,642,800円、国際研究協力事業費 233,778,458円、展示出版事業費 141,431,500円、展覧事業費 1,029,344,659円、教育普及事業費 27,806,000円) イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額: 1,056,310,584円 (陳列品購入費: 718,422,500円、調査研究事業費 163,344,455円、情報公開事業費 14,698,731円、国際研究協力事業費 6,660,150円、展示出版事業費 26,637,450円、展覧事業費 126,547,298円) ③運営費交付金収益化の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	310,693,084	
	建設仮勘定見返運営費交付金	27,195,000	
	資本剰余金	718,422,500	
	計	3,630,846,029	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	3,855,781,894	①期間進行基準を採用した経費:人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費、管理部門の経費(特に指定するものを除く)及び減価償却費 ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 3,855,781,894円 (役職員給与 2,669,924,500円、法定福利費 304,117,000円、一般管理費 881,740,394円) イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額: 58,102,112円(一般管理費) ③運営費交付金収益化額の積算根拠 期間が経過したので、財源と予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	56,107,112	
	建設仮勘定見返運営費交付金	1,995,000	
	資本剰余金	0	
	計	3,913,884,006	
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	0	
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
会計基準第81第3項による振替額		0	
合計		7,544,730,035	

(3)運営費交付金債務残高の明細　　(単位:円)

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
23年度	費用進行基準を採用した業務に係る分	0	
	業務達成基準を採用した業務に係る分	396,337,965	業務未達成等による運営費交付金債務の繰越による運営費交付金債務の残高。業務の達成に応じて、当該事業達成年度に収益化予定。
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	
	計	396,337,965	

14. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

施設費の明細　　（単位:円）

区　　分	当期交付額	左の会計処理内訳				摘　　要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	小　計	
東京国立博物館 東洋館耐震補強改修工事	45,865,550	31,437,000	0	14,428,550	45,865,550	
京都国立博物館 平常展示館建替工事	4,367,962,165	4,300,815,715	0	67,146,450	4,367,962,165	
合　　計	4,413,827,715	4,332,252,715	0	81,575,000	4,413,827,715	

（注）その他の内訳は、「施設費収益:81,575,000円」であります。

15. 役員及び職員の給与の明細

区　分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	（ 2,880 ）千円 61,242	（ 2 ）人 3	（ 0 ）千円 3,142	（ 0 ）人 1
職員	（ 630,802 ） 2,546,157	（ 352 ） 338	（ 6,139 ） 168,817	（ 20 ） 10
合計	（ 633,682 ） 2,607,399	（ 354 ） 341	（ 6,139 ） 171,959	（ 20 ） 11

（1） 支給人員数は、報酬又は給与については平成23年4月～平成24年3月の平均支給人員数を記載しております。また、退職手当については総支給人員数を記載しております。

（2） 役員報酬基準の概要　　理事長　984，000円（期末における金額）
理事 3名　834，000円（期末における金額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、120，000円を月額として支給しております。

（3） 役員退職手当基準の概要　　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

（4） 職員給与基準の概要　　職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程に基づき支給しております。

（5） 職員退職手当基準の概要　　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

（6） 非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

（7） 上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

（8） 中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

16. セグメント情報　（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構

Ⅰ事業費用，事業収益及び事業損益　（単位：円）

区分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	法人共通	合　計
事業費用										
業務費	1,927,033,533	646,799,696	731,907,781	1,168,818,949	985,684,648	1,660,687,348	36,953,054	7,157,885,009	25,569,678	7,183,454,687
人件費	893,245,788	386,549,284	249,613,850	280,639,438	462,475,939	747,204,576	6,982,895	3,026,711,770	10,381,859	3,037,093,629
業務経費	914,848,143	255,214,828	434,051,499	744,091,823	490,195,289	859,794,806	29,970,159	3,728,166,547	15,187,819	3,743,354,366
調査研究業務費	149,695,048	80,625,020	55,310,211	196,058,241	82,934,899	302,424,890	897,029	867,945,338	2,647,784	870,593,122
情報公開業務費	0	0	0	0	44,138,738	85,244,175	0	129,382,913	0	129,382,913
研修業務費	0	0	0	0	4,346,502	11,337,965	0	15,684,467	0	15,684,467
国際研究協力業務費	0	0	0	0	134,828,086	36,222,948	0	171,051,034	0	171,051,034
展示出版業務費	0	0	0	0	14,573,739	164,397,583	0	178,971,322	0	178,971,322
展覧業務費	294,875,382	167,101,802	120,386,402	271,785,842	0	0	0	854,149,428	0	854,149,428
教育普及業務費	80,801,949	3,798,467	11,275,802	0	0	0	0	95,876,218	0	95,876,218
受託業務費	0	0	0	0	209,373,325	260,167,245	29,073,130	498,613,700	12,540,035	511,153,735
その他業務費	389,475,764	3,689,539	247,079,084	276,247,740	0	0	0	916,492,127	0	916,492,127
減価償却費	118,939,602	5,035,584	48,242,432	144,087,688	33,013,420	53,687,966	0	403,006,692	0	403,006,692
一般管理費	321,848,021	433,082,160	157,460,841	125,617,489	152,461,191	273,521,305	7,273,722	1,471,264,728	247,305,832	1,718,570,560
人件費	147,211,033	84,970,061	86,635,704	53,080,155	104,642,200	152,045,378	4,375,780	632,960,311	159,027,904	791,988,215
一般管理経費	145,327,179	338,063,866	49,394,867	52,754,966	47,551,002	120,248,207	2,897,942	756,238,028	82,966,403	839,204,431
減価償却費	29,309,809	10,048,233	21,430,270	19,782,368	267,989	1,227,720	0	82,066,389	5,311,525	87,377,914
財務費用	0	0	0	0	2,025,510	626,177	0	2,651,687	0	2,651,687
雑損	287,797	7,803	511,368	0	2,055,541	81,981	0	2,944,490	0	2,944,490
事業費用計	2,249,169,351	1,079,889,659	889,879,990	1,294,436,438	1,142,226,890	1,934,916,811	44,226,776	8,634,745,914	272,875,510	8,907,621,424
事業収益										
運営費交付金収益	1,381,698,257	671,264,231	469,169,593	1,027,448,602	942,908,979	1,539,346,579	17,065,000	6,048,901,241	381,416,098	6,430,317,339
受託収入	495,000	869,000	0	312,471	211,528,242	266,237,723	29,487,057	508,929,493	12,540,035	521,469,528
入場料収入	428,268,290	71,429,440	213,777,640	90,862,312	0	4,058,960	0	808,396,642	0	808,396,642
展示事業等附帯収入	153,799,929	47,875,637	42,804,189	24,751,599	9,111,709	24,525,099	0	302,868,162	1,666,997	304,535,159
財産利用収入	134,337,823	14,533,567	24,096,898	4,019,125	1,358,537	5,905,105	0	184,251,055	0	184,251,055
寄附金収益	54,828,515	6,709,040	59,937,322	774,376	600,649	15,424,197	0	138,274,099	0	138,274,099
施設費収益	14,428,550	67,146,450	0	0	0	0	0	81,575,000	0	81,575,000
その他補助金収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資産見返負債戻入	148,279,411	15,073,782	69,672,702	162,562,184	25,177,494	44,031,128	0	464,796,701	5,311,525	470,108,226
財務収益	574,048	2,681	0	0	0	527	651	577,907	168,493	746,400
雑益	1,441,185	191,165	136,021	214,871	2,485,660	161,491	0	4,630,393	1,706,260	6,336,653
事業収益計	2,318,151,008	895,094,993	879,594,365	1,310,945,540	1,193,171,270	1,899,690,809	46,552,708	8,543,200,693	402,809,408	8,946,010,101
事業損益	68,981,657	−184,794,666	−10,285,625	16,509,102	50,944,380	−35,226,002	2,325,932	−91,545,221	129,933,898	38,388,677

Ⅱ総資産　（単位：円）

区分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	法人共通	合　計
流動資産	594,485,665	236,587,803	162,448,084	479,802,436	279,000,533	361,636,987	4,022,837	2,117,984,345	3,624,395,331	5,742,379,676
固定資産	89,355,742,005	41,891,678,515	30,504,279,361	26,370,509,653	6,494,714,193	5,808,932,949	0	200,425,856,676	76,292,878	200,502,149,554
建物	16,517,367,241	2,253,205,402	6,090,825,051	10,934,939,580	3,569,524,347	3,528,081,917	0	42,893,943,538	44,109,571	42,938,053,109
収蔵品	44,923,180,704	23,361,499,370	19,914,768,484	14,291,014,689	0	102,834,571	0	102,593,297,818	0	102,593,297,818
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	2,650,000,000	1,522,000,000	0	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	1,082,406,060	7,205,076,843	623,675,622	685,575,384	275,189,846	656,016,461	0	10,527,940,216	32,183,307	10,560,123,523
総資産	89,950,227,670	42,128,266,318	30,666,727,445	26,850,312,089	6,773,714,726	6,170,569,936	4,022,837	202,543,841,021	3,700,688,209	206,244,529,230

（注）

1．平成２４年１０月１日に大阪府堺市にアジア太平洋無形文化遺産研究センターが設立され、今年度より新たにセグメント情報に加えております。

2．事業の種類の区分方法及び事業の内容

（1）東京国立博物館
我が国を代表する博物館として、日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる文化財について収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（2）京都国立博物館
平安時代から江戸時代に至る京都文化を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（3）奈良国立博物館
仏教美術を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（4）九州国立博物館
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。
なお、事業の実施に当たっては、福岡県等と連携協力を行っております。

（5）東京文化財研究所
美術、伝統芸能並びに文化財の保存・修復に関する調査・研究等を行っております。

（6）奈良文化財研究所
遺跡、建造物、庭園等の不動産的文化財に関する調査・研究等を行っております。

（7）アジア太平洋無形文化遺産研究センター
アジア太平洋地域の無形文化遺産について調査・研究を行っております。

3．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は272,875,510円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

4．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益、施設費収益であります。
なお、事業収益のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は402,809,408円であり、すべて本部事務局に係る収益であります。

5．総資産のうち共通の項目に含めた金額は3,700,688,209円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

6．各セグメントにおける目的積立金の取り崩しを財源とする費用は以下の通りです。　（単位：円）

区　分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	法人共通	合　計
目的積立金取崩額(費用)	0	0	0	0	20,371	6,295,004	0	6,315,375	0	6,315,375

7．各セグメントにおける損益外減価償却相当額、損益外除売却差額相当額、損益外減損損失相当額、引当外賞与増加見込額及び引当外退職給付増加見込額は以下の通りです。　（単位：円）

区　分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	法人共通	合　計
損益外減価償却相当額	1,010,326,334	230,795,699	504,964,159	673,922,810	227,105,420	192,836,235	0	2,839,950,657	3,520,264	2,843,470,921
損益外除売却差額相当額	4,342,610	0	0	0	0	50,483,243	0	54,825,853	0	54,825,853
損益外減損損失相当額	1,033,200	0	0	0	0	0	0	1,033,200	0	1,033,200
引当外賞与増加見積額	−5,416,494	−6,662,103	−2,775,918	−3,382,038	−1,306,107	−7,156,273	1,323,118	−25,375,815	−3,703,321	−29,079,136
引当外退職給付増加見積額	39,452,624	−39,023,254	12,492,040	10,052,740	28,546,998	−10,869,721	1,880,480	42,531,907	5,235,242	47,767,149

17. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

(1)資産見返運営費交付金の明細　　(単位:円)

区　　分	金　　額
建　　物	1,221,254,251
構　築　物	57,876,243
機　械　・　装　置	2,949,087
車　両　運　搬　具	12,937,325
工　具　器　具　備　品	1,039,041,155
ソ　フ　ト　ウ　ェ　ア	75,438,125
差　入　敷　金　・　保　証　金	497,000
合　　計	2,409,993,186

（単位：円）

区　　分	予 算 額	決 算 額	差　額	備　考
収　入				
運営費交付金	7,941,068,000	7,941,068,000	0	
施設整備費補助金	4,792,204,000	4,413,827,715	−378,376,285	（注記）1
展示事業等収入	1,187,811,000	1,318,305,293	130,494,293	（注記）2
受託収入	26,000,000	507,253,022	481,253,022	（注記）3
その他寄附金等	0	240,624,338	240,624,338	（注記）4
計	13,947,083,000	14,421,078,368	473,995,368	
支　出				
運営事業費	9,128,879,000	8,952,472,481	−176,406,519	
管理経費	1,502,222,000	1,627,029,978	124,807,978	
人件費	668,609,000	709,362,508	40,753,508	
一般管理費	833,613,000	917,667,470	84,054,470	
業務経費	7,626,657,000	7,325,442,503	−301,214,497	
人件費	2,449,971,000	2,406,849,216	−43,121,784	
調査研究事業費	1,297,142,000	1,440,250,058	143,108,058	（注記）5
情報公開事業費	168,998,000	146,713,106	−22,284,894	
研修事業費	17,806,000	15,684,467	−2,121,533	
国際研究協力事業費	244,894,000	177,711,184	−67,182,816	
展示出版事業費	186,940,000	196,561,912	9,621,912	
展覧事業費	3,205,668,000	2,845,796,342	−359,871,658	（注記）6
教育普及事業費	55,238,000	95,876,218	40,638,218	
施設整備費	4,792,204,000	4,413,827,715	−378,376,285	（注記）1
受託事業費	26,000,000	512,337,708	486,337,708	（注記）3
計	13,947,083,000	13,878,637,904	−68,445,096	

（注記）

1. 平成21年度、平成22年度予算の平成23年度への繰越及び平成23年度予算の平成24年度への繰越の差額によるものであります。

2. 入場者数の増加により、入場料収入及び展示事業等附帯収入が増加したものであります。

3. 受託収入及び受託事業費について、予算額と決算額の差異が多額になったのは、当初の受入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約があったためであります。

4. 賛助会等の寄附金によるものであります。

5. 調査研究事業費の差額は、研究用機器等の購入により増加したものであります。

6. 展覧事業費の差額は、陳列品購入が減少したものであります。

平成 23 年度　事業報告書(第5期)

目　　次

１．国民の皆様へ

２．基本情報
(1) 法人の概要
(2) 本社・支社等の住所
(3) 資本金の状況
(4) 役員の状況
(5) 常勤職員の状況

３．簡潔に要約された財務諸表
①貸借対照表
②損益計算書
③キャッシュ･フロー計算書
④行政サービス実施コスト計算書
・用語解説

４．財務情報
(1) 財務諸表の概況
①資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ･フローなどの主要な財務データの経年比較・分析
② セグメント総資産の経年比較・分析
③ セグメント事業損益の経年比較・分析
④ 積立金の申請、取崩内容等
⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析
(2) 施設等投資の状況（重要なもの）
① 当事業年度中に完成した主要施設等
② 当事業年度において継続中の施設等の新設・拡充
③ 当該事業年度中に処分した主要施設等
(3) 予算・決算の概況
(4) 経費削減及び効率化目標との関係

５．事業の説明
(1) 財源構造
(2) 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

独立行政法人国立文化財機構　平成 23 年度事業報告書

１.国民の皆様へ

私ども独立行政法人国立文化財機構（以下「機構」といいます。）は、平成 19 年 4 月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合されて設立されました。国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的とし、歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点として、収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

平成 23 年度は、第 3 期中期目標期間の初年度となりましたが、業務面、財務面のいずれも 3 月に発生しました東日本大震災により大きな影響を受けました。

機構では、文化庁からの要請により東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援（以下「文化財レスキュー」といいます。）委員会事務局を東京文化財研究所に設置して関連団体の連絡調整を行い、また、各博物館、研究所を挙げて救援活動のため多数の研究者を派遣するなど積極的に活動に取り組んでまいりました。国民の皆様からも、各博物館、研究所に設置しました義援金箱などを通じて多額のご厚志をお寄せいただきました。この場をお借りしまして御礼申し上げますとともに、救援活動に充てさせていただいたことを報告いたします。詳細につきましては、文化財レスキュー事務局及び各博物館、研究所のホームページをご覧ください。

業務面では、東日本大震災直後に顕著であった文化関係活動全般の自粛の影響を受け、上半期の入館者数は平常展を中心に大きく落ち込みましたが、夏過ぎより東京国立博物館で歴代 11 位の入館者数となった「空海と密教美術展」など徐々に盛り返し、通年では入館者総数 335 万人と前年の 340 万人に肉薄するまで回復しました。研究所でも、文化財レスキュー活動の中心として活動しつつも年度計画の達成をみております。

また、財務面では、東日本大震災の影響で東京国立博物館東洋館耐震補強改修工事が中断するなどしましたが、その後再開しました。現在、機構として一番大規模な工事である京都国立博物館平常展示館建替等工事もおおむね順調に進展しております。

一方で、引き続き財務会計システムを更新するなど、業務の効率化による経費削減に努めて参りましたが、国からの交付金・受託収入の減少や、上述の入館者数減少による入場料収入の減少などの影響が大きく当期総利益は前年比 99 百万円減の 44 百万円となりました。

私ども機構は、国の文化財保護行政をしっかりと支えていくという大きな使命の下、引き続き、文化財の保存と活用、またそのための基礎研究と最先端の研究という四つの大きな柱を機能させ、さらなる活性化を推進してまいる所存です。国民の皆様におかれましては、私どもの事業及び運営へのご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

２.基本情報

(1) 機構の概要

① 法人の目的

独立行政法人国立文化財機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二条第一項第一号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規定する文化財をいう。以下に同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第三条）

② 業務内容

当機構は、独立行政法人国立文化財機構法第三条の目的を達成するため以下の業務を行います。

1）博物館を設置すること。

2）有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。

3）前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。

4）第一号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。

5）文化財に関する調査及び研究を行うこと。

6）前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。

7）文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。

8）第二号、第三号及び前三号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。

9）第二号、第三号及び第五号から第七号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。

10）前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

③ 沿革

平成 19 年 4 月 独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立

平成 23 年 10 月　アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置

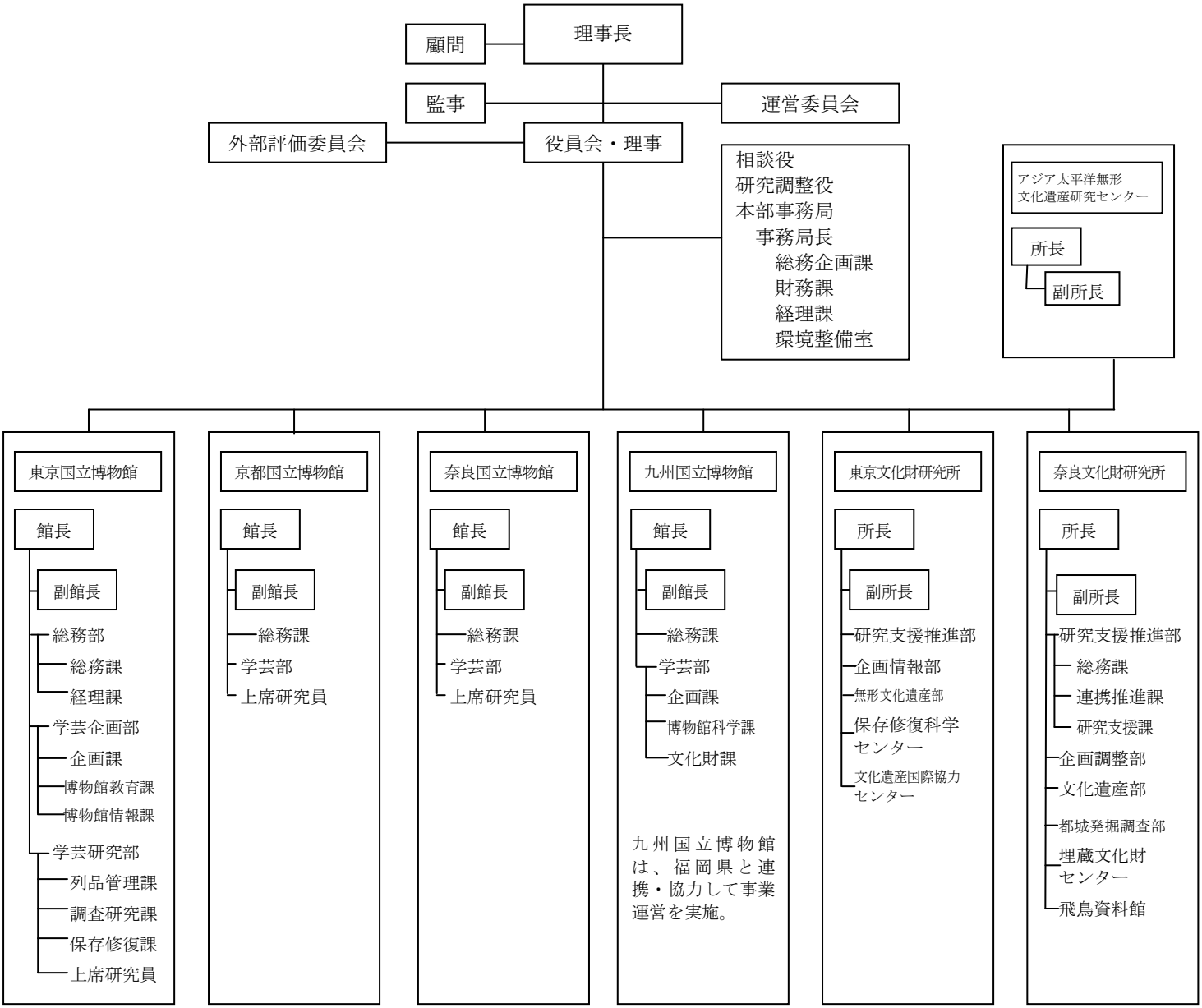
④ 設立根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成 11 年法律第 178 号）

⑤ 主務大臣（主務省所管課等）

文部科学大臣（文化庁長官官房政策課）

⑥ 組織図（平成 24 年 3 月 31 日現在）



(2) 本社・支社等の住所

本社：東京都台東区上野公園 13－9

支社：東京都台東区上野公園 13－9（東京国立博物館）

東京都台東区上野公園 13－43（東京文化財研究所）

京都府京都市東山区茶屋町 527（京都国立博物館）

奈良県奈良市登大路町 50（奈良国立博物館）

奈良県奈良市二条町 2－9－1（奈良文化財研究所）

福岡県太宰府市石坂 4－7－2（九州国立博物館）

大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁　堺市博物館内（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

(3) 資本金の状況

（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,714	0	0	104,714
資本金合計	104,714	0	0	104,714

(4) 役員の状況

役職	氏名	任期	担当	経歴
理事長	佐々木丞平	自 平成19年4月1日 至 平成25年3月31日		昭和45年4月 京都府教育委員会 昭和47年4月 文化庁入庁 昭和56年4月 京都大学 平成 3年3月 京都大学文学部教授 平成12年4月 京都大学附属図書館長(併任) 平成12年11月 京都大学 大学文書館長 平成17年3月 退職 平成17年4月 (独)国立博物館理事（(兼)京都国立博物館長） 平成19年3月 退職（統合のため）
理　事	亀井伸雄	自 平成22年4月1日 至 平成25年3月31日	調査・研究、文化財の保存修復担当	昭和48年4月 文化庁入庁 平成13年1月 文化庁文化財部建造物課長 平成15年4月 国立都城工業高等専門学校長 平成17年4月 文化庁文化財部文化財鑑査官 平成20年3月 退職 平成20年7月 (財)文化財建造物保存技術協会常務理事 平成22年3月 退職
理　事	松村恵司	自 平成23年10月1日 至 平成25年3月31日	ナショナルセンター機能、対外広報担当	昭和52年10月 奈良国立文化財研究所 昭和62年10月 文化庁入庁 平成 7年4月 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室長 平成 18年4月 (独)文化財研究所奈良文化財研究所都城発掘調査部上席研究員・考古第一研究室長 平成 20年4月 (独)国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部長 平成21年4月 文化庁文化財部文化財鑑査官 平成23年3月 退職
理　事	辰野裕一	自 平成23年9月1日 至 平成25年3月31日	総務、財務、危機管理担当	昭和53年4月 文部省入省 平成 13年7月 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課長 平成 16年7月 文化庁文化財部長 平成17年4月 文化庁長官官房審議官 平成18年7月 文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当） 平成19年7月 国立大学法人東京大学理事 平成21年7月 文部科学省大臣官房政策評価審議官 平成22年7月 文部科学省大臣官房文教施設企画部長 平成23年8月 退職
監　事	雪山行二	自 平成21年4月1日 至 平成25年3月31日		昭和51年4月 国立西洋美術館 平成 4年9月 国立西洋美術館学芸課長 平成10年9月 退職 平成10年10月 愛知県美術館副館長 平成14年4月 横浜美術館長 平成21年4月 和歌山県立近代美術館長 平成24年3月 退職
監　事	服部彰	自 平成22年4月1日 至 平成25年3月31日		昭和46年10月 監査法人中央会計事務所 昭和55年3月 クーパースアンドライブランド・シドニー事務所 昭和63年9月 中央監査法人代表社員 平成 9年4月 中央監査法人評議員 平成12年4月 中央青山監査法人代表社員・評議員 平成18年9月 みすず監査法人パートナー 平成19年8月 服部公認会計士事務所　　現在に至る

(5) 常勤職員の状況

常勤職員は平成 23 年度末で 340 人（前期末比、4 名減少、1.16%減)、平均年齢は 43 歳（前期末 43 歳）です。このうち、国等からの出向者は 15 人、民間からの出向者は 0 人です。

3.簡潔に要約された財務諸表

①貸借対照表

平成 24 年 3 月 31 日　（単位：百万円）

資産の部	金　額	負債の部	金　額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	5,098	運営費交付金債務	396
未収金	619	未払金	4,656
その他	26	その他	442
流動資産合計	5,743	流動負債合計	5,494
固定資産		固定負債	
有形固定資産		資産見返負債	9,667
建物	42,938	その他の固定負債	28
収蔵品	102,593	固定負債合計	9,695
土地	44,411	負債合計	15,189
建設仮勘定	6,888	純資産の部	
その他	3,521	資本金	104,714
無形固定資産	146	資本剰余金	85,651
投資その他資産	5	利益剰余金	691
固定資産合計	200,502	純資産合計	191,056
資産合計	206,245	負債純資産合計	206,245

②損益計算書

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日　（単位：百万円）

	金　額
経常費用(A)	8,908
業務費	
人件費	3,037
業務経費	3,744
減価償却費	403
一般管理費	
人件費	792
一般管理経費	839
減価償却費	87
その他	6
経常収益(B)	8,946
運営費交付金収益	6,430
受託収入	522
入場料収入	808
資産見返負債戻入	470
その他	716
臨時損失(C)	－2
臨時利益(D)	2
前中期目標期間繰越積立金取崩額(E)	6
当期総利益(B－A＋C＋D＋E)	44

③キャッシュ・フロー計算書

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	664
人件費支出	－3,837
運営費交付金収入	7,941
自己収入等	2,260
その他の支出	－5,838
その他収入	138
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	867
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	－14
Ⅳ資金増加額（又は減少額）(D＝A＋B＋C)	1,517
Ⅴ資金期首残高(E)	3,581
Ⅵ資金期末残高(F＝D＋E)	5,098

④行政サービス実施コスト計算書

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務費用	6,962
損益計算書上の費用	8,910
（控除）自己収入等	－1,948
（その他の行政サービス実施コスト）	
Ⅱ損益外減価償却相当額	2,843
Ⅲ損益外除売却差額相当額	55
Ⅳ損益外減損損失相当額	1
Ⅴ引当外賞与見積額	－29
Ⅵ引当外退職給付増加見積額	48
Ⅶ機会費用	1,970
Ⅷ行政サービス実施コスト	11,850

■ 用語解説

①貸借対照表

現金及び預金　　：現金、銀行預金（定期預金含む）

未収金　　：受託事業実施のための立替金、施設利用料の未受領分など

その他（流動資産）　：販売用図録などのたな卸資産、前払保険料、前払費用など

有形固定資産　　：土地、建物、大型研究機器、車両、収蔵品など長期にわたって使用する固定資産で無形固定資産以外のもの

建設仮勘定　　：建設中の建物の建設等のため支出した相当額など

無形固定資産　　：ソフトウエア、電話加入権など

その他（固定資産）　：保証金、長期前払費用

運営費交付金債務　：運営費交付金のうち翌年度に繰り越すものの相当額

未払金　　：退職給付、購入代金などの未払金で１年以内に支払期限が到来するもの

その他（流動負債）　：住民税納付のための給与控除預り金など

資産見返負債　　：運営費交付金などにより取得した固定資産（償却資産）の取得額のうちの未償却額

その他（固定負債）　：リース長期未払金など

政府出資金　　：国から出資された土地、建物等の相当額
資本剰余金　　：運営費交付金、施設費、目的積立金、寄附金などで取得した建物、収蔵品の相当額
利益剰余金　　：剰余金の累計額

②損益計算書

業務費　　：業務の実施に要した経費
人件費　　：給与、賞与、法定福利費等の経費
減価償却費　　：固定資産の取得額をその耐用年数にわたって費用として配分する経費
運営費交付金収益等：運営費交付金、補助金等のうち、当期の収益として認識した相当額
資産見返負債戻入　：固定資産の償却時に当該資産の見返勘定を戻入したことによる収益
臨時損失　　：固定資産除却損
臨時利益　　：運営費交付金及び寄附による備品の除却により資産見返運営費交付金等を戻入したことによる利益
前中期目標期間繰越積立金取崩額　：前中期目標期間に受託研究費で取得した研究機器の当該年度の減価償却費相当額

③キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：通常業務の実施に係る資金の状態。サービス提供等による収入、原材料、商品又はサービス購入による支出、人件費支出等
投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態で、固定資産の取得・売却等による収入・支出
財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等

④行政サービス実施コスト計算書

業務費用　　：損益計算書における一切の費用から運営費交付金、施設整備費補助金等の国からの措置に基づく収益を控除した相当額
損益外減価償却相当額　：建物などで減価に対応すべき収益の獲得が予定されないとされた資産の減価償却費相当額（損益計算書には反映されていないが、減価償却累計額は貸借対照表に反映）
損益外除売却差額相当額：上記のような建物などを除売却した場合の損益計算書には反映されない除売却損相当額
損益外減損損失相当額：独立行政法人が中期計画等で想定した業務を行ったにもかかわらず生じた減損損失相当額
引当外賞与見積額・引当外退職給付増加見積額　：財源措置が運営費交付金により行われる場合の賞与引当金増加見積額・退職給付引当金増加見積額（損益計算書には反映されていないが、貸借対照表に注記）
機会費用　　：政府から出資された土地・建物等の出資額及び政府から譲与を受け資本剰余金となっている収蔵品等の相当額を市場で運用すると仮定した場合に得られたと考えられる運用益相当額

４.財務情報

(1) 財務諸表の概況

①資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ･フローなどの主要な財務データの経年比較・分析

主要な財務データの経年比較　（単位：百万円）

区　　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
資産	194,047	195,434	197,977	202,650	206,245
負債	5,395	7,377	9,621	9,316	15,189
利益剰余金（又は繰越欠損金）	719	1,019	1,163	1,304	691
純資産	188,653	188,057	188,356	193,334	191,056
経常費用	9,096	9,450	9,700	9,703	8,908
経常収益	9,518	9,771	9,847	9,844	8,946
当期総利益	414	304	148	143	44
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,612	2,444	2,860	1,410	664
投資活動によるキャッシュ･フロー	－2,572	－1,575	－2,025	－1,981	867
財務活動によるキャッシュ・フロー	－20	－16	－20	－6	－14
資金期末残高	2,490	3,343	4,158	3,581	5,098

（資産）

平成23年度末現在の資産合計は206,245百万円と前年度末比3,595百万円(1.8%)増加しました。これは、京都国立博物館平常展示館建替工事等が順調に進行したことにより建設仮勘定が6,888百万円と同4,361百万円（173%）増加したこと、各博物館における収蔵品が102,593百万円と同1,234百万円（1.2%）増加したこと及び現預金及び有価証券等の流動資産が5,743百万円と同999百万円（21.1%）増加した一方で、減少要因である減価償却の進行により減価償却累計額が24,580百万円と同3,180百万円（14.9%）増加したことの差し引きが主な要因です。

（負債）

平成23年度末現在の負債合計は15,189百万円と前年度末比5,873百万円(63.0%)増加しました。これは、上記の工事等の進行に伴い建設仮勘定見返施設費が6,715百万円と同4,332百万円（182%）増加したこと及び未払金が4,656百万円と同1,021百万円（28.1%）増加したことが主な要因です。

（純資産）

平成23年度末現在の純資産は191,056百万円と前年度比2,278百万円（1.2%）減少しました。これは、資本剰余金について、減少要因である損益外減価償却累計額が同2,769百万円（14.5%）増加した一方で、収蔵品見合相当額が102,593百万円と同1,234百万円（1.2%）増加したこと、また、利益剰余金について、積立金相当額651百万円を国庫返納したことなどにより613百万円（47.0%）減少したことの差し引きが主な要因です。

（経常費用）

平成23年度の経常費用は8,908百万円と前年度比796百万円（8.1%）減少しました。これは、平成22年度限りの補助金等の減少などにより業務費のうち調査研究業務費が871百万円と321百万円（26.9%）、展覧業務費が854百万円と232百万円（21.4%）及びその他業務費が916百万円と297百万円（24.5%）いずれも減少したことが主な要因です。

（経常収益）

平成 23 年度の経常収益は 8,946 百万円と前年度比 898 百万円（9.1%）減少しました。これは、運営費交付金収益が 6,430 百万円と同 362 百万円（5.3%）、施設費収益が 82 百万円と同 135 百万円（62.2%）及びその他補助金収益が全減と同 98 百万円（100.0%）いずれも減少したことが主な要因です。

（当期総利益）

以上による経常利益 38 百万円に、固定資産の除却等に伴う臨時損失 2 百万円とそれに伴う資産見返勘定の戻入による臨時利益 2 百万円を差し引きし、前中期目標期間繰越積立金取崩 6 百万円と合わせて、平成 23 年度の当期総利益は 44 百万円と前年度末比 99 百万円（69.2%）減少しました。

（業務活動によるキャッシュ・フロー）

平成 23 年度の業務活動によるキャッシュ・フローでは、収入超過が 664 百万円と前年度末比 746 百万円（52.9%）減少しました。これは、自己収入等が 2,265 百万円と同 17 百万円(0.7%)及びその他収入が 133 百万円と同 58 百万円(30.4%)減少し、その他の支出が 5,838 百万円と同 313 百万円（5.7%）増加したことが主な要因です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

平成 23 年度の投資活動によるキャッシュ・フローでは、収入超過が 867 百万円と前年度末比 2,848 百万円（144%）増加しました。これは、施設整備費補助金による収入超過が 4,349 百万円と前年度末比 753 百万円（14.8%）及び有形固定資産の取得による支出超過が 3,950 百万円と同 2,528 百万円(39.0%)減少した一方で、有価証券の償還による収入超過が新規に 500 百万円あったことが主な要因です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

平成 23 年度の財務活動によるキャッシュ・フローでは、支出超過が 14 百万円と、支出超過が前年度末比 8 百万円（133.3%）増加しました。これは、当該区分はすべてリース債務の支払であるところ、当該支払が同額増加したためです。

② セグメント総資産の経年比較・分析

セグメント総資産の経年比較　（単位：百万円）

	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
東京国立博物館	88,121	88,113	89,823	92,163	89,950
京都国立博物館	34,931	36,544	36,385	38,005	42,128
奈良国立博物館	29,751	29,691	29,955	31,486	30,667
九州国立博物館	26,357	26,752	26,677	27,183	26,850
東京文化財研究所	7,624	7,284	7,080	7,192	6,774
奈良文化財研究所	6,880	6,659	6,595	6,270	6,171
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	-	-	-	-	4
共通	383	391	1,462	351	3,701
合　　計	194,047	195,434	197,977	202,650	206,245

総資産は 206,245 百万円と、前年度末比で 3,595 百万円(1.8%)増加しました。

施設毎に分析しますと、東京国立博物館においては 89,950 百万円と、前年度比

2,213 百万円（2.4%）減少しました。これは、陳列品が 366 百万円増加した一方で、流動資産が国庫返納等により 1,531 百万円減少したこと及び損益外を含め減価償却費 1,159 百万円を計上したことが主な要因です。

京都国立博物館においては 42,128 百万円と、同 4,123 百万円（10.8%）増加しました。これは、平常展示館建替工事により建物が 206 百万円減少、建設仮勘定が 4,302 百万円、陳列品が 169 百万円それぞれ増加した一方で、損益外を含め減価償却費 246 百万円を計上したことの差し引きが主な要因です。

奈良国立博物館においては 30,667 百万円と、同 819 百万円（2.6%）減少しました。これは、陳列品が 102 百万円増加した一方で、現金・預金が 378 百万円減少し、また損益外を含め減価償却費 575 百万円を計上したことの差し引きが主な要因です。

九州国立博物館においては 26,850 百万円と、同 333 百万円（1.2%）減少しました。これは、陳列品が 597 百万円増加した一方で、損益外を含め減価償却費 838 百万円を計上したことの差し引きが主な要因です。

東京文化財研究所においては 6,774 百万円と、同 418 百万円（5.8%）減少しました。これは、現金・預金が 149 百万円減少し、また、損益外を含め減価償却費 260 百万円を計上したことが主な要因です。

奈良文化財研究所においては 6,171 百万円と、同 99 百万円（1.6%）減少しました。これは、工具・器具・備品が同 82 百万円増加した一方で、損益外を含め減価償却費 248 百万円を計上したことの差し引きが主な要因です。

本年度より設置したアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいては、総資産が 4 百万円となりました。これは、借用建物にて運営しているなど身軽な運営としているためであり、資産は、現金・預金のみとなっております。

共通は、機構本部事務局その他の資産であり、3,701 百万円と、同 3,350 百万円増加しました。これは、本部事務局に入金されていた施設整備費補助金 3,276 百万円が主な要因です。

③ セグメント事業損益の経年比較・分析

セグメント事業損益の経年比較　（単位：百万円）

	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
東京国立博物館	293	190	−70	29	69
京都国立博物館	21	13	35	0	−185
奈良国立博物館	41	76	38	0	−10
九州国立博物館	40	11	75	−7	16
東京文化財研究所	20	11	18	23	51
奈良文化財研究所	6	18	47	−4	−35
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	-	-	-	-	2
共通	1	2	4	100	130
合　計	422	321	147	141	38

事業損益は 38 百万円と、対前年度末比 103 百万円（73.0%）減少しました。

施設毎に分析しますと、東京国立博物館においては 69 百万円の利益と同 40 百万円（138%）増加しました。これは、事業費用が 2,249 百万円と同 553 百万円（19.7%）減少し、事業収益が 2,318 百万円と同 513 百万円（18.1%）減少したこ

との差し引きによります。事業費用は、調査研究業務費が同 178 百万円（54.3%）、展覧業務費が 71 百万円（19.4%）、その他業務費が東洋館改修工事完了に伴う施設費収益の減などのため同 212 百万円（35.3%）いずれも減少したこと、事業収益は、入場料収入が同 159 百万円（59.1%）、展示事業等附帯収入が 34 百万円（28.3%）いずれも増加する一方で、運営費交付金収益が同 486 百万円（26.0%）減少したことの差し引きが主な要因です。

京都国立博物館においては 185 百万円の損失と、前年度の損益 0 百万円から同額損失が拡大しました。これは、事業費用が 1,080 百万円と、同 207 百万円（23.7%）増加し、さらに、事業収益が 895 百万円と、同 23 百万円（2.6%）増加したことが主な要因です。事業費用は、一般管理経費が消費税の納付負担増などにより同 201 百万円（147%）増加し、また、業務人件費が同 54 百万円（16.2%）増加したこと、事業収益は、運営費交付金収益が同 49 百万円（7.9%）減少したことが主な要因です。

奈良国立博物館においては 10 百万円の損失と、前年度の損益 0 百万円から同額損失が拡大しました。これは、事業費用が 890 百万円と、同 219 百万円（19.7%）減少し、事業収益が 880 百万円と、同 229 百万円（20.6%）減少したことの差し引きによります。事業費用は、入館者の減少に伴う会場管理費減少などのため展覧業務費が同 104 百万円（46.4%）、改修工事の終了に伴う施設費収益の減少などのためその他業務費が同 89 百万円（26.5%）いずれも減少したこと、事業収益は、入場料収入が同 142 百万円（39.9%）、展示事業付帯収入が同 78 百万円（64.5%）、運営費交付金収益が 65 百万円（16.1%）いずれも減少したことの差し引きが主な要因です。

九州国立博物館においては 17 百万円の利益と、前年度の 7 百万円の損失から 24 百万円改善しました。これは、事業費用が 1,294 百万円と、同 60 百万円（4.4%）減少し、事業収益が 1,311 百万円と、同 36 百万円（2.7%）減少したことの差し引きによります。事業費用は、業務減価償却費が 39 百万円（21.3%）、一般管理経費が同 10 百万円（15.9%）いずれも減少したこと、事業収益は、運営費交付金収益が同 39 百万円（3.9%）増加した一方で、入場料収入が同 41 百万円（31.1%）、資産見返負債戻入が 31 百万円（16.0%）いずれも減少したことの差し引きが主な要因です。

東京文化財研究所においては 51 百万円の利益と、同 27 百万円（112.5%）増加しました。これは、事業費用が 1,142 百万円と、同 159 百万円（12.2%）減少し、事業収益が 1,193 百万円と、同 132 百万円（10.0%）減少したことの差し引きによります。事業費用は、受託業務費が同 64 百万円（23.4%）、国際研究協力業務費が同 29 百万円（17.7%）、一般管理経費が同 47 百万円（49.5%）いずれも減少したこと、事業収益は、運営費交付金収益が同 72 百万円（7.1%）、受託収益が同 67 百万円（24.0%）いずれも減少したことの差し引きが主な要因です。

奈良文化財研究所においては 35 百万円の損失と、同 31 百万円（775%）損失が拡大しました。これは、事業費用が 1,935 百万円と、同 47 百万円（2.4%）減少し、事業収益が 1,900 百万円と、同 78 百万円（3.9%）減少したことの差し引きによります。事業費用は、調査研究業務費が同 89 百万円（22.8%）減少し、展示出版業務費が同 30 百万円（22.4%）と受託業務費が同 28 百万円（12.1%）増加したこと、事業収益は、平城京遷都 1300 年祭の増加の反動減で入場料収入が同 37 百万

円（90.2%）、展示事業等付帯収入が同 15 百万円（37.5%）いずれも減少したことの差し引きが主な要因です。

共通は、機構本部事務局その他の損益で 130 百万円と、利益で同 30 百万円（30.0%）増加しました。これは、事業費用が 273 百万円と、同 9 百万円（3.2%）減少し、事業収益が、消費税納付のため運営費交付金収益 101 百万円（36.1%）増加した一方で、受託収入がアジア太平洋無形文化遺産研究センターを年度途中で設置してその後の受託収入が移管されたことにより同 13 百万円（50.0%）、雑益が還付消費税が全減したことにより同 67 百万円（97.1%）いずれも減少したことなどの差し引きが主な要因です。

④積立金の申請、目的積立金の取崩内容

当期未処分利益 44 百万円については、昨年度と同様に経営努力によることの説明が困難なため積立金としております。

目的積立金取崩は、前中期目標期間において自己収入により取得した償却資産に関する減価償却費相当額などについて前中期目標期間繰越積立金取崩を 6 百万円計上しております。

⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析

行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
業務費用	7,013	7,165	7,558	7,527	6,962
損益計算書上の費用	9,109	9,471	10,049	9,715	8,910
（控除）自己収入等	−2,096	−2,306	−2,491	−2,188	−1,948
損益外減価償却相当額	2,545	2,507	2,296	2,322	2,843
損益外減損損失相当額	102	0	0	0	1
損益外除売却差額相当額	7	301	0	42	55
引当外賞与見積額	5	−21	−9	−7	−29
引当外退職給付増加見積額	−42	−173	−69	12	48
機会費用	2,430	2,554	2,652	2,431	1,970
（控除）法人税等及び国庫納付金	0	0	0	0	0
行政サービス実施コスト	12,060	12,333	12,428	12,327	11,850

平成 23 年度の行政サービス実施コストは 11,850 百万円と、前年度比 477 百万円（3.9%）減少となっています。これは、業務費用が 565 百万円（7.5%）及び機会費用が同 461 百万円（19.0%）減少した一方で、損益外減価償却相当額が 521 百万円（22.4%）増加したことが主な要因です。

(2)施設等投資の状況（重要なもの）

①当事業年度中に完成した主要施設等

該当なし

②当事業年度において継続中の主要施設等の新設・拡充

＜京都国立博物館＞

平常展示館建替工事

③当事業年度中に処分した主要施設等

該当なし

(3) 予算・決算の概況

国立文化財機構　　(単位：百万円)

区　分	19 年度		20 年度		21 年度		22 年度		23 年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
《収入》											
運営費交付金	9,042	9,042	8,771	8,771	8,367	8,367	8,192	8,192	7,941	7,941	
施設整備費補助金	711	148	1,698	1,872	3,674	2,331	3,992	5,094	4,792	4,414	
文化芸術情報電子化推進費補助金	-	-	-	-	700	548	0	136	-	-	
展示事業等収入	1,098	1,558	1,109	1,786	1,120	1,898	1,132	1,580	1,188	1,318	特別展入場者の増加等
その他寄附金等	0	148	0	127	0	139	0	143	0	241	
受託収入	26	527	26	514	26	525	26	518	26	507	当初見込外契約の増加
合　計	10,877	11,423	11,604	13,070	13,887	13,808	13,342	15,663	13,947	14,421	
《支出》											
運営事業費	10,140	10,341	9,880	9,779	9,487	10,454	9,324	11,010	9,129	8,952	
・人件費	3,560	3,483	3,635	3,507	3,330	3,244	3,165	3,162	3,119	3,116	
・業務経費	6,580	6,858	6,245	6,272	6,157	7,210	6,159	7,848	6,010	5,836	
（一般管理費）	1,754	1,191	1,087	1,173	1,020	1,066	980	932	833	917	消費税の増加
（展覧事業費）	2,591	3,780	2,951	3,079	2,940	4,050	2,905	4,672	3,206	2,846	
（調査研究事業費）	1,449	1,261	1,445	1,448	1,438	1,473	1,517	1,633	1,297	1,440	研究用機器等の購入増加
（教育普及事業費）	125	70	121	63	121	74	120	89	55	96	
（国際研究協力事業費）	314	249	305	229	304	223	303	227	245	178	
（情報公開事業費）	161	166	156	146	155	144	155	127	169	147	
（研修事業費）	23	22	22	22	22	17	22	18	18	16	
（展示出版事業費）	163	119	158	112	158	163	157	150	187	196	
受託事業費	26	486	26	503	26	492	26	507	26	512	当初見込外契約の増加
施設整備費	711	148	1,698	2,106	3,674	2,212	3,992	5,094	4,792	4,414	
文化芸術情報電子化推進費補助金	-	-	-	-	700	542	0	142	-	-	
合　計	10,877	10,975	11,604	12,388	13,887	13,700	13,342	16,753	13,947	13,878	

(4)経費削減及び効率化目標との関係

国立文化財機構

（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ）

（単位：百万円）

区　分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間									
	金額	比率	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	
			金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
一般管理費	1,455	100%	1,191	81.9%	1,173	80.6%	1,066	73.3%	932	64.1%	918	63.1%

※比率は対前中期目標終了年度

機構は、当中期目標期間終了年度における一般管理費を、前中期目標期間の最終年度に比べて、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中で一般管理費 15%以上の削減を目標としております。

この目標を達成するため、具体的には下記の措置を講じます。

①共通的な事務の一元化による業務の効率化

②使用資源の減少

・省エネルギー（5 年期間中 1 年に 1.03%の減少）

・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を 5 年期間中 5%減少）

・リサイクルの推進（古紙の回収、ディスプレイ材料の再利用徹底等）

③施設有効使用の推進

・施設の利用推進

④民間委託の推進

・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進めます。

・各施設の警備・清掃業務について民間委託を推進します。

・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進めます。

⑤競争入札の推進

・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図ります。

・包括契約、近隣他機関や法人内同一地域での共同購入及び複数年契約への変更等により、経費の効率化を図ります。

５． 事業の説明

(1) 財源構造

当機構の経常収益は 8,946 百万円で、その内訳は、運営費交付金収益 6,430 百万円（71.9%）、受託収入 522 百万円（5.8%）、入場料収入 808 百万円（9.0%）、展示事業等附帯収入 305 百万円（3.4%）、財産利用収入 184 百万円（2.1%）、寄附金収益 138 百万円（1.5%）、施設費収益 82 百万円（0.9%）、資産見返負債戻入 470 百万円（5.3%）等です。

(2) 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

ア　調査研究事業

調査研究事業は、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を通して、国内の機関との共同研究や研究交流を深め、種々の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与すること、及び文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 871 百万円です。その財源は、運営費交付金 706 百万円及び自己収入 165 百万円です。

イ　情報公開事業

情報公開事業は、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の方が調査・研究成果を容易に入手できるようにすることを目的としています。

事業に要した費用は 129 百万円です。その財源は、運営費交付金 126 百万円及び自己収入 3 百万円です。

ウ　研修事業

研修事業は、文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修、及び保存科学に関する保存担当学芸員研修等を行うことにより、文化財保護に必要な人材を養成することを目的としています。

事業に要した費用は 16 百万円です。その財源は、運営費交付金のみです。

エ　国際研究協力事業

国際研究協力事業は、文化財の保存・修復に関する国際研究協力に関する事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際研究協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 171 百万円です。その財源は、運営費交付金 165 百万円及び自己収入 6 百万円です。

オ　展示出版事業

展示出版事業は、文化財に関する調査・研究に基づく成果について刊行物を発行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供すること、及び研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことを目的としています。

事業に要した費用は 179 百万円です。その財源は、運営費交付金 160 百万円及び自己収入 19 百万円です。

カ　展覧事業

展覧事業は、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的･通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施すること、及び国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うことを目的としています。

事業に要した費用は 854 百万円です。その財源は、運営費交付金 351 百万円及び自己収入 503 百万円です。

キ　教育普及事業

教育普及事業は、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化への理解促進を図るための中心的拠点として相応しい事業を重点的に行うこと、及び教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努めることを目的としています。

事業に要した費用は 96 百万円です。その財源は、運営費交付金 18 百万円及び自己収入 78 百万円です。

ク 受託事業

受託事業は、高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施することを目的としています。

事業に要した費用は 511 百万円です。その財源は、受託収入のみです。

以上

Ⅴ　評価

1．文部科学省独立行政法人評価委員会評価（平成23年度）

独立行政法人国立文化財機構の平成23年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価　　**＜参考＞　業務の質の向上：A　業務運営の効率化：A　財務内容の改善：A**

①評価結果の総括

・独立行政法人国立文化財機構の平成23年度に係る業務は、東日本大震災による事業運営への影響があったにもかかわらず、中期計画どおり　実績を上げており、全体として一定の成果を達成したと評価できる。
・ナショナルセンターとして、文化財の保存・修復、後世への伝承、広くアジア諸地域における文化政策への協力貢献の諸方面でもすぐれた成果を上げた。
・国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上については、ホームページの多言語化、新しい情報メディアの活用、バリアフリー化、託児所の設置など、多様な来館者への対応が進んでいる。
・業務運営面では、一般管理費、業務経費の効率化、人件費の削減など、業務の質の向上と効率化が図られている。

②平成23年度の評価結果を踏まえた、事業計画及び業務運営等に関して取るべき方策（改善のポイント）

（1）事業計画に関する事項
・展示事業については、来館者アンケートによる入場者数に係る分析も実施しながら、質の高い展覧会を実施し、東日本大震災の影響にもかかわらず、全体として、前年度の来館者数を上回った。今後も、分析の蓄積やその有効活用を図りつつ、来館者増に向けたより一層の努力が望まれる。「項目別-p8参照」
・平常展については、外国語パネルの充実や積極的な陳列替えなどにより、展示の充実に向けた努力の成果が見受けられる。今後も、収蔵品の管理・活用のための日常的な研究業務を継続するとともに、科学的機材などの新しい技術を活用した展示、教育事業などにより、魅力ある展示に向けたより一層の努力が望まれる。「項目別-p8参照」

（2）業務運営に関する事項
・ 常勤職員の削減が求められる中、アソシエイトフェローの起用による業務補完を実現するなど、適切な業務運営がなされているが、今後は、アソシエイトフェロー制度の問題点（キャリアパスや常勤職員との業務の棲み分けなど）にも留意しつつ、能力向上や経験値の拡大などの支援体制について検討する必要がある。「項目別-p77参照」

（3）その他
・平成23年度に開設したアジア太平洋無形文化遺産研究センターは、同地域における日本の文化力を発揮できる国際協力の場として、今後の実績が期待される。「項目別-p51参照」

③特記事項

・平成23年度は、東日本大震災の影響により、収蔵品の貸与や展示事業をはじめ、電力制限による管理業務など法人業務全体に影響がみられた。
・文化財レスキュー事業では、国の要請に基づき、法人本部及び東京文化財研究所が中核となり、国や地方公共団体等と連携しつつ、被災各県との連絡調整をはじめ、被災地における被災文化財等の救援活動に尽力し、ナショナルセンターとして大きな貢献を果たした。

全体－1

文部科学省独立行政法人評価委員会
文化分科会　国立文化財機構部会　名簿

（五十音順）

（委　　員）
○　嶋田　実名子　　花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門理事

（臨時委員）
上原　真人　　京都大学大学院文学研究科教授

内田　篤呉　　（財）エム・オー・エー美術文化財団MOA美術館理事・副館長・学芸部長

佐野　みどり　　学習院大学文学部哲学科教授

竹本　幹夫　　早稲田大学文学学術院教授・演劇博物館館長

永村　眞　　日本女子大学文学部教授

宮島　博和　　公認会計士

○：部会長

独立行政法人国立文化財機構の平成23年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※				
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
（大項目名）国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A					（中項目名）文化財保護に関する国際協力の推進	A				
（中項目名）歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承	A					（小項目名）国際協力に関する研究基盤の整備	A				
（小項目名）収蔵品の収集	A					（小項目名）保存修復に関する技術移転の推進	A				
（小項目名）収蔵品の管理、保存	A					（小項目名）無形文化遺産保護の国際的充実	A				
（小項目名）収蔵品修理、保存処理	A					（中項目名）情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信	A				
（中項目名）文化財を活用した歴史・ 伝統文化の国内外への発信	A					（小項目名）情報基盤の整備充実	A				
（小項目名）展示の充実	A					（小項目名）調査研究成果の公開・提供	A				
（小項目名）教育活動の充実	A					（小項目名）公開施設の運用	A				
（小項目名）快適な観覧環境の提供	A					（中項目名）地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	A				
（小項目名）文化財情報の発信と広報の充実	A					（小項目名）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築	A				
（中項目名）我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与	A					（小項目名）中核的文化財担当者の研修・若手研者の育成	A				
（小項目名）調査研究成果の発信	A					（大項目名）業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A				
（小項目名）海外研究者の招聘	S					（小項目名）業務の効率化	A				
（小項目名）博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施	A					（小項目名）給与水準の適正化等	A				
（小項目名）収蔵品貸与の推進	A					（小項目名）内部統制の充実・強化	A				
（小項目名）公私立博物館・美術館等に対する援助・助言	A					（大項目名）財務・人事	A				
（中項目名）文化財に関する調査及び研究の推進	A					（小項目名）予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	A				
（小項目名）調査研究の目的・内容の適切性／調査研究の実施状況／調査研究の成果の状況	A					（小項目名）人事計画に関する計画	A				

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

※「－」は当該年度では該当がないことを、「／」は終了した事業を表す。

備考（法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等）
本法人の業務・マネジメントに係る意見募集を実施した結果、意見は寄せられなかった。

総表－1

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較（過去5年分を記載）　（単位：百万円）

区　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
収入						支出					
運営費交付金	9,042	8,771	8,367	8,192	7,941	運営事業費	10,341	9,779	10,454	11,010	8,952
施設整備費補助金	148	1,872	2,331	5,094	4,414	人件費	3,483	3,507	3,244	3,162	3,116
文化芸術情報電子化推進費補助金	－	－	548	136	－	一般管理費	1,191	1,173	1,066	932	917
展示事業等収入	1,558	1,786	1,898	1,580	1,318	業務経費	5,667	5,098	6,144	6,916	4,919
受託収入	527	514	525	518	507	調査研究事業費	1,261	1,448	1,473	1,633	1,440
その他寄附金等	149	127	139	143	241	情報公開事業費	166	146	144	127	147
						研修事業費	22	22	17	18	16
						国際研究協力事業費	249	229	223	227	178
						展示出版事業費	119	112	163	150	196
						展覧事業費	3,780	3,079	4,050	4,672	2,846
						教育普及事業費	70	62	74	89	96
						施設整備費	148	2,106	2,212	5,094	4,414
						文化芸術情報電子化推進費	－	－	542	142	－
						受託事業費	486	503	492	507	512
計	11,424	13,070	13,808	15,663	14,421	計	10,975	12,388	13,700	16,753	13,878

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
展示事業等収入の減少は、入場者数の減少が主な要因である。
その他寄附金等の増加は、文化財レスキュー等による寄附金の増加が主な要因である。
展示事業費の減少は、展示事業等収入の減少に伴う事業抑制が主な要因である。

備考（法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等）
本法人の業務・マネジメントに係る意見募

（単位：百万円）

区　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
費用						収益					
経常経費	9,095	9,451	9,700	9,703	8,908	運営費交付金収益	7,010	6,861	6,364	6,792	6,430
人件費	3,956	4,025	3,842	3,804	3,829	受託収入	529	562	554	586	522
一般管理費	1,035	1,153	1,128	852	839	入場料収入	1,081	1,160	1,322	892	808
業務経費	4,104	4,273	4,730	5,047	4,240	展示事業等附帯収入	310	423	370	383	305
調査研究業務費	886	1,026	1,393	1,192	871	財産利用収入	162	150	159	154	184
情報公開業務費	141	130	124	122	129	寄附金収益	57	80	123	122	138
研修業務費	20	20	17	17	16	施設費収益	7	132	143	216	82
国際研究協力業務費	248	225	222	225	171	その他補助金収益	－	－	376	98	－
展示出版業務費	108	114	179	144	179	資産見返負債戻入	359	398	418	517	470
展覧業務費	1,768	1,819	1,894	2,299	1,771	雑益等	3	5	18	84	7
教育普及業務費	70	62	68	87	96	臨時利益	－	－	347	11	2
受託業務費	483	474	484	505	511						
減価償却費	378	400	346	451	490						
雑損等	2	3	3	5	6						
臨時損失	14	20	349	12	2						
計	9,109	9,471	10,049	9,715	8,910	計	9,518	9,771	10,194	9,855	8,948
						純利益	409	300	145	141	38
						目的積立金取崩額	5	4	3	2	6
						総利益	414	304	148	143	44

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
調査研究業務費の減少は、デジタル化補助金等の事業完了が主な要因である。
展覧業務費の減少は、展示事業等収入等の減少による事業抑制が主な要因である。
運営費交付金収益の減少は、次年度への繰越が主な要因である。
施設費収益の減少は、東洋館耐震改修工事の終了が主な要因である。

参考－2

（単位：百万円）

区　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	9,107	9,114	9,034	9,254	9,675	業務活動による収入	11,719	11,558	11,894	10,665	10,339
投資活動による支出	2,575	3,595	4,345	7,083	3,983	運営費交付金による収入	9,042	8,771	8,367	8,192	7,941
財務活動による支出	20	16	20	7	14	展示事業等による収入	2,677	2,787	3,527	2,473	2,398
翌年度への繰越金	2,490	3,343	4,158	3,581	5,098	投資活動による収入	3	2,020	2,320	5,102	4,850
						施設費による収入	0	2,020	2,320	5,102	4,349
						固定資産売却による収入	3	0	0	0	0
						有価証券の償還等による収入	0	0	0	0	501
						財務活動による収入	0	0	0	0	0
						前年度よりの繰越金	2,470	2,490	3,343	4,158	3,581
計	14,192	16,068	17,557	19,925	18,770	計	14,192	16,068	17,557	19,925	18,770

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
業務活動による支出の増加は、中期目標期間終了に伴う積立金相当額の国庫納付が主な要因である。
投資活動による支出の減少は、陳列品購入の減少が主な要因である。
財務活動による支出の増加は、リース債務支払の増加によるものである。

【参考資料2】貸借対照表の経年比較（過去5年分を記載）　（単位：百万円）

区　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
資産						負債					
流動資産						流動負債					
現金・預金	2,490	3,343	4,158	3,581	5,098	運営費交付金債務	752	1,350	1,197	0	396
未収金	553	664	601	637	619	預り施設費	－	－	0	0	0
その他	71	36	32	526	26	預りその他補助金	－	－	6	0	0
固定資産						預り寄附金	113	152	144	86	192
有形固定資産						未払金	1,805	1,787	2,448	3,635	4,656
建物	45,827	43,830	42,143	45,582	42,938	未払費用	47	51	59	59	72
収蔵品	95,898	97,362	99,521	101,359	102,593	前受金	1	1	－	0	2
土地	44,411	44,411	44,411	44,411	44,411	預り金	122	146	229	101	172
その他	4,686	5,666	6,961	6,383	10,409	その他流動負債	2	2	4	5	4
無形固定資産											
ソフトウェア	105	116	144	165	142	固定負債					
電話加入権	5	5	5	5	4	資産見返負債					
投資その他資産	1	1	1	1	5	資産見返運営費交付金	2,111	2,030	2,038	2,429	2,410
						資産見返寄附金	42	73	106	177	156
						資産見返物品受贈額	127	113	99	90	77
						資産見返その他補助金	－	－	162	174	136
						建設仮勘定見返運営費交付金	123	123	126	143	173
						建設仮勘定見返施設費	116	1,526	2,963	2,383	6,715
						その他の固定負債					
						長期未払金	33	23	39	34	28
						負債合計	5,394	7,377	9,620	9,316	15,189
						純資産					
						資本金	104,714	104,714	104,714	104,714	104,714
						資本剰余金	83,220	82,324	82,479	87,316	85,651
						利益剰余金	719	1,019	1,164	1,304	691
						（うち当期未処分利益）	414	304	148	143	44
						純資産合計	188,653	188,057	188,357	193,334	191,056
資産合計	194,047	195,434	197,977	202,650	206,245	負債純資産合計	194,047	195,434	197,977	202,650	206,245

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
現金・預金及び未払金の増加は、年度末竣工に伴い施設工事の支払が年度をまたいだことが主な要因である。
有形固定資産のその他及び建設仮勘定見返施設費の増加は、施設工事の進行に伴う建設仮勘定の増加が主な要因である。
運営費交付金債務の増加は、次年度繰越によるものである。
利益剰余金の減少は、中期目標期間終了に伴う積立金相当額の国庫返納が主な要因である。

【参考資料3】利益（又は損失）の処分についての経年比較（過去5年分を記載）　（単位：百万円）

区　分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
Ⅰ　当期未処分利益					
当期総利益	414	304	148	143	44
前期繰越欠損金	0	0	0	0	0
Ⅱ　利益処分額					
積立金	414	304	148	143	44
独立行政法人通則法第44条第3項により					
主務大臣の承認を受けた額	0	0	0	0	0
業務拡充積立金	0	0	0	0	0
施設改修積立金	0	0	0	0	0

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
当期総利益の減少は、自己収入の減少が主な要因である。

【参考資料4】人員の増減の経年比較（過去5年分を記載）　（単位：人）

職種※	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
定年制研究職員	188	186	186	186	185
任期制研究系職員	2	7	7	10	5
再任用研究職職員	1	1	2	2	3
定年制事務職員	122	121	123	123	121
任期制事務職員	0	0	0	0	2
再任用事務職員	2	1	1	1	2
定年制技能・労務職員	23	22	20	19	19
任期制技能・労務職員	0	0	0	0	0
再任用技能・労務職員	3	3	3	0	0
指定職相当職員	3	3	3	3	3

※職種は法人の特性によって適宜変更すること

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
・平成18年度については、統合前のため博物館のみ記載

独立行政法人国立文化財機構の平成23年度に係る業務の実績に関する評価

【(大項目)1－1】	1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【(中項目)1－1】	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整理と、次代への継承	【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【(小項目)1－1－1】　収蔵品の収集

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(1)－1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(東京国立博物館)
　日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(京都国立博物館)
　京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(奈良国立博物館)
　仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(九州国立博物館)
　日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(1)－2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

実績報告書等　参照箇所
・自己点検評価報告書　個別表
p1-p4 1-(1)-1 適時適切な収集
p5-p8 1-(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

・自己点検評価報告書　統計表
p1-p30　1-(1) 収蔵品

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	699	1,737	1,037	1,759	1,863	720
従事人員数(人)	99	98	99	103	105	100

※決算額は、4国立博物館の文化財購入費の決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

項目別－1

評価基準	実績	分析・評価
○購入、寄贈、寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成したか。	**主な実績** 収蔵品　122,802 件、23 年度新収品 701 件(うち　購入 34 件、寄贈 176 件、編入 491 件)　※22 年度新収品 591 件 文化財購入費　7 億 2 千万円　※22 年度　18 億 6 千万円(11 億 4 千万円減) 寄託品　11,866 件　※22 年度 11,975 件(109 件減)	全体として、各館の特色に沿った購入、寄贈、寄託によるバランスある体系的・通史的なコレクションが形成されていると評価できる。 新規購入品については、東京国立博物館では、東洋館の再開館に向けた演示具・備品等等のため新規購入費を捻出できず、購入費の確保が困難であったが、全体として701件のコレクションの充実に努めており、一定の成果を上げている。 寄贈・寄託品については、世界的にも著名な作品やコレクションの寄贈があり、長年に亘る所蔵者との友好な関係が構築されてきた成果と認められる。

(参考)収蔵品件数

【収蔵品件数】	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	111,588	112,439	112,529	112,776	113,258	113,897
京都国立博物館	6,320	6,386	6,417	6,526	6,584	6,621
奈良国立博物館	1,790	1,794	1,805	1,812	1,827	1,831
九州国立博物館	281	333	370	397	433	453
4 館合計	119,979	120,952	121,121	121,511	122,102	※ 122,802

※23 年度新収品 701 件のうち編入 1 件は東京国立博物館から九州国立博物館への管理換であるため、4 館合計の収蔵品数は 22 年度比 700 件増。

(参考)寄託品件数

【寄託品件数】	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	2,773	2,743	2,750	2,734	2,726	2,689
京都国立博物館	6,179	6,154	5,907	5,957	6,005	6,013
奈良国立博物館	1,957	2,057	2,067	1,957	1,947	1,945
九州国立博物館	1,506	1,091	1,105	1,256	1,297	1,219
4 館合計	12,415	12,045	11,829	11,904	11,975	11,866

(参考)法人の自己評価
23 年度も展示や研究に活用できる文化財の収集に努め、編入を除き 210 件の新収品を得た。(うち購入 34 件)
主な購入品としては、「大鵬小鵬図　斉白石筆」(京博)、「紙本墨書万昆嶋主解」(奈良博)、「紙本著色病草紙断簡(尿を吐く男)」(九博)など、各館の特色を活かした効果的な収集を行っており、平常展の活性化や調査研究を行う上で、重要な役割を果たすことが期待される。東京国立博物館おいては、運営費交付金が削減された状況で東洋館の再開館に必要な演示具・備品等の取得や収蔵品の再配置に優先的に予算の執行をせざるを得なかったため、購入費の捻出が困難な状況となり、本年度の購入物件はない。
寄贈については、個人収集家等へ積極的な働きかけを行った結果、176 件の文化財を新規に寄贈いただくことができた。これまでの良好な関係の構築と積極的な働きかけにより、東京国立博物館では、写楽の同図柄として世界に一点しか知られていない貴重な作品である「中島和田右衛門の丹波屋八右衛門」を寄贈いただいた。京都国立博物館における寄託品のうち染織 7 件は、20 年から 30 年間寄託されていた 3 名の個人から寄贈を受けたもので、特に染織裂 31 枚、人形 152 種は近代京都画壇の大家入江波光の蒐集品であり、波光の絵画制作資料でもあったと思われ、なかでも人形類は日本を代表する優れたコレクションである。
寄託については、相手方の意向によるものであり目標値設定になじまないため、23 年度より定量的目標値は定めていない。23 年度は新規寄託 130 件、返却 239 件があり、寄託品総件数は 109 件減少したが、継続的寄託及び新規寄託についての努力を継続した結果であり、返却件数にはその後寄贈を受けたもの、購入したものも含まれる。奈良国立博物館においては、東大寺からの寄託品のうち 14 件を、東大寺ミュージアムのオープンにともない寺へ返還した。
以上のような購入・寄託により、全体としてコレクションの体系的・通史的バランスをより良いものにすることができたと考えている。
次年度以降も国立博物館としてのナショナルセンターの役割に相応しい収集を実施していきたい。

【(小項目)1−1−2】 **収蔵品の管理・保存**

【評定】 A

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(2)−1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(2)−2 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

H24	H25	H26	H27

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書 個別表
p9−p12 1−(2)−1 収蔵品の管理・保存
p13−p16 1−(2)−2 施設の環境整備

・自己点検評価報告書 統計表
p31−p32 1−(2) 収蔵品の管理・保存

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	1,034	148	2,106	2,212	5,094	4,414
従事人員数(人)	110	110	109	115	115	111

※決算額は、決算報告書・施設整備費補助金の決算額を計上している。(管理・保存にかかる光熱水料や、調査にかかる事務費は個別に計上できないため、勘案していない。)
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員及び常勤施設系職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○収蔵品の写真・管理データを蓄積することにより、収蔵品の保存・管理の徹底に努めたか。

実績

(2)−1 収蔵品の管理・保存
主な実績
・本格修理等における列品調査時、対症修理時、列品貸与の点検時に保存カルテを作成し、保存・蓄積した。(各館)
・東京国立博物館では 23 年度より保存カルテ作成件数の計数方法を、収蔵品及び寄託品のみを対象とし、特別展等の借用品における応急修理時の保存カルテ作成分は含まないものとした(22 年度までは含む)。※(参考)従来の計数方法による 23 年度実績:1,641 件(東博)
・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成・保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、130 件を順調に作成した。(奈良博)
・平成 20 年度から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。(東博)
・展示品を中心に X 線 CT スキャナ、三次元計測装置や三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は文化財の予防的保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設 1〜6 を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。(九博)

(参考)保存カルテ作成件数

【保存カルテ作成件数】	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	(1,638)	(1,725)	(2,693)	(1,989)	(2,368)	(1,641) 1,187
京都国立博物館	96	140	174	214	108	249
奈良国立博物館	102	103	108	114	218	130
九州国立博物館	205	252	289	205	101	107
4 館合計	2,041	2,220	3,264	2,522	2,795	1,673

※( )内は、計数方法が異なるため参考数。

(参考)法人の自己評価
保存カルテ作成件数については、列品貸与件数の影響が大きく、外的要因に左右され目標値設定になじまないため、23 年度より定量的な目標は定めていない。23年度保存カルテ作成件数の前年度比は、4館計が1,122件減、うち東京国立博物館が1,181件減となっている。東京国立博物館については計数方法変更(従来の計数方法の場合の件数1,641件との差:454 件減)と列品貸与件数の減少(23年度905件、22年度1,315件:410件減)が主な要因であり、列品貸与時、本格修理時、応急修理時のそれぞれで保存カルテ作成は順調に行われている。奈良国立博物館での保存カルテ作成・保管システムの運用も軌道に乗っている。また、東京国立博物館の収蔵品悉皆調査は、列品情報整備事業の本格調査3年目にあたり、順調に進んでいる。

○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施したか。

(2)−2 施設の環境整備
主な実績
・東洋館収蔵庫の工事完了に伴い、内部の空気成分の調査を行うとともに、空調運転による環境改善を図った。(東博)
・平常展示館建て替え工事は 25 年度中開館に向けて進んでおり、24 年度 4 月中に上棟予定である。(京博)
・展示室及び展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムを導入し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することを可能とした。(奈良博)
・常設展示室 70、特別展示室 30、収蔵庫 30 箇所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。(九博)
・IPM(総合的有害生物管理)の実施・普及を行った。(各館)

(参考)法人の自己評価
一部に東日本大震災による影響はあったものの、東京国立博物館東洋館の耐震補強工事及び京都国立博物館平常展示館の建て替え工事は計画通りに進行している。また、各博物館でIPM(総合的有害生物管理)活動の実践として防虫対策に取り組んでおり、無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムの導入状況も含め、収蔵庫及び展示室内の環境の維持を講ずるため万全の体制を図っている。

分析・評価

収蔵品保存カルテの作成は、各館とも順調に進められており、特に、九州国立博物館の特色でもある先端科学技術を用いた予防的保存カルテの作成は、今後の博物館施設における管理保存の在り方を先導する新手法を示すものとして評価できる。

また、耐震補強工事をはじめ、老朽化に対する対策は計画的に行われていると評価できる。

保存・活用のための展示環境等についても、各施設でIPM(総合的有害生物管理)の実施・普及などに取り組んでおり、無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムなど、新しい技術も積極的に導入し、環境維持のための工夫が伺われる。

【(小項目)1−1−3】　収蔵品修理、保存処理

【評定】
A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(3)−1 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。
(3)−2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。
(3)−3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書 個別表
p17−p24 1−(3)−1 収蔵品の修理
p25 1−(3)−2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実
p26 1−(3)−3 収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究のための基本設備の充実に向けた検討

・自己点検評価報告書 統計表
p33−p55 1−(3) 収蔵品の修理

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	126	132	126	158	187	140
従事人数(人)	49	50	51	50	50	48

※決算額は、文化財修理を外注した決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の常勤保存修復担当職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施したか。

○文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行ったか。

○計画的な収蔵スペースの確保が図られたか。

実績

主な実績
・計画的な文化財の本格修理を実施した。(146件 ※22年度176件)
・文化財修理の適正化を図るため修理契約委員会を 21 年度に設置し、以降も引き続き同委員会を開催し、契約形態の審議を行っている。(各館)
・紙本などの修理技術者として保存修復課に 3 名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために 947 件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから 106 件の本格修理を実施した。うち重要文化財 1 件は寄付金による本格修理である。(東博)
・館費による修理に加えて、外部資金の導入を図り、財団の修理助成による助成金を2件得た。また、個人から当館に寄せられた文化財修復のための寄付金を有効に用いた。(京博)

・23年1月の業務方法書の改正に伴い、これまで明確な位置付けが図られていなかった文化財保存修理所(京都国立博物館、奈良国立博物館)及び文化財保存修復施設(九州国立博物館)の設置に対し、本部規程第81号「独立行政法人国立文化財機構文化財保存修理所等の供用及び運営に関する規程」において修理所等の供用及び運営に関する規程を制定し、23年4月1日より施行した。(京博・奈良博・九博)

・東洋館の収蔵庫改修工事の完了に伴い、本館地下収蔵庫等に収納していた東洋関係の文化財を、東洋館の収蔵庫に移動した。これを受けて、絵画・漆工等の文化財をより効率的に収納できるよう収蔵庫の配分を再検討し、新規収納棚等を設置した。新絵画収蔵庫には、屏風を効率良く収納できる専用棚を設計・発注した。東洋館の収蔵庫については、効率的な収納及び安全確保のため、ストッパー付き可動棚を設置し、落下防止柵の設置を検討した。(東博)
・収蔵品の増加に伴い、東収蔵庫に保管される作品の一部を移動整理し、より効率的な収納を図った。(京博)

分析・評価

各館とも、緊急性の高いものから、順次、計画的に修理事業を進めており、目標値を超える実績を上げている。

また、東京国立博物館では、修理技術者をアソシエイトフェローとして配置することにより、館内における収蔵品の本格修理、応急修理が図られた。

さらに、京都国立博物館では、個人及び助成財団からの外部資金の導入により、文化財修復が行われており、経費削減の努力が認められる。

なお、京都国立博物館、奈良国立博物館の文化財保存修理所、九州国立博物館の文化財保存修復施設に関して、供用及び運営に関する規定を制定することにより、明確な位置づけが行われ、保存修理に関する環境が一層整備されたことは適切である。

【修理件数(本格修理)】指標:年度計画
※定量的評価の目標値を設定しているものについては、実績が目標値の1.5倍以上をあげた場合「S」とした。

東京国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
40 件以上	28 件以上 40 件未満	28 件未満	106 件	S

京都国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
10 件以上	7 件以上 10 件未満	7 件未満	10 件	A

奈良国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
8 件以上	6 件以上 8 件未満	6 件未満	11 件	A

九州国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
15 件以上	11 件以上 15 件未満	11 件未満	19 件	A

【修理件数(本格修理)】	過去の実績に関する経年データ					23年
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	101	101	75	106	139	106
京都国立博物館	11	15	17	5	9	10
奈良国立博物館	4	10	8	11	9	11
九州国立博物館	10	22	25	24	19	19
4 館合計	126	148	125	146	176	146

(参考)法人の自己評価
定量的な目標を定めている本格修理件数については、4館ともに目標に達しており、本格修理は計画的に実施されている。
文化財保存修理所については、機構の規程として整備し、その位置付けを明確にした。
収蔵スペースの確保については、館によっては改修工事に伴う物品の移動等もある中、安全性を確保しつつ限られた空間を有効活用しており、各館とも計画的な収蔵スペースの確保に努めている。

【(中項目)1−2】	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【(小項目)1−2−1】 展示の充実

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。

(1)展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①−1 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26 年度までに開催する。

①−2 展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

(東京国立博物館)年3〜4回程度
(京都国立博物館)年2〜3回程度
(奈良国立博物館)年2〜3回程度
(九州国立博物館)年2〜3回程度

③海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p27−p31 2−(1)−①−1 平常展
p32 2−(1)−①−2 展示説明の充実
p33−p53 2−(1)−② 特別展
p54 2−(1)−③ 海外展

・自己点検評価報告書 統計表
p56 2−(1)−④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置
p125 共通資料 a−①来館者数推移(入館料別) (過去5ヵ年)
p126 共通資料 a−②来館者数推移(展覧会別) (過去5ヵ年)
p128 共通資料 a−③入場料収入
p129 共通資料 a−④平常展・特別展・海外展
p217 附属資料 平成 23 年度平常展・特別展アンケート結果

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	844	920	894	980	1,086	858
従事人員数(人)	99	98	99	103	105	100

※決算額は、展覧事業費に要したディスプレイ費・印刷製本費・旅費・謝金・消耗品費等の損益計算書上の費用額を計上している。

※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとしたか。また、観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫したか。

(平常展)
○展覧事業の中核として、各館の特色を十分に発揮した体系的・通史的な展示としたか。

○作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付したか。また、海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を80%以上設置したか。

(特別展)
○我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示としたか。また、個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標入館者数を定め、それを達成したか。さらに展覧会来館者の満足度を把握し、改善を図ったか。
・東京国立博物館 3〜4回
・京都国立博物館 2〜3回
・奈良国立博物館 2〜3回
・九州国立博物館 2〜3回

(海外展)
○海外において展覧会を開催し、日

実績

主な実績
23年度国立博物館来館者数 合計317万8,414人 ※22年度 288万1,312人(約29万7千人、10.3%増)

■23 年度 博物館の年間総来館者数等

	総来館者数	平常展		特別展・共催展	
		来館者数	特集陳列件数	来館者数	開催回数
東京国立博物館	1,756,590 人	324,597 人	32件	1,431,993 人	7回(1回)
京都国立博物館	239,767 人	ー人	ー件	239,767 人	6回(2回)
奈良国立博物館	469,463 人	130,839 人	12件	338,624 人	3回
九州国立博物館	712,594 人	358,366 人	13件	354,228 人	5回(1回)
4博物館 合計	3,178,414 人	813,802 人	57件	2,364,612 人	21回(4回)

※来館者数は年度集計(23年4月1日〜24年3月31日)。
※東博平常展来館者数は、黒田記念館を含む。
※開催回数の( )内は、海外展(九博 1 回)及び別会場開催(東博 1 回、京博 2 回)で内数。(来館者数は除く。)

①平常展(来館者数 81万3,802人) ※22年度 71万9,179人(約9万5千人、13.2%増)
・東日本大震災の後、安全確認のため23年4月中は開館時間を10時から16時とし、表慶館、法隆寺宝物館及び黒田記念館を休館した。また、夏季の節電のため6月30日から10月8日は、黒田記念館を休館した。(東博)
・東洋館は改修工事のため通年休館した。東洋美術・考古の代替展示を行っていた表慶館は、東洋館リニューアル準備に伴う物品移動のため23年12月26日より休館し、日本美術を展示する本館の一部にて引き続き、東洋美術・考古の特集展示を随時実施した。(東博)
・平常展示館建替工事にともない平常展示を休止したが、館外での収蔵品の公開に努めた。(京博)
・最近5年間の新規収蔵品を紹介する「新収蔵品展」を開催した。(奈良博)
・所蔵者である寺院において仏堂の改修、建て替え等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、特別公開「海住山寺本尊 十一面観音像」、特別公開「東大寺法華堂 金剛力士像」、特別公開「金剛寺 降三世明王坐像」、特別公開「大和高田・弥勒寺 弥勒仏坐像」を実施した。(奈良博)
・22年度にタイ・バンコク国立博物館で開催した文化庁海外展の帰国展として、トピック展示「日本とタイ ふたつの国の巧と美」(4月12日から6月5日)を実施した。(九博)

【平常展来館者数】指標:年度計画(22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す)

東京国立博物館(362,470人)

A	B	C	実績	定量的評価
362,470人以上	253,729人以上 362,470人未満	253,729人未満	324,597人	B

京都国立博物館(ー)

A	B	C	実績	定量的評価
ー	ー	ー	ー	ー

奈良国立博物館(118,032人)

A	B	C	実績	定量的評価
118,032人以上	82,623人以上 118,032人未満	82,623人未満	130,839人	A

九州国立博物館(380,690人)

A	B	C	実績	定量的評価
380,690人以上	266,483人以上 380,690人未満	266,483人未満	358,366人	B

分析・評価

平常展については、積極的な陳列替えや外国語パネルの充実など、日常的な面での努力の成果が伺える。

特に、九州国立博物館では、テーマ展示の充実など、展示の工夫などが確実に来館者増につながっており、魅力的な展示となるような努力が評価できる。

また、海外からの来館者に日本の文化をより一層理解してもらうための外国語パネルについては、各館とも英語は90%前後の達成率となっており、多言語化も進めていることは評価できる。

特別展については、児童・生徒が博物館に親しむきっかけとなる展示や、日常では見ることのできない名品や珍しい作品展観などにより、ほとんどの展覧会が目標来館者数を達成している。

展示事業全体としては、東日本大震災の影響にもかかわらず、総来館者数は前年度比10.3%増と各館の努力の成果が見られる。

また、来館者アンケートでも高い満足度が示されており、意識調査や再来館者・非来館者分析などを各館の展示の充実に反映させる試みが実施されており、評価できる。

さらに、来館者アンケート調査の結果を踏まえて、Google art Project への参加、スマートフォンによるガイドアプリの提供など、新しい情報メディアを活用した取り組みも評価できる。

本の歴史と伝統文化を紹介したか。

【平常展来館者数】	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	361,773	334,297	412,675	330,536	373,068	324,597
京都国立博物館	146,752	165,080	141,965	―	―	―
奈良国立博物館	137,739	131,336	112,849	136,672	71,566	130,839
九州国立博物館	501,540	341,282	241,423	544,661	274,545	358,366
4 館合計	1,147,804	971,995	908,912	1,011,869	719,179	813,802

※東京国立博物館平常展来館者数は、23年度より黒田記念館を含む。

【平常展　陳列替件数】指標：年度計画
東京国立博物館（4,000件程度）

A	B	C	実績	定量的評価
4,000件以上	2,800件以上 4,000件未満	2,800件未満	4,914件	A

京都国立博物館（ー）

A	B	C	実績	定量的評価
―	―	―	―	―

奈良国立博物館（400件程度）

A	B	C	実績	定量的評価
400件以上	280件以上 400件件未満	280件未満	481件	A

九州国立博物館（1,100件程度）

A	B	C	実績	定量的評価
1,100件以上	770件以上 1,100件未満	770件未満	1,373件	A

【平常展　陳列替件数】（件）	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	(308)	(319)	(319)	(316)	(290)	4,914
京都国立博物館	(59)	(53)	(39)	―	―	―
奈良国立博物館	(20)	(21)	(12)	(8)	(101)	481
九州国立博物館	(299)	(375)	(386)	(431)	(334)	1,373

※（　）内は、計数方法が異なるため参考数

【平常展　陳列総件数】指標：年度計画
東京国立博物館（5,500件程度）

A	B	C	実績	定量的評価
5,500件以上	3,850件以上 5,500件未満	3,850件未満	7,394件	A

京都国立博物館（ー）

A	B	C	実績	定量的評価
―	―	―	―	―

奈良国立博物館（700件程度）

A	B	C	実績	定量的評価
700件以上	490件以上 700件未満	490件未満	1,092件	S

九州国立博物館（1,700件程度）

今後も、アンケート結果の蓄積・有効活用を図りつつ、来館者増とともに魅力ある展示の実現に向けたより一層の努力が望まれる。

A	B	C	実績	定量的評価
1,700件以上	1,190件以上 1,700件未満	1,190件未満	2,417件	A

【平常展　陳列総数】（件）	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	7,283	10,223	7,172	6,601	5,610	7,394
京都国立博物館	1,550	1,611	1,081	―	―	―
奈良国立博物館	1,014	928	605	717	340	1,092
九州国立博物館	2,044	2,012	3,146	2,106	1,668	2,417

【平常展外国語パネルの設置率】指標：中期計画
東京国立博物館（80%以上）

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上80%未満	56%未満	96%	A

京都国立博物館（ー）

A	B	C	実績	定量的評価
―	―	―	―	―

奈良国立博物館（80%以上）

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上80%未満	56%未満	89%	A

九州国立博物館（80%以上）

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上80%未満	56%未満	94%	A

【外国語パネルの設置率】	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	100%	95%	97%	97%	96%	96%
京都国立博物館	69%	100%	100%	―	―	―
奈良国立博物館	56%	56%	77%	91%	84%	89%
九州国立博物館	63%	63%	82%	82%	83%	94%

②特別展（来館者数　236万4,612人）　※22年度　216万2,133人（約20万2千人、9.4%増）

【特別展　開催回数】指標：中期計画
東京国立博物館（3～4回）

A	B	C	実績	定量的評価
3回以上	―	3回未満	7回	S

京都国立博物館（2～3回）

A	B	C	実績	定量的評価
2回以上	―	2回未満	6回	S

奈良国立博物館（2～3回）

A	B	C	実績	定量的評価
2回以上	―	2回未満	3回	A

九州国立博物館（2～3回）

A	B	C	実績	定量的評価
2回以上	―	2回未満	5回	S

※海外展及び別会場開催を含む。

【特別展　開催回数】(回)	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	8(3)	5(1)	8(1)	12(4)	10(6)	7()
京都国立博物館	4	3	3	5(1)	5(1)	6(2)
奈良国立博物館	3	3	4	3	4	3
九州国立博物館	4	4	4	4	5(1)	5(1)
4館合計	19(3)	15(1)	19(1)	24(5)	24(8)	21(4)

※(　)内は海外展及び別会場開催で、内数。

【特別展　来館者数】指標：年度計画

東京国立博物館（目標合計：73万人）

特別展「写楽」(23.5.1～6.12　41日間)

A	B	C	実績	定量的評価
160,000人以上	112,000人以上 160,000人未満	112,000人未満	229,625人	A

特別展「手塚治虫のブッダ展」(23.4.26～6.26　57日間)

A	B	C	実績	定量的評価
70,000人以上	49,000人以上 70,000人未満	49,000人未満	99,088人	A

特別展「空海と密教美術」(23.7.20～9.25　61日間)

A	B	C	実績	定量的評価
240,000人以上	168,000人以上 240,000人未満	168,000人未満	550,399人	S

法然上人800回忌・親鸞上人750回忌　特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」(23.10.25～12.4　36日間)

A	B	C	実績	
108,000人以上	75,600人以上 108,000人未満	75,600人未満	212,150人	S

日中国交正常化40周年　東京国立博物館140周年　特別展「北京故宮博物院200選」(24.1.2～2.19　43日間)

A	B	C	実績	定量的評価
152,000人以上	106,400人以上 152,000人未満	106,400人未満	258,252人	S

（参考）※年度計画外に実施のため目標値は全体の目標値に含めない（開催回数、来館者数に含む）
「孫文と梅屋庄吉―100年前の中国と日本」(23.7.26～9.4　37日間)
（主催：東京国立博物館、毎日新聞社　会場：本館特別５室）

A	B	C	実績	定量的評価
（20,350人以上）	（14,245人以上 20,350人未満）	（14,245人未満）	（28,780人）	（A）

京都国立博物館（目標合計：14万人）

特別展覧会「法然上人800回忌　法然－生涯と美術－」(23.3.26～5.8　39日間)

A	B	C	実績	定量的評価
50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	92,929人	S

特別展観「百獣の楽園　－美術にすむ動物たち－」(23.7.16～8.28　38日間)

A	B	C	実績	定量的評価

20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	35,259人	S

特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」(23.10.8～11.23　40日間)

A	B	C	実績	定量的評価
50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	106,536人	S

特別展覧会「中国近代絵画と日本」(24.1.7～2.26　44日間)

A	B	C	実績	定量的評価
20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	13,286人	C

奈良国立博物館（目標合計：28万人）

特別展「誕生！中国文明」(23.4.5-5.29　49日間)

A	B	C	実績	定量的評価
50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	35,679人	B

特別展「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」(23.7.16～8.28　39日間)

A	B	C	実績	定量的評価
50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	63,364人	A

特別展「第63回正倉院展」(23.10.29～11.14　17日間)

A	B	C	実績	定量的評価
180,000人以上	126,000人以上 180,000人未満	126,000人未満	239,581人	A

九州国立博物館（目標合計：20万人）

特別展「黄檗－OBAKU」(23.3.15～5.22　61日間)

A	B	C	実績	定量的評価
30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	55,539人	S

特別展「よみがえる国宝－守り伝える日本の美」(23.6.28～8.28　54日間)

A	B	C	実績	定量的評価
40,000人以上	28,000人以上 40,000人未満	28,000人未満	118,528人	S

特別展「草原の王朝　契丹-美しき3人のプリンセス」(23.9.27～11.27　54日間)

A	B	C	実績	定量的評価
60,000人以上	42,000人以上 60,000人未満	42,000人未満	75,880人	A

特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」(24.1.1～3.4　56日間)

A	B	C	実績	定量的評価
70,000人以上	49,000人以上 70,000人未満	49,000人未満	113,290人	S

●他会場にて開催の特別展 3件 ※総来館者数に含めない（開催回数に含む）

・開館5周年記念特別展「東京国立博物館所蔵　金春座伝来　能面・能装束」(23.10.1～11.20　43日間　会場：金沢能楽美術館)
　主催：東京国立博物館、金沢能楽美術館[(公財)金沢芸術創造財団]
　来館者数　8,206人

・「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜-祈りと風景」(23.10.22～12.4　39日間　会場:静岡県立美術館)
　主催:静岡県立美術館、静岡第一テレビ　特別協力:京都国立博物館
　来館者数:24,070 人
・「京都国立博物館所蔵　典雅なる御装束　－宮廷のオートクチュール－」(23.10.1～11.27　50日間　会場:細見美術館)
　主催:細見美術館、京都新聞社　特別協力:京都国立博物館
　来館者数:12,023 人

●海外展　1件　※総来館者数に含めない(開催回数に含む)
・文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」(23.12.20～24.2.19　51 日間　会場:　韓国国立中央博物館)
　主催:　九州国立博物館・福岡県、文化庁、滋賀県、韓国国立中央博物館
　来館者数:52,316 人

(参考)法人の自己評価

23年度における国立博物館への総来館者数は、317万8,414人を数え、前年度比約29万7千人増(10.3%増)であった。

このうち平常展は81万3,802人で、前年度比約9万5千人増(13.2%増)であった。東京国立博物館においては、東日本大震災直後の文化関係活動全般の自粛の影響と23年4月の開館時間縮小等とが重なり、上半期の来館者数が落ち込んだため、通年で324,597人となり、昨年度比約4万8千人減(13%減)であった。奈良国立博物館は、22年度はなら仏像館のリニューアルに伴う閉館期間があったため来館者数が半減していたが、23年度は例年並みの来館者数を取り戻した。

(平常展)

平常展については、東京国立博物館では本館2階時代別展示「日本美術の流れ」を継続し、外国からの来館者や初来館者にも分かりやすい展示に努めた。本館2階では旧貴賓室と歴史的展示ケースを利用して「高円宮コレクション室」をオープンし(11月)、常時約50点の根付コレクションを展示する等、新たな事業も行われている。また、奈良国立博物館における、社寺の改修等によりお預かりしている仏像の特別公開や、九州国立博物館における海外展帰国展のトピック展示としての開催など、各館の特色を生かした展示を行っている。各館は、それぞれが多様な研究成果を基に、国立博物館として質・量ともに充分な展示を行っている。京都国立博物館は平常展示館建替工事のため、平常展は休止しているが、平成26年度の開館に向け、作業は順調に進んでいる。

平常展来館者数の目標値については、22年度まで定めていなかったが、23年度より前中期計画期間の年度平均の確保を目標としている。奈良国立博物館では目標値に達したが、東京国立博物館・九州国立博物館は、大震災等の影響もあり前期中期計画期間の年度平均を確保することができなかった。

陳列替件数については、22年度まで展示室・展示テーマごとの陳列替回数を計上していたが、館によってその単位に差異があったため、23年度より陳列替を行った作品件数を陳列替件数として計上することで統一し、閉館中の京都国立博物館を除き、各館で目標を達成している。また外国語パネルの設置についても、英語については各館とも目標(80%以上)を達成しており、また全作品のキャプションに外国語を付している。更に、中国語・韓国語の解説も順次整いつつあるなど、多言語による対応に努めている。

(特別展)

特別展については236万4,612人で前年度比約20万2千人増(9.4%増)であった。これは東京国立博物館の特別展「空海と密教美術」が館歴代11位の来館者数である55万人に達したことが大きく影響している。京都国立博物館の特別展覧会「中国近代絵画と日本」は来館者数が13,286人と目標値2万人を下回ったが、一般の美術愛好者にはなじみの薄い中国の近代絵画の展観であったことや、例年に比べて冷え込みが厳しい中での開催となり、高齢者を中心に客足が鈍ったことなどが要因として挙げられる一方、来館者アンケートでは満足度94%と高い数値を示しており、陳列作品の水準の高さやユニークさについて好評を得たことが分かる。

全体として、各施設の研究成果を発表するテーマによる展示や、日中国交正常化40周年として開催した「北京故宮博物院200選」において「清明上河図」が中国国外で初公開されるなど、時機に合わせた特別展の開催により、多数の来館者を得ることができた。その反面、多数の来館者により会場が非常に混雑することについては、入場制限、その他各種の対応を行っているところであるが、今後も引き続き検討が必要である。

また、「細川家の至宝」、「誕生！中国文明」など、各館の協力のもとに巡回を行う特別展も実施した。

(海外展)

海外展は韓国国立中央博物館を会場として、「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」(主催:九州国立博物館他)を開催した。滋賀県ゆかりの仏教美術の優品を一堂に集め、全作品が韓国初出品の展覧会であり、6世紀以来仏教を通じて交流を深めてきた日韓両国にとって、極めて有意義な展覧会といえる。なお、東京国立博物館が予定していた海外展「仏教美術と宮廷の美」(会場:米国・ヒューストン美術館)については、24年2月19日から4月8日の開催のため、24年度事業として評価を行うこととした。

(来館者分析・事業への反映の状況)

博物館の来館者数については、館別、展覧会区分(平常、特別)別、観覧者区分別等の各種統計によって推移データを把握するとともに、アンケートの実施により来館者の傾向・満足度等について調査を行い、各館の展示企画・事業運営の参考としている。

展示の充実についての評価は来館者数を含めた様々な要素から判断されるものだが、平常展の魅力を高めつつ、再来館者の増加を図るため、展示館のリニューアル、特集陳列の実施など魅力ある陳列計画に努めるとともに、「博物館に初もうで」・「博物館でお花見を」やコンサートなど各種イベントを多数実施してきたところである。また、友の会・パスポート会員の確保により、再来館者の増加を図るとともに博物館の活動事業への理解が増進されることを目指すところである。

分析結果を事業へ反映した例として、東京国立博物館では、平成 18～20 年度に実施した平常展来館者意識調査及び非来館者調査の結果・分析を基に、情報発信・ブランド再定義等を中心とした各種方策の検討をしており、主な事項としてホームページの全面リニューアル(23 年 4 月)、イメージキャラクターの作成(23 年度)、Google Art Project への参加(24 年 4 月)、スマートフォンによるガイドアプリの提供(22～23 年度試行、24 年 4 月正式運用)などに反映している。

【(小項目)1−2−2】 教育活動の充実

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。

①学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

②教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

③大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p55−p62 2−(2)−① 学習機会の提供
p63−p66 2−(2)−②−1 ボランティア活動の支援
p67−p70 2−(2)−②−2 博物館支援者の増加
p71−p74 2−(2)−③ 大学との連携

・自己点検評価報告書 統計表
p57−p89 2−(2) 教育活動の充実

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	68	70	62	74	89	96
従事人員数(人)	51	52	53	52	54	51

※決算額は、決算報告書・教育普及事業費の決算額を計上している。
※従事人員数は東京国立博物館の学芸企画部博物館教育課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の目標参加者数を達成したか。

○ボランティアを支援したか。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ったか。

○大学との連携事業等を実施したか。

実績

主な実績

①学習機会の提供

・総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化の理解促進に寄与し、伝統文化への興味関心をより高めることができた。震災の影響による23年3月12日から3月28日の臨時開館に伴い、「博物館でお花見を」の開催は23年3月29日から4月17日となった。会期中「花見で一句」には161の投句があり、12名が入選。また、23年4月2日に予定されていた桜セミナーを中止した。(東博)

・昨年に引き続き工事に伴う講堂閉鎖のため、外部施設を借りて土曜講座・夏期講座を実施し、学習機会の提供を継続した。(京博)

・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2011 正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」と題して10月30日に実施し、4人のパネラーに基調講演をいただき討論を行った。179人の参加を得、満足度は81%であった。(奈良博)

・トピック展示「日本とタイ−ふたつの国の巧と美」では、久留米絣体験やタイ舞踊公演など、日タイ友好を目的としたテーマに相応しいワークショップを展開することができた。

・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸出を引き続き行い、85 件の貸出を行った。今年度から貸出範囲を明確に「全国」とし、それに伴い貸出期間も 2 週間に延長した。東京、京都など遠方からの貸出依頼が増加したほか、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町からの貸出依頼もあり、応えることができた。(九博)

【講演会、ギャラリートークの参加者数】指標:年度計画
東京国立博物館(7,830 人)

A	B	C	実績	定量的評価
7,830人以上	5,481人以上 7,830人未満	5,481人未満	12,664人	S

京都国立博物館(2,638 人)

A	B	C	実績	定量的評価
2,638人以上	1,847人以上 2,638人未満	1,847人未満	1,450人	C

奈良国立博物館(2,450 人)

A	B	C	実績	定量的評価
2,450人以上	1,715人以上 2,450人未満	1,715人未満	3,006人	A

九州国立博物館(2,030 人)

A	B	C	実績	定量的評価
2,030人以上	1,421人以上 2,030人未満	1,421人未満	7,833人	S

【講演会、ギャラリートークの参加者数】 (人)	過去の実績に関する経年データ 18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
東京国立博物館	11,035	11,361	12,332	12,546	13,319	12,664
京都国立博物館	4,980	4,489	3,413	3,002	2,313	1,450
奈良国立博物館	2,743	2,949	3,655	3,421	3,349	3,006
九州国立博物館	6,639	4,168	5,507	6,806	3,996	7,833
4館合計	25,397	22,967	24,907	25,775	22,977	24,953

(参考)キャンパスメンバーズ加入校数

【キャンパスメンバーズ加入校数】 (件)	過去の実績に関する経年データ 18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
東京国立博物館	16	22	29	35	35	37
京都国立博物館	15	21	29	30	29	30
奈良国立博物館	12	20	25	27	28	28
九州国立博物館	−	21	22	29	27	28
4館合	43	84	105	121	119	123

②−1 ボランティア活動の支援

・ボランティア向け研修の実施、自己学習の奨励をした。(4館)

・通常の自主企画グループの活動のほかに留学生の日・ボランティアデー・「博物館でお花見を」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーではボランティア活動 PR 隊を募集し、ボランティアの企画立案によるボランティア活動紹介を実施した。(東博)

・収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(京博)

・ボランティア制度を見直すため、検討委員会を立ち上げ、月1から2回の検討会を開催した。その結果、23年度の後半に「ボランティア室」を設置し、新制度でのボランティアを公募することとした。11月より新ボランティアの公募を始め、年明けに準備室を設置、採用者の決定、研修等を行い、24年度より活動開始を目指すこととした。(奈良博)

・「九州国立博物館ボランティア活動」の継続・発展を目的に第2期ボランティアの企画・実施による第3期ボランティアへの研修を積極的に実施した。(九博)

(参考)ボランティア数:

【ボランティア数】(人)	過去の実績に関する経年データ 18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
東京国立博物館	171	162	171	163	159	169

分析・評価

講演会、ギャラリートーク等の教育普及事業については、東日本大震災の影響や京都国立博物館の平常展示館建替工事中という状況であったにも関わらず、工夫を重ねて講座開講を継続しており、例年以上の活動を展開できたことは評価できる。

また、九州国立博物館では、学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸出が順調に伸び、特に被災地への貸出が行われたことは評価できる。

また、ボランティアの育成については、各館において研修や自己学習機会の提供、自主企画の支援などを行っており、博物館支援者の増加が図られている。特に、奈良国立博物館におけるボランティア室の設置は評価できる。

博物館の支援に関しては、賛助会員、パスポート加入者が継続的に増加傾向にあり、会員の拡充に努めていることが伺える。さらに、大学との連携事業についても、各館の特性に合わせて進められており、評価できる。

今後は、ipad コンテンツの利用など、魅力ある教育活動の充実に向けた創意工夫に期待したい。

京都国立博物館	23	23	30	35	40	64
奈良国立博物館	85	96	102	98	85	87
九州国立博物館	293	293	388	345	288	355
4 館合計	572	574	691	641	572	675

②-2 博物館支援者の増加

・「友の会」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。(4館)
・三菱商事株式会社と共催で「障がい者内覧会」を実施した。(東博)
・支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(4 回)・見学会(5 回)・会報(4 回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。また、地域・機関との連携事業に協力した。(京博)
・庭園を利用した「ジャングル大帝」野外上映会(計 2 回)を開催し、大盛況であった。また、展覧会チケット半券による入場であったため、展覧会の集客に努めた。(京博)
・観光関連業界の会合に出席し、新たな顧客層の開拓を行った。奈良の観光イベント「ライトアッププロムナード・なら2011」、「なら燈花会」、「ならファンタージア」、「音燈華 SPECIAL LIVE」、「陶燈茶夜」、「なら瑠璃絵」に対して積極的に協力した。(奈良博)
・支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。(九博)

(参考)賛助会等加入件数

【賛助会等加入件数】(件)	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	150	163	196	218	235	292
京都国立博物館	378	390	388	389	392	375
奈良国立博物館	35	45	49	56	64	65
4 館合計	563	598	633	663	691	732

(参考)友の会・パスポート加入者数

【友の会・パスポート加入者数】(人)		過去の実績に関する経年データ					23年度
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	友の会	1,346	1,341	1,913	2,085	1,412	1,802
	パスポート	18,705	16,035	20,405	21,598	13,733	17,672
	小計	20,051	17,376	22,318	23,683	15,145	19,474
京都国立博物館	友の会	3,784	3,224	2,932	2,612	2,468	2,667
奈良国立博物館	友の会	2,288	2,439	2,815	2,799	3,180	2,615
九州国立博物館	友の会	229	167	154	206	144	117
	パスポート	1,312	3,252	3,120	3,914	3,318	3,093
	小計	1,541	3,419	3,274	4,120	3,462	3,210
4 館合計		27,664	26,458	31,339	33,214	24,255	27,966

③大学との連携

・博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的として大学院生を対象にインターンシップを募集、8 大学 20 名の学生を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の 8 部署で 10 から 30 日の活動を行った。(東博)
・東京藝術大学の学生ボランティアを募集し、ギャラリートーク班 5 名、制作工程模型班 1 名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、総合文化展の解説を行った。制作工程模型班では館蔵の国宝「紅白芙蓉図」の制作工程模型を作成するための調査を行い、次年度の展示・教育普及事業のための準備を行った。(東博)
・京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、研究員 5 名が客員教授(3 名)、准教授(2 名)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通した専門的な教育を行った。また、京都橋大学との学

術協定に基づき、研究員 7 名が事前講習を行ったのち、学生 18 名がアンケートボランティアとして活動した。(京博)
・平成 23 年 12 月 24 日(土)・25 日(日)、なら 100 年会館及び奈良市教育センターを会場として、「世界遺産学習全国サミット in 奈良」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催した。講演会・分科会などに約 600 人が参加し、初めて実施された「子ども会議」後、地域の文化を守る決意を込めた「子ども宣言」が出された。(奈良博)
・博物館実習生の受け入れを実施し、15 大学 20 人(男 2 人、女 18 人)、計 10 日間受け入れた。(九博)

(参考)法人の自己評価

定量的な目標として掲げた講演会等参加者数は、東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館では目標に達した。京都国立博物館においては平常展示館講堂が建替工事のため、土曜講座・夏期講座の継続開催が危ぶまれたが、学習機会の継続的な提供をつづけるため、外部の施設を借りて実施したところ、開催回数は目標に達したものの、参加者数は目標に及ばなかった。教育普及事業については、各館ともこれまでの事業を継続的に実施し、児童・生徒のみならず大学生や一般も対象とした事業を実施し、学習の機会の提供を図っている。

ボランティアについては、各館において研修や自己学習の機会を提供するとともに、ボランティアにとっても充実した活動となるよう各館とも協力して事業を実施している。なかでも奈良国立博物館においては、ボランティア制度を見直す検討委員会を定期的に開催し、今年度新たに「ボランティア室」を設置するに至った。博物館支援者の増加については、賛助会や寄附金などは経済情勢に伴い厳しくなっている中、企業等への個別訪問による賛助会参加企業増加や、特別展への協力金獲得など、各館で企業等への積極的なアプローチに取り組んでおり、昨年以上の実績をあげている。

大学との連携については、東京国立博物館における東京藝術大学学生ボランティアや、京都国立博物館における京都橋大学との学術協定に基づくアンケートボランティア、奈良国立博物館における奈良教育大学等との共同事業「世界遺産学習全国サミット in 奈良」の開催、九州国立博物館における博物館実習生受け入れ等、各館とも近隣の大学等との連携事業を継続して実施した。インターンシップについては、東京国立博物館では 8 大学 20 名の学生を受け入れたが、奈良国立博物館・九州国立博物館では、募集に対し要望が無かったか、或いは受け入れに至らなかった。

【(小項目)1−2−3】 快適な観覧環境の提供

【評定】

A

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

①施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

②一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

H24	H25	H26	H27

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p75−p80 2−(3)−① 施設・設備等の充実
p63 2−(2)−②−1 ボランティア活動の支援
p81−p84 2−(3)−② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営
p85−p88 2−(3)−③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

・自己点検評価報告書 統計表
p90 2−(3) 快適な観覧環境の提供
p217 附属資料 平成23年度平常展・特別展アンケート結果

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	8	13	25	15	33	18
従事人員数(人)	76	90	85	88	85	85

※決算額は、平常展に要するチラシ・パンフレット等の作成にかかる決算額を計上している。
※従事人員数は東京国立博物館の総務部及び京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の各総務課の常勤事務職員の人数を計上している。その際、役員及び学芸系職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した観覧環境の提供を行ったか。 ○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行ったか。 ○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善したか。	**主な実績** ・多言語(6〜7カ国語)による案内パンフレットの製作・配布を行った。(4館) ・ベビーカーの貸出しを開始した。(東博) ・バリアフリー活動として、触知図・コミュニケーションボードの使用、ボランティアによる点字パンフレットの作成、手話通訳付きガイドツアーを実施した。(東博) ・施設のバリアフリー化のため、障がい者用トイレ3ヶ所に音声案内装置を設置した。(九博) ・「根付 高円宮コレクション」高円宮コレクション室における歴史的展示ケースへのLED照明器具の取付けを行った。(東博) ・混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。(奈良博) ・正倉院展の会期中に、託児所を開設し、多くの利用者があった。(奈良博) ・トピック展示「館蔵水墨画名品展」で、英語・中国語・韓国語を併記した図録を作成し、アジア圏の来館者に対応した。(九博) ・140周年記念グッズを開発した。(東博) ・レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。(九博) ・レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示することで、さらなる接客サービスの向上に努めた。(京博) **(参考)法人の自己評価** 施設のバリアフリー化は一定の水準に達しているが、我が国を代表する施設として多様な来館者に対応すべく検討・工夫を継続しており、東京国立博物館における視覚・聴覚障がい者対応、九州国立博物館における障がい者用トイレへの音声案内装置設置など、改善を重ねている。東京国立博物館では懸案であった表慶館のバリアフリー化(エレベーター、トイレの設置)について、24年度予算での実施に向けて準備を進めており、バリアフリー化対応への取組みがより一層着実に行われている。 東京国立博物館において11月にオープンした高円宮コレクション室は旧貴賓室を利用しており、また帝室博物館時代に使われていた展示ケースにて展示を行っているが、この歴史的展示ケースに最新の展示照明を取付け、伝統と品格を保ちつつ快適な観覧環境を実現している。また、混雑が予想される展覧会では、収容力に応じた会場配置や音声ガイド対象作品の選定など、あらかじめ対応を想定して計画を行っているが、想定を超える来館者数があった場合は、入場規制を行わざるを得ない。混雑時の入場待ち行列の対策としては、混雑情報のウェブ配信や最寄駅での掲出、休憩場所の増設、冬季の防寒対策、夏季の日傘貸出、テント設置、給水所の設置など、来館者の負担軽減のための可能な限りの工夫を各館とも行っている。 ミュージアムショップ及びレストランについては、新たなグッズの開発や、特別展ごとにその趣に合わせた新メニューを提供した他、レストラン利用者へのアンケート調査を実施するなど、更なる接客サービス改善に努めた。	高齢者、障害者、外国人等の利用者への配慮については、高齢者に対するバリアフリー化の施設改修、東京国立博物館における視覚障害者へのガイドツアーの試みや点字パンフレットの作成、聴覚障害者への手話通訳など、快適な観覧環境の整備が促進されたことは評価できる。 また、特別展における音声ガイドの設置、外国人に対する多言語化のサイン・展示解説、奈良国立博物館における託児所、東京国立博物館におけるベビーカーの貸出の取り組みなどについても評価できる。 レストラン・ショップでは、アンケート調査を踏まえ、展示に合わせたメニューやオリジナルグッズの開発など、利用者のサービス向上に努めた。 今後は、アンケート回収率を上げる工夫を行うとともに、利用者のニーズを踏まえた開館時間の弾力化など、より積極的な取り組みが望まれる。

【(小項目)1－2－4】　文化財情報の発信と広報の充実

【評定】
A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
①収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。
②美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。
③展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。
④広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。
⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

実績報告書等　参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p89-p92　2-(4)-①　デジタル化の推進
p93-p96　2-(4)-②　博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化
p97-p101　2-(4)-③　広報計画の策定と情報提供
p102-p106　2-(4)-④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動
p107-p110　2-(4)-⑤　ウェブサイトのアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る

・自己点検評価報告書　統計表
p91-p103　2-(4)　文化財情報の発信と広報の充実
p216　共通資料ｄ　ウェブサイトアクセス件数

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H2	H23
決算額①(百万円)	10	19	27	53	21	81
決算額②(百万円)	－	－	－	542	142	－
従事人員数(人)	63	65	67	64	65	64

※決算額①は、H18～H22はデジタルアーカイブ化にかかる撮影費・データ入力費の決算額を計上、H23はこれに広報経費を加えた決算額を計上している。
※決算額②は、文化芸術情報電子化推進費補助金にかかる決算額を計上している。
※従事人員数は、東京国立博物館の学芸企画部企画課、学芸企画部博物館情報課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の人数を計上している。

評価基準	実績	分析・評価
○収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成したか。また、公開データ件数を増加させたか。 ○情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させたか。 ○計画的な広報・情報提供を行ったか。 ○積極的な広報活動に努めたか。 ○ウェブサイトアクセス件数の向上を図ったか。	**主な実績** **①デジタル化の推進** ・国宝・重要文化財の高精細画像(e国宝)を継続して公開した。(4館) ・iOS アプリ「e 国宝」のバージョンアップを行い、iPad への正式対応に加え、「Twitter」の機能と連携したブックマークの共有機能を搭載し、自分の作成したブックマークの公開や他のユーザーが作成したブックマークの閲覧を可能にした。(24 年 3 月) (4館) ・既存フィルムはほぼ全てデジタル化済みであり、平成23年度新規フィルム撮影のほぼ全てにあたる1,468枚をデジタル化した。(東博) ・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。(京博) ・仏教美術資料研究センターのウェブサイトを開設し、また利用案内パンフレットをあらたに作成して、仏教美術情報の公開・普及を図った。(奈博) ・目標としていた1,000件を超える収蔵品写真等のデジタル化を実施した。(九博)	収蔵品に関するデジタル化については、目標どおり順調であり評価できる。 特に、「e国宝」の継続的なバージョンアップや、Youtube 等の新しいメディアに対応した情報発信を意欲的に行っていることは評価できる。 また、東京国立博物館では、既存フィルムのデジタル化がほぼ全て完了し、レファレンス機能の強化に関しても、目標を超えている点が評価される。 さらに、各館とも地域メディアとタイアップした広報活動に積極的に取り組んでおり、特に、東京国立博物館 140 周年記念の広報では、有名女優の起用、交通広告、新聞広告への展開など、積極的な広報活動に努めたことは、全国の博物館の広報の在り方を先導するものとして評価できる。

【収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数】指標：年度計画
東京国立博物館(3,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	1,468件 (ほぼすべて完了)	C(A)

京都国立博物館(2,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
2,000件以上	1,400件以上 2,000件未満	1,400件未満	2,165件	A

奈良国立博物館(3,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	5,297件	S

九州国立博物館(1,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
1,000件以上	700件以上 1,000件未満	700件未満	2,146件	S

【収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数】 (件)	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	4,472	124,996	139,000	775,300	8,639	1,468
京都国立博物館	(6,169)	(8,047)	(6,478)	(5,603)	(4,594)	2,165
奈良国立博物館	(3,830)	695	1,410	90,555	4,311	5,297
九州国立博物館	(2,898)	(3,295)	(3,963)	(3,574)	1,391	2,146

※(　)内は、計数方法が異なるため参考数

②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化
・収蔵品・出品作品等の新規撮影を行い、関連データを整備した。(4館)
・博物館の調査研究、展示等の業務を支援し一般利用者の利用に供するため、関連する図書及び関係資料を収集した。(東博)
・資料館への入退館について、従来は西門を経由していたが、利用者サービス向上の一環として 9 月より新たに正門からの来館者が資料館東口から資料館に入り、利用後再び有料ゾーンに戻る事が可能な経路を設けた。(東博)
・本年度から収蔵品写真の貸与形態をフィルムからデジタルデータに全面移行した。(京博)
・仏教美術資料研究センターの工事完了をうけて、新しい平面プランと利便性に配慮した、資料配置の全面的な見直しを行った。また閲覧スペース、研修室を拡大するなど、情報利用環境の向上に資するべく努力した。(奈良博)

【収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数】指標：年度計画
東京国立博物館(3,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	10,566件	S

京都国立博物館(3,000 件)

A	B	C	実績	定量的評価
3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	3,580件	A

奈良国立博物館（3,000 件）

A	B	C	実績	定量的評価
3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	6,103件	S

九州国立博物館（500 件）

A	B	C	実績	定量的評価
500件以上	2,100件以上 500件未満	2,100件未満	4,441件	S

【収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数】（件）	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	4,472	3,642	4,721	16,567	11,343	10,566
京都国立博物館	5,910	4,256	6,478	3,753	3,379	3,580
奈良国立博物館	8,406	3,240	6,457	5,818	11,684	6,103
九州国立博物館	(3,479)	(12,556)	(6,633)	(4,686)	1,393	4,441

※（　）内は、計数方法が異なるため参考数

③広報計画の策定と情報提供

・東京国立博物館 140 周年「ブンカのちからにありがとう」キャンペーンを実施した。併せて東洋館リニューアルオープンの告知を行った。また、女優中谷美紀氏を起用した宣伝ポスターを制作し、交通広告・新聞広告への展開で東京国立博物館の認知度アップを図った。当該広告は、第 79 回毎日広告デザイン賞部門賞を受賞した。（東博）
・年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。（京博）
・奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界の会合に出席し、広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。（奈良博）
・九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。（九博）
・九州新幹線全通によって近くなった南九州への知名度の浸透を図るため、CM放映・刊行物配布ラックを設置した。（九博）

④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

・23 年 4 月ウェブサイトの全面リニューアルを実施した。（東博）
・京都市内 4 館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。（京博）
・読売新聞紙上に、年間を通じて文化財の魅力を紹介する連載を行った(隔週)。特別展「誕生！中国文明」において、読売新聞紙上に文化財の解説を連載した(5 回)。特別展「天竺へ」において、朝日新聞紙上に文化財の解説を連載した(5 回)。「第 63 回正倉院展」において、読売新聞紙上に宝物紹介を連載した(5 回)。（奈良博）
・特別展「草原の王朝　契丹」、「細川家の至宝」では、ウェブサイトで研究員が展覧会の解説を行う動画を、YouTube で配信した。（九博）
・テレビ CM「きゅうはく行かなきゃ！」を YouTube でも配信した。（九博）

⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

・アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。（4館）
・アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。（4館）
・ウェブサイトにより、5 カ国語に対応した収蔵品デジタルアーカイブを公開した。（九博）

（参考）ウェブサイトアクセス件数（ユーザーセッション数）：

【ウェブサイトアクセス件数】	過去の実績に関する経年データ	23年度

（ユーザーセッション数）（件）	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	3,680,028	5,504,468	5,211,261	5,687,673	4,971,306	2,772,633
京都国立博物館	(757,812)	(733,885)	(1,409,634)	(848,486)	2,077,562	1,835,640
奈良国立博物館	(1,249,608)	(1402,834)	(1,230,774)	639,030	769,293	722,249
九州国立博物館	(7,118,540)	1,164,425	1,480,341	1,956,287	1,384,701	1,150,408

※（　）内は、計数方法が異なるため参考数

（参考）法人の自己評価

収蔵品等に関するデジタル化は、各館保管のフィルムをスキャンしデジタルデータ化する事業であり、順調に実施されている。各館ごとに目標を定めて実施しており、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館については目標値以上の実績があった。東京国立博物館については、30 万枚を超える保管フィルムのほぼすべてについてデジタル化が完了しているため、23 年度新規撮影予定のうちフィルム撮影予定分をデジタル化の目標値に設定していた。ところが撮影自体のデジタル撮影への移行が予定以上に早まった結果、そもそもデジタル化が必要な既存フィルムの数が少ない状況となり、実績が目標値の半数程度となった。従って、収蔵品等に関するデジタル化は実質的にほぼ達成されていることから、定量的評価欄に「C（A）」と記載している。

情報資料の収集については、各館とも収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備を行い、実績も目標値に達しており、順調である。またレファレンス機能の充実についても、東京国立博物館資料館における有料来館者向け導線の整備や、奈良国立博物館における仏教美術資料研究センターのウェブサイト開設など、積極的な取組みが行われている。

広報については、東京国立博物館 140 周年事業の一環として広報キャンペーンを実施し、女優中谷美紀氏を起用したポスターが毎日広告デザイン賞部門賞を受賞するなど、認知度が大きく向上した。九州国立博物館においてはテレビCMを制作・放映し、また動画投稿サイト YouTube でも配信するなど、多角的な広報を実践している。また、各館とも地元の地域団体とタイアップした広報活動を展開しており、積極的な取組みを行っている。

ウェブサイトについては、東京国立博物館にてウェブサイト全面リニューアルを実施し、動画による館の案内など、多数の新規コンテンツを公開したほか、各館で内容の充実及び積極的な情報提供に努めた。

ウェブサイトのアクセス件数は、全施設においてユーザーセッション数に統一した。iOS アプリ「e 国宝」は、22 年度に iPhone 用としてリリースしたものであるが、今回 iPad にも正式対応し、利用環境を広げた。「Twitter」の機能との連携はコメントを書き込むこともでき、アプリ利用の敷居を下げるものと期待する。なお、これらアプリからの「e 国宝」利用も、ウェブサイトアクセス件数に含まれる。

【(中項目)1－3】	3　我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与	【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【(小項目)1－3－1】	調査研究成果の発信	【評定】 A

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
　博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与するため、以下の事業を実施する。
(1)収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

H24	H25	H26	H27

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p111-p114　3-(1)　調査研究の成果の発信

・自己点検評価報告書　統計表
p176-　共通資料 c-③　学会、研究会等発表実績一覧
p191-　共通資料 c-④　シンポジウム開催実績一覧
p193-　共通資料 c-⑤　論文等発表実績一覧
p207-　共通資料 c-⑥　調査研究刊行物一覧

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	24	24	28	33	32	23
従事人数(人)	99	98	99	103	105	100

※決算額は、紀要等の調査研究にかかる印刷物作成の決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。

評価基準	実績	分析・評価
○各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表したか。また、各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行ったか。	**主な実績** ・研究誌『MUSEUM』631～636号を刊行した。(東博) ・『東京国立博物館紀要』47号を刊行した。(東博) ・研究紀要『学叢』第33号を刊行した。(京博) ・研究紀要『鹿園雑集』13号(24年3月)は24年度内の刊行に向けて現在準備中である。(奈良博) ・研究紀要『東風西声』第7号を刊行した。(九博) ・東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。(東博) **(参考)法人の自己評価** 収蔵品等に関する調査研究成果の発信として、各館の研究誌・研究紀要である	各館の研究に関する各種刊行物の発行により、量的・質的にも調査研究成果を広く公開・発信したことは評価できる。インターネットを用いた公開も行われているが、今後は、多言語化、一般向けの分かりやすい成果報告など、なお一層の工夫が望まれる。

	『MUSEUM』(東博)、『東京国立博物館紀要』(東博)、『学叢』(京博)、『東風西声』(九博)を刊行した。奈良国立博物館では『鹿園雑集』の年度内の刊行ができなかったが、展覧会等図録・学術雑誌等の各種刊行物、研究会・講座等で研究成果を公表した。インターネットにおける研究成果の公開についても、東京国立博物館情報アーカイブの継続的な運用など、積極的な取組みが行われている。	

【(小項目)1−3−2】 海外研究者の招聘

【評定】 S

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(2)文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また、職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

H24	H25	H26	H27

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書 個別表
p115−p118 3−(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施

・自己点検評価報告書 統計表
p148− 共通資料 c−① 研究交流実績一覧

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	11	9	5	3	4	5
従事人員数(人)	53	56	58	56	56	56

※決算額は、国際シンポジウム開催に要するディスプレイ・旅費・滞在費等の決算額を計上している。
※従事人員数は、東京国立博物館の学芸企画部企画課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤学芸職員の人数を計上している。

評価基準

○国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施したか。また、職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣したか。

実績

主な実績
・特別展「故宮博物院200選」を記念して、国際シンポジウム「『清明上河図』の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの『清明上河図』」を開催し、国内外の研究者が活発な意見交換を行った。(東博)
・国際シンポジウム「中国近代絵画の形成と日本」(24 年 2 月 11 日)を開催した。また、北京、上海から講師 2 名を招いて、土曜講座を開講した(24 年 1 月 21 日、24 年 2 月 25 日)(京博)
・朝鮮半島の古代国家である百済と日本について考える国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。(九博)
・海外研究者の招聘・受入を延べ 78 人行った。また、研究職員の海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議に延べ 149 人派遣した。(4 館)

【海外研究者招聘】指標:年度計画
東京国立博物館(のべ 6 人)

A	B	C	実績	定量的評価
6人以上	5人以上6人未満	5人未満	16人	S

京都国立博物館(のべ5人)

A	B	C	実績	定量的評価
5人以上	4人以上5人未満	4人未満	21人	S

奈良国立博物館(のべ6人)

A	B	C	実績	定量的評価
6人以上	5人以上6人未満	5人未満	20人	S

分析・評価

企画展に関連した国際シンポジウムの開催、海外研究者の招聘・受入、研究職員の海外派遣など、積極的な国際交流に努めていることは評価できる。

特に、外国人研究者の招聘、四館研究者の海外派遣を外部資金によって実現したことは高く評価される。

今後も、特に東アジアとの積極的な交流の持続が望まれる。

九州国立博物館(のべ3人)

A	B	C	実績	定量的評価
3人以上	−	3人未満	21人	S

【海外研究者招聘】	過去の実績に関する経年データ 18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
東京国立博物館	9 人	10 人	15 人	26 人	15 人	16 人
京都国立博物館	9 人	7 人	9 人	29 人	7 人	21 人
奈良国立博物館	10 人	9 人	9 人	29 人	9 人	20 人
九州国立博物館	17 人	38 人	18 人	37 人	9 人	21 人
4 館合計	45 人	64 人	51 人	121 人	40 人	78 人

【研究員派遣】指標:年度計画
東京国立博物館(のべ6人)

A	B	C	実績	定量的評価
6人以上	5人以上6人未満	5人未満	49人	S

京都国立博物館(のべ6人)

A	B	C	実績	定量的評価
6人以上	5人以上6人未満	5人未満	25人	S

奈良国立博物館(のべ6人)

A	B	C	実績	定量的評価
6人以上	5人以上6人未満	5人未満	19人	S

九州国立博物館(のべ4人)

A	B	C	実績	定量的評価
4人以上	3人以上4人未満	3人未満	56人	S

【研究員派遣】	過去の実績に関する経年データ 18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
東京国立博物館	14 人	22 人	25 人	16 人	54 人	49 人
京都国立博物館	15 人	21 人	18 人	13 人	27 人	25 人
奈良国立博物館	16 人	6 人	6 人	30 人	14 人	19 人
九州国立博物館	32 人	44 人	35 人	46 人	77 人	56 人
4 館合計	77 人	93 人	84 人	105 人	172 人	149 人

(参考)法人の自己評価
海外からの研究者招聘は78名、海外への派遣は149人と積極的に国際交流を進め、博物館に新たな知見を広めることができた。目標値と実績値の乖離については、海外研究者招聘、研究員派遣ともに、年度当初に決定している国際交流費等の予算を基に目標値を設定しているが、その後、海外交流展経費や外部資金等による実績をあげることが出来ていることによる。
また、今年度は各館で3件の国際シンポジウムを実施しており、他国研究者との研究交流を推進している。

S 評定の根拠(A 評定との違い)

【定量的根拠】

各館ともに目標値を大きく上回る実績を上げており、全体としても、前中期目標期間の平均を大きく上回る実績を上げている。海外研究者招聘については、目標値の倍から7倍、前中期目標期間の平均(64 人)を 14 人上回る 78 人、海外派遣については、目標値の3倍から14倍、前中期目標期間の平均(106 人)を 43 人上回る 149 人という極めて高い実績を上げていることから、S 評価としている。

【定性的根拠】

外部資金の積極的な導入により、当初予定していなかった財源を有効活用して展示事業の共同準備作業や国際シンポジウムを実施するなど、アジア諸国の博物館研究者を中心とした国際文化交流をより一層促進した。

海外研究者の招聘では、「北京故宮博物院200選(東京国立博物館)」、「中国近代絵画と日本(京都国立博物館)」、「誕生！中国文明(奈良国立博物館)」など、海外研究者と共同で展覧会の準備等を実施することにより、通常の国際交流展以上に質の高い展示を構成し、お互いの文化財の保存管理の考え方等についてより一層理解を深めた。また、東京国立博物館で開催された国際シンポジウム「『清明上河図』の魅力に迫る」では、中国の国宝と称される「清明上河図」に関する活発な意見交換によって学術交流を深めるなど、多くのシンポジウム・研究集会等を通じて、今後の共同調査・展覧会開催に資する意義深い情報交換等がなされた。

海外派遣では、特に、中国(北京)で開催されたアジア国立博物館協会理事会・定期大会において、今後のアジア諸国との国際交流を推進する上で極めて有意義な、参加国間の展覧会、人的交流、文化財保存修復、社会教育などの交流・協力について合意がなされた。

【(小項目)1－3－3】　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

(3)保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

【評定】

A

H24	H25	H26	H27

実績報告書等　参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p119-p122　3-(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額百万円)	－	－	－	－	－	－
従事人員数(人)	49	50	51	50	50	48

※決算額は、研修テキストなどのコピー機を利用しての作成により外注額が少額のため、個別に計上できない。
※従事人員数は4国立博物館の常勤保存修復担当職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施したか。	**主な実績** ・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(平成 23 年 9 月 1 日～9 月 11 日の 10 日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。受講生は全国から 30 名が参加した。(東博) ・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(京博) ・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計6回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。(奈良博) ・保存修理技術者、文化財保存業務従事者、文化財保護行政担当者、博物館美術館等関係者を対象としたセミナーを開催した。(九博) **(参考)法人の自己評価** 昨年に引き続き東京国立博物館にて特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)主催の専門家養成実践セミナーを共催として開催し、京都国立博物館では特別展ごとに修理技術者に対する定例研修会を実施、奈良国立博物館、九州国立博物館でも博物館等関係者や修理技術関係者等対象の研修会・セミナー等を開催するなど、4館とも保存科学・修理技術の専門家を対象とした研修プログラムを実施し、文化財を将来にわたって保存していくための人材育成に努めている。	各館において、保存科学・修理技術の専門家を対象とした研修会やセミナーを開催し、全国の修理技術者を指導することにより、人材育成に努めており、ナショナルセンターとしての役割が十分果たされていることは評価できる。 なお、九州国立博物館において一般向けの保存修理講習会が実施されたことは、文化財保護に対する国民の理解促進のため重要な取り組みと評価する。

【(小項目)1－3－4】 **収蔵品貸与の推進**

【評定】 A

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(4)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

H24	H25	H26	H27

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書 個別表
p123-p126 3-(4) 収蔵品の貸与

・自己点検評価報告書 統計表
p105-p106 3-(4) 収蔵品の貸与

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	9	13	11	14	14	11
従事人員数(人)	99	98	99	103	105	100

※決算額は、考古相互貸借事業にかかる輸送費・資料保存箱作成費等の決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施したか。

実績

主な実績
・国内外の博物館等へ積極的に貸与を行った。(4館)
・長野県立歴史館、館山市立博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。(東博)
・ウェブページで「貸出作品リスト」の公開を行った。(京博)
・浜松市博物館との間で相互貸借事業を実施した。(奈良博)
・海外機関への貸与については、大韓民国三星美術館への出品要請に協力し、寄託品を貸与した。(九博)

(参考)文化財の貸与件数

【文化財の貸与件数】(件)	過去の実績に関する経年データ					23年
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	1,471	1,302	1,125	1,104	1,315	905
京都国立博物館	233	171	246	428	297	429
奈良国立博物館	172	137	163	108	159	118
九州国立博物館	173	104	106	89	165	119
4館合計	2,049	1,714	1,640	1,729	1,936	1,571

(参考)貸与先件数

【貸与先件数】(館)	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
東京国立博物館	153	149	135	124	150	129
京都国立博物館	72	60	45	68	74	74
奈良国立博物館	39	37	47	34	43	37

分析・評価

東日本大震災の影響により、全国的に博物館等の展覧会中止や閉館が相次いでいる中、作品の保存状態に配慮しつつ、国内外の博物館に対して積極的に貸借を行い、文化振興に努めたことは評価できる。

今後も、諸機関との積極的な貸借による交流が望まれる。

九州国立博物館	24	37	44	23	34	26
4館合計	288	283	271	249	301	266

(参考)法人の自己評価
所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。4館合計の貸与件数は1,571件であり、22年度比は365件減(約19%減)であった。貸与先件数も22年度比は35館減(約12%減)であり、それぞれ減少した。これは、東日本大震災直後、全国的に展覧会等の自粛の動きがあり、開催された展覧会数自体が減少したことによると考えられる。
なお、京都国立博物館においてウェブページでの京都国立博物館収蔵品の「貸出作品リスト」を公開している(寄託作品や個人名は伏せる)。このような情報の公開は、日本の博物館ではきわめて画期的なものである。

【(小項目)1－3－5】　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

(5)公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【評定】

A

H24	H25	H26	H27

実績報告書等　参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p127-p130　3-(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

・自己点検評価報告書　統計表
p107-p117　3-(5)　公私立博物館等に対する援助・助言

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	－	－	－	－	－	－
従事人員数人)	99	98	99	103	105	100

※決算額は、公私立博物館・美術館等に対する援助・助言に係る外注額が少額なため、個別に計上できない。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○公私立博物館等に対する援助・助言を行ったか。	**主な実績** ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。(4館) ・新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。(東博) ・聖徳太子1390年御遠忌記念「法隆寺展」(主催:法隆寺・日本経済新聞社、会場:日本橋高島屋及びなんば高島屋)に学術協力を行い、開催(東京会場:24年3月3日～20日、大阪会場:同3月29日～4月16日)に際して出陳品の選定と調査・撮影・点検・輸送・展示、会場構成に対する助言、展覧会図録の編集・執筆等を行った。(奈良博) ※特に今年度は、東日本大震災の文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)を行った(東博55件、京博5件、奈良博6件、九博8件)。 (参考)公私立博物館等に対する援助・助言件数 【公私立博物館等に対する援助・助言件数】(件)　過去の実績に関する経年データ　23年度 18年度 / 19年度 / 20年度 / 21年度 / 22年度 東京国立博物館　56 / 124 / 134 / 139 / 84　126 京都国立博物館　28 / 81 / 114 / 114 / 123　91 奈良国立博物館　7 / 5 / 5 / 25 / 35　98 九州国立博物館　57 / 38 / 47 / 39 / 77　97 4館合計　148 / 248 / 300 / 317 / 319　412 **(参考)法人の自己評価** 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言件数については、対外的要因の影響が大きく目標値設定になじまないため、今中期計画から目標値を設定していないが、各館とも我が国の博物館の中核としてふさわしい内容・件数の援助・助言を行っている。特に今年度は、東日本大震災により被災した館に対する文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)が、東博 55 件、京博 5 件、奈良博 6 件、九博 8 件(いずれも上記実績の内数)あり、全体の件数としても前年度比 93 件増の 412 件となった。	公私立博物館や美術館の展覧会や運営に対して、援助・助言を行い、我が国における博物館の中核として、博物館活動全体の活性化に寄与していると評価できる。 特に、東日本大震災によって被災した文化財等の救援活動では、文化財レスキュー事業の中核的役割を果たすことにより、ナショナルセンターとしての指導力を発揮し、全国の博物館等関係者のネットワーク作りの促進に寄与した。

【(中項目)1－4】	4 文化財に関する調査及び研究の推進	【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【(小項目)1－4－1】 調査研究の目的・内容の適切性／調査研究の実施状況／調査研究の成果の状況

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。

(1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めた課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

(2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

(3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

(4)高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

(5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
- p131-p176 4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進
- p177-p184 4-(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進
- p185-p204 4-(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進
- p205-p212 4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施
- p213-p388 4-(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

・自己点検評価報告書 統計表
- p171- 共通資料 c-② 調査研究テーマ一覧
- p176- 共通資料 c-③ 学会、研究会等発表実績一覧
- p191- 共通資料 c-④ シンポジウム開催実績一覧
- p193- 共通資料 c-⑤ 論文等発表実績一覧
- p207- 共通資料 c-⑥ 調査研究刊行物一覧
- p210- 共通資料 c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究
- p213- 共通資料 c-⑧ 客員研究員一覧

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額百万円)	1,491	1,261	1,448	1,473	1,633	1,440
従事人員数(人)	194	187	19	191	197	188

※決算額は、決算報告書・調査研究事業に要した決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館及び2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。

評価基準	実績	分析・評価
○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。	**1. 調査研究の目的、内容の適切性** ・中期計画に示した課題を達成するために、毎年度ごとに研究目的・テーマを設定 (1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 目的：国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 主なテーマ：・文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究 ・我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究 ・無形文化財の保存・活用に関する調査研究 ・平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等 ・飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 ・東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究 ・アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力 ・文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究 ・遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集 (2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 目的：文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 主なテーマ：・文化財デジタル画像形成に関する調査研究 ・文化財の測量・探査等に関する研究 ・年輪年代学研究 ・動植物遺存体による環境考古学的研究 (3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 目的：最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 主なテーマ：・文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究 ・周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 ・文化財の災害対策及び被災文化財の救援と保存修復手法に関する研究 ・伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 ・在外日本古美術品保存修復協力事業 ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究 (4)国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施 目的：高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。	幅広い課題や文化財保護政策のニーズに沿った研究目的、研究テーマを設定しており、文化財に関わる体系的な研究・調査等に関し、常に指導的な役割を果たしていると評価できる。 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業では、現代の保存科学技術を結集させた調査研究が実施されている。 また、文化財デジタル画像形成に関する調査研究や年輪年代学研究、環境考古学研究など、新しい調査手法の開発が継続的に進められている。 さらに、「紙の保存と修復」など、我が国ならではのテーマによる国際研修を企画するなど、国際的にも貢献している。研究成果は、学術論文、学会等の発表など、昨年度の実績を上回る実績がみられる。 今後とも充実した成果が期待される。

主なテーマ	●高松塚古墳壁画 ・壁画の修理及び修理環境の保全並びに壁画の劣化原因及び劣化防止対策措置などの調査・研究を実施 ・壁画の保存修復（劣化原因）に関する材料調査、基礎実験等を実施 ●キトラ古墳壁画 ・取り外した漆喰片についての経過観察及び保存のための強化処置を実施 ・取り外し作業終了を受け、キトラ古墳石室内の考古学的調査を実施 ・壁画及び古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を実施

(5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

目的	有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進める
主なテーマ	①収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究 ・館蔵品、寄託品等の調査研究（4館） ・特別展、共催展等の事前調査（4館） ・特別調査「書跡」、「工芸」、「彫刻」（東博） ・X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（九博） ②アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究 ・中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究（東博・奈良博・九博） ③京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 ・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究（京博） ④仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 ・鎌倉仏教とその造形に関する調査研究（京博） ・南都諸社寺等における文化財調査（奈良博） ⑤アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 ・日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究（九博） ⑥有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 ・文化財の保存・修復・環境保存に関する調査研究（4館） ・博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（九博） ⑦文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 ・文化財情報に関する調査研究（4館） ・博物館環境デザインに関する調査研究（東博） ・九博に関連する絵本の次シリーズの企画に関する調査研究（九博）

（参考）法人の自己評価

中期目標・中期計画を達成するための適切な計画を立てることができたと考える。

○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。

2. 調査研究の実施状況

（1）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

		調査研究の名称	施設名
①	ア	**文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究**	東京文化財研究所
		語彙・固有名詞からの記事検索、ならびに、筆名から実名を検索できる明治期美術雑誌『みづゑ』創刊号から 10 号までの Web 上での試行版公開を目指した。	
	イ	**文化財の資料学的研究**	東京文化財研究所
		①調査：横山大観《山路》、京都国立近代美術館本の調査、永青文庫本の調査撮影。菱田春草《菊慈童》（飯田市美術博物館蔵）の調査。 ②美術史研究のためのコンテンツ形成：古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。今泉雄作『記事珠』の翻刻・訳注。古美術文献目録の作成。	

		③研究交流促進のための研究会の開催：メラニー・トレーデ氏講演会の開催。 ④研究成果報告書の作成：『美術研究作品資料』の編集。	
	ウ	**近現代美術に関する交流史的研究**	東京文化財研究所
		東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として、未公刊資料である黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成、矢代幸雄筆ベレンソン宛書簡の翻刻を進めた。また、黒田清輝関連資料のウェブ上での公開促進のため、当所所蔵の白馬会展目録等のデジタル画像作成を行った。東アジア美術交流の調査研究では、日本で学び台活躍した陳澄波の作品調査を行った。我が国代美術の動向に関する基礎資料として笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。	
	エ	**美術の表現・技法・材料に関する多角的研究**	東京文化財研究所
		本研究は美術作品が基盤としている表現・料・技法等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は絵画・彫刻を中心に作品調査を進めるとともに、作画技法を記載した江戸時代の未紹介板本を調査した。また、ホームページ上で公開している奈良時代史料にわれた彩色語彙についてのデータベースをした。	
②		**近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究**	奈良文化財研究所
		明日香村大字八釣が所蔵する明神講関係資料に関する調査成果を公表した。これは藤原鎌足像を礼拝する儀礼の関係資料であり、多武峯の膝下の地である明日香に、鎌足信仰が古くから在にまで存続していることを明確できた。また、春日座大工の家である木奥家の歴史資料を調査・公表した。この調査によって春日社造替が、その仕様を記した帳面に基づいて、旧例にのっとりながら、またその時々の判断もつつ、社殿を造営していることなどが明瞭った。	
③		**我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究**	奈良文化財研究所
		文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像のデジタルデータ化と目録の出版により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査を行った。 ・兵庫県近代和風建築総合調査（受託） ・比叡山延暦寺建造物調査（受託） ・旧高梁尋常高等小学校本館建造物調（受託）	
④	1	**無形文化財の保存・活用に関する調査研究**	東京文化財研究所
		現在伝承されている狂言歌謡や謡本、美保神社所蔵楽器、最初期の SP である出張録音盤の中でもほとんど調査がなされていないフランス・パテー盤、文化財保護委員会及び文化庁が行った工芸技術記録について調査研究を行い、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をしつつ伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。	
	2	**無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究**	東京文化財研究所
		民俗技術の伝承実民俗芸能の伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』などに報告した。また無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議し、その成果を報告書にまとめ、関係者、関係機関等に配布した。さらに地方治体で作成された無形文化遺産に関する記録の所在情報について、確認作業を行い、データ化を了した。	
	3	**無形文化遺産分野の国際研究交流事業**	東京文化財研究所
		韓国国立文化財研究所無形文化遺究室との交流事業において、平成 22 年度の交流成果に関する合同発表会を実施した。東南アジア国を中心として、無形文化遺産保護に関する情報収集を実施した。その他、関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し無形文化遺産分野における国際的情報収集を行った。	
⑤	ア、イ、ウ	**我が国の記念物に関する調査・研究**	奈良文化財研究所
		遺跡等における遺構露出展示について、個別事例の情報収集を行い、データベース構築の作業を進めるとともに、露出展示遺構の保存管理に関するマニュアルの検討を行った。また、過年度の成果について、『地域における遺跡の総合的マネジメント』[平成 22 年度遺跡整備・活用研究集会（第 5 回）報告書]を刊行・配布するなど、その普及等を行った。	
	エ、オ	**我が国の記念物に関する調査・研究**	奈良文化財研究所
		鎌倉時代の庭園・建築・文献等の研究に取り組んでいる研究者とともに「庭園の歴史に関する研究会」	

を開催し、その成果を報告書として取りまとめた。日本庭園に関する国際的な情報発信検討については、その一環として『Japanese Garden Dictionary』の校訂を進めた。また、米国・コロンビア大学において、日本の不動産文化財に関わる講演 2 件を行った。

⑥ ア **平城宮跡東院地区（第481）の発掘調査** 奈良文化財研究所

平城宮跡東院地区の西北部にあたる調査区で、掘立柱建物跡、掘立柱塀、溝等の遺構を多数検出した。おもな遺構としては、調査区西部を東西に流れる石組溝、調査区全体を整然と区画する掘立柱塀がある。これらは周辺の調査成果も勘案すれば 6 期以上に区分でき、区画の大規模な改変があること、奈良時代末期には調査区の北半と南半で建物群の性格が異なること、出土遺物から見て重要な建物群が存在すると想定されること、などが明らかとなった。

・興福寺北円堂門跡・回廊跡の発掘調査（受託）
・薬師寺収蔵庫建設予定地の発掘調査（受託）

ア **古代官衙、集落遺跡等に関する究集の実施、報告書の刊行** 奈良文化財研究所

第 15 回古代官衙・研究集落研究集会を開催（12/9･10）した。テーマは「四面廂建物を考える」である。事例紹介のほか、建築学的視点からの検討、文献資料からの分析、事例を総合しての問題提起などが報告され、これらを踏まえての活発な討論が行われた。

昨年度実施した研究集会の報告書を『奈良文化財研究所研究報告第 6 冊 官衙・集落と鉄』として刊行した。

ア **藤原宮跡朝堂院地区（第169次）の発掘調査** 奈良文化財研究所

朝堂院朝庭の発掘調査を実施し、朝庭の礫敷や排水のための暗渠や溝を検出し、朝庭における整備状況を確認した。また、下層調査では、藤原宮造営期の遺構として運河、藤原宮造営に先行して設置された朱雀大路とそれにそって並ぶ柱穴列及び掘立柱建物 6 棟を検出した。これにより、藤原宮の造営過程をこれまで以上に詳細に復元する手がかりが得られた。

ア **甘樫丘東麓遺跡（第171次）の発掘調査** 奈良文化財研究所

丘陵裾部において柱穴列を検出した。谷部では斜面を切り土・盛土により平坦面を造成しており、平坦面上にて石敷・柱穴・溝及び被熱により赤色硬化した部分を検出した。7 世紀前半段階における、谷部の土地利用形態を明らかにした。

イ **平城京跡出土遺・遺構の調査研究等** 奈良文化財研究所

本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面作成・写真撮影などの基礎作業を行い、平成 24 年刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2012』の報告を準備した。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物についての調査を継続して実施した。また、『地下の正倉院展―コトバと木簡』を開催した。

イ **飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研等** 奈良文化財研究所

本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類などの整理、分析研究及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。

ウ **東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究** 奈良文化財研究所

飛鳥地域の壁画古墳の研究としては、昨年度の天文図の調査に基づき、春期特別展を開催した。また、新たに、キトラ、高松塚古墳出土大刀の類例及び同時代資料の集成を行った。同時に、武人像を中心とした壁画資料の収集を行い、7～8 世紀における武器の着装について研究を進めた。

東アジアにおける工芸美術史・考古学研究のうち、鋳造関連遺物の調査は、橿原市出土品の調査と、宮内庁及び奈文研埋文センターと共同して、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の明日香村古宮遺跡出土の金銅製四鎧壺の調査を実施した。また、これまでの鋳造関係遺物の調査成果をもとに夏期企画展を実施した。

山田寺出土部材については、経年的に計測調査を行っており、本これを継続した。その結果、大きな変化がないことを確認した。

エ **アジアにおける古代城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力** 奈良文化財研究所

A：漢魏洛陽城は宮城壁及びその周辺を対象として共同調査を実施。
B：共同研究の成果として『遼寧省朝陽地区隋唐墓の整理と研究』の執筆と編集。金嶺寺遺跡出土遺物調査の実施。
C：河南省及び河北省で生産した唐三彩の調査研究を実施。唐三彩に関する学会で発表。

D：日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施。
E：カザフ国立大学所蔵資料の調査及び大学研究者との研究交流を実施。
F：霊井遺跡出土品の調査研究を実施。中国・韓国より研究者 4 名を招聘。講演 1 回、研究報告を 2 回実施。

⑦ **文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究** 奈良文化財研究所

文化的景観に関する調査研究の一環として、アメリカ合衆国における文化的景観保護の状況を視察し、研究交流の道筋を立てた。国内に関しては、現地調査や視察、協議を通じて、文化的景観の保存計画、整備・活用事業の基本的な考え方を整理し、論文等を通じて成果を報告した。また、文化的景観学研究会を、準備会を含めて 3 回開催し、その成果を踏まえつつ、文化的景観の制度発足以来の保護と学術の動向の中間総括を目的として、文化的景観研究集会（第 4 回）を開催した。

・京都岡崎の文化的景観に関する保存計画策定調査（受託）
・相川地区文化的景観　景観変遷・景観構造調査（受託）
・平成 23 年度長良川流域の文化的景観における伝統的家屋等総合調査業務委託（受託）
・京都岡崎の文化的景観に関する普及啓発事業（受託）

⑧ ア **遺跡データベースの作成と公開** 奈良文化財研究所

官衙関係遺跡の建物データについては、特に古代における四面廂建物の遺構を重点的に収集し、居宅や集落まで範囲を広げて全国的に網羅した『四面廂建物資料集成』を作成した。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から近畿地方まで公開した。さらに、井戸のデータベースの対象を古代の遺跡全般に拡充して、資料収集を行った。

・「発掘調査のてびき」作成に係る業務（受託）

イ **出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査** 奈良文化財研究所

1）ガラス製品の標準試料のスペクトルを集積するとともに、ガラス製遺物のスペクトルを取得した。
2）金属製品の構造調査としてXCT撮影することにより、象嵌構造を明らかにした。
3）木造建造物の塗装の材質分析を行い、漆塗装、油系塗装及び膠彩色を明らかにした。
4）鉄製遺物の埋蔵環境の室内再現実験を実施し、腐食のメカニズムを解明する取組みを始めた。
5）「被災文化財のレスキュー―保存科学の果たすべき役割と課題―」をテーマとした研究集会を開催した。

・出雲大社建築金物の材質分析（受託）
・田熊石畑遺跡武器形青銅器の保存処理及び保台製（受託）

ウ **遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集** 奈良文化財研究所

土質遺構の露出展示を実施予定の福島市宮畑遺跡を調査フィールドとして、遺構の保護施設（覆屋）内の室空気及び遺構土壌における熱水分同時移動解析を行い、換気や空調を利用した遺構の安定化法について検討した。岡山市千足古墳では墳丘における熱水分同時移動解析を行い、石室湛水のメカニズムについて考察すると同時に、盗掘以前の墳丘における熱水分同時移動解析を実施して、盗掘以前の石室における湛水発生の有無や、湛水によって生じた石障の劣化速度について検討を行った。

・史跡ガランドヤ古墳1号墳における熱・水分同時移動解析に関する研究（受託）

（参考）法人の自己評価

22年度同様23年度においても、無形文化遺産から遺跡の発掘まで幅広い分野についての継続的な調査・研究を通して文化財に関する基礎的な情報を蓄積することができている。基礎的・体系的な調査・研究は成果がすぐに出るものではなく、長期的な視野に立つことが欠かせないので、報告書の刊行や研究会・学会での発表を通じて、調査研究の成果を国民に還元していけるよう努力している。今後もこれらの調査・研究を通じて、我が国における文化財に関する調査・研究の底上げを図っていきたい。

（2）文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

	調査研究の名称	施設名
①	**文化財デジタル画像形成に関する調査研究**	東京文化財研究所
	脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用	

に供すべく、サントリー美術館所蔵の「泰西王候騎馬図屏風」、東京国立博物館所蔵の「虚空蔵菩薩像」、京都・佛光寺蔵「善信聖人親鸞伝絵」の調査・撮影を行うとともに、他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」の調査、奈良国立博物館との共同調査研究として「信貴山縁起絵巻」の調査を行い、台湾・故宮博物院との共同研究の成果として『李唐萬壑松風図光学検測報告』を刊行した。

②	**文化財の測量・探査等に関する研究**	奈良文化財研究所

文化財の計測・測量及び探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学や地方公共団体と連携して実践を行った。計測・測量分野では、三次元レーザー測量と写真測量の技術的検討を進め、遺跡・遺物の図化法や、比較的安価な機器の導入と普及に関する研究を実施した。探査分野では、GPR及びEM探査、磁気探査、電気探査の走査方法改善と新たな機器の試作、GPSによる位置精度向上実験を行い、多様な条件下での遺構の確認に成功した。

・天良七堂遺跡の総合的探査（受託）
・真福寺貝塚地下レーダー探査業務（受託）
・周防国庁における総合的探査（受託）
・三軒屋遺跡総合的探査（受託）
・神野向遺跡レーダー探査業務委託（受託）
・平成 23 年度大宰府史跡・蔵司地区における総合的探査業務（受託）

③	**年輪年代学研究**	奈良文化財研究所

2 県下 2 遺跡の出土木製遺物、3 県下 3 棟の木造建造物、7 府県下 25 件の木造美術工芸品ついて年輪年代測定調査を実施した。このうち、神像彫刻を中心とした 16 件の美術工芸品に対して、プロジェクト研究者らが開発したマイクロフォーカスX線CT装置による年輪年代測定調査を実施している。これらの調査・研究成果の一部を論文等 9 件、学会発表等 11 件として公表した。

・永保寺開堂の年輪年代補足調査および観音堂の年輪年代調査（受託）

④	**動植物遺存体による環境考古学的研究**	奈良文化財研究所

幅広い時代の動植物遺存体の分析を進めその研究成果を内外の学会や研究会において発表した。また、学会、大学、博物館等で発表・講演を行い、環境考古学に関わる展示にも協力するなどの社会貢献を行った。研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製・管理するとともに、広く活用されるように魚類の骨格標本目録を刊行した。

・東名遺跡出土動物遺存体調査（受託）
・平成 23 年度小竹貝塚出土骨角器同定調査業務（受託）

（参考）法人の自己評価

文化財の調査研究において、新たな手法が開発されることによって、これまで知り得なかったことが明らかになることは少なくない。23 年度も文化財に関する新たな手法について継続的に研究を実施している。文化財の測量・探査等に関する研究においては、国内外各地からの依頼や問い合わせも急増しており、とくに探査分野は多チャンネル計測の検討など、今後いっそうの進展が期待できる。

その他にも高精細デジタル画像の活用研究や、木造文化財の年輪年代学研究、出土した動物依存体の分析による環境考古学的研究など、順調に進めている。今後も調査・研究を継続的に実施し、新たな調査手法の開発を通して、調査研究に新たな知見が得られるように努めたい。

（3）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

	調査研究の名称	施設名
①	**文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究**	東京文化財研究所

被災文化財の対応については、2011 年 5 月 10 日に東京文化財研究所において研究会を開催し、紙資料をはじめとするさまざまな材質の被災文化財の初期対応について専門家からの発表を行うとともに、配布メモにまとめ、その内容を速やかにインターネットにて公開した。また、カビなど微生物による被害の調査や対策、燻蒸処置上の注意について調査研究を行い、研究発表や論文にまとめた。

②	**文化財の保存環境の研究**	東京文化財研究所

美術館、博物館、蔵、歴史的建造物等の文化財展示収蔵施設の環境データを実測解析し、絶対温度から空間内の水分分布や隣接空間同士の水分移動を評価する解析手法を確立した。また、展示ケース内装材料（木材、クロス、コーキングなど）の材料を収集し、内装材料からの放散ガス量を比較検討するための試験法試案を作成した。これら計測技術を生かし、国指定文化財の公開のための館内環境調査（温湿度・照明・空気清浄）に協力した。

③	ア	**文化財の材質及び劣化調査法に関する研究**	東京文化財研究所

小型可搬型機器の開発・改良に関する基礎的検討として、ハンディ蛍光X線分析法による無機化合物の分析感度向上及び微小領域の可視反射分光分析法の導入・分析条件検討を行った。また、実資料への応用研究として、博物館・美術館内での日本絵画や木彫像の彩色材料調査を実施し、その調査結果の公表を行った。

・GEMによる超高感度・大面積ガンマ線イメージセンサー（受託）

	イ	**ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等**	奈良文化財研究所

1）ミリ波イメージング装置の出力レベルの改良を行った。2）人工的に多孔質とした漆喰試料のテラヘルツ分光イメージングの基礎データを収集した。3）談山神社所蔵の塗装手板のテラヘルツ分光イメージング測定を行った。

④	**周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究**	東京文化財研究所

石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境計測を行った。また、その結果に基づく劣化要因の解明、周辺環境影響を軽減する方法及び修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、（1）臼杵磨崖仏保存管理計画の策定及び石造文化財の劣化と周辺環境影響に関する調査、（2）木材充填材料や木造建造物塗装に添加する防カビ剤の現地曝露試験、（3）大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、ワークショップ等を実施した。

	文化財の災害対策及び被災文化財の救援と保存修復手法に関する研究	東京文化財研究所

平成 23 年度は、（1）東大寺法華堂安置仏像群及び塑造四天王立像（戒壇堂所在）の耐震対策を講ずるため、塑造執金剛神立像の三次元計測と地震時転倒予測を継続した。また、仏像と同じ大きさの模型を使った振動台実験を三重大学・防災科学技術研究所の協力のもと行った。（2）東日本大震災で被災した有形動産文化財の救援活動において、事務局を担い被災地における活動支援を行った。

⑤	**伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究**	東京文化財研究所

本年度は今期中期計画の初年度であるため、伝統的な建築文化財の塗装材料である漆塗装や乾性油系塗料などの過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図るとともに、その実績を塗装修理作業の施工指導に役立てた。伝統的修復材料であるフノリの基礎調査を開始した。合成樹脂の関する調査では、過去使用した樹脂の劣化などの問題点解決に向けた基礎実験を行った。また、研究所が所蔵する過去の合成樹脂などを用いた修復事業の資料を分類整理し、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進めた。また、第 5 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会を開催し、計 86 名の参加を得た。

	国際研修「紙の保存と修復」	東京文化財研究所

2011 年 8 月 29 日～9 月 16 日の期間で 10 カ国から 10 名を迎え入れて研修を行った。紙本文化財の修復理念、材料学の講義を行った。実習では、掛軸修復、和綴じ冊子製作、屏風・掛け軸の取扱などを行った。またスタディーツアーでは美濃を訪れ、和紙の原料・製造から流通までを和紙産地の歴史とともに学習し、和紙の抄造を体験学習した。修復工房及び伝統的材料の製作工房、店舗を訪れ現状を視察した。

	在外日本古美術品保存修復協力事業	東京文化財研究所

掛軸 5 作品、屏風 1 作品を預かり修復を行った。内、掛軸 3 作品の修復を完了して所蔵館に返還した。他作品に関しては修復作業中である。また、次年度以降の修復候補作品選定のため、漆工芸品の調査をヨーロッパにおいて行った。

ベルリンにおいて紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップを、ケルンにおいては漆工芸品の保存修復に関するワークショップを開催した。

⑥	**近代の文化遺産の保存修復に関する研究**	東京文化財研究所

今年度は近代化遺産の中でも、建造物に使われている塗料（油性塗料）に関して、関係者を招き、研究会を開催し、それぞれの立場から油性塗料についての発表、討論を行い、それを通じて、現在国内のほとんどの塗料メーカーが生産を中止した油性塗料をどのように確保し、文化財の修復に使用していけるか等、検討を加えた。さらに屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査している。山口県

	萩市や静岡県伊豆の国市にある反射炉など、史跡指定された土地に建つ建造物の保存に関して研究を行った。 昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。
	・あるぜんちな丸一等食堂漆棚に於ける制作技法と修復処置の研究 ・霧島神宮における彩色剥落止めの手法開発及び施工監理

(参考)法人の自己評価

我が国の有形文化財は木や紙、絹など劣化しやすい材質で作られているものが多く、保存環境や修復に関する調査研究は重要である。23年度も国内外を問わず、文化財の保存に関する調査研究を進め、海外の日本古美術品の修復も行うことができた。海外からも期待されている分野である文化財保存・修復に関する研究は今後も継続的に実施し、我が国の文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点としての機能を強化していきたい。

(4)高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

	調査研究の名称	施設名
①	**文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力**	東京文化財研究所
	高松塚古墳では、昨年度、脆弱化した漆喰層の常温抽出布海苔による 1 度目の強化は全石終了した、そのうち天井 1・2・3、青龍・西男子・白虎・玄武の計 7 石においては無地場に長波の紫外線照射を行い、バイオフィルムのクリーニングを行っている。 キトラ古墳では平成 22 年度までに石室内の漆喰すべての取り外しが完了し、取り外した漆喰片についての経過観察及び保存のための強化処置を行っている。更に、これから漆喰片を壁単位で組み立てていくにあたり、補填等に適切な材料の検討や実験を行っている。	
	・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務(受託) ・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査(受託)	
	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	奈良文化財研究所
	文化庁が進める高松塚古墳仮整備事業や保存・活用に関する事業が円滑かつ適切に施工されるよう協力した。 平成 22 度のキトラ古墳壁画の取り外し作業終了を受け、キトラ古墳石室内の考古学的調査を行った。また、壁画及び古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を行った。	
	・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務(受託) ・特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務(受託)	
②	**国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力**	奈良文化財研究所
	今年度は、檜隈寺中心伽藍跡の南東方向に所在する土壇状の高まり部分と、檜隈寺が所在する丘陵の南東裾部の 2 カ所について発掘調査を行った。調査区の面積は合計 402 ㎡である。土壇状の高まり部分では、大型柱穴 2 基を確認し、丘陵裾部では、石敷と素掘溝を確認した。いずれも古代の遺構であると考えられる。大型柱穴は重要文化財於美阿志神社石塔婆に関わり、素掘溝は檜隈寺寺域に関わるとみられ、檜隈寺の実体解明に繋がる重要な成果が得られた。	
	・キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査業務(受託)	
③	**農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力**	奈良文化財研究所
	大和平野支線水路等その 3(県営飛鳥 2 号幹線(右岸)その 5)改修工事に伴う発掘調査で、対象地は藤原右京七条西一坊(橿原市上飛騨町)にあたる。総長 100m の工事区域のうち、中央約 80m分は立会で対応し、残りの西区(約 10m×1m)、東区(約 10m×1m)を発掘調査した。その結果、古墳時代と古代の遺構(溝等、一部中世を含む)を検出、記録した。	

	・大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査(受託)

(参考)法人の自己評価

文化庁の要請に応じて、高松塚古墳では、22年度に1度目の強化を全石終了し、23年度はそのうち7石において無地場に長波の紫外線照射を行い、バイオフィルムのクリーニングを行っている。キトラ古墳では、石室からの漆喰取り外しが22年度に完了したことを受け、23年度は取り外した漆喰片の強化処置及び石室内の考古学的調査を行った。今後も文化庁の要請に応じて、適宜協力して実施していきたい。

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与したか。

(5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

	調査研究の名称
①	収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究
	東京国立博物館
	・収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	・特別調査法隆寺献納宝物(第33次)「聖徳太子絵伝」第7回
	・特別調査「書跡」第9回
	・特別調査「工芸」第3回
	・特別調査「彫刻」第1回
	・特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」―尾形光琳風神雷神屏風を中心に
	・板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究(科学研究費補助金)
	・油彩画の材料・技法に関する共同調査
	・目録学の構築と古典学の再生に関する調査研究(科学研究費補助金)
	・文化財保護の歴史に関する基礎的研究(科学研究費補助金)
	・占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究(科学研究費補助金)
	・宮廷工芸に関する物質文化的研究(科学研究費補助金)
	・日本近世実景図研究
	・古筆切紙背の史料学的研究(学術研究助成基金助成金)
	・近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(科学研究費補助金)
	・絵巻の＜伝来＞をめぐる総合的研究(科学研究費補助金)
	・狩野晴川院養信による寺社宝物摸本の基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	・黒耀石の獲得と消費からみた完新世初期人類社会の形成過程(学術研究助成基金助成金)
	・東京国立博物館所蔵国際交流史料データベース(科学研究費補助金・研究成果公開促進費)
	・諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発(科学研究費補助金)
	・絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観に関する研究(科学研究費補助金)
	・草創期の磁器における『和様化』の背景について (メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金)
	・古筆切の発生とその鑑賞に関する基礎的研究(メトロポリタン東洋美術研究センター助成金)
	京都国立博物館
	・訓点資料としての典籍に関する調査研究
	・彫刻に関する調査研究
	・出土・伝世古陶磁に関する調査研究
	・近代建築に関する調査研究
	・特別展覧会「中国近代絵画と日本」に関する調査
	・特別展覧会「王朝文化の華　陽明文庫名宝展」に関する調査研究
	奈良国立博物館
	・館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。

		・歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。
	九州国立博物館	
		・X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金）
		・平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う。
		・旧石器から弥生時代の日本人の起源に関する調査研究
		・縄文時代の火焔土器に関する調査研究
		・館蔵品を中心とした漆器の調査研究
②	アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究	
	東京国立博物館	
		・館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
		・東洋民族資料に関する調査研究
		・東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）
		・中国書画の表装に関する基礎的研究（科学研究費補助金）
		・光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究（科学研究費補助金）
		・家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
		・隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）
		・南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁－（科学研究費補助金）
		・アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－（科学研究費補助金）
		・高雄曼荼羅の調査研究（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）
	奈良国立博物館	
		・中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。
		・日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。
	九州国立博物館	
		・中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究
		・館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画に関する調査研究
		・中国湖南省の馬王堆漢墓に関する調査研究
		・朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究
		・X線CTによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析（科学研究費補助金）
		・南アジアと東方アジアの螺鈿構造―技術比較の視点から―（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）
		・平山郁夫　画業と文化財保護活動に関する調査研究
③	京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究	
	京都国立博物館	
		・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究
		・近世絵画に関する調査研究
④	仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究	
	京都国立博物館	
		・鎌倉仏教とその造形に関する調査研究
	奈良国立博物館	
		・平成24年度春季特別展「貞慶（仮称）」、25年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。
		・南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成23年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、24年度特別展「貞

		慶（仮称）」、25年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。
		・正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。
		・東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。
⑤	アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究	
	九州国立博物館	
		・日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究
		・アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－（科学研究費補助金）
		・琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する調査研究
⑥	有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究	
	東京国立博物館	
		・博物館の環境保存に関する研究
		・博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）
	京都国立博物館	
		・修復文化財に関する資料収集及び調査研究
		・文化財の保存・修復に関する調査研究
	奈良国立博物館	
		・収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。
		・館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。
		・館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。
	九州国立博物館	
		・文化財の材質・構造等に関する共同研究
		・博物館における文化財保存修復に関する研究
		・博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究
		・東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究(UNESCO との共同)
		・日本の文化財修理と保存、復元に関する調査研究
⑦	文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究	
	東京国立博物館	
		・博物館環境デザインに関する調査研究
		・博物館教育に関する調査研究
		・博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
		・凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究
	京都国立博物館	
		・文化財情報に関する調査研究
	奈良国立博物館	
		・歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。
		・文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。
	九州国立博物館	
		・九博に関連する絵本の次シリーズの企画に関する調査研究
		・NHKと協同で高精細画像を活用したシアター4000での映像公開に向けた研究
		・特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究

・学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発

（参考）法人の自己評価

各博物館とも、日常の調査研究の成果が特別展や特集陳列などの展示に結びついている。京都国立博物館における「中国近代絵画と日本」展、奈良国立博物館における特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」などにその成果が活かされた。一方機構内の文化財研究所との共同研究や大学などとの共同研究も実施しており、その成果も展示に積極的に活用し、広く公開した。

文化財の保存と公開という博物館の使命を持続するために保存環境やリスク回避などについての研究を行い、次世代へ継承するために不断の努力を続けている。各館の特色を生かした有形文化財に関する調査研究と同時に、効果的な展示手法や博物館教育活動等に関する調査研究、文化財情報に関する各種データベース構築など、公開に力点を置いた研究も成果を上げており、次世代への継承及び我が国の文化の向上に寄与している。

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保したか。

○研究の実施にあたっては、外部資金を活用したか。

3. 調査研究の成果の状況

主な実績

		学術雑誌等への論文掲載数		学会、研究会等での発表件数	
		22年度	23年度	22年度	23年度
(1)	文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進	96件	66 件	29件	53 件
(2)	文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進	47件	33 件	26件	40 件
(3)	科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として先端的調査研究等の推進	35件	23 件	29件	30 件
(4)	国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施	4件	7 件	—	2 件
(5)	有形文化財の収集・保管・管理・展示・教育活動等に係る調査研究	156件	239 件	111件	193 件
(6)	国際協力に関する研究基盤の整備	2件	—	9件	4 件
(7)	無形文化遺産保護の国際的充実	—	—	—	2 件
(8)	情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信	2件	—	2件	2 件
(9)	地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	3件	6 件	—	—
	計	345件	374件	206件	326件

外部資金の獲得

■科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数

	22 年度	23 年度
新規応募件数	86	90
新規採択件数	25	27
新規採択率	29%	30%
件数（新規＋継続）計	81	76
直接経費（千円）	206,881	165,350
間接経費（千円）	60,265	48,975
交付額計（千円）	267,146	214,325

（参考）法人の自己評価

専門家や研究者への研究成果の還元については、論文や学会での発表を通して、着実に成果をあげている。

科研費については、22年度までの科学研究費補助金事業は、23年度より「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」による科学研究費助成事業として取り扱うこととなったが、研究の実施にあたっては引き続き、科研費等の外部資金を活用した。

【（中項目）1－5】 5 文化財保護に関する国際協力の推進

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【（小項目）1－5－1】 国際協力に関する研究基盤の整備

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】

文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。

（1）文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。

（2）国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p389-p390 5-(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備
p391-p400 5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

・自己点検評価報告書 統計表
p171- 共通資料 c-② 調査研究テーマ一覧
p176- 共通資料 c-③ 学会、研究会等発表実績一覧
p193- 共通資料 c-⑤ 論文等発表実績一覧

【インプット指標】

（中期目標期間）	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額（百万円）	286	249	229	223	227	178
従事人員数（人）	95	89	90	88	92	88

※決算額は、決算報告書・国際研究協力事業費の決算額を計上している。（小項目1－5－1と1－5－2は個別に計上できないため。）
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○情報の収集・分析及びその提供を行い、国際協力のネットワークを構築したか。 ○アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めたか。	**主な実績** 調査研究の名称 (1) ① 文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 ― 東京文化財研究所 パリにおいて開催された世界遺産委員会に出席する等、各国の文化遺産に関する情報収集を行ったほか、文化財保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、データベースを充実するとともに、対訳法令集シリーズとして刊行した。また、バーミヤーン遺跡保存に関するシンポジウムを開催し、国際協力の推進と協力成果の一般への普及広報を図った。 ・文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託） (2) ア 東アジア諸国文化遺産保存修復協力 ― 東京文化財研究所	諸外国における文化財保存・修復に関わる情報を積極的に収集し、特に、東南アジアに所属研究者を派遣し、文化財の修復事業の推進を確実に実施しており、アジア地域を中心とした諸外国において、文化財保護に関する国際協力を推進したと評価できる。

①		敦煌莫高窟及び陝西省墳墓壁画を対象とする共同研究を実施するため、中国側各機関との調整を行うと共に、実質的な調査研究活動に着手した。 ・文化遺産国際協力拠点交流事業（モンゴル）（受託）	
	イ	**東南アジア諸国文化遺産保存修復協力**	東京文化財研究所
		カンボジア、タイを対象とする共同研究及びインドネシアでの協力事業を実施するため、各国の関係各機関との調整を行うとともに、カンボジアにおいて実質的な調査研究活動に着手した。 ・ユネスコ　タンロン・ハノイ文化遺産群の保存事業（受託） ・文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（アユタヤ遺跡洪水被害状況調査事業）（受託） ・文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（受託）	
	イ	**カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査**	奈良文化財研究所
		西トップ遺跡に関し、今年度より新たな第三期中期計画を開始した。今次の計画の中心となるのが修復計画である。従来から検討してきた修復計画をさらに実際的なものにするとともに、国際調整委員会で計画についての発表を行った。 タンロン皇城遺跡に関しては、昨年度に引き続き発掘現場における発掘技術研修を実施した。木製品の保存科学的処理については、担当者２人を招聘して、奈良文化財研究所の機材を用いた研修を行った。 ・文化遺産国際協力拠点交流事業（受託） ・海のシルクロードに関する観光研究（受託）	
	ウ	**西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業**	東京文化財研究所
		アフガニスタン：バーミヤーン遺跡保存事業に関する専門家会議の開催・出席、報告書の作成・出版 西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力：トルコ、タジキスタン、インド、中央アジア諸国、エジプト ・ユネスコ　シルクロード世界遺産登録のための支援事業（受託） ・文化遺産国際協力拠点交流事業（コーカサス）（受託） ・文化遺産国際協力拠点交流事業（キルギス）（受託）	
	エ	**文化財保存修復手法の国際的研究**	東京文化財研究所
		「海外における日本の装こう修理技術利用に関する研究会」をテーマとして国際研究会を開催した。講演会及び検討会の参加者は 31 名であった。またそれに付随して、文化財の修復に使用される日本の伝統的な製法による刷毛の製作工房の視察、調査を行った。	

（参考）法人の自己評価

国際的な文化財機構のネットワーク構築のため、国際会議への参加や国際シンポジウムの開催等を行い、専門家間の交流や情報交換を推進した。国際協力事業については、カンボジア、タイ、インドネシアなどアジアを中心に文化財修復に積極的に協力し、国際協力が図られている。

また、パリの世界遺産委員会等への参加をはじめとする文化財保存修復に関する国際的なネットワークに積極的に参加した。さらに、敦煌壁画の研究は、中国側から高い評価を得るなど、国際協力に関する研究基盤の整備に寄与した。

【（小項目）1－5－2】　保存修復に関する技術移転の推進

【評定】

A

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】

（3）文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。

H24	H25	H26	H27

実績報告書等　参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p401−p404　5−(3)　研修・専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成及び技術移転

・自己点検評価報告書　統計表
p119　5−(3)−①　アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【インプット指標】

（中期目標期間）	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額（百万円）	286	249	229	223	227	178
従事人員数（人）	95	89	90	88	92	88

※決算額は、決算報告書・国際研究協力事業費の決算額を計上している。（小項目１－５－１と１－５－２は個別に計上できないため。）
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○諸外国への文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進めたか。	**主な実績** 調査研究の名称 (3)　**諸外国の文化財保護に係る人材育成**　東京文化財研究所 2012 年 2 月 27 日～3 月 20 日の日程で敦煌研究院保護研究所の研究員 3 名を日本に招へいし、研修を行った。 ・エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅠ、Ⅱ）に係る国内支援業務(受託) ③　**ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力**　奈良文化財研究所 集団研修ではアジア太平洋諸国 16 ヶ国、16 名の研修生に対して、木造建造物の保存修復についての研修を行った。また個人研修ではインドネシア人専門家 3 名に対して、木造建造物の保存修復についての研修を行った。こうした研修を行うことにより、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。また国内における国際協力関係の諸機関との連携を強化することができた。 **（参考）法人の自己評価** 諸外国の文化財保護に係る人材育成として、23年度は敦煌研究院研究員の招へい研修を実施した。発展途上国においては文化財の保護を担う人材が依然不足しており、文化財の保存・修復に関する技術移転を通じた人材育成に貢献することができた。 ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力においては、ユネスコアジア文化センター奈良事務所の発足以来、文化遺産の保存、特に埋蔵文化財と建造物に関する保存の研修への協力を継続している。23年度は集団研修1回と個人研修1回を行い、各国の人材育成に貢献するとともに、日本側の各国理解の一助ともなった。	敦煌研究院研究員の招聘など、アジア諸国を中心とした諸外国における文化財の保存・修復に関わる人材育成に努めるとともに、我が国の文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に推進したと評価できる。 また、ユネスコアジア文化センターが、アジア太平洋諸国16カ国の研修生に対して実施する建造物を中心とした保存研修への協力を継続して行っており、アジア諸国の文化財修復ネットワーク構築にも貢献した。

【(小項目)1－5－3】 無形文化遺産保護の国際的充実

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

(4)23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

【評定】

A

H24	H25	H26	H27

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p405-p406 5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究
p525 (受託事業) 日本／ユネスコ パートナーシップ事業
p526 (受託事業) 平成 23 年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム

・自己点検評価報告書 統計表
p148- 共通資料 c-① 研究交流実績一覧
p171- 共通資料 c-② 調査研究テーマ一覧
p176- 共通資料 c-③ 学会、研究会等発表実績一覧
p191- 共通資料 c-④ シンポジウム開催実績一覧
p207- 共通資料 c-⑥ 調査研究刊行物一覧
p216 共通資料 d ウェブサイトアクセス件数

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)						45
従事人員数(人)						1

※決算額は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターにおける決算報告書・受託事業費及び調査研究事業費の決算額を計上している。
※従事人員数は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行ったか。	**主な実績** 調査研究の名称 (4) **アジア太平洋無形文化遺産研究センターの設置、およびアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究** (アジア太平洋無形文化遺産研究センター) 10 月にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、文化庁受託事業「平成 23 年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」及び文部科学省受託事業「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」を実施した。 ・日本／ユネスコ パートナーシップ事業(受託) ・平成 23 年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム(受託) **(参考)法人の自己評価** 22年8月に日本政府とユネスコとの間で締結された無形文化遺産の国際研究センター設立に関する協定に基づき、23年10月に機構の7番目の施設として、アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、センターの業務を開始することができた。インド、タイ、ミャンマーでの現地調査、国際会議等へのセンター職員の派遣に加え、国際シンポジウムの開催等、文化庁及び文部科学省からの受託事業として、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査研究活動を行った。	アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、アジア地域における無形文化遺産保護に係る拠点として、周到・緻密な現地調査を行い、また当該分野の研究では先進的な地位にある我が国無形文化遺産研究の方法を広くアジア諸国に伝えることにより、無形文化遺産保護の国際的基盤作りに貢献した。 特に、タイの現地調査では天災や政変の影響を受けたが、応変の対応で成果を上げ、そのほかの地域においても、着実な協力事業やその基盤形成を行った。 今後の取り組みが期待される。

【(中項目)1－6】	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信	【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【(小項目)1－6－1】	情報基盤の整備充実	【評定】 A

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。

(1)文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。

H24	H25	H26	H27

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p407-p418 6-(1) 情報基盤の整備充実

・自己点検評価報告書 統計表
p120 6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	187	166	146	144	127	147
従事人員数(人)	20	24	23	21	22	22

※決算額は、決算報告書・情報公開事業費の決算額を計上している。(当該項目は小項目1－6－2と重複があり、個別に計上できないため。)
※従事人員数は、東京文化財研究所の企画情報部、奈良文化財研究所の企画調整部の常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ったか。また、文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ったか。	**主な実績** ・基幹ネットワークシステムの更新及びウィルス対策ソフトを更新することによりセキュリティの強化を図った。(奈文研) ・ネットワーク機器を更新したことにより、高速化とセキュリティ強化が実現可能となった。(奈文研) ・保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施するとともに、リモートアクセスが可能なVPNを導入し、利便性を向上させた。(東文研) ・職員が使用しているコンピュータ用のウィルス駆除ソフトウェアについて、従来使われていたものに代えてKaspersky Anti-Virus及びESET NOD32の2種類のソフトウェアのライセンスを、それぞれ所内で使用されているコンピュータ台数の半数分ずつ購入し、全てのコンピュータが一斉に同一の不具合を引き起こさないよう工夫した。(東文研) ・専門的アーカイブの充実(東文研) 公開用 SQL データの更新・運用、画像資料のデジタル化、近現代美術関係文献等のデータベース化、朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化 ・無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化(東文研) ・GIS(地理情報システム)を活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新手法の開発(奈文研) ・奈良文化財研究所所蔵資料の電子化に努め、特にガラス乾板、大判フィルム、航空写真画像、遺構実測図、遺構カードのデジタル化を進めた。(奈文研)	基幹ネットワークシステムの更新やウィルス対策によるセキュリティ強化など、情報基盤の整備の充実が図られている。 また、文化財情報のデジタル化においては、画像資料のデジタル化、近現代美術関係文献等のデータベース化など、質の高い専門的アーカイブの拡充が認められる。 なお、奈良文化財研究所では奈文研GIS(地理情報システム)を活用した最新の文化遺産情報システムが開発され、今後の成果が期待される。

(参考)法人の自己評価

ネットワーク機器の更新やアンチウィルスソフトの適切な適用等を行い、セキュリティの強化及び情報システムの利便性向上は順調に進められている。データベース構築、各種資料のデジタル化等、専門的アーカイブの拡充も着実に行われている。

【(小項目)1－6－2】 調査研究成果の公開・提供

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(2)文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p419-p440 6-(2) 研究所の研究成果の発信
p405-p406 5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

・自己点検評価報告書 統計表
p120-p121 6-(2)-① 公開講演会、現地説明会
p191- 共通資料 c-④ シンポジウム開催実績一覧
p207- 共通資料 c-⑥ 調査研究刊行物一覧
p216 共通資料 d ウェブサイトアクセス件数

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額①(百万円)	187	166	146	144	127	147
決算額②(百万円)	140	119	112	163	150	197
従事人員数(人)	20	24	23	21	22	23

※決算額①は、決算報告書・情報公開事業費の決算額を計上している。(当該項目は小項目1－6－1と重複があり、個別に計上できないため。)
決算額②は、決算報告書・展示出版事業費の決算額を計上している。(当該項目は小項目1－6－3と重複があり、個別に計上できないため。)
※従事人員数は、H18～H22 は東京文化財研究所の企画情報部、奈良文化財研究所の企画調整部の常勤学芸職員の人数を計上、H23 はこれにアジア太平洋無形文化遺産研究センターの常勤学芸職員を加えた人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行ったか。また、ウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図ったか。	**主な実績** ・年報、日本美術年鑑、美術研究、保存科学など、定期刊行物の刊行(東文研) ・無形文化遺産研究報告など、研究報告書の刊行(東文研) ・第34回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会の報告書の刊行(東文研) ・第35回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会の開催(東文研) ・オープンレクチャーの開催(東文研) ・発掘調査の現地説明会の開催と公開講演会の実施(奈文研) ・ホームページのトップページのレイアウトを変更し、各種の情報へのアクセスの利便性を向上させた。(東文研) ・東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業に関連する活動や被災した文化財などへの対応について、ホームページによる情報発信を行った。(東文研) ・奈良文化財研究所ホームページの完全リニューアルを行った。(奈文研) ・『墨書土器字典』データベースを公開した。(奈文研) ・アジア太平洋無形文化遺産研究センターのウェブサイトを開設した(無形センター) (参考)ウェブサイトアクセス件数(ユーザーセッション数)	2研究所ともに、調査・研究成果に関わる定期刊行物の発行、公開講演会、現地説明会など、調査研究成果の公開・提供は順調に進められており、ウェブサイトのリニューアルも行われるなど、インターネットを通じた情報発信が積極的に行われている。 また、東日本大震災文化財支援事業に関する活動報告がタイムリーに公開され、適確な情報発信が実施された。 今後も利用者が活用しやすいウェブサイトの構成などの工夫が望まれる。

ウェブサイトアクセス件数	過去の実績に関する経年データ					
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
東京文化財研究所	1,355,306	1,526,409	1,405,278	1,417,203	1,489,091	1,314,541
奈良文化財研究所	(1,033,457)	(923,466)	(701,711)	571,283 (1,030,905)	641,695 (4,977,076)	457,154
アジア太平洋無形文化遺産研究センター						1,838 (23年12月16日サイト開設)

※( )内は、計数方法が異なるため参考数
※ 奈良文化財研究所の 23 年度アクセス件数減少は、平城遷都 1300 年記念事業(22 年度)の終了に伴うものである。

(参考)法人の自己評価
23 年度も研究報告書や年報等定期刊行物をとおして研究成果の公表を行っている。また、文化財の保存・修復に関する国際研究集会を通して、文化財の保存・修復の国際的な課題や取組みなどを検討する機会を設け、研究成果を積極的に公表している。
ウェブサイトのアクセス件数は、23年度より定量的な目標値を設定していないが、サイトの全面リニューアルや公開データベースの追加等を行い、内容の充実を図った。また、アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。
オープンレクチャーや現地説明会などを通した一般への研究成果の公表にも力を入れており、今後も積極的に公表の機会を設けていきたい。

【(小項目)1－6－3】　公開施設の運用

【評定】
A

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
(3)平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均(特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。)以上確保する。
(4)文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。

H24	H25	H26	H27

実績報告書等　参照箇所
・自己点検評価報告書　個別表
p441-p446　6-(3)　研究所所管の展示公開施設の充実
p447-p460　6-(4)　文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

・自己点検評価報告書　統計表
p125　共通資料 a-①来館者数推移(入館料別)（過去5ヵ年）
p127　共通資料 a-②来館者数推移(展覧会別)（過去5ヵ年）
p128　共通資料 a-③入場料収入
p142　共通資料 a-④平常展・特別展・海外展
p147　共通資料 b　ボランティア受入れ実績

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	140	119	112	163	150	197
従事人員数(人)	95	89	90	88	92	88

※決算額は、決算報告書・展示出版事業費の決算額を計上している。(当該項目は小項目1－6－2と重複があり、個別に計上できないため。)
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示の充実を図ったか。また、来館者数については、前期中期計画期間の年度平均(特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。)以上を確保したか。	**(3)平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館** **主な実績** ・平城宮跡資料館 常設展示に、新たに「考古科学コーナー」を増設した。入口ロビーにて、「文化財レスキュー事業の紹介」の展示を行った。秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」、春期企画展「発掘速報展 平城2011／文化財レスキュー展」を開催した。 ・飛鳥資料館 春期特別展「星々と日月の考古学」を 4 月 16 日～5 月 29 日に開催し、記念講演会を 5 月 14 日に行った。 夏期企画展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」を 8 月 2 日～9 月 4 日に開催した。 秋期特別展「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」を 10 月 14 日～11 月 27 日に開催し、記念講演会を 11 月 6 日に行うともに、ギャラリートークを 2 回開催した。 冬期企画展「飛鳥の考古学2011」を1月20日～2月26日に開催するとともに、写真コンテストを主催した。 ・藤原宮跡資料室 常設展示及び発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。庁舎エントランスに発掘調査成果を速やかに公開するための速報展示コーナーを設け、多様な成果を継続的に公開した。あわせて、職員による展示解説、展示のための各種資料制作、パンフレットなどの企画と制作、各地の博物館などへの文化財の貸与を行った。	東日本大震災の影響もあり、来館者は減少しているものの、平城宮跡資料館では、「考古科学コーナー」や「文化財レスキュー事業の紹介」、春秋の企画展を、飛鳥資料館では、春秋特別展、夏冬期企画展示を、藤原宮跡資料館では速報展示を実施するなど、展示の充実、調査研究成果の公開・情報提供に一定の成果があったと評価できる。 また、3館ともに文化庁が行う宮跡等整備及び公開活用事業に積極的に協力するとともに、国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復元事業に専門的立場から実践的調査研究を行った。 さらに、平城宮跡解説ボランティアガイドに学習・研修機会を提供するなど、一般社会への教育普及にも努めている。 飛鳥資料館及び藤原宮跡資料室に関しては、地理的条件もあるが、来館者増に向けた今後の取り組みが望まれる。

【研究公開施設来館者数】指標:前中期計画期間年度平均来館者数(特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く))(中期計画)
平城宮跡資料館　来館者数(目標値:85,300 人)

A	B	C	実績	定量的評価
85,300人以上	59,710人以上 85,300人未満	59,710人未満	132,295人	S

飛鳥資料館　来館者数(目標値:48,800 人)

A	B	C	実績	定量的評価
48,800人以上	34,160人以上 48,800人未満	34,160人未満	42,479人	B

藤原宮跡資料室　来室者数(目標値:4,509 人)
※年間入室者数は 2, 971 人であったが、資料室内の改修工事等により開館期間は例年の 2／3 程度であったため、閉室期間を考慮すると年間入室者数は 3,775 人に相当し、定量的評価の判定はBとなる。
＜特殊要因を考慮した入室者数の算出式＞
来館者数 2,971 人×244 日(通常年間開館日数)／192 日(開館日数)≒3,775 人(小数点以下切り捨て)

A	B	C	実績	定量的評価
4,509人以上	3,157人以上 4,509人未満	3,157人未満	2,971人(3,775人)	C(B)

【研究公開施設来館者数】(人)	過去の実績に関する経年データ					23年度
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
平城宮跡資料館	77,560	85,486	92,597	25,127	354,346	132,295
飛鳥資料館	112,128	100,825	84,608	77,347	133,312	42,479
藤原宮跡資料室	4,457	6,885	4,423	4,341	4,815	2,971
(黒田記念館 ※)	20,975	13,707	19,038	20,345	18,458	
3 施設合計	215,120	206,903	200,666	127,160	510,931	177,745

※黒田記念館の来館者数は 22 年度まで研究公開施設に含み、23 年度から東京国立博物館平常展来館者数に含む。

(参考)法人の自己評価
平城宮跡資料館は、22 年度のリニューアルオープン以降、引き続き定期的に企画展を実施することができたことに加え、常設展においても新コーナーの増設やロビー展示等、定期的に新しい内容を展示公開し、来館者数は目標値を大きく上回った。
飛鳥資料館は、キトラ・高松塚両古墳壁画の天井天文図に関する特別展示である春期特別展「星々と日月の考古学」をはじめとした特別展・企画展を開催したものの、東日本大震災の影響で上半期の来館者数は大幅に減少したため、年間来館者数は目標値に達しなかった。
藤原宮跡資料室は、エントランスに速報展示コーナーを設けるなど、充実した展示内容を継続した。来館者数について目標値との乖離があるが、改修工事による閉館期間を考慮すれば、目標値には達しないものの、ほぼ適正に近い来館者数であると言える。
黒田記念館については、23 年より東京国立博物館平常展の来館者数に組み入れている。

○文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力したか。また、ボランティアへの活動支援を行ったか。

(4)文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力

主な実績

	調査研究の名称	
①	**文化庁平城宮跡等管理事務所の運営への協力**	奈良文化財研究所
	◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。 ◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援、協力及び関係機関等との調整を行った。 ◇関連受託事業:特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備事業 平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。 ○平城宮跡〔対象面積:915,150 ㎡〕○藤原宮跡〔対象面積:257,840 ㎡〕	
	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力	奈良文化財研究所
	第一次大極殿院復原検討会を 17 回開催し、そのための資料収集と整理、国内外の類例調査などを行った。また平城宮跡の整備・活用に向けての基礎的な資料の収集と、整備施工に対しての事前立会調査等を行い、遺跡の保護・保全といった観点を含めて、十分に対応することができた。 ・第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査委託(受託)	
	国土交通省が行う平城宮跡展示館(仮称)の建設への協力	奈良文化財研究所
	展示基本設計の策定に必要な、展示テーマや展示内容案を作成し、展示構成及び展示手法について、設計業者と協議を重ねた。その展示計画案に基づき、展示物の立案、検索や調査、リスト化を行った。また設計業者の要望に応じて、展示設計上参考となる図面や画像などの多様な参考資料を、用意し提供した。	
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	奈良文化財研究所
	国営飛鳥歴史公園事務所が開催した「国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会」(平成 24 年 3 月 7 日)に出席し、体験学習館の基本設計(案)作成に協力した。	
②	**平城宮跡解説ボランティア事業の実施**	奈良文化財研究所
	高い知識に基づく解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。	
	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加	奈良文化財研究所
	平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災・防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。	
	NPO法人等への支援	奈良文化財研究所
	ボランティア団体への支援は、その育成につながった。	

(参考)法人の自己評価

文化庁、国土交通省が行う、平城宮跡・藤原宮跡等の公開・活用に必要な準備、平城宮跡第一次大極殿院復原、平城宮跡展示館(仮称)の建設等について、積極的に協力を行っている。また、平城宮跡解説ボランティアへの学習・研修機会を提供し、ボランティア運営を積極的に支援するとともに、ボランティアによるツアーガイド等を通じて、広く一般来場者への文化財について理解を深めることに大きく貢献した。

【(中項目)1－7】 **7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上**

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【(小項目)1－7－1】 **地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築**

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。

(1)地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p461－p474 7－(1) 文化財に関する協力・助言の実施

・自己点検評価報告書 統計表
p123 7－① 国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言

【インプット指標】

(中期目標期間)	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額(百万円)	－	－	－	－	－	－
従事人員数(人)	95	89	90	88	92	88

※決算額は、協力・助言等にかかる外注費が少額なため、個別に計上できない。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行ったか。	**主な実績**	地方公共団体や大学・研究機関との連携・協力体制を構築し、文化財に関する円滑かつ積極的な協力・助言を行ったと評価できる。 特に、東日本大震災によって被災した文化財等の救援活動では、文化財レスキュー事業の中核としての活動が行われ、ナショナルセンターとして高い実績を示しており、着実な成果を上げている。

	調査研究の名称	
	無形文化遺産に関する助言	東京文化財研究所
	平成 23 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等について、文化庁文化財部伝統文化課に対し無形文化遺産保護条約に関する助言をはじめ、32 件の助言を実施した。	
	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	東京文化財研究所
	今年度は、件数として 33 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。 ・関西大学博物館所蔵登録有形文化財津雲貝塚出土縄文時代甕棺の復元修理(受託)	
①	**地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言**	奈良文化財研究所
	平成 23 年度は、平城京域において、個人住宅・集合住宅等の建設にともなう計 5 件の発掘調査を実施した。その結果、平城京右京三条一坊一坪で奈良時代とみられる柱穴などを検出した。また、海龍王寺旧境内でも調査を行ったが、奈良時代の遺構は確認できなかった。このほか、西大寺旧境内(薬師金堂付近)では薬師金堂の	

基壇が削平を受けており、調査地には遺存していないことが判明した。また左京三条一坊十坪では、奈良時代の柱穴を数基検出している。

地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言　奈良文化財研究所

藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 13 件あり、主に現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮及び飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、藤原宮跡東面大垣の調査（168-2 次）では、極めて遺存状態の良好な門遺構とそれに接続する大垣を確認した。

地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言　奈良文化財研究所

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

② **他機関等との共同研究及び受託研究を実施**　奈良文化財研究所

地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等を行った。

・朱雀大路緑地遺跡発掘調査（受託）
・特別史跡藤原宮跡（高殿町徳田宅倉庫）発掘調査（受託）
・藤原宮跡（高殿町集会所）発掘調査（受託）
・藤原宮跡（法花寺水路改修）発掘調査（受託）

③ **東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）**　東京文化財研究所

1）東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を設置した。
2）被災文化財レスキュー事業を実施した。

・東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）（受託）

（参考）法人の自己評価

文化財研究所は、文化財に関する研究や保存・修復、発掘調査等におけるわが国の中核として、地方公共団体からの文化財に関する依頼に対し、これまで研究所が培ってきた研究成果・調査技術等を活かした的確な協力・助言等を積極的に行っている。

文化財レスキュー事業においては、東京文化財研究所に被災文化財等救援委員会事務局が置かれ、文化財保護に関する研究の蓄積を生かし、国立文化財機構の各施設とともに事業の中心的なメンバーとして救援活動を行った。

【（小項目）1－7－2】　中核的文化財担当者の研修・若手研究者の育成

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

実績報告書等　参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
p475-p482　7-（2）　保存担当学芸員研修の実施

・自己点検評価報告書　統計表
p123　7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

【法人の達成すべき目標（計画）の概要】

（2）文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。

【インプット指標】

（中期目標期間）	H18	H19	H20	H21	H22	H23
決算額（百万円）	24	22	22	17	18	16
従事人員数（人）	95	89	90	88	92	88

※決算額は、研修事業費の決算額を計上している。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤学芸職員の人数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施したか。また、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施したか。

実績

主な実績

調査研究の名称

① **埋蔵文化財担当者研修の実施**　奈良文化財研究所

遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修 13 課程の研修を実施し、延べ 136 名が受講した。

研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。

② **博物館・美術館等保存担当学芸員研修**　東京文化財研究所

第 28 回保存担当学芸員研修、保存担当学芸員フォローアップ研修、第 16 回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。

③ **連携大学院教育　東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）**　東京文化財研究所

保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また、実習である文化財保存学演習を 1 コマ担当した。

京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進　奈良文化財研究所

京都大学大学院人間・環境学研究科において 5 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 3 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。なお、平成 23 年度の受入学生数は京都大学 75 名、奈良女子大学 5 名であった。

【埋蔵文化財担当者研修　課程数・受講者数】指標：年度計画
課程数（13 課程）

分析・評価

地方公共団体などで中核となる文化財担当者に埋蔵文化財等に関わる研修を行うとともに、博物館・美術館等の保存担当学芸員に保存科学に関する研修を行った。

また、連携大学の学生に対して研究指導を実施し、中核的文化財担当者や若手研究者の育成に貢献した。

研修のみならず、研修後に行われる受講者へのアフターケアも充実しており、アンケート調査では高い満足度を得ていることから、今後も継続的な事業の実施が期待される。

A	B	C	実績	定量的評価
13課程以上	10課程以上13課程未満	10課程未満	13課程	A

受講者数(述べ 160 人)

A	B	C	実績	定量的評価
160人以上	112人以上160人未満	112人未満	136人	B

【保存担当学芸員研修　研修期間・受講生数】指標：年度計画
研修期間(2 週間)

A	B	C	実績	定量的評価
2週間以上	―	2週間未満	2週間	A

受講生数(25 人)

A	B	C	実績	定量的評価
25人以上	18人以上25人未満	18人未満	27人	A

		過去の実績に関する経年データ					23年度
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
【埋蔵文化財担当者研修】	課程数(課程)	13	13	14	12	11	13
	受講者数(人)	182	155	170	130	137	136
【保存担当学芸員研修】(※)	研修期間(週)	2	2	2	2	2	2
	受講生数(人)	30	32	29	31	33	27

※保存担当学芸員研修フォローアップ研修を除く

(参考)法人の自己評価

埋蔵文化財担当者研修、保存担当学芸員研修は毎年継続して実施しており、地方公共団体の文化財担当者や博物館・美術館の保存担当学芸員等を対象に、文化財の調査研究や保護について研修を実施することにより、将来的な文化財保護行政を担う人材の育成を図ることができていると考える。また、連携大学院教育においても、同様に人材育成に貢献している。

【(大項目)2】 Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【(小項目)2－1】 業務の効率化

【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 一般管理費等の削減

中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。

なお、19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。

このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。具体的には下記の措置を講じる。

(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
・廃棄物減量化
・リサイクルの推進

3 契約の適正化の推進

「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成 21 年 11 月 17 日閣議決定)に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」(平成 22 年 12 月 7 日閣議決定)に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

4 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書 個別表
p534 Ⅱ-1-(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化
p535 Ⅱ-1-(2) 計画的なアウトソーシング
p536 Ⅱ-1-(3) 使用資源の減少
p537 Ⅱ-1-(4) 自己収入の増大
p539 Ⅱ-3 契約の適正化の推進
p540-545 Ⅱ-4 保有資産の有効利用の推進

・自己点検評価報告書 統計表
p124 Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数

評価基準	実績	分析・評価
○中期目標の期間中、一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図ったか。 ・共通的な事務の一元化を図ったか。 ・計画的なアウトソーシングを図	**(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化** 1)web 給与明細システムを23年5月給与より正式運用開始した。機構全体で職員の45.6%(858人のうち391人、24年3月給与支給日現在)について紙媒体での給与明細配布を終了し、給与事務の効率化を図った。また新財務会計システム更新について、24年4月正式運用開始に向けて準備を進めた。現行では別システムまたは紙により処理している購入依頼、科学研究費、旅費処理等の会計処理・管理を一元化する予定であり、財務会計事務の効率化が見込まれる。 2)国立博物館各館及び各研究成果公開施設における23～27年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を2回開催し、連絡・調整を行った。 3)アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、23 年 9 月の LAN 新設時に機構 VPN(Virtual Private Network)に接続した。また、機構共通	Web給与明細システムの導入などによる共通的な事務の一元化や、電気・機械設備、清掃業務等の計画的なアウトソーシングが行われており、業務の効率化が図られている。 また、エネルギー使用量について

ったか。
・エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%の削減を図ったか。
・廃棄物の減量化を図ったか。
・リサイクルの推進を図ったか。

○競争性のある契約への移行を推進したか。また、民間競争入札等の推進を図ったか。

グループウェア「サイボウズ」の機構全体での運用を継続し、機構内の連絡調整・情報共有を推進した。

(2)計画的なアウトソーシング

・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。
・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。また、研究所は警備業務の全てを外部委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。
・東京国立博物館及び東京文化財研究所における施設管理・運営業務(展示等の企画運営を除く)及び東京国立博物館展示場における来館者等対応業務について民間競争入札を実施している。

(3)使用資源の減少

・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。
・廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。
・リサイクルの実施(廃棄物の分別収集，リサイクル業者への古紙受け渡し，再生紙の発注等)

使用資源の推移等

光熱水料金　(単位:千円)

事項	22 年度	23 年度	差額	増減率
電気料	350,947	359,663	8,716	2.48%
水道料	79,777	82,330	2,553	3.20%
ガス料	98,213	127,175	28,962	29.49%
計	528,937	569,168	40,231	7.61%

※電気料は全体として使用量ベースでは減少したが、原料高騰による契約単価及び燃料調整費の上昇により使用料金ベースで増額となった。

事項	22年度単価(円／kwh)	23年度単価(円／kwh)	差(円／kwh)	単価影響額(千円)
電気料特殊要因	13.6	14.3	0.7	17,507

※水道料は、東京国立博物館で来館者増加に伴って増加した。
※ガス料については、下記の特殊要因により使用量・料金ともに増加となった。
・ガス量特殊要因① 原料高騰により契約単価が上昇した。
・ガス料特殊要因② 東日本大震災に伴う電力ピークシフトに協力し、夏季において東京国立博物館のガス設備を夜間稼動させ、その稼動率低下を補うために運転時間を延長した。
・ガス料特殊要因③ 改修工事のため昨年度休館していた東京国立博物館東洋館のガス設備を開館準備に伴って再稼動させた。

事項	22 年度単価(円／㎥)	23 年度単価(円／㎥)	差(円／㎥)	単価影響額(千円)
ガス料特殊要因①	66.6	73.7	7.1	14,397

事項	増加量(㎥)	23 年度単価(円／㎥)	影響額(千円)
ガス料特殊要因②	139,392	70.03	9,762
ガス料特殊要因③	98,812	70.03	6,920

特殊要因を考慮した光熱水料金　(単位:千円)

事項	22 年度	23 年度	差額	増減率
電気料(※)	350,947	342,156	△8,791	△2.50%
水道料	79,777	82,330	2,553	3.20%
ガス料(※)	98,213	96,096	△2,117	△2.16%
計	528,937	520,582	△8,355	△1.58%

※電気・ガスについては特殊要因を勘案して算定。

廃棄物排出量　(単位:kg)

事項	22 年度	23 年度	差額	増減率(%)
一般廃棄物	273,407	255,976	△17,431	△6.38%

は、東日本大震災の影響や原料高騰などに伴う特殊要因により削減できなかったが、特殊要因を除くと1.58%の削減となり、概ね目標は達成できている。

さらに、廃棄物の減量化やリサイクルについての取り組みも進められており、一般管理費、事業費が計画的に削減されていると評価できる。

また、契約規則の整備、随時契約の見直し、一般競争入札、執行体制や審査体制の整備により、契約の競争性、透明性の確保に向けた適切な運用が行われている。

【一般管理費の削減状況】
○一般管理費の削減は順調に進められたか。

【一般管理費の削減状況】

(単位:千円)

	22年度実績	23年度実績	削減割合
一般管理費(物件費)	927,243	883,219	△4.75%

【事業費の削減状況】
○事業費の削減は順調に進められたか。

【事業費の削減状況】

(単位:千円)

	22年度実績	23年度実績	削減割合
業務経費(物件費)	4,300,918	3,977,086	△7.53%

【契約の競争性、透明性の確保】
○ 契約方式等、契約に係る規程類について、整備内容や運用は適切か。

【契約に係る規程類の整備及び運用状況】

(1)契約に係る規程類
①独立行政法人国立文化財機構会計規程
②独立行政法人国立文化財機構会計規程の特例を定める規程
③独立行政法人国立文化財機構予算、決算及び出納事務取扱細則
④独立行政法人国立文化財機構契約事務取扱細則
⑤独立行政法人国立文化財機構施設等設計業務プロポーザル実施細則
⑥独立行政法人国立文化財機構工事に関する競争参加資格審査委員会及び総合評価審査委員会に関する取扱細則
⑦独立行政法人国立文化財機構における大型設備等の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項
⑧独立行政法人国立文化財機構契約情報公表要項
⑩契約情報公表に必要な事項に関する取扱
⑪独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項
⑫独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項
⑭標準型プロポーザル方式の実施要項
⑮公募型及び簡易公募型プロポーザル方式の実施要項
⑯調査の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑰研究開発の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑱広報の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑲情報システムの調達に入札に係る関する総合評価落札方式
⑳独立行政法人国立文化財機構における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」に関するマニュアルについて
(2)国の契約基準と異なる規程の有無
「独立行政法人等における契約の適正化について(通知)」(平成20年12月3日付、20文科会第583号)を受け、国と同様の契約基準としたため、国の契約基準と異なる規程はない。

○契約事務手続に係る執行体制や審査体制について、整備・執行等は適切か。

【執行体制】
・法人内の役職別契約従事者数(施設系職員は含まない)
本部事務局　財務担当室長1名、係員1名
東京国立博物館　経理課室長1名、契約担当係　係長1名、主任・係員3名(本部事務局職員兼務)
経理担当係　係長1名、主任・係員2名(本部事務局職員兼務)
京都国立博物館　課長補佐1名、財務担当係　係長1名、主任・係員3名
奈良国立博物館　財務担当係　係長1名、係員2名
九州国立博物館　課長補佐1名、財務担当係　係長1名、主任2名
東京文化財研究所　管理室長1名、契約担当専門職員1名
奈良文化財研究所　課長補佐1名、会計担当係　係長1名、用度担当係　係長1名、係員1名

契約に係る規程類の整備及び契約事務手続は適切に行われている。

文化財購入など随意契約によらざるを得ない契約を除き、競争入札は推進されている。

また、監事監査ならびに内部監査においてチェックを実施するとともに、契約監視委員会による契約の点検も実施されている。

民間競争入札の推進に当たっては、入館者に対するサービスの向上や苦情に対する対応、収蔵品・展示品等の維持・保管等において信用できる業者の選定が望まれる。

【審査体制】
①内部のチェック体制
各施設に分任契約担当役を設置し、各施設において契約処理ならびに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合、契約が適正かを十分に精査し、契約を行うよう本部から指導の徹底を行っている。
②内部でのチェック対象案件の抽出方法
各施設において契約された契約のうち、契約金額や案件等から抽出した契約にかかる書類等を監事監査ならびに内部監査においてチェックを実施し、適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。

【契約監視委員会の審議状況】
(1)実施回数　2回([第1回]平成23年12月5日/[第2回]平成24年6月4日)
(2)実施対象契約案件
[第1回]
・平成23年度(4月～10月期)における契約実績
・平成23年度(11～3月期)における契約見込
[第2回]
・平成23年度(11月～3月期)における契約実績
・平成24年度(上半期)における契約見込
(3)委員会点検内容
・平成23年度における競争性のない随意契約及び一者応札・一者応募及び平成24年度上半期の契約見込について、その見直し内容についての点検を実施
(4)評価結果
・一者応札・一者応募となっているものについては、引き続き十分な公告期間の確保や競争参加資格についての見直しなどの対応をとること。なお、インターネットサーバで一者応札となったものについては、今後同種の契約の際は納入期間を十分確保するよう改善されたい。
また、随意契約見直し計画の達成状況については、機構の特殊性として随意契約とせざるを得ない文化財購入について、その件数と金額が年度により大きく変わるので、これが要因となり未達成の年度が生じる場合は未達成も致し方ないと判断する。

【随意契約等見直し計画】
○「随意契約等見直し計画」の実施・進捗状況や目標達成に向けた具体的取組状況は適切か。

【随意契約等見直し計画の実績と具体的取組】

	①平成 20 年度実績		②見直し計画(H22 年 4 月公表)		③平成 23 年度実績		②と③の比較増減(見直し計画の進捗状況)	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
競争性のある契約	164	1,968,416	235	2,334,578	171	3,680,258	△64	1,345,680
競争入札	142	1,718,996	199	2,009,789	132	3,438,898	△67	1,429,109
企画競争、公募等	22	249,420	36	324,789	39	241,360	3	△83,429
競争性のない随意契約	152	1,469,766	81	1,103,603	69	983,703	△12	△119,900
合計	316	3,438,181	316	3,438,181	240	4,663,961	△76	1,225,780

複数年契約の締結により、競争性のある契約の実績金額が増加しており、随意契約の見直しは順調に進んでいる。

【個々の契約の競争性、透明性の確保】
○再委託の必要性等について、契約の競争性、透明性の確保の観点から適切か。

【再委託の有無と適切性】
当法人においては、再委託の実績はない。

再委託となっている契約はない。
一者応札・応募の原因は把握されているが、改善方策が公告期間の延長のみであり、さらなる改善方策の検討が望まれる。

○一般競争入札等における一者応札・応募の状況はどうか。その原因について適切に検証されているか。また検証結果を踏まえた改善方策は妥当か。

【一者応札・応募の状況】

	①平成 20 年度実績		②平成 23 年度実績		①と②の比較増減	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
競争性のある契約	164	1,968,416	171	3,680,258	7	1,711,842
うち、一者応札・応募となった契約	65	738,860	66	1,586,048	1	847,188
一般競争契約	55	531,498	48	1,483,049	△7	951,551
指名競争契約	0	0	0	0	0	0
企画競争	4	61,445	9	49,035	5	△12,410
公募	6	145,917	7	36,219	1	△109,698
不落随意契約	0	0	2	17,745	2	17,745

【原因、改善方策】
(1)原因
一者応募の増加は、件数においては文化財修理契約における企画競争が見直し時に比べ増加したこと、金額においては建物保守・電気供給等について複数年契約を締結したことが主たる要因となっている。
なお、文化財修理は、見直し時に一部を随意契約から企画競争へと移行したものであり、外部有識者を含めた修理契約委員会に諮った上で、特定の技術を持った修理業者を対象に企画競争を行っているが、応募者数が少ない案件も存在するため、一者応募が見直し時に比べて増えた要因となっている。文化財保護の観点から契約条件の見直しは難しいため、適切な公告期間を確保し、企画競争への参加促進を図っている。
(2)改善策
より多くの競争参加者を確保できるよう機構の自主的な措置として公告期間を原則 20 日間以上としている。

【一般競争入札における制限的な応札条件の有無と適切性】
一般競争入札において、制限的な応札条件を設けていない。

【関連法人】
○法人の特定の業務を独占的に受託している関連法人について、当該法人と関連法人との関係が具体的に明らかにされているか。

【関連法人の有無】
関連法人は無い。

関連法人はない。

【当該法人との関係】
該当なし。

○ 当該関連法人との業務委託の妥当性についての評価が行われているか。

【当該法人に対する業務委託の必要性、契約金額の妥当性】
該当なし。

【委託先の収支に占める再委託費の割合】
該当なし。

○関連法人に対する出資、出えん、負担金等(以下「出資等」という。)について、法人の政策目的を踏まえた出資等の必要性の評価が行われているか。

【当該法人への出資等の必要性】
該当なし。

公益法人等に対する会費の支出については、「独立行政法人が支出する会費の見直しについて(平成 24 年3月23日行政改革実行本部)」に従い、適切に実施することとしている。

【実物資産】
(保有資産全般の見直し)

【実物資産の保有状況】
① 実物資産の名称と内容、規模

実物資産の保有の必要性、資産規模の適切性、有効活用の可能性等に

○実物資産について、保有の必要性、資産規模の適切性、有効活用の可能性等の観点からの法人における見直し状況及び結果は適切か。

施　設	土　地(㎡)	建　物(延面積㎡)
東京国立博物館	120,258	71,642
京都国立博物館	53,182	13,831
奈良国立博物館	78,760	19,116
九州国立博物館	160,715(うち九博 10,733)	30,675(うち九博 9,048)
東京文化財研究所	4,181	10,623
奈良文化財研究所	46,468	36,786
合　計	463,564(313,582)	182,673(161,046)

※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地 149,982 ㎡、建物 6,034 ㎡を分有、建物のうち 15,593 ㎡は共有面積である。

・職員宿舎は保有していない。

② 保有の必要性(法人の任務・設置目的との整合性、任務を遂行する手段としての有用性・有効性等)
・展示棟、研究施設、事務所、収蔵品倉庫、資料館等として全ての建物を使用しており、博物館・研究所としての任務を遂行するために必要不可欠である。

○見直しの結果、処分等又は有効活用を行うものとなった場合は、その法人の取組状況や進捗状況等は適切か。

③ 有効活用の可能性等の多寡
・博物館・研究所の本来業務以外にも、講堂・会議室の貸与、建物・庭園等を映画等のロケーションとして貸出すなど部外者に対しても積極的な貸出を行い、施設の有効利用を図っている。

④ 見直し状況及びその結果
・③のように部外者に対する積極的な貸与等が実施されていることを確認し、今後もさらに継続することとしている。

⑤ 処分又は有効活用等の取組状況／進捗状況
・全ての資産は、博物館・研究所の任務を遂行するために活用されており、処分に該当する資産はない。有効活用については、今後もさらに継続することとしている。

○「勧告の方向性」や「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」等の政府方針を踏まえて処分等することとされた実物資産について、法人の見直しが適時適切に実施されているか(取組状況や進捗状況等は適切か)。

⑥ 政府方針等により、処分等することとされた実物資産についての処分等の取組状況／進捗状況
・該当なし。

○ 実物資産について、利用状況が把握され、必要性等が検証されているか。

⑦ 基本方針において既に個別に講ずべきとされた施設等以外の建物、土地等の資産の利用実態の把握状況
・該当なし。

⑧ 利用実態を踏まえた保有の必要性等の検証状況
・利用実態からも博物館・研究所としての任務を遂行するために必要不可欠である。

ついては、減損もなく、特に指摘すべき点はない。
　また、資産除去債務については、財務諸表の注記事項において適切に開示されており、特に問題はない。

(資産の運用・管理)
○資産の活用状況等が不十分な場合は、原因が明らかにされているか。その理由は妥当か。

⑨ 実物資産の管理の効率化及び自己収入の向上に係る法人の取組
・民間委託の推進として、電気設備保守等の各種保守業務、清掃業務、警備・監視等業務について、大部分を民間委託している。
・自己収入の獲得のための施設の有効利用として上記③を積極的に実施している。

○実物資産の管理の効率化及び自己収入の向上に係る法人の取組は適切か。

【金融資産】
(保有資産全般の見直し)
○金融資産について、保有の必要性、事務・事業の目的及び内容に照らした資産規模は適切か。

【金融資産の保有状況】
① 金融資産の名称と内容、規模
・現金及び預金の平成 23 年度末残高は約 51 億円であり、そのほとんどは施設整備費の未払金に充てるものである。
・東京国立博物館において、有価証券である満期保有目的債権(譲渡性預金)5 億円を保有していたが、解約した。

② 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)
・当座支払いのない現預金を利息のない決済用預金ではなく、安全で利息のある譲渡性預金として預け入れることにより、利息を運営費の一部に充当することが可能となる。

○資産の売却や国庫納付等を行うものとなった場合は、その法人の取組状況や進捗状況等は適切か。

③ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無
・該当なし。

④ 金融資産の売却や国庫納付等の取組状況／進捗状況
・該当なし。

(資産の運用・管理)
○資金の運用状況は適切か。

【資金運用の実績】
・東京国立博物館において、有価証券である満期保有目的債権(譲渡性預金)5 億円を保有していたが、国庫納付のため平成 23 年 6 月 27 日解約した。

【資金運用の基本的方針(具体的な投資行動の意志決定主体、運用に係る主務大臣・法人・運用委託先間の責任分担の考え方等)の有無とその内容】
・独立行政法人国立文化財機構会計規程第27条において、出納命令役は，業務の執行に支障がない範囲で，法令で定められた安全資産により余裕金の運用をすることができると定めている。
　また、東京国立博物館余裕資金運用取扱要項において、余裕資金の運用は運営会議の議を経て、館長が決定すること。運用の対象を寄附金、入場料等自己収入、その他館長が定める資金とすること。資金繰計画の作成を要すること。運用方法は、国債等、独立行政法人通則法第 47 条に指定する有価証券、預金等とすること。債権の発行者等の経営状況の把握することを定めている。

【資産構成及び運用実績を評価するための基準の有無とその内容】
・前年度より初めて 5 億円の運用を行ったのみの実績であるため、評価基準策定には至っていない。

○資金の運用体制の整備状況は適切か。

【資金の運用体制の整備状況】
・前年度より東京国立博物館において運用体制を新設したが、余裕資金の状況により今後整備を検討する。

　金融資産の保有の必要性、事務・事業の目的及び内容に照らした資産規模並びに資金の運用状況は適切であると認められ、特に問題はない。

○資金の性格、運用方針等の設定主体及び規定内容を踏まえて、法人の責任が十分に分析されているか。	【資金の運用に関する法人の責任の分析状況】 ・東京国立博物館での運用については、安全に計画どおりの利息を得ており、運用を計画した館長としての責任を果たしているものと判断される。	
（債権の管理等） ○貸付金、未収金等の債権について、回収計画が策定されているか。回収計画が策定されていない場合、その理由は妥当か。	【貸付金・未収金等の債券と回収の実績】 ・貸付金の実績なし。 ・未収金（建物、収蔵品画像使用料等）の管理は、独立行政法人国立文化財機構債権管理要項に基づき実施している。使用後精算する建物使用料、外国からの後払いの収蔵品画像使用料等の少額の未収金が大半のため、回収コスト等も考慮しながら実施している。 ・平成 23 年度末の未収金　　205 件、599,584 千円。 ・平成 24 年 6 月 15 日現在の未収金　23 件、1,136 千円。（16 件 1,048 千円は平成 24 年 7 月中に回収予定、7 件 88 千円は継続して督促を実施中）	
○回収計画の実施状況は適切か。 ⅰ）貸倒懸念債権・破産更生債権等の金額やその貸付金等残高に占める割合が増加している場合、ⅱ）計画と実績に差がある場合の要因分析が行われているか。	【回収計画の有無とその内容（無い場合は、その理由）】 ・同要項に基づき、未収金の債権管理を帳簿により行い、回収計画、督促状況等を記録している。滞留管理としての管理、保全手続きについても定めている。 【回収計画の実施状況】 ・回収計画に基づき実施しているが、債務者の所在不明等で、効果を上げない場合がある。 【貸付の審査及び回収率の向上に向けた取組】 ・該当なし。 【貸倒懸念債権・破産更生債権等の金額／貸付金等残高に占める割合】 ・該当なし。	
○回収状況等を踏まえ回収計画の見直しの必要性等の検討が行われているか。	【回収計画の見直しの必要性等の検討の有無とその内容】 ・平成 22 年度に新設された要項のため、回収計画の見直し等はしていないが、今後の状況の変化に対応し検討する。	
【知的財産等】 （保有資産全般の見直し） ○特許権等の知的財産について、法人における保有の必要性の検討状況は適切か。	【知的財産の保有の有無及びその保有の必要性の検討状況】 ・特許権3件（研究技法関係）と商標権7件（ロゴマーク等）を保有している。取得費用がいずれも少額であるため財務諸表上の資産計上はしていないが、権利として管理している。研究継続の必要性から研究技法関係特許の保有は必要であり、ロゴマーク等の商標権も運営上の支障となる他者の使用を未然に防止するために必要である。 なお、特許権は当然収入に繋がるものであれば活用するが、維持費との兼ね合いが今後の課題である。 取得特許件数3件 ①木材又は木造文化財の年輪幅又は密度測定装置並びに測定方法（21.5.22 登録：奈良文化財研究所） ②壁画漆喰層剥離用ワイヤソー装置及び壁画漆喰層剥離方法（22 .3.5 登録：東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ③文化財用表打ち材料及びそれを用いた文化財修復方法（22.12.10 取得：東京文化財研究所）	知的財産の保有の必要性や運用・管理については、いずれも適切と認められる。

○検討の結果、知的財産の整理等を行うことになった場合には、その法人の取組状況や進捗状況等は適切か。	【知的財産の整理等を行うことになった場合には、その法人の取組状況／進捗状況】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明取扱規程」に基づき対応することになる。	
（資産の運用・管理） ○特許権等の知的財産について、特許出願や知的財産活用に関する方針の策定状況や体制の整備状況は適切か。	【出願に関する方針の有無】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明取扱規程」に基づき、各施設長から理事長に届け出る。 【出願の是非を審査する体制整備状況】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明取扱規程」により整備されている。 【活用に関する方針・目標の有無】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明取扱規程」により規定している。 【知的財産の活用・管理のための組織体制の整備状況】 ・機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明取扱規程」により整備されている。	
○実施許諾に至っていない知的財産の活用を推進するための取組は適切か。	【実施許諾に至っていない知的財産について】 ① 原因・理由 研究成果の結実として特許権取得をしている。当機構における特許権取得は、パテント収入を目指すためではなく、研究継続の必要性から防衛的な対抗特許として保有することを主眼としている。当然収入に繋がるものであれば活用するが、その場合は維持費との兼ね合いが今後の課題である。 ② 実施許諾の可能性 ・収入に繋がるものであれば活用する。 ③ 維持経費等を踏まえた保有の必要性 ・防衛的な対抗特許として保有が必要であるが、維持費との兼ね合いが今後の課題である。 ④ 保有の見直しの検討・取組状況 ・特段必要に迫られる事項は発生していない。 ⑤ 活用を推進するための取組 ・収入に繋がるものであれば活用を推進する。	

【(小項目)2－2】	給与水準の適正化等

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
2　給与水準の適正化等
　国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成23年度まで継続するとともに、平成24年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

【評定】
A

H24	H25	H26	H27

実績報告書等　参照箇所
・自己点検評価報告書　個別表
p538　Ⅱ－2　給与水準の適正化等

評価基準	実績	分析・評価
○対国家公務員指数について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表したか。	・人事給与統合システムが平成 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。 ・地域手当について、平成 23 年度においても平成 21 年度の率を据え置く方針が決定された。 ・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について(ガイドライン)、平成 15 年 9 月 9 日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人HP上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。	対国家公務員指数は、事務・技術職員が 94.0、研究職員が 98.4 といずれも給与水準は適正である。 法人ホームページにおいても取り組み状況が公表されており、適正に実施されていると評価できる。 また、過年度から引き続き人件費の削減は順調に実施されている。
【総人件費改革への対応】 ○取組開始からの経過年数に応じ取組が順調か。また、法人の取組は適切か。	【総人件費改革への対応】 (単位:千円) 17 年度実績 / 23 年度実績 人件費決算額: 2,878,750 / 2,607,399 対 17 年度人件費削減率: ― / △9.43% 対 17 年度人件費削減率(補正値): ― / △6.03% ※人件費削減実績表中の「補正値」とは、「行政改革の重要方針」(平成 17 年 12 月 24 日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。なお、平成 18 年、平成 19 年、平成 20 年、平成 21 年、平成 22 年、平成 23 年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ 0%、0.7%、0%、△2.4%、△1.5%、△0.2%である。	過年度から順調に人件費の削減が行われている。
【給与水準】 ○給与水準の高い理由及び講ずる措置(法人の設定する目標水準を含む)が、国民に対して納得の得られるものとなっているか。	【ラスパイレス指数(平成23年度実績)】 ラスパイレス指数は事務・技術職員が 94.0、研究職員が 98.4 であり、国をそれぞれ 6 ポイント、1.6 ポイント下回っており、給与水準は適正であり、引き続き給与水準の適正化に努める。	対国家公務員指数による給与水準は適正である。

○法人の給与水準自体が社会的な理解の得られる水準となっているか。 ○国の財政支出割合の大きい法人及び累積欠損金のある法人について、国の財政支出規模や累積欠損の状況を踏まえた給与水準の適切性に関して検証されているか。		
【諸手当・法定外福利費】 ○法人の福利厚生費について、法人の事務・事業の公共性、業務運営の効率性及び国民の信頼確保の観点から、必要な見直しが行われているか。	【福利厚生費の見直し状況】 レクリエーション経費は運営費交付金からの支出はない。レクリエーション経費以外の福利厚生費(法定外福利費)は 14,917 千円である。また、国とは異なる諸手当は機構にはない。	福利厚生費に特段の問題はないと判断される。

【(小項目)2－3】	内部統制の充実・強化

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
5　内部統制の充実・強化
(1)理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。
(2)外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。
(3)管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。

【評定】
A

H24	H25	H26	H27

実績報告書等　参照箇所
・自己点検評価報告書　個別表
p546－p548　Ⅱ－5　.内部統制の充実・強化

評価基準	実績	分析・評価
○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行ったか。また、事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させたか。	**(1)理事長のマネジメント強化** 1)モニタリングの実施 ・自己点検評価を行い、『平成22年度　独立行政法人国立文化財機構自己点検評価報告書』を作成(23年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。 ・監事による定期監査(23年6月22日)を行った他、臨時監査を奈良文化財研究所(24年2月2日)、奈良国立博物館(24年2月3日)を対象に行った。 ・内部監査を、23年11月25日から12月22日の日程で、本部及び各施設を対象に順次行った。 2)リスクマネジメントの実施 ・理事長からの指示に基づき、関連する諸規程の整備を進め、東京国立博物館防災管理規則の改正(室名等・防火担当責任者・火元責任者の見直し)を行った。 ・理事長からの指示に基づき、危機管理マニュアルの見直し等を随時行い、京都国立博物館では地震発生時の広域避難所として敷地及び施設を開放する旨を明記した。また、奈良文化財研究所では所内の事務文書規程に合わせた危機管理マニュアルの修正を行った。 **(2)外部有識者による事業評価** ・運営委員会(23年8月3日)、外部評価委員会(研究所調査研究等部会：23年4月20日、博物館調査研究等部会：4月27日、総会：5月25日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。	自己点検評価、監事監査、内部監査及び外部評価委員会による評価が行われている。 理事長からの指示により、諸規程の整備や危機管理マニュアルの見直し等を行っている。 また、トップマネジメントの迅速かつ円滑な実行に向けて、環境整備が図られた。役員会、協議会など適正に開催が図られ、組織全体の取り組むべき課題の把握、ミッションの浸透が進展していると判断される。 組織全体で取り組むべき重要な課題の把握・対応のうち、「適切な人員の確保」については、業務補完としてアソシエート・フェローを起用しながら適切に業務運営を実施しているが、今後は、制度が持つ問題点にも留意しつつ、アソシエート・フェローの能力向上や経験値の拡大などの支援体制についての検討が必要である。
【法人の長のマネジメント】 (リーダーシップを発揮できる環境整備)	【リーダーシップを発揮できる環境の整備状況と機能状況】 ・理事長のトップマネジメントとそれを支える体制の確立 運営上の諸課題への対応方針の決定等については、「役員会」の協議を踏まえて理事長が行った。また、理事長の勤務地(京博)と本部の所在地(東博)が離れていることから、21年度に理事長代理にあたる「相談役」として規程化し、東京国立博物館長をあて、トップマネジメントとそれを支える体制を整えた。方針の決定に当たっては「運営委員会」などの評価及び	理事長がリーダーシップを発揮できる基盤としての「役員会」、理事長代理としての「相談役」及び「運営委員会」がそれぞれ機

○法人の長がリーダーシップを発揮できる環境は整備され、実質的に機能しているか。	提言を十分検討するとともに、方針決定後は速やかに実施するように留意した。また、各施設間で調整を図る必要がある課題については、「国立文化財機構7施設連絡協議会」及び「国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会」にて協議を行っている。	能していると認められる。 また、「国立文化財機構7施設連絡協議会」及び「国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会」による各施設間の調整もなされている。 これらのことから理事長がリーダーシップを発揮できる環境は整備され、実質的に機能していると認められる。
(法人のミッションの役職員への周知徹底) ○法人の長は、組織にとって重要な情報等について適時的確に把握するとともに、法人のミッション等を役職員に周知徹底しているか。	【組織にとって重要な情報等についての把握状況】 ・役員会(23年度開催回数：7回) 国立文化財機構の業務に関する重要事項について審議を行う。 ・運営委員会(23年度開催回数：1回) 機構の管理運営の重要事項について審議し、理事長に助言する。(現員17名) ・外部評価委員会(23年度開催回数：1回※博物館・研究所部会各1回実施) 国立文化財機構の業務の実績及び自己点検評価の妥当性について評価を行う。(現員13名) ・国立文化財機構契約監視委員会(23年度開催回数：2回) 機構の契約が適正であるか監視し、あわせて効率化の観点等から助言する。(現員6名) ・国立文化財機構7施設連絡協議会(23年度開催回数：3回) 法人全体や各施設の課題の整理や連絡・協議を行う。23年10月のアジア太平洋無形文化遺産研究センターの開設に伴い、会議名称を「国立文化財機構6施設連絡協議会」から「国立文化財機構7施設連絡協議会」に変更した。 ・国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会(23年度開催回数：2回) 研究調整役のもと、機構内の研究者間の情報交換の場を設け、展覧会企画、機構の取組み、課題等について協議を行う。 ・独立行政法人国立文化財機構情報化委員会(23年度開催回数：1回) CIOのもとに、各施設の情報担当者の情報交換の場を設け、るとともに、機構全体に係る情報システム・情報ネットワーク等について検討を行う。 以上のほか、各施設の情報の共有や意思疎通を図るため、22年度から稼働した機構内グループウェアの運用を継続している。 【役職員に対するミッションの周知状況及びミッションを役職員により深く浸透させる取組状況】 ・役員会(23年度開催回数：7回) 役員会を通じ機構の役職員に対するミッションの周知状況及びミッションを役職員により深く浸透させる取組を行っている。	役員会の他、7施設連絡協議会、研究・学芸系職員連絡協議会等により、各施設の連絡調整と情報共有を図るとともに、各施設内においては、全体会議及び部門別会議等を実施することで職員に対してミッションを周知していると認められる。 また、法人内のグループウエアが統合されており、法人全体または各施設別の電子掲示板により、関係する役職員への周知徹底や電子掲示板の機能を利用したフォローアップも可能となっている。 なお、従来から法人のウェブサイトにおける「理事長からのメッセージ」により、法人の経営理念・経営方針等を一般に周知してきている。
(組織全体で取り組むべき重要な課題(リスク)の把握・対応等) ○法人の長は、法人の規模や業種等の特性を考慮した上で、法人のミッション達成を阻害する課題(リスク)のうち、組織全体として取り組むべき重要なリスクの把握・対応を行っているか。	【組織全体で取り組むべき重要な課題(リスク)の把握状況】 リスクの把握については、役員会のほか ・国立文化財機構7施設連絡協議会(23年度開催回数：3回) 法人全体や各施設の課題の整理や連絡・協議を行い、必要に応じて役員会に上程している。 ・国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会(23年度開催回数：2回) 研究調整役のもと、機構内の研究者間の情報交換の場を設け、展覧会企画、機構の取組み、課題等について協議を行い、必要に応じ役員会に上程している。 などにより把握している。 把握している重要なリスクは以下の通りである。	組織全体で取り組むべき重要なリスクとして、①適切な人員の確保、②給与削減対応に伴う人事交流の確保、③大規模自然災害等への対応(耐震化等)、④文化財の破損・盗難・劣化等、⑤収蔵庫の不足、⑥電力逼迫下における収蔵庫・展示室等の適切な温湿度管理を把握している。

	・適切な人員の確保 業務の拡充・拡大にもかかわらず、人件費削減などにより人員の補充が困難であり、職員の負担が過大となっている。身分的に不安定な任期付きの非常勤職員やアソシエイトフェローによる対応には限界があり、文化財の取扱・展示・調査研究等に必要な専門知識や技術の継承が困難になりつつある。 ・給与削減対応に伴う人事交流の確保 臨時特例法（国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律）への対応については、国立文化財機構と従来人事交流を行ってきた大学法人等の間で差が生じており、人事交流の継続が困難になりつつある。 ・大規模自然災害等への対応（耐震化等） ・文化財の破損・盗難・劣化等 ・収蔵庫の不足 ・電力逼迫下における収蔵庫・展示室等の適切な温室度管理 【組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）に対する対応状況】 リスクに対する対応については、役員会のほか ・国立文化財機構7施設連絡協議会（23年度開催回数：3回） 法人全体や各施設の課題の整理や連絡・協議を行い、必要に応じて役員会に上程している。 ・国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会（23年度開催回数：2回） 研究調整役のもと、機構内の研究者間の情報交換の場を設け、展覧会企画、機構の取組み、課題等について協議を行い、必要に応じ役員会に上程している。 などにより対応している。	そして、これらの重要なリスクについて役員会及び国立文化財機構7施設連絡協議会、国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会において対応していると認められる。 また、中期目標・計画の未達成要因の把握・対応は行われていると認められる。 「①適切な人員の確保」については、業務補完としてアソシエイトフェローを起用しながら適切に業務運営を実施しているが、今後は、制度が持つ問題点にも留意しつつ、アソシエイトフェローの能力向上や経験値の拡大などの支援体制についての検討が必要である。
○その際、中期目標・計画の未達成項目（業務）についての未達成要因の把握・分析・対応等に着目しているか。	【未達成項目（業務）についての未達成要因の把握・分析・対応状況】 ・未達成項目については役員会において各施設長から聴取するなど、常に状況等を把握するよう努めている。またその対応についても、その都度協議している。	
（内部統制の現状把握・課題対応計画の作成） ○法人の長は、内部統制の現状を的確に把握した上で、リスクを洗い出し、その対応計画を作成・実行しているか。	【内部統制のリスクの把握状況】 内部統制のリスクについては、役員会において各施設長から聴取するなど、常に把握し、その都度協議している。 把握している内部統制のリスクは以下の通りである。 ・競争的資金にかかる不正防止 ・個人情報の管理 ・ハラスメント防止 ・情報システム管理・セキュリティ対策 【内部統制のリスクが有る場合、その対応計画の作成・実行状況】 リスクについては役員会において各施設長から聴取するなど常に把握し、リスクへの対応計画などについては役員会において協議し、最終的に理事長の判断により実施時期、実施期限などを定めている。また、その進捗状況等については役員会にて随時報告している。 把握しているリスクについては、関連する規程等を整備し、リスクに対応できる体制を整えるとともに、監査・研修等の実施により状況の確認及び職員への周知等を図っている。	内部統制のリスクとして①競争的資金にかかる不正防止、②個人情報の管理③ハラスメント防止、④情報システム管理・セキュリティ対策を把握している。 これらの重要なリスクへの対応計画などについては、役員会において協議し、最終的に理事長判断により実施時期、実施期限などを定めている。また、その進捗状況等について役員会にて随時報告している。 さらに、関連する規程等を整備し、リスクに対応できる体制を整えるとともに、監査・研修等の実施により状況の確認及び職員への周知等を図っていると判断している。
【監事監査】	【監事監査における法人の長のマネジメントに関する監査状況】	監事監査の規程及び体制は整備されており、監事監査の実施状況等についても適切に実施されていると認められる。また、役員会等への出席をとおして理事長のマネジメントに留意している。
○監事監査において、法人の長のマネジメントについて留意しているか。	1. 監査規程の整備状況 （1） 監事監査 ①独立行政法人国立文化財機構監事監査要項（平成19年4月1日制定） ②独立行政法人国立文化財機構監査実施基準（平成 19 年 4 月 1 日制定） （2） 内部監査 ①独立行政法人国立文化財機構の会計に関する内部監査要項（平成19年11月13日制定） ②監査計画 内部監査実施要項を参照し、その都度本部事務局財務課で作成する。 （3）独立行政法人国立文化財機構職員倫理規程（平成19年4月1日制定） 2. 監査体制の整備状況 （1） 監事監査 ①監事（文部科学大臣任命） 2名（専任：非常勤2名） ②監査の事務補助（監事監査要項第8条） 平成23年度実績2名 （2） 内部監査 ①監査員（内部監査要項第5条） 理事長が命ずる職員 平成23年度実績：11名 3. 監査実績（実施項目、実施時期、監査手法等） （1） 監事監査の実績 ①監事監査の概要 独法統合後（平成19年4月以降）各年度において、役員会その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本部において、財務及び業務についての状況を調査した。さらに、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認した。 ②定期監査スケジュール、報告書、指摘事項等 ○ 監事監査計画作成（4月）→ 提出先：理事長 ○ 定期監査（6月） 業務監査・会計監査（毎年度1回）→ 監査結果報告書（提出先：理事長）監査結果報告については、役員会で結果を報告することとしており役職員に対して具体的に周知している。 ③その他の監査 役員会その他重要な会議への出席。聴取、意見交換等，必要に応じた臨時監査 （関係役職員からの聴取等）等。 ○臨時監査（服部監事） ・奈良国立博物館（24年2月2日） ・奈良文化財研究所（24年2月3日） ④会計監査人との連携 会計監査人からの監査計画の報告（12月頃），会計監査人からの監査報告（6月） ⑤「独立行政法人、特殊法人等監事連絡会」総会への参加 ⑥会計検査院実施の研修等参加 23年度 1 名 （2） 内部監査の実績 ①内部監査の概要 内部監査要項に基づき平成23年度においては、本部事務局を含めた全施設を対象として、会計全般及び物品（固定資産・少額備品）の管理状況、概算払の会計処理、債権管理及び科学研究費補助金について監査を実施した。 ②監査スケジュール、報告書、指摘事項等 ○内部監査計画の通知：平成23年11月22日 ○実地監査実施： 23 年 11 月 29,30 日（奈良文化財研究所） 23 年 12 月 5 日 （京都国立博物館） 23 年 12 月 6 日 （奈良国立博物館） 23 年 12 月 9 日 （東京文化財研究所）	

	23 年 12 月 12,13 日（九州国立博物館） 23 年 12 月 21,22 日（本部事務局、東京国立博物館） ○内部監査報告書の提出：監査実施後2週間以内 4. 監査結果概要 内部監査報告書について（報告）（平成24年2月14日） 5. 監事監査報告書 独立行政法人国立文化財機構監事監査要項（平成19年国立文化財機構理事長決裁第8号）第10条第1項に基づく平成23年6月22日付けの監査結果報告書 【監事監査における改善点等の法人の長、関係役員に対する報告状況】 監査終了後に報告書を提出いただいている。また第3回役員会においてその結果を報告している。	
○監事監査において把握した改善点等について、必要に応じ、法人の長、関係役員に対し報告しているか。その改善事項に対するその後の対応状況は適切か。	【監事監査における改善事項への対応状況】 23 年度監査報告は、役員会での報告により理事長および役員が内容について認識した。監事が役員会・国立文化財機構7施設連絡協議会等に出席することにより、監事の要望事項が法人の運営に適切に反映されるよう確認を行った。	
○職員研修等を実施したか。	・職員の資質の向上と能力開発の推進を図るため、本部事務局及び各施設において次のとおり実施した。 主　催 ／ 研　修　等 本部事務局・東京国立博物館：新任職員研修、接遇研修、個人情報保護講演会、産業医による講習会、施設系職員研修、ハラスメントに関する講演会及び研修会、防災訓練 京都国立博物館：衛生管理講習会、普通救命講習会、マナー講習会、初期消火活動講習、個人情報保護研修会 奈良国立博物館：防災訓練、産業医による講習会、パワハラ防止に関する講習会、個人情報保護研修 九州国立博物館：防災訓練、ハラスメント防止研修、個人情報保護講演会 東京文化財研究所：個人情報保護講演会※1、ハラスメントに関する講演会※2、産業医による講習会※3、総合防災訓練およびAED操作講習会 （※1、2 は東博での開催時に参加、※3 は東博と共催） 奈良文化財研究所：新人研修、産業医による講習会、消防訓練 アジア太平洋無形文化遺産研究センター：消防訓練(堺市博物館主催)、個人情報保護研修	
○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組んだか。また、情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施したか。	**(3)情報セキュリティ対策の向上と改善** ・「独立行政法人国立文化財機構保有個人情報管理規程」に基づき、以下の通り、保有個人情報管理監査を行った。 （実施者　服部監事） ・奈良文化財研究所(24年2月2日) ・奈良国立博物館(24年2月3日) ・情報システム監査要項に基づき、以下の通り情報システム監査を行った。 ・京都国立博物館（23 年 9 月 7 日） ・九州国立博物館（23 年 9 月 9 日） ・機構内全職員が利用するグループウェア「サイボウズ・ガルーン 2」（22 年度運用開始）は、「サイボウズ・ガルーン 3」にバージョンアップし(24 年 2 月 4 日)、運用を継続した。機構内の連絡及び情報共有の大幅に効率化とセキュリティ向上に寄与した。 ・サイボウズのサーバーは東京国立博物館内に設置しており、バックアップサーバーを奈良文化財研究所内に 23 年度設置予定であったが、ハードウェアの不具合により、24 年度設置予定となった。 ・新財務会計システムの更新について、24 年 4 月正式運用開始に向けて準備を進めた。	「サイボウズ・ガルーン 3」にバージョンアップすることによる情報共有とセキュリティ向上を評価している。また、情報セキュリティに係る監査も実施されている。

	・web 給与明細システムについて、23 年 5 月給与より正式運用を開始した。（九州国立博物館はシステム環境整備のため 24 年 4 月より開始予定）	

【(大項目)3】	Ⅲ 財務・人事	【評定】 A

H24	H25	H26	H27

【(小項目)3−1】	予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画	【評定】 A

H24	H25	H26	H27

実績報告書等 参照箇所

・自己点検評価報告書　個別表
　p537　Ⅱ−1−(4)自己収入の増大

・決算報告書

・財務諸表
　p2　損益計算書
　p3　キャッシュフロー計算書

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。

1 予算(中期計画の予算)
「実績」欄参照

2 収支計画
「実績」欄参照

3 資金計画
「実績」欄参照

Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、20億円
短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

なし。

Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

奈良文化財研究所本館改築計画の実施に伴い取り壊し予定。

Ⅶ 剰余金の使途

決算において、剰余金が発生した時は、次の経費等に充てる。

1 文化財の購入・修理
2 調査・研究、出版事業の充実
3 展覧会の充実
4 来館者サービス、情報提供の質的向上
5 国際協力
6 老朽化対応のための施設設備の充実

Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備に関する計画

施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

3 中期目標期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。

4 積立金の使途

前中期目標期間の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

評価基準

【収入】

実績

○自己収入の増大

1) 入場料収入(共催展を除く)及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。

下表のとおり、△8.17%となり、目標を下回った。

(単位:千円)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
自己収入基準額	874,112	884,252	894,510
自己収入目標額	884,252	894,510	904,886
自己収入実績額	949,900	1,002,524	821,470
増　加　率	8.67%	13.38%	△8.17%

※受託研究・受託事業を除く。
※自己収入目標額は、前年度の目標額から 1.16%増加した場合の額。
※増加率は、自己収入基準額(前年度の目標額)に対する増加率。

2) 寄附金 226 件及び科学研究費補助金 76 件の確保を目指す。

下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成 23 年度
寄附金	226 件	393 件
科学研究費補助金	76 件	76 件

【平成23年度収入状況】

(単位:千円)

収入	予算額	決算額	差引増減額
運営費交付金	7,941,068	7,941,068	0
施設整備費補助金	4,792,204	4,413,828	△378,376
展示事業等収入	1,187,811	1,318,305	130,494
受託収入	26,000	507,253	481,253
その他寄附金等	0	240,624	240,624
計	13,947,083	14,421,078	473,995

【主な増減理由】

・施設整備費補助金は前年度からの繰越と次年度への繰越で 378,376 千円の減少となっている。
・展示事業等収入は入場料収入等が予算を上回り 130,494 千円の増加となっている。
・受託収入は、当初予定外の受託契約が多かったことにより増加している。受託収入とその他寄附金等を合わせると、予算と比較して 721,877 千円の増加となっている。

分析・評価

予算、収支計画、資金計画は、震災の影響を受けつつも、着実な努力が認められる。

入場料収入等の自己収入は定量的な目標を下回ったが、これは東日本大震災による影響が大きいものと考えられる。しかしながら、震災後すぐに一般来館者から寄附金を集めるとともに、寄附金としても167件アップしており、科研費も昨年なみの件数で、全体的には目標達成と評価できる。

また、運営費交付金の未執行は、震災の影響による東京国立博物館東洋館の工事遅延によるものであり、やむを得ないものと判断する。

【支出】

【平成23年度支出状況】

（単位：千円）

支出	予算額	決算額	差引増減額
管理経費	1,502,222	1,627,030	△124,808
人件費	668,609	709,363	△40,754
一般管理費	833,613	917,667	△84,054
業務経費	7,626,657	7,325,442	301,215
人件費	2,449,971	2,406,849	43,122
調査研究事業費	1,297,142	1,440,250	△143,108
情報公開事業費	168,998	146,713	22,285
研修事業費	17,806	15,685	2,121
国際研究協力事業費	244,894	177,711	67,183
展示出版事業費	186,940	196,561	△9,621
展覧事業費	3,205,668	2,845,797	359,871
教育普及事業費	55,238	95,876	△40,638
施設整備費	4,792,204	4,413,828	378,376
受託事業費	26,000	512,338	△486,338
計	13,947,083	13,878,638	68,445

【主な増減理由】

・一般管理費は消費税納付（189,872 千円）等により 84,054 千円の増加となっている。
・調査研究事業費は奈良文化財研究所における機器の購入（98,761 千円）等により 143,108 千円の増加となっている。
・国際研究協力事業費は、震災の影響により在外古美術品の修理件数及び海外研究者の招へい人数が減少したことにより、67,183 千円の減少となっている。
・展覧事業費は震災の影響で事業の順延や中止を余儀なくされたことによる事業の縮小や陳列品購入の減少等により 359,871 千円の減少となっている。
・施設整備費の減少は収入状況同様、繰越金の入り繰りにより 378,376 千円の減少となっている。

【収支計画】

【平成23年度収支計画】

（単位：千円）

区分	計画額	実績額	差引増減額
費用の部	6,906,925	8,909,578	2,002,653
経常経費	6,906,925	8,907,622	2,000,697
管理経費	1,084,290	1,631,193	546,903
うち人件費	668,609	791,988	123,389
うち一般管理費	415,681	839,205	423,524
業務経費	5,413,834	6,269,294	855,460
うち人件費	2,449,971	3,037,094	587,123
うち調査研究事業費	742,747	870,593	127,846
うち情報公開事業費	95,482	129,383	33,901
うち研修事業費	10,553	15,684	5,131
うち国際研究協力事業費	138,114	171,051	32,937
うち展示出版事業費	112,613	178,971	66,358
うち展覧事業費	1,833,208	1,770,642	△62,566
うち教育普及事業費	31,146	95,876	64,730
受託事業費	26,000	511,154	485,154
減価償却費	382,802	490,385	107,583
その他費用	0	5,596	5,596
臨時損失	0	1,956	1,956

収益の部	6,906,925	8,947,547	2,040,622
運営費交付金収益	5,310,312	6,430,317	1,120,005
展示事業等の収入	1,187,811	1,297,183	109,372
受託収入	26,000	521,470	495,470
資産見返運営費交付金戻入等	382,802	470,108	87,306
寄附金収益等	0	219,849	219,849
その他の収益及び臨時利益	0	8,620	8,620
前中期目標期間繰越積立金取崩	0	6,315	6,315
計	0	44,284	44,284

【主な増減理由】

・支出の部人件費の実績額には非常勤職員分（一般：82,626 千円、業務：630,245 千円）を含む。
・一般管理費は、消費税納付（189,872 千円）等のため 423,514 千円の増加となっている。
・展覧事業費は、震災の影響により展覧事業の一部を縮減したこと等により 62,566 千円の減少となっている。
・展覧事業費以外の業務経費は、抑制した陳列品購入費を修繕等費用にあてたため、全体的に増加している。
・収益の部は、主に当初予定外の受託事業収益の増加や寄附金収益等で計画額を設定していないため、実績額が増加している。

【資金計画】

【平成23年度資金計画】

（単位：千円）

区分	計画額	実績額	差引増減額
資金支出	13,947,083	13,671,645	△275,438
業務活動による支出	6,524,124	9,675,398	3,151,274
投資活動による支出	7,422,959	3,982,715	△3,440,244
財務活動による支出	0	13,532	13,532
資金収入	13,947,083	15,188,964	1,241,881
業務活動による収入	9,154,879	10,339,027	1,184,148
運営費交付金による収入	7,941,068	7,941,068	0
展示事業等による収入	1,187,811	1,762,691	574,880
受託収入	26,000	496,937	470,937
その他の収入	0	138,331	138,331
投資活動による収入	4,792,204	4,849,937	57,733
施設整備費補助金による収入	4,792,204	4,849,937	57,733
資金増加額	－	1,517,319	－
資金期首残高	－	3,580,504	－
資金期末残高	－	5,097,823	－

【主な増減理由】

・投資活動による支出の減少は、施設整備費として措置されていた京都国立博物館平常展示館建替工事の予算の一部を繰越したことによる。
・資金収入は、受託収入は当初予定外の受託契約の増、その他の収入は寄附金収入等で計画額を設定していないため、それぞれ額が増加している。

○短期借入金は有るか。有る場合は、その額及び必要性は適切か。

【短期借入金の有無及び金額】

短期借入金の実績はない。

【必要性及び適切性】

該当なし。

短期借入金はない。

○重要な財産の処分に関する計画は有るか。ある場合は、計画に沿って順調に処分に向けた手続きが進められているか。	【重要な財産の処分に関する計画の有無及びその進捗状況】 奈良文化財研究所本館は、平成 25 年度に取り壊しを予定しており、平成24年度にはそれに向けた調査を実施する予定である。	重要な財産の処分に関する計画はない。
【財務状況】 （当期総利益（又は当期総損失）） ○当期総利益（又は当期総損失）の発生要因が明らかにされているか。	【当期総利益（当期総損失）】 当期総利益は 44,284 千円である。	財務状況については、自己資本比率が高く、当期総利益を計上しているなどから、特段の問題はないと判断している。当期総利益の発生要因は、展示事業等収入が予算を上回ったこと等によるものであり、法人の業務運営に問題等はないと判断している。
○また、当期総利益（又は当期総損失）の発生要因は法人の業務運営に問題等があることによるものか。	【当期総利益（又は当期総損失）の発生要因】 展示事業等収入予算額 1,187,811 千円に対して、130,494 千円超の 1,318,305 千円の収入実績があったこと等による。	
（利益剰余金（又は繰越欠損金）） ○利益剰余金が計上されている場合、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から実施されることが必要な業務を遂行するという法人の性格に照らし過大な利益となっていないか。	【利益剰余金】 前中期目標期間からの繰越額 653,432 千円（※）から、受託収入等で購入した固定資産の減価償却見合取崩額 6,315 千円を差し引いた 647,117 千円に、23 年度総利益の 44,284 千円を加えた 691,401 千円を利益剰余金として計上している。 ※繰越額内訳（①自己収入により購入した固定資産（収蔵品）の価格 613,500 千円、②受託収入等で購入した固定資産の残存価格 29,983 千円、③前期からの前中期目標期間繰越積立金 9,025 千円、④リース損益 924 千円）	利益剰余金の要因は適切であり、法人の性格に照らし過大な利益剰余金ではなく、特に問題ないと判断している。 利益剰余金はインセンティブになるようにする必要がある。
○繰越欠損金が計上されている場合、その解消計画は妥当か。	【繰越欠損金】 該当なし。	
○当該計画が策定されていない場合、未策定の理由の妥当性について検証が行われているか。さらに、当該計画に従い解消が進んでいるか。	【解消計画の有無とその妥当性】 該当なし。 【解消計画に従った繰越欠損金の解消状況】 該当なし。 【解消計画が未策定の理由】 該当なし。	
（運営費交付金債務） ○当該年度に交付された運営費交付金の当該年度における未執行率が高い場合、運営費交付金が未執行となっている理由が明らかにされているか。	【運営費交付金債務の未執行率（%）と未執行の理由】 5%（396,338 千円）。東日本大震災の影響による東洋館耐震補強工事の遅れから、付随する工事にも遅れが生じたこと等による未達事業の次年度への繰り越しによる。	運営費交付金の未執行は東日本大震災の影響によるものであり、業務運営に与える影響も軽微であり、特段の問題はないと考えている。

○運営費交付金債務（運営費交付金の未執行）と業務運営との関係についての分析が行われているか。	【業務運営に与える影響の分析】 工事等に関する日程調整は全て完了しているため、次年度の業務運営に与える影響は軽微である。	
（溜まり金） ○ いわゆる溜まり金の精査において、運営費交付金債務と欠損金等との相殺状況に着目した洗い出しが行われているか。	【溜まり金の精査の状況】 該当なし。 【溜まり金の国庫納付の状況】 該当なし。	溜まり金はない。
【施設及び設備に関する計画】 ○施設及び設備に関する計画は有るか。有る場合は、当該計画の進捗は順調か。	【施設及び設備に関する計画の有無及びその進捗状況】 京都国立博物館平常展示館は、平成 24 年度末の竣工に向けて進捗中である。	京都国立博物館平常展示館は、順調に進捗中であると認められる。
【中期目標期間を超える債務負担】 ○中期目標期間を超える債務負担は有るか。有る場合は、その理由は適切か。	【中期目標期間を超える債務負担とその理由】 中期目標期間を超える債務負担はない。	中期目標期間を超える債務負担はない。
○利益剰余金は有るか。有る場合はその要因は適切か。	【利益剰余金の有無及びその内訳】 上記のとおり。	
【積立金の使途】 ○積立金の支出は有るか。有る場合は、その使途は中期計画と整合しているか。	【積立金の支出の有無及びその使途】 6,315 千円を自己収入で取得した固定資産の減価償却見合として取り崩している。	積立金の支出はない。

【(小項目)3－2】	人事計画に関する計画

【法人の達成すべき目標(計画)の概要】
Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項
2 人事計画に関する計画
(1)方針
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。
(2)人員に係る指標
給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。
中期目標期間中の人件費総額見込額　13，087百万円
但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。

【評定】
A

H24	H25	H26	H27

実績報告書等 参照箇所
・自己点検評価報告書 個別表
p549-p553　Ⅳ-2 人事計画に関する計画

評価基準	実績	分析・評価
○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ったか。 ○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を図ったか。 ○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行ったか。 ○適切な人員配置等を推進したか。 【人事に関する計画】 ○人事に関する計画は有るか。有る場合は、当該計画の進捗は順調か。 ○ 人事管理は適切に行われているか。	【人事に関する計画の有無及びその進捗状況】 ・ 常勤職員の削減状況 平成 18 年度から継続的に業務の見直しや人員の再配置、退職後の職員の不補充を行い、常勤職員を 355 人としている。 ・ 常勤職員、任期付職員の計画的採用状況 ・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行い、平成 20 年度に施設の維持管理を行う職員を適用範囲とした。	人事計画については、計画的に常勤職員の削減が実施され、アソシエイト・フェローの充実など、専門スタッフの育成に取り組んでいる。 また、文化庁や四館・二研究所相互、さらに大学との人事交流を積極的に実施しており、各種研修と併せ優秀な人材の確保と育成がなされている。

	・平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度(アソシエイト・フェロー)を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とした。平成 23 年度は東京国立博物館で 7 名、東京文化財研究所で 6 名、奈良文化財研究所で 3 名及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターで 2 名を採用した。(計 18 名) ・常勤職員については、平成23年度において、事務職員を本部事務局で1名、東京国立博物館で 3 名、研究職員を東京国立博物館で 3 名、奈良国立博物館で 1 名、九州国立博物館で 1 名、東京文化財研究所で 3 名、奈良文化財研究所で 4 名、アジア太平洋無形文化遺産研究センターで 1 名採用した(計 17 名)。 ・人事交流の実績 事務系職員:文化庁、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等との人事交流を実施(70 名) 機構内の各施設間における人事交流の実施(12 名) 研究系職員:文化庁から 9 名の受け入れ及び文化庁への出向を 14 名行っている 危機管理体制等の整備・充実に関する取組状況 ・災害等の危機管理体制については、「独立行政法人国立文化財機構防災規程(規程第 44 号)」及び各施設にて「危機管理マニュアル」を制定して危機管理体制を整備し、非常時の対応を明確化している。	

２．　独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価

目　次

１．外部評価委員会報告

２．外部評価委員評価書

（１）総会

（２）博物館調査研究等部会

（３）研究所調査研究等部会

１．外部評価委員会報告

はじめに

本委員会は、国立文化財機構における23年度自己点検評価について、研究所・センター調査研究等部会、博物館調査研究等部会、総会の３回に分けて開催し、評価の適正性や、各事業内容及び業務運営の効率化等について、外部の第三者による評価を実施した。評価にあたっては、定性的・定量的評価を基に客観性のある評価に努めた。

総　評

国立文化財機構が実施している事業は、日本の貴重な国民的財産である文化財を、将来にわたって永く保存するために欠かせないものである。

国立博物館は教育・サービス等の中核として国の文化教育を担い、展示等を通じて日本人の感性や知識を高めることに貢献し、日本の歴史・伝統文化への理解を深め、ひいては将来の日本の文化・社会の発展に大きく寄与するものである。国際化が進む現代においては、日本の歴史・伝統文化への理解は、日本のアイデンティティを認識し海外に日本を発信するための基本となるものであり、国際社会における日本の存在感を高めるためにも文化の果たす役割は大きなものがある。

また、文化財研究所は、文化財に関する基本情報・調査手法・科学技術等の調査研究により、文化財保護に必要な基盤を形成するための重要な役割を果たしている。

国の文化政策を実現する現場として、国立文化財機構の各施設は、文化財の展示・保存・調査研究等についていずれも特色のある事業を実施している。これらは、国民の生活を豊かなものにするとともに、長い歴史のもとに育まれた日本の文化の奥深さを、諸外国に対しても示していくものであり、日本の将来にとって重要な役割を果たしているものであることが広く認識されることを望む。

国立文化財機構はその役割から見て小規模であり、一律に人員・予算の削減がなされると、運営に重大な支障を生じる。国立文化財機構の対象とする業務は、日本の将来的な発展のためには、むしろ強化すべき分野ではないか。

国立文化財機構の 23 年度の実績については、各施設とも多様な分野にわたって質的にも量的にも、極めて高い実績を上げており、期待される成果を充分に挙げていると評価できる。

自己点検評価についても、定性的・定量的評価に努めるなどできる限り客観的に自己点検評価を行おうとする姿勢が感じられ、概ね妥当な判断となっている。ただし、評価報告書の記入の仕方は施設によるばらつきがやや見られ、評価が円滑に行われるようになったものの、やや形式的になった感もあるため、これらについては各施設間の相互調整と各施設内における積極的な検討が期待される。

機構内の協力体制については、昨年度に引き続き機構内の巡回展が開催されている他、博物館と研究所の共同事業として共同研究・共同調査が成果を上げており、協力体制は着実に進んできたように評価する。また、昨年の東日本大震災に対応した「文化財レスキュー」事業における機動的な活躍については、極めて高い評価が与えられるものと考える。震災後、博物館、研究所がただちに文化財レスキューに能動的に協力したことを評価する。こうした緊急の事業に積極的に取り組みながら、恒常的な業務にも大きな達成を実現した努力に対して、改めて敬意を表したい。

また、ユネスコとの協定に取り組むために、昨年 10 月にアジア太平洋無形文化遺産研究センターが開設されたことが報告された。同センターが、少ない人員にもかかわらず開設後円滑な調査研究を始め

たことは喜ばしい。今後専従の人員確保に力を入れ、東京文化財研究所文化遺産国際協力センターとも連携を取って、無形文化遺産の調査・研究・保存・伝承に力を入れていただきたい。

一方で、人的・財政的には依然として厳しい状況にある。業務の拡充、拡大にもかかわらず、人員の補充がままならず、職員の負担が過重の度を増していることが懸念される。適切な人員の確保が喫緊の課題であり、早急の善処が望まれる。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

全体的に、収蔵品の収集、寄贈・寄託の受け入れは順調に進んでいる。これは、文化財の良好な環境での保存や、一般への公開の機会を増やすものとして、こうした収蔵品の充実に向けた努力について評価したい。東京国立博物館においては、東洋館の耐震補強工事が完了し、再開館に至る運びであることは喜ばしいが、そのための支出が負担となって収蔵品の購入物件がなかったことは残念である。今回は東洋館の開館準備を最優先するというやむをえない事情の下での措置と理解されるが、今後の前例とならないよう配慮されたい。文化財の収集等については、国の支援が多くは期待できず、また企業メセナとの連携も経済環境の低迷により困難な中、拡充のための手立ては見出しにくいと思われるが、当機構の事業活動の最も基盤となる部分であり、寄贈、寄託の受け入れや外部資金の導入に積極的に取り組むことを望む。

また、収蔵品の展示などの活用面に対して一般の注目は集まりがちであるが、収蔵品の適切な管理保存、計画的な修理などの基礎的な活動も継続実施し、成果を上げている点は評価できる。特に環境整備や収蔵品等の修理についての報告は丁寧かつ具体的で、充実した内容だったことが伺える。文化財の修理、修復のために様々な最新技術が導入されていることも大変心強い。今後は、各施設が連携して、文化財のより良い保存、未来への継承が図られることを期待したい。一方で、次代への継承という点では、修理・保存の日常的な手当てが必要であり、機構全体でその組織、人員の整備に努力し、整備と継承は人材育成と併せて考慮されるべきである。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

国立博物館４館が厳しい財政の中で積極的な展示などによる情報発信に努めていることは頼もしい。平常展・特別展いずれについても、東日本大震災による影響を最小限に抑制し、充実した成果をおさめていると評価できる。国立博物館ならではの充実した内容の大規模な展覧会が、より一層発展的に行われたことを評価したい。

平常展では、干支や季節や行事に即した展示などは一般の興味を引くものとして評価できる。特別展に関しては、特に東京国立博物館の「写楽」では、類似画風の他の画家との対比を巧みに織りまぜていて大変興味深かった。また、東京・京都・九州の３館における大規模巡回展「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」は、各館がそれぞれ作品選定を行い巡回展に地域性を持たせた点で特筆される試みであった。特別展では目標値を大幅に上回る入館者数となったものも多く、人々に広く支持されていることが分かるが、来館者が異常に集中する場合の対応については、何とか工夫を重ねて混雑緩和策を図る改善をお願いしたい。また、著名な作品を集め観覧者を惹き付ける展示だけでなく、調査・研究の成果としての自主企画の展示活動も続けていただきたい。特に海外展については積極的に推進して欲しい。

平常展・特別展以外にも多角的に企画展示・シンポジウム・講座・列品解説などを展開する努力がなされている。教育活動に関しては、各機関の実情にあわせて、各種の講演会や講座が実施されているほか、親子ギャラリーやキャンパスメンバーズ活動など児童生徒・学生を対象とした教育学習プログラムも推進しており、評価できる。キャンパスメンバーズの活用については、文化事業の裾野を広げる上で若年層の関心を高めることが重要であり、学生が特別展に入りやすい環境を整えるべく、更なる工夫を検討していただきたい。そして、展覧会と連動する資料コーナーの整備など、学びの場としての博物館機能をさらに推進し、文化に関心をもつ若い世代に向けた下地作りの活動も視野に入れていただきたい。

マスメディアとの連携やウェブサイトの活用による広告宣伝活動も相当成果を挙げているように見受けられる。各館ともウェブサイトは年々充実しており、今後もさらに推進されるべきだが、それが利用できる環境にない人も多く、紙媒体の広報にもさらに工夫が必要と感じられる。海外への発信に関しては、現在急速に発展を続ける近隣アジア諸国の対外文化活動の拡充なども十分念頭に置いてより一層充実に努めるべきである。

3　我が国における博物館の中核としての機能の評価

調査研究成果の発信、海外研究者の招聘、研修プログラムについては、順調に実施されている。各館とも、日本における博物館の中核として、限られた予算にもかかわらず、機能の強化に努めており、その職責をよく認識して、先進的かつ国際的な活躍をしていることを評価したい。

調査研究成果の発信については、研究紀要や報告書などの内容をホームページで公開する事業をさらに進めていただきたい。また、展覧会で研究成果を集中的に紹介するなど、研究者・専門家向けだけでなく広く国民向けに分かりやすい形でも発信していただきたい。

海外との人的交流については、近年軌道に乗ってきたように見受けられる。定量評価も、海外からの研究者招聘については、4 館とも増加、S 評価であり喜ばしい。今後ますます交流が活発化し、共同研究の海外発信や共同事業の実現など具体的成果に結び付くことを期待したい。

収蔵品の貸与や公私立博物館・美術館に対する援助・助言についても、日常的な指導・助言については一定の実績をあげていると見受けられるが、地域からのニーズや要請がある場合は、収蔵品の長期貸与や地域の人材を受け入れ、育成を図ることなどを通じ、その活性化を積極的に応援して欲しい。

なお、東日本大震災に関連した文化財レスキュー事業においては、東京文化財研究所に事務局を設置し、各施設とも積極的に取り組まれており、評価できるものである。今後、放射能汚染の問題とともに、緊急時に備えた全国的な協力・支援体制づくりが課題となるなか、日本における博物館の中核としてのさらなる機能強化を期待したい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

各施設とも基礎的・先端的な文化財の調査・研究において、多方面にわたり充分な成果を挙げていると評価できる。

研究所の調査研究では、東京文化財研究所のサントリー美術館蔵泰西王侯騎馬図屏風の高精細デジタル画像形成など、著名かつ重要ではあるが研究対象とはし難い作品を資料化した成果は極めて貴重である。東日本大震災への対応で研究所の人員や予算等が相当投入されたと思われるが、それにもかかわらず当初から計画されていた事業が大過なく推進されたことは、平時における研究所の緊張感ある研究姿勢の賜物と言える。その中で、津波資料への対応や保存環境の省エネ、仏像群の地震転倒予測など震災関連の課題にも新たな研究テーマとして取り組んでおり、高く評価できる。

奈良文化財研究所においては、「文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究」で指導的役割を果たしており、注目される。また、『木奥家所蔵大工道具調査報告書』として江戸時代の春日座大工関係の古文書がまとまって公刊されていることは、奈良文化財研究所の底力を感じさせる成果の一つと言える。人員や予算を考えると奈良文化財研究所の発表や論文などの多さは特筆すべき成果である。東京文化財研究所も同様に、真摯な取組みが見て取れる。新しい課題に取り組む姿勢も窺えて頼もしい。発掘調査に関しても、平城宮東院地区や藤原宮朝堂院地区で新たな知見を蓄積している。

なお、両研究所が最先端保存技術を駆使し合同・分担して進めている高松塚古墳とキトラ古墳に対する劣化防止と修復措置については、順調と聞いて安堵しているが、各方面から注目されている事業でもあり、慎重かつ堅実な進捗を期待したい。

他方、博物館の調査研究においては、各館共に館の特性を活かした調査研究が意欲的になされており、いずれも頼もしく今後の発展が期待される。調査研究「特別調査『工芸』第３回」のような国立博物館４館と文化庁の専門家が合同で調査研究する機会の増えたことも嬉しく、「仏教美術作品の光学的調査」（奈良国立博物館・東京文化財研究所）や「『中国遼寧省遼代仏教文物展（仮称）』の開催に向けた合同調査」（奈良国立博物館・奈良文化財研究所）のように、同じ機構内の文化財研究所との共同研究にも積極的になってきたことを喜んでいる。文化財のデジタル撮影に関しては、今年度は昨年度にも増して多くの撮影が行われているが、デジタル撮影データの保存と活用については、各館でそれぞれに検討実行するとともに、国立文化財機構がリードして、各館が知識や経験を相互に提供し、将来的な検討を進めて欲しい。

多くの調査研究が展示活動を下支えしていることも、国立博物館の在り方として正当であり、評価する。九州国立博物館での特別展「よみがえる国宝―守り伝える日本の美」は、文化財の修理と保存、復元という視点からの研究の成果であり、文化財を伝えてきた日本の伝統的な技や心に迫る意欲的な展覧会であった。また一方で、奈良国立博物館において行っている「世界遺産学習」における幼稚園児をも含めた児童への指導プログラムは新しい試みとして注目される。園児のみならず、多方面への影響も考えられ評価したい。

東京国立博物館での「近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究」の成果発表、京都国立博物館での「特別展覧会『中国近代絵画と日本』に関する調査」の継続的対応、九州国立博物館での「日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究」の更なる進展を望む。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

文化財の保存・修復事業を通した国際協力では、日本ならではの質の高さから大きな実績を挙げており、非常に評価できる。特に東京文化財研究所では、国際協力の成果を和英両方の版で刊行するという形を常態としており、現地への成果還元に常に敬意を払っている調査研究の有り様は評価したい。東アジア、東南アジア、西アジア等で継続した事業が着実に推進され、タイではアユタヤの洪水被害調査に即応したほか、旧石器時代を含むカザフスタン南部の多層遺跡、世界遺産を目指すミクロネシアのナン・マドール遺跡など、より広い時代・地域への事業拡大にも積極的であった。

奈良文化財研究所は、国際面ではむしろ技術供与や人材育成の面での貢献が大であり、今後にも期待が寄せられる。ベトナムのタンロン皇城遺跡やカンボジア・西トップ寺院遺跡など着実に成果を挙げているものが目立ち、当地の研究者の育成にも結び付いているのは心強い。

国際協力は単に文化財の調査、研究の進展だけでなく、日本の国際貢献に寄与することはいうまでもない。ある意味で“国際平和活動”であり、文化の面で日本への信頼感を高め国際的な存在感の向上に

繋がり、両研究所の継続的な取り組みは大きな価値を持つ。今後は、各国・各組織との協力体制を、個々の所員の尽力に負うのみでなく、研究所としての組織的な事業として欲しい。

また、無形文化遺産分野の国際研究交流事業においては、アジア太平洋無形遺産研究センターの設立によって、今後、どのように文化財研究所と連携し、国際協力に貢献していくのかに注目したい。

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

インターネットによる調査・研究成果やデータベースなどの発信・公開が多くの人々からアクセスされていることを評価したい。また、研究所の報告書・研究論集などの出版物が多様かつ大量に刊行さていることは研究所の研究活動の活発さをよく表わしており、評価できる。

しかしながら、海外や研究者向けでない国民全般に向けての発信という面ではさらに努力の余地があるのではないか。海外向けの情報発信については、単に研究成果の公表にとどまらず文化に関する日本の国際貢献として大きな意味をもつものであり、特にアジア諸国にとって我が国の文化遺産事業の内容は大いに貢献するはずであるという点を両研究所の担当者には考慮していただきたい。今後は、インターネットによる論文・データなどの PDF 公開をさらに拡大して展開していただくとともに、両研究所の図書資料や所内で公開しているデータ・資料などの閲覧公開についても、さらに部外研究者や市民による利用を促進する方向を、公開体制のさらなる整備や広報などの諸面において進めていただきたい。

また、講演会、発掘調査の現地説明会などは行われているが、そのほかに「オープンキャンパス」に似た公開事業も求めたい。博物館と違って研究所やセンターは市民との交流の機会が限られている。その意味で、研究所やセンターの業務を市民に紹介する取り組みの実現を期待したい。国民の文化財保存・研究に対する意識の向上のためには、研究内容を分かりやすく伝える方法を検討する必要がある。調査研究の成果を研究者向けのみではなく、一般国民に対しても分かりやすい形で発信していただきたい。

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

地方公共団体等が実施する事業への援助・助言は、文化財、建造物・遺跡等、無形文化遺産を対象に展開されている。日本における文化財保護に関する総合的な機能・人員を有する機関として、国立文化財機構の存在意義は非常に大きい。中でも文化財レスキュー事業の活動は特筆に値する。被災文化財の救出に大きく貢献しただけでなく、災害への対応が平時の事業枠に収められ、迅速な活動に結び付いたことを評価したい。今後は地元自治体や民間の歴史資料保存ネットワーク、大学などと連携を密にし、より一層の被災文化財の救出に全力を挙げていただきたい。また、今回の救援活動をある程度公表していくことも、国民に対する活動の透明性に繋がり、研究所に還ってくるものが大きいと思われるので、一考願いたい。

大学院との連携による若手人材育成は、大学教育の中に科学の現場実務を持ち込むことができるという意味で、極めて有用と評したい。引き続き文化財研究における高い研究レベルを活かした高等教育への協力をさらに進めていただきたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務の効率化に関しては、共通的な事務の一元化と各種業務のアウトソーシングを継続しており、評価できる。効率化の目標を適切に掲げており、大部分が達成され、あるいは達成される見通しがついているように思われる。ウェブ給与明細システムの運用が開始されたが、機構内の業務について、さらにペーパーレスを目指し、検討されたい。業務の一元化については、博物館に共通の教育活動分野と、研

究所による国際協力の分野では検討する余地があるように思われる。

他方、そのような効率化が各施設の運営や望ましい雰囲気の形成に負の効果をもたらしていないかどうかも注意すべきことである。効率化は大切であるが、各施設の特質を活かす形で行われる必要がある。

人件費の削減では任期付きの非常勤職員が増えていることを憂慮する。また、総人件費改革による毎年の人件費削減が職員のモチベーションを低下させ、それが人材流出に拍車をかけることも危惧する。有能な人材を確保し、適切な職場環境を維持していくためには魅力ある人事給与制度が不可欠である。適切な給与体系の確保とともに、機構と外部機関との間に一定の人材の交流と異動が可能となるような人事制度についても検討いただきたい。

経費削減に関する定量評価にあたっては、実績と特殊要因を考慮した場合とを区別した評価を行ったことは妥当である。節電については、今後も温暖化対策として冷暖房の省エネ運転が求められる中、いかに収蔵品の適切な管理保存を行うかという難しい舵取りがせまられることになると想像できるが、より一層の努力をお願いしたい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

人件費の見積もり等をも含め、予算、収支計画、ならびに資金計画は適正に検討されているが、大幅な運営費交付金の削減が、いよいよ博物館の在り方の中枢にも影響を与えつつあるようで危惧される。「運営費交付金」と「施設整備費補助金」という二つの収入が全収入の 9 割を超える機構の財務基盤を考えると、国の政策や行政方針に従った運営が求められるのはやむを得ないが、このような状況においては、自己収入の増大を図るための自助努力も必要である。

自己収入を増加させることは即ち各博物館の平常展や特別展など入場者数を増やし、入場料収入を増やすことに他ならない。そのためには、各特別展の収入規模とこれに係る支出内容、ならびにその採算性の原因分析を行い、特別展の企画段階からある程度、採算性を想定することが必要である。機構の特別展は必ずしも収益性の追求を目的とするものではないが、採算性の想定ができれば、機構全体の活動収支のバランスを取り、適切な額の収入を確保して財政基盤の安定に貢献することも可能と思われる。入場料収入の他に、保有資産の活用による自己収入の増大も対策の一つである。また、より一層の民間資金の活用にも積極的に力を入れて欲しい。海外の事例を参考に、外部資金を調達することで、長期的な資金計画に民間資金を組み込む努力を期待したい。

これらの効率化や外部資金獲得の努力をあわせながら、適切な研究環境を確保するとともに、優秀な人材の確保・育成のための資金計画を忘れてはならないと考える。短期間で成果をあげることが、社会的に求められがちになっているが、文化政策においては、長期的な見地にたって継続的に調査や基礎研究を行い、着実に実績を蓄積していくことが重要であり、これは我が国における文化の活性化自体にも関わる。中長期の目標として、我が国の国内外に向けた文化政策の充実に向けた、夢と希望のある予算と組織の将来像を描いて欲しい。

Ⅳ　その他人事計画等

現在の人事計画等は、国立文化財機構を構成する各博物館、研究所、センターの実情を踏まえて十分に検討されているように思われるが、職員の負担が年々大きくなっているようで懸念される。時には過多、過重なプログラムの設定を見直す必要もある。職員の努力には敬意を表するが、労務管理、健康管理なども怠ってはならない。

また、アソシエイトフェローなどで若手研究者を任期付きで活用することについては、果たして文化

を担う人材の裾野を広げる効用があるのか、あるいは業務遂行上やむを得ざる方策に過ぎないのかを、よく検証し、将来の文化財研究を支える若手研究者の「使い捨て」にならないよう、有益な人材育成への配慮が望まれる。

一方、団塊世代の定年後、その方々が保有する専門的知識や技術を如何に伝承していくかは、我が国の社会全体における深刻な問題である。今年度、新規に研究職員を 13 人採用されているが、今後とも世代交代を見込んだ計画的な雇用をお願いしたい。

なお、文化関係 3 法人の統合の方針が出されたようであるが、法人の目的がさらに多角化することによって、文化財に関して非常に高いレベルの調査・研究・展示・保存・継承・活用・発信・国際協力の成果を実現してきた現機構の体制が後退することのないよう、「小回りが利かなくなる」ことのない制度設計をお願いしたい。文化関係３法人の統合後の法人が、我が国の文化芸術及び文化財行政にとって、現機構以上の役割を果たすことを十分念頭に置いて行われるべきであることは言うまでもない。機構の構成員全員が、文化関係３法人の統合後は新組織の構成員全員が、アジアで最高、世界で有数の文化関係法人を目指すべく、あるいは保つべく、新鮮なアイデアを出し合い、次々と実施に移すことのできるような、人事計画を期待するものであり、能動的に文化や学術活動に取り組む人材を長い時間をかけて育成しうる場として、主導的立場にあることを自覚し、変革期の設計図をじっくりと描いていただきたい。

以上

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	清　水　眞　澄	（三井記念美術館 館長）
副委員長	横　里　幸　一	（ＮＨＫプロモーション代表取締役社長）
委員	鮎　川　眞　昭	（公認会計士）
委員	稲　田　孝　司	（岡山大学名誉教授）
委員	岡　田　保　良	（国士舘大学イラク古代文化研究所教授）
委員	小　林　　忠	（学習院大学名誉教授）
委員	酒　井　忠　康	（世田谷美術館 館長）
委員	佐　藤　　信	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
委員	園　田　直　子	（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）
委員	玉　蟲　敏　子	（武蔵野美術大学造形学部教授）
委員	藤　田　治　彦	（大阪大学大学院文学研究科教授）
委員	森　　弘　子	（福岡県文化財保護審議会専門委員）
委員	柳　林　　修	（読売新聞大阪本社記者）

２．外部評価委員評価書

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎総会

外部評価委員名

横　里　幸　一

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

計画にもとづき着実に積み上げてきた努力と成果は大いに評価したい。高品質な文化財の収集・保存・修理は、当機構の事業活動の最も基盤となる部分であり、それぞれ一層の活性化を期待したい。

文化財の収集等については、国の支援が期待できず、また企業メセナとの連携も経済環境の低迷により困難な中、拡充のための手立ては見出しにくいと思われが、何か新たな展開があればと望まれる。

前にも述べたことだが、寄贈・寄託、カルテ作成、修復等について、数量的にどう推移し、どの程度完了しているのか、その全体像についてより判りやすい情報の提供をお願いしたい。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

平常展・企画展いずれについても、震災による影響を最小限に抑制し、充実した成果をおさめていると評価したい。

しかし、文化事業の裾野を広げる上で若年層の関心をいかに高めることが出来るか、未だに足踏み状態が続いているが、有効な方策を本気に考えなければならないと危機感を感じている。

例えばキャンパスメンバーズを増やすためのインセンティブのあり方、ＷＥＢ活用の高度化などについて、共催者だけでなく若者自身の知恵や発想を活かす方途を考えてみてはどうか。

また、ＨＰアクセス数が約６５０万と聞いたが、その増減状況や利用者からの意見・反響などについても伺ってみたい。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

海外との人的交流については、近年軌道に乗ってきたように見受けられる。近い将来、共同研究の海外発信や共同事業の実現など具体的成果に結びつくことを期待したい。

ナショナルセンターへの期待が高まる中、日常的な助言・指導については一定の実績をあげていると見受けられるが、もしニーズがあるのであれば、各博物館から地域人材を受け入れ長期・計画的に育成を図ることで、日本トータルの底上げにさらに寄与することが出来るのではないかと思われる。

また、これも地域からの要請があるのであれば、収蔵品の長期貸与などを通じその活性化を積極的に応援してほしい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進 5　文化財保護に関する国際協力の推進 6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 必ずしも充実しているとは言い難い我が国の文化行政の中で、当機構が担うべき役割は大変大きいと考えられる。しかし、その事業活動に対する国民の認識・理解は、どこまで浸透しているのであろうか。 当機構は、行政システムの中に位置づけられる一般的な独立行政法人とは同列に論じられない多くの要素があると思われる。効率的業務運営に努めるのは無論であるが、むしろ機構自身が今後の斬新なビジョンを広く国民に示すことにより、理解と支持を高めることの方がはるかに重要なのではないか。
Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画 毎年度予算の削減が画一的に進められ、一方では計画を上回る収入がインセンティブとして還元されない現実には大きな違和感を感じてきた。法改正に伴う改善が本当に実現されるのか、注視していきたい。
Ⅳ　その他人事計画等 委員会で毎年課題として取り上げられる非正規雇用について、どう考えたら良いのか。一概に否定するものではないが、果たして文化を担う人材の裾野を広げる効用があるのか、あるいは業務遂行上やむを得ざる方策に過ぎないのか、よく検証していただきたい。 東博で数年前に行った、専門分野を越えて横串を通した組織改革の効果には目を見張るものがあった。館の事業活動は大いに活発化したと考えられるが、一方で研究職がカバーする領域が広がり繁忙感が高まる中、学術的専門性の向上および後世への継承について若干の不安があり、体制をもう一度見直す必要もあるのではないだろうか。

◎総会

外部評価委員名 **鮎　川　眞　昭**

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
1　**歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承** ①　23 年度においては東日本大震災により、当機構の活動にも様々な影響があった。そうした中、

東洋館の耐震補強工事が完了し、再開館に至ったのは喜ばしいことであったが、そのための支出が負担となって東京博物館において収蔵品の購入がストップしてしまった。　こうした施設保全・修理整備工事のための支出は、年度予算において文化財の購入とは異質のものである。　当然、別枠予算で手当てがなされるはずのものではないか思われる。運営費交付金はこのような異なる支出に対し、それぞれに別個の予算枠を設けることはできなかったのか疑問に思う。

② 今後 30 年以内にマグニチュード 9 クラスの大地震が東海、関東地域などに起こる可能性が非常に高いと言われている現在、文化財を保護するために当機構の保有する建物等について高い耐震強度を確保することが急務である。予算が限られている中でこうした分野にどれだけ先行投資が出来るかがカギである。安全基準値を算定し、現在の設備にどれだけの耐震補強が必要かを組織的、網羅的に調査研究する必要がある。現在、機構にはこうした調査を実施し、具体的な補強工事に必要な予算を設定するための委員会、またはプロジェクトチームが存在し、機能しているのか？　東日本大震災後、当機構内に被災地域の文化財保護のための救援プロジェクトが立ちあげられ実績を挙げたことが報告されている。　このようなプロジェクトから得られた教訓と経験知を生かす事も大事だと思う。

③ 文化財の修理、修復のために様々な最新技術が導入されていることは大変心強い。

2　**文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信**

① 23 年度においては京都博物館が平常展示館の建て替え工事により休止状態であったこと以外、活発な活動が展開されてきたと思う。　児童を対象とした文化財に早い段階で接し、その価値を知る機会を与えて文化に対する理解を深めさせようと言った教育学習プログラムの推進は大いに評価できる。（親子ギャラリーやキャンパスメンバーズ活動など）

② 来館者に対する各種サービスも充実強化されてきている。特に“音声ガイド”や“案内パンフレット、リーフレット”などの整備も進んでいる。ただ来館者が異常に集中する場合の対応（大混雑、長蛇の列と長い待ち時間、展示品を鑑賞時間を短縮する制限など）について、改善できないのかという評価委員の指摘は頷けるものである。何とか工夫を重ねて混雑時の問題の緩和策を図ってほしい。

③ 来館者に対するサービスの一環として、また当機構の収入財源としてショップやレストランの充実を図り、これを効率的に運営することによって顧客満足度を高めることも有効ではないかと思われる。パリのルーブルや NY のメトロポリタン美術館などではかなり大規模なレストラン運営がなされている。

④ マスメディアとの連携やウェブサイトの活用による広告宣伝活動も相当成果を挙げているように見受けられる。ウェブサイトへのアクセス件数の向上も十分に検討されている。

3　**我が国における博物館の中核としての機能の強化**

① 海外研究者の招聘や国際的研究交流についてかなりの努力がはらわれているが、未だ十分な実績が得られていないのではないか？　開催件数や参加人員を見る限りそうした印象を受ける。

② 様々なテーマが設けられ、それぞれに適切な調査研究活動が行われていると思われる。

4　**文化財に関する調査及び研究の推進**

①　様々な調査研究のテーマが設けられ、それぞれに適切な活動が行われていると思われる。

5　**文化財保護に関する国際協力の推進**

①　主要な国際協力活動のテーマが設けられ、それぞれに適切な活動が行われていると思われる。

6　**情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信**

①　情報のデータベース化、ネットワーク化とセキュリティー強化など様々なテーマが設けられ、それぞれに適切な活動が行われていると思われる。

7　**地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上**

②　地方公共団体に対する主要な協力のテーマが設けられ、それぞれに適切な活動が行われていると思い割れる。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

①　一般管理費の削減という要請に対しては中長期的に 15%以上の削減、業務経費については5%以上の削減という目標が定められている。　しかし、一般管理費中の最大費目、人件費の大幅削減は組織の根本にもかかわる問題であり、これは結果的に機構の活動を制約することになる。このため「人件費については「国家公務員の給与水準等を十分考慮してその適正化に取り組むこと」とされており、単純な削減目標値は示されていない。このこと自体は当然のことと思われる。

②　人件費の大幅削減を強制することは、一方で非正規雇用（不定期採用、パートタイマーや嘱託などの人員）を生むことにも繋がり、機構の「我が国の文化財を保護し次世代に引き継いでいく」と言う社会的使命に照らし問題を生じかねない。特に文化財の調査研究や修理・保存の専門家の育成確保に支障をきたすことが懸念される。

③　一方で人件費を抑制することが求められるが、他方では機構の社会的使命を果たすために有能な人材を確保し、適切な職場環境を維持していくためには魅力ある人事給与制度が不可欠である。現在では研究者や専門技術者が外部機関に流出することが懸念されており、また有能な人材の獲得が困難な状況も懸念される。　評価委員会の総会でもこの問題が指摘された。このジレンマを克服するためには適切な給与体系の確保とともに、機構と外部機関（各種の研究機関や美術館及び大学など）との間に一定の人材の交流と移動（派遣や受け入れ、出向、転籍など）が可能となるような人事制度を確立する必要がある。　民間企業ではこのような人材の交流移動制度は広く一般に見られることである。

④　機構における文化財の調査研究や保護に必要な専門家の育成と確保いう観点からは、こうした分野の人材について非正規雇用制度を採用することは避けるべきであろう。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

①　「運営交付金」と「施設整備費補助金」という二つの収入が全収入の 9 割を超える機構の財務基盤を考えると国（文化庁と文部科学省など）の政策や行政方針に従った運営をすることが求められるのはやむを得ないところである。　しかし自助努力が可能な領域もある。それ

は自己収入（博物館の入場料など）である。

② 自己収入を増加させるのはすなわち各博物館の平常展や特別展など入場者数を増やし、入場料を増やすことに他ならない。機構においては経理上、各特別展について個別収支計算が出来る仕組みが出来ている。この個別収支計算によって各特別展の入場料収入額とこれに係る運営経費が明瞭に表示される。　機構はこのデータを活用し、各特別展の収入規模とこれに係る支出内容、ならびにその採算性の原因分析を行い、これを機構の運営委員会に報告する。採算の良かった特別展は何が成功の原因だったのか、逆に採算の悪かった企画は何がその原因だったのかが明確になる。

③ これによって今後ある特定の特別展の企画・開催がどれほどの採算を目標に行われるべきかを予め想定することが可能になる。　勿論、機構の特別展は必ずしも収益性の追求を目的するものではなく、場合によっては損失を覚悟（少ない予想入場料に対し多額の運営費用がかかるケース）であっても学術的あるいは啓蒙的な観点から実施すべき企画もあることは承知している。　しかし、企画段階から或る程度、採算性を想定することができれば機構全体の活動収支のバランスを取り、適切な額の収入を確保して財政基盤の安定に貢献することもできるようになる。

④ また、平常展についても同様に収支計算をすることが可能である。　これは東京、京都、奈良、九州の 4 博物館の平常展がどのような収支実績をなっているかを明確にすることである。これは自己収入となる入館料を増加させるために各博物館がそれぞれに対策を講じ、その結果を把握することにつながる。　機構の運営委員会はこの報告を元に機構全般の経営目標を設定し、各博物館に所要の収支対策を求めることが出来るようになる。

⑤ 保有資産の活用による自己収入の増大も対策の一つである。　施設を様々なイベントや講演会、セミナーやシンポジウムなどの場として提供し利用料収入を得るものである。　現時点ではこれらの事例が未だ少ないように見受けられる。　使用時間帯の制限問題や施設のセキュリティー問題は事前に解決しなければならないが、こうした利用実績を拡大していく余地は十分にあると思われる。

Ⅳ　その他人事計画等

人事交流制度などについて前出Ⅱにおいて述べている。

◎総会

外部評価委員名

稲　田　孝　司

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

東京国立博物館で新規収蔵品購入がなかった点については、今回はやむをえない事情の下での措置と理解されるが、こうしたことが今後の前例とならないよう配慮されたい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

震災の影響で常設展入館者が一時期少なくなったことは残念であるが、特別展では各館とも意欲的な企画・展示を行った。特に東博の「写楽」では、その作家の特異さのみを誇張するのではなく、同じ画風の先駆者や類似画風の他の画家との対比を巧みに織りまぜ、同時代の全体像の中に位置付ける努力がなされていてたいへん興味深かった。「北京故宮博物院 200 選」は、これだけの作品を日本へ借り出すだけでも大変な努力であり、盛況であったことを喜びたい。ただ、清明上河図のみに焦点を当てたマスコミの取り上げ方があったためか、入館前に寒風の中で約 1 時間列を作り、清明上河図を見るために館内の通路・階段でさらに 3～4 時間並んだというのは、その多くが分別ある壮年・老年の方々であっただけに、いかにも異常な社会現象であった。もとより館側では後列からでも少しは実物を見られること、拡大コピーで離れた距離からでも細部を確かめられること等を事前に説明していたが、そうした配慮を超えた一種の社会的熱病に対しても、何らかの対応が必要かもしれない。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

文化財研究所を中心とした文化財レスキューでの活躍は時宜を得たものであったが、今後は、国や関係地方公共団体から文化財の放射能除染に関する技術的支援の要請が出てくることが予想されるので、それに応えられる準備が必要であろう。

（以下の４～７についてはすでに記述済み）

4　文化財に関する調査及び研究の推進

5　文化財保護に関する国際協力の推進

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

経費削減に関する定量評価にあたって、実績と特殊要因を考慮した場合とを区別して評価を行ったことは妥当である。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

特になし

Ⅳ　その他人事計画等

独立行政法人の再編にあたっては、独立行政法人として統合される以前の各機関の伝統と個性が極力生かされるよう配慮していただきたい。

◎総会

外部評価委員名

岡　田　　保　良

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

東博で資料購入がなかった点を含め、点検評価は適正になされている。九博では交流を示す資料の購入が計画に沿えなかったようだが、購入について慎重であったと理解したい。

環境整備や収蔵品等の修理についての報告は丁寧かつ具体的で、充実した内容だったことが伺える。ただ非常勤スタッフに依存する点、前年度に指摘があるものの、改善されたとの報告はない。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

博物館で最も重きをなす業務として、充実した展覧事業が行われ、適正に評価されている。報告中、満足度のアンケート結果について委員会でも意見交換があったところだが、消極的評価については精査する必要があるだろう。

教育活動では、キャンパスメンバーズやインターンシップ、友の会など、４館通有の業務については本機構下で統一的かつ効率よく運営することができないか、検討してはどうか。

館によって観覧時間の弾力化がかなり進んでいる点、中期計画に沿うもので、さらに進めるべく積極的評価してよい。また、デジタル化を中心とした文化財情報の発信の努力は適正に評価されている。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

調査研究成果の発信、海外研究者の招聘、研修プログラムそれぞれについて、順調に実施されている。地方施設への助言についても、中核機能を十分に果たしていることがうかがえた。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

４博物館それぞれに多様な調査研究の実績を重ねており、その地道な活動に対する評価は惜しまないが、本機構全体の中でどのような協力関係が行われているのか、あるいは機構外の機関や個人とのコラボレーションがあるのか、また、科研費など外部資金による調査研究の背景なども、報告に盛り込めないものか。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

国際協力におけるアジア重視は理解できるが、本機構としては、日本国全体の国際貢献の視点から、決して豊富とは言いがたい調査研究スタッフの投入を、一国一地域に偏重しないよう、機構内の調整を含め、計画的配慮を望みたい。

なお、報告書総括表では、４博物館におけるこの観点での評価が抜け落ちているが、実際には研究者交流やアジア分野の調査研究が遂行されていることは評価しておくべきであろう。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

いうまでもないが、本機構としては、上記第２項目にある博物館事業とあわせて情報発信の評価としたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

上記第３項目の中に、博物館による地方公共団体への協力内容が含まれる点に注意したい。

また、平成 23 年度は大震災後の復興に伴う「文化財レスキュー」の事業が立ち上げられ、本機構の貢献は特筆したい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

国立文化財機構の設立による博物館と研究所との統合は、もともとどのような効率化を目指すものだったのか、また今日、それは達成されつつあるのか、統合の効果は現れているのか、という視点からの評価が明確ではないように思える。

個人的な関心事かもしれないが、４博物館に共通の教育活動分野と、２研究所による国際協力（機構外との協調も含め）の分野では検討する余地があるのではないか。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

コメントできる材料はあまりないが、中期目標が「自己収入の増加」と「固定的経費の節減」という２本のみというのはいかにも志が低くないか。長期目標かもしれないが、我が国の国内外に向けた文化政策の充実に向けた、夢のある予算と組織の将来造は描けないものか。

Ⅳ　その他人事計画等

人事の面では、予算規模が収縮していく過程で容易でないだろうが、いずれの機関においても専任の研究員・学芸員枠の拡充が望まれるところ。本機構だけでは不可能かもしれないが、給与体系の抜本的な改定も視野に入れる必要がある。

他方、３法人の統合が規定のものとすれば、そのガバナンスを一元化するだけでも容易でないと予想される。シナジー効果への期待も語られるが、より具体的に何が期待できるかの議論を先行させるべきだろう。現行の文化財機構自体、まだその統合の効率的効果が目に見えてこない段階で、さらなる機構の統合が、本機構に負の施策を強いることのないよう、関係の方々に事前の議論を深めていただきたい。

◎総会

外部評価委員名

小林　忠

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の整備に関しては、寄贈、寄託の受け入れに積極的に取り組む必要がある。また、次代への継承という点では、修理、保存の日常的な手当てが必要であり、国立文化財機構全体でその組織、人員の整備に努力すべきである。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

国内では公立、私立の博物館、美術館と連携し、指導的な役割を果たしていることを頼もしく思う。

海外との交流においては、特に近隣のアジア諸国との連携がますます密になっており、評価する。

東博の多彩で活発な研究活動とそれと結びついた展観、京都国立博物館の地域に密着した調査や展示活動、奈良国立博物館の仏教美術に特化した活動、九州国立博物館のアジア諸国との連携や文化財の保存や修理に積極的な姿勢、いずれも頼もしく、今後の発展が期待される。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

国立博物館各館は、国の中央博物館としての職責をよく認識して、先進的かつ国際的な活躍をしていることを高く評価したい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

多忙な館務の中で基礎的かつ有益な調査研究をしていることに敬意を表したい

多くの調査研究が、展示活動を下支えしていることも、国立博物館の在り方として正当であり、評価する。

国立４館と文化庁の専門家が合同で調査研究する機会の増えたことも嬉しく、今後もそうした活動を展開されたい。

同じ機構内の文化財研究所との共同研究にも積極的になってきたことを喜んでいる。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

博物館、研究所とも、特にアジア諸国との連携を深め、文化財保護に関する国際協力を積極的に推進していることを評価する。

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

写真資料のデジタル化が進んでいることを評価する。同時に、既存フィルムの保存とそのデジタル化も今後の重要な課題となる。

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

東日本大震災後、博物館、研究所がただちに文化財レスキューに能動的に協力したことを高く評価する。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務の拡充、拡大にもかかわらず、人員の補充がままならず、職員の負担が過重の度を増している。適切な人員の確保が緊急の課題であり、早急の善処が望まれる。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

特段の意見なし。

Ⅳ　その他人事計画等

国立博物館の活動を全般的に高く評価するものであるが、職員の負担が年々大きくなっている

ようで懸念される。時には過多、過重なプログラムの設定を見直す必要もある。国民が期待する以上のサービスを提供し続けていないか、立ち止まって検討されたい。

◎総会

外部評価委員名 **酒井　忠康**

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 運営費交付金の削減などで購入費の捻出に困難をきたした東京を除けば、他の館は順調であったと思う。整備と継承は人材育成と併せて考慮する必要がある。 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 充実した特別展による来館者の増加と、大学との連携をはじめとする学習機会の提供などによって、各機関の活動にも広がりが見られるようになった。海外展をもっと積極的に推進して欲しい。 3　我が国における博物館の中核としての機能の強化 文化財保護にかかわる領域では（特に東北大震災に際して）大いに貢献。観覧環境の工夫（総合案内パンフ）なども評価できる。 4　文化財に関する調査及び研究の推進 デジタル画像の作成や科学技術の活用で一定の成果をあげている。なかでも「黄檗展」の研究成果には注目すべきものがあった。 5　文化財保護に関する国際協力の推進 成果を着実にあげている。今後は諸外国の文化財保護にかかわる人材の育成が必要である。 6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信 情報基盤の整備は着実に図られているが、刊行物やシンポジウムなどには時代の意向を反映させて欲しい。 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 ネットワーク体制の構築。海外研究者の招聘では各地の研究機関（大学も含めて）との連携を図る必要がある。
Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 各館の特質を壊さないかたちでの業務の効率化を図る必要がある。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

総じて適切に行われているが、環境整備の費用削減は困る。

Ⅳ　その他人事計画等

有期雇用職員の人事制度や待遇改善について検討する必要がある。

◎総会

外部評価委員名

佐藤　信

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

○　収蔵品の充実に向けた努力について、高く評価したい。さらに寄贈・寄託が進展するよう発信・広報に努力しては如何か。

○　収蔵品の保存カルテ作成のスピードをさらに早め、早期の完了をめざすべきではないか。

○　文化財修理事業は、四博物館や二研究所の全体による協力体制の構築をめざしていただきたい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

○　特別展・平常展以外にも多角的に企画展示・シンポジウム・講座・列品解説などを展開する努力が為されていることを高く評価したい。平常展のリピーターの増加をカウントすることはできないだろうか。

○　人気特別展の時の混雑対策について、「一時間待ち」などという事態が無くなるよう、工夫をお願いしたい。展示全体の中の一部のみの混雑による全体の渋滞が無いようにする工夫や、「○時△分に展示箇所に来たら鑑賞できます」式の“ディズニーランド”方式の導入など、検討していただきたい。

○　考古学・日本史学・保存科学・美術史・遺跡学・建築史・庭園史・写真学など、関連する多様な学界の最先端の研究成果とリンクして、タイムリーな文化財の意義を発信するタイプの展示をさらに追求していただきたい。諸段階の学校教育との連携も、さらに推進していただきたい。

○　国内外の他の博物館・美術館や文化財所有施設と連携した展示や調査・研究をさらに展開していただきたい。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

○　ナショナルセンターとして、国宝・重文・史跡・名勝などの文化財情報や国内の諸博物館の展覧会・収蔵品情報などを、国内外に発信する機能をもっと展開していただきたい。

○　調査研究成果を、研究者・専門家向けだけでなく、国民・市民向けに分かりやすい形でも

発信願いたい。

○　研究紀要や報告書などの内容をホームページで公開する事業を、さらに進めていただきたい。

○　東日本大震災で被災した博物館・美術館と連携して、それらを支援する事業を展開していただきたい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

○　昨年の東日本大震災に対応した「文化財レスキュー」事業での、機構の機動的な活躍については、きわめて高い評価が与えられるものと考える。こうした事業に積極的に取り組みながら、恒常的な調査・研究や国際協力の業務にも大きな達成を実現した努力に対して、改めて敬意を表したい。

○　先端的・基礎的な文化財の調査・研究に、限られた人員。予算のもとで大きな成果を挙げていることは、高く評価できる。その成果を、専門家向けの報告書・紀要・論文のみでなく、国民向けに分かりやすい形でさらに発信していただきたい。

○　基礎的で地道な史跡・歴史史料・美術工芸・無形文化財・保存科学などの文化財に関する調査研究についても、さらに継続して推進し、その成果を発信していただきたい。

○　調査・研究のために、引きつづき科学研究費などの競争的資金の獲得に向けて戦略的に取り組んでいただきたい。

○　個別の組織だけでなく、国立文化財機構としての四館・二所の学問的資源を全体として動員した調査・研究の展開や、他の機関等との共同の事業をさらに展開していただきたい。

○　文化財の防災に関する研究をさらに積極的に進めるとともに、東日本大震災に対応した文化財の緊急的保存・調査事業などに、国立文化財機構として主導的な活躍をお願いしたい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

○　文化財の保存・修復事業を通した国際協力では、文化財研究所ならではの高いレベルの協力事業が多角的に推進されており、高く評価したい。引き続き、さらに多様な展開を期待したい。

○　国際協力が、所属研究者それぞれの個人的努力に負うことは仕方ない面があるが、個人に任せることなく、組織として責任をもって国際協力を展開していただきたい。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

○　博物館や文化財研究所のホームページによるデータベースなどの発信が充実してきたことは、高く評価できる。引きつづき、情報発信サービスの向上に努めていただきたい。

○　調査研究の成果を、研究者向けのみでなく、一般国民に対しても分かりやすい形で出版するなど、発信していただきたい。

○　４館２所のニュース・たより・パンフレット・年報・紀要・報告書などの冊子体の出版物を、インターネットで閲覧できるようにする事業をさらに進めてほしい。

○　電子媒体だけでなく、４館２所が所蔵する膨大な冊子体の図書資料・写真資料などを研究者・市民が閲覧出来る体制を、さらに充実させていただきたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

○　国・地方公共団体・博物館・美術館等に対する協力・助言では、委託されたものなど多分野で高レベルの大きな実績を挙げていることは、高く評価できる。

○　東日本大震災からの復旧・復興に際して、当面の「文化財レスキュー」事業とともに、機構における文化財の防災に関する研究成果を、さらに広く積極的に発信・提供していただきたい。復旧・復興にともなう幅広い文化財の保存・活用事業に関して、機構のノウハウをさらに広く展開・活用していただきたい。

○　大学における高等教育との連携は、国立文化財機構の文化財に関する高い調査・研究能力を活かして、文化財研究の裾野や後継者育成を広げていく上で、さらに展開していただきたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

○　４館２所とも、限られた人員・予算の中で、学術的レベルの高い優れた展示・調査・研究・協力・発信の成果を挙げていることを高く評価したい。そうした費用対効果の面での「効率性」をどのようにめざし、評価するかが課題となろう。

○　４館２所の研究・学芸系職員の協力体制をさらに強化して、調査・研究・学芸業務をさらに有機的に推進していただきたい。

○　節電については、引き続きさらに努力をお願いしたい。

○　ボランティアやインターンの方々による業務協力体制の拡充の方向性について、具体的な検討を進めるべきでないか。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

○　運営費交付金の減額がやむを得ない状況下で、寄付金・入場料収入の有効活用や、科学研究費など競争的外部資金の獲得、他機関との共同事業をさらに追求する必要があろう。

○　寄付については、課税免除などの特典の制度を拡充できないものか。

Ⅳ　その他人事計画等

○　アシスタントフェロー・アソシエイトフェローなどで若手研究者を任期付きで活用することは、やむを得ないが、将来の文化財研究を支える若手研究者の「使い捨て」にならないよう、配慮が望まれる。

○　職員の待遇や調査・研究・学芸環境のさらなる整備・向上を進めていただきたい。

○　独立行政法人の統合の方針が出されたようであるが、法人の目的がさらに多角化することによって、文化財に関して非常に高いレベルの調査・研究・展示・保存・継承・活用・発信・国際協力の成果を実現してきた現機構の体制が後退することのないよう、「小回りがきかなくなる」ことのないように、制度設計をお願いしたい。

◎総会

外部評価委員名

園　田　直　子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

全体的に、収集、寄贈・寄託の受け入れは順調に進んでいる。東京国立博物館では購入費の捻出ができなかったとあるが、中期目標の期間中、文化財購入費や文化財修復費等の特殊要因経費は効率化の対象とはしないとの記載もあることから、自己評価にもあるように要注意の事態と思われる。

展示など活用面に一般の注目は集まりがちであるが、収蔵品の適切な管理保存、計画的な修理など、博物館の基礎的な活動を継続実施し、成果を上げている点は大いに評価できる。文化財保存修理所の位置づけに関する規定が整備されたことは良いことである。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

入館者数をおしはかることは困難であろうが、定量評価は、当初設定した目標値の設定いかんで評価が大きくかわり、展示の質とは別の尺度での評価になってしまうのは悩ましい。とはいえ、特別展では目標値を大幅に上回る入館者数となったものも多く、人びとに広く支持されていることが分かる。入館者の多い展覧会においては、待ち時間を少なくする運用面での工夫ができれば、観覧者の満足度がさらに上がるのではないだろうか。著名な作品を集め観覧者をひきつける展示だけでなく、調査・研究の成果としての自主企画の展示活動を、今後とも続けていただきたい。

教育活動に関しては、各機関の実情にあわせて、各種の講演会や講座が実施されている。今後ともそれぞれの特質にあわせた自由な活動をお願いしたい。

日本から海外への情報発信を強化するため、刊行物やインターネットの外国語対応をさらに進めることがのぞまれる。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

平成 23 年度、東日本大震災に関連した被災文化財等救出作業支援においては、文化財機構（東京文化財研究所）が事務局となり、積極的に取り組まれている。被災県への支援活動は、高く評価できるものである。今後、放射能汚染の問題とともに、緊急時に備える全国的な協力・支援体制づくりが課題となるなか、日本における博物館の中核としてのさらなる機能強化を期待したい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

5　文化財保護に関する国際協力の推進

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

（これらの項目については、研究所調査研究等部会の報告を参照されたい。機構として、東

日本大震災への対応に積極的に取り組まれる中、恒常的な調査・研究・業務を着実に実施してこられたことに、改めて敬意を表したい。）

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

共通的な事務の一元化ならびに各種業務のアウトソーシングを継続しており、評価できる。効率化は大切であるが、業務の質をいかに維持し、さらに向上していくか、過去の経験をいかに蓄積し継承していくか、そのための体制づくりは急務である。

使用資源は、原料高騰や、東日本大震災を受けての特殊要因があったため最終的には増額している。今後も温暖化対策として冷暖房の省エネ運転が求められるなか、いかに収蔵品の適切な管理保存を行うかという難しい舵取りがせまられることになり、大変なご努力になると想像できる。

情報セキュリティの向上と改善においては、緊急時を想定したバックアップデータのリスク分散の検証はどのくらい進んでいるのだろうか。たとえば関西と関東に分割して双方にバックアップテータをおくなどの対策は取られているのだろうか。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

予算削減とともに、短期間(年度内)で成果をあげることが、社会的に求められがちになっている。しかしながら、文化政策においては、長期的な見地にたって継続的に調査や基礎研究を行い、着実に実績を蓄積していくことは重要であり、これは日本における文化の活性化自体にも関わる。効率化や外部資金獲得の努力をあわせながら、それなりの研究環境の確保とともに、優秀な人材の確保・育成のための資金計画は忘れてはならないと考える。

Ⅳ　その他人事計画等

アソシエイトフェローという制度により、若手研究者には経験を積む機会が与えられるとともに、その専門能力を生かす場が提供できるという意味で、機関にも若手研究者にも有意義と感じる。ただ、そのうちどのくらいの割合の人が、常勤の職をみつけられたかが気にかかる。一方、団塊世代の定年後、そのかたがたがもっておられた専門的知識や技術をいかに伝承していく（できる）かは、日本の社会全体でも深刻な問題である。今年度、新規に研究職員を 13 人採用されているが、今後とも世代交代を見込んだ人事計画をお願いしたい。

◎総会

外部評価委員名

玉蟲　敏子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

充実した 22 年度の国立四館、23 年度の東京国立博物館をのぞく国立三館の資料の蒐集、寄

託、修理、保存環境の整備にくらべ、23年度の東京国立博物館の購入物件〇という報告は衝撃的であった。その理由として運営交付金の削減が明記されており、いよいよ問題が博物館機能の中枢に及んできたようで大変に危惧される。次年度の動向を注視したい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

23年度は四館ともに、前年度目覚ましかった国立館ならではの充実した内容の大規模な展覧会が、いっそうに発展的に行われたことを高く評価したい。博物館活動の国民への理解は、かなり広く深く浸透したのではなかろうか。常にスタンダードな日本・東洋の美の歴史を国民に提示し、知識や教養の共有をはかる場として、さらなる順調で確かな活動を期待していきたい。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

23年度は、とくに東京国立博物館の写楽展、北京故宮博物院名品200選展などの活動に顕著なように、海外から日本・東洋の美術工芸品が多く紹介される好企画が相続き、ナショナル・ミュージアムとしての機能が十分に果されたといえる。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

3.11の大震災後のさまざまな影響が現れ、文化財レスキュー活動なども入ってくる一年であったにも拘わらず従来の活動も順調に進められたことを評価したい。また、調査研究の質も展覧会に直結するものもあれば、博物館ならではの資料整理を地道に行い、自覚的にアーカイヴとしての機能を重視する方向のものなど、幅広く多様になってきていることを高く評価したい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

22年同様、四館、二研究所ともに、従来からの事業の枠組みを守り、順調に推進されている。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

調査研究の成果としての展覧会活動などには見るべきものがあるが、それを発信し、一般国民にも浸透させることにはまだまだ発掘の余地があるように思う。開かれた博物館の姿は、見て楽しむ要素に加えて、感動し関心をもった作品についてより詳しく調べ、意味や意義を理解する発見の喜びという要素もあるだろう。東京国立博物館においては、資料館へのアクセスが園内から可能となったことを受けて、展覧会と連動する資料コーナーの整備など、学びの場として博物館機能もさらに推進され、美術や文化に関心をもつ小・中・高生など、より若い世代に向けた下地作りの活動も視野に入れていただきたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

3.11の大震災後のさまざまな影響が現れ、文化財レスキュー活動なども加わったにも拘わらず、昨年同様、四館、二研究所ともに従来からの事業の枠組みを守り、順調に推進されたことを評価したい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

22 年度と同様に、業務運営の効率化については、奈良、東京の二研究所、国立四博物館とも懸命な努力をはかっており、その上で数多くの魅力的な展示や優れた研究活動が行われたことは驚異であった。効率化のやむを得ない事情があるとはいえ、国民との知性や感性の共有をスムースに行うための方法としてプラスに捉え、さらに豊かな活動に向けてのバネとしていただきたい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

3 億円近いという大幅な運営交付金の削減が、いよいよ博物館の在り方の中枢にも影響を与えつつあるようで危惧される。報告のあった独立行政法人制度の見直しが、さらなる成果目標の達成をうたっており、そうした動向を踏まえつつ、中長期的な展望をもった活動が担保されるように努めていただきたい。

Ⅳ　その他人事計画等

ここ数年問題となっている、常勤職員数の抑制のために行われている退職後のスタッフの不補充と任期制研究員の採用は常態化し、今後さらに、制度改革によって不透明な要素も出てきているようだ。四博物館・二研究所は、能動的に文化や学術活動の取り組む人材を長い時間をかけて育成しうる場として、主導的に立場にあることを自覚し、変革期の設計図をじっくりと描いていただきたい。

◎総会

外部評価委員名

藤　田　治　彦

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

東日本大震災と原発事故という極めて困難な時期にあたり、文化財レスキュー活動を中心的に担っていることは高く評価される。また、レスキュー活動を担いながらも、収蔵品の整備と次代への継承という恒常的活動を継続し、目標を達成しているということは、それ以上に高く評価される。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

優れた文化財を活用し、その歴史・伝統文化の国内への発信を活発に行っている。海外への発信に関しては、日本の伝統文化に触れ、それについて詳しく知りたいという世界的な期待に応えるために、また、現在急速に発展を続ける近隣アジア諸国の対外文化活動の拡充なども十分念頭に置いて、一層充実に努めるべきであろう。欧米への発信に新鮮な発想を盛り込むと同時に、アジア諸国への発信をより効果的に行う必要がある。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

日本における博物館の中核として、少ない予算にもかかわらず、機能の強化に努めている。それ以上に少ない予算あるいは予算減に悩む公立あるいは私立の中小ミュージアムを、共同企画展における共同調査や写真撮影等の協力を通じて、人的にも物的にも大いに支援している。ただし、そのような日本のミュージアム界全体の現状を理解し、国は国立文化財機構の予算を十分に考えるべきであろう。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

文化財に関する調査及び研究を順調に推進している。今後の震災等の不慮の事故に備え、また、記録メディアの急速な進歩とシステム変更への対応等も含め、国立文化財機構を構成する各機関は、記録や情報公開に関する知識と経験を共有し、文化関係３法人の統合に備えることが期待される。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

文化財保護に関する国際協力を積極的に推進している。とくにアジア地域において、国立文化財機構が果たしている役割は極めて大きい。この活動を持続するとともに、それを関係各国において、そして国際的に、また、関係者サークルを超えて、少しでも広い範囲の、あるいは重要な層の人々に知れわたるように、現在の国立文化財機構が中心となって検討工夫することが望まれる。

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

情報資料の収集・整備ならびに調査研究成果の発信は、各種報告書等によって継続的に行われている。日本国内及びアジア研究の報告は相当な量と質を兼ね備えている。その成果の発信を、アジアを中心とした世界へ向けて、一層充実すべきであろう。上に示唆したように、わが国の関連活動のレベルの高さと活発さは、私たちが期待するほどには知られてはいない。国立文化財機構が、また統合後は文化関係３法人が発行する英文の国際的刊行物等が、世界各国とくにアジア諸国のミュージアムでしかるべきところ（多くの関係者が見るマガジンラックやミュージアムショップ等）に常置されるようになれば理想的である。そのような刊行物やホームページ等に、アジア各国における現地の文化芸術活動、文化財保護活動、関連研究等をも紹介するなどして、アジア諸国の関係者の参加性を高める工夫等も有効であろう。

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

公立の博物館や美術館その他の各種機関への協力を通じて、地方公共団体を文化面でサポートし、文化財保護の質的向上に貢献している。東日本大震災と原発事故によってわが国の文化財は大きな被害をこうむったが、この経験もこれまでの文化財保護活動とその成果に加わり、日本各地の地方公共団体やさらには海外の地方公共団体等に対しても、一層の貢献が可能になるだろう。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

効率化の目標は適切に掲げられており、かなりの部分が達成され、あるいは達成される見通しがついているように思われる。官民協力等によって一層効率化される側面があれば、さらに適切

な措置が取られるべきである。他方、そのような効率化が、各博物館等の運営や望ましい雰囲気の形成に負の効果をもたらしていないかどうか等も注意すべきことである。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

人件費の見積もり等をも含め、予算、収支計画、ならびに資金計画は適正に検討されている。予算は、他の先進国と比べ少なく、発展するアジア諸国のそれにも満たないような状況が遠からず出てくるであろう。各博物館、各文化財研究所やセンターのあいだでの予算や計画上の相違は大きい。

Ⅳ　その他人事計画等

現在の人事計画等は、国立文化財機構を構成する各博物館、研究所、センターの実情を踏まえて十分に検討されているように思われる。

文化関係３法人の統合は、その統合後の法人が、日本の文化芸術および文化財行政にとって、これまでの国立文化財機構以上の役割を果たすようになることを十分念頭に置いて行われるべきであることは言うまでもない。わが国は、これまでアジアにおける文化行政、文化財の研究と保護等に先進的な役割を果たしてきた。しかし、近隣諸国の急速な発展とわが国の経済の減速等が重なり、その役割や立場を保ち続けることができるか否かは確かではない。また、それに加えて、文化関係３法人の統合が重なる可能性が高まり、今後十年が関連分野でのわが国のアジアそして世界におけるプレゼンスを大きく左右することになるであろう。欧米の例だけではなく、関連分野での活動が活発で着実に充実を続けているアジアの例などにも学ぶことが有意義であろう。海外への派遣の際には、専門領域の調査や研究をすると同時に、博物館研究、関連研究所研究も平行して行うなどして、先ずは国立文化財機構の構成員全員が、文化関係３法人の統合後は新組織の構成員全員が、アジアで最高、世界で有数の文化関係法人を目指すべく、あるいは保つべく、新鮮なアイデアを出し合い、次々と実施に移すことのできるような、人事計画が期待される。

◎総会

外部評価委員名

森　　弘　子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

・文化財保存修理所の位置づけが明確化されたことは、伝統的な保存技術の継承の上から大変喜ばしい。機構各館では、先端的な科学技術を採り入れた調査研究が盛んに行われており、両者が連携して、文化財のより良い保存、未来への継承が図られることと期待したい。
・九博に於いて館外所蔵者負担による文化財修理のため、館の保存修復施設を積極的に活用されている。国全体の文化財の次世代への継承のため、国立博物館が果たすべき役割として大切なことである。
・京博においては、財団の修理助成金や寄付金を活用しているが、社会一般にもこのようなことが、大切なこととの認識が生じていることは喜ばしく、他館でも外部資金の導入に積極的にな

られることを望む。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

・特別展はマスコミの協力も得、広報も行き届き多くの来館者を招くことができているが、平常展は館員の努力にもかかわらず来館者数という点では寂しいものがある。しかしゆっくり落ち着いて鑑賞できる場所でもあり、日本文化に対する理解を深めたり、館の個性を発揮できる場所でもある。そういう点で、九博のトピック展の取り組みや、他館での干支や季節や行事に即した展示は一般の興味を引くものとして評価できる。また音声ガイドについて、特別展では多くの場合用意されているが、平常展で多国語対応の音声ガイドが導入されているのは九博くらいのようである。度々展示替えがあり、その対応は難しいことと思われるが、上記のような理由で平常展示室に於いてこそ、音声ガイドは有効に機能を発揮すると思われる。他館に於いても導入を検討して頂きたい。

・同じ特別展が複数館である場合、観覧者の満足度に差異が生じている場合がある。その原因について相互に分析してみることも必要であろう。

・各館ともウェブサイトの充実は年々向上しており、今後もさらに推進されるべきこととは思うが、それが利用できる環境にない人も多い。紙媒体の広報も行われているが、配布等の方法にもさらに工夫が必要と感じられる。またレファレンスに於いてもウエブサイト上では対応されているようであるが、来館者や電話での対応は如何であろうか？研究者同士の情報交換は行われていると思うが、一般国民にとっては敷居が高く、現状では対応しきれているとはいえない。むろん簡単な質問にまで館員が対応するのでは業務上ムリがある。そこでボランティアに対して一層充実した教育を施し、館内案内ばかりでなく、レファレンス等にも対応できるようにしてはどうだろうか。ウェブサイトばかりでは、人が生み出した文化というものが実感で伝わりにくいし、また館からの一方通行的なことが多いように感じられる。アナログな、人が人に質問し、人が心を込めて対応するというようなことの積み重ねが、ひいては博物館を愛する人の倍増にも繋がると考える。

・ボランティア希望者の多い館では、任期が決められているが、ボランティアの仕事によっては、経験や知識の積み重ねが必要なものもある。期限がくれば一律に切るというのではなく、その後の受け皿も必要である。九博の IPM ボランティア終了者による NPO のたちあげなどは参考にされるべき方法であろう。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

・収蔵品の貸与や公私立博物館・美術館に対する援助・助言は現在の所、受け身で行われることが多いのではなかろうか。経年変化もさほど変化があるとは思われない。そんな中で、海外からの研究者招聘については、何れの館も増加、S 評価であり喜ばしく、今後ますます交流が活発化することを期待したい。

・展覧会図録・紀要等の発行も例年通り、きちんと行われている。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

5　文化財保護に関する国際協力の推進

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

・ウェブ給与明細システムが運用開始したということであるが、機構内の業務について、さらにペーパーレスを目指し、検討されたい。
・施設の有効利用について、東博が“ロケなび”への申込みをグレードアップし、撮影件数が増大したことは大いに評価できる。映画、ドラマ、雑誌等に出ることは、単に施設の有効利用に留まらず、来館者の増大にもつながる。他館もそれぞれに由緒や個性豊かな建物、施設を有しており、日常業務に支障を来さない範囲で積極的に導入されたい。
・業務のアウトソーシングは世の流れであり、各館に於いても出来得る限り行われていると思うが、一般競争入札等を実施して、業者が交替した場合、業務の引き継ぎ等に支障を来さないよう、機構として十分な監督が必要である。これは日常業務全般に於いても言えることであるが。
・レストランやミュージアムショップについては企画競争による業者選択が行われているが、来館者にとって魅力ある館であるためにも、続けてほしい。競争入札が馴染まない分野である。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

・支出については、文化財の購入費と修理費を除き、最大限に切り詰められていると思われる。文化財購入費と修理費は、本機構の存在意義そのものであり、今後ともここへ経費節減が及んではならないであろう。今後、国からの交付金は減少の一途をたどると考えられ、自己収入の増大を図っていかなければならない。23 年度は東日本大震災の影響があった上に、展覧会においては、所謂「目玉」というものに乏しく、収入減をきたしている。寄附等は若干増えているが、さらに魅力ある企画を考え、博物館愛好者・支援者が増えるよう努力されたい。

Ⅳ　その他人事計画等

・アソシエイトフェローの制度が導入されて３年経過したが、彼等の進路は如何であろうか。全員が次のステップへ進めたか等の分析を行い、このままの状態で継続すべきか、見直しを行うべきかの検討もされ、優秀な若い人々の不利益になるようなことのないよう、研究されたい。
・業務量に対して職員の負担が過重であるように感じられる。職員の努力には敬意を表するものであるが、労務管理、健康管理など、機構としての配慮を怠ってはならない。

◎総会

外部評価委員名

柳　林　　修

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の整備が全体として順調に進んでいることは評価したい。国民共有の貴重な文化財の喪

失は許されないし、海外への流出は防ぐべきだ。今後も情報の入手に力を入れ、着実に取り組んでほしい。ただ、運営交付金の削減や東日本大震災での収入の減少などで、東京国立博物館の購入物件がゼロだったことは残念である。大震災にかかる救援事業の経費は本来、別枠で手配されなければならない。継続的、計画的であるべきこの事業に影響しているとしたら納得できない。一時的に減らされるのは緊急性からやむをえないが、その分は後刻、かならず補填されるよう財務省、文化庁に強く働きかけることが求められる。

一方、収蔵品の購入では価格の評価などが公正に行われ、妥当かどうかなどが明らかでない。買取協議会はあるが、どのような議論が行われているのか情報公開してほしい。文化財市場は一時期に比べ、かなり安価になっている。九州国立博物館をみると、購入１件当たりの決算額が３３５０万円で、かなりな価格と映る。補足事項に簡単な説明があるが、十分だろうか。購入希望文化財では博物館側が弱い立場になりかねない。限られた予算の中での有効な活用を進めるためにも購入の再点検が求められる。

寄託品の返還が目立った博物館がある。本来の所蔵者に返るのは致し方のないことだが、博物館としての優れた施設をアピールして埋もれている名品の寄託を積極的に働きかけてほしい。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

文化財は収蔵しているだけでは価値が埋もれてしまう。それを生かさなければならない。博物館４館が厳しい財政の中で積極的な展示などで情報発信していることは頼もしい。とくに平常展示館を建て替え中の京都国立博物館が貸し出し可能な作品をＨＰで紹介し、他の美術館で京博展を実施したことは高く評価される。また、３館での大規模巡回展「細川家の至宝」は、各館がそれぞれの地域や展覧の意図に合った作品選定を行ったことで、巡回展に地域性を持たせ、彩りを与えた特筆される試みだ。

外国語のパネル設置件数の増加も喜ばしい。ただ、日本人が外国に行くとき、ルーブル美術館や大英博物館がコースに入っている商品はあるし、それに参加する人も多い。日本はどうだろうか。外国人の入館者は少ないと思う。日本への旅行で博物館をコースに組み込んだ商品はめったにない。なぜ、日本の博物館を訪れる外国人が少ないのかリサーチしたら、展示活動でのヒントが得られるかも知れない。

こういうご時世の中、入館者が多いのがいいのは当然だが、少ないからといってそれが必ずしも展覧会の価値を下げるものではないことを改めて確認したい。入館者数至上主義がはびこるようでは安易な人気取り的な内容になりかねない。入館者が少なくても博物館が自信を持って実施したことを主張できる展覧会は積極的に実施すべきだ。来年度の評価になるが、奈良国立博物館が今春行った鎌倉時代の隠れた名増「貞慶」を取り上げた特別展はそういう意味で大きな収穫だったことを前もって記しておきたい。

気になったことがあった。東京国立博物館が「グーグルアートプロジェクト」に参加し、国宝や重文を含む５６７件をサイト上に公開したというのだ。「日本文化を世界に知っていただく大きなチャンス」というが、果たしてそうなのか。サイトを見て東博に行ったつもりになり、入館者が減るのではと危惧する。しかるべき時期に、この試みの影響や効果等々を、しっかりと検証していただきたい。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

４館がナショナルセンターとしての機能を十分に発揮していることは、多彩な展覧会や研究、報告、出版、文化財調査の実施、助言、指導者要請などで十二分に理解できる。研究員が力量を発揮していることは大変喜ばしい。外国人研究者を積極的に招聘して交流を深め、国際シンポジウムを開催する一方で、海外での研究などもあり、グローバルな位置づけの中での研究が進むことは当然である。小さな殻に閉じこもった研究は取り残される。大きな視野で取り組み、情報を広く発信することがいっそう期待される。

そのためには、これまで以上に国民へのわかりやすい情報発信が求められる。展覧会での研究成果の集中的な紹介なども面白いかも知れない。報告書だけでおわらせることなく、子供から大人まで目で見てわかるような研究成果の披露を、展示という形で紹介する試みも一考に値するのではないだろうか。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

限られた、それも毎年、削減される厳しい予算と人員の中での積極的な活動で、大きな成果を上げていることは素晴らしい。東日本大震災があり、文化財レスキューといった大きな職務が舞い込んだにもかかわらず、当初の計画を遂行できたとみられることに敬意を表する。科学研究費や民間財団の基金、さらに寄付金の拡大などでの収入を増やすことに積極的に取り組むことを求めたい。もっと町に出て、“営業活動”を試みるのも必要だろう。少ない予算の中、個々の機関では研究が十二分にできない面もあるだろう。２つの研究所なり、４つの博物館の共同研究をどんどん進めてほしい。博物館での巡回展示でも、「細川家の至宝」にみられるように各館が積極的な展示内容を展開すれば面白みが増すことは間違いない。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

文化財は地球規模で守らなければならない。各機関の国際協力は引き続き、積極的に展開してほしい。外国の研究者を育て、文化財保護を自前でするぐらいの力をつけることに尽力してほしい。ユネスコなどをもっと活用し、日本の高い技術と優れた知識を提供して国際平和構築の礎にも役立ててもらいたい。

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

ナショナルセンターとして、各地の情報資料がそろっていることは必須の条件だ。それがオープンになり、だれでも気軽に利用できることを望む。研究は研究者だけのものであってはならない。広く、調査研究の成果を発信することで国民の理解が進み、自身の研究のスキルアップにつながる。積極的な情報発信を求めたいし、インターネットを使った発信は時代の要請であり、いっそうの促進が必要だろう。ただ、お年寄りへの対応も考えるべきであり、紙媒体での分かりやすい発信も工夫して継続してもらいたい。

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

多彩な活動は特筆に値する。特に東日本大震災での活動は極めて高く評価されよう。被災文化財の救出活動は東北各地の自治体からも大きな感謝を持って受け止められたと思う。幸い、東京文化財研究所に設けられた被災文化財等救援委員会が２０１３年３月まで存続することになっ

た。しかし、それまでに被災文化財の救出が終わるとは到底、考えられない。あと１年では限界がある。先を見越した計画を作ると共に、同様の災害が起きたときのことを想定した対策の構築が求められる。そうしたことが地方への協力推進につながる。今回の被災では日頃の文化財保護の必要性を痛感した。悉皆調査が役立った場所もある。ふだんからの文化財保護の必要性をいっそう啓蒙してほしい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

予算、人員が削減される中で、非常に厳しい運営を強いられていることは理解できる。日本の文化予算の貧弱さを、東日本大震災の文化財への対応を見て改めて知り、恥ずかしい思いだ。文化庁の今年度予算は１００３億円。国の予算の０．１％強に過ぎない。「文化芸術立国を目指して」とのお題目がむなしい。

もちろん、国に運営交付金の削減のストップなどを強く要望してほしいが、現実を考えると難しい。それを克服する手段はやはり、民間からの資金の導入だろう。民間も経済情勢の悪化で厳しい状況下にあるが、そこに活路を見いだすのは妥当だ。これには職員や研究員の並々ならぬ努力が求められる。外国の美術館や博物館は企業からの寄付金でかなり収入があるという。各機関もそれなりの努力はしているが、いっそうの民間資金の活用への方策に積極的に力を入れてほしい。

人件費の削減で任期付きの非常勤職員が増えていることを憂慮する。やむをえない対応であることはわかるが、３年といった期間では十分な研究や寺社などの関係者との信頼構築は難しい。職員にとっても先が見えない待遇では仕事に影響する。その経験が正職員採用への「プラスα」になるのであれば喜ばしいが、それも確約されるものではない。対策を望みたい。また、職務が煩雑で過重になっていると思う。余裕をもって業務にあたれるよう、幹部には業務の質と量、人心の把握に努めてもらいたい。

経費節減で一般競争入札が増えている。やむを得ないことだが、事業の性格から随意契約が必要なこともあるだろう。文化財修理で競争入札は似合わないケースもあろう。国を説得してケース・バイ・ケースで随意契約が行われることがあってもいい。なにがなんでも競争入札では、将来に禍根を残すことになりかねない。「安かろう、悪かろう」があっては済まされない。

各施設が得た入場料やグッズ販売の収益金が、それぞれで独自に使えるようになると聞いた。そうなれば、研究員や職員の士気も上がる。ぜひ実現してほしい。

文化関係法人３つが１つに統合される。単なる数の削減ではなく、無駄を省いた業務でスタートし、効率化が図れて、よりよい環境で伸び伸びした業務が遂行できるようにしてほしい。国立文化財機構にあっては、積極的に国に発言し、提言も行って文化国家日本の構築に貢献すべきだ。遠慮する必要はない。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

運営交付金の漸減や東日本大震災の発生に伴うその対応への支出や展覧会の入場料減収など、平成２３年度は極めて厳しい収入になり、活動がかなり影響を受けたようだ。そんな中、設備保守業務や管理業務などでアウトソーシングが進んでいることは喜ばしい。ただ、任せっきりにすることなく、しっかりした管理、指導に心を配る必要がある。使用資源でペーパーレス化を進めるのは望ましいが、光熱水料金が７．６％も上昇しており、燃料費の高騰は配慮しても節約に努

めることができたのではと思う。東博では東京電力の値上げが予定されており、経産省などが使う格安会社などからの電力供給も検討課題だ。

人件費は毎年削減され、働く人のモチベーションの低下が懸念される。それが、人材流出に拍車をかけることを危惧する。博物館や研究所の中堅として活躍する人材が引き抜かれることは、広い意味で人材育成の成果とみることもできるが、それらの機関にとってはマイナス要因に違いない。もう人件費削減を止めてもいいと考える。国としては他の無駄遣いの撤廃に力を入れていただくことを切に願う。

再三、指摘されているが、外国を見習って、もっと民間から資金を調達することに懸命であってもいい。「心の時代」と言われ、特に東日本大震災があったことから、文化や文化財が人々の心を豊かにし、地域の絆を強くし、人心を安定させることは明らかになった。それは企業が進める企業メセナの対象としてふさわしい。誠心誠意で訴え、理解を得て、長期的な資金計画に民間資金を組み込む努力を期待したい。

Ⅳ　その他人事計画等

文化財研究所や博物館などを有機的に活用するため、人材の交流は大きな意義を持つ。文化庁との交流も連携を密にする点などから積極的に進めてほしい。ただ、２～３年で替わるのはいかにも早い。さらに気になったのは研究員と文化庁との交流では退職手当の通算ができないということだ。これが交流の阻害要因になっているようなら早急な対処が行われるべきであろう。

総会でも指摘されたが、キャンパスメンバーズの活用が不十分だ。大学へ講師を派遣したり、館に招待して展覧会の参観に便宜をはかったりしているが、特別展は入館が駄目という指摘もあり、変更を求めたい。若干の入館料をとってもいい。キャンパスメンバーズの学生、生徒が特別展に入りやすい環境を整えたい。若い世代の関心を喚起することが今後の機関に大きなプラスになる。

任期付き非常勤職員が増えていることを憂慮することは前述した。研究所や館の運営で重要な位置を占めており、それなりの対応を求めたい。本来ならすべて正職員にすべきだが、昨今の状況では無理からぬことなので、将来の進む方向性も含めて丁寧な対応を望みたい。

わずか２日間の会議での書面と質疑だけで、２研究所、１センター、４博物館の業務を考察、評価し、提言するのは、果たして正鵠を射ることができたかという忸怩たる思いだ。希望者だけで、すべてではなくてもいいが、現場の視察ができればと思う。一方で、部会や総会での機関側の職員の多さには驚いた。もう少し削減してもいい。質疑を見ていても、これほどの職員の出席は必要ない。費用の削減にもつながる。出席が必要な対象者を減らしていい。加えて質疑の時間が短い気がした。とくに総会では十分な質疑ができなかった。博物館についても聞きたいことがあったが、時間が３時間と限られていて遠慮した。もっと少人数で、ざっくばらんに時間をかけて質疑できる部会や総会であってほしいと思う。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　博物館調査研究等部会

部会長　小　林　　忠（学習院大学名誉教授）

酒　井　忠　康（世田谷美術館長）

藤　田　治　彦（大阪大学大学院文学研究科教授）

森　　弘　子（福岡県文化財保護審議会専門委員）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名

小　林　　忠

※事項ごとに評価コメントを記入

１　総合的な事項

国立博物館各館は、国の中央博物館としての職責をよく認識して、先進的かつ国際的な活躍をしていることを高く評価したい。

２　自己点検評価に関する事項

国内では公立、私立の博物館、美術館と連携し、指導的な役割を果たしていることを頼もしく思う。

海外との交流においては、特に近隣のアジア諸国との連携がますます密になっており、評価する。

東博の多彩で活発な研究活動とそれと結びついた展観、京都国立博物館の地域に密着した調査や展示活動、奈良国立博物館の仏教美術に特化した活動、九州国立博物館のアジア諸国との連携や文化財の保存や修理に積極的な姿勢、いずれも頼もしく、今後の発展が期待される。

３　調査研究に関する事項

多忙な館務の中で基礎的かつ有益な調査研究をしていることに敬意を表したい。

多くの調査研究が、展示活動を下支えしていることも、国立博物館の在り方として正当であり、評価する。

国立４館と文化庁の専門家が合同で調査研究する機会の増えたことも嬉しく、今後もそうした活動を展開されたい。

同じ機構内の文化財研究所との共同研究にも積極的になってきたことを喜んでいる。たとえば奈良国立博物館の東京文化財研究所との協定書に基づく「仏教美術作品の光学的調査」など。

４　その他

国立博物館の活動を全般的に高く評価するものであるが、職員の負担が年々大きくなっているかのようで懸念される。時には過多、過重なプログラムの設定を見直す必要もある。国民が期待する以上のサービスを提供し続けていないか、立ち止まって検討されたい。

そうした中でも、奈良国立博物館において行っている幼稚園児をも含めた児童への指導プログラムは新しい試みとして注目される。日本の将来をになうべき小中学生はもとよりのこと、さらに年少の幼い時から、身近な文化財や伝統的な行事に親しんでもらうことは、目下の我が国の最重要事の一つと認識される。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名
酒　井　忠　康

※事項ごとに評価コメントを記入

１　総合的な事項

各館それぞれ計画通り業務を行い、当初の目的をほぼ達成していると見受けられる。限られた予算と人手のなかで努力を続けている地味な成果を評価したいと思う。今後の課題としては、国際的な共同研究をもっと積極的に展開してほしい。

２　自己点検評価に関する事項

概ね妥当な判断となっている。

３　調査研究に関する事項

「近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究」（東京）の成果発表、「特別展覧会『中国近代絵画と日本』に関する調査」（京都）の継続的対応、また「日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究」（奈良／九州）のさらなる進展――を望む。

４　その他

予算や人材不足に加えて業務の細分化で（ていねいに対応しているけれども）、研究領域の停滞はまぬがれ難く、今後のことを考えると制度や仕組みを見直す必要があるのではないだろうか。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名
藤　田　治　彦

※事項ごとに評価コメントを記入

１　総合的な事項

基礎的かつ継続的なプロジェクトに着実に取り組んでいる。展覧会との関係づけを各館とも積極的に行っており、地域の教育にも貢献している。

２　自己点検評価に関する事項

各館ともできる限り客観的に自己点検評価しようという姿勢が感じられる。この種の自己点検評価にありがちな過大評価は少ない。しかし、館によって自己点検評価報告書におけるまとめかたにはかなり異なる部分がある。また、東京国立博物館は規模の大きさからして調査研究の数が非常に多いことは理解できるが、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の３館のあいだで、業務実績書となってあらわれる調査研究の数にかなりの違いがあることがやや気になる。おそらく３館間での調査研究活動の活発さにはこの数にあらわれるほどの違いはなく、業務実績書としてのまとめかたの違いによるのではないかと想像される。ただし、これがひとつの指標になることは確かなので、何を業務実績書となる調査研究と考えるかに関する国立博物館４館間の相互調整、ならびに各館内での積極的な検討が期待される。

３　調査研究に関する事項

調査研究は、東京国立博物館は総合的に、京都国立博物館と奈良国立博物館はそれぞれの歴史と地域の特性に応じた伝統的手法の研究を中心に、九州国立博物館は科学的方法による研究を中心に、各館の特徴を生かして、積極的に行われている。九州国立博物館におけるＸ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析などは、世界的にも先駆的な研究であり、今後の展開が期待される。

各館ともに日本各地の公立あるいは私立の博物館・美術館と協力して調査研究を進めており、所蔵館では理想的な展示ができない、あるいは、展示価値等から判断して国立博物館で公開展示されることが望ましい作品やコレクションの展覧会などもいくつかの国立博物館で行われている。公立ないし私立の中小規模の館には予算が十分でないところも多く、そのような展覧会の際に、国立博物館が作品の高精度撮影等で協力できれば、所蔵館にとっては、国立博物館での展示に加え、二重のメリットとなる。このような国立博物館に期待される重要な貢献がなされている。経済の低迷等のため、日本各地のミュージアムの経営状態は非常に苦しい。国立博物館は自館だけでなく日本のミュージアム全体を支える役割を担っている。

文化財のデジタル撮影は、館によってはかなり体制が整ってきたようで、今年度は昨年度にも増して多くの撮影が行われている。この実施と継続のためには各館ともかなりの予算が必要であろう。また、デジタル撮影データの保存と活用については、各館でそれぞれに検討実行するとともに、国立文化財機構がリードして、各館が知識や経験を相互に提供し、将来的な検討を進める必要がある。

４　その他

各館は、世界各地の博物館、とくにアジア地域の博物館と積極的に交流を行っている。アジア諸国の博物館への協力等を通じて、日本の国立博物館が果たしてきた、アジア地域の文化財の調査研究や保護への貢献は大きい。平成２３年度の調査研究等においてもそれは継続されている。アジアの文化財の修復等に不可欠な手すき紙の調査研究等は引き続き日本が中心となって継続すべき活動であろう。

近年、アジア諸国の博物館・美術館は非常に充実しつつある。各館の研究者がアジア諸国の博物館を訪問した際に、その優れた点、充実ぶり等も調査し、日本の国立博物館に設備的、予算的に劣るところがあるならば、それを検討する機会等を設け、日本の国立博物館の新たな充実の必要性を強く訴える必要がある。

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名

森　　弘　子

※事項ごとに評価コメントを記入

１　総合的な事項

平成 23 年度は、東日本大震災の影響もあり、文化財レスキューなどの臨時業務もある中、館の運営や調査研究においては、弛むことなく取り組まれており、前年度の評価を踏まえた改善、工夫も見られた。

基礎的な調査、データの集積という地道な作業と共に、最先端の機器を活かした光学的研究の

成果が大いに上げられた。また多様な国民のニーズに応えうる様々なプログラムの提供にも努力されている。

２　自己点検評価に関する事項

今回の自己点検評価では、はじめてＳからＦまでの評価が見られ、職員がこうしたことに慣れてきたことを示すものと考えられる。しかしあくまで主観的なものであり、備考欄を読み、他の研究の評価と比べて見ると、S～F のランクが他の評価でも良いのではないかと思われるものもあった。

ただ、こうして自己点検してみることは、惰性や怠慢に陥ることを防ぎ、改善点等を見いだし、業務により高い成果をもたらすものであり、そのこと自体に意義がある。

評価表の記入の仕方に、館によってバラツキが見られた。法人内で統一的な記入マニュアルを作成されては如何であろうか。

３　調査研究に関する事項

各館共に、館の特性を活かした調査研究が意欲的になされている。ただ 23 年度は大震災や業務多端の影響等もあったのであろうか？調査回数や論文発表が予定数に達していない研究がいくつかあったことが気になった。

・歴史や伝統文化に幼い頃から触れさせることの重要性は誰もが認識しているが、その方法の構築は至難の業と考えられる中、奈良博の「世界遺産学習」における幼稚園児を対象とした取り組みは聞いていてワクワクするほどであった。園児のみならず、多方面への影響も考えられ高く評価したい。

・九博の契丹文化に対する調査研究は、開館前から取り組まれており、単に調査するだけにとどまらず、内蒙古自治区との交流によって彼の地の文化財保護に大きく寄与した。また「日本とタイ　ふたつの国の巧と美」でも研究者の相互派遣等の交流にとどまらず、市民や工芸技術者の交流などもあり、単に調査研究に留まるのではなく、それを通して国際交流の実があげられたこと、また市民にも可視的に示されたことを評価したい。

・九博の「よみがえる国宝」は、文化財の修理と保存、復元という視点からの研究の成果であり、今日に伝えられた一級の文化財を鑑賞できるにとどまらず、それを伝えてきた日本の伝統的な技や心に迫る意欲的な展覧会であり、一般観覧者の評価も高かった。

４　その他

昨年は東日本大震災で甚大な被害があり、首都直下型地震等が高い確率で予想される今日、国の宝である文化財の収蔵については、早急に方策を講じなければならないのではなかろうか。収蔵庫の強度、停電時に於ける空調、一箇所に集中して保管することのリスク等々、危惧されることが多々ある。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　研究所調査研究等部会

部会長　佐　藤　　信（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

稲　田　孝　司（岡山大学名誉教授）

岡　田　保　良（国士舘大学イラク古代文化研究所教授）

園　田　直　子（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）

玉　蟲　敏　子（武蔵野美術大学造形学部教授）

柳　林　　修（読売新聞大阪本社記者）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名
佐　藤　　信

※事項ごとに評価コメントを記入

１　総合的な事項

基礎的・先端的な文化財の調査・研究と国際協力などの多方面にわたり、期待される成果を充分に挙げていると評価できる。研究成果の発信にも充分な努力が為されているものの、研究者向けでない国民全般に向けての発信という面で、さらに努力の余地もあるのではないか。

昨年の東日本大震災に対応した「文化財レスキュー」事業での、両研究所の機動的な活躍については、きわめて高い評価が与えられるものと考える。こうした事業に積極的に取り組みながら、恒常的な調査・研究や国際協力の業務にも大きな達成を実現した努力に対して、改めて敬意を表したい。

毎年の努力の蓄積によって自己点検・外部評価がスムーズに行われるようになったものの、やや形式的になった感が無くはない。自己点検の際に、研究所の調査・研究のより効率化や職場のさらなる改善に向けての課題も、報告書に記述するようにしては如何か。また、職員たちからの改善提案を、無記名で募集しては如何か。

新しいアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおける自己点検・外部評価についても、先行する両研究所の事例を参考にしつつ、点検・評価の体制を築いていただきたい。

２　自己点検評価に関する事項

両研究所とも、限られた人員・予算の割に大きな実績を挙げていると評価できる業務が多かった。人員・予算面での「効率化」努力について評価する際に、「人員・予算が減った一方実績は増加した」ということを示すために、以前の年度の実績と比較する方法は考えられないか。

研究所の調査・研究成果がマスコミ等で好意的に取り上げられた実績、研究員の受賞、そして科学研究費など外部資金の獲得件数・金額なども、実績として評価対象に加えてよいのではないか。

自己評価では、定量評価もできるだけ詳しく記載していただきたい。

３　調査研究に関する事項

基礎的・先端的な文化財の調査・研究において、多方面にわたり充分な成果を挙げていると評価できる。地味ながら必要不可欠な基礎的研究の分野にも、充分な人的・財政的な配慮をするべきと考える。

東京・奈良の両文化財研究所の協力体制が、段々と進んできたように評価する。新しく出来たセンターや、同じ国立文化財機構の博物館との調査研究上の協力を、さらに進めていただきたい。

考古学・日本史学・保存科学・美術史・遺跡学・建築史・庭園史・写真学など、関連する多様な学会への様々な形の協力も、実績として評価する方向を考えていただきたい。

４　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

東京・奈良の文化財研究所とも、文化財保護のための調査・研究、保存修復、人材育成や技術移転などをめぐる国際協力や国際研究集会の開催などでは、多分野にわたり、日本ならではの質の高さで大きな実績を挙げており、非常に高く評価できる。各国・各組織との協力体制を、個々の所員の尽力に負うのみでなく、研究所としての組織的な事業としていただきたい。

新しいアジア太平洋無形文化遺産研究センター

国立文化財研究所において、世界文化遺産に関する調査・研究を推進することはできないか。

５　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

ホームページ（インターネット）による調査・研究成果やデータベースなどの発信・公開が多くの人々からアクセスされていることを評価したい。さらに魅力的な情報発信を、継続して展開していただきたい。

研究所の報告書・研究論集などの出版物が多様かつ大量に刊行され、成果の発信となっていることは大いに評価できる。こうした刊行物が、入手しにくい外部の研究者や一般にも販売されるようにはできないか。インターネットによる、論文・データなどのＰＤＦ公開を、さらに拡大して展開していただきたい。

調査研究の成果を、研究者向けのみでなく、一般国民に対しても分かりやすい形で出版するなど、発信していただきたい。

両研究所の図書資料や、所内で公開しているデータ・資料などの閲覧公開について、さらに部外研究者・市民たちによる利用を促進する方向を、公開体制のさらなる整備や広報などの諸面において、進めていただきたい。

両研究所がもつ資料館や展示スペースをさらに活用して、調査研究の成果を発信していただきたい。また、外部の各地の自治体立博物館や大学博物館などでの展示・公開事業などはできないか。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

国・地方公共団体・博物館・美術館等に対する協力・助言では、委託されたものなど多分野で高レベルの大きな実績を挙げていることは、高く評価できる。

両文化財研究所として、文化財研究における高い研究レベルを活かした高等教育への協力をさらに進めていただきたい。また、これに加えて地元などの初等・中等教育の学校教育との連携をも、研究所公開事業などとして進められないものか。

７　その他

東日本大震災からの復旧・復興に際して、当面の「文化財レスキュー」事業とともに、両研究所における文化財の防災に関する研究成果を、さらに広く積極的に発信・提供していただきたい。復旧・復興にともなう幅広い文化財の保存・活用事業に関して、両研究所のノウハウをさらに広く展開・活用していただきたい。

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名

稲田　孝司

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

東日本大震災のあと、文化庁は「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業」を立ち上げたが、研究所は個別レスキューへ積極的に加わったほか、とりわけ救援委員会の事務局を担当した東京文化財研究所は事業全体の推進にとって要となる役割を果した（No.84）。近い将来、東日本から西日本にわたる広い範囲で同様な大規模地震が発生する可能性が指摘されており、今回の経験を今後に活かすことが求められている。そのため当初からの研究所中期計画事業に防災や文化財の救出・復旧に関わる調査研究を組み込むことはすでに一部なされているが、災害時に即応可能な地域文化財の台帳づくり、緊急時に台帳や被災・救援情報を共有できるネットワークの構築、修復技術をもった機関の連携促進など、総合的な課題に関する調査研究も必要であろう。また、東日本の復興事業の過程では高台等への集落移転にともなって膨大な発掘調査が予想されており、効果的な調査・記録の進め方、災害時の調査のあり方等についても研究を進め、文化庁・地方公共団体への積極的な支援・提言が期待されるところであろう。

大震災への対応で研究所の人員・時間・予算等が相当投入されたと思われるが、それにもかかわらず当初から計画されていた23年度事業が大過なく推進されたことは、平時における研究所の緊張感ある研究姿勢の賜といえる。

2　自己点検評価に関する事項

両研究所間で学会発表・論文発表の実績の記載方法に齟齬があり、別紙一覧表方式は見にくい。件数が多いために別紙方式にしたのだろうが、余白が充分ある項目まで別紙にするのは疑問。記載しきれない場合、学会報告や簡単な略報はまとめて件数で示すだけでよく、内容のある報告書・論文をしっかり書式内に記入していただきたい（発表のすべてを記載する必要があるのなら、学会報告や簡単な略報などは巻末にまとめて一覧表としてもよい）。

3　調査研究に関する事項

(1) 基礎資料の収集・調査・研究：ギメ美術館蔵大政威徳天縁起絵巻詞書の翻刻作業（No.4）、サントリー美術館蔵泰西王侯騎馬図屏風のデジタル画像形成（No.24）など、著名・重要ではあるが容易く研究対象とはし難い作品を資料化した努力と成果はきわめて貴重である。同時に、無形文化遺産に関係した最初期SPレコード（フランス・パテー盤）の再生・メディア転換（No.7）、興福寺・仁和寺等の文書調査や明日香村八釣の鎌足像儀礼関係資料の報告（No.5）など、埋もれた史・資料を地道に発見・再生・報告する研究もまた不可欠な意義をもつ。発掘調査に関しても、平城宮東院地区（No.12）や藤原宮朝堂院地区（No.27）で新たな知見を蓄積した。甘樫丘東麓遺跡（No.15）のように狭い範囲に遺構が複雑に重複して遺跡の性格がなお判然としない場合は、整理作業に重点を移したり、周辺地域全体のなかで遺跡のあり方を再検討するなど、大局からみた研究方向の吟味が必要であろう。

(2) 理化学手法を用いた調査研究：材質（No.30）・技法（No.4）・地下構造（No.25）・年代（No.26）・古環境（No.27）分析や保存技術の開発（No.28・29・55他）等は両研究所が最も得意とする研究

分野であり、国内・海外で自発的または要望に応じて多数の分析事例を積み重ねたほか、ミリ波イメージング装置の改良（No.31）など分析機器の開発改良にもとりくんだ。

４　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

国際協力事業は両研究所の最も重要な表看板になりつつある。とくに東アジア（No.19・43）・東南アジア（No.44・45）、西アジア（No.46）等で継続した事業が着実に推進された。タイではアユタヤの洪水被害調査（No.44-2）に即応したほか、旧石器時代を含むカザフスタン南部の多層遺跡（No.19）、世界遺産をめざすミクロネシアのナン・マドール遺跡（42-1）など、より広い時代・地域への事業拡大にも積極的であった。

５　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

定期刊行物や調査研究事業の成果報告は膨大であり、研究活動の活発さをよく表わしている。海外事業については、現地語・英語・日本語等の複数版で報告書を刊行する努力もなされた。各国文化財保護法令シリーズ（No.42）では新たに3カ国の法令集が刊行され、特に文化財の多いイタリア・エジプトについては興味深い。研究集会・講演会・遺跡現地説明会の開催、資料の展示・公開等については、内容が多彩であるばかりでなく、情報発信への改良・工夫がなされ、開催回数等も多数にのぼった。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術協力事業（No.40）では、奈文研の数年前の発掘調査でオンドルをもった竪穴住居が発見されている。また同事業では明日香村教育委員会が大壁建物を発見している。両遺構は渡来氏族東漢氏の氏寺とされる桧隈寺の隣接地にあって、高松塚やキトラ古墳など7世紀末～8世紀初頭の文化を支えた渡来人の本拠地の様相を濃厚に特徴づけるものだが、公園整備事業にはこれら重要遺構の復元など有効な活用計画が含まれていない。国交省・文科省間の連携が第一の問題だが、現地の調査研究機関として奈文研がもっと積極的な役割を果たせる枠組みづくりが大切ではなかろうか。例えば国営歴史公園については、吉野ヶ里遺跡等も含め、学術的な面と整備・活用の面から点検する研究事業を立ち上げ、研究所が国両省や地元教育委員会等の連携推進に寄与するというのも一つの方向であろう。

文化的景観の保存活用に関する調査研究（No.20）や文化財に係わる国際協力事業など、文化財行政の新しい分野に関する事業は研究所が行政とよくタイアップしているように見えるが、史跡や埋蔵文化財など一見行政システムが確立しているようにみえる分野についても、今後の中・長期的なシステムのあり方に関する調査研究を立ち上げ、行政に対して研究所が政策提言を行うようなことがあってもよいのではなかろうか。

７　その他

特になし。

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名

岡 田　保 良

※事項ごとに評価コメントを記入

１　総合的な事項

限りのあるスタッフと予算の中で、両研究所とも多様な分野にわたって質的にも量的にも、きわめて高い実績を上げていることは多くの認めるところで、報告書にA評価があふれているのは当然といえる。しかし、そうした評価はともすれば現状の肯定を意味し、じっさいには改善すべき調査研究環境を見過ごす結果にならないか、懸念される。

22年度報告において「今後の活動に多くの変化をもたらすことと予測される」とされた大震災関連事業について、23年度事業では「被災文化財レスキュー事業」における事務局設置等の活動が東文研から報告され（No. 33, No. 84)、きわめて多くの研究職員が関与したようだが、このレスキュー事業による研究所ないし機構全体の他事業実施への影響、あるいは今後の見通しについて、社会的に注目度が高いだけに、もう少し立ち入った自己点検が必要ではなかったか。

２　自己点検評価に関する事項

プロジェクトの担当者たちが評価Aにこだわるあまり「観点」を恣意的に選択していないか。自己点検及び外部評価は、終了した業務の成果をランクづけするだけにとどまらず、将来を見据えた業務環境の改善を示唆するべきであるとすれば、調書に掲載される「定性的評価」の「観点」項目のたて方に工夫がありうるだろうし、建設的な意味を込めたB以下の評価がもっとあってよいのではないか。

３　調査研究に関する事項

両研究所の根幹をなす機能であり、自らに課した課題はもとより国その他外部から託された事業まで、調査研究の成果は毎年膨大かつ多分野にわたっており、十分敬服すべき成果を提示していると評価できる。ただ両研究所が最先端保存技術を駆使し合同・分担して進めている高松塚とキトラ古墳に対する劣化防止と修復措置について（Nos. 39, 40)、自己評価では楽観的な見通しが伺えるが、懸念はないのか、各方面から注目される事業でもあり、慎重かつ堅実な進捗を期待したい。

出土品調査の分野では、鷹島沖など海底遺跡調査の有効性を見きわめる上で、奈文研が進めつつある埋蔵環境の再現実験（No. 22）を伴うデータの収集に注目しておきたい。

建築分野のスタッフは両研究所共に決して手厚いわけではない。にもかかわらず、景観を含めてその分野の調査研究の需要は衰えることがなく、その実情は、奈文研のプロジェクト「我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究」（No. 6）に、事業概要に盛られた趣旨をはるかに超えた実績（一部受託事業まで含む）が詰め込まれていることにも現れている。東文研では、茅葺き屋根を含む伝統的大工技術を建築スタッフのいない無形遺産部が扱うという（No. 8：無形民俗文化財の保存・活用に関する研究)。それらの評価にはAが並ぶが、評価項目のたて方に問題はないか。スタッフの充実や研究環境の改善に導くような自己評価のあり方を求めたい。

４　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

東文研は国際協力センターを中心に、その能力をフルに活用した海外事業の展開には目覚しいものがある。とくにその成果を和英両方の版で刊行するという形を常態とし、現地への成果還元に常に意を払っている調査研究の有り様は大いに評価したい。No. 46 は西アジアの事業として一本の事業報告にまとめられているが、バーミヤーンほか数本に分けて報告すべきほどの規模を包含する。

奈文研は、国際面ではむしろ技術供与や人材育成の面での貢献が大であり、今後にも期待が寄せられる（No. 49)。翻って機関としてカンボジアにおける考古学的調査事業を継続する意義は再考するべき時期が来ているのではないか（no. 48)。

2003 年の無形遺産条約採択、さらに昨年の無形遺産センター設置（堺市）を受けて、登録推薦の準備や国際会議など無形遺産の業務内容、さらにはこれまでの国内保護法の枠で捉えていた無形概念に変化が生じているのではないか。同センターが同じ国立文化財機構に組み込まれたのを契機に、国（文化庁）とセンターと東文研その他がこの分野をどのように棲み分けるのか、プロジェクト No. 50 ではまだ明確とはいえない。日本国としての体制づくりを三者で検討していただきたい。

東文研における国際協力コンソーシアムの活動について、今次の評価書には盛り込まれなかった。研究所として自前の事業ではないという建前によるのか、その理由は詳らかではないが、この業務内容を短期で終息させるべきか否かを含め、東文研が自己評価するのが当然であろう。

５　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

奈文研・東文研ともに、文化財関連の情報収集と公開に努力が払われていることは、データベースの構築や、夥しい種類と量の刊行物から評価できる。ただ外部の利用者のニーズにどこまでマッチしているか、そこまでは配慮が至っていないのではないか。今の時代、紙媒体による出版がどの程度必要なのか、すくなくともネット上での公開をもっと進めるべきではないか。

東文研による出版物の英文化を除くと、海外向けの情報発信はまだ十分とはいえない。とくにアジア諸国にとって我が国の文化遺産事業の内容は、大いに貢献するはずである点、両研究所の企画調整担当者には考慮していただきたい。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

埋蔵文化財調査は奈文研、保存科学分野は東文研といった棲み分けが、地方行政の人材育成も含め定着した感があり、それなりに望ましいと考える。

奈良・東京両研究所がそれぞれ別のスキームで実施している大学院との連携による若手人材育成は、大学教育の中に科学の現場実務を持ち込むことができるという意味で、自己評価の記載は乏しいものの、きわめて有用と評したい（Nos. 87, 88)。ただ奈文研の京大に対する協力では、担当者にとって過度な負担にならぬよう配慮が必要だろう。

冒頭に記したように、東北大震災関連では、両研究所とも多大な貢献をなしたはずで、ともすれば本来予定されていた業務計画に支障が出かねないところだが、人材や予算の強化策などなかったのかという点を含め、調書はそういった面にも触れてほしい。

7　その他

報告書には多くの受託事業の成果が個別に掲載されており、これらはいずれかの研究プロジェクトのコンテンツのような扱いとなっていて、委託の経緯や委託元の意図が判然としない事例が多い。研究所の過度な負担になるようなケースがないか、成果が研究所自体の蓄積として意味があるのかといった観点から、個別に評価を付すべきではないか。

情報収集の分野に関係することだが、今日の世界遺産に関する国民的関心はきわめて強いものがあり、各地の高等教育の中にも文化財への理解を促す恰好の素材を提供している。ところが、世界遺産に関する基礎的情報、しかも日本語による信頼に足るソースは、NII のサイトや ACCU が一部を担っているもののきわめて貧弱なのが実情で、今後いずれか、あるいは両方の研究所がデータベースの構築事業などにより、その不足を満たす役割を果たし得ないか、一考を促したい。

以上。

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名

園 田　直 子

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

平成 23 年度、文化財研究所は東日本大震災の被災文化財等救援委員会の事務局を担うということで、年間計画に匹敵する業務がプラスアルファでかかってきた。そのなか、震災復興に邁進するかたわら、当初計画をほぼ完全に実行している。さらには震災関連の課題を新たな研究テーマとして取り組んでおり、総合的に高く評価できる。今後は有形・無形文化財ともに、いかに震災復興と関わっていくかの体制づくり、得られた経験や知見の国内外への情報発信が鍵となろう。

なお、報告書内のプロジェクトのなかには同地域を対象とするもの、同種要素が含まれるものがあるので、統合あるいは差異の明確化をお願いしたい。

2　自己点検評価に関する事項

定量評価において、実績値が目標値の 150%以上の場合はＳ判定という統一ルールを用いているのは良い。ただ、総合的評価は一律 A 判定である。当初計画を大幅に上まわる成果があれば S 判定、目標に達せなければ B 判定にするなど、総合的評価にも統一見解を設けて良いのでは。

3　調査研究に関する事項

既存プロジェクトのなかに、津波資料への対応、保存環境の省エネ、仏像群の地震転倒予測など、時宜を得たテーマを取り組み、研究を進めている。緊急事態のなか、各種の調査・情報集約、整理・記録、基礎実験や応用開発など、継続的かつ悉皆的に行ってこそ意味を持つ基礎的作業が着実に行われている。調査依頼が急増し、新規技術の開発や検討に充てる時間が不足するという事態が生じている現場があるのは問題である。

4　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

継続実施している一連の国際協力推進の活動は、日本の国際貢献の大きな一助であり、また日本に対する理解を諸外国で高める一翼を担っている。日本での国際研修も予定どおり実施し、諸

外国のニーズにこたえている。無形文化遺産分野の国際研究交流事業においては、アジア太平洋無形遺産研究センターの設立により、今後、どのように文化財研究所と棲み分け（協力）し、国際協力に貢献していくのかに注目したい。

5　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

各種資料をテジタル化し情報発信する動きが盛んになる一方、国内外でデジタルマイグレーションとどう対峙するのかが問われている。音声・映像・映像資料の恒久的保存に向けた研究に着手し、国の文化財保護行政をリードするような提言を期待する。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

地方公共団体等が実施する事業への援助・助言は、文化財、建造物・遺跡等、無形文化遺産を対象に展開されている。なかでも東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業の活動は特筆に値する。

博物館・美術館等の保存担当学芸員研修、埋蔵文化財担当者研修、さらには連携大学院教育を通じ、次世代の人材育成に大きく貢献しており、評価できる。

7　その他

特になし。

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名

玉 蟲　敏 子

※事項ごとに評価コメントを記入

1　総合的な事項

平成 23 年度は、未曾有の災害後の文化財レスキュー事業への取り組みが重なったにもかかわらず、年度毎の計画的事業もほぼ順調に遂行され、奈良・東京ともに研究所の底力を改めて認識した。

しかしながら、そうした積極的な活動を国民へ周知させる努力については、後手にまわっているようで残念に思われる。

国民へ文化財保存、研究に対する意識の向上のためには、さらに中身を分かりやすく伝える方法が検討されるべきだろう。

2　自己点検評価に関する事項

近年は、奈良・東京ともに活動内容のプレゼンテーションが要領を得て分かりやすくなっており、活動内容の着実さがよく理解できた。ほとんどが「A」評価であるのも妥当だと思わせるだけのそつのなさがあった。

3　調査研究に関する事項

少ない人員での取り組みであるにもかかわらず、地道な調査研究活動が光った一年だったとい

える。たとえば、東京では数年の台北故宮博物院での調査研究が、近年、日本の出版界では制作されることの少ない大型図録『李唐萬壑松風図光学検測報告』としてまとまったことは評価したい。

奈良においても『木奥家所蔵大工道具調査報告書』として江戸時代の春日座大工関係の古文書がまとまって公刊されており、底力を感じさせる成果の一つと言える。

４　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

順調な計画事業の遂行に加え、ユネスコからの協定に取り組むためにアジア太平洋地域無形文化遺産研究センターの設置が文化財機構に組み込まれたことが報告された。中国・韓国等と比較して積極性があまり感じられなかったが、近代以来の底力が今後どのように発揮されていくのか注視したい。

５　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

東京については二つの顕著な成果が確認できた。サントリー美術館所蔵の「泰西王侯騎馬図屏風」の調査・高精細ディジタル撮影の成果が高い情報発信能力を備えた美術館との共同によって国民に広く共有されたことがまず挙げられる。

また一連の文化財の保存及び修復に関する国際研究集会において、染織技術分野について無形文化遺産に視点と有形文化財を扱う工芸ないし工芸史の視点の相互乗り入れが達成されたことである。このような共同的な視点はおそらく国民の求めるものでもあり、世界的にも注目されると思われる。単発的に終わらずに充実した報告書を踏まえて、さらなる発展を期待したい。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

この活動に、平成 23 年は文化財レスキュー事業が組み込まれたことが確認できた。災害への対応が、平時の事業枠に収められ、迅速な活動に結び付いたことを高く評価したい。この度の活動はリストのなかに押さえられ、あまり具体的には知られなかったがそれをある程度公表していくことも、国民に対する活動の透明性に繋がり、研究所に還ってくるものが大きいと思われるので、一考願いたい。

７　その他

原則として、文化財機構のなかで研究所の活動は地道な基礎研究に類するもので、なかなか国民に分かりやすく、その真の姿が伝わりにくい。説明会の開催、出版物、ウェブの活用、さらに美術館、博物館と提携することである程度の情報発信に繋がるが、やはり定期的な取り組みは必要だろう。

評価委員会でも話題になったが、スタッフの負担にならない範囲で、大学のオープンキャンパスのような公開の機会を設けてもいいのではないだろうか。そのための宣伝活動も国民との距離を縮める点で有効に働くように思われる。

日本の文化財保存・研究活動の底力が多くの国民に理解され、価値が共有されていくよう、進んで努力されるように望みたい、

◎研究所・センター調査研究等部会

外部評価委員名

柳　林　　修

※事項ごとに評価コメントを記入

１　総合的な事項

少ない所員と厳しい予算の中で多種多様な調査、研究や文化の発信、文化財を通しての国際協力の推進といった、わが国の文化財行政のセンターとして大きな役割を担う実態が理解できた。多数の学会や研究会での発表と論文執筆、報告書刊行は高く評価される。調査、研究の方向性は妥当である。

とりわけ人員や予算を考えると奈良文化財研究所の発表や論文などの多さは特筆すべき成果だ。東京文化財研究所も同様だが、真摯な取り組みが見て取れる。新しい課題に取り組む姿勢もうかがえて頼もしい。

しかし、過重な業務が感じられるのも事実。目前の課題を解決するのは当然だが、長い目で見た調査や研究に余裕をもって取り組むこともいっそう心がけていただきたい。その意味では研究所やセンターの幹部は絶えず人心を把握し、仕事がしやすい環境づくりの整備に勇気を持って取り組んでほしい。一方で極めて狭い範囲で自己満足的と思える研究も見受けられた。理解を得るには積極的な成果の公表が必要だ。

昨年１０月に開設されたアジア太平洋無形文化遺産研究センターは少ない人員にもかかわらず、スタートダッシュで調査、研究を始めたのは喜ばしい。専従の人員確保に力を入れ、東京文化財研究所文化遺産国際協力センターと連携を取って、「心のよりどころ」として重要性が増す無形文化遺産の調査、研究、保存、伝承に力を入れていただきたい。中国、韓国の機関とも協力し、共同研究体制の構築に期待したい。

２　自己点検評価に関する事項

全体として定性的評価、定量的評価、総合的評価は妥当だろう。１００％近くが「A」評価で、分析も適正と思える。もっと大胆に、自信を持って「S」とする評価があってもいいし、正直に「B」や「C」があってもいい。要は自己診断能力がきちっと機能しているかどうかだ。一部で他の機関が評価するのも面白いかもしれない。定性的評価、定量的評価、総合的評価の３つで報告するのは負担が大きいのではないか。備考で空欄がみられた業務もあった。評価項目の合理的な簡略化を検討したらどうか。

３　調査研究に関する事項

多種多様な調査研究で、真摯な仕事ぶりがうかがえた。３機関が全国の自治体や外国研究者のよき指導者、よき相談者として行う業務は「種まき」として重要で、責任を果たしていることは理解できる。

奈良文化財研究所の「文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究」は指導的役割を果たしており、注目される。景観を保護する意味でも基礎的情報を収集し、諸課題を議論する取り組みはもっと力を入れたい。国の重要文化的景観「奥飛鳥地域」（奈良県明日香村）は国土交通省による飛鳥川の大規模護岸工事で景観が一変した。防災対策でやむをえない面はあるが、こうしたことに提言し、事業にかかわるなど今後は行政や地元と連携を密にして文化的景観の保護に結び

つく積極的な活動も求めたい。

奈良文化財研究所の発足当初の理念からすれば、南都寺院の古文書や建築の研究にいっそうの力を入れることが望まれる。中でも古文書を調査する歴史研究室の所員が１人というのは寂しい限りだ。調査は保存にもつながる点でも極めて大切であり、人数不足を補うためには奈良国立博物館との協力があってもいい。両者でテーマを設定して古文書調査、研究に対応する方法も検討していいのではないか。

気になったことの一つに奈良文化財研究所の「文化財の測量・探究等に関する研究」がある。とくに地下探査は担当者不足で研究の進展は難しく、調査依頼にも十分な対応ができないと報告されている。人員不足はこの分野に限ったことではないが、業務内容を点検して人員の配置を再検討することも必要だ。

東京文化財研究所が中心となって取り組む、高松塚古墳の壁画の保存、修復は順調と聞いて安堵している。多額の予算をかけた長丁場の取り組みであり、劣化発見の遅れの一つの原因だった不十分な情報公開を繰り返さないため、積極的な情報発信をお願いしたい。残念だったのは修理施設での壁画公開が年２回から１回に減ったこと。主催する文化庁の判断ではあるが、両研究所は調査研究成果の発信という面で重要なこの取り組みを充実させるよう文化庁に働きかけてほしい。

４　文化財保護に関する国際協力の推進に関する事項

国際協力は単に文化財の調査、研究の進展だけでなく、日本の国際貢献に寄与することはいうまでもない。ある意味で“国際平和活動”であり、両研究所の継続的な取り組みは大きな価値を持つ。ベトナムのタンロン皇城遺跡やカンボジア・西トップ寺院遺跡など着実に成果を挙げているものが目立ち、当地の研究者の育成にも結びついているのは心強い。推進するためにはユネスコへのアピールが大切だろう。ユネスコや国際協力機構などの理解を得て費用の捻出を図るのも予算が限られた中で重要だ。さらに外国における事業の成果を一般向けに分かりやすく公表する機会をもっと積極的に設けてもらいたい。

５　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に関する事項

「自己点検評価報告書」の「主な成果」で、「調査成果を公表した」との表現があった。これが報告書への成果掲載を意味するケースもあったが、報告書は一般に流布するものは少ないから、「これでよし」とするのではなく、報道機関などを活用して公表する試みがあってもいい。

前回、佐藤委員が指摘した「オープンキャンパス」に似た公開事業も求めたい。博物館と違って研究所やセンターは市民との接触、交流の機会は限られている。講演会、発掘調査の現地説明会などは行われているが、研究所やセンターの一日公開といった調査、研究の内容を紹介する取り組みがあればと思う。東京文化財研究所の団体見学や、奈良文化財研究所での小学生の体験授業などはよい試みだ。しかし、ここでは申し込みをしないで参加でき、一日を所員と市民が交流する機会にし、施設を見学できたらと思うのだ。市民に業務を知ってもらう絶好の機会であり、市民に機関を開放する試みの実現を期待したい。

２０１０年に奈良県の藤原宮跡で行った発掘調査で間違った成果の発表があり、後に訂正したが、これに関しては発掘調査担当者以外も現地を視察し、これまで以上に調査内容を検討する機会を充実させており、真摯な対応がみえる。今後も総合的に幅広い観点から成果を検討し、積極

的に公表してほしい。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

両研究所が文化財における先導的、指導的役割を果たしていることは文化財の修理、整備や発掘調査の援助、助言などに関する資料で一目瞭然である。地方公共団体への専門委員会への出席なども多数あり、受託調査も含めて存在感は大きい。文化財担当職員に対する研修事業も充実して順調だ。中でも東京文化財研究所を中心に実施している東日本大震災の文化財レスキュー事業は特筆される。軌道に乗るまで少し時間を要したようだが、被災文化財の救出に大きく貢献している。今後は無形文化財を含めて地元自治体や民間の歴史資料保存ネットワーク、大学などと連携を密にし、中心的な役割を果たしていっそうの被災文化財の救出に全力を挙げていただきたい。

７　その他

研究者の流出が気がかりである。研究所で育ち、中核を担ってきた研究者が指導者として研究所を支える時期になった時、大学などに転出するケースが起きている。今に限ってのことではないが、公務員の待遇が厳しくなり、業務が増えて負担が大きくなる中、これまで以上に転出するケースが増えるのでないか。調査、研究体制の整備、人員の効率的な配置など抜本的な対策が求められているだろう。

交付金の減少に対応するために寄付金の獲得に力をいれてほしい。博物館ではかなり行われているが、研究所やセンターでも業務をアピールして民間資金の獲得に努めていただきたい。そのためには研究成果のわかりやすい説明も必要になる。市民により近づいた成果の還元にも結びつくだろう。

奈良文化財研究所員が奈良国立博物館員を併任しているのは素晴らしいことだ。研究所でも成果の公表で展示が求められる。そうしたノウハウを得る意味でもいい機会だ。このように今後も積極的に３機関や国立博物館、地方自治体、民間博物館との交流を進めていただきたい。かつて奈良文化財研究所員が奈良市に出向して奈良市の文化財行政を軌道に乗せるのに貢献したことがある。指導的役割を果たすのは当然だが、他の機関から学ぶべきことも多いと考える。これまでの常識を越えた幅広い交流があってもいい。

VI 日誌

（法人全体及び七施設共通事項）

年	月	日	記事
23.	4.	8	第１回役員会（東京国立博物館）
23.	4.	20	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（研究所調査研究等部会）
23.	4.	27	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（博物館調査研究等部会）
23.	5.	25	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（総会）
23.	6.	10	第２回役員会（東京国立博物館）
23.	6.	10	監査法人の監査結果（平成 22 年度）通知
23.	6.	22	平成 22 年度定期監査（東京国立博物館）
23.	6.	30	独立行政法人国立文化財機構の第 4 期事業年度財務諸表の承認の通知
23.	7.	6	文部科学省独立行政法人評価委員会文化分科会国立文化財機構部会（第 66 回）
23.	7.	7	健康管理のための講習会（東京国立博物館）
23.	7.	8	第３回役員会（京都国立博物館）
23.	7.	20	平成 23 年度新任職員研修会（個人情報保護及びハラスメントに関する講演も同時実施）（東京国立博物館）（～７月 22 日）
23.	8.	3	独立行政法人文化財機構運営委員会（東京国立博物館）
23.	8.	11	文部科学省独立行政法人評価委員会総会（第 46 回）
23.	9.	20	第１回６施設連絡協議会（東京国立博物館）
23.	10.	14	第４回役員会（奈良文化財研究所）
23.	10.	31	第１回研究・学芸系職員連絡協議会（東京文化財研究所）
23.	12.	14	第１回７施設連絡協議会（東京国立博物館）
23.	12.	22	第５回役員会（東京国立博物館）
24.	1.	12	健康管理のための講習会（東京文化財研究所）
24.	1.	27	第６回役員会（京都国立博物館）
24.	3.	2	第２回研究・学芸系職員連絡協議会（東京国立博物館）
24.	3.	14	第２回７施設連絡協議会（東京国立博物館）
24.	3.	23	第７回役員会（東京国立博物館）

（東京国立博物館）

年	月	日	記　　事
23.	3.	29	博物館でお花見を（～4 月 17 日）
23.	3.	29	春の庭園解放（～4 月 17 日）
23.	4.	25	特別展「手塚治虫のブッダ展」開会式及び特別内覧会
23.	5.	7	上野ミュージアムウィーク「国際博物館の日」記念事業 2011（～5 月 22 日）
23.	5.	10	福田康夫元総理大臣来館
23.	5.	11	塩川正十郎元文部大臣、蓑　豊兵庫県立美術館長来館
23.	5.	15	国際博物館の日　記念事業「上野の山でネズミめぐり」
23.	5.	16	特別展「写楽」特別内覧会
23.	5.	18	総合文化展無料観覧日(国際博物館の日)
23.	5.	22	近藤誠一文化庁長官来館
23.	6.	2	ユネスコ　ゲタチュー・エンギダ事務次長来館
23.	6.	2	台湾文化省副長官来館
23.	6.	7	イセ文化基金来館
23.	6.	8	松下新平参議院議員来館
23.	6.	8	東京新聞東京本社小出代表来館
23.	6.	19	生田流・箏とトランペットとピアノコンサート（平成館）
23.	6.	21	臨時休館日（電気設備保守点検）
23.	6.	23	ノーベル文学賞受賞　マリオ　バルガス　リョサ氏来館
23.	6.	24	中屋大介衆議院議員来館
23.	6.	24	赤松正雄衆議院議員来館
23.	6.	25	東京国立博物館ファミリーコンサート（平成館）
23.	7.	17	納涼東博寄席～東日本大震災　復興支援～（平成館）
23.	7.	19	「空海と密教美術展」開会式及び特別内覧会
23.	7.	19	彬子女王殿下「空海と密教美術展」お成り
23.	7.	25	特別展「孫文と梅屋庄吉－100 年前の中国と日本」開会式及び特別内覧会
23.	8.	1	保利耕輔元文部大臣来館
23.	8.	2	舛添要一参議院議員来館
23.	8.	5	「空海と密教美術展」10 万人セレモニー
23.	8.	5	トヨタ自動車　豊田章一郎名誉会長来館
23.	8.	7	遠山敦子元文部科学大臣来館
23.	8.	8	鈴木寛文部科学副大臣来館
23.	8.	10	髙木義明文部科学大臣来館
23.	8.	11	塩川正十郎元文部大臣来館
23.	8.	12	愛知和男前衆議院議員来館
23.	8.	15	夏休み期間中の特別開館日
23.	8.	18	荒井広幸参議院議員、松下新平参議院議員来館
23.	8.	18	北澤俊美防衛大臣来館
23.	8.	22	河野洋平元衆議院議長来館
23.	8.	25	鳩山邦夫衆議院議員来館

23. 8. 29　皇太子殿下「空海と密教美術展」行啓
23. 9. 1　仁坂吉伸和歌山県知事来館
23. 9. 2　逢沢一郎衆議院議員来館
23. 9. 2　ライオンズクラブ国際協会　Ｄｒ．ウィクン・タム国際会長来館
23. 9. 8　天皇陛下「空海と密教美術展」行幸
23. 9. 13　「空海と密教美術展」40 万人セレモニー
23. 9. 15　森詳介関西電力会長
23. 9. 16　駐日スロバキア大使来館
23. 9. 17　高円宮妃殿下「空海と密教美術展」お成り
23. 9. 19　総合文化展無料観覧日（敬老の日）
23. 9. 22　松崎哲久衆議院議員来館
23. 9. 27　城井崇文部科学大臣政務官来館
23. 9. 27　ナムギャル駐日ブータン大使来館
23. 10. 2　亀渕友香とＶＯＪＡによるコンサート（平成館）
23. 10. 6　イタリア文化会館ウンベルトドナーティ館長来館
23. 10. 6　柳瀬荘アート・教育プロジェクト（～11 月 27 日）
23. 10. 8　留学生の日
23. 10. 11　神本美恵子文部科学大臣政務官来館
23. 10. 22　ドイツ文化センターミュンヘン本部クラウス＝ディーター・レーマン総裁来館
23. 10. 22　スペイン文化大臣来館
23. 10. 22　中国　蔡文化大臣来館
23. 10. 23　中川正春文部科学大臣来館
23. 10. 24　特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」開会式及び特別内覧会
23. 10. 29　秋の庭園開放（～12 月 11 日）
23. 10. 29　河村建夫元文部科学大臣来館
23. 10. 30　福島みずほ参議院議員来館
23. 10. 31　「根付　高円宮コレクション」開会式及び特別内覧会
23. 11. 1　第８回「台東区の伝統工芸職人展」～今に生きる江戸の技～（平成館）（～11 月 6 日）
23. 11. 1　塩川正十郎元文部大臣来館
23. 11. 6　ネパール臨時代表大使来館
23. 11. 7　東京国立博物館の記念日　祝賀会
23. 11. 11　森ゆうこ文部科学副大臣来館
23. 11. 12　上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会シリーズ　講演会（平成館）
23. 11. 17　特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」10 万人セレモニー
23. 11. 29　ウズベキスタン　ノロフ次官、シャキロフ臨時代表大使来館
23. 12. 1　舛添要一参議院議員来館
23. 12. 3　鈴木寛前文部科学副大臣来館
23. 12. 11　千葉純子によるトリオコンサート（平成館）
23. 12. 25　竹山愛フルート・リサイタル（平成館）
24. 1. 2　東京国立博物館 140 周年イベント
24. 1. 2　博物館に初もうで 2012　新春イベント「金龍の舞」他（～1 月 29 日）

24. 1. 2 特別展「北京故宮博物院 200 選」開幕
24. 1. 6 舛添要一参議院議員来館
24. 1. 6 特別展「北京故宮博物院 200 選」開催記念式典
24. 1. 16 皇太子殿下　特別展「北京故宮博物院 200 選」行啓
24. 1. 16 河野洋平元衆議院議長来館
24. 1. 19 塩川正十郎元文部大臣来館
24. 1. 19 彬子女王殿下　特別展「北京故宮博物院 200 選」お成り
24. 1. 20 有馬朗人元文部大臣来館
24. 1. 21 福田康夫元総理大臣来館
24. 1. 22 鳩山由紀夫元内閣総理大臣来館
24. 1. 24 河野台東区議会議員来館
24. 1. 26 江田五月参議院議員来館
24. 2. 8 高円宮妃殿下　特別展「北京故宮博物院 200 選」お成り
24. 2. 10 古屋圭司衆議院議員来館
24. 2. 13 天皇皇后両陛下　特別展「北京故宮博物院 200 選」行幸啓
24. 2. 13 駐日イタリア大使夫妻来館
24. 2. 16 海外展　開館記念特別展「仏教美術と宮廷の美　東京国立博物館コレクション」開会式（ヒューストン美術館）
24. 2. 17 台北駐日経済文化代表処　憑寄台代表来館
24. 2. 17 世界遺産条約採択 40 周年記念式典・平泉における世界遺産認定書授与式出席者来館
24. 2. 19 平野博文文部科学大臣来館
24. 2. 24 ベルリン市東アジア担当来館
24. 2. 27 平成 23 年度防災訓練
24. 3. 4 春爛漫東博寄席（平成館）
24. 3. 10 春の庭園開放（～4 月 15 日）
24. 3. 16 東京・春・音楽祭－東京オペラの森 2012－ミュージアム・コンサート
東博でバッハ　vol.7　田崎悦子（ピアノ）
24. 3. 16 東京・春・音楽祭－桜の街の音楽会「Vive!サクソフォーン・クヮルテット」
24. 3. 17 東京・春・音楽祭－東京オペラの森 2012－ミュージアム・コンサート
東博でバッハ　vol.8　ゴルトベルク変奏曲（弦楽五重奏）
24. 3. 19 特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」開会式及び特別内覧会
24. 3. 19 高円宮妃殿下　特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」お成り
24. 3. 20 博物館でお花見を（～4 月 15 日）
「J-WAVE SPRING FESTIVAL@トーハク」他
24. 3. 23 四川省成都市文化局一行来館
24. 3. 23 ベルサイユ宮殿会長来館
24. 3. 27 中国北京故宮博物院宮廷部館員来館
24. 3. 27 東京・春・音楽祭－東京オペラの森 2012－ミュージアム・コンサート
東博でバッハ　vol.9　高木和弘（ヴァイオリン）
24. 3. 28 東京・春・音楽祭－東京オペラの森 2012－ミュージアム・コンサート
東博でバッハ　vol.10　中野振一郎（チェンバロ）

（京都国立博物館）

年	月	日	記　　事
23.	4.	1	特別展覧会「法然上人八百回忌　法然－生涯と美術－」
			（会期：３月２６日～５月８日）
23.	4.	2	土曜講座「浄土宗の美術」（京都テルサ）
23.	4.	4	キッズプログラム～小中学生対象鑑賞講座～（建仁寺）
23.	4.	7	運営会議（以後原則として毎月第２、第４木曜日実施）
23.	4.	8	避難誘導訓練
23.	4.	9	土曜講座「像内納入品―仏像と古文書―」（京都テルサ）
23.	4.	11	賛助会員特別鑑賞会
23.	4.	12	健康相談・衛生委員会（以後原則として偶数月第２火曜日実施）
23.	4.	14	鑑査会（以後原則として毎月第３木曜日実施）
23.	4.	22	「京都・らくご博物館【春】～新緑寄席～」（ハイアットリージェンシー京都）
23.	5.	29	清風会総会
23.	6.	7	職員定期健康診断（～6.17）
23.	6.	13	文化財と親しむ授業～『風神雷神図屏風』～（紫明小学校）
23.	6.	14	衛生管理講習会
23.	6.	29	文化財保存修理所運営委員会
23.	7.	1	『京都国立博物館の試み「美の計測」～デジタルが生む新たな視座～』（コニカミノルタプラザ　７月２０日まで）
23.	7.	13	文化財と親しむ授業～『風神雷神図屏風』～（納所小学校）
23.	7.	16	特別展観「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」（～８月２８日）
			土曜講座「動物の眼ざし、動物への眼ざし―近世絵画編―」（京都女子大学）
23.	7.	22	「ジャングル大帝」野外映画上映会
			修理契約委員会（第１回）
23.	7.	23	土曜講座「百獣の楽園をめざして　動物たちが幸せに暮らせる動物園に」（京都女子大学）
23.	7.	27	夏季講座「文学と美術Ⅱ」（ハートピア京都）
			避難誘導訓練
23.	7.	28	夏季講座「文学と美術Ⅱ」（ハートピア京都）
23.	7.	29	「ジャングル大帝」野外映画上映会
			夏季講座「文学と美術Ⅱ」（ハートピア京都）
23.	8.	1	賛助会員特別鑑賞会
23.	8.	2	第 10 回少年少女博物館くらぶ「まるまるアニマル」
			避難誘導訓練
23.	8.	5	第 10 回少年少女博物館くらぶ「まるまるアニマル」
23.	8.	20	土曜講座「動物をみること、表現すること―分類とシンボル」（京都女子大学）
23.	8.	31	列品等修理請負候補者選定委員会（第１回）
23.	9.	9	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会
23.	9.	10	音燈華　ＤＥＰＡＰＥＰＥ　Ｃｏｎｃｅｒｔ
23.	9.	27	救命講習・マナー講習会

23. 10. 1 「典雅なる御装束―宮廷のオートクチュール―」（細見美術館　１１月２７日まで）
23. 10. 3 文化財と親しむ授業～『八橋図屏風』（金閣小学校）
23. 10. 7 特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」開会式及び特別内覧会（会期１０月８日～１１月２３日）
23. 10. 8 細川護熙氏講演（ハイアットリージェンシー京都）
23. 10. 13 情報セキュリティセミナー
23. 10. 15 土曜講座「永青文庫の歴史とコレクション」（京都女子大学）
23. 10. 17 修理契約委員会（第２回）
23. 10. 20 スペイン文化大臣来館
23. 10. 22 『京都国立博物館名品展「京都千年の美の系譜―祈りと風景―」』（静岡県立美術館　１２月４日まで）
23. 10. 24 賛助会員特別鑑賞会
23. 10. 25 社会科教員のための向上講座
23. 10. 26 避難誘導訓練
23. 10. 27 韓国国家記録院来館
23. 10. 28 「京都・らくご博物館【秋】～紅葉寄席～」（ハイアットリージェンシー京都）
23. 10. 29 土曜講座「コレクター細川護立―日本近代美術の視点から―」（京都女子大学）
23. 10. 31 文化財と親しむ授業～『風神雷神図屏風』～（新洞小学校）
23. 11. 5 留学生の日
23. 11. 8 インフルエンザ予防接種
23. 11. 10 京都国立博物館文化大使･竹下景子さんと行く特別展覧会観覧ツアー（京都国立博物館、ハイアットリージェンシー京都）
23. 11. 11 避難誘導訓練
23. 11. 12 土曜講座「細川氏と永源庵―永青文庫の古文書―」（京都女子大学）
23. 11. 19 土曜講座「永青文庫の中国彫刻―コレクションをめぐる人々―」（京都女子大学）
文化財修復大学院 インターシップ報告会
23. 11. 24 京都国立博物館文化財保護基金設立
23. 11. 28 文化財と親しむ授業～『風神雷神図屏風』～（蜂ヶ岡中学校）
23. 11. 30 文化財と親しむ授業～『鶴下絵三十六歌仙和歌巻』～（鷹峯小学校）
列品等修理請負候補者選定委員会（第２回）
23. 12. 19 文化財と親しむ授業～『風神雷神図屏風』～（一橋小学校）
23. 12. 21 韓国国立中央博物館視察
北京故宮博物院視察
24. 1. 6 特別展覧会「中国近代絵画と日本」開会式及び特別内覧会（会期１月７日～２月２６日）
24. 1. 7 土曜講座「中国絵画の近代化と日本影響」（京都女子大学）
24. 1. 17 個人情報保護研修
24. 1. 21 土曜講座「東方芸術の奇葩―北京画院美術館 斉白石コレクションの研究と展示―」（京都女子大学）
24. 1. 23 合同防火訓練
24. 1. 26 買取協議会

24. 1. 27　文化庁長官来館
24. 1. 30　賛助会員特別鑑賞会
24. 2. 4　土曜講座「洋画における中国と日本の交流―近代上海を中心に―」（京都女子大学）
24. 2. 9　静岡大学教育学部附属静岡中学校来館
24. 2. 11　国際シンポジウム「中国近代絵画の形成と日本」（国立京都国際会館）
24. 2. 15　評議員会
24. 2. 24　買取等評価会
24. 2. 25　土曜講座「海上画派と日本および西洋絵画の影響」（京都女子大学）
24. 3. 7　ハラスメント防止等委員会

（奈良国立博物館）

年	月	日	記　　事
23.	4.	4	特別展「誕生！中国文明展」
			開会式、特別招待日　（会期４月５日～５月２９日）
23.	4.	6	賛助会員特別鑑賞会
23.	4.	16	公開講座「中国古代の建築－七層楼閣に見る明器の世界－」
23.	4.	17	サンデートーク「牛玉の話」
23.	4.	19	春季仏像仏画供養法要
23.	4.	29	コンサート「葉衛陽＆さくら親子　中国琵琶競演」
23.	4.	30	公開講座「中国文明の考古学」
23.	5.	5	名品展無料観覧日（こどもの日）
23.	5.	14	公開講座「宝冠仏の系譜－龍門石窟の彫像を中心に」
23.	5.	10	第１回陳列品鑑査会
23.	5.	15	サンデートーク「男はなぜ烏帽子を被るのか－髪型と被り物の文化史」
23.	5.	18	名品展無料観覧日（国際博物館の日）
23.	5.	28	公開講座「正倉院宝物と河南省の文物」
23.	6.	19	サンデートーク「山形の話－作り物閑話の弐」
23.	7.	15	特別展「天竺へ～三蔵法師３万キロの旅」
			開会式、特別招待日（会期７月１６日～８月２８日）
23.	7.	16	特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」
			（～８月２８日まで）
23.	7.	17	サンデートーク「鬼か龍か－統一新羅の鬼瓦－」
23.	7.	19	第１回評議員会
			賛助会員特別鑑賞会
23.	7.	22	夏季仏像仏画供養法要
23.	7.	23	フォーラム「玄奘三蔵フォーラム」
23.	7.	24	イベント「香り袋　手作り体験教室」
23.	7.	30	公開講座「與喜天満神社の歴史と信仰」
23.	7.	31	まほろば寄席（第１２回）
23.	8.	6	公開講座「高層伝絵としての玄奘三蔵絵」
23.	8.	13	ワークショップ「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう！」
23.	8.	20	公開講座「藤田傳三郎と藤田美術館－玄奘三蔵絵をはじめとするコレクションについて－」
23.	8.	21	サンデートーク「空海の伝えた絵画」
23.	8.	23	夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」（８月２５日まで）
23.	8.	27	公開講座「與喜天満神社の神像について」
23.	9.	18	サンデートーク「法然上人周辺の絵画」
23.	9.	19	名品展無料観覧日（敬老の日）
23.	10.	4	第２回陳列品鑑査会
23.	10.	6	秋季仏像仏画供養法要
23.	10.	15	イベント「香木の魅力～シルクロードの香りをそえて～」

23. 10. 16　サンデートーク「茶室・八窓庵をのぞいてみましょう」
23. 10. 28　特別展「第６３回正倉院展」開会式、特別招待日
（会期１０月２９日から１１月１４日）
23. 10. 29　公開講座「金銀鈿荘唐大刀と奈良時代の刀剣をめぐって」
23. 10. 30　正倉院学術シンポジウム 2011「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」
23. 10. 31　賛助会員特別鑑賞会
23. 11. 1　第３回陳列品鑑査会
23. 11. 2　留学生の日
23. 11. 3　公開講座「正倉院宝物にみられる経帙をめぐって」
正倉院展親子鑑賞会
23. 11. 12　公開講座「正倉院宝物にみる染め」
23. 11. 11　高円宮妃殿下お成り
23. 11. 5　公開講座「香と仏教」
23. 11. 19　名品展無料観覧日（関西文化の日　１１月２０日まで）
23. 11. 20　サンデートーク「二躰の僧形坐像－その像主をめぐって－」
23. 11. 29　第４回陳列品鑑査会
23. 12. 6　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（～平成２４年１月１５日まで）
23. 12. 10　特別講演会「おん祭と春日信仰の美術」
23. 12. 13　第１回買取等協議会（彫刻・絵画・書跡）、買取等評価会
23. 12. 18　サンデートーク「写経生の労務管理」
23. 12. 27　第５回陳列品鑑査会
24. 1. 7　公開講座「春日社旧社家の大東家文書と『皇年代記』」
24. 1. 19　冬季仏像仏画供養法要
24. 1. 15　サンデートーク「吉祥天と金光明経の美術」
24. 1. 22　まほろば寄席（第１３回）
24. 1. 26　文化財防火デー消防訓練
24. 2. 3　名品展無料観覧日（節分の日）
24. 2. 11　特別陳列「お水取り」（～３月１８日まで）
公開講座「不退の行法　東大寺修二会（お水取り）」
24. 2. 12　お水取り「講話」と「粥」の会
24. 2. 15　文化財保存修理所公開
24. 2. 19　サンデートーク「脚と格狭間」
24. 3. 13　第２回評議員会
24. 3. 18　サンデートーク「奈良国立博物館の近代建築－仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）の過去と現在」

（九州国立博物館）

年	月	日	記　　事
23.	4.	1	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　巡照朝課（じゅんしょうちょうか）（～5月22日）
23.	4.	3	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　茶席（4月10日・17日・24日・5月4日）
23.	4.	3	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　開山忌（かいさんき）
23.	4.	3	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　厄よけストラップ手づくり教室
			（4月10日・17日・24日・5月3日～8日・15日）
23.	4.	3	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　蛇踊り
23.	4.	9	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　法話「黄檗再発見」
			～日本文化発展に果たした役割とその魅力～
23.	4.	10	第83回 きゅーはくミュージアムコンサート　“SAW much in LOVE”
23.	4.	10	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　普茶料理講演会
23.	4.	12	トピック展示「帰国展・日本とタイーふたつの国の巧と美」（～6月5日）
23.	4.	12	特別公開「国宝　琉球国王尚家関係資料　修理完成記念展示」（～5月22日）
23.	4.	16	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　中国茶振る舞い
23.	4.	16	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　中国茶ミニ講座
23.	4.	16	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　瓢箪笛コンサート
23.	4.	17	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　講座「范道生と黄檗の仏像」
23.	4.	23	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　講座「長崎と黄檗文化～興福寺を中心として～」
23.	4.	24	Ｆｒｅｅ　Ｓｔｙｌｅ×池上眞吾　箏・尺八ライブ
23.	4.	26	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　京の老舗 名産品展（～5月8日）
23.	4.	29	弦楽合奏団ムジークルンデ　春のコンサート
23.	4.	30	トピック展示「帰国展・日本とタイ」関連
			ワークショップ「久留米絣の糸と腰機でコースターを織ってみよう！」
23.	4.	30	川口京子＆ＬＫソングサークル「うたは心のふるさと」
23.	5.	1	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　二胡コンサート
23.	5.	1	トピック展示「帰国展・日本とタイ」関連
			講演会「日本とタイ ―ふたつの国の文化の違い」
23.	5.	3	ラ・フォル・ジュルネ鳥栖「熱狂の日」音楽祭プレ公演
23.	5.	3	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　講座「黄檗肖像画と長崎のお絵像」
23.	5.	4	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　声明（しょうみょう）「梵唄（ぼんばい）」
23.	5.	5	トピック展示「帰国展・日本とタイ」関連イベント
			「微笑みの国からやってくる　魅惑のタイ舞踊」
23.	5.	5	ボランティア企画イベント　こどもの日　プラ板キーホルダーづくり
23.	5.	7	「黄檗―OBAKU」展関連イベント　法話「黄檗の文人趣味について」
23.	5.	8	第84回 きゅーはくミュージアムコンサート　「絵本と音の玉手箱」
23.	5.	10	第50回記念 日本現代工芸美術福岡展（～5月29日）
23.	5.	13	ヤリ・グスタフソン駐日フィンランド大使視察
23.	5.	14	トピック展示「帰国展・日本とタイ」関連　講座「タイの仏　日本の仏」
23.	5.	15	「黄檗―OBAKU」展関連イベント
			フルートコンサート「隠元禅師の夢―瞑想のひととき」

23. 5. 15 「黄檗―OBAKU」展関連イベント　法話と坐禅会「坐禅と提唱」
23. 5. 18 文化交流展無料観覧日（国際博物館の日）
23. 6. 14 トピック展示「彫漆　漆に刻む文様の美」（～7 月 31 日）
23. 6. 25 第 85 回 きゅーはくミュージアムコンサート　「World Music from Japan」
23. 6. 26 太宰府市民吹奏楽団第 7 回まほろばコンサート
23. 6. 27 特別展「よみがえる国宝 - 守り伝える日本の美」開会式及び内覧会
23. 7. 2 「よみがえる国宝」展関連　文化財保存交流セミナーⅠ
23. 7. 3 「よみがえる国宝」展関連イベント
トークショー「古美術のススメ～文化財修復に見る匠たち～」
23. 7. 6 トピック展示「平戸オランダ商館会館記念　平戸－海外に開かれた港市－」
（～8 月 15 日）
23. 7. 8 特別展「よみがえる国宝 - 守り伝える日本の美」　入場者 1 万人セレモニー
23. 7. 9 「よみがえる国宝」展関連イベント
親子で楽しむバックヤードツアー「大きな博物館の探検！」（7 月 30 日・8 月 13 日）
23. 7. 9 コロタイプ複製でよみがえる法隆寺金堂壁画と国宝絵巻
23. 7. 16 いこうよ！あじっぱ夏祭り 2011（～7 月 17 日）
23. 7. 20 トピック展示「斉明天皇と飛鳥」（～8 月 28 日）
23. 7. 21 特別展「よみがえる国宝 - 守り伝える日本の美」　入場者 3 万人セレモニー
23. 7. 22 きゅーはくカフェコンサート 100 回記念演奏会
23. 7. 23 ミゲル・アンヘル・ナバロ・ポルテラ駐日スペイン大使視察
23. 7. 23 「よみがえる国宝」展関連　特別展講演会「守り伝える日本の宝」
23. 7. 23 第 86 回 きゅーはくミュージアムコンサート　【和の競演】～夢よ伝われ、世界へこどもたちへ～
23. 7. 26 九州国立博物館／北九州市立自然史・歴史博物館連携・交流事業展示（～7 月 31 日）
23. 7. 26 ボランティア企画イベント　七夕　短冊書き＆七夕飾り
23. 7. 30 全国縦断古代史講演会「明日香村まるごと博物館フォーラム」
23. 7. 31 「よみがえる国宝」展関連
文化財保存交流セミナーⅡ「日本の宝を守る、技とこころ」
23. 8. 3 トピック展示「インドの染織と細密画」（～9 月 11 日）
23. 8. 6 「よみがえる国宝」展関連
文化財保存交流セミナーⅡ「日本の宝を守る、蔵を継ぐ」
23. 8. 7 「よみがえる国宝」展関連
文化財保存交流セミナーⅡ「日本の宝を守る、美を伝える」
23. 8. 9 京築神楽写真展（～8 月 20 日）
23. 8. 12 特別展「よみがえる国宝 - 守り伝える日本の美」　入場者 7 万人セレモニー
23. 8. 20 京築神楽　九州国立博物館公演
23. 8. 20 エレキット夏休み工作教室 in 太宰府 2011
23. 8. 21 ボランティア夏休みワークショップ
ハニワの色付け体験・ループ組紐ストラップづくり
23. 8. 21 「よみがえる国宝」展関連 子どもイベント
みて！さわって！！岩絵具のふしぎな世界

23. 8. 21 「よみがえる国宝」関連
文化財保存交流セミナーⅢ「日本の宝を守る、文化を伝える」
23. 8. 21 「よみがえる国宝」展関連 ワークショップ
「古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！」
江戸の本の虫たち―和本の扱い・観察・虫干し―
23. 8. 23 特別展「よみがえる国宝 － 守り伝える日本の美」 入場者 10 万人セレモニー
23. 8. 23 「よみがえる国宝」関連 ワークショップ
「古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！」 九博の杜の虫たち
23. 8. 23 古代山城ブース展示（～8 月 28 日）
23. 8. 27 第 87 回 きゅーはくミュージアムコンサート 「博多んジャズば 聴いてんしゃい！」
23. 9. 14 トピック展示「茶の湯を楽しむⅣ」（～10 月 23 日）
23. 9. 17 第 88 回 きゅーはくミュージアムコンサート
古楽器でつづるバロック～クラシック音楽の源流を体感しよう～
23. 9. 18 久高良治探求 8 映像影像「私たちは、自然から何を知り得るのだろう・・・」
（～9 月 19 日）
23. 9. 19 文化交流展無料観覧日（敬老の日）
23. 9. 19 石野利和文化庁文化財部長視察
23. 9. 25 第 10 回西日本バンドフェスティバル 2011 in 福岡・太宰府
23. 9. 25 第 6 回太宰府 古都の光（17 時以降 文化交流展無料観覧日）
23. 9. 26 特別展「草原の王朝 契丹―美しき 3 人のプリンセス」開会式及び内覧会
23. 9. 27 「あさくら路・燦」～朝倉の祭りと匠の技展～（～10 月 2 日）
23. 9. 28 トピック展示「館蔵水墨画名品展」（～11 月 6 日）
23. 10. 1 「契丹展」関連 契丹大学 第 1 回秋季講座
23. 10. 7 特別展「草原の王朝 契丹―美しき 3 人のプリンセス」 入場者 1 万人セレモニー
23. 10. 8 第 6 回九州地域ブランドフォーラム「九州郷土品祭り」（～10 月 10 日）
23. 10. 8 「契丹展」関連イベント 契丹国のいまを知る。 ゲル＆衣装体験コーナー
（～10 月 16 日）
23. 10. 8 アサヒ緑健スポーツメセナ 第 9 回ふれあい健康ウォーク
23. 10. 8 「契丹展」関連 契丹大学 第 2 回秋季講座
23. 10. 10 「契丹展」関連 契丹大学 特別講義「日本と契丹－11 世紀の仏教遺産」
23. 10. 12 栄原靖独立行政法人国立青少年教育振興機構理事視察
23. 10. 14 第 2 回九州人形浄瑠璃フェスティバル（～10 月 15 日）
23. 10. 15 第 89 回 きゅーはくミュージアムコンサート ～草原のプリンセス～
23. 10. 16 「契丹展」関連 記念講演会
「慶陵と慶州白塔―契丹・章聖皇太后の祈りと生涯―」
23. 10. 16 2011 北九州国際音楽祭 in 九州国立博物館 ～東日本大震災復興支援コンサート～
23. 10. 22 「契丹展」関連 契丹大学 第 3 回秋季講座
23. 10. 23 ボランティア秋のワークショップ ハニワの色付け体験・和綴じ本をつくろう
23. 10. 25 建築士事務所キャンペーン～信頼のあかし～ 「歴史あるみどり豊かな文化と歴史」
作品展示（～10 月 30 日）
23. 10. 28 御手洗康（前）放送大学学園理事長来館

23. 10. 28　小出正則国土交通省国土地理院参事官来館
23. 10. 28　特別展「草原の王朝　契丹―美しき 3 人のプリンセス」　入場者 3 万人セレモニー
23. 10. 28　出前温泉「足湯」事業　～お！館外にもあった　至福の時～（～10 月 30 日）
23. 10. 28　建築士事務所キャンペーン～信頼のあかし～　「歴史あるみどり豊かな文化と歴史」基調講演・設計コンペ表彰式
23. 10. 29　「契丹展」関連イベント　「楊家将伝記　兄弟たちの乱世」上映会（～10 月 30 日）
23. 10. 29　トピック展示「発掘された日本列島 2011 地域展　九州最古の狩人とその時代」（～12 月 18 日）
23. 11. 1　トピック展示「京都・檀王法林寺開創 400 年記念　琉球と袋中上人展　―エイサーの起源をたどる―」（～12 月 11 日）
23. 11. 1　九州銘菓協会 60 周年記念展「九州銘菓の伝統と創造」展示・販売（～11 月 6 日）
23. 11. 3　「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業
23. 11. 3　文化交流展無料観覧日（留学生の日）
23. 11. 3　第 5 回 はじめての茶道体験（留学生限定）
23. 11. 3　第 90 回 きゅーはくミュージアムコンサート「DO YOU 能?」～現存する世界最古の演劇“能”を体感してみよう～
23. 11. 13　トピック展示「琉球と袋中上人展」関連講演会「袋中上人とエイサー・檀王法林寺」
23. 11. 13　トピック展示「琉球と袋中上人展」関連イベントうるま市無形民俗文化財「平敷屋エイサー」公演
23. 11. 15　特別展「草原の王朝　契丹―美しき 3 人のプリンセス」　入場者 5 万人セレモニー
23. 11. 15　トピック展示「九州大学百年の宝物」（～12 月 18 日）
23. 11. 20　文化交流展無料観覧日（家族の日）
23. 11. 25　特別展「草原の王朝　契丹―美しき 3 人のプリンセス」　入場者 7 万人セレモニー
23. 12. 4　トピック展示「九州最古の狩人とその時代」関連「石の匠に学ぶ－石器作り体験－」ワークショップ
23. 12. 15　松浦明内閣官房アイヌ総合政策室内閣参事官来館
23. 12. 17　第 91 回 きゅーはくミュージアムコンサート
23. 12. 20　文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」（～24 年 2 月 19 日）
23. 12. 26　特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」開会式及び内覧会
24. 1. 1　新春特別公開「初音の調度」（～1 月 29 日）
24. 1. 3　ボランティア企画「九博のお正月」餅つき
24. 1. 4　ボランティア企画「九博のお正月」折り紙
24. 1. 8　ボランティア企画「九博のお正月」書初め
24. 1. 8　「細川展」関連ワークショップ「剣豪・宮本武蔵になろう！」
24. 1. 9　「細川展」関連イベント「聴いて見て楽しむ、細川展と能」
24. 1. 12　長崎べっ甲展（～1 月 15 日）
24. 1. 14　ミュージアム IPM シンポジウム
24. 1. 15　第 92 回 きゅーはくミュージアムコンサート
24. 1. 17　ひなの国九州フェスタ 2012（～1 月 29 日）
24. 1. 20　個人情報保護研修

24. 1. 22 「細川展」関連記念講演会「細川家 美と戦いの 700 年」
24. 1. 28 「細川展」関連講演会「細川家と永青文庫の名品」
24. 1. 29 九州歴史資料館開館 1 周年記念シンポジウム「祈りの世界－北部九州の霊山と経塚－」
24. 1. 29 「細川展」関連イベント「くまモン in 九州国立博物館」（1 月 29 日・2 月 19 日）
24. 2. 3 神本美恵子文部科学大臣政務官視察
24. 2. 3 特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」 入場者 5 万人セレモニー
24. 2. 12 「細川展」関連講演会「どこが見どころ？細川家の至宝展」
24. 2. 18 博多伝統芸能～博多芸妓の世界～
24. 2. 19 第 93 回 きゅーはくミュージアムコンサート
24. 2. 19 九博子どもフェスタ
24. 2. 20 ハラスメント研修
24. 2. 21 特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」 入場者 7 万人セレモニー
24. 2. 21 大川匠の世界コレクション（～2 月 26 日）
24. 2. 28 第 2 回ステンドグラスアート・九州会作品展（～3 月 4 日）
24. 3. 1 特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」 入場者 10 万人セレモニー
24. 3. 6 筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～わがまちの宝～」展（～3 月 18 日）
24. 3. 10 国際シンポジウム 百済文化と古代日本～百済研究の新展開～
24. 3. 13 第 6 回福岡県景観大会 「景観文化展作品等展示」（～3 月 18 日）
24. 3. 18 第 6 回福岡県景観大会 「表彰式」「まちづくり団体活動発表会」
24. 3. 24 太宰府発見塾公開講座
24. 3. 25 九博こども文化芸能祭

（東京文化財研究所）

年	月	日	記　　事
23.	4.	15	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（第 1 回）
23.	4.	18	東北地方太平洋沖地震被災地現地視察
23.	4.	27	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト：労働安全衛生研修
23.	5.	10	被災文化財レスキュー事業　情報共有研究会 被災文化財救済の初期対応の選択肢を広げる－生物劣化を極力抑え、かつ後の修復に備えるために－
23.	5.	11	企画情報部研究会 第 1 回「メトロポリタン美術館所蔵「聖徳太子絵伝」について」
23.	5.	20	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第 1 回）
23.	5.	25	企画情報部研究会 第 2 回 「最大の洛中洛外図―制作環境と年代仮説」
23.	6.	1	ポーランド文化・国家遺産大臣一行 所長表敬訪問
23.	6.	20	拠点交流事業（モンゴル）：アマルバヤスガランド寺院の保存管理計画策定の向けた現地ワークショップ（～6 月 25 日）
23.	6.	24	アルメニア共和国文化省との文化遺産保護のための協力－準備ミッション派遣と合意書の締結－
23.	6.	27	保存担当学芸員フォローアップ研修
23.	6.	27	キルギス共和国科学アカデミー歴史文化遺産研究所との文化遺産保護のための協力に関する合意書の締結
23.	6.	29	企画情報部研究会 第 3 回 「日本統治時期における台湾伝統書画のアイデンティティーへの模索」
23.	7.	4	韓国ソウル大学奎章閣韓国学研究院 5 名 施設見学
23.	7.	7	台湾・国立中央図書館台湾分館 4 名 施設見学
23.	7.	11	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～7 月 22 日）
23.	7.	11	文化遺産国際協力コンソーシアム第 9 回研究会『文化遺産保護と経済開発協力との有機的連携を目指して－「人間の安全保障」アプローチの可能性』
23.	7.	16	「近代日本洋画の巨匠　黒田清輝展」（～8 月 28 日）会場：釧路市立美術館
23.	7.	21	国立文化財機構新任職員研修会 18 名　施設見学
23.	7.	22	国立文化財機構新任職員研修会 13 名　施設見学
23.	7.	26	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（第 2 回）
23.	7.	27	企画情報部研究会 第 4 回「浄瑠璃本「かるかや」の画風」
23.	8.	1	タイ文化省芸術局局長代理一行 所長表敬訪問
23.	8.	3	韓国国立慶州博物館 1 名、奈良国立博物館 1 名　施設見学
23.	8.	19	ウズベキスタン大使館一等書記官一行 所長表敬訪問
23.	8.	20	拠点交流事業（モンゴル）：木造文化財建造物の修理に関する現地ワークショップ（～8 月 27 日）
23.	8.	29	国際研修「紙の保存と修復」（～9 月 16 日）
23.	8.	30	企画情報部研究会 第 5 回「琳派と能の関係についての再考」
23.	9.	3	第 35 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承―研究と保存修復の現状―」（～9 月 5 日）
23.	9.	16	台東区立御徒町台東中学校生徒 6 名　施設見学
23.	9.	20	企画情報部研究会 第 6 回「ミニマル以後のアート―内藤礼の近作をめぐって」

23. 9. 29　ユネスコ シルクロード世界遺産登録のための支援事業（カザフスタン）：考古遺跡の地下探査に関するワークショップ（～10 月 19 日）
23. 9. 29　第 5 回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「建築文化財における伝統的な資料の調査と修理」
23. 10. 6　拠点交流事業（キルギス）：遺跡のドキュメンテーションに関するワークショップ（～10 月 17 日）
23. 10. 12　第 6 回無形文化遺産部公開学術講座「東大寺二月堂修二会（お水取り）の記録」
23. 10. 16　文化遺産国際協力コンソーシアム国際シンポジウム「文化遺産を危機から救え～緊急保存の現場から～」（東京国立博物館平成館）
23. 10. 18　企画情報部研究会 第 7 回 「大村西崖と朦朧体」
23. 10. 18　ユネスコ シルクロード世界遺産登録のための支援事業（キルギス）：遺跡の測量に関するワークショップ（～10 月 24 日）
23. 11. 1　総合研究会 第 1 回「フランス国立図書館蔵敦煌文書《修佛龕記》に関する考察」
23. 11. 8　文化財レスキュー事業に関する所内説明会
23. 11. 10　九州国立博物館 ミュージアム活性化支援事業「市民と共にミュージアムＩＰＭ」参加者 13 名、大英博物館修理技術者 1 名　施設見学
23. 11. 11　第 45 回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」（～11 月 13 日）
23. 11. 14　在外日本古美術品保存修復協力事業における漆工芸品の保存修復に関するワークショップ（～11 月 18 日）（ケルン市博物館連合・ケルン東洋美術館）
23. 11. 15　在外日本古美術品保存修復協力事業における紙本絹本文化財の保存修復に関するワークショップ（～11 月 23 日）（ベルリン国立博物館連合・アジア美術館）
23. 11. 15　韓国国立文化財研究所 5 名　施設見学
23. 11. 16　第 16 回資料保存地域研修（～11 月 17 日）
23. 11. 21　三菱重工業株式会社 長崎造船所史料館 1 名　施設見学
23. 11. 25　モンゴル国際遊牧文明研究所国際プロジェクト・コーディネーター教授 所長表敬訪問
23. 12. 6　総合研究会 第 2 回「日光の歴史的建造物における広域虫害調査について」
23. 12. 6　第 10 回バーミヤーン遺跡保存専門家会議（～12 月 8 日）
23. 12. 8　ハノイ市人民委員会 ハノイ古城・コーロア遺跡保存センター所長一行 所長表敬訪問
23. 12. 9　国際シンポジウム「大仏破壊から 10 年　世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」（会場：東京国立博物館平成館大講堂）
23. 12. 11　国際シンポジウム「大仏破壊から 10 年　世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」（会場：龍谷大学アバンティ響都ホール）
23. 12. 12　東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（第 3 回）
23. 12. 16　第 6 回無形民俗文化財研究協議会「震災復興と無形文化―現地からの報告と提言」
23. 12. 20　企画情報部研究会 第 8 回「諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発―美術史家の眼を引継ぐ」科研中間報告会
24. 1. 9　文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）：「パダン被災文化遺産の復興進捗に関するワークショップ」
24. 1. 10　総合研究会 第 3 回「民俗技術と自然環境―削りかけ状祭具と樹木との関わりを中心に」

24. 1. 17　ドイツ国立博物館群長、ドイツ・アジア美術館長 所長表敬訪問
24. 1. 20　インドネシア歴史考古総局修復課長一行 所長表敬訪問
24. 1. 20　エジプト考古省大臣、駐日エジプト大使一行 所長表敬訪問
24. 1. 21　拠点交流事業（モンゴル）：モンゴルの文化遺産保護に関するワークショップ（～1月 27 日）
24. 1. 24　企画情報部研究会 第 9 回「東日本大震災被災地における文化財救済活動調査―オーストラリア学会における発表報告とインタープリテーションの重要性」
24. 1. 23　総合消防訓練
24. 1. 24　拠点交流事業（コーカサス）：「アルメニア共和国羅貴志博物館における考古青銅遺物の保存修復」ワークショップ（～2 月 3 日）
24. 2. 4　拠点交流事業（キルギス）：考古遺物の実測に関するワークショップ（～2 月 10 日）
24. 2. 7　総合研究会 第 4 回「絵画修復における汚れ除去の模索」
24. 2. 7　拠点交流事業（コーカサス）：国際ワークショップ（～2 月 11 日）
24. 2. 10　第 25 回 近代の文化遺産の保存と修復に関する研究会 「近代建築に使用されている油性塗料に関して」
24. 2. 13　タイ・SEAMEO 考古学・美術センター長 所長表敬訪問
24. 2. 14　講談「難波戦記」の記録作成（一龍斎貞水師）
24. 2. 15　イリーナ・ボコバ ユネスコ事務局長 所長表敬訪問
24. 2. 15　イリーナ・ボコバ ユネスコ事務局長講演会「ユネスコの文化遺産保護政策」（文化遺産国際協力コンソーシアム）
24. 2. 16　海外における日本の装こう修理技術利用に関する研究会
24. 2. 17　「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」に関する研究会－博物館・美術館におけるエネルギー削減－
24. 2. 21　特集陳列　黒田清輝－作品に見る「憩い」の情景（東京国立博物館）（～ 4 月 1 日）
24. 2. 27　「アルメニア歴史博物館における文化財保存修復に関する交流事業」研究会
24. 2. 27　中国文化財専門家研修（敦煌研究院保護研究所研究員）（～ 3 月 20 日）
24. 2. 28　企画情報部研究会 第 10 回「『御絵鑑』について」
24. 3. 5　企画情報部研究会 講演会「文化的記憶」としての八幡縁起の絵画化―その古為今用
24. 3. 6　総合研究会 第 5 回「国宝本・虚空蔵菩薩像の表現　－仏画の高精細画像形成－」
24. 3. 9　拠点交流事業（モンゴル）：文化財保存修復に関する日本国内でのワークショップ（～3 月 15 日）
24. 3. 12　モンゴル・ヘンティ県の石質文化財の保存に関する拠点交流事業　報告会（文化遺産国際協力拠点交流事業）
24. 3. 14　モンゴル国立文化遺産センター長一行 所長表敬訪問
24. 3. 14　キルギス共和国国立科学アカデミー歴史遺産研究所 文化遺産研究部長一行 所長表敬訪問
24. 3. 15　研究会「キルギス共和国の文化遺産」
24. 3. 16　文化遺産国際協力コンソーシアム第 10 回研究会「文化遺産保護の国際動向」
24. 3. 19　東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（第 4 回）
24. 3. 27　企画情報部研究会 第 11 回「敦煌壁画の制作材料と制作技法に関する研究 ―莫高窟第 285 窟壁画の復原的考察―」

（奈良文化財研究所）

年	月	日	記　　事
23.	2.	19	春期企画展「掘って見つけたモノと解ったこと―発掘速報展 2009・2010―」（平城宮跡資料館）（～5 月 8 日）
			春期企画展ギャラリートーク（平城宮跡資料館）（会期中毎週金曜日）
23.	4.	16	春期特別展「星々と日月の考古学」（飛鳥資料館）（～5 月 29 日）
23.	4.	30	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
23.	5.	14	春期特別展記念講演会「星々と日月の考古学」（飛鳥資料館講堂）
23.	6.	13	埋蔵文化財担当者専門研修「建築遺構調査課程」（～6 月 17 日）
23.	6.	18	公開講演会（第 108 回）「石槨構築技術からみた高松塚古墳」「古代土木技術の系譜を探る」（平城宮跡資料館講堂）
23.	6.	19	現地説明会「平城第 481 次（平城宮跡東院地区）発掘調査」
23.	6.	20	埋蔵文化財担当者専門研修「建造物保存活用基礎課程」（～6 月 24 日）
23.	6.	25	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
23.	7.	24	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
23.	7.	30	常設展に「考古科学コーナー」の増設（平城宮跡資料館）
23.	8.	2	夏期企画展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」（飛鳥資料館）（～9 月 4 日）
23.	8.	14	無料観覧日（飛鳥資料館）
23.	9.	12	埋蔵文化財担当者専門研修「石器・石製品調査課程」（～9 月 16 日）
23.	9.	17	現地説明会「平城第 483 次（興福寺北円堂）発掘調査」
23.	9.	25	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
23.	9.	26	埋蔵文化財担当者専門研修「自然科学的年代測定法課程」（～9 月 30 日）
23.	9.	30	ロビー展示「文化財レスキュー事業の紹介」（平城宮跡資料館）
23.	10.	4	埋蔵文化財担当者専門研修「保存科学Ⅰ(金属製遺物)課程」（～10 月 13 日）
23.	10.	13	埋蔵文化財担当者専門研修「保存科学Ⅱ(木製遺物)課程」（～10 月 21 日）
23.	10.	14	秋期特別展「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」（飛鳥資料館）（～11 月 27 日）
23.	10.	15	秋期特別展ギャラリートーク（飛鳥資料館）（11 月 19 日）
23.	10.	15	公開講演会（第 109 回）「東アジアにおける失蝋法の展開―鋳造技術からみた中国・朝鮮・日本―」「春日座大工の大工道具」（平城宮跡資料館講堂）
23.	10.	18	秋期企画展「地下の正倉院展―コトバと木簡」（平城宮跡資料館）（～11 月 27 日）
23.	10.	23	秋期企画展ギャラリートーク（平城宮跡資料館）（11 月 6 日、11 月 20 日）
23.	10.	26	埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡測量課程」（～11 月 2 日）
23.	10.	29	平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加
23.	11.	3	無料観覧日（飛鳥資料館）
23.	11.	5	現地説明会「飛鳥藤原第 169 次（藤原宮朝堂院朝庭）発掘調査」
23.	11.	6	秋期特別展記念講演会『飛鳥遺珍』「飛鳥発掘前夜―その成果に学ぶ―」「飛鳥考古学の軌跡―調査研究と保護の歩み―」（明日香村立中央公民館）
23.	11.	14	埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡情報記録調査課程」（～11 月 18 日）
23.	11.	19	現地説明会「平城第 486 次（平城京左京三条一坊一坪）発掘調査」
23.	11.	28	埋蔵文化財担当者専門研修「文化財写真課程」（～12 月 8 日）

23. 12. 3 特別講演会（東京会場）『文化遺産を救済する―奈良文化財研究所の挑戦―』「大津波と三陸沿岸の埋蔵文化財―東日本大震災被災文化財の救出―」「大津波で被災した文書を救え！―保存修復科学の貢献―」「アンコール西トップ遺跡の修復―カンボジアでの文化遺産活用支援―」「ハノイ・タンロン皇城遺跡の宮殿遺構―日越国際協力で調査研究保護をめざす―」「バーミヤーン仏教遺跡の保護―厳しい状況下での国際支援事業の展開―」「高松塚古墳・キトラ古墳壁画を守る―古墳壁画の保存修理―」（一橋記念講堂）

23. 12. 8 埋蔵文化財担当者専門研修「報告書作成課程」（～12 月 16 日）

24. 1. 10 埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡等環境整備課程」（～1 月 20 日）

24. 1. 14 新春特別講演会「仏教伝来の頃の飛鳥」（飛鳥資料館講堂）

24. 1. 20 冬期企画展「飛鳥の考古学 2011」（飛鳥資料館）（～2 月 26 日）

24. 1. 29 平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加

24. 2. 5 無料観覧日（飛鳥資料館）

24. 2. 6 埋蔵文化財担当者専門研修「保存科学Ⅲ(応急処置)課程」（～2 月 10 日）

24. 2. 14 埋蔵文化財担当者専門研修「地質環境調査課程」（～2 月 22 日）

24. 3. 4 現地説明会「飛鳥藤原第 171 次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」

24. 3. 10 春期企画展「発掘速報展　平城 2011／文化財レスキュー展」（平城宮跡資料館）（～5 月 27 日）

24. 3. 10 現地説明会「平城第 488 次（平城京左京三条一坊一坪）発掘調査」
春期企画展ギャラリートーク（平城宮跡資料館）（会期中毎週金曜日）

24. 3. 25 平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加

（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

年	月	日	記　　事
23.	4.	1	アジア太平洋無形文化遺産研究センター設置準備室設置
23.	10.	1	アジア太平洋無形文化遺産研究センター開設
23.	10.	3	運営理事会(第一回)
23.	10.	3	開設記念式典、レセプション
23.	10.	4	開設記念シンポジウム「危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える」
23.	12.	16	ウェブサイト公開
24.	3.	3	「無形文化遺産の保護に関する条約」第一回専門家会合（～3 月 4 日）
24.	3.	30	堺市博物館合同消防訓練

Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（平成 24 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
石　澤　　良　昭	上智大学アジア人材養成研究センター所長	委員長
辻　　惟　雄	東京大学名誉教授	副委員長
青　柳　　正　規	独立行政法人国立美術館理事長	
阿　部　　充　夫	東京国立博物館名誉館長	
安　藤　　裕　康	独立行政法人国際交流基金理事長	
今　村　　峯　雄	国立歴史民俗博物館名誉教授	
神　居　　文　彰	平等院住職	
佐　藤　　宗　諄	奈良女子大学名誉教授	
白　石　　太一郎	大阪府立近つ飛鳥博物館長	
田　中　　浩　二	九州旅客鉄道株式会社相談役	
辻　村　　泰　善	財団法人元興寺文化財研究所理事長	
中　島　　史　子	フリーライター	
西　田　　厚　聰	株式会社東芝取締役会長	
羽毛田　　信　吾	宮内庁長官	
林　田　　ス　マ	大野城まどかぴあ館長	
マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター	
冷　泉　　為　人	財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 24 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
大　沼　　淳	学校法人文化学園理事長	会長
阿　部　　充　夫	東京国立博物館名誉館長	副会長
青　柳　　正　規	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
浦　井　　正　明	台東区文化財保護審議会委員	
岡　田　　正　治	東京都立上野高等学校長	
小　寺　　正　樹	台東区立忍岡中学校長	
園　田　　恭　久	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
髙　橋　　武　郎	台東区立根岸小学校長	
筑　紫　　みずえ	株式会社グッドバンカー代表取締役社長	
辻　　惟　雄	東京大学名誉教授	
福　原　　義　春	株式会社資生堂名誉会長	
二　木　　忠　男	上野観光連盟会長	
牧　　美　也　子	漫画家	
マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター	
宮　田　　亮　平	東京芸術大学長	
吉　住　　弘	台東区長	
林　原　　行　雄	シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社常任監査役	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 24 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
興　膳　　宏	京都大学名誉教授	会長
藤　井　　譲　治	京都大学大学院文学研究科教授	副会長
荒　巻　　禎　一	京都府京都文化博物館長	
池　坊　　由　紀	華道家元池坊次期家元	
上　野　　尚　一	朝日新聞社社主	
尾　﨑　　正　明	独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館長	
神　居　　文　彰	平等院住職	
佐　藤　　茂　雄	京阪電気鉄道株式会社最高経営責任者（ＣＥＯ） 兼取締役会議長	
高　橋　　隆　博	関西大学文学部教授	
竹　下　　景　子	俳優	
服　部　　重　彦	株式会社島津製作所代表取締役会長	
細　見　　吉　郎	京都市副市長	
湯　山　　賢　一	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館長	
冷　泉　　為　人	財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 24 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
森　本　　公　誠	東大寺別当	会長
水　野　　正　好	財団法人大阪府文化財センター理事長	副会長
大　野　　玄　妙	聖徳宗管長・法隆寺住職	
花山院　　弘　匡	春日大社宮司	
川　瀬　　直　美	映画監督	
栄　原　　永遠男	大阪市立大学名誉教授	
佐々木　　丞　平	独立行政法人国立文化財機構理事長	
杉　本　　一　樹	宮内庁正倉院事務所長	
田　辺　　征　夫	奈良県立大学特任教授	
檀　　ふ　み	女優	
辻　井　　昭　雄	近畿日本鉄道株式会社相談役	
辻　村　　泰　善	財団法人元興寺文化財研究所理事長	
中　島　　史　子	フリーライター	
中　山　　悟	奈良県観光局長	
西　口　　廣　宗	株式会社南都銀行代表取締役会長	
松　村　　恵　司	奈良文化財研究所長	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 24 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
田　中　　浩　二	九州旅客鉄道株式会社　相談役	会長
高　倉　　洋　彰	西南学院大学国際文化学部教授	副会長
阿　川　　佐和子	文筆家	
遠　藤　　正　雄	ＮＨＫ福岡放送局長	
井　上　　保　廣	太宰府市長	
衛　藤　　卓　也	福岡大学学長	
王　　貞　治	福岡ソフトバンクホークス株式会社取締役会長	
酒井田　　柿右衛門	陶芸作家	
木　下　　朝　美	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン（九州・沖縄地区）ガバナー	
高　良　　倉　吉	琉球大学法文学部教授	
海老井　　悦　子	福岡県副知事	
川　崎　　隆　生	株式会社西日本新聞社　代表取締役社長	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮宮司	
林　田　　ス　マ	大野城まどかぴあ館長	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（平成 24 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
清　水　　眞　澄	三井記念美術館長	委員長
横　里　　幸　一	ＮＨＫプロモーション代表取締役社長	副委員長
稲　田　　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　本　　健　一	毎日新聞社客員編集委員	
小　林　　忠	学習院大学文学部教授	
酒　井　　忠　康	世田谷美術館長	
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	
園　田　　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授	
玉　蟲　　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
野　口　　昇	日本ユネスコ協会連盟理事長	
藤　田　　治　彦	大阪大学大学院文学研究科教授	
藤　好　　優　臣	公認会計士	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（平成 24 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
小　林　　忠	学習院大学文学部教授	部会長
酒　井　　忠　康	世田谷美術館長	
藤　田　　治　彦	大阪大学大学院文学研究科教授	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

研究所調査研究等部会名簿

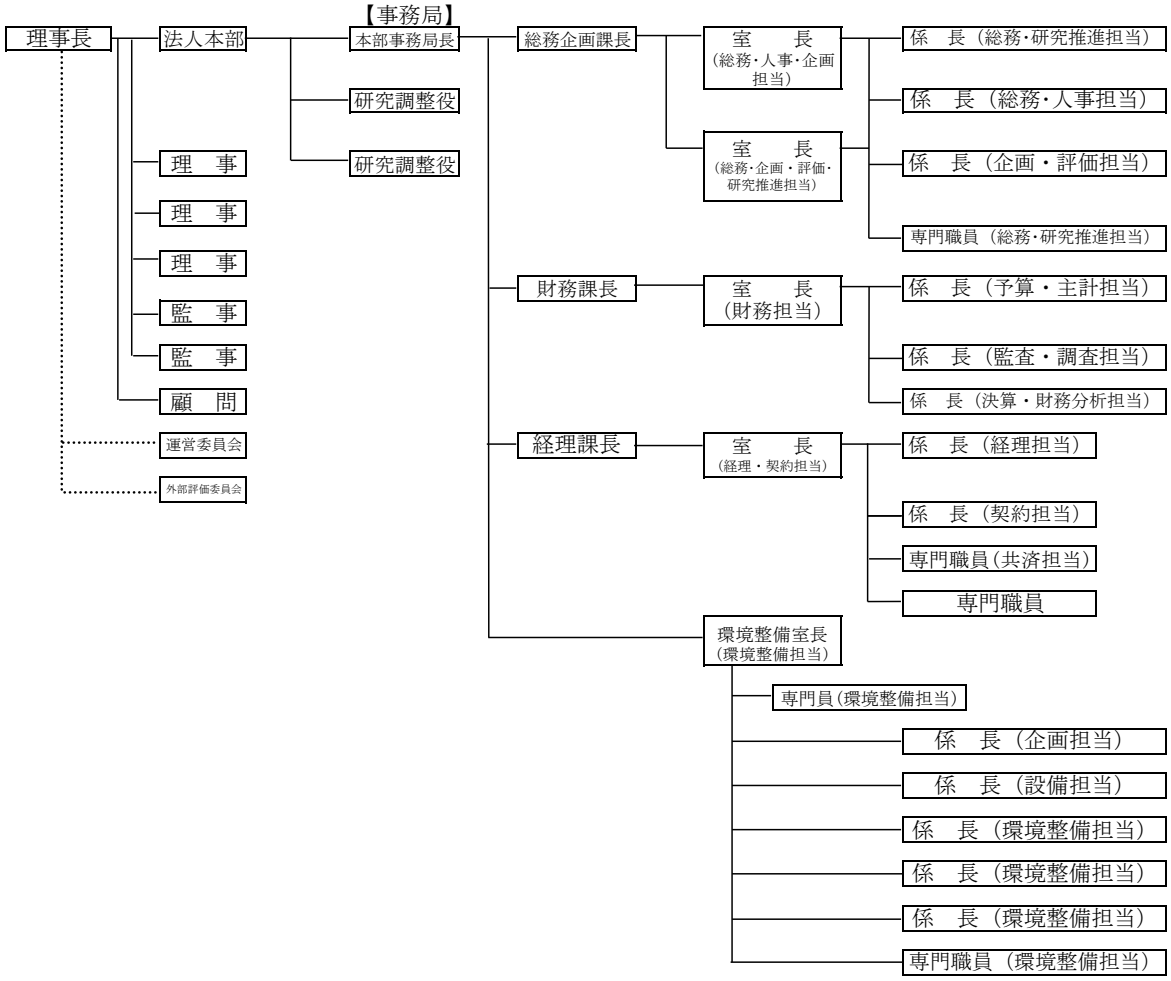
（平成 24 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	部会長
稲　田　　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　本　　健　一	毎日新聞社客員編集委員	
園　田　　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授	
玉　蟲　　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
野　口　　昇	日本ユネスコ協会連盟理事長	

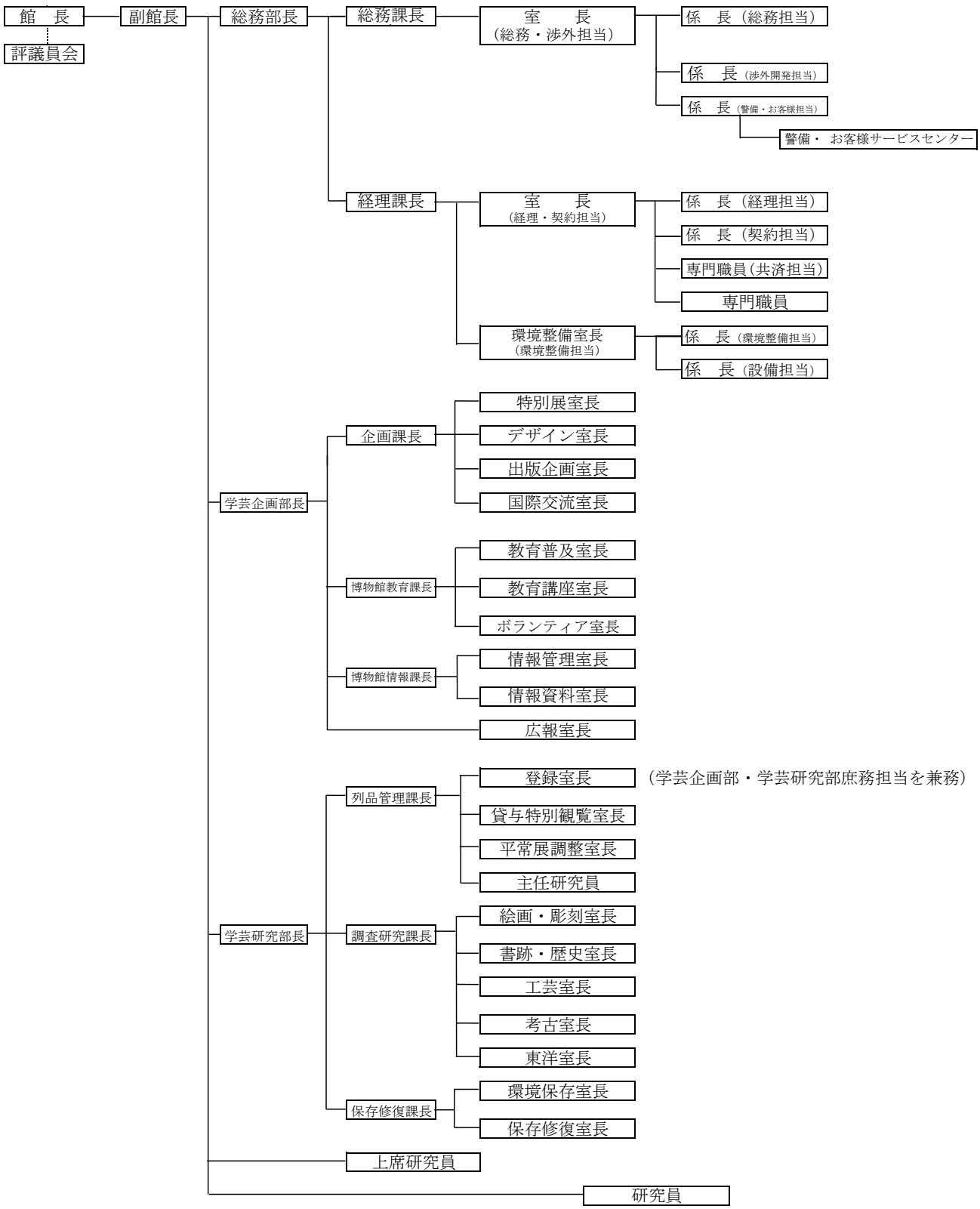
平成24年3月31日現在

◇組　織　図

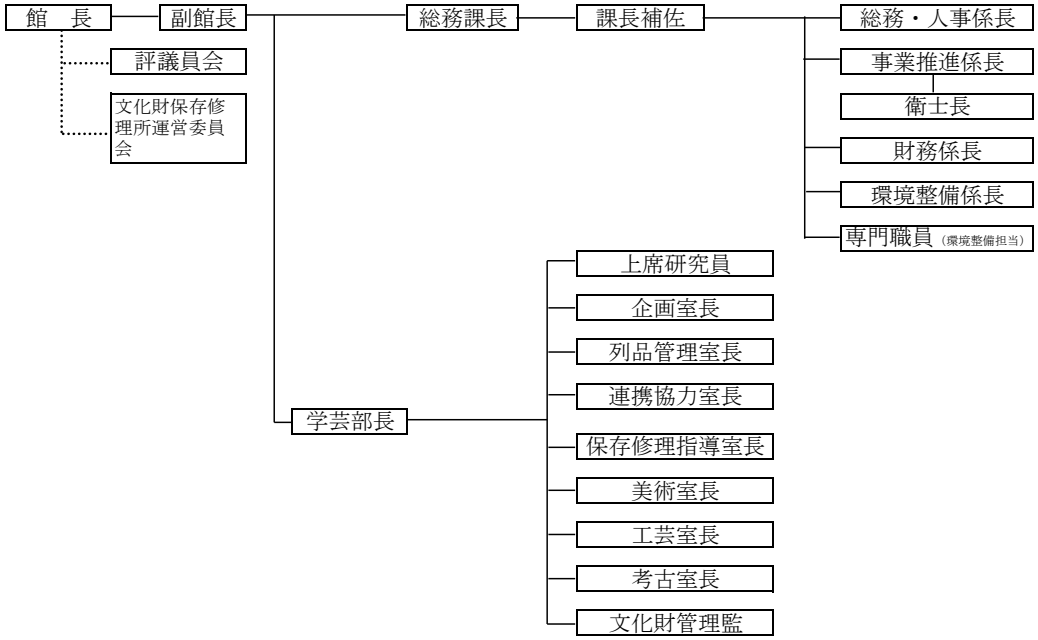
・法　人



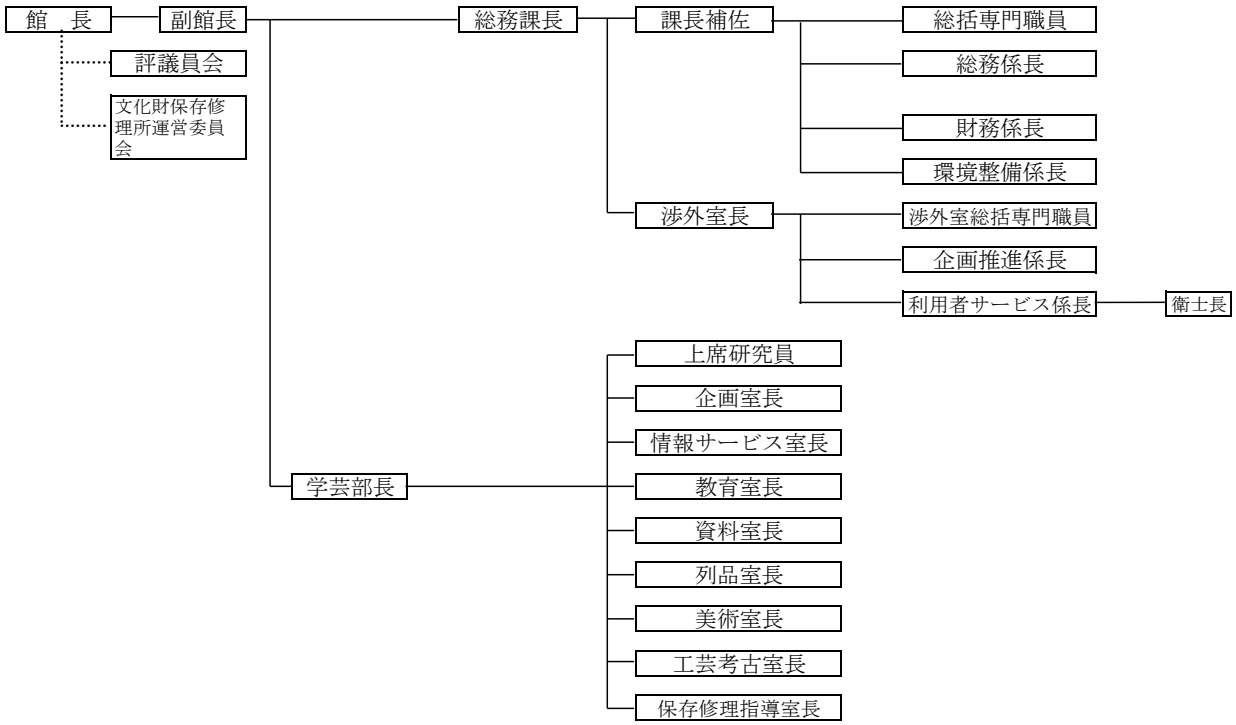
【東京国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
総務部長
総務課長
室　長
（総務・渉外担当）
係　長（総務担当）
係　長（渉外開発担当）
係　長（警備・お客様担当）
警備・ お客様サービスセンター
経理課長
室　長
（経理・契約担当）
係　長（経理担当）
係　長（契約担当）
専門職員（共済担当）
専門職員
環境整備室長
（環境整備担当）
係　長（環境整備担当）
係　長（設備担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
情報資料室長
広報室長
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
主任研究員
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸室長
考古室長
東洋室長
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
上席研究員
研究員

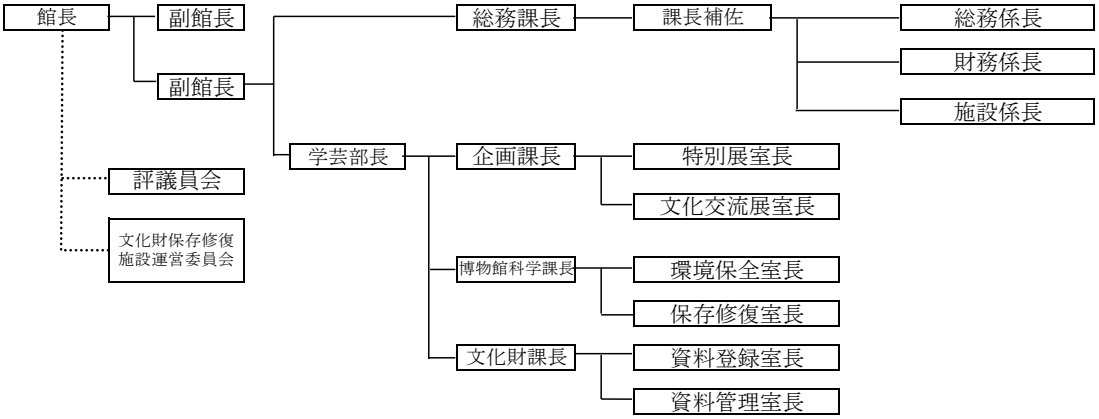
【京都国立博物館】



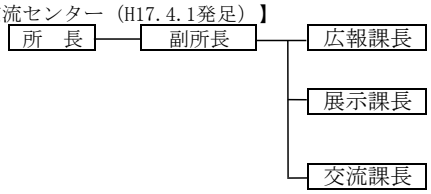
【奈良国立博物館】



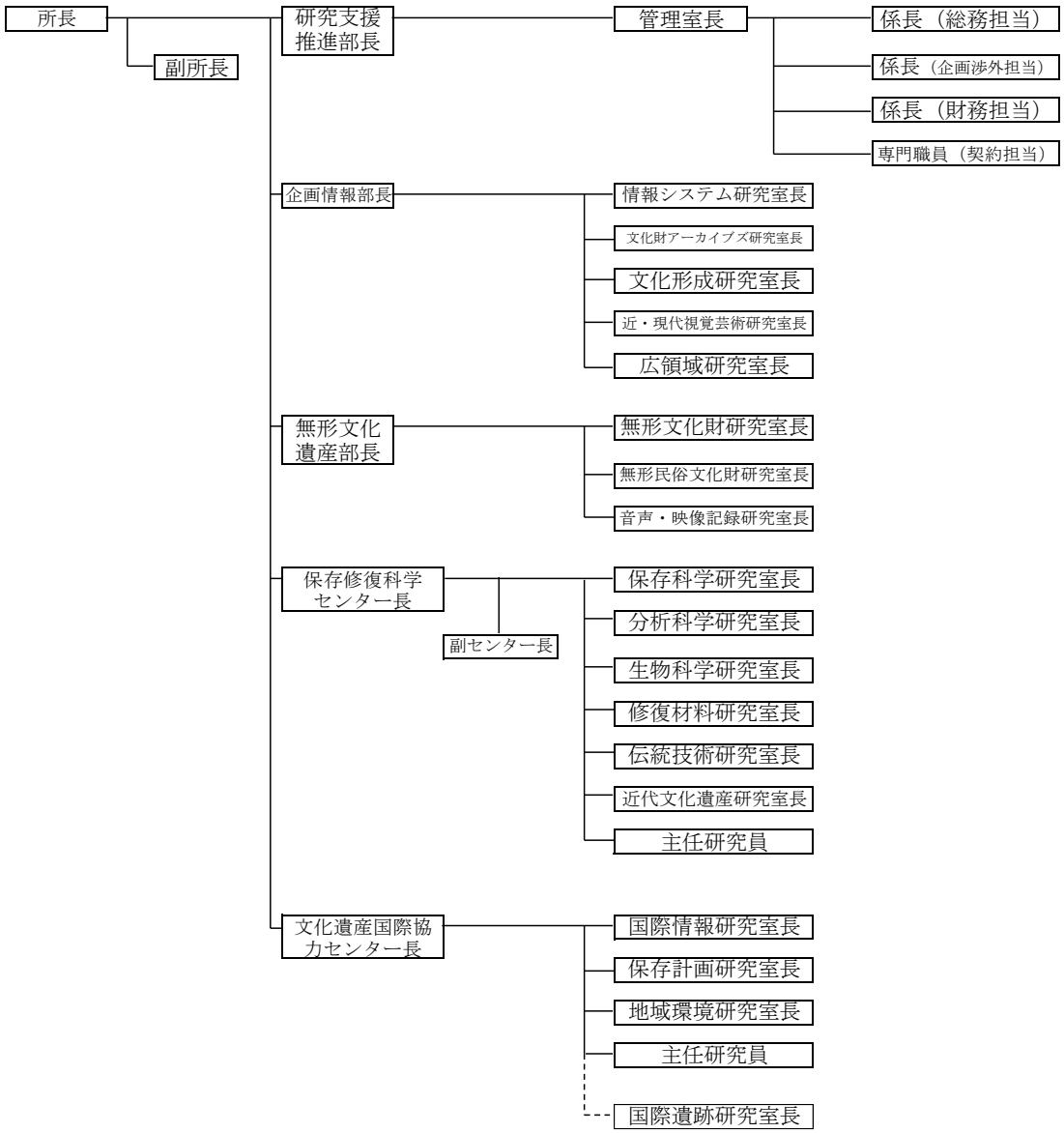
【九州国立博物館】



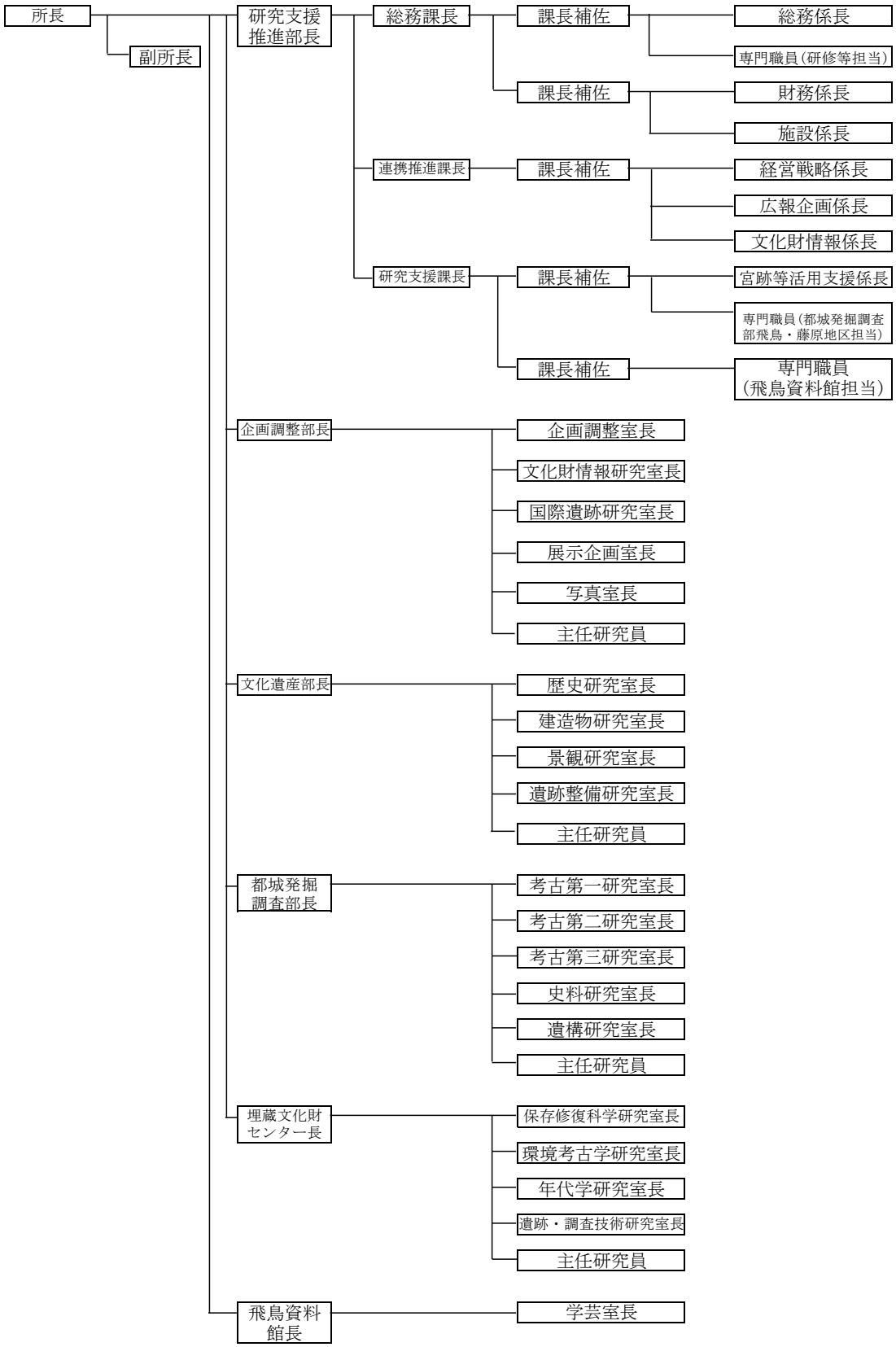
【アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



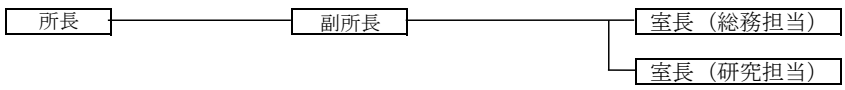
【東京文化財研究所】


所長
副所長
研究支援推進部長
管理室長
係長（総務担当）
係長（企画渉外担当）
係長（財務担当）
専門職員（契約担当）
企画情報部長
情報システム研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
文化形成研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声・映像記録研究室長
保存修復科学センター長
副センター長
保存科学研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復材料研究室長
伝統技術研究室長
近代文化遺産研究室長
主任研究員
文化遺産国際協力センター長
国際情報研究室長
保存計画研究室長
地域環境研究室長
主任研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】



【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】



平成２３年度　自己点検評価報告書　統計表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1-(1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表 …… 1

(参考)収蔵品･寄託品件数合計（過去５ヵ年)…… 3

1-(1)-② 平成 23 年度新収品一覧表 …… 4

1-(1)-③ 平成 23 年度新収品一覧

【東京国立博物館】…… 5

【京都国立博物館】…… 20

【奈良国立博物館】…… 25

【九州国立博物館】…… 26

1-(1)-④ 寄託品一覧表 …… 30

1-(1)-⑤ 寄託品増減表 …… 30

1-(1)-⑥ 登録美術品一覧表 …… 30

1-(2) 収蔵品の管理・保存

1-(2)-① 保存カルテ作成件数 …… 31

1-(2)-② 各収蔵庫､展示場の温湿度…… 32

1-(3) 収蔵品の修理

1-(3)-① 本格修理件数 …… 33

1-(3)-② 修理概況

【東京国立博物館】…… 34

【京都国立博物館】…… 48

【奈良国立博物館】…… 50

【九州国立博物館】…… 51

1-(3)-③ 文化財修理データのデータベース化件数 …… 55

2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

2-(1) 展覧事業の充実

2-(1)-① 来館者数推移(来館料別）（過去５ヵ年）　(P.125◎共通資料 a-①)

2-(1)-② 来館者数推移(展覧会別）（過去５ヵ年）　(P.126◎共通資料 a-②)

2-(1)-③ 入場料収入　(P.128◎共通資料 a-③)

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置 …… 56

2-(1)-⑤ 平常展・特別展・海外展　(P.129◎共通資料 a-④)

2-(2) 教育活動の充実

2-(2)-① 学習機会の提供(過去５ヵ年) …… 57

2-(2)-② キャンパスメンバーズ…… 58

2-(2)-③ 講座･講演会等の開催実績 …… 61

2-(2)-④ 児童生徒を対象とした教育普及事業 …… 70

2-(2)-⑤ 大学生･大学院生を対象とした教育事業…… 78

2-(2)-⑥ ボランティア受入れ実績　(P.145◎共通資料 b)

2-(2)-⑦ 友の会 …… 80

2-(2)-⑧ 賛助会 …… 81

2-(2)-⑨ 渉外活動 …… 82

2-(2)-⑩ 留学生の日 ・・・

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧 (P.193◎共通資料 c-⑤)
4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧 (P.207◎共通資料 c-⑥)
4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施
4-(4)-① 調査研究テーマ一覧 (P.171◎共通資料 c-②)
4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P.176◎共通資料 c-③)
4-(4)-③ 論文等発表実績一覧 (P.193◎共通資料 c-⑤)
4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧 (P.207◎共通資料 c-⑥)
4-(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究
4-(5)-① 調査研究テーマ一覧 (P.171◎共通資料 c-②)
4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P.176◎共通資料 c-③)
4-(5)-③ 論文等発表実績一覧 (P.193◎共通資料 c-⑤)
4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧 (P.207◎共通資料 c-⑥)
4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究 (P.210◎共通資料 c-⑦)
4-(5)-⑥ 客員研究員一覧 (P.213◎共通資料 c-⑧)

5. 文化財保護に関する国際協力の推進
5-(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備
5-(1)-① 調査研究テーマ一覧 (P.171◎共通資料 c-②)
5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧 ・・ 119
5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 (P.176◎共通資料 c-③)
5-(1)-④ 論文等発表実績一覧 (P.193◎共通資料 c-⑤)
5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進
5-(2)-① 調査研究テーマ一覧 (P.171◎共通資料 c-②)
5-(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転
5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況・・・・・・・・・ 119
5-(4)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究
5-(4)-① 研究交流実績一覧 (P.148◎共通資料 c-①)
5-(4)-② 調査研究テーマ一覧 (P.171◎共通資料 c-②)
5-(4)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 (P.176◎共通資料 c-③)
5-(4)-④ シンポジウム開催実績一覧 (P.191◎共通資料 c-④)
5-(4)-⑤ 論文等発表実績一覧 (P.193◎共通資料 c-⑤)
5-(4)-⑥ 調査研究刊行物一覧 (P.207◎共通資料 c-⑥)
5-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数 (P.216◎共通資料 d)

6. 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実
6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数 ・・ 120
6-(2) 研究所の研究成果の発信
6-(2)-① 公開講演会､現地説明会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

6-(3)-③ 入場料収入 (P.128◎共通資料 a-③)
6-(3)-④ 平常展・特別展・海外展 (P.129◎共通資料 a-④)
6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力
6-(4)-① ボランティア受入れ実績 (P.145◎共通資料 b)

7. 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
7-① 国･地方公共団体等に対する専門的･技術的な協力･助言 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果 123

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
Ⅱ-1. 一般管理費の削減
Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1-(1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表　　（単位：件）　平成24年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		122,802	130	946	113,897	87	631	6,621	27	177	1,831	13	109	453	3	29
絵画		13,446	34	201	11,101	20	101	1,983	9	54	288	4	42	74	1	4
書跡		3,246	35	166	1,753	14	58	1,312	15	76	141	5	26	40	1	6
彫刻		1,408	1	45	1,102	0	22	143	0	1	144	1	16	19	0	6
建築		78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工		16,380	3	54	15,831	1	17	378	2	24	158	0	11	13	0	2
刀剣		3,419	20	57	3,396	19	57				16	0	0	7	1	0
陶磁		3,760	0	18	2,932	0	12	716	0	2	81	0	0	31	0	4
漆工		4,180	6	30	3,757	4	20	194	0	2	74	2	5	155	0	3
染織		4,652	2	25	3,627	0	18	905	1	6	92	1	1	28	0	0
考古		29,957	4	75	28,529	4	55	659	0	10	731	0	8	38	0	2
民族資料		1,300	0	0	1,190	0	0	0	0	0	101	0	0	9	0	0
歴史資料		4,684	0	6	4,369	0	4	282	0	1	0	0	0	33	0	1
和書		17,562	0	1	17,562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋	絵画	684	4	31	684	4	31									
	書跡	1,692	10	12	1,692	10	12									
	彫刻	798	0	20	798	0	20									
	金工	986	0	0	986	0	0									
	陶磁	3,040	0	10	3,040	0	10									
	漆工	529	0	4	529	0	4									
	染織	585	0	1	585	0	1									
	考古	5,808	0	2	5,808	0	2									
	民族	3,468	0	0	3,468	0	0									
法隆寺献納宝物		321	11	182	321	11	182									
黒田記念館収蔵品		814	0	2	814	0	2									
準歴史資料（含和書）		2	0	2	2	0	2									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊列品に編入されていない資料については「準歴史資料（含和書）」の項目に記し、列品化整理中の資料とを分けて表示している
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。（このほか東京国立博物館には建造物の重要文化財が5件ある）。
＊平成15年度以前「歴史資料」と分類していたものを、平成16年度より「和書」と「歴史資料」にて分けて表示している。
＊平成19年4月1日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。
＊平成23年度に、東京国立博物館（東洋考古 重文1件)を九州国立博物館(考古)へ管理換した。

（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

平成24年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
［文化遺産部］	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森澑資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
［都城発掘調査部（平城地区）］	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	29,714箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	32,568点
平城宮・京出土瓦類	693,678点
平城宮・京出土木簡	209,062点
［都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)］	
軒丸瓦・軒平瓦	約35,298点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,754袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	約37,956箱
土器　　整理箱	約15,994箱
土製品	約14,919点
木器・木製品	約33,942点
木簡	約355,155点
建築部材	約2,956点
金属製品	約19,781点
石器・石製品	約14,182点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
［飛鳥資料館］	
高松塚古墳出土品（海獣葡萄鏡　銀製太刀金具　棺金具　ガラス小玉漆塗り木棺）（重要文化財）	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点

保管及び所蔵文化財・資料名	数
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	一式
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
［埋蔵文化センター］	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	
東貝塚	
室浜貝塚	
福浦島貝塚	
里浜貝塚	
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式

1-(1)-① (参考)

収蔵品・寄託品件数合計(過去5ヵ年)

(単位:件) 平成24年3月31日現在

		平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	132,997	320	2,117	133,188 (132,950)	313	2,113	133,415	313	2,128	134,077	315	2,128	134,668	316	2,127
	東京国立博物館	115,182	140	883	115,279	140	882	115,510	137	885	115,984	137	886	116,586	137	883
	京都国立博物館	12,540	110	782	12,562 (12,324)	108	779	12,483	108	787	12,589	110	789	12,634	110	787
	奈良国立博物館	3,851	67	426	3,872	62	425	3,769	65	427	3,774	65	423	3,776	66	425
	九州国立博物館	1,424	3	26	1,475	3	27	1,653	3	29	1,730	3	30	1,672	3	32
収蔵品	国立博物館 計	120,952	129	927	121,121	129	932	121,511	129	937	122,102	130	943	122,802	130	946
	東京国立博物館	112,439	87	619	112,529	87	622	112,776	87	624	113,258	87	629	113,897	87	631
	京都国立博物館	6,386	27	177	6,417	27	177	6,526	27	176	6,584	27	177	6,621	27	177
	奈良国立博物館	1,794	12	107	1,805	12	108	1,812	12	110	1,827	13	109	1,831	13	109
	九州国立博物館	333	3	24	370	3	25	397	3	27	433	3	28	453	3	29
寄託品	国立博物館 計	12,045	191	1,190	12,067 (11,829)	184	1,181	11,904	184	1,191	11,975	185	1,185	11,866	186	1,181
	東京国立博物館	2,743	53	264	2,750	53	260	2,734	50	261	2,726	50	257	2,689	50	252
	京都国立博物館	6,154	83	605	6,145 ※(5,907)	81	602	5,957	81	611	6,005	83	612	6,013	83	610
	奈良国立博物館	2,057	55	319	2,067	50	317	1,957	53	317	1,947	52	314	1,945	53	316
	九州国立博物館	1,091	0	2	1,105	0	2	1,256	0	2	1,297	0	2	1,219	0	3

※京都国立博物館平成20年度寄託品件数について計数方法の見直しを行い、以後括弧内の件数となった。

1-(1)-② 平成23年度新収品一覧表

（単位：件）　平成24年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	（＊1） 701			640			37			4			20		
計	34	176	491	0	151	489	13	24	0	4	0	0	17	1	2
絵画	11	23	1	0	12	0	7	11	0	1	0	0	3	0	1
書跡	7	33	0	0	33	0	2	0	0	2	0	0	3	0	0
彫刻	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
刀剣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	0	5	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
漆工	0	24	0	0	22	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
染織	5	7	0	0	0	0	3	7	0	0	0	0	2	0	0
考古	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	7	0	489	0	0	489	0	0	0	0	0	0	7	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	0	0									
東洋 書跡	0	44	0	0	44	0									
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0									
東洋 金工	0	0	0	0	0	0									
東洋 陶磁	0	34	0	0	34	0									
東洋 漆工	0	5	0	0	5	0									
東洋 染織	0	0	0	0	0	0									
東洋 考古	0	0	0	0	0	0									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
(＊1)平成23年度新収品数合計は701件であるが、九州国立博物館新収品の編入のうち考古1件については東京国立博物館(東洋考古)からの管理換であるため、収蔵品数は700件増加した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収集品一覧表

（単位：件）

	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	972			168			390			591			（＊1） 701		
小計	93	68	811	52	113	3	46	148	196	65	70	456	34	176	491
絵画	21	16	0	15	5	0	14	66	0	12	16	0	11	23	1
書跡	5	2	0	12	25	0	5	11	0	9	12	1	7	33	0
彫刻	1	9	0	4	0	0	2	12	0	1	2	1	2	0	0
建築	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
金工	3	11	0	1	0	2	1	0	0	13	4	0	1	1	0
刀剣	1	2	0	0	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0
陶磁	14	1	0	1	2	0	7	16	0	2	0	0	0	5	0
漆工	20	1	0	3	11	0	8	2	0	5	11	0	0	24	0
染織	19	4	0	10	14	0	0	2	0	13	7	0	5	7	0
考古	7	2	1	4	11	1	3	29	0	3	2	0	1	0	1
民族資料	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
歴史資料	0	1	0	2	1	0	4	0	196	6	2	453	7	0	489
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 書跡	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
東洋 金工	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 陶磁	0	12	0	0	2	0	0	1	0	0	2	0	0	34	0
東洋 漆工	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
東洋 染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 考古	1	3	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0
東洋 民族	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	0	809	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-③ 平成23年度新収品一覧

【東京国立博物館】(計640件)

(1) 購入 (0件)

(2) 寄贈 (151件)

＜絵画＞ (12件)

1　○名　　称　鶴草子(つるのそうし)
　　○時　　代　江戸時代・17世紀
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　3巻
　　○寸 法 等　(上巻) 縦33.5cm　長さ1572.6cm (中巻) 縦33.5cm　長さ1685.7cm (下巻) 縦33.5cm　長さ1664.7cm
　　○作品概要　巻子装。箱書に「鶴由来」とあるが、一般的には「鶴草子」(「鶴のさうし」) の名で呼ばれる報恩・怪婚譚で、お伽草子のひとつである。慈悲深い零落貴族の「宰相」が鶴を救い、この鶴が人に姿を変えた妻と富貴に暮らしていたところ、これに横恋慕して妻を奪おうとした守護官・宮崎の軍勢を夜叉や鳥獣が撃退、妻は自身が鶴であることを告げて去るが、人間の娘として生まれ変わって再び宰相と結ばれ、その後は子供にも恵まれて一家は富貴繁昌するという筋書きをもつ、「流布本」の系統に属する。

2　○名　　称　雉図 (きじず)
　　○作 者 等　岡本秋暉 (1807～62) 筆
　　○時　　代　江戸時代・天保13年(1842)
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙　縦143.2cm　横88.6cm
　　○作品概要　掛幅装。枯薄や萩など秋草の生い茂る水辺に佇むつがいの雉と、飛来する小禽を描く。雄雉は目元の赤い肉腫を鮮やかに表現し、黒い身体にわずかに青色をにじませ、薄茶の翼には青と白を用いて雄特有の模様を描く。雌雉は薄茶の羽毛に白い斑点を浮かべ、嘴に肌色を施す。秋草の葉や茎には没骨技法を用い、飛来する小禽をはじめとする鳥類の表現には速い運筆を示す跡がみられる。

3　○名　　称　孔雀図 (くじゃくず)
　　○作 者 等　岡本秋暉 (1807～62) 筆
　　○時　　代　江戸時代・19世紀
　　○品　　質　絹本着色
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦120.5cm 横50.4cm
　　○作品概要　掛幅装。画面中央に岩前で尾を大きく振り上げる雄孔雀と寄り添う雌孔雀を配し、背後に牡丹、足元に蒲公英を描く。

4　○名　　称　波濤図 (はとうず)
　　○作 者 等　岡本秋暉 (1807～62) 筆
　　○時　　代　江戸時代・19世紀
　　○品　　質　絹本着色
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦81.3cm 横111.3cm
　　○作品概要　掛幅装、牙軸。大きくうねり飛沫をあげる波を描く。霞状に金泥を刷き、波間の陰影に群青を用いて、飛沫として細かな白色を散らす。多くの秋暉作品と同じく、沈南蘋の影響を受けた弧を無数に重ねる波表現がなされている。

5　○名　　称　欹器図　(いきず)
　　○作 者 等　岡本秋暉 (1807～62) 筆
　　○時　　代　江戸時代・19世紀
　　○品　　質　絹本着色
　　○員　　数　2幅
　　○寸 法 等　本紙 縦62.5cm 横39.4cm
　　○作品概要　掛幅装。「荀子」巻第二十宥坐篇第二十八に記される「宥坐之器」を絵画化したもの。欹器は空だと傾き、適量の水を入れれば水平を保つものの、入れすぎると再び傾き水をこぼすことから、何事も適量があり満つれば欠けることを説く鑑戒図の一つ。向かって右幅上方に「宥坐之器」本文を記す。小襖を掛幅装に改変したもので、右幅右端中央および左幅左端中央にそれぞれ引手跡がある。

6　○名　　称　梅に鵲図 (うめにかささぎず)
　　○作 者 等　岡本秋暉 (1807～62) 筆
　　○時　　代　江戸時代・文久2年 (1862)
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦129.8cm 横55.8cm
　　○作品概要　掛幅装。梅の枝にとまる鵲を描く。梅樹は笹の生い茂る画面右下から立ち上がり、一旦画面右外へ大きく幹を反らせた後、花をつけた枝先2本のみを画面に垂らす。長く延びた枝の一つに天を仰ぎ尾羽をピンと伸ばした鵲がとまる。いずれも速い筆致で描かれており、席画の様相を呈している。

7　○名　　称　鳥類写生図巻 (ちょうるいしゃせいずかん)
　　○作 者 等　岡本秋暉 (1807～62) 筆
　　○時　　代　江戸時代・19世紀
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　1巻
　　○寸 法 等　本紙 縦27.2cm 長さ984.7cm
　　○作品概要　巻子装。雉、燕、郭公、鴫、鶏、雁、鴨、孔雀、鷺、雀、金鶏鳥などの数々の鳥類を表した図巻。摘水軒記念文化振興財団蔵「鳥絵手本」とほぼ同図様を示すものの、秋暉特有の勢いよく速い筆勢がより顕著に確認できる。

8　○名　　称　岡本秋暉所用印 (おかもとしゅうきしょよういん)
　　○時　　代　江戸時代・19世紀
　　○品　　質　石製
　　○員　　数　10個
　　○寸 法 等　①縦3.2cm　横1.4cm　高7.8cm　②縦1.7cm　横1.7cm　高2.9cm　③縦1.7cm　横1.4cm　高3.2cm　④縦1.8cm　横1.9cm　高2.9cm
　　⑤縦1.5cm　横1.3cm　高2.3cm　⑥縦1.5cm　横1.4cm　高4.8cm　⑦縦1.2cm　横1.4cm　高3.0cm　⑧縦1.9cm　横0.7cm　高5.4cm

⑨縦 1.4 ㎝　横 0.7 ㎝　高 2.8 ㎝　⑩縦 0.7 ㎝　横 0.8 ㎝　高 1.3 ㎝
○作品概要　秋暉が使用した「秋暉老人」印を含む岡本家伝来の印章。このうち 4.「岡秋暉印」には、文久 2 年（1862）5 月に四世浜村蔵六より贈られたことを示す側款が印刻されている。

9　○名　　称　曽我物語図屏風（模本）（そがものがたりずびょうぶ（もほん））
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙 縦 25.2 ㎝ 長さ 476.4 ㎝
○作品概要　巻子装。原本伝土佐光茂筆。曽我物語の一場面、富士牧狩の図を屏風に描いた一隻を巻子に写したもの。表紙に「一」と墨書されることから、本巻は「曽我物語図屏風」一双のひとつを写したもので、もう一隻を写した「二」が存在したと推測される。渡辺美術館（鳥取県鳥取市）に土佐光吉筆と目される「曽我物語図屏風」が所蔵されるが、これとは構図や細部の図様が異なる。本巻から推測される原本は、墨書が伝える土佐光茂の画風が認められることから、光吉に先行する土佐派の「曽我物語図屏風」の存在を示唆する貴重な模本と考えられる。

10　○名　　称　江府青山熊野縁起絵巻（模本）（こうふあおやまくまのえんぎえまき（もほん））
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙 縦 27.7 ㎝　長さ 793.1 ㎝
○作品概要　巻子装。武州青山（現渋谷区青山）にある熊野神社の縁起を描いた絵巻の模本。天保 2 年（1831）の奥書によれば、詞書は常徳院・足利義尚、絵は土佐光信が担当し、紀伊国主南龍院（徳川頼宣）が奉納したとする。詞書に多くの紙数が使われる一方で、絵は色紙形一枚程度の小さなものであり、その絵画様式からは室町時代の絵巻とは認めがたい。しかしながら、原本の確認、全国にある熊野神社に関連して各地で制作された「熊野権現縁起絵巻」との比較など研究資料としての価値が高い。

11　○名　　称　新百鬼夜行（模本）（しんひゃっきやぎょう（もほん））
○作 者 等　住吉広尚（1781～1828）模写
○時　　代　江戸時代・文化 5 年（1808）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙 縦 25.9 ㎝ 長さ 579.9 ㎝
○作品概要　巻子装。よく知られた室町時代制作の「百鬼夜行絵巻」とは異なる図様をもつもので、そのためか表紙に「新百鬼夜行」と題される。本絵巻とほぼ同じ図様を写した模本が、京都市立芸術大学芸術資料館、当館（狩野晴川院養信写、文政 12 年〔1829〕）に所蔵される。後者の墨書によればその原本は、元和 3 年(1617)に住吉内記（如慶）が模写したものの写しであるという。

12　○名　　称　中島和田右衛門の丹波屋八右衛門（なかじまわだえもんのたんばやはちえもん）
○作 者 等　東洲斎写楽（生没年不詳）筆
○時　　代　江戸時代・寛政 6 年(1794)
○品　　質　細判　錦絵
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　本紙 縦 30.3 ㎝　横 14.2 ㎝
○作品概要　寛政 6 年（1794）8 月桐座上演の『四方錦故郷旅路』に取材した作品。写楽作品を四期に区別するうち、第二期に属する細判作品。写楽の同図柄としては、世界に 1 点しか知られていない貴重なものである。また、背景の黄潰しなど彩色も鮮やかに残っており、摺りと保存状態の優れた作品である。

＜書跡＞（33 件）

13　○名　　称　白楽天・閒夕（はくらくてん・かんせき）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 13 年(1938)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 267.5cm 横 69.0cm
○作品概要　対幅に白居易（白楽天）の詩を書する。

14　○名　　称　李太白・送友人尋越中山水（りたいはく・そうゆうじんじんえつちゅうさんすい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 23 年(1948)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 204.8cm 横 54.6cm
○作品概要　対幅に李白の詩「送友人尋越中山水」を書する。

15　○名　　称　李太白・六首（りたいはく・ろくしゅ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 25 年(1950)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 270.0cm 横 69.0cm
○作品概要　李白の「憶東山二首」「望月有懐」「魯中都東楼酔起作」「獨坐敬亭山」「清溪半夜聞笛」の六首を行書で揮毫する。

16　○名　　称　李太白・見京兆韋参軍量移東陽（りたいはく・けんけいちょういさんぐんりょういとうよう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 29 年(1954)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 183.0cm 横 48.5cm
○作品概要　李白の五言絶句「見京兆韋参軍量移東陽 」（けいちょうの いさんぐんの とうように りょういせらるるをみる）を草体で揮毫する。

17　○名　　称　詩書継世（ししょけいせい）

○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 33 年(1958)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 48.0cm 横 132.5cm
○作品概要　吉祥句である「詩書継世」の四文字を篆書で揮毫する。

18 ○名　　称　臨楚王畬　鼎銘（りんそおうえん　　ていめい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 35 年(1960)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 134.5cm 横 34.0cm
○作品概要　戦国時代の青銅器「楚王畬肭鼎」の銘文を篆書で臨書する。

19 ○名　　称　蘇東坡・湖橋（そとうば・こきょう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 37 年(1962)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 238.0cm 横 49.0cm
○作品概要　蘇軾の五言絶句「湖橋」を行書で揮毫する。

20 ○名　　称　周易・中孚（しゅうえき・ちゅうふ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 38 年(1963)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 220.0 cm 横 70.0 cm
○作品概要　易経（周易）「中孚」の句を草書で揮毫する。

21 ○名　　称　商頌 長発（しょうじゅ ちょうはつ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 41 年(1966)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 231.5cm 横 57.5cm
○作品概要　対幅に『詩経』の「商頌 長発」の句を篆書で揮毫する。

22 ○名　　称　臨石鼓文 第四鼓（りんせきこぶん だいよんこ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 45 年(1970)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 181.0cm 横 88.0cm
○作品概要　「石鼓文」の第四鼓の銘文を臨書する。

23 ○名　　称　望魯（ぼうろ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 47 年(1972)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 135.8cm 横 59.5cm
○作品概要　「望魯」の二文字を篆体で大書する。

24 ○名　　称　蘇東坡・石鼓歌（そとうば・せきこか）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 62 年(1987)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　8 幅
○寸 法 等　本紙 縦 137.0cm 横 34.0cm
○作品概要　蘇軾が石鼓を見て詠んだ詩である「石鼓歌」全文を、８幅にわたって草体で書する。

25 ○名　　称　臨石鼓文（りんせきこぶん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 63 年(1988)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　12 幅
○寸 法 等　本紙 縦 228.5cm 横 45.0cm
○作品概要　「石鼓文」全文を１２幅にわたって臨書する。

26 ○名　　称　楽壺斎（らくこさい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　平成 4 年(1992)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　3 面
○寸 法 等　本紙 縦 52.8cm 横 46.7cm
○作品概要　「楽」「壺」「斎」の三文字を１面づつに書する。

27 ○名　　称　篆書五言聯（てんしょごごんれん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆

○時　　代　昭和 56 年(1981)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 136.0cm 横 23.0cm
○作品概要　対幅に五言二句を篆体で書する。

28 ○名　　称　艱難玉汝（かんなんなんじをたまにす）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和時代・20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 27.0cm 横 68.5cm
○作品概要　「艱難玉汝」の四文字を書する。

29 ○名　　称　殷文鳥獣戯画（いんぶんちょうじゅうぎが）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）(1912～93)筆
○時　　代　昭和 44 年(1969)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 68.0cm ； 横 103.0cm
○作品概要　種々の鳥獣を表わす文字を、殷代の甲骨文風に書する。

30 ○名　　称　蘇東坡・臘日遊孤山訪惠勤惠思二僧（そとうば・ろうじつゆうこざんほうけいごんけいしにそう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　平成 3 年(1991)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 137.0cm ； 横 47.0cm
○作品概要　蘇軾（蘇東坡）の詩「臘日、孤山に遊びて惠勤・惠思二僧を訪う」を書し、「辛未秋日録于寄鶴軒、杉雨逸人」と款記を加える。

31 ○名　　称　眼中之人（がんちゅうのひと）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）(1912～93)筆
○時　　代　昭和 54 年(1979)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 44.5cm ； 横 68.5cm
○作品概要　「眼中之人」の四字を大書する。

32 ○名　　称　聴鹿鳴（ちょうろくめい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 34 年(1959)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 39.0cm ； 横 120.0cm
○作品概要　（本文）「聴鹿鳴　杉雨題　己亥晩冬」

33 ○名　　称　亀山操（きざんそう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）(1912～93)筆
○時　　代　昭和 45 年(1970)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 104.5cm ； 横 51.5cm
○作品概要　孔子が琴曲を付したと伝えられる「亀山操」の一節を書する。

34 ○名　　称　萬方鮮（ばんぽうせん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）(1912～93)筆
○時　　代　昭和 52 年(1977)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 108.5cm ； 横 103.5cm
○作品概要　「萬方鮮」の三字を大書する。

35 ○名　　称　隷書七言聯（れいしょしちごんれん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 56 年(1981)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　本紙 縦 137.0cm ； 横 27.0cm
○作品概要　対幅に七言二句を隷体で書する。

36 ○名　　称　巌風（がんぷう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 35 年(1960)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 63.5cm ； 横 93.0cm
○作品概要　「巌風」の二字を大書する。

37 ○名　　称　偃武（えんぶ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 49 年(1974)

○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1面
○寸 法 等　本紙 縦 44.7cm ； 横 69.0cm
○作品概要　「偃武」の二字を篆体で大書する。

38 ○名　　称　去駐随縁（きょちゅうずいえん）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 62 年(1987)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1面
○寸 法 等　本紙 縦 29.4cm ； 横 91.0cm
○作品概要　（本文）「去駐随縁／杉逸人」

39 ○名　　称　澹如（たんじょ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 62 年(1987)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1面
○寸 法 等　本紙 縦 76.5cm ； 横 140.0cm
○作品概要　（本文）「澹如　杉雨書」

40 ○名　　称　人書未熟（じんしょみじゅく）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 41 年(1966)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1面
○寸 法 等　本紙 縦 80.0cm ； 横 98.0cm
○作品概要　「人書未熟」の四字を大書する。

41 ○名　　称　金石有霊（きんせきゆうれい）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　平成 3 年(1991)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1面
○寸 法 等　本紙 縦 56.0cm ； 横 53.0cm
○作品概要　（本文）「金石有霊／文書」

42 ○名　　称　古詩十九首其七（こしじゅうきゅうしゅそのしち）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）（1912～93）筆
○時　　代　昭和 53 年(1978)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 45.0cm ； 横 69.5cm
○作品概要　『文選』所収の「古詩十九首」の第七「明月皎夜光」を行書で揮毫する。

43 ○名　　称　杜甫・春望（とほ・しゅんぼう）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）作
○時　　代　昭和 56 年(1981)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 136.5cm 横 52.0cm
○作品概要　杜甫の詩「春望」を草書で揮毫する。

44 ○名　　称　袁宏道・閒居（えんこうどう・かんきょ）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 58 年(1983)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 137.0cm ； 横 34.5cm
○作品概要　明の袁宏道(1568～1610)の七言律詩「閒居」を草書で揮毫する。

45 ○名　　称　胸中丘壑（きょうちゅうきゅうがく）
○作 者 等　青山杉雨（1912～93）筆
○時　　代　昭和 62 年(1987)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1面
○寸 法 等　本紙 縦 89.5cm ； 横 137.0cm
○作品概要　（本文）「胸中丘壑／龐鋳詩、雪谷暁装図云、楊／候胸中富丘壑、酔裏筆／端馳雪落、丁卯夏日、力疾試毫／杉雨逸人」

＜陶磁＞（1件）

46 ○名　　称　色絵桜花鷲文大皿（いろえおうかわしもんおおざら）
○作 者 等　伊万里
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1枚
○寸 法 等　径 51.0cm 高 8.0cm 高台径 26.0cm
○作品概要　白色磁胎。ろくろ成形によって、高台からゆるやかに立ち上げ、胴の途中から口縁に向かって外側に広げた大皿。見込には、雉をとらえた大鷲を染付と上絵具、金彩で大きく描く。外周には、菊唐草文の地に花鳥図を描いた扇面や繭形の地紙文様を染付と上絵具、金彩で描いている。裏側には、牡丹、梅、菊の折枝文を染付と赤絵具、金彩で描く。高台脇と高台内側には染付で円をめぐらせる。表側、裏側とも、染付で文様の一部を描いたのち、透明釉を畳付を除いて全面にかけて焼成している。釉上には赤や橙、緑で上絵を施し、さらに金彩で文様を加えている。裏側には、焼成時に釉薬がはがれたとみられる露胎の跡が一部ある。高台内側には焼成時のハリ支えの跡が 5 箇所ある。

＜漆工＞（22 件）

47 ○名　　称　馬蒔絵螺鈿印籠（うまときえらでんいんろう）
○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 8.0 ㎝　横 5.1 ㎝
○作品概要　長方形、四段重の印籠。表面は全体を黒漆塗として、高蒔絵と螺鈿を主体にして馬の図柄を表わす。薄紫色の丸紐と瑪瑙製瓢形の緒締が付属している。

48 ○名　　称　亀木彫印籠（かめもくちょういんろう）
○時　　代　明治時代・19～20 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 9.0 ㎝　横 6.1 ㎝
○作品概要　亀形、三段重の印籠。亀の甲羅や頭部、肢体の形に彫り出し、表面に透漆を塗っている。内側は黒漆塗。

49 ○名　　称　親子犬牙彫根付（おやこいぬげちょうねつけ）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　象牙製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.6 ㎝
○作品概要　犬の親子を象った象牙製根付。

50 ○名　　称　親子犬牙彫根付（おやこいぬげちょうねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
○品　　質　象牙製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 3.6 ㎝
○作品概要　犬の親子を象った象牙製根付。

51 ○名　　称　犬木彫根付（いぬもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.1 ㎝
○作品概要　じゃれあう 2 匹の犬を象った木製根付。

52 ○名　　称　子犬木彫根付（こいぬもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 3.2 ㎝
○作品概要　子犬を象った木製根付。

53 ○名　　称　犬盲人木彫根付（いぬにもうじんもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 3.6 ㎝
○作品概要　盲人にじゃれる犬を象った木製根付。

54 ○名　　称　犬木彫漆塗根付（いぬもくちょううるしぬりねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.3 ㎝
○作品概要　犬を象った木製根付。表面は朱漆塗として、首輪に青漆を用いる。

55 ○名　　称　狸腹鼓木彫根付（たぬきはらつづみもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸～明治・19 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 3.4 ㎝
○作品概要　腹鼓を打つ狸を象った木製根付。

56 ○名　　称　狸腹鼓据文根付（たぬきはらつづみすえもんねつけ）
○時　　代　明治時代・19～20 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.1 ㎝
○作品概要　腹鼓を打つ狸を象った彫金金具を嵌めた、木製漆塗の饅頭形根付。表面には蒔絵で薄を描いている。

57 ○名　　称　虎木彫根付（とらもくちょうねつけ）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　木製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　最大径 4.2 ㎝
○作品概要　虎を象った木製根付。

58　○名　　称　川獺牙彫根付（かわうそげちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
　　○品　　質　象牙製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.2 ㎝
　　○作品概要　半截の竹に乗る川獺を象った象牙製根付。

59　○名　　称　葡萄栗鼠牙彫根付（ぶどうりすげちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
　　○品　　質　象牙製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 5.6 ㎝
　　○作品概要　葡萄の実と栗鼠を象った象牙製根付。

60　○名　　称　馬彫金根付（うまちょうきんねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　象牙製饅頭形、鏡蓋赤銅製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.3 ㎝
　　○作品概要　象牙製饅頭形の身に、赤胴魚々子地に馬を高彫した鏡蓋を嵌めた彫金根付。

61　○名　　称　狼牙彫根付（おおかみげちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　象牙製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.8 ㎝
　　○作品概要　狼を象った象牙製根付。

62　○名　　称　狼木彫根付（おおかみもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
　　○品　　質　木彫
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.4 ㎝
　　○作品概要　狼を象った木製根付。

63　○名　　称　狼木彫根付（おおかみもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　木製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.8 ㎝
　　○作品概要　狼を象った木製根付。

64　○名　　称　狼木彫根付（おおかみもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸～明治・19～20 世紀
　　○品　　質　木製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.8 ㎝
　　○作品概要　狼を象った木製根付。

65　○名　　称　狼髑髏木彫根付（おおかみどくろもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　木製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.6 ㎝
　　○作品概要　狼と髑髏を象った木製根付。

66　○名　　称　狼髑髏木彫根付（おおかみどくろもくちょうねつけ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　木製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　最大径 4.6 ㎝
　　○作品概要　狼と髑髏を象った木製根付。

67　○名　　称　菊蒔絵硯箱（きくまきえすずりばこ）
　　○時　　代　室町時代・16 世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　縦 21.9 ㎝　横 20.4 ㎝　高 4.4 ㎝
　　○作品概要　長方形、被蓋造の硯箱だが、蓋を欠失している。身の内中央に下水板を敷いて硯と水滴を嵌め、その左右に懸子を収める。箱・懸子の表面は梨子地として、懸子の見込には金の研出蒔絵で菊の折枝を描く。水滴は金銅製饅頭形で、菊水文様が線刻されている。

68　○名　　称　梅枝猿蒔絵硯箱（うめえだにさるまきえすずりばこ）
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○員　　数　1 合
　　○寸 法 等　縦 22.5 ㎝ 横 20.8 ㎝ 高 4.5 ㎝
　　○作品概要　長方形、被蓋造の箱で、身の内左側に下水板を敷いて硯と水滴を嵌め、右側に懸子を 1 枚収める。
　　箱の外側は黒漆塗として、金高蒔絵と付描を主体にして青貝微塵を交え、梅枝に戯れる手長猿を表わす。箱の内側は梨子地として、蓋裏には金・青金の薄肉高蒔絵に金貝を交えて達磨を、懸子の見込には研出蒔絵で忍草に兎を描いている。

＜東洋書跡＞（44 件）

69 ○名　　称　楼閣山水田黄石印材（ろうかくさんすいでんおうせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 6.5cm　幅 8.0cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。田黄石という水田古層で採れる黄味のある石を材とする。器形は石材の自然な形状を生かすように作り、印面を除く全面に楼閣山水や田園風景を薄く浮き彫りする。

70 ○名　　称　蝙蝠田黄石印材（こうもりでんおうせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 4.8cm　縦 1.8cm　横 3.3cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される石材を加工した印材。田黄石という水田古層で採れる黄味のある石を材とし、器形は上部を自然の形状を留め、下部を長方柱に作る。上部に雲気と蝙蝠を薄く浮き彫りする。

71 ○名　　称　獅子鈕田黄石印材（ししちゅうでんおうせきいんざい）
○時　　代　明時代・14～17 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 5.0cm　方 2.8cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。田黄石という水田古層で採れる黄味のある石を材とする。器形は上部に獅子形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。

72 ○名　　称　龍銀裏金田黄石印（りゅうぎんかきんでんおうせきいん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 5.1cm　縦 2.3cm　横 3.0cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。銀裏金田黄石という水田古層で採れる外側が白味を帯び、内側が黄味を帯びた石を材とする。器形は上部に石材の自然な形状を留め、下部を長方柱に作る。上部に石色の白い部分を生かして龍を浮き彫りする。下部前面に「瘦銭治石壬戌莫春」銘を刻み記し、印面に「林朗庵鑑藏印」印を陰刻する。

73 ○名　　称　獅子鈕紅芙蓉石印（ししちゅうこうふようせきいん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 6.4cm　方 4.0cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村および月洋村で採取される寿山石を加工した印。紅芙蓉石という山地の地下岩層で採れる薄い赤味を帯びた石を材とする。器形は上部に 2 頭の獅子形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。印面に「人中麒麟」印を陰刻する。

74 ○名　　称　獅子鈕白芙蓉石印材（ししちゅうはくふようせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　3 顆
○寸 法 等　（左右）各高 5.2cm　方 3.0cm　（中）高 5.2cm　縦 3.0cm　横 1.6cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村および月洋村で採取される寿山石を加工した印材。白芙蓉石という山地の地下岩層で採れる白い石を材とする。器形は 3 顆とも上部に獅子形の鈕を彫り出し、2 顆は下部を長方柱に、1 顆は下部を方柱に作る。

75 ○名　　称　桃黄金虫桃花凍石印材（ももこがねむしとうかとうせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 7.4cm　方 2.1cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。桃花凍石という地下水の豊富な鉱山洞窟で採れる透明感と光沢のある赤味を帯びた石を材とする。器形は上部に桃と黄金虫の形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。

76 ○名　　称　水晶凍石印材（すいしょうとうせきいんざい）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（寿山石）
○員　　数　1 対
○寸 法 等　高 8.3cm　方 2.2cm
○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。水晶凍石という地下水の豊富な鉱山洞窟で採れる透明感と光沢のある白い石を材とする。器形は細長い方柱に作り、上面に雷文風の雲気を彫り表わし、上縁に雷文帯を刻み表わす。

77 ○名　　称　鶏血石印（けいけつせきいん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（昌化石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 8.2cm　縦 3.2cm　横 1.0cm
○作品概要　浙江省臨安市昌化の玉岩山で採取される昌化石を加工した印。鶏血石という赤味を帯びた石を材とする。器形は薄い長方柱に作り、印面に「積健為雄」印を陽刻する。

78 ○名　　称　雲龍鶏血石印（うんりゅうけいけつせきいん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（昌化石）
○員　　数　1 顆
○寸 法 等　高 9.2cm　縦 4.2cm　横 6.7cm
○作品概要　浙江省臨安市昌化の玉岩山で採取される昌化石を加工した印。鶏血石という赤味を帯びた石を材とする。器形は上部に石材の自然な形状を留め、下部を楕円柱に作る。上部に雲気と龍を彫り表わす。印面に「惜陰堂」印を陽刻する。

79　○名　　称　鶏血石印材（けいけつせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（昌化石）
　　○員　　数　1 対
　　○寸 法 等　各高 8.3cm　方 2.9cm
　　○作品概要　浙江省臨安市昌化の玉岩山で採取される昌化石を加工した印。鶏血石という赤味を帯びた石を材とする。器形は長方柱に作る。

80　○名　　称　牛鈕馬肉紅石印材（ぎゅうちゅうばにくこうせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（寿山石）
　　○員　　数　1 顆
　　○寸 法 等　高 6.2cm　方 3.1cm
　　○作品概要　福建省福州市北方の寿山村および月洋村で採取される寿山石を加工した印材。馬肉紅という山地の地下岩層で採れる赤茶色の石を材とする。器形は上部に牛形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。

81　○名　　称　獅子鈕黄芙蓉石印（ししちゅうおうふようせきいん）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（寿山石）
　　○員　　数　1 対
　　○寸 法 等　各高 7.8cm　方 2.9cm
　　○作品概要　福建省福州市北方の寿山村および月洋村で採取される寿山石を加工した印。黄芙蓉石という山地の地下岩層で採れる透明感と光沢のある黄味を帯びた石を材とする。器形は上部に 2 頭の子獅子と毬を伴った獅子の形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。一方は印面に「小事亦粘涂」印を陽刻し、もう一方は「結翰墨縁」印を陰刻する。

82　○名　　称　獅子鈕広東緑石印（ししちゅうかんとんろくせきいん）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（広寧石）
　　○員　　数　1 対
　　○寸 法 等　各高 8.6cm　方 4.5cm
　　○作品概要　広東省広寧県で採取される広寧石を加工した印。広東緑石という山地の地下岩層で採れる緑色を帯びた石を材とする。器形は上部に親子獅子形の鈕を彫り出し、下部を方柱に作る。一方の印面に「楊柳風芭蕉雨梧桐月梅華雪」印を陽刻し、もう一方の印面に「讀異書飲美酒賞名華對麗人」印を陰刻する。

83　○名　　称　五龍烏地高山凍石印材（ごりゅううじこうざんとうせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（寿山石）
　　○員　　数　1 顆
　　○寸 法 等　高 7.8cm　縦 4.4cm　横 8.8cm
　　○作品概要　福建省福州市北方の寿山村で採取される寿山石を加工した印材。牛角凍石という地下水の豊富な鉱山洞窟で採れる透明感と光沢のある灰色を帯びた石を材とする。器形は石材の自然な形状を生かすように作り、上部に雲気と５頭の龍を浮き彫りする。

84　○名　　称　封門青石印材（ふうもんせいせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（青田石）
　　○員　　数　1 対
　　○寸 法 等　各高 6.0cm　方 2.9cm
　　○作品概要　浙江省青田県付近で採取される青田石を加工した印材。封門青石という透明感のある淡青色の石を材とする。器形を長方柱に作り、上面には回文風の鳳凰を彫り表わし、上方縁には雷文帯を陰刻する。

85　○名　　称　怪獣鈕黄金耀石印材（かいじゅうちゅうおうごんようせきいんざい）
　　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　　○品　　質　石製（青田石）
　　○員　　数　1 顆
　　○寸 法 等　高 6.4cm　縦 1.5cm　横 3.6cm
　　○作品概要　浙江省青田県付近で採取される青田石を加工した印材。黄金耀石という黄色い石を材とする。器形は上部に親子怪獣を彫り出し、下部を楕円柱に作る。

86　○名　　称　東坡像端渓石天然硯（とうばぞうたんけいせきてんねんけん）
　　○時　　代　明時代・14～17 世紀
　　○品　　質　石製（端渓石）
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　縦 29.5cm　横 24.5cm　高 2.5cm
　　○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は石材の自然な形状を生かす天然硯と称される形式である。硯背に、万暦七年(一五七九)李士達による蘇軾像が刻み表わされ、金農の題記や翁方綱の観記がある。「華亭　董氏家蔵」銘を刻んで董其昌旧蔵を示す。

87　○名　　称　蘭亭鷓鴣斑端渓石抄手硯（らんていしゃこはんたんけいせきしょうしゅけん）
　　○時　　代　南宋時代・12～13 世紀
　　○品　　質　石製（端渓石）
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　縦 24.4cm　横 15.2cm　高 9.5cm
　　○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。硯堂に鷓鴣斑という白斑状の石紋が出ている。硯辺に漢文を刻み記し、硯側に山水人物図を彫り表わす。硯背に「寶晉齋」銘、「米芾」印を刻んで米芾旧蔵を示す。

88　○名　　称　蘭亭洮河緑石抄手硯（らんていとうがろくせきしょうしゅけん）
　　○時　　代　明時代・14～17 世紀
　　○品　　質　石製（洮河緑石）
　　○員　　数　1 面
　　○寸 法 等　縦 24.6cm　横 15.0cm　高 7.7cm

○作品概要　甘粛省南方の洮河で採取される洮河緑石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。表面から硯側にかけて蘭亭曲水宴を、硯背に柳河に鷲鳥を刻み表わす。北京故宮博物院に宋時代の制作とされる同様な意匠の洮河緑石抄手硯があり、そのような作品を模倣した復古硯と推察される。

89 ○名　称　火捺端渓石抄手硯（かなつたんけいせきしょうしゅけん）
○時　代　清時代・17～19 世紀
○品　質　石製（端渓石）
○員　数　1 面
○寸 法 等　縦 20.1cm　横 11.6cm　高 7.5cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。硯尾に火捺という黒紫色の石紋が出ている。

90 ○名　称　龍鳳端渓石天然硯（りゅうほうたんけいせきてんねんけん）
○時　代　明時代・14～17 世紀
○品　質　石製（端渓石）
○員　数　1 面
○寸 法 等　縦 17.0cm　横 17.0cm　高 3.7cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は石材の自然な形状を生かす天然硯と称される形式である。眼という石紋を利用し、表に鳳凰、裏に龍のすがたを刻み表わす。硯側に乾隆乙未(一七七五)の御題詩文および「張氏蔵石」印を刻み記す。

91 ○名　称　氷裂端渓石抄手硯（ひょうれつたんけいせきしょうしゅけん）
○時　代　南宋時代・12～13 世紀
○品　質　石製（端渓石）
○員　数　1 面
○寸 法 等　縦 22.0cm　横 13.3cm　高 7.0cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。全体に氷裂というヒビ割れたような石紋が出ている。硯背に 13 本の眼柱を彫り出す。

92 ○名　称　雲月端渓石天然硯（うんげつたんけいせきてんねんけん）
○時　代　明時代～清時代・17～18 世紀
○品　質　石製（端渓石）
○員　数　1 面
○寸 法 等　縦 15.8cm　横 12.2cm　高 2.8cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は石材の自然な形状を生かす天然硯と称される形式である。眼という石紋を月に見立てて、硯額に雲を刻み表わす。硯背に清時代の文人である黄任（莘田）の詩文を刻み記す。

93 ○名　称　玫瑰紫澄泥石長方硯（まいかいしちょうでいせきちょうほうけん）
○時　代　清時代・17～19 世紀
○品　質　石製（澄泥石）
○員　数　1 面
○寸 法 等　縦 25.3cm　横 15.7cm　高 4.0cm
○作品概要　江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。石色は玫瑰紫という紫黒色である。器形を長方形に作り、直線形の硯池・硯堂の硯岡に回文を彫り表わす。硯額に唐花草文を、硯辺に雷文帯を刻み表わす。底部に薄い縁足をめぐらせる。

94 ○名　称　雲気蟹殻青澄泥石長方硯（うんきかいかくせいちょうでいせきちょうほうけん）
○時　代　清時代・17～19 世紀
○品　質　石製（澄泥石）
○員　数　1 面
○寸 法 等　縦 21.2cm　横 12.5cm　高 5.8cm
○作品概要　江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。石色は蟹殻青という青黒色である。器形を長方形に作り、楕円形の硯池を彫り、硯額に雲気文を刻み表わす。底部に薄い縁足をめぐらせる。硯側に漢文を刻み記す。

95 ○名　称　眉子紋歙州石長方硯（びしもんきゅうじゅうせきちょうほうけん）
○時　代　清時代・17～19 世紀
○品　質　石製（歙州石）
○員　数　1 面
○寸 法 等　縦 19.0cm　横 12.8cm　高 3.2cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形を長方形に作り、硯池を長方形に彫る。硯堂に眉子紋という横筋状の石紋が出ている。

96 ○名　称　海棠山鵲金星角浪紋歙州石抄手硯（かいどうさんじゃくきんせいかくろうもんきゅうじゅうせきしょうしゅけん）
○時　代　明時代・14～17 世紀
○品　質　石製（歙州石）
○員　数　1 面
○寸 法 等　縦 24.2cm　横 13.6cm　高 4.5cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。硯池を海棠花形に彫り、硯額から硯縁にかけて海棠に山鵲を刻み表わす。表面に金星という金斑の石紋と、角浪紋という波状の石紋が出ている。硯側に「道周」印を記す。

97 ○名　称　楼閣山水双龍洮河緑石楕円硯（ろうかくさんすいそうりゅうとうがろくせきだえんけん）
○時　代　清時代・17～19 世紀
○品　質　石製（洮河緑石）
○員　数　1 面
○寸 法 等　縦 12.0cm　横 7.2cm　高 3.6cm
○作品概要　甘粛省南方の洮河で採取される洮河緑石を加工した硯。器形を楕円形とし、硯背を刳り、硯側を圏足に作る。表面に楼閣・山水・双龍を刻み表わし、楼閣の前庭を硯堂、閣内を硯池とする。硯背に波浪文を刻み表わし、眼柱風の彫り出しをする。宋時代の洮河緑石硯の意匠をふまえた復古硯と推察される。

98 ○名　　称　金暈金星歙州石長方硯（きんうんきんせいきゅうじゅうせきちょうほうけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（歙州石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 10.5cm　横 7.9cm　高 1.9cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形を長方形に作り、硯池を円形に彫る。全体に金暈という金色の滲んだ石紋と、金星という金斑の石紋が出ている。硯背に漢文を刻み記す。

99 ○名　　称　松花江緑石鐘形硯（しょうかこうろくせきしょうけいけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（松花江緑石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 10.1cm　横 8.3cm　高 2.3cm
○作品概要　吉林省から黒龍江省を流れる松花江で採取される松花江緑石を加工した硯。松花江石は清時代から硯材として用いられるようになり、宮廷の御用石とされた。器形は鐘形に作る器物形硯と称される形式である。硯尾側面に清時代の書家である楊沂孫の号「濠叟」銘を刻む。

100 ○名　　称　翡翠硯（ひすいけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　翡翠
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 11.0cm　横 6.8cm　高 1.5cm
○作品概要　翡翠を加工した小型の硯。器形を長方形に作る。中国の翡翠は軟玉であり、墨を磨るのに適さないため、翡翠硯は鑑賞用に制作されたと考えられている。

101 ○名　　称　白玉竹形筆洗（はくぎょくたけがたひっせん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　玉製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　径 7.9cm　高 6.3cm
○作品概要　白玉を加工した筆洗。器形を竹筒形とし、上中下段に竹節を彫り表わし、3 本の低い脚を作る。清時代の宮廷で愛好された玉製文房具の作風である。

102 ○名　　称　磚硯（せんけん）
○時　　代　明～清時代・14～19 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 13.8cm　横 8.0cm　高 4.2cm
○作品概要　磚を加工した硯。器形を長方形に作り、硯背・硯側に漢文・銭文が表わされ、左硯側に遼の大康七年（1081）の年号のある銘文が残る。宋時代以降、文人趣味として古代建築の磚を利用した硯が作られた。本品は、そのような尚古趣味の磚硯と推察される。

103 ○名　　称　漆沙瓢形硯箱および木製瓢形硯（しっしゃひょうけいすずりばこおよびもくせいひょうけいけん）
○時　　代　清時代・18～19 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 具
○寸 法 等　縦 12.8cm　横 8.5cm　高 1.1cm
○作品概要　器形を瓢形に作った木製硯とそれを収納する同形の硯箱。硯箱は全面漆塗とし、蓋表から蓋身側面にかけては漆に金剛砂を混じた漆沙とし、蓋表には瓢箪が蔓茎に実る図を薄彫りして表わし、漢文を刻み記す。底面に「葵生」白文朱印が描かれ、廬棟（字葵生）の作であることを示す。

104 ○名　　称　青斑石琴形硯（せいはんせききんけいけん）
○時　　代　明時代・14～17 世紀
○品　　質　石製（青斑石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 17.1cm　横 7.3cm　高 2.4cm
○作品概要　硯材としては珍しい青斑石を加工した硯。器形は琴形に作る器物形硯と称される形式である。

105 ○名　　称　羅紋歙州石蕉葉硯（らもんきゅうじゅうせきしょうようけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（歙州石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 15.2cm　横 8.5cm　高 1.2cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形を芭蕉葉形に作り、裏面に葉脈を彫り表わす。硯堂に羅紋という刷毛目状の石紋が出ている。

106 ○名　　称　松皮紋歙州石硯板（まつかわもんきゅうじゅうせきけんばん）
○時　　代　明～清時代・14～19 世紀
○品　　質　石製（歙州石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 27.0cm　横 18.0cm　高 4.3cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形は板状に作る硯板と称される形式である。全体に金暈という金色の滲んだ石紋が出ており、これを松皮に見立てられている。

107 ○名　　称　鱔魚黄澄泥石長方硯（せんぎょおうちょうでいせきちょうほうけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（澄泥石）
○員　　数　1 面
○寸 法 等　縦 27.3cm　横 16.8cm　高 3.2cm
○作品概要　江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。石色は鱔魚黄という淡黄色である。器形を長方形に作り、斧形の硯堂を設け、底部に薄い縁足をめぐらせる。

108 ○名　　称　双鳳蝦頭紅澄泥石長方硯（そうほうかとうこうちょうでいせきちょうほうけん）
○時　　代　明時代・14～17 世紀

○品　　質　石製（澄泥石）
○員　　数　1面
○寸 法 等　縦 17.1cm　横 10.4cm　高 2.5cm
○作品概要　江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。石色は蝦頭紅という赤茶色である。器形を長方形に作り、硯額に 2 羽の鳳凰の頭を彫り表わし、底部に薄い縁足をめぐらせる。硯背に漢文を刻み記す。

109 ○名　　称　蕉葉白端渓石硯板（しょうようはくたんけいせきけんばん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（端渓石）
○員　　数　1面
○寸 法 等　縦 20.5cm　横 13.5cm　高 2.3cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は板状に作る硯板と称される形式である。蕉葉白という白色の石紋が出ている。

110 ○名　　称　虫蛀端渓石天然硯（ちゅうしゅたんけいせきてんねんけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（端渓石）
○員　　数　1面
○寸 法 等　縦 20.0cm　横 15.5cm　高 3.5cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は石材の自然な形状を生かす天然硯と称される形式である。表面に虫蛀という虫食がある。

111 ○名　　称　双龍銀花紋歙州石方硯（そうりゅうぎんかもんきゅうじゅうせきほうけん）
○時　　代　明時代・14～17 世紀
○品　　質　石製（歙州石）
○員　　数　1面
○寸 法 等　縦 26.7cm　横 26.7cm　高 4.7cm
○作品概要　江西省龍尾山を中心に採取される歙州石を加工した硯。器形を方形とし、低い 4 本脚を作る。硯額に双龍文を刻み表わし、蝉形（蟾蜍形とも）の硯堂の周囲に環状の溝を廻らせる。全体に銀花紋という白斑の石紋が出ている。

112 ○名　　称　端渓石半裁硯（たんけいせきはんさいけん）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　石製（端渓石）
○員　　数　1面
○寸 法 等　縦 9.4cm　横 11.6cm　高 2.4cm
○作品概要　広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は長方形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式の硯を半裁したものである。硯右側に「石渠寶笈」印、「三希堂精鑑璽」印を刻み、硯左側に「南田艸衣」印、「壽平」印を刻む。付属箱に清時代の文人である鐵保の号「梅庵」銘を記す。

＜東洋陶磁＞（34 件）

113 ○名　　称　褐釉劃花文壺　伝タイ出土（かつゆうかっかもんつぼ　でんたいしゅつど）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 56.7 cm 口径 15.6 cm 底径 23.5 cm
○作品概要　灰色陶質胎、長胴、平底の大壺。口部周囲と肩に圏線、肩部と胴部に波状の櫛目文を刻み、底裏を除いて総体に褐釉を施す。

114 ○名　　称　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 6.4 cm 口径 3.7 cm 底径 7.8 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴の平底の壺。肩部に二本の圏線を刻み、総体に褐釉を施す。

115 ○名　　称　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 8.5 cm 口径 3.6 cm 底径 10.7 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴の平底の壺。肩に波状櫛目文を刻み、底部を除いて総体に褐釉を施す。

116 ○名　　称　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 6.9 cm 口径 2.9 cm 底径 6.3 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴の平底の壺。口部の周囲に三本の圏線を刻み、底部を除いて総体に褐釉を施す。

117 ○名　　称　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 4.1 cm 口径 3.2 cm 底径 2.8 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な小壺。高台は平底で糸切痕がある。胴に縦の刻線を刻み、高台とその周囲を除いて褐釉を施す。焼き歪みが生じている。

118 ○名　　称　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 8.9 cm 口径 3.0 cm 底径 7.0 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴の平底の壺。肩に刻線の文様帯、胴の七箇所に縦に三重の刻線を刻み、底部を除いて総体に褐釉を施す。

119 ○名　　称　褐釉刻線文壺（かつゆうこくせんもんつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.1 cm 口径 4.2 cm 高台径 4.3 cm
○作品概要　灰色陶質胎、広口で扁平な小壺。高台は平底。口部の周囲に縦に短い刻線を刻み、高台を除いて総体に褐釉を施す。

120 ○名　　称　褐釉刻線文瓶（かつゆうこくせんもんへい）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 10.6 cm 口径 4.7 cm 高台径 3.4 cm
○作品概要　灰色陶質胎、球形の胴に広がる口部が付いた瓶。高台は平底。胴部に縦に刻線を刻み、高台とその周囲を除いて総体に褐釉を施す。

121 ○名　　称　褐釉壺（かつゆうつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 6.8 cm 口径 4.4 cm 底径 4.6 cm
○作品概要　灰色陶質胎、胴が丸く張り、口縁が張り出した小壺。底部は平底。胴裾以上に褐釉を施す。

122 ○名　　称　褐釉壺（かつゆうつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.6 cm 口径 7.9 cm 高台径 5.0 cm
○作品概要　灰色陶質胎、肩が張った広口の壺。高台は平底で糸切痕がある。総体に褐釉を施す。

123 ○名　　称　褐釉瓶（かつゆうへい）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.1 cm 口径 2.3 cm 底径 5.3 cm
○作品概要　灰色陶質胎、球形の小瓶。底部は平底。口部の周囲に二重の圏線を刻み、胴裾以上に褐釉を施す。

124 ○名　　称　褐釉杯（かつゆうはい）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.9 cm 口径 9.5 cm 高台径 3.2 cm
○作品概要　灰色陶質胎、胴が丸く張り、口縁の下をわずかに絞った杯。高台は平底。高台を除いて総体に褐釉を施す。

125 ○名　　称　褐釉合子（かつゆうごうす）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 10.3 cm 身高 8.9 cm 口径 3.7 cm 底径 5.1 cm
○作品概要　灰色陶質胎、上下の二箇所に稜が立った胴締め形の身に円錐形の蓋が付いた合子。底部は平底。底部と蓋裏を除いて総体に褐釉を施す。

126 ○名　　称　褐釉鳥形壺（かつゆうとりがたつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 7.5 cm 身高 6.2 cm 口径 3.9 cm 高台径 3.7 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴に鳥頭と尾が付いた小壺。高台は平底で糸切痕がある。円錐形の蓋を伴う。蓋は当初から一具のものではない。刻文で鳥の羽をあらわし、高台とその周囲および蓋裏を除いて総体に褐釉を施す。

127 ○名　　称　褐釉鳥形壺（かつゆうとりがたつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 9.3 cm 口径 3.5 cm 高台径 3.4 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴に鳥首と尾が付いた小壺。高台は平底で糸切痕がある。円錐形の蓋を伴う。胴部に縦に刻線を刻み、高台とその周囲および蓋裏を除いて総体に褐釉を施す。

128 ○名　　称　褐釉鳥形壺　（かつゆうとりがたつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 合
○寸 法 等　総高 7.5 cm 身高 6.3 cm 口径 3.7 cm 高台径 4.1 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴に鳥頭と尾が付いた小壺。高台は平底。円錐形の蓋を伴う。胴に縦に刻線を刻み。高台とその周囲および蓋裏を除いて褐釉を施す。

129 ○名　　称　褐釉鳥形壺（かつゆうとりがたつぼ）
○時　　代　12～13 世紀
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.3 cm 口径 3.4 cm 高台径 3.3 cm
○作品概要　灰色陶質胎、扁平な胴に鳥頭と尾が付いた小壺。高台は平底で糸切痕がある。胴に斜めの刻線を刻み。高台を除いて総体に褐釉を施す。

130 ○名　　称　褐釉錘（かつゆうおもり）
　○時　　代　12～13 世紀
　○品　　質　陶質
　○員　　数　1 個
　○寸 法 等　高 6.4 ㎝ 底径 3.5 ㎝
　○作品概要　灰色陶質胎、滴形の錘。平底で上下に孔が貫通する。上半に八本の圏線を刻み、胴裾以上に褐釉を施す。

131 ○名　　称　褐釉双耳瓶（かつゆうそうじへい）
　○時　　代　15 世紀
　○品　　質　陶質
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　高 15.3 ㎝ 口径 3.3 ㎝ 高台径 7.2 ㎝
　○作品概要　灰色陶質胎、肩の両側に耳が付いた下膨れ形の瓶。腰より上に褐釉を施す。

132 ○名　　称　鉄絵唐草文合子（てつえからくさもんごうす）
　○時　　代　15～16 世紀
　○品　　質　陶質
　○員　　数　1 合
　○寸 法 等　総高 5.6 ㎝ 径 6.3 ㎝ 底径 3.3 ㎝
　○作品概要　灰色陶質胎、果実を象った合子。蓋と身に鉄絵具で唐草文を描き、底部と蓋裏を除いて総体に透明釉を施す。蒂の部分には褐釉を施す。

133 ○名　　称　白磁花文水滴（はくじかもんすいてき）
　○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
　○品　　質　磁質
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　高 4.3cm 底径 2.9cm
　○作品概要　白色磁質胎、滴形の水滴。側部に小さな注口が付き、頂部に孔がある。胴部に陽刻で花分をあらわす。高台畳付を除いて総体に青みを帯びた透明釉を施す。

134 ○名　　称　瑠璃地扇面形水滴（るりじせんめんがたすいてき）
　○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
　○品　　質　磁質
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　高 2.8cm 長径 9.3cm
　○作品概要　白色磁質胎、扇形の水滴。上面中央と隅に孔がある。上面と側面を呉須で塗りつめ、底裏を除いて総体に透明釉を施す。釉に貫入が生じている。

135 ○名　　称　白磁円面多足硯（はくじえんめんたそくけん）
　○時　　代　唐時代・7 世紀
　○品　　質　磁質
　○員　　数　1 面
　○寸 法 等　高 6.2cm 径 16.5cm
　○作品概要　円形の身、鍵穴形の十七本の脚、環状の足部からなる硯。硯面の周囲に溝を巡らして墨池とする。硯面を除いて総体に透明釉を施す。釉には貫入が生じている。

136 ○名　　称　白磁長方硯（はくじちょうほうけん）
　○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
　○品　　質　磁質
　○員　　数　1 面
　○寸 法 等　高 3.1cm 縦 18.2cm 横 11.8cm
　○作品概要　白色磁質胎、長方形の硯。表面を長方形に彫り窪めて墨池を作り、外周に溝を巡らす。底面四隅に脚を削り出す。硯面の一部と脚の先端を除いて総体に青みを帯びた透明釉を施す。

137 ○名　　称　粉彩山水文長方硯（ふんさいさんすいもんちょうほうけん）
　○作 者 等　景徳鎮窯
　○時　　代　清時代･18 世紀
　○品　　質　磁質
　○員　　数　1 面
　○寸 法 等　総高 3.0cm 縦 11.0cm 横 7.0cm
　○作品概要　白色磁質胎、長方形の蓋付の硯。墨池を長方形に彫りくぼめ、硯面を丸く彫りくぼめる。身の表面は硯面を除いて松石緑釉を施し、その他は高台畳付と合口部を除き透明釉を施す。蓋表に山水図、側面に唐草文を粉彩で描く。高台畳付に金彩を施す。

138 ○名　　称　白磁水注（はくじすいちゅう）
　○作 者 等　徳化窯
　○時　　代　明時代・16～17 世紀
　○品　　質　磁質
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　総高 10.6cm 縦 13.0cm 横 20.0cm
　○作品概要　白色磁質胎、胴が丸く張った水注。螭龍をかたどった注口と把手が付く。動物をかたどった鈕が付いた蓋を伴う。高台畳付を除いて総体に牙白色を帯びた透明釉を施す。

139 ○名　　称　三彩花鳥人物文六角水注（さんさいかちょうじんぶつもんろっかくすいちゅう）
　○時　　代　清時代・17～18 世紀
　○品　　質　陶質
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　総高 16.4cm 縦 9.0cm 横 15.0cm
　○作品概要　灰白色陶質胎、型作りで成形され、六角形の裾広がりの胴に注口と把手が付いた水注。胴の各面に型押しで人物文と花鳥文をあらわす。動物をかたどった鈕の付いた蓋を伴う。内面を除いて黄釉を施し、文様部には緑釉を施す。

140 ○名　　称　白磁瓜形水滴（はくじうりがたすいてき）
　○作 者 等　徳化窯
　○時　　代　清時代・17～18 世紀

○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 9.5cm 縦 5.6cm 横 5.3cm
○作品概要　白色磁質胎、瓜をかたどった水滴。葉の一枚を注口とし、頂部に孔がある。身に螭龍が這う。高台畳付を除き総体に牙白色を帯びた透明釉を施す。

141 ○名　　称　青花水禽形水滴（せいかすいきんがたすいてき）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　明時代・16 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 12.0cm 縦 9.7cm 横 11.0cm
○作品概要　白色磁質胎、型作りでつがいの水禽をかたどった水滴。口と背に孔がある。眼と羽毛を青花であらわす。底裏を除き総体に青みを帯びた透明釉を施す。

142 ○名　　称　粉彩唐子文筆筒（ふんさいからこもんひっとう）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　清時代・18～19 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 14.5cm 径 20.4cm
○作品概要　白色磁質胎、円筒形の大型の筆筒。口縁と高台畳付を除き総体に透明釉を施す。口縁には雷文をあらわし、鉄銹を塗っている。外面に粉彩で唐子遊びの図を描く。

143 ○名　　称　青磁草花文硯屏（せいじそうかもんけんびょう）
○時　　代　明時代・16～17 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1基
○寸 法 等　高 9.7cm 幅 9.5cm
○作品概要　灰色磁質胎、板状の身、底部に刳りを入れた基部からなる硯屏。両側面に如意頭形の装飾を付ける。身と基部の接合部に半円形の孔が五つある。肩面に陽刻で草花文をあらわし、反対面に筒状の筆立てが二本ある。底面端部を除いて総体に緑色の青磁釉を施す。

144 ○名　　称　天藍釉筆洗（てんらんゆうひっせん）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　清時代
○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 1.7cm 縦 5.5cm 横 5.5cm
○作品概要　白色磁質胎、方形で口縁を稜花形につくった筆洗。高台畳付を除いて総体に天藍釉を施す。高台畳付には鉄銹が塗られている。

145 ○名　　称　青花玉取獅子文墨床（せいかたまとりししもんぼくしょう）
○作 者 等　景徳鎮窯
○時　　代　明時代・16～17 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1個
○寸 法 等　高 4.2cm 縦 6.4cm 横 10.3cm
○作品概要　白色磁質胎、直方体の墨床。各側面に入隅形の枠を設ける。長側面に玉取り獅子文と鳳凰文、短側面には藍地に白抜きで兎文を青花であらわす。底裏を除いて総体に透明釉を施す。

146 ○名　　称　辰砂石榴形水滴（しんしゃざくろがたすいてき）
○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
○品　　質　磁質
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 7.7cm 縦 7.7cm 横 8.0cm
○作品概要　白色磁質胎、石榴をかだとった水滴。側部に小さな注口が付く。底裏を除いて総体に辰砂を塗りつめ、畳付を除いて青みを帯びた透明釉を施す。底部に粗い砂粒が付着している。

＜東洋漆工＞（5 件）

147 ○名　　称　彫木面取鉢（ちょうぼくめんとりはち）
○時　　代　朝鮮時代・19 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1口
○寸 法 等　高 8.0cm 口径 20.0cm 高台径 9.5cm
○作品概要　木材を彫り、外面を八角に面取りした鉢。口縁下に一条の溝を巡らす。拭漆で仕上げられている。

148 ○名　　称　赤壁雅遊竹彫筆筒（せきへきがゆうちくちょうひっとう）
○時　　代　清時代・17～19 世紀
○品　　質　竹製
○員　　数　1口
○寸 法 等　径 14.6cm　高 17.0cm
○作品概要　竹筒の形状を生かして作った筆筒。口縁と台脚に紫檀製の台脚を付す。器体側面に山水人物を彫り表わす。背面に、本品が万暦 44 年（1616）に竹工人の朱稚征（三松）によって蘇軾の赤壁賦に取材して制作したことを示す銘文がある。

149 ○名　　称　林泉雅遊竹彫筆筒（りんせんがゆうちくちょうひっとう）
○時　　代　明時代・17 世紀
○品　　質　竹製
○員　　数　1口
○寸 法 等　径 11.2cm　高 14.7cm
○作品概要　竹筒の形状を生かして作った筆筒。低い 3 本の足を作り出す。器体側面に林泉で雅遊する文人たちを彫り表わす。画面に余白をとり、透かし彫りを駆使するなど、明時代後期の作風が認められる。

150 ○名　　称　蔬菜竹彫筆筒（そさいちくちょうひっとう）
　○時　　代　清時代・18 世紀
　○品　　質　竹製
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　径 10.0cm　高 14.5cm
　○作品概要　竹筒の形状を生かして作った筆筒。低い 3 本の足を作り出す。器体側面に白菜らしき野菜とそこにとまる蟷螂を彫り表わす。背面には周顕（字芷岩）の銘文が記される。北京故宮博物院には、本品と類似する意匠の竹製筆筒（明時代・朱稚征作）が伝わる。

151 ○名　　称　楼閣人物黄楊彫硯屏（ろうかくじんぶつつげぼりけんびょう）
　○時　　代　清時代・17～19 世紀
　○品　　質　木製
　○員　　数　1 基
　○寸 法 等　幅 14.0cm　高 7.5cm
　○作品概要　黄楊を透かし彫りして作った硯屏。紫檀製の低い台脚を付す。表面には楼閣の前に騎鳳および長鬚すがたの仙人たち、裏面には楼閣の前で挨拶を交わす唐人物たちが彫り表わされる。彫刻に立体感があり、樹色が明るいなど清時代の黄楊彫の作風がある。

(3) 編入（489 件）
＜歴史資料＞（489 件）
1　○名　　称　（歴史資料）
　○時　　代　江戸～昭和時代・18～20 世紀
　○品　　質　巻子、掛軸、折仕立等／紙本墨画、紙本著色等
　○作品概要　いわゆる「歴史資料(P)」と称されている分野は、昭和 13 年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時のいずれの部署にも属さなかった資料群である。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれる。平成 13 年度から、歴史資料を列品に編入する作業を行っており、本年度は 489 件を列品に編入する。その内容は種々多様で、今回編入にかかる中には宝物検査の際の器物類の模写、全国各地の金石文の拓本などが含まれる。

【京都国立博物館】（計 37 件）
(1) 購入(13 件)
＜絵画＞(7 件)
1　○名　　称　春秋禽狗遊楽図屏風（しゅんじゅうきんくゆうらくずびょうぶ）
　○時　　代　江戸時代初期・17 世紀
　○品　　質　紙本金地着色
　○員　　数　6 曲 1 隻
　○寸 法 等　縦 61.0cm　横 190.0cm
　○作品概要　可憐な小屏風。右３扇は「鳥の品評会」の景、左３扇は「闘犬」の景。人物の顔は、剥落や傷が少なく、涼しげな眼が印象的な可憐な表情をしめしている。着物はとても細かく、さまざまな色や模様がみられる。闘犬や鳥の品評会の描写はきわめて珍しく、大きく張り出した縁台の描写も特異。画風等から、制作時期は 17 世紀後半、寛文年間と元禄年間の間、すなわち延宝・天和・貞享期（1673～88）ころと推定される。
鳥籠を描いた屏風としては、「鳥合せ図屏風」や「誰が袖図屏風」・「鳥籠絵屏風」など、江戸初期、17 世紀の屏風が知られるが、購入作のように人々の営みの中に、多数の鳥籠が登場するものは他に例をみない。希少な風俗画の貴重な作例といえよう。

2　○名　　称　文晁墨宝（文晁縮図）（ぶんちょうぼくほう（ぶんちょうしゅくず））
　○作 者 等　谷文晁筆
　○時　　代　寛政 9 年（1797）
　○品　　質　紙本墨画淡彩
　○員　　数　1 巻
　○寸 法 等　縦 19.7cm　横 365.5cm
　○作品概要　須磨弥吉郎（1892～1970）氏の収集品。中国や日本の古書画や墨・印章、七里ヶ浜から江ノ島越しの富士山の景、下野国二荒山産のヤマネ、仙台十三浜に漂着した清国広東人の像、海産物や河豚など 19 項目が縮小模写されたあと「寛政丁巳七月十一日　文晁」の年紀・署名と印がある。関東文人画界の重鎮、谷文晁（1763～1840）35 歳時の縮図である。
大坂の南画家、八木巽処による天保 4 年（1833、文晁存命）の跋があり、文晁が上洛時に眼にした珍品等を帰ってから描き、大坂の文人画家、浜田杏堂に贈ったものという。須磨コレクションの須磨弥吉郎ゆかりの品であり、文晁の若い頃の古書画・古物学習の状況を教えてくれる貴重な遺品である。

3　○名　　称　梅枝双鳥図（ばいしそうちょうず）
　○作 者 等　徐悲鴻筆
　○時　　代　中国　中華民国 20 年（1931）
　○品　　質　紙本墨画著色
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　縦 82.4cm　横 46.8cm
　○作品概要　近代中国を代表する洋画家の徐悲鴻（1895～1953）が描いた水墨の花鳥図。春の到来を告げる鵲のつがいが紅梅の枝先に止まり、新春を寿ぐ。民国 20 年（1931）に「萬先」なる人物に贈られた一幅で、その後、昭和初期に活動した日本の外交官で南京総領事などを歴任した須磨弥吉郎（1892～1970・号は昇龍山人）のコレクションに入った。徐悲鴻は幼名を寿康といい、江蘇宜興の出身。フランスとドイツに留学して培った写実主義にもとづくアカデミズムを本領とし、その後の中国での社会主義リアリズム隆盛の端緒を切り拓いた。本図が描かれた民国 20 年ごろの徐は国立の中央大学芸術系で教鞭を執っており、南京を拠点に制作活動を展開していた。

4　○名　　称　山水図冊（全九図）（さんすいずさつ（ぜんきゅうず））
　○作 者 等　蘇仁山筆
　○時　　代　中国・清時代　道光 7 年（1827）
　○品　　質　紙本墨画
　○員　　数　1 帖
　○寸 法 等　（各）縦 25.5cm　横 33.3cm
　○作品概要　清末の広東を拠点に活動した奇想の画家・蘇仁山（1814－1850？）が画いた最初期の画帖。蘇仁山は、初名は長春、字は仁山。後に仁山を名、長春を字とした。号は玄妙観道士、嶺南道人など。教圃、静甫、七祖、棲霞とも署す。広東順徳の人。その画の題識は難解で、ときに儒教批判を展開。山水と人物を得意とし、『芥子園画伝』や『十竹斎書画譜』などの木版画譜を典拠にした白描の山水や楼閣の稠密な描写は他に類例を見ない。道光 7 年（1827）、蘇仁山十四歳の作である本図冊は、全九図ともに欠損箇所が多いものの、その学習の過程がよくわかる優品である。須磨弥吉郎の旧蔵品で、広東総領事時代の須磨が積極的に収集したことでその名が世に知られた。

5　○名　　称　山水図（黄山文殊院）（さんすいず（こうざんもんじゅいん））

○作 者 等　張大千筆
○時　　代　中国　中華民国時代・20 世紀
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 94.7cm　横 33.0cm
○作品概要　中国有数の名山で、安徽省にある黄山の一景を描いた山水図。天都峰と蓮花峰の間に位置する玉屏峰にある文殊院を目指して、二人の高士が険しい峰々を登ってゆく。題識は、明時代の普門和尚の開創になるこの名刹の対聯の句（楹帖）を収録する。筆者は張大千（1899～1983）の名は爰。字は季爰、またの字の大千で知られる。号は大千居士。原籍は広東で、四川内江の生まれ。上海で曾熙、李瑞清に師事した。張は若いころから石濤が周遊した黄山に親しみ、明末清初に黄山周辺で興隆した新安派の漸江や梅清からも多くを学んだ。本図の細筆による特徴的な峰々の稜線は漸江の、本紙を淡く彩るその色調は梅清の画を彷彿させるものがある。須磨弥吉郎の旧蔵品。

6　○名　　称　大雞小雛図（だいけいしょうけいず）
○作 者 等　斉白石筆
○時　　代　中国　中華民国時代・20 世紀
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 135.7cm　横 34.0cm
○作品概要　雄鶏と雛を描いた家族愛にあふれた一幅。筆勢のある墨線を重ねて華やかな雄鶏を描き、墨のたまりでよちよち歩きの雛を表わす。墨と朱の濃淡のみで鶏雛を表現した本図は、素朴な味わいをもつ斉白石（1863～1957）の翎毛画の本領を示す優品である。斉白石は名を璜といい、白石の号で知られる。湖南湘潭の人。貧農の家に生まれ、木工職人のかたわら絵を学び、鮮麗な水墨淡彩の花卉や翎毛の画は近代中国を代表する画家の一人としてその画名を高めた。本図の題識は、前漢の高祖の孫で『淮南子』の主著者である劉安にちなんだもの。白石は老いてゆく自分と生命力あふれる雛と鶏を対比させ、恬淡とした心境を表明している。須磨弥吉郎の収集品。

7　○名　　称　古松瑞雲図（こしょうずいうんず）
○作 者 等　朱嶠筆
○時　　代　中国・清時代　乾隆 49 年（1784）
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 97.7cm　横 131.8.0cm
○作品概要　清時代の乾隆年間後期に描かれた大幅の墨松図である。筆を用いずに指や爪に墨を付けて描く指頭画であり、波打つ瑞祥の雲流を背景に二株の古松の大木が交差する。生命を宿して蛟のごとく躍動するかのような臨場感に満ちた本図は、「岐陽」なる人物の六十歳の祝い（花甲）にあわせて贈与された。本図の筆者である朱嶠（1703～？）は、字を赤城、号を巨山といい、上海の人。松の大木を描くことを好み、蒼翠にして濃馥とした作風はいまだかつてないものであった。指墨に優れ、年八十を過ぎても終日画を作り、倦むことがなかったという。本図は漢学者の長尾雨山（1864～1942）の旧蔵品である。

＜書跡＞(2 件)

8　○名　　称　鄭孝胥寄雨山尺牘巻（ていこうしょうざんによするせきとくかん）
○作 者 等　鄭孝胥筆
○時　　代　中国　中華民国時代・20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 30.0cm　横 1793.0cm
○作品概要　鄭孝胥（1860～1938）は、清朝の遺臣にして満州国の初代国務院総理をつとめた政治家。本巻は鄭が日本人漢学者の長尾雨山（1864～1942）に宛てて認めた尺牘（書簡）24 通を、長尾本人が巻子に仕立てたものである。長尾雨山は、名を甲、通称槇太郎といい、高松生まれ。光緒 29 年（1903）から民国 3 年（1914）まで上海に居住し、官営の商務印書館で編訳の職にあった。同館の董事（支配人）が鄭であり、古今の詩文に通じる二人は親交を深めた。本巻に収録されている書簡は明治末期から昭和前期までで、近況を尋ねたり詩文の推敲を依頼したりする内容が多い。「危楼」や「送長尾雨山北遊」などいくつかの詩文草稿は、鄭の『海蔵楼詩集』（1937）に収録されている。

9　○名　　称　額字「漢塼斎」（がくじ「かんせんさい」）
○作 者 等　呉昌碩筆
○時　　代　中国　中華民国 3 年（1914）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幀
○寸 法 等　縦 33.0cm　横 106.0cm
○作品概要　近代中国を代表する書画家の一人である呉昌碩（1844～1927）による額字である。民国 3 年（大正 3 年・1914）の冬、親しく交際していた日本人漢学者の長尾雨山が十年余の中国滞在を切り上げて帰国するにあたり、長尾の書斎名「漢塼斎」三字を隷書で揮毫したもの。「漢塼斎」とは、長尾が入手した漢甎「千秋万歳長楽未央」（当館蔵）にちなんだ命名である。呉昌碩は、浙江安吉の人。名を俊、俊卿といい、号は缶廬、老缶、苦鉄など、七十歳以後は字の昌碩で通行した。周代の石鼓文による篆書や、鉄筆の味わいをいかした独自の篆刻は一世を風靡した。本額字は大字で一気呵成に認められており、気骨にみちた呉昌碩の隷書の特徴をよく表している。

＜金工＞(1 件)

10　○名　　称　銭弘俶八万四千塔（せんこうしゅくはちまんしせんとう）
○時　　代　中国・五代　10 世紀
○品　　質　銅鋳造
○員　　数　1 基
○寸 法 等　総高 21.0cm　身高（屋蓋）9.5cm　基壇幅 8.0cm
○作品概要　中国の呉越国王銭弘俶がインド阿育王の造塔故事にならい造塔した八万四千塔のうちの一基。塔身内面に「乙卯歳」と刻し顕徳二年（九五五）の発願と知られる。身部各面と屋蓋、その四隅の方立、相輪を別々に鋳造し鑞付する。身部には龕形内に本生図、須弥壇部に如来坐像、四本柱上に鳥形（迦楼羅か）などを陽鋳で表し、内面には「呉越國王／銭弘俶敬造／八萬四千寶／塔乙卯歳記」と銘を陰鋳し、鉤形の突起を鋳出する。本品は近代に日本へ持ち込まれたものだが、日本でも大峰山寺境内と那智経塚の出土品や、京都・金胎寺、大阪・金剛寺、同・来迎寺、福岡・誓願寺の伝来品が知られ、日中間で仏教文物が行き来したことを象徴する事例である。

＜染織＞(3 件)

11　○名　　称　染分縮緬地文字入扇面桜・雪景橋に松竹梅文様友禅染繍小袖
（そめわけちりめんじもじいりせんめんさくら・せっけいはしにしょうちくばいもんようゆうぜんぞめぬいこそで）
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　絹（縮緬地　染・繍）
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 149.5 ㎝　裄 57.0 ㎝（いずれもフキを含む）　袖丈 37.0 ㎝
○作品概要　上半身は淡い黄色、下半身は浅葱色に染め分けられた小袖で、前者には扇面と八重桜を背景に大振りな文字を散らし、後者には雪の降り積もる橋と松竹梅を置いている。いずれも友禅染を主体にしつつ、随所に刺繍を加える。文字は藤原定家の詠歌である「駒とめて袖うちはらふ影もな

しさののわたりの雪のゆふぐれ」(『古今和歌集』)を典拠とする。この一首の歌意と小袖の文様は、下半身の雪景において呼応するのであろう。この小袖のように、腰を中心に上下でまったく異なる文様を配する小袖は、雛形本では正徳年間を中心に流行しており、この小袖の製作年代もその頃に当てることができよう。

12 ○名　　称　淡浅葱麻地宇治景文様友禅染繍帷子（うすあさぎあさじうじけいもんようゆうぜんぞめぬいかたびら）
○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
○品　　質　麻（平織地　染・繍）
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 158.0 ㎝　裄 62.0 ㎝　袖丈 45.0 ㎝
○作品概要　淡い浅葱地を背景に蛍の飛び交う水辺の景色が展開し、随所に仏閣や茶摘みをする女性が配されている。突起状のせり出しがある特徴的な橋、鳳凰を載せた屋根、扇面形に整えられた扇の芝などの景物から、この帷子が宇治の景色を主題とすることが判明する。管見では、宇治の景色のみを採り上げた作例は初出であり、極めて貴重である。糊防染による白上げを主体とし、随所に友禅染と刺繍を加えた、涼やかな一領である。留守文様ではなく人物を表現しており、きものの文様に人物を描き込む作例が多くなる十八世紀後期頃の作例と考えておきたい。

13 ○名　　称　衣裳人形　猩々（いしょうにんぎょう　しょうじょう）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　木胎彩色・絹
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　人形：高 32.0 ㎝　台：幅 43.0 ㎝　奥行 19.0 ㎝　高 4.5 ㎝
○作品概要　能楽「猩々」の舞台姿を写した台付きの人形である。中啓と盃を手にした赤づくめの出で立ちの猩々が、酒壺の傍らに立つ姿であらわされる。このような猩々人形は、江戸時代後期には疱瘡にかかった子どもの魔除けとして贈られていたことが諸文献から知られており、この人形もまたその一例であろう。錦の厚板に精好の袴、金襴の唐織を身につけた入念なつくりであり、貴顕の子女に贈られたものと推測される。極めて類似する作例として、光格天皇が天保 4 年（1833）に皇女・三廛地院宮（霊厳理欽尼）に贈った猩々人形が宝鏡寺に伝えられており、この人形もほぼ同時期に同じような環境で用いられたものであろう。

(2)寄贈(24 件)
＜絵画＞(11 件)

1 ○名　　称　四季花卉図屏風（しきかきずびょうぶ）
○作 者 等　張莘筆
○時　　代　中国・清時代
○品　　質　絹本著色
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各扇 本紙縦 155.5cm 横 47.0cm
○作品概要　江戸時代後期に流麗な花卉図で人気を博した来舶清人の張莘の画 12 枚を押絵貼にした屏風。「梅に竹」や「木蓮に蘭」など四季さまざまな草花を濃彩にて細密に描いており、その筆致は乾隆年間に流行した惲寿平の画風を彷彿させる。各扇に自題を加え、「秋穀張莘」の落款と「張莘」(白文方印）と「秋穀」(朱文方印）を伴う。張莘は杭州の人で、初名を崑という。画歴の後半期でもちいた号「秋穀」があり、沈銓（南蘋）来日以後、日本でも引き合いの多かった華美流麗な花卉図を大量に制作していた晩年の作と推察される。屏風に仕立てた際に四季の順序は崩れたものの、日本での中国画鑑賞のあり方をうかがわせる興味深い作品である。

2 ○名　　称　山水図（さんすいず）
○作 者 等　顛道人筆
○時　　代　中国・清時代
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 151.1cm 横 95.7cm
○作品概要　清時代初期の書画僧・顛道人の筆になる淡彩の山水図。顛道人は原姓名を胡靖といい、号は古丹子、頑顕子、頑礪子など。江寧（現南京）の人。明朝滅亡に際して仏門に入り、山水、花卉、行書に優れた。本図の画面対角線に沿って迫り出す山並みは震えるような短く細い筆線を用いて描かれており、岸辺に小舟を寄せる高士の姿を包み込むかのようだ。一見して粗略な印象を与える本図は、明末清初における浙派山水画の多様な展開を知るうえで参考に供しよう。落款の上部は元絹を欠除しているが、その下に「顛道人」の墨書と、「頑礪子」「曾名靖」と読める白文方印二方がある。

3 ○名　　称　秋嶺古木図（しゅうれいこぼくず）
○作 者 等　溥儒筆
○時　　代　1958 年
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 161.1cm 横 94.5cm
○作品概要　清の皇族にして近代の北京画壇を主導した溥儒（1896～1963）が 1958 年に台湾で描いた山水図。黄茶色がかった熟紙に、断崖絶壁が続く山水の奇観を描く。橋上で立ちすくむ驢馬を曳く行人は石壁からせり出した古木に比して小さく、西洋風景画に倣って遠近感を強調した構図が本図の特徴である。溥儒は、字を心畬、号を西山逸士という。恭王府の生まれで、道光帝の曾孫にして、宣統帝の従兄。清朝が覆ると読書と書画に専心し、民国期の北京画壇第一人者として上海の張大千と合わせて「南張北溥」と並び称された。日中戦争後は国共内戦を経て台湾に移り、台湾師範大学や東海大学で後進を指導した。

4 ○名　　称　松下三賢図（しょうかさんけんず）
○作 者 等　江稼圃筆
○時　　代　中国・清時代
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 148.4cm 横 82.9cm
○作品概要　来舶清人の江稼圃（？～1804～1815～？）の筆による儒仏道の三教図。樹下に孔子、釈迦、老子の三聖を、樹上に蜂を狙う二頭の猿を描く。猿（猴）と蜂で官位栄達を願う「封侯」を意味するなど、三聖図ながらも世俗的な吉祥の寓意が随所に添加されている。画面が渦巻くかのような肥痩に富んだ筆線が特徴で、款識には「元人之本、江稼圃臨」とある。ただし、本図が直接参照したのは、明末の浙派に列した「狂態邪学」の一人・鄭顛仙の「三教図」(徳川美術館蔵）である。江稼圃は、諱が大来、字は泰交、連山、号は稼圃。江蘇揚州の人。中国船の商人として来日し、長崎で太田蜀山人や田能村竹田らと交わり、化政以後の日本の南画壇に大きな影響を与えた。

5 ○名　　称　臨楊文聰山水図（りんようぶんそうさんすいず）
○作 者 等　高邕筆
○時　　代　宣統三年（1911）
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 130.8cm 横 46.4cm

○作品概要　清時代末期の海上派の書画家である高邕（1850～1921）が明朝崩壊に際会してその再起に奔走した楊文驄（号は龍友）の山水図を摸写した一幅。その典拠はつまびらかではないが、濃墨の楊文驄画の特徴をよく伝えている。「辛亥」の年記は、10 月に武昌起義で火蓋を切った辛亥革命が起きた年であり、清朝最末期の混乱のなかで、筆者は董其昌と肝胆相照らした剛毅あふれる異色の文人画家に強く惹かれたのであろう。高邕は字を邕之といい、浙江仁和（杭州）の人。号は李盦、聾公など。憂国の情に厚く、宣統元年（1909）に慈善事業を核とする豫園書画善会の結成に加わり、辛亥革命後は黄冠をつけて儒服をまとい、赤岸山民と号して書画を売って暮らした。

6　○名　　称　万年如意図（まんねんにょいず）
○作 者 等　張莘筆
○時　　代　中国・清時代
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 116.4cm 横 58.4cm
○作品概要　来舶清人の張莘による墨彩の吉祥画。寿石の別称がある太湖石に万年青、竹、霊芝を加えて長寿を願う。本図は「張秋谷」の落款に「張莘之印」があり、異人説があった張莘と張崑の同一人確定に至った作例のひとつである。張莘は杭州の人で、初名を崑という。号ははじめ秋谷、後に秋穀としたが、前者の号に水墨の、後者に濃彩の花卉図が集中することから、『漱芳閣書画銘心録』を著した浅野梅堂（1816～1880）を筆頭に、秋谷を号とする張崑と、秋穀の張莘を別人とする見解があった。本図の描法は万年青の葉に水気の多い墨を用いる一方で、擦れや滲みなども墨の濃淡と組み合わせる。画歴前半期の張秋谷時代の作域をうかがい知ることのできる一幅である。

7　○名　　称　山水図（さんすいず）
○作 者 等　季開生筆
○時　　代　順治 11 年（1654）
○品　　質　絖本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 164.4cm 横 54.1cm
○作品概要　清初の文人・季開生（1627～1659、一説に 1598 生）が順治 11 年（1654）に描いた山水図。光沢のある絖本の長条幅で為書があり、贈答品に用いられた清初の山水図の形式を具える。画面を埋め尽くす山塊や松林には明暗の対比が強調され、山頂にある丸い卵石とともに清初の金陵派に一脈通じる個性的な作風をみせる。季開生は順治 6 年の進士。字を天中といい、江蘇泰興の人。官は兵科給事中などに至る。山水に優れ、弟の振宜とともに季氏双鳳と並称された。光緒年間には戊戌の変法運動を支持した官僚の張兆蘭が収蔵したが、その後日本に流れ、本図の包袋には明治 43 年（1910）に旧山口藩士で宮内省御用掛や議定官などを歴任した杉聴雨（1835～1920）が着賛している。

8　○名　　称　松林山水図（しょうりんさんすいず）
○作 者 等　王震筆
○時　　代　民国 12 年（1923）
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 136.8cm 横 68.3cm
○作品概要　近代上海の実業家にして呉昌碩の高弟で書画を善くした王一亭（1867～1938）が、日本人収集家の斎藤悦蔵（号は董盦）に贈った山水図。題詩の尾聯「島仏詩吟月下敲」は、中唐の詩人・賈島が「僧敲月下門」の句について「敲」がよいか「推」がよいかを韓愈に尋ねた「推敲」の故事を踏まえる。本図の描写は、潤筆で代赭や淡墨をもちいて遠山や主山の量塊感が醸し出しており、題詩の首聯で詠う雨上がりに松樹が蛟に変身するかのごとき気韻にあふれる。王一亭は、名を震といい、一亭は字。号は白龍山人、海雲楼主など。江蘇省呉興（湖州）の人で、上海生まれ。仏教への帰依が厚く、仏画も善くした。本図が賈島にちなむのも、賈島が一時期、僧籍にあったからであろう。

9　○名　　称　嵐峡泛舟図（らんきょうはんしゅうず）
○作 者 等　張大千筆
○時　　代　民国 17 年（1928）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 138.4cm 横 34.7cm
○作品概要　近現代中国を代表する水墨画家の張大千（1899～1983）が昭和 3 年（民国 17 年・1928）に楽しんだ京都・嵐山の保津川下りを回想して描いたもの。張大千（1899～1983）の名は爰、字は季爰、またの字の大千で知られる。号は大千居士。斎号は大風堂。四川内江の生まれ。上海で曾熙、李瑞清に師事。古画臨摸をとおして清冽な画風を確立し、北京の溥儒と並び「南張北溥」と称された。本図は淡墨淡彩による簡略な描写であり、二十代後半から三十代前半にかけての張の山水図の特徴がよくあらわれている。絶壁が続く河江に舟を浮べるのは蘇軾の赤壁賦を彷彿させ、文人遊の境地を異国の地・京都にて追体験した一幅である。

10　○名　　称　雲龍図（うんりゅうず）
○作 者 等　狩野永納筆
○時　　代　寛政 9 年（1797）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　各　縦 115.7cm　横 50.8cm
○作品概要　昇龍と降龍の組み合せだが、右幅「竹に巻きついて登る龍」、左幅「波を潜り抜ける龍」というユニークな図様をしめす。各幅下隅に「狩野永納筆」の署名、「山静」「易亭永納」の二印がある。
筆者狩野永納（1631～1697）は、狩野山雪の長男で京狩野第３代。慶安 4 年（1651）21 才の時、京狩野を継承、寛文 2 年（1662）と延宝 3 年（1675）の京都御所の障壁画制作に、探幽や安信に従って下位ながら参加、阻害されつつあった京狩野の地位に、若干の回復をみせた。著書『本朝画史』は、日本絵画史研究の基本的文献として名高く、父山雪以来の学者的素養の高さをしめす。元禄 10 年（1697）67 才没。
永納の優品として研究上、貴重な一作といえよう。

11　○名　　称　巌下煮茶図（がんかしゃじゃず）
○作 者 等　木下逸雲筆
○時　　代　慶応 2 年（1866）
○品　　質　絹本墨画淡彩
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 143.3cm　横 50.9cm
○作品概要　絹地に柔らかなタッチの水墨と明澄な淡彩による南画風をしめす。画中人物は身振り豊かで、ほのぼのとした雰囲気が醸し出される。
木下逸雲（1800～66）は、はじめ唐絵目利の石崎融思に画を学び、来舶清人の江稼圃・張秋谷からは南画の技法を修めた。その後も清人陳逸舟、徐雨亭に画風を学ぶとともに、雪舟・狩野派・大和絵・円山四条派などの諸派や西洋画の画法を熱心に研究し、様々な技法を取り入れた。画僧鉄翁祖門や田能村竹田・頼山陽・広瀬淡窓ら文人との交流が知られる。
年紀「丙寅夏五月望前」から、慶応 2 年（1866）5 月 14 日の作であり、逸雲は同年 9 月に没しているので最も晩年の作品といえ、箱書き等に「絶筆」と伝えられる。

＜陶磁＞(4 件)

12 ○名　　称　瀬戸唐津輪花茶碗（せとがらつりんかちゃわん）
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　施釉陶器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 6.7cm　口径 14.8cm　高台径 4.9cm
○作品概要　胎土や釉調などの形質的特徴から、17 世紀に九州肥前地域の窯で焼かれた施釉陶器、いわゆる唐津焼と考えられる。大きさから、喫茶用の碗（茶碗）として作られたものとみられるが、口縁の三方に装飾として輪花が施されているのが茶碗としては珍しい。茶の湯の世界で唐津焼の茶碗が流行するのは、17 世紀初め頃であり、伝世の唐津焼茶碗の多くがその時期に焼かれたものであることを考えると、本例もほぼ同時期の作であろうと推測される。口縁部に小さな欠損があるものの、漆で丁寧に繕われており、展示に支障はない。

13 ○名　　称　伊羅保茶碗　銘花の山（いらぼちゃわん　めいはなのやま）
○時　　代　朝鮮時代・17 世紀
○品　　質　施釉陶器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.5cm　口径 16.4cm　高台径 5.9cm
○作品概要　朝鮮半島で焼かれ、日本へもたらされて喫茶用の碗（茶碗）となったいわゆる高麗茶碗の一種。その独特の胎土や釉調は、高麗茶碗の中でも俗に「伊羅保茶碗」と呼ばれているものとの共通性が高いが、高台周辺が露胎となっている点や、施釉後の胴部に褐色の泥土を塗りつけて意図的に景色をつくっている点など、通常の「伊羅保茶碗」との相違も認められる。あるいは、日本で喫茶用の碗として「伊羅保茶碗」が評価されていることを踏まえて、来航する朝鮮通信使が日本人向けに作らせて持参したという「半使茶碗」の一種ではないかと推測される。

14 ○名　　称　御本「日本」文字茶碗（ごほん「にほん」もじちゃわん）
○時　　代　朝鮮時代・17 世紀
○品　　質　施釉陶器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.1cm　口径 13.2×13.4cm　高台径 5.7cm
○作品概要　朝鮮半島で焼かれ、日本へもたらされて喫茶用の碗（茶碗）となったいわゆる高麗茶碗のうち、日本から型紙などの見本を送って釜山の倭館窯で焼かせた「御本茶碗」の一種と考えられるもので、胴部に錆絵で施された「日本」の文字は、この茶碗が日本向けに作られたものであることを雄弁に物語っている。江戸時代の日本と朝鮮の交流を端的に示す事例として、展示での活用が見込まれる。

15 ○名　　称　色絵桜牡丹文皿（いろえさくらぼたんもんさら）
○時　　代　明治時代・19 世紀
○品　　質　色絵磁器
○員　　数　10 枚
○寸 法 等　高 4.3cm　口径 14.8cm　高台径 7.7cm
○作品概要　江戸時代に佐賀鍋島藩が贈答用に藩直営の窯（鍋島藩窯）で焼かせた高級磁器「鍋島焼」に似ているが、やや厚手のつくりであることや、青色の染付の青色にかなりの濃淡のむらがあることなどを考えると、藩直営の窯が廃止された後に鍋島焼を意識して製作した民間工房の作と考えられる。鍋島藩窯の作と較べると、品質的には劣っていると評価せざるをえないが、真正の鍋島焼との比較検討素材としての活用が見込まれる。

＜漆工＞(2 件)

16 ○名　　称　革製宝相華文様金具形残欠（かわせいほうそうげもんようかなぐがたざんけつ）
○時　　代　建暦 2 年（1212）頃
○品　　質　革製、漆塗、箔押
○員　　数　7 片
○寸 法 等　１．13.3×2.1cm　２．11.2×4.7cm　３．4.1×4.1cm　４．4.3×2.6cm　５．4.0×4.3cm　６．4.4×2.4cm　７．14.0×4.8cm
○作品概要　鞣革を飾り金具の形に切り抜き、表面に漆を塗って金箔を押し、金工と同じような蹴り彫りで宝相華文様を表した装飾品。京都府木津川市にある浄瑠璃寺に、重要文化財の吉祥天立像が伝わり、この指定の附に本品と同様の革製金具形残欠 8 枚がある。かつてこの秘仏を納めた厨子についていた。美しい板絵で知られるこの厨子は、明治時代の廃仏毀釈の折に流出し、現在は東京藝術大学が所蔵する。この厨子にも「革留具の一部」が附属する。吉祥天像、厨子ともに建暦２年（1212）の作とされることから、革製の飾りや蝶番も同時期の作と考えられ、これらに酷似し、恐らくは一連をなす本品も、鎌倉時代初頭の大変珍しい革製品の例と位置づけられよう。

17 ○名　　称　貝尽くし蒔絵箱形徳利（かいづくしまきえはこがたとっくり）
○時　　代　江戸時代　18 世紀
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵
○員　　数　1 個
○寸 法 等　11.3×21.3cm　高 6.5cm
○作品概要　木製の直方体形容器の天板の一角に注ぎ口を設け、栓をはめた徳利。全体を銀梨地で覆い、金銀の平蒔絵、付描、針描、金切金などで、ことなる文様をほどこされた蛤や浅蜊と思われる大小の二枚貝を散らす。栓は朱漆塗り。おそらく行厨（提重）の部分として作られた酒器である。重箱や小皿などと組み合わされて箱か枠にぴったりと収納され、主な徳利が空になったころに引き出される「おかわり」用だったのではないだろうか。二枚貝は貝の組み合わせが唯一無二なため、二つとない良縁を祝う気持ちが込められた文様であろう。

＜染織＞(7 件)

18 ○名　　称　浅葱麻地隅切三文字紋付鮫小紋裃地（あさぎあさじすみきりさんもじもんつきさめこもんかみしもじ）
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　麻（平織地　小紋染）
○員　　数　1 反
○寸 法 等　長 809.0 ㎝　幅 42.2 ㎝
○作品概要　小紋染めは、武家の衣服から発達したと考えられ、その代表的な例として、江戸時代の武家の正装であった裃が挙げられる。裃とは、室町時代の武家が着用していた素袍の両袖をとった形状の衣服で、桃山時代の武将の肖像画にしばしば見いだされることから、その頃には成立していたと考えられる。これは裃を仕立てる前の状態で、反物として伝えられた。錐一丁によって鮫と呼ばれる鱗状の文様を彫った型紙を用いる。半分だけ見えているのは背中心の紋（隅切角に三の字）、すべて見えているのは胸前の紋にあたる。なお、右身頃背面の多くが欠失している。

19 ○名　　称　淡浅葱麻地四花菱紋付菱小紋裃地（うすあさぎあさじよつはなびしもんつきひしこもんかみしもじ）
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　麻（平織地　小紋染）
○員　　数　1 反
○寸 法 等　長 1036.5 ㎝　幅 38.0 ㎝
○作品概要　小紋染めは、武家の衣服から発達したと考えられ、その代表的な例として、江戸時代の武家の正装であった裃が挙げられる。裃とは、室町時代の武家が着用していた素袍の両袖をとった形状の衣服で、桃山時代の武将の肖像画にしばしば見いだされることから、その頃には成立していたと考えられる。これは裃を仕立てる前の状態で、反物として伝えられた。道具彫によって小さな菱を彫った型紙を用いる。半分だけ見えているのは背中心の紋（花菱）、すべて見えているのは胸前の紋にあたる。身幅が細いことから、江戸時代中期の品と考えておきたい。大名家である

柳沢家伝来と伝えられる。

20　○名　　称　小紋染見本帳（こもんぞめみほんちょう）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　麻（平織地　小紋染）
　　○員　　数　1 冊
　　○寸 法 等　縦 18.5 ㎝　横 27.2 ㎝
　　○作品概要　さまざまな小紋型を木綿地の小裂に染めて貼り込んだ見本帳。ひとつの裂は 5 ㎝四方で、本来は二百八十七種あったと思われるが、12 裂を欠失する。表紙には「玉印」、奥書には「柏屋傳蔵」とあり、もとは染屋の見本台帳であったろう。微細な植物･器物･吉祥の文様で埋め尽くされた小世界は、見飽きることがない。

21　○名　　称　市松人形（いちまつにんぎょう）
　　○時　　代　明治時代・19 世紀
　　○品　　質　木胎彩色・絹
　　○員　　数　1 躯
　　○寸 法 等　高 74.0 ㎝
　　○作品概要　大型の抱人形で、明治十年頃生まれた寄贈者の祖父のために、御所の台所方にあがっていた曽祖父が購入した品という。男子人形で、腹部を押すと音が鳴る仕掛けになっている。この時代には同種のつくりの市松人形が流行したようで、類似の作例が比較的多く残されている。衣装は明治時代の品ではなく、昭和に入ってから改められたものであろう。

22　○名　　称　紙衣（かみこ）
　　○時　　代　大正時代・20 世紀
　　○品　　質　紙・木綿
　　○員　　数　1 領
　　○寸 法 等　丈 92.5 ㎝　幅 56.0 ㎝
　　○作品概要　表地に和紙を、裏地に木綿を用い、薄綿を入れた紙衣の袖無し羽織である。和紙は、柔らかく揉まれ、型染で細縞を置いて紺色に染められている。紙衣とは和紙を用いた衣服で、古来より防寒具として用いられた。現代でも東大寺修二会の練行衆が紙衣を着用しているが、年代がある程度判明する作例としては、上杉謙信が着用した紙衣（上杉神社蔵）が知られている。この紙衣は、紙衣が廃れることを惜しんで、大正十一年（1922）に風俗研究愛好家に頒布されたもので、風俗研究会を主宰していた江馬務の「紙子の由来」という印刷物が附属している。

23　○名　　称　染織裂（せんしょくぎれ）
　　○時　　代　桃山～江戸時代・16～19 世紀
　　○品　　質　絹（染・繍）
　　○員　　数　31 枚
　　○作品概要　桃山時代に製作された辻が花染や繍箔の小袖裂を中心とする染織裂 31 枚が、小ぶりの箪笥に収められている。旧鐘紡コレクション、丸紅コレクション、京都工芸繊維大学に同裂の断片が見いだせることから、本来は打敷であったものが分割されて市中に出回ったものであろう。断片ではあるものの、意匠・技法ともに見どころに富む。日本画家・入江波光の蒐集品である。

24　○名　　称　人形類（にんぎょうるい）
　　○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
　　○品　　質　木胎彩色・絹ほか
　　○員　　数　152 種
　　○作品概要　這子・犬張子などの儀礼人形 4 種、立雛・次郎左衛門雛・享保雛などの雛人形 27 種、芥子人形 9 種、嵯峨人形 4 種、賀茂人形 6 種、からくり人形 13 種、衣裳人形 46 種、御所人形 14 種、三つ折人形 6 種、御殿玩具・郷土人形など 11 種、雛屏風・雛道具など 12 種、計 152 種を数える、人形類の一大コレクションである。とりわけ、台からくりを中心とするからくり人形と衣裳人形は、質量ともに高い水準にある。日本画家・入江波光が蒐集したコレクションとして世に名高い。

【奈良国立博物館】（計 4 件）

(1)購入(4 件)

＜絵画＞(1 件)

1　○名　　称　紙本墨画渡唐天神像（しほんぼくがととうてんじんぞう）
　　○作 者 等　近衛信尹（1565～1614）
　　○時　　代　江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　紙本墨画　掛幅装
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　108.3 ㎝×45.9 ㎝
　　○作品概要　頭部を「天」、体部を「神」の草書体で表し、文字絵の体裁をなす渡唐天神像で、本図上方には天神を題材とする和歌が記されている。筆者の近衛信尹は寛永の三筆に数えられ、江戸時代末の画人伝『古画備考』によると墨画の渡唐天神像を百幅遺したという。実際、本図とほぼ同一の天神像が各地の天神社を中心に十数幅伝存しており、これらの作例と本図を比較検討すると信尹筆の一幅と考えられる。本図の附属品から、勝海舟（1823～99）寄贈という本品を明治 18 年（1885）に松浦武四郎（1818～88）が求め、同 26 年（1893）には古筆宗家 12 代の了悦（1831～94）が極を付しており、近代以降の伝来が比較的明らかである。

＜書跡＞(2 件)

2　○名　　称　紙本墨書万昆嶋主解（紙背　写千巻経所食物用帳断簡）（しほんぼくしょまこんのしまぬしげ（しはい　しゃせんかんきょうしょしょくもつようちょうだんかん）
　　○作 者 等　万昆嶋主（生没年不詳）
　　○時　　代　奈良時代　天平宝字 2 年（758）
　　○員　　数　1 枚
　　○品　　質　紙本墨書　未装丁
　　○寸 法 等　28.9×24.7
　　○作品概要　本品は正倉院宝庫から流出した古文書の一つで、昭和 18～19 年（1943～44）頃に前所蔵者の手を離れて以降長らく所在不明であった。一次利用面である「万昆嶋主解」は、写経所の経師であった万昆嶋主が重病の姑（父親の姉妹か）を看病するために 4 日間の休暇取得を申請したものである。当文書の事務処理が完了し不要になったのちは、その紙背が写経所の帳簿用紙として再利用され、日々の食物の利用状況を記録する「写千巻経所食物用帳」（二次利用面）が作成された。政府の公文書や役所の帳簿類が多い正倉院文書のなかで、休暇届である万昆嶋主解は当時を生きた人々の生活の一端を窺い知ることができる貴重な歴史資料といえる。

3　○名　　称　紙本墨書足利義満書状案（しほんぼくしょあしかがよしみつしょじょうあん）
　　○時　　代　南北朝時代　14 世紀
　　○員　　数　1 幅
　　○品　　質　紙本墨書　掛幅装

○寸 法 等　119.5×59.8
○作品概要　本品は室町幕府3代将軍・足利義満（1358～1408）が康暦2年（1380）8月26日に関白二条師嗣（1356～1400）に宛てて送ったと考えられ、義満が興福寺僧・円守を当寺別当職に補任するよう推挙したという内容をもつものである。円守は東院僧正と呼ばれ、朝廷や将軍家の仏事にたびたび招請されているほか、応安5年（1372）の強訴の際には解決のために上洛し朝廷側と話し合いを行っている。また当文書冒頭の注記と本文が同筆にみえることから、本品は興福寺東院で作成された案文である可能性が高い。室町幕府が興福寺人事に干渉していたことが明確な史料であり、中世南都と室町幕府の関係を知る上で貴重な歴史資料である。

＜彫刻＞(1件)

4　○名　　称　木造阿弥陀如来坐像（もくぞうあみだにょらいざぞう）
○時　　代　平安時代・9～10世紀
○品　　質　カヤ材　一木造　内刳なし　古色　彫眼
○員　　数　1軀
○寸 法 等　像　　高　35.9㎝　髪 際 高　29.4㎝　頂ー顎　14.7㎝　面　長　8.0㎝　面　奥　11.8㎝　耳　張　11.1㎝
胸奥（左）　10.8㎝　胸奥（右）　10.9㎝　腹　奥　13.1㎝　臂　張　20.9㎝　坐　奥　17.8㎝　膝　張　26.9㎝
膝高（左）　5.9㎝　膝高（右）　5.5㎝
○作品概要　腹前で右手を上に両掌を重ね阿弥陀の定印を結び、左脚を外にして趺坐する像である。四肢のバランスを顧慮せず、カヤ材を用い、全体を一個のマスの中に把握するような造形、晦渋味のある微笑を浮かべた迫力ある表情に、平安時代前期彫刻の特徴が示されている。定印の阿弥陀如来像は、京都・仁和寺阿弥陀三尊像の中尊（仁和4年・888）を初例として、同・清凉寺阿弥陀三尊像の中尊（寛平8年・896）が続くが、本像はこの二像に匹敵する古例といえる。しかし、定印を結ぶ手の立てた両第二指の背が接することなくわずかに隙間（約3ミリ）がある点は珍しく今後の検討を要するが、定印阿弥陀像初期の一作例として注目に値する作品である。

(2)寄贈(0件)

【九州国立博物館】（計20件）

（1）購入（17件）
＜絵画＞（3件）

1　○名　　称　紙本著色病草紙断簡（屎を吐く男）　（しほんちゃくしょくやまいのそうしだんかん　くそをはくおとこ）
○時　　代　平安～鎌倉時代・12世紀
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦26.4㎝　横33.7㎝
○作品概要　掛幅装。詞書1紙と絵1紙からなる。萩や薄など秋草の茂る籬に向かい、石に腰を下ろして嘔吐する男を描く。詞書によるとこの男は尻の穴がないために口から排泄をしていたという。作風は「地獄草紙」（国宝、東京国立博物館）や「餓鬼草紙」（国宝、京都国立博物館）に極めて近い表現をしており、本図も同時期に後白河法皇や宮廷絵師・常盤光長の関与により制作されたものと考えられる。現在断簡であるが、本図を含む「病草紙」15段は、昭和初期まで1巻の巻子として名古屋の関戸家に伝来していた。巻子装時に付随していた土佐光貞（1738～1806）の奥書により、本図は寛政8年（1796）には歌人・大館高門（1776～1839）の所蔵であったことがわかる。

2　○名　　称　絹本著色阿弥陀浄土図　（けんぽんちゃくしょくあみだじょうどず）
○時　　代　鎌倉時代・13世紀
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦85.5cm　横78.0cm　表装：縦181.2cm　横99.1cm　軸長105.3cm
○作品概要　掛幅装。画面に、やや俯瞰気味に阿弥陀の極楽浄土を描く。阿弥陀浄土図は基本的に、浄土を正面から捉えた左右対称の図であり、本図のように浄土を斜めに捉えた作例は珍しいが、法然が熊谷直実に与えたという「迎接曼荼羅」（重要文化財、清凉寺所蔵、鎌倉時代初頭）など、阿弥陀浄土図に限らず同時代の作例を見ていくと、本図が決して特異な図様ではないことが分かる。本図は下描き、彩色、描き起こしという仏画の伝統的な手法で描かれており、彩色および描き起こしは極めて細緻で、截金線は非常に細く丁寧で、文様の種類も豊富である。鎌倉時代以降の浄土教絵画の多様な展開を考えるうえで重要な示唆を与えてくれる作品として、その価値はきわめて高い。

3　○名　　称　絹本墨画羅漢図　（けんぽんぼくがらかんず）
○時　　代　中国　南宋-元時代・13世紀
○品　　質　絹本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦109.0cm　横51.8cm　表装：縦201.0cm　横66.9cm　軸長72.6cm
○作品概要　掛幅装。本図は、もとは十六羅漢図または十八羅漢図のうちの1幅であったと考えられる。羅漢は着衣を先割れのある粗放な濃い墨線で簡潔に描き、部分的に淡い墨面で立体感を表す。一方、肉身は穏やかな抑揚をつけたやや淡い墨線で描いて部分的に濃い墨線をアクセントとし、やや荒い筆線で毛描きする。このように肉身と着衣では描写を明確に区別する表現などから判断して、中国・唐時代から五代時代にかけて活躍した画僧である禅月大師・貫休(832～912)の伝承作品との関係が注目される。貫休の伝承作品には制作が元時代に降るものも少なくないため、そのなかにあって本図は彼の様式を知る上で大きな意義をもつ。

＜書跡＞（3件）

4　○名　　称　紙本墨書足利尊氏願経　妙法聖念処経　（しほんぼくしょあしかがたかうじがんきょう　みょうほうしょうねんしょきょう）
○時　　代　南北朝時代・文和3年(1354)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　5帖
○寸 法 等　各表紙：縦28.4cm　横11.8cm　本紙：各縦28.4cm
全長：巻第一 624.5cm　巻第三 611.3cm　巻第四 400.3cm　巻第五 541.7cm　巻第六 528.5cm
○作品概要　折本装。室町幕府を開いた足利尊氏（1305～58）が文和3年(1354)正月23日に発願して京、南都、近江、鎌倉の諸僧に書写させた一切経。発願文によると、後醍醐天皇や尊氏の両親、元弘の乱以後の戦乱で亡くなった人々を弔い、天下泰平と民衆の安楽を願ったものである。本願経は南北朝時代を代表する写経で、文化史、宗教史、政治史研究上に貴重であるばかりでなく、宋・元版をテキストとして用いており、一切経の流布と対外交流の関係を知る上でも重要である。

5　○名　　称　紙本墨書舎人国足願経　瑜伽師地論　巻第六十三　（しほんぼくしょとねりくにたりがんきょう　ゆがしじろん　まきだいろくじゅうさん）
○時　　代　奈良時代・天平16年(744)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1帖
○寸 法 等　表紙：縦24.3cm　横8.5cm　全長709.6cm　折本幅8.1cm
○作品概要　折本装。ただし当初は、巻子装。『瑜伽師地論』は全100巻。300～350年頃に成立。無著(ｱｻﾝｶﾞ)が弥勒菩薩の霊告によって造ったとされる。瑜伽行派の根本論書の一つで、3～4世紀頃のインドの仏教研究を網羅し、ヴェーダ・五明等にまで及んで当時の百科全書の観を呈する。法相宗で

重要経典とされる。本願経は法量や界線の高さ、幅、折本装の幅なども、石山寺所蔵の瑜伽師地論巻第七十のものとほぼ一致することから、もともと石山寺旧蔵の『瑜伽師地論』の一帖であると判断できる。玄奘三蔵が漢訳してから 100 年を経ずして、日本で『瑜伽師地論』が書写されていたことを示す遺品として重要である。

6　○名　　称　絹本墨書周煌墨蹟　（けんぽんぼくしょしゅうこうぼくせき）
　○時　　代　琉球　第二尚氏時代・乾隆 21 年(1756)
　○品　　質　絹本墨書
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙：縦 82.2cm　横 41.2cm　表具：縦 170.5cm　横 54.1cm　軸張り 59.5cm
　○作品概要　掛幅装。周煌(?～1785)は四川涪州の人。尚穆王の冊封副使として、正使全魁とともに乾隆 21 年(1756)に来琉した。本墨蹟は、王羲之(303?～361?)のほか、漢代の著名な書家、鍾繇(ショウヨウ)(151～230)、張芝、蔡邕(サイヨウ)の書を論じたもの。乾隆丙子は周煌が来琉した年に当たり、「於中山官廨」と記していることからも琉球において書かれたことが明らかであり、琉球が中国・清から冊封されていたことを紹介する資料として有益である。

＜彫刻＞（1 件）

7　○名　　称　地蔵菩薩遊戯坐像　（じぞうぼさつゆげざぞう）
　○時　　代　朝鮮　高麗時代・14 世紀
　○品　　質　銅造
　○員　　数　1 躯
　○寸 法 等　総高 49.2cm　像高 26.6cm
　○作品概要　本像は当時流行の地蔵菩薩信仰を反映した、被帽地蔵菩薩の数少ない彫刻作例として韓国美術史上きわめて貴重な存在である。ふっくらとした面貌の肉付き、明快に表された目鼻立ち、伸びやかな上体の表現等は、高麗時代後期に制作された仏像の特徴であり、優れた造形感覚が認められる。鋳造技術や細部の彫法も手慣れており、極めて完成度が高い。かつて対馬・厳原の寺院に伝来したものと伝えられ、中世における日朝間の活発な往来過程で請来された遺品である。当館が収蔵すべき質と歴史を有する作品である。

＜染織＞（2 件）

8　○名　　称　端物切本帳　（たんものきれほんちょう）
　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　○品　　質　和紙仮綴　木綿
　○員　　数　13 冊
　○寸 法 等　各　縦 26.0cm　横 19.0cm
　○作品概要　端物切本帳は、輸入染織に関する史料であり、反物目利と呼ばれる輸入染織を鑑定・評価する長崎奉行配下の役人によって記録された。本切本帳には、オランダを意味する「紅毛」の文字と、反物目利「芦塚」の署名があることから、芦塚家に伝わった切本帳のうち、オランダ船によって輸入された染織資料であることがわかる。また、本切本帳に貼られた裂のほとんどが更紗という珍しいものであり、現存する他の端物切本帳を補完する資料として貴重である。

9　○名　　称　緑地花菱繋ぎ文更紗　（みどりじはなびしつなぎもんさらさ）
　○時　　代　18-19 世紀
　○品　　質　木綿平織、片面染め、描き染め、蠟防染
　○員　　数　1 枚
　○寸 法 等　縦 358.0cm　横 113.0cm
　○作品概要　本品は本来、タイ向けに作られたインド更紗。極薄の上手木綿生地を織幅いっぱい使用し、濃い地色を基調に、蠟防染で白抜きされた細線で細かな文様をあらわす他、タイの伝統文様も取り入れられている。肌理細やかな木綿の生地や複雑で巧緻な文様構成ともに秀逸である。本品の裏には中国の数字「蘇州号碼」で取引額が墨書されており、通交に関わった中国商人の存在を明らかにしている点で貴重な記録である。南アジア、東南アジア、東アジアを結ぶ資料として活用が期待できる。

＜考古＞（1 件）

10　○名　　称　白磁経筒　（はくじきょうづつ）
　○時　　代　中国　宋代・12 世紀
　○品　　質　磁器
　○員　　数　1 合
　○寸 法 等　総高 36.7cm　口径（身）12.0cm　（蓋）15.1cm　底径 12.1cm
　○作品概要　平安時代末には、末法思想を背景に極楽往生を願う信仰が各地で流行し、仏教の経典を地中に埋めて正しい教えを後世に残そうとした経塚の造営が盛んとなり、多くの経筒が埋納された。経筒は青銅製が主流で、白磁の経筒は現在知られているものでも 10 点もなく、さらに本作品のように蓮弁を厚肉深彫で立体的に仕上げた例は稀少で、極めて貴重である。

＜歴史資料＞（7 件）

11　○名　　称　朝鮮通信使川御座船図六曲屏風　（ちょうせんつうしんしかわござぶねろっきょくひょうぶ）
　○時　　代　江戸時代・17～18 世紀
　○品　　質　紙本金地著色
　○員　　数　1 隻
　○寸 法 等　本紙：縦 78.3cm　横 251.0cm　屏風装：縦 95.5cm　横 268.0cm
　○作品概要　屏風装。画面左右に金雲を配し、中央に大きく水上を航行する 2 階建の屋形をもつ川御座船を描く。本図は、淀川を航行する川御座船を描いたもので、「上判事第三船」の旗が描かれることから朝鮮通信使のうち上判事を乗せた船と考えられる。朝鮮通信使の姿は描かれていないが、扉の閉じられた牀几の間の中に座しているという想定かと推測される。また、この船は扇紋から肥前国島原藩主松平家のものと考えられ、九州との縁が深く当館にとって重要な作品である。

12　○名　　称　紙本墨書今川了俊書下　（しほんぼくしょいまがわりょうしゅんかきくだし）
　○時　　代　南北朝時代・嘉慶 2 年(1388)
　○品　　質　紙本墨書
　○員　　数　1 幅
　○寸 法 等　本紙：縦 27.0cm　横 46.0cm　表具：縦 115.0cm　横 59.1cm　軸張り 64.5cm
　○作品概要　竪紙。掛幅装。今川了俊(貞世、1326-?)は、貞治 6 年(1367)に室町幕府引付頭人となり、同年末、第 2 代将軍足利義詮の死去を機縁に出家し貞世から了俊にあらためた。応安 4 年(1371)には第 3 代将軍足利義満によって南朝方制圧のため九州探題に任命された。本文書は、宗像大宮司宗像氏頼に対して、所々神領ならびに筑前国朝町村（現宗像市）、山口郷（現宮若市）、土穴郷（現宗像市）、平等寺（現宗像市）等に関する義満の安堵を施行したもので、その内容は、吉田ツヤ所蔵「宗像系図」所収の写しによって知られていたが、このたび正文の存在が初めて知られることとなった。

13　○名　　称　紙本墨書島津氏等文書集　（しほんぼくしょしまづしとうもんじょしゅう）
　○時　　代　鎌倉～江戸時代・14～17 世紀
　○品　　質　紙本墨書

○員　　数　1巻（10通）
○寸 法 等　巻子　縦38.9cm　全長565.7cm　　表紙　縦38.9cm　横28.7cm
○作品概要　巻子装。島津氏と家臣に関連する古文書10通が1巻に成巻されている。内容は、織豊期の島津氏関連、鎌倉・南北朝期の稲本氏・小浜氏関連文書、島津義久(1533～1611)が父貴久(1514～71)の三十三回忌追善に手向けた和歌、義久の甥忠恒(家久、1576～1638)が受け取った書状、加藤清正(1562～1611)が釜山浦の番船の進退を確認したもの、島津氏家臣頴娃久虎が息子の病気平癒を祈願した願文、宗像氏の一族稲本氏純の南朝方肝付兼重討伐に係る着到状、加瀬田城（現鹿児島県曾於郡輝北町）における南朝方肝付兼隆攻略にかかる稲本氏純宛の足利直義の感状、小浜十郎への大隅国鹿屋院（現鹿児島県鹿屋市）下村半分地頭代官職を預け置いた島津貞久(1269～1363)の預状、小浜村（現鹿児島県姶良郡隼人町）に対して宮の祭礼費用負担を命じた領家下文で、九州の歴史上、重要な史料群である。

14　○名　　称　紙本墨書朝鮮通信使進物目録　（しほんぼくしょちょうせんつうしんししんもつもくろく）
○時　　代　江戸時代・享保4年(1719)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1通
○寸 法 等　本紙：縦42.6cm　横63.0cm　封筒：縦43.5cm　横9.0cm　朱印：縦5.5cm　横5.5cm
○作品概要　紙本墨書。竪紙。本目録は、享保4年(1719)に徳川幕府第8代将軍徳川吉宗襲封祝儀のために来日した朝鮮通信使の正使・副使・従事官が、連名で石見津和野藩主亀井隠岐守玆親(コレチカ)(1669～1731)へ送った贈答品の目録である。朝鮮通信使から大名宛に出されたこのような目録は、他に3通が知られるが、差出が「通信使」となっており、三使が連署しているのは本状が唯一である。朝鮮通信使は近世の日朝関係史上、重要な事象であり、本資料は当館の文化交流というテーマで活用が期待される。

15　○名　　称　紙本墨書豊臣秀吉朱印状　遠藤彦右衛門・助二郎宛
（しほんぼくしょとよとみひでよししゅいんじょう　えんどうひこえもん・すけじろうあて）
○時　　代　安土桃山時代・16世紀 天正15年(1587)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1通
○寸 法 等　縦32.1cm　横47.6cm
○作品概要　折紙。補修や表具の跡が無く、うぶなままの状態を保つ。豊臣秀吉が天正15年(1587)に行った島津氏平定の戦いである九州征伐の最中に発給されたもの。遠藤彦右衛門と助二郎に宛てて、受け取った書状を読んだことと送られた煎海鼠30連の礼を述べ、近日中に薩摩へ攻め込む事、中納言(羽柴秀長、1541～91)から日向の戦況についても順調な旨の報告があったことなどを伝えている。本状を取り次いでいる木下半介は吉隆(?～1598)。戦況についての秀吉の生々しい表現も含まれ貴重である。

16　○名　　称　紙本墨書豊臣秀吉朱印状　高麗国中宛　（しほんぼくしょとよとみひでよししゅいんじょう　こうらいこくちゅうあて）
○時　　代　安土桃山時代・天正20年(1592)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦43.5cm　横59.8cm　表具：縦122.0cm　横68.2cm　軸張74.2cm
○作品概要　竪紙。天正20年(1592)4月半ば、小西行長・宗義智の第一軍が釜山鎮を襲撃して、文禄・慶長の役の口火が切られ、5月初旬にはソウルを陥落した。本禁制は高麗国中に宛てられたもので、秀吉の軍勢による濫妨狼藉、放火、朝鮮人への非分を禁じている。島津家文書（国宝、東京大学史料編纂所所蔵）には、これに先立つ天正20年4月26日付けの禁制がのこされている。本状は、東アジアの対外関係に激震を与えた豊臣秀吉の朝鮮侵略に関わる史料である。

17　○名　　称　紙本墨書豊臣秀吉朱印状　蜂須賀阿波守宛　（しほんぼくしょとよとみひでよししゅいんじょう　はちすかあわのかみあて）
○時　　代　安土桃山時代・天正20年(1592)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙：縦45.4cm　横66.1cm　表具：縦142.0cm　横70.3cm　軸張77.0cm
○作品概要　折紙。天正20年(1592)4月半ば、小西行長・宗義智の第一軍が釜山鎮を襲撃して、文禄・慶長の役の口火が切られ、5月初旬にはソウルが陥落した。本状の内容は、翌年3月に予定された秀吉の渡海に備えて、釜山からソウルまでの往還を確保し、城普請や兵糧確保につとめること。船を漕ぎ戻し、加子を休め兵糧を積みよこすこと、などを指示したもの。同日付けで同様の指示を記した朱印状が島津家など他の武将へも送られている。本紙の朱印から徳島藩に伝来したとことが分かる。

(2) 寄贈（1件）
＜金工＞（1件）

1　○名　　称　金銅阿弥陀不動毘沙門天像懸仏（こんどうあみだふどうびしゃもんてんぞうかけぼとけ）
○時　　代　室町時代・15世紀
○品　　質　銅板鍛造鍍金
○員　　数　1面
○寸 法 等　面径34.0cm
○作品概要　中央に結跏趺坐して定印を結んだ阿弥陀如来を、向かって左に不動明王、右に毘沙門天を配した金銅板貼付式の懸仏。不動明王と毘沙門天を脇侍とする三尊形式は、千手観音を中尊とした延暦寺宝幢院や、聖観音を中尊とする延暦寺横川中堂に始まり、天台系寺院で多く見られる構成である。全体的な構成としては南北朝時代・14世紀中頃から見られるものであるが、舟形光背の唐草の表現が甘くなっている点や、蓮池に見られる形式化、支柱と一体化している花瓶、獅噛座と管形鐶台の表現から、本品の製作は15世紀に入ってからのものと思われる。

(3) 編入（2件）
＜絵画＞（1件）

1　○名　　称　絹本著色　柳舜翼像模写　附彩色見本および下絵（けんぽんちゃくしょく　ゆすにくぞうもしゃ　つけたりさいしきみほんおよびしたえ）
○作 者 等　靖齋文化財保存研究所・大韓民国ソウル市
○時　　代　現代・21世紀　（原品：朝鮮時代　17世紀　京畿道博物館所蔵）
○品　　質　絹本著色
○員　　数　1幅（附：彩色見本3面・下絵4枚）
○寸 法 等　本紙：縦172.5cm 横94.8cm　表具:縦242.0cm　横108.9cm
附(彩色見本:各縦56.0cm　横48.2cm　厚2.0cm
下絵:①縦64.7cm　横46.3cm　②縦64.5cm　横45.7cm　③縦64.5cm　横45.5cm　④縦64.2cm　横45.6cm)
○作品概要　烏紗帽に雲紋緞黒団領を着用した全身椅像模写。柳舜翼(1559～1632)は朝鮮中期の文臣で、本貫は晋州。1623年に光海君から王位を簒奪した仁祖反正のとき、西宮に宿直していて反正軍の侵入を助け、宮殿の護衛を抑える任務を遂行し、その功により靖社功臣三等に叙された。この肖像模写は、平成21年度九州国立博物館トピック展示「巨大掛軸をめぐる文化交流」開催の際に、展示資料として韓国・靖齋文化財保存研究所に依頼して製作したもので、京畿道博物館が模写事業を行なった際の資料および原本の再調査に基づき描かれた。

＜考古＞（1件）

2　○名　　称　彩画人馬鏡（さいがじんばきょう）
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　前漢時代
　　○品　　質　銅製鋳造
　　○員　　数　1面
　　○寸 法 等　径22.6cm
　　○作品概要　鋳造後に顔料等で図文を描いた装飾鏡を彩画鏡と呼んでいる。本鏡は面径22.5cm、縁高8㎜、鈕高9㎜をはかる重圏彩画鏡で、赤・緑・青・白・黒の5色が遺存する。本鏡は、二重の匙面帯を巡らせた内区と、主文帯である外区から構成され、各々は乳で四分される。内区は乳間を虺龍文でうめる。主文帯は左向きの白衣青裙の人物群や樹木、白馬や人物等が認められるが、光学分析の結果、ほとんどが後補であり、当初から遺残する図文は内区文様や馬脚部や樹木などに過ぎない。彩画鏡は中国の戦国時代から漢代にかけて約30面余りが知られている。本鏡は洛陽金村出土と伝えるが、完形彩画鏡の全体像をうかがう好資料と考えられる。本品は、平成23年4月1日付けで東京国立博物館から無期管理換となったものである。

1-(1)-④ 寄託品一覧表

（単位:件）　平成24年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	11,866	186	1,181	2,689	50	252	6,013	83	610	1,945	53	316	1,219	0	3
絵画	3,247	54	404	410	12	63	2,035	27	240	581	15	101	221	0	0
書跡	1,856	65	268	469	12	29	955	40	201	311	13	36	121	0	2
彫刻	767	11	205	138	1	40	253	1	62	352	9	103	24	0	0
建築	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1,032	12	87	170	4	18	531	1	38	240	7	31	91	0	0
刀剣	245	10	70	210	8	57				34	2	13	1	0	0
陶磁	1,332	1	6	139	0	2	797	1	3	11	0	0	385	0	1
漆工	753	10	53	136	3	16	464	4	15	104	3	22	49	0	0
染織	719	7	34	73	2	4	489	3	29	47	2	1	110	0	0
考古	920	12	34	157	4	12	448	6	13	230	2	9	85	0	0
民族資料	121	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	110	0	0
歴史資料	89	0	9	1	0	0	37	0	9	29	0	0	22	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	150	2	9	150	2	9									
東洋 書跡	25	1	0	25	1	0									
東洋 彫刻	11	0	0	11	0	0									
東洋 金工	1	0	1	1	0	1									
東洋 陶磁	74	1	0	74	1	0									
東洋 漆工	25	0	1	25	0	1									
東洋 染織	9	0	0	9	0	0									
東洋 考古	486	0	0	486	0	0									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									

＊京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。

＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした。

1-(1)-⑤ 寄託品増減表

（単位:件）　平成24年3月31日現在

	国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
	22年度	23年度			22年度	23年度			22年度	23年度			22年度	23年度			22年度	23年度		
	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計	11,975	130	239	11,866	2,726	(＊1) 8	(＊1)45	2,689	6,005	93	85	6,013	1,947	12	14	1,945	1,297	17	95	1,219
絵画	3,225	67	45	3,247	412	5	(＊1) 7	410	2,018	50	33	2,035	579	3	1	581	216	9	4	221
書跡	1,859	13	16	1,856	480	0	11	469	952	7	4	955	306	5	0	311	121	1	1	121
彫刻	772	9	14	767	140	0	2	138	247	7	1	253	360	1	9	352	25	1	2	24
建築	4	0	0	4	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1,032	12	12	1,032	170	0	0	170	526	9	4	531	241	3	4	240	95	0	4	91
刀剣	260	0	15	245	225	0	15	210					34	0	0	34	1	0	0	1
陶磁	1,355	11	34	1,332	139	0	0	139	790	11	4	797	11	0	0	11	415	0	30	385
漆工	764	4	15	753	136	2	2	136	470	2	8	464	104	0	0	104	54	0	5	49
染織	763	4	48	719	73	0	0	73	514	3	28	489	47	0	0	47	129	1	20	110
考古	939	9	28	920	157	0	0	157	446	4	2	448	230	0	0	230	106	5	26	85
民族資料	121	0	0	121	5	0	0	5	0	0	0	0	6	0	0	6	110	0	0	110
歴史資料	93	0	4	89	1	0	0	1	38	0	1	37	29	0	0	29	25	0	3	22
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	149	1	0	150	149	(＊1) 1	0	150												
東洋 書跡	28	0	3	25	28	0	3	25												
東洋 彫刻	11	0	0	11	11	0	0	11												
東洋 金工	1	0	0	1	1	0	0	1												
東洋 陶磁	77	0	3	74	77	0	3	74												
東洋 漆工	26	0	1	25	26	0	1	25												
東洋 染織	9	0	0	9	9	0	0	9												
東洋 考古	487	0	1	486	487	0	1	486												
東洋 民族	0	0	0	0	0	0	0	0												

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

＊1東京国立博物館の23年度新規寄託品件数は7件、返却44件であるが、23年度に絵画から東洋絵画への移管が１件あり、これについては寄託品全体の統計との整合性をとるため統計上は絵画返却1件、東洋絵画新規1件として取り扱い、増減表では新規8件、返却45件と記載している。

1-(1)-⑥ 登録美術品一覧表

平成24年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	7	0	4	3	0	3	3	0	0	1	0	1	0	0	0
絵画	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0

1-(2) 収蔵品の管理・保存

1-(2)-① 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】

合計		1,187		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		608	86	493
絵画		116	2	302
書跡		19	2	35
彫刻		27	0	2
建築		0	0	0
金工		7	0	0
刀剣		35	4	17
陶磁		17	4	0
漆工		15	2	0
染織		53	2	3
考古		75	30	2
歴史資料		14	0	8
民族資料		0	0	0
和書		18	0	9
東洋	絵画	30	4	11
	書跡	7	2	4
	彫刻	6	0	0
	金工	1	0	0
	陶磁	128	2	0
	漆工	12	2	0
	染織	3	0	5
	考古	22	0	1
	民族	0	0	0
法隆寺献納宝物		2	30	2
その他（黒田含）		1	0	92

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	249	130	107
絵画	90	49	5
書跡	24	8	1
彫刻	5	18	0
建築	0	0	0
金工	9	12	0
刀剣		0	0
陶磁	15	0	0
漆工	7	7	3
染織	81	8	16
考古	18	28	1
民族資料	0	0	0
歴史資料	0	0	7
和書	0	0	0
その他	0	0	74

1-(2)-② 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度			湿度（年間）
			冬	夏	中	
本館	展覧会場	09：00～17：00	16～25℃	22～29℃	19～28℃	15～85%
	収蔵庫	09：30～17：00	15～23℃	24～29℃	23～25℃	46～63%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	23～24℃	24～27℃	23～25℃	45～60%
	収蔵庫	09：30～17：00 ※4:00～8:00、20:00～24：00	22～24℃	26～27℃	23～25℃	45～60%
東洋館	展覧会場	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中
	収蔵庫	09：30～17：00 （一部運用開始）	19～21℃	閉室中	閉室中	53～58%
宝物館	展覧会場	24時間運転	22～23℃	24～25℃	22～25℃	54～57%
	収蔵庫	24時間運転	22～23℃	22～23℃	22～23℃	52～57%
表慶館	展覧会場	09：00～17：00	9～22℃	22～27℃	14～27℃	25～80%
	(仮)収蔵庫	09：00～17：00	9～22℃	22～28℃	17～25℃	40～70%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	23～24℃	23～24℃	23～24℃	50～60%
	収蔵庫	24時間運転	23～24℃	23～24℃	23～24℃	50～60%

※電力使用制限期間(23年7月1日～9月9日)

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
特別展示館	展覧会場	09：00～18：00	18～25℃	57～60%
	収蔵庫	09：00～17：30	18～22℃	55～60%
平常展示館	展覧会場	——	——	——
	収蔵庫	——	——	——
北収蔵庫		——	——	——
東収蔵庫		09：00～17：30	18～22℃	55～60%
文化財保存修理所		09：00～17：30	22～24℃	57～60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）		湿度（年間）
			冬	夏	
本館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:30～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(3) 収蔵品の修理

1-(3)-① 本格修理件数

平成24年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		146	106 (15) [1]	10	11	19
絵　画		15	6	1	3	5
書　跡		12	5 [1]	4	2	1
彫　刻		2	0	1	1	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		2	2	0	0	0
刀　剣		4	4	0	0	0
陶　磁		2	2	0	0	0
漆　工		7	2	2	0	3
染　織		40	39	1	0	0
考　古		35	26 (15)	1	5	3
歴史資料		7	0	0	0	7
和　書		2	2	0	0	0
民族資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	4	4			
	書　跡	4	4			
	彫　刻	3	3			
	金　工	0	0			
	陶　磁	1	1			
	漆　工	3	3			
	染　織	0	0			
	考　古	2	2			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		0	0			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		1	1			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、[　]内は九州国立博物館経費で、内数。

1-(3)-② 修理概況

【東京国立博物館】 (106件)

〈絵画〉(6件)

1 ○列品番号 A-5
○名　　称 阿弥陀如来像(あみだにょらいぞう)
○時　　代 鎌倉
○年代世紀 14c
○品　　質 絹本着色
○員　　数 1幅
○寸 法 等 128.0×54.4cm
○施工会社 (株)岡墨光堂
○修理内容 1.解体する。 2.クリーニングする。 3.裏打ちなど補強を施す。 4.補彩する。 5.表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 6.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙などを新調する。(平成23年度は3まで)

2 ○列品番号 A-1155
○名　　称 扇面雑画(せんめんざつが)
○時　　代 江戸
○年代世紀 19c
○品　　質 紙本着色・紙本墨画
○員　　数 5面(60面のうち)
○寸 法 等 (上弦/下弦/高)(cm)No.2「桜」49.8/20.2/19.7、No.3「桃」49.8/20.2/19.8、No.5「早蕨」50.1/20.1/19.7、No.7「菜の花に蝶」50.9/21.1/20.0、No.10「鉄線」49.9/19.5/19.8
○施工会社 (株)半田九清堂
○修理内容 1.台紙を剥がし、本紙を分離する。 2.剥落止めを行う。 3.中性紙マットを製作し、ヒンジで本紙をマットに留め付ける。 4.新調した収納箱に収納する。(平成23年度は3から)

3 ○列品番号 A-1155
○名　　称 扇面雑画(せんめんざつが)
○時　　代 江戸
○年代世紀 19c
○品　　質 紙本着色・紙本墨画
○員　　数 5面(60面のうち)
○寸 法 等 (上弦/下弦/高)(cm)No.12「沢潟」49.7/19.8/19.6、No.14「布袋葵」50.0/20.1/19.7 、No.15「枇杷」50.1/19.9/ 19.7、No.16「蘭」50.3/20.1/19.3 、No.17「酸漿」50.4/19.9/20.0
○施工会社 (株)半田九清堂
○修理内容 1.台紙を剥がし、本紙を分離する。 2.剥落止めを行う。 3.中性紙マットを製作し、ヒンジで本紙をマットに留め付ける。 4.新調した収納箱に収納する。(平成23年度は2まで)

4 ○列品番号 未決
○名　　称 応挙館障壁画(松に岩図)(おうきょかんしょうへきが・まつにいわず)
○時　　代 江戸
○年代世紀 天明4年(1784)
○品　　質 紙本墨画
○員　　数 1面(54面のうち)
○寸 法 等 各90.0×180.0cm
○施工会社 (株)半田九清堂
○修理内容 1.肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。 2.洗浄する。 3.剥落止めを施す。 4.本紙に表打ちを施して保護し、肌裏紙を除去する。 5.裏打ちを行い、欠損部に補彩する。 6.下地を新調し、本紙・裏張り紙を張り込み、展示用椽木を新調して取り付ける。(平成23年度は3から)

5 ○列品番号 A-10447
○名　　称 宇治橋図屏風 (柳橋水車図屏風) (うじばしずびょうぶ・りゅうきょうすいしゃずびょうぶ)
○指　　定 重要美術品
○指定年月 昭和23年(1948)4月27日
○時　　代 安土桃山～江戸
○年代世紀 16～17c
○品　　質 紙本金地着色
○員　　数 6曲1双
○寸 法 等 各154.9×326.7cm
○施工会社 アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟
○修理内容 1.修理前の状態を調査し、記録する。 2.屏風装を解体し、本紙を下地から取り外す。解体の前後に剥落止めを施す。 3.部分表打ちを施して画面を保護し、旧裏打紙と旧補紙を除去する。 4.補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行う。 5.仮張りをし、補紙に補彩を施す。 6.骨下地を新調し、下張りを施し、蝶番を付ける。本紙を仮張りから外し、新調した下地に貼り込み、裏面には裏張紙を張り込む。 7.新調した表装裂、尾背紙、縁木、金具を取り付け、屏風装に仕立てる。 8.旧裏打紙、旧下地、旧金具などのための保存箱を作成する。(平成23年度は4から)

6 ○列品番号 A-1459
○名　　称 花車図屏風(はなぐるまずびょうぶ)
○時　　代 江戸
○年代世紀 17c
○品　　質 紙本金地着色
○員　　数 6曲1双
○寸 法 等 各154.5×364.2cm
○施工会社 アソシエイトフェロー
○修理内容 1.修理前の状態を調査し、記録する。 2.屏風装を解体し、本紙を下地から取り外す。解体の前後に剥落止めを施す。 3.ろ過水を表面から噴霧し、下に敷いた吸い取り紙に汚れを吸収させる。 4.表打ちを施して画面を保護し、旧裏打紙と旧補紙を除去する。 5.補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行う。 6.仮張りをし、補紙に補彩を施す。7.骨下地を新調し、下張りを施し、蝶番を付ける。本紙を仮張りから外し、新調した下地に貼り込み、裏面には裏張紙を張り込む。 8.新調した表装裂、尾背紙、縁木、金具を取り付け、屏風装に仕立てる。 9.旧裏打紙、旧下地、旧金具などのための保存箱を作成する。(平成23年度は2まで)

〈東洋絵画〉(4件)

7　○列品番号　TA-140
　○名　　称　寒江独釣図(かんこうどくちょうず)
　○指　　定　重文
　○指定年月　昭和6年(1931)1月19日　絵第39号
　○時　　代　南宋
　○年代世紀　13c
　○品　　質　絹本墨画淡彩
　○員　　数　1幅
　○寸 法 等　本紙 縦26.7 横50.6cm
　○施工会社　(株)桂文化財修理工房
　○修理内容　1.解体する。 2.裏打ちなど補強を施す。 3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

8　○列品番号　TA-143
　○名　　称　六祖截竹図(りくそせっちくず)
　○指　　定　重文
　○指定年月　昭和24年(1949)2月18日　絵第69号
　○時　　代　南宋
　○年代世紀　13c
　○品　　質　紙本墨画
　○員　　数　1幅
　○寸 法 等　本紙 縦72.7　横31.5cm
　○施工会社　(株)半田九清堂
　○修理内容　1.解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

9　○列品番号　TA-535
　○名　　称　驢図(ろず)
　○時　　代　中華民国
　○年代世紀　20c
　○品　　質　紙本着色
　○員　　数　1幅
　○寸 法 等　126.7×73.8cm
　○施工会社　(株)岡墨光堂
　○修理内容　1.解体する。 2.クリーニングする。 3.裏打ちなど補強を施す。 4.補彩する。 5.表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 6.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙などを新調する。(平成23年度は4から)

10　○列品番号　TA-363
　○名　　称　五龍図巻(ごりゅうずかん)
　○指　　定　重文
　○指定年月　昭和39年(1964)1月28日　絵第1567号
　○時　　代　南宋
　○年代世紀　13c
　○品　　質　紙本墨画淡彩
　○員　　数　1巻
　○寸 法 等　本紙 縦45.2 横299.5cm
　○施工会社　(株)岡墨光堂
　○修理内容　1.解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂等を新調し、巻子装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂等を新調する。 (平成23年度は1まで)

〈書跡〉(5件)

11　○列品番号　B-1648
　○名　　称　大毘盧遮那成佛神變加持經疏玄記 巻1(だいびるしゃなじょうぶつしんぺんかじきょうしょげんき)
　○時　　代　鎌倉
　○年代世紀　13c
　○品　　質　紙本墨書
　○員　　数　1帖
　○寸 法 等　25.3×16.2cm
　○施工会社　清申堂
　○修理内容　1.朱字に剥落止めを施す。 2.折本装を解体する。 3.本紙を洗浄する。 4.虫損箇所に補紙を施す。 5.表紙を再利用し、元の折本装に仕立てる。(平成23年度は4から)

12　○列品番号　B-1986
　○名　　称　額字(がくじ)
　○時　　代　江戸
　○年代世紀　19c
　○品　　質　紙本墨書
　○員　　数　2巻
　○寸 法 等　31.6×869.9、32.1×951.0cm
　○施工会社　国宝修理装こう師連盟九州支部
　○修理内容　1.巻子装を解体する。 2.補修紙を製作する。 3.欠失箇所に補紙を施す。 4.表装裂、軸首などを新調し、巻子装に仕立てる。 5.包裂、桐製保存箱などを新調する。(平成23年度は3の途中から)

13　○列品番号　B-3161
　○名　　称　偈頌(げじゅ)
　○時　　代　江戸
　○年代世紀　寛永20年(1643)
　○品　　質　紙本墨書
　○員　　数　1幅
　○寸 法 等　33.2×51.9cm
　○施工会社　(株)坂田墨珠堂

○修理内容　1.軸装を解体する。 2.クリーニングする。 3.裏打ちなど補強を施す。 4.表装裂などを新調し、掛幅装に仕立てる。 5.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂などを新調する。(平成23年度は3の途中から)

14 ○列品番号　B-2539
○名　称　千利休書状(せんのりきゅうしょじょう)
○時　代　安土桃山
○年代世紀　16c
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙　縦29.5　横40.2cm
○施工会社　アソシエイトフェロー
○修理内容　1.本紙を外す。 2.裏打ち紙を除去する。 3.ろ過水で湿りを与え、クリーニングを行う。 4.画面を養生し、肌裏紙を除去する。 5.欠失箇所に補紙を施す。 6.新たに裏打ちを行う。 7.表装裂、軸首などを新調し、掛幅装に仕立てる。 8.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱などを新調する。

15 ○列品番号　B-3238
○名　称　和歌懐紙(わかかいし)
○時　代　室町
○年代世紀　15c
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦31.5 横42.5cm
○施工会社　(株)桂文化財修理工房
○修理内容　1.軸装を解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂等を新調し、掛幅装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂等を新調する。(平成23年度は1まで)

〈東洋書跡〉(4件)

16 ○列品番号　TB-1173
○名　称　与無相居士尺牘(むそうこじにあたうせきとく)
○指　定　国宝
○指定年月　昭和25年(1950)8月25日　書第2号
○時　代　南宋時代
○年代世紀　12c
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　縦37.9 横65.5cm
○施工会社　(株)松鶴堂
○修理内容　1.解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

17 ○列品番号　TB-1179
○名　称　偈頌(げじゅ)
○指　定　重文
○指定年月　昭和31年(1956)6月28日　書第1757号
○時　代　南宋
○年代世紀　紹定2年(1229)
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　縦31.8 横80.9cm
○施工会社　(株)半田九清堂
○修理内容　1.解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

18 ○列品番号　TB-1198
○名　称　跋語(ばつご)
○指　定　重文
○指定年月　昭和25年(1950)8月25日　書第290号
○時　代　南宋
○年代世紀　淳祐7年(1247)
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　縦38.3　横47.3cm
○施工会社　(株)桂文化財修理工房
○修理内容　1.解体する。 2.裏打ち等補強を施す。 3.表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。 4.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。(平成23年度は1まで)

19 ○列品番号　TB-1546
○名　称　楷書七言聯(かいしょしちごんれん)
○時　代　清～民国
○年代世紀　20c
○品　質　蝋箋墨書
○員　数　2幅
○寸 法 等　各137.7×27.3cm
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　1.軸装を解体する。 2.クリーニングする。 3.裏打ちなど補強を施す。 4.表装裂地を新調し、掛幅装に仕立てる。 5.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙などを新調する。(平成23年度は3から)

〈東洋彫刻〉(3件)

20 ○列品番号　TC-382
○名　称　ヴィシュヌ立像 (ヴィシュヌりゅうぞう)
○時　代　アンコール
○年代世紀　12c

○品　　質　砂石彩色
○員　　数　1 躯(11 片)
○寸 法 等　総高 125 ㎝
○施工会社　文化財修復工房明舎
○修理内容　1. 心棒の抜き取り。 2. 埃の洗浄。 3. 分解部分の再接合。 4. 充填及び補彩。 5. 安定台の製作。(平成 23 年度は 3 から)

21 ○列品番号　TC-407
○名　　称　観音立像 (かんのんりゅうぞう) カンボジア、シュムリアップ、アンコール・トム死者の門
○時　　代　アンコール
○年代世紀　13c
○品　　質　砂岩
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 146.1cm
○施工会社　文化財修復工房明舎
○修理内容　1. 頭部を取り外す。 2. セメントを除去する。 3. 再接合する。 4. 亀裂を補修する。 5. 浮き上がり部分を接合する。 6. 安定台を作製する。 (平成 23 年度は 2 まで)

22 ○列品番号　TC-471
○名　　称　供養者頭部(くようしゃとうぶ)
○年代世紀　7～8c
○品　　質　塑造、彩色
○員　　数　1 個
○寸 法 等　面長 10cm
○施工会社　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
○修理内容　1. 事前調査(X 線 CT スキャナーなど)を行う。 2. 表面を養生して、展示台から分離する。 3. 表面の養生を除去した後、最小限のクリーニングを行う。 4. 彩色層の剥落止めを行う。 5. 塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。 6. 展示台及び保存箱を作製する。 (平成 23 年度は 2 から)

〈金工〉(2 件)

23 ○列品番号　E-14413
○名　　称　青白磁合子(せいはくじごうす)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建久 7 年(1196)
○品　　質　磁製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　蓋高 1.5、口径 8　身高 1.7、口径 8 ㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填･復元する。 5. アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。(平成 23 年度は 3 から)

24 ○列品番号　E-15012
○名　　称　青白磁合子(せいはくじごうす)
○時　　代　平安
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1 合
○寸 法 等　蓋高 1.5、口径 9.5　身高 1.7、口径 9.5 ㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填･復元する。 5. アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。 (平成 23 年度は 3 から)

〈刀剣〉(4 件)

25 ○列品番号　F-260
○名　　称　太刀 銘・大和国住藤原政長作 (たち　めい・やまとのくににすまうふじわらまさながさく)
○時　　代　室町
○年代世紀　永正 3 年(1506)
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 75.0、反り 2.5cm
○施工会社　小野　博
○修理内容　1. 全身を研磨する。 2. 白鞘を新調する。(平成 23 年度は 1 の途中まで)

26 ○列品番号　F-20159
○名　　称　脇指 銘・南部住金房兵衛尉政次(わきざし　めい・なんぶにすまうかなぼうひょうえのじょうまさつぐ)
○時　　代　安土桃山
○年代世紀　天正 18 年(1590)
○品　　質　鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 43.1、反 1.0cm
○施工会社　本阿彌道弘
○修理内容　1. 全身を研磨する。 2. 白鞘を新調する。 (平成 23 年度は 1 の途中まで)

27 ○列品番号　F-20166
○指　　定　重文
○指定年月　昭和 16 年(1941)7 月 3 日(工芸第 1383 号)
○名　　称　太刀　銘・正恒(たち　めい・まさつね)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　13c
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 69.9、反り 2.0 ㎝
○施工会社　本阿彌道弘

○修理内容　1.全身を研磨する。　2.白鞘を新調する。金着太刀鎺の作製。(平成23年度は1の途中から)

28　○列品番号　F-20200
○指　　定　重美
○指定年月　昭和12年(1937)5月27日
○名　　称　太刀　銘・備州長船住景光(たち　めい・びしゅうおさふねかげみつ)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　延慶2年(1309)
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長73.0、反り2.1cm
○施工会社　小野　博
○修理内容　1.全身を研磨する。　2.白鞘を新調する。金着太刀鎺の作製。(平成23年度は1の途中から)

〈陶磁〉(2件)

29　○列品番号　G-1077
○名　　称　色絵七宝文盃洗(いろえしっぽうもんはいせん)　永楽和全 (1823～96) 作
○時　　代　江戸～明治
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高11.0 口径14.8 底径6.0cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.全体をクリーニングする。　2.欠損部分を元に戻す。　3.ひび部分を補強する。(平成23年度は1まで)

30　○列品番号　G-5293
○指　　定　重文
○指定年月　平成2年(1990)6月29日　工第2536号
○名　　称　染付龍濤文提重(そめつけりゅうとうもんさげじゅう)　青木木米 (1767～1833) 作
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　磁製
○員　　数　1具
○寸 法 等　提(高23.0 径23.0×22.5) 箱(高14.0 径16.3×16.0) cm
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1.旧修理部分を取り除き、クリーニングする。　2.オーバーペイントを除去した後、最小限の補填・補彩をする。(平成23年度は1まで)

〈東洋陶磁〉(1件)

31　○列品番号　TG-938
○名　　称　緑彩龍文瓶(りょくさいりゅうもんへい)　景徳鎮窯
○時　　代　明
○年代世紀　万暦年間(1573～1620年)
○品　　質　磁製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高21.6 口径14.3 底径10.8cm
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1.全体をクリーニングする。　2.旧修理のオーバーペイントを除去する。　3.欠失部分へ状況に応じて補填する。　4.補填部分へ補彩する。(平成23年度は2の途中まで)

〈漆工〉(2件)

32　○列品番号　H-4496
○名　　称　檜垣枝菊蒔絵沈箱(ひがきえだきくまきえじんばこ)
○時　　代　安土桃山～江戸
○年代世紀　17c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1合
○寸 法 等　縦10.1 横8.8 高7.2cm
○施工会社　北村　繁
○修理内容　1.クリーニングする。　2.塗膜を強化する。　3.欠失部分を補填する。　4.周囲と色あわせを行なう。(平成23年度は1まで)

33　○列品番号　H-4510
○名　　称　吉野山蒔絵棚(よしのやままきえだな)
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1基
○寸 法 等　幅88.4　奥行39.4　高81.6cm
○施工会社　(株)小西美術工藝社
○修理内容　1.クリーニングする。　2.梨子地部分を保護しながら、漆塗膜を強化する。　3.漆塗膜の亀裂や剥離箇所の安定をはかる。　4.旧修理の塗料を除去し、色合わせをおこなう。(平成23年度は1まで)

〈東洋漆工〉(3件)

34　○列品番号　TH-18
○名　　称　広寒宮螺鈿合子(こうかんきゅうらでんごうす)
○時　　代　元
○年代世紀　14c
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　径32.5　高10.4cm
○員　　数　1合
○施工会社　(株)目白漆芸文化財研究所

○修理内容　1.全体をクリーニングする。　2.塗膜を強化する。　3.欠失部分を補填する。　4.周囲と色あわせを行う。(平成23年度は1まで)

35 ○列品番号　TH-441
○名　　称　朱漆十二角脚付膳(しゅうるしじゅうにかくきゃくつきぜん)
○時　　代　朝鮮
○年代世紀　19～20c
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　盤径39.9　底径40.3　高25.8cm
○員　　数　1基
○施工会社　(株)小西美術工藝社
○修理内容　1.クリーニングする。　2.塗膜を強化する。　3.欠失部分を補填する。　4.周囲と色あわせを行う。　5.金具の錆を除去し、安定化させる。(平成23年度は1まで)

36 ○列品番号　TH-442
○名　　称　朱漆十二角脚付膳(しゅうるしじゅうにかくきゃくつきぜん)
○時　　代　朝鮮
○年代世紀　19-20c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1脚
○寸 法 等　高25.9、径40.2cm
○施工会社　(株)小西美術工藝社
○修理内容　1.クリーニングする。　2.ひび、割れを漆で接着する。　3.欠失部分を補填する。　4.旧修理の塗料は取り除き、色あわせをする。(平成23年度は3から)

〈染織〉(39件)

37 ○列品番号　I-336-5
○名　　称　緑地目結文綴錦縁平絹(みどりじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綴錦・平絹
○員　　数　4枚
○寸 法 等　①7.1×5.2、②5.0×23.2、③3.3×18.4、④7.5×3.2cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

38 ○列品番号　I-336-6
○名　　称　淡緑地目結文綴錦縁平絹　(うすみどりじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綴錦・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　27.3×7.4cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

39 ○列品番号　I-336-7
○名　　称　青地二重目結文綴錦縁平絹（あおじにじゅうめゆいもんこうけちへいけん）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綴錦・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　12.6×14.2cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

40 ○列品番号　I-336-8
○名　　称　紺地格子襷文綴錦縁平絹　(こんじこうしたすきもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綴錦・平絹
○員　　数　3枚
○寸 法 等　①6.0×4.5、②5.7×4.7、③6.0×4.2cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

41 ○列品番号　I-336-9
○名　　称　緑地綴錦縁平絹（みどりじこうけちへいけん）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綴錦・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　24.6×3.7 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。　2.汚れ等を除去する。　3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。　4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。　5.マット装に仕立てる。

42 ○列品番号　I-336-12
○名　　称　茶地草花文描絵綴錦縁平絹　(ちゃじそうかもんかきえこうけちへいけん)

○時　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　質　絹製、縫纐、描絵・平絹
○員　数　1枚
○寸 法 等　13.6×5.3 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

43 ○列品番号　I-336-13
○名　称　淡茶地目結文縫纐平絹（うすちゃじめゆいもんこうけちへいけん）
○時　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　質　絹製、縫纐・平絹
○員　数　1枚
○寸 法 等　18.0×9.6 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4. 新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

44 ○列品番号　I-336-14
○名　称　黄緑地目結文縫纐平絹天蓋垂飾（きみどりじめゆいもんこうけちへいけんてんがいすいしょく）
○時　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　質　絹製、縫纐・平絹
○員　数　1枚
○寸 法 等　15.6×12.6 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

45 ○列品番号　I-336-15
○名　称　紺地目結文縫纐綾（こんじめゆいもんこうけちあや）
○時　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　質　絹製、縫纐・綾
○員　数　1枚
○寸 法 等　10.8×9.6 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

46 ○列品番号　I-336-16
○名　称　緑地目結文縫纐平絹（みどりじめゆいもんこうけちへいけん）
○時　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　質　絹製、縫纐・平絹
○員　数　1枚
○寸 法 等　15.4×10.2 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

47 ○列品番号　I-336-17
○名　称　淡黄緑地目結文縫纐綾 （うすきみどりじめゆいもんこうけちあや）
○時　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　質　絹製、縫纐・綾
○員　数　1枚
○寸 法 等　16.4×15.0 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

48 ○列品番号　I-336-24
○名　称　赤地小菱文綾 （あかじしょうひしもんあや）
○時　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　質　絹製、綾
○員　数　1枚
○寸 法 等　14.3×12.6㎝
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

49 ○列品番号　I-336-25
○名　称　黄緑地山形文綾幡足 （きみどりじやまがたもんあやばんそく）
○時　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　質　絹製、綾
○員　数　1枚

○寸 法 等　29.7×15.4 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

50 ○列品番号　I-336-26
○名　　称　黄地花鳥入り亀甲繋文綾幡足 （きじかちょういりきっこうつなぎもんあやばんそく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　17.0×15.9 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

51 ○列品番号　I-336-28
○名　　称　白地双竜二重連珠円文綾（しろじそうりゅうにじゅうれんじゅえんもんあや）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　20.5×26.8 cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

52 ○列品番号　I-336-30
○名　　称　赤地葡萄唐草文綾天蓋垂飾 （あかじぶどうからくさもんあやてんがいすいしょく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　14.1×10.3㎝
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

53 ○列品番号　I-336-31
○名　　称　赤地葡萄唐草文綾天蓋垂飾（あかじぶどうからくさもんあやてんがいすいしょく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　13.5×10.3㎝
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

54 ○列品番号　I-336-32
○名　　称　淡茶地葡萄唐草文綾幡足 （うすちゃじぶどうからくさもんあやばんそく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　16.3×15.3㎝
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

55 ○列品番号　I-336-38
○名　　称　赤地双鳥連珠円文綾 （あかじそうちょうれんじゅえんもんあや）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　19.0×10.9㎝
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

56 ○列品番号　I-336-39
○名　　称　赤紫地双鳥連珠円文綾 （あかむらさきじそうちょうれんじゅえんもんあや）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　12.9×13.1㎝
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

57 ○列品番号　I-336-42
○名　　称　緑地花文綾（みどりじかもんあや）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　19.5×22.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

58 ○列品番号　I-336-49
○名　　称　赤地綟文綾幡足（あかじいしだたみもんあやばんそく）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.2×16.0cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

59 ○列品番号　I-336-50
○名　　称　黄地綟文綾（きじいしだたみもんあや）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　15.0×8.9cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

60 ○列品番号　I-336-59
○名　　称　茶紫地小花目結襷文錦 （ちゃむらさきじしょうかめゆいたすきもんにしき）
○時　　代　飛鳥ー奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.7×11.0cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

61 ○列品番号　I-336-61
○名　　称　雑色変り綟文錦（ざっしょくかわりいしだたみもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　11.6×10.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

62 ○列品番号　I-336-62
○名　　称　淡紅地雲山錦（うすべにじくもやまにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　17.1×7.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

63 ○列品番号　I-336-63
○名　　称　赤地花唐草文錦 （あかじはなからくさもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　10.8×5.5cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。5.マット装に仕立てる。

64 ○列品番号　I-336-72
○名　　称　黄地唐花文錦 （きじからはなもんにしき）
○時　　代　奈良

○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　16.2×28.3cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

65 ○列品番号　I-336-73
○名　　称　黄地蓮唐花文錦（きじはすからはなもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　10.3×26.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

66 ○列品番号　I-336-75
○名　　称　黄緑地花文錦（きみどりじかもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　4.4×5.0cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

67 ○列品番号　I-336-76
○名　　称　緑地唐花文錦（みどりじからはなもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　2片
○寸 法 等　①9.3×10.4、②8.9×9.0cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

68 ○列品番号　I-336-77
○名　　称　黄緑地花文錦 （きみどりじかもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.8×5.5cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

69 ○列品番号　I-336-78
○名　　称　緑地目結欅文風通（みどりじめゆいたすきもんふうつう）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、風通
○員　　数　1枚
○寸 法 等　15.4×12.7cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

70 ○列品番号　I-336-79
○名　　称　甃文交織裂 （いしだたみもんこうしょくぎれ）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、平織
○員　　数　1枚
○寸 法 等　4.5×4.2cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

71 ○列品番号　I-336-80
○名　　称　小甃文風通 （こいしだたみもんふうつう）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　18.4×2.2cm

○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

72 ○列品番号　I-336-81
○名　　称　縞地入子菱繋文錦 （しまじいりこびしつなぎもんにしき）
○時　　代　奈良
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　11.6×10.6cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

73 ○列品番号　I-336-86
○名　　称　雑色縦縞文裂（ざっしょくたてじまもんぎれ）
○時　　代　飛鳥-奈良
○年代世紀　7～8c
○品　　質　絹製、平織
○員　　数　1枚
○寸 法 等　24.4×16.6cm
○施工会社　澤田むつ代、アソシエイトフェロー
○修理内容　1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.新糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.マット装に仕立てる。

74 ○列品番号　I-2861
○名　　称　唐織　濃茶茶浅葱段秋草模様（からおり　こいちゃあさぎだんあきくさもよう）
○時　　代　江戸
○年代世紀　16～17c
○品　　質　絹製
○員　　数　１領
○寸 法 等　丈 152.7、裄 71.6cm
○施工会社　(株)染技連
○修理内容　1.解体する。 2.クリーニングする。 3.表裂の裂けた部分には、類似の補修裂を用いて、損傷部分にあてて縫いとめる。 4.裏裂の劣化部分と裂け部分には類似の色に染めた補修裂を用いて、損傷部分にあてて縫いとめる（状況に応じて全面にあてるかは検討を要する）。 5.中に入れる真綿を再利用し、元の状態に仕立てる。(平成23年度は1まで)

75 ○列品番号　I-3865
○指　　定　重文
○指定年月日　昭和40年(1965)5月29日(染織第2192号)
○名　　称　小袖 白練緯地松皮菱竹模様（こそで しろねりぬきじまつかわびしたけもよう）
○時　　代　安土桃山
○年代世紀　16～17c
○品　　質　絹(練緯)製
○員　　数　1領
○寸 法 等　丈 142.0、裄 67.0cm
○施工会社　(株)染技連
○修理内容　1.表と裏に分ける。 2.表裂は解体する。 3.旧補修糸を外す。 4.補修用の練緯を製織する。 5.全面に補修裂をあてて縫い止める。 6.裏地と真綿は元使いするが、真綿が不足する場合は補う。 7.元の状態に仕立てる。 8.絹の包み裂を新調して納める。(平成23年度は5の途中から)

〈考古〉(26件)

76 ○列品番号　J-1548
○名　　称　鉢形土器(はちがたどき)
○時　　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高13、口径23.5cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。 2.セルロース系樹脂で接合する。 3.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 4.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は2から)

77 ○列品番号　J-5659
○名　　称　須恵器 甕（すえき　かめ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高20.5、口径14.5cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。 2.接着剤や汚れをクリーニングする。 3.セルロース系樹脂で接合する。 4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

78 ○列品番号　J-7880
○名　　称　鉄刀（てっとう）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　１本
○寸 法 等　長76.5、刀身長67.7、刀身幅3.0cm

○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4.セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

79 ○列品番号　J-7881
○名　称　鉄刀（てっとう）
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　1本
○寸 法 等　長79.0、刀身長72.2、刀身幅2.9cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4.セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。 (平成23年度は2まで)

80 ○列品番号　J-7892-1.2
○名　称　鉄刀子（てつとうす）
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　2本
○寸 法 等　長5.0・10.4、身幅1.2・1.4cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4.セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は2まで)

81 ○列品番号　J-7893-1～12
○名　称　鉄鏃（てつぞく）
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　12本
○寸 法 等　長4.7～13.8、身幅1.2～2.8cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4.セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は2まで)

82 ○列品番号　J-11623
○名　称　深鉢形土器（ふかばちがたどき）
○時　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　高14.5、口径17cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。 2.接着剤や汚れをクリーニングする。 3.セルロース系樹脂で接合する。 4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

83 ○列品番号　J-20194
○名　称　壺（つぼ）
○時　代　弥生
○年代世紀　1～3ｃ
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　高22.5、口径10.5cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。 2.接着剤や汚れをクリーニングする。 3.セルロース系樹脂で接合する。 4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

84 ○列品番号　J-22892
○名　称　須恵器 長頸壺（すえき　ちょうけいこ）
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　陶製
○員　数　1個
○寸 法 等　高25、胴部径17.5cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。 2.接着剤や汚れをクリーニングする。 3.セルロース系樹脂で接合する。 4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

85 ○列品番号　J-22893
○名　称　土師器 壺（はじき　つぼ）
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　高24、口径17cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。 2.接着剤や汚れをクリーニングする。 3.セルロース系樹脂で接合する。 4.エポキシ系樹脂により補填･復元する。 5.アクリル系絵具で補彩する。(平成23年度は3から)

86 ○列品番号　J-8925
○名　　称　甕　(かめ)
○時　　代　擦文時代
○年代世紀　8～9c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高16.4 口径15.5cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。　2.クリーニングする(カビの除去)。　3.接合する。　4.補填･復元する。　5.補彩する。

87 ○列品番号　J-1541
○名　　称　甕　(かめ)
○時　　代　擦文時代
○年代世紀　8～9c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高25.5 口径22.2cm
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。　2.クリーニングする(カビの除去)。　3.接合する。　4.補填･復元する。　5.補彩する。

88 ○列品番号　J-14066
○名　　称　須恵器 四耳壺 (すえき　しじこ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高18.5 胴部径20.5cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。　2.補填･復元する。　3.補彩する。

89 ○列品番号　J-14072-1
○名　　称　須恵器 坩　(すえき　かん)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高14.5 口径10.8cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.補填･復元する。　3.補彩する。

90 ○列品番号　J-70
○名　　称　須恵器　提瓶　(すえき　ていへい)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高29.8　口径14.0cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.クリーニングする。 2.補填･復元する。 3.補彩する。

91 ○列品番号　J-3270-1
○名　　称　須恵器　平瓶　(すえき　ひらべ)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高24.5　胴部径24.0cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.補填･復元する。 3.補彩する。

92 ○列品番号　J-3410
○名　　称　須恵器　提瓶　(すえき　ていへい)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　6～7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高29.1　口径12.7cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。 2.クリーニングする。 3.接合する。 4.補填･復元する。 5.補彩する。

93 ○列品番号　J-8402
○名　　称　須恵器　長頸壺　(すえき　ちょうけいこ)
○時　　代　古墳 (飛鳥)
○年代世紀　7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高26.8　口径8.0cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.接合する。　3.補填･復元する。　4.補彩する。

94 ○列品番号　J-8403
○名　　称　須恵器　台付長頸壺　（すえき　だいつきちょうけいこ）
○時　　代　古墳（飛鳥）
○年代世紀　7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高22.1　胴部径13.0cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.接合する。 3.補填･復元する。 4.補彩する。

95 ○列品番号　J-23635
○名　　称　須恵器　平瓶　（すえき　ひらべ）
○時　　代　古墳（飛鳥）
○年代世紀　7c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高18.0 胴部径19.0cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.補填･復元する。 3.補彩する。

96 ○列品番号　J-7548
○名　　称　鉄鏃　（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　5c
○品　　質　鉄製
○員　　数　2本
○寸 法 等　長7.7・7.2　幅1.5・1.5cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。 3.強化する。 4.補填･復元する。 5.補彩する。

97 ○列品番号　J-8070-1・2
○名　　称　鉄鏃　（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　6本
○寸 法 等　長8.5～12.8 幅0.7～1.1cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。 3.強化する。 4.補填･復元する。5.補彩する。

98 ○列品番号　J-8071-1～4
○名　　称　鉄鏃　（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　5本
○寸 法 等　長8.5～12.8 幅0.7～1.1cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。 3.強化する。 4.補填･復元する。 5.補彩する。

99 ○列品番号　J-8964
○名　　称　鉄鏃　（てつぞく）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　43本
○寸 法 等　長 4.3～14.5 幅0.5～0.7cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。 3.強化する。 4.接合する。 5.補填･復元する。 6.補彩する。

100 ○列品番号　J-8965
○名　　称　鉄刀子残欠（てつとうすざんけつ）
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　2本
○寸 法 等　長6.7・3.3 幅1.5・1.0cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。 3.強化する。 4.破片を接合する。 5.補填･復元する。 6.補彩する。

101 ○列品番号　寄託品
○名　　称　片口土器（埼玉県ふじみ野市上福岡貝塚出土）（かたくちどき）
○指　　定　重文
○指定年月　昭和35年(1960)6月9日　考第220号
○時　　代　縄文前期
○年代世紀　前4000-前3000
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高46.6
○施工会社　(有)武蔵野文化財修復研究所

○修理内容　1.解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合・組み立てる。 4. 強化・整形する。 5. 補填する。 6. 補彩する。

〈東洋考古〉(2件)

102 ○列品番号　TJ-2216
○名　称　環頭太刀（かんとうたち）
○時　代　漢
○年代世紀　前2c-2c
○品　質　鉄製
○員　数　1本
○寸 法 等　長116.1、刀身幅2.9cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上で脱塩処理する。 3.強化する。 4.補填･復元する。 5.補彩する。

103 ○列品番号　TJ-5719
○名　称　銅戈（どうか）
○時　代　戦国～前漢
○年代世紀　前3～前2c
○品　質　銅製
○員　数　1本
○寸 法 等　長25.5　幅7.5cm
○施工会社　(株)東都文化財保存研究所
○修理内容　1.クリーニングする。 2.必用な前処置を行なった上でベンゾトリアゾール処理を実施する。 3.強化する。 4.補填･復元する。 5.補彩する。

〈和書〉(2件)

104 ○列品番号　QA-4191
○名　称　伊豆国図(いずのくにず)
○時　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　質　紙本着色、折仕立
○員　数　1鋪
○寸 法 等　162.3×132.7cm
○施工会社　(株)墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙は補修して再使用する。 5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。

105 ○列品番号　QA-4196
○名　称　尾張国図(おわりのくにず)
○時　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　質　紙本着色、折仕立
○員　数　1鋪
○寸 法 等　127.4×188.7cm
○施工会社　(株)墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙は補修して再使用する。 5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。

〈館資〉(1件)

106 ○列品番号　館資678
○名　称　重要雑録(じゅうようざつろく)
○時　代　明治26年
○年代世紀　1893年
○品　質　紙製
○員　数　1冊
○寸 法 等　27.8×19.5×7.6cm
○施工会社　(株)東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。 2.各頁ごとに折れや皺をのばす。 3.劣化が著しい箇所には両面より典具帖紙による補強を行う。 4.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 5.表紙は新調し、題簽、ラベルなどは再用する。 6.封筒や付箋は、補紙等を施し、元の場所に貼り付ける。 7.冊子本に仕立てる。

【京都国立博物館】(10件)

＜絵画＞(1件)

1　○名　称　二十四孝図屏風（にじゅうしこうずびょうぶ）
○品　質　紙本著色
○員　数　6曲1隻
○寸 法 等　各扇：本紙縦 96.6cm　横 42.2cm　総縦 121.3cm　総横 48.0cm
隻　：総丈縦 121.3cm　横 288.0cm
○施工会社　(株)松鶴堂
○修理内容　1 本紙の損傷状態、絵具層の状態調査を行い、撮影・記録する。2 損傷地図を作成する。3 本紙を下地より取り外す。4 絵具層の剥落止めを行う。5 旧裏打紙（肌裏紙以外）を除去する。6 安全に画面表面の汚れを除去する。7 必要な箇所に剥落止めを行い、仮裏打ちをし、一時仮張りする。8 肌裏紙を除去する。9 不良補紙を除去し、本紙料紙欠失箇所に補修紙で補修を行う。10 本紙周囲に補紙を足し回す。11 肌裏打を行う。12 2度目の裏打を行い、一時仮張り乾燥を行う。13 補修箇所に地色合わせの補彩を行う。14 杉材下地を新調し、両面共に下張りを行う。下張りは、骨縛り・胴張り、3 重蓑掛･蓑縛りを行う。15 下地に、両面共に 2 重浮張を行う。16 本紙を仮張りより取り外し、下地に上張りする。17 下地の裏面に紺地の唐紙にて裏張りする。18 黒漆掾を新調し、屏風装に仕上げる。

＜書跡＞(4件)

2　○名　称　後二条天皇宸翰消息（ごにじょうてんのうしんかんしょうそく）
○指　定　重文
○時　代　鎌倉時代（13世紀）
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙縦 29.9cm　横 42.5cm
○施工会社　(株)光影堂

○修理内容　1 損傷状態について調査・撮影記録を行う。2 墨層状態調査を行う（パッチテスト）。3 剥離箇所への糊挿し、及び剥落止めを行う。4 表装を解装し、旧総裏紙・旧増裏紙を除去する。5 画面の汚れを除去する。6 旧肌裏紙の除去を行う。7 旧不良補紙を除去する。8 本紙欠失箇所に補修を施す。9 薄美濃紙にて本紙に肌裏打を施す。10 美栖紙にて1度目の増裏打を施し、一時仮張する。11 相剥ぎによる損傷箇所については、薄美栖紙にて相剥ぎ直しを施す。12 本紙の折損脆弱箇所に折伏せによる補強補修を施す。13 美栖紙にて 2 度目の増裏打を施し、一時仮張する。14 表装裂地については、一文字風帯は汚れの除去及び補修を施し再使用とする。中縁には緞子・上下には無地裂を新調する。各種裂地に美濃紙にて肌裏打、美栖紙にて増裏打を施し、一時仮張する。15 本紙・表装裂地を仮張りから外し、三段表装に付廻しを行う。16 宇陀紙にて総裏打を施す。17 表・裏2回の仮張を行う。18 上巻絹・紐・鐶・軸木(上下一組)・軸首(牙軸)・包裂等を新調する。19 桐材太軸巻(木口詰)・桐材屋郎中箱・渋紙製覆いを新調する。20 十分に乾燥後、仕上げを行う。21 完成後の撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。

3　○名　　称　後伏見天皇宸翰消息（今朝自是云々）（ごふしみてんのうしんかんしょうそく(けさよりこれうんぬん)）
○時　　代　鎌倉時代（文保2年1318年）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1巻
○寸 法 等　縦 33.8cm　総横 102.6cm
○施工会社　(株)光影堂
○修理内容　1 本紙料紙の状態を調査し、撮影・記録する。2 本紙の剥離箇所に糊挿しを施し、巻子装を解体する。3 墨層の状態を調査し、必要に応じて膠水溶液にて剥落止を行う。4 本紙の継ぎを外し、浄化水を用い汚れの除去を行い、必要に応じて再度剥落止めを行う。5 料紙の繊維組成検査を行い、それに応じた補修紙を選定・準備する。6 欠失箇所に削繕補修を行う。7 表紙に緞子裂を新調し裏打を施し、見返し・巻末紙を新調し、継いだ本紙と接合させる。8 紐・軸木・八双竹・包裂等を新調し、巻子装に仕立てる。軸首は象牙印可軸を新調する。9 桐材木口詰太軸巻、桐材屋郎中箱1合を新調する。旧箱鑑は新調した保存箱の箱下へ収める。10 中箱蓋部分に渋紙製覆いを新調する。11 完成後の撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。

4　○名　　称　大般若経巻第五百二（だいはんにゃきょうかんだい502）
○時　　代　北宋時代　元祐5年（1090）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1帖
○寸 法 等　縦 31.7cm　折幅 11.0cm
○施工会社　(株)光影堂
○修理内容　1 修理前に本紙料紙の状態を調査し、撮影・記録する。2 墨・朱箇所の状態調査を行い、必要であれば膠水溶液にて剥落止めを行う。3 折本装を解体する。4 浄化水を用い汚れの除去を行い、必要に応じて再度剥落止めを行う。5 適度の湿り気をもって旧裏打紙を除去する。6 料紙の繊維組成検査を行い、それに応じた補修紙を準備する。7 本紙欠失箇所に削繕補修を行う。8 天然染料にて染め、媒染、水洗いを施した薄美濃紙・新糊で肌裏打を行い、一時仮張する。裏打ちは1層のみ施す。9 元通りに本紙を折り、継ぎ合せる。10 折本装に仕立てる。板表紙はヒビ割れ箇所のみ補彩を施し再使用とする。11 四方紙帙・桐材屋郎箱を新調する。旧裏打紙等は旧箱へ収納し、四方帙に収めた本紙と旧箱を新調した保存箱へ収納する。12 完成後の撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。(23 年度より・2ヶ年事業)

5　○名　　称　金剛般若経開題残巻　弘法大師筆（こんごうはんにゃきょうかいだいざんかん）
○指　　定　国宝
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1巻
○寸 法 等　本紙 縦 27.9cm　横 201.8cm　表紙 縦 32.3cm　横 24.0cm
○施工会社　(株)松鶴堂
○修理内容　1 修理前に本紙の状態等を調査・記録し、写真撮影を行う。2 本紙のクリーニングを行い、必要箇所に膠水にて剥落止めを行う。3 裏打紙を除去し、各紙の継目を離す。4 本紙の欠失、破損箇所には同質の補修紙を作製し、繕う。5 美濃紙にて肌裏打を施す。6 折損箇所及び脆弱箇所には美濃紙にて折伏を施す。7 美栖紙にて増裏打を施す。8 縁紙に本紙と同様に美濃紙にて肌裏打、美栖紙にて増裏打を施し、仮張りに掛けて乾燥させる。9 本紙四辺に縁紙を付け廻しする。10 混合紙にて総裏打を施す。11 仮張りにかけて乾燥させる。12 巻末軸巻紙を新調する。13 各紙を継ぎ、長時間乾燥させる。14 表紙を新調し、本紙と同様に裏打ちを行った後、仮張りにかけて乾燥させる。15 見返しを新調する。16 本紙と表紙を継ぎ合せる。17 軸首、中軸、八双、紐はそれぞれ新調し、巻子装に仕立てる。18 修理後の写真撮影を行い、比較検討の資料とする。19 包裂、桐太巻芯(木口詰仕様)、桐材保存箱（中箱：桐屋郎箱、外箱：黒漆塗桐台差箱（旧箱並列収納））を新調し、収納する。(23 年度より・2ヶ年事業)

＜彫刻＞（1件）

6　○名　　称　木造菩薩坐像および像内納入品のうち　像内納入品（もくぞうぼさつざぞうおよびぞうないのうにゅうひんのうち　ぞうないのうにゅうひん）
○時　　代　中国　元～明
○員　　数　1括
○寸 法 等　版本　5巻・2塊　本紙　縦 約11.0cm　横 約75.0cm
○施工会社　(株)光影堂
○修理内容　1 本紙料紙の状態を調査し、撮影・記録する。2 本紙を平らな状態にする。3 墨層の状態を調査し、必要に応じて膠水溶液にて剥落止を行う。4 浄化水を用い汚れの除去を行い、必要に応じて再度剥落止を行う。5 料紙の繊維組成検査を行い、それに応じた補修紙を選定・準備する。6 欠失箇所に削繕補修を行う。状況により裏打を施す。7 平置きで1紙ずつ畳紙で挟み、1セットずつ中性紙にて挟み、中性紙上にラベルを貼付する。8 計7セットを中性箱に保存する。9 完成後の撮影・記録を行い、修理報告書を作成する。

＜漆工＞（2件）

7　○名　　称　蜻蛉蒔絵鞍・鐙（とんぼまきえくら・あぶみ）
○時　　代　江戸時代（万延元年1860年）
○品　　質　木製および鉄製　漆塗　蒔絵
○員　　数　1具
○寸 法 等　鞍：38.7cm×35.8cm、高29.0cm　鐙：各12.1cm×29.2cm、高25.1cm
○施工会社　北村繁
○修理内容　1 一体になっている下鞍や馬氈などを鞍本体から取り外す。　2　修理前に写真撮影と調査を行い、修理計画を立てる。3　毛先の柔らかい筆などを用いて埃を掃った後、精製水やエタノール水溶液等を用いて可能な範囲でクリーニングを行う。4　鞍に生じた漆塗膜の亀裂には生上味漆を割れ目から流しこんで木地を強化した後、希釈した麦漆を含浸して隙間を接着する。この際に浮き上がった可能な範囲で加圧して段差を押さえるよう試みるが、塗膜が厚く不可能な場合は現状のままで接着する。5　鐙に生じた漆塗膜の亀裂には生上味漆を割れ目から十分に含浸し、素地の鉄の表面に漆の皮膜を作って空気との接触を出来るだけ遮断する。その後、希釈した麦漆を含浸して隙間を接着する。この際に浮き上がった可能な範囲で加圧して段差を押さえるよう試みるが、塗膜が厚く不可能な場合は現状のままで接着する。6　漆塗膜の接着後、亀裂の隙間に木屎や漆下地を充填して形状を整える。7　漆塗膜の欠失したところは木屎や漆下地で形状を整える。8　新たに施した漆下地は形状を整えた後、違和感なく周囲と調和するように仕上げる。9　修理後の写真撮影を行う。10　木製外箱の蓋の欠損した横桟を新たに補い、接合部を接着して補強する。11　修理前に取り外した下鞍など一式を組み立てる。(22 年度より継続・2ヶ年事業)

8　○名　　称　龍骨車蒔絵鞍・鐙（りゅうこつしゃまきえ・くら・あぶみ）
○時　　代　江戸時代（17～18世紀）
○品　　質　木製および鉄製　漆塗　蒔絵
○員　　数　1具
○寸 法 等　鞍：後輪　馬狭 38.0cm　高さ 25.5cm　居木　長さ 30.0cm　鐙：長さ 30.2cm　幅 14.3cm　高さ 26.6cm
○施工会社　北村繁
○修理内容　1 修理前の写真撮影と調査を行う。修理計画を立てる。2 安全なクリーニングを行う。3 表面の金刑部梨子地の捲れをすべて漆で圧着する。剥落分も本体に貼り戻

す。4 鞍の亀裂を漆で接着する。5 鐙の塗膜の亀裂は、支持胎である鉄の酸化が進まないよう処置した上で、漆で圧着する。6 漆塗膜の接着後、亀裂の隙間や欠失部分を木屎や漆下地で整える。7 新たに加えた漆下地は、オリジナル部分と違和感のないよう調整する。8 鐙の包み布を新調する。9 修理後の撮影を行う。修理報告を作成する。(23 年度より・2 ヶ年事業)

＜染織＞ (1 件)

9 ○名　称　鉄藍絽地冬田落雁文単衣（てつあいろじふゆだらくがんもんひとえ）
○時　代　江戸後期
○品　質　鉄藍絽地 染・繍 振切り留袖
○員　数　1 領
○寸 法 等　身丈 157.5cm　身幅 28.0cm　袖丈 42.3cm　袖幅 32.0cm　衿幅 11.0cm
○施工会社　染技連
○修理内容　1 解体前に全体像・各部分を安全な方法で撮影し、寸法・破損箇所などを記録・撮影する。2 絽地の透ける素材のため、補強裂には材料を吟味する。3 使用材料は作品に対するなじみなどを考慮して選定する。4 補強裂・補修糸を染色する。5 損傷を考慮して全面解体する。6 全体的にしわ・縫込み部分を伸ばす。7 全面に補強裂兼裏地を当て、損傷箇所は糸目を整えながら綴付け補強を行い、損傷箇所以外に仮留めを施し表地に沿わせる。8 損傷箇所には渡し縫い・ぐし縫いを併用して補修する。9 金駒繍の乱れを整える。10 基本的に修理前の旧縫い目をたどり仕立てるが、必要に応じてつれが起こらないように調整する。11 身頃中心に綿布団を入れ、和紙畳紙を製作する。12 仕立後に全体像を撮影し、さらに寸法・修理箇所などを記録、撮影する。

＜考古＞ (1 件)

10 ○名　称　秋田県湯沢市松岡経塚出土品のうち 陶製甕（あきたけんゆざわしまつおかきょうづかしゅつどひんのうち とうせいかめ）
○時　代　平安時代
○品　質　陶製
○員　数　1 口
○寸 法 等　胴回り直径 35.0cm　口縁部直径 16.0cm　高さ 37.5cm
○施工会社　(株)京都科学
○修理内容　1 仕様確認、準備・写真記録 2 解体（溶剤を用いて接着に使用しているセメダインを再溶解する。）3 クリーニング（解体後全て水洗いをする。セメダインは全て除去する。）4 再接合（エポキシ樹脂）5 復元（エポキシ樹脂を使用）6 彩色（復元部が分かるように仕上げる。）

【奈良国立博物館】(11件)

＜絵画＞(3 件)

1 ○名　称　紙本墨画淡彩山水図　〈伝周文筆/〉（しほんぼくがたんさいさんすいず　〈でんしゅぶんひつ〉）
○員　数　1 幅
○時　代　室町時代　　文安二年（1445）
○品　質　紙本墨画淡彩
○寸 法 等　縦 108.0 cm　横 32.7cm
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。表面の水溶性の汚れが修理中に移動しないようクリーニングを施す。乾式肌上げ法により古い裏打紙を全て除去し、新しい裏打紙に取り替える。墨と淡彩については、その定着状況に応じて剥落止めを行う。旧補彩については、本紙と大変よく馴染んでいることから基本的に再使用する。表装裂は全て再使用する。(継続 2 か年事業のうちの第 2 年目)

2 ○名　称　絹本著色十王像　〈陸仲淵筆/〉（けんぽんちゃくしょくじゅうおうぞう　〈りくちゅうえんひつ〉）
○員　数　3 幅
○時　代　元時代(中国)　　14 世紀
○品　質　絹本著色
○寸 法 等　各　縦 85.8 cm　横 50.6 cm
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。多数ある横折れや料絹の欠失に、折れ伏せや剥落止めなど、適切な処置を施し、掛軸装としてのしなやかさを回復させるため、裏打紙を全て取り替える。本品には肌裏紙上への補筆や旧補絹への補筆が見られることから、詳細な損傷地図を作成し、除去及び再使用の検討を行う。旧肌裏紙の取り替えに際しては、裏面の状態を確認しながら作業を行える乾式肌上げ法を採用する。表装裂、軸木はいたみがあるため新調し、軸首は再使用する。各幅に桐材太巻添軸を新調する。箱は三幅入りの二重箱に改め、外側を黒漆塗桐台差箱、中箱は桐印籠蓋箱とする。なお、修理過程では、必要に応じて高精細デジタルカメラや蛍光エックス線分析器等の光学機器を用いた調査を実施し、当館研究員と密に情報を共有しながら修理方針を決定する。また調査や修理の過程で得られたデータを報告書の形で提出する。(継続 3 か年事業のうちの第 1 年目)

3 ○名　称　絹本著色春日宮曼荼羅（けんぽんちゃくしょくかすがみやまんだら）
○員　数　1 幅
○時　代　室町時代　　14 世紀
○品　質　絹本著色
○寸 法 等　縦 78.8 cm　横 35.8 cm
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。修理前・中に実体顕微鏡、蛍光エックス線等の光学機器を用いた調査を実施し、当館研究員と密に情報を共有しつつ修理方針を決定する。軸装を解体し、濾過水を噴霧してクリーニングを行う。膠を用いて絵具の剥落止めを行う。乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去する。本紙欠失箇所に電子線劣化絹を使用して補絹を施した後、新たに肌裏打ちを施す。細切りの楮紙で折れ伏せを施す。表装裂を新調し、仏表具の形式に整える。補修箇所にのみ補彩を施す。軸首・上下軸を新調して軸装に仕立てる。桐材太巻添軸、桐材印籠箱および裂貼り帙を新調し、包裂に包んで納入する。修理報告書を作成する。

＜書跡＞(2 件)

4 ○名　称　紺紙金字一字宝塔法華経　〈巻第三、第五〉（こんしきんじいちじほうとうほっけきょう）
○員　数　2 巻
○時　代　平安時代　　12 世紀
○品　質　紺紙金泥書銀泥界　(見返)金銀泥絵
○寸 法 等　巻第三：縦 29.9cm　長 1106.6cm　　巻第五：縦 29.8cm　長 1256.8cm
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　表紙は現状の補紙を取り外し、新たな補紙を入れる。表紙と見返しの間に一紙（紺色）を足す。見返しは旧補紙を取り外し、新たな補紙を入れる。ただし、巻第五の旧補紙部分にある金銀泥の補筆は、可能な限り生かす。本紙の天地辺に施された旧補紙はすべて取り外し、新補紙に代える。天地辺以外の欠損部を繕っている補紙は現状のままとする。金泥文字の欠損（穴）部は紙背から補紙で繕う。必要に応じて、折れ伏せ、剥落どめ等を施す。本紙のももけは、これを改善する。紙継目の糊離れ部に糊を差す。また修理にともない光学的調査機器を用いた紙質調査をおこなう。(継続 2 か年事業のうちの第 1 年目)

5 ○名　称　法華経　巻第二（蝶鳥下絵料紙）（ほっけきょう　まきだいに　（ちょうとりしたえりょうし））
○員　数　1 巻
○時　代　平安時代　　12 世紀
○品　質　紙本墨書　金銀泥絵
○寸 法 等　縦 25.2cm　　長 1125.3cm
○施工会社　(株)文化財保存

○修理内容　旧補修時に生じた不適切な紙の継ぎ直しを修正し、旧裏打・補紙は除去する。料紙はプレスにより皺・暴れを修正し、第一紙や虫穴は補修紙による補填・補強を行う。金銀泥などの状態を確認し、必要な場合剥落止めを施す。修理に伴い、光学調査機器等を用いた紙質調査を行う。また表紙・軸・軸付紙を新調し、収納については太巻きを付け、箱（桐製）を新調する。

＜彫刻＞(1件)

6　○名　称　木造如来立像（もくぞうにょらいりゅうぞう）
○員　数　1軀
○時　代　奈良～平安時代　8～9世紀
○品　質　木造　素地(現状)　彫眼
○寸 法 等　像高166.7cm
○施工会社　財団法人　美術院
○修理内容　形状不適合の新補の台座(蓮華座)を除去し、木製黒漆塗の方座を新造。

＜考古＞(5件)

7　○名　称　二塚古墳出土遺物（ふたつかこふんしゅつどいぶつ）
金属製品　23件、琥珀玉　1点、ほか 破片 一括
○員　数　金属製品：一括、琥珀玉：　1点
○時　代　古墳時代後期　6世紀中ごろ
○品　質　金属製品：鉄製および青銅製、琥珀製棗玉：琥珀製
○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
○修理内容　金属製品：処理前調査、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、接合、樹脂塗布による強化、防錆処理、一部復元、仕上げ、処理後調査。
琥珀製棗玉：処理前調査、クリーニング、接合、アクリル樹脂含浸、仕上げ、処理後調査。（継続3か年事業のうちの第3年目）

8　○名　称　珠城山１号墳出土遺物（たまきやま１ごうふんしゅつどいぶつ　うず、つじかなぐ、ぎょうよう）
雲珠、辻金具、杏葉
○員　数　雲珠：2点、辻金具：11個、杏葉：3点、ほか 破片 一括
○時　代　古墳時代後期　6世紀
○品　質　雲珠：金銅製、辻金具：金銅製、杏葉：金銅製
○寸 法 等　雲珠：①縦12.7 横13.5 高4.3　②縦7.5 横7.5 高1.8、辻金具：最大片 縦9.8cm 横9.8cm、
杏葉：①縦9.5 横8.8　②縦8.8 横8.6　③縦9.0 横8.7
○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
○修理内容　処理前調査（X線撮影）、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、第1次樹脂塗布、接合・復原、第2次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。
（継続2か年事業のうちの第2年目）

9　○名　称　鉄製大刀　珠城山３号墳出土（てつせいたち　たまきやま３ごうふんしゅつど）
○員　数　4振、ほか 破片 一括
○時　代　古墳時代後期　6世紀
○品　質　鉄製
○寸 法 等　最大 約110cm　最小 約70cm
○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
○修理内容　処理前調査（X線撮影）、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、第1次樹脂塗布、接合・復原、第2次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。
（継続2か年事
業のうちの第2年目）

10　○名　称　鉄製大刀　佐味田出土（てつせいたち　さみたしゅつど）
○員　数　1振、ほか 破片 一括
○時　代　古墳時代
○品　質　鉄製
○寸 法 等　長99.3cm(修理前)
○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
○修理内容　処理前調査（X線撮影）、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、第1次樹脂塗布、接合・復原、第2次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。
（継続2か年事業のうちの第2年目）

11　○名　称　銅鐸　奈良市山町出土（どうたく　ならしやままちしゅつど）
○員　数　1口、ほか 破片 一括
○時　代　弥生時代　2～3世紀
○品　質　青銅製　鋳造
○寸 法 等　高43.7cm、最大幅27.2cm、底部長径23.5cm、底部短径16.3cm
○施工会社　財団法人 元興寺文化財研究所
○修理内容　現在の形態を維持・保存する。樹脂含浸を十分に施して器壁の強化をはかり、欠落片を接着する。仕上げに樹脂特有の光沢を押さえるつや消し処理を施す。

【九州国立博物館】（19件）

＜絵画＞ (5件)

1　○名　称　旧円満院宸殿障壁画（きゅうえんまんいんしんでんしょうへきが）　4面11枚（54面11枚のうち）（19年度より継続・6ヵ年計画）
○所 蔵 者　京都国立博物館
○時　代　江戸時代・17世紀
○品　質　紙本金地著色、襲木：黒漆塗。引手：木瓜金鍍金
○寸 法 等　No.2）縦108.5 cm　横85.9 cm　No.3）縦174.4 cm　横84.3 cm　No.4）縦127.4 cm　横33.9 cm、縦127.0 cm　横52.0 cm
No.5）縦176.5 cm　横52.0 cm　No.25）縦176.4 cm　横89.0cm　No.26）縦134.1 cm　横55.0cm、縦132.8 cm　横67.0 cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 京都国立博物館内にて運搬の為の仮剥落止を行なう（平成19年度に施工済）。 2. 九州国立博物館にて写真撮影を行い、修理前の状態を調査・記録する。 3. 解体前の絵具層の剥落止を行なう。 4. 襖装を解体する。 5. 精製水にて表面の汚れ等を除去する。 6. 布苔糊にて絵具層を保護するため表打ちを行なう。 7. 本紙の旧裏打紙、旧補紙を除去する。 8. 本紙欠失箇所には補修紙にて補紙を施す。 9. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 10. 楮紙にてさらに裏打紙を打つ。 11. 表打ちの紙を除去する。 12. 杉材を用い総納組隅止めとした下地を８枚新調する。 13. 下地両面に８層の下貼りを施し、よく乾燥させる。 14. 補紙の箇所に補彩を行う。 15. 下貼が完了した下地に本紙上貼りする。下地の裏面には新調の鳥の子紙を貼る。 16. 最終的な絵具層の剥落止を行なう。 17. 引手は元のものを修理し用いる。 18. 漆塗襲木を新調し，襖に仕立てる。

2　○名　称　諸宗祖師像（しょしゅうそしぞう）　1幅（22年度より継続・2ヶ年計画）
○所 蔵 者　奈良国立博物館
○時　代　中国　南宋時代・13世紀

○品　　質　絹本著色、掛軸装、総縁：茶地唐草文海気、中廻風帯：菱金地牡丹文金襴
一文字：紺地繧繝菱金地桐文金襴、軸：蓮華唐草文金軸、箱：漆塗屋郎箱
○寸 法 等　本紙）縦111.8cm　横55.0cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。　2.本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。　3.浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。　4.布海苔を用い，養生紙にて表打を行う。　5.旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。　6.本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。　7.本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　8.表打の養生紙を除去する。　9.表装裂地は支給の裂地を調整し，肌裏を打つ。　10.美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。　11.折れ伏せを入れ，折れを直す。　12.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。　13.美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。　14.宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。　15.補絹の箇所に補彩をする。　16.軸首，軸木，発装，啄木等を新調し軸装に仕立てる。　17.桐太巻添軸，桐屋郎箱を新調し，羽二重の包裂に包み納入する。

3　○名　　称　仏涅槃図（ぶつねはんず）　1幅（22年度より継続・4ヶ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　鎌倉時代・元亨3年（1323）
○品　　質　絹本著色、書表装、軸：蓮華唐草文金軸、箱：樅桟蓋箱
○寸 法 等　本紙）縦261.0cm　横212.6cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2. 表装の解体を行う。　3. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを除去する。　4. 本紙表面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。　5. 布海苔を用い，養生紙にて表打を行う。　6. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。　7. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。　8. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　9. 表打の養生紙を除去する。　10. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。　11. 折れ伏せを入れ，折れを直す。　12. 本紙両端に金箔押し紙にて覆輪を施す。　13. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。　14. 美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。　15. 宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。　16. 補絹の箇所に補彩をする。　17. 新調した軸木，発装，啄木等と軸首・座鐶を取り付け軸装に仕立てる。　18. 桐太巻添軸，桐屋郎箱を新調し，羽二重の包裂に包み納入する。

4　○名　　称　群童遊戯図屏風（ぐんどうゆうぎずびょうぶ）　6曲1双
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・18世紀
○品　　質　紙本銀地著色、屏風装、襲木：山丸桑材襲木
○寸 法 等　右隻　縦 156.3cm　横370.2cm、 左隻　縦 156.3cm　横370.2cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2. 屏風装を解体し，本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。　3. 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。　4. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。　5. 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。　6. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　7. 本紙裏面より料紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。　8. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　9. 美濃紙にて 2 回目の裏打ちを行う。　10. 杉材を用い総納組隅止めとした下地を１２枚新調する。　11. 両面に８度下貼りを施し、よく乾燥させる。　12. 補紙の箇所に補彩を行う。　13. 下地に本紙を上貼りする。裏には新調の唐紙を貼る。　14. 欠失の金物と欠失の丸鋲を新調する。　15. 襲木を新調し，屏風装に仕立てる。

5　○名　　称　羅漢図　陸信忠筆（らかんず　りくしんちゅうひつ）　1幅
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　中国　南宋時代・13世紀
○品　　質　絹本著色、掛軸装、総縁：茶地唐草文緞子、中廻：縹地中牡丹唐草文金襴
一文字・風帯：茶地桐菱繋ぎ文色糸入り金襴、軸：木軸、箱：太巻添軸・桐印籠箱・漆塗台差箱
○寸 法 等　本紙　縦54.3cm　横36.3cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1. 写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。　3. 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。　4. 浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。　5. 布海苔を用い，養生紙にて表打を行う。　6. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。　7. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。　8. 本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。　9. 表打の養生紙を除去する。　10. 表装裂地は新調し，肌裏を打つ。　11. 美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。　12. 折れ伏せを入れ，折れを直す。　13. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。　14. 美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。　15. 宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。　16. 補絹の箇所に補彩をする。　17. 軸首，軸木，発装，啄木等を新調し軸装に仕立てる。　18. 桐太巻添軸は調整し桐印籠箱・漆塗台差箱を再使用し羽二重の包裂に包み納入する。

＜書跡＞（1件）

6　○名　　称　額字（がくじ）　2巻（22年度より継続・2ヶ年計画）
○所 蔵 者　東京国立博物館
○時　　代　江戸時代・19世紀
○品　　質　紙本墨書、巻子装、表紙：藍染紙、見返：金野毛散装飾紙、軸：木軸頭切、箱：被箱2巻入
○寸 法 等　第1巻）縦31.6cm　横869.9cm（20紙合計）　第2巻）縦32.1cm　横951.0cm（22紙合計）
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。　2.巻子装を解体し，本紙の旧裏打紙を除去する。　3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　4.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。　5.本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて1層の裏打ちを行う。　6.折れ伏せを入れ，折れを直す。　7.仮張りし充分な乾燥期間をおく。　8.表紙，見返は新たに作製しそれぞれ裏打ちを行い充分な乾燥期間をおく。　9.仮張りされた本紙，表紙，見返を継ぐ。　10.軸巻紙，軸首，軸木，八双，紐等を新調し巻子装に仕立てる。　11.桐屋郎箱を新調し，旧箱甲板は新箱底に納入する。本紙はそれぞれ羽二重の包裂に包み納入する。

＜漆工＞（3件）

7　○名　　称　亀甲地螺鈿鞍（きっこうじらでんくら）　1背
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　平安時代・12世紀
○品　　質　木製漆塗、螺鈿
○寸 法 等　前輪）高29.0cm　　後輪）高30.3cm　　居木）長39.0cm
○施工会社　(株)目白漆芸文化財研究所
○修理内容　1.解体・付着物除去；前輪・後輪・居木を結んである紐を外して解体を行い、4つの部材に分ける。過去の修理の際に螺鈿部分に被った付着物を除去する。2.クリーニング；螺鈿の貝がかなり浮き上がり、今にも剥落しそうな状態であるため、危険な箇所に薄い雁皮紙を細かく切り糊で仮止めを行い、剥落を防止しながらクリーニング作業を行う。　3.接合・組立；麦漆で木地の亀裂接着および安定処理を行う。最後に解体した部材を紐で結び、組み立てる。　4.強化・整形；螺鈿がほぼ全面にわたり剥落が進み、不安定な状態であるため、前輪・後輪・居木の各部が安定するような受け台をそれぞれ製作した上で、接着作業を行う。接着は原則として膠を使用する。鞍の形状はほとんどが曲面なので、一度に接着作業が行えないため、順次行うこととする。螺鈿が安定した後、一枚一枚の貝の際に錆を施し、貝裏に漆が浸み込まないように養生を行う。塗膜の剥離および亀裂部に順次麦漆を含浸し、接着を行う。　5.補填；居木の左右の裏面がそれぞれ欠失しているため、同部の欠失した形に合わせ、木材を削り加工した材を嵌め込み、形態の復元を行う。この欠失部は安定の悪い箇所のため、接着は麦漆で行い、後補材との隙間には、刻苧により形態の復元を行う。そして居木と共に下地を施し、後補箇所が特定できるように仕上げつつ、展示上違和感のないようにする。接着した塗膜に際錆を施す。塗膜の劣化を防ぐため、全体に漆固めを行う。

8　○名　　称　孔雀鎗金経箱（くじゃくそうきんきょうばこ）　1合
○所 蔵 者　九州国立博物館

○時　　代　平安時代・12世紀
○品　　質　木製漆塗、螺鈿
○寸 法 等　縦22.3cm　横40.0cm　高25.9cm
○施工会社　(株)目白漆芸文化財研究所
○修理内容　1.応急修理に引き続き、彫りのない部分の塗膜に漆固めを行う。　2.残りの木地接合部、金具周辺部、底裏面等、亀裂や塗膜剥離箇所には、順次接着用に調合した麦漆を含浸させ圧着し、安定をはかる。　3.紐金具の穴には、穴とほぼ同径に加工した、身の側板と同じ厚みの檜材を嵌め込む。木地は膠で接着し、乾燥し固定できた後、表裏にそれぞれ下地を施し、違和感のないように仕上げる。

9　○名　　称　菊蒔絵手箱（きくまきえてばこ）　1合
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　室町時代・15世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　縦24.0cm　横31.3cm　高18.5cm
○施工会社　(株)目白漆芸文化財研究所
○修理内容　1.全体に及ぶ汚れの除去を行う。クリーニング時に塗膜剥落の危険がある箇所には、短冊状に切った雁皮紙を弱い糊で貼り養生を行う。　2.劣化した塗膜に漆固めを行う。　3.構造安定処置として、塗膜亀裂部分から充填接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈して流し入れ、木地構造の弛みから生じた隙間に充填を行う。　4.構造安定後、塗膜接着を行う。塗膜に亀裂が生じている箇所には、亀裂部より塗膜接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈し塗膜下に流し入れ、溶剤が揮発し麦漆が締まった状態で圧着固定し塗膜安定処置を行う。　5.金具の接着には膠を使用し、膠水を剥離箇所より金具下に流し入れ、圧着固定を行う。　6.欠損箇所は刻苧で形態を復元し、下地付けで刻苧の肌面を整える。　7.漆固めを行い仕上げとする。

＜考古＞（3件）

10　○名　　称　辻金具（つじかなぐ）・棘葉形杏葉（きょくようけいぎょうよう）・心葉(楕円)形杏葉（しんよう（だえん）けいぎょくよう）
魚尾形杏葉（ぎょびけいぎょうよう）（新羅古墳出土遺物のうち）　16点
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　朝鮮　三国時代・6世紀
○品　　質　辻金具）鉄、金銅　　棘葉形杏葉）鉄、金銅　　心葉(楕円)形杏葉）金銅　　魚尾形杏葉）鉄、金銅
○寸 法 等　辻金具）径11cm　高2.8cmほか　　棘葉形杏葉）幅10cmほか　　心葉(楕円)形杏葉）長11.5cm　幅9.4cmほか
魚尾形杏葉）長8cm　下端幅：4.9cm　上端幅：2.9cmほか
○施工会社　(株)芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態及びX線写真を撮影し記録する。　2.クリーニング（一次）；埃や錆等のクリーニングをおこなう。　3.脱塩処理；純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定しOppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。　4.防錆処理；ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。　5.クリーニング（二次）；仕上の錆取り作業をおこなう。　6.樹脂含浸；アクリル樹脂を含浸させる。　7.接合・樹脂強化；接合及び脆弱箇所に、アクリル樹脂で接合後、エポキシ樹脂を充填し補強をおこなう。　8.安定台座作製；資料の形状に合わせエポキシ樹脂で枕を製作し、資料を安定させる。　9.補彩；修理箇所にアクリル絵具で補彩色を施す。　10.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

11　○名　　称　大宰府式鬼瓦ＩＡ式（だざいふしきおにがわら）　1点
○所 蔵 者　九州歴史資料館
○時　　代　奈良時代・8世紀
○品　　質　土製
○施工会社　(株)芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。　2.クリーニング；作業前に全体の埃等を除去する。その後再修理箇所の古い修理材（石膏や接着剤等）をメスや刷毛、竹串等で除去する。　3.樹脂強化；亀裂や脆弱部分にパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による強化をおこなう（強度が出るまで複数回おこなう）。　4.接合・樹脂充填；亀裂や隙間をエポキシ樹脂を用いて、接合及び充填成形をおこなう。　5.補彩色；修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。　6.観察・記録；修理後の状態を撮影し、報告書を作成する。

12　○名　　称　黒釉陶器四耳壷（こくゆうとうきしじこ）　1点
○所 蔵 者　九州歴史資料館
○時　　代　鎌倉－室町時代・14世紀前半－中頃
○品　　質　陶器
○施工会社　(株)芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。　2.クリーニング・解体；資料の現状を把握し、接合面を確認しながら、石膏及び接着剤による接合・復元部分をデザインカッターやリュウター、アセトンや注射器、綿棒やブラシ等を用いて解体し、クリーニングをおこなう。　3.樹脂強化；必要に応じて脆弱部分にパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による強化をおこなう。その際、器表裏面の質感の変化を最小限となる様に注意する。　4.接合・樹脂充填；エポキシ系接着剤（ハイスーパー5で接合後、隙間や復元部分をエポキシ樹脂（アラルダイトXNR－6504：主剤、XNH-6504：硬化剤）、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形をおこなう。　5.観察・記録；修理後の状態を撮影し、報告書を作成する。

＜歴史資料＞（7件）

13　○名　　称　A.対馬宗家関係資料（つしまそうけかんけいしりょう）21箱19巻　（20年度より継続・6ヶ年計画）
B.宗義暢書状（そうよしながしょじょう）（対馬宗家関係資料のうち）6通
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　A.江戸時代・19世紀　　B.江戸時代・18世紀
○品　　質　A.　紙本墨書
B.　紙本墨書、折紙、包紙2枚、印籠箱（紐、金具付き）
○寸 法 等　A.　縦17.6-34.5　横45.7-57.2
B.　P13626）　縦36.0cm　横49.1cm、P13627）　縦36.0cm　横48.9cm、P13628）　縦41.0cm　横54.6cm、
P13629）　縦41.1cm　横55.6cm、P13630）　縦36.7cm　横49.1cm、P13631）　縦36.7cm　横49.3cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　A.21箱19巻　※平成23年度は巻11～13を施工
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。　2.巻子装を解体する。　3.本紙の汚れ等を取り去る。　4.本紙の旧裏打紙を除去し、継ぎを外し、シワ等を伸ばして整形する。　5.本紙と類似した補修紙を作成する。　6.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を施し、上下には足し紙をつける。　7.旧裏打紙と同様の色調に染色した薄美濃紙にて肌裏打を施す。　8.将来折れが予想される箇所に折れ伏せを入れる。　9.混合紙にて総裏打を施す。　10.仮張りし、充分な乾燥期間をおく。
11.各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。　12.表紙，軸首，紐，中軸，八双は元のものを用い，巻子装に仕立てる。　13.羽二重の包み裂に包み納入する　　14.桐太巻添軸を施工巻数分製作する。　　15.　施工巻数分を納入できる紙箱を新調する。
B.　「宗義暢書状」
1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。　2.本紙の旧裏打紙を除去する。　3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。　4.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。　5.本紙をプレス乾燥し、元の状態に折り畳む。　6.包紙を新調して本紙を包み、元箱に納入する。

14　○名　　称　宝満山絵図（ほうまんざんえず）　2舗　（22年度より継続・2ヶ年計画）
○所 蔵 者　福岡県立美術館
○時　　代　江戸時代・17世紀

○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　東図：縦82㎝　横138㎝　　西図：縦80㎝　横132㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2.膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。 3.浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。 4.旧裏打紙を除去する。 5.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 6.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。 7.美濃紙にて肌裏を打つ。 8.美栖紙にて増裏を打ち，仮張りをする。 9.混合紙にて総裏を打ち，仮張りし充分な乾燥期間をおく。 10.中性紙製の巻芯及び仮表紙を作成する。 11.2鋪入の桐保存箱を新調し，納入する。

15 ○名　　称　福州沿海図（ふくしゅうえんかいず） 1枚
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　オランダ王国・ネーデルラント連邦共和国時代
○品　　質　羊皮紙著彩
○寸 法 等　本紙　縦78.4㎝　横94.4㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。 2.柔らかい筆や刷毛を用い本紙の汚れを除去する。 3.水蒸気による加湿を行いプレスする。 4.亀裂、欠失箇所に補填を行う。 5.マットボードにヒンジで固定する。 6.下足板付き桐屋朗箱を新調し納入する。

16 ○名　　称　徳川家康交趾渡海朱印状（とくがわいえやすこうちとかいしゅいんじょう） 1幅
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・慶長19年(1614)
○品　　質　紙本墨書、筋割二段表装、総縁：鼠地揉み紙、小筋：白地楮紙(中廻、風帯)、本紙(萌黄地色紙)
軸：漆塗撥軸、箱：桐屋郎箱(中箱、外箱)
○寸 法 等　本紙　縦43.4㎝　横60.6㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。 2.軸装を解体し，本紙の旧裏打紙を除去する。 3.浄化水を表面から噴霧し，浸透させる方法で本紙の汚れを出来る限り除去する。 4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 5.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。 6.本紙の色合いに合わせて，染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 7.表装紙の補修を行い，肌裏を打つ。 8.美栖紙にて増裏打を行い，仮張りをする。 9.折れ伏せを入れ，折れを直す。 10.仮張りされた本紙と表装紙を元の形式に付廻しをする。 11.美栖紙にて中裏打を行い，仮張りをする。 12.宇陀紙にて総裏打を行い，仮張りし充分な乾燥期間をおく。 13.補紙の箇所に補彩をする。 14.軸首は元のものを調整，軸木，発装，啄木等を新調し軸装に仕立てる。 15.桐太巻添軸，桐屋郎箱を新調し，羽二重の包裂に包み納入する。極書及び旧上巻墨書部分は畳紙に包み新箱底に納入する。

17 ○名　　称　長崎阿蘭陀通詞西吉兵衛家関係文書（ながさきおらんだつうじにしきちべえかんけいもんじょ） 35点
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・18-19世紀
○品　　質　紙本ペン書、洋斐紙
○寸 法 等　縦21.2㎝　横16.5㎝ほか
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。 2.本紙のクリーニングを行う。 3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 4.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。 5.本紙をプレス乾燥する。 6.中性紙製の台紙を新調して本紙を納め、新調した保存箱に納入する。

18 ○名　　称　大内氏家臣安富氏関係文書（おおうちしかしんやすとみしかんけいもんじょ） 1巻
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　室町-江戸時代・15-18世紀
○品　　質　紙本墨書、巻子装、表紙：萌葱地小牡丹唐草文金襴、見返：金切箔散装飾紙、軸：黒檀印可軸、箱：漆塗り桐屋郎箱
○寸 法 等　縦25.5㎝　横34㎝ほか
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。 2.巻子装を解体し，本紙の旧裏打紙を除去しクリーニングを行う。 3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 4.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。 5.本紙をプレス乾燥する。 6.本紙はそれぞれ畳紙に納め、新調した桐屋郎箱に納入する。

19 ○名　　称　大内義隆袖判安堵状幷大内義長袖判下文（おおうちよしたかそでばんあんどじょうならびにおおうちよしながそでばんくだしぶみ） 2通
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　大内義隆袖判安堵状）室町時代・天文20年（1551）
大内義長袖判下文）室町時代・天文22年（1553）
○品　　質　紙本墨書、折紙、保存帙あり
○寸 法 等　大内義隆袖判安堵状）縦31.6㎝　横47.2㎝
大内義長袖判下文）縦31.8㎝　横48.6㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。 2.本紙のクリーニングを行う。 3.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 4.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。 5.本紙をプレス乾燥する。 6.包紙を新調して本紙を包み、新調した保存箱に納入する。

1-(3)-③ 文化財修理データのデータベース化件数

単位：件　　平成24年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		286	114	118 (343)	54 (466)
絵　画		71	5	49 (133)	17 (161)
書　跡		40	6	23 (82)	11 (116)
彫　刻		54	1	35 (95)	18 (124)
建　築		0	0	0 (0)	0 (0)
金　工		6	6	0 (0)	0 (1)
刀　剣		1	1	0 (0)	0 (0)
陶　磁		2	2	0 (0)	0 (0)
漆　工		9	0	1 (2)	8 (32)
染　織		16	13	3 (14)	0 (1)
考　古		50	50	0 (0)	0 (0)
歴史資料		27	20	7 (15)	0 (31)
和　書		2	2	0 (0)	0 (0)
民族資料		0	0	0 (0)	0 (0)
その他		0	0	0 (2)	0 (0)
東洋	絵　画	0	0		
	書　跡	1	1		
	彫　刻	4	4		
	金　工	0	0		
	陶　磁	2	2		
	漆　工	1	1		
	染　織	0	0		
	考　古	0	0		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は総数。

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
2-(1)　　の充実

2-(1)-① 来館者数推移（館料別）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(1)-② 来館者数推移（展覧会別）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(1)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成24年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
96%	－%	89%	94%
110件(外国語)	－件(外国語)	32件(外国語)	46件(外国語)
115件(日本語)	－件(日本語)	36件(日本語)	49件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】
- ・総合文化展（特集陳列を除く）　78件（外国語）／78件（日本語）　含国宝室・表慶館
- ・特集陳列　32件（外国語）／32件（日本語）
- ・黒田記念館　0件（外国語）／ 5件（日本語）

※参考　本館2階陳列“日本美術の流れ”案内・解説パンフレットを作成・配布した。

【京都国立博物館】
（平常展示館建て替え工事に伴い平常展示休止中）

【奈良国立博物館】
- ・名品展（なら仏像館）　24件（外国語）／24件（日本語）
- ・名品展（西新館）　0件（外国語）／ 4件（日本語）
- ・特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣」　3件（外国語）／ 3件（日本語）
- ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　3件（外国語）／ 3件（日本語）
- ・特別陳列「お水取り」　2件（外国語）／ 2件（日本語）

【九州国立博物館】
- ・文化交流展示（トピック展示・特別公開を除く）　27 件(外国語)/33 件(日本語)
- ・文化交流展示　音声ガイド　3 件(外国語)/ 0 件(日本語)
- ・文化交流展示　トピック展示・特別公開　16 件(外国語)/16 件(日本語)
  - うち「日本の建築をめぐって」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」　4 件(外国語)/4 件(日本語)
  - 「特別公開　国宝　琉球国王尚家関係資料　修理完成記念展示」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「彫漆　漆に刻む文様の美」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「平戸オランダ商館会館記念　平戸－海外に開かれた港市－」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「斉明天皇と飛鳥」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「インドの染織と細密画」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「茶の湯を楽しむⅣ」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「館蔵水墨画名品展」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「発掘された日本列島 2011 地域展　九州最古の狩人とその時代」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「九州大学百年の宝物」　1 件(外国語)/1 件(日本語)
  - 「新春特別公開　初音の調度」　1 件(外国語)/1 件(日本語)

2-(1)-⑤ 平常展・特別展・海外展
（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

2-(2) 教育活動の充実

2-(2)-① 学習機会の提供（過去5ヵ年）

	19年度	20年度	21年度	22年度	前中期期間(18～22年度)の平均値	23年度
○キャンパスメンバーズ						
東京国立博物館	22校	29校	35校	35校	27校	37校
京都国立博物館	21校	29校	30校	29校	25校	30校
奈良国立博物館	20校	25校	27校	28校	22校	28校
九州国立博物館	21校	22校	29校	27校	－	28校
○講演会等の回数						
東京国立博物館						
講演会等　実施回数	142回	132回	153回	126回	130回	112回
講演会等　参加者数	11,361人	12,332人	12,546人	13,319人	12,119人	12,664人
①講演会	24回	29回	24回	39回	29回	32回
	4,770人	7,134人	5,600人	9,290人	6,667人	8,224人
アンケート結果	79%	82%	87%	91%	83%	91%
（内訳）						
・月例講演会等	12回	12回	12回	11回	12回	13回
	1304人	2,008人	1,887人	1,637	1,690人	2,457人
アンケート結果	82%	82%	87%	89%	83%	91%
・記念講演会	6回	15回	11回	12回	11回	15回
	1,869人	4,409人	3,516人	3,467人	3,356人	4,669人
アンケート結果	81%	81%	85%	91%	84%	89%
・テーマ別講演会	4回	2回	1回	1回	2回	3回
	908人	717人	197人	180人	592人	775人
アンケート結果	69%	83%	90%	92%	84%	－
・その他講演会	2回	－	－	15回	－	1回
	689人	－	－	4,006人	－	323人
アンケート結果	－	－	－	－	－	－
②列品解説（ギャラリートーク等）	101回	101回	126回	83回	90回	76回
	3,934人	4,774人	6,550人	3,659人	4,394人	3,963人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	288人	356人	320人	278人	313人	380人
アンケート結果	77%	81%	82%	81%	81%	89%
④公開講座	16回	1回	2回	3回	10回	3回
	2,369人	68人	76人	92人	744人	97人
アンケート結果	72%	－	93%	100%	－	97%
京都国立博物館						
講演会等　実施回数	46回	37回	21回	17回	34回	15回
講演会等　参加者数	4,489人	3,413人	3,002人	2,313人	3,639人	1,450人
①土曜講座	45回	36回	19回	15回	32回	13回
	4,329人	3,254人	2,791人	2,076人	3,455人	1199人
アンケート結果	81%	82%	80%	81%	82%	77%
②夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	160人	159人	179人	205人	171人	193人
アンケート結果	88%	95%	94%	92%	93%	78%
③社会科教員のための向上講座	－	－	－	1回	－	1回
	－	－	－	32人	－	58人
奈良国立博物館						
講演会等　実施回数	28回	32回	33回	28回	29回	28回
講演会等　参加者数	2,949人	3,655人	3,421人	3,349人	3,223人	3,006人
①特別展等講座	15回	19回	16回	15回	15回	15回
	1,943人	2,706人	2,043人	2,172人	2,090人	1,839人
アンケート結果	87%	90%	96%	93%	90%	87%
②夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	358人	362人	391人	556人	431人	522人
アンケート結果	84%	90%	92%	95%	91%	90%
③サンデートーク	12回	12回	11回	12回	12回	12回
	648人	587人	584人	621人	622人	645人
アンケート結果	－	－	91%	88%	－	88%
④大学との合同公開講座	－	－	4回	－	－	－
	－	－	353人	－	－	－
アンケート結果	－	－	86%	－	－	－
⑤世界遺産学習特別勉強会の共同	－	－	1回	－	－	－
	－	－	50人	－	－	－
アンケート結果	－	－	－	－	－	－
九州国立博物館						
講演会等　実施回数	61回	56回	73回	64回	66回	89回
講演会等　参加者数	4,168人	5,507人	6,806人	3,996人	5,423人	7,833人
①特別展記念講演会	7回	11回	6回	9回	9回	7回
	1,892人	2,670人	1,622人	1,410人	1,949人	1,500人
アンケート結果	－	－	－	－	－	－
②ミュージアムトーク	42回	37回	42回	44回	42回	43回
	1,320人	1,096人	1,285人	1,320人	1,365人	1,741人
③講演及びシンポジウム	1回	6回	24回	11回	10回	38回
	316人	1,555人	3,849人	1,266人	1,653人	4,532人
アンケート結果	－	－	－	－	－	－
④ミュージアム講座	11回	2回	1回	0回	5回	1回
	640人	186人	50人	0人	455人	60人
アンケート結果	－	－	－	－	－	－
○大学等との連携事業						
奈良国立博物館						
①放送大学の面接授業	2回	2回	1回	1回	－	0回
	150人	178人	98人	－	－	－
②奈良女子大学との連携講座	216人	5人	3人	7人	－	7人
③神戸大学との連携講座	10人	10人	10人	10人	－	10人
九州国立博物館						
①放送大学の面接授業	2回	2回	2回	2回	2回	1回
	34人	37人	50人	50人	45人	50人

2-(2)-② キャンパスメンバーズ

平成24年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
37校	30校（※）	28校（※）	28校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

①加入校数（37校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	9,357人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,164人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学，文化ファッション大学院大学, 文化学園大学短期大学部, 文化服装学院, 文化服装学院広島校 , 文化外国語専門学校）	8,815人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,231人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	3,342人	20年4月1日	
6	東京大学	28,926人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,346人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学院）	1,558人	20年4月1日	
9	大正大学	4,249人	20年4月1日	
10	東海大学	29,905人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	23,080人	20年4月1日	
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	790人	20年4月1日	
13	成蹊大学（文学部）	2,046人	20年4月1日	
14	多摩美術大学	4,890人	20年4月1日	
15	立教大学	20,962人	20年4月1日	
16	首都大学東京	9,216人	20年4月1日	
17	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,476人	20年4月1日	
18	東京造形大学	1,968人	20年4月1日	
19	法政大学	37,792人	20年4月1日	
20	筑波大学	17,334人	20年4月1日	
21	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	5,355人	20年4月1日	
22	実践女子大学・実践女子短期大学	4,650人	20年5月1日	
23	東洋大学	32,368人	20年6月1日	
24	東洋美術学校	1,015人	20年6月1日	
25	日本大学（芸術学部）	4,444人	20年6月1日	
26	文教大学・文教大学女子短期大学部	8,922人	20年7月1日	
27	上智学院（上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校）	13,006人	20年10月1日	
28	国際基督教大学	2,972人	21年4月1日	
29	了徳寺大学	898人	21年4月1日	
30	学習院女子大学	1,772人	21年11月1日	
31	尚美学園大学	3,129人	21年12月1日	
32	獨協大学	9,507人	22年4月1日	
33	学習院大学	8,876人	22年4月1日	
34	東京工業大学	10,287人	22年7月1日	
35	日本女子大学	9,122人	23年4月1日	
36	二松学舎大学	3,133人	23年5月1日	
37	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	6,099人	23年6月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー	
期　　間	8月15・16日（計7回実施）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	160人
担当研究員数	7人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。
事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　　間	8月15～20日（6日間）
開催場所	全館
参加者数	31人
担当研究員数	12人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。

【京都国立博物館】

①加入校数（30校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
1	佛教大学	21,147人	19年4月1日	奈良博との2館併用	京博	通信教育部含む
2	奈良教育大学	1,434人	18年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
3	就実大学人文科学部	1,405人	20年4月1日	奈良博との2館併用	京博	
4	学校法人同志社	38,496人	19年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
5	奈良大学	4,376人	19年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	通信教育部含む
6	学校法人　関西大学	33,025人	23年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
7	実践女子大学･実践女子短期大学	4,650人	20年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
8	京都伝統工芸大学校	396人	20年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
9	帝塚山大学・附属高等学校	6,262人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
10	奈良女子大学	2,880人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
11	京都造形芸術大学	8,754人	18年6月1日	京博のみ	京博	通信教育部含む
12	京都工芸繊維大学	4,068人	19年6月1日	奈良博との2館併用	京博	
13	大阪成蹊大学芸術学部	573人	19年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
14	京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学	1,034人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
15	京都精華大学	4,231人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
16	龍谷大学・龍谷短期大学	19,520人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
17	京都女子大学・京都女子短期大学	7,556人	18年7月1日	京博のみ	京博	高等学校含む
18	京都橘大学	3,217人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	正規生のみ
19	京都教育大学・附属高等学校	2,555人	20年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
20	成安造形大学	979人	18年8月1日	京博のみ	京博	正規生のみ
21	京都市立芸術大学	1,078人	20年8月1日	京博のみ	京博	正規生及び研究生等
22	京都大学	22,787人	18年9月1日	奈良博との2館併用	京博	京都アメリカ大学コンソーシアムより受入の学生を含む
23	近畿大学文芸学部	2,294人	18年9月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
24	花園大学	2,280人	18年11月1日	京博のみ	京博	
25	奈良先端科学技術大学院大学	1,056人	19年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	正規生及び研究生等
26	大谷大学・大谷短期大学	3,979人	18年12月1日	京博のみ	京博	
27	大阪大学	24,894人	20年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
28	京都文教大学	2,950人	21年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
29	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,957人	21年8月1日	奈良博との2館併用	京博	
30	京都府立大学	2,160人	23年7月1日	京博のみ	京博	

【奈良国立博物館】

①加入校数（28校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良産業大学　（奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良文化女子短期大学、奈良学園登美ヶ丘高等学校）	1,977 人	18 年 10 月 1 日	奈良博のみ	
2	奈良佐保短期大学	277人	18 年 11 月 29 日	同上	
3	天理大学	3,290人	20 年 7 月 1 日	同上	
4	奈良県立大学	656人	21年4月1日	同上	
5	奈良工業高等専門学校	1095人	23年7月1日	同上	
6	奈良教育大学	1,434人	18年4月4日	京博との2館併用	
7	帝塚山大学（帝塚山高校）	6,262人	18 年 5 月 8 日	同上	
8	奈良女子大学	2,280人	18年5月15日	同上	
9	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	1,034人	18年6月9日	同上	
10	京都精華大学	4,231人	18年6月28日	同上	
11	京都橘大学	2,829人	18年6月30日	同上	
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	19,021人	18年6月30日	同上	
13	京都大学	22,787人	18年8月22日	同上	
14	近畿大学　文芸学部、近畿大学大学院文芸学研究科	2,294人	18年8月24日	同上	
15	佛教大学	21,147人	19年4月1日	同上	
16	奈良大学	4,376人	19 年 5 月 2 日	同上	
17	京都工芸繊維大学	4,068人	19年6月1日	同上	
18	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	38,496人	19年6月1日	同上	
19	大阪成蹊大学 芸術学部	573人	19年6月1日	同上	
20	奈良先端科学技術大学院大学	1,056人	19年11月7日	同上	
21	就実大学　人文科学部	1,405人	20年4月1日	同上	
22	実践女子大学　実践女子短期大学	4,650人	20年5月1日	同上	
23	京都伝統工芸大学校	433人	20年5月1日	同上	
24	京都教育大学	2,555人	20年7月1日	同上	
25	大阪大学	24,894人	20年12月1日	同上	
26	京都文教大学、京都文教短期大学	2,950人	21年6月1日	同上	
27	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,503人	21年8月1日	同上	
28	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,025人	23年6月1日	同上	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 キャンパスメンバーズカードと併せて、告知のポスターとカード立てを作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布。

【九州国立博物館】

①加入校数（28校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州大学	19,395人	23年4月1日	
2	九州工業大学	6,063人	23年4月1日	
3	九州産業大学	11,651人	22年4月1日	

	学校名	学生数	入会日	備考
4	九州情報大学	756人	23年4月1日	
5	近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科	440人	21年4月1日	
6	久留米大学	7,726人	22年4月1日	
7	西南学院大学	8,300人	22年4月1日	
8	日本赤十字九州国際看護大学	486人	23年4月1日	
9	崇城大学芸術学部	265人	23年4月1日	
10	筑紫女学園大学	2,609人	23年4月1日	
11	日本経済大学	2,496人	21年4月1日	
12	福岡大学	20,823人	22年4月1日	
13	福岡教育大学	5,808人	23年6月1日	
14	福岡国際大学	489人	22年4月1日	
15	放送大学福岡学習センター	2,147人	23年4月1日	
16	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	517人	23年4月1日	
17	九州造形短期大学	326人	22年4月1日	
18	筑紫女学園短期大学部	462人	23年4月1日	
19	福岡こども短期大学	465人	21年4月1日	
20	福岡女子短期大学	563人	22年4月1日	
21	東海大学福岡短期大学	187人	23年10月1日	
22	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	147人	22年4月1日	
23	久留米大学附設高等学校	615人	22年4月1日	
24	西南学院高等学校	1,292人	22年4月1日	
25	筑紫女学園高等学校	1,816人	23年4月1日	
26	筑紫台高等学校	1,591人	23年4月1日	
27	福岡大学附属大濠高等学校	1,915人	22年4月1日	
28	福岡大学附属若葉高等学校	1,116人	22年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名： 出張講義	
開 催 日	5月10日
開催場所	筑紫台高等学校
出席校	筑紫台高等学校
参加者数	472人
担当研究員数	1人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館概要を説明。

事業名：筑紫女学園大学文学部アジア文化学科必修科目「体験-ミュージアムで学ぶアジア」	
開 催 日	4月20日、4月27日、5月11日、5月25日、6月1日、6月8日、6月22日、6月29日、7月6日（計9日）
開催場所	筑紫女学園大学、文化交流展示室、体験型展示室「あじっぱ」
出席校	筑紫女学園大学
参加者数	150人
担当研究員数	1人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の概要について講義、博物館展示見学、博物館体験型展示室での異文化体験を実施。

2-(2)-③ 講座・講演会等の開催実績

平成 24 年 3 月 31 日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数・人数	**112回・12,664人** 講演会32回・8,224人 列品解説（ギャラリートーク等）76回・3,963人 連続講座1回（3日）・380人 公開講座3回・97人	**15回・1,450人** 土曜講座13回・1199人 夏期講座1回（3日）・193人 社会科教員のための向上講座1回・58人	**28回・3,006人** 特別展等講座15回・1,839人 （公開講座14回　1,660人、シンポジウム1回　179人） 夏季講座1回(3日)・522人 サンデートーク12回・645人	**89回・7,833人** 特別展記念講演会7回・1,500人 特別展シンポジウム1回・263人 講演及びシンポジウム37回・4,269人 ミュージアムトーク43回・1,741人 ミュージアム講座1回・60人
	その他展示に関連する事業 2回・292人	その他展示に関連する事業　5回・366人	その他展示に関連する事業　9回・1,118人	その他展示に関連する事業　47回・48,366人

【東京国立博物館】

1)　講演会　32回　参加者数8,224人

①月例講演会　計13回　参加者数2,457人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月17日	キリシタンの祈り―ミサとオラショ 講皆: 立教大学名誉教授　皆川達夫	144	2	99.3%
4月23日	キリシタンの祈り・親指のマリアをめぐって 講師：博物館情報課長　高橋裕次、教育講座室主任研究員　神辺知加	141	2	93.2%
5月7日	東京国立博物館所蔵の正倉院裂 講師：特任研究員　澤田むつ代	112	2	89.2%
6月18日	関東大震災からの復興本館ものがたり―国産技術に裏付けられた建築デザイン 講師：デザイン室長　木下史青、居住技術研究所　加藤雅久	136	2	86.0%
7月30日	運慶　その造形と人物像 講師：東洋室長　浅見龍介	380	2	91.0%
8月13日	日本の城―文献史料・絵図からみる城郭の姿 講師：書跡・歴史室主任研究員　高梨真行	275	2	94.0%
9月10日	装飾経－祈りと美の世界－ 講師：副館長　島谷弘幸	215	2	94.0%
10月1日	室町時代の舞楽装束 講師：工芸室主任研究員　小山弓弦葉	90	2	75.9%
11月5日	呉昌碩の書・画・印 講師：列品管理課長　富田淳、書道博物館主任研究員　鍋島稲子氏	196	2	92.4%
12月10日	変革期の風俗表現　－舟木本「洛中洛外図屏風」考－ 講師：絵画・彫刻室長　田沢裕賀	188	2	93.3%
24年1月10日	博物館を楽しむ　トーハクへようこそ 講師：館長　銭谷眞美	151	2	83.6%
24年2月4日	東京国立博物館コレクションの形成と魅力―書を中心に― 講師：副館長　島谷弘幸	197	2	95.6%
24年3月10日	東博の茶室と茶の焼物 講師：学芸研究部長　伊藤嘉章	232	2	96.7%

②記念講演会　計15回　参加者数4,669人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月30日	ブッダと仏像　～インドの風を感じよう！～/ブッダ展のたのしい見かた 講師：仏像ナビゲーター　廣瀬郁実（仏像ガール(R)）、学芸企画部長　松本伸之	257	2	88.4%
5月22日	写楽の役者絵の成立事情を探る 講師：大和文華館長　浅野秀剛	310	2	89.4%
5月29日	美術史の中の写楽の役者絵 講師：絵画・彫刻室長　田沢裕賀	255	2	95.6%
6月4日	能と仏教 講師：能楽観世流二十六世家元　観世清和	249	2	98.9%
7月24日	密教美術の醍醐味 講師：学芸企画部長　松本伸之	370	2	94.7%
7月29日	「孫文の生きた時代」「曾祖父・梅屋庄吉」 講師：東京大学大学院准教授　川島真、梅屋庄吉曾孫　小坂文乃	230	2	92.4%
7月31日	弘法大師と仁和寺　－阿弥陀仏について－/神護寺創成期の歴史　－弘法大師空海と伝教大師最澄の交友と訣別－ 講師：総本山仁和寺執行・真言宗御室派財務部長　大西智城、高野山真言宗遺跡本山神護寺貫主　谷内弘照	380	2	86.2%
8月27日	心の中に息づく祈り－弘法大師空海－ 講師：総本山醍醐寺座主・真言宗醍醐寺派管長　仲田順和	380	2	90.1%
8月28日	吉野・高野の道/空海大師と讃岐－御誕生所善通寺の歴史と寺宝－ 講師：総本山金剛峯寺執行・高野山真言宗教学部長　村上保壽、総本山善通寺執行・真言宗善通寺派財務部長　坂田知應	336	2	87.7%
10月28日	法然と親鸞 講師：編集工学研究所所長・日本文化研究家　松岡正剛	365	2	73.4%
11月19日	特別展『法然と親鸞　ゆかりの名宝』について 講師：博物館情報課長　高橋裕次	306	2	85.0%
11月26日	法然上人に近づく 講師：奈良国立博物館学芸部長　西山厚	370	2	97.0%

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
24年1月8日	清朝の礼制文化 講師：貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹	240	2	88.3%
24年1月28日	乾隆帝の書画鑑賞 講師：東洋室研究員　塚本麿充	263	2	97.0%
24年3月20日	継続する歴史：ボストンの日本美術 講師：ボストン美術館日本美術課長　　アン・ニシムラ・モース	358	2	92.2%

③テーマ別講演会　計3回　参加者数775人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
7月2日	よみがえるヤマトの王墓―東大寺山古墳と謎の鉄刀― 講師：天理大学名誉教授・大阪府立弥生文化博物館館長　　金関恕	350	2	―
24年2月18日	古墳時代終末期の「二つの飛鳥」―大阪府塚廻古墳と奈良県牽牛子塚古墳・越塚御門古墳を中心に―	242	2	97.0%
24年3月24日	桜セミナー　京菓子の歴史と季節のお菓子 講師：株式会社鶴屋吉信　松本国吉	183	2	95.5%

④その他講演会　計1回　参加者数323人

実施日	内容	参加者数(人)	担当研究員(人)	″良い″の割合
24年1月7日	シンポジウム「『清明上河図』の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの『清明上河図』」 講師：故宮博物院研究員ほか	323	2	93.1%

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　76回　　参加者総数　3,903人

○列品解説　46回　参加者総数　3,142人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
4月5日	十二ヶ月花鳥図 国際交流室研究員　遠藤楽子	62	2
4月6日	漆器に咲く桜 工芸室長　竹内奈美子	72	2
4月6日	国宝　花下遊楽図屏風 教育普及室長　伊藤信二	64	2
4月13日	国宝　花下遊楽図屏風 教育普及室長　伊藤信二	80	2
4月13日	屏風に咲く桜 出版企画室研究員　小野真由美	82	2
4月19日	南太平洋の暮らしと祈り 東洋室研究員　川村佳男	38	2
4月26日	日御碕神社の白糸威鎧 上席研究員　池田宏	55	2
5月10日	11世紀の仏画の名品　国宝 善無畏像・慧文大師像 特別展室主任研究員　沖松健次郎	74	2
5月17日	足利尊氏書状について 書跡・歴史室主任研究員　高梨真行	72	2
5月24日	新羅の馬 平常展調整室長　白井克也	60	2
5月31日	国宝　和歌体十種 博物館情報課長　高橋裕次	64	2
6月7日	和鏡　日本で制作された銅鏡の文様と形 教育普及室長　伊藤信二	51	2
6月14日	褐釉蟹貼付台付鉢をみる 特別展室研究員　横山梓	53	2
6月28日	蒔絵の流れ 工芸室長　竹内奈美子	70	2
7月12日	清原雪信筆花鳥図 出版企画室研究員　小野真由美	60	2
7月26日	東大寺山古墳出土大刀群と金象嵌銘文の世界 列品管理課主任研究員　古谷毅	114	2
8月2日	国宝　宝簡集　巻第二 書跡・歴史室主任研究員　高梨真行	88	2
8月9日	東大寺山古墳の埴輪を読み解く 考古室研究員　山田俊輔	91	2
8月12日	東大寺山古墳の副葬品をめぐって 特任研究員　望月幹夫	53	2
8月16日	愛染明王像について 教育普及室長　伊藤信二	125	2
8月26日	博物館の妖 教育講座室主任研究員　神辺知加	72	2
8月30日	一遍上人伝絵巻　第巻七 平常展調整室研究員　瀬谷愛	95	2
9月2日	朝鮮半島の古墳文化 平常展調整室長　白井克也	35	2
9月6日	古写経の世界 調査研究課長　田良島哲	60	2
9月13日	石に魅せられた先史時代の人びと 考古室研究員　品川欣也	85	2
10月4日	呉昌碩について 列品管理課長　富田淳	76	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
10月18日	こんなに楽しい中国絵画 東洋室研究員　塚本麿充	71	2
10月25日	古唐津の窯址出土陶片 博物館教育課長　今井敦	45	2
11月1日	江戸幕府御用絵師板谷家のはじまり 平常展調整室研究員　瀬谷愛	52	2
11月15日	国宝　観楓図屏風 出版企画室研究員　小野真由美	115	2
11月22日	頭上に宇賀神をあらわす弁才天像 東洋室長　浅見龍介	101	2
11月29日	長船長光の太刀 酒井元樹　平常展調整室研究員	80	2
12月6日	仮名手本忠臣蔵 絵画・彫刻室長　田沢裕賀	45	2
24年1月17日	上代幡の形式・技法・文様等の変遷 特任研究員　澤田むつ代	55	2
24年1月24日	国宝　秋冬山水図 登録室長　救仁郷秀明	104	2
24年2月4日	童子、旅に出る―「華厳五十五所絵巻」をめぐって― 絵画・彫刻室研究員　土屋貴裕	54	2
24年2月14日	古墳時代の神マツリ 列品管理課主任研究員　古谷毅	88	2
24年2月21日	東京国立博物館の保存修復事業について 保存修復課長　神庭信幸	50	2
24年2月28日	東京国立博物館の保存修復事業について 保存修復課アソシエイトフェロー　鈴木晴彦	59	2
24年3月6日	国宝　白氏詩巻 調査研究課長　田良島哲	50	2
24年3月16日	絵画・書跡作品の保存と修理 保存修復室長　冨坂賢	38	2
24年3月21日	国宝「花下遊楽図屏風」 教育普及室長　伊藤信二	52	2
24年3月21日	着物に咲く桜 工芸室主任研究員　小山弓弦葉	39	2
24年3月27日	屏風修理の事前調査 保存修復室主任研究員　土屋裕子	58	2
24年3月28日	国宝「花下遊楽図屏風」 教育普及室長　伊藤信二	58	2
24年3月28日	屏風に咲く桜 絵画・彫刻室研究員　金井裕子	77	2

○東京藝術大学学生ボランティアによるギャラリートーク　30回　参加者総数821人

・総合文化展　ギャラリートーク　30回　参加者総数821人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
12月8・15・22、24年1月14･26、2月2日	6	真言密教と一木造―観心寺聖観音立像―	大海奈緒子	186
12月10・17・24、24年2月11・25、3月3日	6	ガラス器にみる西と東―重要文化財・白瑠璃碗と国宝・文禰麻呂骨壺の比較を通じて一	林佳美	159
24年1月11・25、2月5・8･19･22日	6	古瀬戸のやきものにみる日本らしさ一日本画選んだもの・選ばなかったもの一	奥村悠	129
24年1月12・19･27、2月3･10･17日	6	横山大観「五柳先生」一亡き友に捧ぐ金屏風	中尾真希子	187
24年1月15･21･28、2月4･9･15日	6	橋口五葉「髪梳る女」新しい浮世絵美人―	山本由梨	160

3)　連続講座「空海と密教美術」　計1回(3日)　参加者総数380人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
8月4日	弘法大師の生涯と思想／ 密教の絵画 講師：高野山大学名誉教授　村上保壽 特別展室主任研究員　沖松健次郎	380	2	89.3%
8月5日	密教と工芸／ 空海と日本の書 講師：教育普及室長　伊藤信二 副館長　島谷弘幸			
8月6日	弘法大師空海と東寺の文化財／ 東寺講堂の立体曼荼羅 講師：教王護国寺文化財保護課長　新見康子 教育講座室長　丸山士郎			

4)　公開講座　計3回　参加者総数　97人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
24年3月1・2日	見学ツアー 保存と修理の現場へ行こう 講師：保存修復課長　神庭信幸、保存修復室長　冨坂賢、保存修復室主任研究員　土屋裕子、環境保存室主任研究員 荒木臣紀、環境保存室研究員 和田浩、特任研究員 澤田むつ代	97	2	97.3%

5) その他展示に関連する事業　計2回　参加者総数　292人

実施日	内容	会場	参加者数(人)	担当研究員(人)
5月15日	恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業 上野の山でねずみめぐり	恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	25	2
8月12日	特別展記念上映会　孫文 100 年先を見た男	平成館大講堂	267	2

【京都国立博物館】

1)　土曜講座13回　参加者総数1,199人

全て特別展覧会関連講座

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月2日	（京都ミュージアムズ・フォー連携講座）浄土宗の美術	研究員　大原嘉豊	158
4月9日	像内納入品―仏像と古文書―	研究員　羽田聡	142
7月16日	動物の眼ざし、動物への眼ざし―近世絵画編―	連携協力室長　山下善也	85
7月23日	百獣の楽園をめざして　動物たちが幸せに暮らせる動物園に	京都市動物園 獣医師　坂本英房	64
7月30日	動物をみること、表現すること―分類とシンボル	主任研究員　永島明子	97
10月15日	永青文庫の歴史とコレクション	永青文庫学芸員　三宅秀和	133
10月29日	コレクター細川護立―日本近代美術の視点から―	東京文化財研究所企画情報部文化形成研究室長　塩谷純	99
11月12日	細川氏と永源庵―永青文庫の古文書―	研究員　羽田聡	84
11月19日	永青文庫の中国彫刻―コレクションをめぐる人々―	主任研究員　淺湫毅	43
24年1月7日	中国絵画の近代化と日本影響	学芸部長　西上実	74
24年1月21日	東方芸術の奇葩―北京画院美術館 斉白石コレクションの研究と展示―	北京画院美術館斉白石紀念館館長　呉洪亮	81
24年2月4日	洋画における中国と日本の交流―近代上海を中心に―	早稲田大学講師　陸偉榮	57
24年2月25日	海上画派と日本および西洋絵画の影響	上海博物館書画研究部主任　單国霖	82

2)　夏期講座　1回（3日）

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月27日	第1講 「京焼陶工と文人―近松門左衛門「生玉心中」に登場する乾山焼―」	工芸室長　尾野善裕	193
	第2講「魯迅が夢みた中国の美術革命」	研究員　呉孟晋	
	第3講「歌絵の世界―和歌と物語にたどる歌心の造形―」	和泉市久保惣記念美術館館長　河田昌之	
7月28日	第1講「紫式部日記と王朝美術の建築・庭園」	文化財管理監　中村康	
	第2講「改琦原図『紅楼夢図詠』について」	学芸部長　西上実	
	第3講「アルカディアの風景―牧人生活をめぐる絵画と文学―」	静岡県立美術館学芸部長　小針由紀隆	
7月29日	第1講「源氏物語の風景」	同志社女子大学名誉教授　朧谷寿	
	宇治市源氏物語ミュージアムと宇治十帖古蹟見学会	引率:企画室長 久保智康、研究員 羽田聡･大原嘉豊	

3)　社会科教員のための向上講座　1回　58人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月25日	講演「美の世界では天下人」 館内実地研修「細川家の至宝　珠玉の永青文庫コレクション」展	主任研究員　淺湫毅	58

4)　その他展示に関連する事業　5回　366人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
7月22日	「ジャングル大帝」野外上映会	京都国立博物館庭園	120
7月29日	「ジャングル大帝」野外上映会	京都国立博物館庭園	130
8月2日	小学・中学生向け鑑賞会「博物館 まるまるアニマル！」（講師：水谷研究員）	京都国立博物館特別展示館	42
8月5日	小学・中学生向け鑑賞会「博物館 まるまるアニマル！」（講師：水谷研究員）	京都国立博物館特別展示館	33
11月10日	京都国立博物館　文化大使・竹下景子さんと行く特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」観覧ツアー	京都国立博物館特別展示館	41

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　15回　　参加者総数　1,839人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月16日	「中国古代の建築－七層楼閣に見る明器の世界－」	学芸部研究員　岩戸晶子	68
4月30日	「中国文明の考古学」	京都大学教授　岡村秀典	186
5月14日	「宝冠仏の系譜－龍門石窟の彫像を中心に」	学芸部企画室長　稲本泰生	103
5月28日	「正倉院宝物と河南省の文物」	学芸部長補佐　内藤栄	120
7月30日	「與喜天満神社の歴史と信仰」	学芸部情報サービス室長　野尻忠	101
8月6日	「高僧伝絵としての玄奘三蔵絵」	京都国立博物館名誉会員　若林準治	194
8月20日	「藤田傳三郎と藤田美術館－玄奘三蔵絵をはじめとするコレクションについて－」	藤田美術館学芸員　前野絵里・藤田清	187
8月27日	「與喜天満神社の神像について」	学芸部長補佐　岩田茂樹	82
10月29日	「金銀鈿荘唐大刀と奈良時代の刀剣をめぐって」	東京藝術大学・大学美術館教授　原田一敏	145
10月30日	「国家珍宝帳と除物」	宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	179
	「東大寺献物帳と王羲之書法」	神戸大学名誉教授　魚住和晃	

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
	「献物帳とその時代」	奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室長 渡辺晃宏	
	「宝物献納と布施行」	学芸部企画室長　稲本泰生	
	パネル・ディスカッション「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」	杉本一樹・魚住和晃・渡辺晃宏・稲本泰生	
11月3日	「正倉院宝物にみられる経帙をめぐって」	学芸部研究員　永井洋之	79
11月5日	「正倉院宝物にみる染め」	宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員　中村力也	86
11月12日	「香と仏教」	学芸部研究員　清水健	146
24年1月7日	「春日社旧社家の大東家文書と『皇年代記』」	東京大学史料編纂所助教授　藤原重雄	68
24年2月11日	「不退の行法　東大寺修二会（お水取り）」	華厳宗管長・東大寺別当　北河原公敬	95

2)　夏季講座　第40回「玄奘三蔵とシルクロード」　1回（3日間）

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
8月24日	「玄奘三蔵はるかなる旅－唯識思想を求めて－」	駒澤大学仏教学部准教授　吉村誠	522
	「奈良時代における大般若経（玄奘訳）の受容－藤田美術館・薬師寺ほか所蔵の大般若経（魚養経）を中心に」	学芸部情報サービス室長　野尻忠	
	「日本中世における玄奘の位置」	群馬県立女子大学文学部教授　市川浩史	
8月25日	「玄奘の将来図像と東アジアの仏教美術」	学芸部企画室長　稲本泰生	
	「玄奘がみたインドの仏」	九州国立博物館学芸部企画課長　小泉惠英	
	「玄奘の見た未知なる仏教世界－中央アジアを中心に－」	龍谷大学文学部教授　入澤崇	
	「玄奘取経伝説と明恵上人」	東北大学東北アジア研究センター教授　磯部彰	
8月26日	「玄奘の画像と伝記絵」	元上智大学国際教養学部教授　米倉迪夫	
	「憧憬の天竺－玄奘三蔵絵の世界」	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生	

3)　サンデートーク　12回　参加者総数　　645人

実施日	テ ー マ	解　説　者	参加者数(人)
4月17日	「牛玉の話」	学芸部長補佐　　内藤栄	47
5月15日	「男はなぜ烏帽子を被るのか－髪型と被り物の文化史」	学芸部研究員　　斎木涼子	65
6月19日	「山形の話－作り物関話の弐」	学芸部研究員　　清水健	28
7月17日	「鬼か龍か－統一新羅の鬼瓦－」	学芸部研究員　　岩戸晶子	74
8月21日	「空海の伝えた絵画」	学芸部研究員　　原瑛莉子	86
9月18日	「法然上人周辺の絵画」	学芸部研究員　　北澤菜月	50
10月16日	「茶室・八窓庵をのぞいてみましょう」	学芸部教育室長　　吉澤悟	60
11月20日	「二躰の僧形坐像－その像主をめぐって－」	学芸部長補佐　　岩田茂樹	35
12月18日	「写経生の労務管理」	学芸部情報サービス室長　野尻忠	49
24年1月15日	「吉祥天と金光明経の美術」	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生	57
24年2月19日	「脚と格狭間」	学芸部研究員　永井洋之	48
24年3月18日	「奈良国立博物館の近代建築―仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）の過去と現在―」	学芸部資料室長　宮崎幹子	46

4)　その他展示に関連するイベント

「中国文明展」・「玄奘三蔵展」・「正倉院展」関連　9回　参加者総数　1,118人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
4月29日	葉衛陽＆さくら親子　中国琵琶競演　（コンサート）	講堂	134
7月23日	玄奘三蔵フォーラム	奈良県新公会堂能楽ホール	390
8月13日	親と子のワークショップ「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう」（体験イベント）	講堂	59
8月16日～21日	ならファンタージア～SANZO　（観光イベント）	なら仏像館西側広場	―
10月15日	「香木の魅力」　～シルクロードの香りをそえて～　（講演会） 講師：鳥毛逸平（株式会社日本香堂取締役）	講堂	134
10月29日 ～11月14日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
10月30日	正倉院学術シンポジウム２０１１ 「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」	ならまちセンター市民ホール	179
11月3日	第63回正倉院展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：内藤　栄　（奈良国立博物館学芸部長補佐）	講堂	189
12月10日	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」関連イベント「相撲と神事」 講師：杉山邦博氏	講堂	33

【九州国立博物館】

1)　特別展記念講演会　7回　　参加者総数　1,500人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月 9日	「よみがえる国宝」展関連 特別展記念講演会「日本のこころをつたえる―文化財の保存と修理―」 （会場：そぴあしんぐう（新宮町））	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	300
7月17日	「よみがえる国宝」展関連 特別展記念講演会「まもる、つたえる、その手法―文化財の修理と復元―」 （会場：筑紫野市文化会館（筑紫野市））	副館長　森田稔	200
7月23日	「よみがえる国宝」展関連 特別展講演会　守り伝える日本の宝 「寺宝を守り継ぐ―神護寺の歴史と宝物 」 「冷泉家八百年―日本文化の継承―」	高野山真言宗遺迹本山高雄山神護寺貫首　谷内弘照 （公財）冷泉家時雨亭文庫　理事長　冷泉為人	200

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月24日	「よみがえる国宝」展関連 特別展記念講演会「国宝のはなし」 （会場：NHK福岡放送局（福岡市））	館長　三輪嘉六	200
7月30日	「よみがえる国宝」展関連 特別展記念講演会「日本の宝をまもる、美をつたえる―文化財の保存と修理―」 （会場：ミリカローデン那珂川（那珂川町））	博物館科学課長　本田光子	250
10月16日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展記念講演会「慶陵と慶州白塔―契丹・章聖皇太后の祈りと生涯」	岡山大学教授　古松崇志	50
24年1月22日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 特別展記念講演会「細川家　美と戦いの700年」	永青文庫理事長・細川家18代当主　細川護熙	300

2)　特別展シンポジウム　1回　　参加者数　263人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
24年3月10日	国際シンポジウム 百済文化と古代日本～百済研究の新展開～ 「半跏思惟像の美―百済の半跏思惟像を中心に」 「百済寺院の展開と日本の初期寺院」 「考古資料から考える錦江流域の日韓古代文化交流」	 韓国国立中央博物館展示課長　関丙賛 韓国国立中央博物館学芸研究官　李炳鎬 韓国国立全州博物館学芸研究室長　金鍾萬	263

3)　講演及びシンポジウム等　37回　　参加者数　4,269人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月 9日	「黄檗」展関連 法話「黄檗再発見」～日本文化発展に果たした役割とその魅力～	黄檗山宝蔵院住職　住谷瓜頂師	110
4月10日	「黄檗」展関連 講演会「普茶料理講演会」	元萬福寺典座　田谷昌弘師	100
4月17日	「黄檗」展関連 講座「范道生と黄檗の仏像」	展示課主任研究員　楠井隆志	42
4月23日	「黄檗」展関連 講座「長崎と黄檗文化～興福寺を中心として～」	長崎史談会会長　原田博二	180
4月23日	トピック展示「日本とタイーふたつの国の巧と美」関連 アクロス・文化学び塾 「日本とタイ- ふたつの国の巧と美」展講座	文化財課主任研究員　原田あゆみ	26
5月 1日	トピック展示「日本とタイーふたつの国の巧と美」関連 講演会「日本とタイーふたつの国の文化の違い」	大阪外国語大学名誉教授　赤木功	40
5月 3日	「黄檗」展関連 講座「黄檗肖像画と長崎のお絵像」	北九州市立大学名誉教授　錦織亮介	35
5月 7日	「黄檗」展関連 法話「黄檗の文人趣味について」	大阪瑞龍寺住職　中村秀晴師	65
5月14日	トピック展示「日本とタイーふたつの国の巧と美」関連 講座「タイの仏（ほとけ）日本の仏」	文化財課主任研究員　原田あゆみ	30
5月15日	「黄檗」展関連 法話と座禅会「座禅と提唱」	長崎霊源院住職　松本普成師	40
7月 2日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅠ 「曝涼はIPMのルーツ?-虫干しにかわるものは何か-」 「文化財害虫各論」	 博物館科学課長　本田光子 (公財)文化財虫害研究所　小峰幸夫	38
7月 8日	「よみがえる国宝」展関連 展示解説講座 ～しっとこ九博～ 『よみがえる国宝～守り伝える日本の美～』（会場：筑紫野市）	博物館科学課長　本田光子	70
7月30日	全国縦断古代史講演会　第16回明日香村まるごと博物館フォーラム 「斉明天皇と飛鳥～牽牛子塚古墳の発掘から」 「最近の発掘成果と飛鳥の遺跡」 「うたと時代―斉明朝から―」 「考古学からみた斉明天皇陵」	 奈良県明日香村教育委員会主任技師　西光慎治 奈良大学教授　上野誠 大阪府立近つ飛鳥博物館長　白石太一郎	300
7月31日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅡ　　日本の宝を守る、技とこころ 「展示作品の保存修理事例解説」 「彩色や刺繍糸、技法から見た天寿国繍帳の変遷」 「神護寺山像の保存修理をめぐって」 「文化財を守る技を継ぐ―北村大通の遺したもの―」	 東京国立博物館　澤田むつ代 国宝修理装潢師連盟理事長　岡岩太郎 漆芸家：重要無形文化財保持者・選定保存技術保持者　北村昭斎	238
8月 6日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅡ　　日本の宝を守る、蔵を継ぐ 「展示作品の保存修理事例解説」 「宮内庁書陵部の資料管理」 「正倉院宝物の保存」 「正倉院―一つの場所の物語―」	 宮内庁書陵部図書寮文庫　中村一紀 宮内庁正倉院事務所　成瀬正和 宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	187
8月 7日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅡ　　日本の宝を守る、美を伝える 「展示作品の保存修理事例解説」 「正倉院宝物の模造」 「皇室の名宝をまもる―皇后陛下の小石丸と修理事業の成果」 「茶陶修理と漆のわざ」	 宮内庁正倉院事務所　西川明彦 宮内庁三の丸尚蔵館　太田彩 漆芸家：重要無形文化財保持者　室瀬和美	255

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
8月12日	「よみがえる国宝」展関連 NHKネットクラブ特別鑑賞会 「よみがえる国宝―まもり伝える日本の美」	博物館科学課長　本田光子	125
8月21日	「よみがえる国宝」展関連 文化財保存交流セミナーⅢ　　日本の宝を守る、文化を伝える 「和本リテラシーのすすめ」	九州大学名誉教授　中野三敏	110
9月30日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 ふるさと館ちくしの展示解説講座「契丹と日本」	企画課研究員　市元塁	40
10月 1日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展企画　契丹大学　秋季講座　第1回 「契丹文化への招待」 「壁画から見た契丹社会」	企画課研究員　市元塁 文化財課長　臺信祐爾	161
10月 8日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展企画　契丹大学　秋季講座　第2回 「唐と契丹　華麗なる金銀器」 「奇跡の彩色木棺を救え！－日本・内モンゴルの共同保存事業」	東京藝術大学大学美術館教授　原田一敏 博物館科学課保存修復室長　今津節生	145
10月10日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展企画　契丹大学　秋季講座　特別講義 「日本と契丹―11世紀の仏教遺産」	平等院住職　神居文彰	195
10月22日	「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」展関連 特別展企画　契丹大学　秋季講座　第3回 「陶磁器が語る草原の王朝」 「蒼天にそびえる白亜の仏塔」	展示課研究員　遠藤啓介 企画課長　小泉惠英	147
10月22日	トピック展示「琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」関連 アクロス・文化学び塾 「琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」展講座	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	21
11月13日	トピック展「琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」関連 講演会「袋中上人とエイサー・檀王法林寺」 「檀王法林寺―京都と沖縄の架け橋になって―」 「袋中上人と檀王法林寺の宝物」 「エイサーの過去・現在・未来」	檀王法林寺住職　信ケ原雅文 伝統文化財保存研究所代表　石川登志雄 沖縄県立博物館・美術館主幹　園原謙	70
11月25日	平成23年度　第4回 九州国立博物館文化財保存交流セミナー 「大英博物館　オーエン・E・ケリー　日本での研修について」	大英博物館日本絵画保存修理技術者　オーエン・E・ケリー	13
24年1月14日	公開シンポジウム　「市民と共にミュージアムIPM」 特別講演 「ある公立美術館で“IPM” が普通のことになるまで」 「スタートした文化財IPM コーディネータ資格の意義」	愛知県美術館長　村田眞宏 (公財) 文化財虫害研究所理事長　三浦定俊	107
24年1月15日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会（会場:えーるピア久留米（久留米市））	企画課研究員　川畑憲子	172
24年1月27日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 展示解説講座 ～しっとこ九博～ 『細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～』（会場：筑紫野市）	企画課研究員　川畑憲子	72
24年1月28日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会「細川家と永青文庫の名品」	永青文庫館長　竹内順一	170
24年1月29日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会（会場:メイトム宗像（宗像市））	展示課研究員　酒井芳司	123
24年1月29日	九州歴史資料館開館1周年記念シンポジウム 「祈りの世界―北部九州の霊山と経塚」 「浄土への祈り－経塚が語る永遠の世界－」 「創建縁起からみた北部九州の霊山」 「北部九州の経塚」 「近畿の経塚とその影響」 「経塚と仏像－国玉神社の銅筥にみる－」	奈良文化財研究所国際遺跡研究室長　杉山洋 展示課研究員　酒井芳司 福岡県世界遺産登録推進室技術主査　森井啓次 国立歴史民俗博物館准教授　村木二郎 九州歴史資料館学芸員　井形進	170
24年2月7日	文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」関連 講演会「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」 （会場：韓国国立中央博物館）	井上ひろ美（琵琶湖文化館） 根立研介（京都大学教授）	150
24年2月11日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会（会場:北九州市立商工貿易会館（北九州市））	企画課研究員　川畑憲子	172
24年2月12日	「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～」展関連 講演会「どこが見どころ？細川家の至宝展」	企画課研究員　川畑憲子 展示課研究員　酒井芳司	244
24年3月6日	平成23年度　第5回 九州国立博物館文化財保存交流セミナー 「東日本大震災の文化財レスキュー事業」	東京文化財研究所所長被災文化財等救援委員会委員長　亀井伸雄	57
24年3月21日	平成23年度　第6回 九州国立博物館文化財保存交流セミナー 「鷹島沖海底遺物から元寇の実態を探る」 「鷹島海底発見の沈没船と遺物」 「元時代の文物から見た元寇遺物」 「元時代の武器から見た元寇遺物」	琉球大学教授　池田栄史 内蒙古文物考古研究所所長　陳永志 内蒙古博物院研究員　于宝東	49

4)　ミュージアムトーク　43回　参加者総数　1,741人

・担当研究員数　延べ　43人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
（原則として毎週火曜日の午後3時より15～30分間）

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数(人)
4月5日	魅惑のパルメット	企画課研究員　市元塁	27
4月12日	国宝　琉球国王尚家関係資料の保存修理について	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	26
4月19日	奈良の大仏再建と後白河法皇	展示課研究員　酒井芳司	50
4月26日	文化財と科学調査	文化財課主任研究員　鳥越俊行	40
5月10日	トピック展「日本とタイ　ふたつの国の巧と美」について	文化財課主任研究員　原田あゆみ	30
5月17日	燃燈仏本生・仏の最後の前生の物語	企画課長　小泉惠英	50
5月24日	弥生の赤	博物館科学課長　本田光子	40
5月31日	もう一つの銅鐸史 － 尾張徳川江戸屋敷のお宝展示 －	文化財課資料管理室長　小林公治	30
6月7日	弥生青銅器の大型化	展示課研究員　坂元雄紀	55
6月14日	博物館の環境について	博物館科学課アソシエイトフェロー　秋山純子	30
6月21日	中国の彫漆	企画課研究員　川畑憲子	55
6月28日	古代の鏡に触れて見よう	博物館科学課環境保全室長　今津節生	40
7月5日	仏像の材質	文化財課長　臺信祐爾	46
7月12日	「中国地方との交流」解説 － 鉄を中心に －	展示課主任研究員　進村真之	53
7月26日	仏像を科学する	展示課主任研究員　楠井隆志	43
8月2日	斉明天皇と大宰府観世音寺	展示課長　赤司善彦	63
8月9日	槍先形の祭器	博物館科学課主任研究員　志賀智史	60
8月23日	弥生時代の王	展示課研究員　坂元雄紀	60
8月30日	田中丸コレクションの魅力	展示課研究員　遠藤啓介	25
9月6日	金銀の島、日本	文化財課主任研究員　鳥越俊行	40
9月13日	断ち切られた病草紙	企画課研究員　森實久美子	40
9月27日	タッチ　ザ　古墳時代	企画課文化交流展室長　河野一隆	38
10月4日	水墨画の「筆」と「墨」　　（トピック展示「館蔵水墨画名品展」解説１）	企画課主任研究員　畑靖紀	68
10月18日	東アジアの文化交流と水墨画　（トピック展示「館蔵水墨画名品展」解説２）	企画課主任研究員　畑靖紀	46
10月25日	国宝 来国光 － 刀の魅力 －	文化財課アソシエイトフェロー　末兼俊彦	43
11月1日	琉球と袋中上人	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	39
11月8日	「琉球と袋中上人展」の彫刻	展示課主任研究員　楠井隆志	35
11月15日	「九大百年の宝物展」の見どころ	展示課主任研究員　進村真之	38
11月22日	暦をつくる	展示課研究員　酒井芳司	32
11月29日	狩人の道具・石器 － 石の匠の技をみる －	九州歴史資料館　杉原敏之	40
12月4日	狩人の道具・石器 － 石の匠の技をみる －	九州歴史資料館　杉原敏之	38
12月6日	輸出された古伊万里	展示課研究員　遠藤啓介	30
12月13日	海底のタイムカプセル － 沈没船と蒙古襲来 －	博物館科学課環境保全室長　今津節生	35
12月20日	輸出螺鈿漆器の謎	文化財課資料管理室長　小林公治	28
24年1月3日	国宝　初音の調度について	企画課研究員　川畑憲子	30
24年1月17日	涅槃図大解剖	企画課研究員　森實久美子	35
24年1月24日	装飾古墳の秘密	企画課文化交流展室長　河野一隆	32
24年1月31日	農耕のはじまり	展示課長　赤司善彦	35
24年2月14日	日本の埴輪と中国の人物俑	企画課研究員　市元塁	41
24年2月21日	お墓の中の色	博物館科学課長　本田光子	45
24年2月28日	赤色にこだわる縄文人	博物館科学課主任研究員　志賀智史	35
24年3月6日	インドの神像	企画課長　小泉惠英	40
24年3月13日	カガミよ鑑（かがみ）、一番立派なお殿様は誰？	企画課研究員　鷲頭桂	35

5)　ミュージアム講座　1回　　参加者数　60人

開催日	テーマ	講師	会場	参加者数（人）
7月23日	ミュージアムトーク・特別回 銘文塼に見る日中韓資料	館長　三輪嘉六	ミュージアムホール	60

6)　その他展示に関連するイベント　47回　　参加者数　48,366人

展覧会名	期間	内容	会場	参加者数(人)
文化交流展	4月30日（2回）	トピック展示「日本とタイーふたつの国の巧と美」関連イベント ワークショップ　久留米絣の糸と腰機でコースターを織ってみよう！	研修室	14
	5月5日	トピック展示「日本とタイーふたつの国の巧と美」関連イベント 微笑みの国からやってくる魅惑のタイ舞踊	ミュージアムホール	340
	11月13日	トピック展示「京都・檀王法林寺開創400年記念　琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―」関連イベント うるま市無形民俗文化財「平敷屋エイサー」（平敷屋エイサー保存会）	エントランス	800
	12月4日	トピック展示「発掘された日本列島2011地域展　九州最古の狩人とその時代」関連イベント ワークショップ　「石の匠に学ぶ―石器作り体験―」	研修室	38
特別展「黄檗」	4月1日～5月22日	巡照朝課（じゅんしょうちょうか）	特別展示室／エントランス	1,034
	4月 3日・10日・17日・24日・5月4日（5回）	茶席	茶室／研修室	968
	4月 3日・10日・17日・24日・5月3日～8日・15日（11回）	厄よけストラップ手づくり教室	エントランス	157
	4月 3日	開山忌（かいさんき）	ミュージアムホール	400
	4月 3日	蛇踊り	エントランス	600
	4月16日	中国茶振る舞い	エントランス	200

展覧会名	期間	内容	会場	参加者数(人)
	4月16日	中国茶ミニ講座	研修室	47
	4月16日	瓢箪笛（ひょうたんぶえ）コンサート	ミュージアムホール	200
	4月26日～5月8日	京の老舗　名産品展	エントランス	40,000
	5月 1日	二胡コンサート	ミュージアムホール	200
	5月 4日	声明（しょうみょう）「梵唄（ぼんばい）」	ミュージアムホール	700
	5月15日	フルートコンサート「隠元禅師の夢ー瞑想のひととき」	エントランス	140
特別展「よみがえる国宝」	7月 3日	トークショー「古美術のススメ～修復文化財に見る匠たち～」	ミュージアムホール	250
	7月 9日、30日、8月13日（3回）	親子で楽しむバックヤードツアー「大きな博物館の探検！」	バックヤード	106
	8月21日	子どもイベント みて！さわって！！岩絵具のふしぎな世界	研修室	40
	8月21日	ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！ 「江戸の本の虫たちー和本の扱い・観察・虫干しー」	研修室	40
	8月23日	ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！ 「九博の杜の虫たち」	研修室	40
特別展「契丹」	10月 8、9、10日（3回）	契丹のいまを知る。（ゲル&衣装体験コーナー）	エントランス	300
	10月29日、30日（2回）	特別上映会　「楊家将伝記　兄弟たちの乱世」	ミュージアムホール	340
特別展「細川家の至宝」	24年1月 8日	ワークショップ「剣豪・宮本武蔵になろう！」	ミュージアムホール	62
	24年1月 9日	「聴いて見て楽しむ、細川展と能」	ミュージアムホール	300
	24年1月29日、2月19日（2回）	くまモンin九州国立博物館	エントランス	1,050

2-⑵-④ 児童生徒を対象とした教育普及事業

【東京国立博物館】

1) みどりのライオンプロジェクト

開催期間	4月1日～平成24年3月31日
開催場所	本館20室
入場者数	112,500人　(※本館20室で実施した体験型プログラム参加者数を計数)
担当研究員数	7人
事業内容	みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を運営。パネル展示により館全体のガイダンス機能をもたせるとともに、各種レクチャーや体験型プログラム、製作工程模型展示などを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。また、総合文化展鑑賞の手引きとして、ワークシート3種を制作し、通年配布した。

2)「親と子のギャラリー」

「博物館できもだめし－妖怪、化け物　大集合－」	
開催期間	7月20日～8月28日（36日間）
開催場所	本館特別2室
入場者数	70,726人
担当研究員数	1人
事業内容	家族での来館のきっかけ、および、総合文化展鑑賞の一助となることを目的に、わかりやすいテーマ設定のもと時代やジャンルを超えた作品を展示する教育普及的展示を夏休みにあわせて実施。古くから人びとの生活に根づいていた妖怪の背景や展開をわかりやすく伝えることを目指した。日本人の想像力の豊かさに触れ、その想像力を生かして作られた「ほんもの」の作品の鑑賞を通して、歴史のなかで培われてきた日本文化のすばらしさを伝える。関連ワークショップも実施。
関連事業	・ファミリーワークショップ「博物館できもだめし」　8月20日　(※詳細は下記 3)③ワークショップ　を参照)

3) 体験型プログラムの実施　　参加者数計 119,186人、　観覧者数計 117,215人

① 平常展示関連体験型プログラム　　参加者数計　94,609人

ハンズオン体験型展示	平常陳列「暮らしの調度」関連「日本のもようでデザインしよう」	
	期　　間	4月5日～4月30日、6月14日～24年3月31日
	開催場所	本館20室
	参加者数	88,221人
ハンズオン体験型展示	特集陳列「天翔ける龍」（本館特別2室）関連「東博龍めぐり&掛軸ふうカレンダー」	
	期　　間	24年1月2日～1月3日
	開催場所	本館20室
	参加者数	4,715人
ハンズオン体験型展示	表慶館トラベル　アジアの香り	
	期　　間	10月1日～12月24日毎週土曜日
	開催場所	表慶館エントランス
	参加者数	1,147人
ハンズオン体験型展示	表慶館トラベル　まぼろしの作品調査書	
	期　　間	10月2日～12月25日毎週日曜日
	開催場所	表慶館エントランス
	参加者数	526人

② 制作工程模型展示　　観覧者数計　117,215人 (※本館20室にて実施した体験型プログラム参加者数と一体化してカウント)

ハンズオン体験型展示	「悉皆金色　阿弥陀如来像ができるまで」	
	期　　間	23年1月2日～4月3日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	(4月1日～3日は、ボランティア活動休止のため、データなし)
ハンズオン体験型展示	「盧舎那仏のひみつ」	
	期　　間	4月5日～6月12日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	28,936人
ハンズオン体験型展示	「国宝・孔雀明王像ができるまで」	
	期　　間	6月14日～8月21日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	22,151人
ハンズオン体験型展示	「国宝・仏頭ができるまで」	
	期　　間	8月23日～24年2月5日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	51,834人
ハンズオン体験型展示	「裏彩色　隠れた色彩の効果」	
	期　　間	24年2月7日～5月13日
	開催場所	本館20室
	観覧者数	14,294人（24年3月31日までの観覧者数）

③ ワークショップ　　回数 16回　参加者数計 287人

ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」（本館7室）関連 ファミリーワークショップ「屏風体験！」（事前申込制）	
	期　　間	5月21日
	開催場所	応挙館
	参加者数	14人

	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「暮らしの調度」(本館8室)関連 おとなのためのワークショップ「季節のもようのお皿作り」（事前申込制）	
	期　　間	①②6月25日、③④6月26日 ※①23年3月12日、③3月13日に予定していた同内容のワークショップの振替実施2回分を含め計4回実施
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①13人　②18人　③14人　④18人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	親と子のギャラリー「博物館できもだめし　－妖怪、化け物　大集合－」(本館特別2室)関連 ファミリーワークショップ「博物館できもだめし」（事前申込制）	
	期　　間	8月20日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	26人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「日本の考古」（平成館考古展示室）関連 ファミリーワークショップ「考古学者に挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	①10月15日、②10月16日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①24人、②27人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」（本館7室）関連 ファミリーワークショップ「屏風体験！」（事前申込制）	
	期　　間	11月19日　①10時～　②14時～
	開催場所	応挙館
	参加者数	①12人　②2人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「金工」（本館13室）関連 ファミリーワークショップ「からだが動くエビを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	①24年1月28日、②24年1月29日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①16人、②34人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連 おとなのためのワークショップ「オリジナル貝合せを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	①24年3月10日、②24年3月11日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①14人、②18人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連 ファミリーワークショップ「貝合せに挑戦」（事前申込制）	
	期　　間	①24年3月10日、②24年3月11日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①14人、②23人
	担当研究員数	3人

④ 特別展関連体験型プログラム　　参加者数計　24,290人

ワークショップ及び関連事業	特別展「手塚治虫のブッダ展」関連　ワークショップ「ものがたりを描く　仏像×漫画×アニメーション」	
	期　　間	6月18日
	開催場所	本館20室
	参加者数	11人
ハンズオン体験型展示	特別展「写楽」関連　「写楽に挑戦！」	
	期　　間	5月1日～6月12日
	開催場所	本館20室
	参加者数	24,279人

4) 東博スクールプログラム

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	小学校 17校 781人／中学校 105校 5,817人／高校 30校 1,112人 計152校7,710人　※児童・生徒のみを計数。この他引率教員が493名 盲学校のためのスクールプログラム 3校　23名
担当研究員数	3人
事業内容	総合的な学習などでより充実した見学ができるよう、ガイダンスや対話形式の伝統文化理解のための鑑賞教育プログラムを児童・生徒に実施した。スクールプログラムのパンフレットは近隣県の学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。 視覚障害者の鑑賞支援プログラムとして今年度より「盲学校のためのスクールプログラム」の受入実施を開始した。

5) 職場体験の受入

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校 20校 58人／高校 4校 46人、計24校104 人

担当研究員数	3名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。生涯学習ボランティアとともに、お客様案内やアクティビティの補助等、お客様サービスに関わる業務の体験をする。要項は近隣学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。

6) 教員を対象とした事業の実施

○ 教員鑑賞会の実施

期　　間	①8月2日（特別展「空海と密教美術展」）、②8月10日（東博スクールプログラム）、 ③11月4日（特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」）、④24年1月22日（特別展「北京故宮博物院200選」）
開催場所	①②③④平成館大講堂、小講堂、本館20室
参加者数	①405人、②29人、③218人、④228人　　計880人
担当研究員数	5人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。スクールプログラムを中心とした博物館利用方法、特別展観覧の手引きとして作成したジュニアガイドの活用方法の説明とともに、展示の解説を行った上で実際に展示を観覧することで、博物館利用についての興味関心、理解を深める。また、指導要領と関連した授業案を提案した。

○ 全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）

期　　間	7月27日～7月29日
開催場所	本館展示室、会議室／東京藝術大学
参加者数	38人
担当研究員数	3人
事業内容	全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象とした研修会。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めることを目指す。今年度は第8回目として「日本の金工」をテーマに博物館では歴史に関する講義と鑑賞、大学では実技研修を実施した。

○ 盲学校のためのスクールプログラム教員研修会

期　　間	8月25日
開催場所	本館展示室
参加者数	17人
担当研究員数	4人
事業内容	全国の盲学校教員を対象とした研修会。盲学校の児童・生徒に向けたスクールプログラムの解説および実際にプログラムを体験することを通じ、プログラムや博物館利用について理解を促すとともに、プログラムの向上のために意見交換を行った。

【京都国立博物館】

1) 少年少女博物館くらぶ

事業名：小学・中学生向け鑑賞会「博物館 まるまるアニマル！」	
実施日	8月2日、5日
対象	小学生から中学生
参加者数	75人

2) 博物館Ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙの発行　　1回

・発行部数　5,000部
・配 布 先　館内観覧者等

3) 特別展観 「百獣の楽園　―美術にすむ動物たち―」小中学生の入場料を無料

4) 特別展観 「百獣の楽園　―美術にすむ動物たち―」小中学生向けワークシート作成

・発行部数　30,000部
・配 布 先　館内観覧者

5) 京都市内の小中学校への訪問授業

事業名：建仁寺「綴プロジェクト作品展」キッズプログラム	
実施日	4月4日　11:00～11:30、14:00～14:30
場所	大本山　建仁寺
対象	小・中学生、保護者
参加者数	20人
事業内容	NPO法人京都文化協会との連携事業。小中学生を対象に対話型の鑑賞プログラムを実施。高精細複製の俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」、伊藤若冲筆「樹花鳥獣図屏風」2点を中心に解説。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	6月13日　13:45～14:30
場所	京都市立紫明小学校
対象	京都市立紫明小学校　6年生
参加者数	32名
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名： 文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	

実施日	7月13日　8:55～12:25
場所	京都市立納所小学校
対象	京都市立納所小学校　5.6年生、保護者
参加者数	120人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、研究員と文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：文化財に親しむ授業　「八橋図屏風」尾形光琳筆	
実施日	10月3日　9:40～12:20
場所	京都市立金閣小学校
対象	京都市立金閣小学校　6年生
参加者数	110人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	10月31日　10:45～11:30
場所	京都市立新洞小学校
対象	京都市立新洞小学校　6年生
参加者数	13人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	11月28日　8:45～15:05
場所	京都市立蜂ヶ岡中学校
対象	京都市立蜂ヶ岡中学校　1年生
参加者数	220人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：文化財に親しむ授業　「鶴下絵三十六歌仙和歌巻」俵屋宗達下絵　本阿弥光悦書	
実施日	11月30日　13:55～16:00
場所	京都市立鷹峯小学校
対象	京都市立鷹峯小学校　5.6年生
参加者数	40人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名：文化財に親しむ授業　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆	
実施日	12月19日　10:55～11:40
場所	京都市立一橋小学校
対象	京都市立一橋小学校　6年生
参加者数	17人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師）が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会

6）社会科教員のための向上講座

実施日	10月25日
開催場所	管理棟3階研修室及び特別展示館
参加者数	58人
担当研究員数	1人
事業内容	京都市教育委員会との連携事業。研究員による講義のあと、特別展覧会ギャラリートークと質疑応答を実施した。小中学校社会科教員と総合支援学校全教員を対象とする。　（詳細は2⑵③講座・講演会等の開催実績を参照）

【奈良国立博物館】

1）修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

・期間　　開館中随時
・場所　　展示会場・講堂等
・学校団体案内数　　27件、計 1,341名
・担当研究員数　3人
・事業内容　　解説ボランティアによる展示作品の解説

2）世界遺産学習への対応

・期間　　4月～12月　　事前申し込み制
・対応実績　　奈良市内の小学校34校　（5年生の全クラスを対象）　計 2,182名
・担当研究員数　3人
・事業内容　　奈良市教育委員会との共同で、市内の全小学校5年生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重要性を学んでもらう。
解説ボランティアによる「世界遺産学習」プログラム（スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など）を1時間程度で実施する。

3）子ども向け音声ガイドの制作

・特別展「第63回正倉院展」で制作、計 1,289台の利用があった。

4）子ども向けイベントの実施

実施日	内　容	会　場	参加者数
7月16日 ～8月28日	「子供絵画館 in NARA」 ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール入賞作品展覧会	地下回廊	―
7月24日	香り袋手作り教室	地下回廊	74
8月13日	親と子のワークショップ「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう」（体験イベント）	講堂	59
10月29日 ～11月14日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
11月3日	第63回正倉院展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：内藤　栄　（奈良国立博物館学芸部長補佐）	講堂	189

5）職場体験の受入

期　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校 2校 6人
担当職員数	2名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。利用者サービス業務や資料整理業務、ミュージアムショップや館内レストラン等に関わる業務の体験をする。

【九州国立博物館】

1）博物館における体験型事業の充実

① 教育普及ゾーン（体験型展示室「あじっぱ」）で活用する様々な教育キットの開発

体験型キットの開発・展開	
内容	「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キット・プログラムの開発 新規開発キット、プログラム： 「なりきり考古学者　拓本ヴァージョン」「中国の剪紙」「阿蘇4火砕流と埋もれ木くん」「いろんな国の将棋」「ウズベキスタンの帽子をつくろう」「あじっぱカルタ」「ワヤンぬりえ」「天神さまぬりえ」
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	開館時は常時開放

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」	
内容	「あじっぱ」の資料・コンテンツを活用して夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。平成23年度は「紙で着物を作ろう」「ベトナムの版画を刷ってみよう」「韓国のお菓子の型でかたちをつくろう」「中国のパズルで遊ぼう」「日本の切り絵〔もんきり〕で遊ぼう」の5コンテンツを実施。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	7月16日～17日　参加者合計約300名
ボランティアワークショップ	
内容	「来館者へのサービス向上」「博物館ボランティアの周知」を目的に、博物館ボランティアの企画・準備・実施による参加体験型のプログラム（イベント）実施 ①プラ板キーホルダーづくり　②ハニワ色付け体験（２回）　③七夕飾り　④ループ組紐ストラップづくり　⑤和綴じ本を作ろう　⑥餅つき　⑦折り紙⑧書き初め
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員　①300名　②200名（各回）　③800名　④50名　⑤60名　⑥600名　⑦100名　⑧200名
実施	①5月5日　②8月21日・10月23日　③7月26日～8月4日　④8月21日　⑤10月23日　⑥平成24年1月3日　⑦平成24年1月4日　⑧平成24年1月8日
九博子どもフェスタ	
内容	「博物館を楽しいところ」「博物館に子どもたちを」を目的に、主に子どもが楽しめるに視点を当てた参加体現型のプログラムやイベントをボランティアによる自主的な企画・運営のもと、十数種類実施。
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし（参加者2,000人～3,000人）
実施	平成24年2月19日
「絵本でおはなし」	
内容	文化交流展示室やあじっぱにおいて、きゅーはくの絵本「月夜のおおさわぎ」や「じろじろぞろぞろ」、サインプロジェクト制作絵本「あじっぱにいこう」の読み聞かせ。
対象	小学生まで、およびその保護者
人数	各回8名程度
実施	4月24日(1回実施、12名)　6月4日（1回実施、4名）　8月3日（計3回実施、計25名）　9月18日（計2回実施、計20名）
茶道体験（「親子で茶道体験」、「はじめての茶道体験」）	
内容	茶室にて茶道初心者に対して茶道体験を実施
対象	「親子で茶道体験」小・中・高校生とその保護者、「はじめての茶道体験」高校生以上
人数	「親子で茶道体験」30名程度、「はじめての茶道体験」20名程度
実施	各月1回実施

③ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示室「あじっぱ」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。 「あじっぱ」における特集展示 ①「あじ庵」：「タイの町並み」「染めと織り」「いろんな国の子どもの衣装」「アジアの楽器」「桃の節句」「青」（計6回） ②「あじぎゃら」：「はらのなかのはらっぱで」「ウズベキスタンの細かな手仕事」「やきもの動物園」「郷土人形」（計4回） ③ディスプレイ：「ウズベキスタン」「ベトナムの水上人形」「モンゴルの生活」「アジアの龍」 ④あじっぱ屋台展示替え：8カ国の展示について延べ10回
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	最大収容可能人数約80人
実施	開館時は常時開放

④ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり学芸員体験、なりきり考古学者体験	
内容	①なりきり学芸員体験：「あじっぱ」において、学芸員の仕事の一部を40～50分で体験するワークショップ。収蔵棚から文化財に見立てた資料を選び、実際に手にとって観察し、調査カードを作成し、展示ケースに展示する。 ②なりきり考古学者体験：「あじっぱ」において、考古学者が行う調査の一部を40～50分で体験するワークショップ。出土遺物や陶磁器の形状を調査し、実測図を作成したり、拓本を取ったりする
対象	小学校中学年以上
人数	1回につき最大8名
実施	ボランティアによる司会進行で実施。毎月第2土曜日「考古学者」、第3土曜「学芸員」のほか、希望者に対して随時実施（計37回）

2) 九州大学との共同研究成果に基づき、平常展を利用して来館者ニーズに合った情報提供を行うためのプログラムの研究・開発

文化交流展示室における音声ガイドコンテンツの開発	
内容	・最新のメディア機器を用いて、より豊かな博物館体験を提供する。 ・来館者の能動的鑑賞による歴史の魅力の発見を支援する。
目的・方針	・本研究は次世代型博物館に向けたインタラクティブな自動誘導機能が付加された展示解説コンテンツと、その展示を効率的に評価できる展示評価支援システムの開発を目的としている。 ・来館者に優しいパーソナル・ミュージアム・コンシェルジュの開発と実証実験を行う。
調査方法	・展示室内のインタラクティブな映像を組み込んだコンテンツを児童に事前に見せて、実際の展示室内での観覧状況を調査した。
実施	・24年1月29日（日）に九州大学　金教授他学生4名、小学生6名が来館し実証実験を実施。

3) 学校教育との連携事業の実施

① 職場体験（中学生）の受け入れ

中学生の職場体験	
内容	中学校で実施される「総合的な学習」に対応し、働く現場での体験を提供することで、自らの進路や職業について考える機会を提供するとともに、博物館への理解を促進する。
人数	1回について最大6名まで
実施	12校に対して実施、体験中学生数66名（実施中学校：太宰府市立太宰府中学校、太宰府市立学業院中学校、小郡市立三国中学校、福岡雙葉中学校、大野城市立大利中学校、春日市立春日野中学校、春日市立春日北中学校、大野城市立大野東中学校、筑紫野市立筑紫野中学校、筑紫野市立二日市中学校、筑紫野市立筑紫野南中学校、大野城市立大野中学校）

② ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

ジュニア学芸員活動	
内容	博物館に関心のある高校生が、学芸員による講話や演習を体験することで、博物館の活動を理解するとともに、自らの進路や職業を考える機会を提供する。
人数	5校14名
実施	12月～3月の日曜日を中心に全9回

③ 博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置

教師社会体験研修	
内容	学校の教師に対して社会貢献等の体験の場を提供し、教師の資質の向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進をはかる。
人数	7名
実施	8月1日～2日（4名）、8月20日～22日（3名）

④ 教員を対象としたプログラムの実践

内容	学校の教師に対して博物館の機能や展示内容について解説し、教師の博物館理解を深め、学校による博物館利用を促進する。
人数	50名
実施	5月19日 福岡県高等学校歴史研究会総会「黄檗-京都宇治萬福寺の名宝と禅の新風-」「学校貸出キット『きゅうぱっく』について」 7月29日 九州国立大学附属学校連盟社会科部会「「よみがえる国宝」展について」「学校貸出キット『きゅうぱっく』について」

⑤ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し

学校貸出キット「きゅうぱっく」	
内容	博物館の展示に関連するハンズオン資料をパック化して学校等に向けて貸し出し、学校教育および社会教育を支援する。
対象	学校教育団体、社会教育団体その他
実施	小学校33件、中学校31件、高等学校10件、特別支援学校3件、その他8件、計85件

⑥ 出前講座への対応

出前講座への対応	
内容	学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に出向いて博物館の機能やアジア各地・日本の歴史・文化についての講義を行う。
対象	研究員による出前講座を希望した学校
実施	4月27日　鳥栖市立鳥栖北小学校　（参加30名）　対応研究員1名 4月30日　飯塚市立高田小学校　（参加10名）　対応研究員1名 5月13日　春日市立須玖小学校　（参加30名）　対応研究員1名 5月30日　那珂川町立南畑小学校　（参加20名）　対応研究員1名 6月10日　春日市立須玖小学校　（参加90名）　対応研究員1名 9月21日　春日市立春日西中学校　（参加35名）　対応研究員1名 9月29日　春日市立春日北中学校　（参加35名）　対応研究員1名 10月19日　春日市立春日西中学校　（参加35名）　対応研究員1名 11月 3日　福岡県立修猷館高等学校　（参加15名）　対応研究員1名 11月 7日　太宰府市立太宰府東中学校　（参加90名）　対応研究員1名 11月 8日　太宰府市立太宰府東中学校　（参加90名）　対応研究員1名 11月10日　太宰府市立太宰府東中学校　（参加90名）　対応研究員1名 12月12日　太宰府市立太宰府東中学校　（参加90名）　対応研究員1名 24年2月27日　春日市立春日北中学校　（参加70名）　対応研究員1名 24年3月 2日　春日市立春日北中学校　（参加35名）　対応研究員1名

⑦ 来館学校団体への対応

来館学校団体への対応	
内容	団体で来館した学校団体のうち、特に希望した学校に対し、体験プログラム等を実施
対象	団体で来館した学校団体のうち、特に体験を希望した学校
実施	5月 6日　筑紫野市立原田小学校（92名）「きゅうぱっくを活用した博物館体験」 11月15日～16日　山口県立宇部高等学校（40名）「博物館の機能と博物館科学」（文科省スーパーサイエンスハイスクール事業） 11月25日　福岡県立福岡視覚特別支援学校（4名）「展示室観覧支援、展示室における資料触察支援」 平成24年 2月24日　福岡県立太宰府高等学校芸術科（40名）「博物館の機能と展示」

4）文化交流展、特別展に関連した教育普及事業の実施

特別展「黄檗」展　解説パネル「はじめての黄檗」・「教育普及コーナー　」	
内容	解説パネル「はじめての黄檗」は、黄檗文化の特色について分かりやすい挿図と文章によって紹介した。展示室導入部に「教育普及コーナー」を設けて、食文化（普茶料理や隠元和尚請来の食材について）や印刷などの黄檗宗の文化が身近な生活とつながりがあることをグラフィックや模型を用いて紹介した。
開催場所	特別展示室
実施	3月15日～5月22日
トピック展示「日本とタイーふたつの国の巧と美」　ワークショップ　久留米絣の糸と腰機でコースターを織ってみよう！	
内容	久留米絣の糸を用い、板綜絖を使用して体全体でコースター大の布を織りあげるワークショップ
開催場所	1階研修室
人数	各回最大8名（午前1回、午後1回、最大16名）
実施	4月30日、午前6名、午後8名、計14名
特別展「よみがえる国宝」展　「解説パネル」・「子どもガイドー宝のひみつ虫のめがねでさぐってみようー」	
内容	「解説パネル」は源頼朝像の修理課程をイラストでわかりやすく紹介するなど、解説パネルを掲出し、修理・保存方法について作品を通して理解できるようにした。「子どもガイドー宝のひみつ虫のめがねでさぐってみようー」は小学生にわかりやすいように、修理技術や保存の工夫を写真やイラストでまとめた。広報活動として博物館近隣の小学校へ配り、解説補助として展示室でも配布した。
開催場所	特別展示室
実施	6月28日～8月28日
特別展「よみがえる国宝」展　親子で楽しむバックヤードツアー「大きな博物館の探検！」	
内容	夏休み期間を利用した親子で楽しむ企画として、九博の絵本『大きな博物館』のストーリーを題材として、文化財保存施設を中心とした博物館のバックヤードツアーを実施した
開催場所	バックヤードなど
人数	106人
実施	7月 9日、30日、8月13日
特別展「よみがえる国宝」展　「みて！さわって！！岩絵の具のふしぎな世界」	
内容	古くから日本画に使われている「岩絵具」とはどんな絵の具なのか、実際に見たり触ったりしながらそのふしぎな世界を学ぶことができる、体験型のイベント
開催場所	研修室
人数	40名
実施	8月21日
特別展「よみがえる国宝」展　ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！　「江戸の本の虫たちー和本の扱い・観察・虫干しー」	
内容	文化財保存の大切さを学ぶワークショップとして、「江戸の本の虫たち」と題し、和本の扱い、虫の観察、虫干しなどの実例を通し、先人達が大切な本や宝を守ってきたことを実感した。
開催場所	研修室
人数	40人
実施	8月21日
特別展「よみがえる国宝」展　ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！　「九博の杜の虫たち」	
内容	文化財保存の大切さを学ぶワークショップとして、「九博の杜の虫たち」と題し、周辺の自然観察、昆虫採集、標本作製を行い、風土や虫の生態を知ることによって、自然とつきあいながら文化財保存に努めることを学んだ。
開催場所	研修室
人数	40人
実施	8月23日
特別展「契丹」展　「解説パネル」・「プリンセス着せ替え」・「プリンセスポストカード」	
内容	「解説パネル」は、展示品によりよく親しんでもらうために、契丹の歴史やプリンセスの装飾品などをファッション雑誌風のデザインでパネルにまとめて紹介した。「プリンセス着せ替え」は、展示された装飾品を擬似的に身につけることができるコーナーを展示室前に設置し、記念撮影ができるようにした。これらは巡回先（静岡県立美術館等）でも引き継がれた。「プリンセスポストカード」は、契丹展の出品作品に関わる3人の女性をモティーフとして、イラストによるポストカードを作成し、内容理解の助けとした。

開催場所	特別展示室など
実施	9月27日～11月27日
トピック展示「発掘された日本列島 2011 地域展　九州最古の狩人とその時代」　ワークショップ　石の匠に学ぶ―石器作り体験―	
内容	旧石器時代の主要な道具であった石器を、実際に用いられた石材を使って製作し紙を切るなどの体験を通して、石器の機能や当時の生活技術を体験する企画として、好評を博した。
開催場所	研修室
人数	38名
実施	12月4日
特別展「細川家の至宝」展　「細川家のたからものすごろく」	
内容	細川家ゆかりの人々や永青文庫のコレクションについて、遊びながら理解していただけるよう双六を作成、配付した。また展示室内で歴史資料や、歴代当主などの人物を分かりやすく伝えるためのパネルを制作、展示室内で展示した。
開催場所	特別展示室
実施	平成24年1月1日～3月4日
特別展「細川家の至宝」展　ワークショップ　「剣豪・宮本武蔵になろう！」	
内容	本展覧会では宮本武蔵の「五輪書」や水墨画が展示される。これにあわせて、武蔵の人物像に迫るイベントとして、宮田和宏氏（細川家伝統兵法二天一流第十一代継承者）を講師に招き、二天一流の剣術ワークショップを実施した。
開催場所	ミュージアムホール
人数	午前、午後各回30人　（平成24年1月8日　参加者数62人）
実施	平成24年1月8日

5）高等教育との連携

① 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップ

内容	筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催 （筑紫女学園大学准教授と学生、卒業生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。事前申込のほか当日の参加も可能。）
実施期間	5月28日（土）、6月12日（日）、7月10日（日）、8月21日（日）、全4回
開催場所	1階ミュージアムホール、エントランスホール
参加者数	5月28日（土）27名、6月12日（日）29名、7月10日（日）32名、8月21日（日）20名、計108名

② 九州産業大学との協働による「あじっぱサインプロジェクト」

内容	九州産業大学芸術学部デザイン学科と協働で、体験型展示室「あじっぱ」における各種サイン・ピクトグラム等のデザイン検討、設置試行、ワークシート等ツール制作
実施期間	5月26日～9月18日
開催場所	1階体験型展示室「あじっぱ」
参加者数	プロジェクト参加学生16名、検討会実施8回

2-⑵-⑤　大学生・大学院生を対象とした教育事業

1)　大学等との連携事業

【京都国立博物館】

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	当館
受入人数	5人
担当研究員数	5人

内　　容	保存修復技術を専攻する学生のための研修会
実施期間	9月3日
開催場所	京都国立博物館
参加者数	16人
担当研究員数	1人

内　　容	京都橘大学との教育提携・学術交流
実施期間	通年
開催場所	京都国立博物館、京都橘大学
参加者数	18人
担当研究員数	7人

【奈良国立博物館】

内　　容	奈良女子大学との連携講座
実施期間	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
参加者数	前期　3人、後期　4人
担当研究員数	1人

内　　容	神戸大学大学院文化学研究科との連携講座
実施期間	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	10人
担当研究員数	2人

【九州国立博物館】

内　　容	放送大学の面接授業　「博物館における公開-展示編-」
実施期間	11月19日～20日
開催場所	九州国立博物館1階研修室
参加者数	50人

内　　容	筑紫女学園大学文学部アジア文化学科必修科目「ミュージアムで学ぶアジア」 （博物館の概要について講義、博物館展示見学、博物館体験型展示室での異文化体験）
実施期間	4月20日、4月27日、5月11日、5月25日、6月1日、6月8日、6月22日、6月29日、7月6日（計9日）
開催場所	筑紫女学園大学、九州国立博物館文化交流展示室、体験型展示室「あじっぱ」
参加者数	150人

内　　容	博物館における文化財保存修復に関する研修
実施期間	8月15日～19日の5日間
開催場所	九州国立博物館保存修復施設
参加者数	8人（吉備国際大学2名、九州産業大学2名、別府大学2名、佐賀大学1名、広島市立大学1名の計5大学8名）

内　　容	博物館実習生の受け入れ
実施期間	7月27日～8月8日の間、延べ10日間実施
参加者数	大学名：福岡女子短期大学、京都造形芸術大学、九州産業大学、福岡教育大学、山口大学、西南学院大学、八洲学園大学、福岡大学、筑紫女学園大学、久留米大学、佐賀大学、九州大学大学院、活水女子大学、立命館大学、大阪芸術大学、計15大学20名

内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	4月15日、22日、5月13日、27日、6月10日、17日、7月15日､22日、8月19日、9月30日、11月18日、12月9日、22日、24年1月20日、27日、2月17日、3月9日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）
参加者数	毎回80人程度。出演者は毎回8人程度。

2)　インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	7月22日～24年3月31日
受入部署	学芸企画部　デザイン室、教育普及室、教育講座室、情報資料室、広報室 学芸研究部　平常展調整室、東洋室、保存修復課
参加者数	20人（8大学）
担当研究員数	のべ20人
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。

【京都国立博物館】

受入期間	8月16日～9月10日
開催場所	文化財保存修理所
参加者数	4人（2大学）
担当研究員数	1人
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、文化財修復に関わる加盟大学院生4名のインターンを受け入れた。11月27日には事務棟研修室にて4名による報告会を行った。

【奈良国立博物館】

受入期間	平成23年度は実施なし
受入部門	総務課
参加者数	
担当研究員数	
事業概要	

【九州国立博物館】

受入期間	平成23年度は実施なし
受入部署	交流課
参加者数	
担当研究員数	
事業内容	

3)　学生ボランティア

【東京国立博物館】

期　　間	①ギャラリートーク班 12月8日、12月10日、12月15日、12月17日、12月22日、12月24日、24年1月11日、24年1月12日、24年1月14日、24年1月15日、24年1月19日、24年1月21日、24年1月25日、24年1月26日、24年1月27日、24年1月28日、24年2月2日、24年2月3日、24年2月4日、24年2月5日、24年2月8日、24年2月9日、24年2月10日、24年2月11日、24年2月15日、24年2月17日、24年2月19日、24年2月22日、24年2月25日、24年3月3日 ②制作工程模型班 平成23年7月～平成25年3月（予定）
開催場所	①本館11室、13室、18室、20室、平成館考古展示室 ②東京藝術大学、東京国立博物館内ほか
参加者数	①ボランティア5人　聴講者821人 ②ボランティア1人
担当研究員数	①8人 ②5人
事業内容	①東京藝術大学大学院生ギャラリートーク班により入館者に対する総合文化展でのギャラリートークを実施。 ②国宝「紅白芙蓉図」の5工程の制作工程模型の調査および制作。平成24年度に展示および関連する教育普及事業を行う予定。

【京都国立博物館】

実施日	平成23年4月25日、5月16日、6月6日、6月27日、7月4日、8月1日、8月8日、9月5日、9月12日、9月26日、10月17日、10月24日、11月7日、11月21日、12月12日、平成24年2月27日（16回）
開催場所	京都国立博物館
参加者数	14人
担当研究員数	2人
内容	京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生。

実施日	平成23年4月4日、6月13日、7月13日、10月3日、10月31日、11月28日、11月30日、12月19日（8回）
開催場所	京都市内の小中学校ほか
参加者数	ボランティア14人、聴講者572人 （小学校6校　聴講者332人、中学校1校　聴講者220人、建仁寺（キッズプログラム）1回　聴講者20名）
担当研究員数	2人
内容	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内で訪問授業等を実施した。

実施日	平成23年10月18日～11月11日　（毎火・水・金曜日　12回）
開催場所	京都国立博物館
参加者数	18名
担当研究員数	7人
内容	京都橘大学との教育提携に基づき、観覧者アンケート調査を実施した。

4)　見学対応

【東京国立博物館】

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	10件（大学9件、269人／専門学校1件、17名　計286人）
担当研究員数	3人
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。

2-⑵-⑥ ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(2)-⑦ 友の会

1) 会員数

友の会

平成24年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数	友の会会員 (年会費10,000円)	友の会会員 (一般) (年会費3,000円)	友の会会員 (学生) (年会費2,000円)	友の会会員 (家族) (年会費6,000円)
東京国立博物館	1,802人	1,802人	―	―	―
京都国立博物館	2,667人	―	2,607人	60人	―
奈良国立博物館	2,615人	―	(＊1) 2,503人	(＊1) 88人	24人
九州国立博物館	117人	117人	―	―	―

(＊1) 奈良国立博物館「友の会」は、平成24年1月より「パスポート」に名称変更した。会費・特典等に変更はなく、上記の23年度「友の会」会員数は、名称変更後に入会した会員数を含む。

＊ 京都国立博物館「友の会」は、平成24年4月より「パスポート」に名称変更予定である。

パスポート

平成24年3月31日現在

区分 / 館名	パスポート会員数	パスポート会員 (一般) (年会費4,000円)	パスポート会員 (一般) (年会費3,000円)	パスポート会員 (学生) (年会費2,500円)	パスポート会員 (学生) (年会費2,000円)
東京国立博物館	17,672人	16,661人	―	1,011人	―
九州国立博物館	3,093人	―	1,388人	―	1,705人

2) 友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①東京国立博物館友の会対象旅行会の実施を予定していたが、催行人数にいたらなかったため、中止となった。

②その他

東京国立博物館ニュース送付、イベントの鑑賞割引等

【京都国立博物館】

①年1回（4月）、年間催事案内を送付

②京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立民族学博物館、京都府京都文化博物館、京都市美術館の平常展、特別展を団体料金に割引(共催展の場合は、割引が適用されない場合あり)

③公益財団法人京都古文化保存協会が春・秋に実施する【京都非公開文化財特別拝観】の協力社寺拝観料の割引

④当館ミュージアムショップの一部商品の10%割引

【奈良国立博物館】

①第40回夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」

・実施期間　8月24日～26日

・事業内容　奈良県文化会館国際ホールにおいて9講座、展覧会概説を行い、博物館に移動し展覧会を見学した。

・参加者数　522人

②京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立民族学博物館の平常展、特別展を団体料金に割引

③ミュージアムショップ及びレストランでの割引特典

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

2-(2)-⑧賛助会

1) 会員数

平成24年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館
		（社団法人清風会）	（ミュージアム・パートナー）	
件数	292件	373人	2件	65件
内訳	特別会員：19団体 維持会員(団体)： 35団体 維持会員(個人)：238人	賛助会員：34人 特別会員：61人 普通会員：278人	団体会員：2 件	特別支援会員：5団体 特別会員：5団体 一般会員(団体)：19団体 一般会員(個人)：36人

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

① 各特別展開会式へのご招待
② 各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待

【京都国立博物館】

①「京都国立博物館だより」（年4回）の配布
②当館平常展、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④「奈良国立博物館だより」（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
４月６日（火）　特別展「誕生！中国文明」
　　特別鑑賞会　参加人数45名
７月19日（月）　特別展「天竺へ～三蔵法師３万キロの旅」
　　特別鑑賞会　参加人数38名
10月31日（月）　特別展「第63回正倉院展」
　　特別鑑賞会　参加人数65名

2-(2)-⑨ 渉外活動

【東京国立博物館】

1) 会場提供　7件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数（人）
7月6日	懇談会	キョーリン製薬ホールディングス株式会社　経営方針説明会・懇親会	法隆寺宝物館	61
7月19日	発表会	COTY PRESTIGE JAPAN K.Kによる「BOTTEGA VENTA」香水新商品発表会	法隆寺宝物館	約300
8月22日	発表会	ダイソン株式会社新製品　家電量販店向けプレゼンテーション及びワークショップ	法隆寺宝物館	約600
8月29日	発表会	ダイソン株式会社新製品プレス向けデモンストレーション及び発表会	法隆寺宝物館	約200
9月29日	懇親会	柿本榮三出版記念パーティー	法隆寺宝物館	約250
10月31日 ～11月7日	展示会	台東区主催によるイベント(伝統工芸職人展)	平成館ラウンジ	―
24年2月20日	懇談会	クインエマニュエル外国法事務弁護士事務所開設5周年記念パーティー	法隆寺宝物館	約120

2) 館主催・協力イベント　20件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
4月2日	音楽会	東京・春・音楽祭2011「ヴィーヴ！サクソフォーンカルテット」	法隆寺宝物館	約70	東京・春・音楽祭実行委員会共催
6月19日	音楽会	生田流・箏とトランペットとピアノコンサート	平成館	174	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ｿﾈｯﾄ共催
6月25日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館大講堂	約500（2回）	東京ｸﾗﾘﾈｯﾄ･ｸﾜｲｱｰ共催 上野のれん会協力
7月17日	イベント	納涼東博寄席　～東日本大震災復興支援～	平成館大講堂	232	当館主催
8月6日	音楽会	夏休み子ども音楽会	東京文化会館ほか	394	東京文化会館他主催　当館協力 （平常展無料入館の協力）
9月9日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	310	東大寺共催
10月2日	音楽会	亀渕友香とＶＯＪＡによるコンサート	平成館	248	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ｿﾈｯﾄ共催
10月6日～30日	展示会	Ⅰ期　美術学科彫刻作品展	柳瀬荘	343	日本大学芸術学部共催
11月6日	ワークショップ	日光写真と手彩色	柳瀬荘	約10	日本大学芸術学部共催
11月12日	講演会	上野の山文化ゾーン講演会「法隆寺献納宝物をめぐって」	平成館大講堂	185	
11月16日	ワークショップ	竹のドームをみんなで作る	柳瀬荘	約10	日本大学芸術学部共催
11月3日～27日	展示会	Ⅱ期　美術学科絵画、版画および立体作品展	柳瀬荘	288	日本大学芸術学部共催
12月11日	音楽会	千葉純子によるトリオコンサート	平成館	247	ｻﾛﾝ･ﾄﾞ･ｿﾈｯﾄ共催
12月25日	音楽会	竹山愛フルート・リサイタル	平成館	249	東京藝術大学協力
24年3月4日	イベント	春爛漫東博寄席	平成館大講堂	291	当館主催
24年3月16日	音楽会	東京･春･音楽祭2012「東博でバッハvol.7」 田崎悦子	平成館大講堂	145	東京・春・音楽祭実行委員会共催
24年3月16日	音楽会	東京・春・音楽祭2012「ヴィーヴ！サクソフォーンカルテット」	本館エントランス	約203	東京・春・音楽祭実行委員会共催
24年3月17日	音楽会	東京･春･音楽祭2012「東博でバッハvol.8」 コルトベルク協奏曲	平成館大講堂	156	東京・春・音楽祭実行委員会共催
24年3月27日	音楽会	東京･春･音楽祭2012「東博でバッハvol.9」 高木和弘	法隆寺宝物館	116	東京・春・音楽祭実行委員会共催
24年3月28日	音楽会	東京･春･音楽祭2012「東博でバッハvol.10」 中野振一郎	法隆寺宝物館	117	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1) 会場提供　44件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月8日	研修	研修の開催	研修室	20	国宝修理装こう師連盟
4月16日	茶席	茶会	茶室	30	京都大學茶の湯文化研究會
4月17日	茶席	茶会	茶室	15	荒本千代子
4月19日	鑑賞会	法然展に関する鑑賞会	研修室	15	（株）大丸松坂屋友の会
4月24日	茶席	茶会	茶室	150	京都長生会　池下享子
4月29日	茶席	撮影会	茶室	8	松田沙織
5月5日	茶席	茶会	茶室	5	小梶朋子
5月6日	茶席	茶会	茶室	25	小梶朋子
5月10日	茶席	撮影会	茶室	6	山根はる奈
5月14日	試験	資格試験の開催	研修室及び会議室	20	国宝修理装こう師連盟
5月22日	茶席	撮影会	茶室	7	藤川愛美
6月24日	庭園の撮影	ＮＨＫテレビテキスト用口絵写真撮影	本館前広場及び南門周辺	10	ＮＨＫ出版
7月9日	研修	研修の開催	会議室	15	国宝修理装こう師連盟
10月1日	資格試験	資格試験の開催	研修室及び会議室	15	国宝修理装こう師連盟
10月8日	茶席	茶会	茶室	80	松庵会　野村拓也
10月9日	茶席	茶会	茶室	5	山茶花社　西島真森
10月10日	茶席	茶会	茶室	50	山茶花社　西島真森
10月15日	茶席	茶会	茶室	10	表千家京都青年部　手塚裕忠

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
10月16日	茶席	茶会	茶室	100	表千家京都青年部　手塚裕忠
10月22日	資格試験	資格試験の開催	研修室及び会議室	15	国宝修理装こう師連盟
10月24日	車両の積み込み	車両の積み込み	駐車場	20	一般財団法人ラリーニッポン
10月28日	茶席	茶会	茶室	15	京都大學茶の湯文化研究會
10月29日	茶席	茶会	茶室	15	京都大學茶の湯文化研究會
11月3日	茶席	同窓会の開催	茶室	6	上念弥生
11月6日	茶席	撮影会	茶室	3	上東愛
11月12日	茶席	撮影会	茶室	8	田代千里
11月13日	茶席	茶会	茶室	10	池田織隆
11月19日	茶席	茶会	茶室	4	菊地原節子
11月20日	茶席	茶会	茶室	20	内山節子
11月22日	茶席	茶会	茶室	18	相光寺　西田承元
11月23日	茶席	撮影会	茶室	6	藤川愛美
12月3日	研修	講習会の開催	研修室及び会議室	15	国宝修理装こう師連盟
12月5日	研修	研修の開催	研修室	15	国宝修理装こう師連盟
24年1月7日	茶席	茶会	茶室	3	茶道南坊流明鏡庵　中野宗淳
24年1月8日	茶席	茶会	茶室	8	茶道南坊流明鏡庵　中野宗淳
24年1月9日	茶席	茶会	茶室	8	茶道南坊流明鏡庵　中野宗淳
24年1月13日	茶席	茶会	茶室	3	白珪会　三木ひとみ
24年1月14日	茶席	茶会	茶室	20	白珪会　三木ひとみ
24年1月15日	茶席	茶会	茶室	12	小川流煎茶　野口久楽
24年1月26日	茶席	茶会	茶室	45	京都府立すばる高等学校
24年1月28日	茶席	茶会	茶室	3	苗加良子
24年1月29日	茶席	茶会	茶室	15	苗加良子
24年2月17日	研修	研修の開催	研修室	50	ＮＨＫ文化センター神戸支社
24年3月11日	茶席	撮影会	研修室	3	上東愛

2)　館主催・協力イベント　　5件

期間	種類	タイトル	会場	出席者（人）	備考
4月22日	落語	京都・らくご博物館（春） ～新緑寄席～	ハイアット・リージェンシー京都 ドローイングルーム	157	米朝事務所共催
7月22日、7月29日	上映会	「ジャングル大帝」野外映画上映会	庭園	約250	
9月10日	音楽会	音燈華～DEPAPEPEコンサート～	庭園	375	京阪電気鉄道株式会社 特別協賛
10月28日	落語	京都・らくご博物館（秋） ～紅葉寄席～	ハイアット・リージェンシー京都 ドローイングルーム	202	米朝事務所共催
11月10日	イベント	竹下景子さんと行く特別展覧会「細川家の至宝」観覧ツアー	特別展示館及び ハイアット・リージェンシー京都 ボールルーム	41	

【奈良国立博物館】

1)　会場提供　　37件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月10日	見学会	茶室「八窓庵・路地」の見学会	茶室・庭園	30	箱根カルチャー
4月17日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	19	オーシャンフロント
5月24日	研究会	文化財保存修理所研究会	講堂	50	（財）美術院
6月4日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	40	オーシャンフロント
7月1日 ～7月2日	研究会	文化財写真技術研究会　研究集会	講堂	100	文化財写真技術研究会
9月5日	講義	幼年消防クラブ　文化財防火教室	講堂	120	奈良市消防署
8月5日	研修	奈良仏像研修	講堂	43	日本観光協会
8月5日 ～8月14日	休憩所	飲料の販売	なら仏像館北側	－	（有）日本クリーンシステムズ
8月8日	セミナー	世阿弥忌セミナー	講堂	200	能楽学会
8月8日	会議	能楽学会委員会	会議室	25	能楽学会
8月16日	講義	「天竺展」鑑賞のための講義	講堂	12	京都観光企画（株）
8月16日	休憩所	「天竺展」鑑賞のための休憩所	茶室控室	12	京都観光企画（株）
8月26日	研修	奈良市教職員研修講座	講堂	150	奈良市教育センター
8月28日	茶会	茶会	茶室	30	華泉会
10月8日	結婚式	結婚式	仏教美術資料研究センター	40	オーシャンフロント
10月29日 ～11月14日	茶会	野点の茶会	西新館 ピロティー	16,600	奈良国立博物館特別支援会員結の会
同上	休憩所	休憩所及び甘味の販売	新館西側 敷地	―	株式会社 鶴屋吉信
同上	休憩所	休憩所及び喫茶の販売	同上	―	有限会社日本クリーンシステムズ

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
同上	キャンペーン	奈良県特産品の物販	同上	—	校倉な会
同上	キャンペーン	奈良県特産品の物販	同上	—	奈良和み館
同上	キャンペーン	記念切手の販売	同上	—	郵政事業株式会社
同上	キャンペーン	奈良県特産品の物販	地下回廊	—	奈良県農林部マーケティング課
同上	キャンペーン	パネル展示	地下回廊	—	奈良県観光局国際観光課
11月11日	講義	「第63回正倉院展」鑑賞のための講義	会議室	40	NPO法人 檜の会
11月15日	研修	近畿私立幼稚園連合会役員会　役員研修	講堂	60	奈良県私立幼稚園連合会
11月15日	研修	近畿私立幼稚園連合会役員会　役員研修	会議室	12	奈良県私立幼稚園連合会
11月15日	研修	近畿私立幼稚園連合会役員会　役員研修	応接室	3	奈良県私立幼稚園連合会
11月20日	茶会	茶会	茶室	25	庭舎ＭＡＫＩＯＫＡ
12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	—	春日大社
12月19日	会議	文化財　買取会議	会議室	—	文化庁
24年1月9日	茶会	茶会	茶室	15	井上宗和
24年1月14日	茶会	茶会	茶室	20	汀会
24年1月16日	講義	幼稚園児を対象としたお話	講堂	150	奈良市立六条幼稚園
24年2月17日	講義	奈良Ｓ.Ｇ.Ｇ.クラブ会員向けセミナー	講堂	30	奈良Ｓ.Ｇ.Ｇ.クラブ
24年2月29日	講義	幼稚園児を対象としたお話	講堂	55	奈良教育大学附属幼稚園
24年3月14日	シンポジウム	なら観光シンポジウム	講堂	130	主催：奈良県立大学 奈良信用金庫
24年3月23日	茶会	茶会	茶室	25	みかのはら幼稚園

2）館主催・協力イベント　43件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月6日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	展示室	45	
4月7日 4月8日	鑑賞会	タクシー乗務員・ホテル関係者特別鑑賞会	展示室	96	
4月29日	コンサート	葉衛陽＆さくら親子　中国琵琶競演	講堂	134	
6月13日	茶会	茶室「八窓庵」お披露目の茶会	茶室、茶室控室	11	
6月19日	コンサート	音楽の祭日 in 奈良　２０１１	地下回廊	—	主催：ＮＰＯ法人京都・奈良ＥＵ協会
7月15日	コンサート	仏教美術資料研究センターお披露目のコンサート	仏教美術資料研究センター	50	
7月16日 ～8月28日	展示	「子供絵画館 in NARA」 ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール入賞作品展覧会	地下回廊	—	主催：日本香堂
7月16日 ～9月26日	観光 イベント	ライトアッププロムナード・なら	なら仏像館、仏教美術資料研究センター外観	—	主催：ライトアッププロムナード・なら実行委員会
7月19日	鑑賞会	アスパラクラブ会員向特別鑑賞会	展示室	821	主催：朝日新聞社
7月19日	講演会	賛助会員特別鑑賞会	展示室	38	
7月20日 7月25日	鑑賞会	タクシー乗務員・ホテル関係者特別鑑賞会	展示室	122	
7月23日	フォーラム	玄奘三蔵フォーラム	奈良県新公会堂 能楽ホール	390	
7月24日	体験 イベント	香り袋手作り教室	地下回廊	74	主催：日本香堂
7月31日	落語	「まほろば寄席－奈良国立博物館落語シリーズ第12回－」 桂　治門、桂　三金、林家　小染、桂 小春團治、による落語会	講堂	171	
8月5日～14日	観光 イベント	「なら燈花会」 なら燈花会会場としてｶｯﾌﾟ、ｵﾌﾞｼﾞｪ等を配置	新館周辺	—	主催：なら燈花会の会
8月13日	体験 イベント	親と子のワークショップ「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう」	講堂	59	
8月16日～21日	観光 イベント	ならファンタージア～SANZO	なら仏像館 西側広場	—	主催：ならファンタージア実行委員会
9月17日	コンサート	音燈華　SPECIAL LIVE 東日本大震災文化財支援 －松谷卓ピアノコンサート－	新館前特設ステージ	2,500	主催：奈良市市民連携企画実行委員会
9月24日	コンサート	言霊と音霊の夜会	仏教美術資料研究センター前庭園	250	主催：ライトアッププロムナード・なら実行委員会
10月15日	講演会	「香木の魅力」 ～シルクロードの香りをそえて～	講堂	134	主催：日本香堂

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
10月26日	観光 イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布し「奈良の柿」をPR	新館前 広場	―	主催：奈良県農林部 奈良県農業協同組合
10月29日 ～11月14日	観光 イベント	「あるくん奈良スタンプラリー」 奈良町を巡るスタンプラリー	正倉院展読売新聞ブース	―	主催：はじまりは正倉院展実行委員会
10月29日 ～11月14日	展示	「いけばな展示」 法華寺小池御流のいけばな展示	西新館 1階ロビー	―	
10月29日 ～11月14日	展示	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―	主催：奈良国立博物館 読売新聞社
10月30日	オペラ	東日本大震災支援チャリティー公演 オペラ「月の影」より「源氏幻想」	仏教美術資料研究センターホール・会議室	250	主催：声藝舎
10月30日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム２０１１ 「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」	ならまちセンター市民ホール	179	
10月31日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂 展示室	65	
11月1日 11月2日	鑑賞会	タクシー乗務員・ホテル関係者特別鑑賞会	講堂 展示室	285	
11月3日	鑑賞会	第63回正倉院展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：内藤　榮　（奈良国立博物館学芸部長補佐）	講堂	189	
11月3日	コンサート	奈良県芸術祭「なら音楽の祝祭」	仏教美術資料研究センターホール	500	主催：奈良県
12月10日	講演会 体験	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」関連イベント「相撲と神事」、春日大社特別ツアー 講師：杉山邦博氏	講堂、春日大社本殿、春日大社慶雲殿、春日若宮御旅所	33	
12月16日 12月17日	研究会	全国美術館会議　情報・資料研究部会	講堂	38	主催：奈良国立博物館 全国美術館会議情報・資料研究部会
12月17日	茶会	陶燈茶夜	茶室・庭園、西新館南側ピロティー	145	主催：奈良市市民連携企画実行委員会
24年1月19日	研修	ハラスメント研修	講堂	26	
24年1月22日	落語	「まほろば寄席－奈良国立博物館落語シリーズ第13回－」 桂　吉の丞、笑福亭　喬若、桂　春雨、桂 小春團治による落語会	講堂	147	
24年1月26日	研修	個人情報保護研修	講堂	28	
24年2月8日	観光 イベント	なら瑠璃絵の会場として、西新館北側壁面にプロジェクターによる画像を投影	西新館 北側壁面	―	主催：なら瑠璃絵実行委員会
24年2月9日	講演会	特別講演会「神と仏の出会い」 講師：西山　厚（奈良国立博物館学芸部長）	講堂	195	主催：なら瑠璃絵実行委員会
24年2月12日	講演会 体験	お水取り講話と粥の会	講堂、展示室、茶室控室、二月堂	38	
24年2月15日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」 普段は公開していない修理所を当館研究員の解説付きで見学	講堂 修理所	第1回　35 第2回　36 第3回　39 計110	
24年3月2日	講演 体験	お水取り展鑑賞とお松明	講堂、展示室、東大寺本坊、二月堂	95	主催：奈良国立博物館特別支援会員　結の会
24年3月10日	Ustream中継	「お水取り」	地下回廊	―	主催：奈良トライアングルミュージアムズ推進会議
24年3月17日	シンポジウム コンサート	市民連携企画企画事業残したもの－観光の未来を考える 音燈華スペシャルコンサート	仏教美術資料研究センター 西新館庭園	96	主催：奈良市市民連携企画実行委員会

【九州国立博物館】

1）会場提供　30件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月24日	コンサート	Ｆｒｅｅ　Ｓｔｙｌｅ×池上眞吾　箏・尺八ライブ	ミュージアムホール	200	主催：田中一平
4月29日	コンサート	弦楽合奏団ムジークルンデ　春のコンサート	ミュージアムホール	150	主催：弦楽合奏団「ムジーク・ルンデ」村上康子
4月30日	コンサート	川口京子＆ＬＫソングサークル「うたは心のふるさと」	ミュージアムホール	200	主催：ＬＫソングサークル　阪東厚子
5月3日	コンサート	ラ・フォル・ジュルネ鳥栖「熱狂の日」音楽祭プレ公演	ミュージアムホール	200	主催：ラ・フォル・ジュルネ鳥栖「熱狂の日」音楽祭実行委員会事務局
5月10日～29日	展示	第50回記念 日本現代工芸美術福岡展	ミュージアムホール/エントランス	52,000	主催：現代工芸美術家協会九州会
7月9日	イベント	喜界島の島唄と志戸桶八月踊り	エントランス	50	主催：喜界町文化協会／志戸桶十五夜会／筑紫女学園大学日本語・日本文学科
7月12日～24日	展示	コロタイプ複製でよみがえる法隆寺金堂壁画と国宝絵巻	エントランス	36,799	主催：コロタイプ技術の保存と印刷文化を考える会
7月26日～31日	展示	九州国立博物館／北九州市立自然史・歴史博物館連携・交流事業展示	エントランス	29,405	主催：北九州市立自然史・歴史博物館

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
8月9日～20日	展示	京築神楽写真展	エントランス	45,200	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進会議
8月20日	イベント	エレキット夏休み工作教室 in 太宰府 2011	研修室	102	主催：（株）イーケイジャパン
8月20日	公演	京築神楽　九州国立博物館公演	ミュージアムホール	300	主催：京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進会議
8月23日～9月4日	展示	古代山城ブース展示	エントランス	40,155	主催：熊本県／熊本県教育委員会
9月18日～19日	展示	久高良治 探求８　映像影像「私たちは、自然から何を知り得るのだろう・・・」	ミュージアムホール	850	主催：クダカスタジオ
9月25日	イベント	第10回西日本バンドフェスティバル 2011 in 福岡・太宰府	屋外	1,523	主催：九州吹奏楽連盟
9月25日	イベント	第6回太宰府 古都の光	屋外	150	主催：太宰府ブランド創造協議会
9月27日～10月2日	展示	「あさくら路・燦」～朝倉の祭りと匠の技展～	エントランス	15,234	主催：朝倉市観光協会
10月16日	コンサート	2011 北九州国際音楽祭 in 九州国立博物館 ～東日本大震災復興支援コンサート～	ミュージアムホール	260	主催：九州国立博物館振興財団／北九州国際音楽祭実行委員会
10月25日～30日	展示	建築士事務所キャンペーン～信頼のあかし～ 「歴史あるみどり豊かな文化と歴史」作品展示	エントランス	19,322	主催：(社)福岡県建築士事務所協会／(社)日本建築士事務所協会連合会
10月28日～30日	イベント	出前温泉「足湯」事業 ～お！館外にもあった　至福の時～	屋外	150	主催：福岡県観光温泉地協会
10月28日	講演等	建築士事務所キャンペーン～信頼のあかし～ 「歴史あるみどり豊かな文化と歴史」基調講演・設計コンペ表彰式	ミュージアムホール	80	主催：(社)福岡県建築士事務所協会／(社)日本建築士事務所協会連合会
11月1日～6日	展示	九州銘菓協会60周年記念展「九州銘菓の伝統と創造」展示	ミュージアムホール/研修室	4,072	主催：九州銘菓協会
11月1日～6日	販売	九州銘菓協会60周年記念展「九州銘菓の伝統と創造」販売	エントランス	4,400	主催：九州銘菓協会
11月3日	展示	「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業	屋外	1,000	主催：(社)筑紫歯科医師会
24年1月12日～15日	展示	長崎べっ甲展	エントランス	11,806	主催：一般社団法人　日本べっ甲協会
24年2月18日	イベント	博多伝統芸能～博多芸妓の世界～	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館振興財団
24年2月21日～26日	展示	大川匠の世界コレクション	ミュージアムホール／エントランス	33,249	主催：(財)大川総合インテリア産業振興センター
24年2月28日～3月4日	展示	第2回ステンドグラスアート・九州会作品展	ミュージアムホール	8,250	主催：ステンドグラスアート・九州会（SGA九州会）
24年3月13日～18日	展示	第6回福岡県景観大会 「景観文化展作品等展示」	エントランス	11,028	主催：福岡県／福岡県美しいまちづくり協議会
24年3月18日	イベント	第6回福岡県景観大会 「表彰式」「まちづくり団体活動発表会」	ミュージアムホール	90	主催：福岡県／福岡県美しいまちづくり協議会
24年3月24日	講座	太宰府発見塾公開講座	ミュージアムホール	250	主催：太宰府市、太宰府市教育委員会

2)　館主催・協力イベント　73件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月9日	イベント	第4回 親子で茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
4月10日	コンサート	第83回 きゅーはくミュージアムコンサート “SAW much in LOVE”	エントランス	150	主催：九州国立博物館
4月15日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	40	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
4月22日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
4月29日	イベント	第1回 ペアで茶道体験	茶室	6	主催：九州国立博物館
5月5日	イベント	ボランティア企画イベント　こどもの日 プラ板キーホルダーづくり	エントランス	300	主催：九州国立博物館ボランティア
5月8日	イベント	第5回 親子で茶道体験	茶室	42	主催：九州国立博物館
5月8日	コンサート	第84回 きゅーはくミュージアムコンサート 「絵本と音の玉手箱」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
5月13日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	110	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
5月22日	イベント	第2回 ペアで茶道体験	茶室	8	主催：九州国立博物館
5月27日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
5月28日	ワークショップ	第1回 ガムランワークショップ	エントランス	18	主催：九州国立博物館
6月10日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
6月12日	ワークショップ	第2回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	18	主催：九州国立博物館
6月17日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
6月25日	イベント	第6回 親子で茶道体験	茶室	40	主催：九州国立博物館
6月25日	コンサート	第85回 きゅーはくミュージアムコンサート 「World Music from Japan」	エントランス	70	主催：九州国立博物館

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
6月26日	コンサート	太宰府市民吹奏楽団第7回まほろばコンサート	ミュージアムホール	550	主催：太宰府市民吹奏楽団／九州国立博物館
7月9日	イベント	第7回 親子で茶道体験	茶室	34	主催：九州国立博物館
7月10日	ワークショップ	第3回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	18	主催：九州国立博物館
7月15日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	120	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
7月16日～17日	イベント	いこうよ！あじっぱ夏祭り2011	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
7月22日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート100回記念演奏会	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
7月23日	イベント	第1回 はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
7月23日	コンサート	第86回 きゅーはくミュージアムコンサート 【和の競演】～夢よ伝われ、世界へこどもたちへ～	エントランス	200	主催：九州国立博物館
7月26日～8月7日	イベント	ボランティア企画イベント　七夕 短冊書き＆七夕飾り	エントランス	500	主催：九州国立博物館ボランティア
8月19日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
8月21日	ワークショップ	ボランティア夏休みワークショップ ハニワの色付け体験・ループ組紐ストラップづくり	エントランス	250	主催：九州国立博物館ボランティア
8月21日	ワークショップ	第4回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	18	主催：九州国立博物館
8月21日	イベント	第2回 はじめての茶道体験	茶室	27	主催：九州国立博物館
8月27日～28日	イベント	吉野ヶ里Days in 九博	ミュージアムホール	1,266	主催：佐賀県教育委員会／（財）佐賀県芸術文化育成基金／国営吉野ヶ里歴史公園事務所／（財）公園緑地管理財団吉野ヶ里公園管理センター
8月27日	イベント	第8回 親子で茶道体験	茶室	31	主催：九州国立博物館
8月27日	コンサート	第87回 きゅーはくミュージアムコンサート 「博多んジャズば 聴いてんしゃい！」	エントランス	200	主催：九州国立博物館
9月17日	イベント	第3回 はじめての茶道体験	茶室	15	主催：九州国立博物館
9月17日	コンサート	第88回 きゅーはくミュージアムコンサート 古楽器でつづるバロック～クラシック音楽の源流を体感しよう～	エントランス	150	主催：九州国立博物館
9月25日	イベント	第9回 親子で茶道体験	茶室	47	主催：九州国立博物館
9月30日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
10月8日～16日	イベント	第6回九州地域ブランドフォーラム「九州郷土品祭り」	屋外/エントランス	28,700	主催：(社)日本イベントプロデュース協会九州本部
10月8日	イベント	アサヒ緑健スポーツメセナ　第9回ふれあい健康ウォーク	屋外	3,700	主催：西日本新聞社
10月14日～15日	イベント	第2回九州人形浄瑠璃フェスティバル	ミュージアムホール	500	主催：九州国立博物館
10月15日	イベント	第10回 親子で茶道体験	茶室	26	主催：九州国立博物館
10月15日	コンサート	第89回 きゅーはくミュージアムコンサート ～草原のプリンセス～	エントランス	150	主催：九州国立博物館
10月16日	イベント	第4回 はじめての茶道体験	茶室	20	主催：九州国立博物館
10月23日	ワークショップ	ボランティア秋のワークショップ ハニワの色付け体験・和綴じ本をつくろう	エントランス	200	主催：九州国立博物館ボランティア
11月3日	イベント	第5回 はじめての茶道体験（留学生限定）	茶室	59	主催：九州国立博物館
11月3日	イベント	第90回 きゅーはくミュージアムコンサート「DO YOU 能?」 ～現存する世界最古の演劇“能”を体感してみよう～	エントランス	200	主催：九州国立博物館
11月6日	イベント	第11回 親子で茶道体験	茶室	40	主催：九州国立博物館
11月18日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
12月9日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	45	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
12月17日	イベント	第6回 はじめての茶道体験	茶室	20	主催：九州国立博物館
12月17日	コンサート	第91回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	320	主催：九州国立博物館
12月22日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	35	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
12月23日	イベント	第12回 親子で茶道体験	茶室	47	主催：九州国立博物館
24年1月3日	イベント	ボランティア企画「九博のお正月」餅つき	屋外	600	主催：九州国立博物館ボランティア
24年1月4日	イベント	ボランティア企画「九博のお正月」折り紙	エントランス	75	主催：九州国立博物館ボランティア
24年1月8日	イベント	ボランティア企画「九博のお正月」書初め	エントランス	130	主催：九州国立博物館ボランティア
24年1月15日	イベント	第7回 はじめての茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
24年1月15日	コンサート	第92回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	300	主催：九州国立博物館
24年1月17日	イベント	ひなの国九州フェスタ2012	エントランス	35,820	主催：九州のひなまつり広域振興協議会

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
24年1月20日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
24年1月21日	イベント	第13回 親子で茶道体験	茶室	34	主催：九州国立博物館
24年1月27日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
24年2月17日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
24年2月18日	イベント	第8回 はじめての茶道体験	茶室	10	主催：九州国立博物館
24年2月19日	イベント	第14回 親子で茶道体験	茶室	46	主催：九州国立博物館
24年2月19日	コンサート	第93回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	300	主催：九州国立博物館
24年2月19日	イベント	九博子どもフェスタ	ミュージアムホール／エントランス	6,866	主催：九州国立博物館
24年3月3日	イベント	第15回 親子で茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
24年3月3日	コンサート	第94回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	250	主催：九州国立博物館
24年3月4日	イベント	第9回 はじめての茶道体験	茶室	8	主催：九州国立博物館
24年3月6日～18日	展示	筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～わがまちの宝～」展	エントランス	22,608	主催：九州国立博物館
24年3月9日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
24年3月25日	イベント	九博こども文化芸能祭	ミュージアムホール／エントランス	300	主催：九州国立博物館

2-(2)-⑩ 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10月8日(土) 9：30～17：00	○参加者数　1,032人《1,065人》 留学生　948人《977人》 同伴者　84人《 88人》 ・無料観覧（総合文化展のみ） ・ボランティアによる茶会 参加者数：110人（3回計） ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：81人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：145人	・留学生アンケート回答者数545人 回収率　53% ・出身国：中国48%、台湾11%、韓国8%、アメリカ9%　他 ・認知経路：ポスター57%(ポスターと回答したうちの掲示場所：学校266件、駅37件）友人から22%、学校関係者から14% ・参加したイベント： 観覧のみ42%、 お茶会17%、 ガイドツアー(考古11%,浮世絵10%,陶磁8%,法隆寺宝物館10%) 英語ガイド11%
京都国立博物館 11月5日(土) 9：30～18：00	○参加者数　107人《184人》 留学生　106人《182人》 同伴者　1人《 2人》 ・特別展覧会「細川家の至宝」無料観覧	・留学生アンケート回答者数21人 （回収率20%） ・初めて来館した人が95% ・48%がポスター･チラシで知り、38%が先生･友達から聞いて来た ・出身国：約9割がアジア ・特別展の満足度　100% ・日本の歴史、美術に興味のある方が多い
奈良国立博物館 11月2日(水) 9：00～18：00 (正倉院展会期中のため9：00開館)	○来館者数 15,411人《11,806人》 留学生　157人《 99人》 ・「正倉院展」(特別展)及び平常展の無料観覧	・アンケート実施せず
九州国立博物館 11月3日(木・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　1,463人《1,464人》 留学生　156人《 178人》 ・平常展のみ無料観覧 ・きゅーはくミュージアムコンサート	・留学生アンケート回答者数11人 （回収率0.7%） ・出身国：中国90%、 ・初めて来館した人81% ・認知経路：友達から聞いた 27%、学校関係者から36% ・来館理由：日本文化をもっと知りたいから43%、博物館を観察することが好きだから18% ・参加イベント：どれにも参加していない 27%、茶道体験54%、ﾐｭｰｼﾞｱﾑｺﾝｻｰﾄ18% ・文化交流展満足度：81%（感想、ご意見より）

＊来館者数、参加者数等：《　》内は平成22年度

2-(3) 快適な観覧環境の提供

2-(3)-① 高齢者、障がい者等に配慮した設備等

平成24年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
障がい者用トイレ	10か所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1）	4か所 （特別展示館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1	3か所 （東新館1、地下回廊2）	6か所 （本体建物）
障がい者用エレベータ	8基 （本館2、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1）	昇降装置1基 （管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	4か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館）	3か所 （特別展示館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3か所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	―
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	―	3台
車椅子	13台 （本館2台、東洋館1、平成館7、法隆寺宝物館1、表慶館1、正門1）	15台	10台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 2台 ○ベビーシート 11か所 ○ベビーチェア 10か所	○ベビーカー 7台 ○ベビーシート 6か所 ○チャイルドシート 1か所	○ベビーシート 2か所	○ベビーカー 7台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所
23年度整備事項	・貸出用ベビーカー2台を配置し、12月7日から貸出を開始した。			・障がい者用トイレ3ヶ所に、音声案内装置を設置した。

2-(3)-② 音声ガイド実施状況

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
23年度計：319,172台	23年度計：34,095台	23年度計：46,113台	23年度計：56,993台
・特別展 「写楽」 47,957台 ・特別展 「手塚治虫のブッダ展」 13,852台 ・特別展 「空海と密教美術」 139,048台 ・特別展 「孫文と梅屋庄吉」 4,427台 ・特別展 「法然と親鸞　ゆかりの名宝」 55,806台 ・特別展 「北京故宮博物院200選」 58,082台 （参考） ・総合文化展「とーはくナビ」 23年度：2,829台 （期間：23年1月17日～4月17日）	・特別展 「法然」 （日本語版・一般向け） 4/1以降：15,915台 （会期中（3/26～）：17,586台） ・特別展観 「百獣の楽園」 （日本語版・一般向け） 2,168台 ・特別展 「細川家の至宝」 （日本語版・一般向け） 14,906台 ・特別展 「中国近代絵画と日本」 （日本語版・一般向け） 1,106台	・特別展 「誕生！中国文明」 （日本語版・一般向け） 2,630台 （日本語版・子供向け） 5台 （日本語版・一般/子供セット） 80台 ・特別展 「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」 （日本語版・一般向け） 6,566台 ・特別展 「第63回正倉院展」 （日本語版・一般向け） 35,415台 （英語版・一般向け） 128台 （日本語版・子供向け） 1,289台	・文化交流展示 4,706台 （英語版 1,402台） （中国語版 950台） （韓国語版 2,354台） ・特別展 「黄檗」展 6,173台 ・特別展 「よみがえる国宝」展 18,028台 ・特別展 「草原の王朝　契丹」展 10,673台 ・特別展 「細川家の至宝」展 17,413台

2-(4) 文化財情報の発信と広報の充実

2-(4)-① 収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像　1,468件	画像　2,165件 文字　3,410件	画像　5,297件 文字　4,370件	画像　2,146件

2-(4)-② 収集した情報資料数（総数）

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		23年度新規	総数	23年度新規	総数	23年度新規	総数	23年度新規	総数
写真原板(フィルム)		1,379枚	(*1)319,952枚	3,410枚	253,550枚	219枚	(*1)372,043枚	2,175枚	21,316枚
デジタル撮影		9,187枚	(*1)27,561枚	170枚	170枚	5,884枚	(*1)16,561枚	2,266枚	16,866枚
資料	模造	0	0	0	0	0	0	0	0
	模写	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0
図書	和書	3,765冊	174,303冊	47,400冊	117,385冊	1,681冊	73,655冊	5,422冊	67,494冊
	漢書	80冊	38,081冊	1,830冊	21,007冊	56冊	4,984冊	0冊	0冊
	洋書	125冊	12,113冊	1,765冊	3,970冊	44冊	1,622冊	163冊	2,104冊
	計	3,970冊	224,497冊	50,995冊	142,362冊	1,781冊	80,261冊	5,585冊	69,598冊
映画フィルム		0	0	0	24巻	0巻	30巻	0	0
スライド		0	0	0	26本 2,779コマ	0本 0コマ	21本 2,192コマ	0	12コマ
マイクロフィルム		0巻	(*1)3,657巻	0巻	359巻	0巻	(*1)68巻	0巻	515巻

※(*1)の項目については、総数再確認の結果、平成22年度年報に記載の22年度総数が修正となった(<東博>写真原板(フィルム)318,773枚→318,573枚、デジタル撮影17,945枚→18,374枚、マイクロフィルム3,656巻→3,657巻、<奈良博>写真原板(フィルム)361,128枚→361,147枚)、デジタル撮影9,959枚→10,677枚、マイクロフィルム0巻→68巻)。本表の記載は、この修正を踏まえたものである。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
利　用　者　数	3,134人	2,764人	2,898人	2,796人	3,385人
閉架図書（閲覧）	3,321件	3,757件	7,527件	3,138件	3,032件
マイクロフィルム (閲覧)	650件	596件	577件	994件	573件
レファレンスサービス	3,299件	4,024件	2,973件	3,339件	2,783件
コピーサービス	23,287枚	22,669枚	22,438枚	26,210枚	19,983枚

※震災の影響により、23年3月14日～31日および23年4月1日～30日は臨時休館。
※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

2-(4)-③ 特別観覧件数

申請件数

平成24年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	315	15	300	134	5	129	53	5	48	50	3	47	78	2	76
写真撮影	64	3	61	7	0	7	14	1	13	20	2	18	23	0	23
映画撮影	19	11	8	7	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0	1	1	0	7	2	5
ビデオ撮影							3	3	0				1	0	1
模写	10	0	10	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
模造				4	0	4	0	0	0				4	0	4
熟覧	222	1	221	116	0	116	36	1	35	28	0	28	42	0	42

点数

平成24年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	1,477	31	1,446	535	16	519	389	7	382	259	6	253	294	2	292
写真撮影	558	6	552	42	0	42	291	1	290	112	5	107	113	0	113
映画撮影	39	24	15	21	16	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0	1	1	0	7	2	5
ビデオ撮影							5	5	0				5	0	5
模写	19	0	19	0	0	0	0	0	0	2	0	2	3	0	3
模造				6	0	6	0	0	0				8	0	8
熟覧	861	1	860	466	0	466	93	1	92	144	0	144	158	0	158

2-(4)-④ 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平成24年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）			0	0	0				0	0	0
		カラー	347	247	100				342	246	96				5	1	4
	デジタルデータ提供	モノクロ	386	219	167				356	303	53	263	167	96	18	2	16
		カラー													105	50	55
	プリントでの提供	モノクロ	137	107	30				135	106	29	2	1	1			
		カラー	6	4	2				0	0	0	6	4	2			
画像再利用			143	92	51							137	90	47	6	2	4

点数

平成24年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）			0	0	0				0	0	0
		カラー	1,769	801	968				1,761	799	962				8	2	6
	デジタルデータ提供	モノクロ	3,172	1,613	1,559				1,630	1,114	516	1,537	384	1,153	68	6	62
		カラー													453	109	344
	プリントでの提供	モノクロ	373	210	163				363	209	154	10	1	9			
		カラー	12	9	3				0	0	0	12	9	3			
画像再利用			290	174	116							259	169	90	31	5	26

2-(4)-⑤ 広報実績一覧

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・特集陳列「呉昌碩の書・画・印」　台東区立書道博物館との連携企画
+会期：平成 23 年 4 月 12 日（火）～6 月 5 日(日)
ターゲット：書道愛好家
重点項目：新聞および書・美術専門雑誌に向けてのプロモート
特記事項：台東区立書道博物館と連携してリリースを配信
報道内覧会の実施　(9月12日、21人出席)

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	台東区書道博物館から送付
交通広告	9月上旬　駅貼り広告(ＪＲ上野駅、鶯谷駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビなど	―
雑誌掲載	「月刊書道界」など
博物館ニュース	注目の特集蘭掲載　1回　催し物掲載1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジンでの情報配信

・特別企画
「留学生の日」
+会期：平成23年10月8日（土）
ターゲット：留学生
重点項目：学校を通じた広報
特記事項：リリースの配信(約280件)、ポスター・チラシの制作、学校へのＤＭ、京王線大学所在駅の交通広告

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約510件(大学、語学専門学校等)
交通広告	京王線　大学所在7駅駅貼り
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビ・ラジオなど	―
雑誌掲載	―
博物館ニュース	告知2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回メールマガジンでの情報配信

・特別企画
「博物館に初もうで」、東京国立博物館140周年キャンペーン
+会期：平成24年1月2日（月・休）～29日(日)
ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客
重点項目：タレントを起用したイメージポスターによるキャンペーンを展開
特記事項：「ブンカのちからにありがとう」キャンペーン。140周年を機に、来館者、館の歴史を作った人々、さらに文化がここに伝わったことへの感謝を表明するとともに、未来への文化継承の意義を訴える広告を制作。館の認知度をアップを図ると共に文化財保護を訴えるキャンペーンとした。
24年1月2日鏡開きイベントに中谷美紀氏出演

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,950件(博物館・美術館・学校・大使館・ギャラリー・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り（JR上野駅集中貼、ＪＲ鶯谷駅、東京メトロ、東急、京王、京成　計約30駅約160枚） 駅ボード（ＪＲ主要駅　ＳＷボード27駅　37面）
新聞・雑誌広告	朝日新聞夕刊15段カラー１回、読売新聞夕刊10段カラー1回、毎日新聞夕刊10段カラー1回、産経新聞5段カラー1回、ジャパンタイムズ1／16　2回、デイリー読売1／16　1回
テレビ広告	―
新聞掲載	読売新聞、毎日新聞、東京新聞、産経新聞、公明新聞
テレビ・ラジオなど	とくダネ！（フジテレビ）、ＰＯＮ！(日本テレビ)　LOHAS SUNDAY（J-WAVE）ほか
雑誌掲載	東京ウオーカー（角川マガジンズ）、展覧会ガイド　ほか
博物館ニュース	140周年特集１回、初もうで特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信 日本テレビニュースネット、NTTiコンシェルほか

・特別企画
「博物館でお花見を」
+会期：平成24年3月20日（火・祝）～4月15日(日)
ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客
重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供。
特記事項:イベント広報を通じて、まだ博物館に来たことのない人の来館を促進。家族づれや外国人観光客向けの媒体へのプロモートを実施。
Ｊ－ＷＡＶＥとのタイアップイベントを開催。事前告知及び当日の公開生放送、イベント等で広く一般への周知と新規来館者の獲得と図った。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,256件(全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル・旅館・インターナショナルスクール・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り(ＪＲ京浜エリアシングル　23駅Ｂ1 46枚、中央総武シングル　19駅38枚、東京メトロ、東京メトロシングル24駅　Ｂ160枚　京王電鉄　約10駅80枚)
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞、ジャパンタイムズ、デイリーヨミウリ　各1回
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビなど	Ｊ－ＷＡＶＥタイアップイベント
雑誌掲載	春ぴあ　など
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信

・長期的な広報
　羽田空港　京成新国際ターミナル駅　上下線ホームピラー、可動柵広告22年12月1日～24年3月31日
　都営バス　ラッピング広告（3台）　22年3月25日～24年3月24日

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：特別展「写楽」

+会期：平成23年5月1日（日）～6月12日(日)
ターゲット：広く一般の歴史および美術ファン、浮世絵ファン
重点項目：マスコミおよび交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項：東日本大震災による会期変更に関する情報発信（交通広告・新聞広告掲出・リリースの配信等）、首都圏の約600書店と上野のれん会との連携にて割引引換券付しおり28種のキャンペーン実施

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約8,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからのダウンロード、会場内にて配布
交通広告	駅ボード(JR：SVA（43駅60面）、Zボード（21駅23面）、新SWボード（35駅40面）、東京メトロ：SSボード　7日間（26駅40面）)、ポスター駅貼り等(東京メトロ、京王、西武、京成、東急　多数) 車内吊等（京王、京王井の頭、西武　多数）、電飾看板（20駅20面）
新聞・雑誌広告	東京新聞　33回、朝日新聞　5回、読売新聞　2回
テレビ広告	―
新聞掲載	東京新聞(特集、連載コラム、10万人報道)ほか
テレビ/ラジオ	日曜美術館アートシーン（NHK）、美の巨人たち（テレビ東京）、レディス４(テレビ東京)ほか
雑誌掲載	ぴあ（ぴあ）、クロワッサン Premium（マガジンハウス）、Pen（阪急コミュニケーションズ）、サライ（小学館）、婦人画報（アシェット婦人画報社）、BAILA（集英社）、婦人公論（中央公論新社）、美術の窓（生活の友社）、美術手帳（美術出版ホールディングス）ほか
博物館ニュース	告知1回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、公式ウェブサイト、共催者(東京新聞)ウェブサイトでの紹介、公式サイトでのブログによる情報発信 Fuji-TV Artnet（フジテレビ）、ANA旅達空間（ANA）、Oz Mall（スターツ出版）、WEDGE Infinity（ウェッジ）ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　416件、雑誌　131件、テレビ/ラジオ 5件、インターネット　67件
③報道発表会　10月28日　平成館大講堂にて　(54人出席)
④報道内覧会　5月3日(201人出席)
⑤教員鑑賞会　実施を予定していたが、東日本大震災の影響により中止となった。

展覧会名：特別展「手塚治虫のブッダ展」

+会期：平成23年4月26日（火）～6月26日(日)
ターゲット：手塚ファン・アニメファン、仏像ファン、広く一般の歴史および美術ファン
重点項目：マスコミおよび交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項：東日本大震災による開場時間変更に関する情報発信（交通広告・新聞広告掲出・リリースの配信等）、幻のお宝チケットプレゼント企画、音声ガイド声優・水樹奈々さんの関連広報企画（リリース、開会式出席、クイズプレゼント企画等）、仏像ガール講演会など

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約2,800件(博物館・美術館、学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館、秋葉原・神田の古本屋街、アニメ系店舗・学校、エスニックレストラン　等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからダウンロード、および会場内にて配布
交通広告	ＪＲ上野駅大型フラッグ１箇所、ＪＲ上野駅公園口デジタルサイネージ４台 メトロ大型ボード　１７駅２０面 京王線新宿駅改札口前ラウンド柱まわり、京王線明大前ホーム４連貼 京王線吉祥寺駅アップルボード１０連貼 銀座４丁目三愛ビジョン

新聞・雑誌広告	読売新聞　半５段カラー、全５段 日経新聞　全５段、朝日新聞　全５段 映画「ブッダ」とのタイアップ広告
テレビ広告	TBS
新聞掲載	産経エキスプレス　産経新聞（サブカルちゃんねる）、東京スポーツ、大阪スポーツ、中京スポーツ、九州スポーツ、デイリー読売ほか
テレビ放映	「ZIP!」（日本テレビ）、「不思議発見」(TBS)、ミトカナイト東京（フジテレビ）、王様のブランチ（TBS）、クウェート国営放送、MBCテレビ（ドバイ）、France24ほか
雑誌掲載	週刊漫画サンデー、宣伝会議、「一個人　仏教入門」（ベストセラーズ）、「日経ビジネスアソシエ」（日経BP社）、「東京ウォーカー」（角川マーケティング）、週刊ポスト（小学館）、
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(東映、TBS)ウェブサイトでの紹介 JAL webサイト、WEDGE Infinity、メディア芸術プラザ（文化庁）など

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　310件、雑誌　131件、テレビ/ラジオ 15件、インターネット　52件
③記者説明会・映画「ブッダ」試写会　23年3月25日　東映株式会社７階　試写室にて　(40人出席)
④報道内覧会　4月25日(90人出席)

展覧会名：「空海と密教美術」展

+会期：平成23年7月20日（火）～9月25日(日)
ターゲット：広く一般の歴史および美術ファン、仏像ファン
重点項目：マスコミおよび新聞広告、交通広告による広く一般への情報提供。
「国宝・重要文化財98.9%」「マンダラのパワー」などのキャッチで、寺社仏閣ファンのみならず「仏像好きの女子」など若年層にアプローチ
特記事項：展覧会公式ツイッターアカウント開設、展覧会の感想をリプライした全員にオリジナル待受画像プレゼント
展示室での作品落下事故のお詫び掲載（当館ウェブサイト、公式ホームページ）

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約12,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからダウンロード、および会場内にて配布
交通広告	駅ボード　JR沿線（主要駅95面）、私鉄沿線（都内私鉄主要駅100面）、JR新宿駅西口 B1ポスター62面、ポスター駅貼り等(東京メトロ、京王、西武、京成、東急　多数) 車内吊等（京王、京成、西武　多数）、有楽町ビックビジョンＣＭ
新聞・雑誌広告	読売新聞　35回、朝日新聞　5回
テレビ広告	NHKスポット多数回、BSプレミアム画像コンテンツ（仏像ガール・廣瀬郁美氏の解説）
新聞掲載	読売新聞(特集、連載コラム、10万人報道、行幸啓報道)ほか
テレビ放映	日曜美術館(NHK)、首都圏ニュース845（NHK）、情報7daysニュースキャスター（TBS）、モーニングバード(テレビ朝日)、ミヤネ屋(日本テレビ)、上柳昌彦ごごばん！(ニッポン放送)、Re:Wind（FMヨコハマ）ほか
雑誌掲載	空海と密教美術を訪ねる旅（ぴあムック）、Discover Japan（エイ出版社）、仏像探訪（エイ出版社）、男の隠れ家「密教」（グローバルプラネット）、芸術新潮（新潮社）、日経おとなのOFF（日経BP）、Casa BRUTUS（マガジンハウス）、家庭画報（世界文化社）、いきいき（いきいき）ほか
博物館ニュース	予告2回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事12回、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 WEBサライ（小学館）、日テレNEWS24（日本テレビ）、MSN産経ニュース（産経新聞）、クラブツーリズム（クラブツーリズム）、上野経済新聞（上野経済新聞）ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　637件、雑誌　154件、テレビ/ラジオ 16件、インターネット　38件
③記者発表会　23年3月10日　平成館大講堂にて　(86人出席)
④報道内覧会　7月19日(175人出席)
⑤教員鑑賞会　8月2日(405人出席)
⑥雑誌「ぴあ」読者内覧会　8月23日(112人出席)

展覧会名：特別展「孫文と梅屋庄吉　100年前の中国と日本」

+会期：平成23年7月26日（火）～9月4日(日)
ターゲット：広く一般の歴史および美術ファン、中国ファン、在日中国人
重点項目：マスコミおよび新聞広告、交通広告による広く一般への情報提供
特記事項：日比谷・松本楼でのプレスランチ（発表会）実施（国内メディア1回＋中国メディア1回）
　　松本楼の絆カレープレゼント企画、中国人メディアに向けたプレスランチ、ギャラリートーク開催とチラシによる周知、
　　空海と密教美術展の半券提示でポストカードプレゼント企画とチラシ設置など。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等ＤＭ送付	約600件(博物館・美術館・大学（中国語関連学部学科、写真学科）、小・中学校（中華学校）、図書館、中国語関連（語学学校、カルチャースクール）、中国関連の協会、レストラン等)

交通広告	駅ボード(東京メトロ電飾8面) ポスター駅貼り等(京王線・主要駅)、 中吊り（東京メトロ全線　1週間+空き枠にランダムに掲出）
新聞・雑誌広告	突出雑報、大型雑報、全2段、半2段、全5段、半5段 開幕半月前～閉幕前日まで、空き枠に掲載
ラジオ広告	TBSラジオ ワイドラジオTOKYO永六輔（土9時）、エキサイトベースボール（水18時）、 ニュース探求ラジオ（月-金22時）20秒スポット×計52本 エフエム東京　20秒スポット×25本
新聞掲載	毎日新聞(特集、連載コラム)ほか
テレビ放映	「TOKYO　MX　NEWS」(東京MX)、CCTV、CCTV English、新華社通信社ほか
雑誌掲載	「東京人」（都市出版）、「歴史読本」（新人物往来社）、月刊書道界（藤樹社）ほか
博物館ニュース	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(毎日新聞)ウェブサイトでの紹介 男子食堂、歴史人、博物館へ行こう！など

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　234件、雑誌　34件、テレビ/ラジオ 1件、インターネット　22件
③記者発表会（プレスランチ）　6月2日日比谷松本楼にて　(30人出席)
④記者発表会（プレスランチ）　7月14日日比谷松本楼にて　(13人出席)
⑤報道内覧会　7月25日(79人出席)

展覧会名：特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」

+会期：平成23年10月25日（火）～12月4日(日)
ターゲット：広く一般の歴史および美術ファン、両宗派の門徒および寺院関係者
重点項目：マスコミおよび新聞広告、交通広告による広く一般への情報提供。
震災後の社会状況と法然・親鸞の生きた時代を重ねたキャッチコピー等で、訴求効果を高めた。
特記事項：　トーハンとのタイアップ企画（書店ブックフェアに合わせ7種のしおり、プレゼント企画）。
　　上野商店街飲食店とのタイアップ企画、法然・親鸞ゆかりの小豆と豆腐のしおりを配布。
　　グッズ付チケットの発売。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等ＤＭ送付	約7,756件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅ボード(ＪＲステーションボードNTボード100面、JR・メトロ駅SSボード100面、メトロUボード電飾、ポスター駅貼り等(東急、京王)、　ポスター車内（東急、京王）、ビジョン（東急）
新聞・雑誌広告	朝日新聞　26回、NHKテレビテキスト　2回
ラジオ広告	カルチャーラジオ（NHK第2）、ラベンダークルーズ（調布FM）、ラジオ深夜便（NHK第1）、LOHAS SUNDAY(J-WAVE)
新聞掲載	朝日新聞(特集、連載コラム、10万人報道、20万人報道)
テレビ放映	歴史ヒストリア（NHK）、ブランニュー・ステーション（朝日ニュースター）、情報宅急便　きたくん（11北チャンネル）、レールに乗って（信越放送テレビ）、上野・浅草うぃーくえんど（千葉テレビ）、日曜美術館（NHK　Eテレ）
雑誌掲載	「サライ」（小学館）、「家庭画報」（世界文化社）、日経おとなのOFF（日経BP社）、 「一個人」（KKベストセラーズ）、芸術新潮（新潮社）歴史読本（新人物往来社）、ほか
博物館ニュース	告知2回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(NHK、朝日新聞)ウェブサイトでの紹介 ブログ貼り付け用画像の提供

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　220件、雑誌　192件、テレビ/ラジオ 10件、インターネット　38件
③記者発表会　6月17日日本外国特派員協会にて　(58人出席)
④報道内覧会　10月24日(173人出席)
⑤教員鑑賞会　11月4日(218人出席)

展覧会名：　日中国交正常化40周年　東京国立博物館140周年　特別展「北京故宮博物院200選」

+会期：平成24年1月2日（月・祝）～2月19日(日)
ターゲット：広く一般の美術ファン、中国ファン、在日中国人
重点項目：マスコミおよび新聞広告、交通広告による広く一般への情報提供
特記事項：「清明上河図」出品確定の遅れ、中国政府との調印の遅れにより、情報提供、前売発売等が大幅に遅れた。
　　「清明上河図」が出品された場合、されなかった場合を想定し、プレスリリース、ちらし、ポスター、交通広告等すべて2パターン以上を制作。「清明上河図」出品決定後、追加リリース配信、さらに特別報道内覧会の実施等、広報の現場は混乱を極めた。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約8,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅ボード(ＪＲ88駅103面のNTボード、JR35駅40面SWボード、メトロ38駅39面SWボード、私鉄SSアクセスボード100駅100面)

新聞・雑誌広告	朝刊社会面下半２段：６回　朝刊社会面下２と１／４段：５回 朝刊興業広告ページ半１０段：２回 夕刊題字下：８回 夕刊全５段：１回　朝刊題字下：１回　ほか
テレビ広告	スポット　多数
新聞掲載	朝日新聞　1面トップ掲載（清明上河図出品のニュース）　特集記事、連載コラム　ほか
テレビ/ラジオ	NHK日曜美術館本編(NHK)、NHKニュース(NHK)　CCTV　ほか
掲載	芸術新潮（新潮社）、東京人(都市出版)、月刊書道界(藤樹社)、日経おとなのOFF(日経BP社)、美術の窓（生活の友社）、男の隠れ家(朝日新聞出版)、書21（匠出版）ほか
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事13回、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(朝日新聞)ウェブサイトでの紹介 首都高で行こう！、オズグランデ、上野経済新聞、「行こう！博物館美術館」

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　317件、雑誌　66件、テレビ/ラジオ 3件、インターネット　70件、中国メディア　20件
③記者説明会　11月25日本館会議室にて　(62人出席)
④「清明上河図」特別報道内覧会　12月26日(31人出席)
⑤報道内覧会　24年1月4日(182人出席)

展覧会名：海外展「仏教美術と宮廷の美」　（ヒューストン美術館）
+会期：平成24年2月19日（日）～4月6日(金)
2011東京国立博物館展示と催しのご案内、東京国立博物館ニュース、ウェブサイト

【京都国立博物館】

(1)平常展

平常展示館建て替え工事に伴い、平常展示休止中。

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「法然上人八百回忌　法然―生涯と美術―」
会　　期：3月26日～5月8日(39日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展観「百獣の楽園―美術にすむ動物たち―」
会　　期：7 月 16 日～8 月 28 日(38 日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等
記者発表会：7月15日に実施

展覧会名：特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」
会　　期：10 月 8 日～11 月 23 日(40 日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等
記者発表会：10月7日に実施

展覧会名：特別展覧会「中国近代絵画と日本」
会　　期：24 年 1 月 7 日～2 月 26 日(44 日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等
記者発表会：1月6日に実施

展覧会名：京都国立博物館所蔵「典雅なる御装束　―宮廷のオートクチュール―」
会　　期：10 月 1 日～11 月 27 日(50 日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、公共放送等

展覧会名：京都国立博物館名品展「京都千年の美の系譜　―祈りと風景―」
会　　期：10月22日～12月 4日(39日間)
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

広報媒体：博物館だより、新聞、テレビ等

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「誕生！中国文明」
会期：平成23年4月5日～5月29日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：特別展「天竺へ　三蔵法師３万キロの旅」
会期：平成23年7月16日～8月28日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：特別展「第63回正倉院展」
会期：平成23年10月29日～11月14日
広報媒体：ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

特記事項: 九州新幹線全通によって近くなった南九州への知名度の浸透をはかるため、CM「きゅうはく行かなきゃ！」を制作・放映した。
博物館情報の充実を図るため、九州国立博物館 CM をウェブサイトでも提供し、YouTube で配信した。
九州新幹線の熊本駅・鹿児島中央駅に特別展・トピック展などの刊行物を配布するラックを設置した。

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 360 件（学校・公共施設・旅行会社等）
交通広告	ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、チラシの設置（西鉄・ＪＲ）
雑誌掲載	太宰府市の広報誌に博物館コラムを毎月掲載、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載（年 4 回）
テレビ	CM を制作・放映
季刊情報誌「アジア―ジュ」	年 4 回発行（4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、平成 24 年 1 月 1 日） 文化交流展室セレクション、トピック展特集、KyuhakuNews、KyuhakuSquare、イベントスケジュール等
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 6 月号、文部科学時報 12 月号

・トピック展示「日本とタイーふたつの国の巧と美―」
会期：平成 23 年 4 月 12 日（火）～6 月 5 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 250 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞　記事掲載
雑誌掲載	月刊文化財 4 月号、文教速報、文教ニュース
テレビ	FBS 福岡放送、NHK 福岡放送局
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 4 月号

②報道内覧会　　4 月 11 日（17 人出席）

・特別公開「国宝　琉球国王尚家関係資料　修理完成記念展示」
会期：平成 23 年 4 月 12 日(火)～5 月 22 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「彫漆　漆に刻む文様の美」
会期：平成 23 年 6 月 14 日（火）～7 月 31 日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 15 件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 5 月号

・トピック展示「平戸オランダ商館会館記念　平戸－海外に開かれた港市－」
会期：平成 23 年 7 月 6 日(水)～8 月 15 日(月)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、熊本日日新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「斉明天皇と飛鳥」
会期：平成 23 年 7 月 20 日(水)～8 月 28 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 5 件（文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞、読売新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集 1 回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「インドの染織と細密画」
会期：平成 23 年 8 月 3 日（水）～9 月 11 日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞　記事掲載
雑誌掲載	文部科学時報 8 月号

季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、

・トピック展示「茶の湯を楽しむⅣ」
会期：平成23年9月14日(水)～10月23日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約115件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「館蔵水墨画名品展」
会期：平成23年9月28日(水)～11月6日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約35件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞　記事掲載
テレビ	ＴＯＳテレビ大分
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「発掘された日本列島2011地域展　　九州最古の狩人とその時代」
会期：平成23年10月29日(土)～12月18日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約255件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	朝日新聞、西日本新聞、毎日新聞　記事掲載
テレビ	ＮＢＣ長崎放送
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「琉球と袋中上人展-エイサーの起源をたどる-」
会期：平成23年11月1日（火）～12月11日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約70件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞、日本PTA新聞11月号　記事掲載
テレビ	ＴＶＱ九州放送
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報10月号

・トピック展示「九州大学百年の宝物」
会期：平成23年11月15日(火)～12月18日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約380件（博物館・美術館・図書館・学校・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞、日本経済新聞、毎日新聞、産経新聞　記事掲載
テレビ	テレビ西日本、NHK福岡放送局
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」
会期：平成24年1月1日（日・祝）～1月29日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約20件（博物館・美術館・図書館・文化施設等）
新聞掲載	西日本新聞　記事掲載
季刊情報誌「アジア―ジュ」	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・長期的な広報
　西鉄太宰府駅　　広告ボードの設置　（平成21年～）
　福岡空港　　宣伝用看板（電照広告）の設置　（平成22年～）

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「黄檗―OBAKU」

会期：平成23年3月15日（火）～5月22日（日）（61日間）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設等）

交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞　記事掲載
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	展覧会告知 CM
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

②記者発表会　　1 月 19 日　黄檗宗大悲山千眼寺「本堂」にて（15 人出席）
③報道内覧会　　3 月 14 日（23 人出席）

展覧会名：特別展「よみがえる国宝-守り伝える日本の美」

会期：6月28日（火）～8月28日（日）（54日間）
特記事項：トークショー「古美術のススメ～修復文化財に見る匠たち～」（出演者：片岡鶴太郎氏、中島誠之助氏、冷泉貴実子氏　7 月 3 日）を開催し、期間中にテレビ放映した。
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、産経新聞、日本 PTA 新聞 7 月号　記事掲載
雑誌掲載	文教速報、文教ニュース、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	展覧会告知 CM、特別番組２本
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 7 月号

②記者発表会　　4 月 16 日　九州国立博物館にて（20 人出席）
③報道内覧会　　6 月 27 日（28 人出席）

展覧会名：特別展「草原の王朝　契丹－美しき3人のプリンセス」

会期：9月27日（火）～11月27日（日）（54日間）
特記事項：テレビ番組「草原の王朝　契丹」を制作、期間中に放映した。
ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画を YouTube で配信した。
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞　記事掲載
雑誌掲載	文教速報、文教ニュース、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	展覧会告知 CM、特別番組１本
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報 11 月号

②記者発表会　　8 月 2 日　ロイヤルチェスター福岡「ウィンザーホール」（大野城市）にて（19 人出席）
③報道内覧会　　9 月 26 日（28 人出席）

展覧会名：特別展「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション」

会期：平成24年1月1日（日・祝）～3月4日（日）（56日間）
特記事項：ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画をYouTubeで配信した。
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 1,200 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説を連載），西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞　記事掲載
雑誌掲載	月刊文化財 2 月号、文教速報、文教ニュース、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　特集１回
テレビ	展覧会告知 CM
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、文化庁月報１月号

②記者発表会　　10 月 12 日　九州国立博物館にて（21 人出席）
③報道内覧会　　12 月 26 日（32 人出席）

(3)海外展

展覧会名：文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」

会期：12月20日（火）～平成24年2月19日（日）（51日間）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 150 件(韓国国内美術館・博物館等)
交通広告	ポスター駅貼り(韓国地下鉄)
新聞掲載	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、中日新聞、京都新聞、滋賀報知新聞　記事掲載
雑誌掲載	M･O･H 通信 34 号

インターネット	文化庁、滋賀県ウェブサイトでの紹介

(参考)

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：春期企画展「発掘速報展 平城 2009･2010」
会　　期：23年2月19日(土)～5月8日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等

展覧会名：秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」
会　　期：23年10月18日(火)～11月27日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等

展覧会名：春期企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」
会　　期：24年3月10日(土)～5月27日(日)
※24年度評価にて実績報告を行う。

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

広報媒体：チラシ・ホームページ等

【飛鳥資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ・ホームページ・情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：春期特別展「星々と日月の考古学」
会　　期：23年4月16日(土)～5月29日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞。情報誌等

展覧会名：夏期特別展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」
会　　期：23年8月2日(火)～9月4日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞。情報誌等

展覧会名：秋期企画展「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」
会　　期：23年10月14日(金)～　11月27日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞。情報誌等

展覧会名：冬期特別展「飛鳥の考古学2011」
会　　期：24年1月20日(金)～2月26日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞。情報誌等

2-(4)-⑥ 広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数	配 布 先
東京国立博物館ニュース707号～ 712号	隔月刊年6回発行　各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者　2,295件 寄贈　国内1,292件　海外89件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等） 賛助会　280件、キャンパスメンバーズ　35件 友の会　1,638件 （2012年3月現在）
本館フロアガイド 日本語版・英語版 中国語版・韓国語 （24年3月、24年度4月版に改訂）	日本語版 24.3　改訂　60,000部 英語版　24.3　改訂　40,000部 中国語版 24.3　改訂　10,000部 韓国語版 24.3　改訂　10,000部	館内で来館者に無償配布
東洋館フロアガイド 日本語版・英語版 中国語版・韓国語版 （休館中のため増刷・改訂なし）	日本語版 英語版 中国語版 韓国語版	休館中のため配布せず
東京国立博物館マップ （24年3月、24年度4月版に改訂）	日本語版 24.3　改訂　90,000部 英語版　24.3　改訂　80,000部 中国語版 24.3　改訂　32,000部 韓国語版 24.3　改訂　15,000部 仏語版　24.3　改訂　5,000部 独語版　24.3　改訂　3,000部 西語版　24.3　改訂　3,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校等に送付 特記事項：英語版の一部は東芝国際交流財団の助成金で制作
東京国立博物館　展示・催しのご案内	24.3　24年度版 35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、大使館、美術館・博物館、マスコミ媒体等に送付
法隆寺宝物館パンフレット	―――	法隆寺宝物館で配布
庭園ガイド	24.3　増刷　60,000部	館内で配布
１４０周年記念パンフレット	23.12　60,000部	館内で配布

【京都国立博物館】

刊 行 物 名	発行時期	発 行 部 数	配 布 先
京都国立博物館だより	4、7、10月、24年1月	170号（4・5・6月）　15,000部 171号（7・8・9月）　10,000部 172号（10・11・12月）　15,000部 173号（24年1・2・3月）　10,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Newsletter Vol.110～113	4、7、10月、24年1月	各5,000部	観覧者
博物館Dictionary No.168	7月	5,000部	
特別展観「百獣の楽園」こども向けワークシート	7月	30,000部	観覧者（小学・中学生向け）
留学生の日ポスター・チラシ	9月	ポスター500部、チラシ10,000部	観覧者（関西圏の大学、専門学校へ送付）
展示替予定表京都国立博物館案内リーフレット（展示案内改訂版）	24年3月	（日本語・改訂版）　20,000部	
平成24年度年間スケジュール	24年3月	20,000部	

【奈良国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数	配 布 先
奈良国立博物館だより （年4回）	春・夏号　各20,000部 秋号　35,000部 冬号　15,000部	美術館・博物館・大学・研究所等　約120件
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　50,000部 英語版　10,000部 中国語版　2,500部 韓国語版　5,000部 ドイツ語版　1,000部 フランス語版　1,000部 スペイン語版　1,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　110,000部 中国語版　7,000部 韓国語版　11,000部 英語版　14,000部 ドイツ語版　3,000部 フランス語版　3,000部 スペイン語版　3,000部 合計　151,000部	・館内で来館者に配布 ・旅行会社等へ郵送

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
文化交流展示室案内マップ	日本語版　20,000部 中国語版　2,000部 韓国語版　4,000部 英語版　2,000部	・館内で来館者に配布 ・旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　3,000部 中国語版　300部 韓国語版　300部 英語版　300部	・視察者等に配布
季刊情報誌「アジアージュ」	春(20)号　50,000部 夏(21)号　40,000部 秋(22)号　50,000部 冬(23)号　50,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月　13,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、病院、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布

2-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数
（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ

3 我が国における博物館の中核としての機能の強化

3-(1)調査研究の成果の発信

3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

3-(1)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-④

3-(1)-③ 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

3-(1)-④ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

3-(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施

3-(2)-① 研究交流実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-①

3-(4) 収蔵品の貸与

3-(4)-① 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成24年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		266	255	11	129	122	7	74	73	1	37	35	2	26	25	1
合　計		1,571	1,522	49	905	865	40	429	426	3	118	113	5	119	118	1
絵画		376	368	8	148	143	5	170	170	0	48	46	2	10	9	1
書跡		75	72	3	15	12	3	55	55	0	4	4	0	1	1	0
彫刻		146	144	2	118	116	2	11	11	0	16	16	0	1	1	0
建築		3	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
金工		61	54	7	20	15	5	30	29	1	10	9	1	1	1	0
刀剣		42	42	0	42	42	0				0	0	0	0	0	0
陶磁		98	88	10	48	38	10	20	20	0	0	0	0	30	30	0
漆工		66	62	4	40	37	3	14	14	0	12	11	1	0	0	0
染織		152	151	1	50	50	0	98	98	0	4	3	1	0	0	0
考古		203	199	4	77	75	2	29	27	2	24	24	0	73	73	0
民族資料		12	12	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		24	24	0	21	21	0	2	2	0	0	0	0	1	1	0
和書		21	21	0	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	15	14	1	15	14	1									
	書跡	9	7	2	9	7	2									
	彫刻	9	2	7	9	2	7									
	金工	1	1	0	1	1	0									
	陶磁	9	9	0	9	9	0									
	漆工	6	6	0	6	6	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	30	30	0	30	30	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		2	2	0	2	2	0									
黒田記念館収蔵品		211	211	0	211	211	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
貸与先件数		283	271	249	301	266
合　計		1,714	1,640	1,729	1,936	1,571
絵画		449	277	436	395	376
書跡		114	79	78	89	75
彫刻		129	168	124	198	146
建築		3	7	3	2	3
金工		111	110	98	100	61
刀剣		18	76	121	24	42
陶磁		186	100	103	117	98
漆工		52	92	92	92	66
染織		92	409	102	63	152
考古		269	224	414	350	203
民族資料		3	0	13	9	12
歴史資料		16	26	11	95	24
和書		15	13	12	4	21
東洋	絵画	18	21	23	27	15
	書跡	23	3	4	23	9
	彫刻	50	15	8	9	9
	金工	0	0	0	0	1
	陶磁	141	5	44	91	9
	漆工	0	2	0	2	6
	染織	0	0	0	2	0
	考古	22	12	21	53	30
	民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		3	1	0	8	2
黒田記念館収蔵品		0	0	22	183	211

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

3-(4)-② 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成24年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	189	1,081	116	761	34	219	23	51	16	50
国・国立	26	97	19	75	3	12	3	9	1	1
地方・公立	123	804	74	601	21	122	15	35	13	46
私立団体	40	180	23	85	10	85	5	7	2	3
海外	8	17	6	13	0	0	2	4	0	0

○寄託品

平成24年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	108	299	26	19	46	150	23	62	13	68
国・国立	19	81	7	7	7	58	4	15	1	1
地方・公立	61	166	12	7	26	65	12	28	11	66
私立団体	28	52	7	5	13	27	7	19	1	1
海外	4	6	1	1	1	3	1	1	1	1

3-(4)-③ 海外への列品貸与

【東京国立博物館】　海外貸与先 7件　　海外貸与文化財 40件[うち寄託品 1件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
特別展「肖像画の秘密」	大韓民国 国立中央博物館【国立中央博物館(大韓民国ソウル市)】	平成23年9月27日～平成23年11月6日	絵画3
「蘭亭特展」	北京故宮博物院【北京故宮博物院(中華人民共和国北京市)】	平成23年9月21日～平成23年11月5日	東洋書跡2
「朝鮮画員大展」	三星文化財団【三星美術館 Leeum（大韓民国ソウル市)】	平成23年10月13日～平成24年1月29日	東洋絵画1
文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰－」	文化庁【国立中央博物館(大韓民国ソウル市)】	平成23年12月20日～平成24年2月19日	絵画1[1]
海外展　ヒューストン美術館日本室開室記念「仏教美術と宮廷の美 東京国立博物館コレクション展」および常設展示	ヒューストン美術館（アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン市）	平成24年2月17日～平成24年4月8日(常設展示分は平成26年2月16日まで)	絵画1、書跡3、彫刻2、金工5、陶磁10、漆工3、考古2
「東南アジア展示」（長期貸与）	大韓民国 国立中央博物館【国立中央博物館(大韓民国ソウル市)】	平成22年2月1日～平成24年3月10日	東洋彫刻5
常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	平成14年1月1日～平成24年12月31日	東洋彫刻2

【京都国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 3件[うち寄託品 3件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
文化庁主催「日本 仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰－（仮称)」展	文化庁【韓国国立中央博物館】	平成23年11月24日 ～平成24年3月5日	3 (考古2[2]、金工1[1])

【奈良国立博物館】　海外貸与先 2件　　海外貸与文化財 5件[うち寄託品 1件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
企画特別展「肖像画の秘密」	韓国国立中央博物館	平成23年9月22日～11月14日	絵画2
文化庁主催「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰－」	文化庁【韓国国立中央博物館】	平成23年11月16日～平成24年3月6日	金工1、漆工1[1]、染織1

【九州国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 1件[うち寄託品 1件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
特別展「朝鮮画員大展」	大韓民国三星美術館	平成23年12月1日～平成24年2月15日	絵画1[1]

3-(4)-④ 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
長野県立歴史館	14	53
館山市立博物館	5	20

【奈良国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
浜松市博物館（静岡県）	1	4

3-(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

3-(5)-① 公私立博物館等に対する援助・助言

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
412件	126件	91件	98件	97件

【東京国立博物館】126件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	文化庁（ワシントン）	日米文化教育交流会議（カルコン）に出席	平成23年5月16日～21日	副館長　島谷弘幸
2	文化庁（文化庁・陽明文庫）	世界記憶遺産推薦者会議（陽明文庫）に出席	平成23年8月17日、10月8日・9日	同上
3	サンフランシスコ・アジア美術館	アジア美術館長フォーラムに出席・パネル参加	平成23年11月8日・9日	同上
4	ヒューストン美術館	ヒューストン美術館・日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展打ち合わせ	平成23年11月11日・12日	同上
5	毎日新聞社・ギメー美術館	「SHOI」展監修	平成23年10～24年３月	同上
6	毎日新聞社・新美術館	「熊谷恒子展」監修	平成24年9月～24年8月（11月3日、12月４日、1月14日）	同上
7	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議委員会（美術・工芸部会）	平成23年6月24日	学芸企画部長　松本伸之
8	国立台南藝術大学・台湾博物館	「博物館のマーケティングと運営」に関する講習	平成23年6月11日・12日	同上
9	ウズベキスタン共和国芸術アカデミー「平山郁夫文化のキャラバンサライ」	博物館概論の講義	平成23年9月26日～10月1日	企画課長　井上洋一
10	松戸市教育委員会	松戸市小金の東漸寺所蔵「二十五菩薩来迎図」を市指定文化財に指定するに当たっての助言。	平成23年9月～10月	企画課特別展室主任研究員　沖松健次郎
11	東京藝術大学美術学部デザイン科	デザイン科３年・デザイン実技課題『東京国立博物館に対するデザインサイドからの提案』への指導(ガイダンス)・助言(講評)を行った。	平成23年4月～5月	企画課デザイン室長　木下史青
12	文化庁文化財部美術学芸課	第7回指定文化財(美術工芸品)企画･展示セミナー(第2年度)魅力ある企画・展示の実現『展示構成と会場デザイン』の講師	平成23年6月30日	同上
13	武蔵野美術大学美術館･図書館（神野教授/元館長）	展覧会『暮らしの造形19 災厄防除-まもる姿･ふせぐ形』(平成23年9月5日～10月8日開催)の展示･照明のデザインおよび施工手順等について助言した。	平成23年7月29日(金)	同上
14	京都国立博物館 総務課	新館展示館の設計者(谷口建築設計研究所､および展示･照明設計者、製作担当業者)より館内の展示照明等について調査希望があり、対応・説明した。	平成23年9月20日(火)	同上
15	シルク博物館（横浜市所在、担当学芸員：大野美也子氏）	シルク博物館のリニューアル(平成24年4月開館予定)にかかわる展示デザインおよび照明仕様/設計について助言した。	平成23年10月	同上
16	渋谷区立松涛美術館（展覧会企画者・熊谷博人氏）	展覧会『和更紗 熊谷コレクション』（平成24年2月5日～2月19日開催)の展示および照明計画について助言した。	平成23年12月16日	同上
17	九州国立博物館	特別展・業者選定委員会	平成24年2月7日(火)	同上
18	独立行政法人国立文化財機構　九州国立博物館	特別展「草原の王朝　契丹　美しき３人のプリンセス」請負候補者選定委員会　請負候補者選定委員	平成23年8月5日-6日	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一
19	大英博物館	当館の国際展の現況について	平成23年6月22日	企画課国際交流室研究員　遠藤楽子
20	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館	当館の国際展の現況について	平成23年6月23日	同上
21	ヒューストン美術館	「Elegant Perfection」展図録英訳監修	平成24年1月-2月(平成24年2月発行)	同上
22	サンフランシスコ・アジア美術館	アジア美術館長フォーラムにて副館長付会議通訳	平成23年11月8日、9日	同上
23	長崎県立対馬歴史民俗資料課	宗家文庫史料絵図類等史料調査	平成23年5月25日～27日、12月17日～18日	博物館教育課教育普及室長　伊藤信二
24	社団法人日本工芸会	第58回日本伝統工芸展第1次鑑査会（金工）	平成23年8月11日	同上
25	韓国国立民俗博物館	同館の博物館教育事業討論会における評価・指導・助言	23年10月28日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
26	韓国国立済州博物館・済州海女博物館	教育普及事業調査、指導・助言	23年10月29日	同上
27	吉川市教育委員会	吉川市史編纂事業にかかる近世部会での調査・助言・資料解説執筆	平成23年4月30日,6月18日,8月20日,11月26日,1月21日	博物館教育課ボランティア室主任研究員　高梨真行
28	八潮市教育委員会	八潮市立資料館への寄贈予定書跡作品についての助言	平成24年1月14日	同上
29	前橋市	前橋市における美術館基本計画に関わる情報システムの整備について助言	平成23年4月21日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
30	貨幣博物館	ウェブサイト構築・運営に関する助言	平成23年6月13日	博物館情報課情報管理室長　村田良二、広報室　奥田緑
31	文化庁	文化庁メディア芸術コンソーシアム／デジタルアーカイブ構築事業　メディアアート分野会議に出席	平成23年9月8日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
32	全国美術館会議	美術情報･資料の活用法－展覧会カタログからWebまで－(全国美術館会議　情報・資料研究部会企画セミナーⅢ）第1講「展覧会カタログ」講師	平成23年12月16日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
33	東京国立近代美術館	広報活動に関する助言	平成23年4月16日	広報室長小林 牧

	機　関	内　容	期　間	担当者
34	春日大社	赤糸威鎧の修理、保存についての助言	4月1日～3月31日	上席研究員　池田　宏
35	東京都北区教育委員会	刀剣の取扱い、保存方法の指導助言	4月21日	同上
36	國學院高等学校　日本文化資料館	収蔵品の展示、保管方法の指導助言	6月29日	同上
37	ポーランド　ポーランド軍事博物館(ワルシャワ)	日本の武器武具などの展示、保存方法の指導助言	11月1日～5日	同上
38	神奈川県教育委員会	鎌倉市下馬周辺遺跡出土の鎧の保存方法の助言	12月7日	同上
39	神奈川県教育委員会	神奈川県文化財保護審議委員会委員（考古分野担当）	平成23年11月28日、12月15日、24年1月16日	特任研究員　望月幹夫
40	厚木市史編集委員会	厚木市史編さん事業に関する調査･助言	平成23年5月17日、6月19日、10月2日、24年1月28日	同上
41	厚木市教育委員会	あつぎの歴史-古墳時代編-（あつぎ協働大学における講演）	平成23年8月20日	同上
42	逗子市教育委員会・葉山町教育委員会	長柄桜山1号墳の発掘調査・整備に関する助言	平成23年8月26日	同上
43	秦野市教育委員会	二子塚古墳の発掘調査に関する助言	平成23年11月24日	同上
44	文化庁	文化庁文化審議会専門委員会(第４部会)	平成23年6月29日	特任研究員　澤田むつ代
45	木更津市教育委員会	金鈴塚古墳研究(出土品調査と助言、国立歴史民俗博物館於いて)	平成23年11月2日	同上
46	千葉県	千葉県伝統産業指定会議	平成23年11月4日日	同上
47	木更津市教育委員会	金鈴塚古墳研究(繊維関係の出土品調査と助言、木更津市郷土博物館金のすず)	平成24年2月17日	同上
48	文化庁	文化庁文化審議会専門委員会(第１部会)	平成24年3月21日～3月23日	同上
49	土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場	武者塚古墳の調査・研究(出土品調査と保存方法の助言、土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場に於いて)	平成24年3月27日	同上
50	逓信総合博物館（日本郵政　郵政資料館）	同館が主催する郵政歴史文化研究会に参加し､同館の所蔵する歴史資料の調査を援助した。	平成23年12月～平成24年1月	調査研究課長　田良島　哲
51	国立民族学博物館	国際協力機構(JICA)が主催し、同館が運営する研修事業「博物館学集中コース」で外国人学芸員に対して文化財保護の歴史と行政について講義を行った。	平成23年6月24日	同上
52	（公財）大田区文化振興協会	「写楽」特別展関連文化講演会講師	平成23年4月19日	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
53	（財）北区文化振興財団	「写楽」特別展関連文化講演会講師	平成23年4月21日	同上
54	千葉市美術館	「蔦屋重三郎と歌麿・写楽」講演会講師	平成23年5月1日	同上
55	福島県立美術館	記念講演会　「ギッタ―コレクションにみる近世絵画の魅力」講演会講師	平成23年11月12日	同上
56	東京文化財研究所	在外古美術品保存修復協力事業運営委員会	23年6月1日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
57	明治大学博物館	「漆器JAPANWARE」展における展示指導	23年6月17日	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
58	金沢能楽美術館	『金沢能楽美術館　開館5周年記念特別展　東京国立博物館所蔵　金春座伝来能面・能装束』展にかかる能面・能装束の展示、撤収指導	平成23年9月27～30日 10月24～25日、11月20～23日	調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉
59	松坂屋美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年4月21日～平成23年6月16日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
60	碧南市藤井達吉現代美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年7月30日～6月6日	同上
61	横浜ユーラシア文化館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年10月28日～平成23年8月16日	同上
62	財団法人岐阜現代美術財団	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年12月6日～平成23年4月13日	同上
63	田原市博物館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成23年3月10日～4月25日	同上
64	広島県立美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成23年4月27日～6月6日	同上
65	龍谷ミュージアム	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成23年4月27日～12月19日	同上
66	金沢能楽美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成23年4月27日～平成23年9月28日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
67	国文学研究資料館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成22年12月15日～平成24年2月3日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩

	機　関	内　容	期　間	担当者
68	浜松市博物館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成 23 年 4 月 8 日～7 月 4 日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
69	松江歴史館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成 23 年 9 月 29 日～平成 24 年 3 月 9 日	同上
70	宮崎県立美術館	作品の保存・修理に関する指導	平成 23 年 10 月 27 日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩 保存修復課保存修復室 AF鈴木晴彦
71	宮崎県立美術館	作品の保存・修理に関する指導	平成23年10月27日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩 保存修復課保存修復室 AF鈴木晴彦
72	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年4月27日～28日	保存修復課長　神庭信幸
73	仙台市博物館、気仙沼市	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月6日～7日	副館長　島谷弘幸
74	石巻文化センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月9日～13日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
75	石巻文化センター、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫、女川町公民館、マリンパル女川、サンファン館	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月16日～20日	企画課長　井上洋一
76	石巻文化センター、仙台市博物館、東北歴史博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月22日～27日	保存修復課保存修復室長　冨坂賢
77	宮城県庁、東北歴史博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月24日	学芸研究部長　伊藤嘉章
78	宮城県庁、東北歴史博物館、岩手県博	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月24日～5月25日	保存修復課長　神庭信幸
79	仙台市博物館、名取市熊野那智社、石巻文化センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月29日～6月8日	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹
80	名取市熊野那智社、東北歴史博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年5月31日～6月2日	列品管理課平常展調整室　研究員　酒井元樹
81	宮城県教育委員会、東北歴史博物館、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫、仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月5日～6月6日	館長　銭谷眞美
82	宮城県教育委員会、東北歴史博物館、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫、仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月5日～6月6日	本部事務局長　金谷史明
83	仙台市博物館、石巻文化センター、男山酒造、リアスアーク美術館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月6日～6月15日	調査研究課東洋室研究員　塚本麿充
84	石巻文化センター、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月6日～6月10日	列品管理課平常展調整室長　白井克也
85	岩手県立博物館、陸前高田市立博物館、陸前高田埋蔵文化財収蔵庫、陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月6日～6月7日	学芸研究部長　伊藤嘉章
86	仙台市博物館、石巻市牡鹿民俗収蔵庫、牡鹿ホエールランド、仙台市科学館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月25日～7月1日	保存修復課保存修復室長　冨坂賢
87	東北歴史博物館、石巻市門脇小学校、サンファン館、亘理町立郷土資料館、東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月1日～7月6日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
88	旧生出小学校、陸前高田市立博物館、岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年6月30日～7月1日	保存修復課長　神庭信幸
89	東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫、亘理町立郷土資料館	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月6日～7月8日	調査研究課考古室研究員　品川欣也
90	石巻文化センター、亘理町江戸家	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月11日～7月13日	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
91	陸前高田市旧生出小学校、岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月19日～7月21日	保存修復課長　神庭信幸
92	陸前高田市旧生出小学校、岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月19日～7月21日	保存修復課保存修復室　北川美穂
93	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年7月25日～7月31日	保存修復課保存修復室長　冨坂賢
94	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年8月10日～8月11日	保存修復課長　神庭信幸
95	遠野市立博物館、陸前高田市旧生出小学校、大船渡市、釜石市、盛岡市	被災文化財等救出作業支援	平成23年8月24日～8月26日	同上
96	遠野市立博物館、陸前高田市旧生出小学校、大船渡市、釜石市、盛岡市	被災文化財等救出作業支援	平成23年8月24日～8月26日	保存修復課保存修復室AF　米倉乙世

	機　関	内　容	期　間	担当者
97	陸前高田市旧生出小学校、陸前高田市立博物館、海と貝のミュージアム	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月5日～9月7日	保存修復課長　神庭信幸
98	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月7日～9月9日	博物館教育課教育普及室長　伊藤信二
99	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月7日～9月9日	保存修復課保存修復室AF　米倉乙世
100	盛岡市旧衛生研究所	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月15日～9月19日	保存修復課非常勤職員　池上久美
101	盛岡市旧衛生研究所	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月17日～9月19日	保存修復課非常勤職員　三浦知佳
102	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年9月28日～9月30日	保存修復課長　神庭信幸
103	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年10月12日～10月14日	同上
104	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年10月14日	保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀
105	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年10月18日～10月20日	保存修復課長　神庭信幸
106	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月7日～11月10日	同上
107	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月7日～11月10日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
108	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月7日～11月10日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
109	陸前高田市旧生出小学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月7日～11月10日	保存修復課保存修復室AF　沖本明子
110	岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月30日～12月1日	保存修復課保存修復室長　冨坂賢
111	岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月30日～12月1日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
112	岩手県立博物館、奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年11月30日～12月2日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
113	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月1日～12月2日	保存修復課長　神庭信幸
114	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月14日～12月19日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
115	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月15日～12月17日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
116	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月22日～12月27日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
117	奥州市埋蔵文化財調査センター、陸前高田市旧生出小学校、陸前高田市立米崎中学校	被災文化財等救出作業支援	平成23年12月26日～12月27日	保存修復課長　神庭信幸
118	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年1月10日～1月13日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
119	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年1月17日～1月21日	保存修復課非常勤職員　宋亨蘭
120	岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援	平成24年1月19日～1月20日	保存修復課保存修復室　主任研究員　土屋裕子
121	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年1月20日～1月24日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
122	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年2月7日～2月9日	保存修復課長　神庭信幸
123	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年2月8日～2月13日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
124	奥州市埋蔵文化財調査センター	被災文化財等救出作業支援	平成24年2月19日～2月21日	保存修復課保存修復室AF　鈴木晴彦
125	陸前高田市立米崎中学校	被災文化財等救出作業支援	平成24年2月21日～2月23日	保存修復課長　神庭信幸
126	陸前高田市立米崎中学校	被災文化財等救出作業支援	平成24年3月12日～3月13日	保存修復課長　神庭信幸

【京都国立博物館】91件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	福井県立美術館長	染色作品の調査について	4月20日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
2	野崎家塩業歴史館	所蔵資料の調査	4月19日～20日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
3	奈良国立博物館長	文化財の調査について	4月12日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
4	一般社団法人　文化財保存修復学会	文化財保存修復学会　平成23年度第1回理事会	4月22日	学芸部上席研究員　村上　隆
5	岡山大学大学院自然科学研究科	バイオセラミックスに関する研究のため	4月26日～27日	学芸部上席研究員　村上　隆
6	島根大学法文学部	「出雲鰐淵寺の歴史的・総合的研究」全体会　会議	5月21日～22日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅

	機　関	内　容	期　間	担当者
7	東京文化財研究所	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会	6月1日	学芸部長　西上　実
8	野﨑家塩業歴史館	所蔵資料の調査	6月7日～8日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
9	島根県教育委員会教育	第7回石見銀山遺跡調査活用委員会の開催	5月30日～31日	学芸部上席研究員　村上　隆
10	石巻文化センター 亘理町立郷土資料館　他	被災文化財等救出作業支援	5月30日～6月4日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅
11	島根県大田市教育委員会	第10回石見銀山遺跡整備検討委員会	5月31日～6月1日	学芸部上席研究員　村上　隆
12	京都織物卸商業組合	「京都きものサローネ」研修会における講義	6月22日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
13	慶長使節船ミュージアム 東北歴史博物館浮島収蔵庫　他	被災文化財等救出作業支援	7月10日～7月16日	学芸部企画室 研究員　羽田　聡
14	東北大学埋蔵文化財センター 亘理町立郷土資料館　他	被災文化財等救出作業支援	7月17日～7月21日	学芸部長　西上　実
15	亘理町立郷土資料館 東北学院大学博物館　他	被災文化財等救出作業支援	7月18日～7月23日	学芸部考古室長　宮川　禎一
16	島根県大田市教育委員会	第11回石見銀山遺跡整備検討委員会	7月19日～20日	学芸部上席研究員　村上　隆
17	読売新聞東京本社事業局	「空海と密教美術」展作品開梱・撤収点検立ち合い	7月13日,8月1日 ,8月15日	学芸部企画室 研究員　大原　嘉豊
18	公益財団法人　徳川黎明会 徳川美術館	徳川美術館平成２３年度夏期講座	8月24日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
19	豊田市郷土資料館	出土遺物鑑定のため	7月29日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
20	島根県教育庁文化財課	石見銀山遺跡調査に伴う調査指導	8月23日	学芸部上席研究員　村上　隆
21	越前市教育委員会	越前市の文化財指定に向けての調査	7月31日	学芸部企画室 研究員　大原　嘉豊
22	野﨑家塩業歴史館	所蔵資料の調査	8月16日～17日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
23	東京文化財研究所	保存修復科学センター連絡会議	7月28日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅
24	九州国立博物館	九州国立博物館のIPMメンテナンスについての指導・助言について	8月5日～6日	学芸部上席研究員　村上　隆
25	岩手県立博物館	被災文化財等救出作業支援視察	8月29日～31日	館長　佐々木　丞平
26	川西市教育委員会	平成２３年度第１回川西市文化財審議委員会開催	8月31日	学芸部　文化財管理監 中村　康
27	成城大学	金剛寺蔵の聖教調査	8月21日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
28	文化庁文化財部美術学芸課	醍醐寺所蔵の文化財調査	8月29日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶、企画室研究員　羽田　聡
29	名古屋大学大学院文学研究科	東山６１号窯に関する発掘調査指導	9月8日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
30	京都市動物園	「百獣の楽園 in 京都市動物園」講演会	8月6日	学芸部企画室 主任研究員　永島　明子
31	岡山大学大学院自然科学研究科	バイオセラミックスに関する研究のため	8月25日	学芸部上席研究員　村上　隆
32	大阪府教育委員会事務局	有形文化財の現地調査について	9月5日～6日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
33	京都文化博物館	特別展「ギッターコレクション展」についての講演	9月10日	館長　佐々木　丞平
34	九州国立博物館	特別展「よみがえる国宝-守り伝える日本の美-」に係る作品撤収作業立ち合い	8月29日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
35	山口市教育委員会	大内氏関連町並遺跡出土金属生産遺物調査指導	9月20日～22日	学芸部上席研究員　村上　隆
36	文化庁文化財部美術学芸課	第5回文化財（美術工芸品）修理技術者講習会の講師の委託について（依頼）	10月19日	学芸部上席研究員　村上　隆
37	一般社団法人軽金属学会東海支部	東海支部特別講演会への講師派遣のお願い	10月4日	学芸部上席研究員　村上　隆
38	野﨑家塩業歴史館	所蔵資料の調査	9月28日～29日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
39	佐渡市	第１回遺跡・建造物専門会議に係る職員の派遣について	9月27日～28日	学芸部上席研究員　村上　隆
40	京都国立近代美術館	作品修復に関する企画競争審査委員会審査委員	10月7日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
41	山口市教育委員会	大内氏関連町並遺跡出土金属生産遺物調査指導	10月27日～29日	学芸部上席研究員　村上　隆
42	静岡県立美術館	展覧会に係る展示・展示替・撤収作業	10月17日～21日 11月13日～14日 12月5日～7日	学芸部連携協力室長　山下善也、列品管理室　主任研究員山川暁、企画室研究員　羽田聡、アソシエイトフェロー水谷亜希
43	東京芸術大学大学院美術研究科	金属材料科学史非常勤講師の派遣	10月20日	学芸部上席研究員　村上　隆
44	株式会社NHKプロモーション	「法然と親鸞　ゆかりの名宝」に伴う職員の派遣	10月19日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
45	公益財団法人東芝国際交流財団	ベトナム国立歴史博物館収蔵品に関しての調査	11月8日～12日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
46	野﨑家塩業歴史館	所蔵資料の調査	12月13日～14日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
47	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会の開催に伴う職員の派遣について	11月21日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
48	国際仏教学大学院大学	研究会発表及び公開研究会	11月11日～12日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
49	島根県教育委員会	第８回石見銀山遺跡調査活用委員会	11月17日～18日	学芸部上席研究員　村上　隆
50	兵庫陶芸美術館	平成２３年度兵庫陶芸美術館収集予定作品の価格評価	11月18日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
51	文化庁文化財部美術学芸課	文化財（美術工芸品）の調査協力について	11月9日	学芸部上席研究員　村上　隆
52	財団法人大阪市博物館協会 大阪文化財研究所	唐津市山瀬窯跡の出土陶片資料熟覧・記録・検討作業	11月21日～22日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
53	一般社団法人　国宝修理装潢師連盟	文化財保存修理の概要及び保存修理所の取り組み・役割に関する講演	12月5日	学芸部上席研究員　村上　隆
54	株式会社NHKプロモーション	「法然　生涯と美術」に伴う職員の派遣	12月5日	学芸部企画室 研究員　大原　嘉豊
55	学習院大学文学部	田原本融通念仏絵巻の調査及び研究会	12月11日	学芸部企画室 研究員　大原　嘉豊
56	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究「工芸（陶磁）」の開催	12月7日～8日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
57	株式会社NHKプロモーション	特別展「細川家の至宝」九州展に伴う職員の派遣	12月20日～22日	学芸部企画室長　久保　智康

	機　関	内　容	期　間	担当者
58	大阪文化財研究所	理兵衛焼の伝世資料について熟覧・記録・検討作業	24 年 1 月 6 日～8 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
59	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会の現地調査	24 年 1 月 10 日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
60	東京国立博物館	重要文化財の貸与の立会い	24 年 1 月 13 日	学芸部美術室 研究員　呉　孟晋
61	西尾市教育委員会	長圓寺文化財調査	24 年 1 月 30 日～31 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
62	東京文化財研究所	第４回理事会への派遣	24 年 1 月 23 日	学芸部上席研究員　村上　隆
63	元離宮二条城事務所	二条城二之丸御殿障壁画保存修理委員会	24 年 2 月 6 日	学芸部上席研究員　村上隆、連携協力室長　山下善也
64	国際仏教学大学院大学　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	岩屋寺所蔵古写本及び南宋思渓版一切経の調査	24 年 2 月 21 日～22 日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
65	野﨑家塩業歴史館	所蔵資料の調査	24 年 1 月 13 日～14 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
66	北九州市立自然史・歴史博物館	真如堂縁起絵巻の撤収の指導	24 年 2 月 12 日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
67	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（「書跡」特別調査会）	24 年 2 月 7 日～8 日	学芸部企画室 研究員　羽田　聡
68	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（「工芸（漆工）」特別調査会）	24 年 3 月 1 日～2 日	学芸部企画室 主任研究員　永島　明子
69	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（「工芸」特別調査会）	24 年 3 月 4 日～5 日	学芸部企画室長　久保　智康
70	株式会社 NHK プロモーション	特別展「細川家の至宝」九州展撤収に伴う職員の派遣	24 年 3 月 6 日～7 日	学芸部企画室長　久保　智康
71	山口市教育委員会	大内氏関連町並遺跡出土金属生産遺物調査指導	24 年 3 月 1 日～3 日	学芸部上席研究員　村上　隆
72	伊丹市教育委員会	文化財の保存方法に対する指導者の派遣（發音寺）	24 年 2 月 24 日	学芸部文化財管理監 中村　康
73	愛知県	愛知県史編さん委員会文化財部会工芸班会議	24 年 3 月 13 日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
74	川西市教育委員会	第２回川西市文化財審議委員会	24 年 3 月 23 日	学芸部文化財管理監 中村　康
75	豊田市郷土資料館	出土遺物鑑定のため	24 年 3 月 6 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
76	長野県埋蔵文化財センター	第８回柳沢遺跡調査指導委員会	24 年 3 月 12 日～13 日	学芸部上席研究員　村上　隆
77	八幡市教育委員会	資料調査・指導（八幡市立松花堂美術館）	24 年 3 月 24 日	学芸部列品管理室 主任研究員　山川　暁
78	文化庁	カルコン美術対話委員会	24 年 3 月 27 日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
79	文化庁	アメリカ：カルコン美術対話委員会への参加	5 月 17 日～21 日	学芸部列品管理室長 鬼原　俊枝
80	大阪大学科学研究費補助金	大韓民国：金銅仏を中心とした彫刻作品の調査	6 月 19 日～23 日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅
81	国際仏教学大学院大学　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	ベルギー・イギリス：日本の古写経および敦煌写経の調査	7 月 9 日～18 日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
82	京都大学	台湾：国立台湾博物館所蔵銅鏡の調査（学生の調査指導）	8 月 9 日～12 日	学芸部企画室長　久保　智康
83	フリーデン・シュタイン城美術館	ドイツ：明治天皇から英国王子への贈答品などの調査	9 月 8 日～16 日	学芸部企画室 主任研究員　永島　明子
84	韓国技術教育大学校 文理閣研究所	大韓民国：国際ワークショップ「新羅写経と奈良写経」参加	9 月 1 日～4 日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
85	ハーグ市立美術館 アムステルダム国立美術館　他	オランダ・スイス：漆器調査および漆器に関する情報収集	10 月 18 日～30 日	学芸部企画室 主任研究員　永島　明子
86	浙江省博物館	中国：浙江省博物館「呉越勝覧」展学術討論会参加	9 月 27 日～10 月 1 日	学芸部企画室長　久保　智康
87	ベトナム歴史博物館	ベトナム：ベトナム歴史博物館所蔵品調査	11 月 8 日～12 日	学芸部工芸室長　尾野　善裕
88	国立中央博物館	大韓民国：愛知県美術館所蔵「鉄製交椅」保存処理に伴う類品調査	11 月 20 日～22 日	学芸部企画室長　久保　智康
89	ヤンゴン国立博物館 パガン考古博物館	タイ・ミャンマー：彫刻作品・遺跡等の調査	12 月 19 日～31 日	学芸部連携協力室 主任研究員　淺湫　毅
90	日本女子大学 科学研究費分担金	ドイツ：蝋管の調査研究（ドイツ博物館）	24 年 2 月 18 日～22 日	学芸部上席研究員　村上　隆
91	北海道大学 科学研究費分担金	大韓民国：韓国口訣学会メンバーと意見交換会および古印刷物に関する調査研究	24 年 3 月 23 日～25 日	学芸部上席研究員　赤尾栄慶

【奈良国立博物館】98件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	読売新聞大阪本社	読売新聞あおによし賞選考委員会出席	4 月 3 日	館長　湯山　賢一
2	サントリー美術館	出陳借用立会	5 月 26 日	学芸部長補佐　内藤　栄
3	東日本大震災文化財等支援奈良プロジェクト実行委員会	文化財レスキュー事業	5 月 27 日	副館長　畑中　裕良
4	読売新聞大阪本社	読売新聞あおによし賞表彰式出席	5 月 29 日	館長　湯山　賢一
5	文化庁	在外日本古美術修復検討委員会出席	6 月 1 日	学芸部長　西山　厚
6	神奈川県立金沢文庫	特別展「解脱上人貞慶」に関する打合せ	6 月 2 日	学芸部長　西山　厚 学芸部長補佐　岩田　茂樹 保存修理指導室長　谷口　耕生 研究員　斎木　涼子
7	東大寺	東大寺境内整備計画委員会出席	6 月 3 日	館長　湯山　賢一
8	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事業運営審議会	審議会出席	6 月 9 日	副館長　畑中　裕良
9	サントリー美術館	特別展「不滅のシンボル　鳳凰と獅子」展示指導	6 月 7 日	学芸部長補佐　内藤　栄
10	奈良市	奈良市市民連携企画実行委員会出席	6 月 13 日	副館長　畑中　裕良
11	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展打合せ	6 月 14 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
12	仙台市博物館等	文化財レスキュー事業	6 月 20 日～6 月 25 日	研究員　岩戸　晶子
13	甲賀市教育委員会	文化財調査	6 月 23 日	学芸部長補佐　岩田　茂樹

	機　関	内　容	期　間	担当者
14	サントリー美術館	「工芸意匠に見る鳳凰と獅子―正倉院宝物を中心に―」講演	6月25日	学芸部長補佐　内藤　栄
15	仙台市博物館等	文化財レスキュー事業	6月25日～7月1日	学芸部長補佐　内藤　栄
16	仙台市博物館等	文化財レスキュー事業	6月27日～7月6日	研究員　清水　健
17	冷泉家時雨亭文庫	評議員選定委員会出席	6月30日	館長　湯山　賢一
18	大津市歴史博物館	木造阿弥陀三尊像のエックス線写真撮影	6月29日	学芸部長補佐　岩田　茂樹 稲本　泰生
19	浜松市博物館	考古資料相互活用促進事業に伴う文化財輸送	7月5日～7月6日	研究員　岩戸　晶子
20	仙台市博物館等	文化財レスキュー事業	7月11日～7月16日	研究員　岩戸　晶子
21	東北歴史博物館	文化財レスキュー事業	7月6日～7月14日	技術職員　佐々木　香輔
22	岐阜市歴史博物館	「国宝　薬師寺展」展示指導	7月26日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
23	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展に係る文化財調査	8月2日～3日	学芸部長補佐　岩田　茂樹 企画室長　稲本　泰生 研究員　山口　隆介 学芸部長補佐　内藤　栄 研究員　清水　健 アソシエイトフェロー　永井洋之 情報サービス室長　野尻　忠 研究員　斎木　涼子 保存修理指導室長　谷口　耕生 研究員　北澤　菜月 アソシエイトフェロー　原　瑛莉子
24	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展に係る文化財調査	8月4日	学芸部長補佐　岩田　茂樹 企画室長　稲本　泰生 研究員　山口　隆介
25	文化庁	醍醐寺所蔵文化財の調査	8月25日～8月26日	館長　湯山　賢一
26	東大寺	撮影協力	9月2日	技術職員　佐々木　香輔
27	東大寺	撮影協力	9月12日	資料室長　宮崎　幹子 技術職員　佐々木　香輔
28	奈良県立美術館 入江泰吉記念奈良市写真美術館	講演（奈良トライアングルミュージアム）	9月17日	学芸部長　西山　厚
29	韓国国立中央博物館	特別展「肖像画の秘密」輸送同行・展示立会	9月22日～9月24日	保存修理指導室長　谷口　耕生
30	法隆寺、日本経済新聞社、土浦市立博物館	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展出陳交渉	9月30日	教育室長　吉澤　悟
31	岐阜市歴史博物館	「国宝　薬師寺展」撤収立会	10月5日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
32	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展打合せ	10月6日	企画室長　稲本　泰生
33	独立行政法人国立文化財機構	法人本部役員会出席	10月14日	館長　湯山　賢一 副館長　畑中　裕良
34	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展打合せ	11月2日	企画室長　稲本　泰生
35	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展に係る文化財調査	11月2日	教育室長　吉澤　悟
36	神奈川県立金沢文庫	特別展「解脱上人貞慶」に関する打合せ	11月5日	保存修理指導室長　谷口　耕生
37	韓国国立中央博物館	特別展「肖像画の秘密」輸送同行・撤収立会	11月6日～11月8日	研究員　北澤　菜月
38	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展に係る文化財調査	11月10日	企画室長　稲本　泰生
39	韓国国立中央博物館	特別展「肖像画の秘密」輸送同行・返却立会	11月14日	研究員　北澤　菜月
40	奈良県立美術館 入江泰吉記念奈良市写真美術館	講演（奈良トライアングルミュージアム）	11月20日	学芸部長　西山　厚
41	国立情報学研究所	文献データ取扱に関する指導・助言	12月1日	資料室長宮崎　幹子
42	ホテル協議会	定例会出席	12月6日	副館長　畑中　裕良
43	読売新聞大阪本社	平成23年度作文コンクール「わたしたちの正倉院」審査会	12月6日	館長　湯山　賢一
44	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展出陳作品撮影立会	12月12日	企画室長　稲本　泰生 研究員　山口　隆介 研究員　北澤　菜月 技術職員　佐々木　香輔
45	土浦市立博物館	特別展「暮らしをささえる女性たち－紡ぐ・織る・仕立てる・繕う」出陳借用立会	12月15日	教育室長　吉澤　悟
46	文化庁	文化財買取協議会出席	12月22日	教育室長　吉澤　悟
47	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展出陳作品点検等	平成24年1月6日	研究員　岩戸　晶子
48	東京国立博物館	文化財調査	平成24年1月25日～1月27日	保存修理指導室長　谷口　耕生
49	神戸大学	博士論文審査	平成24年1月26日	学芸部長補佐　内藤　栄 企画室長　稲本　泰生
50	読売新聞大阪本社	平成23年度作文コンクール「わたしたちの正倉院」表彰式	平成24年1月28日	館長　湯山　賢一 学芸部長　西山　厚
51	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展打合せ	平成24年2月3日	企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月
52	東大寺金鐘会館	東大寺境内整備計画委員会出席	平成24年2月7日	館長　湯山　賢一 学芸部長　西山　厚
53	甲賀市教育委員会	文化財調査	平成24年2月16日	学芸部長補佐　岩田　茂樹 研究員　山口　隆介
54	神戸大学	神戸大学美術史研究会総会出席	平成24年2月17日	学芸部長補佐　内藤　栄
55	中宮寺	「聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺」展に伴う館蔵品の貸出、展示作業	平成24年2月20日	学芸部長補佐　内藤　栄

	機　関	内　容	期　間	担当者
56	法隆寺	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品梱包	平成 24 年 2 月 20 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　清水　健
57	法隆寺	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品集荷	平成 24 年 2 月 21 日	研究員　清水　健 研究員　北澤　菜月 アソシエイトフェロー　永井　洋之 アソシエイトフェロー　原　瑛莉子
58	神奈川県立金沢文庫	特別展「解脱上人貞慶」に関する打合せ	平成 24 年 2 月 23 日～2 月 24 日	学芸部長　西山　厚
59	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展梱包作業	平成 24 年 2 月 23 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　清水　健 研究員　北澤　菜月 アソシエイトフェロー　永井　洋之
60	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品集荷	平成 24 年 2 月 24 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　清水　健 研究員　北澤　菜月
61	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品集荷	平成 24 年 2 月 27 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月
62	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品集荷	平成 24 年 2 月 29 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月
63	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展展示・開会式出席	平成 24 年 3 月 1 日～3 月 3 日	館長　湯山　賢一 学芸部長補佐　岩田　茂樹 企画室長　稲本　泰生 研究員　清水 健 研究員　北澤　菜月
64	壱岐市立一支国博物館	考古資料相互活用促進事業に伴う文化財調査	平成 24 年 3 月 15 日～3 月 17 日	研究員　岩戸　晶子
65	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展撤収作業	平成 24 年 3 月 20 日～3 月 21 日	学芸部長補佐　内藤　栄 企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月
66	浜松市博物館	考古資料相互活用促進事業に伴う文化財輸送	平成 24 年 3 月 22 日～23 日	研究員　岩戸　晶子
67	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展出陳品返却、集荷	平成 24 年 3 月 27 日	企画室長　稲本　泰生 研究員　北澤　菜月 アソシエイトフェロー　永井　洋之
68	法隆寺、日本経済新聞社	「聖徳太子 1390 年御遠忌記念 法隆寺」展展示・開会式出席	平成 24 年 3 月 28 日～3 月 29 日	学芸部長補佐　内藤 栄 企画室長　稲本 泰生 研究員　北澤 菜月
69	(社)国宝修理装潢師連盟	顧問	5 月 21 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
70	(財)ユネスコ・アジア文化センター	文化遺産保護協力事業運営審議会委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
71	(財)元興寺文化財研究所	評議員	6 月 15 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
72	社団法人 日本工芸会	運営委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
73	奈良ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会	委員	9 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
74	京都国立博物館	評議員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
75	(財)仏教美術協会	評議員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
76	(財)松伯美術館	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
77	(財)大和文華館	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
78	(財)日本博物館協会	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
79	(財)仏教美術研究上野記念財団	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
80	奈良女子大学	経営協議会委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
81	(財)奈良県万葉文化振興財団	理事	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
82	和歌山県立博物館	協議会委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
83	文化庁	工芸技術記録映画制作委員会委員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
84	中宮寺奉賛会	参与	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
85	宮内庁	懇談会会員	4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日	館長　湯山　賢一
86	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4 月 1 日～平成 24 年 2 月 27 日	館長　湯山　賢一

	機　関	内　容	期　間	担当者
87	奈良市民連携企画実行委員会	委員	4 月 14 日～12 月 31 日	副館長　畑中　裕良
88	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家	企画委員	7月8日～平成24年1月31日	総務課長　貴志　徹
89	奈良市教育委員会	奈良市世界遺産学習推進委員会委員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長　西山　厚
90	（財）大和文華館	評議員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長　西山　厚
91	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会委員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長　西山　厚
92	奈良文化財研究所飛鳥資料館	飛鳥資料館運営に関する懇談会会員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長　西山　厚
93	奈良県教育委員会	奈良県文化財保護審議会委員	7月1日～平成24年3月31日	学芸部長補佐　内藤　栄
94	愛知県美術館	愛知県美術館所蔵 木村コレクション M1027「鉄製交椅」保存処置のための専門委員会委員	10 月 28 日～平成 24 年 3 月 31 日	学芸部長補佐　内藤　栄
95	奈良県伝統的工芸品指定委員会	委員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長補佐　内藤　栄
96	香芝市教育委員会	香芝市文化財保護審議会委員	8月1日～平成24年3月31日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
97	圓教寺	性空上人調査委員会委員	4月1日～平成24年3月31日	学芸部長補佐　岩田　茂樹
98	龍谷大学龍谷ミュージアム	客員研究員	5月6日～平成24年3月31日	企画室長　稲本　泰生

【九州国立博物館】97件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	日本学術会議	連携会員（史学委員会）	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
2	文化庁	埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
3	福岡県立美術館	福岡県立美術館協議会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
4	九州歴史資料館	九州歴史資料館協議会副会長	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
5	大分県立歴史博物館	大分県立歴史博物館協議会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
6	長崎県埋蔵文化財センター	原の辻遺跡保存活用整備委員会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
7	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館協議会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
8	熊本市熊本博物館	熊本市熊本博物館協議会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
9	福岡県太宰府市	太宰府市公文書館構想調査研究委員会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
10	佐賀県唐津市	唐津市文化財保護委員会委員	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
11	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会理事	4月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
12	長崎歴史文化博物館	IPM とボランティア活動についての助言	4月2日	博物館科学課長　本田光子
13	公益財団法人文化財虫害研究所	公益財団法人文化財虫害研究所平成２３年度第１回評議委員会	5 月 17 日	館長　三輪嘉六
14	イコム日本委員会	平成２３年度イコム日本委員会役員会・総会	5 月 26 日	館長　三輪嘉六
15	九州大学大学院芸術工学研究院	X 線 CT による楽器の調査の助言	5 月 26 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
16	一般社団法人文化財保存修復学会	「一般社団法人文化財保存修復学会第３３回大会」における講演	6 月 4 日～6 月 5 日	副館長　森田稔
17	一般社団法人文化財保存修復学会	「一般社団法人文化財保存修復学会第３３回大会」における講演	6 月 4 日～6 月 5 日	博物館科学課長　本田光子
18	日本文化財科学会	X 線 CT スキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析に関する講演	6 月 10 日～6 月 12 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
19	仙台市博物館、宮城県内被災地	被災文化財等救出作業支援	6月12日～6月18日	文化財課資料管理室長　小林公治
20	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	6 月 12 日～6 月 22 日	展示課研究員　坂元雄紀
21	文部科学省	平成２３年度全国博物館長会議（第１８回）	6 月 15 日	館長　三輪嘉六
22	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	6 月 20 日～6 月 29 日	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
23	奈良女子大学	奈良女子大学増井研究室セミナー講座	6月23日	館長　三輪嘉六
24	京都大学生存圏研究所	アメリカンザイロシロアリの被害材調査の助言	6月29日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
25	仙台市博物館、石巻文化センター、東松島市野蒜地区収蔵庫、東北歴史博物館、石巻文化センター	被災文化財等救出作業支援	7 月 3 日～7 月 9 日	展示課主任研究員　進村真之
26	九重町教育委員会	X 線 CT による大分県指定無形民俗文化財「玖珠神楽」神楽面の調査の助言	7 月 4 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
27	筑紫野市歴史博物館	「九州国立博物館特別展展示解説講座」講師	7月8日	博物館科学課長　本田光子
28	総合的防除対策検討委員会	平成２３年度第１回総合的防除対策検討委員会	7 月 11 日	博物館科学課長　本田光子 博物館科学課アソシエイトフェロー　秋山純子
29	仙台市博物館、宮城県・岩手県内被災地	被災文化財等救出作業支援	7 月 11 日～7 月 16 日	文化財課資料管理室長　小林公治
30	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	7 月 11 日～7 月 20 日	企画課特別展室主任研究員　畑靖紀
31	宮崎県都城市教育委員会	市所蔵文化財の保存修理について援助・助言	7月12日、13日	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫
32	「市民と共にミュージアム IPM」実行委員会	「ミュージアム IPM 支援者研修会」基礎編講師	7月16日、7月28日、8月26日	博物館科学課長　本田光子

	機　関	内　容	期　間	担当者
33	瑞浪市陶磁資料館	「加藤孝造展」講演及び対談	7月17日	館長　三輪嘉六
34	仙台市博物館、旧牡鹿町公民館、東北福祉大学、悠理館、サンファン館、旧牡鹿町民俗収蔵庫	被災文化財等救出作業支援	7 月 17 日～7 月 23 日	展示課主任研究員　進村真之
35	仙台市博物館	被災文化財等救出作業支援	7 月 17 日～7 月 23 日	交流課主任研究員　池内一誠
36	中国首都博物館	講演	7 月 19 日～7 月 22 日	館長　三輪嘉六
37	首都博物館（中国）	講演	7月20日	館長　三輪嘉六
38	長崎県歴史文化博物館	黄檗展調査報告講演	7 月 30 日	文化財課アソシエイトフェロー　末兼俊彦
39	大阪府立近つ飛鳥博物館	X 線 CT による一須賀古墳群出土耳環の調査の助言	8 月 1 日～8 月 2 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
40	京都府京田辺市教育委員会	X 線 CT による京田辺市指定文化財　木造大日如来坐像（大徳寺蔵）の調査の助言	8 月 5 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
41	内蒙古博物院	東アジア文化遺産保存学会第２大会において講演	8 月 14 日～8 月 18 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
42	奈良国立博物館	X 線 CT による国宝　天寿国繍帳残闕（中宮寺所蔵）の調査の助言	8 月 17 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
43	筑紫地区社会教育振興協議会	「ライブラリーIPM に向けて」研修会講師	8月25日	博物館科学課長　本田光子
44	中央大学　大学史編纂課（歴史館（仮称）開設準備担当）	体験型展示・展示理解用体験ツール制作についての助言	8 月 30 日	交流課主任研究員　池内一誠
45	公益財団法人文化財虫害研究所	IPM コーデイネータ委員会委員長	9月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
46	玉名市文化財保護審議会	「博物館の施設と機能・文化財の保存修復」見学研修講師	9月29日	博物館科学課長　本田光子
47	福岡県田川市	山本作兵衛氏の炭鉱記録画並びに記録文書の保存・活用等検討委員会保存調査検討部会長	10月1日～3月31日	博物館科学課長　本田光子
48	佐賀県教育委員会	佐賀城築城400年記念の講演会	10月9日	館長　三輪嘉六
49	福岡市教育委員会	X 線 CT による元岡古墳群 G６号墳出土庚寅銘大刀の調査の助言	10 月 14 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
50	九州歴史資料館	X 線 CT による矢加部町屋敷遺跡出土遺物の調査の助言	10 月 26 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
51	浜松市楽器博物館	X 線 CT による古管尺八の調査の助言	11 月 1 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
52	松浦市教育委員会	X 線 CT による鷹島海底遺跡出土遺物の調査の助言	11 月 11 日、11 月 12 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
53	「市民と共にミュージアム IPM」実行委員会	「ミュージアム IPM 支援者研修会」技術編講師	11月14日	博物館科学課長　本田光子
54	愛知県美術館	X 線 CT による鏡掛調査の助言	11 月 15 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
55	松浦市教育委員会	X 線 CT による鷹島海底遺跡出土遺物の調査の助言	11 月 15 日、11 月 16 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
56	国宝修理装潢師連盟	「平成２３年度第１７回国宝修理装潢師連盟定期研修会」にて基調講演	11 月 18 日	博物館科学課長　本田光子
57	国宝修理装潢師連盟	平成２３年度第１７回国宝修理装潢師連盟定期研修会での指導・助言	11 月 18 日～11 月 19 日	副館長　森田稔
58	国立西洋美術館	体験型展示・展示理解用体験ツール制作についての助言	11 月 25 日	交流課　主任研究員　池内一誠
59	久留米市市民文化部文化財保護課	水分遺跡第５次調査 SI4 出土広片口鉢および遺跡出土赤色顔料の調査の助言	12 月 2 日	博物館科学課保存修復室　志賀智史
60	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会　公開シンポジウムにて基調講演	12月3日	館長　三輪嘉六
61	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会　公開シンポジウムにてパネルディスカッション座長	12月3日	副館長　森田稔
62	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会　公開シンポジウムにて事例報告・パネラー	12月3日	博物館科学課長　本田光子
63	鹿児島県埋蔵文化財センター	X 線 CT による大刀の構造調査の助言	12 月 6 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
64	静岡県立美術館	特別展「草原の王朝 契丹」に係る展示指導・助言	12月12日～12月16日	企画課特別展室研究員　市元塁
65	喜界町教育委員会	X 線 CT による土器の調査の助言	12 月 12 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
66	岡山大学	岡山大学考古資料 CT 調査結果検討会のため	12 月 24 日	文化財課主任研究員　鳥越俊行
67	大分県竹田市	三次元計測による重要文化財　サンチャゴの鐘の調査の助言	12 月 26 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
68	ＮＰＯ法人文化財保存支援機構	ＮＰＯ法人文化財保存支援機構主催シンポジウムにて講演	24 年 1 月 8 日	館長　三輪嘉六
69	沖縄県立博物館・美術館	展示作業への指導	24 年 1 月 18 日	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫
70	沖縄県立博物館・美術館	沖縄県立博物館・美術館企画展「琉球と袋中上人展」に係る展示指導	24 年 1 月 18 日～1 月 19 日	文化財課アソシエイトフェロー末兼俊彦
71	火薬学会西部支部	海底から蘇る「てつはう」講演	24 年 1 月 30 日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
72	長崎県	長崎県ミュージアム連携促進事業シンポジウムでの講演及びパネリスト	24 年 1 月 31 日	館長　三輪嘉六
73	八女市教育委員会	岩戸山歴史文化交流館（仮称）建設に係る検討会	24 年 1 月 31 日	企画課文化交流展室長　河野一隆
74	公益財団法人文化財虫害研究所	公益財団法人文化財虫害研究所平成２３年度第２回評議委員会	24 年 2 月 2 日～2 月 3 日	館長　三輪嘉六
75	公益財団法人文化財虫害研究所	平成２３年度第２回文化財 IPM コーディネータ委員会	24 年 2 月 7 日	博物館科学課長　本田光子
76	文化庁	公開承認施設会議における講演講師	24 年 2 月 10 日	副館長　森田稔
77	名古屋市	名古屋城本丸御殿展示・観覧等検討会	24 年 2 月 17 日	副館長　森田稔

	機　関	内　容	期　間	担当者
78	沖縄県立博物館・美術館	「琉球と袋中上人展」に係る撤収指導	24年2月19日～2月20日	文化財課アソシエイトフェロー末兼俊彦
79	総合研究大学院大学	博物館どうしの連携・大学との連携にかかる助言	24年2月21日	博物館科学課長　本田光子、交流課主任研究員　池内一誠、同主任主事　澤野真由美
80	福島市子どもの夢をはぐくむ施設　こむこむ	体験型展示・展示理解用体験ツール制作についての助言	24年2月22日	交流課主任研究員　池内一誠
81	文化財保存修復学会	保存修復学会プログラム作成委員会	24年2月24日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
82	佐賀県唐津市教育委員会	佐賀県唐津市鵜殿石仏群保存対策調査委員会	24年2月27日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
83	八女市教育委員会	岩戸山歴史文化交流館（仮称）建設に係る検討会	24年2月28日	企画課文化交流展室長　河野一隆
84	第１回　日田広域文化観光･フォーラム実行委員会	第１回　日田広域文化観光・フォーラムにて講演	24年2月26日	館長　三輪嘉六
85	独立行政法人日本芸術文化振興会	平成２４年度芸術文化振興基金運営委員会第１回文化財部会	24年3月2日	館長　三輪嘉六
86	文化学園大学文化ファッション研究機構	文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」委託費による「服飾文化共同研究」－東アジア古代の服飾の図像学と考古学に係る研究会「服飾文化研究会」	24年3月3日～3月4日	企画課特別展室研究員　市元塁
87	高良大社崇敬会	高良大社崇敬会総会にて講演	24年3月5日	館長　三輪嘉六
88	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会	24年3月7日	学芸部長　谷豊信
89	国営飛鳥歴史公園事務所	国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習に関する報告会	24年3月7日	館長　三輪嘉六
90	北海道開拓記念館	第３回北海道博物館設置プラン検討委員会	24年3月13日～3月14日	館長　三輪嘉六
91	独立行政法人日本芸術文化振興会	第２７回芸術文化振興基金運営委員会	24年3月15日	館長　三輪嘉六
92	文化庁	「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」	24年3月20日	博物館科学課長　本田光子
93	熊本博物館	平成２３年度第３回熊本博物館協議会	24年3月27日	博物館科学課長　本田光子
94	文化庁	「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会（第１回）	24年3月28日～3月29日	副館長　森田稔
95	佐賀県唐津市教育委員会	佐賀県唐津市鵜殿石仏群保存対策調査委員会	24年3月29日	博物館科学課環境保全室長　今津節生
96	長崎県立対馬歴史民俗資料館	館所蔵歴史資料の調査と保存についての援助・助言	通年	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫
97	大分県臼杵市教育委員会	市所蔵国絵図の修理ついての援助・助言	通年	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫

4 文化財に関する調査及び研究の推進

4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

4-(1)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(1)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

4-(2)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(2)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

4-(3)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

4-(4)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(4)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5) ― ה ﾄ ה ה ה ﾆ ⅛⅛ ╢ ה

4-(5)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(5)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑦

4-(5)-⑥ 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑧

5 文化財保護に関する国際協力の推進

5-(1) ᐸ ᑎ ᒪ ᖵ ᐧᐧ Δ ╢ √ ᒪ ᒥ ᐃ ー ᐸ

5-(1)-① 調査研究テーマ一覧
（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧
【東京文化財研究所】
23年度は実績なし。

5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧
（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(1)-④ 論文等発表実績一覧
（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

5-(2)-① 調査研究テーマ一覧
（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況
【東京文化財研究所】　1件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	中国文化財専門家研修	24年2月27日～3月20日	19日	敦煌研究院保護研究所研究員	3人

【奈良文化財研究所】　2件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2011（集団研修）	8月30日～9月29日	31日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの。	16人
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2011（個人研修・インドネシア）	7月5日～8月4日	31日	インドネシア文化観光省歴史考古総局職員	3人

5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

5-(4)-① 研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-①

5-(4)-② 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(4)-③ 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(4)-④ シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

5-(4)-⑤ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(4)-⑥ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

5-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実

6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

	東京文化財研究所		東京文化財研究所	
	23年度受入件数	総件数	23年度受入件数	総件数
図　　書	4,699冊	237,931冊	9,473冊	320,345冊

6-(2) 研究所の研究成果の発信

6-(2)-① 公開講演会、現地説明会

【東京文化財研究所】

公開講演会　1件（2日）

○公開講演会「平成23年度オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」　日本美術史における様式の複線性－様式の選択と編集―」
- ・開 催 日：11月11日
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：236人（11月11日、12日の2日間延べ数）
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
  「平安時代前期から後期へ－六波羅蜜寺十一面観音像の造像―」
  「鎌倉時代から室町時代へ－中世やまと絵様式の源流と再生―」

○公開講演会「平成23年度オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」　古美術のコンセプト」
- ・開 催 日：11月12日
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：236人（11月11日、12日の2日間延べ数）
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
  「室町漢画の基盤－周文と雪舟の場合―」
  「平安～鎌倉時代の印仏－スタンプのほとけ－」

【奈良文化財研究所】

公開講演会　6件

○公開講演会「飛鳥資料館春期特別展「星々と日月の考古学」記念講演会」
- ・開 催 日：5月14日
- ・開催場所：飛鳥資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
- ・参加人数：160人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「星々と日月の考古学」

○公開講演会「第108回公開講演会」
- ・開 催 日：6月18日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：250人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「石槨構築技術からみた高松塚古墳」
  「古代土木技術の系譜を探る」

○公開講演会「第109回公開講演会」
- ・開 催 日：10月15日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：141人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「東アジアにおける失蠟法の展開－鋳造技術からみた中国・朝鮮・日本－」
  「春日座大工の大工道具」

○公開講演会「飛鳥資料館秋期特別展「飛鳥遺珍－のこされた至宝たち－」記念講演会」
- ・開 催 日：11月6日
- ・開催場所：明日香村立中央公民館
- ・主　　催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
- ・参加人数：102人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「飛鳥発掘前夜－その成果に学ぶ－」
  「飛鳥考古学の軌跡－調査研究と保護の歩み－」

○公開講演会「特別講演会(東京会場)　文化遺産を救出する－奈良文化財研究所の挑戦－」
- ・開 催 日：12月3日
- ・開催場所：学術綜合センター（一橋記念講堂）
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：250人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「大津波と三陸沿岸の埋蔵文化財－東日本大震災被災文化財の救出－」
  「大津波で被災した古文書を救え！－保存修復科学の貢献－」
  「アンコール西トップ遺跡の修復－カンボジアでの文化遺産活用支援－」
  「ハノイ・タンロン皇城遺跡の宮殿遺構－日越国際協力で調査研究保護をめざす－」
  「バーミヤーン仏教遺跡の保護－厳しい状況下での国際支援事業の展開－」
  「高松塚古墳・キトラ古墳壁画を守る－古墳壁画の保存修理－」

○公開講演会「新春特別講演会」
- ・開 催 日：24年1月14日
- ・開催場所：飛鳥資料館講堂

・共　　催：両槻会・奈良文化財研究所飛鳥資料館
・参加人数：36人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「仏教伝来の頃の飛鳥」

現地説明会　6件

○現地説明会「平城第481次（平城宮跡東院地区）発掘調査」
・開 催 日：6月19日
・開催場所：奈良市佐紀町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：650人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「平城第483次（興福寺北円堂）発掘調査」
・開 催 日：9月17日
・開催場所：奈良市登大路町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：800人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「飛鳥藤原第169次(藤原宮朝堂院朝庭)」
・開 催 日：11月5日
・開催場所：橿原市高殿町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：620人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「平城486次（平城京左京三条一坊一坪）発掘調査」
・開 催 日：11月19日
・開催場所：奈良市二条大路南
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：200人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「飛鳥藤原第171次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」
・開 催 日：24年3月4日
・開催場所：高市郡明日香村
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,005人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「平城第488次（平城京左京三条一坊一坪）発掘調査」
・開 催 日：24年3月10日
・開催場所：奈良市二条大路南
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：850人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

6-(2)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

6-(2)-③ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

6-(2)-④ ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

6-(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

6-(3)-①　館者数推移（㎡館料別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

6-(3)-②　館者数推移（展覧会別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

6-(3)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

6-(3)-④ 平常展・特別展・海外展
（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力

6-(4)-① ボランティア受入れ実績
（後述の資料に記載）◎共通資料b

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

7-① 国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
652件	319件	333件

【東京文化財研究所】319件

	プロジェクト名称	件数
1	無形文化遺産に関する助言	32件
2	文化財の修復及び整備に関する調査・助言(33件)　(※Ⅰ4(3)①文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究に係る指導・助言 46件、Ⅰ4(3)②文化財の保存環境の研究に係る指導・助言 123件、Ⅰ4(3)③ア文化財の材質及び劣化調査法に関する研究に係る指導・助言 26件)	228件
3	文化財レスキュー事業（被災文化財等救出作業支援）※文化庁受託経費からの件数	59件

*参考：他施設における文化財レスキュー事業（被災文化財等救出作業支援）件数　※文化庁受託経費以外も含む

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
55件	5件	6件	8件	55件

【奈良文化財研究所】333件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	315件
2	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	5件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	13件

7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
17件	4件	13件

【東京文化財研究所】　4件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月11日～7月22日	9日	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	27人	100%
2	保存担当学芸員フォローアップ研修	6月27日	1日	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修修了生	研修修了生に対して最新の保存科学の知識を講義する	87人	99%
3	国際研修「紙の保存と修復」	8月29日～9月16日	15日	海外の博物館・図書館・文書館などの学芸員、修復技術者、教員など	日本の紙文化財の保存と修復に関する講義と実習、研修旅行	10人	100%
4	資料保存地域研修	11月16日～11月17日	2日	博物館・美術館等の文化施設に勤務する者	文化財の保存環境に関する基礎的な知識について、それぞれの地域に出向いて講義を行う	67人	100%

【奈良文化財研究所】　13件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	建築遺構調査課程	6月13日～17日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	建築遺構調査	9人	100%
2	建造物保存活用基礎課程	6月20日～24日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	建造物保存活用基礎	20人	100%
3	石器・石製品調査課程	9月12日～16日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	石器・石製品調査	14人	100%
4	自然科学的年代測定法課程	9月29日～30日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	自然科学的年代測定法	3人	100%
5	保存科学Ⅰ(金属製遺物)課程	10月4日～13日	10日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅰ(金属製遺物)	7人	100%
6	保存科学Ⅱ(木製遺物)課程	10月13日～21日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅱ(木製遺物)	6人	100%
7	遺跡測量課程	10月26日～11月2日	8日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡測量	4人	100%
8	遺跡情報記録調査課程	11月14日～18日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡情報記録調査	8人	100%
9	文化財写真課程	11月28日～12月8日	11日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財写真	12人	100%
10	報告書作成課程	12月8日～16日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	報告書作成	11人	100%
11	遺跡等環境整備課程	24年1月10日～20日	11日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡等環境整備	13人	100%
12	保存科学Ⅲ(応急処置)課程	24年2月6日～10日	10日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅲ(応急処置)	20人	100%
13	地質環境調査課程	24年2月14日～22日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	地質環境調査	9人	100%

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
Ⅱ-1　一般管理費の削減

Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数

○件数

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	2,698	1,068	618	42	144	264	1,630	181	1,449
	うち有償	566	494	341	35	28	90	72	20	52
	うち無償	2,132	574	277	7	116	174	1,558	161	1,397
茶室	総件数	189	189	113	24	9	43			
	うち有償	97	97	48	24	8	17			
	うち無償	92	92	65	0	1	26			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	2,168	555	313	9	97	136	1,613	181	1,432
	うち有償	237	178	101	2	9	66	59	20	39
	うち無償	1,931	377	212	7	88	70	1,554	161	1,393
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	146	129	7	8	37	77	17	0	17
	うち有償	40	27	7	8	11	1	13	0	13
	うち無償	106	102	0	0	26	76	4	0	4
撮影利用	総件数	195	195	185	1	1	8	0	0	0
	うち有償	192	192	185	1	0	6	0	0	0
	うち無償	3	3	0	0	1	2	0	0	0

○有償利用の利用金額　（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	52,546	48,296	45,584	663	1,145	904	4,250	193	4,057
茶室	4,860	4,860	4,315	234	160	151			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	7,242	6,818	5,946	14	246	612	424	193	231
その他（左記以外の建物、敷地）	13,747	9,921	8,661	399	739	122	3,826	0	3,826
撮影利用	26,697	26,697	26,662	16	0	19	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

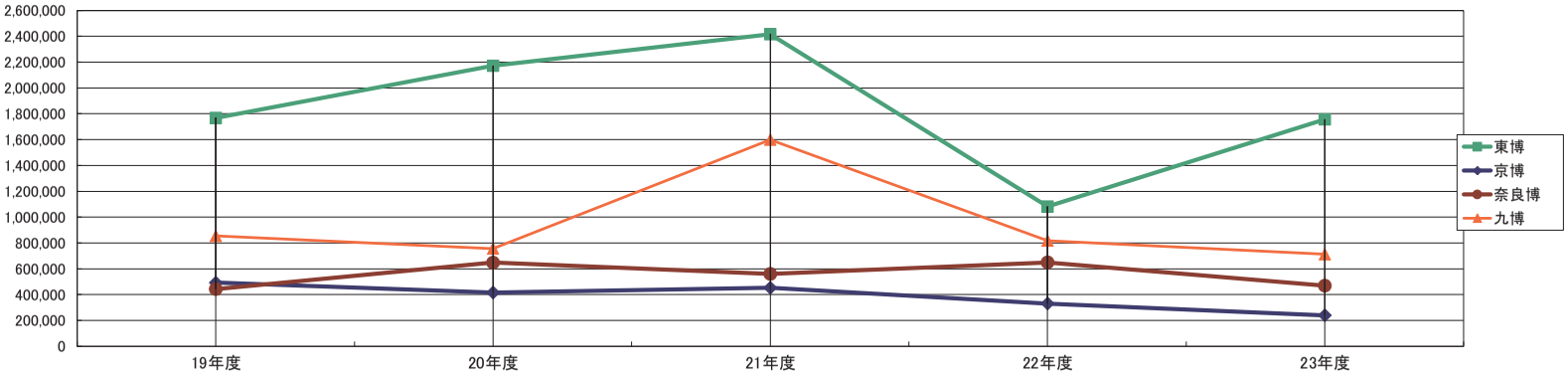
a-① 来館者数推移（㎡館料別）

平成24年3月31日現在

年度				19	20	21	22	23
国立文化財機構	総来館者数			3,764,567	4,193,381	5,156,358	3,392,243	3,356,159
	平常展	計		1,095,925	1,041,212	1,080,509	947,439	913,409
		有料	一般	506,568	461,649	320,974	344,070	293,323
			大学生	99,428	90,861	33,061	34,579	27,778
			高校生			—	—	—
			小・中生	—	—			
			友の会	70,641	78,718	73,872	67,151	53,383
		無料	一般	106,078	116,058	49,813	212,611	96,561
			高校生	15,270	16,192	一般(黒田含む)		
			小・中生	175,712	134,489	163,663	156,236	173,323
		招待者等		122,228	143,245	439,126	132,792	269,041
	特別展	計		2,668,642	3,152,169	4,075,849	2,444,804	2,442,750
		有料	一般	1,769,987	2,003,625	2,885,476	1,459,486	1,585,799
			高・大生	131,777	116,329	156,452	88,515	89,985
			小・中生	27,172	60,359	69,774	48,563	24,501
			友の会	86,194	51,276	53,074	47,012	40,845
		無料	小・中生	65,033	52,769	56,155	198,991	95,130
		招待者等		588,479	867,811	854,918	602,237	606,490
東京国立博物館	総来館者数			1,768,198	2,171,942	2,416,281	1,082,269	1,756,590
	平常展	計		334,297	412,675	計(23年度：黒田含む) 330,536	373,068	324,597
		有料	一般	165,190	210,423	162,674	196,312	143,017
			大学生	28,514	27,225	20,437	24,140	16,073
			小・中・高	—	—	—	—	—
			友の会	52,862	65,232	64,816	58,496	44,388
		無料	高校生	15,270	16,192	13,499	17,570	13,861
			小・中生	26,471	35,261	25,890	33,585	33,401
		招待者等		45,990	58,342	43,220	42,965	60,620
						黒田記念館(無料)		13,237
	特別展	計		1,433,901	1,759,267	2,085,745	709,201	1,431,993
		有料	一般	946,113	1,162,200	1,505,088	424,337	972,328
			高・大生	80,862	64,854	78,355	24,169	52,296
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	52,662	12,988	16,680	9,867	12,072
		無料	小・中生	50,499	38,903	42,065	15,301	31,888
		招待者等		303,765	480,322	443,557	235,527	363,409
京都国立博物館	総来館者数			492,414	416,001	452,920	331,131	239,767
	平常展	計		165,080	141,965	—	—	—
		有料	一般	67,586	54,043	—	—	—
			高・大生	21,182	17,631	—	—	—
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	5,968	3,915	—	—	—
		無料	小・中生	15,325	13,674	—	—	—
		招待者等		55,019	52,702	—	—	—
	特別展	計		327,334	274,036	452,920	331,131	239,767
		有料	一般	197,198	157,900	276,754	205,194	140,395
			高・大生	17,763	16,264	28,127	18,386	13,912
			小・中生	4,279	2,858	7,297	3,856	2,375
			友の会	12,092	11,348	11,529	10,953	10,719
		無料	小・中生	—	—	1,103	862	3,007
		招待者等		96,002	85,666	128,110	91,880	69,359
奈良国立博物館	総来館者数			442,914	647,854	560,293	649,878	469,463
	平常展	計		131,336	112,849	136,672	71,566	130,839
		有料	一般	58,914	47,099	53,033	36,436	56,747
			高・大生	9,919	7,777	5,391	2,417	4,578
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	4,188	2,708	3,168	2,891	3,765
		無料	小・中生	48,069	35,209	38,825	15,293	40,864
		招待者等		10,246	20,056	36,255	14,529	24,885
	特別展	計		311,578	535,005	423,621	578,312	338,624
		有料	一般	235,865	370,001	315,128	428,121	243,704
			高・大生	13,430	19,907	15,411	24,411	12,508
			小・中生	6,463	12,393	13,824	19,106	9,380
			友の会	9,790	14,544	11,131	15,358	9,417
		無料	小・中生	—	—	—	6,107	—
		招待者等		46,030	118,160	68,127	85,209	63,615
九州国立博物館	総来館者数			854,138	756,918	1,599,704	818,034	712,594
	平常展	計		341,282	241,423	544,661	274,545	358,366
		有料	一般	207,350	142,538	98,600	105,638	86,974
			高・大生	37,835	36,858	6,737	7,560	6,561
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	7,623	6,863	5,888	5,764	5,230
		無料	小・中生	81,707	47,402	27,907	35,990	28,625
		招待者等		6,767	7,762	52,658	50,295	51,740
	特別展	計		512,856	515,495	352,871	69,298	179,236
		有料	一般	356,430	285,004	1,055,043	543,489	354,228
			高・大生	16,981	12,103	757,650	343,079	219,615
			小・中生	16,430	45,108	32,892	19,068	10,570
			友の会	11,650	12,396	48,653	25,601	12,746
		招待者等		111,365	160,884	13,734	10,834	8,637
黒田記念館	総来館者数			13,707	19,038	202,114	144,907	102,660
	平常	計		13,707	19,038	20,345	18,458	（東京国立博物館平常展に含む）
		無料	一般	13,707	19,038	20,345	18,458	
平城宮跡資料館	総来館者数			85,486	92,597	25,127	354,346	132,295
	平常	計		85,486	92,597	25,127	189,338	80,353
		無料	一般	85,486	92,597	—	165,008	51,942
藤原宮跡資料室	総来館者数			6,885	4,423	4,341	4,815	2,971
	平常	計		6,885	4,423	4,341	4,815	2,971
		無料	一般	6,885	4,423	4,341	4,815	2,971
飛鳥資料館	総来館者数			100,825	84,608	77,347	133,312	42,479
	平常展	計		17,852	16,242	18,827	15,649	16,283
		有料	一般	7,528	7,546	6,667	5,684	6,585
			高・大生	1,978	1,370	496	462	566
		無料	小・中生	4,140	2,943	4,884	3,503	4,832
		招待者等		4,206	4,383	6,780	6,000	4,300
	特別展	計		82,973	68,366	58,520	117,663	26,196
		有料	一般	34,381	28,520	30,856	58,755	9,757
			高・大生	2,741	3,201	1,667	2,481	699
		無料	小・中生	14,534	13,866	12,987	11,713	8,293
		招待者等		31,317	22,779	13,010	44,714	7,447

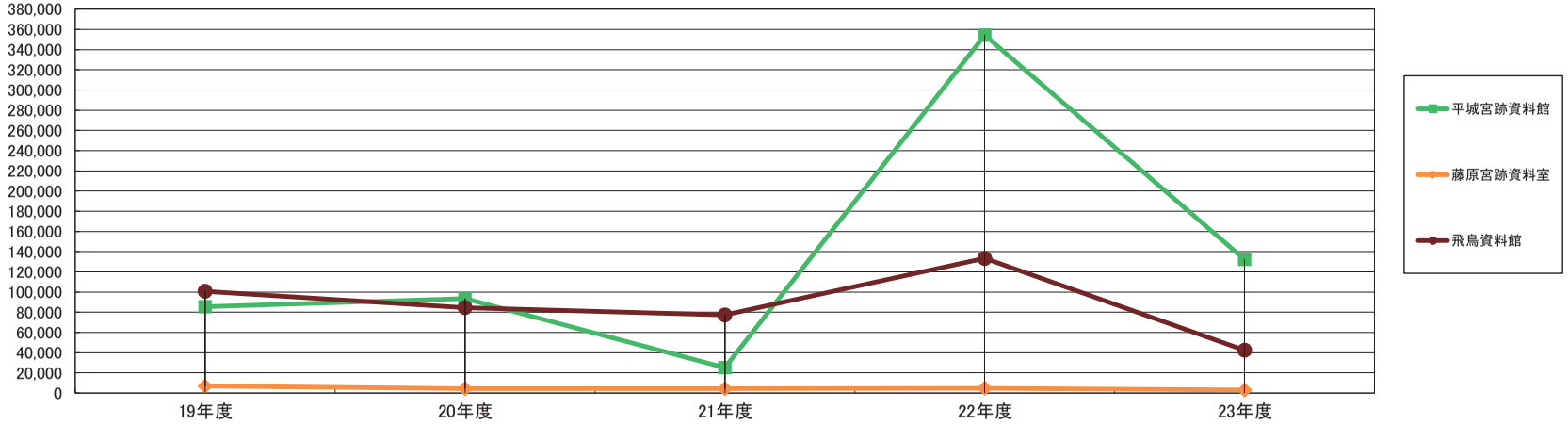
※21年度より、機構内全施設にて高校生以下平常展無料となった
※東京国立博物館パスポートによる特別展入場者数は、19年度まで友の会に含み、20年度より有料に含む
※21年度以降の飛鳥資料館特別展有料大学生入場者数は、春期特別展のみ高校生を含む

a-②　館者数推移(展覧会別)
1) 国立博物館、国立文化財機構総合計



	19年度		20年度		21年度		22年度		23年度	
計	総　合　計	3,557,664	総　合　計	3,992,715	総　合　計	5,029,198	総　合　計	2,881,312	総　合　計	3,178,414
	平常展のみの来館者	971,995	平常展のみの来館者	908,912	平常展のみの来館者	1,011,869	平常展のみの来館者	719,179	平常展のみの来館者	813,802
	特別(共催)展計	2,585,669	特別(共催)展計	3,083,803	特別(共催)展計	4,017,329	特別(共催)展計	2,162,133	特別(共催)展計	2,364,612
東博	総　計	1,768,198	総　計	2,171,942	総　計	2,416,281	総　計	1,082,269	総計(黒田記念館含む)	1,756,590
	平常展のみの来館者	334,297	平常展のみの来館者	412,675	平常展のみの来館者	330,536	平常展のみの来館者	373,068	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	324,597
	特別(共催)展計	1,433,901	特別(共催)展計	1,759,267	特別(共催)展計	2,085,745	特別(共催)展計	709,201	特別(共催)展計	1,431,993
	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」	689,775	特別展「平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展」	742,910	特別展「STORY OF…」	115,568	特別展「細川家の至宝」	182,470	特別展「手塚治虫のブッダ展」	99,088
	特別展「京都五山　禅の文化」展	108,917	特別展「フランスが夢見た日本」	58,342	特別展「国宝　阿修羅展」	933,895	特別展「誕生！中国文明」	105,538	特別展「写楽」	229,625
	特別展「大徳川展」	425,492	特別展「対決－巨匠たちの日本美術」	326,784	特別展「染付－藍が彩るアジアの器」	52,731	特別展「東大寺大仏-天平の至宝-」	232,791	特別展「空海と密教美術」展	550,399
	特別展「宮廷のみやび―近衛家1000年の名宝」	157,718	特別展「スリランカ-輝く島の美に出会う-」	80,865	特別展「伊勢神宮と神々の美術」	114,796	特別展「仏教伝来の道　平山郁夫と文化財保護」	188,402	特別展「孫文と梅屋庄吉―100年前の中国と日本」	28,780
	特別展「平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展」	51,999	特別展「大琳派展－継承と変奏－」	308,213	特別展「皇室の名宝―日本美の華」	447,944			特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」	212,150
			特別展「未来をひらく福澤諭吉」展	73,128	特別展「国宝　土偶展」	128,285			特別展「北京故宮博物院200選」	258,252
			特別展「妙心寺」	151,833	特別展「長谷川等伯展」	292,526			特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」	53,699
			特別展「STORY OF…」	4,915						
			特別展「国宝　阿修羅展」	12,277						
黒田記念館									総　計	13,237
									平常展のみの来館者	13,237
									特別(共催)展計	0
京博	総　計	492,414	総　計	416,001	総　計	452,920	総　計	331,131	総　計	239,767
	平常展のみの来館者	165,080	平常展のみの来館者	141,965	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0
	特別(共催)展計	327,334	特別(共催)展計	274,036	特別(共催)展計	452,920	特別(共催)展計	331,131	特別(共催)展計	239,767
	特別展「藤原道長　－極めた栄華・願った浄土－」	37,411	特別展「絵画の冒険者　暁斎 kyosai」	76,686	特別展「開山無相大師650 年遠諱記念 妙心寺」	92,144	特別展「没後400年　長谷川等伯」	244,347	特別展「法然－生涯と美術－」	84,682
	特別展「狩野永徳」	230,656	特別展「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」	67,050	特別展「シルクロード 文字を辿って」	25,511	特別展覧「没後200年記念　上田秋成」	21,705	特別展「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」	35,259
	特別展「憧れのヨーロッパ陶磁」	59,267	特別展「御即位二十年記念 京都御所ゆかりの至宝」	116,363	特別展「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」	88,187	特別展「高僧と袈裟-ころもを伝え こころを繋ぐ-」	19,297	特別展「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション」	106,536
			特別展「妙心寺」	13,937	特別展「THE ハプスブルク」	247,078	特別展「筆墨精神　中国書画の世界」	37,535	特別展「中国近代絵画と日本」	13,290
							特別展「法然-生涯と美術-」	8,247		
奈良博	総　計	442,914	総　計	647,854	総　計	560,293	総　計	649,878	総　計	469,463
	平常展のみの来館者	131,336	平常展のみの来館者	112,849	平常展のみの来館者	136,672	平常展のみの来館者	71,566	平常展のみの来館者	130,839
	特別(共催)展計	311,578	特別(共催)展計	535,005	特別(共催)展計	423,621	特別(共催)展計	578,312	特別(共催)展計	338,624
	特別展「神仏習合」	40,493	特別展「天馬 －シルクロードを翔ける夢の馬－」	31,910	特別展「国宝 鑑真和上展」	93,779	特別展「大遣唐使展」	202,166	特別展「誕生！中国文明」	35,679
	特別展「美麗　院政期の絵画」	22,696	特別展「国宝　法隆寺金堂展」	132,919	特別展「聖地寧波」	30,548	特別展「仏像修理100年」「至宝の仏像　東大寺法華堂金剛力士像特別公開」	81,342	特別展「天竺へ～ 三蔵法師3万キロの旅」	63,364
	特別展「第59回正倉院展」	248,389	特別展「西国三十三所-観音霊場の祈りと美」	106,411	特別展「第61回正倉院展」	299,294	特別展「第62回正倉院展」	294,804	特別展「第63回正倉院展」	239,581
			特別展「第60回正倉院展」	263,765						
九博	総　計	854,138	総　計	756,918	総　計	1,599,704	総　計	818,034	総　計	712,594
	平常展のみの来館者	341,282	平常展のみの来館者	241,423	平常展のみの来館者	544,661	平常展のみの来館者	274,545	平常展のみの来館者	358,366
	特別(共催)展計	512,856	特別(共催)展計	515,495	特別(共催)展計	1,055,043	特別(共催)展計	543,489	特別(共催)展計	354,228
	特別展「未来への贈りもの」	77,380	特別展「国宝 大絵巻展 」	115,740	特別展「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」	140,917	特別展「パリに咲いた古伊万里の華」	84,738	特別展「黄檗－OBAKU」	46,530
	特別展「日本のやきもの 己選び抜かれた名宝120点」	50,986	特別展「島津の国宝と篤姫の時代」	152,420	特別展「国宝 阿修羅展」	711,154	特別展「馬　アジアを駆けた二千年」	42,022	特別展「よみがえる国宝―守り伝える日本の美」	118,528
	特別展「本願寺展－親鸞と仏教伝来の道」	197,697	特別展「国宝　天神さま」	174,698	特別展「古代九州の国宝」展	72,741	特別展「誕生！中国文明」	53,409	特別展「草原の王朝　契丹 － 美しき3人のプリンセス」	75,880
	特別展「京都五山　禅の文化」展	171,336	特別展「工芸のいま 伝統と創造」	72,637	特別展「京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球」	130,231	特別展「没後120年　ゴッホ展」	354,311	特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」	113,290
	特別展「国宝 大絵巻展」	15,457					特別展「黄檗－OBAKU」	9,009		

2) 研究成果公開施設



	19年度		20年度		21年度		22年度		23年度	
計	総　合　計	206,903	総　合　計	200,666	総　合　計	127,160	総　合　計	510,931	総　合　計	177,745
	平常展のみの来館者	123,930	平常展のみの来館者	132,300	平常展のみの来館者	68,640	平常展のみの来館者	228,260	平常展のみの来館者	99,607
	特別(共催)展計	82,973	特別(共催)展計	68,366	特別(共催)展計	58,520	特別(共催)展計	282,671	特別(共催)展計	78,138
黒田記念館	総　計	13,707	総　計	19,038	総　計	20,345	総　計	18,458	（23年度より東京国立博物館に含めて記載）	
	平常展のみの来館者	13,707	平常展のみの来館者	19,038	平常展のみの来館者	20,345	平常展のみの来館者	18,458		
	特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計			
平城宮跡資料館	総　計	85,486	総　計	92,597	総　計	25,127	総　計	354,346	総　計	132,295
	平常展のみの来館者	85,486	平常展のみの来館者	92,597	平常展のみの来館者	25,127	平常展のみの来館者	189,338	平常展のみの来館者	80,353
	特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計	165,008	特別(共催)展計	51,942
							企画展「平城宮跡 今・昔－岡田庄三写真展－」	38,443	企画展「発掘速報展 平城 2009・2010」	24,238
							特別展「天平びとの声をきく-地下の正倉院・平城宮木簡のすべて-」	92,394	企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」	20,120
							企画展「測る、知る、伝える　－平城京と文化財－」	20,282	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	7,584
							企画展「発掘速報展2009・2010」	13,889		
藤原宮跡資料室	総　計	6,885	総　計	4,423	総　計	4,341	総　計	4,815	総　計	2,971
	平常展のみの来館者	6,885	平常展のみの来館者	4,423	平常展のみの来館者	4,341	平常展のみの来館者	4,815	平常展のみの来館者	2,971
	特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計	
飛鳥資料館	総　計	100,825	総　計	84,608	総　計	77,347	総　計	133,312	総　計	42,479
	平常展のみの来館者	17,852	平常展のみの来館者	16,242	平常展のみの来館者	18,827	平常展のみの来館者	15,649	平常展のみの来館者	16,283
	特別(共催)展計	82,973	特別(共催)展計	68,366	特別(共催)展計	58,520	特別(共催)展計	117,663	特別(共催)展計	26,196
	特別展「キトラ古墳壁画四神玄武」	67,007	特別展「キトラ古墳壁画十二支－子・丑・寅－」	51,471	特別展「キトラ古墳壁画四神－青龍・白虎－」	41,242	特別展「キトラ古墳壁画四神」	100,307	特別展「星々と日月の考古学」	10,679
	企画展「「とき」を撮す－発掘調査と写真－」	3,344	企画展「飛鳥　古寺巡礼」	3,658	企画展「甦るクメール文明」	3,824	企画展「小さな石器の大きな物語」	5,435	企画展「鋳造技術の考古学」	3,047
	特別展「奇偉荘厳　山田寺」	9,342	特別展「まぼろしの唐代精華」	11,695	特別展「三燕文化の考古新発見」	11,006	特別展「木簡黎明―飛鳥に集ういにしえの文字たち」	10,140	特別展「飛鳥遺珍」	10,454
	速報展「飛鳥の考古学2007」	1,589	企画展「飛鳥の考古学2008」	1,542	企画展「飛鳥の考古学2009」	2,448	企画展「飛鳥の考古学2010」	1,781	企画展「飛鳥の考古学2011」	2,016
	企画展「絵で見る考古学－早川和子原画展」	1,691								

a-③ 入場料収入

（単位：円）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
国立文化財機構　計	1,081,301,672	1,159,630,962	1,323,819,776	891,598,757	808,397,161
東京国立博物館	514,039,330	611,637,800	662,347,500	268,900,600	428,268,290
京都国立博物館	130,218,030	126,305,930	111,512,790	93,829,670	71,429,440
奈良国立博物館	228,339,500	265,576,036	267,397,290	355,735,620	213,777,640
九州国立博物館	182,000,762	134,177,251	262,889,871	131,683,367	90,862,831
飛鳥資料館	24,975,310	20,121,140	18,006,130	41,449,500	4,058,960
東京文化財研究所黒田作品共催展	1,728,740	1,812,805	1,666,195	0	0

a-④ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

1)開館期間　4月1日～24年3月31日(314日間)　　平常展のみの開館日数　106日間

2)会　　場

①本　館　1階、2階
②東洋館　1階、2階、3階、4階、5階（耐震改修のため休館中）
③表慶館　1階（東日本大震災後の安全確認のため4月30日まで休館、12月26日以降東洋館展示準備のため休館）
④法隆寺宝物館　1階、2階（東日本大震災後の安全確認のため4月30日まで休館）
⑤平成館　1階
⑥黒田記念館　2階（東日本大震災後の安全確認のため4月30日まで休館、夏期の節電のため6月30日～10月8日休館）

3)陳列品総件数　　7,394件(うち国宝189件、重要文化財842件)
①本館・平成館企画展示室　4,674件(うち国宝119件、重要文化財466件)
②東洋館　　0件(うち国宝 0件、重要文化財　0件)
③表慶館　　326件(うち国宝 0件、重要文化財　8件)
④法隆寺宝物館　　383件(うち国宝14件、重要文化財210件)
⑤平成館考古展示室　　1,894件(うち国宝56件、重要文化財154件)
⑥黒田記念館　　117件(うち国宝 0件、重要文化財　4件)

4)陳列替件数　4,914件　・　陳列替回数　　延べ304回

5)入場料金
黒田記念館以外　　一般600円、大学生400円
黒田記念館　無料

6)特集陳列　全32件

●国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
本館1階 15室	アイヌの文様	23年1月2日(日)～4月3日(日)	42(0.0)
	＜主な作品＞盆、アットゥシ、頭巾、丸盆、飾矢筒		
	「アイヌの文様」をテーマとして展示した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれる渦巻き文を中心に、祭具や衣服、工具や木工品などに施された多彩な飾りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、樺太ニブヒやウィルタの人びとがつくりだした文様についても紹介した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫した。		
本館1階 14室	おひなさまと日本の人形	23年2月22日(火)～4月24日(日)	65(0.0)
	＜主な作品＞箪笥 紫檀象牙細工蒔絵雛道具、立雛 次郎左衛門頭、雛道具 三ツ葉葵紋付		
	三月三日の桃の節句にちなみ、毎年恒例の雛飾りの特集を行った。今回は古今雛や、大名家に伝わった雛道具のほか、京都の伝統工芸である御所人形や衣装人形、各地の特色豊かな郷土雛を特集して展示した。		
本館1階 12室	漆芸にみる桜	23年3月29日（火）～6月5日(日)	18(0.2)
	＜主な作品＞◎初瀬山蒔絵硯箱、◎比良山蒔絵硯箱、桜西行蒔絵硯箱、吉野山蒔絵見台		
	古来、わが国の人々にもっとも親しまれてきた花の一つである、桜を主題にした漆芸品を集めて陳列した。様々な用途・形式の作品に、様々な技法によって表わされた桜の意匠を通して、日本人がいかに桜を愛でてきたかをご覧いただいた。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 キリシタンの祈り-ミサとオラショ	23年3月29日（火）～4月24日(日)	54(0.36)
	＜主な作品＞◎天正遣欧使節記、◎聖母像(親指のマリア)、祈祷書		
	16世紀後半、日本はキリスト教を受容し、南蛮寺と呼ばれた教会などが各地に造られ、祈りが捧げられた。そこではヨーロッパからもたらされた楽器により教会の音楽が奏でられていたことが、当時の楽譜である『サカラメンタ提要』、ヨーロッパで喝采を浴びた日本の少年たちの演奏を記録した『天正遣欧使節記』から知られる。キリスト教禁制の後、潜伏して隠れキリシタンとなった人々の間に伝わった『祈祷書』は、ラテン語の祈りの言葉を平仮名で記したものであるが、研究によりその旋律がわかっている。今回の展示は、これら祈りの場に流れた音楽を取り上げ、受容期の南蛮寺の祭壇に置かれたキリスト像、聖母子図、そして禁制下のキリシタンたちの祈りの対象であるマリア観音像など礼拝と信仰に焦点をあてて展示した。		
本館2階 特別2室	南太平洋の暮らしと祈り	23年3月29日（火）～4月24日(日)	44(0.0)
	＜主な作品＞仮面、ワニ、クジラの歯のペンダント、ココナッツジュース容器		
	東京国立博物館には、おもに19世紀後半から20世紀初頭にかけて、南太平洋の島々から将来された約500件の民族資料が所蔵されている。当時の南太平洋では、伝統的な暮らしと信仰が近代文明の影響を受けて急激に変わりつつあった。そのため、収蔵品のなかには、すでに現地では見られなくなったものもある。本特集陳列では、当館所蔵の貴重な南太平洋民族資料のなかから、伝統的な暮らしや宗教儀礼にかかわる代表的なものを展示することで、日本に隣接していながらあまり知られていない南太平洋の文化の魅力を紹介した。		
平成館 企画展示室	拓本とその流転	23年3月29日（火）～5月15日(日)	41(0.0)
	＜主な作品＞孔子廟堂碑、孟法師碑、善才寺碑、定武蘭亭序(独孤本)、西嶽華山廟碑(順徳本)、夏承碑、天発神讖碑、定武蘭亭		

	序(韓珠船本)、十七帖（上野本）		
	毎年開催している台東区立書道博物館との連携企画として、今年度は中国の拓本を取り上げた。現存する最古の拓本は、敦煌の蔵経洞で発見された唐時代の温泉銘であるが、拓本の起源はそれ以前に遡ると考えられる。しかし唐時代の拓本は、ごく僅かの遺例しかない。宋時代には、上質の紙や墨の製造にともない拓本の技法も多様化し、精緻な拓本は収蔵家の垂涎の的となった。本展は名拓の数々とともに、拓本のたどった流転にも目をむけ、さまざまなエピソードを交えながら、唐拓や宋拓をはじめとする拓本の魅力を紹介した。		
平成館 考古展示室	古墳時代の人々―人物埴輪の表情と所作―	23年3月29日（火）～7月31日(日)	28(0.0)
	＜主な作品＞埴輪 あごひげの男子頭部、埴輪 笠を被る男子頭部、埴輪 琴を弾く男子、埴輪 頭部に箱を載せる女子、埴輪 袈裟状衣の女子		
	東京国立博物館には多数の人物埴輪が収蔵されているが、完全な形として残っているものは少ない。ただし、一部が欠落しているものの造形的に極めて優れたものもある。そこで、本特集陳列では人物埴輪の様ざまな表情や所作がわかる資料を中心にして、古墳時代の人々の姿にせまった。		
本館2階 特別1室・2室	平成23年新指定重要文化財	23年4月26日(火)～5月8日(日)	39(0.39)
	＜主な作品＞◎母子　上村松園筆、◎善導大師立像		
	平成23年（2011）に新たに指定された39件の重要文化財（絵画部門5件、彫刻部門4件、工芸部門6件、書跡・典籍部門6件、古文書部門5件、考古資料部門8件、歴史資料部門5件）を展示した。		
本館1階 14室	和鏡―鏡に表された文様の雅	23年4月26日(火)～7月10日(日)	35(0.3)
	＜主な作品＞瑞花狻猊方鏡、◎瑞花双鳳八稜鏡、◎松喰鶴長方鏡、桐竹文鏡		
	古来鏡は青銅製であり、その鏡背にはさまざまな文様が表わされた。日本では弥生時代に大陸から銅鏡がもたらされ、古墳時代から奈良時代にはそうした舶載鏡の模倣が行われた。平安時代以降は日本独自の文様や形式が展開し、以後江戸時代まで続いたが、これらを総称して和鏡と呼んでいる。ここでは中国鏡を模倣した奈良時代の唐式鏡からはじめて、平安～江戸時代までの和鏡を展示し、その形式的変遷や多彩な文様表現をご覧いただいた。		
本館2階 特別１室	平成22年度新収品展	23年5月17日(火)～6月26日(日)	26(0.1)
	＜主な作品＞◎刀、一休宗純墨跡 七言絶句「峯松」		
	平成22年度に新たに収蔵品に加わった、購入4件、寄贈24件、計28件のうち、高円宮コレクション（高円宮コレクション室にて展示）以外の26件の文化財を陳列した。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端をご理解いただいた。		
平成館 企画展示室	よみがえるヤマトの王墓　―東大寺山古墳と謎の鉄刀―	23年6月7日(火)～8月28日(日)	93(0.53)
	＜主な作品＞◎金象嵌銘花形飾環頭大刀、対置式神獣鏡、◎家形飾環頭大刀 、模造 家屋文鏡、◎勾玉、◎鍬形石、◎石製台付坩、◎銅鏃、◎巴形銅器、◎短甲・草摺、◎素環頭大刀、鰭付朝顔形円筒埴輪、◎靫形埴輪残片、素環頭大刀、素環頭大刀、◎埴輪 子持家		
	東大寺山古墳は奈良県天理市に位置する全長130mの前方後円墳である。昭和36～37年（1961～1962）の発掘調査で多量の碧玉製腕飾類等が出土し、大刀の１本に金象嵌で「中平□□五月丙午造作文刀百練清剛上応星宿下避不祥」の24文字が刻まれていたことで著名である。しかし、他にも最多の出土量を誇る鍬形石のほか、大量の石製品や刀剣類などが出土し、初期大和王権中枢の様相を物語るきわめて重要な古墳である。平成19～21年度に行なった天理大学との共同調査の成果を踏まえ、出土資料の全貌を関連資料を交えて公開することを目的とした。		
本館1階 14室	運慶とその周辺の仏像	23年7月12日(火)～10月2日(日)	15(0.8)
	＜主な作品＞◎大日如来坐像、十二神将立像 巳神、◎十二神将立像 戌神、◎大日如来坐像		
	運慶作の可能性が高い栃木・光得寺と真如苑の大日如来坐像と、運慶の作風に近い仏像、運慶の孫康円の作品を展示した。		
本館2階 特別2室	親と子のギャラリー「博物館できもだめし－妖怪、化け物　大集合－」	23年7月20日(水)～8月28日(日)	34(0.0)
	＜主な作品＞上方震下り瓢磐鯰の化物、三彩狸炉蓋、百物語化物屋敷の圖　林屋正蔵工夫の怪談		
	妖怪、物の怪、鬼等に関連した展示。怪談は老若男女に人気があるテーマであり、日本美術に親しむ入口として適している。しかも、日本の妖怪、物の怪は民間伝承と深く関わり根底には自然崇拝、アミニズム観に通じることから、奥の深い存在で研究対象に充分値する。「怪」をひとつの伝統文化として捉え、見た目の怪奇さだけではなくそれらが生まれた背景にある信仰、環境も伝える展示をした。		
平成館 考古展示室	石に魅せられた先史時代の人びと	23年8月2日(火)～10月30日(日)	126(0.0)
	＜主な作品＞ナイフ形石器、石鏃、石鋸、片刃石斧、両尖七首、石棒、青龍刀形石器、磨製石鏃、磨製石鏃、有角石斧、模造 石鏃		
	人間はさまざまな道具をつくり、より豊かで便利な生活を求めてきた。その道具の歴史の基礎を支えてきたのは石の道具であった。本展では旧石器時代から弥生時代のさまざまな石器をとりあげ、日本における石器研究のはじまりやその素材と製作工程等も視野に入れ、石器とそこに暮らす人々の生活実態に迫った。また、近来報告がなされた長野県諏訪湖底曽根遺跡から採集された資料を取り上げ、その石器研究に邁進した石器研究者の「物語」もあわせて紹介した。		
本館2階 9室	室町時代の舞楽	23年8月9日(火)～10月10日(月)	28(0.6)
	＜主な作品＞◎半臂 紺地亀甲花菱模様、◎褊襠 紺地牡丹二重唐草模様金襴		
	当館所蔵の天野社伝来の舞楽面、舞楽装束、天冠のほか、伝来は不明であるが、珍しい室町時代の和錦で製作された括り袴、大内家に伝来したと伝えられる大内菱文金襴の褊襠などを展示した。また、長らく公開されてこなかった旧鐘紡コレクションの天野社伝来舞楽装束（重要文化財　5件）を併せて展示することにより、縫い締め絞り・摺絵・板締・錦・刺し繍など、室町時代特有のさまざまな染織技法を紹介し、現代に遺された伝統とは異なる、中世的な舞楽の意匠表現に迫った。		

本館 特別1室	古写経の世界	23年9月6日(火)～10月16日(日)	16(1.3)
	＜主な作品＞●法華経 方便品（竹生島経）、◎金光明経 巻第二･第四 断簡　（目無経）		
	古来、仏教経典を書写することは大きな功徳があると考えられてきた。日本でも仏教の伝来以降、時代や社会的な地位を問わず多くの人々によって経典の書写が行われてきた。当館所蔵の古写経を網羅した『東京国立博物館図版目録古写経篇』が刊行されたことを機に、奈良時代以降の古写経の優品を集め、その美しさと書写にかけた信仰をうかがった。		
平成館 企画展示室	呉昌碩の書・画・印	23年9月13日(火)～11月6日(日)	32(0.0)
	＜主な作品＞荷花図、篆書般若心経十二屏、墨梅自寿図、臨石鼓文軸、行書詩翰軸、斉雲館印譜、缶廬印存		
	清時代の末期から民国の初期にかけて、書・画・印に妙腕をふるった呉昌碩(1844～1927)は、清王朝300年の掉尾を飾る文人として知られている。初名を俊、のちに俊卿といい、民国元年(1912)から昌碩と改めた。56歳のとき、安東県(江蘇省)の知事となるものの、一ヶ月で辞職し、生涯を在野で過ごした。呉昌碩は、終生にわたって石鼓文の臨書に励み、その風韻を書・画・印に結実させた。日本人との交流も深く、日本に現存する呉昌碩の書画や尺牘から、その一端を窺うことができる。本展では、呉昌碩の若き模索時代から円熟した最晩年までの作品を、年代ごとに紹介するとともに、日本人との交流を示す貴重な資料もあわせて公開した。台東区立書道博物館との連携企画第9弾。		
本館1階 14室	陶片の美	23年10月4日(火)～12月4日(日)	4(0.0)
	＜主な作品＞肥前窯址出土陶片、御室窯址出土陶片、越州窯址出土陶片、南宋官窯址出土陶片		
	当館には数箇所の窯址出土陶片が収蔵されているが、展示で公開される機会はほとんどない。窯址出土の陶片は、産地の同定、技術の解明などの基準となる資料であり、近代的な陶磁史研究は古窯址の調査とともに進展したといっても過言ではない。また、学史的な意義とともに、破片とはいえ製作当初の色や艶、文様を残しており、陶片の美そのものが鑑賞の対象となる。当館所蔵の窯址出土陶片を展示し、陶片の見方や魅力、その価値などを紹介した。		
本館1階 16室	東叡山寛永寺	23年10月12日(水)～11月12日(日)	24(0.1)
	＜主な作品＞霜月会定書、◎天海版木活字、砲弾		
	東叡山寛永寺は、江戸城の鬼門を守るために寛永二年（1625）慈眼大師天海が創建した。住職には代々親王が就任し、門跡寺院として「輪王寺宮」と称された。上野の山全域に広大な寺地を占め格式を誇ったが、一方で江戸の住民には折々の行楽地でもあった。幕末の彰義隊の戦いで本坊をはじめ多くの建物を焼失し、維新後、境内の大半は上野公園となったが、天台の法灯を維持して今日に至っている。江戸時代の寛永寺の創建と繁栄、名所としての賑わいなどをしのぶ特集を行った。		
本館2階 特別2室	板谷家の絵画とその下絵	23年10月25日(火)～12月4日(日)	29(0.0)
	＜主な作品＞住吉広守・住吉広行・板谷広当像、毘沙門天像、安永二年被召出候一件、図案下絵切抜帳		
	公開に向けて整理を進めてきた平成21年度寄贈の「板谷家伝来資料」から、今後の研究のトピックスとなる絵画資料、古文書、館蔵品から住吉派・板谷家による作品（本画）を紹介した。本画と下絵の比較、印章の紹介、また伝来資料等から知りえた板谷家系図を提示した。江戸時代御用絵師板谷家の作画活動について来館者が臨場感をもって理解できるように構成した。		
平成館 考古展示室	古墳時代の神マツリ	23年11月1日(火)～3月11日(日)	121(0.0)
	＜主な作品＞石釧残欠、銅鏃、子持勾玉、滑石製槽形品、滑石製盾、鐸形土製品、鈴鏡形土製品、勾玉形土製品、手捏土器、子持勾玉		
	古墳時代の祭祀遺跡は交通の難所である峠や岬、離島などに多くみられる。これらは『風土記』などにみえる神を我々の祖先が恐れ敬ってきたことを示すが、『延喜式』等の国家的祭祀の神統譜に編制される以前の神の姿を伝えるものとして貴重である。臨海の安房地方や山に囲まれた信濃地方の祭祀遺跡出土品を中心に、奈良時代以前の多様な神マツリの姿とその変遷を紹介した。		
平成館 企画展示室	信濃の赤い土器	23年11月22日(火)～24年2月12日(日)	157(0.0)
	＜主な作品＞鉢、高杯、壺、筒形土器、ベンガラ素材、ベンガラ精製用台石・磨石、ベンガラ塗土器棺、高坏、壺、壺、壺		
	長野県の北部地域には、弥生時代中期後半から後期にかけて、鮮やかな赤で飾られた独特の土器が発達する。今回の考古資料相互活用促進事業では、長野県立歴史館より長野市松原遺跡・篠ノ井遺跡群から出土したこの地域の「赤い土器」の代表とも言える資料やその「赤」を生み出すベンガラおよびそれをすりつぶす道具などをまとめて拝借することができた。本特集陳列では、これらの資料に当館所蔵の当該地域の土器・石器ならびに同時期の「東海の赤い土器」、「北部九州の赤い土器」を展示し、それぞれを比較することで「信濃の赤い土器」のもつ意味を考え、あわせて「赤」に込められた当時の人びとの思いを考察した。		
本館1階 14室	日本の仮面	23年12月6日(火)～24年2月5日(日)	29(0.6)
	＜主な作品＞土面、◎舞楽面　崑崙八仙、行道面　五部浄居天、追儺面　鬼、能面　万媚、狂言面　狐		
	縄文時代の土面、古代から中世の舞楽面、行道面、中世から近世の能面、狂言面という日本の多彩な仮面を展示した。		
本館1階 18室	浅井忠の日本風景―高野コレクション	24年1月2日(月)～2月19日(日)	6(0.1)
	＜主な作品＞聖護院の庭、◎春畝		
	実業家高野時次氏の蒐集による、明治の洋画家浅井忠の作品は、油彩画11点、水彩・デッサン56点、掛軸6点の計73点におよび、浅井の円熟した画技を示す滞欧期の水彩画を多く含んでいる。高野コレクションは、この浅井作品全73点が、昭和60年(1985)に氏のご遺志によりご遺族の方々から当館に一括寄贈されたものである。　今回の特集陳列は重要文化財「春畝」とともに、高野コレクションのうち浅井が留学から帰国した後、京都に移住してから描いた日本の風景作品5点を展示する。この特集によって、欧州留学をはさんだ浅井がどのように日本の情景を表現したのかを探り、あわせて浅井作品の魅力を堪能していただく。		
本館2階 特別1･2室	天翔ける龍	24年1月2日(月)～1月29日(日)	77(2.8)
	＜主な作品＞●龍文帯金具、◎龍濤螺鈿稜花盆、●十六羅漢像（第十四尊者）、龍図屏風 龍虎図屏風のうち、陣羽織 猩々緋羅紗地応龍波濤模様、自在置物　龍		

	開館140年を記念して開催する特集陳列の第1弾。平成24年の干支、辰にちなみ、当館が所蔵する龍に関わる日本・中国・朝鮮半島の作品を集めて展示した。龍は干支の中で唯一架空の動物である。中国商時代の青銅器や玉器に表わされた姿は蛇に似た長い体、足があり、短い羽、角を持つ。漢時代には鱗や鰭なども表現され、現在の龍の形が完成した。龍は古墳の壁画で東の壁に青龍として描かれ、西の白虎、すなわち虎とは龍虎として組み合わせて表わされることが多い。また、龍は鳳凰、麒麟、龜とともに四霊として、尊ばれた。雲を呼ぶと言い、雨、水に関係が深い。水神として祀られ、祈雨、止雨、航海の安全などを祈る対象でもあった。中国では特に五爪の龍は皇帝の象徴であった。そのため、宮廷で使用する器物には五爪の龍が表わされた。虎に匹敵する強さと考えられたことから、武将が身につける刀、兜、陣羽織などに龍が表わされた。このように十二支の中でも際立って造形化されることの多い龍の作品を集めた展示であった。		
本館1階 14室	おひなさまと日本の人形	24年2月7日(火)～3月4日(日)	51(0.0)
	＜主な作品＞古今雛、台付きからくり 輪舞人形		
	三月三日の桃の節供にちなみ、毎年恒例となった雛飾り。今年度は図録刊行記念(予定）ということで、紙雛、室町雛、享保雛、といった町雛の歴史を紹介するほか、大名家や公家に伝わった雛道具、京都の伝統工芸である嵯峨人形・御所人形・衣装人形、機巧人形のような技巧を凝らした人形など、当館の優品を紹介した。		
本館2階 特別1・2室	江戸時代の地図	24年2月14日(火)～3月25日(日)	21(0.9)
	＜主な作品＞坤輿万国全図屏風、◎日光道中分間延絵図 千住、総泉寺、草加、越谷、大相模不動、		
	地図は自分の住む空間を認識する道具であるとともに、未知の世界をうかがう窓口ともなる。江戸時代は日本列島の姿が次第に正確に捉えられるとともに、ヨーロッパ諸国との接触が始まり、世界のありさまも地図を通じて知られるようになった。この特集では16世紀末から幕末までに日本に制作されたり、伝来したりした地図を一堂に集め、日本と世界の見方の変遷をたどった。		
本館1階 18室	黒田清輝ー作品に見る「憩い」の情景	24年2月21日(火)～4月1日(日)	27(0.2)
	＜主な作品＞◎舞妓、◎湖畔		
	フランスでサロンの画家ラファエル・コランに師事し、アカデミックな絵画教育を受けた黒田は、当時のフランス画壇の価値観を受け継ぎ、抽象的な概念を人物群像によって表現する大画面のコンポジションを画家の本業と位置づけていた。そうした作品の主題として、黒田が画業の初期から晩年まで大切にしていたのが「労働」と「休息」の主題である。滞欧期の作品としては、窓辺で読書をする女性を描いて、初めてのサロン入選作となった≪読書≫（1891年）、1892 年のサロン出品を目指して構想し、水辺で遊ぶ女性群像を描いた≪夏図≫などがその例として挙げられる。帰国後も、ピュヴィス・ド・シャヴァンヌの≪休息≫図の構図を意識した大作≪昔語り≫（1898年）（焼失）をはじめ、人々が語らう、遊ぶ、眠るといった憩いの情景を黒田は好んで描いている。平成20年度の特集陳列「田園（農村）へのまなざし」は、黒田が田園とそこでの「労働」を描いた作品を鑑賞する機会として企画したが、本展示では黒田にとってもうひとつの重要な主題であった「休息」を絵画化した作品を集め、絵画が醸す憩いを鑑賞者に届ける空間とした。		
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	24年2月21日(火)～4月1日(日)	15(0.0)
	＜主な作品＞〇柳橋水車図屏風、小袖 白綸子地桐樹模様、埴輪 靱、ヴィシュヌ立像		
	東京国立博物館が手がける保存と修理の成果を、よりわかりやすく紹介するため、平成22年度に修理が完了した作品を中心に展示した。絵画、書跡、工芸、考古にわたるさまざまな分野、形態、技法の作品を取り上げ、修理工程および修理過程で得られた情報をパネルにて詳細に紹介することにより、博物館が担う文化財修理の役割に広い理解を期待した。		
本館1階 14室	酒宴のうつわ	24年3月6日(火)～5月13日(日)	33(0.0)
	＜主な作品＞色絵祥瑞文瓢形徳利、黄釉酒呑、古染付捻文杯		
	古くから飲酒の習慣は日常の愉しみの一つであり、そのなかではさまざまな酒器が用いられてきた。酒器には、形のユニークなもの、華やかなもの、侘びたものなど多様な趣があり、それらは酒宴の席に彩を加え、愛好家を楽しませてきた。本展示では、当館が所蔵する陶磁の酒器を一堂に会した。酒器類のなかでも群を抜いて数が多い徳利を中心に、銚子、盃、猪口、酒呑と宴席を彩るうつわを紹介しながら、多様性に富んだ意匠を目で「味わい」ながら鑑賞していただいた。		
本館1階 16室	博物館の創始者・蜷川式胤の文化財保護	24年3月27日(火)～5月20日(日)	40(0.16)
	＜主な作品＞古今珎物集覧、◎旧江戸城写真帖、◎壬申検査社寺宝物図集;第12		
	蜷川式胤は東寺の公人の家に生まれ、幕末は独自の文化財調査活動を行っていた。明治に入り、政府に雇われて上京、制度局につとめた後に博物館の創立に関わった。蜷川が寄贈・制作した作品の中には、重文「壬申検査社寺宝物図集」や重文「旧江戸城写真帖」など、蜷川及び博物館の文化財保護活動を示す資料がたくさん含まれている。蜷川が収集した作品や資料から、文化財保護に関連するものを中心に展示することで、蜷川式胤の事蹟を顕彰するとともに、当館が創立当時から文化財保護活動に深く関わってきたことをご紹介した。		
本館2階 特別1室	小袖・振袖図―明治四十四年特別展覧会の記録―	24年3月27日(火)～4月22日(日)	24(0.1)
	＜主な作品＞振袖模写図（前面） 黒紅綸子地梅樹模様、振袖模写図 白綸子地若竹模様、◎振袖 黒綸子地梅樹模様		
	東博140周年を記念して、約100年前の帝室博物館における博物館活動の一面を紹介する。当館には、江戸時代の小袖や振袖、帯を実物大で描いた模写図、37件が保管される。これらは明治四十四年特別展覧会「徳川時代婦人風俗展」に際し、出品作品を模写したものであることが、近年の調査により明らかとなった。またこの時、同様の経緯で撮影されたガラス乾板も残されている。小袖や振袖の模写図、原品（振袖）、同じく同展覧会の際に模写された花下遊楽図屏風模写図、加えてガラス乾板の写真パネルを展示し、明治四十四年特別展覧会の一部を再現し、当時の博物館活動の一面を紹介した。		

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：特別展「写楽」

会　　期：平成23年5月1日（日）～6月12日（日）（41日間）
会　　場：平成館2階　特別展示室第1室～第4室
主　　催：東京国立博物館、東京新聞、NHK、NHKプロモーション

協　　力：国際浮世絵学会
後　　援：文化庁
協　　賛：日本写真印刷、みずほ銀行、三井物産
輸送協力：日本航空
作品件数：286件（うち重要文化財：22件、重要美術品：19件）
来館者数：229,625人（目標来館者数 160,000人・達成率 143.5%）
入場料金：一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料
＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
担当研究員数：2人（並びにゲストキュレーター2人）

展覧会の内容：
写楽作品を集成し、写楽の歴史的な意義及びその芸術性などを改めて考察した。

講演会等：「写楽の役者絵の成立事情を探る」　講師：大和文華館長　浅野秀剛、平成館大講堂　　5月22日
「美術史の中の写楽の役者絵」　講師：絵画・彫刻室長　田沢裕賀、平成館大講堂　　5月29日

展覧会名：特別展「手塚治虫のブッダ展」
会　　期:平成23年4月26日（火）～6月26日（日）(57日間)
会　　場：本館特別5室
主　　催：東京国立博物館、東映、TBS
協　　力：手塚プロダクション、日本通運、財団法人全日本仏教会、ニトリ、カラーキネティクス・ジャパン
後　　援：文化庁、読売新聞社
作品件数：72件（うち重要文化財：6件）
来館者数：99,088人(目標来館者数 70,000人・達成率 141.5%)
入場料金：一般800円(700円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円)、中学生以下無料　＊( )内は前売りおよび20名以上の団体料金
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
手塚治の漫画「ブッダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を紹介した。

講演会等：「ブッダと仏像　～インドの風を感じよう！～/ブッダ展のたのしい見かた」　講師：仏像ナビゲーター　廣瀬郁実（仏像ガール(R)）、
学芸企画部長　松本伸之、平成館大講堂　　4月30日

展覧会名：「空海と密教美術」展
会　　期：平成23年7月20日（水）～9月25日（日）（61日間）
会　　場：平成館特別展示室第1～4室
主　　催：東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
特別協力：総本山仁和寺、総本山醍醐寺、総本山金剛峯寺、総本山教王護国寺（東寺）、総本山善通寺、遺迹本山神護寺
協　　力：真言宗各派総大本山会、南海電気鉄道
協　　賛：あいおいニッセイ同和損保、きんでん、大日本印刷、トヨタ自動車、非破壊検査
作品件数：99件（うち国宝：52件、重要文化財：46件）
来館者数：550,399人(目標来館者数 240,000人・達成率 229.2%)
入場料金：一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)　中学生以下無料
＊( )内は前売り／20名以上の団体料金
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
空海が広めた密教文化について、空海と同時代の文化財の特色等を広く一般に紹介した。

講演会等：「密教美術の醍醐味」　講師：学芸企画部長　松本伸之、平成館大講堂　　7月24日
「弘法大師と仁和寺　－阿弥陀仏についてー」　講師：総本山仁和寺執行・真言宗御室派財務部長　大西智城、平成館大講堂　7月31日
「神護寺創成期の歴史　－弘法大師空海と伝教大師最澄の交友と訣別－」講師：高野山真言宗遺迹本山神護寺貫主　谷内弘照、平成館大講堂　7月31日
「心の中に息づく祈り－弘法大師空海－」　講師：総本山醍醐寺座主・真言宗醍醐寺派管長　仲田順和、平成館大講堂　8月27日
「吉野・高野の道/空海大師と讃岐－御誕生所善通寺の歴史と寺宝－」　講師：総本山金剛峯寺執行・高野山真言宗教学部長　村上保壽、総本山善通寺執行・真言宗善通寺派財務部長　坂田知應、平成館大講堂　8月28日

展覧会名：金沢能楽美術館　開館5周年記念特別展「東京国立博物館所蔵　金春座伝来　能面・能装束」
会　　期：平成23年10月1日（土）～11月20日（日）（43日間）
会　　場：金沢能楽美術館2階展示室
主　　催：東京国立博物館、金沢能楽美術館［(公財)金沢芸術創造財団］
作品件数：46件（うち重要文化財：16件）
来館者数：8,206人(目標来館者数 －人・達成率 －%)
入場料金：一般・大学生　300円　　65歳以上　200円　高校生以下　無料　団体（20名以上）250円
担当研究員数：1人

展覧会の内容：
東京国立博物館所蔵の金春座に伝来した能面と能装束を紹介した

展覧会名：法然上人８００回忌・親鸞上人７５０回忌　特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」

会　　期：平成23年10月25日（火）～12月4日（日）（36日間）
会　　場：平成館特別展示室第1～4室
主　　催：東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
後　　援：文化庁
協　　賛：トヨタ自動車、日本写真印刷、三井住友海上火災保険
特別協力：知恩院、増上寺、金戒光明寺、知恩寺、清浄華院、善導寺、光明寺（鎌倉市）、善光寺大本願、光明寺（長岡京市）、禅林寺、誓願寺、遊行寺、西本願寺、京都 東本願寺、専修寺、佛光寺、興正寺、錦織寺、毫摂寺、誠照寺、専照寺、證誠寺
作品件数：189件（うち国宝：11件、重要文化財：83件）
来館者数：212,150人(目標来館者数 108,000人・達成率 196.4%)
入場料金：一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)　中学生以下無料
＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
担当研究員数：4人

展覧会の内容：
浄土宗・浄土真宗の開祖にちなむ歴代の寺宝を一堂に集めて展観した。

講演会等：「法然と親鸞」　講師：編集工学研究所所長・日本文化研究家　松岡正剛、　平成館大講堂　　10月28日
「特別展『法然と親鸞　ゆかりの名宝』について」　講師：博物館情報課長　高橋裕次、平成館大講堂　　11月19日
「法然上人に近づく」　講師：奈良国立博物館学芸部長　西山厚、平成館大講堂　　11月26日

展覧会名：日中国交正常化40周年　東京国立博物館140周年　特別展「北京故宮博物院200選」

会　　期：平成24年1月2日（月・休）～2月19日（日）(43日間)
会　　場：平成館特別展示室第1～4室
主　　催：東京国立博物館、故宮博物院、朝日新聞社、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション
特別協力：毎日新聞社
後　　援：外務省、中国大使館
協　　賛：三井物産、凸版印刷、あいおいニッセイ同和損害保険、華為技術日本(ファーウェイ・ジャパン)、竹中工務店
協　　力：全日本空輸、東京中国文化センター
作品件数：200件(うち一級文物90件)
来館者数：258,252人(目標来館者数152,000人・達成率170%)
入場料金：一般1500円(1300円／1200円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)　中学生以下無料
＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
担当研究員数：5人

展覧会の内容：
北京故宮博物院が所蔵する書画、工芸品等の優品を展示する。

展覧会名：特別展「孫文と梅屋庄吉―100年前の中国と日本」

会　　期：平成23年7月26日（火）～ 9月4日（日）(37日間)
会　　場：本館特別5室
主　　催：東京国立博物館、毎日新聞社
後　　援：外務省、中国大使館
特別協力：小坂文乃、長崎県、長崎大学附属図書館
協　　力：日本中華總商会、日本通運、東京スタデオ、日比谷松本楼
協　　賛：全日本空輸、リンガーハット、小西国際交流財団
作品件数：249件(うち重要文化財：24件)
来館者数：28,780人(目標来館者数 20,350人・達成率 141.4%)
入場料金：一般800円(700円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円)　中学生以下無料　＊（ ）内は前売りおよび20名以上の団体料金
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
孫文と彼を支援した梅屋庄吉らに関わる古写真等を通じて、彼らの生きた時代の様相を展覧した。

講演会等：「孫文の生きた時代」　講師：東京大学大学院准教授　川島真　平成館大講堂　　7月29日
「曾祖父・梅屋庄吉」　講師：梅屋庄吉曾孫　小坂文乃　平成館大講堂　　7月29日

【京都国立博物館】

(1)平常展

平常展示館建て替え工事に伴い、平常展示休止中。

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「法然上人８００回忌　法然―生涯と美術―」

会　　期：平成23年3月26日(土)～5月8日(日)(39日間)
来館者数：92,929人（23年度84,682人）（目標来館者数50,000人・達成率185.86%）
陳列件数(うち指定品数)：120件(87件)（国宝29、重文58）
主 催 者：京都国立博物館、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿、京都新聞社
講 演 会：2回　　参加者数合計 300人
・関連土曜講座

4月2日　浄土宗の美術
大原嘉豊（研究員）
158人参加
4月9日　像内納入品―仏像と古文書―
羽田　聡（研究員）
142人参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展観「百獣の楽園　―美術にすむ動物たち―」
会　　期：平成 23 年 7 月 16 日(土)～8 月 28 日(日)(38 日間)
来館者数：35,259人(目標来館者数 20,000人・達成率 176.30%)
陳列件数(うち指定品数)：117件(31件)（国宝3、重文25、重美3)
主 催 者：京都国立博物館
講 演 会：3回　　参加者数合計　246人
・関連土曜講座
7月16日　動物の眼ざし、動物への眼ざし―近世絵画編―
山下善也（連携協力室長）
85人参加
7月23日　百獣の楽園をめざして　動物たちが幸せに暮らせる動物園に
坂本英房 氏（京都市動物園 獣医師）
64人参加
7月30日　動物をみること、表現すること―分類とシンボル
永島明子（主任研究員）
97人参加
鑑 賞 会：2回　　参加者数合計　75人
・関連少年少女博物館くらぶ
8月2日、5日　小学・中学生向け鑑賞会「博物館 まるまるアニマル！」
水谷亜希（研究員）

関連イベント
7月22日、29日　「ジャングル大帝」野外上映会

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展覧会「細川家の至宝　―珠玉の永青文庫コレクション―」
会　　期：平成 23 年 10 月 8 日(土)～11 月 23 日(水・祝)(40 日間)
来館者数：106,536人(目標来館者数 50,000人・達成率213.07%)
陳列件数(うち指定品数)：244件(35件)　(国宝8、重文28)
主 催 者：京都国立博物館、永青文庫、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿、朝日新聞社
講 演 会：4回　　参加者数合計 359人
・関連土曜講座
10月15日　永青文庫の歴史とコレクション
三宅秀和 氏（永青文庫学芸員）
133人参加
10月29日　コレクター細川護立―日本近代美術の視点から―
塩谷　純 氏（東京文化財研究所企画情報部文化形成研究室長）
99人参加
11月12日　細川氏と永源庵―永青文庫の古文書―
羽田　聡（研究員）
84人参加
11月19日　永青文庫の中国彫刻―コレクションをめぐる人々―
淺湫　毅（主任研究員）
43人参加
関連イベント
11 月 10 日　京都国立博物館　文化大使・竹下景子さんと行く特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」観覧ツアー
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展覧会「中国近代絵画と日本」
会　　期：平成 24 年 1 月 7 日(土)～2 月 26 日(日)(44 日間)
来館者数：13,286人(目標来館者数 20,000人・達成率66.4%)
陳列件数(うち指定品数)：226件(0件)
主 催 者：京都国立博物館
講 演 会：5回　　参加者数合計444人
・関連土曜講座
1月 7日　中国絵画の近代化と日本影響
西上　実（学芸部長）
74人参加

1月21日　東方芸術の奇葩―北京画院美術館 斉白石コレクションの研究と展示―
　　呉洪亮 氏（北京画院美術館斉白石紀念館館長））
　　81人参加
2月 4日　洋画における中国と日本の交流―近代上海を中心に―
　　陸偉榮 氏（早稲田大学講師）
　　57人参加
2月25日　海上画派と日本および西洋絵画の影響
　　單国霖 氏（上海博物館書画研究部主任）
　　82人参加

・国際シンポジウム
2月11日　「中国近代絵画の形成と日本」　　国立京都国際会館アネックスホール150人参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：京都国立博物館名品展「京都千年の美の系譜　―祈りと風景―」
会　　期：平成 23 年 10 月 22 日(土)～12 月 4 日(日)(39 日間)
会　　場：静岡県立美術館
来館者数：24,070人(目標来館者数 ―)
陳列件数(うち指定品数)：66件(33件)（国宝6、重文22、重美5)
主 催 者：静岡県立美術館、静岡第一テレビ　(特別協力：京都国立博物館)
講 演 会：2回

・関連特別講演会
11月13日　きらめく京都、きらめく近世の絵画
　　山下善也（連携協力室長）
11月19日　京都千年の美術 － そのかざりとかたち－
　　久保智康（企画室長）

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、公共放送等

展覧会名：京都国立博物館所蔵「典雅なる御装束　―宮廷のオートクチュール―」
会　　期：平成 23 年 10 月 1 日(土)～11 月 27 日(日)(50 日間)
会　　場：細見美術館
来館者数：12,023人(目標来館者数 ―)
陳列件数(うち指定品数)：34件(重美1件)
主 催 者：細見美術館、京都新聞社（特別協力：京都国立博物館)
講 演 会：1回

・関連ギャラリートーク
11月19日　山川　曉（主任研究員）

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：321日(名品展のみの開館日数：216日)
②陳列件数：1,092件
名品展
珠玉の仏像（なら仏像館）　164件
珠玉の仏教美術（西新館）　423件
中国古代青銅器（青銅器館）　256件
特別陳列等

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	初瀬にますは与喜の神垣	7月16日～8月28日	45件(重要文化財8件)
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術	12月6日～24年1月15日	62件(重要文化財7件)
特別陳列	お水取り	24年2月11日～24年3月18日	65件(重要文化財16件)
(新収蔵品展)	新収蔵品展	9月13日～10月2日	27件
特集展示	新たに修理された文化財	12月6日～12月25日	14件
特集展示	龍	12月27日～24年1月15日	18件(重要文化財6件、重要美術品1件)
特集展示	経典を写す・刻む・飾る	24年1月24日～24年2月19日	12件(国宝1件、重要文化財3件)
特集展示	東北の古瓦―泉官衙遺跡を中心に―	24年2月28日～24年3月18日	6件
特別公開	海住山寺本尊　十一面観音像	4月26日～9月11日	1件(重要文化財1件)
特別公開	東大寺法華堂　金剛力士像	22年7月22日～23年9月11日	1件(国宝1件)
特別公開	金剛寺　降三世明王坐像	10月4日～24年3月31日	1件(重要文化財1件)
特別公開	大和高田・弥勒寺　弥勒仏坐像	10月4日～24年1月29日	1件

③陳列替件数：481件

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「誕生！中国文明」

会　　期：4月5日(火)～5月29日(日)(49日間)
来館者数：35,679人(目標来館者数 50,000人・達成率 71.4%)
陳列件数(うち指定品数)：147件（中国国家一級文物63件）
主催：奈良国立博物館、読売新聞社、中国河南省文物局
講演会：4回　　参加者数合計　477人
イベント：1回　参加者数合計　134人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
4月16日	「中国古代の建築 -七層楼閣に見る明器の世界」	岩戸 晶子(学芸部研究員)	68人
4月30日	「中国文明の考古学」	岡村 秀典(京都大学教授)	186人
5月14日	「宝冠仏の系譜 -龍門石窟の彫像を中心に」	稲本泰生(学芸部企画室長)	103人
5月28日	「正倉院宝物と河南省の文物」	内藤　栄(学芸部長補佐)	120人

イベント等

期日	内容	出演	参加者数
4月29日	「葉衛陽＆さくら親子 中国琵琶競演」	葉衛陽（中国琵琶奏者） さくら（中国琵琶奏者）	134人

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：特別展「天竺へ　三蔵法師３万キロの旅」

会　　期：7月16日(土)～8月28日(日)(39日間)
来館者数：63,364人(目標来館者数 50,000人・達成率 126.7%)
陳列件数(うち指定品数)： 55件(国宝4件、重要文化財14件)
主催：奈良国立博物館、朝日新聞社
講演会：2回　　参加者数合計　381人
フォーラム：1回　参加者数合計　390人
ワークショップ：1回　参加者数合計　59人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
8月 6日	「高僧伝絵としての玄奘三蔵絵」	若杉 準治(京都国立博物館名誉館員)	194人
8月20日	「藤田傳三郎と藤田美術館 ―玄奘三蔵絵をはじめとするコレクションについて―」	前野 絵里(藤田美術館学芸員) 藤田 清 （　　〃　　）	187人

フォーラム

期日	内容	パネリスト	参加者数
7月23日	「玄奘三蔵フォーラム」	山田 法胤（薬師寺管主） 西山 厚（学芸部長） 滝田 栄（俳優）	390人

ワークショップ

期日	内容	参加者数
8月13日	「そんごくうのおはなし絵巻を作ろう！」	59人

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：特別展「第63回正倉院展」

会　　期：10月29日(土)～11月14日(月)(17日間)
来館者数：239,581人(目標来館者数 180,000人・達成率133.1%)
陳列件数：62件
主催：奈良国立博物館
講演会：4回　　参加者数合計 456人
シンポジウム：1回　参加者数合計 179人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
10月29日	「金銀鈿荘唐大刀と奈良時代の刀剣をめぐって」	原田 一敏（東京藝術大学・大学美術館教授）	145人
11月 3日	「正倉院宝物にみられる経帙をめぐって」	永井 洋之（学芸部研究員）	79人

11月 5日	「正倉院宝物にみる染め」	中村 力也 （宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）	86人
11月12日	「香と仏教」	清水　健（学芸部研究員）	146人

シンポジウム

期日	内容	パネリスト	参加者数
10月30日	正倉院学術シンポジウム2011 「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」	杉本 一樹（宮内庁正倉院事務所長） 魚住 和晃（神戸大学名誉教授） 渡辺 晃宏 （奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室長） 稲本 泰生（学芸部企画室長）	179人

広報媒体：ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数：　310 日(うち平常展のみ開館日数　100 日)
②陳列替件数：　1,373 件
③陳列総件数：　2,417 件(うち国宝　25 件　重要文化財　82 件)
④入場料金：　一般 420 円、大学生 130 円
⑤トピック展示・特別公開：全　13 件

トピック展示名称	「日本の建築をめぐって」				
開催期間	平成 23 年 1 月 21 日(金)～ 4 月 3 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	22 件（うち国宝 0 件、重文 0 件）
内容	日本の城郭建築、寺院建築などを建築模型を通じて紹介する。				

トピック展示名称	「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」				
開催期間	平成 23 年 4 月 12 日(火)～ 6 月 5 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 9・10・11 室	陳列件数（うち指定品件数）	日本側：56 件（うち国宝 2 件、重文 7 件、重要美術品 2 件）、タイ側：50 件
イベント等	講演会等 4 月 23 日　アクロス・文化学び塾「日本とタイ－ ふたつの国の巧と美」展講座　原田あゆみ（文化財課主任研究員）　26 人 5 月　1 日　講演会　「日本とタイ－ふたつの国の文化の違い」　赤木功（大阪外国語大学名誉教授）　40 人 5 月 14 日　講座「タイの仏（ほとけ）日本の仏」　原田あゆみ（文化財課主任研究員）　30 人 イベント等 4 月 30 日　ワークショップ　久留米絣の糸と腰機でコースターを織ってみよう！　14 人 5 月　5 日　微笑みの国からやってくる魅惑のタイ舞踊　340 人				参加者数
内容	日タイ共同の企画展。 先史時代の稲作分野や仏教美術、また両国の文化交流によってつくりだされた美術工芸品を紹介する。				

トピック展示名称	特別公開　国宝　琉球国王尚家関係資料　修理完成記念展示				
開催期間	平成 23 年 4 月 12 日(火)～ 5 月 22 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室第Ⅴテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	6 件（うち国宝 6 件、重文 0 件）
内容	平成 22 年度に当館にて修理完了した琉球国王尚家関係資料を、特別公開する。				

トピック展示名称	彫漆　漆に刻む文様の美				
開催期間	平成 23 年 6 月 14 日(火)～ 7 月 31 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	32 件（うち国宝 0 件、重文 0 件）
内容	東京国立博物館と九州国立博物館が所蔵する、彫漆の名品を一同に展示する。				

トピック展示名称	平戸オランダ商館会館記念　平戸－海外に開かれた港市－				
開催期間	平成 23 年 7 月 6 日(水)～ 8 月 15 日(月)	開催場所	文化交流展示室 関連展示 11 室	陳列件数（うち指定品件数）	50 件（うち国宝 0 件、重文 0 件）
内容	松浦史料博物館の所蔵品や、生月島のかくれキリシタン信仰物などを通して、平戸の長く多彩な海外交流の歴史を紹介する。				

トピック展示名称	斉明天皇と飛鳥				
開催期間	平成 23 年 7 月 20 日(水)～ 8 月 28 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示 8 室	陳列件数（うち指定品件数）	16 件（うち国宝 2 件、重文 0 件）
イベント等	シンポジウム等 7 月 30 日　全国縦断古代史講演会　第 16 回明日香村まるごと博物館フォーラム　300 人				参加者数

	「斉明天皇と飛鳥～牽牛子塚古墳の発掘から」 「最近の発掘成果と飛鳥の遺跡」　奈良県明日香村教育委員会主任技師　西光慎治 「うたと時代―斉明朝から―」　奈良大学教授　上野誠 「考古学からみた斉明天皇陵」　大阪府立近つ飛鳥博物館長　白石太一郎
内容	斉明天皇が繋いだ飛鳥と筑紫にゆかりのある出土品・歴史資料などを展示する。

トピック展示名称	インドの染織と細密画				
開催期間	平成23年8月3日(水)～ 9月11日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示9室	陳列件数(うち指定品件数)	17件(うち国宝0件、重文0件)
内容	インド・ムガル王朝時代に焦点をあて、17世紀から19世紀に制作された更紗と細密画をご紹介する。				

トピック展示名称	茶の湯を楽しむⅣ				
開催期間	平成23年9月14日(水)～ 10月23日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示9室	陳列件数(うち指定品件数)	38件(うち国宝0件、重文3件)
内容	中国や朝鮮半島、東南アジアやインド、西洋からもたらされ、茶道具として取り上げられた作品から、茶の湯に見える国際交流を紹介する。				

トピック展示名称	館蔵水墨画名品展				
開催期間	平成23年9月28日(水)～ 11月6日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示11室	陳列件数(うち指定品件数)	13件(うち国宝1件、重文2件)
内容	九博が所蔵する絵画のうち、日本・中国・韓国の水墨画から名品を選んで展示する。				

トピック展示名称	発掘された日本列島2011地域展　　九州最古の狩人とその時代				
開催期間	平成23年10月29日(土)～ 12月18日(日)	開催場所	文化交流展示室関連展示1室および基本展示第1テーマ	陳列件数(うち指定品件数)	31件(うち国宝0件、重文0件)
イベント等	ワークショップ 12月4日　「石の匠に学ぶ―石器作り体験―」				参加者数 38人
内容	旧石器時代の石器に焦点を当て、最新の旧石器資料や動物化石などから、狩猟を中心とする当時の人びとの暮らしを紹介する。				

トピック展示名称	京都・檀王法林寺開創400年記念　　琉球と袋中上人展―エイサーの起源をたどる―				
開催期間	平成23年11月1日(火)～ 12月11日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示9・10室	陳列件数(うち指定品件数)	36件(うち国宝0件、重文5件)
イベント等	講演会等 10月22日　アクロス・文化学び塾　事前レクチャー講座 「京都・檀王法林寺開創４００年記念　琉球と袋中上人―エイサーの起源をたどる―」　藤田励夫（保存修復室長） 11月13日　講演会「袋中上人とエイサー・檀王法林寺」 「檀王法林寺―京都と沖縄の架け橋になって―」　信ケ原雅文（檀王法林寺住職） 「袋中上人と檀王法林寺の宝物」　石川登志雄（伝統文化財保存研究所代表） 「エイサーの過去・現在・未来」　園原謙（沖縄県立博物館・美術館主幹） イベント 11月13日　うるま市無形民俗文化財「平敷屋エイサー」　平敷屋エイサー保存会				参加者数 21人 70人 800人
内容	檀王法林寺開創400年を記念して、はじめて琉球に浄土念仏を広めた袋中上人の事蹟に拠りつつ、日琉交流の歴史をたどる。				

トピック展示名称	九州大学百年の宝物				
開催期間	平成23年11月15日(火)～ 12月18日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示11室・ミュージアムホール・エントランス	陳列件数(うち指定品件数)	58件(うち国宝0件、重文0件)
内容	九州大学が誇る貴重な所蔵品の中から、選りすぐりの名品を一同に紹介する。				

トピック展示名称	新春特別公開　初音の調度				
開催期間	平成24年1月1日(日)～ 1月29日(日)	開催場所	文化交流展示室 アプローチ付近	陳列件数(うち指定品件数)	3件（うち国宝3件、重文0件）
内容	徳川美術館が所蔵する大名婚礼調度の最高傑作、「初音の調度」から3件を展示する。				

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「黄檗―OBAKU」

会期：　23年3月15日（火）～5月22日（日）（61日間）
会場：　九州国立博物館　特別展示室
主催：　九州国立博物館・福岡県、黄檗宗大本山萬福寺、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送
陳列品総件数：　142件（国宝　0件、重文　14件）
来館者数：　55,539人(23年度46,530人)（目標来館者数　30,000人・達成率185%）

入場料金：　一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
アンケート結果：満足度　88%
講演会等：　7回　参加者合計　572人

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
4月 9日	法話「黄檗再発見」 ～日本文化発展に果たした役割とその魅力～	住谷瓜頂師（黄檗山宝蔵院住職）	110人
4月10日	講演会「普茶料理講演会」	田谷昌弘師（元萬福寺典座）	100人
4月17日	講座「范道生と黄檗の仏像」	楠井隆志（展示課主任研究員）	42人
4月23日	講座「長崎と黄檗文化～興福寺を中心として～」	原田博二（長崎史談会会長）	180人
5月 3日	講座「黄檗肖像画と長崎のお絵像」	錦織亮介（北九州市立大学名誉教授）	35人
5月 7日	法話「黄檗の文人趣味について」	中村秀晴師（大阪瑞龍寺住職）	65人
5月15日	法話と座禅会「座禅と提唱」	松本普成師（長崎霊源院住職）	40人

イベント等

期日	イベント名	参加者
4月1日～5月22日	巡照朝課（じゅんしょうちょうか）	1,034人
4月 3日・10日・17日・24日・5月4日	茶席	968人
4月 3日・10日・17日・24日・5月3日～8日・15日	厄よけストラップ手づくり教室	157人
4月 3日	開山忌（かいさんき）	400人
4月 3日	蛇踊り	600人
4月16日	中国茶振る舞い	200人
4月16日	中国茶ミニ講座	47人
4月16日	瓢箪笛（ひょうたんぶえ）コンサート	200人
4月26日～5月8日	京の老舗　名産品展	40,000人
5月 1日	二胡コンサート	200人
5月 4日	声明（しょうみょう）「梵唄（ぼんばい）」	700人
5月15日	フルートコンサート「隠元禅師の夢ー瞑想のひととき」	140人

展覧会名：特別展「よみがえる国宝 - 守り伝える日本の美」

会期：　6 月 28 日（火）～8 月 28 日（日）（54 日間）
会場：　九州国立博物館　特別展示室
主催：　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州
陳列品総件数：　77 件（国宝　11 件、重文　18 件）
来館者数：　118,528 人（目標来館者数　40,000 人・達成率　296%）
入場料金：一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
アンケート結果：満足度　83%
講演会等：　12回　参加者合計　2,173人

記念講演会

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
7月 9日	特別展記念講演会　「日本のこころをつたえる一文化財の保存と修理―」（会場：新宮町）	藤田励夫（博物館科学課保存修復室長）	300人
7月17日	特別展記念講演会　「まもる、つたえる、その手法―文化財の修理と復元―」（会場：筑紫野市）	森田稔（副館長）	200人
7月23日	特別展講演会　守り伝える日本の宝		200人
	「寺宝を守り継ぐ一神護寺の歴史と宝物 」	谷内弘照（高野山真言宗遺迹本山高雄山神護寺貫首）	
	「冷泉家八百年―日本文化の継承―」	冷泉為人（（公財）冷泉家時雨亭文庫　理事長）	
7月24日	特別展記念講演会　「国宝のはなし」（会場：福岡市）	三輪嘉六（館長）	200人
7月30日	特別展記念講演会　「日本の宝をまもる、美をつたえる一文化財の保存と修理―」（会場：那珂川町）	本田光子（博物館科学課長）	250人

講座等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
7月2日	文化財保存交流セミナーⅠ		38人
	「曝涼はIPMのルーツ？-虫干しにかわるものは何か-」	本田光子（博物館科学課長）	
	「文化財害虫各論」	小峰幸夫（(公財)文化財虫害研究所）	
7月 8日	展示解説講座 ～しっとこ九博～ 『よみがえる国宝～守り伝える日本の美～』（会場：筑紫野市）	本田光子（博物館科学課長）	70人
7月31日	文化財保存交流セミナーⅡ　　日本の宝を守る、技とこころ		238人
	「展示作品の保存修理事例解説」		
	「彩色や刺繍糸、技法から見た天寿国繍帳の変遷」	澤田むつ代（東京国立博物館）	
	「神護寺山像の保存修理をめぐって」	岡岩太郎（国宝修理装潢師連盟理事長）	
	「文化財を守る技を継ぐ一北村大通の遺したもの一」	北村昭斎（漆芸家：重要無形文化財保持者・選定保存技術保持者）	
8月 6日	文化財保存交流セミナーⅡ　　日本の宝を守る、蔵を継ぐ		187人
	「展示作品の保存修理事例解説」		
	「宮内庁書陵部の資料管理」	中村一紀（宮内庁書陵部図書寮文庫）	
	「正倉院宝物の保存」	成瀬正和（宮内庁正倉院事務所）	
	「正倉院―一つの場所の物語―」	杉本一樹（宮内庁正倉院事務所長）	
8月 7日	文化財保存交流セミナーⅡ　　日本の宝を守る、美を伝える		255人
	「展示作品の保存修理事例解説」		
	「正倉院宝物の模造」	西川明彦（宮内庁正倉院事務所）	
	「皇室の名宝をまもる一皇后陛下の小石丸と修理事業の成果」	太田彩（宮内庁三の丸尚蔵館）	

	「茶陶修理と漆のわざ」	室瀬和美（漆芸家：重要無形文化財保持者）	
8月12日	NHKネットクラブ特別鑑賞会 「よみがえる国宝―まもり伝える日本の美」	本田光子（博物館科学課長）	125人
8月21日	文化財保存交流セミナーⅢ　日本の宝を守る、文化を伝える 「和本リテラシーのすすめ」	中野三敏（九州大学名誉教授）	110人

イベント等

期日	イベント名	参加者
7月 3日	トークショー「古美術のススメ～修復文化財に見る匠たち～」	250人
7月 9日、30日、8月13日	親子で楽しむバックヤードツアー「大きな博物館の探検！」	106人
8月21日	子どもイベント　「みて！さわって！！岩絵具のふしぎな世界」	40人
8月21日	ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！ 「江戸の本の虫たち―和本の扱い・観察・虫干し―」　講師：中野三敏（九州大学名誉教授）	40人
8月23日	ワークショップ　古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！ 「九博の杜の虫たち」	40人

展覧会名：特別展「草原の王朝　契丹　美しき3人のプリンセス」

会期：　9月27日（火）～11月27日（日）（54日間）
会場：　九州国立博物館　特別展示室
主催：　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＲＫＢ毎日放送、内蒙古博物院
陳列品総件数：　125件（中国・一級文物　45件）
来館者数：　75,880人（目標　60,000人・達成率 126%）
観覧料：一般　1,300円、高大生　1,000円、小中生　600円
アンケート結果：満足度　90%
講演会等：　6回　参加者合計　738人
記念講演会等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
10月16日	記念講演会「慶陵と慶州白塔―契丹・章聖皇太后の祈りと生涯」	古松崇志（岡山大学教授）	50人

講座等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
9月30日	ふるさと館ちくしの展示解説講座「契丹と日本」	市元塁（企画課研究員）	40人
10月 1日	特別展企画　契丹大学　秋季講座　第1回		161人
	「契丹文化への招待」	市元塁（企画課研究員）	
	「壁画から見た契丹社会」	臺信祐爾（文化財課長）	
10月 8日	特別展企画　契丹大学　秋季講座　第2回		145人
	「唐と契丹　華麗なる金銀器」	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	
	「奇跡の彩色木棺を救え！－日本・内モンゴルの共同保存事業」	今津節生（博物館科学課保存修復室長）	
10月10日	特別展企画　契丹大学　秋季講座　特別講義		195人
	「日本と契丹―11世紀の仏教遺産」	神居文彰（平等院住職）	
10月22日	特別展企画　契丹大学　秋季講座　第3回		147人
	「陶磁器が語る草原の王朝」	遠藤啓介（展示課研究員）	
	「蒼天にそびえる白亜の仏塔」	小泉惠英（企画課長）	

イベント等

期日	イベント名	参加者
10月 8,9,10日	契丹のいまを知る。（ゲル&衣装体験コーナー）	300人
10月 29日，30日	特別上映会　「楊家将伝記　兄弟たちの乱世」	340人

展覧会名：特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」

会期：平成 24 年 1 月 1 日（日）～3 月 4 日（日）（56 日間）
会場：　九州国立博物館　特別展示室
主催：　九州国立博物館・福岡県、財団法人永青文庫、NHK 福岡放送局、NHK プラネット九州、西日本新聞社
陳列品総件数：　232 件（国宝　8 件、重要文化財　25 件、重要美術品　18 件）
来館者数：　113,290 人（目標来館者数　70,000 人・達成率　162%）
入場料金：　一般　1,300 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
アンケート結果：満足度　83%
講演会等：7回　参加者合計　1,253人
記念講演会

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
24年1月22日	記念講演会「細川家　美と戦いの700年」	細川護熙（永青文庫理事長・細川家18代当主）	300人

講座等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
24年1月27日	展示解説講座 ～しっとこ九博～ 『細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション～』（会場：筑紫野市）	川畑憲子	72人
24年1月28日	講演会「細川家と永青文庫の名品」	竹内順一（永青文庫館長）	170人
24年2月12日	講演会「どこが見どころ？細川家の至宝展」	川畑憲子（企画課研究員） 酒井芳司（展示課研究員）	244人

地域講演会

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
24年1月15日	講演会（会場:えーるピア久留米（久留米市））	川畑憲子（企画課研究員）	172人
24年1月29日	講演会（会場:メイトム宗像（宗像市））	酒井芳司（展示課研究員）	123人

24年2月11日	講演会（会場:北九州市立商工貿易会館（北九州市））　川畑憲子（企画課研究員）	172人

イベント等

期日	イベント名	参加者
24年1月 8日	ワークショップ「剣豪・宮本武蔵になろう！」 講師：宮田和宏（細川家伝統兵法二天一流第11代継承者）	62人
24年1月 9日	「聴いて見て楽しむ、細川展と能」 講師：白坂保之氏、森田徳和氏、幸正悟氏ほか	300人
24年1月29日、2月19日	くまモンin九州国立博物館	1,050人

(3)海外展

展覧会名：文化庁海外展「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」

会期：12 月 20 日（火）～平成 24 年 2 月 19 日（日）（51 日間）
会場：　韓国国立中央博物館
主催：　九州国立博物館・福岡県、文化庁、滋賀県、韓国国立中央博物館
陳列品総件数：　59 件（うち国宝　4 件、重文　31 件）
来館者数：　52,316 人
入場料金：　無料
講演会等：　1回　参加者合計　150人

講座等

期日	講演会名	講師（所属）	参加者
24年2月7日	講演会 「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」 （会場：韓国国立中央博物館）	井上ひろ美（琵琶湖文化館） 根立研介（京都大学教授）	150人

(参考)

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

開館日数：291日（平常展のみの開館日数：202日）　陳列件数：656件　陳列替回数：1回
ガイダンスコーナー開館日数：244日
平常展のみの来館者数：80,353人
入場料金：無料

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：春期企画展「発掘速報展　平城　2009･2010」

会　期：23年2月19日(土)～5月8日(日)　(69日間。23年度：34日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：104件（0件）
来館者数：38,127人　(23年度：24,238人)
入場料金：無料
アンケート結果：満足度90%（無回答を除く）
講演会等：ギャラリートーク11回・参加者数合計294人(23年度：5回・156人)

展覧会名：秋期企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」

会　期：23年10月18日(火)～11月27日(日)　(36日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：71件（21件）
来館者数：20,120人
入場料金：無料
アンケート結果：満足度92%（無回答を除く）
講演会等：ギャラリートーク3回（10月23日、11月6日、11月20日）

展覧会名：春期企画展「発掘速報展　平城　2011／文化財レスキュー展」

会　期：24年3月10日(土)～5月27日(日)　(68日間。23年度：19日間)
来館者数：（23年度：7,584人）
※24年度評価にて実績報告を行う。

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：192日　陳列件数：99件　陳列替回数：4回

②特集陳列等　7件

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
キトラ古墳壁画2004ﾌｫﾄﾏｯﾌﾟ映像を公開	23年3月10日～5月31日	
東北日本太平洋沖地震被災文化財レスキュー事業活動報告	23年7月25日～	
藤原宮造営期の馬の骨に認められる骨病変 （「紀要2011」より研究報告）	23年7月27日～	骨1件（0件）
坂田寺SK160出土の地鎮具（「紀要2011」より研究報告）	23年3月10日～	銭80件、土器4件、金銅製金具1件 金箔土壌の剥取り1件（0件）
【速報展】		
水落遺跡	22年12月8日～23年7月25日	瓦1件、銅管1件（0件）
水落遺跡(165次西区)	23年7月28日～	瓦1件、銅管1件（0件）
檜隈寺周辺　瓦組暗渠遺構	23年1月18日～7月25日	瓦8件（0件）

入場料金：無料
来館者数：2,971人

【飛鳥資料館】

(1)平常展

開館日数：319日（平常展のみの開館日数：167日）　陳列件数：350件　陳列替回数：0回
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
平常展のみの来館者数：16,283人

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：春期特別展「星々と日月の考古学」
会　期：23年4月16日(土)～5月29日(日)　(44日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：13件（0件）
来館者数：10,679人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：１回　参加者数合計　160人

期日	講演会名	講師(所属)
5月14日	「星々と日月の考古学」	加藤真二（奈良文化財研究所 飛鳥資料館 学芸室長） 相馬秀廣（奈良女子大学教授）

展覧会名：夏期企画展「鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―」
会　期：　23年8月2日(火)～9月4日(日)　(30日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：246件（0件）
来館者数：3,047人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：０回

展覧会名：秋期特別展「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」
会　期：　23年10月14日(金)～　11月27日(日)　(45日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所、奈良県立橿原考古学研究所、明日香村教育委員会
陳列件数（うち指定品数）：400件（10件）
後　援：朝日新聞社、ＮＨＫ奈良放送局
来館者数：10,454人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：1回　参加者数合計102 人

期日	講演会名	講師(所属)
11月6日	「飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―」	木下正史（東京学芸大学名誉教授） 相原嘉之（明日香村教育委員会文化財課調整員）

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学2011」
会　期：　24年1月20日(金)～2月26日(日)　(33日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所、明日香村、奈良県立橿原考古学研究所
陳列件数（うち指定品数）：200件（0件）

来館者数：2,016人
入場料金：一般260円（170円）　大学生130円(60円)　高校生および18歳未満は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：０回

b ボランティア受入れ実績

1　受入人数

平成24年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
848人	169人	64人	87人	355人	173人

2　活動内容

【東京国立博物館】　計　169人

種別　（登録人数）	概　　要
生涯学習ボランティア （163人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「写楽に挑戦！」実施 （平成23年5月1日～6月12日） ・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう！」実施（平成23年4月5日～4月30日、6月14日～平成24年3月31日） ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（6回） ・一般向けワークショップ補助（4回） ・制作工程模型展示鑑賞補助　（通年） ・列品解説、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) 【館内案内】 ・本館（1階エントランス、2階、17室、20室みどりのライオン紹介コーナー　通年実施） ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導 【資料印刷・作成】 ・パンフレット「日本美術の流れ」日本語版の印刷（通年） ・ハンズオン体験コーナーリーフレットの印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：24校　生徒数：104人　（中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（18名） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(36冊) ・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアー（毎月1回実施） ・ボランティアによるガイドツアー「本館ハイライトツアー」において手話通訳付ガイドツアー実施（1回） ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用（通年） ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施補助（通年） 【各種連携事業】 ・「留学生の日」(10月6日)内プログラム　ボランティアによる応挙館茶会，法隆寺宝物館ガイド、浮世絵ガイド、考古ガイド、陶磁ガイド、英語ガイドの実施，館内案内 【ボランティアデー開催】 ・新規ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、各ガイドツアー、お茶会、ワークショップの実施（12月3・4日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施　459回11,815人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数） ・樹木ツアー　35回　734人参加 ・浮世絵ガイド　48回 1,219人 ・本館ハイライトツアー　57回 2,017人 ・法隆寺宝物館ガイド　54回 1,438人 ・考古展示室ガイド　37回　849人 ・陶磁ガイド　25回　572人 ・庭園茶室ツアー　25回　562人 ・お茶会　29回　808人 ・彫刻ガイド　40回　909人 ・英語ガイド　37回 1,161人(留学生の日の定点ガイド含む) ・こどもたちのアートスタジオ　10回　144人 ・たてもの散歩ツアー　48回 1,075人 ・たんけんマップツアー　3回　82人 ・庭園茶室ツアー・お茶会合同企画　9回　126人 ・基本活動紹介ツアー　2回　119人

種別 （登録人数）	概　要
東京芸術大学学生ボランティア (6人)	当館研究員と東京藝術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク班】5名 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計30回、821人】 真言密教と一木造－観心寺聖観音立像－　6回、186人 ガラス器にみる西と東－重要文化財・白瑠璃碗と国宝・文禰麻呂骨壺の比較を通じて―　6回、159人 古瀬戸のやきものにみる日本らしさ―日本が選んだもの・選ばなかったもの―　6回、129人 横山大観「五柳先生」－亡き友に捧ぐ金屏風－」　6回、187人 橋口五葉「髪梳る女」－新しい浮世絵美人－」　6回、160人 【制作工程模型班】1名 古典的制作技法に着目し、当館所蔵品「紅白芙蓉図」の制作工程模型制作のための調査を行った。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計39回
- ・新規ボランティア研修　2回
- ・基本活動関連研修会　4回
- ・表慶館トラベル関連研修　3回
- ・バリアフリー班研修　5回
- ・イベント班研修　2回
- ・ワークショップ班研修　　7回
- ・各種自主企画グループ研修　16回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】（以下の展示等につき実施）　計6回
- ・VRシアター「東大寺　大仏の世界」1回
- ・VRシアター「DOGU　縄文人が込めたメッセージ」1回
- ・特別展「空海と密教美術展」1回
- ・特別展特別展「法然と親鸞」1回
- ・特集陳列「天翔ける龍」1回
- ・特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」1回

【京都国立博物館】　計64人

種　別 （登録人数）	概　要
京都橘大学学生によるアンケートボランティア(18人)	京都橘大学との学術協定に基づき、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施した。 (10月18日から11月11日までの毎週火・水・金曜日)
調査・研究支援ボランティア (22人)	当館研究員が行う収蔵品調査・社寺調査等の調査・研究業務を支援した。
文化財ソムリエ(14人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアが、当館研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において講師をつとめた。（6月13日紫明小学校、7月13日納所小学校、10月3日金閣小学校、10月31日新洞小学校、11月28日蜂ヶ岡中学校、11月30日鷹峯小学校、12月19日一橋小学校）また、建仁寺で23年3月から4月にかけて行われた「綴プロジェクト作品展」（NPO法人京都文化協会主催）にて、キッズプログラム（4月4日）の講師をつとめた。
京都・らくご博物館学生ボランティア (10人)	年2回当館主催で開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計87人

種　別 （登録人数）	概　要
解説ボランティア（79人）	・展示会場での作品解説　　延べ 241日 ・学校団体グループ案内(事前予約受付分　平常展、特別陳列のみ) 27件、1,341人 ・その他団体グループ案内(事前予約受付分　平常展、特別陳列のみ) 25件、　653人 ・講堂での作品解説(正倉院展のみ)　　88回(１日4～7回) ・公開講座、サンデートーク等の支援　21回 ・世界遺産学習の対応　34校、2,182人
イベントボランティア(8人)	・当館主催のイベントで受付、会場整理、誘導等を担当　9回

【九州国立博物館】　計　355人

種　別 （登録人数）	概　要
展示解説ボランティア (84人)	文化交流展示室での案内、及び？ボックスや展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア (48人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内ボランティア (31人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語通訳ボランティア (89人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド、バックヤードツアーの案内、及び 文化交流展示室での展示物解説を行う。

種　別　(登録人数)	概　　要
環境ボランティア (38人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (10人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (20人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア (25人)	ボランティア広報紙の作成や他部会のボランティアの活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (10人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

・この他、地域の手話ボランティアグループ34名が障がい者対応として活動。
(研修)全体研修3回、部会別研修40回、グループ研修27回
(対応来館者数)展示解説(11,316人)、館内案内(6,738人)、バックヤードツアー(3,082人)

【奈良文化財研究所】　計173人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア (173人)	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館秋期企画展示研修　3回
〃　　春期企画展示研修　1回
講演形式専門研修　2回
臨地ガイド研修　1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
209 人	78 人	16 人	21 人	20 人	21 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	119 人	60 人		59 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	12 人				

【東京国立博物館】16人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	施　遠	中国	上海博物館　工芸研究部　副研究員	東京国立博物館・上海博物館間の学術交流および研究推進のため	4月5日～12日
2	顧　玉才	中国	国家文物局副局長	特別展「甦る中国大文明展」(仮称)打ち合わせおよび視察のため	9月5日～10日
3	王　軍	中国	中国文物交流中心　主任	同上	同上
4	何　暁雷	中国	国家文物局博物館及び社会文物司博物館処　副処長	同上	同上
5	劉　大明	中国	国家文物局督察司督察処　副処長	同上	同上
6	李　微	中国	中国文物交流中心	同上	同上
7	金　恩珍	韓国	大韓民国国立中央博物館国際交流広報課主務官	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流および研究推進のため	10月25日～11月5日
8	張　恩晶	韓国	大韓民国国立中央博物館遺物管理部学芸研究員	同上	11月7日～20日
9	陳　麗華	中国	故宮博物院　副院長	北京故宮展にかかる意見交換および会場視察	11月7日～12日
10	丁　孟	中国	故宮博物院古器物部副主任	同上	同上
11	王　燕晋	中国	計画財務処副処長	同上	同上
12	馬　海軒	中国	外事処幹部	同上	同上
13	余　輝	中国	故宮博物院科学研究処処長	特別展「北京故宮博物院200選」にかかる国際シンポジウムでの研究発表および意見交換のため	24年1月5日～9日
14	陳　韻如	台湾	(台北)故宮博物院書画処副研究員	同上	同上
15	曹　星原	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学助教授	同上	24年1月5日～8日
16	マシュー・マッケルウェイ	アメリカ合衆国	コロンビア大学准教授	同上	24年1月7日

【京都国立博物館】　21人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	陶為衍 Tao Weiyan	中国	上海　作品出品者	「中国近代絵画と日本」展 作品随伴、開梱チェック	12月18日～22日
2	林毓貞 Lin Yuzhen	中国	上海　作品出品者	同上	同上
3	區碧鴻 Ms. Au Pikhung	中国	香港芸術館　学芸員	同上	12月19日～22日
4	孫 峰 Ms. Sun　feng	中国	上海博物館文化交流室　副研究員	同上	12月23日～28日
5	司徒元傑 Mr. YUENKIT SZETO	中国	香港芸術館　館長	「中国近代絵画と日本」開会式出席、出品作品展示状況チェック、作品調査	24年1月4日～7日
6	王 新華 Ms. Wang Xinhua	中国	上海劉海粟美術館党支部書記兼任副館長	同上	24年1月4日～9日
7	李天垠 Mr. Li Tian yin	中国	北京故宮博物院　館員	同上	同上
8	Peter Y K Lam	中国	香港中文大学文物館　館長	「中国近代絵画と日本」開会式出席、出品作品展示状況チェック、作品調査	24年1月5日～8日
9	徐　鎔 Mr. Xu Rong	中国	上海劉海粟美術館　一級美術師	出品作品展示環境確認	24年1月12日～17日
10	呉 洪亮 Mr. Wu Hongliang	中国	北京画院美術館斉白石紀念館館長	土曜講座講師、作品調査	24年1月19日～25日
11	Michaela Pejcochova	チェコ共和国	プラハ・ナショナルギャラリー研究員	国際シンポジウム研究発表、作品調査	24年2月8日～16日
12	李　偉銘 Mr. Li Weiming	中国	広州美術学院研究員	国際シンポジウム研究発表、作品調査	24年2月9日～15日

13	李　超 Mr. Li Chao	中国	上海大学教授	国際シンポジウム研究発表、作品調査	24年2月9日～16日
14	單 国霖 Mr. Shan Guolin	中国	上海博物館書画研究部主任	土曜講座講師、出品作品展示状況チェック、作品調査	24年2月20日～25日
15	陶喩之 Mr. Tao Yuzhi	中国	上海博物館書画研究部　研究員	作品展示状況チェック、作品梱包立ち会い、作品随伴	24年2月24日～29日
16	張潔 Ms. Zhang Jie	中国	上海博物館文化交流弁公室助理館員	同上	同上
17	戴左海 Mr. Dai Zuohai	中国	劉海粟美術館総務部副主任	同上	同上
18	沈婷婷 Ms. Shen Tingting	中国	劉海粟博物館典蔵部　文博館員	同上	同上
19	傅東光 Mr. Fu Dongguang	中国	北京故宮博物院　学芸員	作品展示状況チェック、作品梱包立ち会い	24年2月25日～3月1日
20	區碧鴻 Ms. Au PikhungTwiggy	中国	香港芸術館　学芸員	作品展示状況チェック、作品梱包立ち会い、作品随伴	24年2月26日～29日
21	Genevieve Lacambre	フランス	所属機関なし	内外伝世品の調査ならびに比較に基づく京都製蒔絵の歴史的研究	24年3月5日～17日

【奈良国立博物館】　延べ　20人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	辛　龍飛	韓国	国立慶州博物館	当館との学術交流	7月20日～8月19日
2	郭　青生	中国	上海博物館	同上	9月13日～9月22日
3	陳　菁	中国	上海博物館	同上	同上
4	夏　蓓蓓	中国	上海博物館	同上	同上
5	朴　禎雨	韓国	国立慶州博物館	同上	11月29日～12月26日

・その他招へい

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
6	朱　佩	中国	洛陽龍門石窟研究院	中国文明展の作品検品及び展示作業立会	3月26日～4月6日
7	任　磊	中国	河南省平頂山市葉県文化局	同上	同上
8	劉　暁紅	中国	河南省文物考古研究所	同上	同上
9	尤　志遠	中国	河南省文物局	同上	同上
10	張　文軍	中国	河南博物院	中国文明展の開会式出席及び視察	4月1日～4月7日
11	李　玉東	中国	河南省文物局	同上	同上
12	任　暁紅	中国	鄭州市文物局	同上	同上
13	王　永興	中国	洛陽龍門石窟世界文化遺産園区管委会	同上	同上
14	王　綉	中国	洛陽博物館	同上	同上
15	李　景増	中国	商丘市文物局	同上	同上
16	胡　永慶	中国	河南省文物考古研究所	中国文明展の作品検品及び撤収作業立会	5月30日～6月8日
17	張　玉芳	中国	河南省落葉博物館	同上	同上
18	郭　桂玲	中国	河南省済源博物館	同上	同上
19	李　栄勲	韓国	国立慶州博物館	第６３回正倉院展視察及び意見交換	10月27日～10月29日
20	裴　泳一	韓国	国立慶州博物館	第６３回正倉院展視察及び意見交換	10月27日～10月29日

【九州国立博物館】　延べ　21人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
1	Somlux Khamtrong	タイ	文化省芸術局博物館部学芸員	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」にかかる展示作業	4月4日～4月15日	他機関負担
2	Booncharoen Homelakhon	タイ	文化省芸術局考古部	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」にかかる展示作業	4月4日～4月15日	他機関負担
3	Wiparat Prasitarchip	タイ	文化省芸術局博物館部	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」にかかる展示作業	4月6日～4月15日	他機関負担
4	Anandha Chuchoti	タイ	文化省芸術局国立博物館部長	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」にかかる開会式および交流事業協議会出席	4月6日～4月15日	他機関負担
5	Amara Srisuchat	タイ	文化省芸術局専門調査官	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」にかかる開会式および交流事業協議会出席	4月10日～4月13日	他機関負担
6	Mano Kleebthong	タイ	チャンタラカセーム国立博物館主任	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」にかかる開会式および交流事業協議会出席	4月10日～4月13日	他機関負担
7	Tossaporn Srisamarn	タイ	バーンチェン国立博物館主任	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」にかかる開会式および交流事業協議会出席	4月10日～4月13日	他機関負担
8	Pramote Phoodee	タイ	文化省芸術局博物館部	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」にかかる撤収作業	6月5日～6月10日	他機関負担
9	Chalit Singhasiri	タイ	文化省芸術局保存修復部	アジア友好日本古美術帰国展「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」にかかる撤収作業	6月5日～6月10日	他機関負担

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
10	李　源福	韓国	国立中央博物館・学芸研究室長	平成23年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	11月2日～11月6日	他機関負担
11	オーエン・エドワード・ケリー	イギリス	大英博物館・日本絵画保存修理技術者	在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業	11月2日～11月30日	他機関負担
12	青　格勒	中国	巴林右旗博物館・副館長	特別展「草原の王朝　契丹」にかかる展示指導及び学術交流	11月26日～12月5日	他機関負担
13	Vu Quoc Hien	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館・副館長	平成25年度開催予定の展覧会に係る協議及び学術交流	24年2月28日～3月3日	他機関負担
14	Nguyen Quoc Binh	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館・展示課長	平成25年度開催予定の展覧会に係る協議及び学術交流	24年2月28日～3月3日	他機関負担
15	閔　丙贊	韓国	国立中央博物館・展示課長	国際シンポジウム「百済文化と古代日本～百済研究の新展開」出演	24年3月9日～3月11日	他機関負担
16	李　炳鎬	韓国	国立中央博物館・学芸研究官	国際シンポジウム「百済文化と古代日本～百済研究の新展開」出演	24年3月9日～3月11日	他機関負担
17	金　鍾萬	韓国	国立全州博物館・学芸研究室長	国際シンポジウム「百済文化と古代日本～百済研究の新展開」出演	24年3月9日～3月11日	他機関負担
18	王　奇志	中国	南京博物院・院長助理	平成23年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	24年3月19日～3月22日	他機関負担
19	陳永志	中国	内蒙古文物考古研究所所長	「九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設」にかかる共同調査	24年3月18日～3月25日	科学研究費
20	于宝東	中国	内蒙古博物院研究員	「九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設」にかかる共同調査	24年3月18日～3月25日	科学研究費
21	範　奕瑩	中国	呼和浩特博物館内蒙古壁画保護中心・非常勤職員	紙文化財の保存・修理に関する研修	23年4月25日～24年3月30日	他機関負担

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　60人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Adele Schlombs アデーレ・シュロンプス	ドイツ	ケルン東洋美術館 館長	平成２３年度在外事業に関する協議	5月8日～5月16日
2	Venkatachalam Chandrapandian ヴェンカタチャラム・チャンドラパンディアン	インド	インド考古局科学部ファルダプルフィールド研究室 考古化学監査官代理	「アジャンター壁画の保存修復にむけた専門家会議」の開催、日本・インド事業の打合せおよび遺跡保存に関する意見交換	7月23日～7月28日
3	ABDOLLAHI Parisa アブドゥライ・パリサ	イラン	テヘラン　アザッド大学 講師	国際研修「紙の保存と修復」	8月28日～9月17日
4	KEMPAIAH PUTTASWAMY Madhu Rani ケンパイア・プッタースワーミー・マドゥ・ラニ	インド	インド芸術・文化遺産ナショナルトラスト 保存修復技術者	同上	同上
5	BOUDALIS Georgios ブーダリス・ゲオルギオス	ギリシャ	ビザンチン文化博物館 本・紙保存修復技術者	同上	同上
6	CRESPO Luis クレスポ・ルイス	スペイン	スペイン国立図書館 本・紙保存修復主任技術者	同上	同上
7	GINDROZ Florane ジャンドロ・フロラヌ	スイス	ジュネーブ図書館 修復家/保存修復技術者	同上	同上
8	ODOR CHAVEZ Alejandra オドール・チャベス・アレハンドラ	メキシコ	メキシコ国立公文書館 紙保存修復技術者	同上	同上
9	SNITKUTE Daiva スニトクテ・ダイヴァ	リトアニア	ミカロユス・ コンスタンティナス・チュルリオーニス国立美術館 紙保存修復技術者	同上	同上
10	STIGLITZ Marinita スティグリッツ・マリニタ	イギリス	オックスフォード大学ボドリアン図書館 紙保存修復技術者	同上	同上
11	WITKOWSKA Monika ヴィトコヴスカ・モニカ	フランス	パリ第一大学 学生	同上	同上
12	MAHEUX Anne Frances マウ・アン・フランセス	カナダ	カナダ国立図書館公文書館 紙保存修復技術者	同上	同上
13	Bettina Niekamp ベッティーナ・ニーカンプ	スイス	アベック財団 染織修復長	第３５回文化財の保存および修復に関する国際研究集会における講演	9月2日～9月7日
14	Sharon Sadako Takeda シャローン・サダコ・タケダ	アメリカ	ロサンゼルスカウンティー美術館　染織・服飾部門 部長／上級学芸員	同上	同上
15	Anna Jackson アンナ・ジャクソン	イギリス	ヴィクトリア・アルバート美術館 アジア部門 学芸員	同上	同上
16	Henri Simon アンリ・シモン	フランス	国境なき文化遺産 代表	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産を危機から救え～緊急保存の現場から～」における講演	10月14日～10月19日
17		アフガニスタン		文化庁「専門家招へい事業」による招へい （ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議出席）	12月4日～12月8日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
18		アフガニスタン		ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議および一般公開シンポジウムにおける講演	12月4日～12月13日
19		アフガニスタン		同上	12月5日～12月13日
20		アフガニスタン		ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議における講演	12月5日～12月9日
21		アフガニスタン		同上	同上
22		アフガニスタン		同上	同上
23		アフガニスタン		同上	同上
24		アフガニスタン		同上	同上
25		アフガニスタン		ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議	12月5日～12月9日
26	Erwin Emmerling エルウィン・エメリング	ドイツ	ミュンヘン工科大学保存科学部 教授	同上	同上
27	Claudio Margottini クラウディオ・マルゴッティーニ	イタリア	イタリア保護環境研究所・イタリア地質研究所・モデナ大学所属工学地質学者、イタリア環境大臣顧問水文地質学的リスク担当	同上	同上
28	Zemaryalaï Tarzi ゼマリアライ・タルズィ	フランス	ストラスブール大学 教授	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議および一般公開シンポジウムにおける講演	12月5日～12月10日
29	Michael Petzet マイケル・ペツェット	ドイツ	ドイツICOMOS 会長	同上	12月5日～12月13日
30	Georgios Toubekis ゲオルギオス・トゥベキス	ドイツ	アーヘン工科大学・アーヘン情報管理保存センター 研究員	同上	同上
31	Michael Jansen マイケル・ヤンセン	ドイツ	アーヘン工科大学都市史学部 教授	同上	同上
32	Mounir Bouchenaki ムニール・ブシュナキ	イタリア	イクロム 所長	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バーミヤン遺跡保存事業」にかかる第１０回専門家会議	12月6日～12月7日
33	Nguyen Hong Anh グエン・ホン・アイン	ベトナム	ハノイ古城コーロア遺跡保存センター 管理人事課長	ユネスコ日本信託基金「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」にかかるベトナム人管理スタッフのための海外スタディーツアー	24年1月12日～1月17日
34	Vu Thieu Hoaブ・チエウ・ホア	ベトナム	ハノイ古城コーロア遺跡保存センター　情報コミュニケーション課次長	同上	同上
35	Alfitri アルフィトリィ	インドネシア	アンダラス大学 社会政治学部長	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）にかかる我が国の文化遺産防災対策についての意見交換及び現場視察	24年1月19日～1月25日
36	Roseri Rosdy Putri ロゼリ・ロスディ・プトリィ	インドネシア	歴史考古総局 修復課長	同上	同上
37	Rita Maria Rosari リタ・マリア・ロザリ	インドネシア	歴史考古総局 水中考古学および植民地期担当局保存課長	同上	同上
38	Rohilfa Riza ロフィルファ・リザ	インドネシア	バトゥサンカル遺跡保存事務所 修復課 職員	同上	同上
39	Soni Prasetia Wibawa ソニ・プラセチア・ウィバワ	インドネシア	セラン考古遺産事務所 技官	煉瓦造文化財の保存に関する共同研究	24年1月30日～2月4日
40	Saneh　Mahaphol サネー・マハポル	タイ	タイ国立博物館保存科学部門 保存担当官	同上	同上
41	Chaiyanand　Busayarat チャイヤナンド・ブサヤラット	タイ	アユタヤ歴史公園 部長	同上	同上
42	Nguyen Tien Hung グエン・ティエン・フン	ベトナム	ベトナム社会科学院都城研究センター 研究員	ユネスコ日本信託基金「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」にかかる保存科学研修	24年1月30日～2月11日
43	Le Dinh Ngoc レ・ディン・ゴック	ベトナム	ベトナム社会科学院都城研究センター 研究員	同上	同上
44	Volker Koesling フォルカー・キースリング	ドイツ	ドイツ技術博物館 修復部門責任者	平成２３年度近代文化遺産研究室研究会「近代建築に使用されている油性塗料に関して」における講演	24年2月7日～2月11日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
45	Regina Ng Bélard レジーナ・Ng・ベラルド	アメリカ	フリーアギャラリーとアーサー・M・サックラーギャラリー、スミソニアン 保存修復技術者	海外における日本の装こう修理技術利用に関する研究会講演、調査研究および視察	24年2月14日～2月17日
46	Luis Crespo ルイス・クレスポ	スペイン	スペイン国立図書館 本・紙保存修復主任技術者	同上	24年2月14日～2月18日
47	Yelena Levon Atoyants イェレナ・レヴォン・アトヤンツ	アルメニア	アルメニア歴史博物館 博物館遺物修復室長	文化庁「アジア博物館,美術館交流事業」による招へい （アルメニア歴史博物館所蔵の金属遺物の保存修復・調査研究事業にかかる意見交換）	24年2月26日～3月3日
48	丁　淑君 Shujun Ding　ディン・シュジュン	中国	敦煌研究院保護研究所 館員	諸外国の文化財保存専門家養成	24年2月27日～3月20日
49	于　宗仁 Zongren　Yu　ユー・ゾンレン	中国	敦煌研究院保護研究所 館員	同上	同上
50	孫　勝利 Shengli Sun　スン・シォンリー	中国	敦煌研究院保護研究所 館員	同上	同上
51	Melanie Trede メラニー・トレーデ	ドイツ	ハイデルベルグ大学 教授	八幡縁起絵巻に関する講演会および部内討議への参加	24年3月2日～3月9日
52	Galbadrakh Enkhbat ガルバドラフ・エンフバット	モンゴル	モンゴル国立文化遺産センター センター長	石質文化財保存に関する遺跡現地での活動に関する研究会および今後についての協議、情報交換	24年3月9日～3月15日
53	Samdan Chinzorig サムダン・チンゾリグ	モンゴル	モンゴル国立文化遺産センター 文化遺産修復保存室長	同上	同上
54	Byambasuren Davaatseren ビャムバスレン・ダヴァーツェレン	モンゴル	モンゴル国立文化遺産センター 不動産文化財専門家	同上	同上
55	Nguyen Tien Hung グエン・ティエン・フン	ベトナム	ベトナム社会科学院都城研究センター 研究員	ユネスコ日本信託基金「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」にかかる出土木材遺物の保存手法に関する意見交換および日本国内における遺構保存事例、博物館展示事例等の視察	24年3月12日～3月20日
56	Le Dinh Ngoc レ・ディン・ゴック	ベトナム	ベトナム社会科学院都城研究センター 研究員	同上	同上
57	Mark Woodward マーク・ウッドワード	フィリピン	世界銀行 サステイナブルディベロップメントリーダー	文化遺産国際協力コンソーシアム第10回研究会「文化遺産保護の国際動向」における講演	24年3月14日～3月17日
58	Ainura Tentieva アイヌラ・テンティエヴァ	キルギス	キルギス・イコモス専門家	［キルギス共和国及び中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」にかかる「キルギスの文化遺産」研究会および来年度以降の打合せ	24年3月14日～3月19日
59	Bakyt Amanbaeva バキット・アマンバエヴァ	キルギス	キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所 文化遺産研究部長	同上	同上
60	Aidai Sulaimanova アイダイ・スレイマノヴァ	キルギス	キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所 研究員	同上	同上

【奈良文化財研究所】延べ59人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	銭　国　祥	中国	中国社会科学院考古研究所・洛陽站長	日本考古学協会で発表	5月27日～5月30日
2	王　睿	中国	中国社会科学院考古研究所・助理研究員	同上	同上
3	孫　英民	中国	河南省文物局・副局長	国際共同研究	10月18日～10月27日
4	孔　徳超	中国	河南省文物考古研究所・副所長	同上	同上
5	楊　文勝	中国	河南省文物考古研究所・所長助理	同上	同上
6	武　志江	中国	河南省文物考古研究所・館員	同上	同上
7	宋　智生	中国	河南省文物考古研究所・館員	同上	同上
8	権　宅章	韓国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	発掘調査交流	10月24日～12月2日
9	銭　国　祥	中国	中国社会科学院考古研究所・洛陽站長	共同研究にかかる打ち合わせ及び講演	平成24年2月27日～3月4日
10	朱　岩　石	中国	中国社会科学院考古研究所・漢唐考古研究室主任	同上	同上
11	汪　盈	韓国	中国社会科学院考古研究所・漢唐考古研究室主任	同上	同上
12	Do Thi Ngoc Bic	ベトナム	ベトナム林業大学・工科国際部副部長	文化財保存に関する共同研究	平成24年3月12日～3月20日
13	Le Xusan Phuong	ベトナム	ベトナム林業大学・林産試験センター長	同上	同上
14	Thavy Saronich	カンボジア	王立芸術大学卒業生	共同研究	平成24年3月20日～3月28日
15	Khom Polin	カンボジア	王立芸術大学卒業生	同上	同上
16	Lam Socheata	カンボジア	王立芸術大学卒業生	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
17	韓国国立文化財研究所長　　他５名	韓国	韓国国立文化財研究所	研究施設見学	4月11日～4月14日
18	B.ルーシュ	アメリカ	コロンビア大学	コロンビア大学中世日本研究所および建築・計画・保存大学院との共同研究覚書締結	4月22日
19	インドネシア　3名	インドネシア		ACCU個人研修「木造建造物の保存・修復」	7月5日～8月4日
20	Dr.Tarek El Awady	エジプト	エジプト博物館館長	表敬訪問と研究施設見学	7月6日
21	Dr.Ayman Hamed	エジプト	エジプト博物館修復保存科学担当	同上	同上
22	Dr.Sayed Abd El Gawad	エジプト	観光省副長官	同上	同上
23	中華人民共和国　7名	中国		東アジアにおける法の継授と想像」セミナーのエクスカーション	7月25日
24	大韓民国　5名	韓国		同上	同上
25	Le Huy Hoang 他６名	ベトナム	ベトナム社会科学院教授	「京都とフェ：文化遺産と観光発展の比較研究」に関する現況調査	8月2日
26	アジア太平洋各国　16名	アジア太平洋各国		ＡＣＣＵ集団研修「木造建造物の保存・修復」	8月30日～9月29日
27	Angela Perri	イギリス	ダーラム大学ＰＤ	学術振興会による研究交流	10月1日～12月10日
28	Otabek Aripdjanov	ウズベキスタン	ウズベキスタン国立歴史博物館副館長	国際交流基金の知的交流フェローシップ事業による在外研修	10月1日～12月15日
29	PALIDA CHANPRASERT　他19名	タイ	チェンマイ大学日本語学科学生	２１世紀東アジア青少年大交流事業	10月24日
30	Willem van der Molen	オランダ	オランダ王立東南アジア・カリブ研究所　研究員	視察	11月14日
31	ALI Md.Mohshin	バングラディッシュ		ＯＤＡにおける環境影響評価（持続可能な開発のための環境アソスメント研修）の「奈良県における文化財保護」の講義および現地視察	11月18日
32	CHHIM Phalla	カンボジア		同上	同上
33	BERMUDEZ VIVES Pablo Andres	コスタリカ		同上	同上
34	ELBESHISHI Mahmoud Fetouch	エジプト		同上	同上
35	MUHAMAD Nino	インドネシア		同上	同上
36	CHALIK Andry Chresna	インドネシア		同上	同上
37	KIPSEBA Enoch Kiptoo	ケニア		同上	同上
38	WERE Willice Omondi	ケニア		同上	同上
39	LAWAL Maroof Kola	ナイジェリア		同上	同上
40	APAKA Walimu	パプア・ニューギニア		同上	同上
41	SOTO TORRES Raquel Hilianova	ペルー		同上	同上
42	ALKHALIFA Abdelrahman	スーダン		同上	同上
43	KONDO Ally Kassim	タンザニア		同上	同上
44	BASOMA Moses	ウガンダ		同上	同上
45	NGUYEN Trung Thanh	ベトナム		同上	同上
46	BUL Dung Phuong My	ベトナム		同上	同上
47	UNESCO　22名			バーミヤン遺跡保存に関する専門家会議とシンポジウムにおける奈良視察	12月12日
48	Martin Carver	イギリス		視察	平成24年1月10日
49	Nguen Hong Anh	ベトナム		ベトナム・タンロン皇城跡保存研究センターより研修	平成24年1月12日～1月17日
50	Vu Thieu Hoa	ベトナム		同上	同上
51	Nguyen Tien Hung	ベトナム		ベトナム・都城研究センターより研修	平成24年1月30日～2月20日
52	Le Dinh Ngoc	ベトナム		同上	同上
53	Mr. TAHA Hamdan M.M.	パレスチナ	観光遺跡庁副大臣補	平成23年度(国別研修)パレスチナ「観光開発」	平成24年2月2日
54	Mr. HUSSEIN Hansan S.I.	パレスチナ	ジェリコ市長	同上	同上
55	イギリス他各国　5名			立命館大学主催国際シンポジウム参加者のエクスカーション	平成24年3月19日
56	Do Thi Ngoc Bich	ベトナム		ベトナム林業大学とのタンロン遺跡保存のための共同研究	平成24年3月12日～3月21日
57	Le Xuan Phuong	ベトナム		同上	同上
58	金　聖範	韓国		木簡研究の打ち合わせ及び資料調査	平成24年3月26日～3月29日
59	権　宅章	韓国		同上	同上

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ12人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Itonga Natan	キリバス自治国	Culture Center & Museum, Ministry of Internal & Socail Affairs ,Kiribati・Cultural Officer	アジア太平洋無形文化遺産研究センター開設記念シンポジウムにおけるパネリスト出席	9月29日～10月11日（シンポジウム開催日10月4日）
2	Timothy Curtis	タイ王国	UNESCO Office in Bangkok・Programme Specailist for Culture	アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会及び開設記念式典にユネスコ事務局代表代理出席	10月2日～10月4日（開催日10月3日）

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
3	王　漢傑	中華人民共和国	中国文化部対外文化連絡局・国際処長	アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会及び開設記念式典等に中国政府代表（理事）出席	10月2日～10月5日（開催日10月3日）
4	Yi Kyung-hoon	大韓民国	館国文化財庁国際交流課・課長	アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会及び開設記念式典等に韓国政府代表（理事）出席	10月2日～10月5日（開催日10月3日）
5	San-Ang Sam	カンボジア国	Ministry of Culture and Fine Arts・Advisor	アジア太平洋無形文化遺産研究センター開設記念シンポジウムにおけるパネリスト出席	10月3日～10月5日（シンポジウム開催日10月4日）
6	Harriet Jane Deacon	イギリス国	Cultural Heritage・Researcher	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）
7	Matsje Postma	オランダ国	Institute of Cultural Anthrolopology Development Sociology,Leiden University・Lecturer	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）
8	Wim Van Zanten	オランダ国	Institute of Cultural Anthrolopology Development Sociology,Leiden University・Guest staff member	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）
9	Luke Taylor	オーストラリア国	Australian Institute of Aboliginal and Torres Strait Inlander Studies ・ Deputy Principal	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月6日（開催日24年3月3日～3月4日）
10	Laurajane Smith	オーストラリア国	School of Archaeology and Anthropology,Austrarian National University・Research Academic	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月6日（開催日24年3月3日～3月4日）
11	Shubha Chaudhuri	インド国	Archives and Research Centre for Ethnomusicology, An¥merican Institute of Indian Studies ・Associate Director General	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）
12	Gopalannair Venu	インド国	Natana Kairali・Director	The First Intensive Researchers Meeting on Communities and the 2003 Convention出席	24年3月1日～3月5日（開催日24年3月3日～3月4日）

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
78人	45 人	13人	14人	9人	9人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	32 人	14人		18人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 人				

【東京国立博物館】延べ13人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	法政大学	欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究	法政大学教授 クライナー　ヨーゼフ	副館長　島谷 弘幸
2	法政大学	欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究	法政大学教授 クライナー　ヨーゼフ	博物館教育課教育普及室長伊藤　信二
3	国立歴史民族博物館	デジタル化された歴史研究情報の高度利用に関する研究	鈴木卓治	博物館情報課情報管理室長村田　良二
4	明治大学研究・知財戦略機構「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」	「ヒト―資源環境系の歴史的変遷に基づく先史時代人類誌の構築」	明治大学研究・知財戦略機構特任教授　小野　昭	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　及川穣
5	東京大学史料編纂所	学術創成研究「目録学の構築と古典学の再生―天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明―」	同所　教授　田島 公	調査研究課長　田良島 哲
6	文化女子大学文化ファッション研究機構	近世・近代風俗画における服飾表現に関する分野横断的研究―小袖及び着物の編年的研究への絵画研究の活用―	共立女子大学教授　長崎 巌	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢 裕賀
7	千葉大学	科学研究費補助金基盤研究（B）「絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観に関する研究」	池田忍	調査研究課絵画・彫刻室研究員　土屋 貴裕
8	東京文化財研究所	科学研究費補助金基盤研究（B）「諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発」	田中淳	調査研究課絵画・彫刻室研究員　土屋 貴裕
9	人間文化研究機構国立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授　園田 直子	保存修復課長　神庭 信幸
10	人間文化研究機構国立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授　園田 直子	保存修復課環境保存室主任研究員　荒木 臣紀
11	人間文化研究機構国立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授　園田 直子	保存修復課環境保存室主任研究員　和田 浩
12	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	洛中洛外図屏風歴博甲本の総合的研究	教授　小島 道裕	保存修復課長　神庭 信幸
13	東京藝術大学	東京美術学校西洋画科卒業制作作品・自画像の技法材料、保存修復に関する基礎的研究VII	大学院絵画科油画技法材料研究室大学院美術研究科兼任教授　佐藤一郎	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋 裕子

【京都国立博物館】延べ14人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究	名誉教授　肥塚隆	学芸部連携協力室主任研究員　浅湫毅
2	成城大学	金剛寺所蔵典籍の集約的調査と研究－聖教の形成と伝播把握を基軸として	教授　後藤昭雄	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
3	北海道大学	漢字文化圏における典籍の集積、国際伝播及びその伝承に関する実証的研究	名誉教授　石塚晴通	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
4	日本女子大学	蝋管を中心とした初期録音資料の音源保存・音声復元・内容分析に関する横断的研究	教授　清水康行	学芸部保存修理指導室長　村上 隆
5	東京国立博物館	東アジアの書道史における料紙と書風に関する調査研究	学芸研究部長　島谷弘幸	学芸部上席研究員　赤尾栄慶 学芸部企画室研究員　羽田聡
6	東京国立博物館	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	学芸研究部絵画・彫刻室長　田沢裕賀	学芸部連携協力室長　山下善也
7	大阪大谷大学	根来寺聖教の基礎的研究－智積院聖教を中心に－	教授　宇都宮啓吾	学芸部上席研究員　赤尾栄慶 学芸部企画室研究員　羽田聡
8	東京大学東洋文化研究所	美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究－全アジアから世界へ	教授　小川裕充	学芸部長　西上実 学芸部美術室研究員　呉孟晋
9	北海道大学	漢字字体規範史研究　第二期	名誉教授　石塚晴通	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
10	財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所	京焼の技術系譜をめぐる関西陶磁の成立と展開に関する美術工芸史・考古学の総合的研究	調査課東淀川調査事務所長佐藤隆	学芸部工芸室長　尾野善裕
11	学習院大学	大画面説話画の総合研究	教授　佐野みどり	学芸部企画室研究員　大原嘉豊
12	島根大学	出雲鰐淵寺の歴史的・総合的研究	名誉教授　井上寛司	学芸部連携協力室主任研究員　浅湫毅
13	国際仏教学大学院大学	東アジア仏教写本研究拠点の形成	教授　落合俊典	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
14	法政大学	欧州の博物館等保管の日本仏教美術資料の悉皆調査とそれによる日本及び日本観の研究	国際日本学研究所兼担所員 ヨーゼフ・クライナー	学芸部上席研究員　赤尾栄慶

【奈良国立博物館】延べ9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	筑波大学	東国地域及び東アジア諸国における前近代文書等の形態・料紙に関する基礎的研究	教授　山本 隆志	館長　湯山 賢一
2	種智院大学	インド文化圏における仏塔の総合的研究	学長　頼富 本宏	学芸部工芸考古室長　内藤 榮
3	福山市立大学	「ＥＳＤ」にアプローチする「地域・世界遺産教育」の創造	教授　田渕　五十生	学芸部長　西山　厚
4	福山市立大学	「ＥＳＤ」にアプローチする「地域・世界遺産教育」の創造	教授　田渕　五十生	学芸部教育室長　吉澤　悟
5	九州大学	南宋絵画史における仏画の位相－都と地域、中国と周縁－	教授　井手　誠之輔	学芸部保存修理指導室長 谷口　耕生
6	学習院大学	大画面説話画の総合研究	教授　佐野みどり	学芸部保存修理指導室長 谷口　耕生
7	京都大学	美術史における転換期の諸相	教授　根立　研介	学芸部企画室長　稲本　泰生
8	茨城大学	「常陸国風土記」にみえる律令期以前の歴史的景観復原に関する実証的研究	准教授　田中　裕	学芸部教育室長　吉澤　悟
9	大阪大学	科学的調査に基づく半跏思惟像の日韓共同研究	教授　藤岡　穣	学芸部企画室長　稲本　泰生

【九州国立博物館】延べ　9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	岡山大学	副葬品の構造・材質・色彩からみた古墳葬送空間の再現的研究	大学院社会文化科学研究科教授　松木武彦	博物館科学課 環境保全室長　今津　節生
2	同上	同上	同上	文化財課資料登録室 主任研究員　鳥越　俊行
3	関西大学	飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究－出土品から見た川原寺の特質－	文学部教授　米田文孝	企画課特別展室 研究員　市元　塁
4	龍谷大学	ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究	文学部教授　宮治　昭	企画課長　小泉　惠英
5	大阪大学	南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究	名誉教授　肥塚　隆	文化財課資料登録室 主任研究員　原田　あゆみ （研究協力者）
6	東京大学史料編纂所	対馬宗家文書の料紙研究	富山大学名誉教授　富田正弘	博物館科学課 保存修復室長　藤田　励夫
7	同上	古文書料紙の物理的手法による調査研究－上杉家文書による戦国期料紙の再検討-	米沢市上杉博物館主幹　角屋由美子	博物館科学課 保存修復室長　藤田　励夫
8	東京藝術大学	絵画に生じた結晶様物質に関する研究　-顔料と媒剤の関連性および修復処置について-	非常勤講師　鈴鴨富士子	博物館科学課アソシエイトフェロー　秋山純子
9	明治大学	虎塚古墳壁画の保存	文学部教授　矢島國雄	博物館科学課長　本田光子

【東京文化財研究所】延べ14人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大谷大学	世界遺産エルデニゾー僧院に関する総合的研究－過去の復元から未来への保存へ－	大谷大学文学部教授　松川　節	企画情報部 情報システム研究室長 二神　葉子
2	東京大学	「地図史料学の構築」の新展開－科学的調査・復元研究・データベース－	東京大学史料編纂所 准教授　杉本　史子	保存修復科学センター 分析科学研究室長　早川　泰弘
3	弘前大学	中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究	弘前大学人文学部 教授　関根　達人	保存修復科学センター 伝統技術研究室長　北野　信彦
4	東京大学	観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル･アーカイブを活用した新しい能楽史の構築	東京大学大学院総合文化研究科 教授　松岡　心平	無形文化遺産部 無形文化財研究室長 高桑　いづみ
5	広島市立大学	ヒマラヤを越え河西回廊に伝わった密教的造形と表現、その表象芸術に関する研究	広島市立大学芸術学部 教授　服部　等作	客員研究員（名誉研究員） 中野　照男
6	早稲田大学	未翻刻浄瑠璃本の網羅的調査・翻刻と複次的活用・公開に向けての基礎的研究	早稲田大学演劇博物館 名誉教授　鳥越　文蔵	無形文化遺産部 音声・映像記録研究室長 飯島　満
7	京都大学	ミリ波イメージング技術による木質文化財の生物劣化の非破壊診断装置の開発	京都大学農学研究科 准教授　藤井　義久	保存修復科学センター 生物科学研究室長　木川　りか
8	筑波大学	中近東･北アフリカにおけるビザンティン建築遺産の記録､保存､公開に関する研究	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授　日高　健一郎	保存修復科学センター長 石崎　武志
9	徳島文理大学	タンロン皇城遺跡の保存活用に関する包括的調査研究	徳島文理大学文学部 教授　清水　真一	文化遺産国際協力センター 保存計画研究室長　友田　正彦
10	東北大学	生身と霊験―宗教的意味を踏まえた仏像の基礎的調査研究	東北大学大学院文学研究科 名誉教授　有賀　祥隆	企画情報部 文化財アーカイブス研究室長 津田　徹英
11	明治大学	茨城県ひたちなか市虎塚古墳の保存に関する総合的研究	明治大学文学部 教授　矢島　國雄	保存修復科学センター 主任研究員　犬塚　将英
12	東京藝術大学	迎賓館赤坂離宮天井絵画修復事業に関わる損傷と劣化原因の解明	東京藝術大学大学院美術研究科 教授　木島　隆康	企画情報部 近・現代視覚芸術研究室長 山梨　絵美子
13	九州大学	未解読楽譜のデータベース化に関する総合的研究	九州大学芸術工学研究院 准教授　矢向　正人	無形文化遺産部 無形文化財研究室長 高桑　いづみ
14	茨城大学	微生物細胞内共生工学の基盤技術開発	茨城大学農学部 教授　太田　寛行	保存修復科学センター 研究員　佐藤　嘉則

【奈良文化財研究所】延べ18人

○科学研究費補助金　延べ17人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	目録学の構築と古典学の再生-天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明-	教授　田島　公	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
2	同志社大学	東北アジアにおける古環境変動と旧石器編年に関する基礎的研究	教授　松藤　和人	企画調整部主任研究員 加藤 真二
3	奈良大学	東アジア木簡学の確立	教授　角谷　常子	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
4	徳島文理大学	タンロン皇城遺跡の保存活用に関する包括的調査研究	教授　清水　真一	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
5	歴史民俗博物館	日本産樹木年輪による炭素14年代の高精度較正曲線の作成	准教授　坂本　稔	埋蔵文化財センター客員研究員 光谷　拓実
6	東京大学	ボーンデジタル画像管理システムの確立に基づく歴史史料情報の高度化と構造転換の研究	教授　山家　浩樹	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
7	独立行政法人国立科学博物館	徳川将軍親族遺体のデジタル保存と考古学的・人類学的分析-大奥の実態に迫る-	部長　馬場　悠男	埋蔵文化財センター長 松井 章
8	歴史民俗博物館	考古学と人類学のコラボレーションによる縄文社会の総合的研究	教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員　山崎 健
9	歴史民俗博物館	考古学と人類学のコラボレーションによる縄文社会の総合的研究	教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター客員研究員 茂原 信生
10	山梨県立博物館	日韓内陸地域における雑穀農耕の起源に関する科学的研究	学芸課長　中山　誠二	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　庄田　慎矢
11	北陸学院大学	形・作りとスス・コゲからみた縄文・弥生土器、土師器による調理方法	教授　小林　正史	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　庄田　慎矢
12	神戸女子大学	能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究	教授　大谷 節子	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
13	新潟県立看護大学	韓国出土古人骨の形質人類学的研究	准教授　藤田　尚	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　庄田　慎矢
14	立命館大学	『日本霊異記』の文献・書誌及び歴史地理的検討による古代社会像の再構築	教授　本郷　真紹	都城発掘調査部主任研究員 山本 崇
15	鹿児島大学	考古学と地下探査の協同による近世薩摩焼研究再構築のための基礎的研究	教授　渡辺　芳郎	埋蔵文化財センター主任研究員 金田 明大
16	東北大学	長期標準年輪曲線の広域ネットワーク拡充とそれに基づく木材産地推定法の検討	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター客員研究員 藤井 裕之
17	奈良産業大学	正倉院文書による日本語表記成立過程の解明	准教授　桑原　祐子	都城発掘調査部歴史研究室長 渡邉 晃宏

○学術研究助成基金助成金　延べ1人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	北海道大学	ヘリテージツーリズムによる地域の文化遺産マネジメントに関する研究	特任助教　池ノ上　真一	企画調整部国際遺跡研究室特別研究員（AF）　田代　亜紀子

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ1人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	金沢大学	伝統音楽における音程の移動パターンに関する研究	教授　中村慎一	研究補佐員　淑瑠ラフマン

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
477人	148 人	48人	25人	19人	56人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	314 人	126人		188人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	15 人				

【東京国立博物館】延べ　48人（先方負担を除く）

○海外交流展経費・国際交流費　23人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	鬼頭　智美	フランス	4月5～12日	国際展覧会オーガナイザー会議出席およびパリ市内文化施設視察のため	職員旅費（国際交流費）
2	遠藤　楽子	英国	6月21～27日	ロンドン市内博物館訪問・展覧会に関する面談・意見交換のため	職員旅費(海外交流展経費)
3	小山　弓弦葉	アメリカ合衆国	6月28日～7月3日	海外展関係調査のため	職員旅費（海外交流展経費）
4	小林　牧	韓国	7月6～15日	日本・韓国間の学術情報交流ならびに研究推進のため	職員旅費（国際交流費）※一部先方負担(韓国国立中央博物館)
5	松本　伸之	中国	7月11～14日	特別展「誕生！中国文明展」御礼のため	職員旅費(海外交流展経費)
6	鬼頭　智美	中国	9月21～25日	第３回アジア国立博物館協会（ANMA）定期大会出席のため	職員旅費（国際交流費）
7	楊　鋭	中国	9月21～25日	同上	同上
8	松本　伸之	中国	9月22～25日	同上	同上
9	藤田　千織	アメリカ合衆国	11月7～14日	ヒューストン美術館日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展準備打ち合わせのため	職員旅費（海外交流展経費）※一部先方負担（ヒューストン美術館）
10	鬼頭　智美	アメリカ合衆国	11月9～14日	同上	同上
11	遠藤　楽子	アメリカ合衆国	11月7～13日	サンフランシスコアジア美術館での国際フォーラム参加、調査のため	職員旅費（国際交流費）※一部先方負担(アジアファンデーション、サンフランシスコアジア美術館)
12	古谷　毅	韓国	11月28日～12月8日	日本・韓国間の学術交流ならびに研究推進のため	職員旅費（国際交流費）※一部先方負担(韓国国立中央博物館)
13	伊藤　信二	アメリカ合衆国	24年2月6～23日	ヒューストン美術館日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展にかかる作品輸送立会い及び陳列作業のため	職員旅費（海外交流展経費）※一部先方負担（ヒューストン美術館）
14	田沢　裕賀	アメリカ合衆国	24年2月7～15日	同上	同上 ※一部先方負担（ヒューストン美術館）
15	楊　鋭	台湾	24年2月7～9日	台北故宮博物院における会議出席のため	職員旅費（海外交流展経費）
16	鬼頭　智美	アメリカ合衆国	24年2月13～24日	ヒューストン美術館日本室開室記念展および「クリーブランド美術館展（仮称）」のための打ち合わせのため	職員旅費（海外交流展経費）※一部先方負担（ヒューストン美術館）
17	白井　克也	ドイツ	24年2月18～26日	140周年特集陳列にかかる事前調査のため	職員旅費（海外交流展経費）
18	松嶋　雅人	アメリカ合衆国	24年2月19～24日	2014年特別展「クリーブランド美術館展（仮称）」開催のための打合せおよび作品調査のため	職員旅費（海外交流展経費）
19	楊　鋭	台湾	24年3月1～4日	中国美術館精品展（仮称）にかかる調査、打ち合わせのため	職員旅費（海外交流展経費）※一部先方負担（中国美術館）
20	松本　伸之	中国	24年3月20～22日	特別展「北京故宮博物院２００選」の御礼及び今後の中国展の依頼のため	職員旅費（海外交流展経費）
21	楊　鋭	中国	24年3月20～22日	同上	職員旅費（海外交流展経費）
22	井上　洋一	中国	24年3月31日～4月9日	日本・中国間の学術交流ならびに研究推進のため	職員旅費（国際交流費）※一部先方負担(上海博物館)
23	楊　鋭	中国	24年3月31日～4月9日	同上	同上

○職員旅費（その他）：延べ5人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	島谷　弘幸	中国	9月23～25日	特別展「王羲之とその系譜」の事前交渉	総務課運営費 一部先方負担(毎日新聞社)
2	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	11月7～10日	サンフランシスコアジア美術館での国際フォーラム参加、調査のため	総務課運営費 一部先方負担(アジアファンデーション、サンフランシスコアジア

	氏名	用務先	期間	用務	備考
					美術館)
3	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	11月10～14日	ヒューストン美術館日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展準備打ち合わせのため	総務課運営費 一部先方負担
4	富田　淳	中国	6月1～4日	台東区立書道博物館と東京国立博物館との共同企画・拓本とその流転にかかる作品返却のため	職員旅費(平常展経費)
5	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	24年2月13～24日	ヒューストン美術館日本室開室記念「洗練の美：東京国立博物館蔵　宮廷美術と宗教美術」展開会式出席および講演会講師、クリーブランド美術館調査・打合せのため	総務課運営費 一部先方負担(ヒューストン美術館)

○科学研究費補助金：延べ20人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	5月16～21日	カルコン美術対話委員会等出席のため	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A) ※一部先方負担
2	島谷　弘幸	中国	6月1～4日	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A)にかかる調査のため	
3	島谷　弘幸	中国	8月8～12日	同上	
4	島谷　弘幸	台湾	9月30日～10月3日	同上	
5	島谷　弘幸	中国	10月25～30日	同上	
6	島谷　弘幸	中国	24年2月7～9日	同上	
7	島谷　弘幸	フランス　スイス	24年3月7～16日	チューリッヒ美術館調査および、チェルヌスキー調査のため	※一部先方負担
8	富田淳	中国	8月8～12日	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A)にかかる調査のため	
9	和田　浩	中国	8月13～25日	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(基盤研究B)にかかる現地調査のため	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(基盤研究B) 代表者：立正大学　加島勝
10	神庭　信幸	中国	8月16～21日	東アジア文化遺産保存学会第２回大会での発表のため	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(基盤研究S)
11	富田　淳	台湾	9月30日～10月3日	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A)にかかる調査のため	
12	富田　淳	中国	10月25～31日	中国書画の表装に関する基礎的研究（基盤研究C）にかかる調査のため	
13	小山　弓弦葉	アメリカ合衆国	24年1月21～28日	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(若手研究A)にかかる古染織品調査のため	
14	富田　淳	台湾	24年2月7～9日	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(基盤研究A)にかかる調査のため	
15	丸山　士郎	中国	24年2月7～10日	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究(基盤研究B)にかかる調査のため	
16	和田　浩	中国	24年2月7～10日	同上	
17	安藤　香織	中国	24年2月7～12日	同上	
18	塚本　麿充	アメリカ合衆国	24年2月14～19日	南宋絵画史における仏画の研究にかかる調査のため	南宋絵画史における仏画の位相―都と地域、中国と周縁―(基盤研究B)　代表者：九州大学　井手誠之輔
19	三田　覚之	中国	24年3月6～10日	法隆寺金堂を中心とした飛鳥・白鳳の荘厳美術研究(特別研究員奨励費)にかかる金銅仏等の調査のため	
20	土屋　貴裕	アメリカ合衆国	24年3月9～17日	作品調査、資料収集、および国際研究集会への参加のため	絵巻の<伝来>をめぐる総合的研究(若手研究A)

○先方負担：延べ54人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	松本　伸之	台湾	6月10～13日	国立台南藝術大学における招聘のため	先方負担(国立台南藝術大学)
2	井上　洋一	ウズベキスタン	9月23日～10月3日	国際交流基金文化協力事業からの招へいのため	先方負担(国際交流基金)
3	鈴木　みどり	韓国	10月26～31日	韓国国立民俗博物館開催国際シンポジウム「教育改革」参加のため	先方負担（韓国国立民俗博物館）
4	浅見　龍介	韓国	4月7～9日	科研の研究課題に関わる調査への参加のため	先方負担(科研補助金研究代表者・大阪大学大学院文学研究科藤岡穣)
5	北川　美穂	ブータン	7月30日～8月15日	伝統技芸院(Zorig C　usum)における招聘のため	先方負担（財団法人美術工藝振興佐藤基金助成金）
6	富田　淳	中国	9月16～21日	北京故宮博物院「蘭亭特展」にかかる作品輸送立会いおよび陳列作業のため	先方負担（北京故宮博物院）

	氏名	用務先	期間	用務	備考
7	大橋　美織	韓国	9月23～27日	海外展「肖像画の秘密」展の作品輸送立会いおよび陳列作業のため	先方負担（韓国国立中央博物館）
8	塚本　麿充	韓国	10月6～10日	海外展「朝鮮画員大展」の作品輸送立会いおよび陳列作業のため	先方負担（三星美術館leeum）
9	田沢　裕賀	韓国	10月28～31日	韓国国立中央博物館でのシンポジウム参加のため	先方負担（韓国国立中央博物館）
10	池田　宏	ポーランド フランス	11月1～10日	在外日本古美術品保存修復協力事業に係る調査のため	先方負担(東文研)
11	北川　美穂	ラオス	11月3～9日	アジア漆工芸学術支援交流事業における招聘のため	先方負担(アジア漆工芸学術支援交流事業)
12	金井　裕子	韓国	11月6～8日	海外展「肖像画の秘密」展にかかる作品輸送立会いおよび撤収作業のため	先方負担(韓国国立中央博物館)
13	塚本　麿充	中国	10月6～10日	北京故宮博物院「蘭亭特展」にかかる作品輸送立会いおよび撤収作業のため	先方負担（北京故宮博物院）
14	後藤　健	バーレーン	12月16～23日	文化遺産国際協力コンソーシアムの協力相手国調査のため	先方負担(文化遺産国際協力コンソーシアム)
15	金井　裕子	韓国	24年1年29～2月1日	海外展「朝鮮画員大展」にかかる作品輸送立会いおよび撤収作業のため	先方負担（三星美術館leeum）
16	浅見　龍介	韓国	24年3月4～6日	韓国国立中央博物館への長期貸与品返却にかかる作品輸送立会いおよび撤収作業のため	先方負担（韓国国立中央博物館
17	井上　洋一	アメリカ合衆国	4月3～10日	特別展「写楽」の開催延期による出品協力の継続要請のため	共催展主催者旅費(東京新聞)
18	松本　伸之	中国	6月6～9日	特別展「北京故宮２００選」の契約協議のため	共催展主催者旅費(朝日新聞)
19	松本　伸之	中国	8月17～19日	同上	同上
20	今井　敦	中国	9月6～10日	特別展「北京故宮２００選」の作品調査のため	共催展主催者旅費(朝日新聞)
21	松本　伸之	中国	9月14～17日	同上	共催展主催者旅費(朝日新聞)
22	松本　伸之	中国	9月19～22日	「秦の始皇帝と大兵馬俑展」出品交渉のため	共催展主催者旅費(NHK)
23	松本　伸之	中国	10月13～15日	特別展「北京故宮２００選」事前協議のため	共催展主催者旅費(朝日新聞)
24	松嶋　雅人	アメリカ合衆国	10月31日～11月6日	特別展「京都」（仮）開催にあたっての出品依頼のため	共催展主催者旅費(日本テレビ)
25	松本　伸之	中国	24年1月15～21日	特別展「中国　王朝の至宝」にかかる出品交渉のため	共催展主催者旅費(NHK)
26	松本　伸之	中国	24年2月14～17日	同上	同上
27	川村　佳男	中国	6月12～18日	特別展「誕生！中国文明」出品作品の検品、返却のため	共催展主催者旅費（読売新聞）
28	塚本　麿充	中国	9月6～11日	特別展「北京故宮２００選」作品調査のため	共催展主催者旅費（朝日新聞）
29	小山　弓弦葉	中国	9月6～10日	同上	同上
30	川村　佳男	中国	9月6～11日	同上	同上
31	猪熊　兼樹	中国	9月14～18日	同上	同上
32	富田　淳	中国	9月22～24日	特別展「王羲之の書とその系譜」における出品交渉のため	共催展主催者旅費（毎日新聞）
33	富田　淳	中国	10月12～16日	特別展「北京故宮２００選」作品調査および打ち合わせのため	共催展主催者旅費（朝日新聞）
34	猪熊　兼樹	中国	10月12～16日	同上	同上
35	富田　淳	中国	10月25～31日	特別展「王羲之の書とその系譜」出品交渉・作品調査のため	共催展主催者旅費（毎日）
36	富田　淳	中国	12月4～16日	特別展「北京故宮２００選」作品現地点検・集荷のため	共催展主催者旅費（朝日新聞）
37	塚本　麿充	中国	12月5～19日	同上	同上
38	猪熊　兼樹	中国	12月11～20日	同上	同上
39	川村佳男	中国	12月11～21日	同上	同上
40	土屋　裕子	中国	12月18～19日	同上	同上
41	荒木　臣紀	中国	12月19～20日	同上	同上
42	猪熊　兼樹	中国	12月24～26日	特別展「北京故宮２００選」作品現地集荷のため	同上
43	松本　伸之	中国	24年2月14～17日	特別展「中国　王朝の至宝」にかかる出品交渉のため	共催展主催者旅費（NHK）
44	酒井　元樹	アメリカ合衆国	24年2月21～26日	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」にかかるボストン美術館での刀剣作品の確認および梱包のため	共催展主催者旅費（NHK）
45	塚本　麿充	中国	24年2月28日～3月8日	特別展「北京故宮博物院２００選」にかかる返却輸送および点検、返却作業のため	共催展主催者旅費（朝日新聞）
46	川村　佳男	中国	24年2月28日～3月8日	特別展「北京故宮博物院２００選」にかかる返却輸送および点検、返却作業のため	同上
47	高木　結美	中国	24年2月29日～3月4日	同上	同上
48	富田　淳	中国	24年3月1～10日	同上	同上
49	猪熊　兼樹	中国	24年3月1～8日	同上	同上
50	土屋　貴裕	中国	24年3月1～4日	同上	同上
51	松本　伸之	中国	24年3月6～10日	特別展「北京故宮博物院２００選」返却作業および御礼のため	同上
52	島谷　弘幸	アメリカ合衆国	24年3月19～22日	特別展「青山杉雨の眼と書」上海展にかかる上海博物館との現地打ち合わせ及び視察のため	共催展主催者旅費（読売新聞）
53	富田　淳	中国	24年3月19～22日	同上	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
54	井上　洋一	フランス　イタリア　モナコ	24年3月21～28日	特別展「エジプトの王妃(仮)」作品選定会議・作品調査のため	共催展主催者旅費（ＮＨＫ）

【京都国立博物館】延べ25人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	呉　孟晋	香港	4月28日～30日	香港芸術館での展覧会参観（研修）	私費
2	鬼原　俊枝	アメリカ合衆国	5月17日～21日	カルコン美術対話委員会への参加	先方負担（文化庁）
3	西上　実	中国	6月13日～19日	「中国近代絵画と日本」展出品交渉及び関連調査	職員旅費
4	淺湫　毅	大韓民国	6月19日～23日	金銅仏を中心とした彫刻作品の調査	科学研究費
5	赤尾　栄慶	ベルギー・イギリス	7月9日～18日	日本の古写経および敦煌写経の調査	H度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業負担
6	呉　孟晋	台湾	7月17日～19日	台北故宮博物院「山水合璧」展参観	職員旅費
7	久保　智康	台湾	8月9日～12日	国立台湾博物館所蔵銅鏡の調査（学生の調査指導）	京都大学大学院経費
8	赤尾　栄慶	大韓民国	9月1日～4日	国際ワークショップ「新羅写経と奈良写経」参加	韓国技術教育大学校文理閣研究所
9	西上　実	中国	9月2日～6日	「中国近代絵画と日本」展出品交渉及び関連調査	職員旅費
10	永島　明子	ドイツ	9月8日～16日	明治天皇から英国王子への贈答品などの調査	科学研究費
11	久保　智康	中国	9月27日～10月1日	浙江省博物館「呉越勝覧」展学術討論会参加	浙江省博物館
12	山川　暁	大韓民国	10月6日～9日	国立扶余博物館にて展覧会見学・国際シンポジウム参加（研修）	私費
13	呉　孟晋	香港	10月16日～19日	「中国近代絵画と日本」展に関する打ち合わせ	職員旅費
14	永島　明子	オランダ・スイス	10月18日～30日	漆器調査および漆器に関する情報収集	科学研究費
15	尾野　善裕	ベトナム	11月8日～12日	ベトナム歴史博物館所蔵品調査	東芝国際交流財団
16	久保　智康	大韓民国	11月20日～22日	愛知県美術館所蔵「鉄製交椅」保存処理に伴う類品調査	愛知県美術館
17	西上　実	台湾	11月27日～30日	「中国近代絵画と日本」展出品作品借用のため	職員旅費
18	大原　嘉豊	香港	12月15日～18日	「中国近代絵画と日本」展作品借用のため	職員旅費
19	西上　実	中国	12月18日～23日	「中国近代絵画と日本」展出品作品借用のため	職員旅費
20	淺湫　毅	タイ・ミャンマー	12月19日～31日	彫刻作品・遺跡等の調査	科学研究費
21	赤尾　栄慶	フランス	24年1月23日～2月1日	敦煌写本の書誌学的研究	科学研究費
22	村上　隆	ドイツ	24年2月16日～22日	蝋管の調査研究、及び新館設置展示ケースの製作現場視察	科学研究費、職員旅費
23	西上　実	香港・中国	24年2月29日～3月10日	「中国近代絵画と日本」展出陳作品返却	職員旅費
24	呉　孟晋	台湾	24年3月14日～19日	「中国近代絵画と日本」展出陳作品返却	職員旅費
25	赤尾　栄慶	韓国	24年3月23日～25日	韓国口訣学会のメンバーと意見交換会および古印刷物に関する調査研究	科学研究費

【奈良国立博物館】延べ19人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	佐々木 香輔	韓国	11月9日～12月3日	国立慶州博物館との学術情報交換及び交流促進のため	国立慶州博物館

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	備考
2	湯山　賢一	韓国	5月18日～5月20日	百済展打合せ	職員旅費
3	西山　厚	同上	同上	同上	同上
4	岩田　茂樹	同上	同上	同上	同上
5	内藤　栄	アメリカ	5月17日～5月21日	カルコン美術対話委員会に出席	文化庁
6	稲本　泰生	中国	6月12日～6月18日	中国文明展作品返却	他機関負担
7	湯山　賢一	中国	8月8日～8月8日	中国河南博物院での協定書調印式に出席（台風9号により途中帰国）	職員旅費
8	内藤　栄	同上	同上	同上	同上
9	西山　厚	ベトナム	8月27日～9月2日	正倉院展開催に伴う海外調査	他機関負担
10	谷口　耕生	韓国	9月22日～9月24日	韓国国立中央博物館「肖像画の秘密」展に伴う文化財の輸送及び立ち会い	韓国国立中央博物館
11	稲本　泰生	中国	11月5日～11月9日	「遼寧省仏教文物展」予備調査	職員旅費
12	北澤　菜月	韓国	11月6日～11月8日	韓国国立中央博物館「肖像画の秘密」展に貸与した文化財の撤収立ち合い及び輸送	韓国国立中央博物館
13	湯山　賢一	中国	12月19日～12月21日	中国河南博物院での協定書調印式に出席	職員旅費
14	内藤　栄	同上	同上	同上	同上
15	稲本　泰生	中国	24年2月9日～2月12日	科研「南宋絵画史における仏画の位相」の現地調査	科研費
16	谷口　耕生	同上	同上	同上	同上
17	岩田　茂樹	中国	24年2月17日～2月24日	科学的調査に基づく半跏思惟像の日韓共同研究	他機関負担
18	内藤　栄	インド	24年2月21日～3月4日	科研「インド文化圏における仏塔の総合的研究」の調査	科研費
19	吉澤　悟	アメリカ	24年3月9日～3月17日	「海獣葡萄鏡の研究」に関わる海獣葡萄鏡の調査	他機関負担

【九州国立博物館】延べ　56人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	臺信祐爾	中国	4月10日～4月16日	大契丹展（仮称）開催に係る調査	職員旅費
2	市元塁	同上	同上	同上	職員旅費
3	今津節生	中国	4月12日～4月21日	X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析に係る調査	科学研究費
4	谷豊信	韓国	5月18日～5月20日	学術交流協定調印（国立扶餘博物館）	職員旅費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
5	三輪嘉六	韓国	5月18日～5月20日	百済展・海外展の開催に関する協議等、学術交流に関する協議のため	職員旅費、他機関負担
6	原田あゆみ	タイ	6月17日～6月24日	トピック展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る作品返却作業、文化交流展に係る染織作品調査	職員旅費
7	小泉惠英	タイ	6月18日～6月24日	トピック展「ふたつの国の巧と美」にかかる作品輸送・作品点検・返却	職員旅費
8	川畑憲子	中国	7月3日～8日	館蔵品を中心とした漆器の調査研究	自費
9	谷豊信	中国	7月11日～7月22日	今後の交流につき意見交換・交流協定調印および関連行事（中国文物交流中心）	職員旅費
10	三輪嘉六	中国	7月19日～7月22日	交流協定締結・講演・視察（中国文物交流中心）	職員旅費
11	赤司善彦	韓国	7月27日～7月29日	文化財の返却、特別展等についての協議	他機関負担
12	今津節生	中国	8月14日～8月18日	X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析に関する調査・東アジア文化遺産保存学会第２大会において研究発表・情報収集	科学研究費
13	三輪嘉六	中国	8月16日～8月22日	東アジア文化遺産保存学会第２回大会	他機関負担
14	小林公治	中国	8月19日～9月5日	西安生漆塗料研究所主催「アジア漆国際会議」発表、中国各地での螺鈿に関する調査	科学研究費
15	臺信祐爾	韓国	8月25日～8月28日	大韓民国保税作品返却作業、 文化庁韓国展打合	職員旅費
16	赤司善彦	同上	同上	同上	他機関負担
17	原田あゆみ	タイ	8月30日～9月10日	「南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究」にかかる打合せ及び調査	他機関負担
18	市元塁	中国	9月5日～9月10日	草原の王朝契丹開催に係る集荷作業	職員旅費
19	小泉惠英	同上	同上	草原の王朝契丹開催に係る集荷作業、契丹関連遺物の調査	職員旅費
20	藤田励夫	韓国	9月22日～9月26日	韓国装潢研究会シンポジウム参加、韓国手漉き韓紙工房調査、高麗版大般若経調査のため	科学研究費
21	谷豊信	中国	9月27日～10月2日	平成２４年度春開催予定の平山郁夫展の作品調査と出品交渉	職員旅費
22	川畑憲子	フィンランド、ドイツ	10月2日～10月13日	トピック展示「クレスコレクション」にかかわる調査	職員旅費
23	森田稔	ベトナム	10月5日～10月8日	特別展ベトナム展（仮称）打合せ・出品交渉	職員旅費
24	藤田励夫	同上	同上	同上	職員旅費
25	遠藤啓介	同上	同上	同上	他機関負担
26	小林公治	中国	10月18日～10月23日	「広西東南アジア青銅器国際学術会議」発表・参席、南寧市内博物館等調査	他機関負担
27	赤司善彦	中国	10月19日～10月21日	福岡県･江蘇省友好提携20周年記念事業（展示）に係る協議	他機関負担
28	畑靖紀	同上	同上	同上	職員旅費
29	谷豊信	韓国	10月26日～10月30日	国際シンポジウム打合せ・参加、美術館調査	他機関負担
30	三輪嘉六	韓国	11月2日～11月5日	事務打ち合わせ、第２０回韓国文化財保存科学会事前打ち合わせ（財団法人　韓国文化財保存科学会）	職員旅費、他機関負担
31	藤田励夫	中国	11月3日～11月9日	科学研究費にかかる中国西南地区の伝統的製紙技術の調査	科学研究費
32	本田光子	中国	11月3日～11月8日	ユネスコ東アジア紙文化財修復プロジェクトに係る伝統的製紙技術の調整会議並びに中国西南地区の伝統的製紙技術の調査	職員旅費、補助金、他機関負担
33	森田稔	中国	11月3日～11月9日	中国西南地区の伝統的製紙技術の調査	職員旅費
34	小林公治	ベトナム	11月19日～11月27日	科学研究費にかかる調査	科学研究費
35	藤田励夫	ベトナム	12月7日～12月10日	特別展「ベトナム展（仮称）」打合せ・出品交渉、ベトナム歴史博物館との協定書調印	職員旅費
36	三輪嘉六	ベトナム	12月7日～12月10日	特別展「ベトナム展（仮称）」打合せ・出品交渉、ベトナム歴史博物館との協定書調印	職員旅費
37	森實久美子	韓国	12月16日～12月20日	受託作品（本岳寺所蔵「釈迦誕生図」）の貸与	他機関負担
38	藤田励夫	韓国	12月18日～12月20日	文化庁海外展開会式出席及び情報収集	海外展経費
39	三輪嘉六	同上	同上	同上	海外展経費
40	小林公治	ポルトガル、スペイン、オーストリア、ドイツ、イギリス	12月22日～24年1月8日	アジア輸出螺鈿器調査、教会調度品調査、南蛮螺鈿漆器調査、アメリカ製螺鈿器調査、インド製螺鈿調査、器物調査、アジア螺鈿器調査、螺鈿器調査	メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金
41	藤田励夫	韓国	24年1月6日～1月15日	文化庁海外展クーリエのため（韓国中央博物館）	海外展経費
42	小泉惠英	韓国	24年1月12日～1月19日	文化庁海外展「日本仏教美術―琵琶湖周辺の仏教信仰」にかかる点検・陳列替作業	海外展経費
43	末兼俊彦	米国	24年1月20日～1月25日	金工品学術調査（ホノルル美術館）	メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金
44	市元塁	韓国	24年1月24日～2月1日	文化庁海外展に係る作品・会場点検	海外展経費
45	畑靖紀	韓国	24年1月29日～1月31日	受託作品（本岳寺所蔵「釈迦誕生図」）の輸送	先方負担
46	森實久美子	韓国	24年1月30日～2月8日	文化庁主催「日本仏教美術－琵琶湖周辺の信仰仏教－」展作品点検	海外展経費
47	藤田励夫	インドネシア、ベトナム	24年2月1日～2月10日	平成25年度特別展「ベトナム展（仮称）」にかかる出品交渉・作品調査	職員旅費
48	遠藤啓介	インドネシア、ベトナム	24年2月1日～2月10日	平成25年度特別展「ベトナム展（仮称）」にかかる出品交渉・作品調査	職員旅費
49	三輪嘉六	中国	24年2月13日～2月17日	学術文化交流協定更新調印式（南京博物院）及び交流内容の協議・南朝時代の遺跡・墓の調査	職員旅費
50	谷豊信	中国	24年2月13日～2月17日	学術文化交流協定更新調印式（南京博物院）及び交流内容の協議・南朝時代の遺跡・墓の調査のため	職員旅費
51	畑靖紀	中国	24年2月20日～2月23日	文化交流展示におけるトピック展示の調査（南京博物院）	職員旅費
52	原田あゆみ	オランダ	24年2月23日～3月2日	対外交流文化財の調査	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
53	藤田励夫	中国	24年3月7日～3月11日	科学研究費による「東アジアにおける天台仏教の展開」調査	科学研究費
54	森實久美子	中国	24年3月7日～3月11日	科学研究費による「東アジアにおける天台仏教の展開」調査	科学研究費
55	藤田励夫	ベトナム	24年3月18日～3月26日	「九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設」にかかるベトナムの日本文化調査	科学研究費
56	遠藤啓介	ベトナム	24年3月18日～3月26日	「九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設」にかかるベトナムの日本文化調査	科学研究費

【東京文化財研究所】延べ126人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	邊牟木尚美	アルメニア	4月3日～4月13日	西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力	
2	山内和也	トルクメニスタン	5月1日～5月10日	ユネスコ主催シルクロード会議出席	
3	安倍雅史	トルクメニスタン	5月1日～5月10日	ユネスコ主催シルクロード会議出席	
4	宮田繁幸	韓国	5月11日～5月13日	シンポジウム「The Value and Competitive Power of Naganeupseong Folk Village as World Heritage」参加および発表	
5	友田正彦	タイ、ベトナム	5月22日～5月25日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる現地調査	
6	影山悦子	カザフスタン、タジキスタン	5月23日～5月28日	カザフスタン：カザフスタン国立中央博物館、カザフスタン考古学博物館における遺物の保存修復、保管方法等の調査 タジキスタン：タジキスタン国立古代博物館において今年度の事業打合せ	
7	山内和也	エジプト	5月27日～6月4日	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズ２）のための協議出席	
8	原田　怜	韓国	5月31日～6月3日	NEACH会議出席および発表	
9	友田正彦	ベトナム、カンボジア	6月1日～6月11日	ベトナム：科研費研究タンロン皇城遺跡に係る現地調査 カンボジア：アンコール遺跡保存開発国際調整委員会出席および現地調査	
10	二神葉子	カンボジア、タイ	6月6日～6月12日	カンボジア:アンコール遺跡の保護と発展に関する国際調整委員会出席および現地調査 タイ：文化省芸術局との協議	
11	宮田繁幸	韓国	6月9日～6月11日	２０１１年アジア太平洋無形文化遺産フェスティバルにおける学術会議出席および発表	
12	山内和也	イタリア、ロシア、アルメニア、キルギス	6月14日～6月30日	イタリア：バーミヤン遺跡保存事業の第４期打合せ ロシア：中央アジア事業打合せ アルメニアおよびキルギスとの拠点交流事業開始のための合意書締結、共同作業・研究詳細内容打合せおよび関連遺跡視察	
13	邊牟木尚美	アルメニア	6月15日～6月25日	「コーカサス諸国等における文化遺産保護のための拠点交流事業」開始のためのアルメニア共和国との合意書締結、共同作業・研究内容打合せおよび関連遺跡視察	
14	亀井伸雄	アルメニア、キルギス	6月17日～6月29日	アルメニアおよびキルギスとの拠点交流事業開始のための合意書締結、共同作業・研究詳細内容打合せおよび関連遺跡視察	
15	二神葉子	フランス	6月18日～7月1日	第３５回世界遺産委員会出席	
16	有村　誠	アルメニア	6月19日～6月25日	「コーカサス諸国等における文化遺産保護のための拠点交流事業」開始のためのアルメニア共和国との合意書締結、共同作業・研究内容打合せおよび関連遺跡視察	
17	友田正彦	モンゴル	6月20日～6月25日	拠点交流事業（モンゴル）にかかる保存管理計画に関するワークショップ実施	
18	森井順之	フランス	6月20日～6月25日	屋外石造文化財の保存に関する国際会議における発表	
19	江村知子	アメリカ	6月23日～6月29日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」における絵画調査	
20	加藤雅人	アメリカ	6月23日～6月29日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」における絵画調査	
21	安倍雅史	キルギス	6月24日～6月30日	「キルギス共和国及び中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」にかかる合意書締結、共同作業・研究詳細内容打合せおよび関連遺跡視察	
22	山内和也	ウズベキスタン	7月18日～7月23日	ユネスコ「シルクロード世界遺産登録のための支援事業」に関する会議出席	
23	宮田繁幸	中国	8月1日～8月4日	中日韓非物質文化遺産保護比較研究国際シンポジウム参加および発表	
24	友田正彦	ベトナム	8月8日～8月18日	タンロン皇城遺跡内に所在する植民地期建造物等の調査	
25	森井順之	中国	8月16日～8月19日	東アジア文化遺産保存学会参加および発表	
26	友田正彦	モンゴル	8月20日～8月27日	拠点交流事業（モンゴル）にかかる建造物保存修復調査研修および保存管理計画に関するワークショップ実施	
27	宮田繁幸	タイ	8月21日～8月28日	タイ王国無形文化遺産保護関連調査	
28	有村　誠	アルメニア	8月27日～9月13日	「アルメニアの完新世初頭における先史文化の考古学研究」にかかる考古学調査	
29	岡田　健	中国	8月31日～9月9日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究および古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究	
30	原本知実	サモア	9月3日～9月11日	「第３回太平洋世界遺産ワークショップ」参加	
31	森井順之	中国	9月6日～9月9日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究	
32	石﨑武志	トルコ	9月8日～9月17日	ハギア・ソフィアの保存環境調査	
33	犬塚将英	イタリア	9月9日～9月16日	フレスコ画の保存環境と修復作業についての調査およびタルキニアの墳墓壁画の視察	
34	佐藤　桂	ベトナム	9月14日～9月20日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡管理計画策定ワーキンググループおよび運営委員会出席	
35	友田正彦	ベトナム	9月14日～9月20日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡管理計画策定ワーキンググループおよび運営委員会出席	
36	二神葉子	モンゴル	9月15日～9月20日	国際シンポジウム「エルデニゾー　―過去・未来・現在―」参加および研究発表	
37	山内和也	ウズベキスタン	9月19日～9月24日	シルクロード世界遺産一括登録にむけてのワークショップ参加	
38	岡田　健	韓国	9月20日～9月22日	日中韓文化交流フォーラム参加および講演	
39	有村　誠	カザフスタン	9月27日～10月19日	「シルクロード世界遺産登録支援事業」のための地下探査調査の実施	

	氏名	用務先	期間	用務	備考
40	山内和也	カザフスタン、キルギス、アルメニア	9月27日～10月29日	カザフスタン、キルギス：「シルクロード世界遺産登録支援事業」人材育成ワークショップの実施 キルギス：文化遺産国際協力拠点交流事業による調査・人材育成ワークショップ（考古遺跡の測量）の実施 アルメニア：アルメニアにおける染織文化財の保存修復ワークショップ参加	
41	安倍雅史	キルギス	10月3日～10月29日	文化遺産国際協力拠点交流事業による調査・人材育成ワークショップ（考古遺跡の測量）および「シルクロード世界遺産登録支援事業」人材育成ワークショップの実施	
42	亀井伸雄	台湾	10月5日～10月13日	近代文化遺産の保存・修復および活用に関する現地調査	
43	川野邊渉	台湾	10月5日～10月13日	近代文化遺産の保存・修復および活用に関する現地調査	
44	中山俊介	台湾	10月5日～10月15日	近代文化遺産の保存・修復および活用に関する現地調査	
45	影山悦子	タジキスタン	10月9日～11月8日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画の保存修復	
46	早川典子	イタリア	10月10日～10月17日	ワークショップ「Cource on Architectural Heritage coservation」および「FUNORI」における講師	
47	石﨑武志	中国	10月11日～10月16日	重慶国際シンポジウム「東アジアにおける文化遺産の永続的な保存と活用」参加	
48	邊牟木尚美	アルメニア	10月23日～11月6日	アルメニア国立歴史博物館と研修詳細打合せおよび２０１２年開催予定の金属遺物保存修復ワークショップ共同準備	
49	木川りか	イギリス	10月25日～10月30日	コンファレンス「Pest Odyssey 2011」における研究発表および会議出席	
50	亀井伸雄	ドイツ	10月26日～10月31日	日独交流１５０周年記念特別展「Goldene Impressionen」視察	
51	川野邊渉	ドイツ、フランス、ポーランド	10月27日～11月6日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかる調査	
52	原本知実	オーストリア、コソボ、フランス	11月1日～11月13日	科学研究費助成事業にかかる調査	
53	山下好彦	ポーランド、ドイツ	11月1日～11月24日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかる調査およびワークショップ実施	
54	二神葉子	イタリア、オーストリア	11月2日～11月10日	文化財防災に関する調査	
55	安孫子卓史	ドイツ	11月10日～11月18日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ視察	
56	亀井伸雄	ドイツ、イタリア	11月10日～11月18日	ドイツ：「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ視察 イタリア：第２７回イクロム総会出席	
57	加藤雅人	ドイツ	11月10日～11月26日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ実施および事後調査	
58	楠　京子	ドイツ	11月10日～11月26日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ実施	
59	早川典子	ドイツ	11月13日～11月18日	「在外日本古美術品保存修復協力事業」にかかるワークショップ実施	
60	川野邊渉	イタリア	11月13日～11月19日	イクロム理事会出席	
61	友田正彦	インドネシア	11月15日～11月21日	パダン被災文化遺産復興支援のための打合せ	
62	宮田繁幸	タイ、インドネシア	11月17日～12月1日	タイ：無形文化遺産保護関係調査 インドネシア：ユネスコ無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会出席	
63	岡田健	中国	11月19日～11月30日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
64	原本知実	ミクロネシア連邦	11月20日～11月28日	ナン・マドール遺跡保護にむけたワークショップ支援	
65	今石みぎわ	インドネシア	11月20日～12月2日	ユネスコ無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会出席	
66	二神葉子	インドネシア、タイ	11月20日～12月2日	インドネシア：ユネスコ無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会出席 タイ：アユタヤ遺跡洪水被害に関する調査および打合せ	
67	皿井　舞	中国	11月21日～11月30日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
68	城野誠治	ミクロネシア連邦	11月22日～11月28日	遺跡の現状記録並びにプロジェクトの記録撮影	
69	犬塚将英	中国	11月23日～11月30日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
70	原田　怜	フランス	11月27日～12月4日	イコモス総会出席	
71	江村知子	アゼルバイジャン	11月27日～12月6日	国際交流基金文化協力事業「国立美術館所蔵日本関係美術品調査」にかかる日本美術品の選別およびデータ作成	
72	加藤雅人	メキシコ	12月5日～12月15日	「Evaluation of Materials, Techniques and Tools for Paper Preservation in Latin America」セミナー参加	
73	原本知実	韓国	12月7日～12月10日	第１回国際ブルーシールド会議出席	
74	二神葉子	カンボジア、タイ	12月8日～12月22日	カンボジア：アンコール遺跡の保護と発展に関する国際調整委員会出席および現地調査 タイ：アユタヤ遺跡洪水被害に関する調査および打合せ	
75	友田正彦	カンボジア、タイ	12月11日～12月22日	カンボジア：アンコール遺跡の保護と発展に関する国際調整委員会出席、現地調査およびAPSARA機構との覚書締結 タイ：アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
76	亀井伸雄	カンボジア	12月13日～12月17日	APSARA機構との覚書締結およびアンコール、プレアヴィヘア建築調査	
77	佐藤桂	カンボジア	12月13日～12月21日	APSARA機構との覚書締結およびアンコール、プレアヴィヘア建築調査	
78	安倍雅史	バーレーン	12月16日～12月23日	文化遺産コンソーシアム事業にかかる協力相手国調査	
79	原田　怜	バーレーン	12月16日～12月23日	文化遺産コンソーシアム事業にかかる協力相手国調査	
80	川野邊　渉	タイ	12月18日～12月22日	アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
81	楠　京子	タイ	12月18日～12月22日	アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
82	朽津信明	タイ	12月18日～12月22日	アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
83	城野誠治	タイ	12月18日～12月22日	アユタヤ遺跡洪水被害状況調査	
84	岡田　健	中国	12月18日～12月23日	陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究	
85	安倍雅史	イラン	12月28日～24年1月9日	テヘラン大学保管の考古資料分析	
86	城野誠治	インドネシア	24年1月4日～1月13日	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかる写真記録	

	氏名	用務先	期間	用務	備考
87	友田正彦	ベトナム、インドネシア	24年1月4日～1月13日	ベトナム：歴史考古学研究会出席 インドネシア：インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかるワークショップ実施	
88	亀井伸雄	インドネシア	24年1月6日～1月11日	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかるワークショップ出席	
89	川野邊　渉	インドネシア	24年1月6日～1月11日	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかるワークショップ出席	
90	佐藤　桂	インドネシア	24年1月6日～1月13日	インドネシア・西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援（専門家交流）事業にかかるワークショップ実施および建築調査	
91	島津美子	エジプト	24年1月6日～1月13日	大エジプト博物館保存修復センター支援業務における現地運営指導調査	
92	山内和也	エジプト	24年1月8日～1月13日	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト２０１２年度研修計画策定のための現地視察および打合せ	
93	石﨑武志	イタリア、トルコ	24年1月16日～1月26日	イタリア：歴史的建造物のモニタリングに関するワークショップ参加 トルコ：ハギア・ソフィアの環境調査	
94	今石みぎわ	アルメニア	24年1月20日～1月31日	アルメニアにおける無形民俗文化財の調査	
95	邊牟木尚美	アルメニア	24年1月20日～2月13日	アルメニア国立歴史博物館での金属遺物保存修復専門家に対する人材育成ワークショップ実施	
96	有村　誠	アルメニア、スペイン、フランス	24年1月20日～2月26日	アルメニア:アルメニア国立歴史博物館での金属遺物保存修復専門家に対する人材育成ワークショップ実施 スペイン:バルセロナにおける西アジア新石器時代の石器研究に関する国際シンポジウム参加 フランス：先史時代セミナー参加	
97	二神葉子	モンゴル	24年1月21日～1月27日	モンゴル文化遺産保護に関するワークショップ実施	
98	深井　啓	モンゴル	24年1月21日～1月27日	モンゴル文化遺産保護に関するワークショップ実施	
99	境野飛鳥	モンゴル	24年1月21日～1月27日	モンゴル文化遺産保護に関するワークショップ実施	
100	友田正彦	モンゴル	24年1月23日～1月27日	モンゴル文化遺産保護に関するワークショップ実施	
101	山内和也	カザフスタン、タジキスタン、キルギス、アルメニア	24年1月27日～2月15日	カザフスタン：シルクロード世界遺産登録支援事業打合せ タジキスタン：タジキスタン国立古代博物館収蔵壁画の修復事業打合せ キルギス：拠点交流事業にかかる考古遺物実測ワークショップ実施 アルメニア：拠点交流事業にかかる金属遺物保存修復ワークショップ実施	
102	安倍雅史	キルギス	24年2月1日～2月13日	文化遺産国際協力拠点交流事業による調査・人材育成ワークショップ（遺物実測）実施	
103	石﨑武志	韓国	24年2月8日～2月10日	文化財の防災対策に関する国際シンポジウム参加および講演	
104	境野飛鳥	ブータン	24年2月8日～2月16日	「民家等の伝統的建造物保存修復手法に関する技術支援」にかかる調査	
105	友田正彦	ブータン	24年2月8日～2月16日	「民家等の伝統的建造物保存修復手法に関する技術支援」にかかる調査	
106	犬塚将英	中国	24年2月9日～2月21日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究および敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
107	岡田　健	中国	24年2月9日～2月21日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究および敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
108	皿井　舞	中国	24年2月9日～2月21日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究および敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
109	吉田直人	中国	24年2月9日～2月21日	古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究および敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
110	佐藤　桂	ベトナム	24年2月19日～2月24日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
111	島津美子	インド	24年2月19日～3月3日	「アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業」に関する打合せおよび第６次ミッション参加	
112	鈴木　環	インド	24年2月19日～3月3日	「アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業」に関する打合せおよび第６次ミッション参加	
113	石﨑武志	ベトナム	24年2月20日～2月24日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
114	原田　怜	ミャンマー	24年2月20日～2月29日	文化遺産コンソーシアム事業にかかる協力相手国調査	
115	友田正彦	ミャンマー	24年2月21日～2月29日	文化遺産コンソーシアム事業にかかる協力相手国調査	
116	宮田繁幸	メキシコ	24年2月23日～3月1日	国際人類学民族学会議無形文化遺産委員会出席	
117	川野邊　渉	エジプト	24年2月24日～2月28日	大エジプト博物館保存修復センター支援業務における学術研究シンポジウムでの講演	
118	加藤雅人	エジプト	24年2月27日～3月10日	大エジプト博物館保存修復センター支援業務にかかる保存修復材料ワークショップにおける講師	
119	楠　京子	エジプト	24年2月27日～3月10日	大エジプト博物館保存修復センター支援業務にかかる保存修復材料ワークショップにおける講師	
120	山梨絵美子	台湾	24年3月1日～3月3日	台湾近代絵画調査およびアジア近代美術に関する研究会打合せ	
121	亀井伸雄	ベトナム	24年3月7日～3月13日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
122	川野邊　渉	ベトナム	24年3月7日～3月13日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
123	友田正彦	ベトナム	24年3月9日～3月14日	ユネスコ日本信託基金タンロン皇城遺跡保存事業にかかる保存修復調査	
124	邊牟木尚美	ドイツ	24年3月20日～3月26日	考古金属遺物の保存修復技術に関する調査	
125	山内和也	ウズベキスタン、アルメニア	24年3月20日～3月28日	ウズベキスタン：ユネスコ「シルクロード世界遺産登録のための支援事業」に関する会議出席 アルメニア：拠点交流事業にかかる来年度打合せ	
126	早川泰弘	アメリカ	24年3月27日～4月1日	ナショナル・ギャラリー・オブ・アート「伊藤若冲・動植綵絵」展覧会における研究成果発表およびシンポジウムでの講演	

【奈良文化財研究所】延べ188人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	加藤　真二	中国	4月17日～4月30日	中国山東、河南、河北３省の細石器の調査	科研費
2	森川　実	中国	同上	同上	同上
3	金田　明大	中国	4月12日～4月17日	Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology で発表	運営費交付金
4	森本　晋	中国	同上	同上	同上
5	箱崎　和久	韓国	4月24日～4月27日	第一次大極殿院復元にかかる類例調査	業務委託経費
6	海野　聡	韓国	同上	同上	同上
7	北山　夏希	韓国	同上	同上	同上
8	杉山　洋	カンボジア王国	4月23日～4月30日	大成建設自然・歴史環境基金「アンコール・トム内における仏教テラスの調査と保護」	助成金
9	佐藤　由似	カンボジア王国	同上	同上	同上
10	森本　晋	トルクメニスタン	4月30日～5月9日	ユネスコ主催第２回シルクロード世界遺産シリアル登録支援委員会出席	運営費交付金
11	田村　朋美	韓国	5月11日～5月15日	大韓民国出土ガラス製遺物の調査および研究会参加	科研費
12	今井　晃樹	中国	5月14日～5月25日	中国社会科学院考古研究所との漢魏洛陽城における共同調査および関連異物の調査	運営費交付金
13	栗山　雅夫	中国	同上	同上	同上
14	井上　和人	ベトナム	5月16日～5月20日	タンロン皇城遺跡の保存にかかわる協力事業	東京文化財研究所
15	杉山　洋	ベトナム	5月21日～5月27日	同上	同上
16	石村　智	ベトナム	同上	同上	同上
17	庄田　慎矢	韓国	5月22日～5月28日	科学研究費補助金による調査	科研費
18	杉山　洋	カンボジア	6月7日～7月11日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
19	佐藤　由似	カンボジア	6月7日～9月7日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
20	大林　潤	韓国	6月5日～6月8日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	業務委託経費
21	海野　聡	韓国	同上	同上	同上
22	井上　麻香	韓国	同上	同上	同上
23	森本　晋	イタリア・ロシア・アルメニア・キルギス	6月13日～6月30日	バーミヤン遺跡保存専門家会議出席ならびに中央アジア関係異物・遺跡調査	運営費交付金
24	丹羽　崇史	中国	6月15日～6月19日	鞏義窯陶瓷国際学術検討会への参加	運営費交付金
25	森川　実	中国	同上	同上	渡航費　運営費交付金 滞在費　先方負担
26	小田　裕樹	中国	同上	同上	同上
27	高橋　透	中国	同上	同上	同上
28	庄田　慎矢	アメリカ	6月25日～6月30日	ハーバード大学韓国研究所主催のワークショップ参加および科学研究費補助金による調査	科研費・先方負担
29	丹羽　崇史	中国	6月27日～7月2日	平成２４年度秋期特別展の事前資料調査・協議	運営費交付金
30	成田　聖	中国	同上	同上	同上
31	加藤　真二	韓国	7月4日～7月7日	飛鳥地域に関わる韓国出土遺物の調査と研究打ち合わせ	運営費交付金
32	庄田　慎矢	韓国	同上	同上	同上
33	小野　健吉	イタリア	7月7日～7月19日	イタリアにおける庭園等の調査	京都大学大学院研究経費
34	田村　朋美	カンボジア	7月11日～7月17日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
35	脇谷　草一郎	カンボジア	同上	同上	同上
36	鈴木　智大	中国	7月15日～7月20日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	業務委託経費
37	井上　麻香	中国	同上	同上	同上
38	海野　聡	中国	同上	同上	同上
39	森本　晋	ウズベキスタン	7月18日～7月23日	文化財ドキュメンテーション国際会議の準備会議出席	運営費交付金
40	杉山　洋	カンボジア	7月22日～9月7日	カンボジア・ウドン遺跡およびロンヴェック遺跡等の保存に関する拠点交流事業	業務委託経費
41	田代　亜紀子	カンボジア	7月26日～8月6日	カンボジア・ウドン遺跡およびロンヴェック遺跡等の保存に関する拠点交流事業	業務委託経費
42	石村　智	カンボジア	同上	同上	同上
43	小澤　毅	カンボジア	7月26日～8月7日	同上	同上
44	金田　明大	カンボジア	同上	同上	同上
45	海野　聡	韓国	7月25日～7月30日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	業務委託経費
46	北山　夏希	韓国	同上	同上	同上
47	鈴木　智大	韓国	同上	同上	同上
48	庄田　慎矢	韓国	7月28日～7月31日	財団法人高梨学術奨励基金による調査研究「磨製石器製作工房遺跡の日韓比較研究」に関する資料調査のため	助成金
49	林　良彦	ベトナム	8月9日～8月19日	ベトナム国ドンナイ省フーホイ・ティエンザン省カイベ―の集落調査および類例調査	他機関負担：昭和女子大学
50	黒坂　貴裕	ベトナム	8月9日～8月18日	同上	同上
51	高橋　知奈津	ベトナム	同上	同上	同上
52	松本　将一郎	ベトナム	同上	同上	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
53	庄田　慎矢	韓国	8月15日～8月20日	科学研究費補助金による調査	科研費
54	加藤　真二	中国	8月21日～8月28日	科学研究費補助金による泥河湾旧石器の調査	科研費
55	松井　章	台湾	8月22日～8月27日	台湾において講演会に参加	先方負担
56	庄田　慎矢	韓国	8月24日～10月21日	「日韓古代都城制の比較研究」の共同研究	運営費交付金
57	馬場　基	中国	8月28日～8月30日	シンポジウム報告のため	科研費
58	渡辺　晃宏	中国	8月28日～9月1日	同上	同上
59	石村　智	トンガ	8月30日～9月4日	国営公園沖縄海洋博記念公園海洋文化館の新規展示資料の収集	国営公園沖縄海洋博記念公園
60	森本　晋	チェコ	9月11日～9月17日	CIPA（文化遺産記録国際委員会）2011出席	運営費交付金
61	石村　智	サモア	9月5日～9月11日	ユネスコ第３回太平洋世界遺産ワークショップに参加	運営費交付金
62	森本　晋	ウズベキスタン	9月19日～9月24日	文化財ドキュメンテーション国際会議出席・発表	ユネスコ・運営費交付金
63	加藤　真二	中国	9月20日～9月22日	遼寧省との研究・展示に関する調整と協議	運営費交付金
64	小池　伸彦	中国	9月20日～9月22日	遼寧省との共同研究に関する協議	運営費交付金
65	清野　孝之	中国	同上	同上	同上
66	青木　達司	アメリカ	9月24日～10月1日	アメリカ合衆国コロンビア大学との共同研究・研究交流	運営費交付金
67	清水　重敦	アメリカ	9月25日～10月1日	同上	同上
68	惠谷　浩子	アメリカ	9月26日～10月2日	アメリカ合衆国における文化的景観保全制度と運用状況に関する調査	運営費交付金
69	石村　智	アメリカ	9月26日～10月2日	コロンビア大学日本中世研究所との共同研究、およびペンシルバニア大学にて資料調査	運営費交付金：コロンビア大学共同研究
70	佐藤　由似	カンボジア	9月27日～11月18日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
71	金田　明大	カザフスタン	9月27日～10月19日	ユネスコ・シルクロード世界遺産登録関連ドキュメンテーション事業の調査	東京文化財研究所
72	平澤　毅	韓国	9月28日～10月1日	第5回新羅学国際学術大会への出席・講演等	先方負担
73	箱崎　和久	韓国	10月4日～10月8日	国際学術セミナー「東アジア古代寺址および古代庭園」への出席	先方負担
74	高橋　知奈津	韓国	10月4日～10月8日	同上	同上
75	小澤　毅	キルギス	10月4日～10月19日	文化庁受託「キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」の一環として実施される人材育成事業における講義	東京文化財研究所
76	芝　康次郎	キルギス	10月10日～10月19日	同上	同上
77	井上　和人	キルギス	10月10日～10月13日	同上	運営費交付金
78	小野　健吉	キルギス	10月10日～10月16日	同上	運営費交付金
79	小野　健吉	カザフスタン	10月16日～10月19日	同上	同上
80	森本　晋	キルギス	10月10日～10月17日	キルギス国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所ほかの収蔵遺物見学ならびに関連遺跡の踏査	助成金
81	北田　正弘	フランス・スイス・ドイツ	10月10日～10月17日	青葉刀剣等の共同研究打ち合わせ及び文化財の調査	科研費
82	鈴木　智大	中国	10月11日～10月15日	日中韓建築文化遺産保存国際会議への出席	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
83	箱崎　和久	中国	10月11日～10月22日	日中韓建築文化遺産保存国際会議への出席、第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	業業務委託経費
84	大林　潤	中国	10月11日～10月22日	同上	同上
85	北山　夏希	中国	10月11日～10月22日	同上	同上
86	杉山　洋	カンボジア	10月12日～10月19日	アンコールトム内仏教テラスの研究	助成金
87	林　良彦	中国	10月15日～10月22日	第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	業務委託経費
88	石田　由紀子	中国	10月18日～10月24日	同上	同上
89	今井　晃樹	中国	同上	同上	同上
90	中川　二美	中国	同上	同上	同上
91	清野　孝之	中国	同上	同上	同上
92	森本　晋	タイ	10月18日～10月22日	太平洋近隣友好協会年次大会（PNC）2011に出席発表	科研費
93	平澤　毅	韓国	10月19日～10月22日	名勝の保存と保全に関する国際ワークショップへの出席・発表等	先方負担
94	児島　大輔	中国	10月22日～10月29日	陝西省西安市および彬県における資料調査・踏査および資料収集	助成金
95	松井　章	イギリス	10月24日～10月30日	在英日本大使館において文化財レスキューの講演、セインズベリー日本芸術研究所にて共同研究の打ち合わせ	先方負担
96	井上　和人	中国	10月27日～10月30日	第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	業務委託経費
97	中村　亜希子	中国	10月27日～10月31日	同上	同上
98	中川　二美	中国	同上	同上	同上
99	石田　由紀子	中国	同上	同上	同上
100	鈴木　智大	中国	同上	同上	同上
101	井上　麻香	中国	同上	同上	同上
102	田村　朋美	韓国	10月27日～11月1日	武寧王陵発掘４０周年記念講演会で講演	先方負担、科研費
103	馬場　基	韓国	11月4日～11月7日	韓国木簡学会大会報告	先方負担
103	桑田　訓也	韓国	11月4日～11月7日	韓国木簡学会大会参加	木簡学会
104	清野　孝之	中国	11月5日～11月9日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
105	諫早　直人	中国	同上	同上	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
106	庄田　慎矢	中国	11月5日～11月12日	科学研究費による調査研究のため国際学術会議「全球視野下的青銅時代」における研究発表	科研費
107	石村　智	台湾・フィリピン	11月6日～11月14日	台湾における初期オーストロネシア語族の遺跡の調査、およびフィリピン、マニラで開催されるAsia-Pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage にて座長および研究発表	科研費
108	加藤　真二	中国	11月7日～11月9日	遼寧省文物考古研究所との研究・展示に関する調整と協議	運営費交付金
109	杉山　洋	カンボジア	11月12日～11月29日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
110	田代　亜紀子	インドネシア・ベトナム	11月15日～12月1日	「ヘリテージツーリズムによる地域の文化遺産マネジメントに関する研究」調査および第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	科研費・業務委託経費
111	諫早　直人	韓国	11月20日～11月27日	日韓共同研究「日本列島における金工品生産と新羅」にもとづく調査研究	渡航費：運営費交付金,滞在費：先方負担
112	石村　智	ミクロネシア	11月20日～11月28日	ミクロネシア連邦ナン・マドール遺跡の保護に資する人材育成ワークショップ	先方負担
113	北山　夏希	ベトナム	11月22日～11月30日	第一次大極殿院復元にかかる類例建築調査	業務委託経費
114	児島　大輔	ベトナム	同上	同上	同上
115	中川　二美	ベトナム	同上	同上	同上
116	大林　潤	ベトナム	11月24日～11月30日	同上	同上
117	清野　孝之	ベトナム	11月24日～11月30日	同上	同上
118	番　光	ベトナム	11月24日～11月30日	同上	同上
119	井上　和人	ベトナム	11月27日～11月30日	同上	同上
120	難波　洋三	中国	11月22日～11月27日	河南省・河北省への資料調査	運営費交付金
121	青木　敬	中国	同上	同上	同上
122	丹羽　崇史	中国	同上	同上	同上
123	玉田　芳英	中国	同上	同上	同上
124	栗山　雅夫	中国	同上	同上	同上
125	森川　実	中国	同上	同上	同上
126	青木　敬	韓国	12月2日～12月4日	チャラボン古墳発掘調査見学および古代土木技術関連資料の収集	科研費
127	佐藤　由似	カンボジア	12月5日～12月30日	アンコール遺跡群西トップ遺跡建築装飾群の修復・復元	助成金
128	脇谷　草一郎	中国	12月5日～12月9日	国際会議「伝統技術の継承と人材養成ー石とレンガの修理技術」に出席	寄附金
129	降幡　順子	中国	12月7日～12月9日	同上	同上
130	田村　朋美	中国	12月7日～12月9日	国際会議「伝統技術の継承と人材養成ー石とレンガの修理技術」に出席同済大学研究協定の協議	寄附金
131	高妻　洋成	中国	同上	同上	同上
132	杉山　洋	カンボジア	12月8日～12月27日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
133	丹羽　崇史	中国	12月9日～12月15日	湖北省における失蝋法関連遺物の資料調査	科研費
134	井上　和人	カンボジア	12月12日～12月16日	西トップ事業アプサラとの覚書締結式出席	運営費交付金
135	渡辺　晃宏	韓国	12月14日～12月16日	木簡に関する日韓共同研究	運営費交付金
136	桑田　訓也	韓国	同上	同上	運営費交付金・先方負担
137	森先　一貴	ロシア	12月16日～12月22日	ロシア連邦ハバロフスク地方コンドン１遺跡出土遺物の調査・研究	科研費
138	加藤　真二	中国	12月18日～12月26日	科学研究費による中国細石刃石器群の調査	科研費
139	芝　康次郎	中国	同上	同上	同上
140	青木　敬	韓国	12月19日～12月22日	日韓共同研究にともなう資料調査	渡航費：運営費交付金,滞在費：先方負担
141	廣瀬　覚	韓国	同上	同上	同上
142	若杉　智宏	韓国	同上	同上	同上
143	箱崎　和久	ベトナム	12月22日～12月30日	ベトナム国ドンナイ省フーホイ・ティエンザン省カイベ―の集落調査および類例調査	昭和女子大学
144	大林　潤	ベトナム	同上	同上	同上
145	栗山　雅夫	ベトナム	同上	同上	同上
146	高橋　知奈津	ベトナム	同上	同上	同上
147	林　良彦	ベトナム	12月26日～12月31日	同上	同上
148	児島　大輔	中国	12月28日～12月31日	中国国家博物館・北京石刻芸術博物館等における資料調査	運営費交付金
149	田代　亜紀子	インドネシア	24年1月2日～1月11日	平成度文化庁受託「西スマトラ州パダンにおける歴史的地区日債文化遺産復興支援(専門家交流）」ワークショップ参加	東京文化財研究所
150	加藤　真二	中国	24年1月5日～1月7日	科学研究費による調査打ち合わせ	科研費
151	杉山　洋	ベトナム	24年1月5日～1月7日	日本ユネスコ信託基金タンロン皇城跡保存事業ワークショップ参加	東京文化財研究所
152	井上　和人	ベトナム	24年1月5日～1月8日	同上	同上
153	石村　智	ベトナム	24年1月5日～1月8日	タンロン皇城遺跡保存支援国際協力	東京文化財研究所
154	杉山　洋	カンボジア	24年1月13日～1月21日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
155	佐藤　由似	カンボジア	24年1月8日～3月17日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
156	田村　朋美	カンボジア	24年1月16日～1月20日	同上	同上
157	高妻　洋成	カンボジア	同上	同上	同上
158	脇谷　草一郎	カンボジア	24年1月16日～1月20日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
159	小野　健吉	カンボジア	24年1月25日～1月30日	アンコール・ワット及びその周辺の水景観等の調査	運営費交付金
160	杉山　洋	カンボジア	24年2月7日～2月25日	カンボジア・ウドン遺跡およびロンヴェック遺跡等の保存に関する拠点交流事業	業務委託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
161	石村　智	カンボジア	24年2月12日～2月24日	同上	同上
162	田村　朋美	カンボジア	24年2月20日～2月25日	同上	同上
163	森本　晋	カザフスタン	24年2月14日～2月18日	カザフ国立大学収蔵考古資料の調査	助成金
164	芝　康次郎	カザフスタン	同上	同上	同上
165	田代　亜紀子	インドネシア・カンボジア	24年2月12日～2月28日	科研「ヘリテージツーリズムによる地域の文化遺産マネジメントに関する研究」調査および拠点交流事業調査	科研費・業務委託経費
166	高妻　洋成	ベトナム	24年2月19日～2月23日	タンロン皇城遺跡保存に係る現地調査に参加	東京文化財研究所
167	森先　一貴	ロシア	24年2月19日～2月23日	ロシア連邦沿海地方新石器時代遺跡出土遺物の調査	助成金
168	脇谷　草一郎	ベトナム	24年2月20日～2月24日	ベトナム・タンロン皇城遺跡保存に係る現地調査に参加	東京文化財研究所
169	森本　晋	カンボジア	24年3月20日～3月23日	カンボジア・西トップ遺跡修復事業に参加	運営費交付金
170	松井　章	エルサルバドル・グアテマラ	24年2月23日～3月2日	名古屋大学が行う中米遺跡発掘の環境考古学的調査の指導	名古屋大学
171	森本　晋	イギリス・フランス	24年2月25日～3月4日	バーミヤン遺跡群ならびに中央アジア遺跡調査関係資料のデータ化のための調査	運営費交付金
172	加藤　真二	中国	24年2月27日～3月4日	科学研究費による中国細石刃文化の基礎的研究のための史料調査	科研費
173	杉山　洋	カンボジア・ベトナム	24年3月6日～3月25日	西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
174	難波　洋三	カンボジア・ベトナム	24年3月7日～3月11日	西トップ寺院修復工事起工式出席・タンロン皇城遺跡保存事業視察	運営費交付金、東京文化財研究所
175	石村　智	カンボジア	24年3月7日～3月10日	カンボジア・西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金
176	田代　亜紀子	ベトナム	24年3月9日～3月12日	ベトナム・タンロン皇城遺跡保存事業協議	東京文化財研究所
177	菊地　大樹	中国	24年3月14日～3月21日	埋蔵文化財ニュース刊行のための調査	運営費交付金
178	小野　健吉	イタリア	24年3月17日～3月25日	イタリアにおける庭園等の調査	京都大学大学院研究経費
179	小池　伸彦	中国	24年3月19日～3月23日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「遼西地域における都城の研究」嶺寺遺跡出土瓦調査・共同研究計画に関する協議	運営費交付金
180	栗山　雅夫	中国	同上	同上	同上
181	森先　一貴	中国	同上	同上	同上
182	難波　洋三	韓国	24年3月19日～3月23日	韓国出土唐三彩の調査	運営費交付金
183	木村　理恵	韓国	同上	同上	同上
184	玉田　芳英	韓国	同上	同上	同上
185	小田　裕樹	韓国	同上	同上	同上
186	森川　実	韓国	同上	同上	同上
187	若杉　智宏	韓国	同上	同上	同上
188	森本　晋	カンボジア	24年3月20日～3月23日	カンボジア・西トップ遺跡の調査研究	運営費交付金

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ15人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	大貫美佐子	韓国（ソウル）	6月1日～6月3日	第７回アジア文化ネットワーク会議におけるＡＳＥＡＮ加盟国とアジア太平洋Ｃ２Ｃの協力強化会議出席	文化庁受託経費
2	松山直子	インド（デリー、アーメダバード）	7月10日～7月20日	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査（伝統染織技術に関する情報収集）	文部科学省受託経費
3	松山直子	タイ（バンコク）	8月21日～8月27日	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査（行政組織構築と法的枠組形成の現状調査）	文部科学省受託経費
4	大貫美佐子	フランス（パリ）、イギリス（ロンドン）	8月29日～9月3日	フランス世界文化機関会長及び無形文化遺産条約専門家会合委員との打合せ	文化庁受託経費
5	松山直子	インド（ジャイプル、アーメダバード）	11月10日～11月23日	無形文化遺産保護活動の現状調査（更紗制作技術及び木版制作技術の伝承状況調査）	文部科学省受託経費
6	大貫美佐子	インドネシア（バリ）	11月25日～12月1日	無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会（６ＣＯＭ）出席	文部科学省受託経費
7	淑瑠ラフマン	インドネシア（バリ）	11月25日～12月1日	無形文化遺産保護条約第６回政府間委員会（６ＣＯＭ）出席	文部科学省受託経費
8	藤井知昭	韓国（ソウル）	11月28日～11月29日	アジア太平洋のＩＣＨの保護のための地域連携に関する国際会議出席及び発表報告	文部科学省受託経費
9	松山直子	タイ（バンコク）	12月14日～12月18日	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護活動の現地調査（研究状況調査）	文部科学省受託経費
10	淑瑠ラフマン	新疆ウイグル自治区	12月23日～24年1月3日	ウイグル伝統音楽における音程変化の移行パターンとウイグル社会における人々の音楽に対する意識や音楽の社会環境に対する調査研究	先方負担：金沢大学
11	松山直子	タイ（バンコク、アユタヤ）	24年1月10日～1月15日	無形文化遺産保護活動の現状調査（染織技術の変遷と研究状況調査）	文部科学省受託経費
12	松山直子	タイ（バンコク）	24年1月25日～1月29日	無形文化遺産保護活動の現状調査（染織技術の調査）	文部科学省受託経費
13	児玉茂昭	カンボジア（ネピトー、ヤンゴン、マンダレー）	24年2月14日～2月24日	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査（無形文化遺産の現状について調査研究）	文部科学省受託経費
14	淑瑠ラフマン	中国（北京）	24年2月21日～26日	ユネスコアジア太平洋無形文化遺産育成センター（CHIHAP）開所式出席及び北京大学（楊　哲峰教授）と研究打合せ	文化庁受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
15	松山直子	インド（ハイデラバード、スリカラハスティ、マチリパトナム、アーメダバード）	24年2月27日～3月7日	無形文化遺産保護活動の現状調査（更紗制作技術の伝承状況調査）	文部科学省受託経費

c-② 調査研究テーマ一覧

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
140 件	88 件	39 件	12 件	13 件	24 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	51 件	24 件	27 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】　計39件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
2	特別調査法隆寺献納宝物（第３３次）「聖徳太子絵伝」第７回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
3	特別調査「書跡」第９回	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
4	特別調査「工芸」第３回	学芸研究部	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
5	特別調査「彫刻」第１回	学芸研究部	調査研究課東洋室長　浅見龍介
6	特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」―尾形光琳風神雷神屏風を中心に	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
7	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
8	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
9	目録学の構築と古典学の再生に関する調査研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
10	文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	学芸企画部博物館情報課長　高橋裕次
11	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課　神辺知加
12	宮廷工芸に関する物質文化的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	列品管理課　猪熊兼樹
13	日本近世実景図研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
14	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究（科学研究費補助金	学芸研究部	学芸企画部長　松本伸之
15	古筆切紙背の史料学的研究（学術研究助成基金助成金	学芸研究部	調査研究課長　田良島哲
16	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金	学芸研究部	列品管理課　古谷毅
17	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　小山弓弦葉
18	絵巻の＜伝来＞をめぐる総合的研究（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　土屋貴裕
19	狩野晴川院養信による寺社宝物摸本の基礎的研究（学術研究助成基金助成金	学芸研究部	列品管理課　安藤香織
20	黒耀石の獲得と消費からみた完新世初期人類社会の形成過程（学術研究助成基金助成金	学芸研究部	列品管理課　及川穣
21	東京国立博物館所蔵国際交流史料データベース（科学研究費補助金・研究成果公開促進費	学芸研究部	調査研究課　髙梨真行
22	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金	学芸研究部	保存修復課　和田浩
23	諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　土屋貴裕
24	絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観に関する研究（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　土屋貴裕
25	南宋絵画史における仏画の位相ー都と地域、中国と周縁ー（科学研究費補助金	学芸研究部	調査研究課　塚本麿充
26	アジアの木地螺鈿ーその源流、正倉院宝物への道をたどるー（科学研究費補助金	学芸研究部	列品管理課　猪熊兼樹
27	草創期の磁器における『和様化』の背景について　（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金	学芸研究部	学芸企画部企画課　横山梓
28	古筆切の発生とその鑑賞に関する基礎的研究(メトロポリタン東洋美術研究センター助成金)	学芸研究部	調査研究課　恵美千鶴子
29	高雄曼荼羅の調査研究（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金	学芸研究部	学芸企画部長　松本伸之
30	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課長　高橋裕次
31	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課　川村佳男
32	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	副館長　島谷弘幸
33	中国書画の表装に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	列品管理課長　富田淳
34	博物館の環境保存に関する研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
35	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
36	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　木下史青
37	博物館美術教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　今井敦
38	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
39	凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究	学芸企画部	企画課長　井上洋一

【京都国立博物館】　計12件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
2	彫刻に関する調査研究	学芸部	主任研究員　淺湫 毅
3	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室長　尾野善裕
4	近代建築に関する調査研究	学芸部	文化財管理監　中村　康
5	特別展覧会「中国近代絵画と日本」に関する調査	学芸部	学芸部長　西上　実
6	特別展覧会「王朝文化の華　陽明文庫名宝展」に関する調査研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
7	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	学芸部	館長　佐々木 丞平
8	近世絵画に関する調査研究	学芸部	連携協力室長　山下 善也
9	鎌倉仏教とその造形に関する調査研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
10	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　村上 隆
11	文化財の保存・修復に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　村上 隆
12	文化財情報に関する調査研究	学芸部	企画室長　久保智康

【奈良国立博物館】　計13件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。	学芸部	学芸部長　西山　厚
2	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	学芸部	学芸部長　西山　厚
3	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	学芸部	学芸部長　西山　厚
4	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	学芸部	学芸部長　西山　厚
5	平成２４年度春季特別展「貞慶（仮称）」、２５年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。	学芸部	学芸部長　西山　厚
6	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ―三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣―與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	学芸部	学芸部長　西山　厚
7	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	学芸部	学芸部長　西山　厚
8	東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	学芸部	学芸部長　西山　厚
9	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	学芸部	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生
10	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	学芸部	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生
11	館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	学芸部	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生
12	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	学芸部	学芸部教育室長　吉澤　悟
13	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	学芸部	資料室長　宮崎幹子

【九州国立博物館】　計24件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金）	博物館科学課	環境保全室長　今津　節生
2	平成20年度特別展「工芸のいま　伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う	学芸部	学芸部長　谷　豊信
3	旧石器から弥生時代の日本人の起源に関する調査研究	博物館科学課	主任研究員　志賀　智史
4	縄文時代の火焔土器に関する調査研究	展示課	展示課長　赤司　善彦
5	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	企画課	研究員　市元　塁
6	館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画に関する調査研究	企画課	主任研究員　畑　靖紀
7	中国湖南省の馬王堆漢墓に関する調査研究	企画課	企画課長　小泉　惠英
8	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	展示課	展示課長　赤司　善彦
9	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課	企画課長　小泉　惠英
10	アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－（科学研究費補助金）	文化財課	資料管理室長　小林　公治
11	琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する調査研究	博物館科学課	保存修復室長　藤田　励夫
12	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課	環境保全室長　今津　節生
13	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館科学課	主任研究員　志賀　智史
14	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館科学課	博物館科学課長　本田　光子
15	東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCOとの共同）	博物館科学課	保存修復室長　藤田　励夫
16	日本の文化財修理と保存、復元に関する調査研究	博物館科学課	博物館科学課長　本田　光子
17	九博に関連する絵本の次シリーズの企画に関する調査研究	企画課	研究員　市元　塁
18	NHKと協同で高精細画像を活用したシアター4000での映像公開に向けた研究	展示課	展示課長　赤司　善彦
19	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究	企画課	企画課長　小泉　惠英
20	学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発	交流課	主任研究員　池内一誠
21	Ｘ線ＣＴによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析（科学研究費補助金）	展示課	主任研究員　楠井　隆志
22	南アジアと東方アジアの螺鈿構造―技術比較の視点から―（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成）	文化財課	資料管理室長　小林　公治
23	平山郁夫　画業と文化財保護活動に関する調査研究	文化財課	文化財課長　臺信祐爾
24	館蔵品を中心とした漆器の調査研究	企画課	研究員　川畑　憲子

【東京文化財研究所】計24件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	文化財の資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長　塩谷　純
3	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部	近現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子
4	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部	広領域研究室長　綿田　稔
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸
6	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸
7	無形文化遺産分野の国際研究交流事業	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（10件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石崎武志
2	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石崎武志
3	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石崎武志
4	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
5	文化財の災害対策及び被災文化財の救援と保存修復手法に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
6	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター	伝統技術研究室長　北野信彦
7	国際研修「紙の保存と修復」	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉
8	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉
9	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長　中山俊介
10	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石崎武志

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（4件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
2	東アジア諸国文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長　岡田　健
3	東南アジア諸国文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦
4	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	地域環境研究室長　山内和也
5	文化財保存修復手法の国際的研究	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

○研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	諸外国の文化財保護に係る人材育成	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦

【奈良文化財研究所】計27件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（14件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	文化遺産部	建造物研究室長　林　良彦
3	我が国の記念物に関する調査・研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長　平澤　毅
4	我が国の記念物に関する調査・研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長　平澤　毅
5	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	企画調整部	学芸室長　加藤真二
6	平城宮跡東院地区（第４８１次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人
7	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人
8	平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人
9	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人
10	藤原宮跡朝堂院地区（第１６９次）の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
11	甘樫丘東麓遺跡（第１７１次）の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
12	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
13	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	文化遺産部長　小野健吉
14	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（4件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小澤　毅
2	文化財の測量･探査等に関する研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小澤　毅
3	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　大河内隆之
4	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　松井　章

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
2	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（6件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
2	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
3	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
4	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　深澤芳樹
5	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	企画調整部	企画調整部長　難波洋三
6	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力	都城発掘調査部　平城地区	副所長　井上和人

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	企画調整部	国際遺跡研究室長　杉山　洋

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	アジア太平洋無形文化遺産研究センターの設置、およびアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	副所長　大貫美佐子

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
51 件	16 件	33 件	2 件

【東京文化財研究所】計16件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	ＧＥＭによる超高感度・大面積ガンマ線イメージセンサー（受託）	保存修復科学センター
2	あるぜんちな丸一等食堂漆棚に於ける制作技法と修復処置の研究（受託）	保存修復科学センター
3	霧島神宮における彩色剥落止めの手法開発及び施工監理（受託）	保存修復科学センター
4	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）	保存修復科学センター
5	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）	保存修復科学センター
6	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）	文化遺産国際協力センター
7	文化遺産国際協力拠点交流事業（モンゴル）（受託）	文化遺産国際協力センター
8	ユネスコ　タンロン・ハノイ文化遺産群の保存事業（受託）	文化遺産国際協力センター
9	文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（アユタヤ遺跡洪水被害状況調査事業）（受託）	文化遺産国際協力センター
10	文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（受託）	文化遺産国際協力センター
11	ユネスコ　シルクロード世界遺産登録のための支援事業（受託）	文化遺産国際協力センター
12	文化遺産国際協力拠点交流事業（コーカサス）（受託）	文化遺産国際協力センター
13	文化遺産国際協力拠点交流事業（キルギス）（受託）	文化遺産国際協力センター
14	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅠ、Ⅱ）に係る国内支援業務(受託)	文化遺産国際協力センター
15	関西大学博物館所蔵登録有形文化財津雲貝塚出土縄文時代甕棺の復元修理（受託）	保存修復科学センター
16	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）（受託）	保存修復科学センター

【奈良文化財研究所】計33件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	兵庫県近代和風建築総合調査（受託）	文化遺産部
2	比叡山延暦寺建造物調査（受託）	文化遺産部
3	旧高梁尋常高等小学校本館建造物調査（受託）	文化遺産部
4	興福寺北円堂門跡・回廊跡の発掘調査（受託）	都城発掘調査部(平城)
5	薬師寺収蔵庫建設予定地の発掘調査（受託）	都城発掘調査部(平城)
6	京都岡崎の文化的景観に関する保存計画策定調査（受託）	文化遺産部
7	相川地区文化的景観　景観変遷・景観構造調査　業務委託（受託）	文化遺産部
8	平成23年度長良川流域の文化的景観における伝統的家屋等総合調査業務委託（受託）	文化遺産部
9	京都岡崎の文化的景観に関する普及啓発事業（受託）	文化遺産部
10	「発掘調査のてびき」作成に係る業務（受託）	埋蔵文化財センター
11	出雲大社建築金物の材質分析（受託）	埋蔵文化財センター
12	田熊石畑遺跡武器形青銅器の保存処理及び保存台作製（受託）	埋蔵文化財センター
13	史跡ガランドヤ古墳１号墳における熱・水分同時移動解析に関する研究（受託）	埋蔵文化財センター
14	天良七堂遺跡の総合的探査（受託）	埋蔵文化財センター
15	真福寺貝塚地下レーダー探査業務（受託）	埋蔵文化財センター
16	周防国庁における総合的探査（受託）	埋蔵文化財センター
17	三軒屋遺跡総合的探査（受託）	埋蔵文化財センター
18	神野向遺跡レーダー探査業務委託（受託）	埋蔵文化財センター
19	平成23年度大宰府史跡・蔵司地区における総合的探査業務（受託）	埋蔵文化財センター
20	永保寺開山堂の年輪年代補足調査および観音堂の年輪年代調査（受託）	埋蔵文化財センター
21	東名遺跡出土動物遺存体調査（受託）	埋蔵文化財センター
22	平成23年度小竹貝塚出土骨角器同定調査業務（受託）	埋蔵文化財センター
23	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）	都城発掘調査部（藤原）
24	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）	都城発掘調査部（藤原）
25	キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査業務（受託）	都城発掘調査部(藤原)
26	大和紀伊平野農業水利事業に係る埋蔵文化財発掘調査（受託）	都城発掘調査部(藤原)
27	文化遺産国際協力拠点交流事業（受託）	企画調整部
28	海のシルクロードに関する観光研究（受託）	企画調整部
29	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査委託（受託）	都城発掘調査部(平城)
30	朱雀大路緑地遺跡発掘調査（受託）	都城発掘調査部(平城)
31	特別史跡藤原宮跡（高殿町徳田宅倉庫）発掘調査（受託）	都城発掘調査部（藤原）
32	藤原宮跡（高殿町集会所）発掘調査（受託）	都城発掘調査部（藤原）
33	藤原宮跡（法花寺水路改修）発掘調査（受託）	都城発掘調査部（藤原）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計2件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	日本／ユネスコ　パートナーシップ事業　アジア太平洋地域無形文化遺産保護活動の調査研究（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
2	無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
327 件	194 件	72 件	18 件	61 件	43 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	131 件	42 件	89 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	2 件				

【東京国立博物館】72件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	赤糸威大鎧の魅力とその修復	上席研究員　池田　宏	4月16日	春日大社(国宝　赤糸威鎧修復記念シンポジウム)
2	同上	江戸の甲冑～徳川家康とその四天王を中心に～	同上	12月8日	日比谷図書館文化館
3	同上	東京国立博物館所蔵の正倉院裂―なぜ正倉院の染織品が東博にあるの―	特任研究員　澤田むつ代	5月7日	東博　平成館大講堂
4	同上	染色や刺繍糸、技法からみた天寿国繍帳の変遷	同上	7月31日	九州国立博物館
5	同上	槐安居コレクションと聴氷閣コレクション～高島菊次郎氏と三井高堅氏～	列品管理課長　富田淳	10月22日	関西中国書画コレクションの過去と未来―収集から一世紀、その意義を考える―(関西書画コレクション研究会)
6	同上	趙孟頫蘭亭十三跋小考～焼残時期について～	同上	10月30日	2011年蘭亭国際学術研討会(北京故宮博物院)
7	同上	江戸時代後期の伊万里染付大皿にみられる〈中国趣味〉について	博物館教育課長 今井敦	7月9日	東洋陶磁学会平成23年度第1回研究会
8	同上	古九谷研究の変遷について ―美術史学と陶磁史研究―	同上	11月27日	東洋陶磁学会第39回大会
9	同上	長谷川等伯のゆくえ―桃山絵画から江戸絵画へ	企画課特別展室長　松嶋雅人	11月30日	出光美術館　第277回水曜講演会
10	同上	Japanese Museums in the Wake of Disaster（災害発生時における日本の博物館）	企画課国際交流室　鬼頭智美	4月8日	国際展覧会オーガナイザー会議
11	同上	Likeness and Presence on Japanese Portrait（「日本の肖像画における型と肖似性について」）	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀	10月29日	The International Symposium on East Asian Portrait.（韓国国立中央博物館）
12	同上	室町時代の舞楽装束に見る染織技術	同上	9月5日	第35回　文化財の保存と修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承―研究と保存修復の現状―」、東京文化財研究所
13	同上	室町時代の舞楽装束	同上	10月1日	月例講演会、東京国立博物館
14	同上	奈良金春座伝来　能面・能装束について	同上	10月23日	『金沢能楽美術館　開館5周年記念特別展　東京国立博物館所蔵　金春座伝来能面・能装束』展　講演会、金沢能楽美術館
15	同上	細川家伝来　挽家袋・仕覆について	同上	11月12日	茶の湯文化学会
16	同上	東京国立博物館の対症修理―古い額縁を安全に利用するための工夫―	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復課長神庭信幸、金鐘旭	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会(奈良)
17	同上	メトロポリタン美術館所蔵「聖徳太子絵伝」について	調査研究課絵画・彫刻室研究員　土屋貴裕	5月11日	東京文化財研究所企画情報部研究会
18	同上	絵画史研究は染織技術を明らかにすることができるか ―中世職人歌合絵を起点として―	同上	9月5日	第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承―研究と保存修復の現状―」
19	同上	山陽地域における古墳時代中期の埴輪	調査研究課考古室研究員　山田俊輔	11月26日	中国四国前方後円墳研究会　第14回研究集会
20	同上	「宋代開封の文物配置と大相国寺壁画の意味」	調査研究課東洋室研究員　塚本麿充	4月16日	宋代史談話会（大阪市立大学）
21	同上	「公開研究会 実物とデジタル画像による文化財考察―中国花鳥画の彩りに迫る―」	竹浪遠（黒川古文化研究所）、西尾歩（立命館大学）、塚本麿充（東京国立博物館東洋室研究員）	11月12日	黒川古文化研究所
22	同上	「清明上河図から見た開封の文化的空間」	調査研究課東洋室研究員　塚本麿充	12月4日	シンポジウム「前近代中国都市社会と公共空間」（大阪市立大学）
23	同上	「徽宗、後白河院と『清明上河図』の視覚文化」	同上	24年1月7日	「北京故宮博物院200選」開催記念国際シンポジウム 「『清明上河図』の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの『清明上河図』」
24	同上	「北京故宮博物院展 文化交流講座 日本からみた中国文化の特質」	同上	24年3月30日	中国大使館青年読書会
25	同上	大正～昭和初期における近代数寄者の影響 ―茶陶コレクションの形成と公開に関連して―	学芸企画部企画課特別展室研究員　横山梓	11月28日	東洋陶磁学会第39回大会
26	同上	“Media Art and Archaeology: Special attention on how to understand the technique of lithic reduction sequences from	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　及川穣・河内晋平（東京藝術大学	11月27日	The 4th Annual Meeting of the Asian Palaeolithic Association・National Museum of Nature and Science, Tokyo

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
		stereoscopic 3D”	助手）・森田正彦（慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科）・小菅将夫（岩宿博物館館長）・品川欣也（学芸研究部調査研究課考古室研究員）・井上洋一（学芸企画部企画課長）・横山　真（株式会社ラング）・千葉　史（株式会社ラング）		
27	同上	東京国立博物館蔵の江戸時代女性服飾品模写図「小袖図」等について	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　佐々木佳美	11月19日	服飾美学会 平成23年度第1回研究会
28	同上	フィルム・エンキャプシュレーションによる資料の保護 --東京国立博物館資料館の図書資料への予防保存の実例--	米倉乙世（保存修復課アソシエイトフェロー）・鈴木晴彦（保存修復課アソシエイトフェロー）・沖本明子（保存修復課アソシエイトフェロー）・神庭信幸（保存修復課長）・土屋裕子（保存修復課主任研究員）・平野はな子（修理技術者）・中村春佳（修理技術者）	6月5日	文化財保存修復学会第３３回大会（奈良）
29	同上	モバイル環境における文化財情報の活用	博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー・佐藤 祐介	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会
30	博物館資料の情報管理	ミュージアムにおける作品ドキュメンテーションとその活用―最近の事例を中心に―	調査研究課長　田良島哲	12月17日	アート・ドキュメンテーション学会 研究会
31	有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究	古墳時代金属製品における製作技術の調査･研究方法 -観察･記録･公開(展示)-	列品管理課主任研究員 古谷　毅	12月6日	韓国・中央博物館学術交流 学術交流報告会(国立中央博物館)
32	同上	近年の韓国国立博物館・考古分野特別展における調査･企画･公開(展示･図録･報告書)の実例	同上	24年1月11日	韓国・中央博物館学術交流 調査報告会(東京国立博物館)
33	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	春秋・戦国時代の薄造り青銅器の製作技術	保存修復課保存修復室研究員　川村佳男	8月28日	アジア鋳造技術史学会大会
34	博物館の環境保存に関する研究	東京国立博物館の対症修理―古い額を安全に利用するための工夫	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室主任研究員　土屋裕子	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会(奈良)
35	同上	文化財輸送の安全性向上とCAEシミュレーション解析	保存修復課長　神庭信幸	6月10日	HyperWorks Technology Conference（東京）
36	同上	CAEシミュレーション解析による防振機材の特性評価	保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復課長　神庭信幸	7月8日	日本包装学会第20回年次大会（京都）
37	同上	Applying CAE Simulation with Vibration Experiment to Evaluate a Vibration Isolator	神庭信幸(東京国立博物館)、高木雅広(エクサーチLLC合同会社)、星野裕昭(アルテアエンジニアリング㈱)	9月21日	2011 ISTA-CHINA PACKAGING SYMPOSIUM(中国)
38	文化財の保存技術と材料の開発に関する調査研究	「簡易万能型太巻芯」の新たな展開 - 博物館における対症修理-	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 米倉乙世、保存修復課アソシエイトフェロー　沖本明子、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子、国立歴史民俗博物館非常勤 松田麻美	6月4・5日	文化財保存修復学会第 33 回大会(奈良)
39	文化遺産の被災･復興状況の情報集約と支援の現状	文化財レスキューの現状と課題	企画課長　井上洋一	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会 2011年度年次大会
40	博物館環境デザインに関する調査研究	谷中放談 Vol.3For Everest　石川直樹 × 木下史青》	企画課デザイン室長　木下史青	10月1日	art-link上野-谷中2011実行委員会／東京藝術大学美術学部絵画科油画研究室
41	同上	テーマ『一座建立』 お茶!LIVE《行の茶会》	学芸企画部企画課デザイン室長　木下史青	10月8日	art-link上野-谷中2011実行委員会
42	博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究	国宝・重要文化財のデジタル・アーカイブ構築とその展望	博物館情報課情報管理室長　村田良二	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会 2011年度年次大会
43	博物館の広報	東京国立博物館の広報活動	広報室長　小林牧	7月8日	韓国・中央博物館学術交流　研究発表会
44	同上	韓国の博物館における広報活動について	同上	8月9日	韓国・中央博物館学術交流　調査報告会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
45	博物館美術教育に関する調査研究	盲学校のためのスクールプログラム	博物館教育課教育普及室主任研究員　藤田千織	9月27日	文化庁文化財部美術学芸課　ミュージアム・エデュケーター研修
46	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）	博物館の業務と書跡の展示	副館長　島谷弘幸	5月30日	茨城県文化財保護協会
47	同上	書の変遷　その必然性と未来	同上	8月6日	大正大学書道カレッジ
48	同上	伝統から創造へ	同上	11月27日	現代書道研究所
49	同上	近衛家の書跡―その価値と魅力―	同上	24年1月29日	東京大学史料編纂所主催・陽明講座
50	同上	仏教美術と宮廷のみやび	同上	24年2月19日	ヒューストン美術館
51	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	東京国立博物館の書跡と館の現状	副館長　島谷弘幸	24年3月24日	東京大学「日本の健康を考える会」勉強会
52	同上	日・中・韓の料紙について	博物館情報課長　高橋裕次	12月11日	和紙文化研究会　第19回和紙文化講演会（昭和女子大学）
53	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）	東京国立博物館の臨床保存(口頭)	保存修復課長　神庭信幸	8月17～18日	東アジア文化遺産保存学会第２回大会（内モンゴル・フフホト）
54	同上	東京国立博物館の臨床保存（ポスター）	同上	8月17～18日	東アジア文化遺産保存学会第２回大会（内モンゴル・フフホト）
55	同上	博物館における包括的保存システムの構築に関する研究（その３）	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、環境保存室研究支援者　佐藤香子	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
56	同上	文化財分野における、デジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復課長　神庭信幸	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
57	同上	文化財梱包に用いる緩衝材の適切な使用法の検討-ワイヤーロープの振動特性	保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復課長　神庭信幸	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
58	同上	「簡易万能型太巻芯」の利用と展開 － 博物館における対症修理-	保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、保存修復室アソシエイトフェロー　沖本明子、保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
59	同上	テラヘルツ派イメージングの一事例―柳橋水車図屏風(東京国立博物館蔵)の修理前調査を例として―	保存修復室アソシエイトフェロー　沖本明子、保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員　和田浩	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
60	同上	ポリエステルフィルムによるブックカバーの実用例---エンキャプシュレーションによる本の保護 ---	保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェロー　沖本明子、保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
61	同上	東京国立博物館における臨床保存の取り組みの事例研究報告―　書跡の対症修理の最新報告　―	保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェ	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
			ロー　米倉乙世、保存修復室アソシエイトフェロー沖本明子、保存修復課長神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子		
62	同上	文化財分野におけるデジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員･荒木臣紀、保存修復課環境保存室主任研究員･和田浩、保存修復課長･神庭信幸	6月4・5日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
63	同上	文化財分野におけるデジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員･荒木臣紀、保存修復課環境保存室主任研究員･和田浩、保存修復課長･神庭信幸	6月12日	日本文化財科学会第28回大会
64	同上	文化財分野における、デジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復室主任研究員土屋裕子、保存修復課長神庭信幸	6月11・12日	日本文化財科学会
65	同上	文化財分野における、デジタルエックス線撮影の現状と課題	保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員　和田浩、保存修復室主任研究員土屋裕子、保存修復課長神庭信幸	12月2日	非破壊検査協会放射線部門講演会
66	宮廷工芸に関する物質文化的研究	日本宮廷生活文化的伝承　―以賀茂祭為中心―	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹	7月16日	非物質文化遺産保護「東亜経験」国際学術研討会（於：中国四川省四川音楽学院綿陽芸術学院）
67	文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタルヒューマニティーズ拠点」立命館大学	東京国立博物館における立体物の展示と3D展示	調査研究課考古室研究員　品川欣也	12月7日	第2回デジタルヒューマン人材育成ワークショップ「3D文化財のデジタル化とデジタル展示」
68	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・シンポジウム『文化資源学と日本古代学研究』	考古遺物の文化資源化への取り組み	調査研究課考古室研究員　品川欣也	24年3月3日	明治大学古代学研究所
69	博物館美術教育に関する調査研究	東京国立博物館盲学校のためのスクールプログラム	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	9月27日	文化庁ミュージアム・エデュケーターズ研修
70	博物館美術教育に関する調査研究	Museum for everyone - through the development of School Programs for Visually Impaired	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	10月27日	韓国国立民俗博物館国際シンポジウム ”Learning Innovation Symposium 2011”
71	博物館美術教育に関する調査研究	東京国立博物館とミュージアムエデュケーターの役割	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	11月12日	跡見学園シンポジウム「マイライフ」
72	博物館美術教育に関する調査研究	東京国立博物館盲学校のためのスクールプログラム	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	9月27日	文化庁ミュージアム・エデュケーターズ研修

【京都国立博物館】18件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の保存・修復に関する調査研究	京都国立博物館蔵「紺紙銀字華厳経（二月堂焼経）」の科学的調査　―文字素材の材質を中心に―」	村上　隆（上席研究員）他	6月4日	『文化財保存修復学会第33回大会
2	同上	奈良県御所市室宮山古墳外堤住居址から出土したベンガラの材料科学的キャラクタリゼーション	同上	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会
3	同上	金属材料技術史と放射光	村上　隆（上席研究員）	9月12日	SPrng-8研究会（招待講演）
4	同上	金・銀・銅の日本史	同上	10月4日	軽金属学会東海支部記念講演会（招待講演）
5	同上	金・銀・銅のモノづくり	同上	11月14日	日本銅学会（招待講演）
6	近世絵画に関する調査研究	きらめく京都、きらめく近世の絵画	山下善也（連携協力室長）	11月13日	静岡県立美術館講演
7	彫刻に関する調査研究	観音の聖地から天台寺院へ ー伝来文化財よりみた鰐淵寺―	淺湫　毅（主任研究員）	5月21日	島根大学山陰文化研究センター
8	同上	シンポジウム司会	同上	11月13日	国際シンポジウム　半跏像はどこで作られたか
9	同上	ピュー時代およびパガン時代の彫刻編年について	同上	2月4日	東南アジア彫刻史研究会
10	染織品の調査研究	古沢厳島神社の能装束	山川　暁（主任研究員）	5月1日	和歌山県立博物館　記念講演会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	同上	典雅なる御装束	同上	6月22日	京都きものサローネ　講演会
12	同上	行状絵図が伝える中世の染織	同上	7月2日	フォーラム「国宝法然上人行状絵図の魅力とその時代」
13	同上	釈尊の袈裟を尋ねて　日本における律衣の展開	同上	7月16日	四天王寺仏教文化講演会
14	同上	近世・近代の宮廷装束	同上	8月24日	徳川美術館夏期講座
15	同上	行状絵図が伝える中世の染織	同上	11月13日	フォーラム「国宝法然上人行状絵図の魅力とその時代」
16	仏画に関する調査研究	浄土宗の仏画	大原嘉豊（研究員）	4月29日	仏教美術研究上野記念財団助成研究会研究発表と座談会「浄土宗の文化と美術」
17	日本近世絵画に関する調査・研究	「絵空事の写生―円山応挙の龍門図を中心として―」	水谷亜希（アソシエイトフェロー）	10月29日	第14回美学芸術学会
18	同上	「絵空事の写生―円山応挙の龍門図を中心として―」	同上	11月13日	日本近世絵画研究会

【奈良国立博物館】　61件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	和紙の歴史	湯山賢一（館長）	6月8日	立命館大学リレー講義「日本文化の奔流」
2	同上	文書と古文書―文書が古文書になる時―	同上	7月27日	法隆寺夏季大学
3	同上	武家文書の始まり―口頭から文書へ―	同上	8月6日	大阪國學院大學院友会講演会
4	同上	料紙の変遷表「覚書」	同上	9月24日	日本古文書学会大会基調講演
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	「飛鳥サミット」パネルディスカッション	同上	9月4日	奈良県万葉文化館10周年記念シンポジウム「飛鳥サミット」
6	同上	今年の正倉院展の見どころ	同上	10月2日	正倉院フォーラム2011基調講演
7	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	書は人なり―古文書と筆跡―	同上	11月27日	大仏書道大会
8	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院の楽器と天平の音楽	西山　厚（学芸部長）	10月2日	正倉院フォーラム2011対談
9	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	玄奘三蔵フォーラムパネルディスカッション	同上	7月23日	奈良国立博物館玄奘三蔵フォーラム
10	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	神像と仏像	岩田茂樹（学芸部長補佐）	8月7日	奈良市民講座
11	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ―三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣―與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	與喜天満神社の神像	同上	8月27日	奈良国立博物館公開講座
12	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	二軀の僧形坐像－その像主をめぐって－	同上	11月20日	奈良国立博物館サンデートーク
13	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ―三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣―與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	中世甲賀の仏たち	同上	12月18日	あいこうか歴史塾
14	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	牛玉の話	内藤　栄（学芸部長補佐）	4月17日	奈良国立博物館サンデートーク
15	同上	空海はなぜ東寺を造営したのか	同上	5月11日	奈良女子大学古代学学術研究センター
16	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	正倉院宝物と河南省の文物	同上	5月28日	奈良国立博物館公開講座
17	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	鑑真和上御将来の舎利について	同上	6月6日	唐招提寺
18	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物が成立するまで―陽剣・陰剣、薬を中心に	同上	6月17日	芦屋市読書会
19	同上	仏教工芸入門―正倉院宝物を中心に	同上	6月19日	姫路市立美術館

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	同上	工芸意匠に見る鳳凰と獅子―正倉院宝物をめぐって	同上	6月25日	サントリー美術館
21	同上	光明皇后と聖武天皇	同上	9月10日	(財)大阪労働協会 エル・カレッジ
22	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	金亀舎利塔について	同上	9月17日	仏教文学会
23	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	第６３回正倉院展について	同上	10月1日	名古屋カルチャーセンター
24	同上	正倉院宝物の歴史と正倉院展の楽しみ方	同上	10月9日	正倉院展の楽しみ方～まほろばの集い IN福岡
25	同上	正倉院展の楽しみ方	同上	10月15日	奈良経済記者クラブ
26	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	正倉院展親子鑑賞会	同上	11月3日	奈良国立博物館
27	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	宝冠仏の系譜－龍門石窟の彫像を中心に	稲本泰生（企画室長）	5月14日	奈良国立博物館公開講座
28	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良時代の仏像	同上	7月2日	姫路市市民教養講座
29	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	鄭県阿育王塔と菩薩の捨身行－鑑真による模造塔将来とその周辺	同上	7月24日	中国美術研究会
30	同上	玄奘三蔵の将来図像と東アジアの仏教美術	同上	8月24日	奈良国立博物館夏季講座
31	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	宝物献納と布施行	同上	10月30日	正倉院学術シンポジウム2011「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」
32	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	『半跏思惟像はどこで作られたか？』パネルディスカッション	同上	11月13日	国際シンポジウム『半跏思惟像はどこで作られたか？』
33	同上	鏡を観てためいき－正倉院南倉と千葉県香取神宮に伝わる大型海獣葡萄鏡－	吉澤　悟（教育室長）	8月27日	帝塚山大学考古学研究所市民大学講座
34	同上	蘭ジャ待について	同上	10月16日	奈良市市民連携企画実行委員会『寧楽尽し紅葉茶会』
35	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	茶室八窓庵をのぞいてみましょう	同上	10月16日	奈良国立博物館サンデートーク
36	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院の中近東系宝物	同上	10月22日	中近東文化センター『中近東の世界遺産－その神秘と歴史－パート２』
37	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	與喜天満神社の歴史と信仰	野尻　忠（情報サービス室長）	7月30日	奈良国立博物館公開講座
38	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	奈良時代における大般若経（玄奘訳）の受容―藤田美術館・薬師寺ほか所蔵の大般若経（魚養経）を中心に―	同上	8月23日	奈良国立博物館夏季講座
39	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	写経生の労務管理	同上	12月18日	奈良国立博物館サンデートーク
40	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	奈良国立博物館における無線LAN温湿度モニタリングシステム・新展示ケース導入の経緯と成果	谷口耕生（保存修理指導室長）	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会
41	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	憧憬の天竺―玄奘三蔵絵の世界	同上	8月25日	奈良国立博物館夏季講座
42	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	海住山寺本堂旧壁画と解脱上人貞慶の観音信仰	同上	11月26日	シンポジウム『木津川ものがたり～縁起絵巻の世界』

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
43	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	吉祥天と金光明経の美術	同上	24年1月15日	奈良国立博物館サンデートーク
44	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	アメリカにおける博物館収蔵品情報の連携―OCLC報告書と現地調査を中心に―	宮崎幹子（資料室長）	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会2011年度年次大会 研究発表会
45	同上	文化遺産オンラインにおける収蔵品情報の連携基盤について―奈良国立博物館との連携事例を中心に―	同上 （国立情報学研究所特任准教授 丸川雄三氏と共同発表）	6月11日	アート・ドキュメンテーション学会2011年度年次大会 研究発表会
46	同上	文化遺産情報のメタデータ連携―海外の動向から	同上	12月2日	「文化遺産オンライン構想」成果報告フォーラム　～文化遺産とデジタル・アーカイブの最前線を知る～
47	同上	文化財アーカイブズの形成にむけて―奈良国立博物館での取り組みから―	同上	12月16日	全国美術館会議 情報・資料専門部会企画セミナーⅢ
48	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良国立博物館の近代建築－仏教美術資料研究センター（旧奈良県物産陳列所）の過去と現在－	同上	24年3月18日	奈良国立博物館サンデートーク
49	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	山形の話――作り物閑話之弐	清水　健（研究員）	6月20日	奈良国立博物館サンデートーク
50	同上	奈良国立博物館の活動について	同上	9月21日	昭和女子大学博物館学芸員課程臨時講義
51	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院展――過去・現在・未来	同上	9月23日	正倉院展の楽しみ方～まほろばの集いIN名古屋
52	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	香と仏教	同上	11月12日	奈良国立博物館公開講座
53	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	春日信仰の美術	同上	12月11日	奈良学セミナー（後期）「神と仏との出会い」
54	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	中国古代の建築－七層楼閣に見る明器の世界	岩戸晶子（研究員）	4月16日	奈良国立博物館公開講座
55	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	鬼か龍か－統一新羅の鬼瓦－	同上	7月17日	奈良国立博物館サンデートーク
56	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成２３年度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	当麻寺縁起絵巻について	北澤菜月（研究員）	7月30日	葛城市歴史博物館公開講座（葛城学へのいざない）
57	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	法然上人周辺の絵画	同上	9月18日	奈良国立博物館サンデートーク
58	同上	男はなぜ烏帽子を被るのか―かぶり物と髪型の文化史―	斎木涼子（研究員）	5月15日	奈良国立博物館サンデートーク
59	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物にみられる経帙をめぐって	永井洋之（研究員）	11月3日	奈良国立博物館公開講座
60	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	脚と格狭間	同上	24年2月19日	奈良国立博物館サンデートーク
61	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	空海の伝えた仏画	原瑛莉子（研究員）	8月21日	奈良国立博物館サンデートーク

【九州国立博物館】　43件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	市民と共に歩む、自然との共生を目指す博物館の取り組み	博物館科学課長　本田光子	4月29日	九州国立博物館ボランティア研修会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	タイ国立博物館との共催展におけるタイ彫刻研究	「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」展―ドヴァーラヴァティーの彫刻 中央タイと東北タイの作例から―	文化財課資料登録室主任研究員 原田あゆみ	5月21日	東南アジア彫刻史研究会 第53回例会
3	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館における環境ボランティアの取り組み―九州国立博物館のIPM活動13―	博物館科学課長　本田光子	6月4日	文化財保存修復学会第34回大会
4	同上	博物館における文化財害虫の出現とその対応－九州国立博物館のＩＰＭ活動１２－	博物館科学課アソシエイトフェロー　秋山純子	6月4日・5日	文化財保存修復学会第33回大会
5	文化財の材質・構造等に関する共同研究	内蒙古自治区吐爾基山（ﾄﾙｷｻﾝ）遼墓出土彩色木棺の保存 ４―頭蓋骨と頭髪の保存修復―	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月4日・5日	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集
6	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館の環境管理―九州国立博物館における8年間のIPM実践から－	博物館科学課長　本田光子	6月5日	文化財保存修復学会第34回大会
7	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	中国古代青銅器における分鋳技法の検討	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月11日・12日	日本文化財科学会第二十八回大会要旨集
8	文化財の材質・構造等に関する共同研究	トレハロース含浸処理法の実用化－漆製品への有効性について－	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月11日・12日	日本文化財科学会第二十八回大会要旨集
9	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	トレハロース含浸法における結晶化と乾燥法の検討	同上	同上	同上
10	博物館における文化財保存修復に関する研究	文化財の保存と修復―九州国立博物館の取り組み－	博物館科学課長　本田光子	6月30日	佐賀大学特別講座
11	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	曝涼はIPMのルーツ？－虫干しにかわるものは何か－	博物館科学課長　本田光子	7月2日	九州国立博物館第1回文化財保存交流セミナー
12	博物館における文化財保存修復に関する研究	「よみがえる国宝―まもり伝える日本の美」	博物館科学課長　本田光子	7月30日	九州国立博物館特別展開催記念特別講演会（那珂川町
13	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	生きている！聖福寺釈迦如来坐像	展示課主任研究員 楠井隆志	7月30日	長崎歴史文化博物館 調査成果報告講演会
14	同上	像内から発見された内臓模型について	アソシエイトフェロー 末兼俊彦	同上	同上
15	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館とIPM－九州国立博物館の取り組み－	博物館科学課長　本田光子	8月3日	久留米大学公開講座
16	博物館における文化財保存修復に関する研究	「よみがえる国宝―まもり伝える日本の美」	博物館科学課長　本田光子	8月7日	京都造形芸術大学通信制大学
17	同上	同上	同上	8月12日	NHKネットクラブ特別鑑賞会
18	文化財の材質・構造等に関する共同研究	Study with structural dissection on the bronze works of Yin and Zhou Dynasty of China using the large-scale X-ray CT scanner	博物館科学課環境保全室長 今津節生	8月16日～18日	The second Annual Symposium of the Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia” 2011
19	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	The conservation of a coloring wooden casket discovered by Tuerji Hill Tomb by the Chinese-Japanese collaborative investigation	同上	同上	同上
20	アジアの文化財に関する研究	中国の螺鈿史研究状況と課題―アジアの螺鈿史構築を目標として－	文化財課資料管理室長 小林公治	8月20日	国際生漆産業発展高峰論壇, International Lacquer Top Meeting 西安、中国
21	螺鈿に関する調査研究	中国・山東省菏澤出土の螺鈿箱について	企画課研究員 川畑憲子	9月3日	第35回漆工史学会総会（大阪市立美術館）
22	文化財の材質・構造等に関する共同研究	長崎県松浦市鷹島海底遺跡出土品のX線CT調査	博物館科学課環境保全室長 今津節生	9月16日	『長崎県松浦市鷹島海底遺跡発掘調査報告書』
23	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	契丹と日本	企画課特別展室研究員 市元塁	9月30日	ふるさと館ちくしの展示解説講座
24	同上	契丹文化への招待	同上	10月1日	契丹大学秋季講座
25	同上	壁画から見た契丹社会	文化財課長 臺信祐爾	同上	同上
26	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	斉明天皇と大宰府の成立　－朝倉橘廣庭宮はどこにあったのか－	展示課長　赤司善彦	10月2日	九州古代史の会
27	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	草原の王朝 契丹	企画課特別展室研究員 市元塁	10月4日	西日本会パートナーズクラブ特別鑑賞会
28	アジアの文化財に関する研究	三次元計測法による同笵青銅器の識別―日本の青銅器分析を通じて－	文化財課資料管理室長 小林公治	10月19日	広西-アセヤン青銅文化国際学術検討会、南寧、中国
29	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	奇跡の彩色木棺を救え！－日本・内モンゴルの共同保存事業	博物館科学課環境保全室長 今津節生	10月8日	契丹大学秋季講座
30	同上	陶磁器が語る草原の王朝	展示課研究員 遠藤啓介	10月22日	同上
31	同上	蒼天にそびえる白亜の仏塔	企画課長 小泉恵英	同上	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
32	文化財の材質・構造等に関する共同研究	「トルキ山古墓の保存修復」	博物館科学課環境保全室長 今津節生	10月22日	『草原の王朝　契丹―美しき三人のプリンセス』、九州国立博物館2011
33	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	草原の王朝 契丹のみどころ	企画課特別展室研究員 市元塁	10月28日	福岡県高等学校歴史研究会・平成23年度第1回世界史研究会
34	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	資料保存の実践　~IPMの視点から~ 九州国立博物館のIPM活動	博物館科学課長　本田光子	11月9日	図書館総合展　第1会場金剛（株）主催フォーラム
35	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館と文化財保存修理－守り継ぐ伝統－　九州国立博物館の文化財保存システム	博物館科学課長　本田光子	11月18日	国宝修理装潢師連盟定期研修会 京都テルサホール
36	アジアの文化財に関する研究	ベトナムの螺鈿―生産・製品・消費に関する調査研究報告―	文化財課資料管理室長 小林公治	11月21日	ベトナム国家博物館（歴史博物館）報告会、ハノイ、ベトナム
37	博物館における文化財保存修復に関する研究	中越地震における活動の課題「救援の要請と被災資料の修理」	博物館科学課長　本田光子	12月3日	文化財保存修復学会公開シンポジウム　大阪民族学博物館
38	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	環境ボランティアに期待するもの 今後の活動（長期・中期・短期）についての提案	博物館科学課長　本田光子	12月24日	九州国立博物館ボランティア研修会
39	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	契丹王朝と3人のプリンセス	企画課特別展室研究員 市元塁	24年1月8日	静岡県立美術館特別展「草原の王朝 契丹」連続講演会
40	アジアの文化財に関する研究	唐代装飾鏡制作技術の検討―漆と天然樹脂の使い分けの可能性を中心に―	文化財課資料管理室長 小林公治	24年1月13日	漆サミット2012講演会、明治大学、東京
41	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	黄檗山萬福寺の隠元隆琦倚像について	展示課主任研究員 楠井隆志	24年1月21日	美術史学会西支部例会
42	館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画に関する調査研究	雪舟と大内文化	企画課特別展室主任研究員 畑靖紀	24年2月4日	北九州市立いのちのたび博物館特別展「大内文化と北九州」記念講演会
43	無形文化財としての伝統工芸技術に関する研究	宋・元時代の陶磁器研究史について	展示課研究員　遠藤啓介	24年3月2日	陶芸散歩の会第10回記念講演

【東京文化財研究所】計42件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（21件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の資料学的研究	浄瑠璃本「かるかや」の画風	企画情報部客員研究員　相澤正彦	7月27日	企画情報部研究会
2	同上	平安時代前期から後期へ一六波羅蜜寺十一面観音像の造像	企画情報部研究員　皿井　舞	11月11日	第45回企画情報部オープンレクチャー
3	近現代美術に関する総合的研究	日本におけるゴッホ受容―1912年を中心に	企画情報部長　田中　淳	7月8日	第13回国際日本学シンポジウム「感覚・文学・美術の国際日本学　ファン・ゴッホと日本―ガシェ芳名録紹介本をめぐって―」
4	同上	『画を仕上げる力』とは―青木繁の芸術	同上	8月6日	「没後100年　青木繁」展
5	同上	中川一政とゴッホについて	同上	10月22日	「没後20年記念展　中川一政が愛した芸術」展
6	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	室町漢画の基盤―周文と雪舟の場合―	企画情報部広領域研究室長　綿田稔	11月22日	第45回企画情報部オープンレクチャー
7	同上	『御絵鑑』について	同上	24年2月28日	企画情報部研究会
8	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	ゴマがあらわす謡のフシ―世阿弥自筆本から文秋譜まで―	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	5月7日	能楽学会第10回大会
9	同上	日本の伝統楽器―種類と歴史―	同上	6月4日	島根県立古代出雲歴史博物館特別講座
10	同上	狂言小舞謡の伝承を考える	同上	6月13日	能楽学会例会
11	同上	日本における染織技術保護の現状と課題　－わざを守り伝えるために－	無形文化遺産部研究員　菊池理予	9月4日	第35回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会
12	同上	能『梅枝』と小書『越天楽』	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	11月18日	銕仙会特別講座
13	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	青潮文化とタブノキ	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	6月18日	東北芸術工科大学研究会
14	同上	民俗芸能のネットワークについて	無形文化遺産部長　宮田繁幸	10月23日	フォーラム「民俗芸能ネットワークと地域活性化」
15	同上	民俗技術と自然環境―削りかけ状祭具と樹木との関わりを中心に	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	24年1月10日	東京文化財研究所 第3回総合研究会
16	無形文化遺産分野の国際研究交流	日本の世界遺産(無形文化遺産分野)登載現況と見通し	無形文化遺産部長　宮田繁幸	5月12日	The Value and Competitive Power of Naganeupseong Folk Village as World Heritage
17	同上	The Safeguarding of Intangible Cultural Heritage in Japan	同上	6月10日	2011年アジア太平洋無形文化遺産フェスティバル国際学術会議
18	同上	日本における無形文化遺産の保護	同上	8月2日	中日韓非物質文化遺産保護比較研究国際シンポジュウム

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	同上	日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用	無形文化遺産部音声・映像記録研究室長　飯島　満	8月9日	日韓無形文化遺産学術発表会
20	同上	日韓における楽器製作者の現状	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	同上	同上
21	同上	Documentation of Japanese Intangible Cultural Heritage	無形文化遺産部長　宮田繁幸	24年2月25日	国際人類学民族学連合無形文化遺産委員会

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（1件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	西秦王候騎馬図屏風との新しい出会い	企画情報部専門職員　城野誠治	11月15日	開館50周年記念「美を結ぶ。美をひらく。」 IV 南蛮美術の光と影　泰西王侯騎馬図屏風の謎

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（18件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	水、塩水で被災した文化財の殺菌燻蒸計画時の注意点について	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存修復科学センター主任研究員　早川典子、企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子、企画情報部長　田中淳、保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター副センター長　岡田　健、保存修復科学センター長　石崎武志	12月21日-22日	保存科学研究集会
2	文化財の保存環境の研究	展示収蔵環境に用いられる内装材料に関する研究その２　放散ガスのデータベース構築	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、客員研究員　呂俊民	6月4日-5日	第33回文化財保存修復学会大会
3	同上	温湿度解析による耐震工事の影響評価	保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存修復科学センター長　石崎武志	同上	同上
4	同上	フィルム保管庫における酢酸雰囲気の改善	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、客員研究員　呂俊民	12月8日-9日	平成23年度室内環境学会学術大会
5	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	琉球絵画の彩色材料調査	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、保存修復科学センター主任研究員　吉田直人、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター客員研究員　三浦定俊	6月11日-12日	日本文化財科学会第28回大会
6	同上	近世絵図資料に使われた彩色材料の科学的調査	保存修復科学センター主任研究員　吉田直人、保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘　他	同上	同上
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	石塔保存のための覆屋効果に関する研究	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会
8	同上	Environmental Control in Conservation of the Buddhist Image Carved on Natural Cliff	保存修復科学センター研究員　森井順之	6月22日	Conference internationale - Jardins de Pierres - Conservation de la pierre dans les parcs, jardins et cimetieres
9	同上	国宝・臼杵磨崖仏保存のための管理計画について	保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター主任研究員　早川典子、保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	8月16日	東アジア文化遺産保存学会第二回学術研究会
10	同上	国宝・臼杵磨崖仏における劣化とその対策	保存修復科学センター研究員　森井順之	9月28日	地盤工学会ACT19平成23年度第一回国内委員会
11	同上	風化環境の違いによる石造文化財の風化速度の違い	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	10月27日	日本応用地質学会平成23年研究発表会
12	文化財の防災計画に関する研究	仏像の耐震対策に関する研究―縮小模型を用いた振動台実験―	保存修復科学センター研究員　森井順之　他	8月23日	日本建築学会2011年度大会（関東）
13	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	絵画修復に用いられたポリビニルアルコールの除去における酵素の利用可能性について	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会（奈良）
14	同上	顔料剥落止めとして使用されたポリビニルアルコールの白化に対する顔料や他の樹脂の影響について	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、保存修復科学センター客員研究員　中條利一郎、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	同上	同上
15	同上	古糊と古糊様多糖の接着力について	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	6月5日	同上
16	同上	紫外線照射したPVAフィルムの白化とそのメカニズム	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、保存修復科学センター客員研究員　中條利一郎、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	7月7日	北陸先端科学技術大学院大学 東京 サテライト

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	近代の文化遺産に関する調査研究	日本に於ける近代化遺産の保存・修復及び活用	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介、保存修復科学センター研究員　森井順之　他	8月16日-18日	東アジア文化遺産保存学会第2回学術研究会
18	同上	近代文化遺産の修復に使われる油性塗料について	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	24年2月10日	近代建築に使用されている油性塗料に関しての研究会

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（2件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	東アジア諸国文化遺産保存修復協力	敦煌莫高窟内の壁画の劣化に及ぼす塩の影響に関する研究－外界気象条件の変化、上下層窟を考慮した窟内温湿度環境の解析－	保存修復科学センター副センター長　岡田　健、文化遺産国際協力センター客員研究員　小椋大輔　他	6月19日	平成23年度日本建築学会近畿支部研究発表会
2	同上	第285窟南壁龕びの彩色技法	保存修復科学センター副センター長　岡田　健、文化遺産国際協力センター客員研究員　渡邉真樹子　他	6月11日-12日	日本文化財科学会第28回大会

【奈良文化財研究所】計89件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（32件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	6	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	本門寺五重塔の解体修理にともなう構造上の諸問題	文化遺産部建造物研究室長　林良彦	10月13日	日中韓建築遺産保存学術会議
2	同上	同上	日本の木造塔の構造と変遷	都城発掘調査部研究員　鈴木智大	10月12日	同上
3	同上	同上	古代東アジアの八角木塔とその構造推定	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	10月11日	同上
4	10	我が国の記念物に関する調査・研究	遺跡の整備と活用	文化遺産部長、小野健吉	10月16日	文化庁拠点交流事業事業人材育成事業研修（ビシュケク／キルギス）
5	同上	同上	遺跡の整備と活用	同上	10月17日	ユネスコ日本信託基金による国際ワークショップ（アルマトイ／カザフスタン）
6	同上	同上	歴史的庭園の現状と保存 ～特に発掘庭園の整備について～	遺跡整備研究室長、平澤毅	5月25日	文化比較：イタリアと日本における文化遺産の保護（主催：法政大学陣内研究室、於：イタリア文化会館）
7	同上	同上	日本における先史時代遺跡の整備と活用	同上	9月24日	縄文遺跡群世界遺産登録推進　国際シンポジウム（主催：文化庁・縄文遺跡群世界遺産登録推進本部、於：ホテル青森）
8	同上	同上	日本における名勝の保護　－保存と活用、その方策と動向－	同上	10月21	東北アジアの名勝保存と活用方案（主催：大韓民國・國立文化財研究所自然文化財研究室）
9	同上	同上	名勝の保存管理計画策定に関する考察	同上	11月13日	平成23年度日本造園学会全国大会
10	同上	同上	名勝及び史跡としての三徳山の保全－総体的な価値と行者道－	文化遺産部長、小野健吉	10月9日	平成23年度三徳山シンポジウム(主催：三徳山世界遺産登録運動推進協議会)
11	同上	同上	平城宮跡の整備	遺跡整備研究室長、平澤毅	9月29日	第５回　新羅學國際學術大會　「東亞細亞 속의 新羅 都城 復元 問題」（「東亜細亜における新羅都城復元問題」、主催：大韓民国・新羅文化遺産研究院）
12	11	同上	平泉の庭園に見る中国庭園の影響	文化遺産部長、小野健吉	11月12日	「平泉文化の国際性と地域性」に関するワークショップ（主催：岩手大学）
13	同上	同上	文化財としての鎌倉時代庭園	文化遺産部主任研究員、青木達司	10月29日	平成23年度　庭園の歴史に関する研究会（主催：奈良文化財研究所文化遺産部）
14	同上	同上	「桂垣」の研究	同上	11月10日	京都造園懇談会　例会
15	同上	同上	「桂垣」と「桂垣」裏ハチク林に関する研究	同上	11月13日	平成23年度日本造園学会全国大会

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	同上	同上	日本古代庭園の研究現況と課題	都城発掘調査部遺構研究室研究員、高橋知奈津	10月5日	國際學術大會「동아시아 古代庭園 및 寺址의 연구 현황과 과제」（「東アジア古代庭園と寺跡の研究現況と課題」、主催：大韓民國・扶餘國立文化財研究所）
17	同上	同上	鎌倉時代の風景表現と作庭	同上	10月29日	平成23年度　庭園の歴史に関する研究会（主催：奈良文化財研究所文化遺産部）
18	同上	同上	Authenticity and Dismantling Repair System in Architectural Restoration in Japan　（日本の建築修復における解体修理とオーセンティシティ）	景観研究室長、清水重敦	9月27日	JAPAN Architecture + Preservation (Columbia University's Guraduate School of Architecture, Planning and Preservation; Columbia University's Institute for Medieval Japanese Studies; Nara National Research Institute for Cultural Properties)
19	同上	同上	Memories of Sacred Landscape: Lost Female Rituals and Remaining Cultural Landscape in the Amami Islands, Southern Japan　（聖なる景観の記憶：奄美の消えゆく女性祭祀と生き続ける文化的景観）	国際遺跡研究室研究員、石村智	同上	同上
20	19	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	中国漢魏洛陽城－北魏宮城中枢部の発掘調査－	副所長、井上和人・都城発掘調査部（平城）主任研究員、今井晃樹・早稲田大学専任講師、城倉正祥・中国社会科学院考古研究所、王巍・銭国祥・肖淮雁・郭暁涛・劉涛	5月29日	日本考古学協会第77回総会
21	同上	同上	鉛釉陶器の多彩装飾およびその変遷	客員研究員、巽淳一郎	6月17日	中国鞏義窯陶磁学術研討会
22	同上	同上	窯道具から見た鞏義窯―三叉トチンを中心として―	企画調整部 研究員、　丹羽崇史	6月18日	同上
23	同上	同上	中国細石刃文化の基礎的研究から	飛鳥資料館学芸室長・　加藤真二	24年2月12日	第14回北アジア調査研究報告会
24	同上	同上	The Microblade technique of the Lingjing, Henan, China	飛鳥資料館学芸室長・　加藤真二／河南省文物考古研究所研究員・李占揚	11月27日	第４回アジア旧石器協会日本大会
25	20	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化的景観をわかりやすく- 複合性、重層性、変化と価値評価-	景観研究室長　清水重敦	6月9日	文化庁　平成23年度文化的景観保護実務研修会
26	同上	同上	農学・造園学における文化的景観	研究員　惠谷浩子	12月17日	文化的景観研究集会（第４回）
27	同上	同上	山本地区の生活・生業	同上	24年1月28日	亀岡市山本地区文化的景観保存調査中間報告会
28	同上	同上	山本集落の伝統的家屋と文化的景観	景観研究室長　清水重敦	同上	同上
29	同上	同上	文化的景観とは何か	同上	24年2月14日	京都市みやこ文化財愛護委員育成事業　事前講座
30	同上	同上	文化的景観としてみる都市と町並み	同上	24年2月26日	シンポジウム「雲州平田木綿街道の町並み保全に向けて　現状と課題」
31	23	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	千足古墳における水分移動解析	研究員　脇谷草一郎	6月11日	日本文化財科学会
32	同上	同上	宮畑遺跡における土質遺構露出展示保存の取組み	同上	9月28日	地盤工学会ATC19

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（39件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	25	文化財の測量･探査等に関する研究	The CEDACH DMT: a volunteer-based data management team for the documentation of the earthquake-damaged cultural heritage in Japan	主任研究員　金田明大	4月12日-16日	Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology 2011 Beijing

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	同上	同上	The Applications of the EFDs Analysis for Pottery Classification in Japan	同上	同上	同上
3	同上	同上	To separate the soil from soil -Archaeological Prospection in the Heijo-kyo capital, Japan-	同上	同上	同上
4	同上	同上	「被災文化遺産救援コンソーシアム」について	同上	4月23日	考古学研究会緊急集会
5	同上	同上	何を測るのか？残すのか？－文化財保護と三次元計測－	同上	5月18日	三次元計測フォーラム2011
6	同上	同上	近世窯業遺跡における探査と発掘の連携- 美山苗代川窯跡群における実践-	同上	6月11日	日本文化財科学会
7	同上	同上	救援体験から考える文化遺産の防災・復興の課題	同上	7月9日	奈良歴史研究会公開シンポジウム
8	同上	同上	日本古代史における移動コスト分析のシミュレーション結果とGPSを活用した実地データの比較検討- 藤原仲麻呂の乱における東山道と田原道の比較実験から-	同上	10月16日	地理情報システム学会
9	同上	同上	古代日本の官衙・寺院遺跡探査の実践－奈良文化財研究所による近年のGPR探査－	同上	11月24日	情報通信学会宇宙・航行エレクトロニクス研究会
10	26	年輪年代学研究	木を識る・組織でわかる木の特性と樹種	客員研究員　伊東隆夫	4月23日	兵庫県立考古博物館「木のうつわ　６００年の技」展 特別講演
11	同上	同上	国宝永保寺開山堂の年輪年代調査	年代学研究室長　大河内隆之、客員研究員　光谷拓実	6月11日	日本文化財科学会第28回大会
12	同上	同上	日本産ツガ属の年輪年代測定（その４）―ツガとクロスデート可能なヒノキ古材試料について―	客員研究員　藤井裕之	同上	同上
13	同上	同上	生産地周辺における近世のトガサワラ利用について―談山神社権殿・木部材の樹種調査から―	同上	6月12日	同上
14	同上	同上	年代を測る―年輪年代法と自然科学的年代測定法―	特別研究員　児島大輔	7月13日	公益財団法人黒川古文化研究所「見る会」
15	同上	同上	Dendrochronological analysis of Yakushi Hall and wooden statues of Chikouji Temple in Nagano Prefecture	客員研究員　光谷拓実	8月6日-9日	Wood Culture and Science Kyoto 2011
16	同上	同上	Species Identification and Tree-Ring Dating of Wooded Boxes Excavated from Shinan Shipwreck, Korea	客員研究員　光谷拓実ほか	同上	同上
17	同上	同上	Dendrochronological potential of Japanese Hemlocks: the third species available for dating of modern wooden architectures in Japan	客員研究員　藤井裕之	同上	同上
18	同上	同上	年輪と木の文化	客員研究員　光谷拓実	10月15日	第22回いのちの科学フォーラム市民公開講座「日本人と木の文化」
19	同上	同上	年輪が語る国宝永保寺の歴史	特別研究員　児島大輔	10月16日	文化庁委託多治見市教育委員会事業「知られざる永保寺Part2」
20	同上	同上	描かれた大乗院庭園	同上	24年3月3日	名勝大乗院庭園文化館主催文化講演会
21	27	動植物遺存体による環境考古学的研究	遺跡出土の骨からみた動物利用の歴史	研究員　山崎健	5月13日	同志社大学公開講座『自然科学からみた歴史』
22	同上	同上	縄文貝塚出土のトウカイハマギギ *Plicofollis nella* (Valenciennes)とその意義	埋蔵文化財センター長　松井章、大江文雄、田嶋正憲	6月12日	日本文化財科学会第28回つくば大会
23	同上	同上	愛知県朝日遺跡から出土した石鏃の刺さった獣骨	研究員　山崎健	同上	同上
24	同上	同上	考古学から見た食・トイレ	埋蔵文化財センター長　松井章	6月28日	千里ライフサイエンスフォーラム
25	同上	同上	日本における家畜の移入に関する動物考古学的研究の成果	同上	8月24日	2011年日本専業學者交流活動（国立台湾大学）
26	同上	同上	ペットと家畜と人間と一動物・環境考古学の世界	同上	9月25日	第24回濱田青陵賞授賞記念講演シンポジウム

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
27	同上	同上	現場からの報告―東日本大震災の文化財レスキュー事業―	研究員　山崎健	10月19日	平成23年度愛知県博物館等職員研修会「―想定東海東南海地震に備える―被災館と被災地域にある博物館
28	同上	同上	世界の貝塚・日本の貝塚―貝塚から見えてくる縄文人の姿と生活―	埋蔵文化財センター長　松井章	10月23日	富山県埋蔵文化財センター特別展記念シンポジウム　富山の考古学
29	同上	同上	Rescuing Archaeology and Culture: assessing the impact of the March 2011 disaster on cultural heritage	同上	10月26日	在英日本大使館
30	同上	同上	動物遺存体をめぐる民族考古学と実験考古学の実践―モンゴルにおける動物資源利用を事例として―	研究員　山崎健	10月29日	第216回近江貝塚研究会10月例会
31	同上	同上	寛永寺出土徳川将軍親族遺体の研究6環境考古学的分析	埋蔵文化財センター長　松井章、金原正明、金原正子	11月4日	第65回日本人類学会沖縄大会
32	同上	同上	先史時代琉球列島へのイノシシ・家畜ブタ導入に関する動物考古学的研究：古DNA・形態解析から	高橋遼平、佐藤孝雄、埋蔵文化財センター長　松井章、姉崎智子、石黒直隆、本郷一美	同上	同上
33	同上	同上	東日本大震災にともなう文化財レスキュー活動	埋蔵文化財センター長　松井章	11月6日	同上
34	同上	同上	東日本大震災と文化財レスキュー	同上	11月13日	生き物文化誌学会第9回学術大会　東京農大
35	同上	同上	韓国・金海会峴里貝塚の発掘と弥生文化への影響―骨角器と金属器を中心に―	同上	11月23日	大阪府立弥生文化博物館開館20周年記念シンポジウム　弥生文化のはじまり
36	同上	同上	歴史時代の動物考古学	同上	11月27日	第15回動物考古学研究集会
37	同上	同上	奈良県橿原遺跡から出土した骨角器のライフヒストリー研究	研究員　山崎健	同上	同上
38	同上	同上	自然との交流	同上	24年1月21日	奈良文化財研究所・大阪歴史講座「交流」
39	同上	同上	動物考古学からみた日本における農耕牧畜の起源	埋蔵文化財センター長　松井章	24年3月17日	立命館大学国際シンポジウム「農耕の起源」

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（12件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	22	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	文化財建造物塗装材料の分析（1）～談山神社塗装のFT-IR分析～	保存修復科学研究室長　高妻洋成	6月4日	文化財修復学会第33回大会
2	同上	同上	テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査	同上	同上	文化財修復学会第33回大会
3	同上	同上	高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光X線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－	都城発掘調査部主任研究員　降幡順子	6月11日	日本文化財科学会第28回大会
4	同上	同上	海洋出土鉄製遺物の腐食に及ぼす埋蔵環境の影響	研究員　田村朋美	同上	同上
5	同上	同上	日本出土ソーダ石灰ガラス製小玉の種類とその変遷	同上	同上	同上
6	同上	同上	顕微赤外分析による絹製文化財の劣化状態の研究	客員研究員　佐藤昌憲	同上	同上
7	同上	同上	文化財建造物塗装材料の分析（2）～談山神社塗装のPyro-GC/MS分析～	保存修復科学研究室長　高妻洋成	同上	同上
8	同上	同上	油系塗装材料の劣化に関する研究	同上	同上	同上
9	同上	同上	山城国府出土銅インゴットの自然科学的研究	都城発掘調査部主任研究員　降幡順子	同上	同上
10	同上	同上	ガラスから見た武寧王時代の国際関係	研究員、田村朋美	10月28日	武寧王陵発掘40周年国際学術会議　「百済の国際性と武寧王」
11	31	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	木造文化財における彩色の劣化機構に対する電磁波の応用(2)	保存修復科学研究室長　高妻洋成	6月11日	日本文化財科学会第28回大会
12	同上	同上	テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査	同上	6月4日	文化財修復学会第33回大会

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（2件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	39	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光X線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－	考古第一研究室主任研究員　降幡順子・飛鳥資料館特別研究員　辻本与志一、保存修復科学研究室研究員脇谷草一郎・保存修復科学研究室室長　高妻洋成(以上、奈良文化財研究所)・早川泰弘、吉田直人、佐野千絵（以上、東京文化財研究所）、宇田川滋正、建石徹（以上、文化庁）	6月11日	日本文化財化学会第28回大会
2	同上	同上	テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査	保存修復科学研究室室長　　高妻洋成、考古第一研究室主任研究員降幡順子・保存修復科学研究室　研究員　脇谷草一郎(以上、奈良文化財研究所)・佐野千絵（東京文化財研究所）・福永香（情報通信研究機構）・宇田川滋正・建石徹（以上、文化庁）	6月4日	文化財保存修復学会第33回大会

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（2件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	45	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	西トップ遺跡の調査と修復	国際遺跡研究室長 杉山　洋	6月18日	アンコール遺跡国際調整会議
2	同上	同上	カンボジア･クランコー遺跡の調査	研究補佐員　佐藤由似	11月26日	東南アジア考古学学会

○情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信（2件）

	研No.	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	55	文化財に関するデータベースの充実	遺構情報モデルに基づくデータ取得と発掘調査プロセスの整合性	文化財情報研究室長　森本晋ほか	10月16日	地理情報システム学会
2	同上	同上	奈良文化財研究所におけるデータベース	文化財情報研究室長　森本晋	24年1月7日	公開シンポジウム「人文科学とデータベース」

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計2件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（2件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域の無形文化財保護に関する基礎的な調査･研究	危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える	藤井知昭（センター所長）	10月4日	ユネスコアジア太平洋無形文化遺産研究センター開設記念シンポジウム
2	同上	北東アジアにおける無形文化遺産の課題	藤井知昭（センター所長）	11月28日	アジア太平洋のＩＣＨの保護のための地域連携に関する国際会議

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成24年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
12件	8 件	1件	1件	2件	4件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	3 件	3件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】

○特別展「北京故宮博物院２００選」開催記念国際シンポジウム「「清明上河図」の魅力に迫る―東アジア文化史のなかの「清明上河図」」
- 開 催 日　24年1月7日
- 開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
- 主　　催　東京国立博物館
- 参加人数　323人
- 事業内容　『清明上河図』の絵画的魅力、主題、伝来、後世への影響、宋代史からの位置づけ、日本への影響や東アジア文化史の中での位置づけについて、美術史、宋代史研究など幅広い分野の国内外の研究者10名を招へいし、その魅力に迫った。

【京都国立博物館】

○国際シンポジウム『中国近代絵画の形成と日本』
- 開 催 日　24年2月11日
- 開催場所　国立京都国際会館　アネックスホール
- 主　　催　京都国立博物館
- 参加人数　150人
- 事業内容　特別展覧会「中国近代絵画と日本」展の開催を記念し、国外の高名な研究者３名を招き、日中欧三者の視点から、最新の中国近代絵画研究の成果について研究発表、パネルディスカッションを行った。

【奈良国立博物館】

○特別展「天竺へ　三蔵法師3万キロの旅」関連イベント　「玄奘三蔵フォーラム」
- 開 催 日　7月23日
- 開催場所　奈良県新公会堂 能楽ホール
- 主　　催　奈良国立博物館、朝日新聞社、薬師寺
- 参加人数　390名
- 事業内容　特別展「天竺へ 三蔵法師3万キロの旅」の開催を記念し、薬師寺管主 山田法胤氏、俳優 滝田栄氏を迎え、当館学芸部長とともにパネルディスカッションを行い、玄奘の魅力と人物像について議論を深めた。

○正倉院学術シンポジウム2011「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」
- 開 催 日　10月30日
- 開催場所　奈良市ならまちセンター　小ホール
- 主　　催　奈良国立博物館
- 後　　援　読売新聞社
- 参加人数　179名
- 事業内容　「国家珍宝帳」に綴られた宝物献納の意図、献納された宝物のその後、そしてそれ自体が比類ない価値をもつ宝物である「国家珍宝帳」の意義などについて多角的な観点から議論を行った。第一部は当館研究員1名を含む研究者4名による研究発表を行い、第二部は、同研究者4名に司会者を加えてのパネルディスカッションを行い「国家珍宝帳」の奥深い魅力に迫った。

【九州国立博物館】

○公開シンポジウム　全国縦断古代史講演会　第16回明日香村まるごと博物館フォーラム「斉明天皇と飛鳥～牽牛子塚古墳の発掘から」
- 開 催 日　7月30日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　奈良県明日香村、財団法人古都飛鳥保存財団、財団法人明日香村観光開発公社、読売新聞社
- 後　　援　九州国立博物館、福岡県教育委員会、太宰府市教育委員会
- 参加者数　300人
- 事業内容　最近の発掘成果の報告や牽牛子塚古墳を中心に飛鳥の天皇陵についての講演、パネルディスカッション等。

○公開シンポジウム　「市民と共にミュージアムIPM」
- 開 催 日　24年1月14日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　ミュージアムIPM実行委員会事務局
- 参加者数　107人
- 事業内容　「モノ・ヒト・環境にやさしい」ミュージアムIPM（化学薬剤処置に頼らない日常管理を基本とした虫菌害対策）。専門家と市民が共に取り組む活動の重要性・必要性を伝える。

○記念シンポジウム　九州歴史資料館開館1周年記念シンポジウム「祈りの世界－北部九州の霊山と経塚－」
- 開 催 日　24年1月29日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州歴史資料館、九州国立博物館、財団法人 太宰府顕彰会
- 参加者数　170人
- 事業内容　大宰府地域を中心とした北部九州の経塚文化の広がりと多様性、その背景を探るとともに、経塚の全国的な展開やもうひとつの経塚の集中地域である、近畿地方との対比の中でその特色を浮き彫りにしていく。

○国際シンポジウム　「百済文化と古代日本～百済研究の新展開～」
- 開 催 日　24年3月10日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 後　　援　駐福岡大韓民国総領事館、(財)九州国立博物館振興財団、福岡県教育委員会、太宰府市、太宰府市教育委員会、九州文化財国際交流基金
- 参加者数　263人
- 事業内容　韓国の第一線の研究者を招いて、百済の華麗な仏教文化とわが国とのかかわりなど、最新の研究成果や研究動向について話を伺う。

【東京文化財研究所】

○国際シンポジウム「第35回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承―研究と保存修復の現状―」」
- ・開 催 日：9月3～5日
- ・開催場所：東京国立博物館平成館大講堂
- ・主　　催：東京文化財研究所
- ・参加人数：のべ404人
- ・事業内容：国内外から染織品制作の技術者、染織品修復技術者、学芸員、研究者など様々な立場の各専門家を招き、有形である染織品を「つくる」「まもる」「つたえる」 といった無形の側面よりアプローチすることで、今後の「染織技術」研究の道筋を示すことを目的とた。また、主催者としては、今日

における染織品の 制作や修復の際に直面する原材料・道具の問題、技術を次世代へと伝えていくための後継者養成をめぐるシステム、多角的な染織技術研究のあり方などについて、この機会に情報の共有化を図り、議論を深めることも意図した。

○国際シンポジウム「大仏破壊から１０年　世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」
・開 催 日：12月9日
・開催場所：東京国立博物館平成館大講堂
・主　　催：東京文化財研究所、奈良文化財研究所
・参加人数：164人
・事業内容：バーミヤーン遺跡の保存活動をこれまでどのように実施してきたのか、各国の代表が報告する。また、長期的な視野に立ち、バーミヤーン遺跡の保護と活用について将来の展望を示す。

○国際シンポジウム「大仏破壊から１０年　世界遺産バーミヤーン遺跡の現状と未来」
・開 催 日：12月11日
・開催場所：龍谷大学アバンティ響都ホール
・主　　催：東京文化財研究所、奈良文化財研究所、龍谷大学アジア仏教文化研究センター、龍谷ミュージアム
・参加人数：125人
・事業内容：バーミヤーン遺跡の保存活動をこれまでどのように実施してきたのか、各国の代表が報告する。また、長期的な視野に立ち、バーミヤーン遺跡の保護と活用について将来の展望を示す。

【奈良文化財研究所】

該当なし

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○国際シンポジウム「ユネスコアジア太平洋無形文化遺産研究センター開設記念シンポジウム」
・開 催 日：10月4日
・開催場所：リーガロイヤルホテル堺　4階ロイヤルホール
・主　　催：文化庁、アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市
・参加人数：250人
・事業内容：「危機に瀕する無形文化遺産の復興と継承を考える」をテーマに、太平洋地域からキリバス自治国、東南アジアからカンボジア国、日本と国内外の研究者等による事例発表とパネルディスカッションを行う。また、東日本大震災の被災地から、平成21年度ユネスコの無形文化遺産の代表的一覧表記載の岩手県花巻市「早池峰神楽」の芸能公演を行う。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
375件	240件	91件	72件	29件	48件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	135件	35件	100件	0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0件				

【東京国立博物館】　91件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	伊藤嘉章(学芸研究部長)	茶の湯を舞台とした鑑賞と“感賞”	『陶説』第702号	日本陶磁協会	9月1日	無
2	同上	今井敦(博物館教育課長)	宗箇	「上田宗箇 武人茶の世界展」	NHKプロモーション	12月30日	無
3	同上	池田宏(上席研究員)	赤糸威大鎧(竹虎雀金物)の特色	『春日』第86号	春日大社社務所	8月	無
4	同上	池田宏(上席研究員)	小桜黄返威鎧	『国華』1396号	国華社	24年2月1日	有
5	同上	沢田むつ代(特任研究員)	「染織品の修理」特に近世の衣装について	『東博の臨床保存―使命は公開と保存を支えること―』	東京国立博物館	4月8日	無
6	同上	沢田むつ代(特任研究員)	「染色や刺繍糸、技法からみた天寿国繍帳の変遷」	『守り伝える日本の美　よみがえる国宝』	九州国立博物館	6月28日	無
7	同上	富田淳(列品管理課長)	呉昌碩と長尾雨山	呉昌碩の書・画・印	台東区立芸術文化財団	9月13日	無
8	同上	列品管理課長・富田淳	槐安居コレクションと聴氷閣コレクション―高島菊次郎氏と三井高堅氏―	関西中国書画コレクションの過去と未来	関西中国書画コレクション研究会	24年3月9日	無
9	同上	井上洋一(企画課長)	銅鐸	「弥生時代（下）」講座 日本の考古学6	青木書店	9月5日	無
10	同上	井上洋一(企画課長)	佐原真－銅鐸、戦争	「弥生研究のあゆみと行方」弥生時代の考古学9	同成社	11月5日	無
11	同上	佐藤 祐介(博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー)	モバイル環境におけるデジタル文化財の活用	アート・ドキュメンテーション研究 第19号	アート・ドキュメンテーション学会	24年3月31日	有
12	同上	井上洋一（学芸企画部企画課長）・品川欣也（学芸研究部調査研究課考古室研究員）・及川穣（学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー）・河内晋平（東京藝術大学助手）・森田正彦（慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科）	「特集陳列　石に魅せられた先史時代の人びと」	『特集陳列　石に魅せられた先史時代の人びと』（展示リーフレット）全4頁	東京国立博物館	8月2日	無
13	同上	及川穣（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）	「後期旧石器時代後半期における黒耀石原産地開発の一様相―杉久保型ナイフ形石器の製作技術と和田群黒耀石の獲得と消費―」	『資源環境と人類』第2号（頁未定）	明治大学黒耀石研究センター	24年3月31日	有
14	同上	及川穣（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）	「黒耀石地下採掘活動の起源と縄文文化の形成過程」	『リバティアカデミーブックレット　明治大学黒曜石研究センター公開講座　黒曜石をめぐるヒトと資源利用』（頁未定）	明治大学リバティ・アカデミー	24年3月31日	有
15	同上	安藤香織（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）	《調査報告》木挽町狩野家伝来「法隆寺什物図」	『MUSEUM』631号	東京国立博物館	4月15日	有
16	同上	安藤香織（列品管理課登録室アソシエイトフェロー）	《調査報告》木挽町狩野家伝来「法隆寺什物図」	『MUSEUM』631号	東京国立博物館	4月15日	有
17	同上	伊藤信二(教育普及室長)	幡と華鬘	『日本の美術』第542号	ぎょうせい	7月10日	無
18	同上	伊藤信二(教育普及室長)	絵巻にみる幡と華鬘	『日本の美術』第542号	ぎょうせい	7月10日	無
19	同上	伊藤信二(教育普及室長)	Buddhist Ritual Implements	『Elegance Perfection』	The Museum of Fine Arts, Houston	24年2月17日	無
20	同上	伊藤信二(教育普及室長)	工芸品　解題	宗家文庫史料絵図類等史料絵図類等目録	長崎県立対馬歴史民俗資料館	24年3月24日	無
21	同上	関紀子(調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー)	万国博覧会の残影―東京国立博物館が草創期に収集した写真資料について―	特別展「孫文と梅屋庄吉―１００年前の中国と日本」	東京国立博物館	7月	無
22	同上	後藤健（東京国立博物館上席研究員）	先イスラーム時代　―湾岸古代文明の展開―	『アラブ首長国連邦（UAE）を知るための60章』	明石書店	24年3月18日	無
23	同上	高橋裕次(博物館情報課長)	特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」について	特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」図録	東京国立博物館	10月	無
24	同上	今井敦(博物館教育課長)	「鑑賞陶器」の成立とこれから	『陶説』第702号	日本陶磁協会	9月1日	無
25	同上	今井敦(博物館教育課長)	南宋の青磁について	『根津美術館紀要 此君』第3号	根津美術館	11月15日	無
26	同上	今井敦(博物館教育課長)	南宋官窯研究の現在と米内山陶片	『常盤山文庫中国陶磁研究会会報4 米内山陶片２』	常盤山文庫	12月10日	無
27	同上	山田俊輔(調査研究課考古室研究員)	ミヤケと埴輪生産－緑野ミヤケと猿田埴輪窯群－	埴輪研究会誌　第15号	埴輪研究会	5月29日	無
28	同上	竹内奈美子(調査研究課工芸室長)	Musical Instruments and the Lacquer Arts Tradition	Elegant Perfection―Masterpieces of Courtly and Religious Art from the Tokyo National Museum	Tokyo National Museum, The Museum of Fine Arts,Houston, Distributed by Yale University Press, New Haven and London	24年2月	無
29	同上	小山弓弦葉(工芸室主任研究員)	奈良金春座伝来の能面・能装束	金沢能楽美術館偏『金沢能楽美術館　開館5周年記念特別展 東京国立博物館所蔵　金春座伝来能面・能装束』展図録	金沢能楽美術館	10月	無
30	同上	小山弓弦葉(工芸室主任研究員)	江川文庫所蔵染織　解題	静岡県教育委員会偏『江川文庫古文書史料調査報告書七　―古写真・染織－』	静岡県教育委員会	24年2月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
31	同上	小山弓弦葉(工芸室主任研究員)	色彩用語解説	『日本史色彩事典』	吉川弘文館	24年3月	無
32	同上	小山弓弦葉(工芸室主任研究員)	染織取り扱い	『博物館資料・文化財取り扱いハンドブック』（仮）	ぎょうせい	24年3月	無
33	同上	瀬谷愛(列品管理課平常展調整室員)	法然と浄土の美術	『特別展 法然と親鸞 ゆかりの名宝』	東京国立博物館	10月	無
34	同上	瀬谷愛(列品管理課平常展調整室員)	Nirvana Paintings in Japan	『Elegance Perfection』	The Museum of Fine Arts, Houston	24年2月	無
35	同上	塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）	『北宋三館秘閣における文物の収集・公開活動と「北宋絵画史」の成立』	学位請求論文(東北大学)		7月	無
36	同上	塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）	「皇帝の文物と北宋初期の開封-啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について-（上）」	『美術研究』404号	東京文化財研究所	8月	無
37	同上	塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）	「呉昌碩の画―近代・東アジアの光のなかで―」	『呉昌碩の書・画・印』	東京国立博物館、台東区書道博物館	9月	無
38	同上	塚本麿充（調査研究課東洋室研究員）	「「清明上河図巻」の魅力―「清明上河図巻」と宋代の視覚文化―」	『特別展 北京故宮博物院200選』	東京国立博物館	24年1月	無
39	同上	塚本麿充（学芸研究部調査研究課東洋室研究員）	「清朝の国際交流」	『特別展 北京故宮博物院200選』	東京国立博物館	24年1月	無
40	同上	塚本麿充（学芸研究部調査研究課東洋室研究員）	「皇帝の文物と北宋初期の開封-啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について-（下）」	『美術研究』406号	東京文化財研究所	24年3月	無
41	同上	土屋貴裕（調査研究課絵画・彫刻室研究員）	中近世移行期における伊勢物語絵の図様展開に関する調査研究	鹿島美術研究　年報28号別冊	鹿島美術財団	11月15日	無
42	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復課長　神庭信幸、東京藝術大学　金鍾旭	東京国立博物館の対症修理ー古い額縁を安全に利用するための工夫ー	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月4・5日	有
43	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子（東京藝術大学美術学部非常勤講師）	58. 辻永（明治39年4月卒業）自画像　東京藝術大学大学美術館　学生制作品ー1234　（「東京美術学校西洋画科卒業制作作品・自画像の技法材料、保存修復に関する基礎的研究VII」	東京藝術大学美術学部紀要、第49号、2011年	東京藝術大学美術学部	12月30日	有
44	同上	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、東京藝術大学教授　木島隆康、東京藝術大学非常勤講師鈴鴨富士子、東京国立博物館　中安知佳	東京国立博物館および東京藝術大学による油彩画の共同研究（1）―東京国立博物館蔵　原撫松筆《老婆》《影の自画像》の光学調査―	MUSEUM、631号、2011	東京国立博物館	4月15日	有
45	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子（東京藝術大学美術学部非常勤講師）	58. 辻永（明治39年4月卒業）自画像　東京藝術大学大学美術館　学生制作品ー1234　（「東京美術学校西洋画科卒業制作作品・自画像の技法材料、保存修復に関する基礎的研究VII」	東京藝術大学美術学部紀要、第49号、2011年	東京藝術大学美術学部	12月30日	有
46	同上	保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、東京藝術大学教授　木島隆康、東京藝術大学非常勤講師鈴鴨富士子、東京国立博物館　中安知佳	東京国立博物館および東京藝術大学による油彩画の共同研究（1）―東京国立博物館蔵　原撫松筆《老婆》《影の自画像》の光学調査―	MUSEUM、631号、2011	東京国立博物館	4月15日	有
47	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、東京藝術大学教授　木島隆康、東京藝術大学大学院　富山恵介	《調査報告》東京国立博物館および東京藝術大学による油彩画の共同研究（2）―東京国立博物館蔵　高橋由一筆《最上川舟行の図》、アントニオ・フォンタネージ筆《風景（不忍池）》の光学調査―	MUSEUM、635号、2011	東京国立博物館	12月15日	有
48	同上	白井克也（列品管理課平常展調整室彫）	東アジア実年代論の現状	古墳時代の考古学1古墳時代史の枠組み	同成社	12月25日	無
49	同上	調査研究課研究員 品川欣也	Jomon-period Pottery and Clay Figurines	『Elegance Perfection』	The Museum of Fine Arts, Houston	24年2月17日	無
50	同上	保存修復課アソシエイト・フェロー 米倉乙世、保存修復課アソシエイト・フェロー 鈴木晴彦、保存修復課アソシエイト・フェロー 沖本明子、保存修復課長 神庭信幸、保存修復課主任研究員 土屋裕子、修理技術者 平野はな子、修理技術者 中村春佳	フィルム・エンキャプシュレーションによる資料の保護―東京国立博物館資料館の図書資料への予防保存の実例―	文化財保存修復学会第３３回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月4・5日	有
51	同上	横山梓（学芸企画部企画課特別展室研究員）	≪新収品紹介≫瑠璃地染付蓮図水指	『MUSEUM』632号	東京国立博物館	6月15日	有
52	同上	鈴木晴彦（保存修復課アソシエイトフェロー）、米倉乙世（保存修復課アソシエイトフェロー）、沖本明子（保存修復課アソシエイトフェロー）、神庭信幸（保存修復課長）、土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員）、松田麻美(国立歴史民俗博物館)	「簡易万能型太巻芯」の利用と展開 -博物館における対症修理-	文化財保存修復学会第33回大会in奈良研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月4日	有
53	同上	高橋裕次(博物館情報課長)	特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」について	特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」図録	東京国立博物館	10月	無
54	有形文化財に係る調査研究（収集・保管、公衆への観覧にかかる調査研究）	松本伸之（学芸企画部長）	THE HISTORY AND COLLECTION OF TOKYO NATIONAL MUSEUM	Elegant Perfection	The Museum of Fine Arts, Houston	12月	無
55	同上	保存修復課保存修復室研究員　川村佳男	中国三峡地区の塩竈形明器について	塩の生産と流通ー東アジアから南アジアまでー	雄山閣	6月10日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
56	同上	保存修復課保存修復室研究員　川村佳男	春秋・戦国時代の薄造り青銅器の製作技術	アジア鋳造技術史学会　研究発表概要集　5号	アジア鋳造技術史学会	8月	有
57	同上	保存修復課保存修復室研究員　川村佳男	清朝の文化事業－伝統の継承と再編－	東京国立博物館特別展『北京故宮博物院200選』図録	東京国立博物館特別展	24年1月2日	無
58	同上	調査研究課長　田良島　哲	東叡山寛永寺（特集陳列リーフレット）		東京国立博物館	9月	無
59	博物館の環境保存に関する研究	保存修復課長　神庭信幸	展示手法の変化に見る保存とデザインの関係	博物館研究　平成２４年１月号	財団法人日本博物館協会	24年1月25日	有
60	臨床保存に関する研究	保存修復課主任研究員	生物対策	東博の臨床保存	東京国立博物館	4月8日	無
61	同上	保存修復課主任研究員	空気環境	東博の臨床保存	東京国立博物館	4月8日	無
62	同上	保存修復課長　神庭信幸	彫刻の修理	東博の臨床保存	東京国立博物館	4月8日	無
63	同上	保存修復課環境保存室主任研究員･和田浩	「温湿度管理」、「光の管理」、「梱包と輸送」	東博の臨床保存	東京国立博物館	4月8日	無
64	博物館環境デザインに関する調査研究	デザイン室長 木下史青	『光で見せる展示デザイン』	『国語３』（中学校３年生・国語教科書）	光村図書	24年　(2月28日文部科学省検定)	有
65	同上	デザイン室長 木下史青	コラム文化財を守る 『東京国立博物館の展示照明―この10年間と次世代の可能性―』	『月刊文化財 4月/平成』 文化財と博物館	第一法規㈱	4月1日	無
66	同上	デザイン室長 木下史青	表紙解説　『国宝阿修羅展』―阿修羅像の展示デザイン	『月刊文化財 4月/平成』文化財と博物館	第一法規㈱	4月1日	無
67	同上	デザイン室長 木下史青	東京国立博物館　本館12室『漆工』―リニューアル	『月刊文化財 4月/平成24年』 文化財と博物館	第一法規㈱	4月1日	無
68	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報管理室長 村田良二	国宝・重要文化財のデジタル・アーカイブ構築とその展望	アート・ドキュメンテーション学会2011年度年次大会 予稿集	アート・ドキュメンテーション学会	6月11日	無
69	文化財に関する調査及び研究　特別調査法隆寺献納宝物「聖徳太子絵伝」	沢田むつ代(特任研究員)	「献納本　国宝・聖徳太子絵伝の料絹について」	法隆寺献納宝物特別調査概報ＸＸⅡ『聖徳太子絵伝５』	東京国立博物館	24年	無
70	鑑賞補助教材の研究	主任研究員　藤田千織	《報告》館内ガイドの新しいかたち－スマートフォンによる位置連動型ガイド「とーはくナビ」製作と貸出について－	MUSEUM　第636号	東京国立博物館	24年2月15日	有
71	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	副館長 島谷弘幸	伝統と創造	『第51回現日選抜書展　講演会録』	現日会	5月	無
72	同上	副館長 島谷弘幸	西川寧図録　プロローグ	新井光風監修『西川寧　墨ニュークラシック・シリーズ』	芸術新潮社	8月30日	無
73	同上	副館長 島谷弘幸	一休一行書	『聚美』第2号	青月社	24年1月10日	無
74	同上	副館長 島谷弘幸	Buddhist Art and Courtly Elegance	『Elegance Perfection』	The Museum of Fine Arts, Houston	24年2月17日	無
75	同上	副館長 島谷弘幸	日本の書 - 伝統から創造へ	『ＳＨＯ１』(現代日本の書代表作家41人展図録)	ギメ東洋美術館、毎日新聞社、毎日書道会	24年3月	無
76	同上	副館長 島谷弘幸	書	『博物館展示論』	財団法人放送大学教育振興会	24年3月20日	無
77	同上	副館長 島谷弘幸	残された書　文化財と日本人のアイデンティティ	『BIO CITY』50号	ブックエンド	24年3月27日	無
78	同上	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー 恵美千鶴子	江戸時代の出版物における古筆鑑賞の普及と展開－『丹鶴図譜』の「岡寺切」を発端として－	『MUSEUM』631号	東京国立博物館	4月15日	有
79	同上	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー 恵美千鶴子	平家納経に魅せられた人々　田中親美「平家納経模本」	『BIO CITY』49号	ブックエンド	12月28日	無
80	同上	調査研究課書跡・歴史室アソシエイトフェロー 恵美千鶴子	平家納経に魅せられた人々　山高信離と「平家納経模本」	『BIO CITY』50号	ブックエンド	24年3月27日	無
81	同上	博物館情報課長 高橋裕次	漢籍善本紹介-東京国立博物館(4)-」	『新しい漢字漢文教育』第52号	全国漢文教育学会	5月30日	無
82	同上	博物館情報課長 高橋裕次	漢籍善本紹介-東京国立博物館(5)-」	『新しい漢字漢文教育』第53号	全国漢文教育学会	11月30日	無
83	同上	高橋裕次（学芸企画部博物館情報課長）	「日・中・韓の料紙に関する科学的考察」	東京国立博物館紀要第47号	東京国立博物館	24年3月	無
84	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究	保存修復課長　神庭信幸	フランス文化通信省、フランス国立科学研究センター、日本学術振興会主催による日仏ワークショップ『文化遺産保存のための科学』	MUSEUM　No.633	東京国立博物館	8月15日	有
85	同上	保存修復室アソシエイトフェロー　沖本明子、保存修復課長　神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦、保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世、保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀、環境保存室主任研究員　和田浩	テラヘルツ派イメージングの一事例―柳橋水車図屏風(東京国立博物館蔵)の修理前調査を例として―	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集、p.34-35	文化財保存修復学会	6月4日	有
86	同上	保存修復課環境保存室主任研究員･和田浩、保存修復課長･神庭信幸	文化財梱包に用いる緩衝材の適切な使用法の検討-ワイヤーロープの振動特性	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集、p.34-35	文化財保存修復学会	6月4日	有
87	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金Ａ）	主任研究員・小山弓弦葉	「辻が花」の誕生　―〈ことば〉と〈染織技法〉をめぐる文化資源学	単著	東京大学出版会	24年3月	有
88	宮廷工芸に関する物質文化的研究	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹	清朝の礼制文化	東京国立博物館特別展『北京故宮博物院200選』図録	東京国立博物館特別展	24年1月2日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
89	博物館美術教育に関する調査研究	鈴木みどり（博物館教育課ボランティア室長）	Museum for Everyone - through the development of School Programs for Visually Impaired	Learning Innovation Symposium 2011	韓国国立民俗博物館	10月27日	無
90	同上	鈴木みどり（博物館教育課ボランティア室長）	西洋の博物館教育　米国　－デンバー美術館の例を中心に－	博物館教育論	ぎょうせい	24年3月1日	無
91	同上	鈴木みどり（博物館教育課ボランティア室長）	「東京国立博物館　盲学校のためのスクールプログラム」から始める博物館のアクセシビリティ―みんなが楽しむ博物館のための第一歩－	東京国立博物館紀要第47号	東京国立博物館	24年3月30日	無

【京都国立博物館】　72件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	西上　実（学芸部長）	陳箴筆鳥花山水図補遺	『学叢』３３号	京都国立博物館	23年5月	無
2	文化財の保存・修復に関する調査研究	村上　隆（上席研究員）他	京都国立博物館蔵「紺紙銀字華厳経（二月堂焼経）」の科学的調査　―文字素材の材質を中心に―	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	23年6月4日	無
3	同上	村上　隆（上席研究員）	三角縁神獣鏡の組成と金属組織　―椿井大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡を中心に―	『学叢』33号	京都国立博物館	23年5月27日	無
4	文化財の保存・修復に関する調査研究	同上	『美を伝える　京都国立博物館文化財保存修理所の現場から』	『美を伝える　京都国立博物館文化財保存修理所の現場から』	京都国立博物館	23年7月11日	無
5	同上	同上	「京都国立博物館蔵「紺紙銀字華厳経（二月堂焼経）」の科学的調査　―文字素材の材質を中心に―	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	23年6月4日	無
6	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	みんぞく資料をまもる	文化財の保存と修復１３	文化財保存修復学会	23年6月	無
7	同上	同上	奈良県御所市室宮山古墳外堤住居址から出土したベンガラの材料科学的キャラクタリゼーション	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	23年6月	無
8	文化財の保存・修復に関する調査研究	同上	「近代日米文化交流の一側面　…三角縁神獣鏡に映る人間ドラマ…」	『藝文京』118号	京都市芸術文化協会	23年7月11日	無
9	同上	同上	「住友銅吹所跡　―発掘調査20周年―」	『近畿産業考古学会誌』5号	近畿産業考古学会		無
10	同上	同上	「銀の履歴書」	『聖なる銀　…アジアの装身具…』	INAXギャラリー（INAXBOOKLET）	23年12月15日	無
11	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	赤尾栄慶（上席研究員）	元時代・至元二十八年の華厳経　―角筆の使用を確認―	『学叢』３３号	京都国立博物館	23年5月	無
12	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
13	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
14	同上	久保智康（企画室長）	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
15	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
16	同上	同上	日宋の浄土教における鏡という装置	呉越勝覧国際学術研討会論文集	北京・中国書店	23年12月	無
17	同上	永島明子（主任研究員）	人と美術と動物のあいだ	展覧会図録　百獣の楽園　美術にすむ動物たち	京都国立博物館	23年7月16日	無
18	江戸時代中期の輸出漆器	同上	“Maki-e production of the Mid-Edo period as seen through historical European collections”	East Asian Lacquer: Material, Culture, Science and Conservation（東洋漆器：その文化史、科学と保存修復）	Archetype Books in association with V&A,	23年12月11日	無
19	蒔絵の輸出と生産の歴史	同上	蒔絵の輸出と生産に関する史的研究	京都大学　学位論文　博士（人間・環境学）	京都大学	24年3月26日	有
20	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	人と美術と動物の間（概説）	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
21	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
22	同上	同上	京都国立博物館　特別展観　百獣の楽園－美術にすむ動物たち－	『文化庁月報』514	文化庁	23年7月	無
23	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
24	蒔絵の輸出と生産の歴史	同上	表紙解説　松喰鶴蒔絵冠箱　国宝　阿須賀神社伝来古神宝のうち	第２７４回―平成二十三年十月歌舞伎公演　国立劇場	独立行政法人日本芸術文化振興会	23年10月	無
25	仏画に関する調査研究	大原嘉豊（研究員）	作品解説	（真宗高田派本山専修寺京都別院所蔵）仏涅槃図	真宗高田派本山専修寺京都別院	23年4月	無
26	同上	同上	作品解説	（真宗高田派本山専修寺京都別院所蔵）光明本尊	真宗高田派本山専修寺京都別院	23年4月	無
27	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園　美術にすむ動物たち』	京都国立博物館	23年7月	無
28	同上	同上	仏教絵画と動物	『博物館Dictionary』168号	京都国立博物館	23年7月	無
29	同上	羽田　聡（研究員）	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
30	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
31	同上	鬼原俊枝（列品管理室長）	文化財保存の歴史の中の今	『清風会々報』１６４号	清風会	23年10月25日	無
32	同上	山川　暁（主任研究員）	淡浅葱縮緬地帰雁菊水文様友禅染繍小袖	『学叢』３３号	京都国立博物館	23年5月	無
33	同上	同上	白綸子地御御簾松文様絞繍小袖	『学叢』３３号	京都国立博物館	23年5月	無
34	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
35	同上	同上	作品解説ほか	『典雅なる御装束―宮廷のオートクチュール―』展覧会図録	細見美術館	23年10月	無
36	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
37	日本近世絵画の研究	山下善也（連携協力室長）	狩野永良の秘伝画法書について	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
38	同上	同上	きらめく京都、きらめく近世の絵画	『京都千年の美の系譜 －祈りと風景』	静岡県立美術館	23年10月	無
39	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
40	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
41	同上	淺湫　毅（主任研究員）	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
42	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
43	同上	山本英男（美術室長）	画僧の系譜	『名僧でたどる日本の仏教』（別冊・太陽　日本のこころ182）	平凡社	23年5月	無
44	同上	同上	狩野元信筆浄瓶倒図（龍安寺蔵）と大徳寺瑞峯院障壁画	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
45	同上	同上	大徳寺所蔵の狩野永徳筆織田信長像について―修理で得られた新知見を中心に―	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
46	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第一回　能登の絵仏師・長谷川信春　および口絵解説 ）	『茶道雑誌』75巻６号	河原書店	23年6月	無
47	同上	同上	元秀印　源氏物語図屏風	『國華』１３８８号	朝日新聞出版	23年6月	無
48	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第二回　絵仏師の枠を超えて　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻7号	河原書店	23年7月	無
49	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
50	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第三回　狩野派入門　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻8号	河原書店	23年8月	無
51	同上	同上	信春試論―狩野派との関係を中心に―	『長谷川等伯展～「信春時代」―等伯のプレリュード～』展覧会目録	石川県七尾美術館	23年8月	無
52	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第四回　京都への移住　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻9号	河原書店	23年9月	無
53	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第五回　空白の十七年　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻10号	河原書店	23年10月	無
54	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第六回　堺への進出　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻11号	河原書店	23年11月	無
55	同上	同上	長谷川等伯物語～孤高の絵師長谷川等伯（第七回　大徳寺に描く　および口絵解説）	『茶道雑誌』75巻12号	河原書店	23年12月	無
56	同上	呉孟晋（研究員）	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
57	同上	同上	ある外交官が見た中国近代絵画―須磨弥吉郎の東西美術批評を手がかりに―	『アジア遊学』１４６号（民国期美術へのまなざし）	勉誠出版	23年10月	無
58	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
59	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	尾野善裕（工芸室長）	初代伊東陶山と西洋陶磁―エミール・ミュラー社製辰砂釉花瓶―	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
60	同上	同上	仁清・乾山が名工たる所以―京焼名工の選定基準―	『淡交　別冊』№59	淡交社	23年6月	無
61	収蔵品・寄附品及び関連品に関する調査研究	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
62	同上	同上	萩焼の乾山写し―「ピラ掛け茶碗」小考―	『清風会々報』１６３号	清風会	23年7月	無
63	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
64	同上	宮川禎一（考古室長）	東南アジアの銅鼓二例	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
65	同上	同上	扉解説・作品解説	『百獣の楽園―美術にすむ動物たち―』特別展観目録	京都国立博物館	23年7月	無
66	同上	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景』展覧会目録	静岡県立美術館	23年10月	無
67	日本近世絵画に関する調査・研究	水谷亜希（アソシエイトフェロー）	「新出の〈やすらい祭絵巻〉・〈牛祭絵巻〉（京都国立博物館蔵）について―松村景文・河村文鳳・上田秋成らによる祭礼の記録―」	『學叢』第33号	京都国立博物館	23年5月	無
68	美術のなかの動物	同上	作品解説、コラム	『百獣の楽園　美術にすむ動物たち』展覧会図録	京都国立博物館	23年7月	無
69	日本近世絵画に関する調査・研究	同上	作品解説	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景―』展覧会図録	京都千年の美の系譜展実行委員会	23年10月	無
70	収蔵品・寄託品に関する調査研究	同上	「京都国立博物館のこれまでとこれから」	『京都国立博物館名品展　京都千年の美の系譜―祈りと風景―』展覧会図録	京都千年の美の系譜展実行委員会	23年10月	無
71	鑑賞教育に関する調査研究	同上	「京博のいい話〈見て感じる〉楽しみを」	『毎日新聞』	毎日新聞社	24年2月2日	無
72	日本近世絵画に関する調査・研究	同上	「円山応挙の写生と絵空事―登龍門図をもとに―」	『美学芸術学』第27号	同志社大学美学芸術学研究室	24年3月15日	有

【奈良国立博物館】　29件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	湯山賢一（館長）	紙の修復と保存	『化学と工業』４月号	日本化学会	4月	無
2	同上	同上	古文書修理の歴史と現在	九州国立博物館特別展「よみがえる国宝」図録	九州国立博物館	6月28日	無
3	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ―三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	東大寺文書	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
4	同上	西山厚（学芸部長）	平安時代の東大寺	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
5	同上	岩田茂樹（学芸部長補佐）	與喜天満神社の神像	特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像－」図録	奈良国立博物館	7月16日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
6	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	同上	無題、今のところ	『文化財写真研究』２２号	文化財写真技術研究会	7月23日	無
7	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ―三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣―與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	法隆寺金堂　釈迦・阿弥陀三尊像下座の板絵四天王像をめぐって	『MUSEUM』６３３号	東京国立博物館	8月15日	無
8	同上	同上	平安時代東大寺の造像をめぐって	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
9	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	内藤栄（学芸部長補佐）	工芸品に表された鳳凰と獅子	サントリー美術館特別展「不滅のシンボル　鳳凰と獅子」図録	サントリー美術館	6月	無
10	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	宝物献納と蓮花台蔵世界海―「陽剣」・「陰剣」銘大刀をめぐって―	第６３回正倉院展図録	奈良国立博物館	10月28日	無
11	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ―三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣―與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	正倉院宝物と東大寺	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
12	同上	稲本泰生（企画室長）	菩薩坐像（薬師寺東塔塑像のうち）	『薬師寺』１６８号	薬師寺	6月	無
13	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	同上	玄奘三蔵の求法行と七～八世紀アジア諸国の崇仏君主－戒日王から聖武天皇まで	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
14	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ―三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣―與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	東大寺の塑像をめぐる諸問題	東大寺ミュージアム開館記念特別展「奈良時代の東大寺」目録	東大寺	10月9日	無
15	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	吉澤悟（教育室長）	春日東塔院の調査－第477次	奈良文化財研究所紀要　二〇一一	奈良文化財研究所	6月15日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
16	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	野尻忠（情報サービス室長）	藤田美術館・薬師寺ほか所蔵の大般若経（魚養経）について	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
17	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	総説　与喜天神の歴史と信仰	特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像－」図録	奈良国立博物館	7月16日	無
18	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	そのとき倉から出されたものは、どこへ行ったのか。―雑札42の詳細解説―	第６３回正倉院展図録	奈良国立博物館	10月28日	無
19	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	谷口耕生（保存修理指導室長）	総説　玄奘三蔵絵―三国伝灯の祖師絵伝―	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
20	東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	同上	春日権現験記絵披見台の光学調査	特別陳列「おん祭りと春日信仰の美術」図録	財団法人仏教美術協会	12月5日	無
21	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	宮崎幹子（資料室長）	仏教美術資料研究センターの再開によせて―奈良県物産陳列所と奈良の近代―	奈良国立博物館だより78号	奈良国立博物館	7月	無
22	同上	同上	仏教美術資料研究センター　―重要文化財 旧奈良県物産陳列所―（執筆編集）	仏教美術資料研究センター　―重要文化財 旧奈良県物産陳列所―	奈良国立博物館	7月15日	無
23	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	同上	ミュージアムライブラリーの可能性　―奈良国立博物館仏教美術資料研究センターの再出発によせて―	『アート・ドキュメンテーション通信』９０号	アート・ドキュメンテーション研究会	8月	無
24	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	清水健（研究員）	両種の御香―全浅香と黄熟香―	第６３回正倉院展図録	奈良国立博物館	10月28日	無
25	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成度特別展「天竺へ－三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にますは与喜の神垣－與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、２４年度特別展「貞慶（仮称）」、２５年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。	同上	おん祭と春日信仰の美術 総論	特別陳列「おん祭りと春日信仰の美術」図録	財団法人仏教美術協会	12月5日	無
26	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	北澤菜月（研究員）	高階隆兼にとっての「玄奘三蔵絵」	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
27	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。	齋木涼子（研究員）	版木に託された護国の願い―世界文化遺産・海印寺大蔵経板殿―	奈良国立博物館だより77号	奈良国立博物館	4月	無
28	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。	同上	中世南都における玄奘三蔵と天竺観	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無
29	同上	原瑛莉子（研究員）	釈迦十六善神像にみる玄奘像の変遷	特別展「天竺へ　～三蔵法師三万キロの旅」図録	奈良国立博物館・朝日新聞社	7月16日	無

【九州国立博物館】　48件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	文化財課資料登録室主任研究員　原田あゆみ	「海を渡ったアユタヤ仏」	『アジア友好日本古美術帰国展 日本とタイ―ふたつの国の巧と美』図録	九州国立博物館	4月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
2	博物館における文化財の保存と修復	博物館科学課長　本田光子	文化財の収蔵庫	マテリアルライフ学会誌	マテリアルライフ学会	5月31日	有
3	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	展示課長　赤司善彦	レーザー計測による古代山城の研究	西日本文化451	西日本文化協会	6月1日	無
4	館蔵品を中心とした漆器の調査研究	企画課文化交流展室　川畑憲子	X線ＣＴスキャンによる彫漆器の木地構造調査	『彫漆　漆に刻む文様の美』図録	九州国立博物館	6月14日	無
5	博物館における文化財の保存と修復	館長　三輪嘉六、博物館科学課長　本田光子	「文化財保存修理の道筋」	『よみがえる国宝』図録	九州国立博物館	6月27日	無
6	博物館における文化財の保存と修復	博物館科学課長　本田光子、副館長　森田稔	「九州国立博物館の文化財保存システム」	『よみがえる国宝』図録	九州国立博物館	6月27日	無
7	博物館における文化財の保存と修復	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	「九州国立博物館　保存修復施設について」	『よみがえる国宝』図録	九州国立博物館	6月27日	無
8	博物館における文化財の保存と修復	博物館科学課環境保全室長　今津節生	「文化財の科学的調査」	『よみがえる国宝』図録	九州国立博物館	6月27日	無
9	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課環境保全室長　今津節生	The conservation of a coloring wooden casket discovered by Tuerji Hill Tomb by the Chinese-Japanese collaborative investigation	The 2011 International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia	Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia	8月16日	無
10	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	博物館科学課環境保全室長　今津節生	Study with structural dissection on the bronze works of Yin and Zhou Dynasty of China using the large-scale X-ray CT scanner	The 2011 International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia	Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia	8月18日	無
11	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に	企画課特別展室研究員　市元塁	九州国立博物館特別展「草原の王朝 契丹－美しき3人のプリンセス－」	『電気と九州』2011年8月号	社団法人日本電気協会九州支部会	8月	無
12	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課環境保全室長　今津節生	長崎県松浦市鷹島海底遺跡出土品のX線CT調査	『長崎県松浦市鷹島海底遺跡発掘調査報告書』	長崎県松浦市教育委員会	9月16日	無
13	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	企画課特別展室研究員　市元塁	契丹の歴史と文化	『草原の王朝 契丹-美しき3人のプリンセス－』図録	西日本新聞社	9月27日	無
14	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課環境保全室長　今津節生	トルキ山古墓の保存修復	『草原の王朝 契丹-美しき3人のプリンセス－』図録	九州国立博物館	9月27日	無
15	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	企画課長　小泉惠英	「契丹仏教と皇帝」	『草原の王朝 契丹-美しき3人のプリンセス－』図録	九州国立博物館	9月27日	無
16	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	展示課研究員　遠藤啓介	「契丹陶器の種類と造形」	『草原の王朝 契丹-美しき3人のプリンセス－』図録	九州国立博物館	9月27日	無
17	館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画研究に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　畑靖紀	総論　水墨画の魅力―名品の筆墨にせまる―	『トピック展示　館蔵水墨画名品展』展覧会図録	九州国立博物館	9月28日	無
18	展覧会における教育普及事業の実践に関する調査研究	交流課主任研究員　池内一誠	「日本とタイ　ふたつの国の巧と美　関連事業について」	『月刊文化財』10月号	文化庁	41182	無
19	中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究	企画課特別展室研究員　市元塁	1000年の時を越える草原国家。美を謳歌した契丹のプリンセス	『美術の窓』336	生活の友社	9月	無
20	魏晋南北朝時代の東アジア世界	企画課特別展室研究員　市元塁	出土陶俑からみた五胡十六国と北魏政権	『古代文化』63（2）	古代学協会	9月	有
21	中国内蒙古新疆ウイグル自治区出土の契丹文化に関する工芸・考古遺物に関する調査研究	文化財課長　臺信祐爾	「契丹墓の壁画に見る風俗」	『草原の王朝 契丹』	九州国立博物館・西日本新聞社	9月	無
22	アジアの文化財に関する研究	文化財課資料管理室長　小林公治	「中国螺鈿史研究状況与課題ー以亜洲螺鈿史建設為目標」	『中国生漆』2011年第3期	西安生漆塗料研究所	10月25日	無
23	タイ国立博物館との共催展に関する研究	文化財課資料登録室主任研究員　原田あゆみ	「日本とタイ－ふたつの国の巧と美　企画・展示について」	『月刊文化財』	文化庁	10月号	無
24	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課文化交流展室長　河野一隆	「威信財経済の論理－威信財と公権力の関係性についての理論的素描－」	季刊『考古学』第117号 特集：古墳時代を大系的にみる	(株)雄山閣	11月1日	無
25	琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する調査研究	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	「琉球と袋中上人」	「琉球と袋中上人展」図録	九州国立博物館	11月1日	無
26	中近世土佐派の絵画と工芸制作について	企画課研究員　鷲頭桂	「絵画と工芸における意匠の交流－室町時代の土佐派を中心に－」	『鹿島美術研究』年報２８号別冊	財団法人　鹿島美術財団	11月15日	無
27	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的	文化財課資料登録室主任研究員　丸山猶計	「講演　小野道風の筆跡の特色と能書像」 佛教大学国語国文学会　平成22年度大会講演録	『京都語文』第18号	佛教大学国語国文学会	11月26日	無
28	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課環境保全室長　今津節生	長崎市聖福寺釈迦如来坐像の像内納入品X線CTスキャナーによる調査	月刊考古学ジャーナル621号	ニューサイエンス社	11月30日	無
29	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	오미近江의 고경전古経典	『日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰』図録	韓国・国立中央博物館	12月19日	無
30	博物館危機管理としての市民協同型PMシステム構築に向けての基礎研究	博物館科学課長　本田光子	「IPMの体制作り」	『文化財IPMコーデイネータ資格取得講習会』	公益財団法人　文化財虫害研究所	12月15日	無
31	博物館危機管理としての市民協同型PMシステム構築に向けての基礎研究	博物館科学課長　本田光子	「文化財IPMと曝涼・曝書」	『文化財の虫菌害』62	公益財団法人　文化財虫害研究所	12月26日	無
32	徳川美術館所蔵　国宝「初音の調度」に関する研究	企画課文化交流展室 川畑憲子	「九州国立博物館文化交流展　新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」	「文部科学時報」	文部科学省	12月号	無
33	館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画研究に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　畑靖紀	雪舟の心境をめぐる前提―人生の節目と選択	『聚美』第２号	青月社	平成24年1月10日	無
34	アジアの文化財に関する研究	文化財課資料管理室長　小林公治	「唐代装飾鏡制作技術の検討ー漆と天然樹脂との使い分けの可能性を中心にー」	『「漆サミット2012」講演要旨集　テーマ：資源、歴史・文化、科学』	明治大学	平成24年1月12日	無
35	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	博物館科学課環境保全室長　今津節生	X線ＣＴによる殷周青銅器の構造解析	『神秘のデザインー中国青銅技術の粋』	泉屋博古館	平成24年2月26日	無
36	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	展示課長 赤司善彦	百済文化と古代日本	国際シンポジウム「百済研究の新展開」資料集	九州国立博物館	平成24年3月10日	無
37	博物館と保存修理	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	「博物館と保存修理」	『博物館資料保存論』	財団法人放送大学教育振興会	平成24年3月20日	無
38	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課特別展室研究員 市元塁	調査の目的と成果	『中国出土塼仏調査集報（科学研究費基盤研究（Ｂ）「飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究-出土品から見た川原寺の特質-」研究代表者：米田文孝　研究課題番号00298837）による研究分担調査の中間報告』	九州国立博物館	平成24年3月23日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
39	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫	「朝鮮国信使絵巻」、「中村家和船関係史料」解題	長崎県文化財調査報告書第二〇九集『対馬宗家文庫史料絵図類等目録』	長崎県教育委員会	平成24年3月24日	無
40	魏晋南北朝時代の東アジア世界	企画課特別展室研究員 市元塁	南北朝時代から唐時代の陶磁器と社会	『東京国立博物館横河民輔コレクション-中国陶磁名品選-』	東京国立博物館	平成24年3月31日	有
41	徳川美術館所蔵　国宝「初音の調度」に関する研究	企画課文化交流展室 川畑憲子	「初音の調度のCTレントゲン撮影および科学的分析」	国宝「初音の調度」シンポジウム報告	徳川美術館	平成24年3月31日	無
42	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	企画課文化交流展室長 河野一隆	館蔵「新羅古墳資料」の冠・冠帽と飾履～その伝来と製作技術を中心として～	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
43	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究	展示課長 赤司善彦	大野城の築城年代再考　太宰府口城門出土木柱の年輪年代の測定から	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
44	展覧会における教育普及事業の実践に関する調査研究	交流課主任研究員　池内一誠	体験用資料を活用した視覚障害児童の展示観覧支援について	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
45	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	展示課主任研究員　進村真之	福岡県久山町中久原出土の埋蔵銭大甕のＸ線ＣＴ分析	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
46	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	展示課研究員　遠藤啓介	明代・華南三彩陶の紹介と一考察	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
47	Ｘ線ＣＴによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析	展示課主任研究員　楠井隆志 文化財課主任研究員　鳥越俊行	長崎市・興福寺所蔵　媽祖倚像および侍女立像ー九州所在木彫像基礎資料　四ー	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無
48	日本の近代における博物館成立期の研究	企画課　高久彩	明治初期の博物館における列品分類についての基礎的考察ー産業政策と美術政策の交錯ー	紀要「東風西声」	九州国立博物館	平成24年3月31日	無

【東京文化財研究所】　35件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（15件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財の資料学的研究	企画情報部文化形成研究室長　塩谷　純	秋元洒汀と明治の日本画（１）	『美術研究』404	東京文化財研究所	8月	有
2	同上	企画情報部主任研究員　江村知子	江戸時代初期風俗画の表現世界	『美術研究』405	同上	24年1月	有
3	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	美術教育者としての黒田清輝の一面－内弟子・森岡柳造という受容者を通して	『森岡柳造展』図録	鳥取県立博物館	4月	無
4	同上	企画情報部長　田中　淳	中川一政の芸術の糧となった愛蔵品―近代日本のゴッホ受容と関連して	「没後20年記念展　中川一政が愛した芸術」展（展覧会図録）	真鶴町立中川一政美術館	9月	無
5	同上	同上	創作と評価―萬鉄五郎《風船を持つ女》を中心に―	『美術研究』405	東京文化財研究所	24年1月	有
6	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部広領域研究室長　綿田　稔	山水長巻考―雪舟の再評価にむけて―	『美術研究』405	同上	24年1月	有
7	同上	企画情報部文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英	中世真宗の祖師先徳彫像の制作をめぐって	『美術研究』406	同上	24年3月	有
8	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	「『梅枝』と越天楽今様」	『鍼仙』608号	能楽書林	12月	無
9	同上	同上	「狂言小舞謡の伝承を考える一野村万蔵家と狂言共同社のフシの比較を中心に一」	『金沢大学日中無形文化遺産プロジェクト報告書』第17集	金沢大学	24年1月	無
10	同上	音声映像記録研究室長、飯島満	「フランス・パテー盤に関する調査報告」	『無形文化遺産研究報告』6	東京文化財研究所	24年3月	無
11	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	「鵜と鵜飼の民俗」	『人と動物の近代―絵はがきのなかの動物たち』	東北芸術工科大学東北文化研究センター	9月	無
12	同上	同上	「莚と莚織の技術」	『無形文化遺産研究報告』6	東京文化財研究所	24年3月	無
13	無形文化遺産分野の国際研究交流	無形文化遺産部長、宮田繁幸	「岐路に立つ無形文化遺産保護条約」	同上	同上	9月	無
14	同上	音声映像記録研究室長、飯島満	「日韓におけるアナログ音声資料の保存と活用　－SPレコードを中心に」	『日韓無形文化遺産研究』	韓国国立文化財研究所・東京文化財研究所	11月	無
15	同上	無形文化財研究室長、高桑いづみ	「日韓における楽器製作者の現状　－重要無形文化財と選定保存技術のはざまで－」	同上	同上	同上	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（2件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	企画情報部繊毛職員　城野誠治	有関〈萬壑松風図〉光学探測方法的画像資訊化	李唐萬壑松風図光学検測報告	台湾故宮博物院	12月	無
2	同上	同上	科学写真撮影法の概要と結果	平等院鳳凰堂 仏後壁 光学調査報告書	東京文化財研究所	24年3月	無

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（18件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介、保存修復科学センター客員研究員　間渕創、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	霧島神宮の塗装部位から分離された糸状菌の諸性質	保存科学　51	東京文化財研究所	24年3月	有
2	同上	保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか　他	津波等で被災した文書等の救済法としてのスクウェルチ・ドライイング法の検討	同上	同上	同上	有
3	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター客員研究員　呂　俊民　他	展示収蔵環境で用いられる内装材料の放散ガス試験法	同上	同上	同上	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
4	同上	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター客員研究員　呂　俊民、企画情報部文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英、企画情報部特別研究員（アソシエイトフェロー）　井上さやか　他	フィルム保管庫における酢酸雰囲気の改善の試み	同上	同上	同上	有
5	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘	泰西王侯騎馬図屏風の彩色材料調査	同上	同上	同上	有
6	同上	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、保存修復科学センター主任研究員　吉田直人　他	重要文化財元禄および天保国絵図に使われた彩色材料と色彩表現に関する考察	同上	同上	同上	有
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター研究員　森井順之	屋外石造文化財の環境計測および環境制御	マテリアルライフ学会誌　23-2	マテリアルライフ学会	5月1日	無
8	同上	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター客員研究員　舘川　修　他	厳島神社大鳥居修理のための充填材料評価試験	保存科学　51	東京文化財研究所	24年3月	有
9	同上	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明	近世の島根県における石材の利用	日韓共同研究報告書2011	東京文化財研究所	24年3月31日	無
10	同上	保存修復科学センター研究員　森井順之	日韓共同研究～この五カ年の方向性	同上	同上	同上	無
11	文化財の防災計画に関する調査研究	保存修復科学センター研究員　森井順之	"3.3 Salvage Project of Cultural Properti es Damaged by the Earthquake and Tsunami"	The Great East Japan Earthquake -Report on the Damage to the Cultural Heritage-	Japan ICOMOS National Committee	11月1日	無
12	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	建築文化財にける伝統的な塗装材料の使用と歴史　-問題の所在と通史-	建築文化財における塗装材料の調査と修理	東京文化財研究所	24年1月17日	無
13	同上	同上	A Mechanism for Ultraviolet Light Irradeiation -induced Whitening of Poly(vinyl alcohol) Film	マテリアルライフ学会誌　24-1	マテリアルライフ学会	24年2月	無
14	同上	同上	都久夫須麻神社本殿の木彫彩色材料に関する調査報告	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書　2011年度	東京文化財研究所	２4年3月30日	無
15	同上	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、客員研究員　中條利一郎、文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉　他	A Mechanism for Ultraviolet Light Irradeiation -induced Whitening of Poly(vinyl alcohol) Film	マテリアルライフ学会誌　24-1	マテリアルライフ学会	24年2月	無
16	近代の文化遺産に関する調査研究	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介、客員研究員　大河原典子、客員研究員　安倍倫子　他	フィルモン音帯の修復手法の開発	保存科学　51	東京文化財研究所	24年3月	有
17	同上	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	音声・映像記録メディアの保存と修復	未来につなぐ人類の技１１「音声・映像記録メディアの保存と修復」	同上	24年3月	無
18	同上	同上	Conservation and Restoration of Concrete Structures	Conservation and Restoration of Concrete Structures	同上	24年3月	無

〇保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（0件）

〇諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（0件）

【奈良文化財研究所】 100件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（51件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	5	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	歴史研究室長 吉川 聡、前歴史研究室任期付研究員 谷本 啓、埋蔵文化財センター特別研究員 児島大輔	明日香村八釣の明神講関係資料調査	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6年15日	無
2	6	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	文化遺産部建造物研究室長 林良彦	本門寺五重塔の解体修理にともなう構造上の諸問題	第3次中日韓建築遺産保存国際学術会議論文集	中国文化遺産研究院	10年12日	無
3	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室 研究員　鈴木智大	日本の木造塔の構造と変遷	同上	同上	同上	無
4	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	古代東アジアの八角木塔とその構造推定	同上	同上	同上	無
5	同上	同上	文化遺産部前建造物研究室長　島田敏男	高知県竹林寺客殿の調査	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月	無
6	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	ベトナム南部民家の特質－ドンナイ省フーホイ村の調査から－	同上	同上	同上	無
7	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員大林潤、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻洋成、研究員 脇谷草一郎、研究員　田村朋美	法隆寺所蔵古材調査２－金堂支輪板の顔料分析調査－	同上	同上	同上	無
8	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員　黒坂貴裕	若狭町熊川宿倉見屋荻野家住宅の調査	同上	同上	同上	無
9	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員　鈴木智大	古代建築の研究と復元の最前線－日中韓建築文化遺産保存国際学術会議から－	同上	同上	同上	無
10	10	我が国の記念物に関する調査・研究	文化遺産部長、小野健吉	文化財庭園（庭園遺構）の発掘と整備における留意事項	『日本庭園学会誌』第25号	日本庭園学会	10月	無
11	同上	同上	遺跡整備研究室長、平澤毅	遺跡の総合的マネジメント	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月	無
12	同上	同上	同上	文化的景観と世界遺産　－「紀伊山地の霊場と参詣道」「石見銀山」「平泉」などの事例から－	『国際シンポジウム　大山・隠岐・三徳山－山岳信仰と文化的景観－　報告書』	鳥取環境大学建築・デザイン学科／鳥取県教育委員会文化財課歴史遺産室	9月	無
13	同上	同上	同上	日本における名勝の保護　－保存と活用、その方策と動向－	『韓・中・日 명승 보존과 활용방안 』	（大韓民国）国立文化財研究所自然文化財研究室	10月	無
14	同上	同上	同上	火山噴火罹災地の歴史的庭園復元・自然環境変遷とランドスケープの保全活用	『遺跡学研究』第8号	日本遺跡学会	11月	無
15	同上	同上	同上	地域と遺跡・遺産　－「総合的マネジメント」について－	『地域における遺跡の総合的マネジメント　－平成22年度遺跡整備・活用研究集会（第５回）報告書－』	奈良文化財研究所	同上	無
16	同上	同上	同上	平城宮跡の整備	『2011新羅學國際學術大會論文集　東亞細亞속의新羅都城復元問題』	（大韓民国）新羅文化遺産研究院	12月	無
17	11	同上	文化遺産部長、小野健吉	日本庭園の歴史をたどる	『一個人』2011年8月号	KKベストセラーズ	6月	無
18	同上	同上	同上	『春日権現験記絵』に描かれた藤原俊盛邸の庭園	『都市歴史博覧』	笠間書院	12月	有
19	同上	同上	同上	日本庭園のはじまり	『古代はいま』	クバプロ	同上	無
20	同上	同上	文化遺産部主任研究員、青木達司	桂離宮庭園「桂垣」の基礎的調査	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月	無
21	同上	同上	文化遺産部主任研究員、青木達司 遺跡整備研究室長、平澤毅	文化財としての鎌倉時代庭園	『平成23年度　庭園の歴史に関する研究会　鎌倉時代の庭園－京と東国－　資料集』	同上	10月	無
22	同上	同上	都城発掘調査部遺構研究室研究員、高橋知奈津	萬翠荘の立地と庭園	奈良文化財研究所紀要2011	同上	6月	無
23	同上	同上	同上	日本古代庭園の研究現況と課題	『「동아시아 古代庭園 및 寺址의 연구 현황과 과제』（「東アジア古代庭園と寺跡の研究現況と課題」）	（大韓民国）扶餘國立文化財研究所	9月	無
24	同上	同上	同上	鎌倉初期の風景表現と作庭	『平成23年度　庭園の歴史に関する研究会　鎌倉時代の庭園－京と東国－　資料集』	奈良文化財研究所	10月	無
25	12	平城宮東院地区（第481次）の発掘調査	都城発掘調査部（平城）研究員、鈴木智大	平城宮東院地区の調査－第481次－	奈良文化財研究所紀要 2012	同上	24年6月	無
26	同上	同上	同上	平城宮東院地区の調査－第481次－	奈文研ニュースNo.42	同上	9月	無
27	19	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	文化庁文化財部、国武貞克・企画調整部文化財情報研究室長、森本晋・展示企画室長、加藤真二・カザフ国立大学、カイマガンベトフ	カザフスタン南部の多層遺跡	旧石器研究第７号	日本旧石器学会	5月	有
28	同上	同上	都城発掘調査部（藤原）研究員、庄田慎矢	日韓発掘調査交流に参加して	奈文研ニュースNo.44	奈良文化財研究所	24年3月	無
29	同上	同上	都城発掘調査部 考古第二研究室長、玉田芳英	河北省邢州窯出土唐三彩の調査	奈良文化財研究所紀要 2012	同上	24年6月	無
30	同上	同上	同上	中国河南省文物考古局との共同研究	同上	同上	同上	無
31	同上	同上	飛鳥資料館学芸室長・　加藤真二	中国細石刃文化の基礎的研究から	第14回北アジア調査研究報告会要旨集	北アジア調査研究報告会実行員会・東京大学	24年2月	無
32	14	藤原宮跡朝堂院地区(第169次)の発掘調査	考古第一研究室研究員　廣瀬　覚	藤原宮朝堂院朝庭の調査　　（飛鳥藤原169次）	奈文研ニュースNo.43	奈良文化財研究所	12月1日	無
33	同上	同上	遺構研究室研究員 高橋知奈津・考古第一研究室研究員 廣瀬　覚	朝堂院の調査－第169次	奈良文化財研究所紀要2012	同上	24年6月	無

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
34	15	甘樫丘東麓遺跡(第171次)の発掘調査	考古第三研究室長 清野孝之・考古第二研究室研究員 小田裕樹	甘樫丘東麓遺跡の調査　－第１７１次調査	同上	同上	同上	無
35	同上	同上	考古第二研究室研究員　小田裕樹	甘樫丘東麓遺跡の調査　（飛鳥藤原171次）	奈文研ニュースNo.44	同上	24年3月	無
36	17	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	考古第三研究室研究員　石田由紀子	第20次調査SD1901A(運河)出土瓦報告	奈良文化財研究所紀要2012	同上	24年6月	無
37	同上	同上	考古第二研究室特別研究員(AF) 高橋　　透	第23次調査SD2300出土土器報告(1)	同上	同上	同上	無
38	同上	同上	史料研究室主任研究員　山本崇・埋蔵文化財センター客員研究員　藤井裕之	藤原宮木簡の樹種	同上	同上	同上	無
39	同上	同上	考古第二研究室研究員　若杉智宏・遺構研究室研究員 番　光・環境考古学研究室 山崎　健・奈良教育大学教授 金原正明・古環境研究所　杉山真二	藤原宮朝堂院朝庭(第163次)、藤原京右京六条二・三坊(第167次)の自然科学分析	同上	同上	同上	無
40	同上	同上	考古第一研究室研究員 庄田慎矢	水落遺跡の珪藻分析報告－第165次(東区)	同上	同上	同上	無
41	同上	同上	考古第一研究室特別研究員 木村理恵	飛鳥藤原地域出土の木製食器	同上	同上	同上	無
42	20	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	景観研究室長　清水重敦	都市を文化的景観として見ること-佐渡相川、京都岡崎の調査から-	奈良文化財研究所紀要2011	同上	6月15日	無
43	同上	同上	研究員　惠谷浩子	文化的景観の持続可能性－生きた関係を継承するための整備と活用－	同上	同上	同上	無
44	同上	同上	特別研究員（アソシエイトフェロー）　松本将一郎	宇治の文化的景観における白川の茶業と家屋	同上	同上	同上	無
45	同上	同上	研究員　惠谷浩子	アメリカ合衆国における保全史の聖地	『遺跡学研究』第８号	日本遺跡学会	11月20日	無
46	同上	同上	特別研究員（アソシエイトフェロー）　松本将一郎	1960年代の景観論　再考	同上	同上	同上	無
47	同上	同上	景観研究室長　清水重敦	文化的景観における都市建築	『文化的景観研究集会（第３回）報告書』	奈良文化財研究所	12月16日	無
48	同上	同上	研究員　惠谷浩子	文化的景観とは	飛鳥資料館カタログ第26冊『飛鳥の考古学2011』	飛鳥資料館	24年1月20日	無
49	同上	同上	同上	奥飛鳥の文化的景観	同上	同上	同上	無
50	23	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	研究員　脇谷草一郎	史跡ガランドヤ古墳における水の挙動に関する調査研究２	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月15日	無
51	同上	同上	同上	千足古墳における水分移動解析	日本文化財科学会第28回大会発表予稿集	日本文化財科学会	6月11日	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（31件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	25	文化財の測量･探査等に関する研究	主任研究員　金田明大	胡桃館遺跡の遺跡探査	『胡桃館遺跡詳細分布調査報告書』	北秋田市教育委員会	4月	無
2	同上	同上	同上	第34次調査の地中レーダー探査（１）	『大内氏館跡12』	山口市教育委員会	4月	無
3	同上	同上	同上	古代日本の官衙・寺院遺跡探査の実践-奈良文化財研究所による近年のGPR探査-	『信学技報』Vol.111	電気情報通信学会	11月24日	有
4	同上	同上	同上	Organizing diverse and dispersed information on the endangered cultural properties by a voluntary initiative: consortium for the earthquake-damaged cultural heritage (CEDACH)	ISPRS SC Newsletter5 (1) 4-4	ISPRS	5月	有
5	同上	同上	同上	日本古代史における移動コスト分析のシミュレーション結果とGPSを活用した実地データの比較検討 -藤原仲麻呂の乱における東山道と田原道の比較実験から	地理情報システム学会大会発表資料集	地理情報システム学会	10月16日	有
6	26	年輪年代学研究	歴史研究室長　吉川 聡、前歴史研究室任期付研究員 谷本 啓、特別研究員　児島大輔	明日香村八釣の明神講関係資料調査	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月15日	無
7	同上	同上	客員研究員　伊東隆夫	カラー版 日本有用樹木誌	カラー版 日本有用樹木誌（共著）	海青社	7月10日	無
8	同上	同上	年代学研究室長　大河内隆之	年輪年代学的視点からみた與喜天満神社の神像群	特集陳列「初瀬にますは与喜の神垣」展図録	奈良国立博物館	7月16日	無
9	同上	同上	客員研究員　伊東隆夫	シルクロードと木材	環境と健康Vol.24No.3 Autumn2011	（公財）体質研究会・（公財）ひと・健康・未来研究財団	9月1日	無
10	同上	同上	特別研究員　児島大輔	北円堂の諸像	大橋一章・片岡直樹編『興福寺―美術史研究のあゆみ―』	里文出版	11月9日	無
11	同上	同上	客員研究員　　光谷拓実	年輪年代法と木質古文化財への応用	環境と健康Vol.24No.4 Winter2011	（公財）体質研究会・（公財）ひと・健康・未来研究財団	12月1日	無
12	同上	同上	客員研究員　藤井裕之	樹種同定	藤原宮木簡三	奈良文化財研究所	24年1月30日	無
13	同上	同上	客員研究員　光谷拓実、特別研究員　児島大輔	東大寺法華堂（正堂）ならびに八角二重壇の年輪年代調査	仏教芸術321	毎日新聞社	24年3月25日	有
14	同上	同上	年代学研究室長　大河内隆之、特別研究員　児島大輔	マイクロフォーカスX線CTを用いた木造神像彫刻の非破壊年輪年代調査（１）	埋蔵文化財ニュース147	奈良文化財研究所	24年3月25日	無
15	27	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財埋蔵文化財センター長　松井章	The Use of Livestock Carcasses in Japanese History: An Archaeological Perspective	Coexistence and Cultural Transmission in East Asia	LEFT2 COAST PRESS, INC.California	4月	無

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
16	同上	同上	研究員　山崎健、橋本裕子、客員研究員　茂原信生	京都大学大学院理学研究科自然人類学研究室所蔵の動物標本―とくに動物遺存体と動物化石について―	動物考古学28号	動物考古学研究会	5月1日	有
17	同上	同上	張穎、袁靖、黄蘊平、埋蔵文化財センター長　松井章、孫国平	田螺山遺跡2004年出土哺乳動物遺存体の初歩的分析	田螺山遺跡自然遺存総合研究　北京大学中国考古学研究中心、浙江省文物考古研究所編	文物出版社	5月	無
18	同上	同上	南川雅男、埋蔵文化財センター長　松井章、中村慎一、孫国平	人骨および動物骨のコラーゲン炭素窒素同位体組成より推測される食資源と家畜利用	同上	同上	同上	無
19	同上	同上	宮腰健司、研究員　山崎健、年代学研究室長　大河内隆之、原田幹	朝日遺跡から出土した石鏃の刺さったシカ腰椎について	研究紀要12	愛知県埋蔵文化財センター	5月31日	無
20	同上	同上	研究員　山崎健	藤原宮造営期の馬の骨に認められる骨病変	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月15日	無
21	同上	同上	同上	動物遺存体（朝堂院朝庭の調査―第163次）	同上	同上	同上	無
22	同上	同上	研究員　廣瀬覚、研究員　山崎健	その他（右京六条二・三坊の調査―第167次）	同上	同上	同上	無
23	同上	同上	同上	その他（水落遺跡の調査―第165次）	同上	同上	同上	無
24	同上	同上	研究員　山崎健	動物遺存体・植物遺存体（甘樫東麓遺跡の調査―第161次）	同上	同上	同上	無
25	同上	同上	研究員　山崎健、客員研究員　中村亜希子	法華寺旧境内の調査―第468次	同上	同上	同上	無
26	同上	同上	Habu, J., A. Matsui（埋蔵文化財センター長　松井章）, N. Yamamoto, T. Kannno	Shell midden archaeology in Japan : Aquatic food acquisition and long-term change in the Jomon culture	Quaternary International 239	ELSEVIER	7月	有
27	同上	同上	埋蔵文化財センター長　松井章	HERITAGE RESCUE IN THE WAKE OF THE GREAT EASTERN JAPAN EARTHQUAKE	The SAA Archaeological Record 11(4)	SOCIETY FOR AMERICAN ARCHAEOLOGY	9月1日	有
28	同上	同上	研究員　山崎健	池島・福万寺遺跡の炉跡から出土した魚類遺存体	池島・福万寺遺跡13	大阪府文化財センター	11月30日	無
29	同上	同上	同上	弥生時代の狩猟活動	考古学ジャーナル625	ニューサイエンス社	24年2月29日	無
30	同上	同上	同上	六反田南遺跡から出土した動物遺存体	六反田南遺跡	新潟県埋蔵文化財調査事業団	24年3月31日	無
31	同上	同上	研究員　山崎健、埋蔵文化財センター長　松井章	環境考古学10　魚類遺存体標本リスト	埋蔵文化財ニュース146	奈良文化財研究所	24年2月15日	無

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（5件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	22	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	研究員　田村朋美	鉄製遺物の腐食と埋蔵環境（1）	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	6月15日	無
2	同上	同上	保存修復研究室長　高妻洋成	平城宮跡の木簡出土深度の土壌調査	同上	同上	同上	無
3	同上	同上	同上	法隆寺所蔵古材調査２－金堂支輪板の顔料分析調査－	同上	同上	同上	無
4	同上	同上	都城発掘調査部主任研究員　降幡順子	特別史跡キトラ古墳出土遺物の保存処理と調査	同上	同上	同上	無
5	同上	同上	研究員　田村朋美	ガラスから見た古代の交易ルート－武寧王陵出土品と日本出土品の比較を中心に－	百済文化 第46輯	公州大学校附設百済文化研究所	24年2月29日	有

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（7件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	39	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	考古第一研究室主任研究員　降幡順子・飛鳥資料館特別研究員　辻本与志一、保存修復科学研究室研究員　脇谷草一郎・保存修復科学研究室室長　高妻洋成（以上、奈良文化財研究所）・早川泰弘、吉田直人、佐野千絵（以上、東京文化財研究所）、宇田川滋正、建石徹（以上、文化庁）	高松塚古墳壁画の材料調査－蛍光Ｘ線分析法による下地漆喰に関する調査（3）－	日本文化財化学会第28回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月11日	無
2	同上	同上	保存修復科学研究室室長　高妻洋成、考古第一研究室主任研究員　降幡順子・保存修復科学研究室　研究員　脇谷草一郎(以上、奈良文化財研究所)・佐野千絵（東京文化財研究所）・福永香（情報通信研究機構）・宇田川滋正・建石徹（以上、文化庁）	テラヘルツ分光イメージングによる高松塚古墳壁画の漆喰の状態調査	文化財保存修復学会第33回大会研究発表要旨集	一般社団法人文化財保存修復学会	6月4日	無
3	同上	同上	考古第二研究室研究員　若杉智宏	キトラ古墳石室内の調査（飛鳥藤原170次）	奈文研ニュース No.42	奈良文化財研究所	9月	無
4	同上	同上	同上	キトラ古墳の調査－飛鳥藤原第170次	奈良文化財研究所紀要2012	同上	24年6月	無
5	40	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	遺構研究室主任研究員 黒坂貴裕・考古第一研究室研究員 小田裕樹・考古第三研究室主任研究員 渡辺丈彦	檜隈寺周辺の調査 －第172次	同上	同上	同上	無
6	同上	同上	遺構研究室主任研究員　黒坂貴裕	檜隈寺の調査（飛鳥藤原172次）	奈文研ニュースNo.44	同上	24年3月	無

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
7	41	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区２号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力	同上	2010年度 都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）発掘調査・立会調査一覧	奈良文化財研究所紀要2012	同上	24年6月	無

○地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（6件）

	研No.	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	80	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	都城発掘調査部（平城）主任研究員、森川　実	平城京右京三条一坊一坪の調査－第484次－	奈良文化財研究所紀要 2012	奈良文化財研究所	24年6月	無
2	81	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	遺構調査室主任研究員　黒坂貴弘	2010年度 都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）小規模調査等の概要	同上	同上	同上	無
3	同上	同上	考古第二研究室研究員　若杉智宏	東方官衙北地区の調査第168-1次調査	同上	同上	同上	無
4	同上	同上	考古第三研究室研究員　森先一貴・考古第二研究室長　玉田芳英・考古第一研究室研究員 廣瀬覚	東面中門・大垣の調査第168-2次調査	同上	同上	同上	無
5	同上	同上	考古第三研究室研究員　森先一貴・考古第一研究室特別研究員 木村理恵	東方官衙北地区の調査第168-5・6次調査	同上	同上	同上	無
6	同上	同上	考古第一研究室特別研究員 木村理恵・考古第一研究室研究員 庄田慎矢	左京二条二坊・東二坊大路の調査第168-8次調査	同上	同上	同上	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
「ＭＵＳＥＵＭ」６３１～６３６号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,787件 (631～633号 各462件、634～636号 各467件)
「東京国立博物館紀要」４７号	700	美術館・博物館・大学等　342件
「東京国立博物館文化財修理報告」ＸⅡ	800	美術館・博物館・大学等　 91件
「法隆寺献納宝物特別調査概報」ＸＸＸⅡ　聖徳太子絵伝５	600	美術館・博物館・大学等　181件

○展覧会図録

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	「手塚治虫のブッダ展」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	「写楽」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	「空海と密教美術」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	「法然と親鸞ゆかりの名宝」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	「孫文と梅屋庄吉 100年前の中国と日本」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	「北京故宮博物院200選」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	「ボストン美術館 日本美術の至宝」	―	美術館・博物館・大学等　112件
特集陳列	「天翔ける龍」	2000	美術館・博物館・大学等　16件

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
研究紀要「学叢」第33号	780	美術館・博物館・大学等
文化財保存修理所　修理報告書8	450	大学・図書館・研究機関等

○展覧会図録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展覧会「法然－生涯と美術」	―	美術館・博物館・大学等
特別展観「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」	―	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の衛星文庫コレクション－」	―	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「中国近代絵画と日本」	―	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物

23年度は実績なし。

○名品図録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
なら仏像館名品図録（改訂版）	5,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展　天竺へ～三蔵法師3万キロの旅	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
特別陳列　初瀬にますは与喜の神垣	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
第６３回正倉院展	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
The 63rd Annual Exhibiton of Shoso-in Treasures	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
特別陳列　おん祭と春日信仰の美術	-	美術館・博物館・大学・研究機関等

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館紀要「東風西声」　第7号	1,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
博物館科学の設備パンフレット	2,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書［増刷］	2,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（研修編）	300部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（報告会・シンポジウム編）	300部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「市民と共に　ミュージアムIPM」事業報告書（総集編）	1,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
本岳寺釈迦誕生図録	1,000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
金子量重寄贈・論考　アジアの民族造形	450部	美術館・博物館・大学・研究機関等
「Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析」	500部	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録

		発行部数	配　　布　　先
特別展	「黄檗」	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「よみがえる国宝」	5,700部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「草原の王朝　契丹－美しき3人のプリンセス」	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「細川家の至宝」	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
海外展	「日本　仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
トピック展示	「日本とタイ－ふたつの国の巧と美」	2,500部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「彫漆　漆に刻む文様の美」	1,200部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「館蔵水墨画名品展」	1,400部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「琉球と袋中上人」	2000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「九州最古の狩人とその時代」	2000部	美術館・博物館・大学・研究機関等

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
東京文化財研究所年報	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東京文化財研究所概要	5,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュース 第45～48号	各5,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュースダイジェスト（東文研ニュース英語版）第10～11号	各3,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
平成22年版　日本美術年鑑	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
美術研究 404～406号	各400	博物館・美術館・大学・研究機関等
無形文化遺産研究　第6号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
第6回無形民俗文化財研究協議会報告書	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
保存科学 51号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等
第34回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（日本語版・英語版）	各300	参加者、大学、研究機関、博物館・美術館等
平等院鳳凰堂仏後壁調査報告書	400	博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
「文化財の保存環境」報告書	500	博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
映像・音声メディアの保存と修復	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書2011年度	300	研究集会参加者、関係各所
日韓共同研究報告書2011	100	研究集会参加者、関係各所
建築文化財における塗装材料の調査と修理	500	研究集会参加者、関係各所
「コンクリート構造物の保存と修復」（英語版）	1,000	研究集会参加者、関係各所
アジア文化遺産国際会議報告書　西アジアの文化遺産－その保護の現状と課題－（英語・日本語）	各200	会議出席者・関係機関等
平成22年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦ナン・マドール遺跡報告書（英語）	570	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦ナン・マドール遺跡報告書（日本語）	1,200	関係機関等
2011年度敦煌壁画の保護に関する日中共同研究報告書	100	関係機関等
アジナ・テパ仏教寺院考古学調査報告（英語版）	500	関係機関等
タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復　2010（第8次～第10次ミッション）	450	関係機関等
アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業　第2窟、9窟壁画のデジタルドキュメンテーション	400	関係機関等
Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2009-201　-9th&10th Mission-	500	関係機関等
バーミヤン遺跡資料集１　バーミヤーン谷中心部の文化的景観：1970年代	300	関係機関等
タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイブ　カフカハ遺跡群の図面と出土品（土器と木彫）	300	関係機関等
「海外の日本美術品の修復」リーフレット	5,000	美術館・関係機関等
ミクロネシア　ナン・マドール遺跡紹介パンフレット（日本語版）	500	関係機関等
ミクロネシア　ナン・マドール遺跡紹介パンフレット（英語）	1,000	関係機関等
文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産を危機から救え」予稿集	350	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　アルメニア共和国調査報告書（日本語）	1,200	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　アルメニア共和国調査報告書（英語）	95	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦　ナン・マドール遺跡現状調査報告書（日本語）	1,200	関係機関等
平成22年度協力相手国調査　ミクロネシア連邦　ナン・マドール遺跡現状調査報告書（英語）	70	関係機関等
東南アジア諸国文化遺産保護修復協力　平成23年度成果報告書	70	関係機関等
文化遺産国際協力コンソーシアムパンフレット（日本語・英語）	各1,500	関係機関等
文化遺産国際協力事業紹介2010（英語・日本語）（再版）	各1,000	関係機関等
文化遺産国際協力事業紹介2011（英語・日本語）	各1,500	関係機関等
文化遺産国際協力情報資源共有化に関する報告書	500	関係機関等
アルメニア歴史博物館所蔵の考古金属資料の保存修復・調査研究事業およびそれに係わる人材育成・技術移転のための協力 平成23年度業務報告書	50	関係機関等
アルメニア歴史博物館における考古青銅遺物保存修復ワークショップ	50	関係機関等
キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業　平成23年度業務報告書	50	関係機関等
キルギス共和国および中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業　平成23年度講義資料集	50	関係機関等
平成23年度活動報告：モンゴル教育・文化・科学省及びモンゴル国立文化遺産センターとの拠点交流事業	100	関係機関等
協力相手国ミャンマー報告書冊子（日本語・英語）	各50	関係機関等
ブータン　文化遺産協力相手国調査報告書（英文）（再版）	200	関係機関等
ベトナム北部出土建築遺物資料調査台帳印刷　報告書	20	関係機関等
文化遺産国際協力事業　アルメニア講義資料集	50	関係機関等
海外における日本の装潢修理技術利用に関する研究会	100	関係機関等
イリーナ・ボコバ　ユネスコ事務局長講演記録	520	関係機関等
アユタヤ歴史公園における文化財の洪水による被害に関する調査報告書（日本語・英語）	各150	関係機関等
パダン復興支援報告書（日本語・インドネシア語）	各200	関係機関等
パダン歴史地区文化遺産復興支援報告書	170	関係機関等
国際資料室蔵書目録	100	関係機関等
文化財保護関連法令シリーズ　イタリア	300	関係機関等

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
文化財保護関連法令シリーズ　エジプト	300	関係機関等
文化財保護関連法令シリーズ　ベトナム	50	関係機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈良文化財研究所紀要2011	3000	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所概要2011	3000	大学、研究機関、図書館等
奈文研ニュースNo.41～44	各3000	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所リーフレット	10,000	来訪者等
埋蔵文化財ニュースNo.146～149	146：2,500 147：2,500 148：2,500 149：2,500	教育委員会、図書館、博物館等
『星々と日月の考古学』飛鳥資料館図録第54冊	1,800	館内観覧者
『鋳造技術の考古学―東アジアにひろがる鋳物師のわざ―』飛鳥資料館カタログ第25冊	1,600	館内観覧者
『飛鳥遺珍―のこされた至宝たち―』飛鳥資料館図録第55冊	1,800	館内観覧者
『飛鳥の考古学2011』飛鳥資料館カタログ第26冊	1,600	館内観覧者
『奈良県橿原市内膳北八木遺跡・大阪府堺市大井遺跡出土冶金関連遺物の調査』飛鳥資料館研究図録第14冊	600	大学、研究機関等
『奈良県明日香村古宮遺跡出土金銅製四鐶壺の調査』飛鳥資料館研究図録第15冊	500	大学、研究機関等
西トップ遺跡調査報告書　英語版『Western Prasat Top Site Archaeological Survey : Report on Joint Research for the Protection of the Angkor Historic Site』	2,000	大学、研究機関等
ニュースレター　第4号、5号	1,000	関係機関等
『地下の正倉院展－コトバと木簡』	10,000	館内観覧者
『発掘速報展 平城2011／文化財レスキュー展』	10,000	館内観覧者
『地域における遺跡の総合的マネジメント』平成22年度遺跡整備・活用研究集会（第5回）報告書	1,000	大学、研究機関等
『鎌倉時代の庭園 －京と東国－』平成23年度庭園の歴史に関する研究会報告書	300	大学、研究機関等
『文化的景観研究集会（第３回）報告書　文化的景観の持続可能性- 生きた関係を継承するための整備と活用- 』	1,000	大学、研究機関等
重要文化財建造物現状変更説明1953～1955（本文編）	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明1953～1955（図版編）	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
木奥家所蔵大工道具調査報告書	800	大学、研究機関等
国宝・重要文化財写真乾板目録Ⅴ	500	大学、研究機関等
特別史跡藤原宮跡(英語版)	2,000	館内観覧者
特別史跡藤原宮跡(韓国語版)	2,300	館内観覧者
特別史跡藤原宮跡(中国語版)	2,300	館内観覧者
『四面廂建物を考える』第15回　古代官衙・集落研究会研究報告資料	600	大学、研究機関等
奈良文化財研究所研究報告第６冊　官衙・集落と鉄	600	大学、研究機関等
平城宮発掘調査出土木簡概報（四十一）	1,000	大学、研究機関等
遼寧省朝陽地区隋唐墓の整理と研究	600	大学、研究機関等
鞏義白河窯の考古新発見（日本語版）	800	大学、研究機関等
東アジア金属工芸史研究15	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
東アジア金属工芸史研究14	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
ベトナムフォックティック村集落調査報告書（英文）	700	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所史料88冊　藤原宮木簡　三	700	大学、研究機関、教育委員会、図書館等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
アジア太平洋無形文化遺産研究センターパンフレット（英語）	300	来訪者用

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合計	76	25	15	4	1	5	51	17	34
科学研究費補助金	58	16	11	2	0	3	42	13	29
学術研究助成基金助成金	18	9	4	2	1	2	9	4	5

※平成 22 年度までの科学研究費補助金事業は、平成 23 年度より「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」による科学研究費助成事業として取り扱うこととなった。
※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、平成 23 年度については科学研究費助成事業の申請を行っていない。
※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。(特別研究員奨励費、奨励研究を除く)

【東京国立博物館】

1) 科学研究費補助金　11件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究	神庭　信幸	学芸研究部保存修復課長	基盤研究（S）	4,680
2	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	島谷　弘幸	副館長	基盤研究（A）	6,240
3	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	田沢　裕賀	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長	基盤研究（A）	6,760
4	文化財保護の歴史に関する基礎的研究	高橋　裕次	学芸企画部博物館情報課長	基盤研究（B）	3,900
5	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究	松本　伸之	学芸企画部長	基盤研究（B）	12,220
6	中国書画の表装に関する基礎的研究	富田　淳	学芸研究部列品管理課長	基盤研究（C）	1,040
7	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究	神辺　知加	学芸企画部博物館教育課教育講座室主任研究員	基盤研究（C）	650
8	宮廷工芸に関する物質文化的研究―生活感のある工芸史の構築をめざして―	猪熊　兼樹	学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室主任研究員	基盤研究（C）	2,080
9	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員	若手研究（A）	2,470
10	絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究	土屋　貴裕	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究（A）	4,810
11	東京国立博物館所蔵国際交流史料データベース	高梨　真行	学芸企画部博物館教育課ボランティア室主任研究員	研究成果公開促進費（研究成果データベース）	2,100

2) 学術研究助成基金助成金　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	古筆切紙背の史料学的研究	田良島　哲	学芸研究部調査研究課長	基盤研究（C）	2,080	交付決定額：5,070千円（平成23～25年度）
2	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究	古谷　毅	学芸研究部列品管理課主任研究員	基盤研究（C）	1,170	交付決定額：4,680千円（平成23～25年度）
3	狩野晴川院養信による寺社宝物摸本の基礎的研究	安藤　香織	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	2,340	交付決定額：3,250千円（平成23～24年度）
4	黒曜石の獲得と消費からみた完新世初期人類社会の形成過程	及川　穣	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,170	交付決定額：1,820千円（平成23～24年度）

【京都国立博物館】

1) 科学研究費補助金　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木　丞平	館長	基盤研究（B）	9,100
2	内外伝世品の調査ならびに比較に基づく京都製蒔絵の歴史的研究	永島　明子	学芸部企画室主任研究員	若手研究（A）	2,340

2) 学術研究助成基金助成金　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	「鎖国」下の日本における清朝陶磁の受容とその影響に関する調査研究	尾野　善裕	学芸部工芸室長	基盤研究（C）	1,040	交付決定額：4,160千円（平成23～26年度）
2	足利尊氏願経の原本調査を中心とした中世一切経の資料的研究	羽田　聡	学芸部企画室研究員	若手研究（B）	650	交付決定額：1,300千円（平成23～24年度）

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金　　0件

2）学術研究助成基金助成金　　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	文化財アーカイブズの形成に関する研究－近代文化財修理記録のメタデータ分析を中心に	宮崎　幹子	学芸部資料室長	若手研究（Ｂ）	1,430	交付決定額：4,896千円（平成23～24年度）

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金　　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設	伊藤　嘉章	学芸部付	基盤研究（Ａ）一般	11,700
2	Ｘ線ＣＴスキャナーによる中国古代青銅器の構造技法解析	今津　節生	学芸部博物館科学課環境保全室長	基盤研究（Ｂ）一般	4,810
3	アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－	小林　公治	学芸部文化財課資料管理室長	基盤研究（Ｃ）一般	910

2）学術研究助成基金助成金　　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考（千円）
1	中性大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究	藤田　励夫	博物館科学課保存修復室長	基盤研究（Ｃ）一般	2,210	交付決定額：5,200（平成23～25年度）
2	デジタル計測技術を使用した文化財の予防保存	今津　節生	学芸部博物館科学課環境保全室長	挑戦的萌芽研究	2,470	交付決定額：3,770（平成23～24年度）

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金　13件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発－美術史家の眼を引継ぐ	田中　　淳	企画情報部長	基盤研究（Ｂ）	4,290
2	文化財修復材料の劣化と文化財に及ぼす影響に関する基礎的研究	早川　典子	保存修復科学センター主任研究員	基盤研究（Ｂ）	1,430
3	敦煌芸術の科学的復原研究―壁画材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチ	岡田　　健	保存修復科学センター副センター長	基盤研究（Ｂ）	5,720
4	文化財展示収蔵施設の実状に即したカビ調査技術と制御に関する研究	木川　りか	保存修復科学センター生物科学研究室長	基盤研究（Ｂ）	6,760
5	文化財の被災履歴データベースによる脆弱性評価と保存計画策定への活用に関する研究	二神　葉子	企画情報部情報システム研究室長	基盤研究（Ｃ）	650
6	日本絵画材料の時代的変遷に関する調査研究	早川　泰弘	保存修復科学センター分析科学研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,300
7	大村西崖の研究	塩谷　　純	企画情報部文化形成研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,950
8	移動が困難な文化財のためのエックス線を用いた非破壊調査手法の構築	犬塚　将英	保存修復科学センター主任研究員	若手研究（Ａ）	2,080
9	染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究－技法書・絵画資料・実作品の分析を通して	菊池　理予	無形文化遺産部研究員	若手研究（Ｂ）	1,430
10	亜酸化窒素発生における土壌糸状菌の生態学的役割の解明	佐藤　嘉則	保存修復科学センター研究員	若手研究（Ｂ）	1,170
11	寺院造営組織からみた平安前期彫刻の研究	皿井　　舞	企画情報部研究員	若手研究（Ｂ）	1,170
12	アルメニアの完新世初頭における先史文化の考古学研究	有村　　誠	文化遺産国際協力センター特別研究員	若手研究（Ｂ）	1,170
13	カンボジア北部山岳地域クメール寺院のインベントリー作成	佐藤　　桂	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,495

2）学術研究助成基金助成金　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	建築文化財における伝統的な塗装彩色材料の再評価と劣化防止に関する研究	北野　信彦	保存修復科学センター伝統技術研究室長	基盤研究（Ｃ）	2,600	交付決定額：5,330（平成23～26年度）
2	政治的危機に瀕する『越境文化遺産』の保護と平和活用－国際政治・公共政策研究の貢献	原本　知実	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	基盤研究（Ｃ）	2,080	交付決定額：5,330（平成23～25年度）
3	科学的原理に基づいたモノクローム資料写真からの色材分析	吉田　直人	保存修復科学センター主任研究員	挑戦的萌芽研究	2,210	交付決定額：2,990（平成23～24年度）
4	イラン、マルヴ、ダシュト盆地における新石器化の考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	910	交付決定額：1,690（平成23～24年度）

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金　　29件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡など出土文字資料釈読支援システムの高次化と綜合的研究拠点データベースの構築	渡邉　晃宏	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究（Ｓ）	23,010
2	ミリ波およびテラヘルツ波を用いた文化財の新たな非破壊診断技術の開発研究	高妻　洋成	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長	基盤研究（Ａ）	9,880
3	東アジアにおける家畜の伝播とその展開に関する動物考古学的研究	松井　章	埋蔵文化財センター長	基盤研究（Ａ）	9,620
4	南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（Ｂ）	3,770
5	文化財および美術工芸材料のナノ構造・物性の解明	北田　正弘	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	4,810
6	中国細石刃文化の基礎的研究-河南省霊井遺跡石器群の分析を中心として-	加藤　真二	企画調整部展示企画室長	基盤研究（Ｂ）海外	5,200
7	青銅製祭器の生産と流通からみた弥生時代の社会変化の研究	難波　洋三	企画調整部長	基盤研究（Ｃ）	780
8	古代の鉛調整加工技術に関する考古学的研究	小池　伸彦	都城発掘調査部考古第一研究室長	基盤研究（Ｃ）	650
9	奈良県「飛鳥・藤原」地域における「方格地割」創出過程の考古学的研究	黒崎　直	文化遺産部客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,040
10	古代律令国家の官衙と寺院の占地に関する比較研究	小澤　毅	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	基盤研究（Ｃ）	650
11	発掘調査成果の総合的な機械可読化に関する研究	森本　晋	企画調整部文化財情報研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,300
12	古代ガラス・釉薬の物性から探る製作技術に関する科学的研究	降幡　順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,430
13	近世建築に使われた木曽ヒノキの流通に関する年輪年代学的研究	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,040
14	東北アジアにおける金属器の拡散と在地社会の変化に関する考古学的研究	庄田　慎矢	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（Ａ）	1,430
15	古代中世東アジアにおける八角塔・八角堂の構造と意匠に関する研究	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	若手研究（Ｂ）	650
16	オセアニア島嶼環境へのラピタ人の適応戦略を探る先史学的研究	石村　智	企画調整部国際遺跡研究室研究員	若手研究（Ｂ）	1,300
17	古代日韓における土木技術の系譜にかんする考古学的研究	青木　敬	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780
18	東アジアにおける失蝋法の出現と展開に関する考古学的研究	丹羽　崇史	企画調整部展示企画室研究員	若手研究（Ｂ）	1,040
19	古代東アジアにおける都城と葬送地に関する考古学的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650
20	校倉造りの歴史的変遷と地域特性に関する研究	黒坂　貴裕	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,040
21	復元設計を方法とする東アジア古代建築の空間及び造形原理の解明	清水　重敦	文化遺産部景観研究室長	若手研究（Ｂ）	910
22	中世日本と中国における木造建築の架構システムに関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ｂ）	910
23	土質遺構保存のための基礎的研究-動水勾配を利用した塩類析出抑制法の開発-	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650
24	東アジアにおけるインド・パシフィックビーズの材質と流通に関する科学的研究	田村　朋美	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780
25	令前木簡と古代文書の機能論的検討による日本における古代文書行政成立史の研究	山本　崇	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ｂ）	910
26	九州における更新世末の移動・居住システムの変遷過程に関する研究	芝　康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650
27	奈良時代の中央と地方における建築技術の研究	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650
28	近世建造物の年代測定を目指したツガ年輪パターンの拡充と産地推定	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（Ｂ）	650
29	絹文化財の簡易的な劣化指標の作成	赤田　昌倫	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室特別研究員（AF）	若手研究（Ｂ）	520

2）学術研究助成基金助成金　　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定時の当年度予算(千円)	備考
1	中国における木質文化財の用材観	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	2,990	交付決定額：5,200千円（平成23～25年度）
2	木彫仏像を中心とした日本彫刻史研究における年代決定法の調査・研究	児島　大輔	埋蔵文化財センター年代学研究室特別研究員（AF）	若手研究（Ｂ）	1,820	交付決定額：4,420千円（平成23～26年度）
3	GT-Map等時空間解析システムを利用した木簡等出土文字資料分析の基礎的研究	馬場　基	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,040	交付決定額：2,340千円（平成23～25年度）
4	三次元計測による飛鳥時代の石工技術の復元的研究	廣瀬　覚	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（Ｂ）	1,040	交付決定額：3,770千円（平成23～26年度）
5	古代における骨角製品の動物考古学的研究	丸山　真史	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（Ｂ）	1,950	交付決定額：4,290千円（平成23～25年度）

c-⑧ 客員研究員一覧

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
123人	34 人	24人	5人	5人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	89 人	56人		33人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　24人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（財団法人根津美術館学芸部長）	当館所蔵の絵画に関する研究
2	岩崎　均史（たばこと塩の博物館主席学芸員）	当館所蔵の大小絵暦に関する研究
3	松田　清（京都外国語大学専任教員）	当館所蔵の江戸幕府旧蔵の洋書、シーボルト献納本などの古洋書に関する研究
4	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
5	東野　治之（奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
6	田辺　龍太（財団法人切手の博物館研究員）	当館所蔵の切手に関する調査研究
7	水上　嘉代子（財団法人遠山記念館学芸員）	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
8	小笠原　小枝	当館所蔵のインド更紗に関する研究
9	大脇　　潔（近畿大学文芸学部教授）	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
10	金子　浩昌（日本考古学協会会員）	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
11	宮下　佐江子（古代オリエント博物館学芸課長）	西アジア古代ガラスの研究
12	丸山　清志（城西国際大学物質文化研究センター研究員・助手）	東洋民族オセアニア採集品の調査研究
13	湊　信幸（元副館長）	当館所蔵の絵画に関する研究
14	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
15	西岡　康宏（元副館長）	当館所蔵の東洋漆工に関する研究
16	小野　博（美術刀剣研磨技師）	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策
17	大橋　美織（静嘉堂文庫美術館学芸員）	当館所蔵の近世絵画に関する研究
18	若杉　準治（前京都国立博物館）	法隆寺献納宝物を中心とした館蔵中世絵画の研究
19	保坂　裕興（学習院大学大学院人文科学研究科教授）	館史資料アーカイブズ学的研究
20	田中　淑江（共立女子大学家政学部准教授）	当館所蔵の江戸時代を中心とする小袖に関する研究
21	佐々木　利和（北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授）	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
22	望月　幹夫（元東京国立博物館）	当館所蔵の考古資料（原史・有史）に関する調査研究
23	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	東京国立博物館所蔵油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
24	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）	考古出土遺物に関する保存科学的研究

【京都国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	奥平　俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	京狩野に関する調査研究
2	山田　奨治（国際日本文化研究センター研究部准教授）	文化財情報に関する調査研究
3	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
4	狩野　博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
5	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	南山城の彫刻に関する調査研究

【奈良国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水　昭博（帝塚山大学人文学部准教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所准教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理

【九州国立博物館】　0人

【東京文化財研究所】　56人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	吉田千鶴子（東京藝術大学非常勤講師）	近代美術資料群の調査・研究
2	相澤正彦（成城大学文芸学部芸術学科教授）	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言
3	森下正昭（立命館アジア太平洋大学学長室IR AACSBプロジェクトコーディネーター）	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言
4	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究
5	中村佳史（国立情報学研究所研究員）	研究所アーカイブにおける情報の横断検索の構築のための調査研究と研究助言
6	丸川雄三（国立情報学研究所特任准教授）	近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究
7	中野照男（大東文化大学非常勤講師）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
8	永井美和子（早稲田大学非常勤嘱託（演劇博物館））	無形文化財の記録作成
9	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
10	齋藤裕嗣	無形民俗文化財の調査研究
11	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	無形文化財工芸技術（金工分野）の調査研究
12	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財工芸技術（陶芸分野）の調査研究
13	山崎　剛（金沢美十工芸大学准教授）	無形文化財工芸技術（漆工分野）の調査研究
14	俵木　悟（成城大学文学部准教授）	無形民俗文化財の調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
15	松山直子(アジア太平洋無形文化遺産研究センターアソシエイトフェロー)	無形文化遺産分野における国際研究交流
16	三浦定俊（公益財団法人文化財虫害研究所理事長）	光学的方法による文化財の技法材料に関する研究
17	藤井義久（京都大学農学部准教授）	文化財の生物劣化対策の研究
18	呂　俊民	文化財公開施設の室内空気汚染と空気清浄化に関する研究
19	三村　衛（京都大学防災研究所准教授）	古墳墳丘部の地盤工学的調査・研究
20	白石靖幸(北九州市立大学国際環境工学部環境空間デザイン学科准教授)	文化財保存環境における環境制御および環境解析に関する研究
21	小椋大輔（京都大学大学院工学研究科助教）	文化財保存環境における環境制御および環境解析に関する研究
22	小峰幸夫（(財)文化財虫害研究所研究員）	文化財の生物劣化対策の研究
23	北原博幸（トータルシステム研究所）	文化財保存環境における環境制御および環境解析に関する研究
24	高見雅三（北海道立総合研究機構）	文化財保存環境における劣化のメカニズムの解明および環境解析に関する研究
25	間渕　創（三重県立博物館）	文化財展示収蔵施設における浮遊菌調査手法の改良および自然共生型博物館における微生物管理のあり方についての研究
26	板垣義郎（(株)ＡＣＭ）	修復材料に関する調査・研究
27	舘川　修	伝統材料に関する調査研究
28	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
29	長島宏行（(財)日本航空協会）	近代の文化遺産の保存修復、特に航空機保存に関する調査・研究
30	小堀信幸（(財)船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
31	安部倫子（ＳＤラボラトリー）	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
32	本多貴之	文化財の伝統的修復に関する調査研究
33	大林賢太郎（京都造形芸術大学歴史遺産学科準教授、京都造形芸術大学日本庭園・歴史研究センター歴史遺産研究部門長）	修復材料に関する調査研究
34	中條利一郎（帝京科学大学名誉教授）	修復材料に関する調査研究
35	大河原典子	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
36	山下好彦（修復家）	伝統的修復に関する調査研究
37	川口　孝（修復家）	修復材料に関する調査研究
38	田畔徳一（修復家）	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
39	今井健一郎	国内外の文化財保護法を中心とした文化財保護法についての調査研究
40	鋒井修一 （京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授）	タイ・スコータイ遺跡スリチュム寺院において、大仏の表面に生物を発生しにくくさせる環境条件に関する研究
41	柏谷博之 （国立科学博物館名誉研究員）	石造文化財の劣化と保存に対する植物の関与についての調査研究
42	津村（高林）弘実（京都市立芸術大学）	壁画に見られる「劣化」現象に焦点をあて、莫高窟壁画の材料と技法の調査研究
43	前田耕作（和光大学名誉教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
44	谷口陽子 （筑波大学大学院人文社会学研究科歴史・人類　助教）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
45	津村宏臣 （同志社大学文化情報学部文化情報学科　准教授）	文化財保存修復国際情報のデータベース化に関する研究
46	佐藤　桂（早稲田大学助教）	文化財国際コンソーシアム事業」における文化遺産情報共有化に関する研究
47	松田泰典(国際協力機構大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト･専門家、東京藝術大学･東洋美術学校非常勤講師)	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」人材育成と技術移転事業における研究協力
48	伏屋智美	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズⅠ)」国内支援業務における研究協力
49	末森　薫（国際協力機構　専門家）	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズⅠ)」国内支援業務における研究協力
50	藤澤　明	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズⅠ)」国内支援業務における研究協力
51	渡邉真樹子	敦煌莫高窟壁画の彩色技法・材料に関する包括的研究
52	山藤正敏（金沢大学国際文化資源学研究センター客員研究員）	文化遺産国際協力拠点交流事業の推進に関する業務における研究協力
53	渡抜由季	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
54	秋枝（内藤）ユミイザベル	文化財の保護と制度や施策の国際動向および国際協力等の情報を収集・分析・活用するための調査・研究
55	後藤多聞（公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館理事）	「文化財国際コンソーシアム事業」における文化遺産国際協力に関する研究
56	岡村知明	文化財建造物の修復計画の立案及び海外での人材育成のための調査・研究

【奈良文化財研究所】　33人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	加藤　優（徳島文理大学文学部教授）	寺院史、古文献学の研究
2	宮城　俊作（奈良女子大学生活環境学部教授）	ランドスケープデザイン及び都史デザインに関する調査研究
3	小浦　久子(大阪大学大学院工学研究科准教授)	都市計画、環境デザインの研究
4	黒崎　直（元富山大学人文学部人文学科教授）	日本考古学（弥生時代～古代・中世）の研究
5	EDWARDS Walter Drew(元天理大学国際文化学部教授)	考古学、文化人類学の研究
6	巽　淳一郎（京都橘大学文学部文化財学科教授）	歴史考古学の研究
7	松村　恵司（元文化庁文化財部文化財監査官）	歴史時代金属器及び古代都城遺跡、寺院の研究
8	西口　壽生(元奈良文化財研究所都城発掘調査部考古第二研究室長)	歴史時代土器及び古代都城遺跡、寺院の研究
9	市　大樹（大阪大学大学院文学研究科准教授）	木簡及び都城の研究ならびに日本古代地方支配の研究
10	肥塚　隆保（元奈良文化財研究所副所長）	文化財科学、保存修復科学の研究
11	山中　敏史（元奈良文化財研究所文化遺産部長）	遺跡及びその調査技術の研究
12	丸山　真史	動物考古学に関する調査研究
13	千田　剛道（元奈良文化財研究所企画調整部上席研究員）	遺物及びその調査技術、文化財情報に関する調査研究
14	小林　謙一（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所研修事業部長）	遺物及びその調査技術、文化財情報に関する調査研究
15	増井　正哉（奈良女子大学生活環境学部教授）	建築史、保存修復計画、地域計画に関する調査研究
16	MARES Emmanuel Bernard（元（株）京都通信社編集者	日本文学・日本庭園・日本建築とその文化に関する研究
17	中村亜希子（元奈良文化財研究所任期付研究員）	中国考古学の研究
18	渡辺　伸行（元神戸市埋蔵文化財センター所長）	日本考古学（弥生時代～古代）の研究
19	藤沼　邦彦（元弘前大学教授）	縄文文化の研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
20	北田　正弘（元（独）物質・材料研究機構特別研究員）	金属材料工学、文化財科学の研究
21	佐藤　昌憲（元京都工芸繊維大学名誉教授）	文化財科学、分析化学の研究
22	秦　小麗（カナダロイヤルオンタリオ博物館共同研究員）	考古学、先史学の研究
23	芹原　信生（元京都大学霊長類研究所教授）	自然人類学、動物考古学の研究
24	大江　文雄（愛知県環境審議会専門調査委員）	古生物学（魚類系統進化）の研究
25	菊地　大樹（元奈良文化財研究所任期付研究員）	中国考古学、動物考古学の研究
26	光谷　拓実（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究推進戦略センター客員教授）	年輪年代学及び木材解剖学についての調査研究
27	伊東　隆夫（南京林業大学（中国）特別招聘教授）	木材組織学の研究
28	藤井　裕之	年輪年代学の研究
29	西村　康（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査及び測量の調査研究
30	狭川　真一（財団法人元興寺文化財研究所研究部長）	遺跡及びその調査技術の研究
31	西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門委員）	遺跡探査の研究
32	安田　龍太郎（元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）	遺跡・遺物とその調査技術の研究
33	百橋　明穂（神戸大学大学院人文学研究科教授）	日本美術史の研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成24年3月末日現在

	H19	H20	H21	H22	H23
国立博物館計	－	－	－	9,202,862	6,480,930
東京国立博物館	5,504,468	5,211,261	5,687,673	4,971,306	2,772,633
京都国立博物館	－ (参考:733,885)	－ (参考:1,409,634)	－ (参考:848,486)	2,077,562 (参考:805,935)	1,835,640
奈良国立博物館	－ (参考:1,402,834)	－ (参考:1,230,774)	639,030 (参考:2,630,035)	769,293 (参考:3,121,270)	722,249
九州国立博物館	1,164,425	1,480,341	1,956,287	1,384,701	1,150,408
文化財研究所計	－	－	1,988,486	2,130,786	1,771,695
東京文化財研究所	1,526,409	1,405,278	1,417,203	1,489,091	1,314,541
奈良文化財研究所	－ (参考:923,466)	－ (参考:701,711)	571,283 (参考:1,030,905)	641,695 (参考:4,977,076)	457,154
アジア太平洋無形文化遺産研究センター					1,838 (H23.12.16サイト開設)
機構本部	190,624	228,029	293,317	270,913	208,982
e国宝	473,006	383,864	630,399	659,056	1,139,318

※アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
※過去の実績においてユーザーセッション数未集計の場合、”－”を記している。その際の括弧内の参考値は、当時の実績評価で使用していた単位でのアクセス件数（京都国立博物館：トップページビュー数、奈良国立博物館・奈良文化財研究所：ページビュー数）である。

附属資料

平成 23 年度平常展・特別展アンケート結果

＜平常展＞

１．東京国立博物館総合文化展
２．奈良国立博物館名品展
３．九州国立博物館文化交流展

＜特別展＞

東京国立博物館

４．特別展「写楽」
５．特別展「手塚治虫のブッダ展」
６．特別展「空海と密教美術」
７．特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」
８．特別展「北京故宮博物院２００選」
９．特別展「孫文と梅屋庄吉　１００年前の中国と日本」

京都国立博物館

１０．特別展覧会「法然　生涯と美術」
１１．特別展観「百獣の楽園　―美術にすむ動物たち―」
１２．特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」
１３．特別展覧会「中国近代絵画と日本」

奈良国立博物館

１４．特別展「誕生！中国文明」
１５．特別展「天竺へ　三蔵法師３万キロの旅」
１６．特別展「第 63 回正倉院展」

九州国立博物館

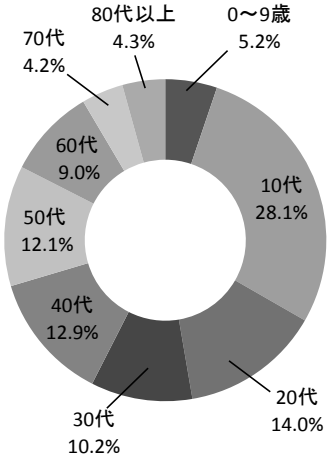
１７．特別展「黄檗―OBAKU」
１８．特別展「よみがえる国宝 － 守り伝える日本の美」
１９．特別展「草原の王朝　契丹－美しき 3 人のプリンセス」
２０．特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」

東京国立博物館

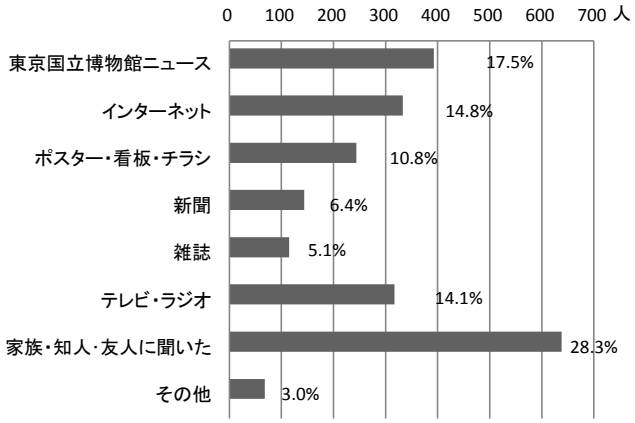
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：平成２３年４月１日（金）～平成２４年３月３１日（土）　開館日数：３１４日間
回答者数：２，６１７人（来館者数：３１１，３６０人　　アンケート回収率：０．８４％）

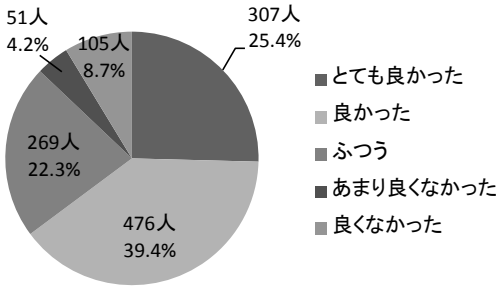
①年齢層



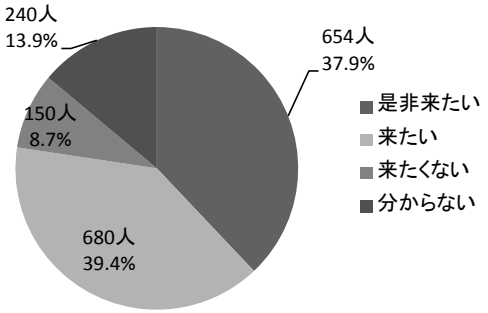
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



⑤主な意見・感想

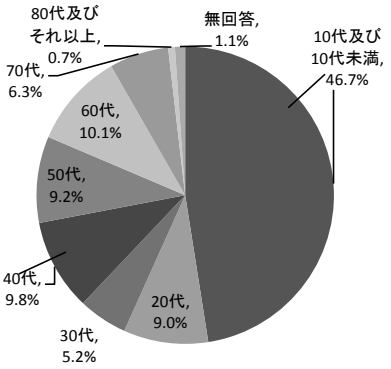
・良かった、楽しかった、面白かった、素晴らしかった。
・展示の仕方が良かった。見やすい展示だった。
・色々な展示物があったのが良かった。たくさんの作品を見ることができて良かった。
・屏風や浮世絵など、絵画作品が良かった。
・説明文の文字が小さくて読みづらい。もっと文字を大きくしてほしい。
・展示方法に工夫がない。作品が見えにくい。
・説明をもっと詳しくしてほしい。
・英語の説明文をもっと増やしてほしい。

奈良国立博物館

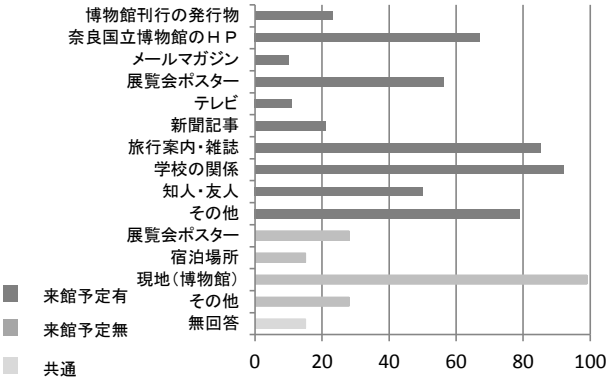
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成２３年４月１日（金）～平成２４年３月３１日（土）　開館日数：３２１日間
回答者数：６１２人（来館者数：１３０，８３９人　アンケート回収率：　０．４７%）

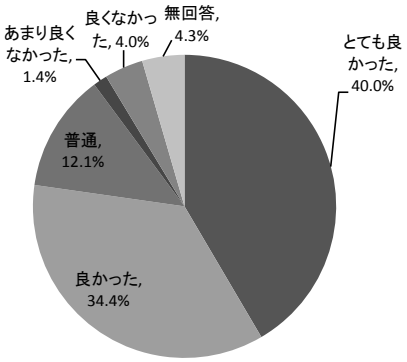
①年齢層



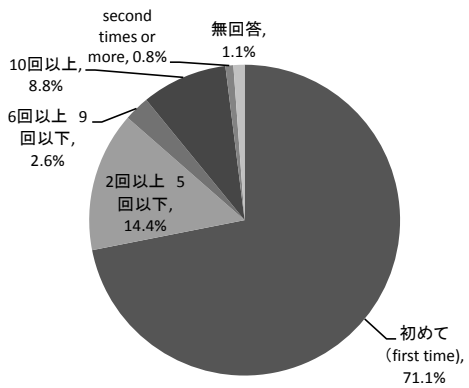
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



④主な意見・感想

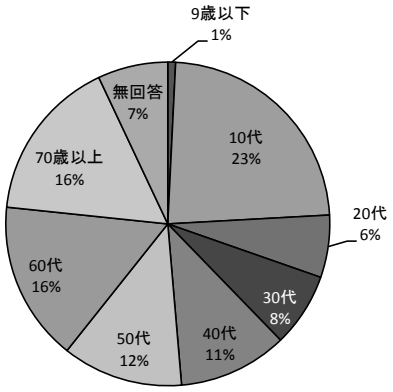
・国宝・重文級の大変貴重な仏像の数々が美しく印象的で、圧倒された。
・一点一点の解説が（英語解説も含め）展示品の内容をしっかりと伝えていて、実に分かりやすい。
・展示のグループ分けが分かりやすく、落ち着いた雰囲気のライティングが素晴らしい。
・仏像の製作工程を再現した展示が楽しかった。
・ボランティアの方の解説が丁寧でわかりやすく、楽しく学べました。
・仏像の見分け方クイズで、少し知識があればとても楽しめることがわかっておもしろかった。
・開館時間の延長日がありがたい。

九州国立博物館

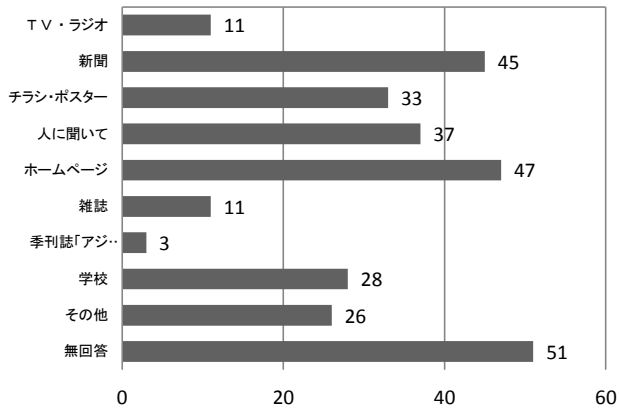
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成23年4月1日(金)～平成24年3月31日(土)　　開館日数：310日間
総回答者数：　257人（総来館者数：712,594人　アンケート回収率：0.04%）

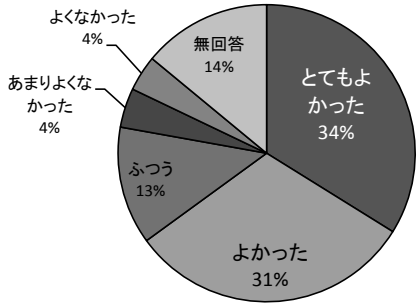
①年齢層



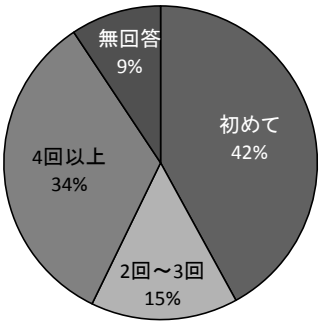
②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④再来館率



④主な意見・感想

・とても勉強になった。もっと歴史を知りたくなった。あじっぱが面白かった。
・初めて訪れましたがとても内容が濃く見ごたえがあり、又、ゆっくりと来訪しようと思います。
・照明が暗く、順路がよくわからなかった。
・スタッフの人数が多すぎる。スタッフの対応がよくなかった。
・展示室内に休憩のための椅子を増やしてほしい。

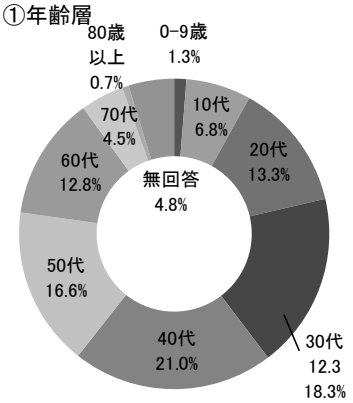
東京国立博物館

特別展「 写　楽 」
アンケート集計結果

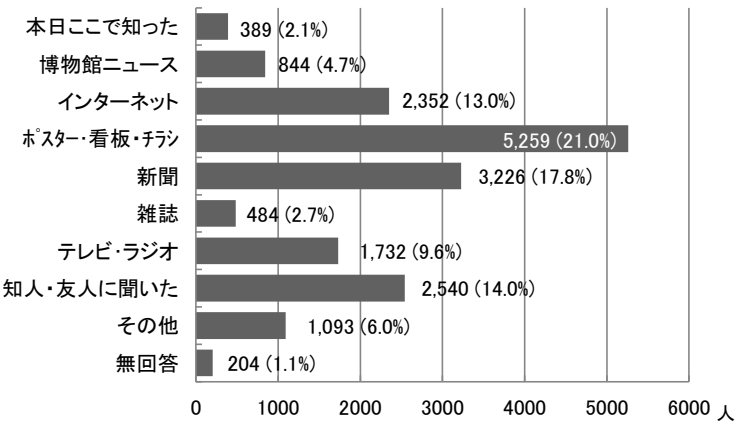
開催期間：平成23年5月1日（日）～6月12日（日）（41日間）

回答者数：14,802人（総来館者数：229,625人　アンケート回収率：6.45%）

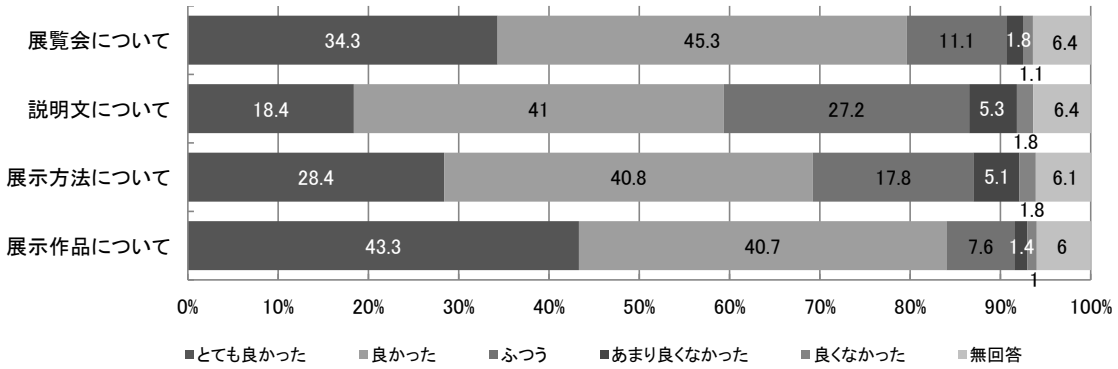
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・とても良かった。楽しかった。面白かった。素晴らしかった。感動した。
・写楽の作品を一堂に見ることができ感激した。
・同じ役者、題材の絵を写楽と写楽以外の作者別に見比べることができて、とても興味深かった。
・震災の渦中、作品を貸し出してくれた各美術館に感謝。
・震災の影響がありながらも開催されて良かった。
・混雑していてもゆったり、じっくり見られるよう展示方法を考えてほしい。
・展示作品数が多すぎて疲れてしまった。

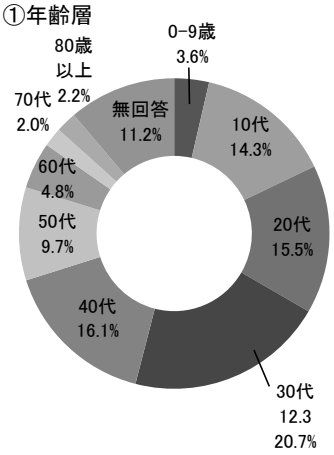
東京国立博物館

特別展「 手塚治虫のブッダ展 」
アンケート集計結果

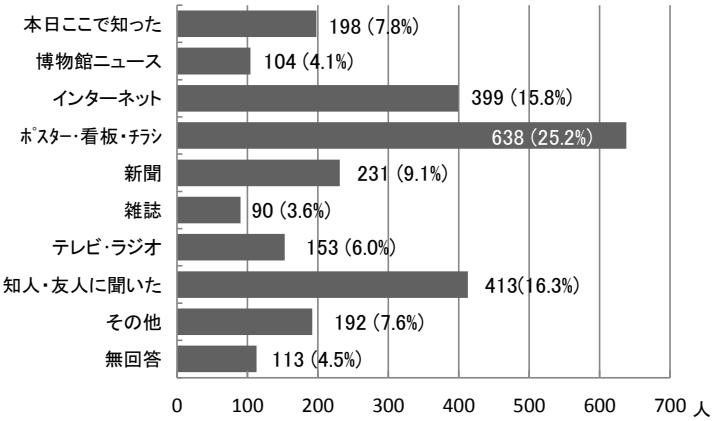
開催期間：平成23年4月26日（火）～6月26日（日）（57日間）

回答者数：2,353人（総来館者数：99,088人　アンケート回収率：2.37%）

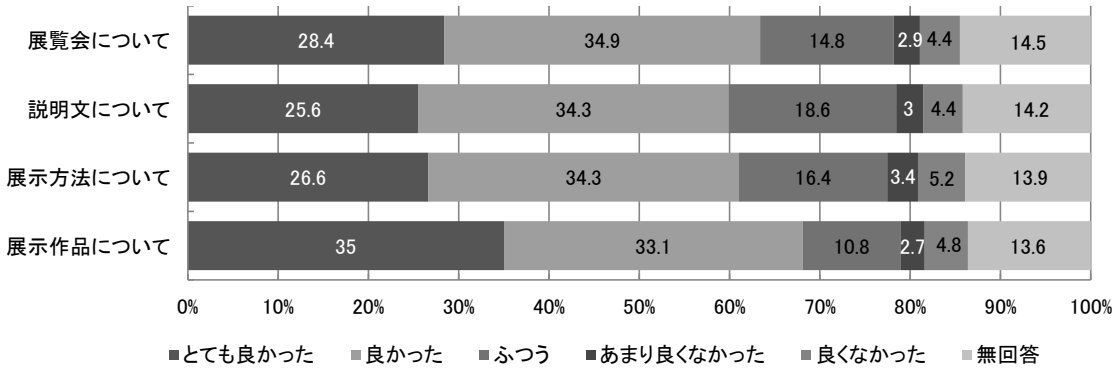
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・漫画と仏像を一緒に展示したのは新しい試み。分かりやすく楽しかった。
・とても良かった。楽しかった。面白かった。
・手塚治虫氏の原画を見ることができて感動した。
・水樹奈々さんの声が聞きやすくて良かった。（音声ガイド）
・展示作品数が少なくて物足りなかった。
・もっと広いスペースでゆったりと鑑賞したかった。
・原画の展示位置が高くて見づらかった。

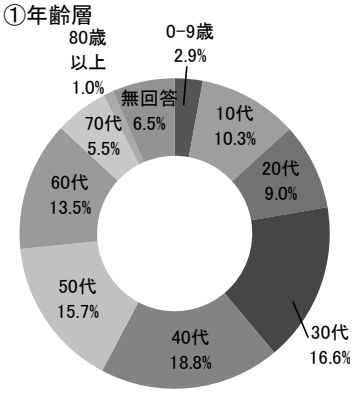
東京国立博物館

特別展「 空海と密教美術　」
アンケート集計結果

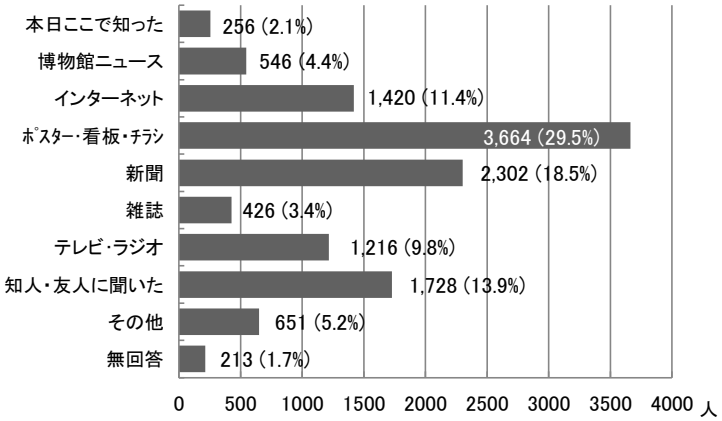
開催期間：平成23年7月20日（水）～9月25日（日）（61日間）

回答者数：9,816人（総来館者数：550,399人　アンケート回収率：1.78%）

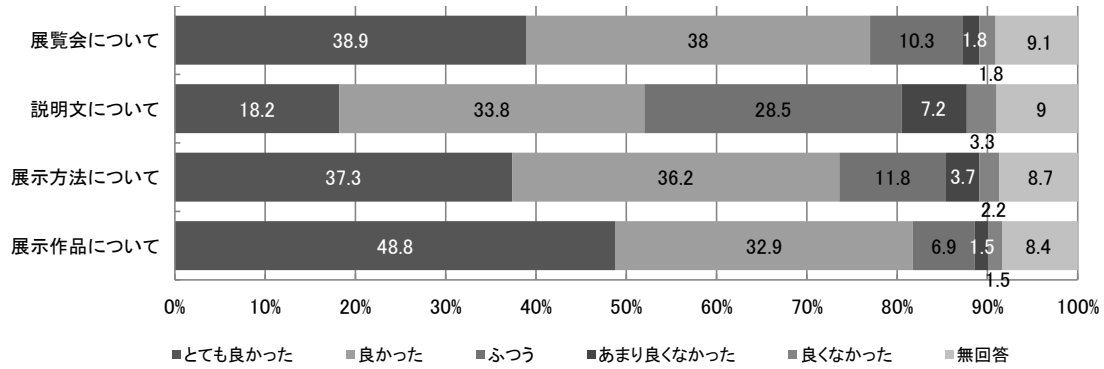
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった。楽しかった。素晴らしかった。感動した。興味深かった。
・仏像曼荼羅の展示は圧巻で、素晴らしかった。
・仏像を360度見ることができてとても良かった。
・空海直筆の書に感動した。
・貴重な作品を間近に見ることができて感動した。
・会場内が混雑し過ぎて、ゆっくり作品を見ることができなかった。
・照明が暗く足元が危なかった。

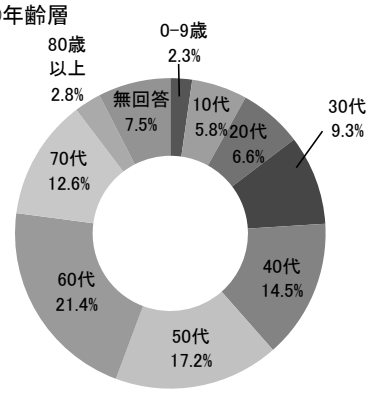
東京国立博物館

特別展「 法然と親鸞 ゆかりの名宝　」
アンケート集計結果

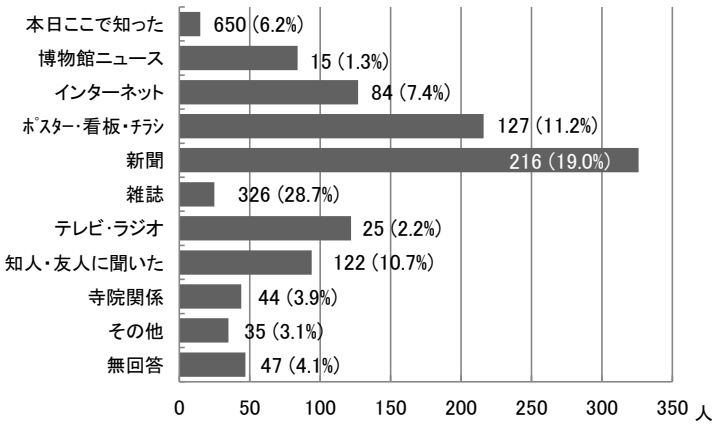
開催期間：平成23年10月25日（火）～12月4日（日）（36日間）

回答者数：3,007人（総来館者数：212,150人　アンケート回収率：1.42%）

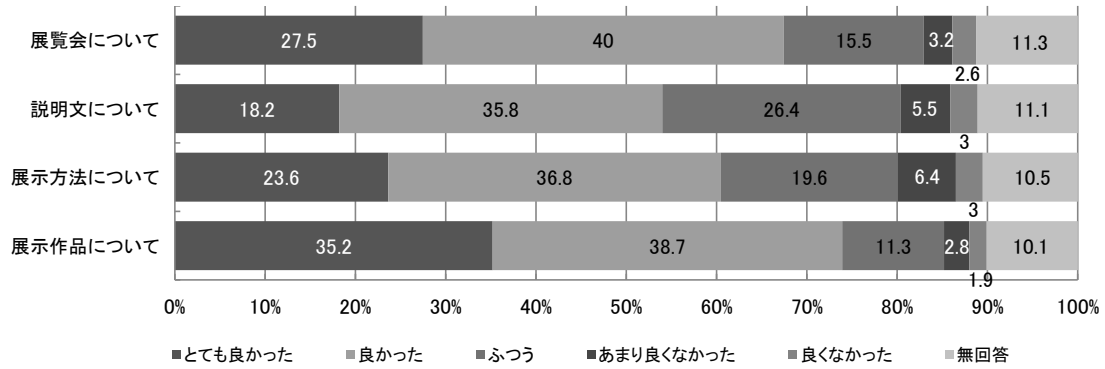
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった。面白かった。素晴らしかった。感動した。
・仏像の展示が良かった。
・書の展示が良かった。（うち、「法然と親鸞の直筆の書が良かった。」「歎異抄が良かった。」、「本願寺三十六人家集が良かった。」という意見を含む。）
・法然と親鸞についてよく分かった。
・音声ガイドが分かりやすかった。
・書などは読めないところも多く内容が分からないので、書下し文や現代語訳、注釈をつけてほしい。
・法然と親鸞、浄土宗と浄土真宗について、もっと掘り下げた展示をしてほしかった。

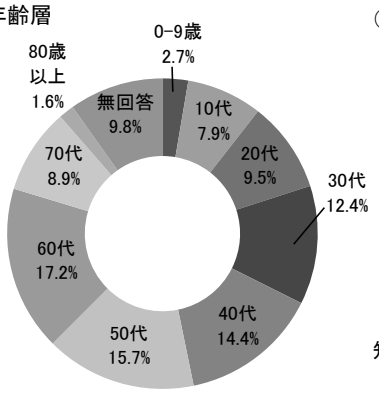
東京国立博物館

特別展「 北京故宮博物院200選　」
アンケート集計結果

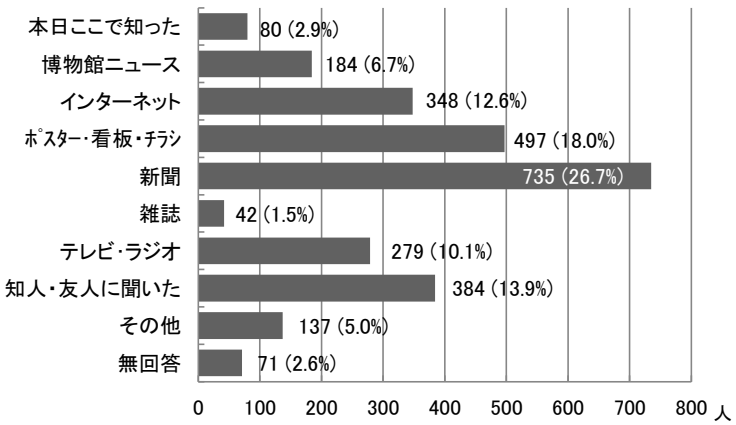
開催期間：平成24年1月2日（月・休）～2月19日（日）（43日間）

回答者数：2,321人（総来館者数：258,252人　アンケート回収率：0.90%）

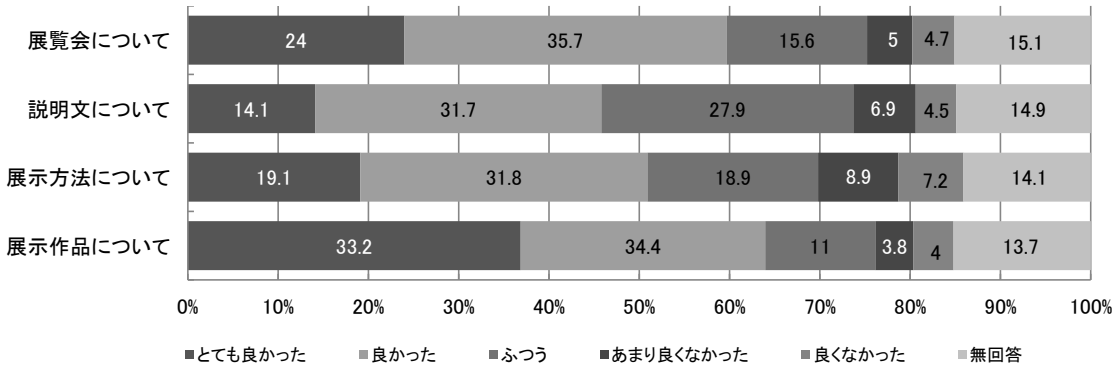
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・とても良かった。素晴らしかった。面白かった。感動した。
・清明上河図巻がとても素晴らしかった。
・普段見ることができない貴重な作品を見ることができて良かった。
・中国の歴史や文化等の勉強になった。
・清明上河図巻の待ち時間が長すぎる。

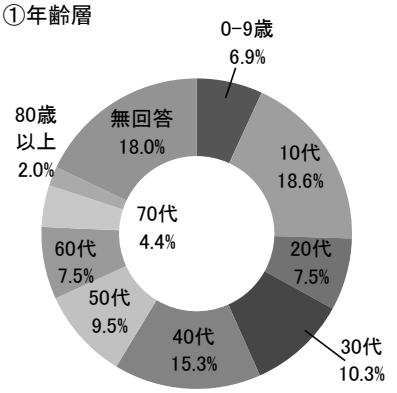
東京国立博物館

特別展「 孫文と梅屋庄吉 」
アンケート集計結果

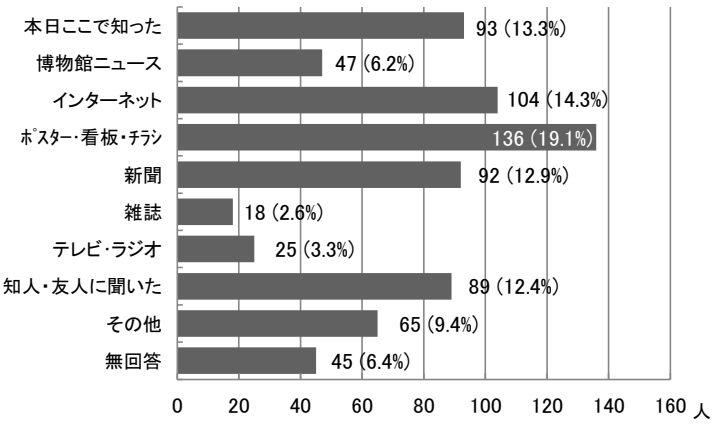
開催期間：平成23年7月26日（火）～9月4日（日）（37日間）

回答者数：757人（総来館者数：28,780人　アンケート回収率：2.63%）

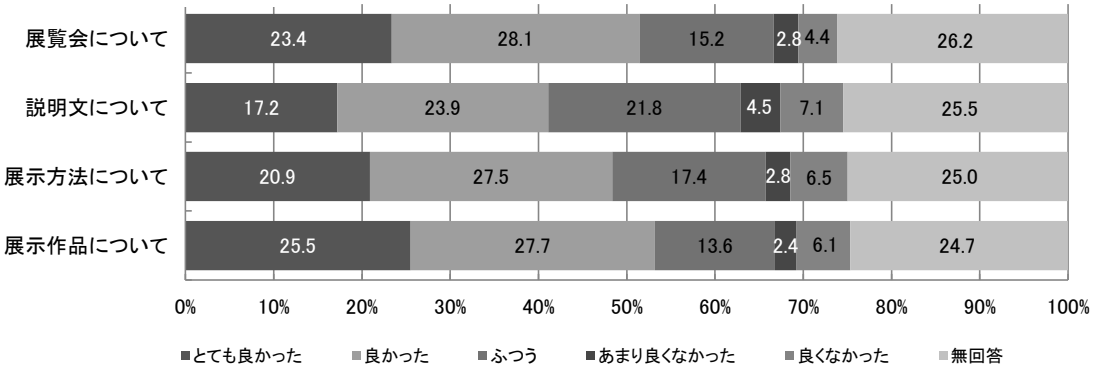
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- おもしろかったです。
- とても見ごたえがありました。
- 大変すばらしかったです。
- 本特別展で大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 解説文をもう少し増やしてほしいです。
- 未だ見たことのない写真と思い期待したが、展示数が少なかったです。
- 保護のために照明をおとしていますが、もう少し明るくしてほしいです。

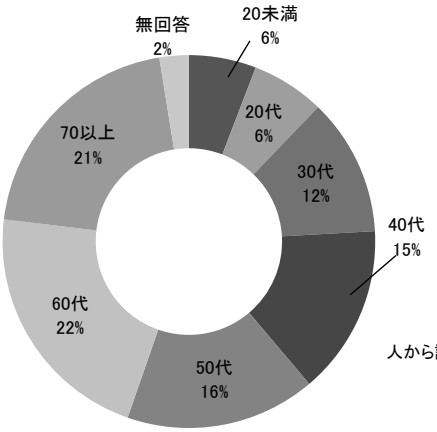
※総入場者数における10代以下の割合は全体の約6%でしたが、アンケートの結果を見ると10代以下の回答が全体の約25%と不自然な結果となっていますが、集計上、手を加えておりません。

京都国立博物館

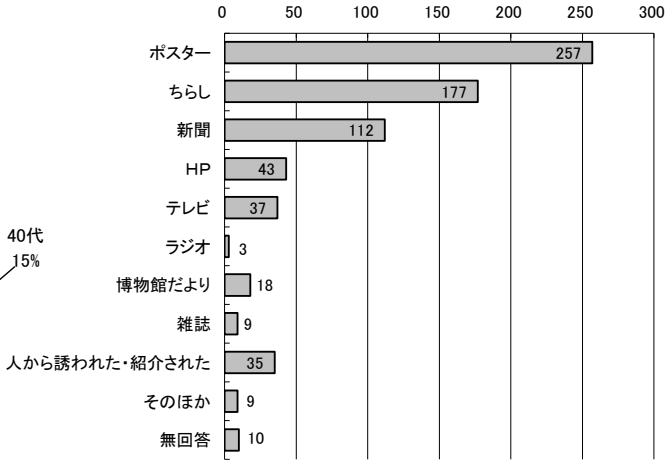
特別展覧会「法然　―生涯と美術―」
アンケート集計結果

開催期間：平成23年3月26日（土）～5月8日（日）（39日間）
回答者数：394人（総来館者数　92,929人　アンケート回収率0.42%）

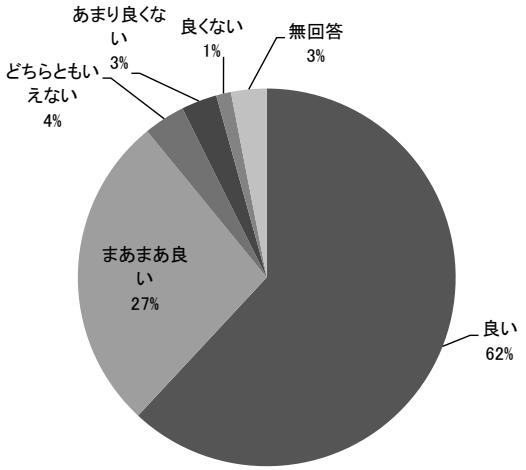
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良い内容だった、とても面白かった、楽しめた、感動した。(同様24件)
・(題せんの)字が小さい、大きい文字で表示がほしい。(同様12件)
・平常展示が無くて残念だ。(同様11件)
・(特別展示館が)素晴らしい、趣深い、美しい建物だった。(同様10件)

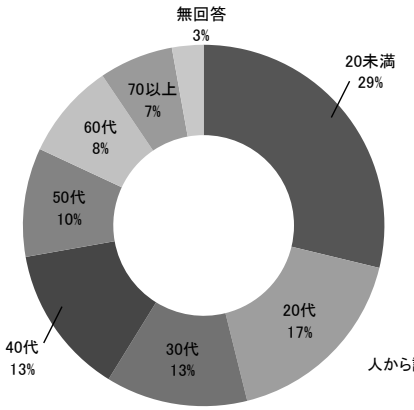
京都国立博物館

特別展観「百獣の楽園―美術にすむ動物たち―」

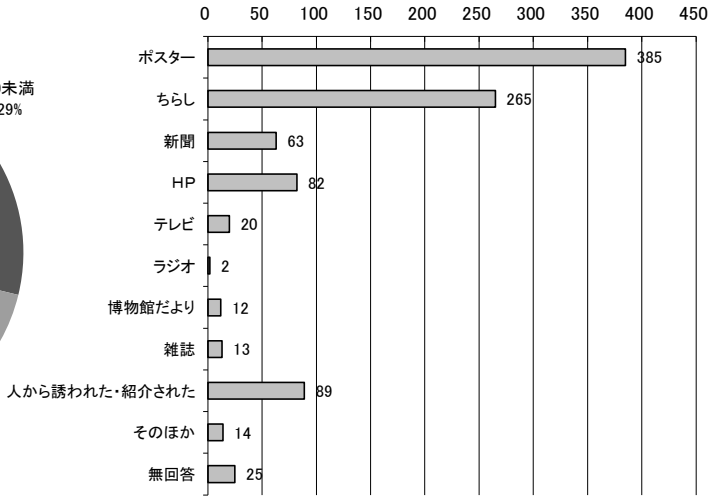
アンケート集計結果

開催期間：平成23年7月16日（土）～8月28日（日）（38日間）
回答者数：709人（総来館者数 35,259人　アンケート回収率 2.01%）

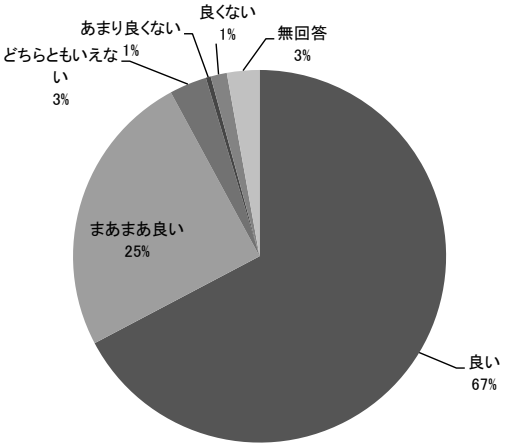
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった、面白かった、素晴らしかった、感動した。(同様90件)
・(特別展示館が)素晴らしい、趣深い、美しい建物だった。(同様42件)
・(題せんが)とても楽しめた、おもしろかった、読みやすかった(同様39件)
・また来たいと思う(同様32件)
・平常展示が無くて残念だ。(同様31件)

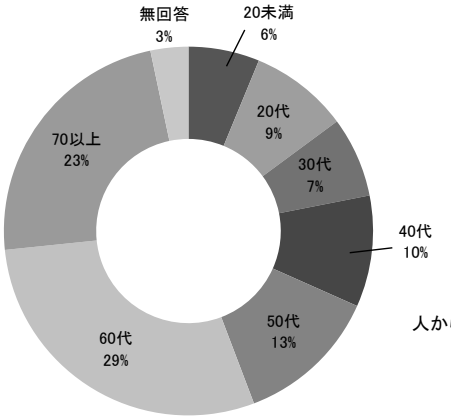
京都国立博物館

特別展覧会「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」

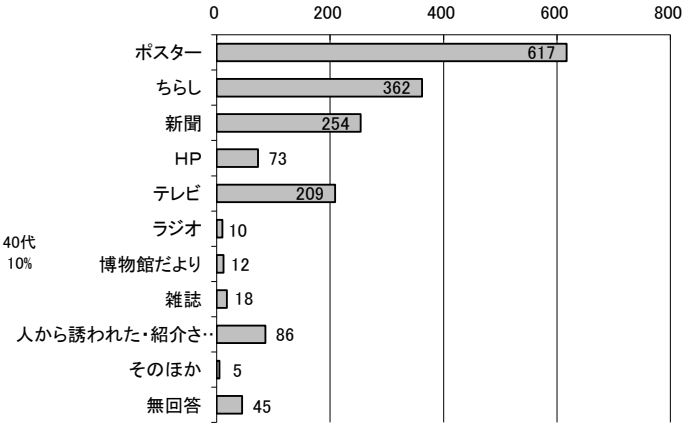
アンケート集計結果

開催期間：平成23年10月8日（土）～11月23日（水・祝）（40日間）
回答者数：995人（総来館者数　106,536人　アンケート回収率 0.93%）

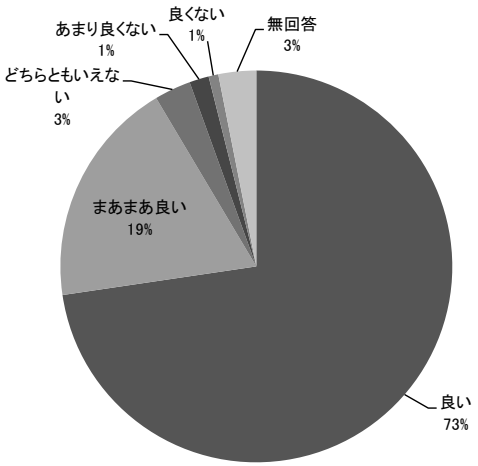
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

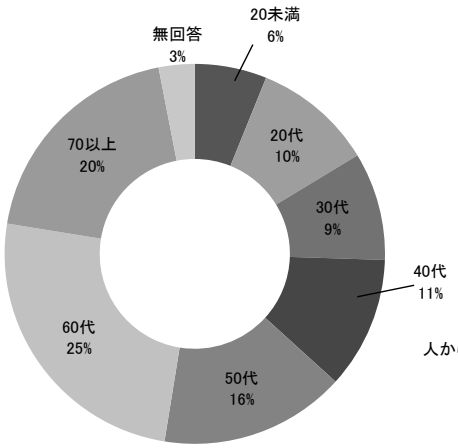
・良かった、素晴らしかった、感動した、面白かった（同様91件）
・今後も、今回のような充実した展覧会を期待する。（同様37件）
・貴重な作品を多くみれて満足だ、充実した内容だった。（同様31件）
・（書跡の展示で）なんと書いてあるか、書き下し、現代語訳がほしい。（同様29件）
・（特別展示館が）素晴らしい、趣深い、美しい建物だった。（同様29件）

京都国立博物館

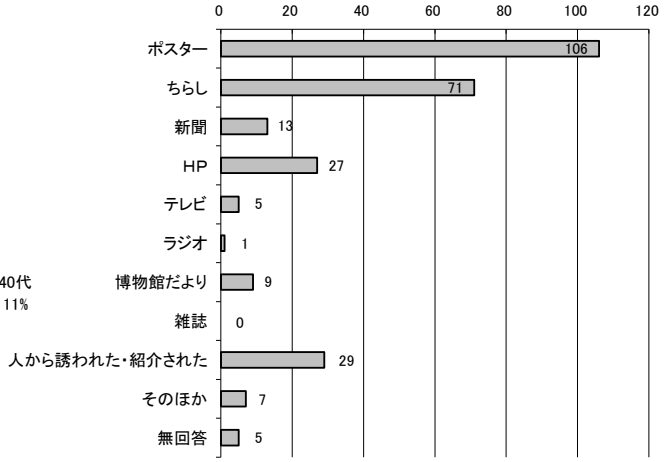
特別展覧会「中国近代絵画と日本」
アンケート集計結果

開催期間：平成24年1月7日（土）～2月26日（日）（44日間）
回答者数：196人（総来館者数 13,286人　アンケート回収率 1.47%）

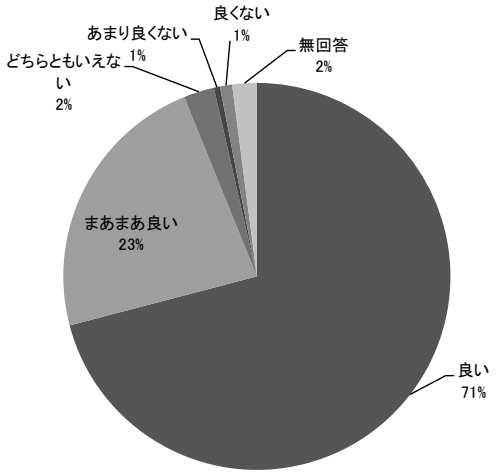
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・感動した、すばらしかった。（同様36件）
・普段見る機会のない中国近代絵画をみられて非常に良かった、新鮮だった（同様29件）
・多くの作品をみれて満足だ、充実した内容だった（同様20件）
・中国油画の存在を知るきっかけとなり良かった（同様15件）
・中国と日本の交流を知ることが出来、良かった（同様11件）

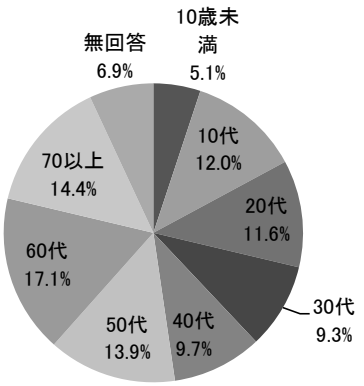
奈良国立博物館

特別展「誕生！中国文明」

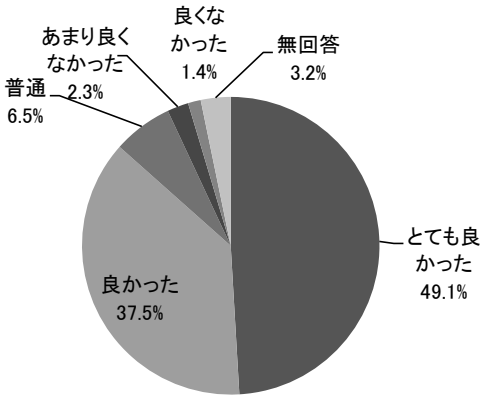
アンケート集計結果

開催期間：平成23年4月5日(火)～5月29日(日)(49日間)
回答者数：216人　来館者数35,679人　回収率 0.61％

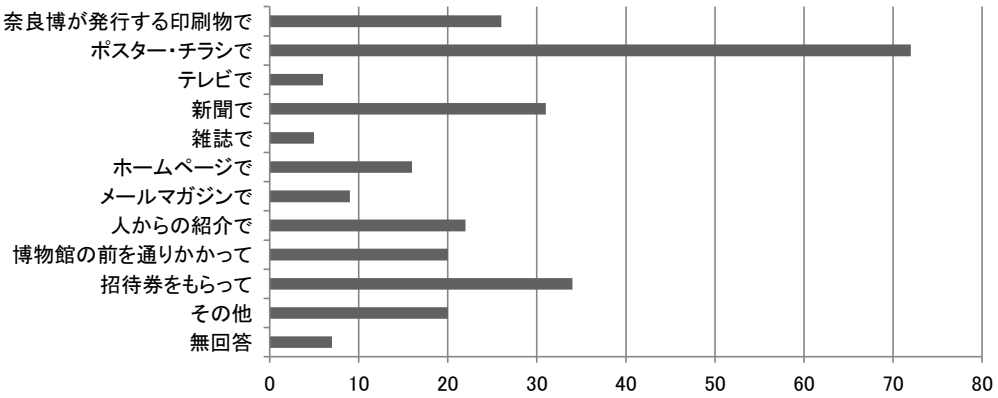
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

・異形かつ美しい世界へ旅した気分。美しいもので繋がれていてとても面白く、いつもながら美的感覚の確かさに感動。
・バラエティに富んでいて、造形的におもしろいものが多く、見ていて楽しかった。展示物の構成や配分も良かった。
・従来の企画に被らないように、よく作品選定がなされていた。量もちょうどで、大変楽しく目新しく見ることができた。
・2回目ですが、質・量ともに大満足で新しい発見もありました。
・展示が明るく工夫が随所に見られた。
・果物型入れ物の「収納方法解説」も良かった。使うものは、使い方を具体的に説明してもらうとすごく良く分かる。
・部品である展示物は、全体のどこの部分に当たるかイラストや写真で図示されてあって、とても分かりやすかった。
・音声ガイド心良く、素敵な時間を過ごせました。

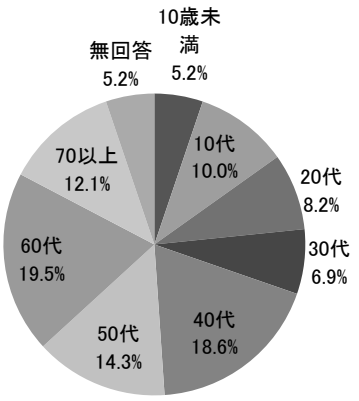
奈良国立博物館

特別展「天竺へ−三蔵法師3万キロの旅」

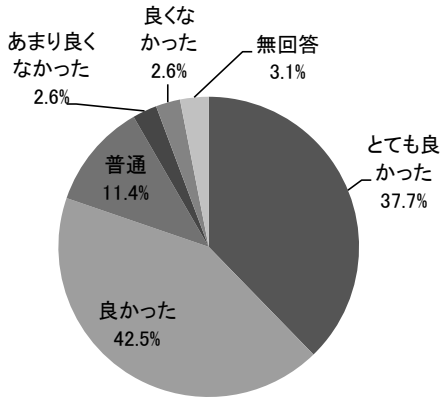
アンケート集計結果

開催期間：平成23年7月16日(土)〜8月28日(日)(39日間)
回答者数：228人　来館者数63,364人　回収率 0.36%

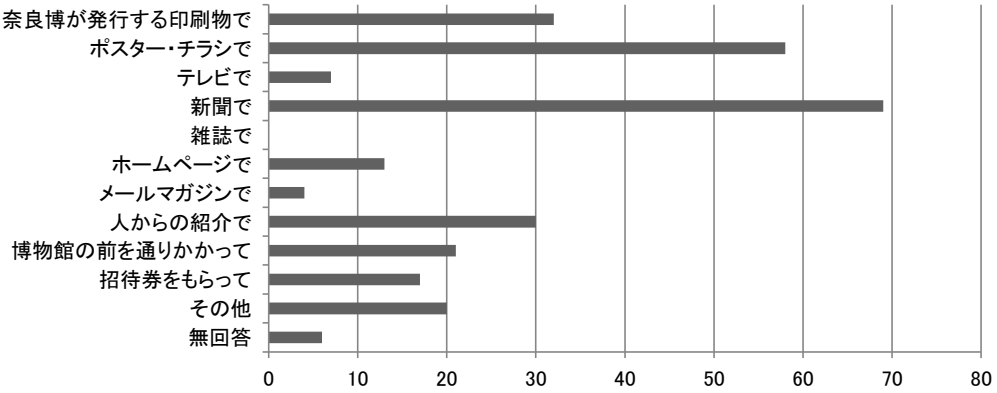
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

・物語として知っている法師と、実際旅をして苦労をして経文を持ち帰り衆生に広めた法師の違いが良く分かった。
・絵巻の保存状態が信じられぬほど良く、端麗な絵巻物を通して求法の旅を堪能できた。

・全体の巻を全て順次見ることができる機会はない。絵巻物の展覧としては類を見ず、素晴らしいの一言に尽きる。
・三蔵法師の決意、足跡が充分解説され、多くの図が助けになっていた。
・順路が分かりやすくて良かったです。一冊の本を読んでいる気分で展示を見ることができました。
・前後期の展示替えで見られない部分をパネルやディスプレイで表示し解説していて、配慮が大変良かった。

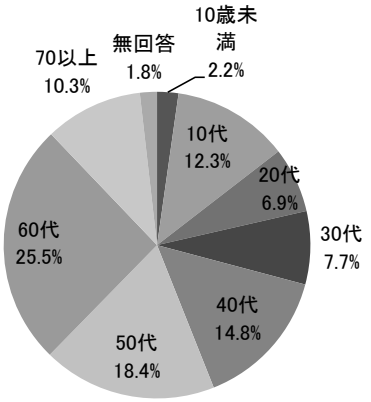
奈良国立博物館

特別展「第63回正倉院展」

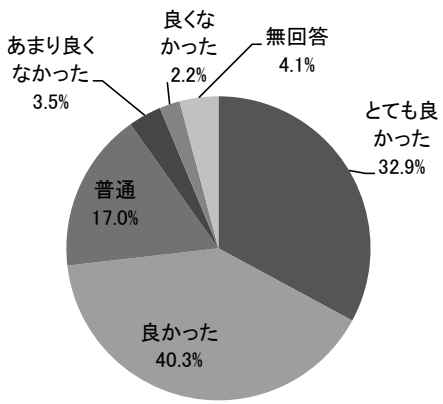
アンケート集計結果

開催期間：平成23年10月29日(土)～11月14日(月)(17日間)
回答者数：1,335人　来館者数239,581人　回収率 0.56%

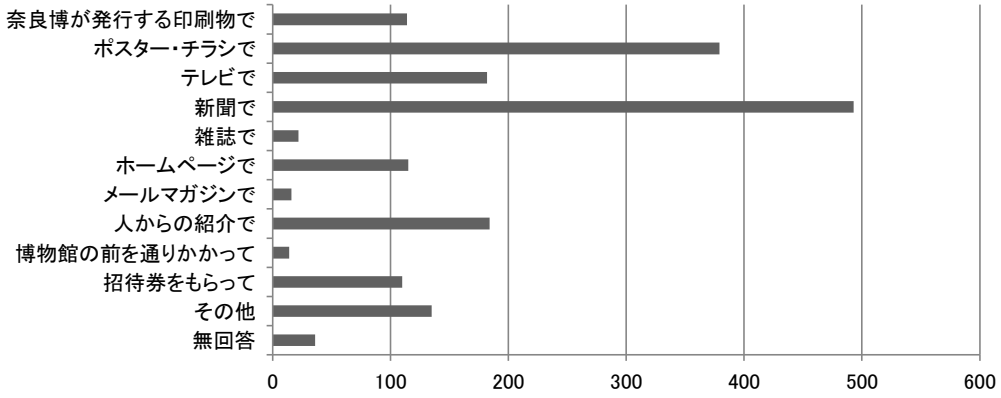
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



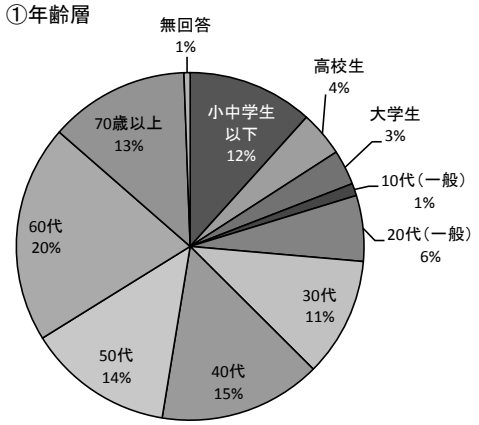
④主な意見・感想
・何とも言えない雰囲気に包まれ、先人の技術や色彩感覚に感激した。
・太刀展示に2通りの観覧方法があって、選択できるのが良かった。
・展示物の配置がよく、人の流れもスムーズだった。
・観覧前にボランティアの見どころ解説を聞くことで、理解が深まって、より楽しむことができた。
・子ども用の音声ガイドがわかりやすく、小学生の子供が退屈することなく楽しめた。
・託児所がありがたかった。

九州国立博物館

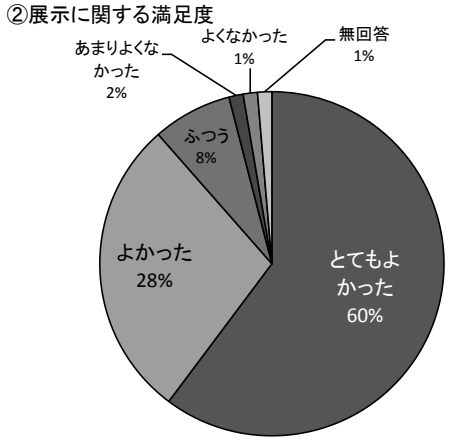
特別展「黄檗―OBAKU」アンケート集計結果

開催期間：平成23年3月15日(火)～5月22日(日)（61日間）
総回答者数：　523人（総来館者数：55,539人　アンケート回収率：0.94%）

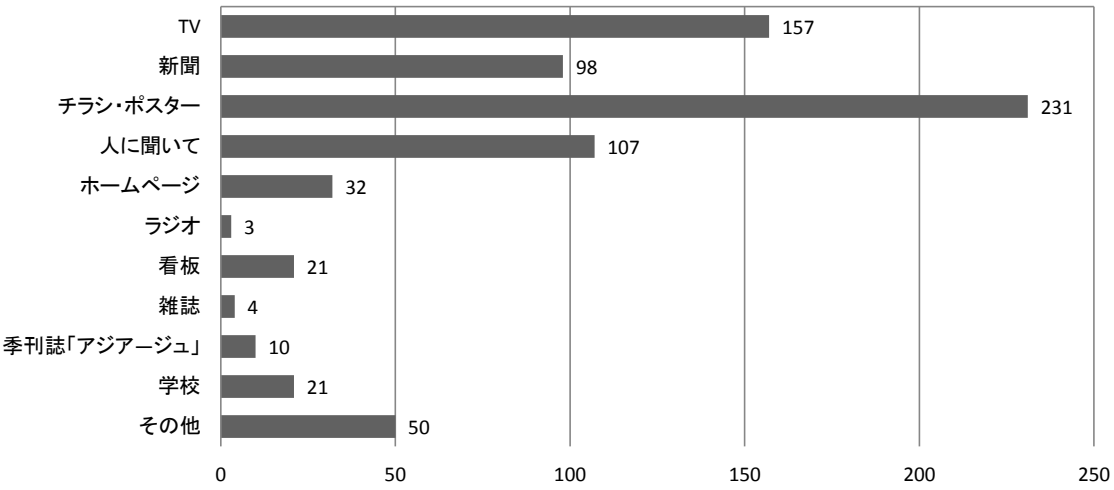
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

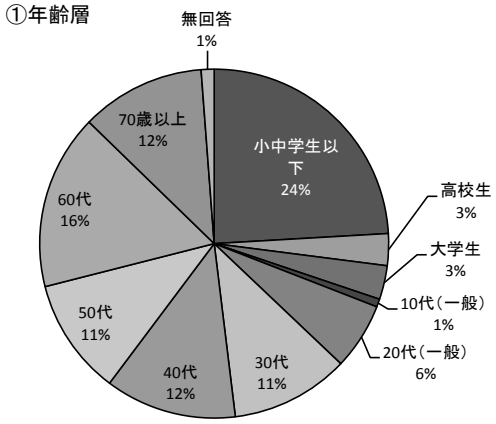
・隠元禅師のことが良く解かりました、レイアウトもわかり易くよかった。すごく感動しました。
・落ち着いてみることが出来とても良い時間でした。
・出口にビデオの部屋を設けると集中できません、もう少し静かな場所に。もっと多く展示物があったほうが良い。
・もっと詳しい説明がほしい。説明の文字が小さい。暗くて説明文が見えにくい。
・少し暑かった。もう少し椅子を増やしてほしい。
・黄檗について、イラストでの解説があったので誰でも興味をもって、見ることが出来たと思った。

九州国立博物館

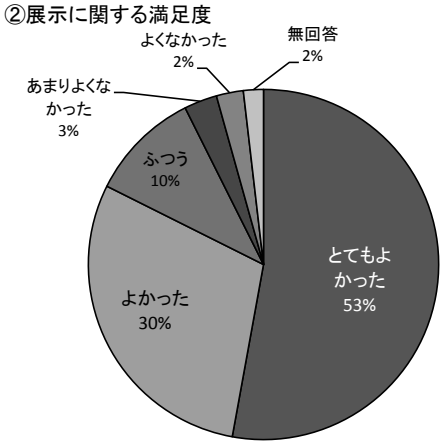
特別展「よみがえる国宝 － 守り伝える日本の美」
アンケート集計結果

開催期間：平成23年6月28日(火)～8月28日(日)（54日間）
総回答者数：1,084人（総来館者数：118,528人　アンケート回収率：0.91%）

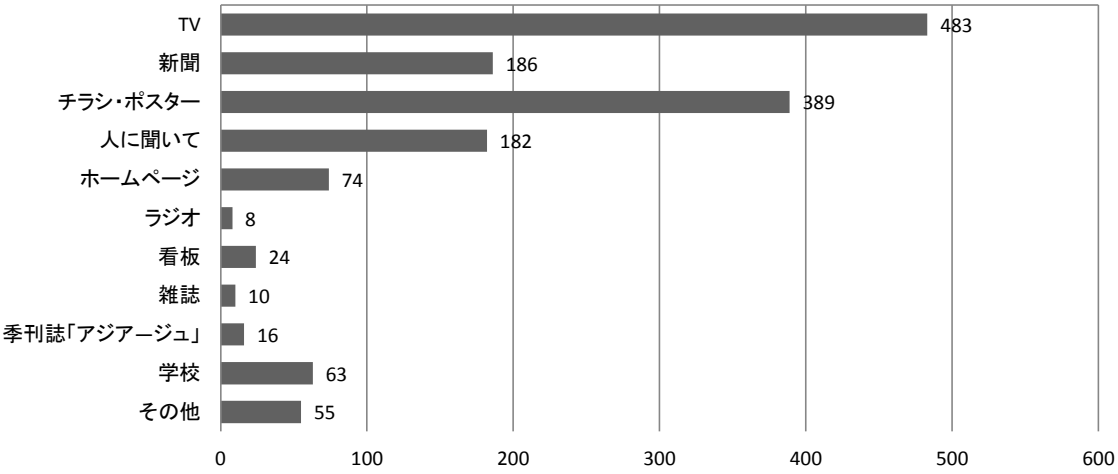
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

・文化財の保存修復という新しい側面から見ることができ、知らない所で文化財を支えている人達がいることも知ることができ面白かった。
・展示の説明や流れも解かり易くとてもよかった。 源頼朝像感動致しました。
・展示品が思ったより少なかった。茶・盆・蒔絵・螺鈿の箱等、車椅子からは少し高い、子供さんも抱き上げられて見学していました。
・キャプションの字が小さくて読めない、古文書の解説が欲しかった。 ビデオには字幕を付けてください。〔聴覚障害者用〕
・日本語以外の説明文も欲しい。音声ガイドが使いにくかった。
・暗くてよく見えない。少し冷房が効きすぎていた。 休憩する場所を増やしてほしい。
・修復方法のビデオがすごく勉強になりました。
・展示品も良かったが、それ以上に修理保存という観点で創られているところが大変興味深かった。

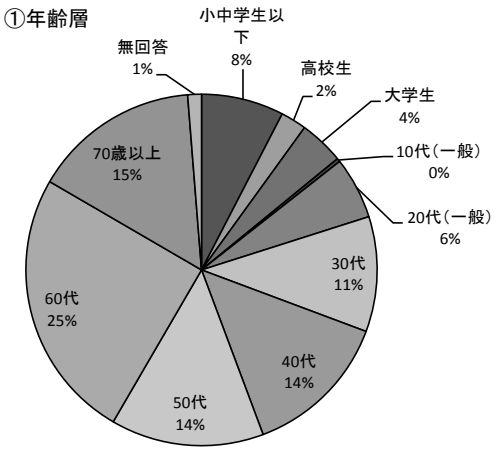
九州国立博物館

特別展「草原の王朝　契丹－美しき3人のプリンセス」アンケート集計結果

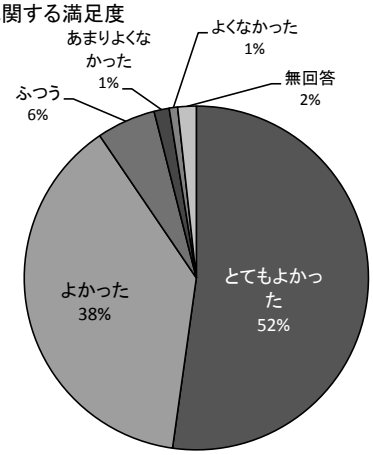
開催期間：平成23年9月27日(火)～11月27日(日)（54日間）

総回答者数：632人（総来館者数：75,880人　アンケート回収率：0.83%）

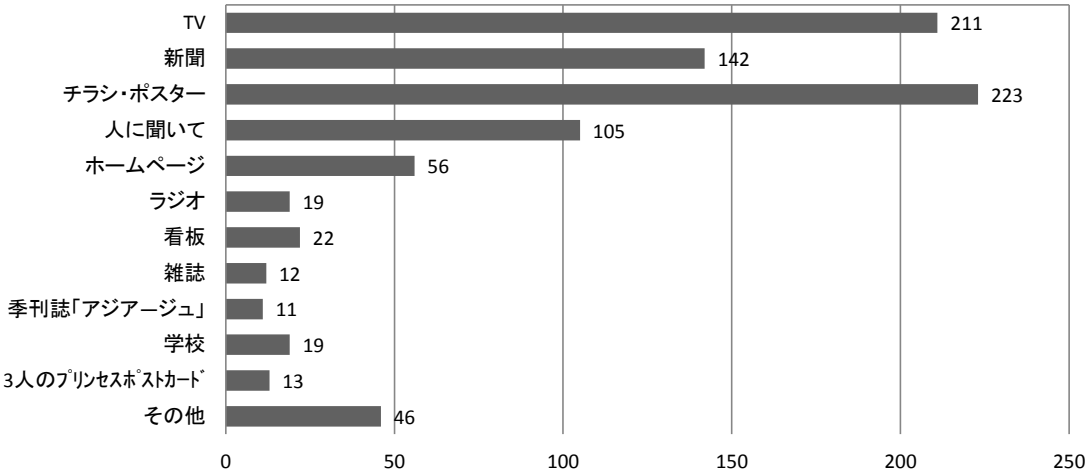
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

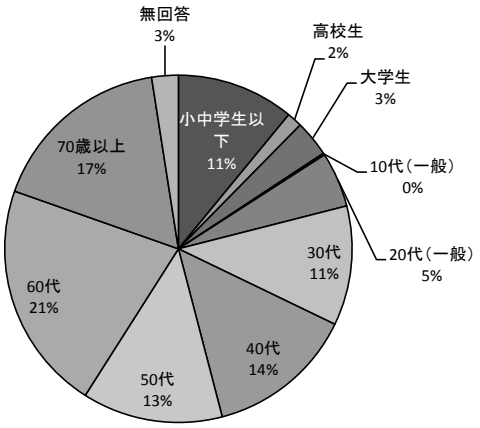
・力を入れた展示ゆえ、大変見応えがありました、有難うございました。契丹について全く知らない状態で来ましたが、楽しめました
・解説パネルが面白かった。来てよかったです、契丹のことを知らなかったので新しい発見でした。
・もっと詳しい説明があった方がよかった。外国語の説明もほしい。もう少し大きな字にして欲しい、漢字には全てカナを振ってほし
・契丹のビデオは、出口でなく入口でやった方が良いと思う。展示品で見え難いところがあった、鏡など置いてあったらもっと良かっ
・館内が暗くてよく見えなかった。もう少し休憩のための椅子があったらよい。
・この展示で内容が理解できた、３人のプリンセスに興味をもっていたので、より印象的でした。
・ゆとりがあって見やすく、内容もよく理解できた。

九州国立博物館

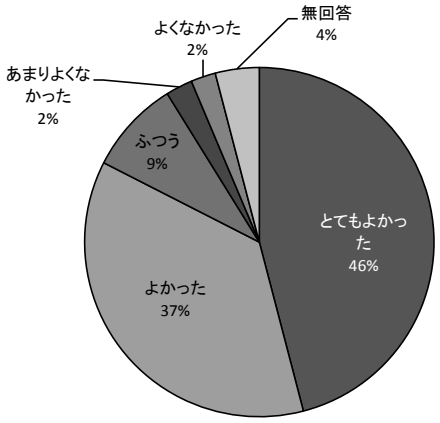
特別展「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」アンケート集計結果

開催期間：平成24年1月1日(日)～3月4日(日)（56日間）
総回答者数：566人（総来館者数：113,290人　アンケート回収率：0.50%）

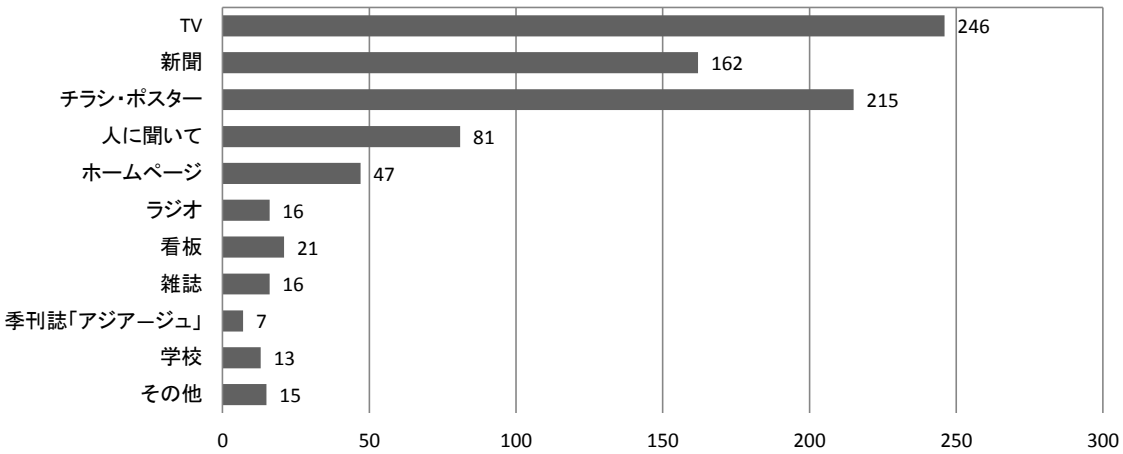
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想
・いろんな種類の展示物があり、おもしろかった。見応えのある充実した内容でした。
・日本の文化・細川家の文化に触れる事ができてうれしかった。
・展示品の底や裏が見える様に展示してほしい。順路が分りにくかった。展示替えが多い。
・字をもう少し大きくしてほしい。パネルをもっと見やすい場所に置いてほしい。子供にも分りやすい説明にしてほしい。
・ガラスの清掃をきちんとしてほしい。会場が暗い、もっと明るくしてほしい。照明が暗く、説明が読みにくい。
・音声ガイドの内容がよくなかった。音声ガイドを使用している人が止まって進まない。
・イラスト解説がとても面白くて楽しめました。